ユーザー驚愕のスゴイ効果!! 129テクニック

たっぷり160ページ オールカラー

TJ MOOK

Windows Vista 究極の快適設定 決定版

SP1対応

1 動作が断然 **軽快になる!**

2 作業が大幅に **効率アップ!**

3 深刻トラブルも **自力で解決!**

重たいVistaが爽快スピードに!

宝島社

みるみるVistaが速くなるテクニックが満載！

Windows Vista 究極の快適設定 決定版

CONTENTS

1 重たいVistaにサヨナラ！ みるみるVistaが速くなる簡単設定
断然快速スピードアップ P8

2 作業効率に格段の差が出る！ 自分の使い方や環境に合ったベスト設定に！
超効率化カスタマイズ P62

3 ウイルス対策、個人情報漏洩阻止！ 安心してパソコン・ネットを使える堅牢設定
セキュリティ&インターネット P92

4 Vistaを不安定にさせない！ 突然の故障に備える！ “転ばぬ先の杖”設定
バックアップ&メンテナンス P110

5 「起動しない！」「ネットに接続できない！」深刻トラブルから自力で脱出！
深刻トラブル自力解決 P132

関連キーワードから探せる！ キーワードINDEX付き
INDEX P154

COVER STAFF
Design：PencilRocket
Photo：©Paylessimages/Inc/amanaimages
EDITORIAL STAFF
Design：湯田坂絵里　藤代 茂
Illustration：ふるやたかし
Photo：森田耕司

みるみるVistaが速くなるテクニックが満載！

Windows Vista 究極の快適設定 決定版

CONTENTS

1 重たいVistaにサヨナラ！ みるみるVistaが速くなる簡単設定
断然快速スピードアップ P8

2 作業効率に格段の差が出る！ 自分の使い方や環境に合ったベスト設定に！
超効率化カスタマイズ P62

3 ウイルス対策、個人情報漏洩阻止！ 安心してパソコン・ネットを使える堅牢設定
セキュリティ&インターネット P92

4 Vistaを不安定にさせない！ 突然の故障に備える！"転ばぬ先の杖"設定
バックアップ&メンテナンス P110

5 「起動しない！」「ネットに接続できない！」深刻トラブルから自力で脱出！
深刻トラブル自力解決 P132

関連キーワードから探せる！ キーワードINDEX付き
INDEX P154

COVER STAFF
Design：PencilRocket
Photo：©Paylessimages/Inc/amanaimages

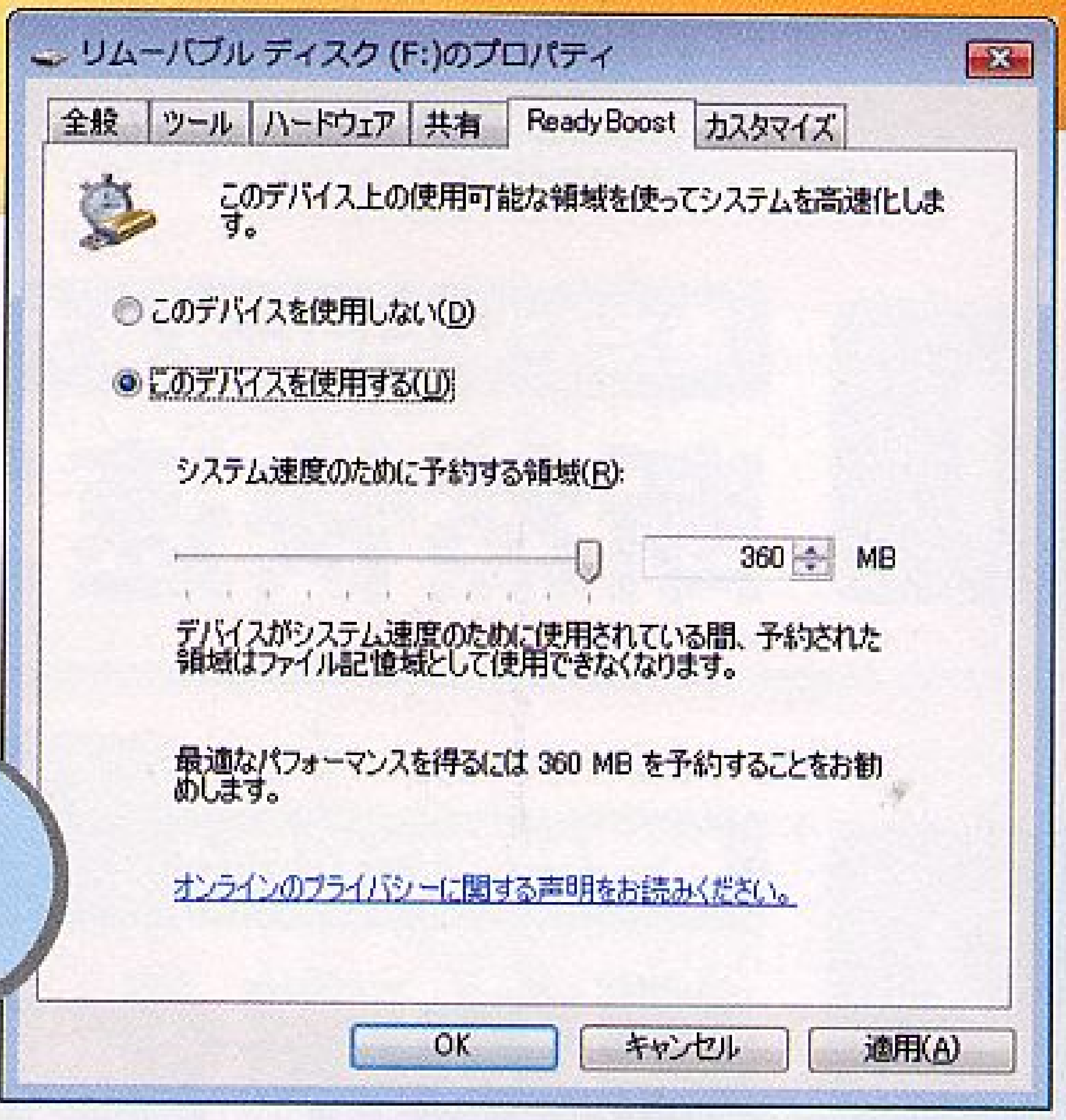
EDITORIAL STAFF
Design：湯田坂絵里　藤代 茂
Illustration：ふるやたかし
Photo：森田耕司

速くなる! 安定する! 効率アップ! Vista

パソコンを使い続けていると、さまざまなゴミが溜まったり、ハードディスクが断片化されたりして動作が重くなる。Vistaを購入してから、何の設定もせず初期設定で使い続けている人は特に、このような「重い」「遅い」という症状を感じているのではないだろうか。本書では購入したときのVistaよりも速く、快適になる設定を豊富に紹介している。簡単なものから始めて、快適操作を実感してみよう。

ココに効く!

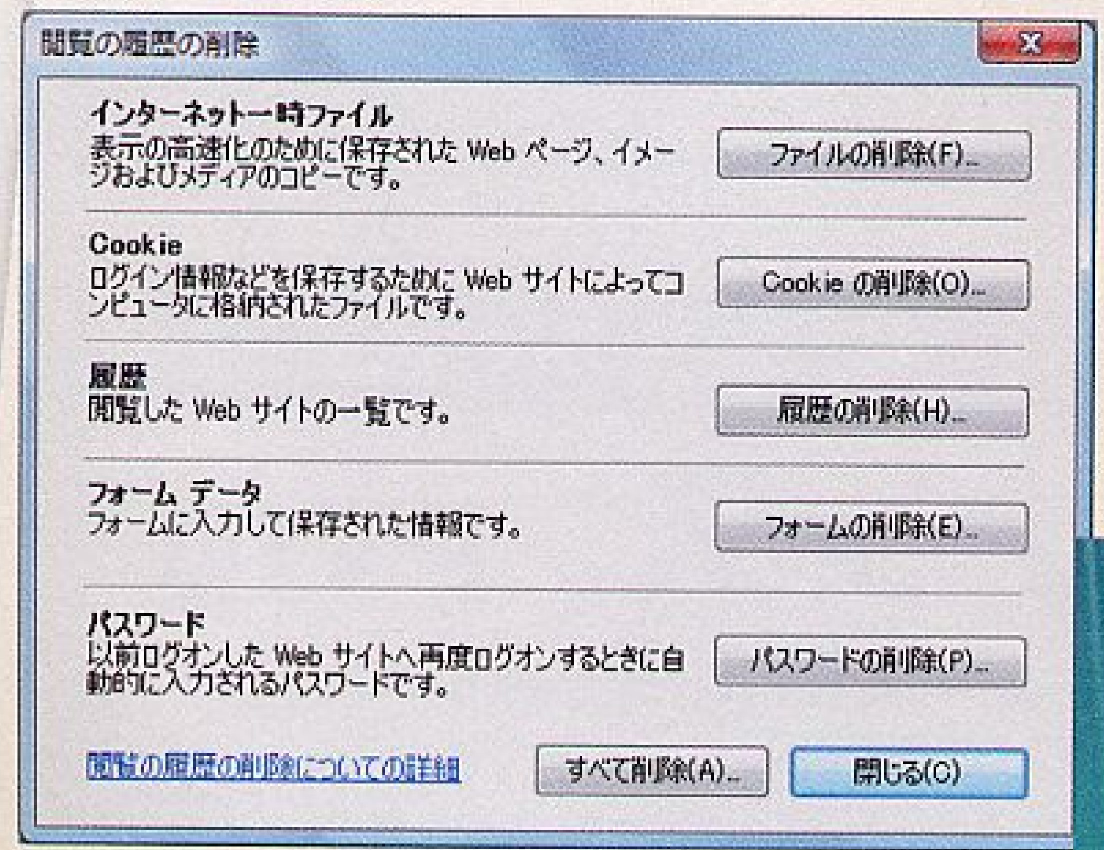
とにかく パソコンが遅い! 重くてイライラする!



「重い」「遅い」原因となる要素を、設定を変えるだけで取り除く。また、現在よりも高速に使うための快適設定も網羅。サクサク動くパソコンを実感できるはず。

8〜61ページ

効果3 安心・安全な鉄壁セキュリティ



92〜109ページ

さまざまな脅威からパソコンを守るためには、初期設定のままでは心もとない。セキュリティを強化し、便利なIEの使い方を覚えれば、安心して快適にパソコンを使うことができる。

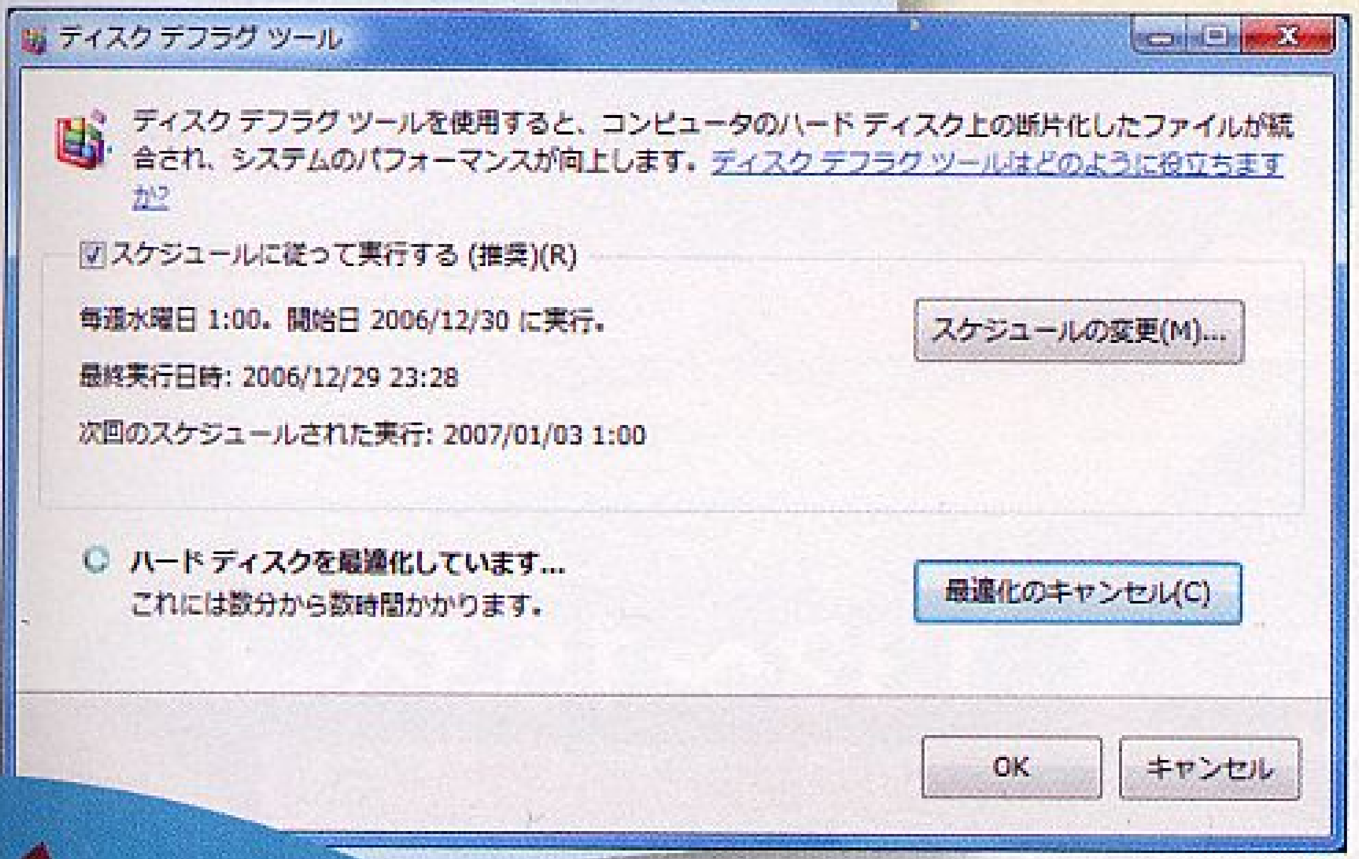
ココに効く!

個人情報漏洩やウイルス、迷惑メールを防ぎたい!

で使っていたVistaユーザー驚愕！

快適設定のスゴい効果！

効果1 断然快速スピードアップ！

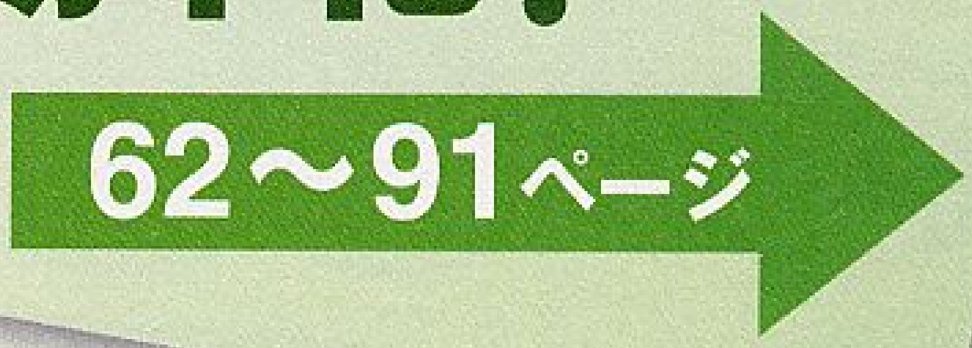


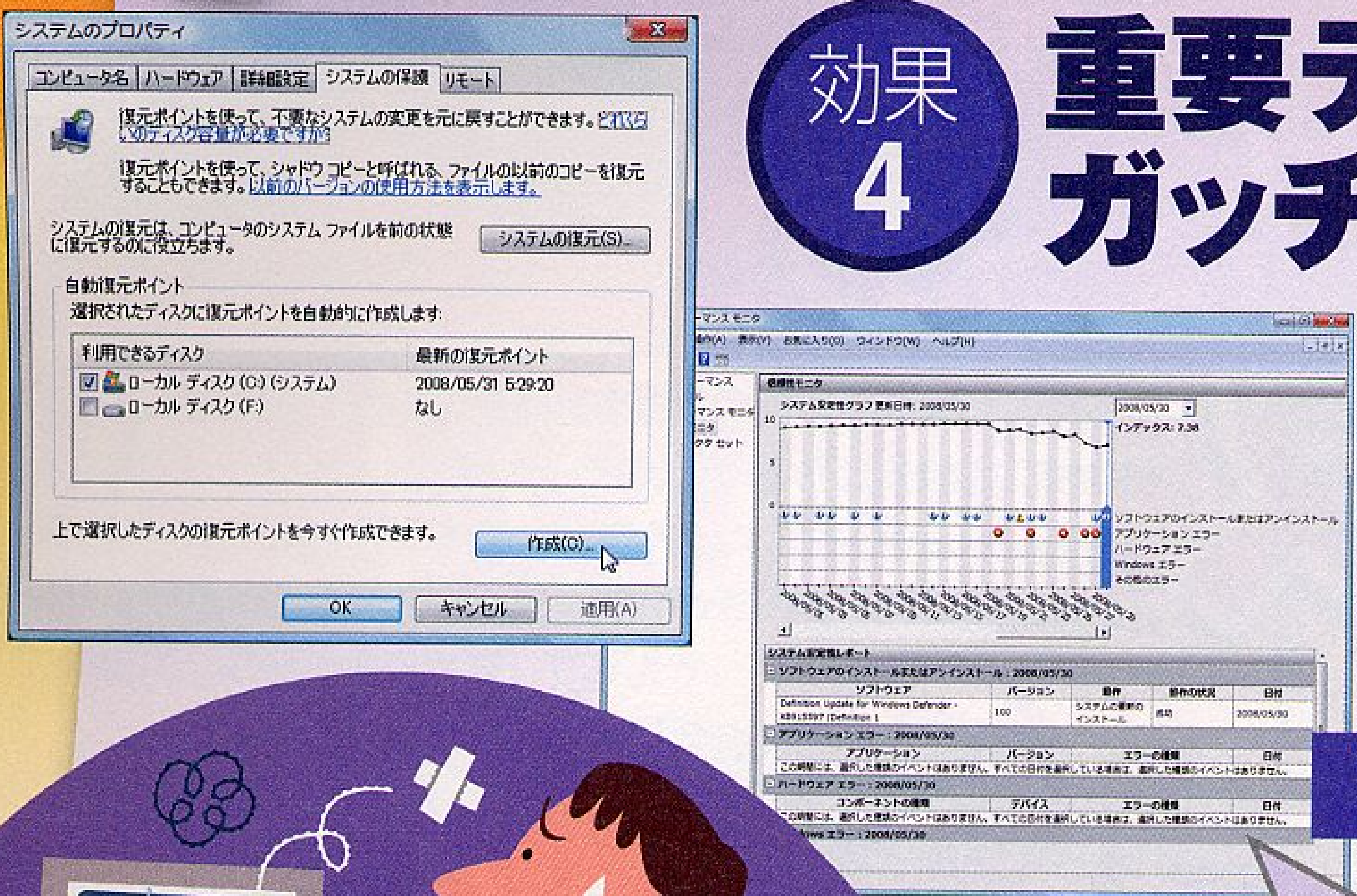
ココに効く！

Vistaの
使い勝手が悪くて
作業がはかどらない……

Vistaには操作や作業効率をアップさせる設定が豊富に用意されている。しかしその機能を知らなければ宝の持ち腐れ。ちょっとした設定で驚くほど便利に生まれ変わる！

効果2 カスタマイズで超効率化！





効果 4 重要データをガッチリ守れる!

Vistaを長く快適に使うには、日々のちょっとしたメンテナンスが効果的。また、突然やってくる原因不明のトラブルから大事なデータを守るため、転ばぬ先の「データのバックアップ」を心がけよう。

110～131ページ

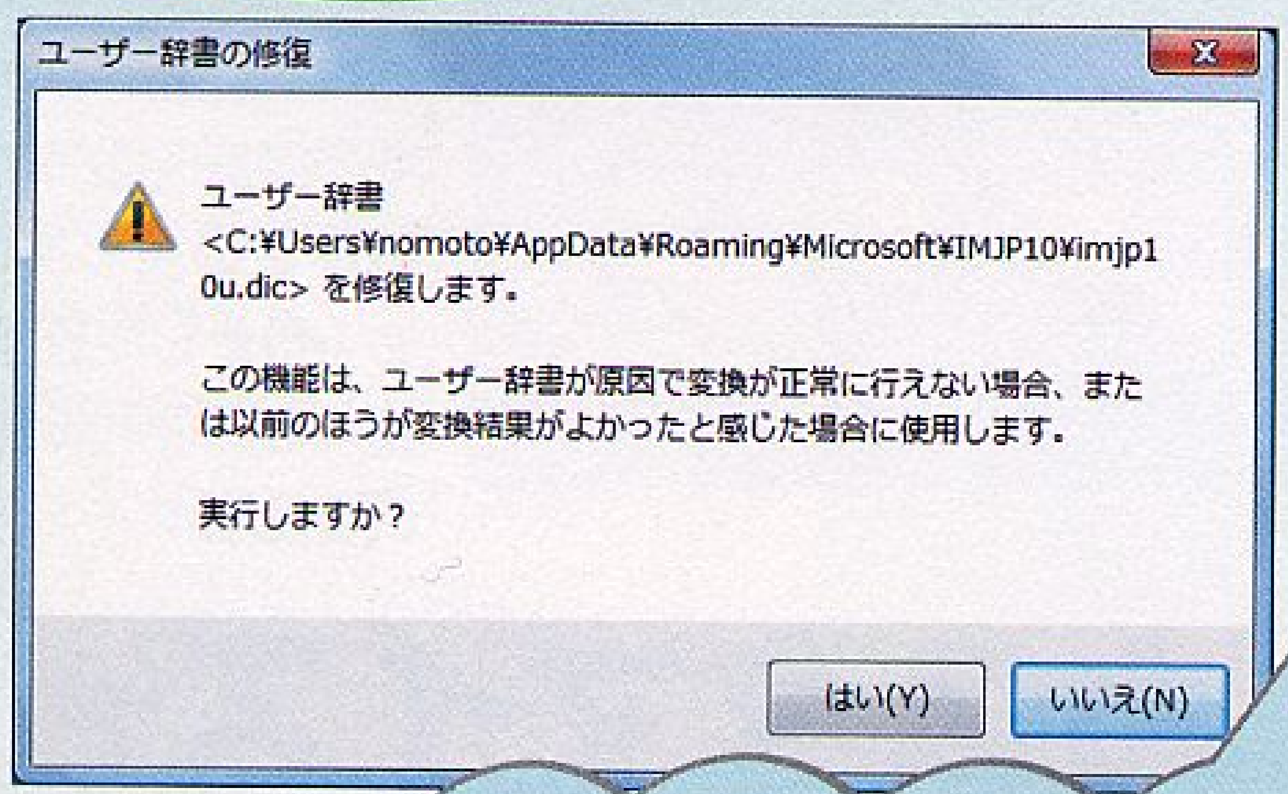
ココに効く!

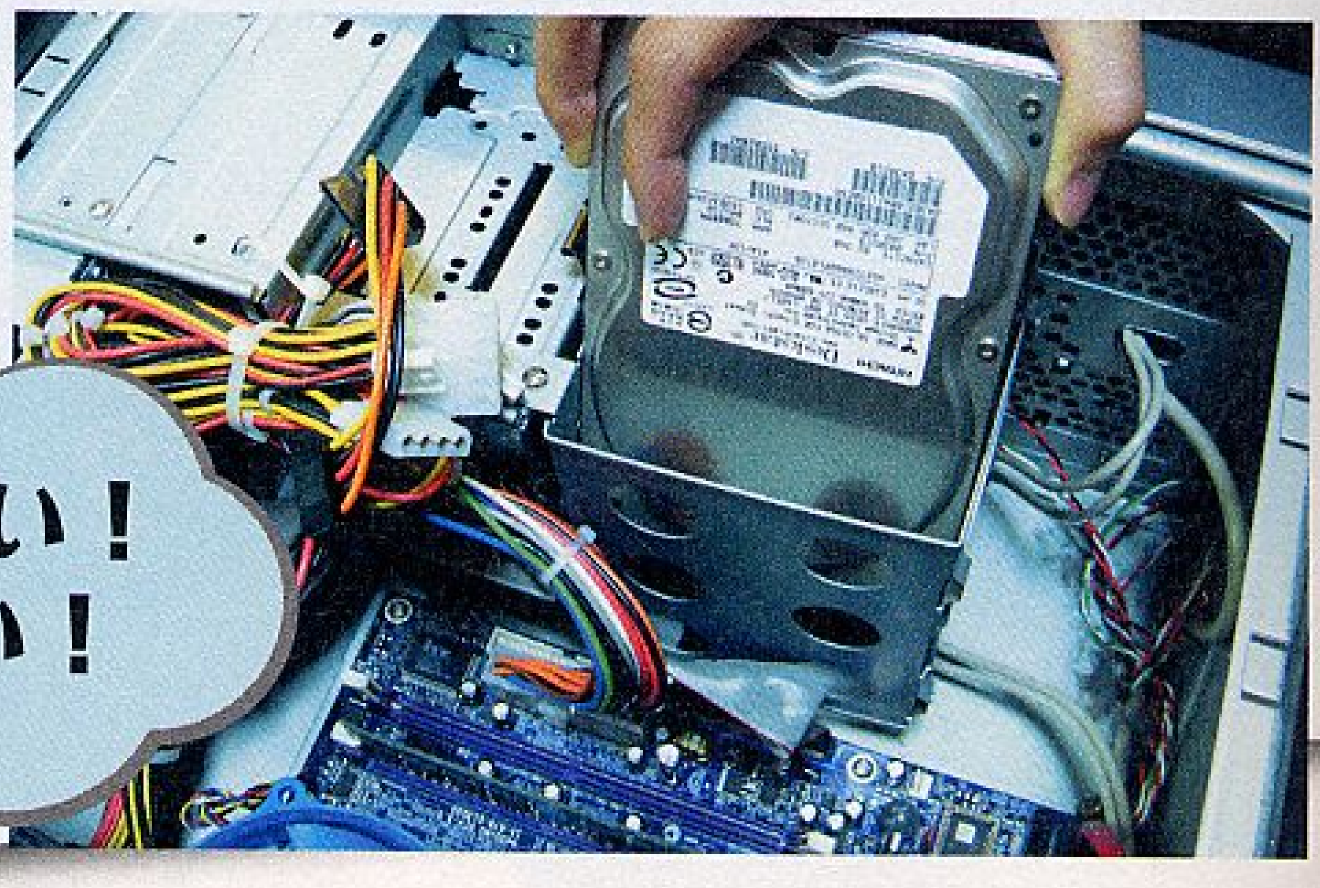
Vistaが不安定!
万が一に備えたほうがいいかも?

効果 5 深刻トラブルも自力で解決!

132～153ページ

前触れもなくやってくる深刻トラブル。慌てず、本誌を参考に原因を絞り込み、適切な対処ができれば自力でトラブルを克服できることも多い。緊急回避テクニックでピンチを乗り切ろう!



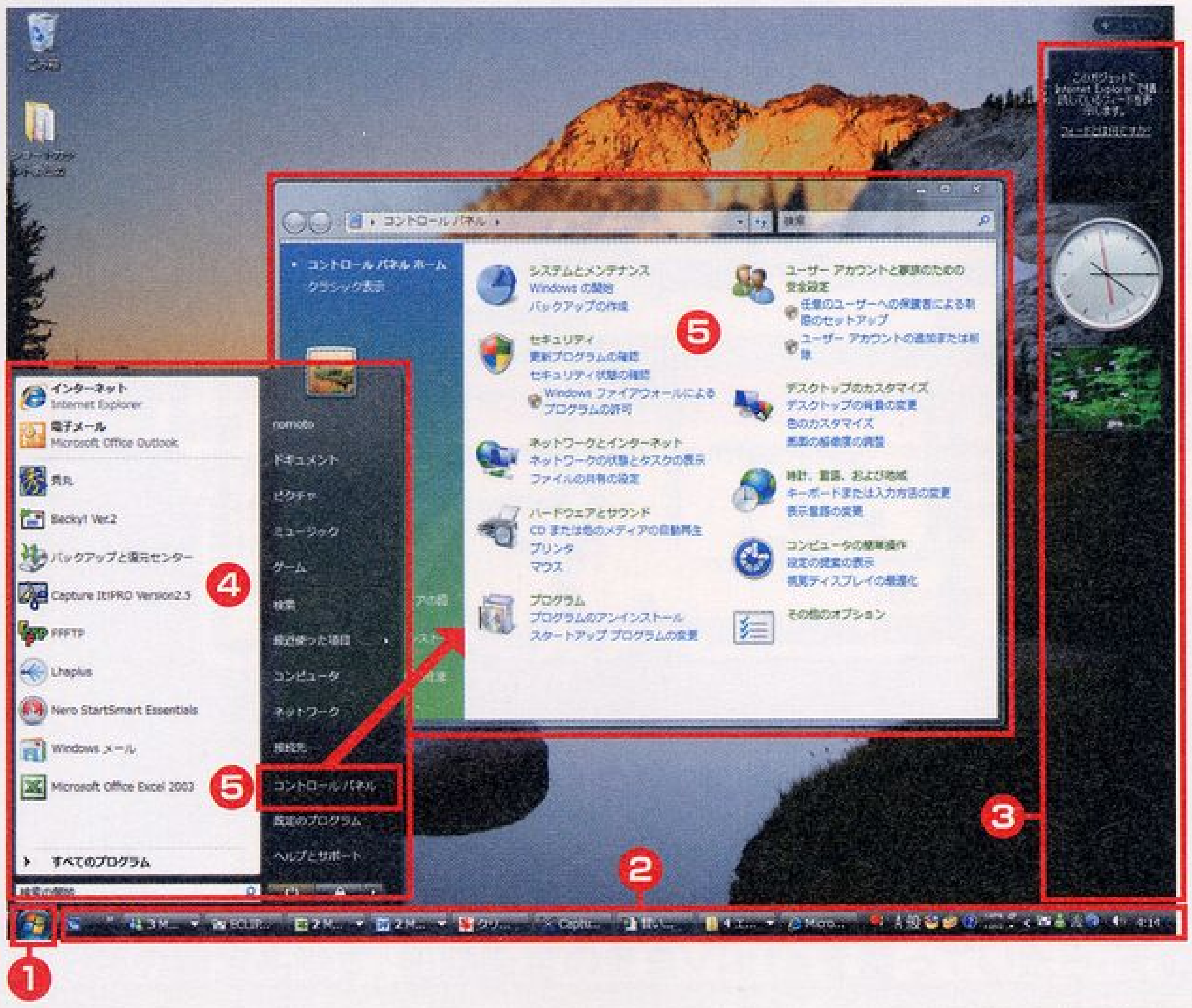


ココに効く!

パソコンが起動しない!
ネットにつながらない!

本書を読む前に —— Vistaの基本設定

主なメニュー名称



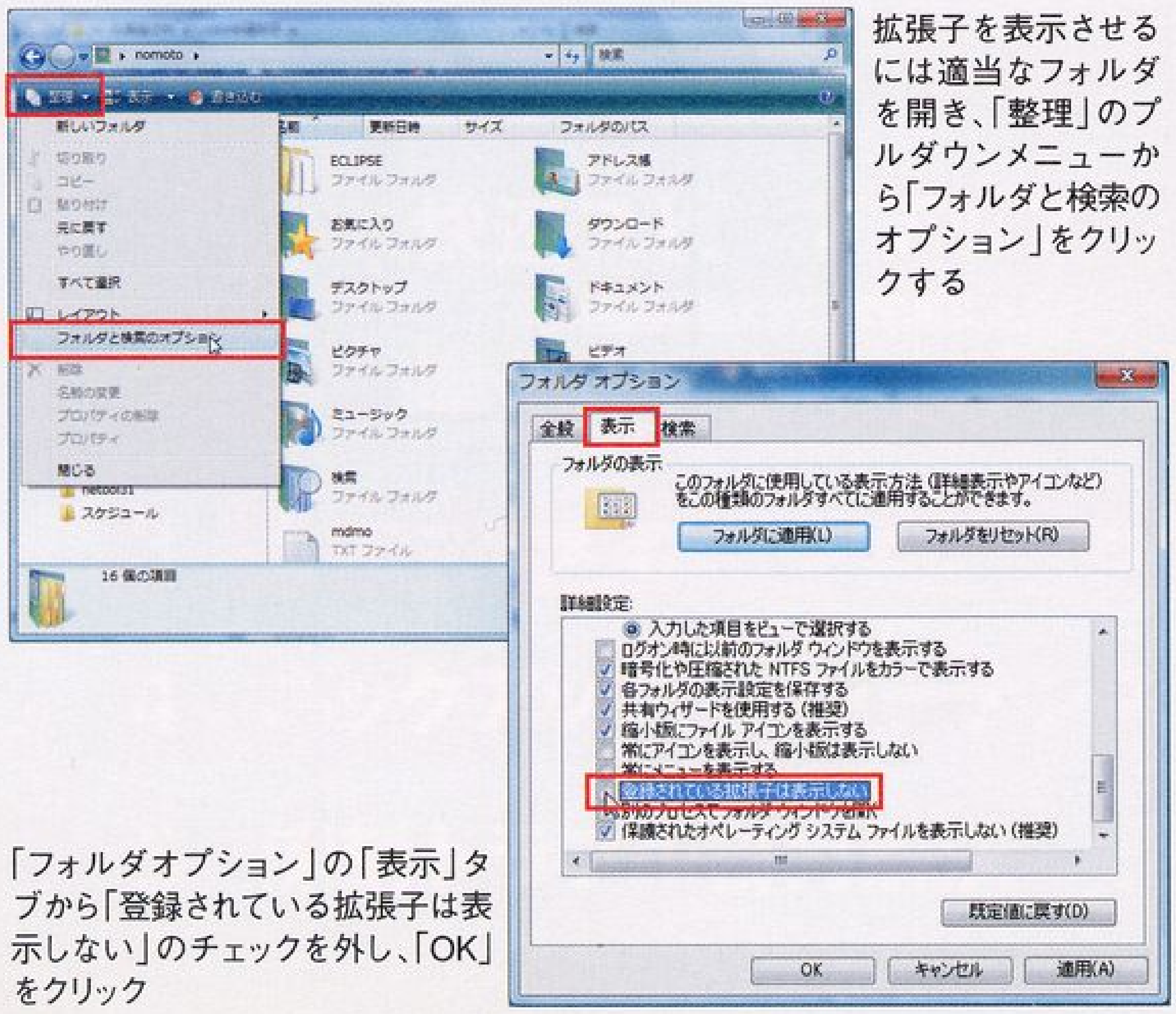
本書のテクニック解説でよく出てくる、主な名称を覚えておこう。また、設定の変更などで頻繁に操作するコントロールパネルの表示方法もあわせて覚えてしまおう。

❶ スタートボタン
❷ タスクバー
❸ サイドバー
❹ 「スタート」メニュー
❺ コントロールパネル

※「コントロールパネル」の出し方
「スタート」ボタンをクリックすると表示される「スタート」メニューの中にある「コントロールパネル」をクリックする

拡張子の表示方法

「拡張子」を表示させれば、テキストファイルや、動画ファイル、画像ファイルなど、ファイルの種類を判別する手がかりになり、設定変更の際に役に立つのでおすすめだ。本書では拡張子を表示させた状態で説明をしているものもある。



拡張子を表示させるには適当なフォルダを開き、「整理」のプルダウンメニューから「フォルダと検索のオプション」をクリックする

「フォルダオプション」の「表示」タブから「登録されている拡張子は表示しない」のチェックを外し、「OK」をクリック

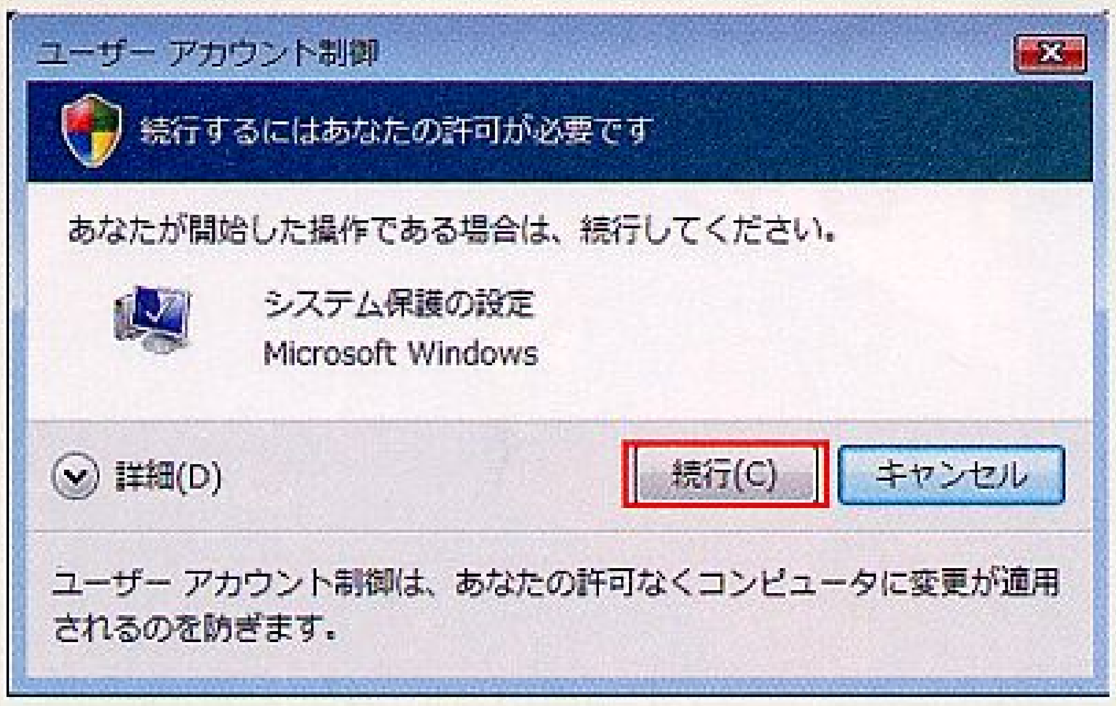
⚠ WARNING ⚠

○本書の誌面解説は基本的に「Windows Vista Ultimate」「Windows Vista Home Premium」(それぞれService Pack 1)環境で行なっております。異なるエディションをお使いの場合は、画面や操作方法が異なる場合があります。
○本書の解説は初期設定に近いパソコンの環境を想定しています。カスタマイズされたパソコンなど、お使いのパソコンによっては画面や操作方法が異なる場合があります。
○一部のメーカー製パソコンや、カスタマイズされたパソコンでは、解説した操作どおりの効果が得られない場合がありますのでご注意ください。
○本書の解説にはレジストリの編集をはじめ、システム全体に関わる操作も含まれています。万が一の場合に備えて重要なファイルはバックアップしておくことをお勧めします。また、レジストリの編集に関しては自己責任のもとに行なってください。操作結果のトラブルについて、(株)宝島社は一切責任を負いません。あらかじめご了承ください。
○掲載されているWebサイト、製品およびサービス内容は2008年6月下旬の本誌編集部の調査によるものです。表示価格は税込み価格です。製品やサービスによっては事前のお知らせなしに内容・価格が変更される場合があります。ご購入、お申し込みの際、メーカーまたは販売店に必ずご確認ください。
○Windowsは米国Microsoft社の登録商標です。その他の商品名はそれぞれの会社の登録商標です。

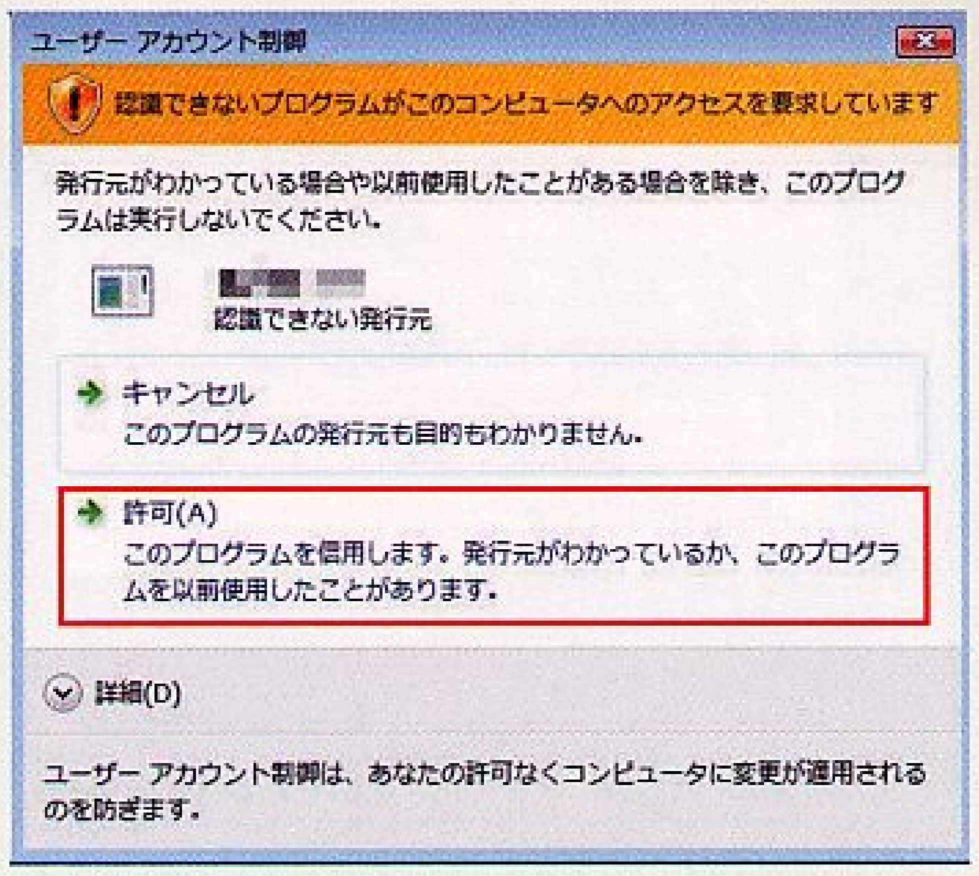
本書を読む前に —— Vistaの操作について

ユーザーアカウント制御画面の操作について

本書で解説している設定変更の中には、実行するたびに以下のような「ユーザーアカウント制御」画面（詳細は8ページ参照）が表示される場合もある。本書ではこの画面を割愛しているので、設定中にこの画面が表示されたら「続行」あるいは「許可」をクリックして作業を進めよう。ただし、自分が意図した設定変更時以外に表示される場合、セキュリティ上の問題が起こっている可能性もある。その場合は安易に「続行」や「許可」をクリックせず、「キャンセル」をクリックし、不正な動作を防止しよう。



本書の解説にしたがって操作すると、このような画面が頻繁に出る。「続行」をクリックすれば作業を続けられる。また、管理者以外の場合は管理者のパスワード入力を求められる

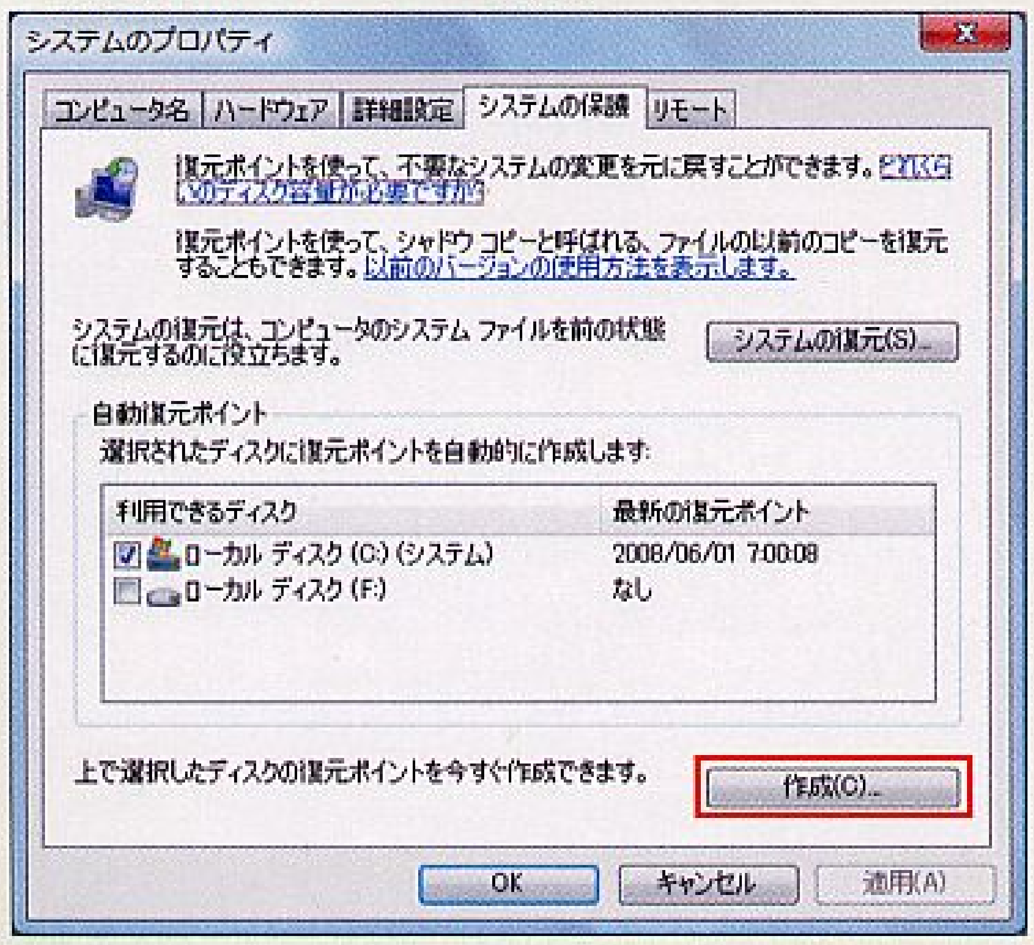


ソフトをインストールするとこの画面が表示されることがある。確認して自分が実行した操作に間違いがなければ「許可」をクリックすればインストールを続けることができる

作業前にデータやシステムのバックアップを取る

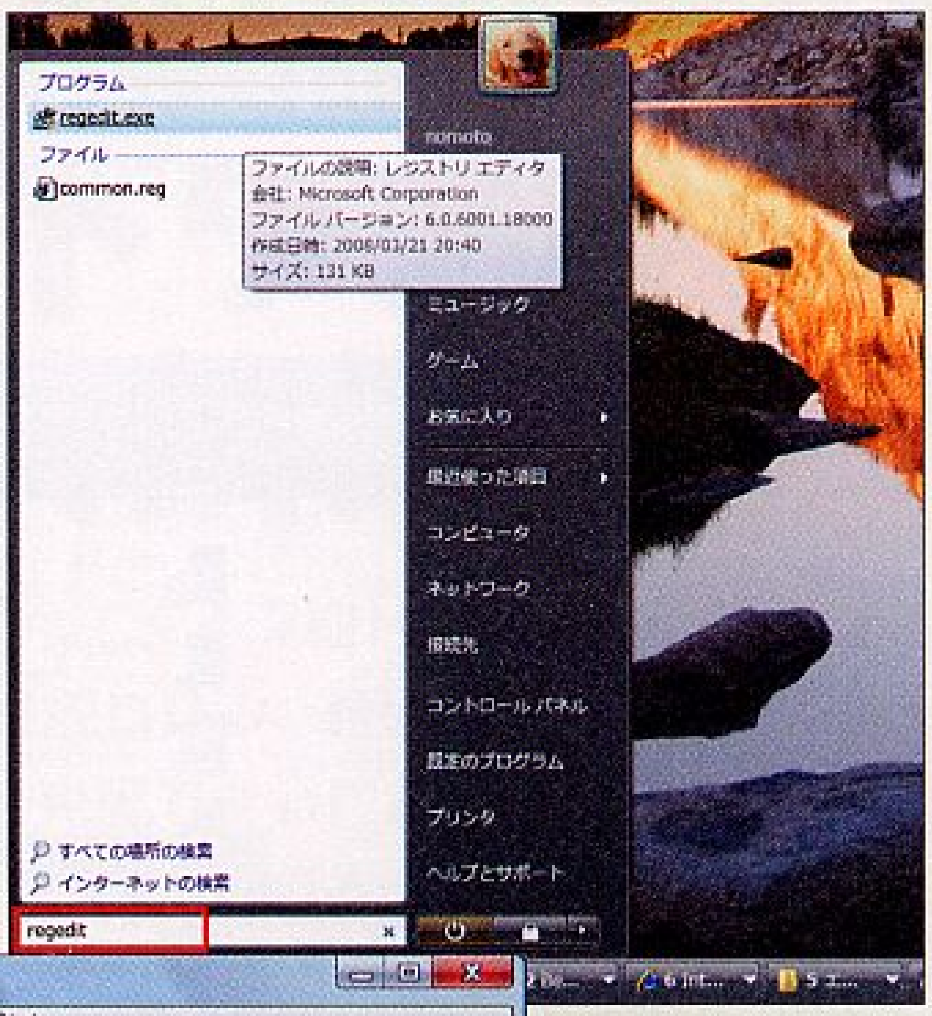
本書で解説している設定には、操作を誤るとパソコンに不具合の出るものもある。そうした操作は本書内でも注意喚起がなされているが、作業前にデータのバックアップやシステムの復元ポイント（113ページ参照）を作成すること。また、レジストリを操作する場合はレジストリのバックアップもとっておこう。また、パーツ・周辺機器の増設前にもデータのバックアップをとっておくことをおススメする（各種データのバックアップ方法は110ページからの「バックアップ＆メンテナンス」参照）。

■ 復元ポイントの作成

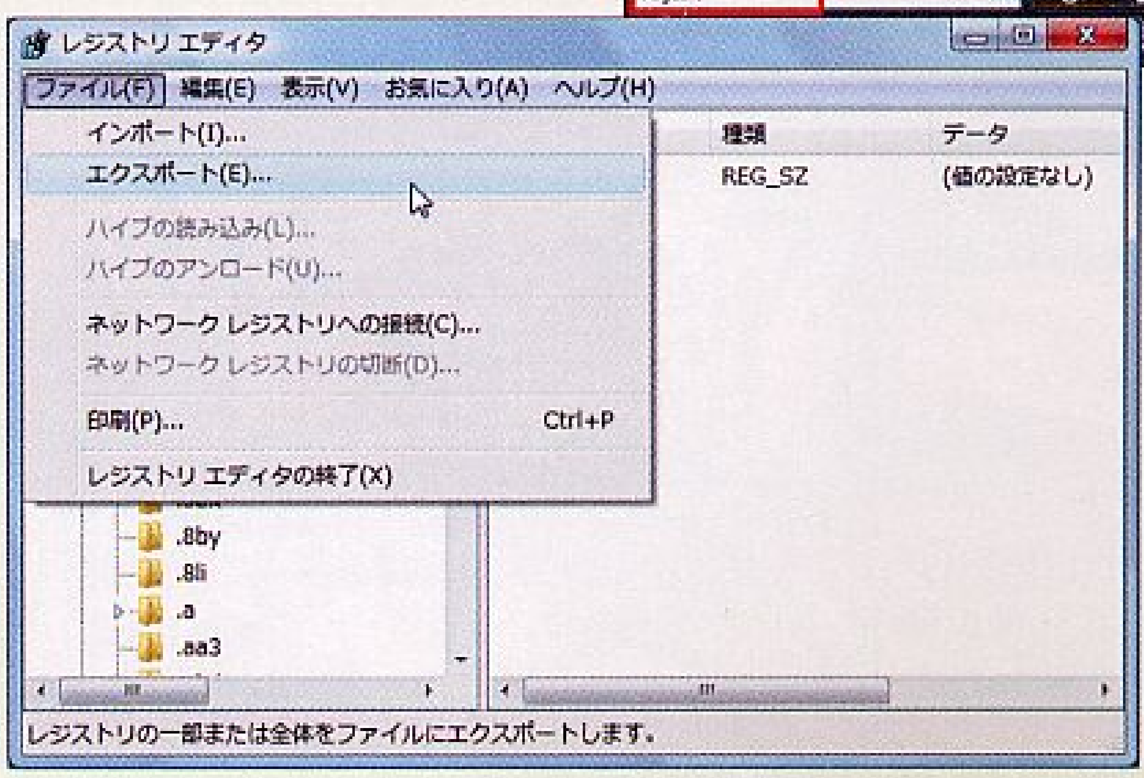


復元ポイントを作成しておけば、不具合が出る前の状態に戻すことができる（113ページ参照）

■ レジストリのバックアップ



「スタート」メニューの検索ボックスに「regedit」と入力して「Enter」キーを押し、レジストリエディタを開く



変更する予定のレジストリキーを選択して「ファイル」メニュー→「エクスポート」を選択。保存場所を選択し、ファイル名を付けて「保存」をクリックすればいい

Windows 究極の Vista 快適設定 決定版

何の設定もせず、初期設定のままVistaを使っていたら、その性能をフルに引き出すことはできない。本書では、Vista本来の性能を活かし、さらに快適に使うための5つの設定を紹介している。重い・遅いを解消する「スピードアップ」テクニック、使い勝手の悪さを解消し、作業効率を上げる「カスタマイズ」テクニック、さまざまな脅威からパソコンを守り、インターネットを便利に楽しむ「セキュリティ＆インターネット」テクニック、パソコンの故障を予防し、万が一の故障に備える「バックアップ＆メンテナンス」テクニック、緊急トラブルを回避、克服できる「トラブル解決」テクニック。これらのテクニックを駆使してVistaの設定を変え、購入時以上の快適さと便利さを実感しよう。

1 断然快速スピードアップ P8

2 超効率化カスタマイズ P62

3 セキュリティ&インターネット P92

4 バックアップ&メンテナンス P110

5 深刻トラブル自力解決 P132

難易度 普

煩わしいアカウント制御の警告画面が出ないようにする

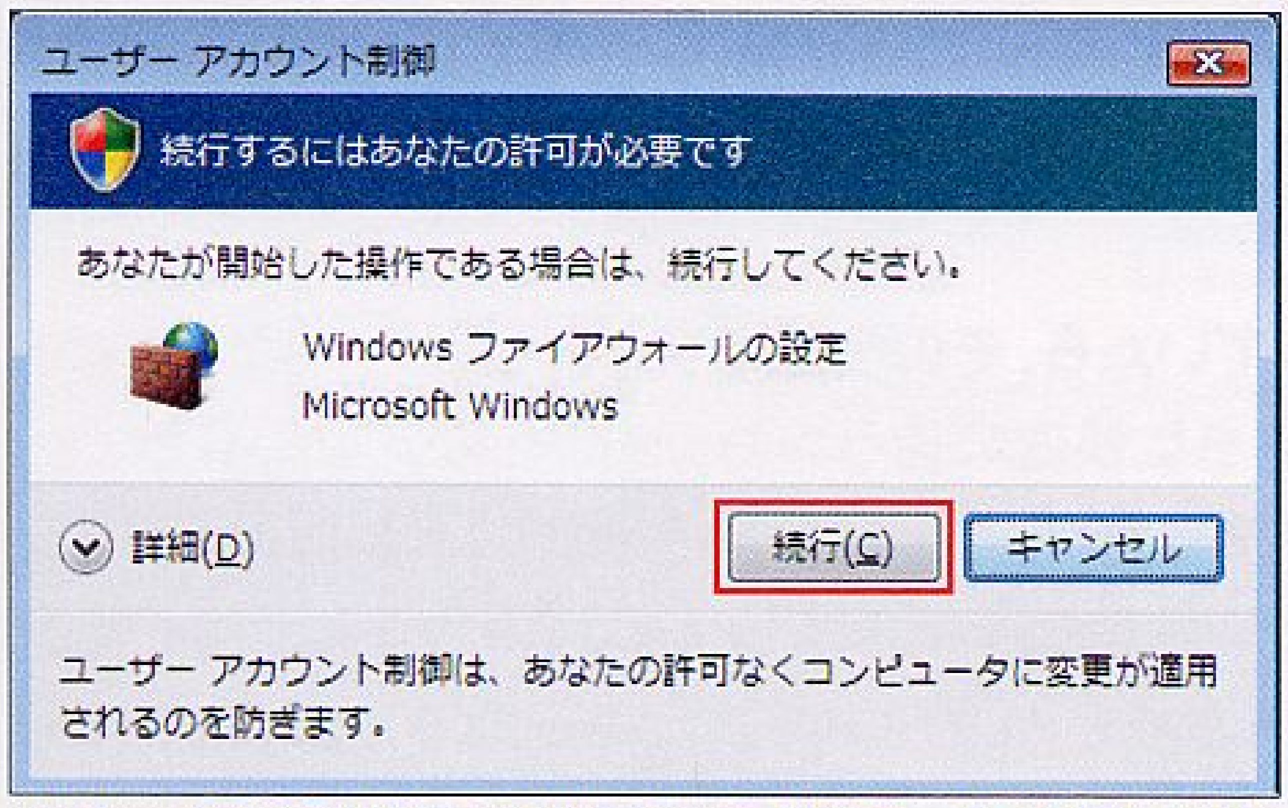
効果絶大ワザ10選

快適指数

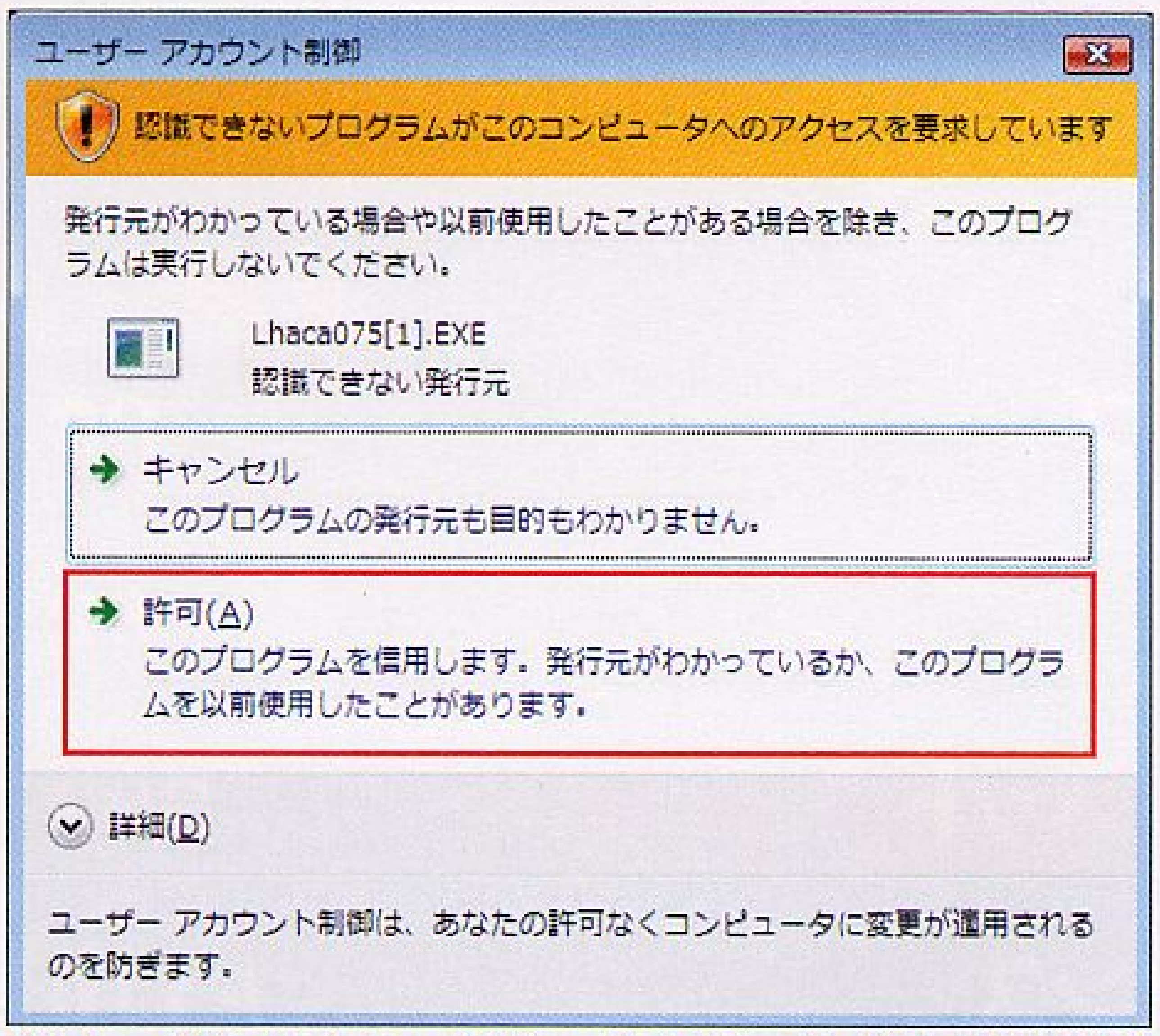
効果 ●設定変更のたびに「許可」する手間が省ける
●ソフトのインストールがスムーズに行なえる

Vistaではセキュリティが強化され、悪意あるスパイウェアやウイルスなどによるシステム改変を防ぐため「ユーザーアカウント制御（UAC）」機能が追加された。システムに関わるようなソフトやツールを起動しようとすると、必ず「ユーザーアカウント制御」画面が表示され、続行の許可を求められる。この画面が出ると強制的に作業が中断されるので煩わしく感じる人も多いだろう。自分で安全だとわかっているなら、この機能をオフにしてしまおう。ただし、パソコンが危険にさらされる可能性があるため、自己責任で行なうこと。

「ユーザーアカウント制御」の表示例



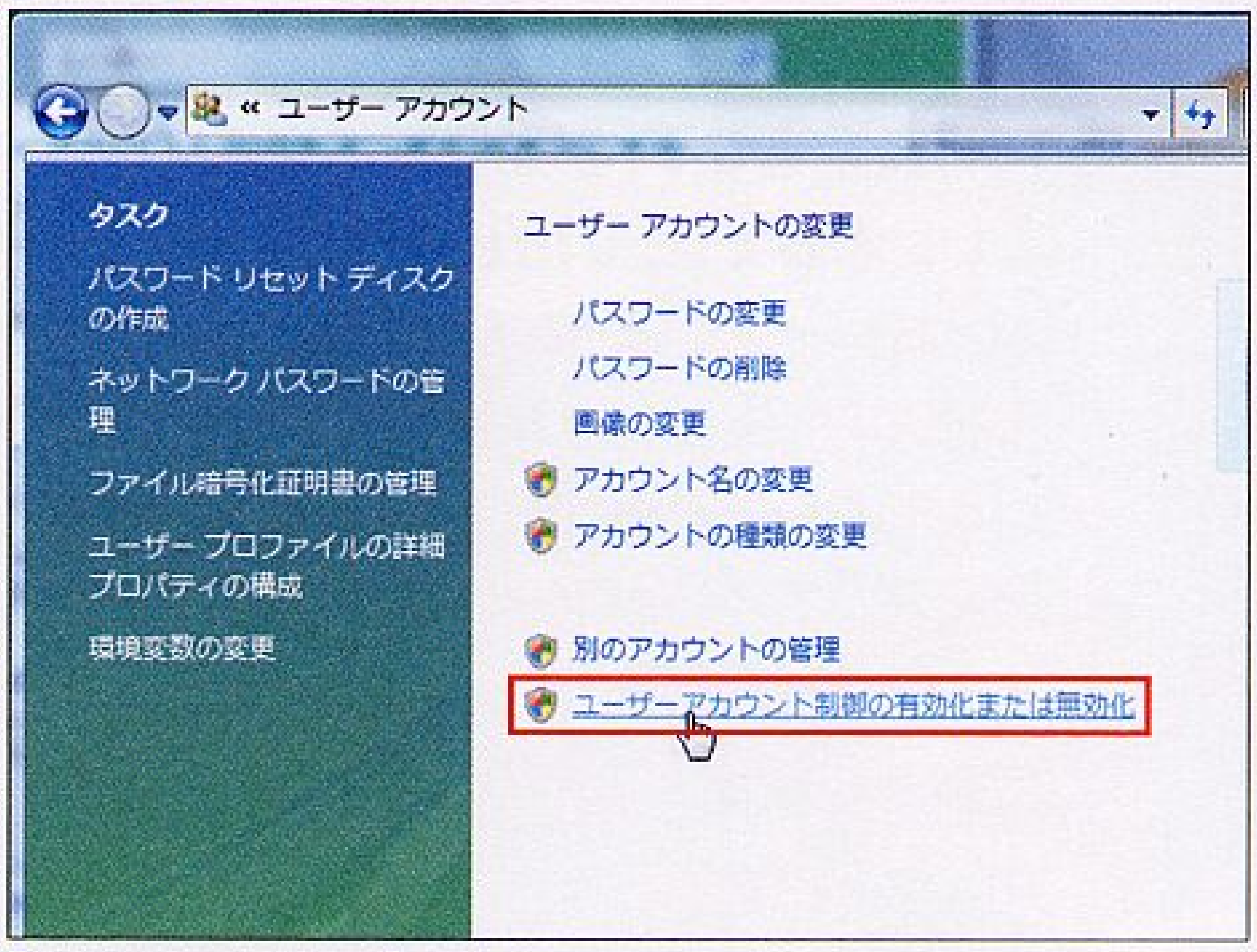
Windowsのシステムに関わる機能変更や、他のユーザーアカウントに影響が出る操作を実行しようとすると「続行」してもよいか確認が出る



Windowsの許可していないソフトウェアをインストールしようとするときも「許可」を求められる。ソフト名を確認し、安全だとわかっているなら「許可」する。不正なソフトを勝手にインストールさせないための措置だ

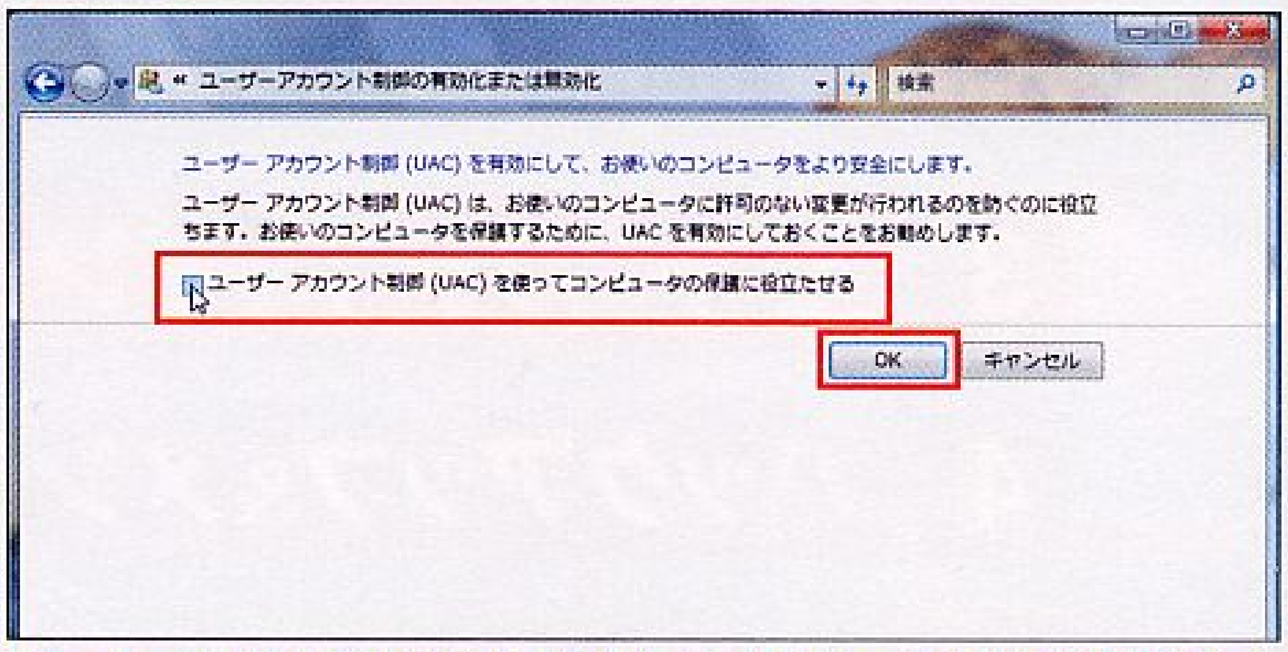
「ユーザーアカウント制御」を無効にする

1 「ユーザーアカウント」を開く



「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」をクリックし、「ユーザーアカウント」→「ユーザーアカウント制御の有効化または無効化」をクリックする

2 「ユーザーアカウント制御」を無効にする



「ユーザーアカウント制御（UAC）を使ってコンピュータの保護に役立たせる」のチェックを外す。「OK」をクリックして再起動すれば完了だ。オフにした後は危険なソフトのインストールや設定変更も確認なしで行なわれるため、くれぐれも注意し、自己責任で行なうこと

Keyword ユーザーアカウント制御
Vistaでは、これまで管理者権限のユーザーならノーチェックで行なえていたことにも承認が必要になった。ソフトウェアの実行やシステムにかかわるようなWindowsの設定変更などがこれに該当する。

難易度 普

USBメモリを挿すだけでパソコンの動作を高速化

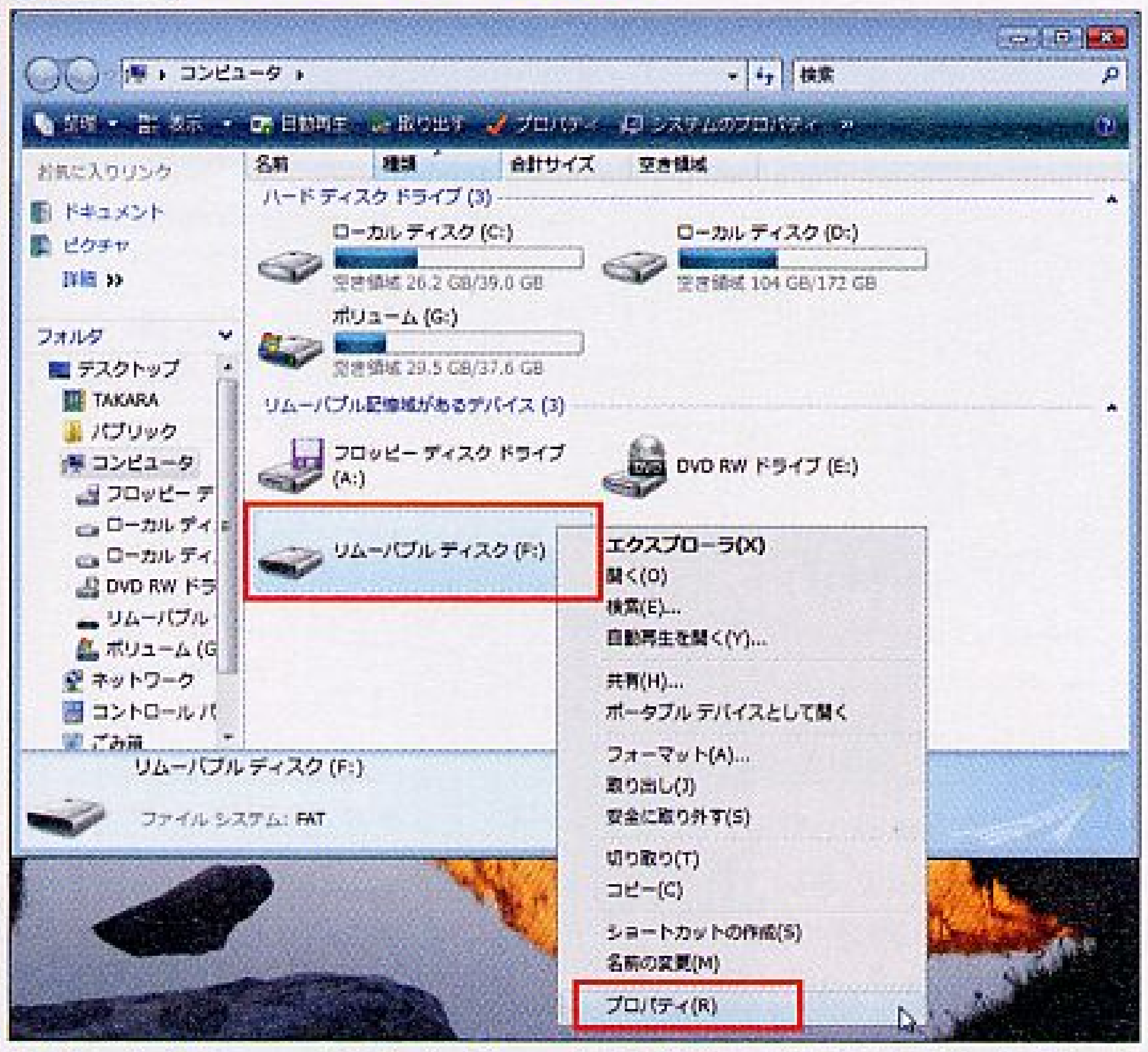
効果絶大ワザ10選

快適指数

効果 ●ハードディスクへのアクセスが減り読み込みが高速化する
●ノートパソコンならバッテリ持続時間も延ばせる

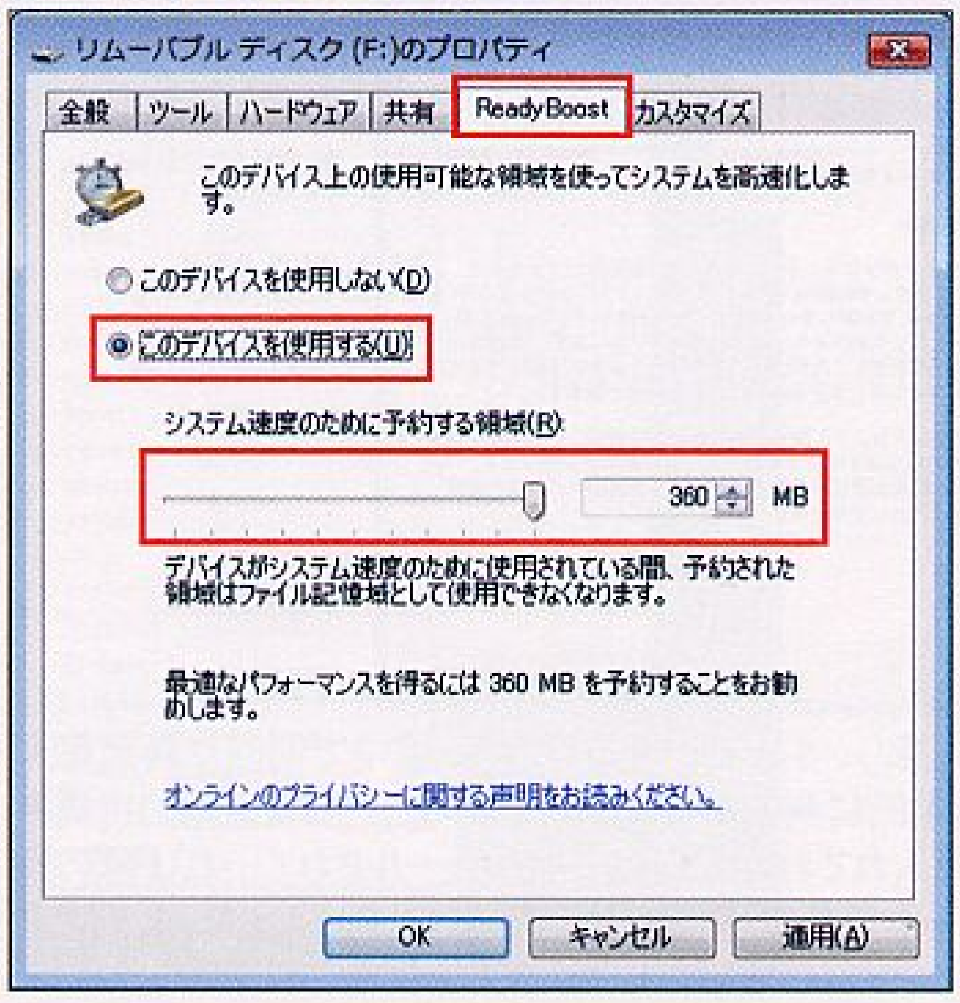
「Windows ReadyBoost」はキャッシュをUSBメモリなどの外部記憶メディアに当てることで、パフォーマンスをアップできる機能。USBメモリはハードディスクよりはるかに高速に読み書きできるため、頻繁に発生するスワップファイルからの読み込みが高速化するほか、ハードディスクの利用頻度が減るのでバッテリーの持続時間も延びる。この機能を利用するには、高速な外部記憶メディアが必要になる。メーカーホームページやパッケージなどを見て「Windows ReadyBoost」対応と書いてあるものを購入すれば間違いない。

1 リムーバブルディスクのプロパティを開く



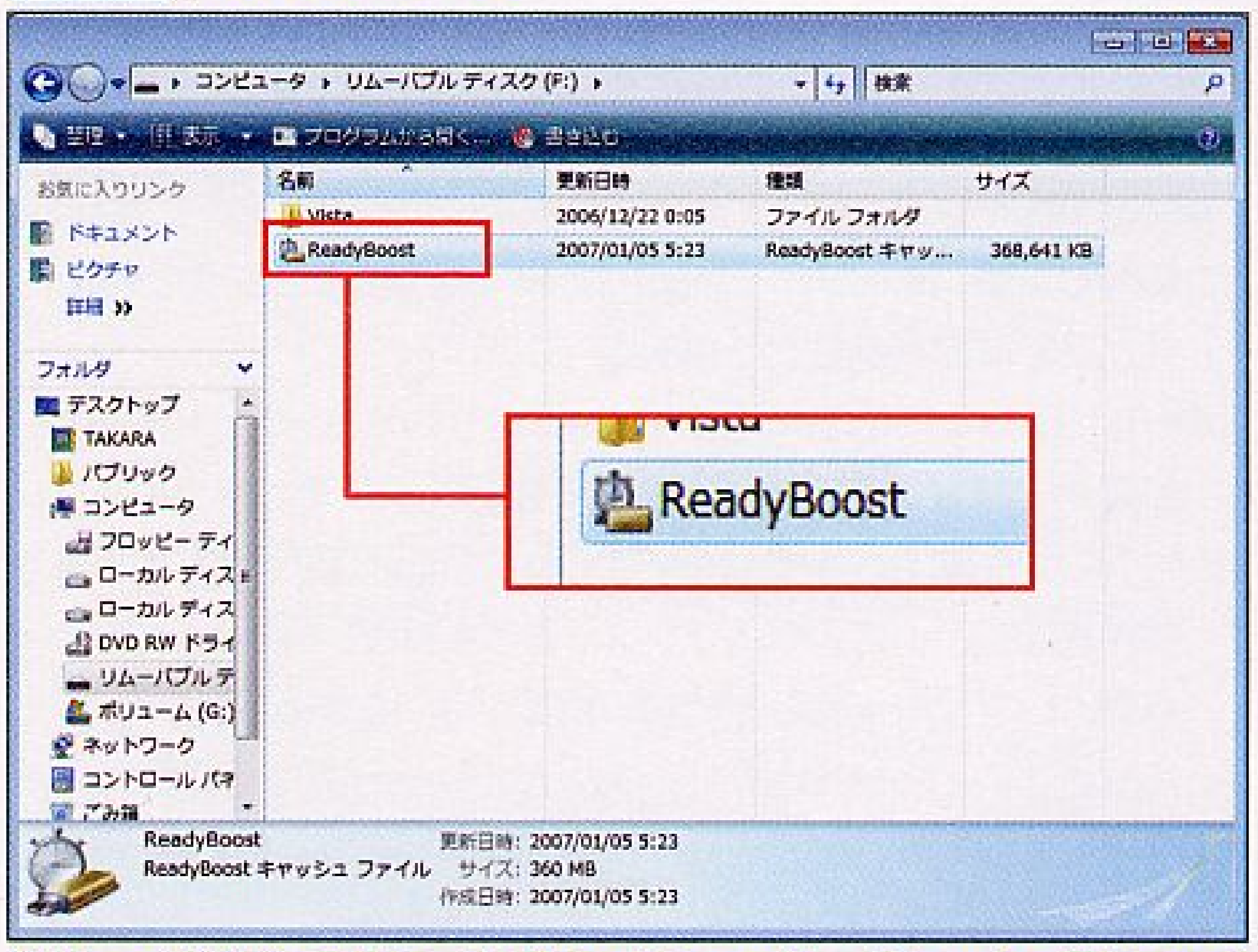
「スタート」メニューから「コンピュータ」を開き、USBメモリやメモリーカードを選択。右クリックして「プロパティ」を開く

2 「ReadyBoost」を有効にする



「ReadyBoost」タブにある「このデバイスを使用する」にチェックを入れて、「システム速度のために予約する領域」を設定。できるだけ推奨値を選ぼう

3 キャッシュファイルが作成される



「リムーバブルディスク」の中に「ReadyBoost」というキャッシュ用のファイルが作成される

もっと快適!! テクニック

頻繁に利用するソフトが高速化する「SuperFetch」機能

Vistaの新機能には、よく利用するソフトを優先的にメモリに読み込んでおき、高速化する「SuperFetch」という機能がある。例えば、ブラウザの利用機会が多ければ、自動的にブラウザの起動が速くなったりするのだ。

「SuperFetch」が機能すれば、頻繁に使うソフトの起動が速くなり快適になる。時間帯別に使われやすいソフトの判断が行なわれるなど、かなり賢い

注意 ReadyBoost使用上の注意

「Windows ReadyBoost」を利用するには、パソコンがUSB2.0に対応していること、また「Windows ReadyBoost」対応の外部記憶メディアであること、記憶メディアに256MB以上の空きがあることが必要となる。

難易度 普

Windows UpdateでSP1にして高速化する

効果絶大ワザ10選

快適指数

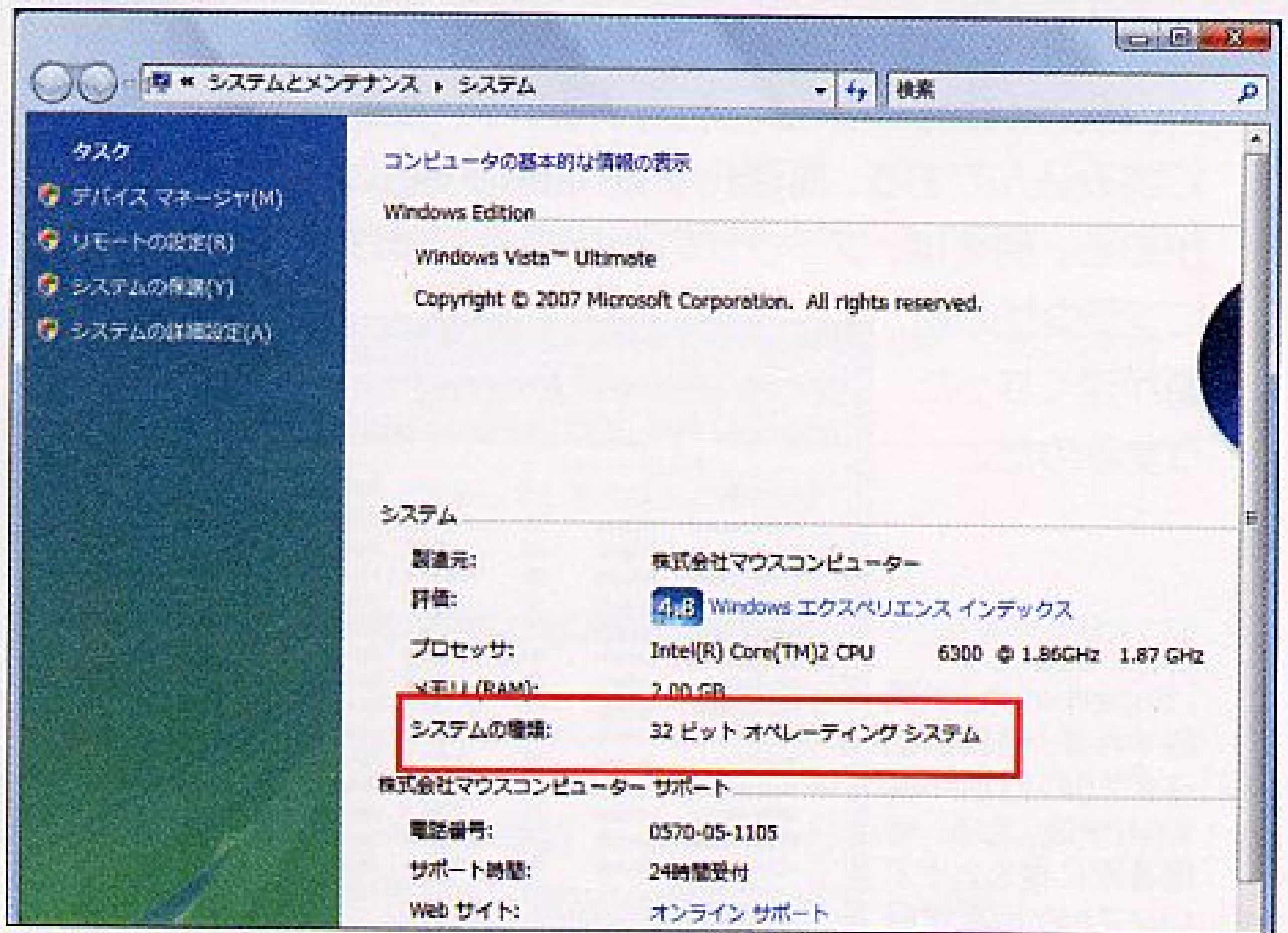
効果
- ●システムのパフォーマンスが向上する
- ●アプリケーションの互換性が強化される

マイクロソフトから配布されているVistaのアップデートプログラム「Service Pack1（SP1）」では、互換性やセキュリティが強化されたほか、これまでの不具合も改善された。また、ファイルのコピー、休止・スタンバイ状態からの再開、圧縮フォルダからのファイル抽出などがこれまでに比べ高速化されている。手っ取り早くパソコンを高速化したいならSP1の導入は不可欠。アップデートするには「Windows Vista」の公式ページ（http://www.microsoft.com/japan/windows/products/windowsvista/）にアクセスする。

1 インストール前に確認すること

- ●メーカー製パソコンの場合、メーカーサイトでSP1適用後に発生する可能性がある問題を確認しておく。
- ●周辺機器、ソフトウェア（特にセキュリティ関連プログラム）に関しても、メーカーのサイトでSP1適用後に発生する可能性がある問題を確認しておく。
- ●インストールには1時間近くかかる場合もある。セットアップの途中でパソコンの電源を切って強制終了してしまうと、パソコンが起動できなくなるなどの致命的な問題が発生する場合があるので、タスクスケジュールでの自動シャットアウト、自動アップデート後の再起動の設定がないか事前に確認しておくこと。ノートパソコンではバッテリーを使わず電源ケーブルに切り替え、セットアップ中は電源が切れないよう注意すること。
- ●念のため重要なデータのバックアップを取っておくこと。

2 Vistaの「システムの種類」を確認

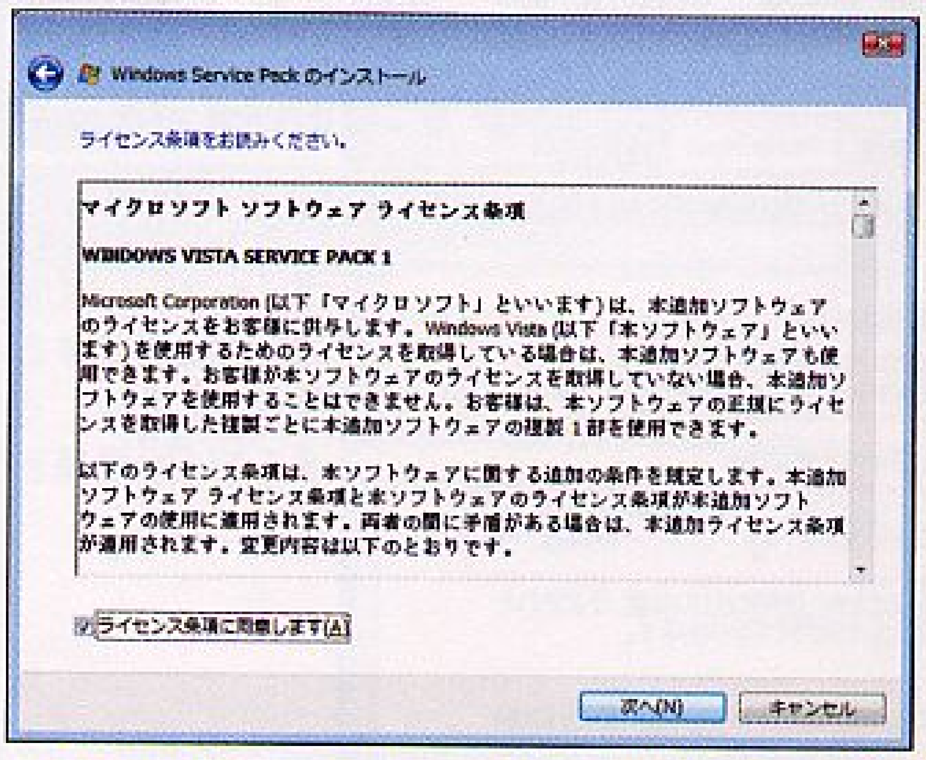


「スタート」メニューから「コンピュータ」を右クリック、「プロパティ」を開く。「システム」項目の「システムの種類」から、自分のオペレーティングシステムを確認しておく。画面では「32ビットオペレーティングシステム」となっている

3 Vistaの公式ページにアクセスする

「Windows Vista Service Pack 1（SP1）」のリンクをクリックし、「インストール前にご確認ください」でインストール時の注意事項を確認する。2で確認した自分のオペレーティングシステムのパックを選択する。32ビットの場合は「x86」、64ビットの場合は「x64」を選択する。「Windows Vista SP1インストール方法」をクリックし、手順を確認しながらソフトをダウンロードし、インストールを開始する

4 ライセンス条項を確認しインストールする



ライセンス条項に同意し、インストールを行なう。途中で何回か再起動が必要となるので、自動的に再起動させるなら「コンピュータを自動的に再起動する」にチェックを入れておこう。正しくインストールされていれば2の画面上部の「コンピュータの基本的な情報の表示」に「Service Pack 1」と表示される

注意 インストールに失敗するときは
セキュリティ対策ソフトウェアがインストールされていると、場合によってはSP1のインストールが失敗することがある。その場合、自己責任で一時的に無効にしてからインストールしてみよう。

不要な常駐ソフトを停止して起動を高速化する

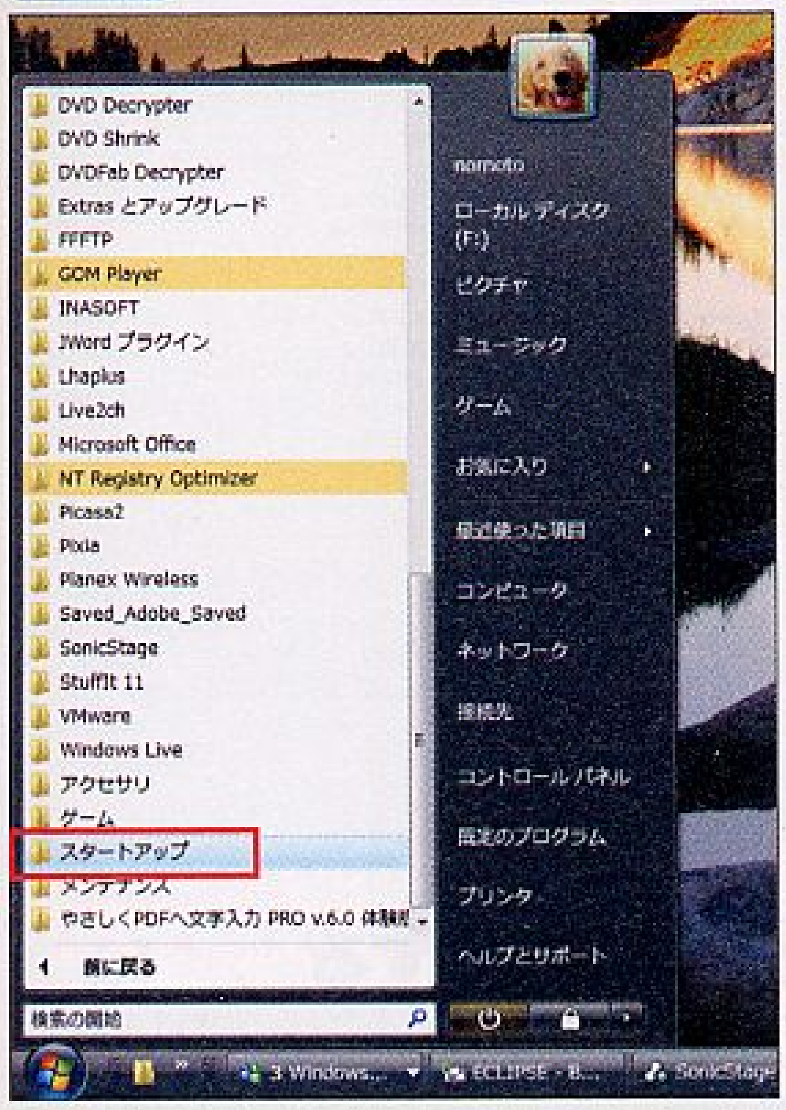
難易度 普

快適指数

効果
- ●Windowsの起動が高速になる
- ●余計なソフトが常駐せずシステムが安定する

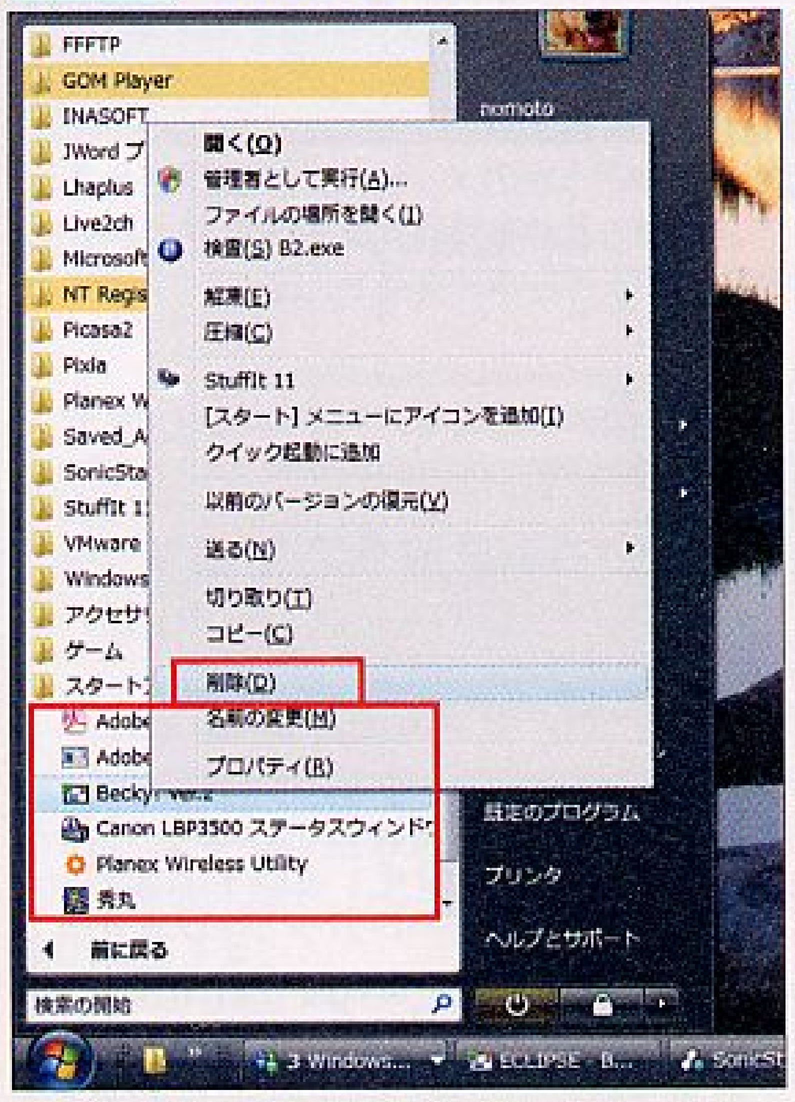
Windowsの起動が遅くなってしまう原因のひとつに、「スタートアップ」に登録された常駐ソフトがある。Windowsの起動と同時に立ち上がってしまうため、起動に時間がかかってしまうのだ。自分で設定した覚えがなくても、ソフトによってはインストール時に勝手に自動起動として登録されてしまう「隠れ起動」もあり、手に負えない（「隠れ起動」の削除方法は12ページを参照）。ただでさえ時間のかかるWindowsの起動を少しでも速くするため、「スタートアップ」から不要なソフトを削除してみよう。

1 「スタートアップ」フォルダをクリックする



「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「スタートアップ」をクリックする

2 不要な常駐ソフトを削除する



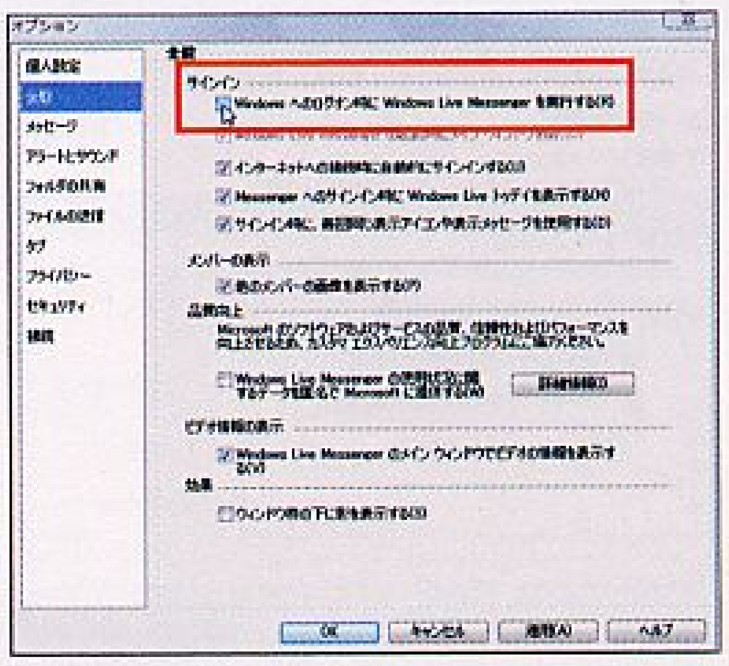
「スタートアップ」フォルダの内容が表示されたら、削除したいソフトを右クリックし、「削除」をクリックすればいい

3 不要な常駐ソフトをまとめて削除するには

「スタート」メニューを開き、「すべてのプログラム」→「スタートアップ」を右クリックして「開く」を選択する。「スタートアップ」フォルダに入っているソフトから削除したいものを「Ctrl」キーを押しながら選択し、右クリックから「削除」を選択すればまとめて削除できる

もっと快適!!テクニック ソフトの機能で常駐設定をオフにする

アプリケーションソフトによっては、インストール時の設定で常駐になっているものもある。また、グラフィックカードなども独自のソフトを常駐させることが多い。これらは各ソフトの設定でオフにできる場合があるのでチェックしてみよう。



「Windows Live Messenger」の常駐を解除するには「オプション」の「全般」から「Windowsへのログオン時にWindows Live Messengerを実行する」のチェックを外せばいい

ワンポイント ソフト本体は削除されない

スタートアップに登録されているのはソフトのショートカットなので、スタートアップから削除してもソフト本体がパソコンから削除されることはない。

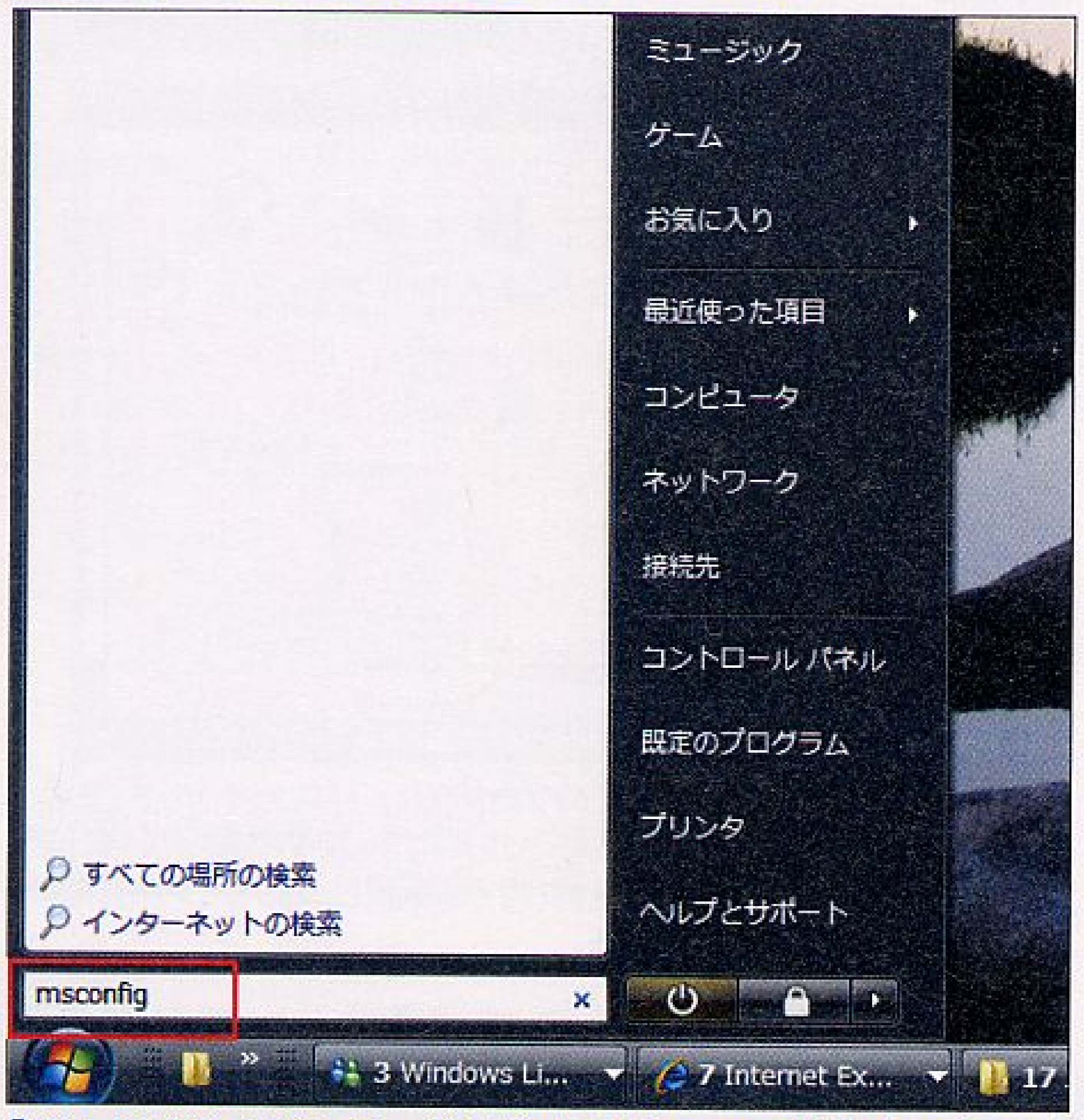
難易度 難 「隠れ自動起動」ソフトをオフにして更に高速に起動させる

快適指数

効果
●Windowsの起動が高速になる
●「スタートアップ」フォルダ内を削除しても残る自動起動ソフトを一掃できる

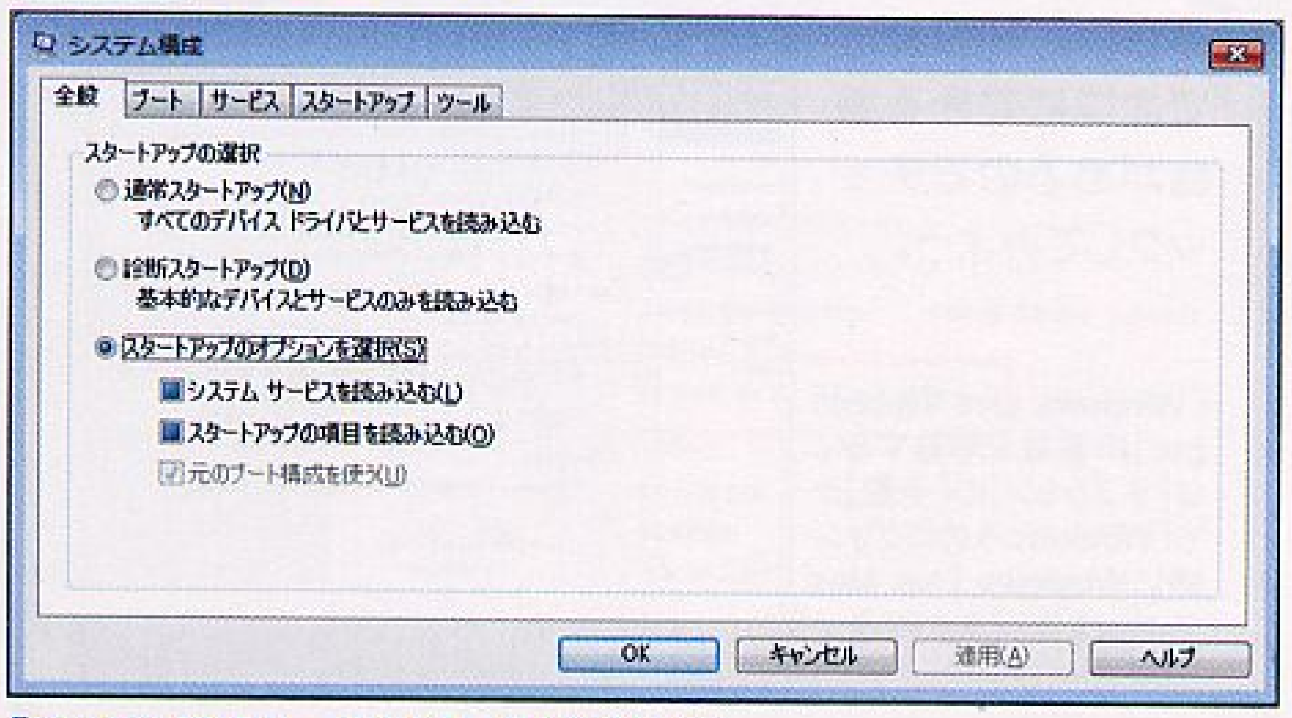
11ページでは、「スタートアップ」フォルダから削除するという方法で自動起動するソフトを除去した。しかし、これですべての自動起動ソフトが取り除かれたわけではない。「隠れ自動起動」とでもいうべき、「スタートアップ」フォルダ以外のところに登録されている自動起動ソフトがあるからだ。これは、自分で登録した覚えがなくても、ソフトをインストールしたときに自動で登録されていることが多い。この「隠れ自動起動」を除去するには、Windows付属ツールの「システム構成ユーティリティ」を使う必要がある。

1 検索ボックスに「msconfig」と入力する



「スタート」ボタンをクリックし、検索ボックスに「msconfig」と入力して「Enter」キーを押す

2 「システム構成ユーティリティ」が起動する

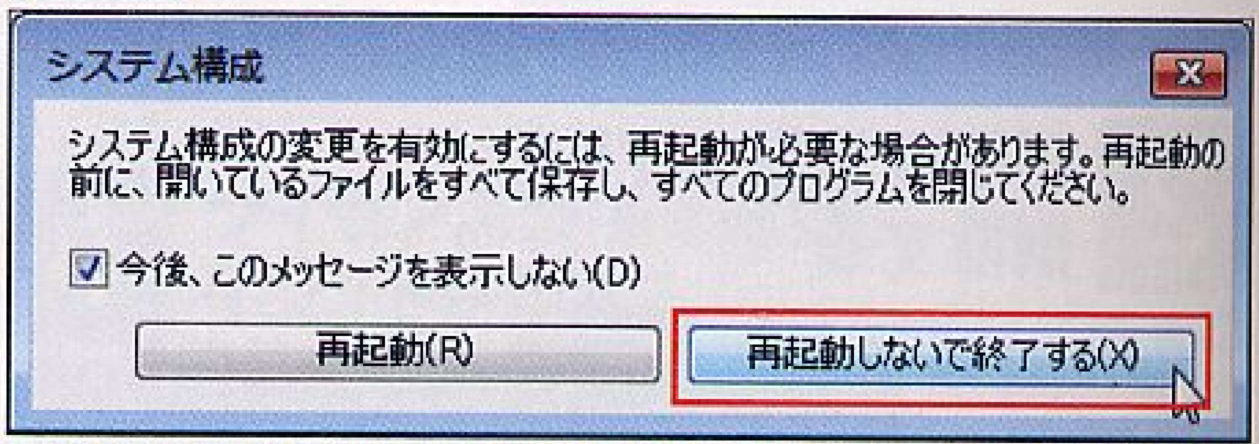


「システム構成ユーティリティ」が起動する

3 不要なスタートアップをオフにする

「スタートアップ」タブをクリックし、不要なスタートアッププログラムのチェックを外して「適用」ボタンをクリックする

4 確認メッセージを確認する



「OK」をクリックすると、再起動するかどうかのメッセージが表示されるが、次回起動時からスタートアッププログラムが起動しなくなるので、「再起動しないで終了する」を選べばいい

もっと快適!!テクニック スタートアップを追加するには?

頻繁に利用するソフトをスタートアップに追加したいときは、「スタート」ボタンの上で右クリックし、「開く-All Users」を選ぶと、エクスプローラで「スタートメニュー」フォルダが開く。「プログラム」→「スタートアップ」フォルダを開き、ソフトのショートカットをコピーすればいい。

Keyword システム構成ユーティリティ
自動起動するソフト(スタートアップ)など、Windowsの各種設定を変更するためのツールのこと。設定を間違えるとWindowsに不具合をもたらす可能性もあるため、わからない項目は操作しないようにしよう。

ログオン操作を自動化してパスワード入力を省略する

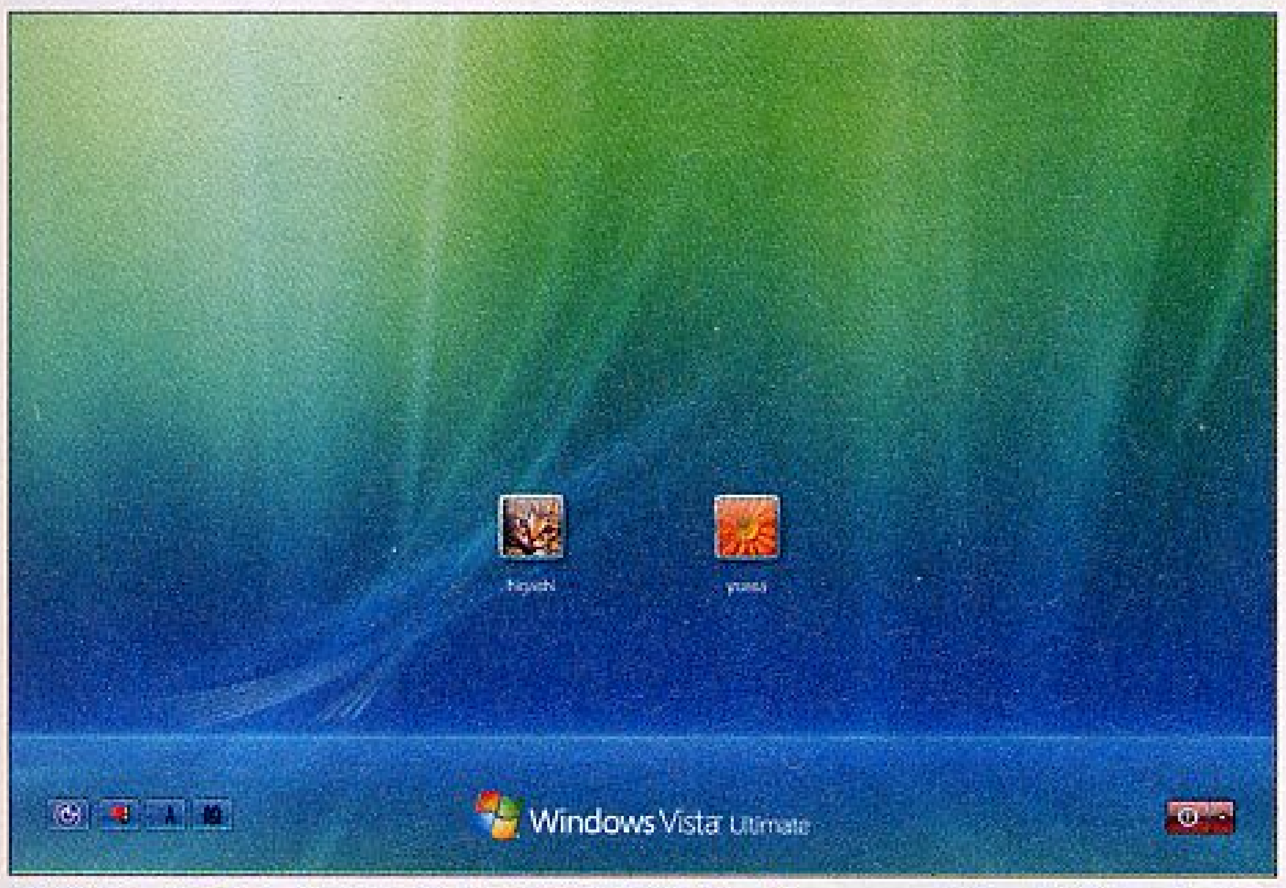
難易度 難

快適指数

効果
●複数のアカウントを作っていても、主に使うアカウントで自動ログオンできる
●パスワードを設定していても、入力を省略してログオンできる

Vistaでは、複数のアカウントを登録していたり、ログオン時にパスワードを設定していたりすると、起動時にログオン画面が表示される。ここでユーザーを選び、パスワードを入力すると、Vistaの使用を開始できるわけだ。しかし、「主に使うユーザーが決まっていて、その他のアカウントではほとんどログオンしない」というような場合は、その主に使うアカウントで自動的にログオンできれば便利だ。ただし、パスワードなしでログオンできるということは自分のパソコンを他人に使われてしまう可能性もあるということ。十分注意しよう。

通常のログオン画面



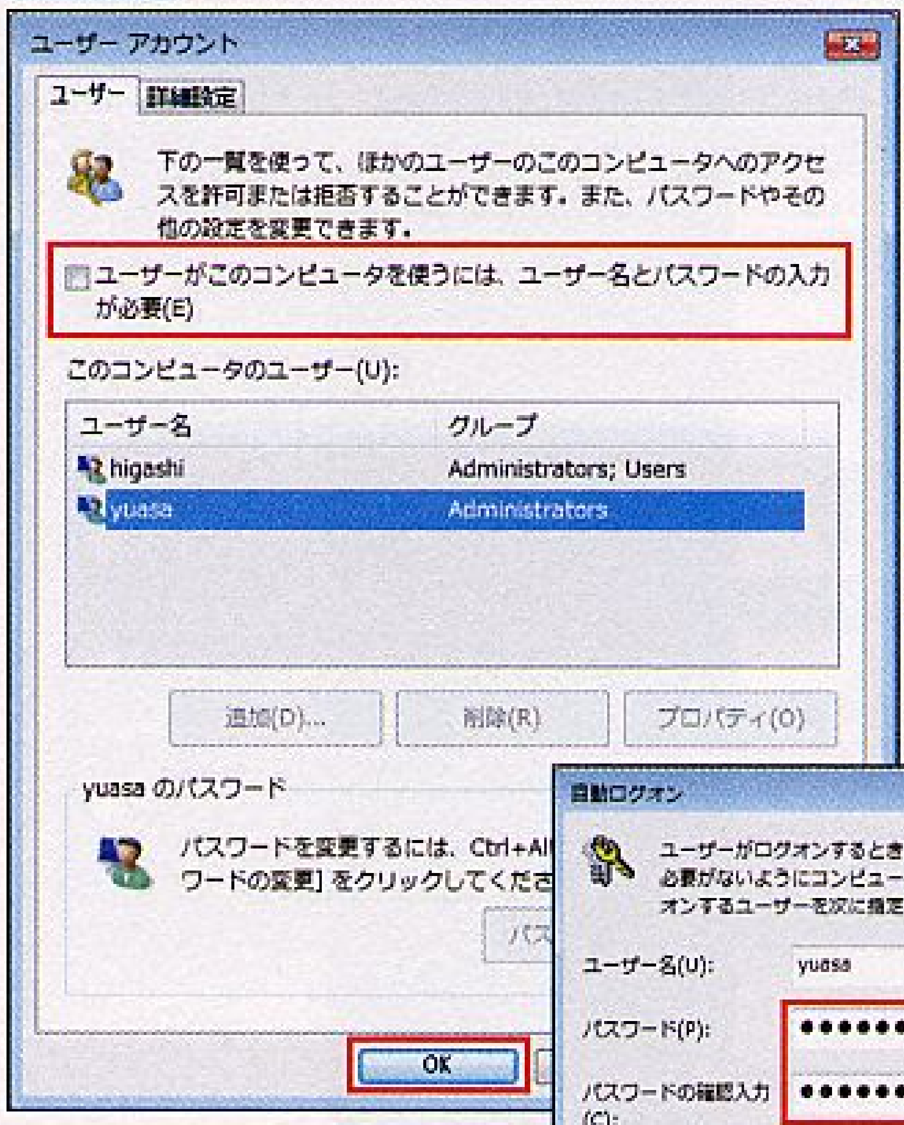
通常は、このようにログオン画面が表示され、ユーザーを選んでパスワードを入力する。自動ログオンできるように設定してみよう

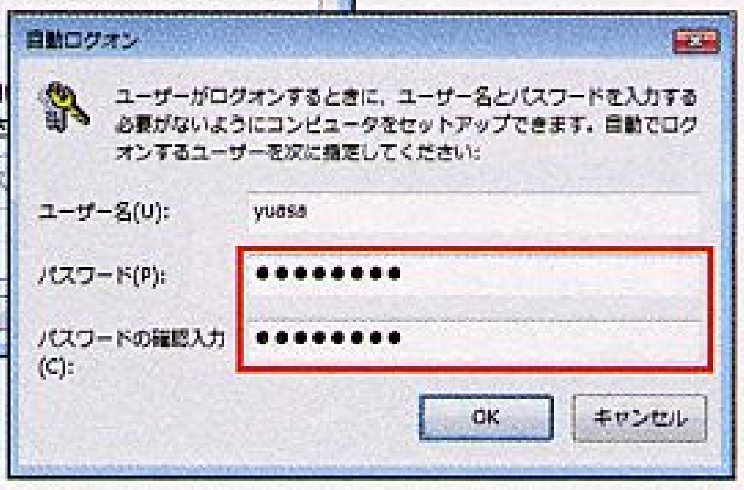
自動ログオンの設定をする

1 ユーザー設定画面を表示させる

キーボードの「Windows」キー＋「R」キーを押して、「ファイル名を指定して実行」画面を開き、「名前」に「control userpasswords2」と入力し「OK」をクリックする

2 ユーザーを選択して自動ログオン設定をする

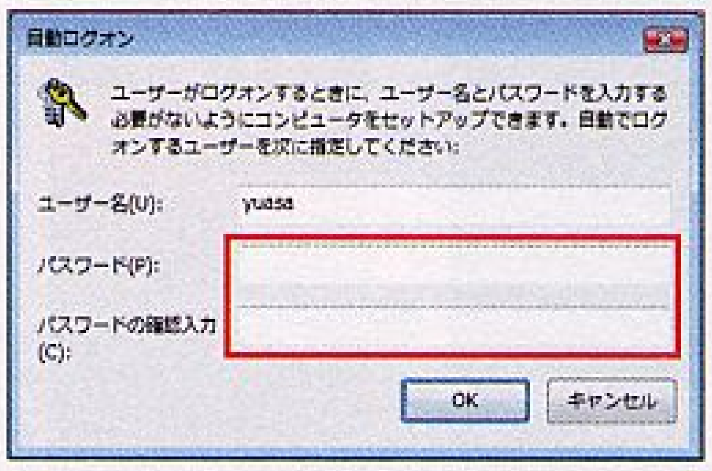




この画面でユーザー名を選び、「ユーザーがこのコンピュータを使うには…」のチェックを外して「OK」をクリックする。下の画面になるのでパスワードを入力して「OK」をクリックすれば 1 のログオン画面が省略される

注意! ログオンパスワードを設定していないときは

ログオンパスワードを設定していないユーザーの場合は、上記の「自動ログオン」画面ではパスワード欄を空白のままにし、何も入力しないこと。もし入力してしまうと、ログオン画面がおかしくなったり、正しくログオンできなくなることがある。その場合は、ログオン画面で正しいパスワード（設定していない場合は空白）を入力すればログオンできる（動作が不安定な場合はセーフモードで起動してから行なう）。



ワンポイント 他のユーザーでのログオンは

このページの設定を有効にしているときに、その他のユーザーでログオンしたくなった場合は、いったん設定されたユーザーで自動ログオンした後に、「ログオフ」や「ユーザーの切り替え」を実行すればいい。

難易度 **易**

Vistaを高速起動できる省電力な「スリープ」を使う

効果絶大ワザ10選

快適指数

効果 ●電源オフの状態よりも高速に起動できる
●スリープ前の作業状態が保存され、すぐに作業が再開できる

パソコンの起動には時間がかかる。しかし、電源のつけっぱなしは電気の無駄。これを解消するのがVistaの電源管理「スリープ機能」だ。XPでは「スタンバイ」「休止状態」が利用できたが、「スリープ」はこの2つの機能のいいとこ取りのようなもの。外出時や就寝時などパソコンを長時間使わないときは「スリープ」にすれば、ほとんど電力を消費しない状態になり、作業再開時には電源オフ状態からの復帰よりはるかに高速にパソコンが起動する。また、「スリープ」状態になったときの作業状態が保存されているので、すぐに作業が再開できる。

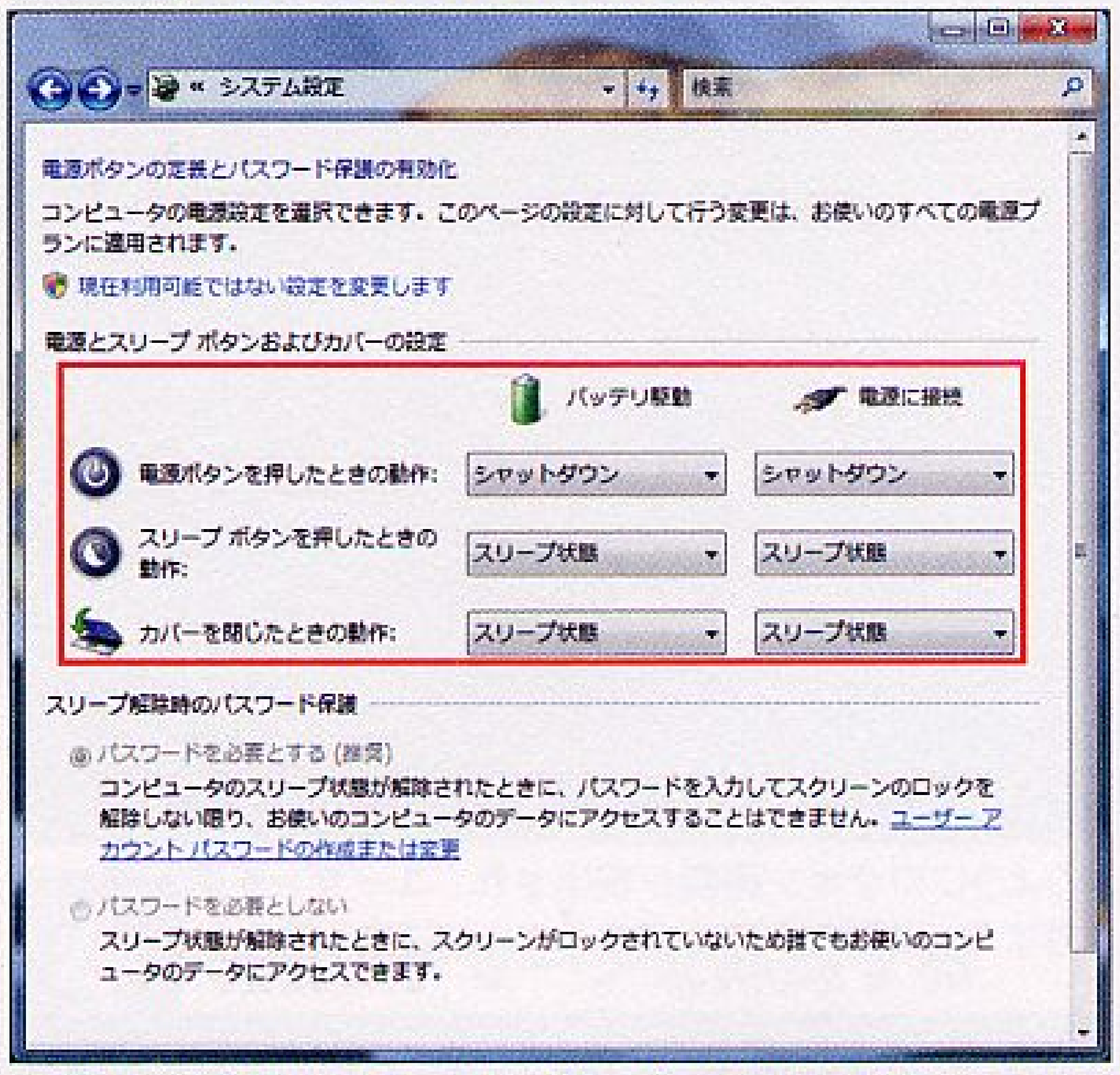
1 パソコンを「スリープ」状態にする

「スタート」メニューを開いて、検索ボックスの横にある ⏻ ボタンをクリックすれば、スリープ状態になる

2 「電源ボタンの動作の変更」をクリックする

「スリープ」機能の設定をさらに便利に使うなら、「スタート」メニューの「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」→「電源オプション」項目から「電源ボタンの動作の変更」をクリック

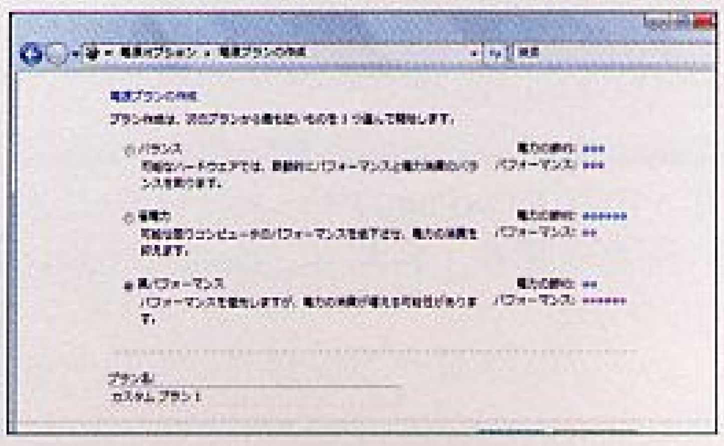
3 「スリープ」状態にするための動作を選択する



電源ボタンを押したとき、スリープボタンを押したとき、ノートパソコンならカバーを閉じたときの動作を、どんな状態にするか設定できる。また、ノートパソコンなら、バッテリ駆動時、電源接続時など使用状態に合わせた細かな設定も可能だ

もっと快適!!テクニック ノートパソコンに最適な電源プランに変更する

2で「電源オプション」をクリックすると、あらかじめ用意された3つの電源プランを選択できる。例えば外出時のバッテリー駆動なら「省電力」に。電源コードに接続した状態なら「高パフォーマンス」にするなど、シーンに合わせて変更すればより快適に使うことが可能だ。また、「プラン設定の変更」から、さらに詳細な電源設定を行なうこともできる。



ワンポイント スリープを解除する
スリープの解除方法は、キーボードのキーを押す、マウスをクリックする、電源ボタンを押すなど、機種によって異なる。詳しくはマニュアルを参照すること。

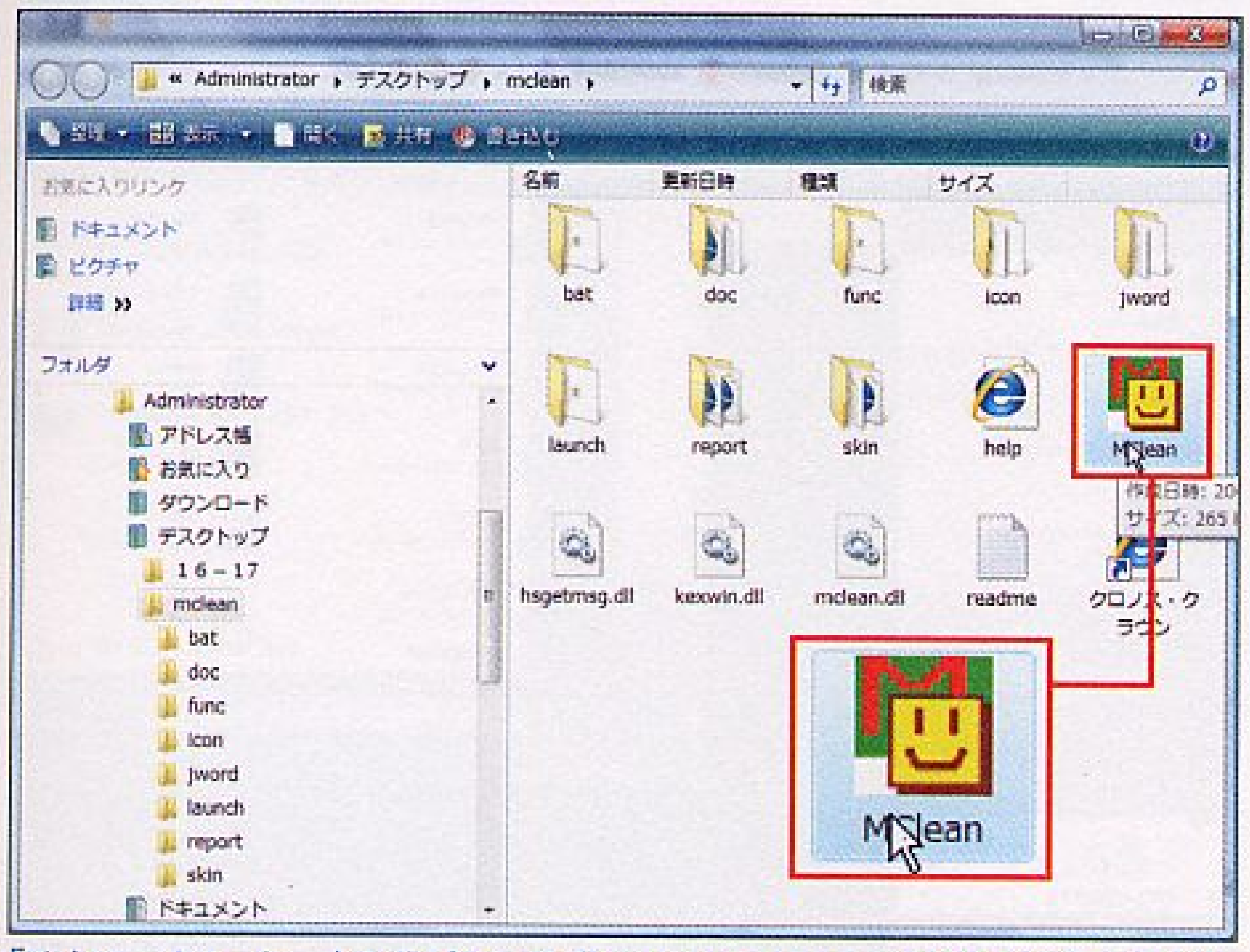
難易度 普 メモリ領域を強制解放し作業中動作が重くなるのを改善する

快適指数

効果
- ●作業中に消費したメモリを解放し、動作を高速化できる
- ●ランチャー機能でソフトをすばやく開ける

パソコンのメモリは作業机のようなもので、空きスペースが広いほど作業が楽に行なえる。しかし、長時間パソコンの再起動をせずに作業をしていると、ゴミのようなものが溜まってスペースが狭くなり、効率が落ちる。このゴミをパソコンを再起動することなく、削除してスペースを確保してくれるのが「めもりーくりーなー」だ。設定をすれば定期的にメモリの解放を行ない、常に快適な環境に戻してくれる。また、物理メモリ量やCPUリソース量の監視機能、ランチャー機能など便利な機能も備えている。

1 「めもりーくりーなー」をインストールする

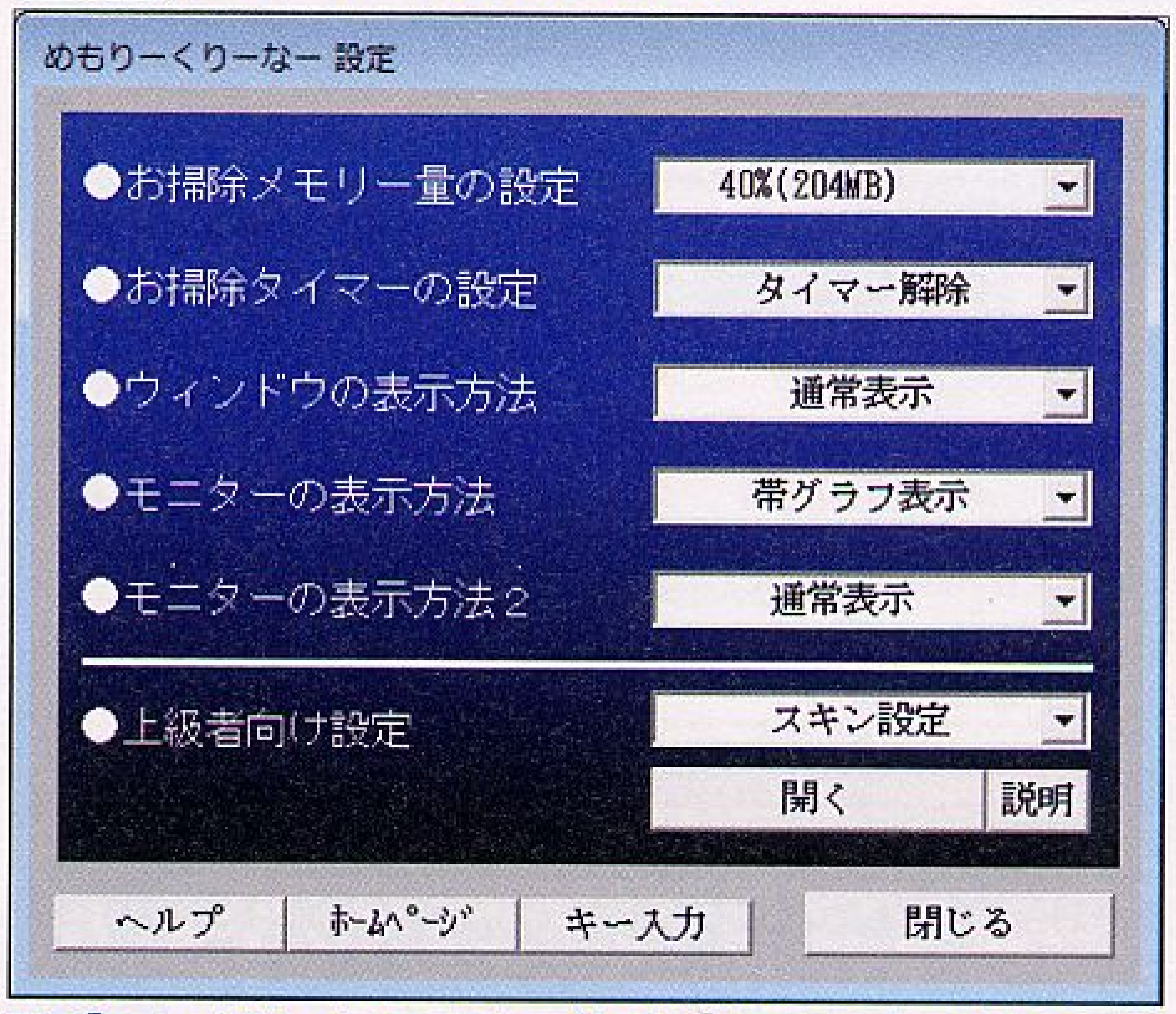


「めもりーくりーなー」の公式サイト(http://crocro.com/)からダウンロードした「めもりーくりーなー」のファイルを解凍し、本体である「MClean」を実行するとソフトが起動する。初回起動時に「Yahoo! ツールバー」と「JWORD」のインストールを選択できるが不要ならチェックを外しておく

2 メモリ状態がデスクトップに表示される

本体が起動すると、デスクトップ上にウィンドウが表示される。上段は物理メモリ、下段はスワップファイルを表し、左から順に「使用量」「残量」「全体量」の数値だ。赤い部分が多いと、メモリを多く消費していることになる。「clean」ボタンをクリックすると、メモリ領域の解放を行なってくれる

3 メモリを解放する容量やタイマーを設定できる



2で「option」ボタンをクリックすれば各種設定が可能。「お掃除タイマー」を設定しておけば、定期的にメモリの解放が実行される

めもりーくりーなー	使用ソフト
●作者：クロノス・クラウン ●種別：フリーウェア	
●対応OS：Windows 95/98/Me/NT/2000/XP/Vista	
●URL：http://crocro.com/	

もっと快適!!テクニック 右クリックでさまざまな機能を使う

「めもりーくりーなー」が起動していると、ツールバーにアイコンが表示される。これを右クリックすると「ファンクション」や「ランチャー」を実行したり、スキンの変更などが行なえる。いろいろと試して便利に使ってみよう。

Keyword スワップファイル

メモリの空きが少なくなると、使用頻度の低いプロセスをハードディスク上に書き出す。これがスワップファイル。メモリに比べてハードディスクの読み書き速度は遅いため、スワップファイルが増えるとシステムは遅くなる。

難易度 易

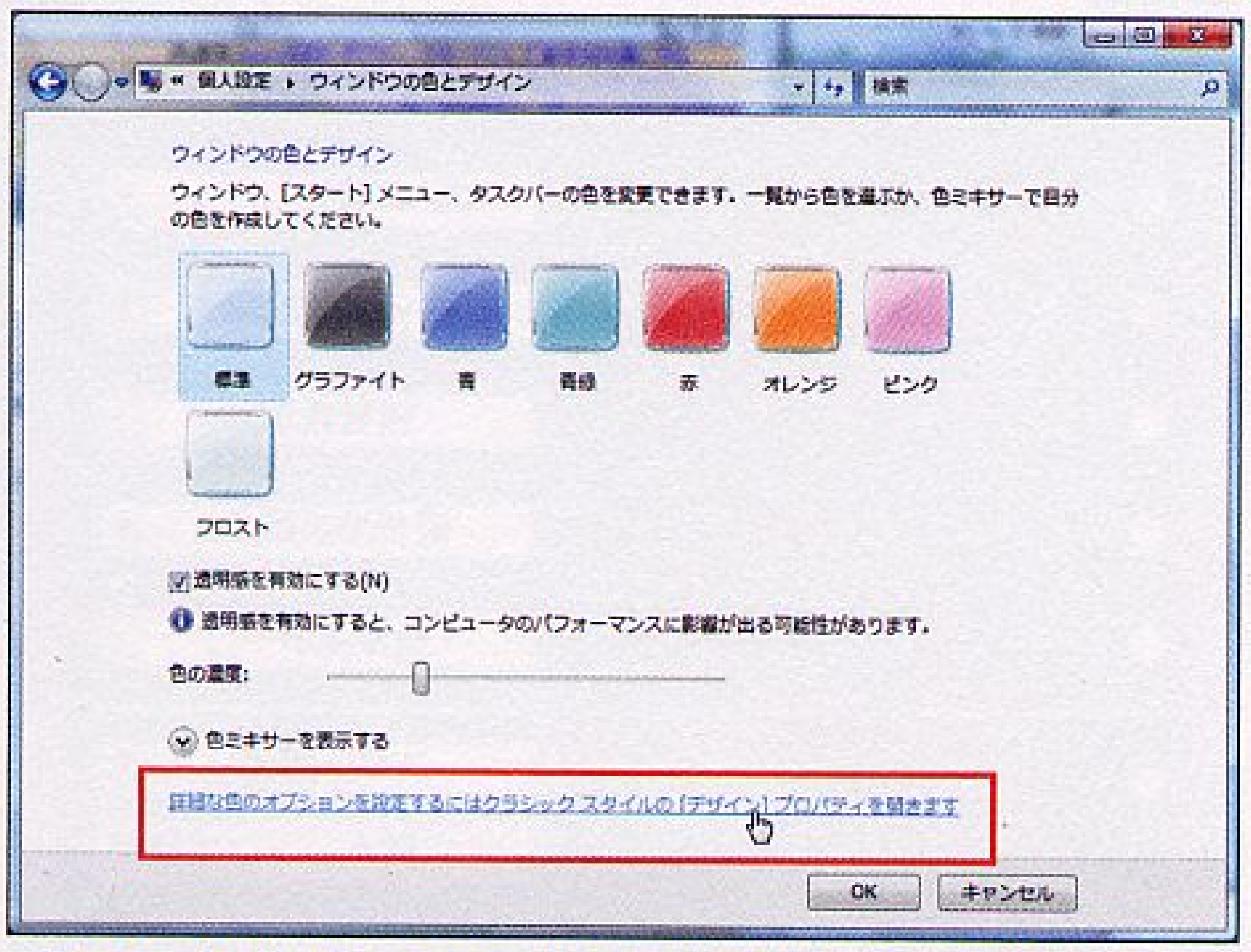
Aero効果をオフにしてシステムの負担を軽くする

快適指数

効果
●グラフィック機能に不安があるパソコンなら高速化が図れる
●クラシックモードにすればより高速化する

Vistaから導入された「Windows Aero」は立体感・透明感のあるインターフェイス。見た目が美しいだけでなく、デスクトップの書き換え方法などの新技術で、従来のWindowsシリーズよりデスクトップを高速に使えるようになっている。しかし、主に2007年以前のパソコンで、グラフィック機能が低いパソコンでは、3D機能の低さからAeroによる高速化が十分に発揮できず、かえって動作が遅くなることがある。パソコンの3D機能に不安があるなら「Windows Vista ベーシック」に変更し、Aeroの効果をオフにしてしまおう。

1 デザインの設定を開く

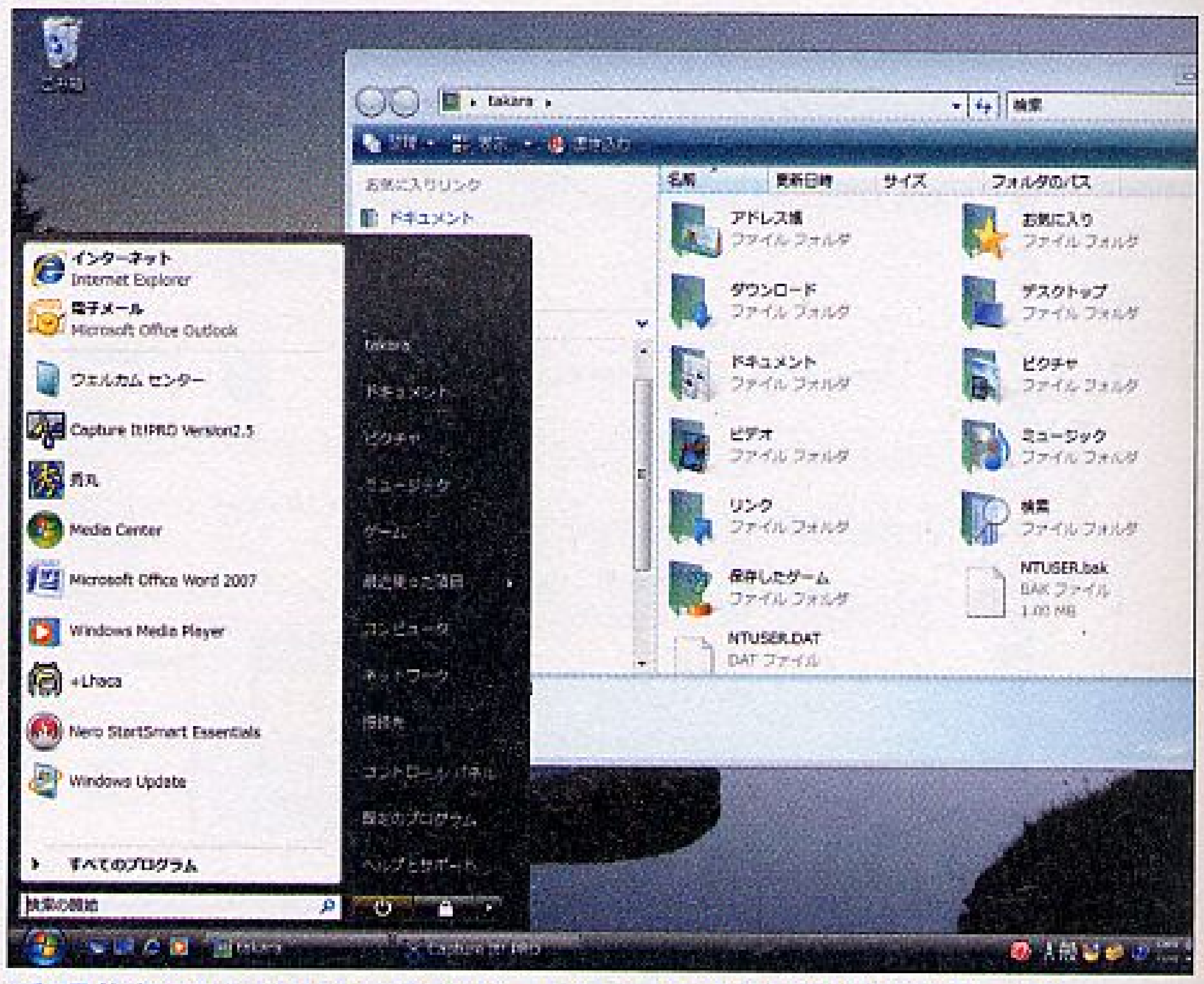


デスクトップの何もないところで右クリックし、「個人設定」を開く。「ウィンドウの色とデザイン」をクリックして一番下にある「詳細な色のオプションを設定するには～」をクリックする

2 デザインの「配色」を「Windows Vista ベーシック」にする

「配色」を「Windows Vista ベーシック」に変更し、「OK」をクリックすれば完了だ

3 透明化処理が解除された



透明化処理などがなくなる分、パソコンの動作が高速化する

もっと快適!! テクニック 「Windows クラシック」ならより動作が速くなる

「Windows Vista ベーシック」は、XPの「Luna」のような柔らか味のあるインターフェイス。一方、「Windows クラシック(スタンダード)」は、98/Meのような角張ったシンプルなインターフェイスで、ベーシックに比べてさらに動作が軽くなる。

ワンポイント Aeroに戻すには

変更した設定からAeroに戻すには、1と同様に「デザインの設定」画面を開き、2の画面で「配色」を「Windows Aero」にすればよい。

難易度 易

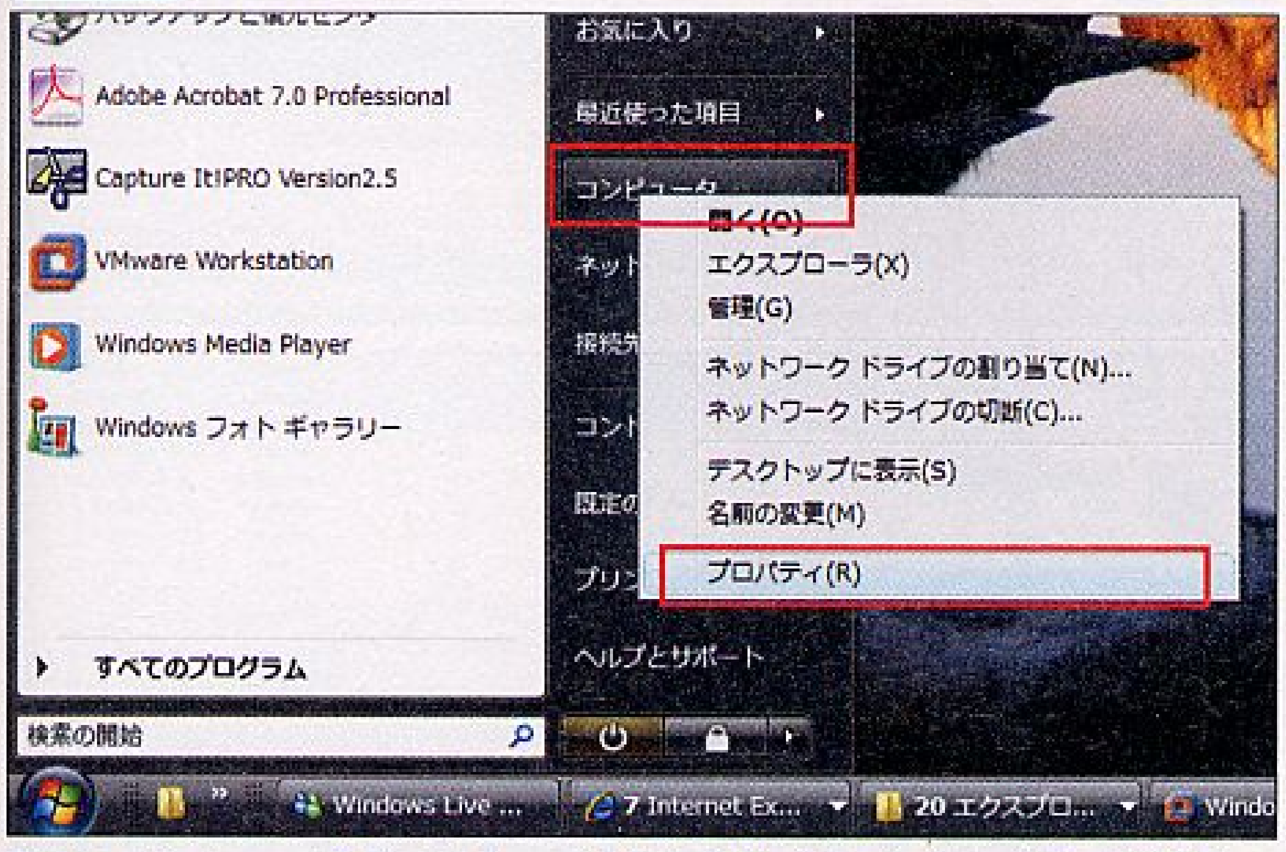
不要な視覚効果をオフにして処理速度を優先させる

快適指数

効果 ●CPUの負担が減り、処理が高速化する
●パフォーマンスの向上が期待できる

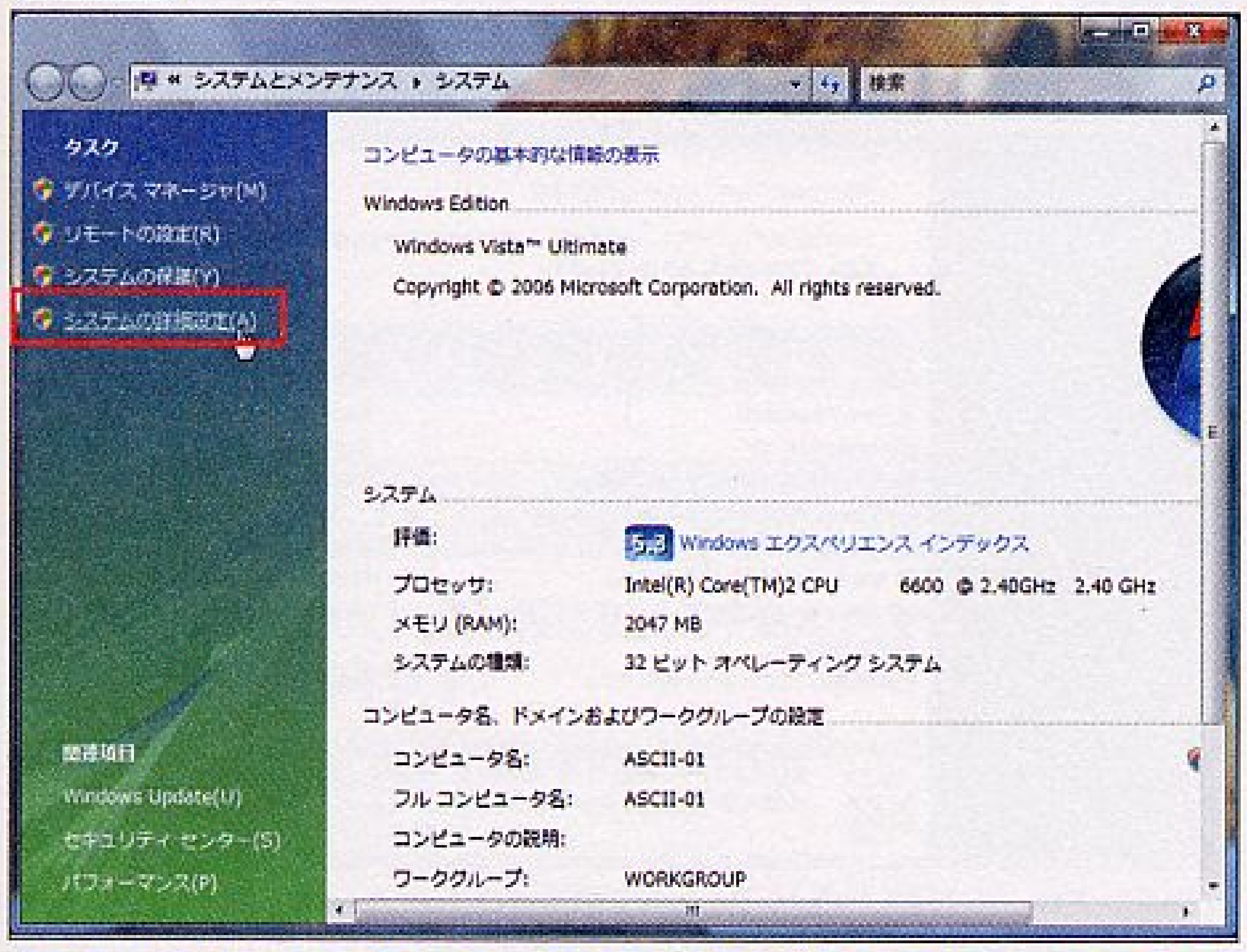
Vistaでは、操作を直感的に行なえるように、アニメーションやスライドなどの視覚効果が豊富に用意されている。視覚効果は見た目がいい反面、CPUの負担が多くなり動作が遅くなる原因にもなる。パフォーマンスを優先したいなら、これらの視覚効果をオフにしてみよう。自分が指定した視覚効果だけをオフにすることもできる。ただし、「カスタム」で設定する場合は「ウィンドウとボタンに視覚スタイルを使用する」と「デスクトップコンポジションを有効にする」の両方にチェックがないとWindows Aeroが無効になってしまうので注意。

1 「コンピュータ」の「プロパティ」を選択する



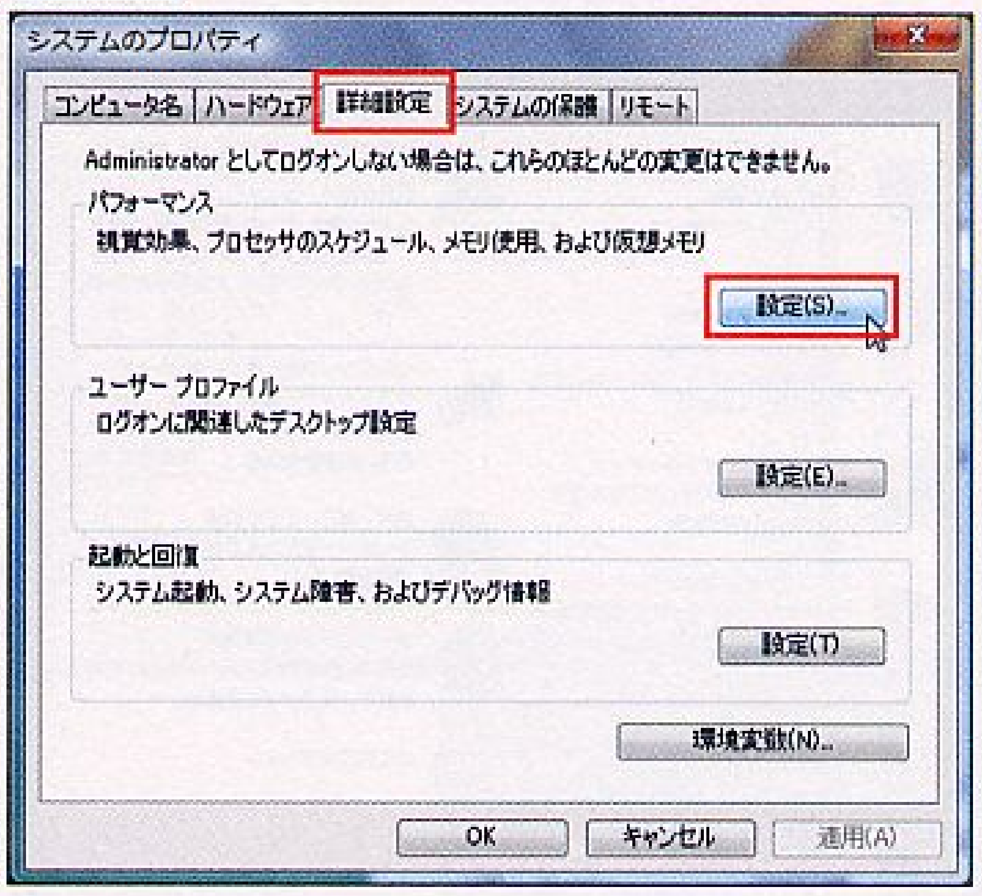
「スタート」メニューの「コンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を選ぶ

2 「システムの詳細設定」を選ぶ



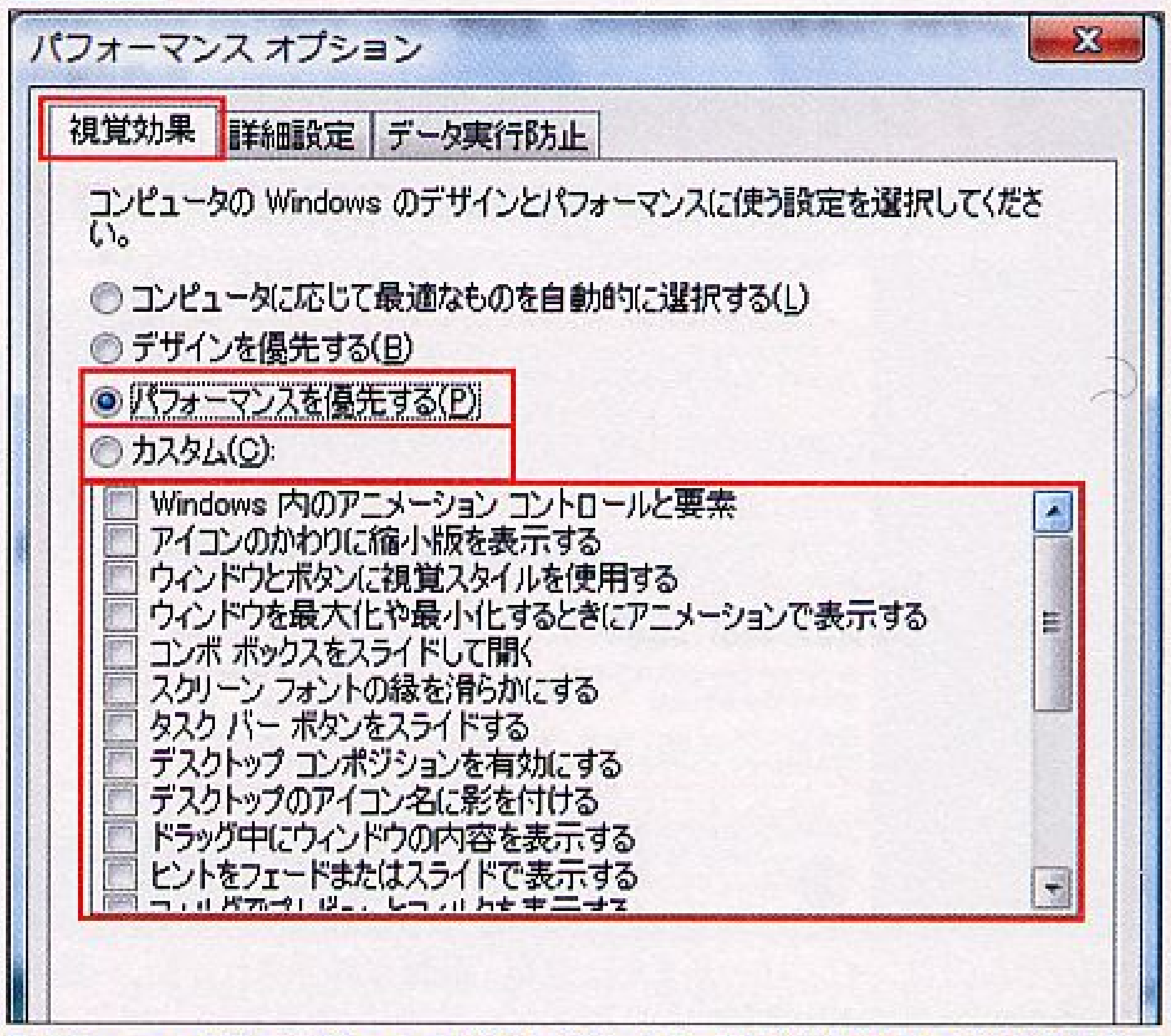
システム情報が表示されたら、左のタスクにある「システムの詳細設定」をクリックする

3 「パフォーマンス」の「設定」を選択する



「詳細設定」タブにある「パフォーマンス」項目の「設定」ボタンをクリックする

4 不要な視覚効果をオフにする



「パフォーマンスオプション」が表示されたら、「視覚効果」タブを開き、「パフォーマンスを優先する」を選ぶか、「カスタム」を選択し、視覚効果の一覧からで不要なものをオフにしよう。「OK」を押せば設定完了だ

ワンポイント 視覚効果を元通りにするには

視覚効果を元に戻してアニメーションなどを有効にするには、4で「コンピュータに応じて最適なものを自動的に選択する」にチェックを入れればOKだ。

難易度 普

不要なソフトを削除してVistaを安定化させる

快適指数

効果
- ●機能の競合を防ぎシステムを安定化させる
- ●不要なソフトを削除することでハードディスクの空き容量を確保できる

Windowsが不安定になる要因として、インストールしたソフトの増加があげられる。最近では何かをするたびに専用ソフトのインストールを求められ、ただでさえソフトが増えてしまう傾向にある。ソフトが増えすぎるとハードディスクの空き容量が不足するだけでなく、ソフト同士が機能面などで競合してしまい、Windowsのシステムそのものに悪影響を及ぼすこともある。そこで不要なソフトをアンインストールして、ハードディスクの空き容量も増やし動作を安定させよう。まさに一石二鳥の方法だ。

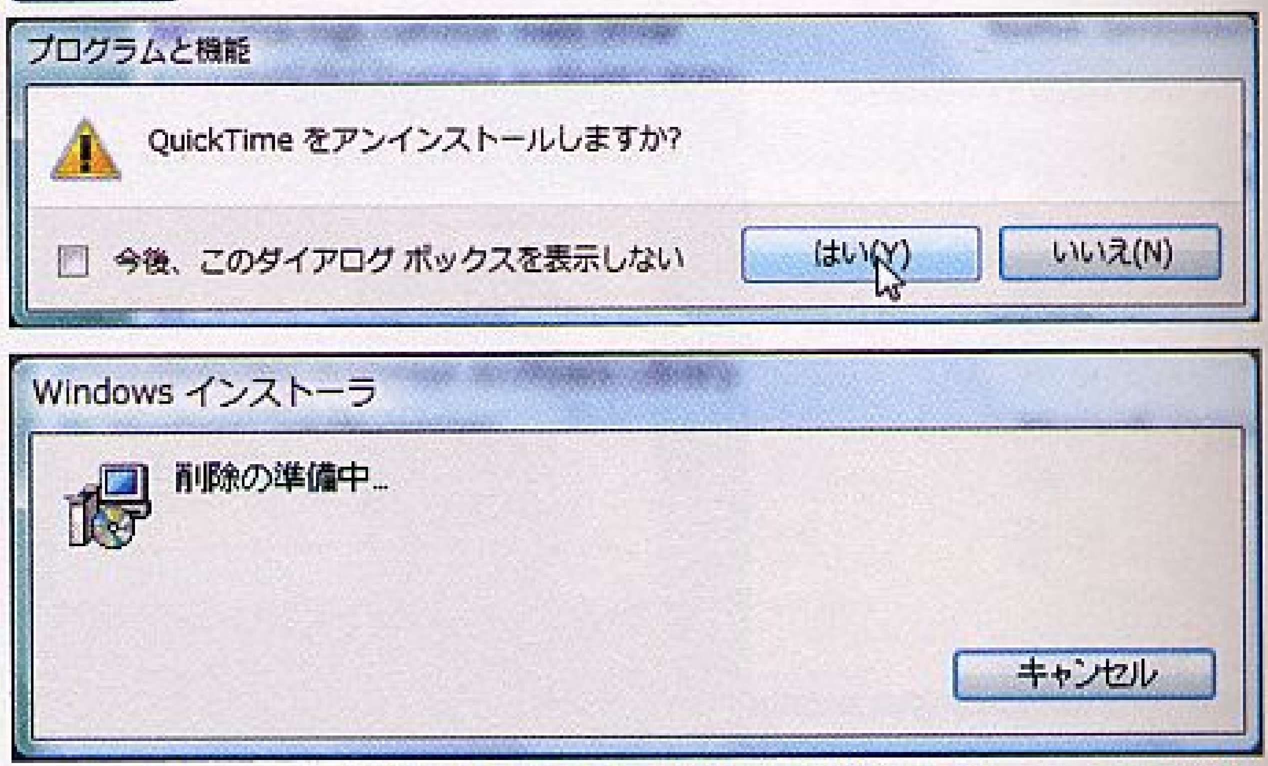
1 「プログラムのアンインストール」を開く

「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラム」項目の「プログラムのアンインストール」をクリックする

2 不要なソフトのアンインストールを実行

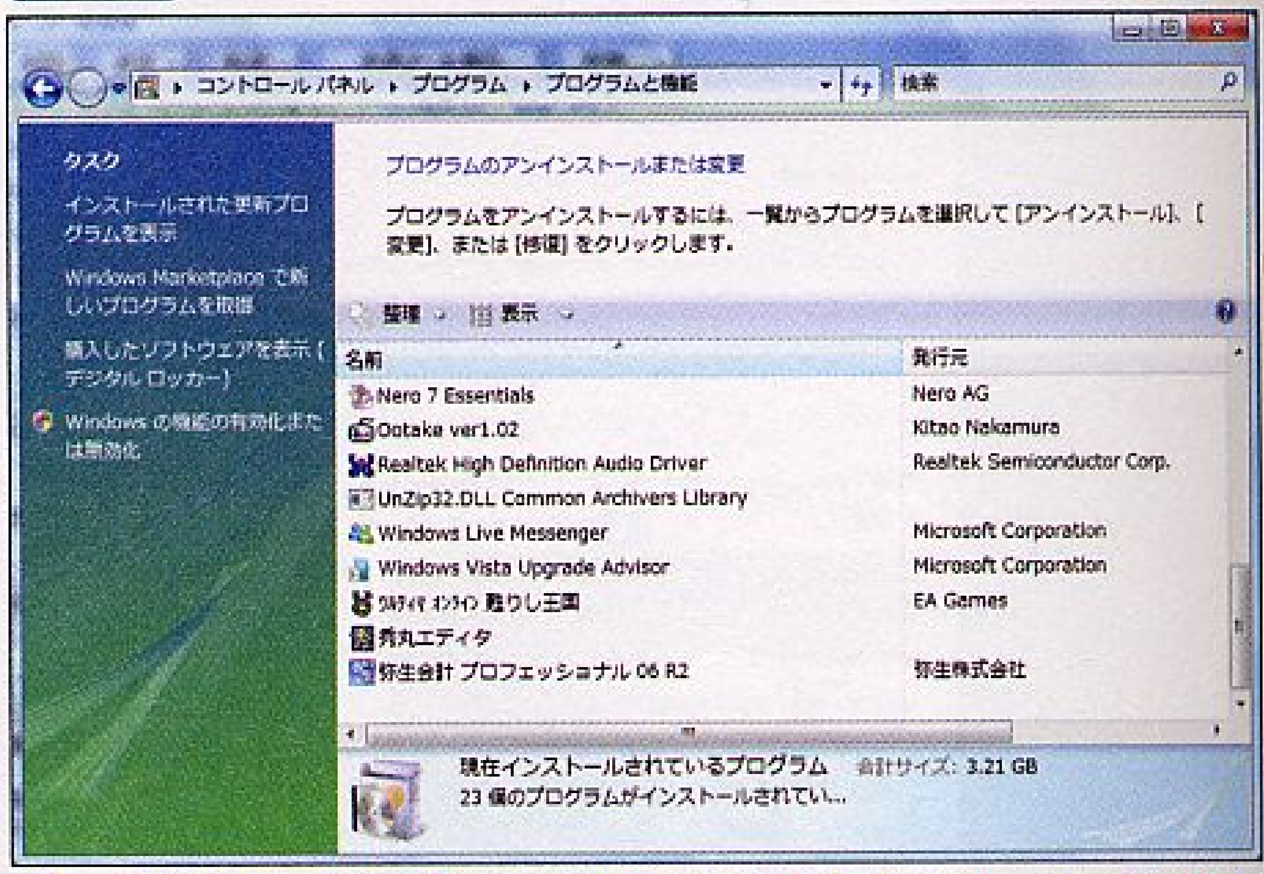
「プログラムのアンインストールまたは変更」画面が表示されたら、一覧から不要なソフトを選択して「アンインストール」をクリックする。ソフトによってはこの表示が「アンインストール／変更／修復」などと変わるので注意

3 確認画面が表示される



アンインストールを実行しようとすると確認画面が表示される。この表示はソフトごとに異なる。アンインストールを実行する場合は「はい」をクリックする

4 アンインストールが完了した



アンインストールが終わると、ソフト一覧からアンインストールしたソフトが消えているはずだ

ワンポイント プログラムの変更／修復

プログラムの変更／修復は、そのプログラムの一部の機能のみの追加・削除を行なったり、何らかの原因で正常に動作しなくなったプログラムの修復を行なう際に利用する。ソフトによっては使えないものもある。

CPU割り当ての優先度を変更して指定したソフトを高速化する

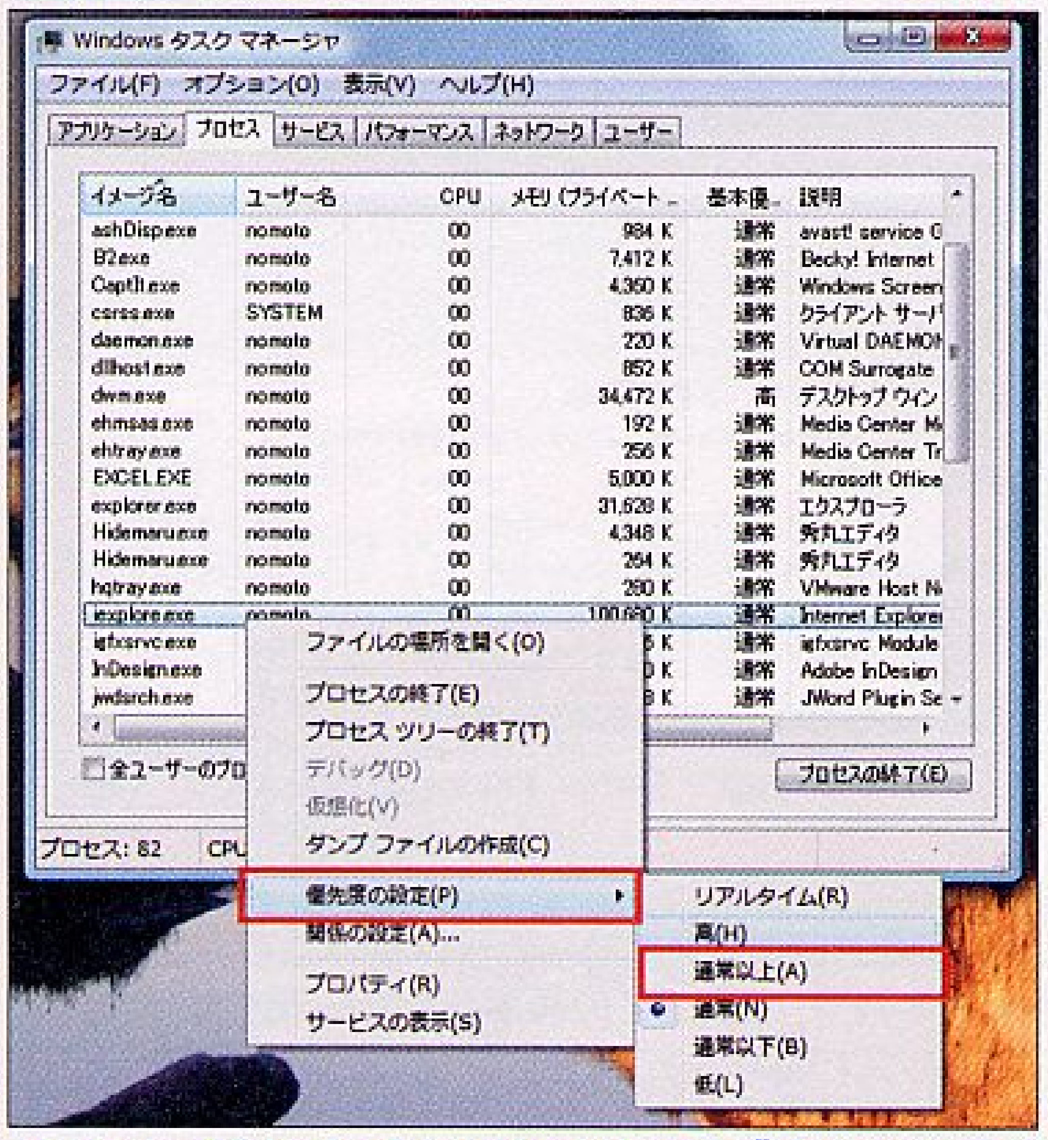
難易度 普

快適指数

効果
●重いソフトや頻繁に使うソフトが快適に動くようにする
●CPUのパフォーマンスを無駄なく使える

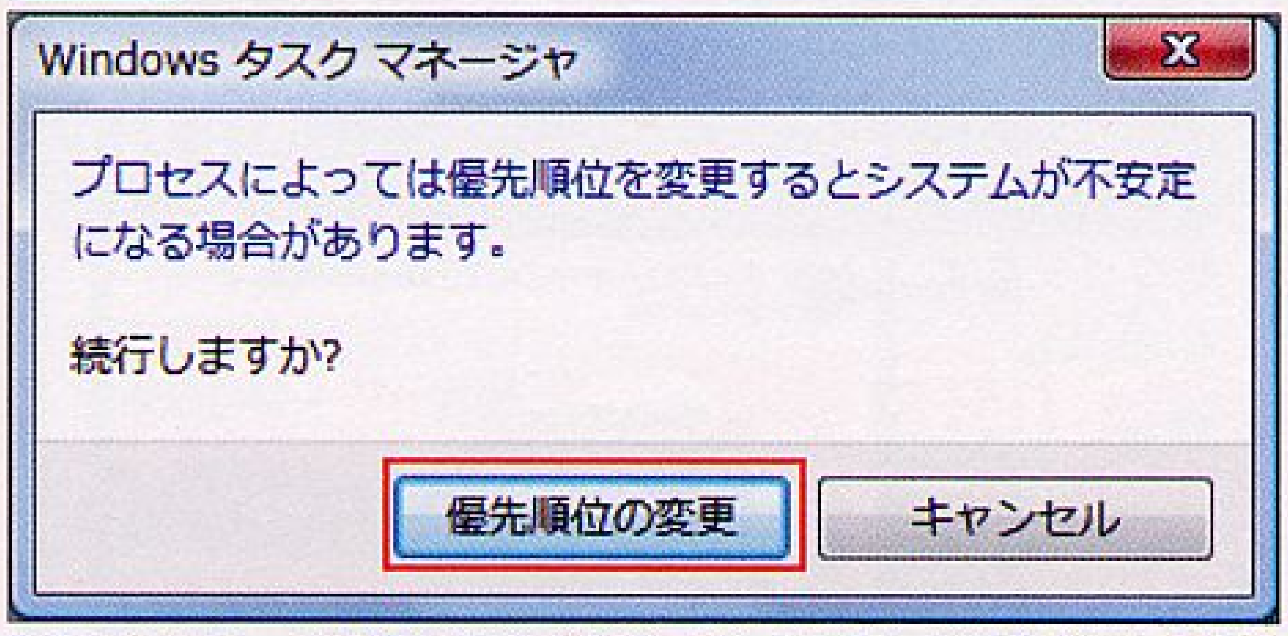
起動して実行中のソフトのことを「プロセス」という。パソコンが複数のプロセスを処理しているとき(つまりソフトを実行しているとき)、どのプロセスも均等に処理させたほうがいいとは限らない。例えば、書類の作成とインターネットでの調べ物を同時にやっている場合、IEの優先度を上げもっと快適に動かしたいということもあるだろう。そんなときは手動でプロセスの優先度を変更しよう。ただし、優先順位を高くしすぎると他のソフトの動作に影響が出る場合もあるので「通常以上」か、「高」程度にしておいたほうがいい。

1 優先度を変更するプロセスを選択する



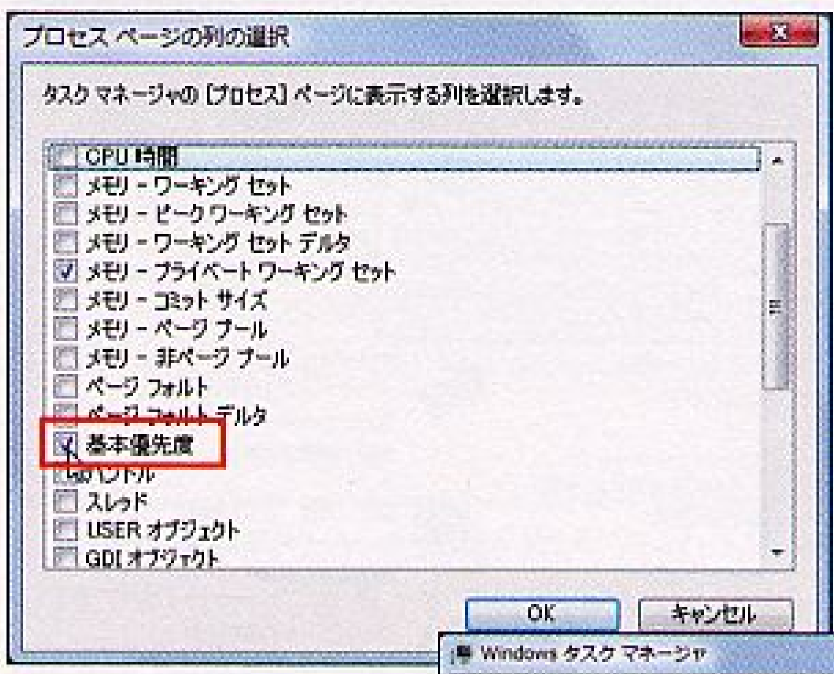
タスクバーの何もないところで右クリック→「タスクマネージャ」をクリックする。「プロセス」タブを開き、優先度を変更したいプロセスを右クリックして「優先度の設定」から優先度の選択する。「通常」より上のものほど高速になる

2 優先度の設定を変更する



「プロセスによっては優先順位を変更するとシステムが不安定になる場合があります。」という警告のダイアログが出るので「優先順位の変更」をクリックすればOKだ

3 優先度の設定を確認する



プロセスの優先度を確認するには 1 の「タスクマネージャ」で「表示」メニュー→「列の選択」から「基本優先度」にチェックを入れて「OK」をクリックすればプロセスの表示欄に「基本優先度」の項目が追加される

基本優先度が 1 で指定した優先度に変わっていたら「×」ボタンでウィンドウを閉じる

注意! 優先度の設定時の注意

パソコン使用時にはWindowsが管理しているプロセスとユーザーが起動したソフトなどのプロセスがあり、同時に実行されている。優先度を「リアルタイム」にすると一番高速になるが、これは通常CDへの書き込みなどデータ転送のためリアルタイムな速度が要求されるものなどに割り当てられる。不用意に「リアルタイム」に設定してしまうと、本当にリアルタイムな速度が必要なソフトが低速になってしまう恐れがあるので、設定は「通常以上」か「高」にし、必要に応じて「通常」に戻しておくといいだろう。

Keyword プロセス
実行されているプログラムの領域のこと。また、プロセスの実行単位をスレッドといい、複数のプロセスを同時に実行するとスレッドが増える。例えばあるソフトを起動するとプロセスが生成され、その中にスレッドが作られる。

難易度 普

「問題レポート」を無効にして作業の中断を防ぐ

快適指数

効果
●プログラムの強制終了までの時間を短縮できる
●「問題のレポートと解決策」画面を飛ばすことができる

作業中に突然、プログラムやエクスプローラが強制終了されてしまうことがある。こうした特定のプログラムエラーが生じたとき、「問題のレポートと解決策」ダイアログが表示される。トラブルのログや問題箇所の情報を表示したり、解決策がある場合はその方法を表示してくれる便利な機能だが、エラーのたびに表示されるので、これを邪魔だと感じる人もいるだろう。そんなときはこの表示機能を思い切って無効にしてしまおう。すべてのユーザーに対して無効にするか、ユーザーごとに設定の選択をさせるかも選ぶことができる。

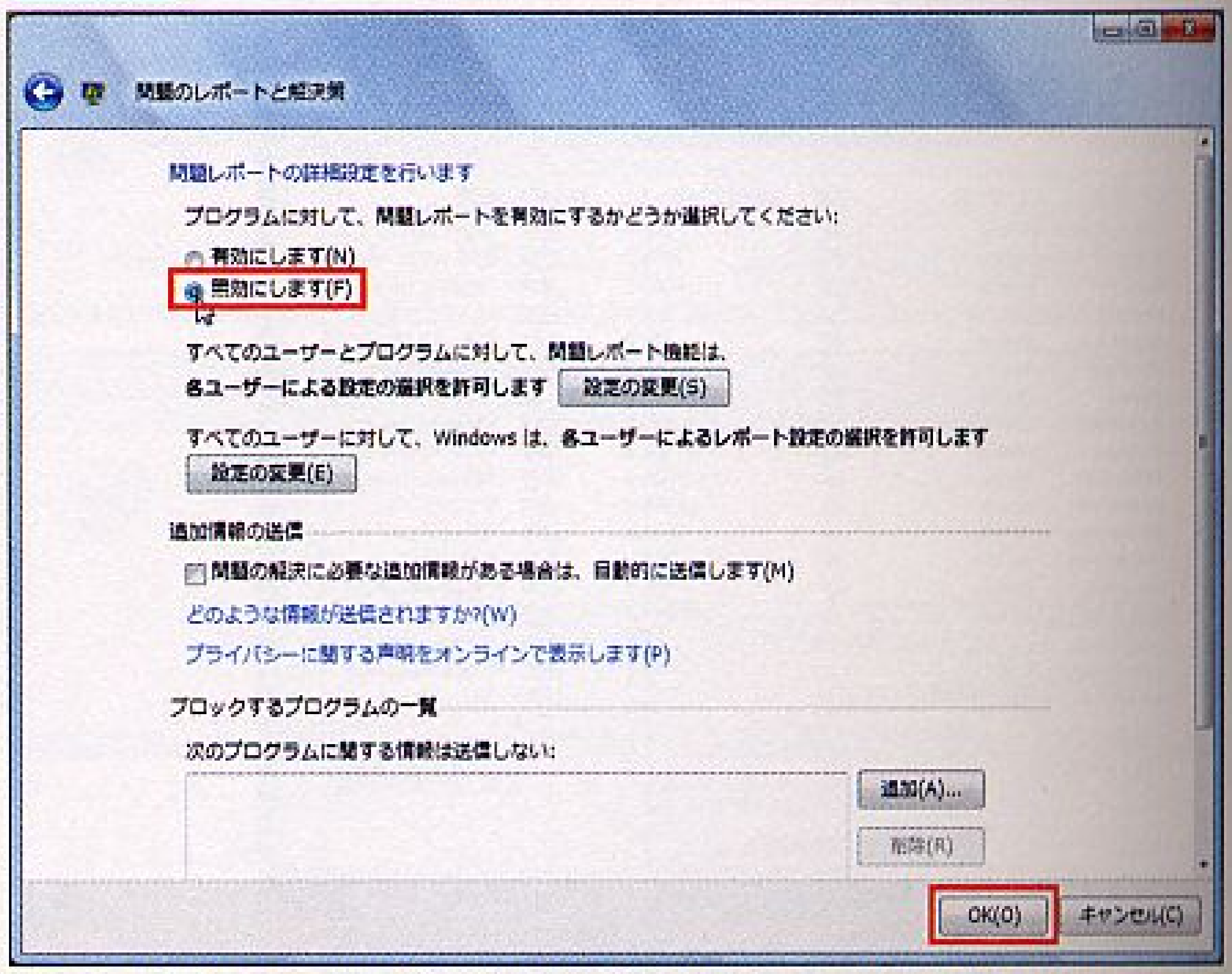
1 「システムとメンテナンス」を開く

「スタート」メニューから「コントロールパネル」をクリックし、「システムとメンテナンス」をクリックする

2 「問題のレポートと解決策」を開く

「問題のレポートと解決策」項目の「解決策の確認方法の選択」をクリックする

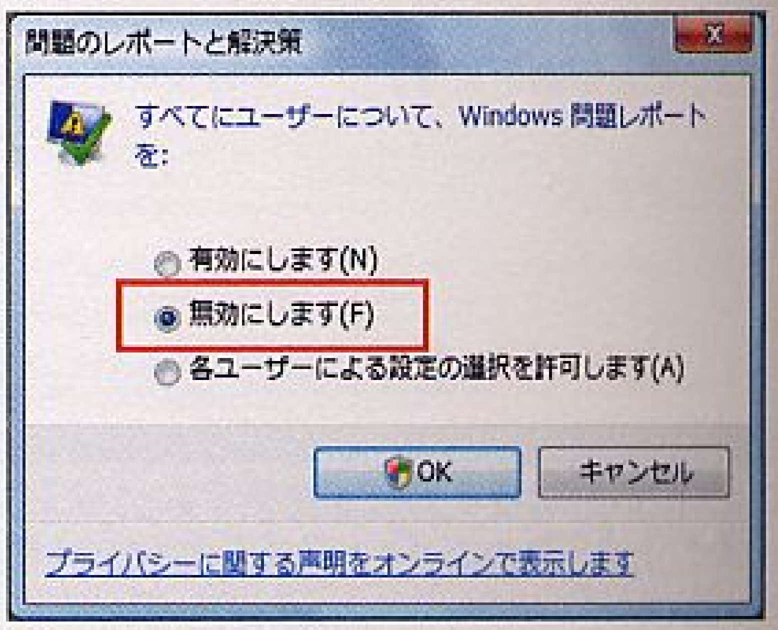
3 問題レポートを無効にする



「詳細設定を行います」をクリックし、この画面が出たら「無効にします」を選択して「OK」をクリックすればいい

もっと快適!!テクニック 問題レポートを無効にするユーザーを選択する

3の方法で「問題レポート」を無効にした場合、初期設定では「各ユーザーによる設定の選択を許可します」になっており、すべてのユーザーに対して無効が反映されるわけではない。すべてのユーザーに反映させたいなら、3の「設定の変更」をクリックし、この画面で「無効にします」を選択し「OK」をクリックすればいい。



Keyword 問題のレポートと解決策
プログラムの強制終了など、システムで生じたハード・ソフトウェアトラブルに対して問題レポートを作成し、ユーザーが解決策をチェックできる機能。

難易度 易

毎日見る定番サイトはIE起動時にまとめて一気に開く

快適指数

効果
- ●Internet Explorer 7起動時に開くページを複数設定できる
- ●開いているタブを一括起動できる

忙しいビジネスマンならニュースサイトをまとめ読みしたいもの。とはいえ、いちいちお気に入りを開くのも面倒だ。Internet Explorer 7では、ホームページ(起動したとき最初に表示されるページ)として、複数のページをまとめて登録できる。ホームページはIEを起動すると最初に開くページなので、IEを起動するだけで一気にタブとして開かれるというわけだ。例えばスポーツならこのページ、経済ニュースならこのページなどとサイトを問わずページごとに指定できるので、読みたい部分だけ一気に読めて非常に便利だ。

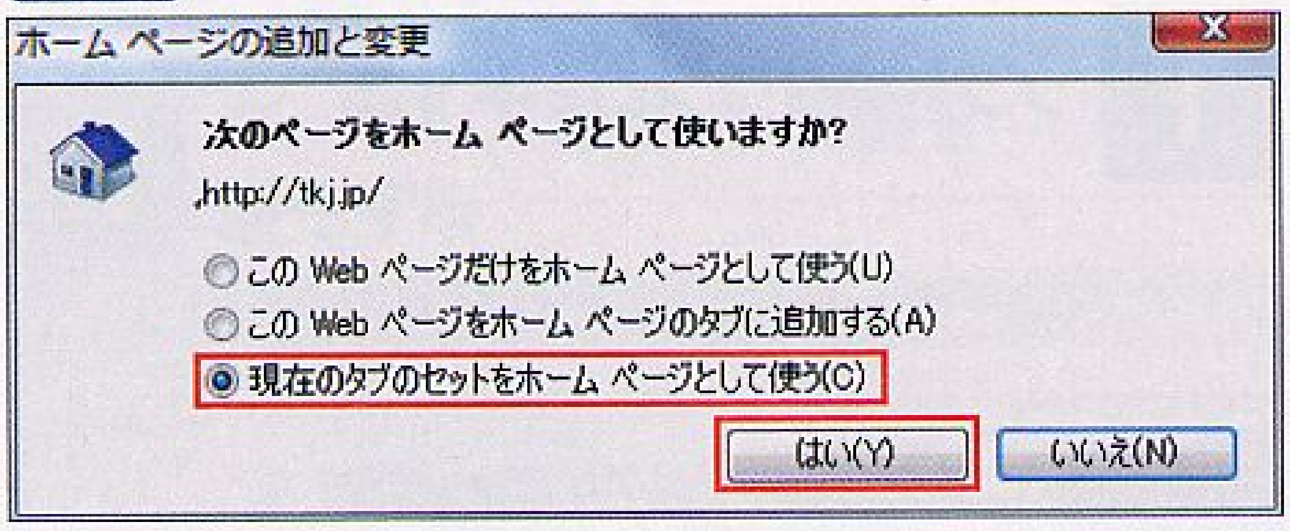
1 ホームページとして登録したいページをすべて開く

ホームページとして登録したいページを、必要なだけ開いておく

2 「ホーム」ボタンをクリックする

「ホーム」ボタンのプルダウンメニューをクリックし、「ホームページの追加と変更」をクリック

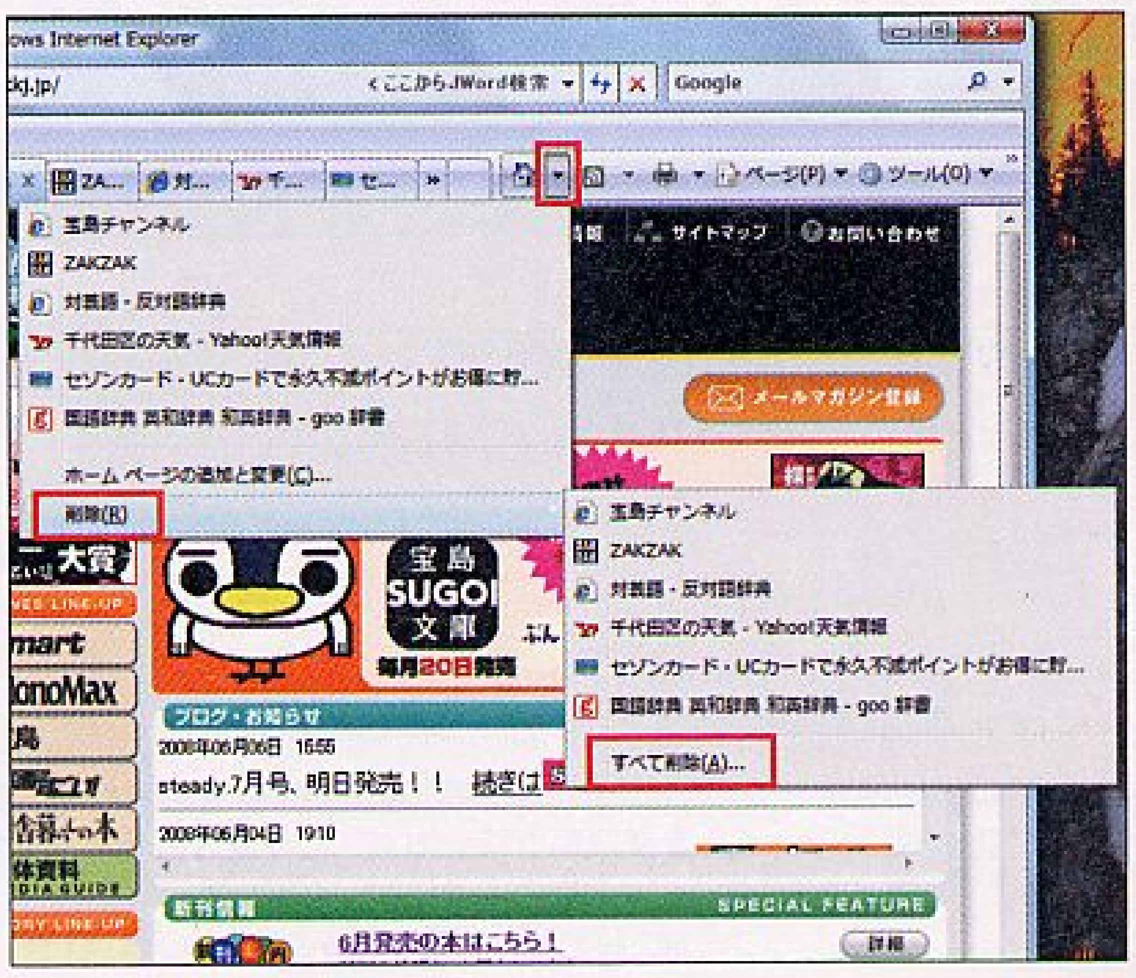
3 ホームページとしてタブを登録する



「現在のタブのセットを～」を選んで「はい」を選べば、ホームページが現在のタブのセットになる。すでに登録してあるホームページに追加するなら「～追加する」を選ぶ

もっと快適!! テクニック 登録したホームページを削除したいときは

ホームページとして登録したサイトは「ホーム」ボタンのプルダウンメニューで確認できる。削除したいサイトがあるときは、「削除」から削除したいページをクリックする。まとめて全部削除したいときは「すべて削除」をクリックすればいい。



注意 ホームページは8つまで

ホームページに追加できるのは、一度に8つまで。これ以上はホームページとして追加することはできない。不要なものはそのつど削除しておこう。

難易度 難

フリーソフトを使ってVistaを安全に高速化する

快適指数

効果
- ●難しいレジストリの編集が簡単にできる
- ●Windowsのさまざまな設定を簡単に変更できる

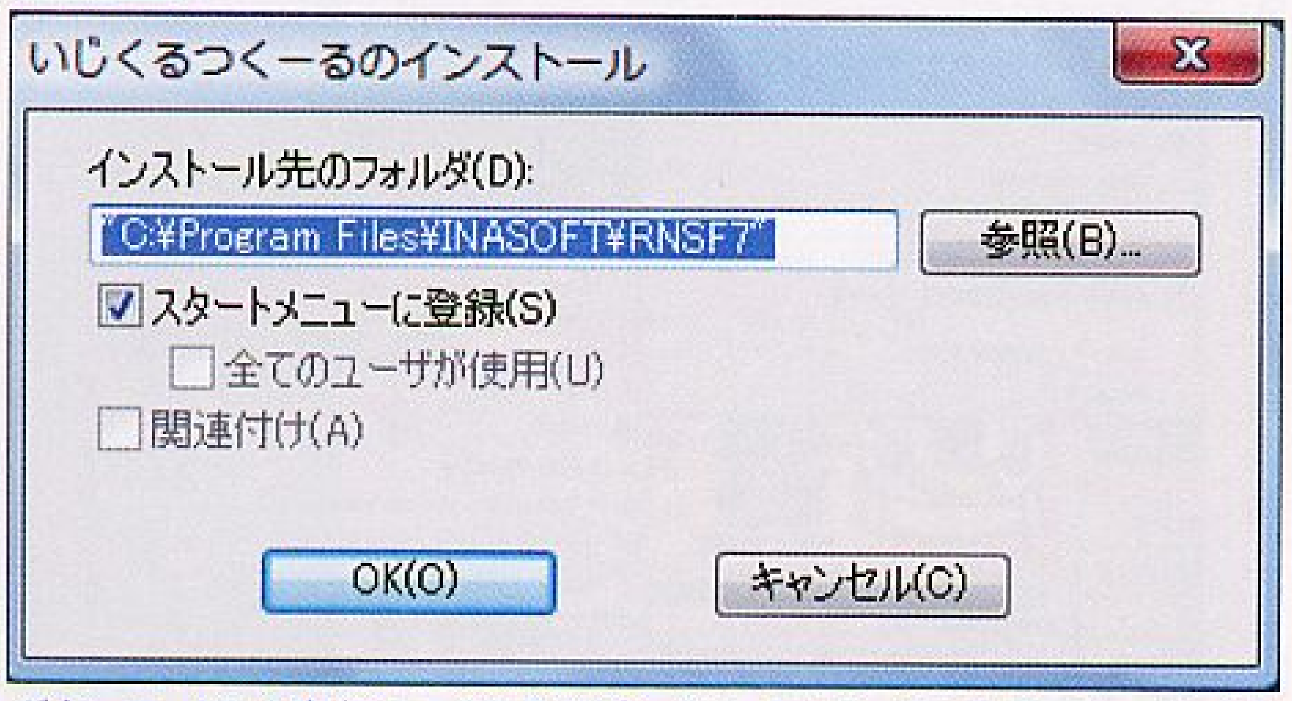
Windowsのシステムに関わるような変更を行なうには「レジストリエディタ」を使って「レジストリ」を編集する必要がある。しかし、レジストリの変更には危険が伴う上に、レジストリエディタの使い方も知識がないと難しい。「いじくるつくーる」は、このレジストリ編集をレジストリエディタを使うことなく、簡単に実行することができるソフト。ただし、レジストリを変更するという危険度の高さは通常のレジストリ編集と同じ。実行前には必ず復元ポイントを作成し、データのバックアップを取ってから行なうこと。

「いじくるつくーる」をインストールする

1 ソフトをダウンロードする

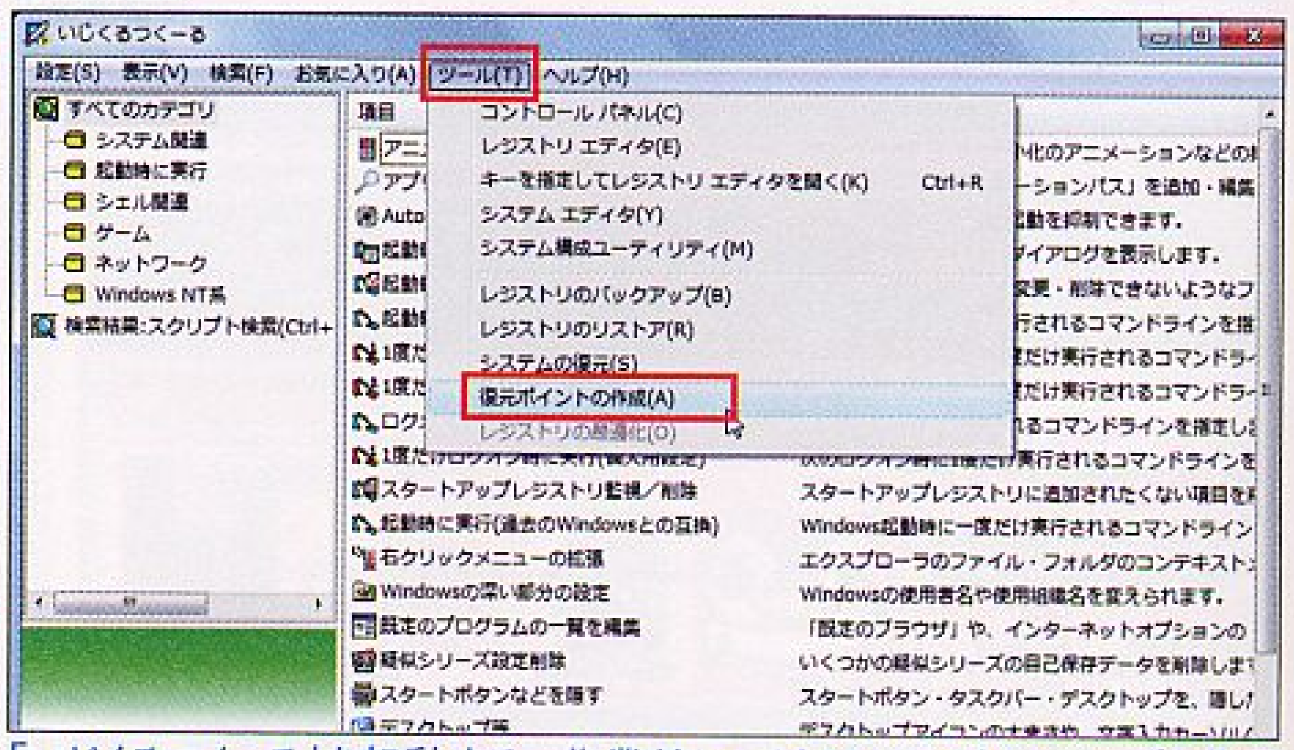
作者のサイトから「いじくるつくーる」をダウンロードする。

2 ソフトをインストールして起動する



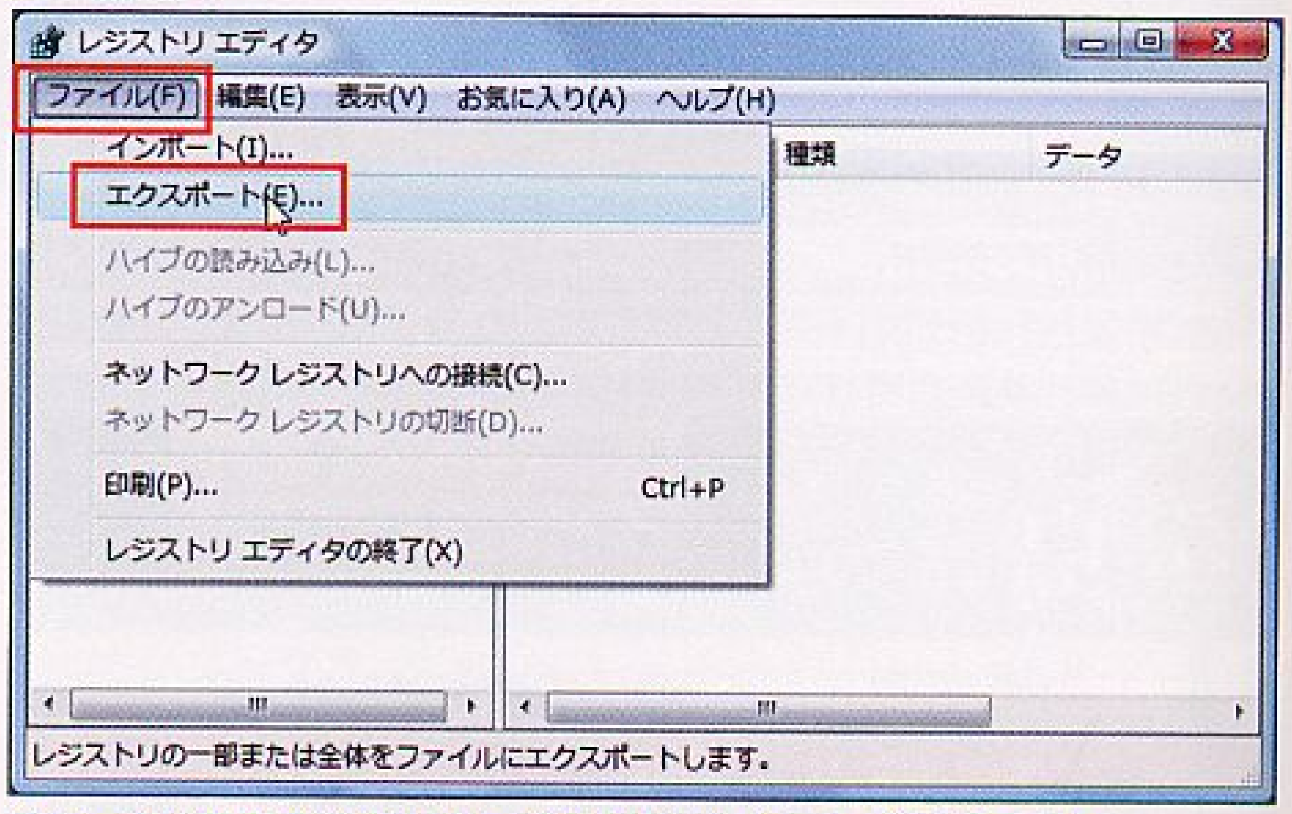
ダウンロードした実行ファイルをダブルクリックしてソフトをインストールする

3 作業前に復元ポイントを作成する



「いじくるつくーる」を起動する。作業前にレジストリのバックアップと復元ポイントを作成しておく。「ツール」メニュー→「復元ポイントの作成」をクリックすると、復元ポイントが作成できる

4 レジストリのバックアップを取る



6ページの方法を参照してレジストリのバックアップも取っておく

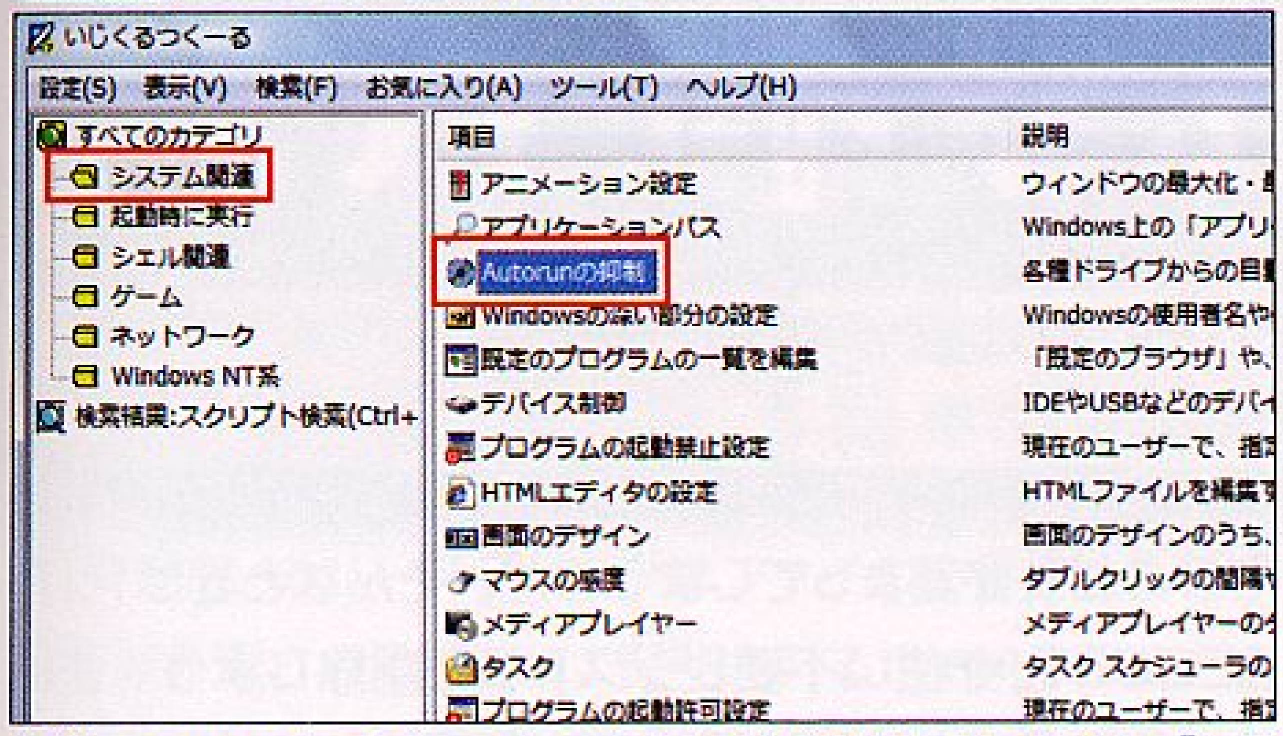
いじくるつくーる 使用ソフト
- ●作者:INASOFT ●種別:フリーウェア
- ●対応OS:Windows 98/2000/Me/XP/Vista
- ●URL:http://www.yoshibaworks.com/ayacy/inasoft/

Keyword レジストリ

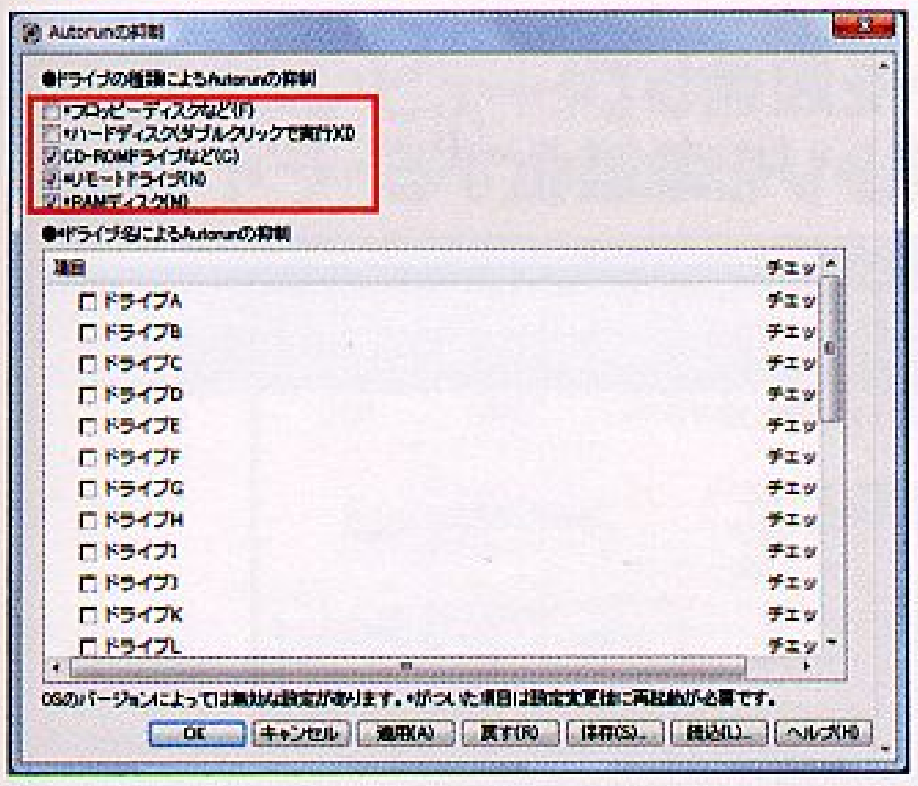
レジストリとは Windowsのシステム設定やプログラム、ユーザーの情報が入ったデータベースのようなもの。システムの根幹にかかわる部分なので、操作を誤るとWindowsが起動しなくなることも。変更には細心の注意が必要。

「いじくるつくーる」でカスタマイズする

1 ドライブの自動起動をオフにして作業の中断を防ぐ

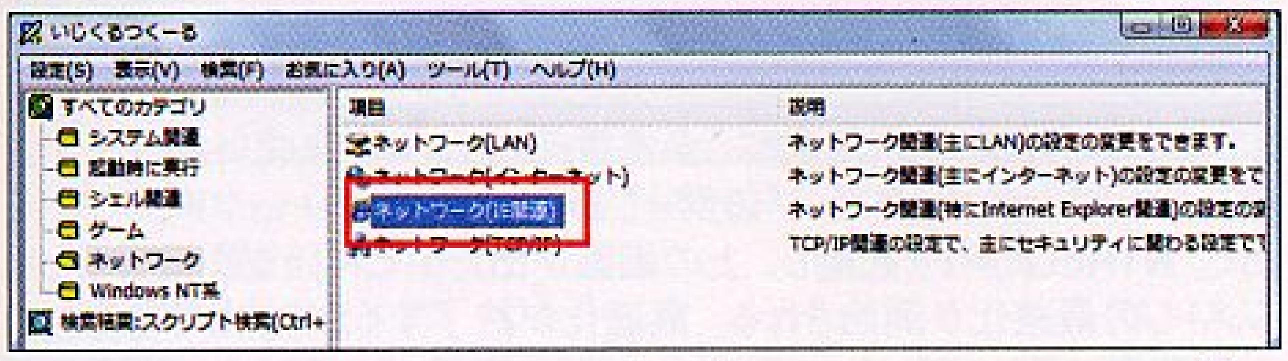


通常、CD/DVDドライブにメディアを入れると自動的に読み込まれ、「自動再生」のダイアログやソフトが起動する。このメディアの自動起動を無効にすることができる。カテゴリの「システム関連」を選択し、「Autorunの抑制」をダブルクリックする

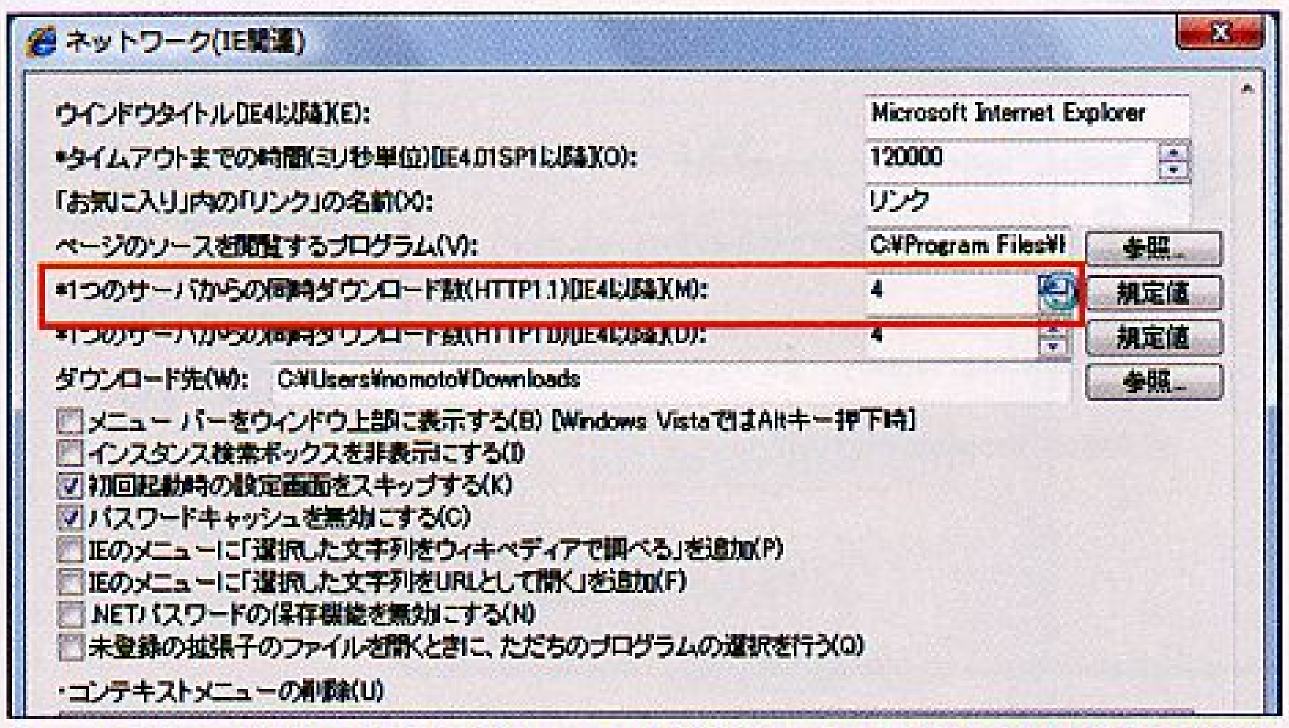


CD-ROMドライブ、リモートドライブなどドライブの種類から選択する方法と、ドライブ名からの選択がある。自動起動を停止したいドライブにチェックを入れ「OK」をクリックすればいい。「*」が付いた項目は設定変更後に再起動が必要

2 IEの設定を変更して同時にダウンロードできる数を増やす

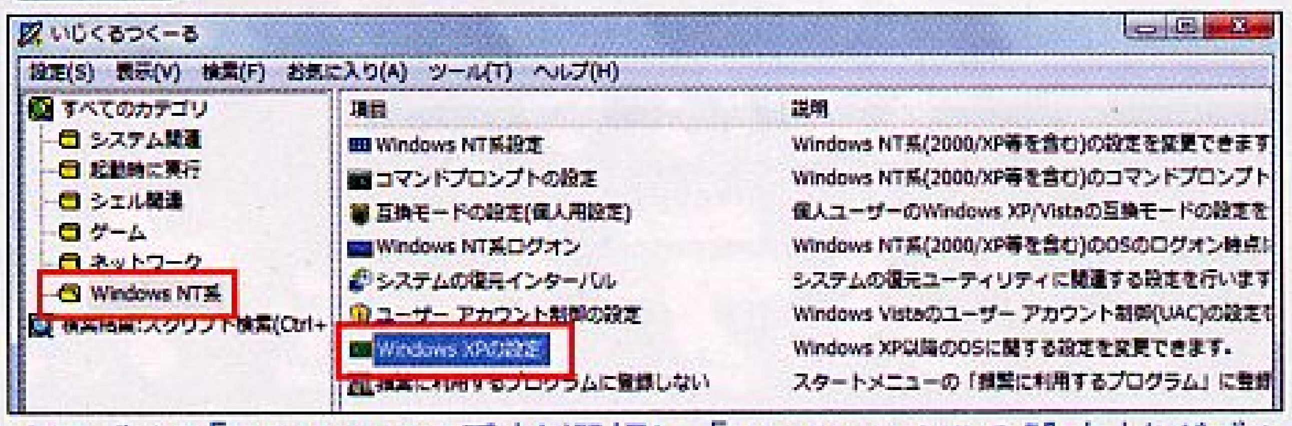


あるダウンロードページから、同時にダウンロードできるファイル数は初期設定では「2」になっている。自分のネット環境が光などの高速回線であれば、同時ダウンロード数を増やしてみよう。カテゴリの「ネットワーク」を選択し、「ネットワーク(IE関連)」をダブルクリックする

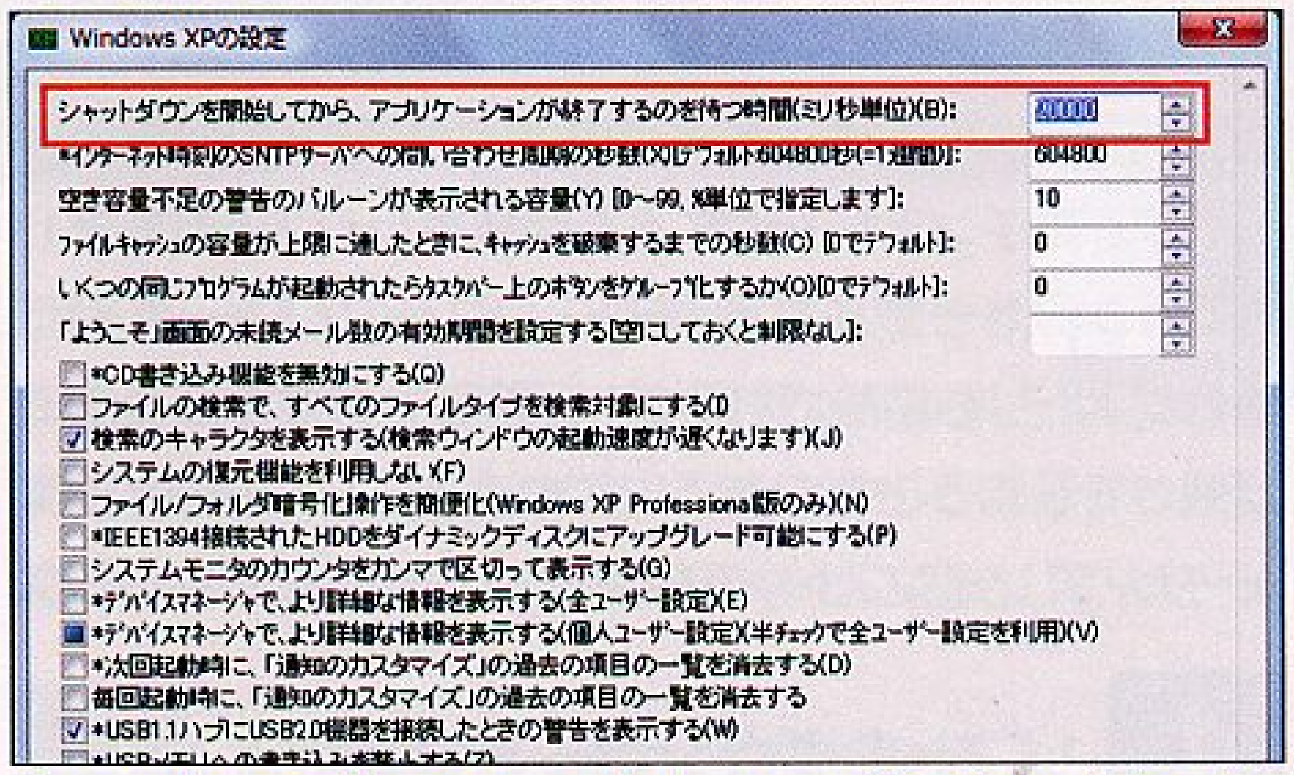


「1つのサーバからの同時ダウンロード数(HTTP1.1)[IE4以降]」の数値を「4」に変更する。数字を大きくしすぎるとそのサイトのサーバに負担がかかってしまうので、「4〜6」程度にしておくこと。またオークションサイトなどパスワードを必要とするサイトへのパスワードのキャッシュを無効にすることも可能

3 アプリケーションの終了を高速化する

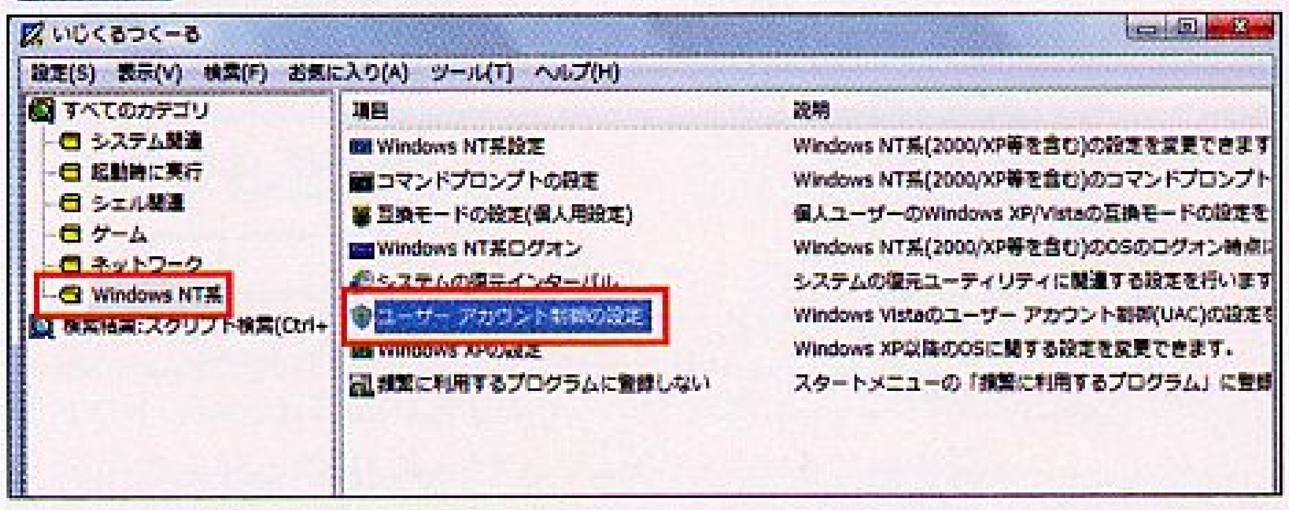


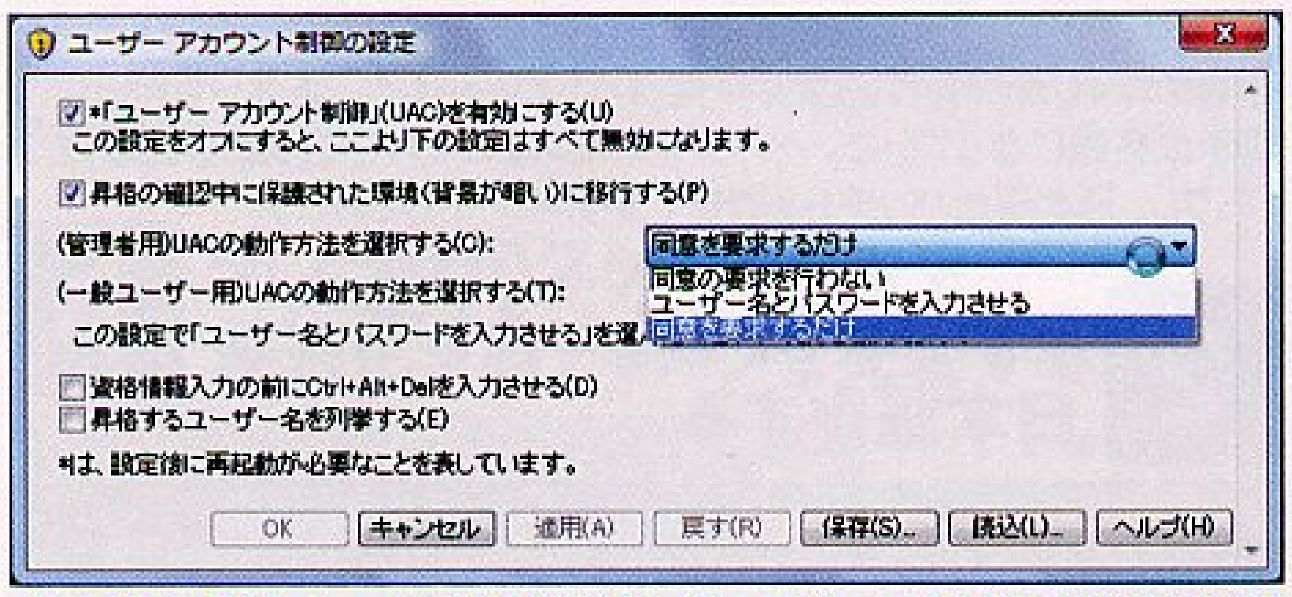
カテゴリの「WindowsNT系」を選択し、「Windows XPの設定」をダブルクリックする



「シャットダウンを開始してから、アプリケーションが終了するのを待つ時間(ミリ秒単位)」を現在より短く設定しよう

4 ユーザーアカウント制御を強化する





カテゴリの「WindowsNT系」を選択し、「ユーザーアカウント制御の設定」をダブルクリックする。通常、ユーザーアカウント制御は、プログラムの「続行」「許可」などを求めるが、さらにセキュリティを強化し、実行時にユーザー名とパスワードまで求めることができる。ただし、かなり面倒になってしまうため自分専用のパソコンであればやめたほうが無難だ

注意! わからない設定は実行しない!

「いじくるつくーる」はレジストリの編集を簡単に行なえるため、いろいろな設定を試してみたくなってしまうが、よくわからない項目であればむやみに実行するのはやめよう。システムの環境によっては不具合がでることもある。データやレジストリのバックアップを取り、復元ポイントを作成してから自己責任で行なうこと。

Keyword 同時ダウンロード数

IEの初期設定では、同一サーバから同時にファイルをダウンロードできる数は「HTTP1.1」の場合「2」となっている。これはサーバに負担をかけないための設定だが、ブロードバンドが主流の現在では、4〜6にしてもOKだ。

難易度 難

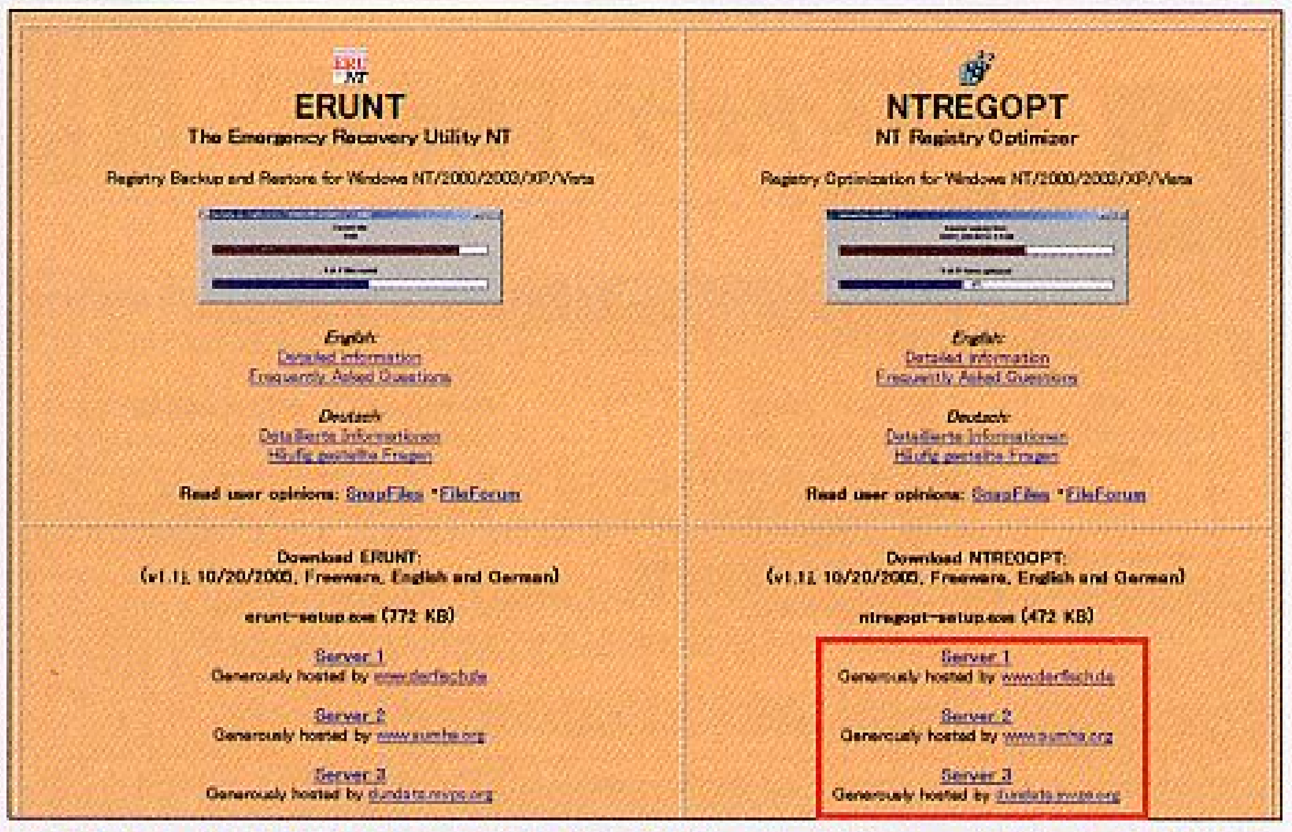
不要なレジストリを削除してシステムを快適な状態に保つ

快適指数

効果 ●肥大したレジストリを削除することにより起動が高速化する
●不要なレジストリが簡単に削除できる

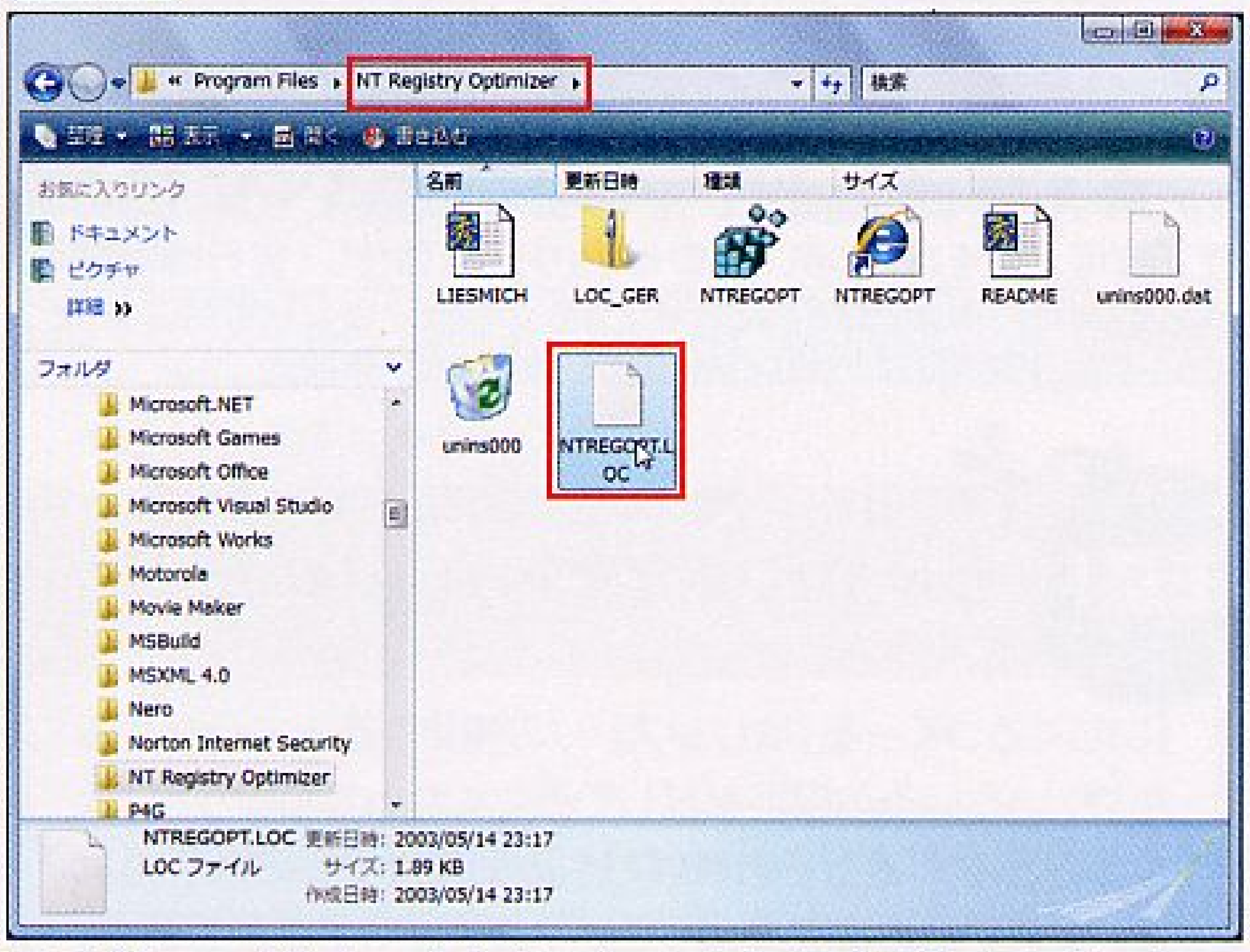
ソフトをインストールすると必要なレジストリもあわせてインストールされる。逆に、アンインストール時にはレジストリも削除されるが、削除しきれなかったゴミが残ってしまうことがある。このようにソフトのインストール・アンインストールを繰り返すとどんどんレジストリのゴミが溜まってしまうのだ。そんなときは「NTREGOPT」を使い不要レジストリを削除しよう。使い方は簡単でボタンひとつで処理が可能。ただし、作業前には復元ポイントの作成、データ、レジストリのバックアップを必ず行ない、自己責任で実行すること。

1 ソフトをダウンロードする



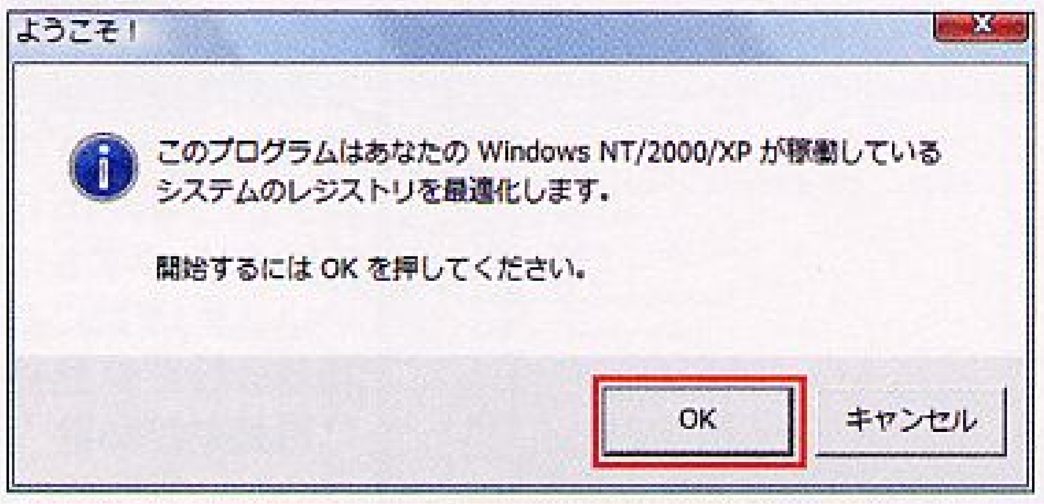
作者のサイトから「NTREGOPT」をダウンロードする。海外ソフトなので、表示は英語になっている。ページを下にスクロールして「Japanese」をクリックし、日本語化パッチもあわせてダウンロードしておこう

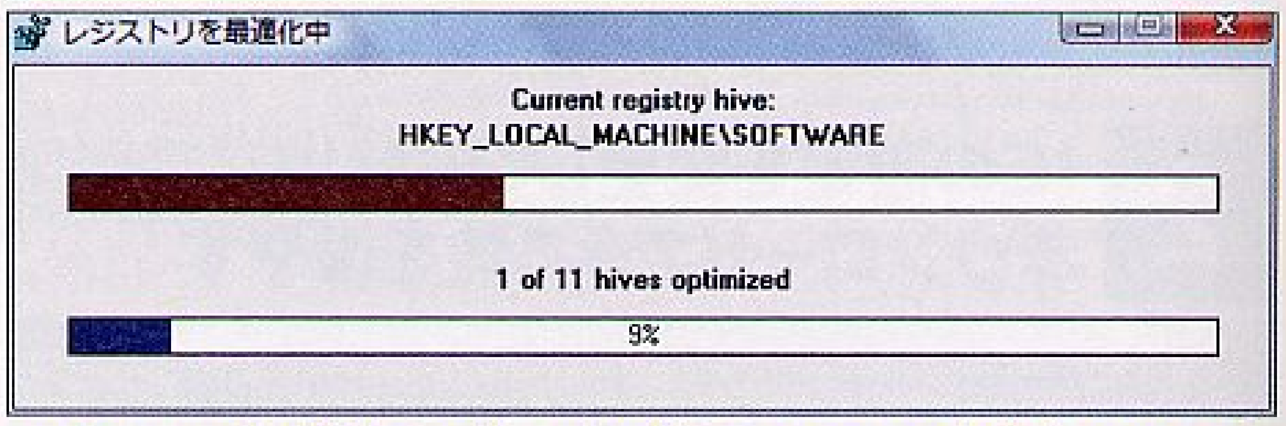
2 ソフトをインストールして日本語化する



1でダウンロードしたソフトをインストールする。日本語化するには、インストールしてできた「NT Registry Optimizer」フォルダの中に、日本語化パッチ「NTREGOPT.LOC」を上書きコピーする

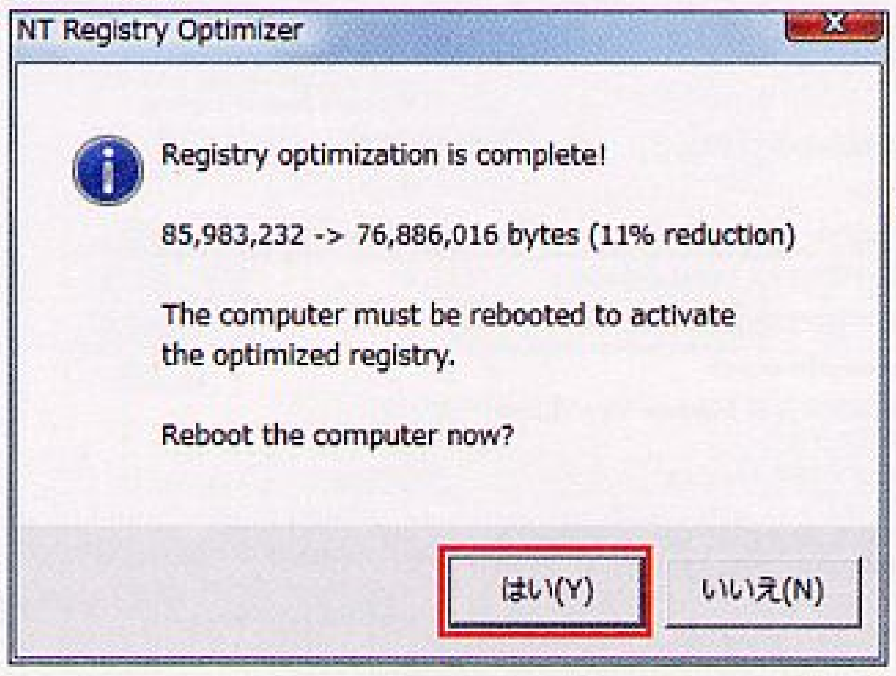
3 ソフトを起動してレジストリを最適化する





レジストリの最適化をする前に、必ず復元ポイントの作成（113ページ参照）、レジストリのバックアップ（6ページ参照）、データのバックアップをしておく。NTREGOPTを起動し、上の画面が出たら「OK」をクリックするとレジストリの最適化が開始される。最適化が終了するまで決して電源を切ったりしないこと

4 パソコンを再起動する



最適化が終わるとパソコンの再起動を求められる。すぐに再起動するなら「はい」をクリックする

NTREGOPT 使用ソフト

●作者：Lars Hederer ●種別：フリーウェア
●対応OS：Windows NT/2000/2003/XP/Vista
●URL：http://www.larshederer.homepage.t-online.de/erunt/

注意 最適化実行の注意

レジストリの最適化をするときは、作業中のハングアップを防ぐため、他のアプリケーションはすべて終了し、それ以外の作業は行なわないこと。またノートパソコンの場合は実行中に電源が切れないよう注意すること。

難易度 **易**

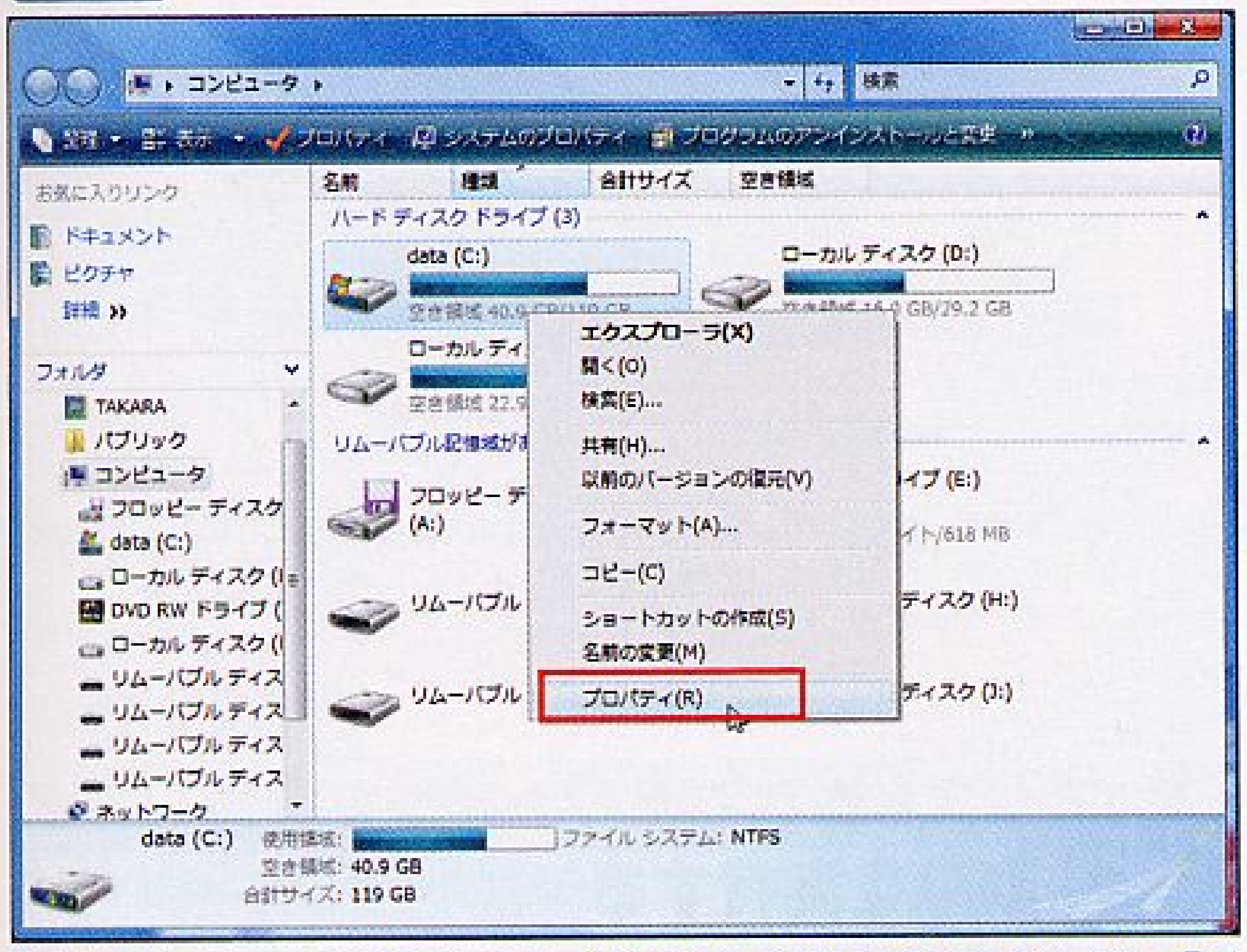
デフラグで断片化を解消しハードディスクを高速化する

快適指数

効果
- ●ハードディスクの読み書き速度が高速になる
- ●Windowsやアプリケーションの起動が速くなる

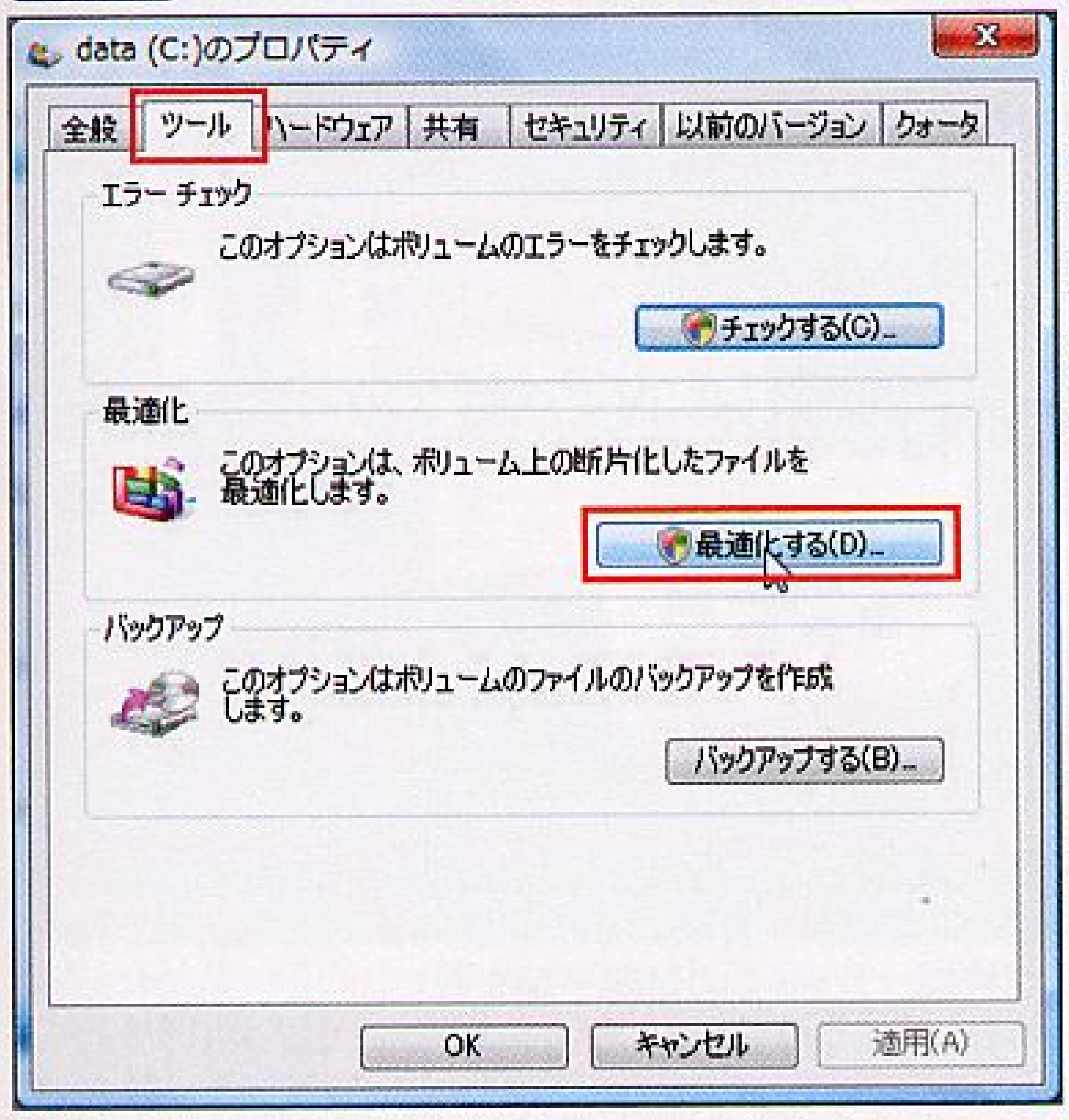
パソコンのハードディスクはファイルの書き込みと削除が繰り返されるうちに、保存されるファイルがひとまとまりではなく分断された状態で保存されるようになる。こうしたファイルの断片化がひどくなるとディスクアクセスが遅くなってしまう。そこで、断片化を解消するデフラグツールを定期的に実行しよう。Vistaのデフラグツールはスケジュール機能が追加され、面倒な操作をしなくても定期的に自動実行されるようになった。実行するタイミングは自由に設定できる。デフラグは時間のかかる作業なので就寝前などに設定しておこう。

1 「コンピュータ」からドライブのプロパティを開く



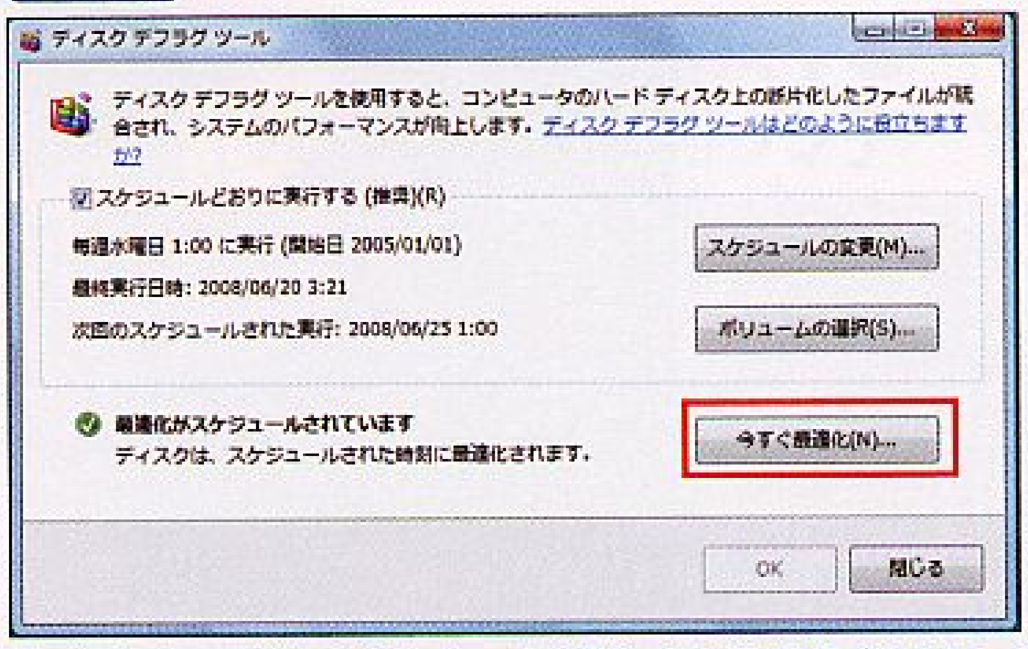
「スタート」メニューから「コンピュータ」を開く。ドライブを右クリックし、「プロパティ」を開く

2 ドライブのプロパティから「ツール」タブを選択



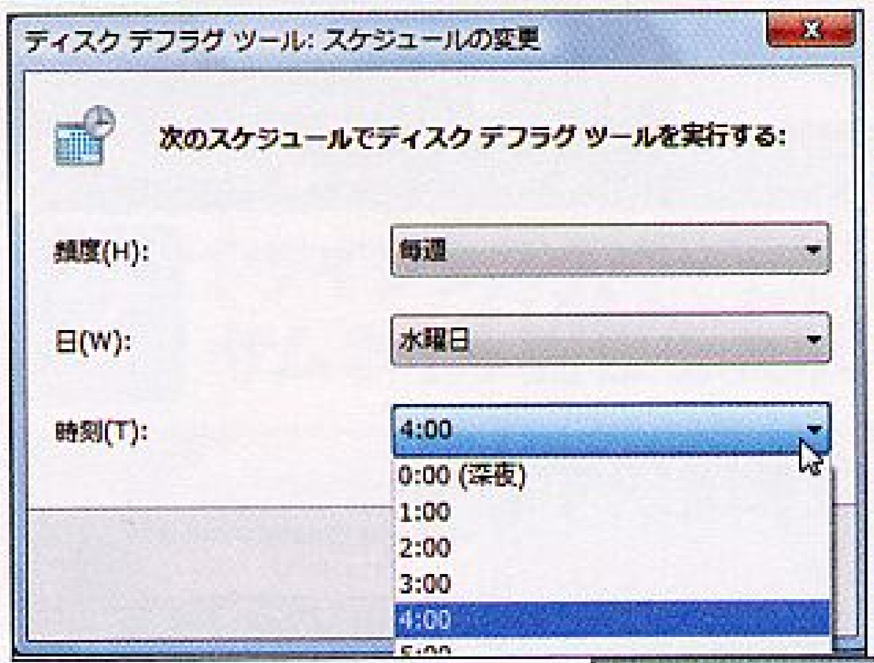
ドライブのプロパティが表示されたら「ツール」タブを開き、「最適化する」をクリックする

3 デフラグを今すぐ実行する

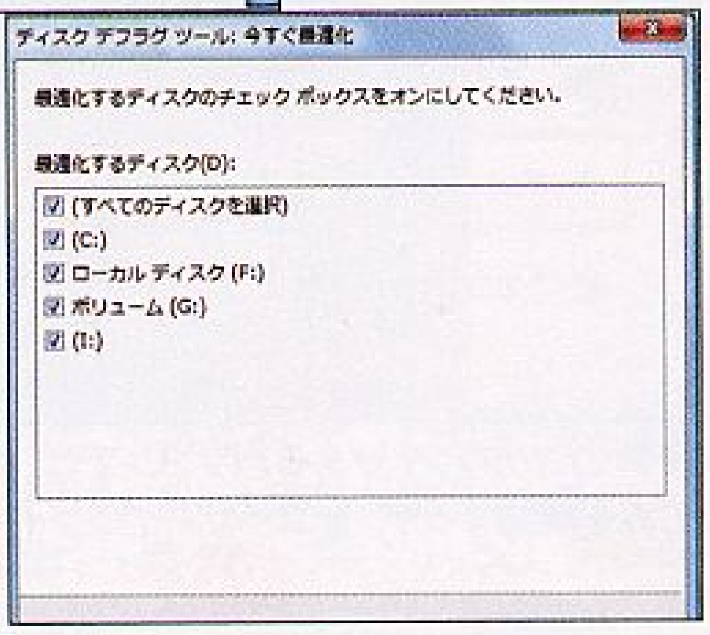


今すぐデフラグを実行したいなら「今すぐ最適化」をクリックする。ドライブが複数ある場合は最適化するディスクの選択画面が出る。初期設定ではすべてのディスクにチェックが入っているので、最適化したくないディスクがある場合はチェックをはずしておく。終わったら「OK」をクリックすれば最適化が始まる

4 デフラグのスケジュールや最適化するディスクを変更する



デフラグは初期設定で定期的に実行するように設定されている。そのスケジュールや最適化を実行したいディスクを変更することができる。3で「スケジュールの変更」をクリックすれば頻度や曜日、時刻を変更できる



ドライブが複数ある場合は3の画面のように「ボリュームの選択」ボタンが表示される。クリックすると最適化を実行するディスクを選択できるので、必要に応じて設定を変更しよう

Keyword 最適化

さまざまな設定や状態を効率がよくなるように変更すること。ハードディスクの場合、ファイルのディスク上での保存場所を変更することを指す。ひとつのファイルが複数に分かれて保存されている状態を解消するのが大きな目的。

難易度 易

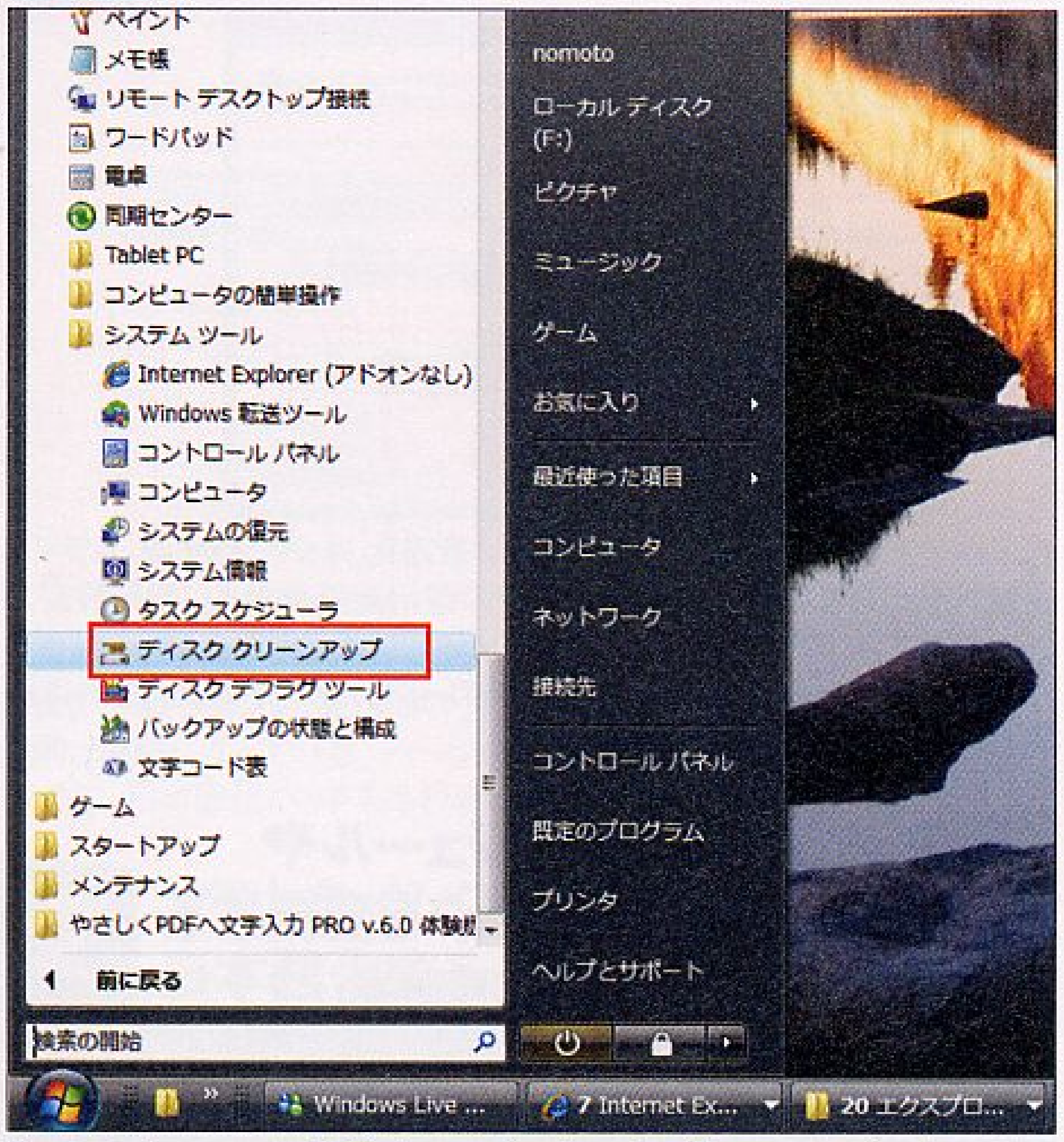
ディスククリーンアップで不要ファイルを一掃する

快適指数

効果 ●不要なファイルが一掃される ●ハードディスクの空き容量を確保できる

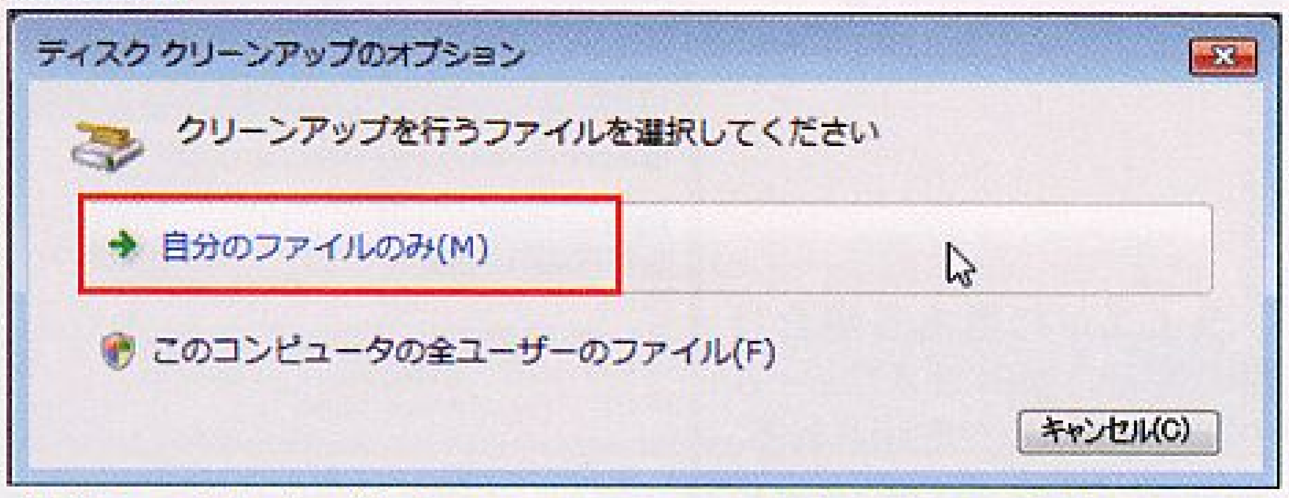
パソコンを使っていると必ず溜まるテンポラリファイルやインターネットのキャッシュファイル。これらの無駄なファイルを削除して、ハードディスクをスッキリさせたいなら「ディスククリーンアップ」を使ってみよう。「ディスククリーンアップ」は削除しても問題ないファイルを一括削除する機能。対象となるのは、ダウンロードされたファイル、インターネット一時ファイル、ごみ箱、縮小表示用ファイルなど。削除したい項目だけを選ぶことができるので、効率のよい削除が可能だ。削除したファイルは復旧できないので注意すること。

1 「ディスククリーンアップ」を起動する



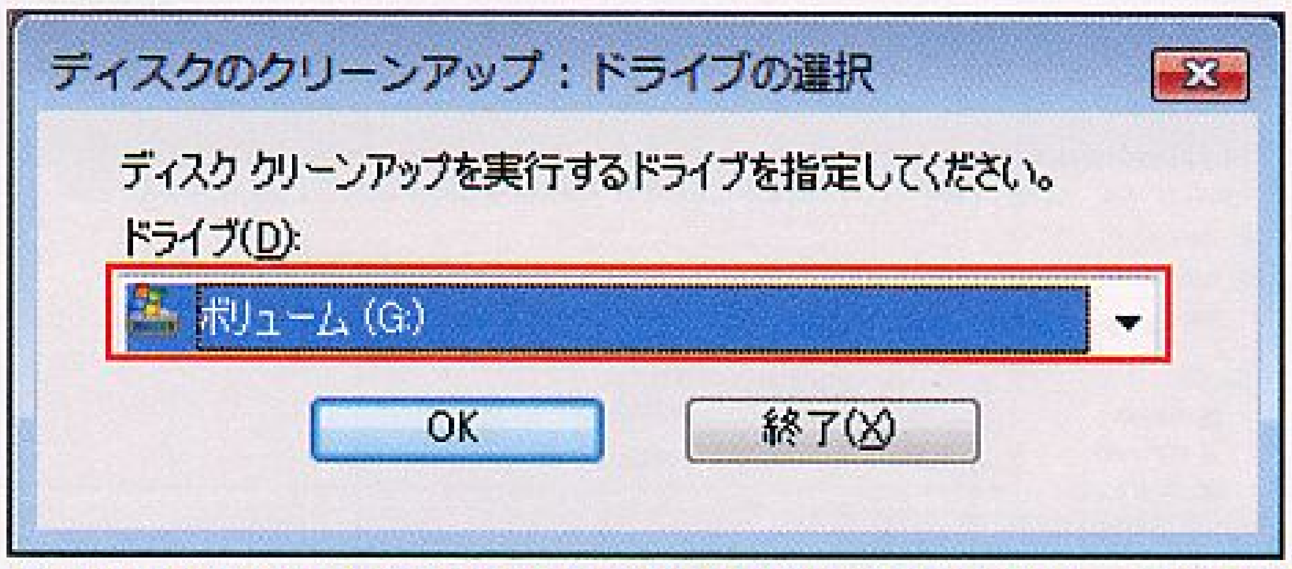
「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「システムツール」→「ディスククリーンアップ」を選択する

2 削除対象を選択する



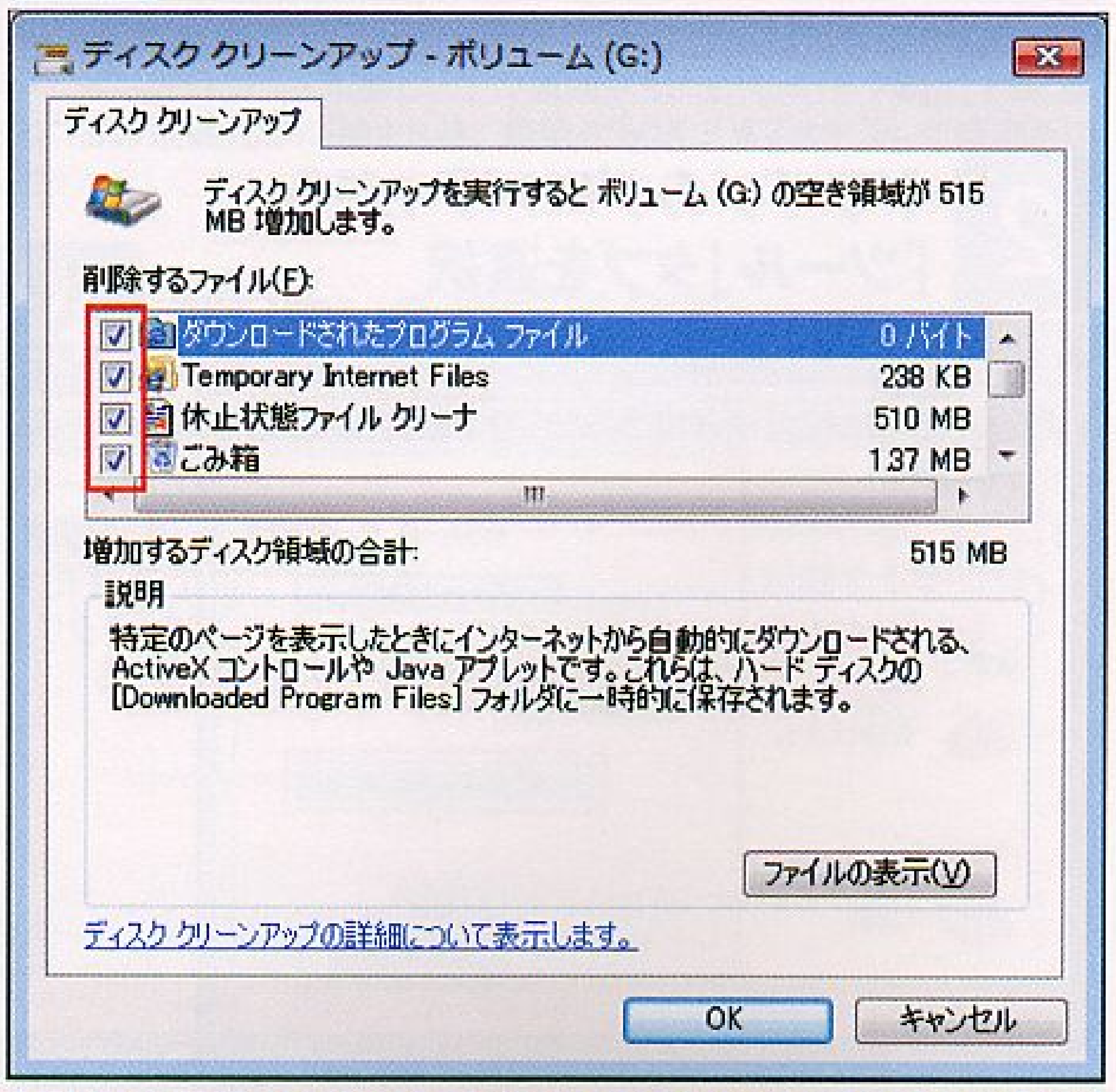
複数のアカウントがあるパソコンでは、この画面になる。自分のファイルのみを削除するか、全ユーザーのファイルを削除するかを選択する

3 対象にするドライブを選択する



ドライブが複数ある場合はこの画面が出るので、「ディスククリーンアップ」を行なうドライブを選択する。通常はWindowsがインストールされているドライブを選ぼう

4 リストから不要ファイルを選択して削除を実行する



削除しても問題ない項目が一覧表示されるので、チェックを入れて「OK」ボタンをクリックすると、ファイルの削除が始まる

Keyword テンポラリファイル

一時的に利用するファイルで、削除してもシステム上問題はない。例えば、ホームページ閲覧時に同じサイトから何度も同じファイルを読み込まないようにするとき、ハードディスク上にテンポラリファイルが作成される。

難易度 易

ウィンドウを大量に開いていても目的の画面にすばやく切り替える

快適指数

効果
●ファイルやフォルダをいちいち前面に出して確認する手間がない
●見た目にも美しいグラフィックが楽しめる

デスクトップ上に大量のウィンドウを表示させていると、必要なウィンドウがすぐに見つからないことがある。そのようなときは、VistaでAero（エアロ）が有効ならば、立体的な画面でウィンドウを切り替える「Window フリップ 3D」を試してみよう。いちいちタスクバーからウィンドウを開かなくても、見た目にも美しく目的のウィンドウを探して選択できる。また、「Alt」+「Tab」キーを押すと、開いたウィンドウの内容をサムネイル画像で確認しながら探せる「Window フリップ」が起動する。どちらも覚えておくと便利な機能だ。

Window フリップ 3Dで切り替える

1 「Window フリップ 3D」の起動

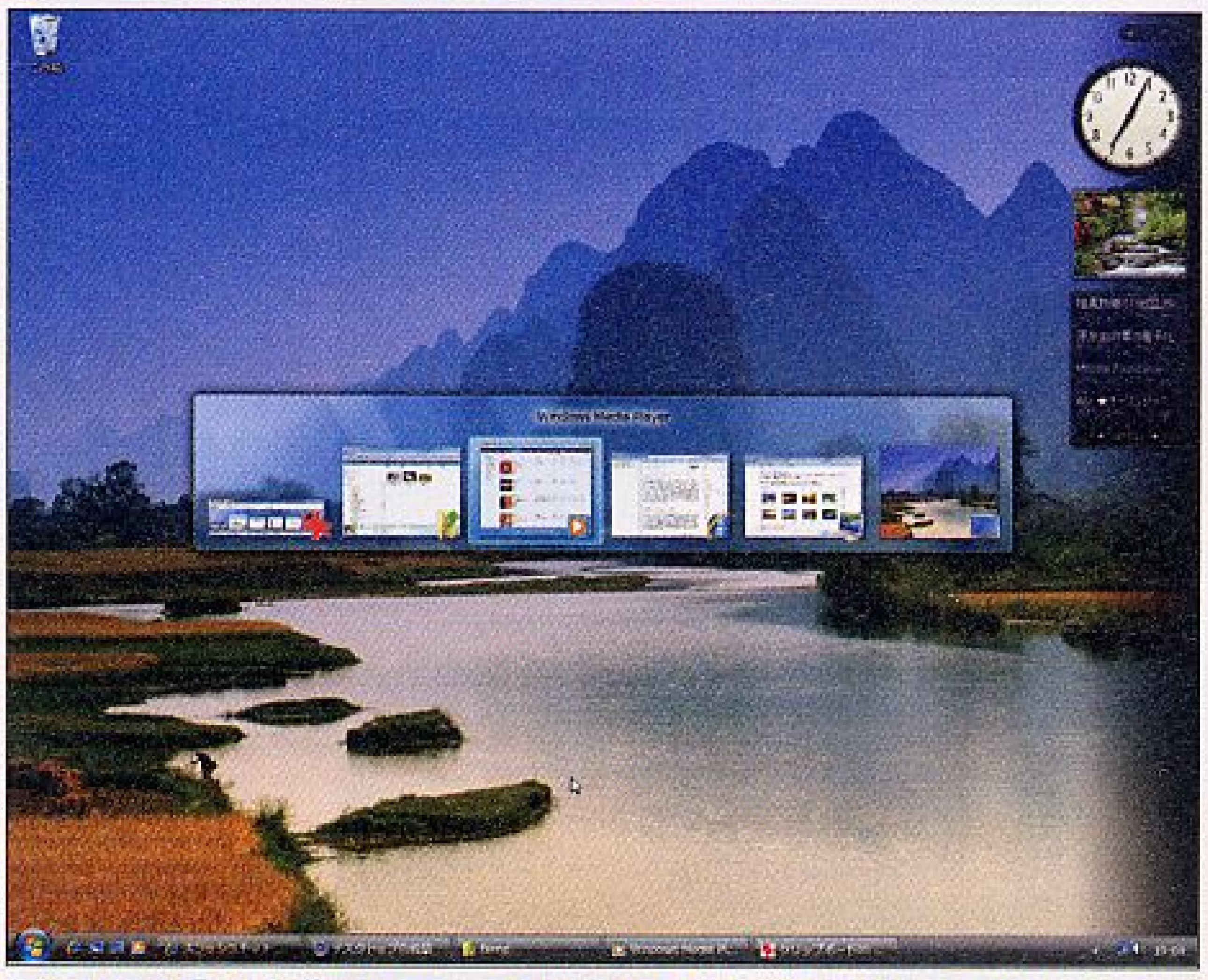
クイック起動にある「ウィンドウを切り替える」ボタンか、「Windows」+「Tab」キーを押す

2 立体的に表示されたウィンドウから目的のものを選ぶ

現在起動しているウィンドウが3Dで並ぶ。「Tab」キーを押すか、マウスのホイールを利用してウィンドウを切り替えることができる。「Windows」キーを離すと最前面のウィンドウが開く

その他のウィンドウ切り替え機能

1 サムネイルから選択する「Windows フリップ」



従来どおり「Alt」+「Tab」キーを押した場合は、サムネイル画像付きのウィンドウ切り替え画面が表示される

2 「ライブタスクバー」でサムネイル画像を表示する

Aeroが有効になっていると、タスクバーに表示されている項目にマウスカーソルを合わせるだけで、内容を示すサムネイル画像が表示される。ウィンドウがグループ化されている場合は、一度グループをクリックし、リストにカーソルを合わせよう

ワンポイント
「Ctrl」+「Alt」+「Del」キー

XPまではキーボードの「Ctrl」+「Alt」+「Del」キーを押すとタスクマネージャが起動したが、Vistaでは一度ログオン用の画面に戻り、コンピュータのロックやユーザーの切り替え、タスクマネージャの起動などを選択できる。

難易度 **易**

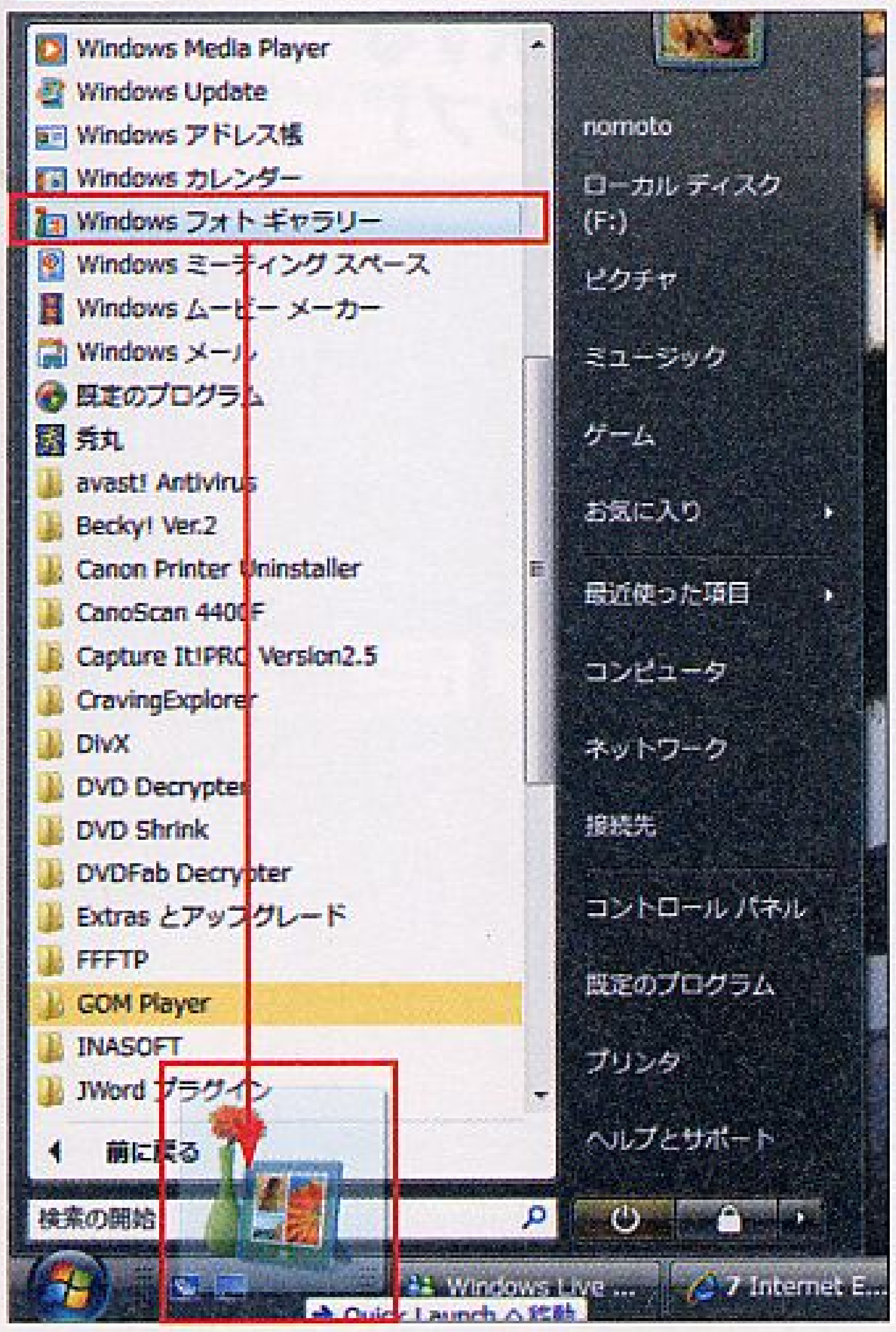
クイック起動に追加してよく使うソフトを高速起動する

快適指数

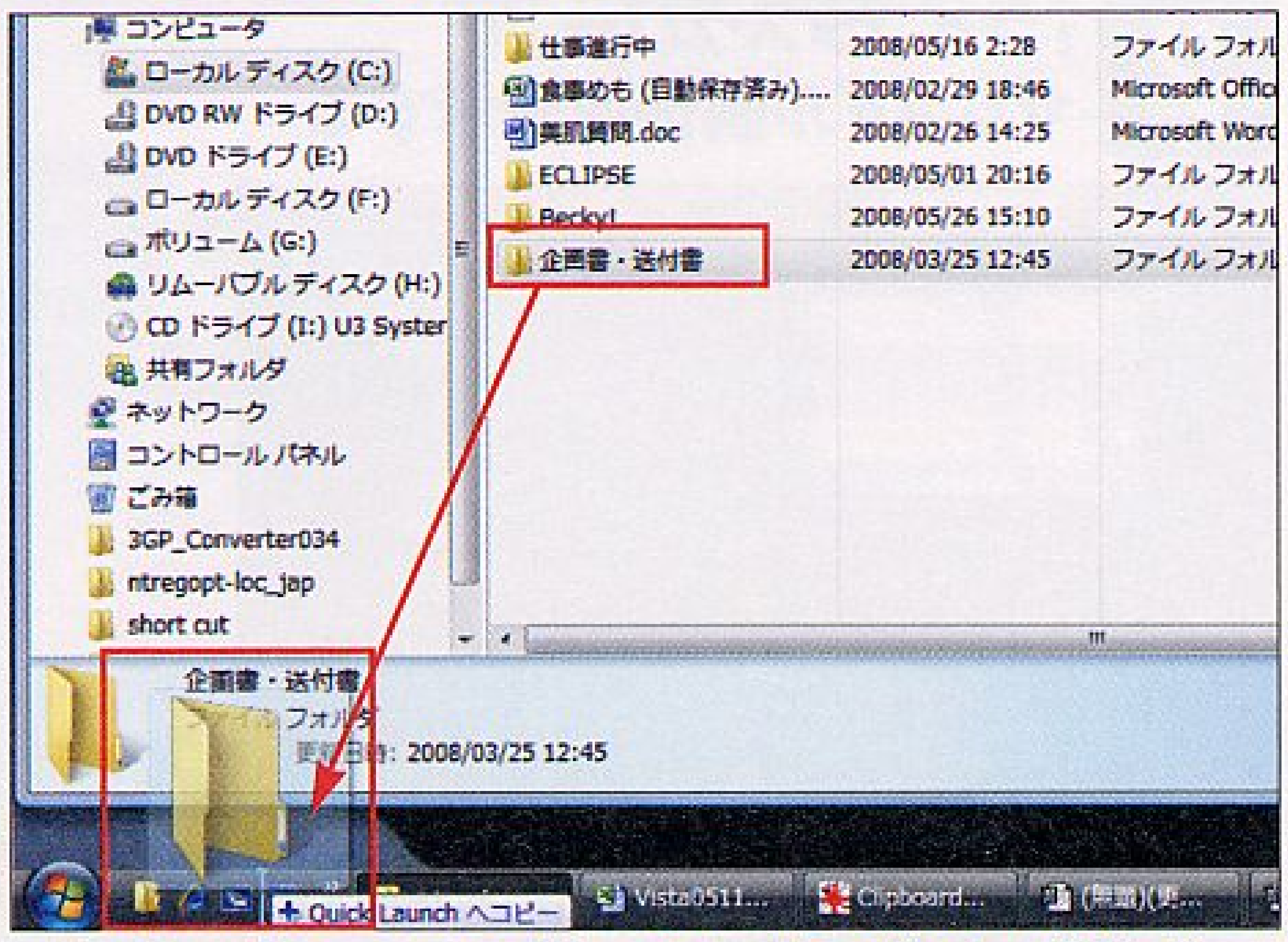
効果 ●頻繁に使うアプリケーションソフトを高速起動できる
●頻繁に使うフォルダにすばやくアクセスできる

頻繁に使うアプリケーションソフトをすばやく起動したり、よく使うフォルダに速くアクセスしたいと思ったら、ソフトやフォルダのショートカットをデスクトップに置く方法が有効だ。しかし、もっと使い勝手をよくしたいなら、このショートカットを「クイック起動」に入れてみよう。「クイック起動」に入れておけば使いたいときにワンクリックで目的のアプリケーションやフォルダを起動・開くことができる。Vistaでは初期設定で「ウィンドウの切り替え」「デスクトップ」がクイック起動に登録されているが、不要なら削除しても構わない。

1 「クイック起動」にショートカットを登録する



登録したいアプリケーションやフォルダを、直接「クイック起動」の領域にドラッグ＆ドロップする。アプリケーションソフト、フォルダなどは「スタート」メニューからドラッグすれば簡単だ。移動させているアイコンが大きく表示され、「Quick Launchへ移動」と表示されればOKだ

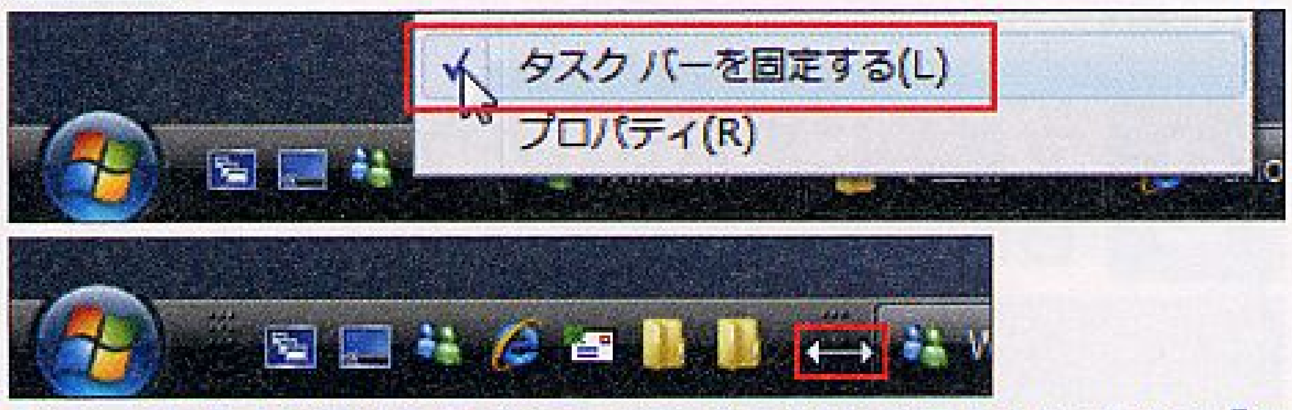


フォルダもアプリケーションと同様に、そのままドラッグ＆ドロップすればいい。フォルダを移動したわけではなく、ショートカットが登録されたことになる

2 アイコンの表示場所を変更する

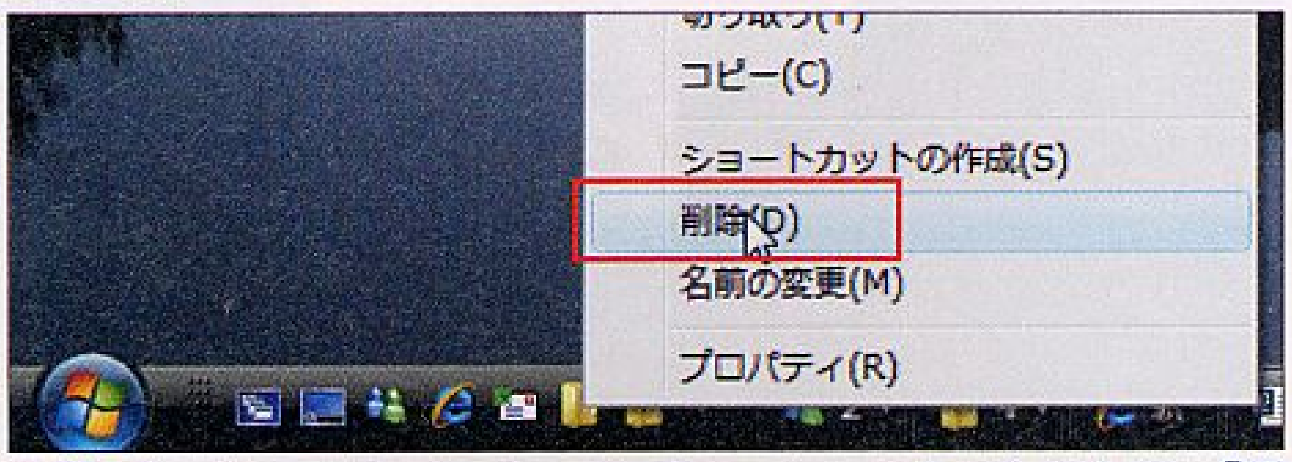
「クイック起動」に表示されるのは、初期設定では3つ。それ以上は » をクリックすると表示される。頻繁に使うものが表示されていたほうがいいので、アイコンをドラッグ＆ドロップして順序を入れ替えよう

3 「クイック起動」の領域を増やす



「クイック起動」の領域を広げて、アイコンをたくさん表示させたいときは、「クイック起動」の何もないところで右クリックし、「タスクバーを固定する」のチェックを外す。「クイック起動」の領域の右端をドラッグしながら横に広げればいい

4 登録したアイコンを削除する



不要になったショートカットアイコンは、そのアイコンの上で右クリックし、「削除」をクリックすればいい。ショートカットだけが削除されるのでもちろん本体に影響はない

ワンポイント 「クイック起動」の登録数

「クイック起動」にショートカットを追加しすぎると、メモリを消費してしまうし、アイコンを探すのに時間がかかってしまう。これでは本末転倒なので、登録するものは本当に必要なものだけに制限しよう。

難易度 易

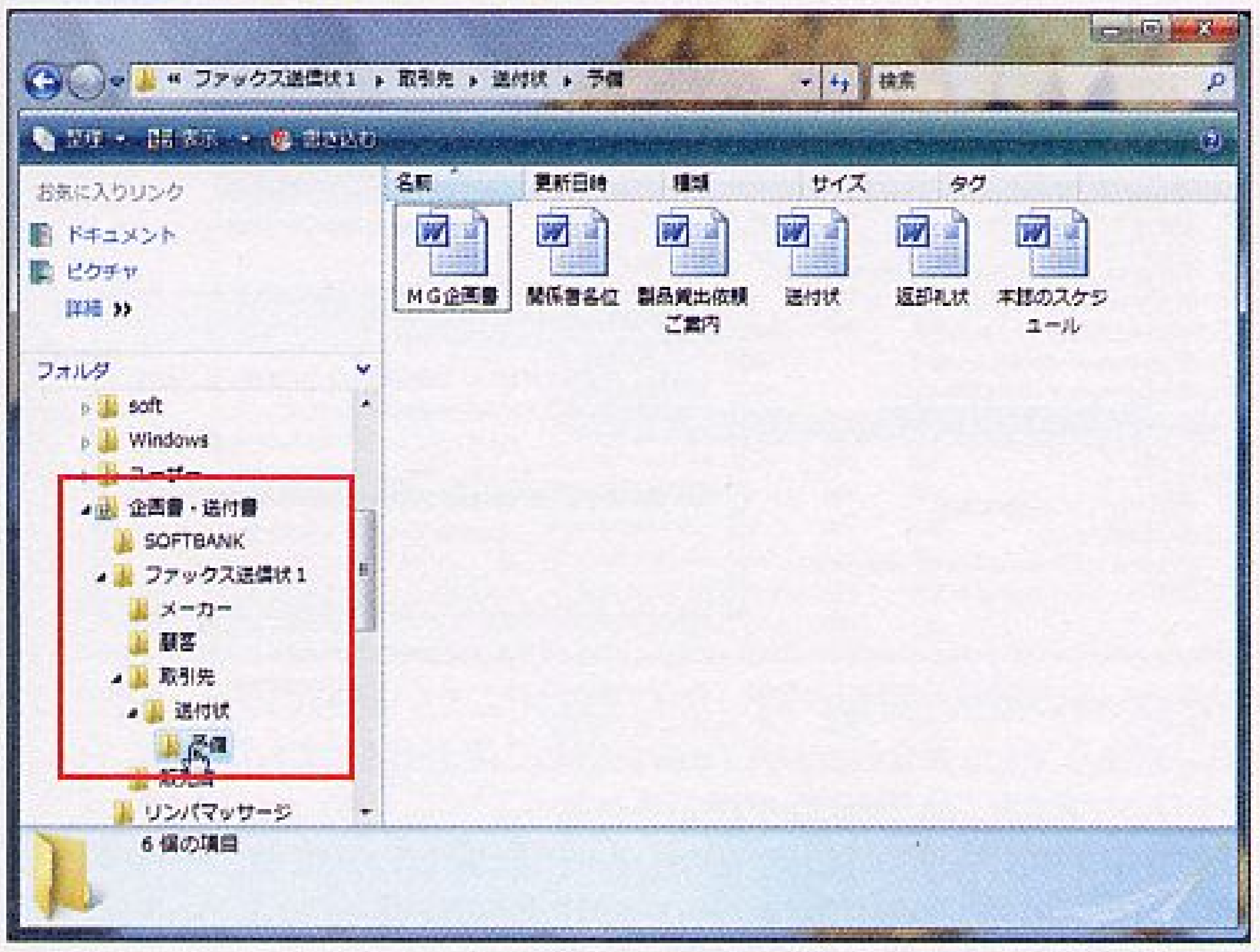
よく使うフォルダは「ツールバー」から一発で開く

快適指数

効果
●ワンクリックでフォルダの内容が確認できる
●フォルダを開かず中のファイルにアクセスできる

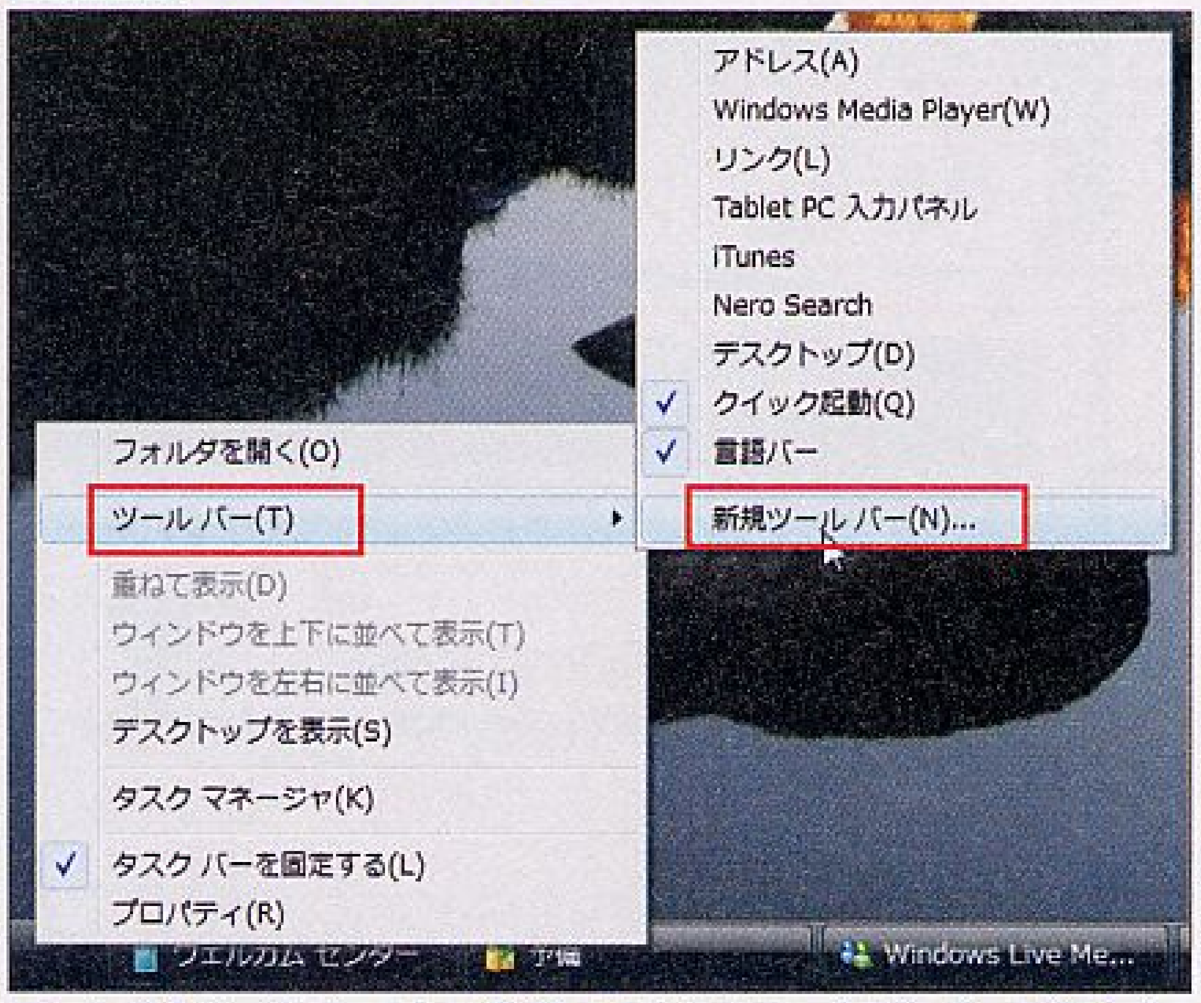
深い階層にあるフォルダをエクスプローラで開くのは面倒だ。よく使うフォルダはタスクバーに登録しておこう。すると、そのフォルダはツールバーとして常にタスクバーに表示される。このツールバーは、マウスでワンクリックするだけでフォルダの内容が表示され、さらにその内容をクリックすれば、ファイルを開いたりサブフォルダを開いたりといった操作が行なえる。28ページで紹介した「クイック起動」にはアプリケーションソフトを登録し、ツールバーにはフォルダを登録するなど、うまく使い分けよう。

1 深い階層にあるフォルダを開くのは手間がかかる



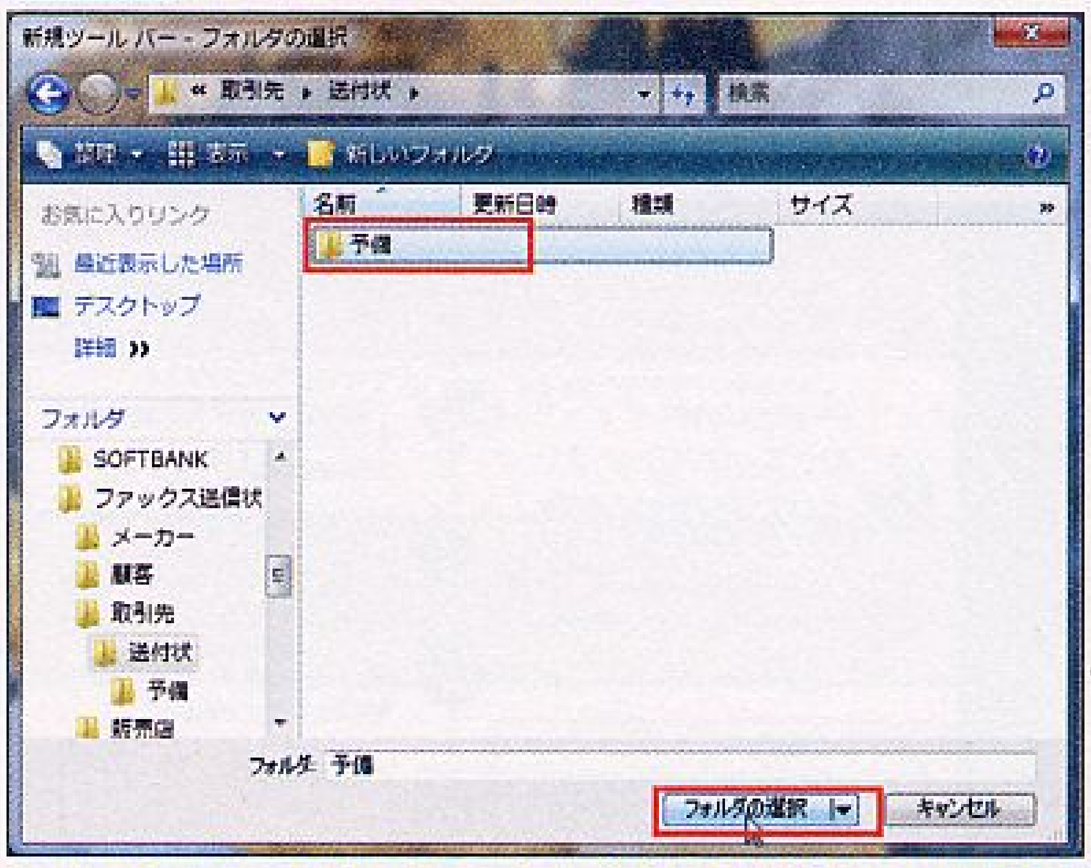
深い階層にあるフォルダを開くとき、普通にエクスプローラで開くと、何回もクリックしてサブフォルダを開いていかなければならない

2 「新規ツールバー」をクリックする



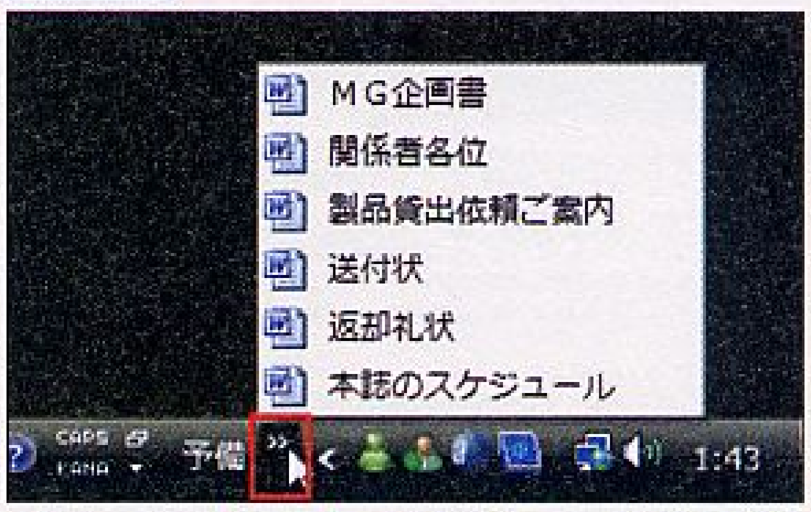
フォルダをツールバーとして登録するためには、タスクバーの何もないところを右クリックし、「ツールバー」→「新規ツールバー」をクリック

3 ツールバーとして登録したいフォルダを選択する



ツールバーとして登録したいフォルダを選択し、「フォルダの選択」をクリックする。フォルダは複数選んでもOKだ

4 ツールバーとしてフォルダが追加された



ツールバーとして追加したフォルダ名が表示される。»をクリックすると、フォルダ内のファイルが表示されるので、開きたいファイルやフォルダを選べばいい。ファイルに加えた変更や、元のフォルダに加えた変更なども随時反映される。登録を解除するには、タスクバーを右クリック→「ツールバー」→「(解除したいフォルダ名)」のチェックを外せばいい

もっと快適!!テクニック 登録したフォルダの並べ替えや削除も可能

»をクリックして表示される一覧で、ファイルやフォルダを右クリックすれば、コピーや削除、名前の変更、名前で並べ替えるなどの操作が行なえる。

ワンポイント ファイルを追加する

ツールバーとして登録したフォルダに新しいファイルを追加するには、タスクバーに表示されているフォルダ名の上で右クリックして「フォルダを開く」を選択。フォルダが開いたらそこに新規ファイルを追加すればいい。

難易度 普

使っていないアクセサリやゲームをオフにして軽量化する

快適指数

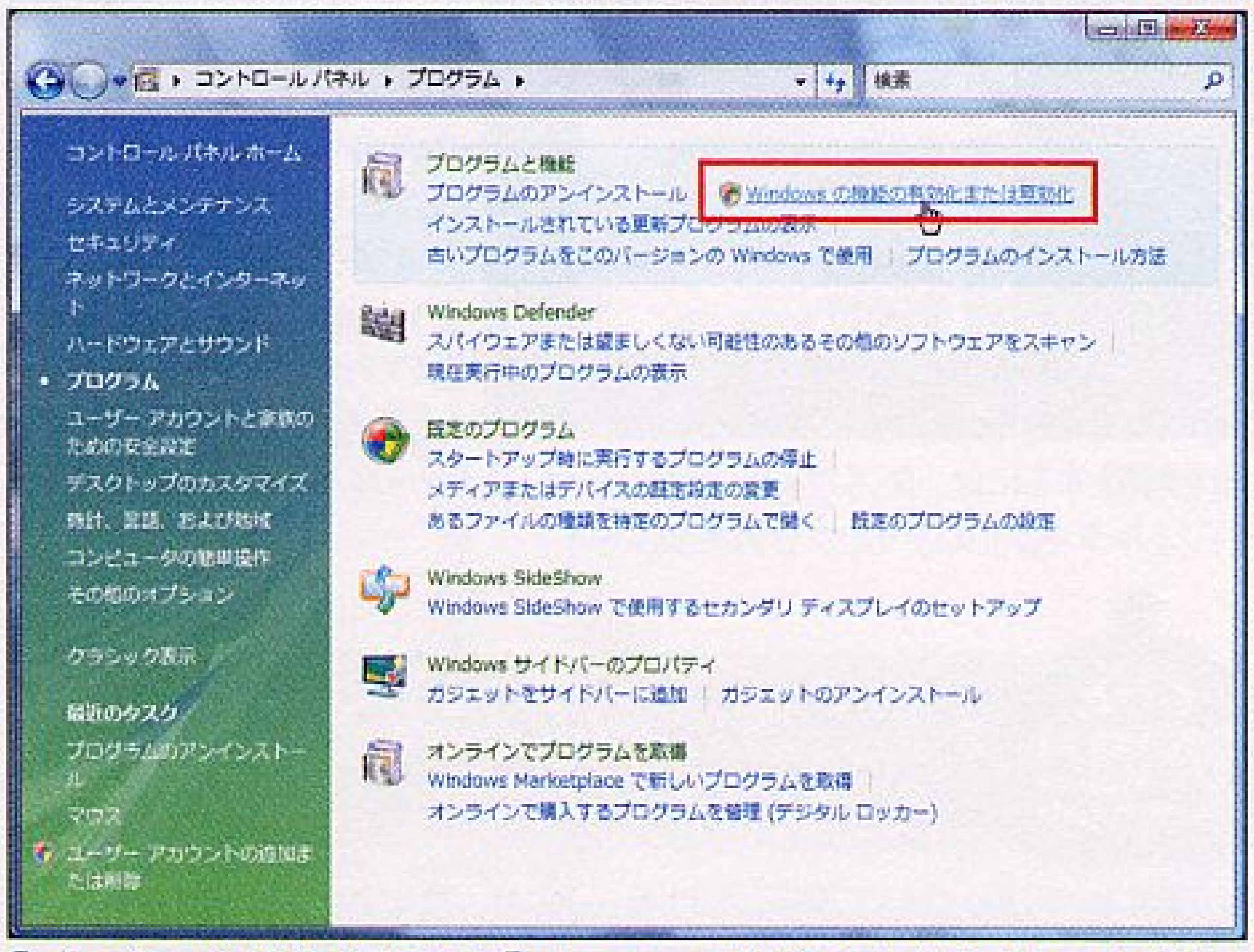
効果
●余分な読み込みがなくなりパフォーマンスがアップする
●メモリの空き容量が増えてパソコンが安定する

Vistaには無料で楽しめるゲームがXPよりも豊富に入っているほか、「Windowsミーティングスペース」や「Windows FAXとスキャン」などのアクセサリ機能も初期設定で多数インストールされている。これらは使いたい人にはありがたい機能だが、パソコンの用途によってはまったく使わないことも多い。不要な機能は「無効」にして、少しでもシステムの負担を軽減させよう。パソコンから「削除」するのではなく、「無効」にするだけなので、後で必要になったときにはすぐに「有効」にすることができるので安心だ。

1 「コントロールパネル」を開く

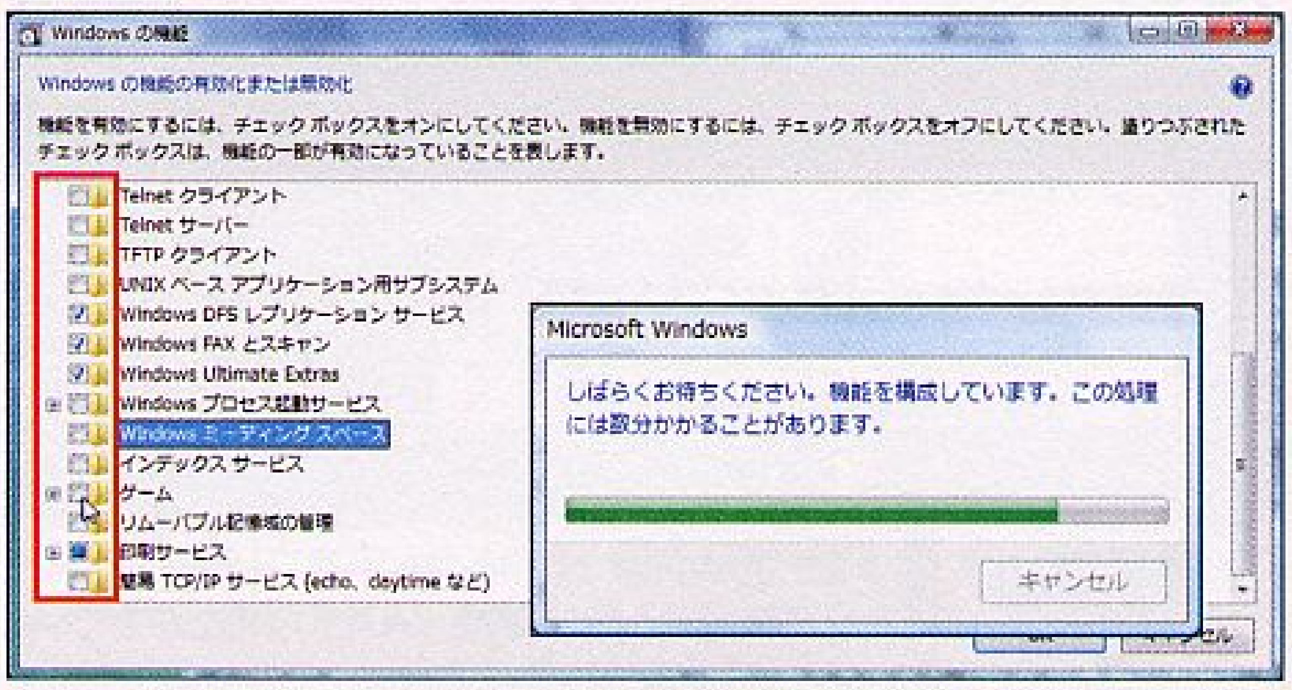
「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラム」をクリックする

2 「プログラムと機能」を開く



「プログラムと機能」項目から「Windowsの機能の有効化または無効化」をクリックする

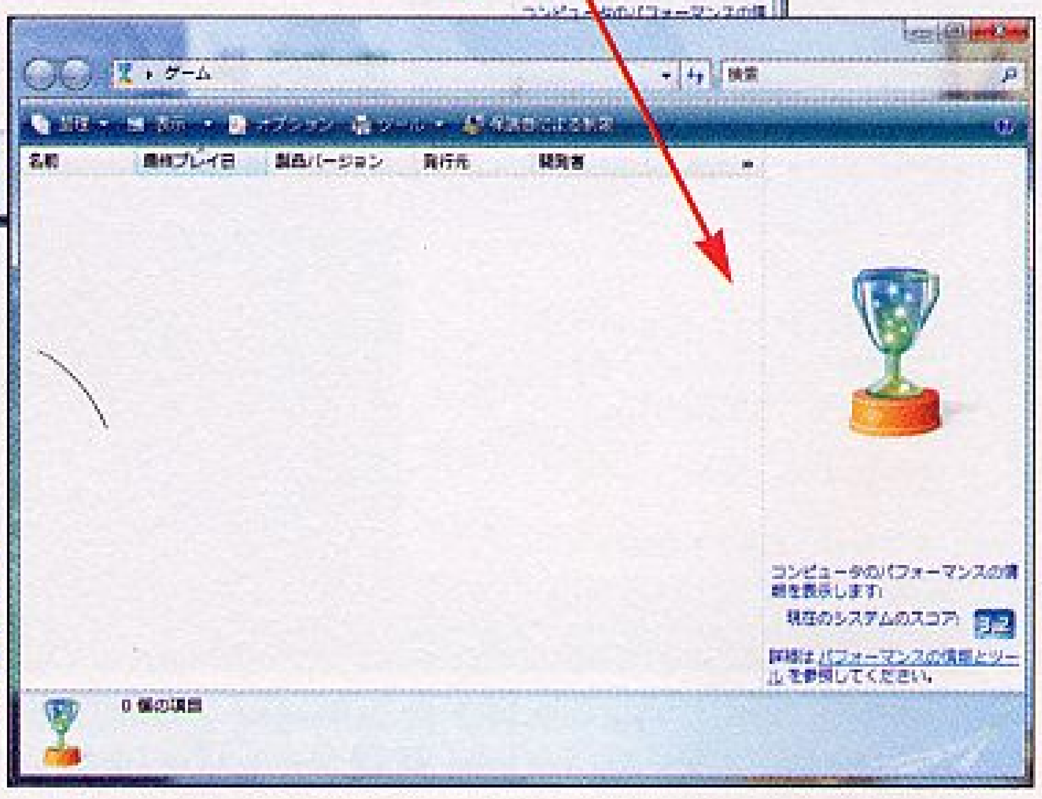
3 無効化したい機能を選択する



「Windowsの機能」画面が開いたら、無効化したい機能のチェックを外す。「+」があるフォルダなら、サブフォルダごとに無効化設定も可能だ。「OK」をクリックすると、処理画面が表示される

4 無効化を確認する

ここでは「ゲーム」を無効化したので、「スタート」メニューから「ゲーム」を開いてみよう



以前はゲームが入っていたのに、無効化後はなくなっている

ワンポイント 元に戻すには

無効化してしまった機能を元に戻したいときは、手順3のチェックボックスで再びチェックを入れればいい。また、元からオフになっている機能にチェックを入れて有効化することもできる。

難易度 難

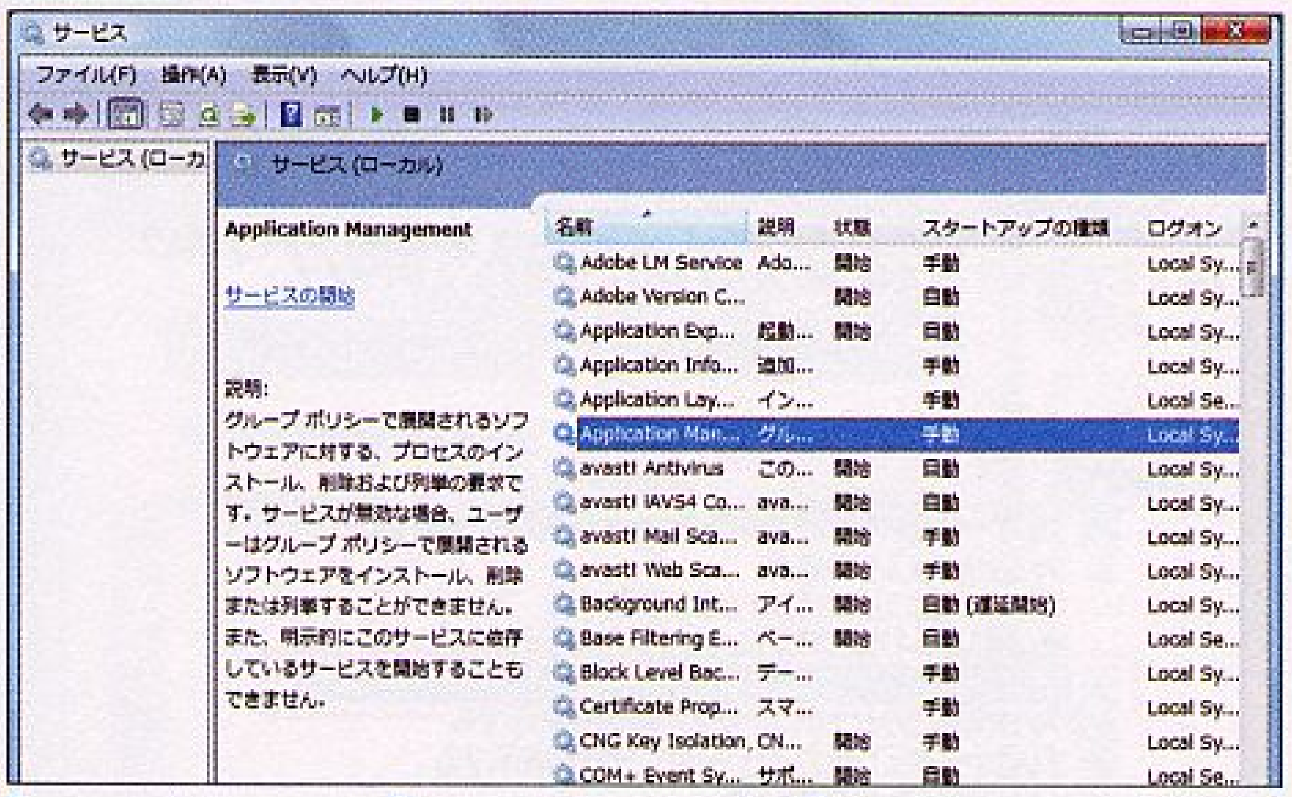
不要なサービスをオフにしてWindowsを高速化する

快適指数

効果
- ●余計な動作をしなくなるので全体的に高速化する
- ●メモリの空きが増えて動作が安定する

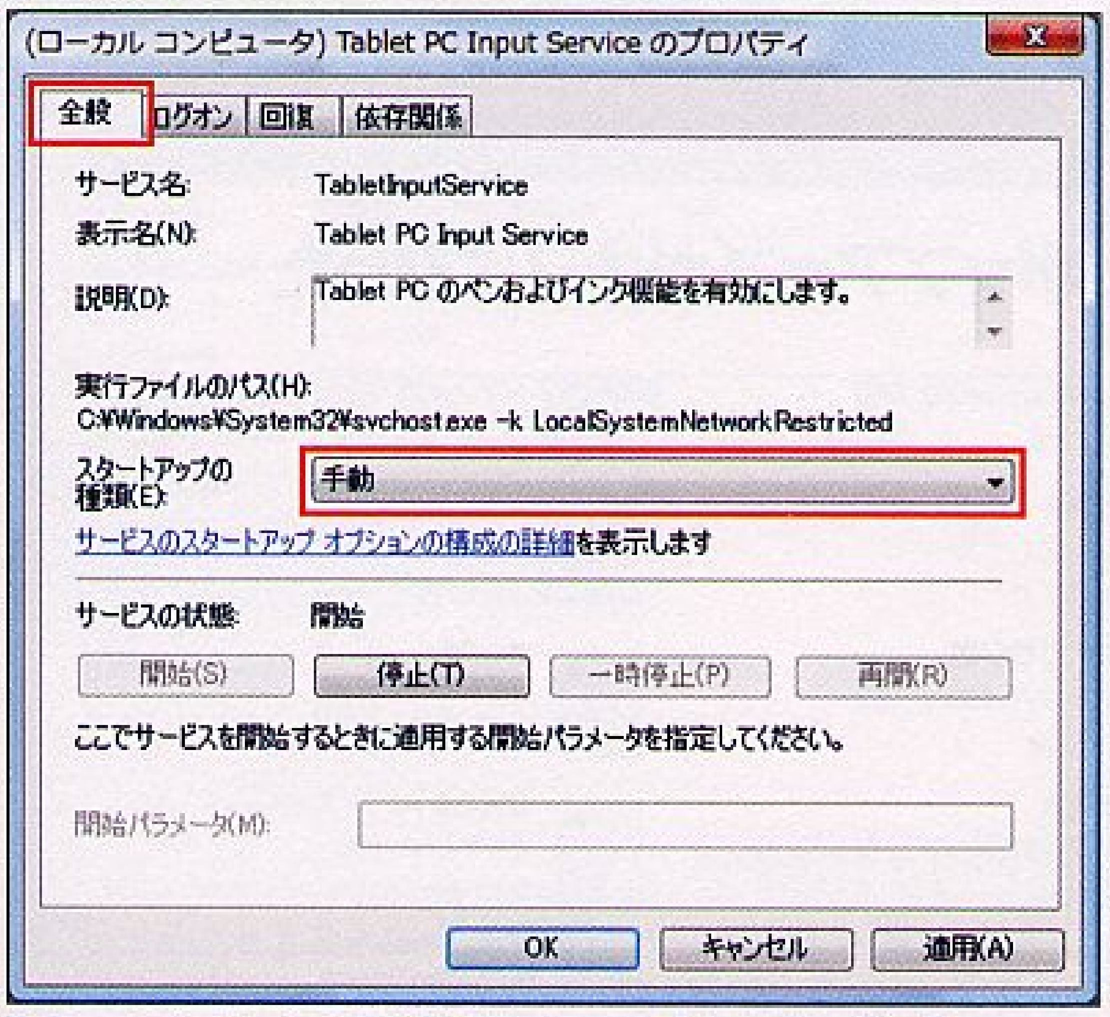
Windowsの初期設定では、さまざまな機能を実現するための「サービス」というプログラムが自動的に起動するようになっている。しかし、パソコンの使い方によってはまったく不要なサービスもあるので、そうしたサービスは起動しないように「無効」に設定しなおそう。そうすれば、他の処理が遅くなったり、メモリ容量が無駄に消費されるといったことが防げるわけだ。注意したいのは、一見してよく分からないサービスでも、必要である場合があるということ。インターネットで調べるなどして、明らかに不要なものだけを削除しよう。

1 「管理ツール」から「サービス」の一覧を確認する



「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」→「管理ツール」をクリック。「管理ツール」から「サービス」をダブルクリックして開く。「サービス」の一覧が表示されるので、オフにしたいサービス名をダブルクリックする。サービス名を選択すると左にサービスの説明が表示されるので参考にしよう

2 起動時の設定を変更する



「プロパティ」画面が表示されるので、「全般」タブの「スタートアップの種類」から「手動」か「無効」を選び、「OK」をクリックする

3 無効にしてもよいサービスの一例

Tablet PC Input Service	Tablet PC のペンおよびインク機能を有効にするサービス。Tablet PCを使っていないなら停止してもいい
Terminal Services	ユーザーがリモートコンピュータに対話的に接続できるようになるサービス。リモートデスクトップを使わないなら停止してもいい
Terminal Services Configuration	ターミナルサービスとリモートデスクトップに関連するサービス。リモートデスクトップを使わないなら停止してもいい
Windows Connect Now - Config Registrar	レジストラとして動作して、入会者にネットワーク証明書を発行するサービス。発行の必要がないなら停止してもいい
FAX	パソコンからファックスを送信できる機能。ファックス機能を使わないなら停止してもいい(Businessエディションのみ)
Netlogon	ユーザーとサービスを認証するため、このコンピュータとドメインコントローラ間でセキュリティで保護されたチャネルを管理するサービス。ドメインに参加していないなら停止してもいい
Remote Access Auto Connection Manager	プログラムにより、リモート DNS 名やリモート NetBIOS 名またはアドレスが参照された場合に、リモートネットワークへの接続を作成するサービス。リモート機能を使用しないなら停止してもいい
Remote Access Connection Manager	コンピュータからインターネットや他のリモートネットワークへのダイヤルアップ接続と仮想プライベートネットワーク(VPN)接続を管理するサービス。リモート機能を使用しないなら停止してもいい
Remote Procedure Call (RPC) Locator	RPCネームサービスデータベースを管理する。リモート機能を使用しないなら停止してもいい
Remote Registry	リモートユーザーがパソコンのレジストリ設定を変更できるようにする機能。リモート機能を使用しないなら停止してもい
Smart Card	スマートカード(外部メディア)へのアクセスを管理するサービス。停止するとスマートカードが読み取れなくなる。スマートカードを使用しないなら停止してもいい
Smart Card Removal Policy	スマートカード(外部メディア)をパソコンからはずしたときにパソコンをロックする機能。スマートカードを使用しないなら停止してもいい
Telephony	テレフォニーデバイスを制御するプログラムを使用してテレフォニー API(TAPI)を供給する機能。ダイヤルアップでモデム接続をする用途がなければ停止してもいい

Windowsの「サービス」には、初期設定から入っているものとソフトのインストールなどによって組み込まれるものがある。また複数のシステムに影響するサービスもあり、そうしたものを停止してしまうとパソコンに不具合が出てしまうものもあるので注意が必要だ。環境やパソコンの使い方によっては、無効にしてもいいサービスの候補例を上記の表に掲載したので参考にしよう

ワンポイント サービスの種類

Windowsのバージョンや使用環境によりサービスは異なる。そのサービスがどんなものかわからない場合は、サービス名をインターネットで検索して調べてみるといい。よくわからないものであれば無効にしないほうが無難だ。

難易度 易

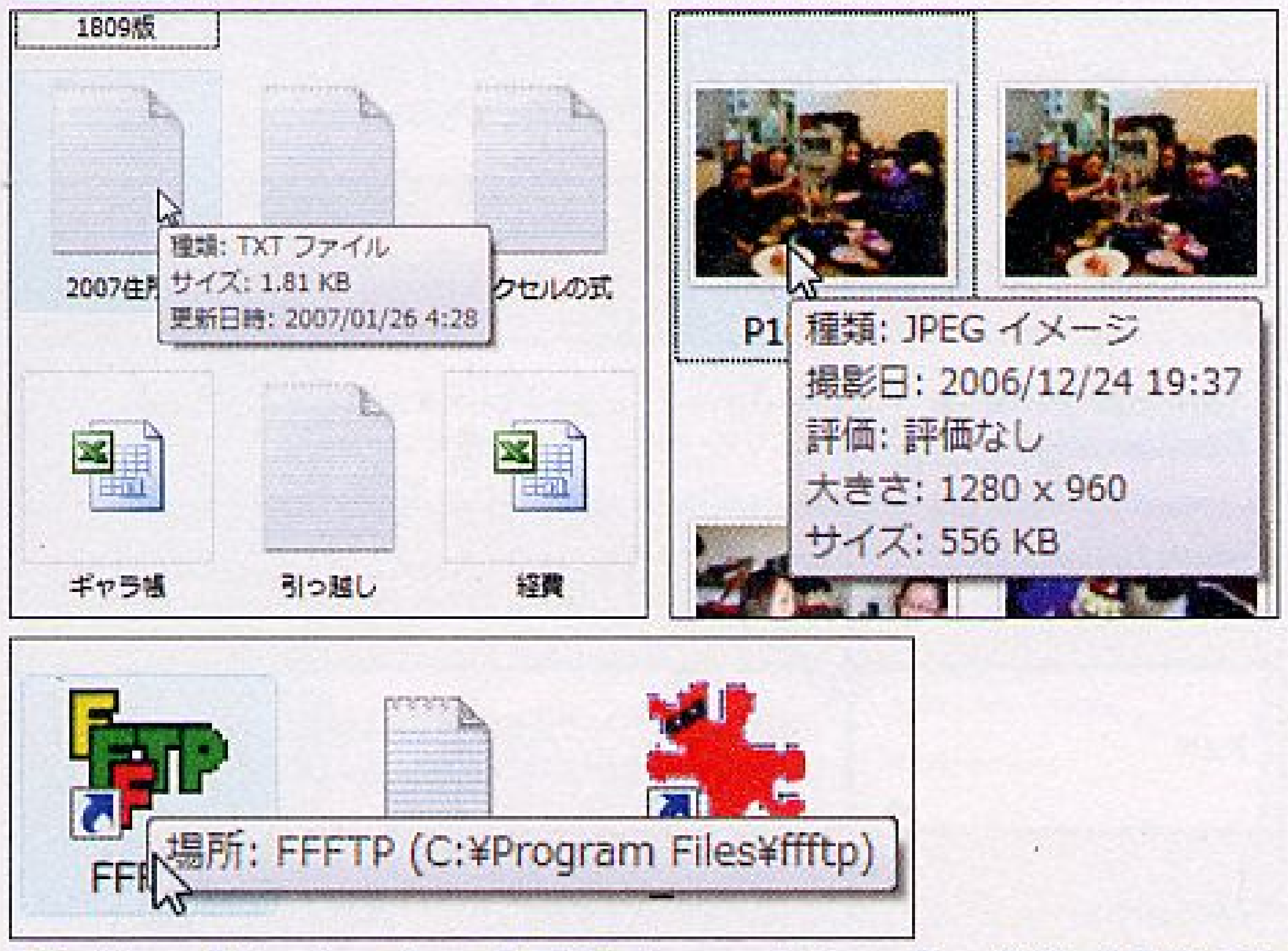
作業の邪魔になりがちなポップアップ表示をオフにする

快適指数

効果
- ●ファイルの選択がスムーズになる
- ●ポップアップでファイルが隠れることがなくなる

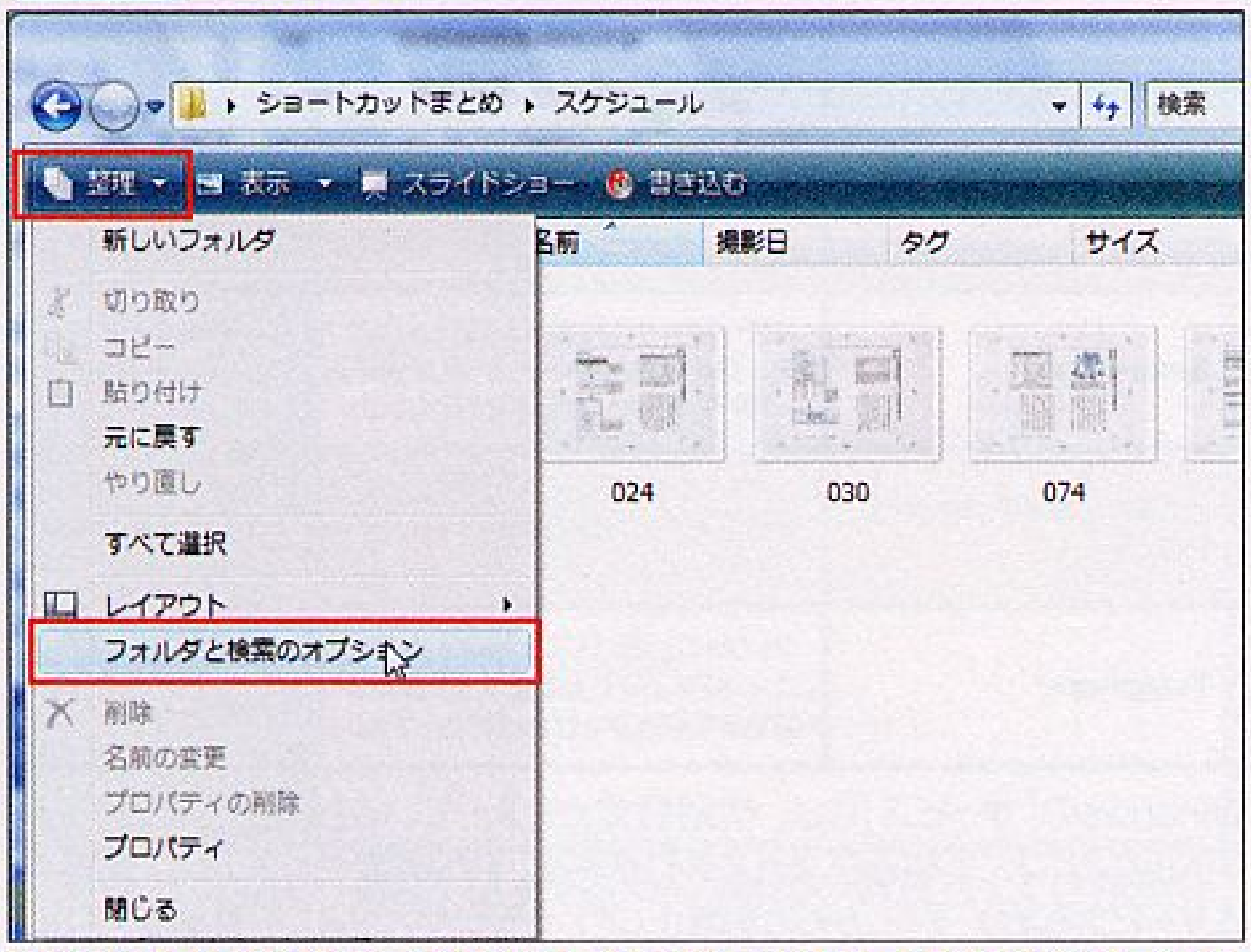
エクスプローラ画面で、ファイルにマウスポインタを当てると、そのファイルの「作成日時」「場所」「サイズ」「種類」「更新日時」などの詳細情報がポップアップで表示される。表示内容は、ファイルの種類によってさまざまだ。フォルダの表示形式が「詳細」でない場合、ファイルの詳細がわかるので便利なこともあるが、逆にポップアップの背後に他のファイルが隠れてしまって、邪魔に感じることも多いだろう。そんなときはこの機能を「オフ」にしてしまおう。これでマウスポインタをファイルに当てても詳細情報が表示されなくなる。

1 詳細のポップアップ表示が操作時に邪魔になる!



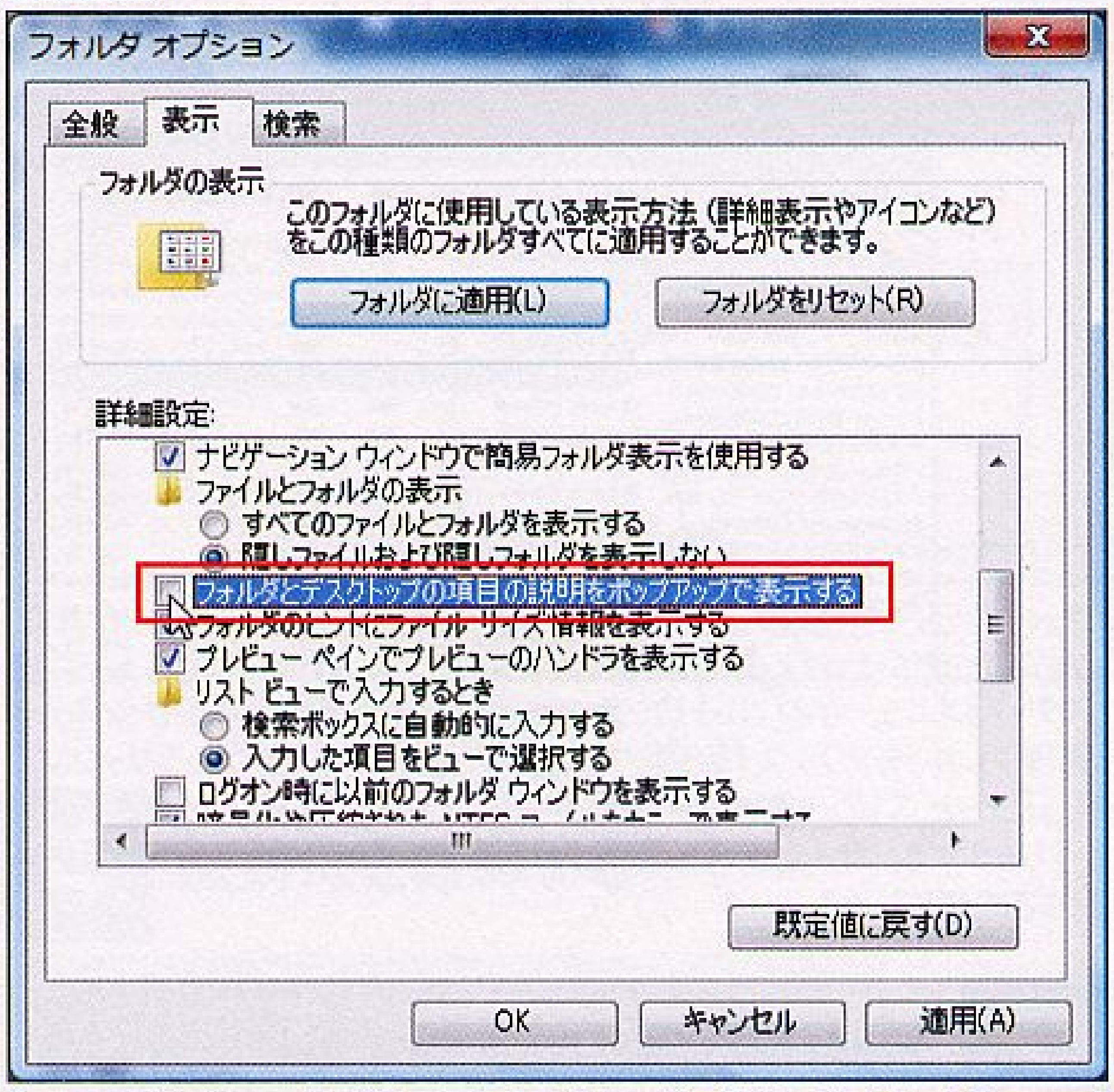
デスクトップやエクスプローラ画面で、ファイルにマウスポインタを当てると、そのファイルの詳細情報がポップアップで表示される。そのため、背後のアイコンやファイル名が隠れてしまい不便だ

2 「フォルダと検索のオプション」を開く



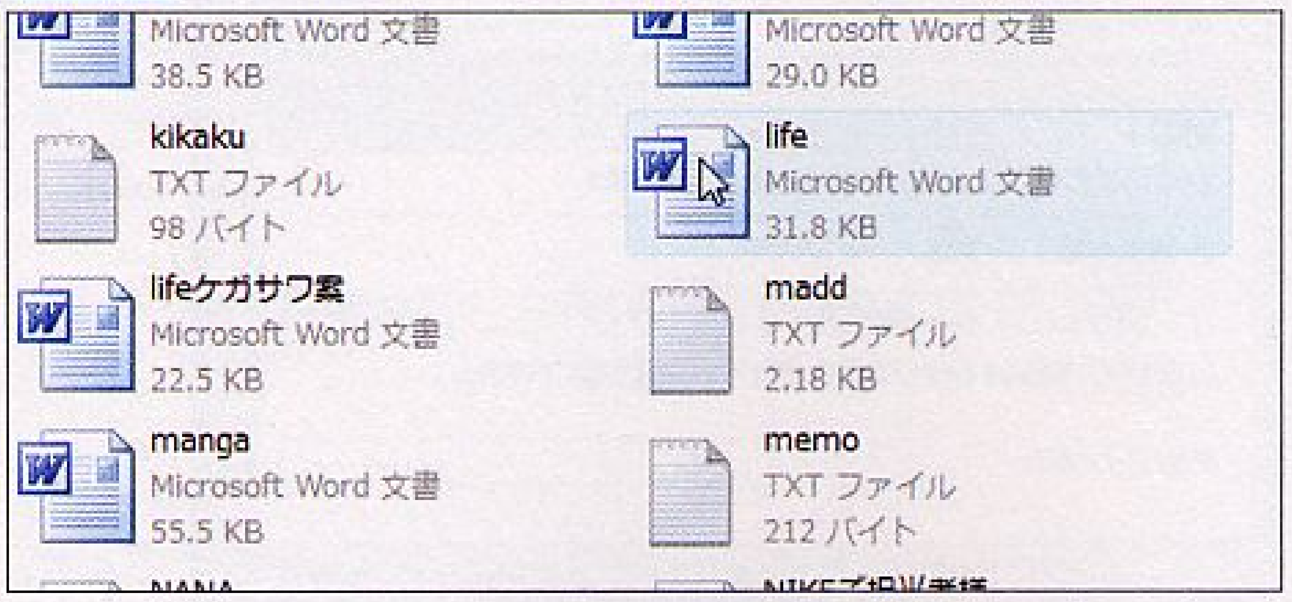
任意のフォルダを開き、「整理」のプルダウンから「フォルダと検索のオプション」を選択

3 ポップアップをオフにする



「フォルダオプション」が開いたら、「表示」タブの「詳細設定」から「フォルダとデスクトップの項目の説明をポップアップで表示する」のチェックを外して「OK」をクリックする

4 ポップアップがオフになった



マウスポインタをファイルの上に重ねても、詳細表示がポップアップ表示されなくなった。元に戻すには、「フォルダオプション」でまたチェックを入れればいい

Keyword フォルダオプション

フォルダオプションでは、フォルダに関係するさまざまな設定を行なうことができる。「拡張子」を表示させたり、「フォルダを開くたびに新しいウィンドウを作る」など、5ページや76ページを参照して設定を行なおう。

断然快速スピードアップ

難易度 難

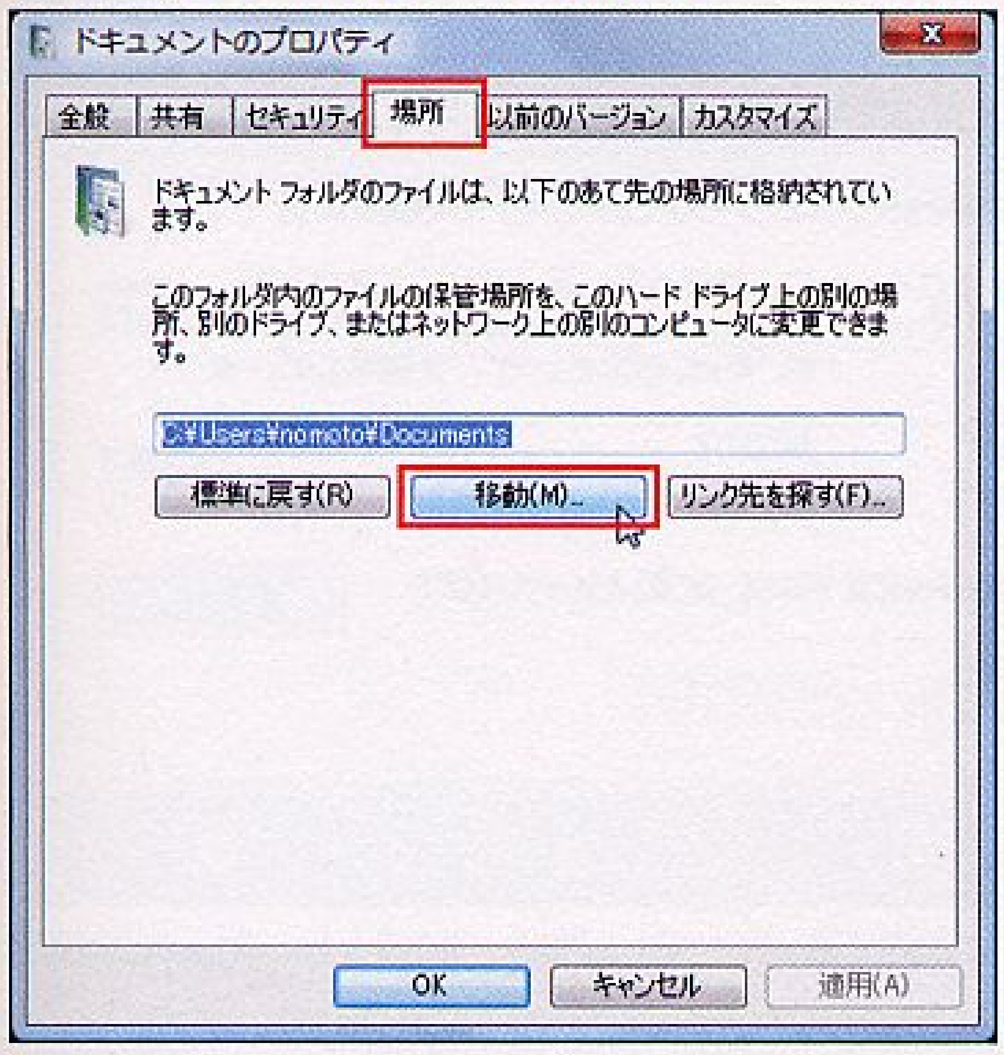
ドキュメントフォルダを移動してシステムの負担を軽減する

快適指数

効果
- ●メインドライブにかかるCPUの負担が減る
- ●パソコンが壊れた時のバックアップになる

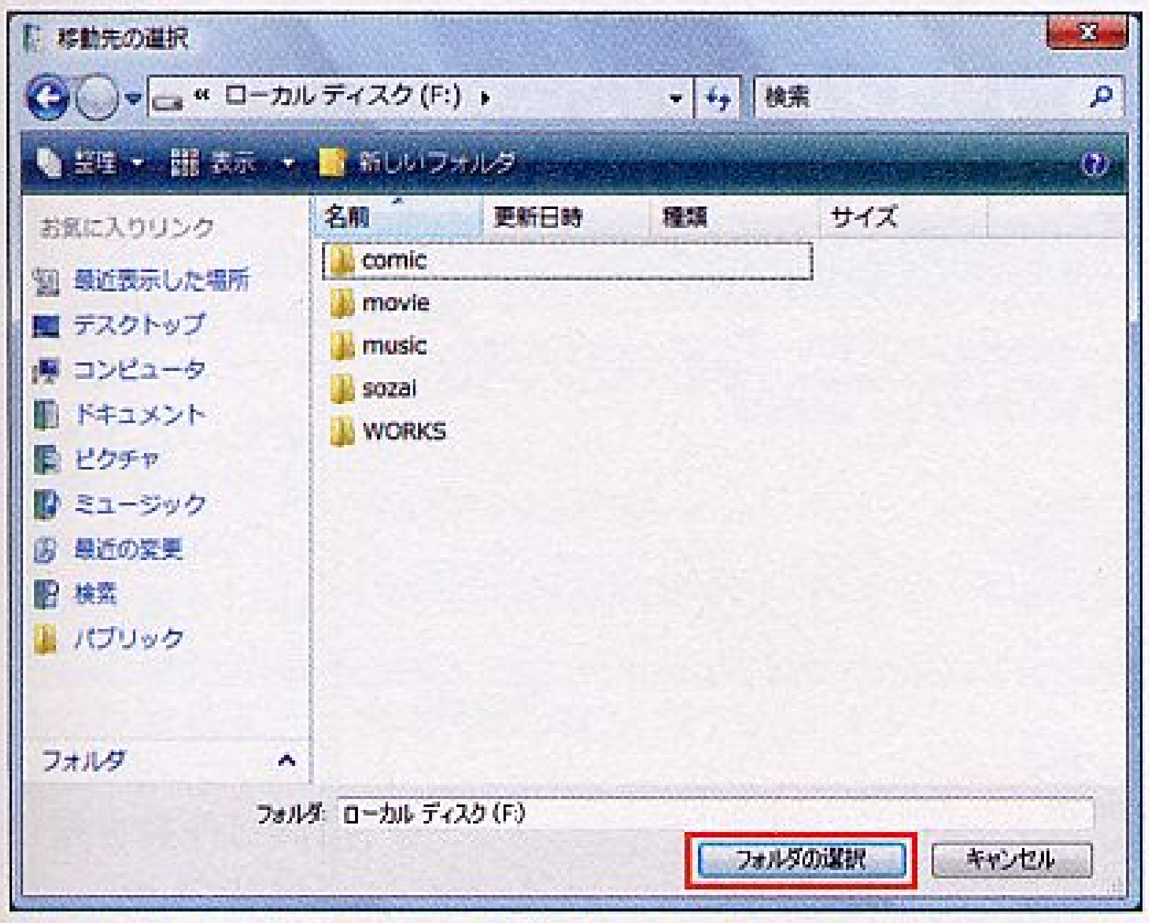
Windowsにはあらかじめデータの保存場所として「ドキュメント」フォルダが用意されている。一般のソフトなどでも特に保存先を指定しない場合は「ドキュメント」フォルダに保存されることが多い。このように頻繁に使われることの多い「ドキュメント」フォルダをCドライブ以外のドライブに移動させれば、メインドライブにかかるCPUの負担が減り、パフォーマンスが向上する。また、移動させた「ドキュメント」フォルダを重要データの保存先に指定しておけば、パソコンがクラッシュした際に取り出せる可能性が高くなるというメリットもある。

1 「ドキュメント」のプロパティを開く



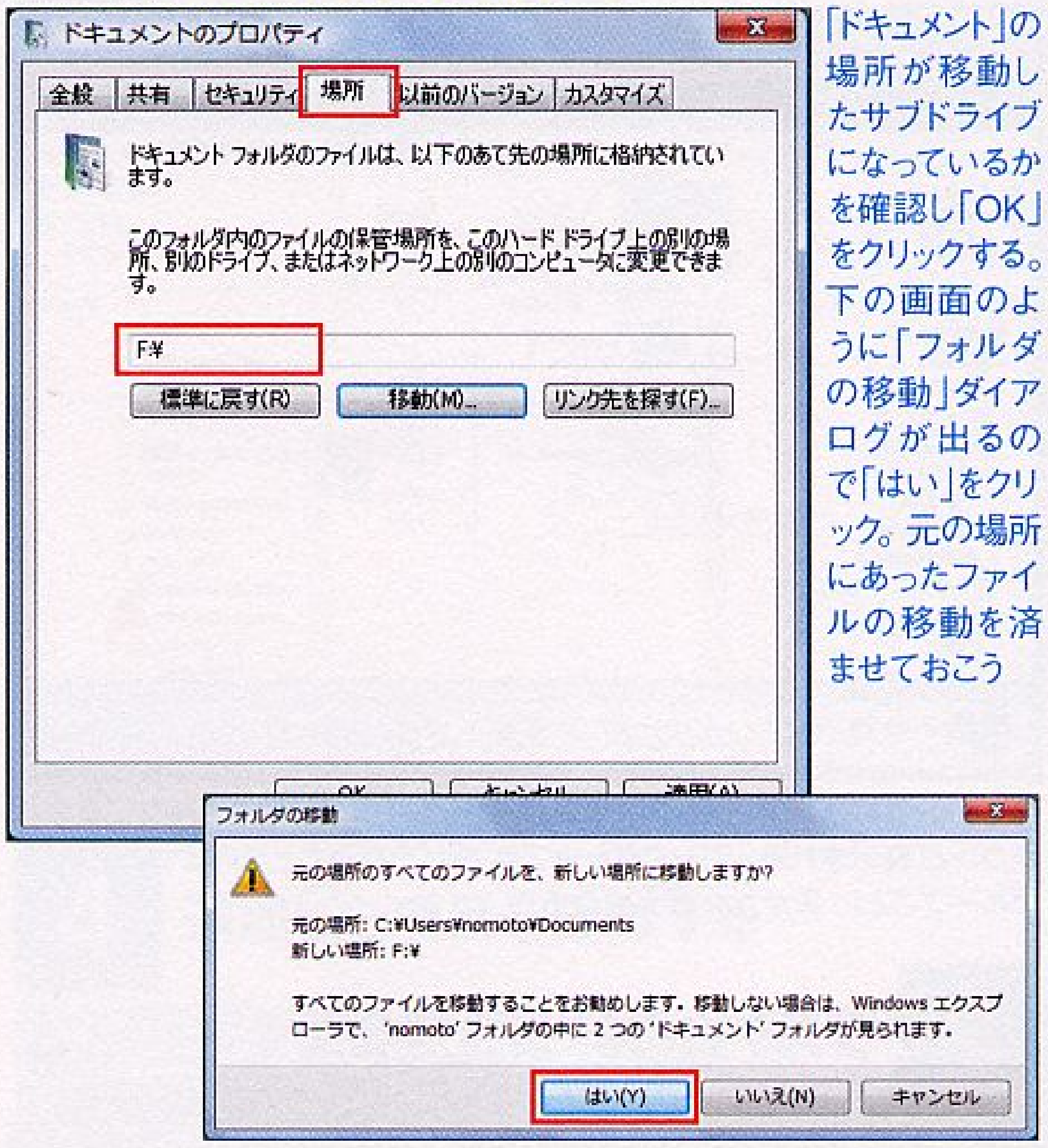
「スタート」メニューの「ドキュメント」を右クリックし、「プロパティ」を選択。「場所」タブをクリックし、「移動」ボタンをクリックする

2 移動先の選択をする



「ドキュメント」フォルダを移動したい場所を選択する。このとき、Windowsがインストールされているドライブ（通常はCドライブ）以外の場所を選ぶこと。ドライブをクリックし、「フォルダの選択」をクリックする（「新しいフォルダ」で新規フォルダを作成してもいい）

3 「ドキュメント」フォルダ内のファイルを移動する



「ドキュメント」の場所が移動したサブドライブになっているかを確認し「OK」をクリックする。下の画面のように「フォルダの移動」ダイアログが出るので「はい」をクリック。元の場所にあったファイルの移動を済ませておこう

注意! 「ドキュメント」を移動して不具合が出たら

ソフトによっては「ドキュメント」フォルダをデータの保存場所に設定しているものもある。この場合、「ドキュメント」フォルダを移動してしまうと、データを参照する際にファイルが行方不明の状態になってしまう。そうした不具合が出た場合は、ソフト側の設定で、ファイルの参照元を移動した「ドキュメント」フォルダの場所に設定しなおせばいい。それでも不具合が出てしまう場合には、3の画面で「標準に戻す」をクリックして元の場所に戻したほうがいいだろう。

Keyword 「ドキュメント」フォルダ
Windows OSが管理する特殊なフォルダ。Vista以前では「マイドキュメント」と呼ばれていた。メインドライブの故障に備えて「ドキュメント」を別ドライブに移動しておけば万が一のとき、ファイルを救出しやすくなる。

難易度 普

ワークグループ名を変更してLAN内のパソコン表示を高速化

快適指数

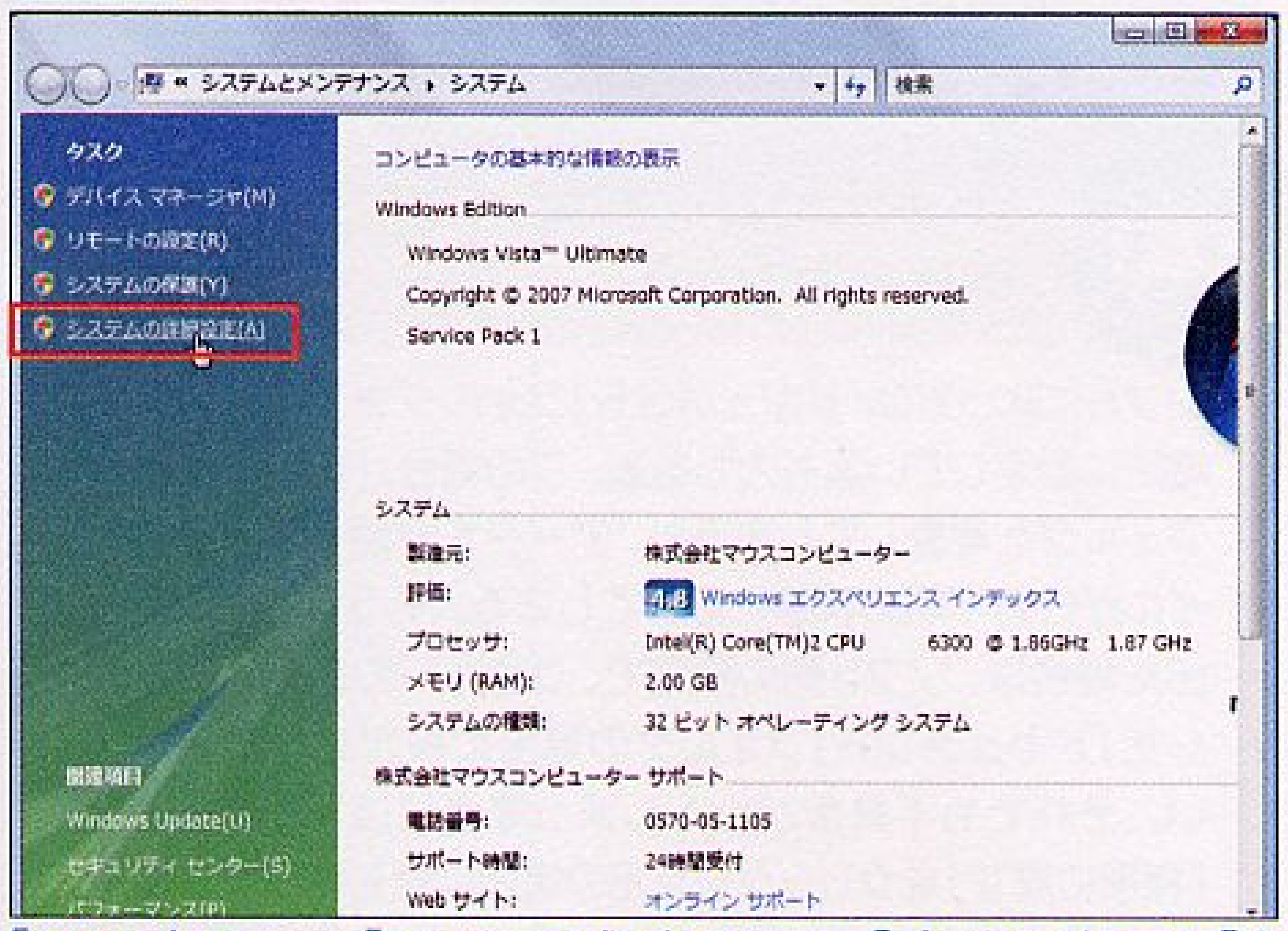
効果
●ネットワーク内にあるパソコンの表示が高速化する
●ファイル・プリンタ共有がしやすくなる

LAN内にあるパソコンは「スタート」メニューの「ネットワーク」から確認することができる。このとき、LAN内のパソコンを検索しているわけだが、表示されるまでに時間がかかることがある。これはパソコンのワークグループ名がバラバラで検索に時間がかかってしまうためだ。ワークグループ名はWindowsをインストールするときに個別につけたり、インストール済みのパソコンでは任意のワークグループ名が付けられているためバラバラになりがちだ。ワークグループ名を統一して、ネットワーク内のパソコン検索を高速化させよう。

1 ネットワークを参照してみる

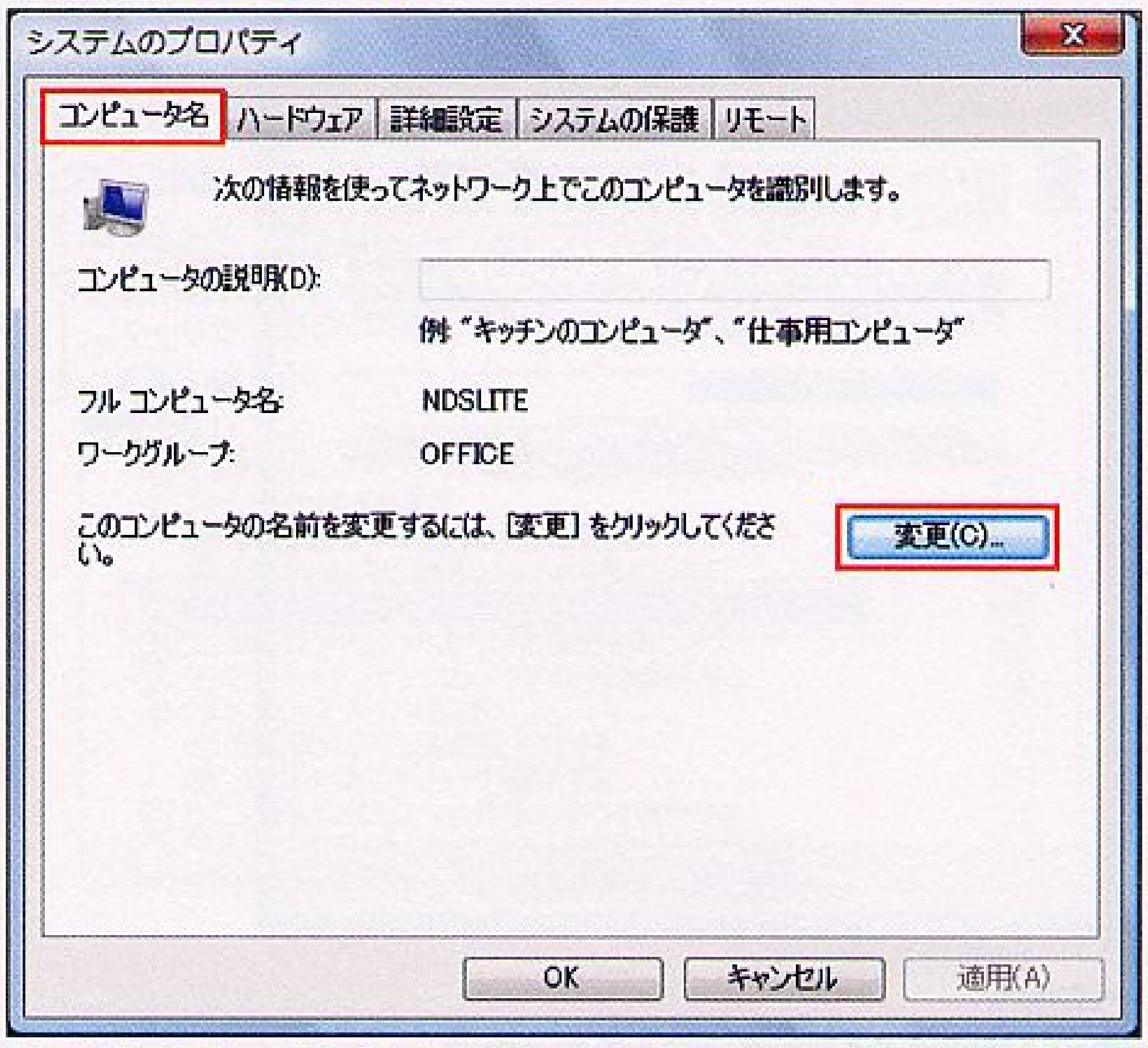
「スタート」メニューをクリックし、「ネットワーク」をクリック。LAN内にあるパソコンが表示される。ワークグループ名がバラバラだとこのように、ワークグループごとに分かれた表示となる

2 システムの詳細設定を開く



「スタート」メニュー→「コンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」を開く。「タスク」項目の「システムの詳細設定」をクリックする

3 ワークグループの名前を変更する



「システムのプロパティ」画面が開いたら、「コンピュータ名」タブの「変更」をクリックする

4 新しいワークグループ名を入力する

「ワークグループ」の入力欄に新しいワークグループ名を入力し、「OK」をクリック。例えば「WORKGROUP」で統一するなら、ワークグループ名が異なるパソコンすべてで同じ作業を繰り返せばいい

Keyword ワークグループ
ローカルエリア内にあるパソコンを識別しやすくするためのグループ設定。ワークグループ名はユーザーの任意の名称に変更可能。同一のワークグループ名に設定するとフォルダやプリンタの共有がしやすくなる。

難易度 **易**

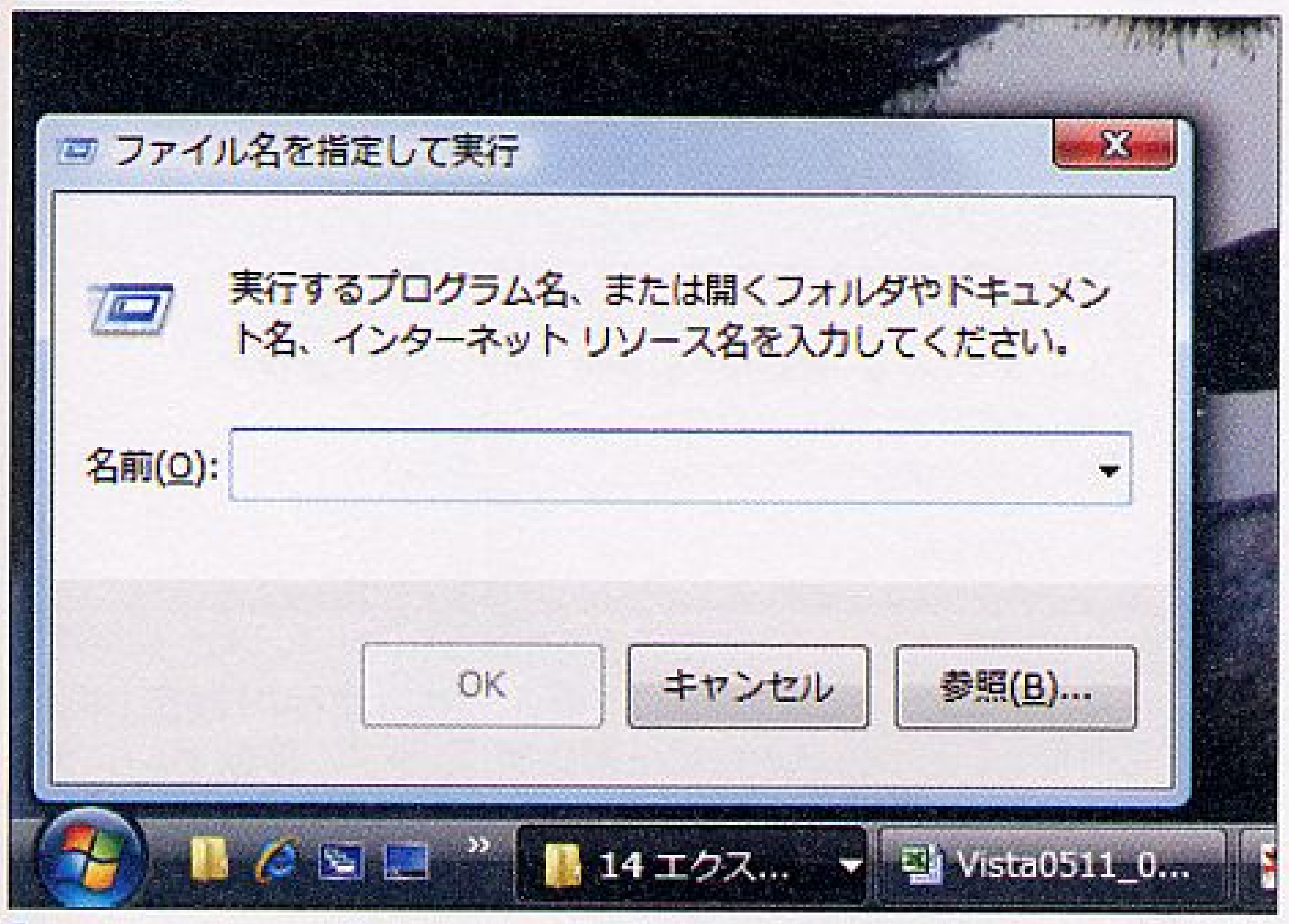
右クリックメニューの「送る」によく使うフォルダを登録する

快適指数

効果
- ●登録したアプリケーションですばやくファイルを開ける
- ●ファイル移動が簡単に行なえる

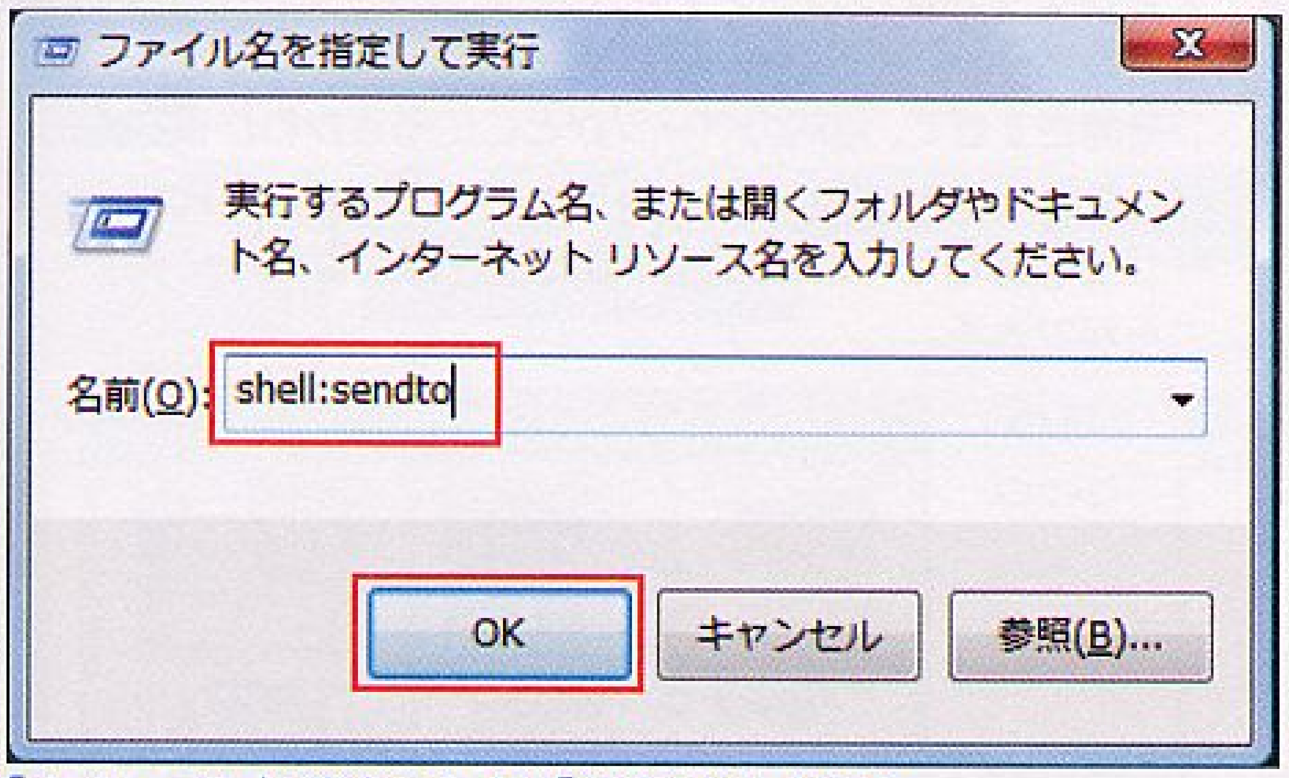
フォルダやファイルなどを右クリックすると現れるメニューの中に「送る」という項目がある。初期設定では「圧縮（zip形式）フォルダ」や「ドキュメント」などが登録されており、例えば、ドキュメントに移動させたいファイルを右クリックし、「送る」→「ドキュメント」とすれば「ドキュメント」フォルダを開くことなく移動できる。この「送る」メニューをさらに使いこなしたいなら、好きなソフトやフォルダを追加してみよう。頻繁に使うフォルダや、好みの圧縮・解凍ソフトを設定しておくと便利だ。

1 「ファイル名を指定して実行」を開く



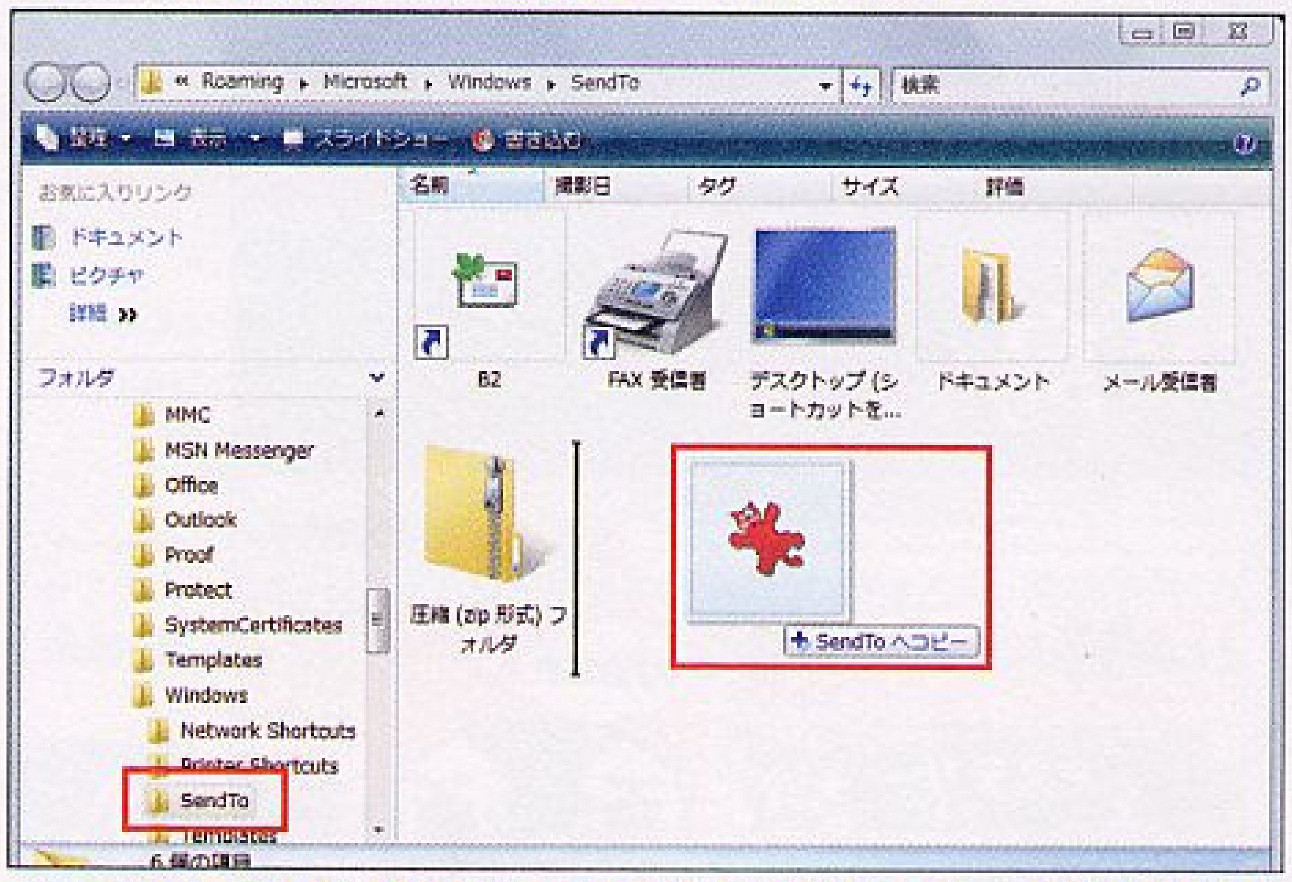
「Windows」キー＋「R」キーを押し、「ファイル名を指定して実行」を開く

2 「SendTo」フォルダを開く



「shell:sendto」と半角で入力し「OK」をクリックする

3 「送る」に追加したいフォルダやソフトを登録する



「SendTo」フォルダが開いたら、「送る」に追加したいフォルダやソフトなどのショートカットをドラッグ＆ドロップする

4 追加した項目を確認する

適当なファイル、フォルダを右クリックし、「送る」を選択すると、3で追加したショートカットが増えているはずだ

ワンポイント 追加した「送る」項目の削除

3で開いた「SendTo」フォルダから、不要になったショートカットを削除すればいい。削除するのはショートカットなので、ソフト本体に影響はない。

難易度 易

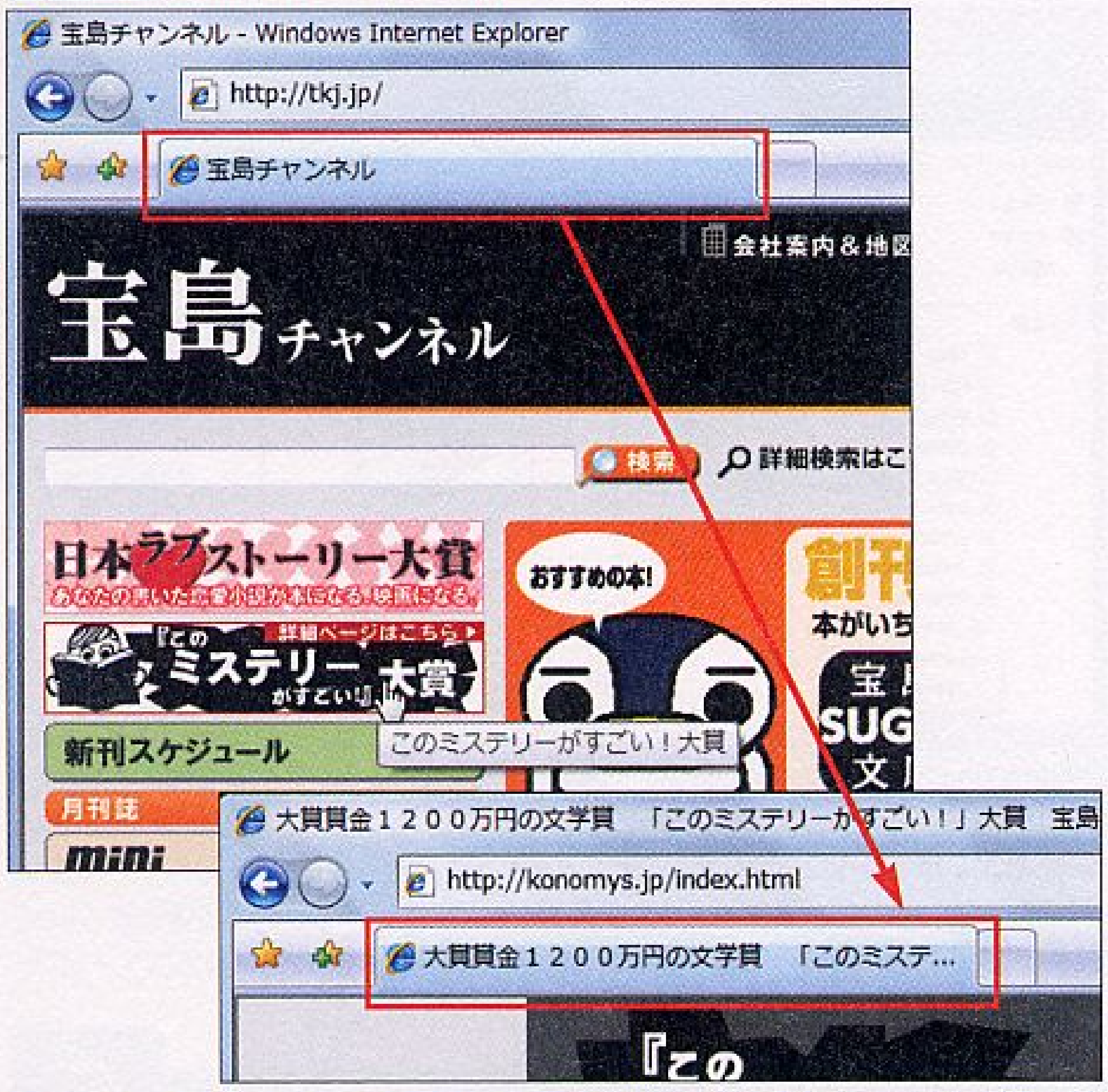
新しいタブでリンクを開き効率よく複数ページを閲覧する

快適指数

効果 ●元のページを開いたままリンク先のページを閲覧できる
●複数のWebサイトをまとめて見られる

ニュースサイトのように、1ページ内に多数の見出し(リンク先)を持つページでは、色々な見出しをクリックして内容をチェックしたいもの。しかし普通にクリックしてしまうと、次のページに移動してしまうため、再び「ニュース一覧」を表示するためにはいちいち「戻る」の操作が必要になる。また、リンク先のページ内から更に次のリンクをクリックしたりすると、元のニュース一覧に戻れなくなってしまうこともある。こんなときは、「Ctrl」キーを押しながらリンクをクリックし、新しい「タブ」で開くようにすればいい。

1 リンクを開くとページが切り替わってしまう

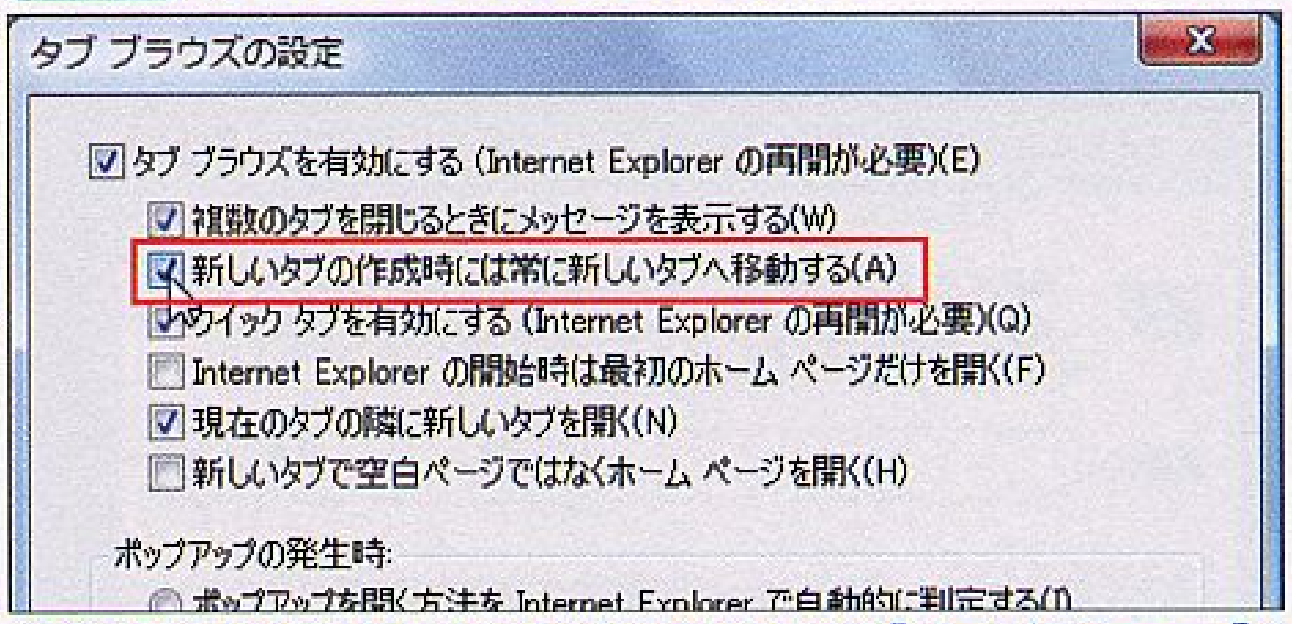


通常、ページ内のリンクを開くと表示されているタブ内でページが切り替わるため、前の記事に戻るには「戻る」ボタンをクリックしなければならない

2 「Ctrl」キーを押しながらリンクを開く

リンクを開くときや、画像を開くときに「Ctrl」キーを押しながらクリックすると、そのページが新しいタブで開かれる。どんどんリンクをクリックしても、そのつど新しいタブで開かれるので、元のページのタブは常に残っている

3 新しく開いたタブを表示させる設定にする



タブを追加する際、新しいタブを表示させたいなら「ツール」メニュー→「インターネットオプション」の「全般」タブを開き、「タブ」項目の「設定」ボタンをクリック。「新しいタブの作成時には常に新しいタブに移動する」にチェックを入れよう

もっと快適!!テクニック 複数のページを一覧表示で確認する

タブの左にある「クイックタブ」ボタンを押すと、現在開いているページがサムネイルで一覧表示される。たくさんタブを開きすぎて、目的のページがどこにあるかわからなくなってしまったときに、ひとつひとつタブを切り替えてページを確認しなくても、クイックタブを使えば簡単に探すことができる。

サムネイル表示されたページをクリックすれば、そのページが表示される。また、サムネイル右上の「×」をクリックすれば、そのタブを閉じることができる

ワンポイント 新しいウィンドウで開く

リンク先を新しい「タブ」ではなく、新しい「ウィンドウ」で開きたい場合は、「Shift」キーを押しながらリンクをクリックする。またはリンクを右クリックし「リンクを新しいウィンドウで開く」を選べばいい。

難易度 易

開いているタブをまとめて保存し同じ状態ですばやく復帰

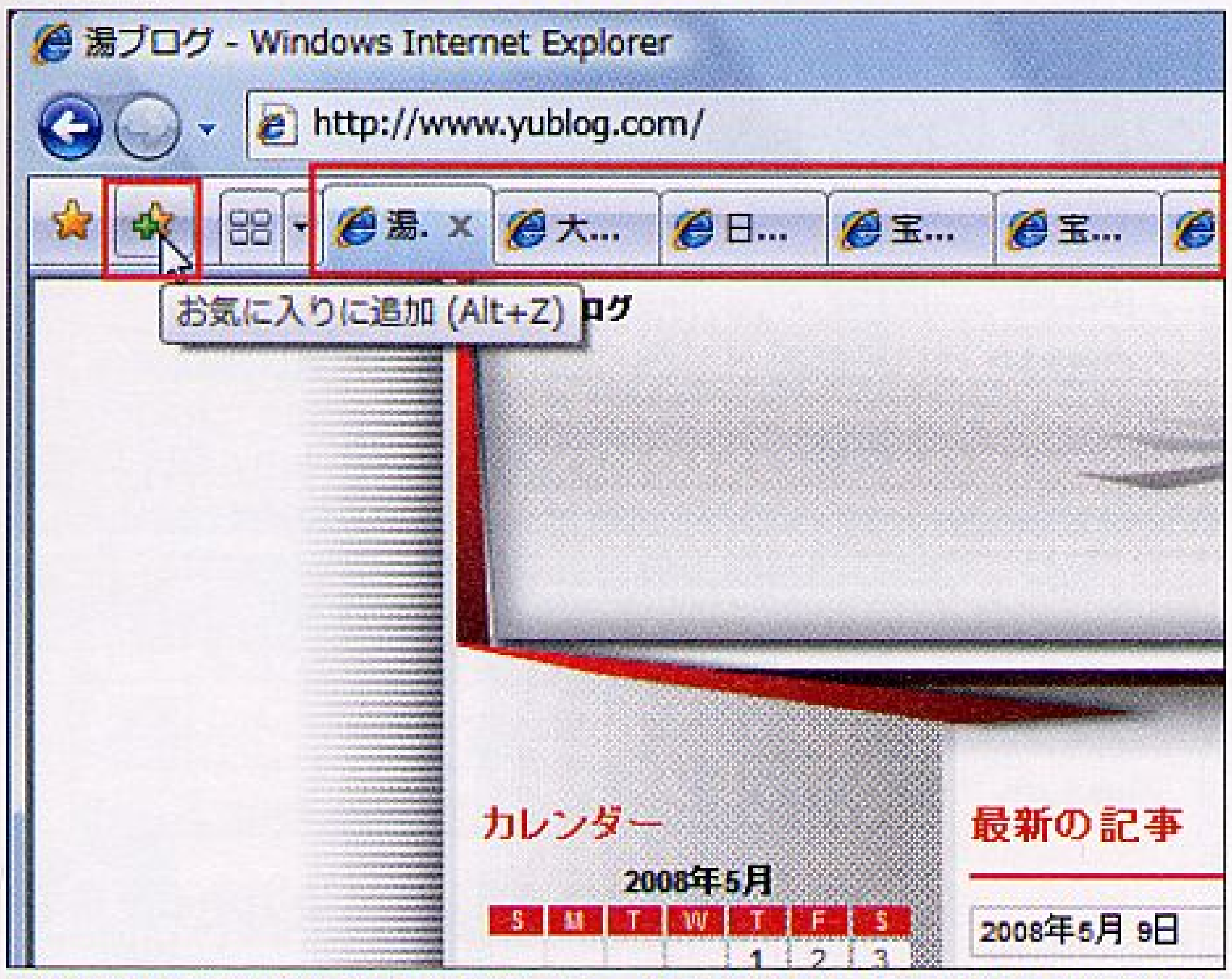
効果絶大ワザ10選

快適指数

効果
●複数のタブをまとめて「お気に入り」に追加できる
●複数の「お気に入り」を一気に開くことができる

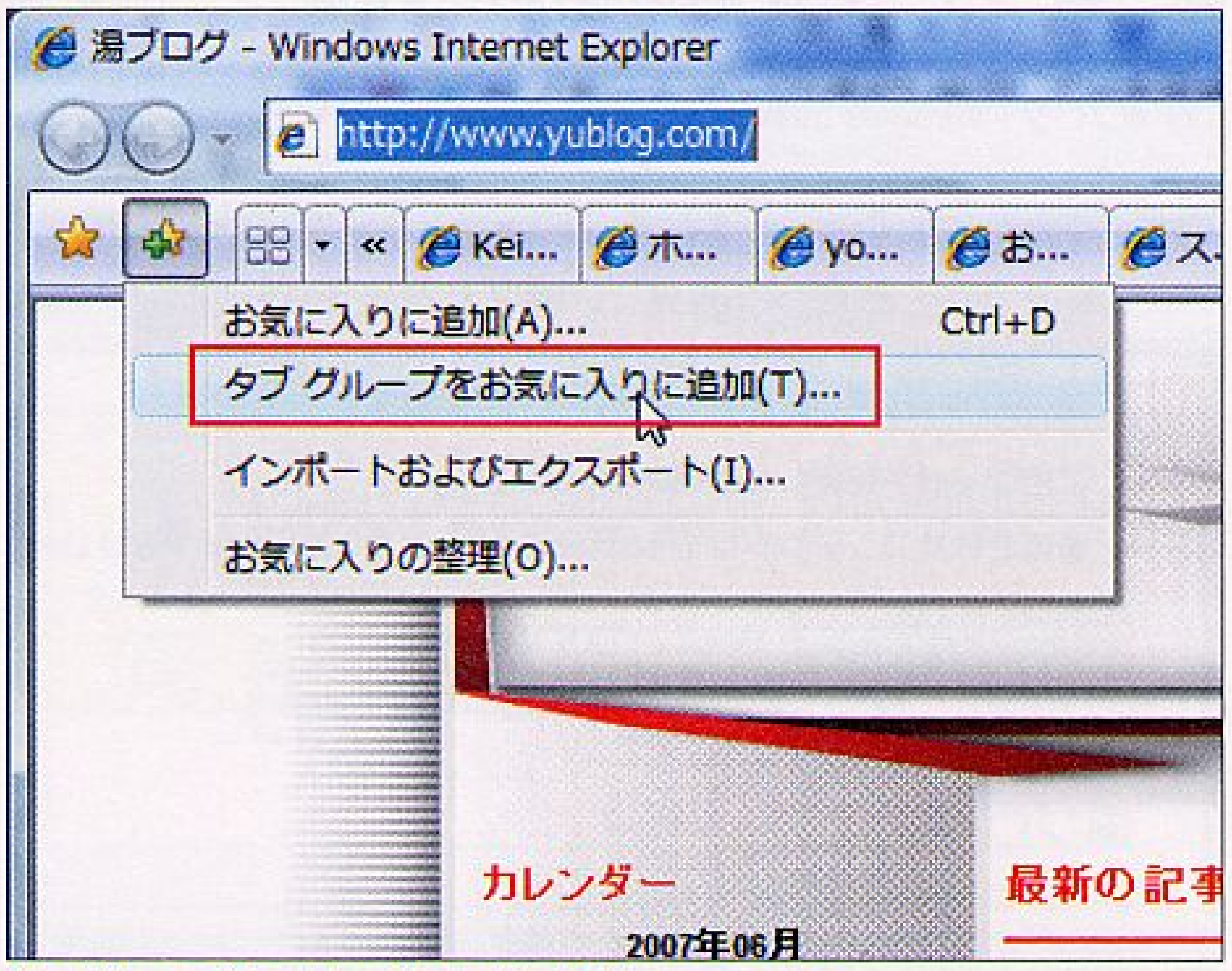
例えば会社でインターネットで調べ物をしていて、たくさんのタブを開いているとする。そのうち帰宅時間になってしまい、パソコンの電源を落とすためブラウザを閉じてしまうと、次の日に作業を再開するとき前の日に見ていたサイトを履歴などから開きなおさなければならない。そんなときは開いているタブをまとめて「お気に入り」に追加してしまおう。といってもひとつずつ追加するのではなく、開いているタブを「タブグループ」として登録できる。追加した「タブグループ」は「お気に入り」から開くことができる。

1 たくさんのタブを開いたまま「お気に入り」に追加する



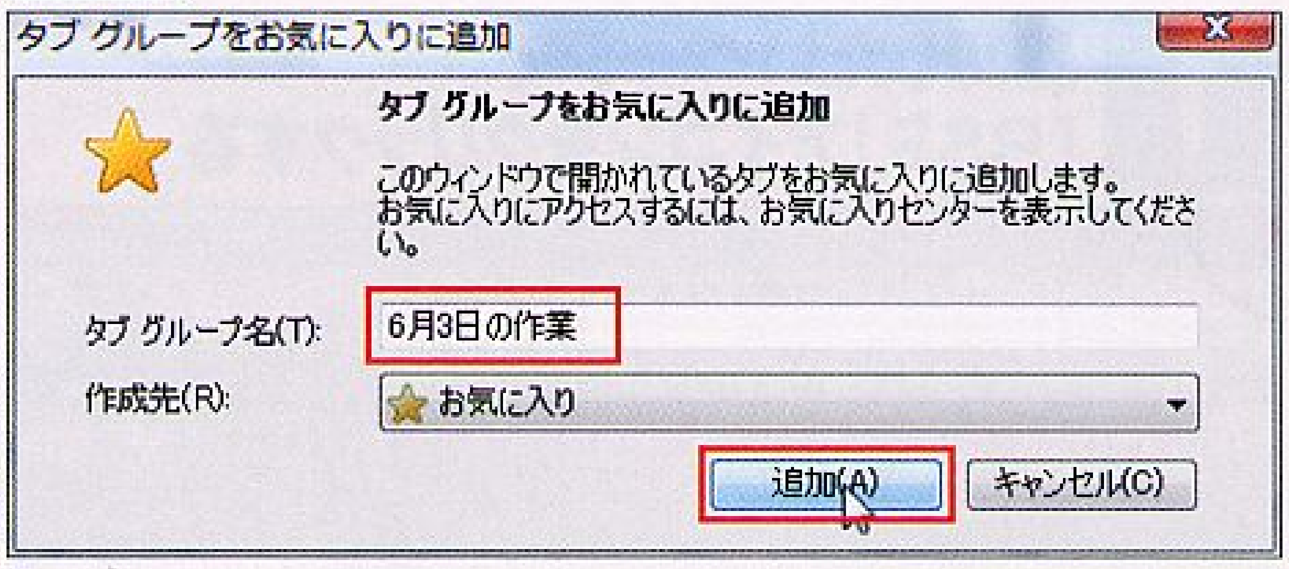
作業途中でたくさんのタブが開いている状態のまま、「お気に入りに追加」ボタンをクリック

2 「タブグループ」を追加する



「タブグループをお気に入りに追加」をクリックする

3 「タブグループ」に名前を付ける



「タブグループ名」はあとでわかりやすい名前にしておこう。名前を付けたら「追加」をクリック。これで、「お気に入り」にフォルダとして追加された

4 タブを確認する

「お気に入り」を開き、作成したフォルダの右端にある矢印をクリックする。すると、そのフォルダ内に登録してあるページが一気にタブとして開く

ワンポイント タブの復元

IEを終了するとき、すべてのタブを閉じるかどうかの確認メッセージが出る。このときオプションから「次回Internet Explorerを～」を選択すれば、終了時に開いていたタブが、次回起動時に復元される。

難易度 普

お気に入りブログの更新情報はアクセスせずに自動取得

効果絶大ワザ10選

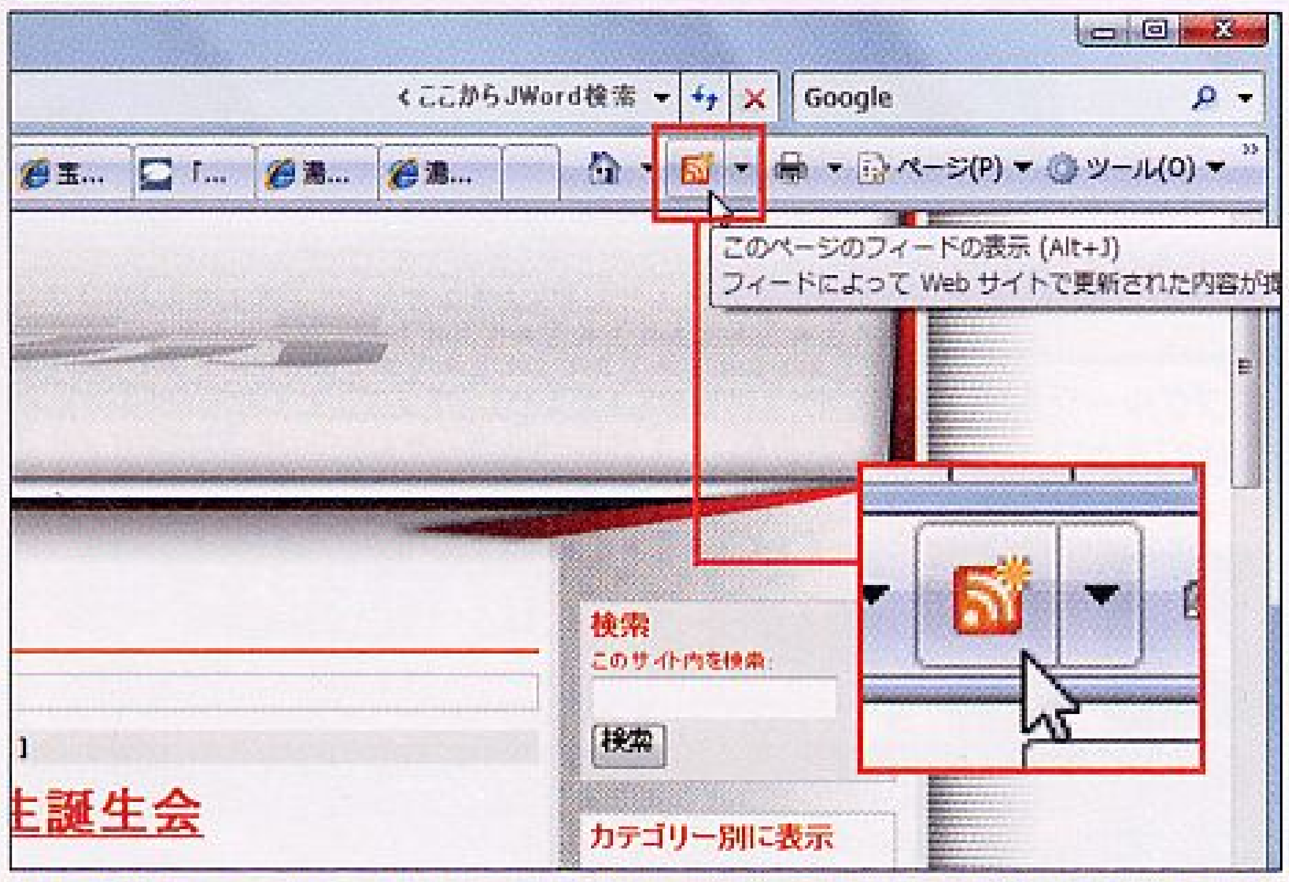
快適指数

効果
●好きなサイトの更新状況がページにアクセスしなくてもわかる
●オークションの最新出品もチェックできる

ブログやオークションの出品情報、気になるニュースなど、情報の更新を調べるには、いちいちサイトを巡回しなければならず面倒なもの。そこで利用したいのが「RSS」だ。RSSとは、Webサイトの見出しや要約などを記述するフォーマットのこと。RSSに対応したサイトはRSSリーダーなどに登録すると、更新情報を自動で取得して表示させることができる。わざわざそのサイトにアクセスしなくても更新情報をチェックできるのだ。IE7はこのRSS取得機能を搭載しているため対応サイトを登録すれば自動的に更新を確認してくれる。

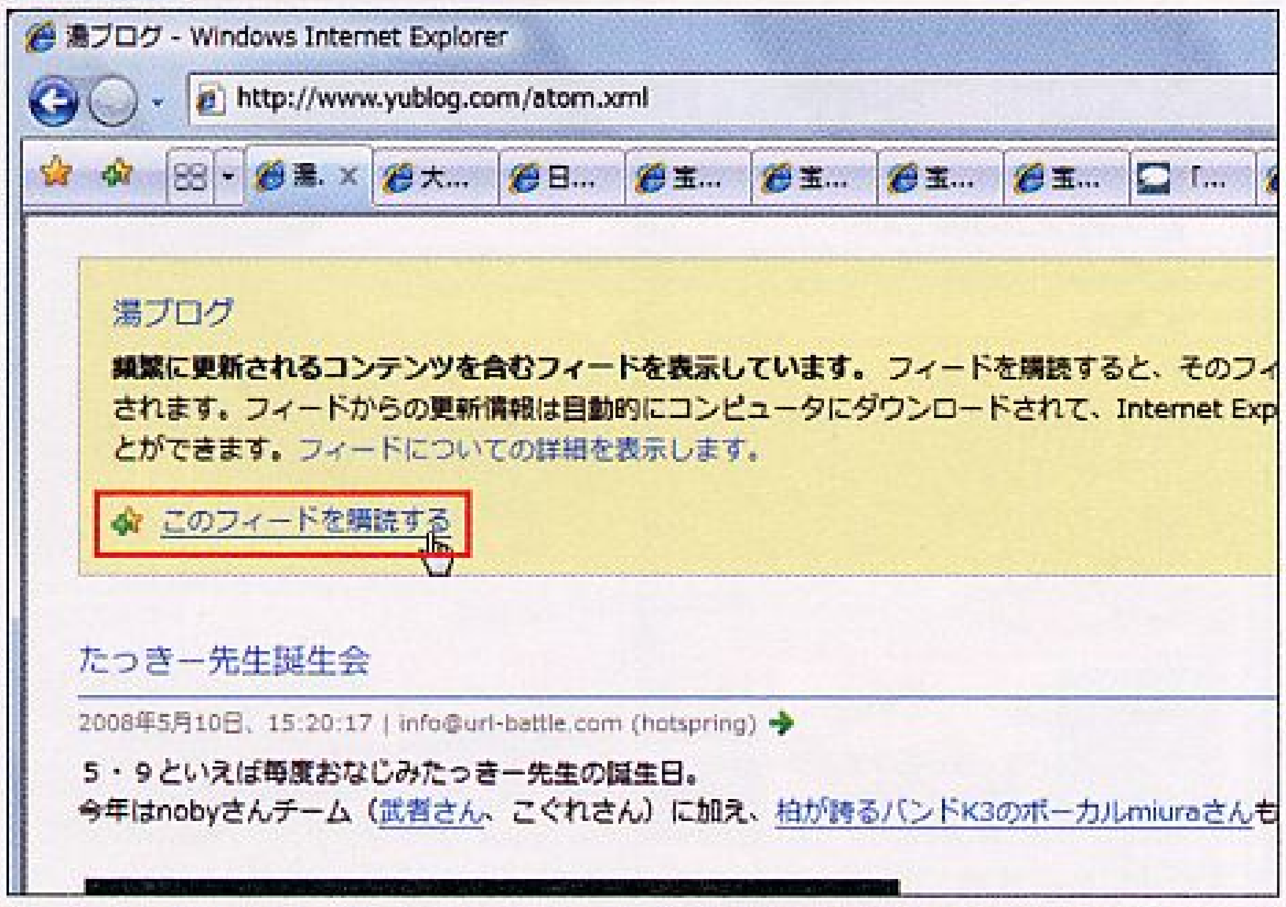
RSSフィードを購読する

1 登録したいページで「RSS」アイコンをクリックする



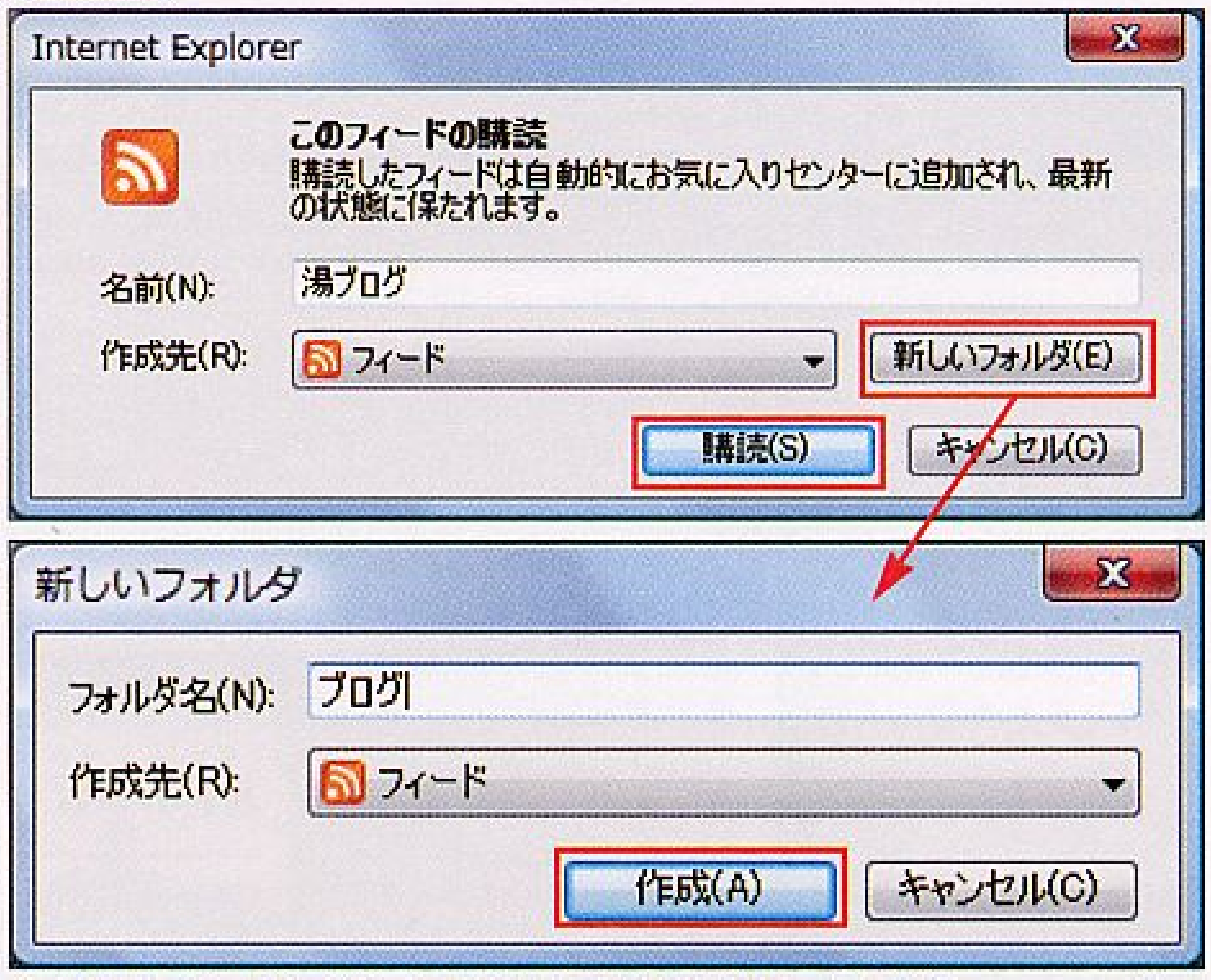
RSS対応ページにアクセスするとInternet Explorer 7の「RSS」アイコンが有効になるのでクリックする

2 フィードが表示されるので購読をする



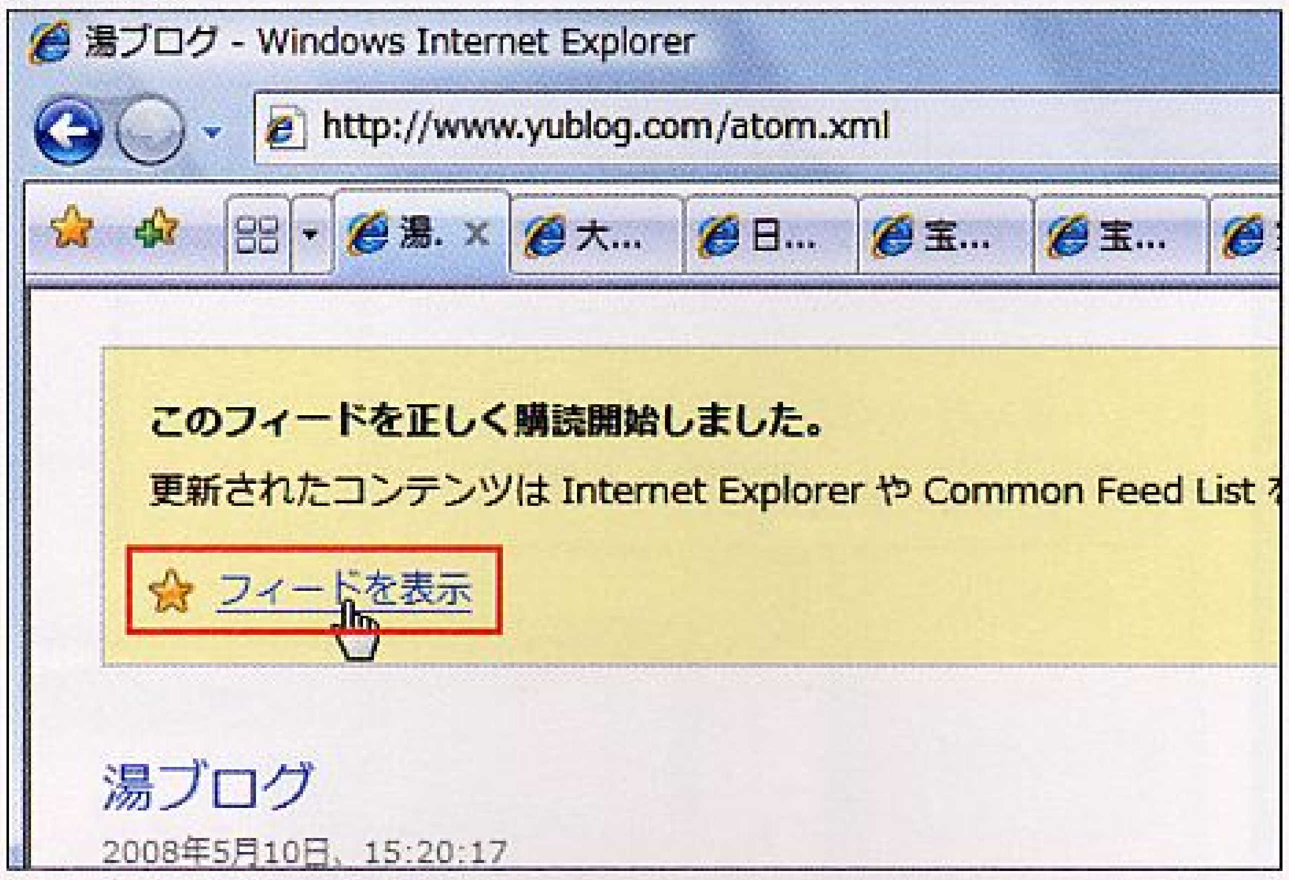
サイトの要約である「フィード」が表示される。このサイトの更新情報を自動的に取得したい場合は「このフィードを購読する」をクリック

3 フィードの登録場所を指定する



名前を入力し、「作成先」で登録する場所を選択する。「新しいフォルダ」でフォルダを作成すれば「お気に入り」と同じように分類・整理ができる。設定が終わったら「購読」をクリック

4 フィードが購読開始される



正しく追加されると「このフィードを正しく購読開始しました。」という画面になる。確認するために「フィードを表示」をクリックする

Keyword RSSフィード

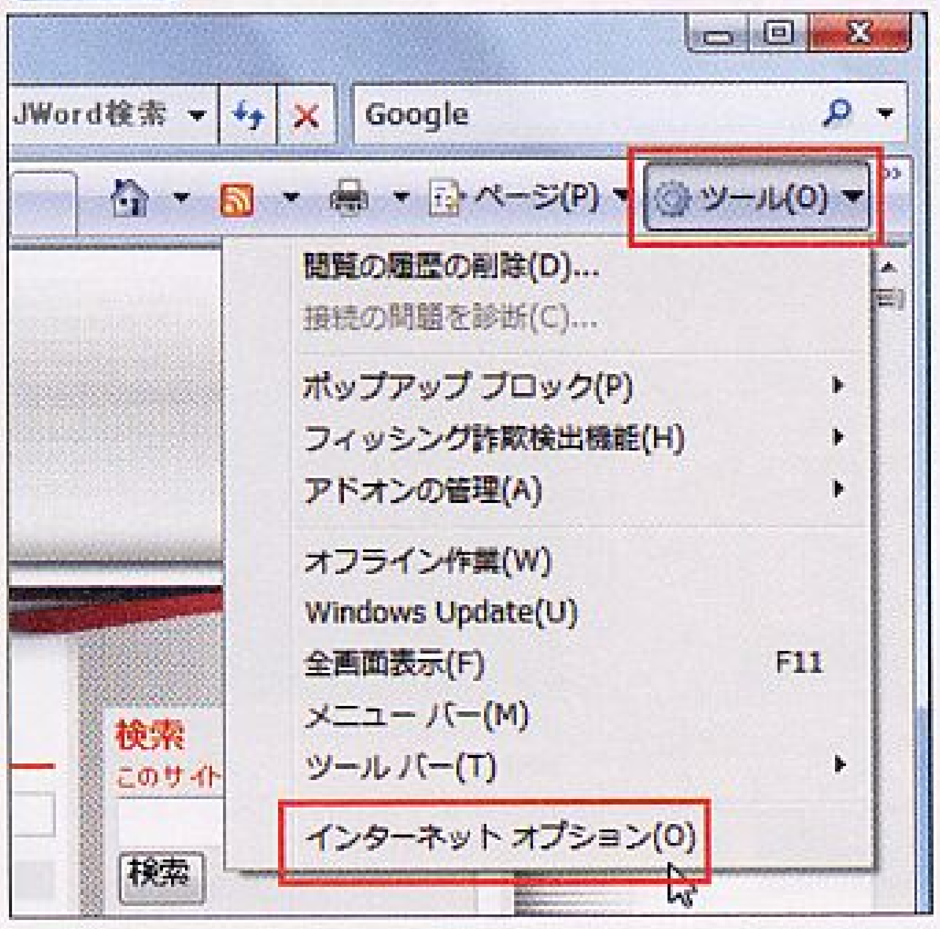
Webサイトが RSSフォーマットで更新情報を提供すること。また提供されたRSSデータを指す。ブログのほとんどはRSSフィードに対応している。またWebサイトでもRSSフィードを提供しているところが増加している。

5 更新情報を確認する

「お気に入りセンター」の「フィード」タブに購読を開始したサイトが入っている。サイト名をクリックすると更新されたフィードが表示される

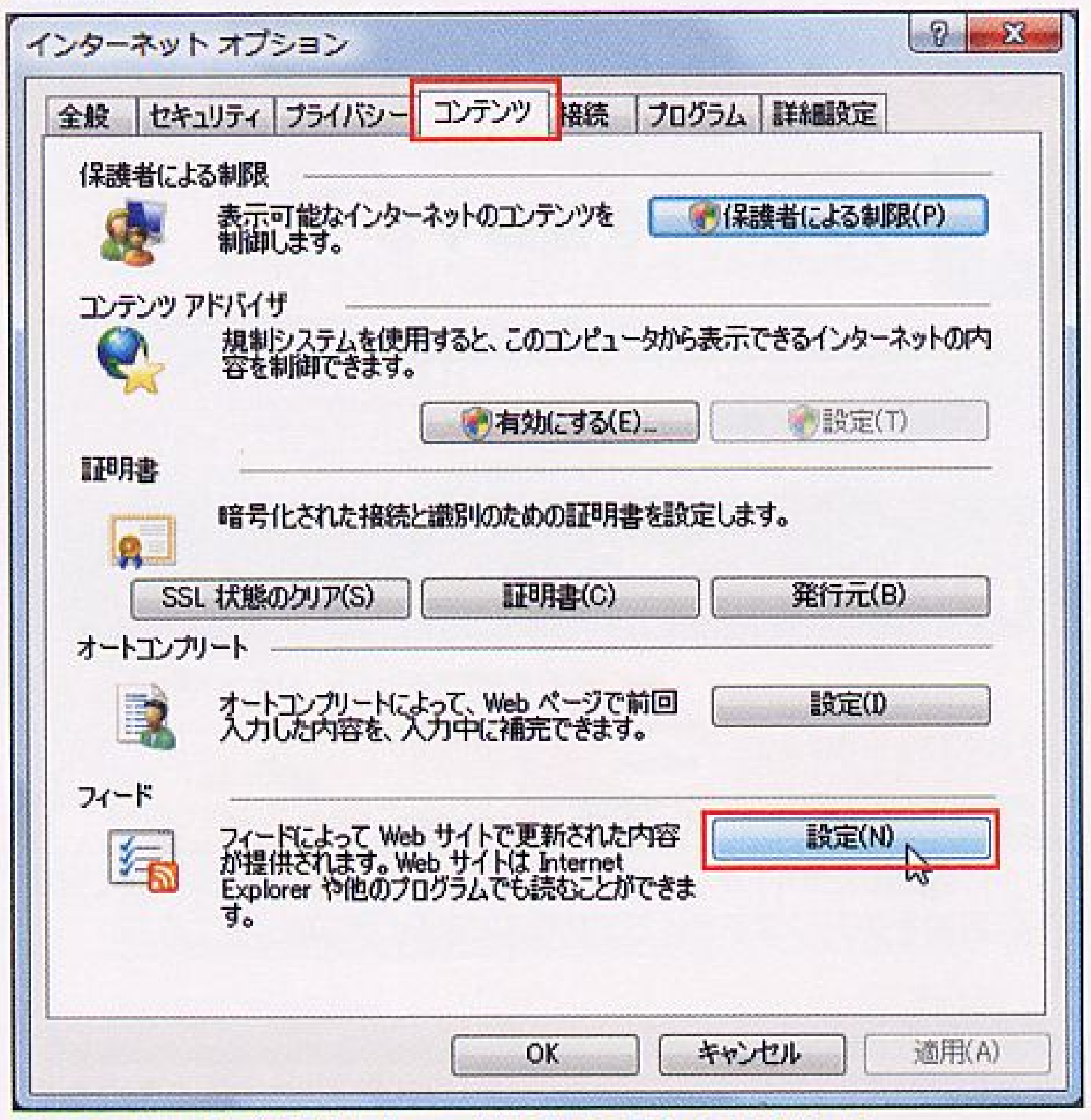
RSSフィードの設定を行なう

1 「インターネットオプション」を開く



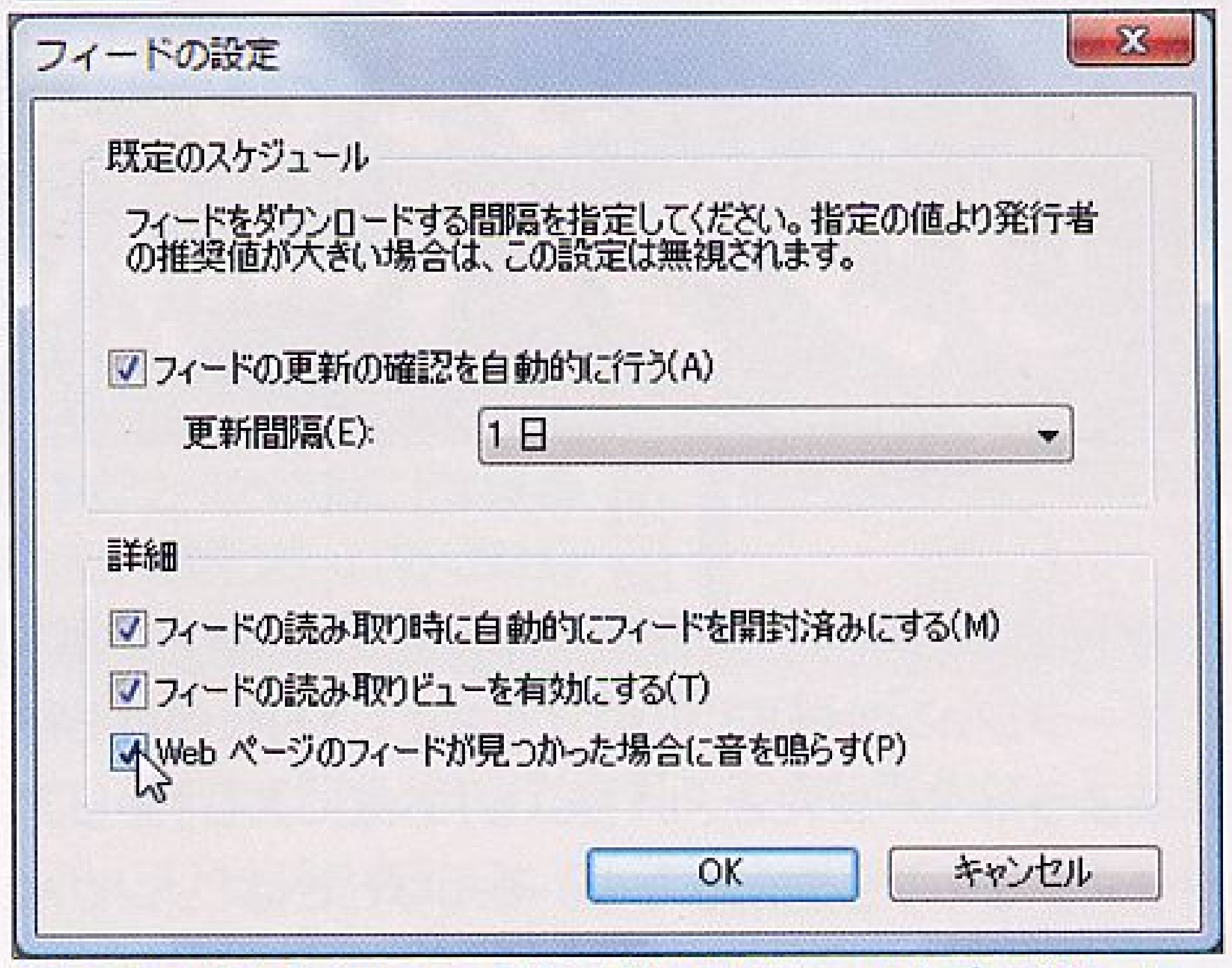
IEの「ツール」から「インターネットオプション」をクリック

2 フィードの設定画面を開く



「コンテンツ」タブを開き、「フィード」項目の「設定」をクリック

3 フィードの設定を行なう

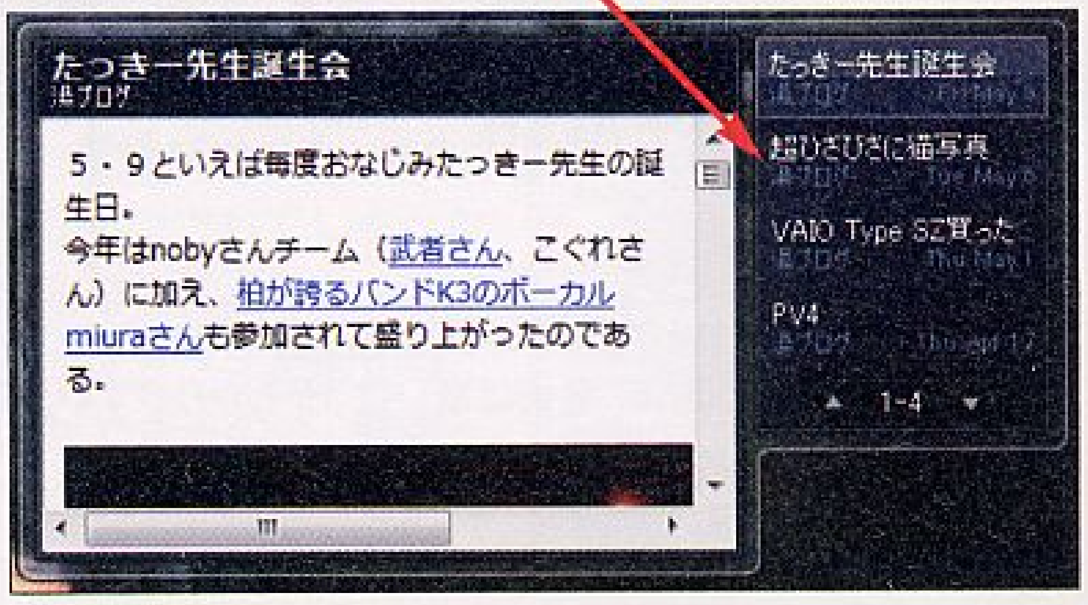


「フィードの設定」画面では、更新確認のスケジュールをプルダウンメニューから選択したり、フィードに対応しているサイトが見つかったら音を鳴らすなどの設定を行なうことができる

もっと快適!!テクニック

「ガジェット」にRSSフィードを表示させる

64ページで紹介する「ガジェット」には初期設定でサイドバーに登録されている「フィードヘッドライン」というものがある。これは追加したフィードの内容を表示させることができるもの。これならIEを開かなくても、デスクトップ上で常に更新状況がチェックできる。



最初は何も表示されていないが、フィードを追加すると、自動的に記事が読み込まれる。表示されているタイトルをクリックすると、全文を読むことができる。ページにアクセスして読みたい場合はタイトルをダブルクリックすればいい

ワンポイント 使用できるフィード

38ページの 1 で「RSS」アイコンのプルダウンをクリックすると、使用可能なフィード一覧が表示される。使用可能なフィードが複数ある場合、すべてが表示される。

難易度 普

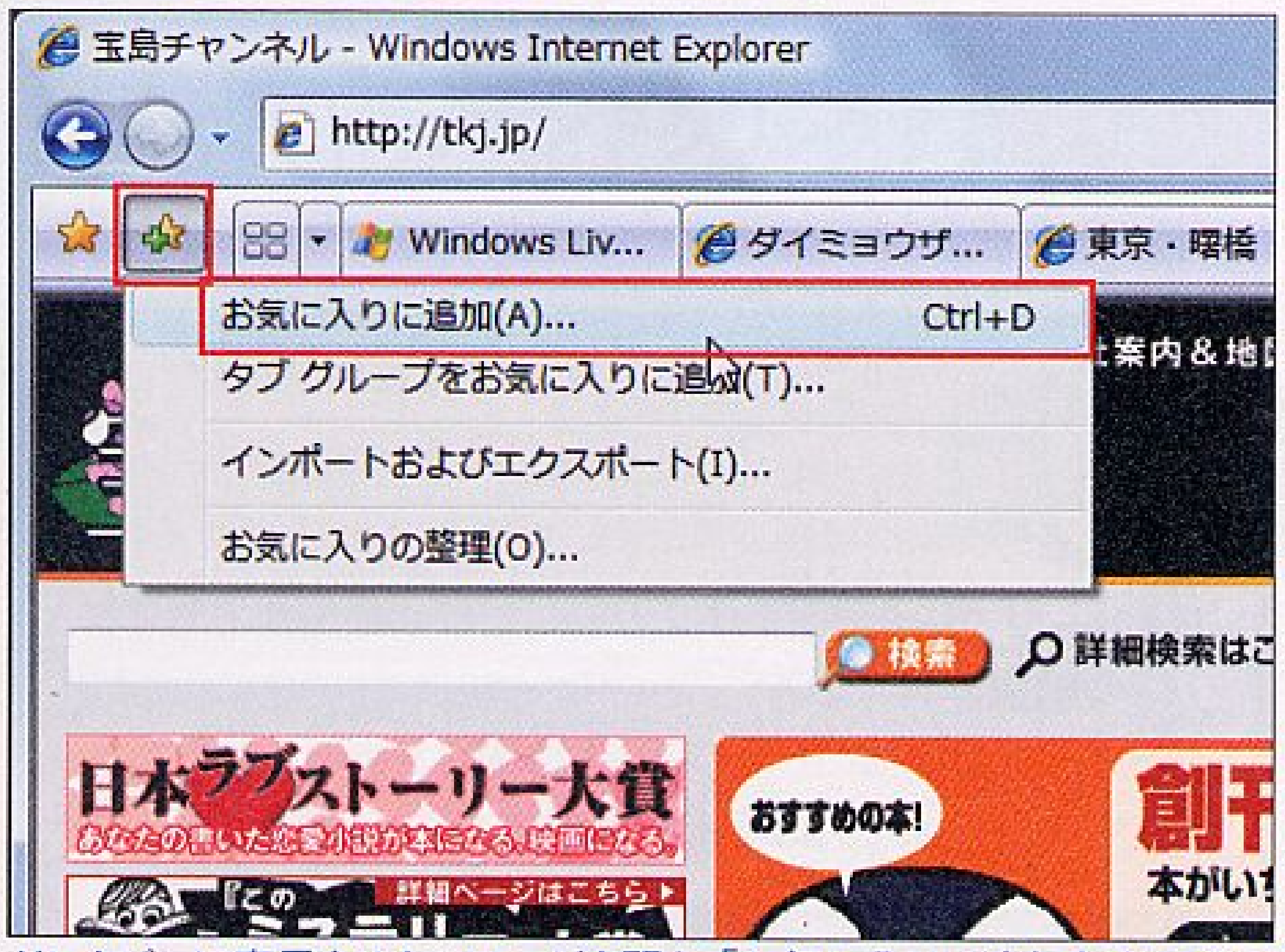
頻繁に見るサイトはリンクバーからすばやく開く

快適指数

効果
●頻繁に開くページを「お気に入り」より早く開ける
●リンクバーに複数のサイトを登録できる

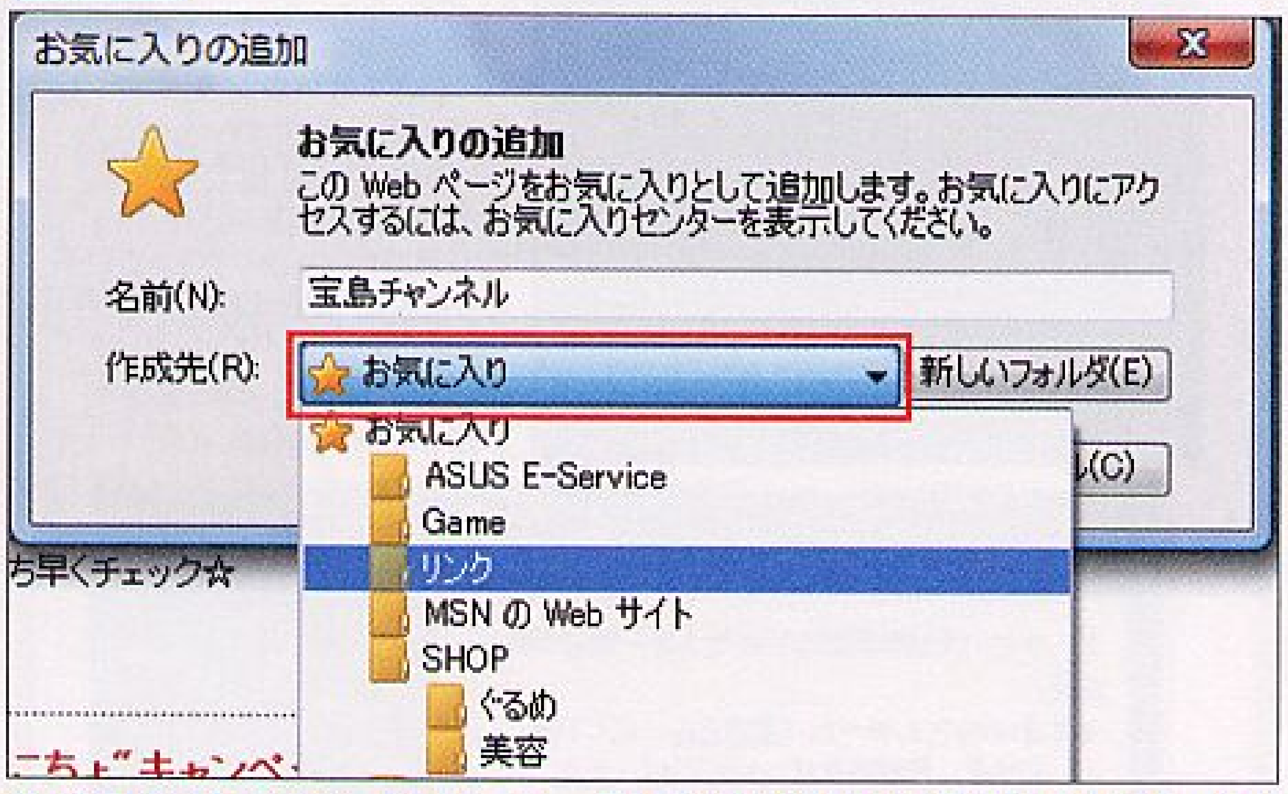
オークションや株取引のサイトなど、1日に何度も訪れるようなページだと、いちいち「お気に入り」からアクセスするのすら面倒なもの。そんなときは「リンクバー」を使おう。頻繁に訪れるページを「お気に入り」に登録するとき、IEにあらかじめ用意されている「リンク」フォルダに保存すれば、IEのリンクバー上に登録したページを表示することができる。これならワンクリックで目的のページを開くことができるのだ。ただし、IE7では初期設定でリンクバーが表示されていないため、常に表示するように設定しておこう。

1 目的のページを「お気に入り」に登録する



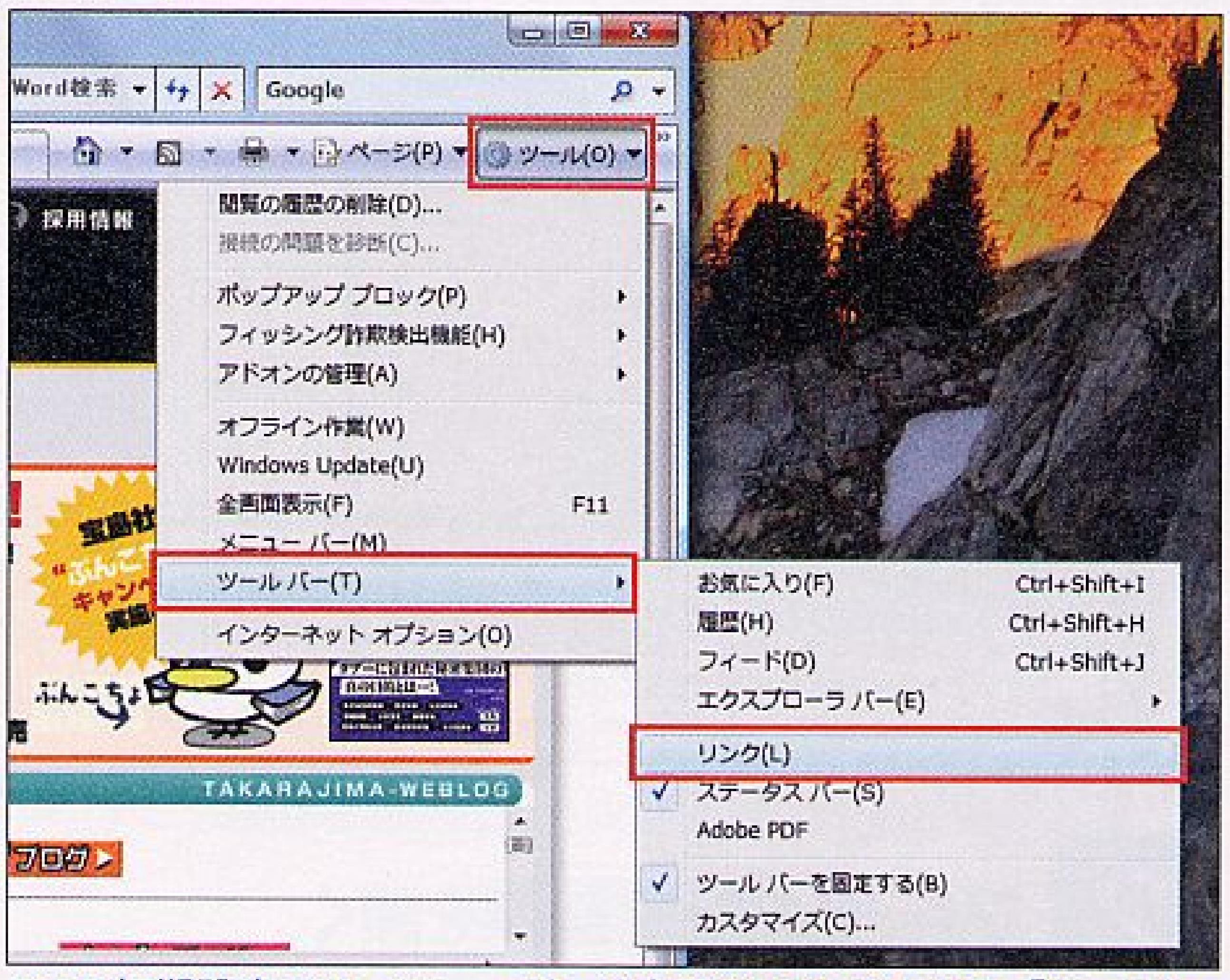
リンクバーに表示させたいページを開き、「お気に入りに追加」ボタンをクリックして「お気に入りに追加」をクリックする

2 リンクフォルダに追加する



作成先のプルダウンをクリックし、「リンク」を選択して「追加」をクリックする。リンクバーに表示する際は、名前は短いほうがわかりやすい。必要に応じて名前を変更しよう

3 リンクバーを表示する設定にする



IE7の初期設定では、メニューバーが表示されていないため、「ツール」→「ツールバー」→「リンク」をクリックする。これでリンクバーが常に表示される設定になった

4 リンクバーを確認する

リンクに追加したサイトがリンクバーに表示されている。表示されているサイトの名前をクリックするだけでアクセスできるようになった

ワンポイント
メニューバーを常に表示する

IE6以前では常に表示されていたメニューバーが、IE7では非表示になっている。上記では一時的に表示させる方法を紹介したが、常に表示させたい場合は、「表示」→「ツールバー」→「メニューバー」をクリックすればいい。

難易度 普

ネット閲覧に必要なポップアップだけを有効にする

快適指数

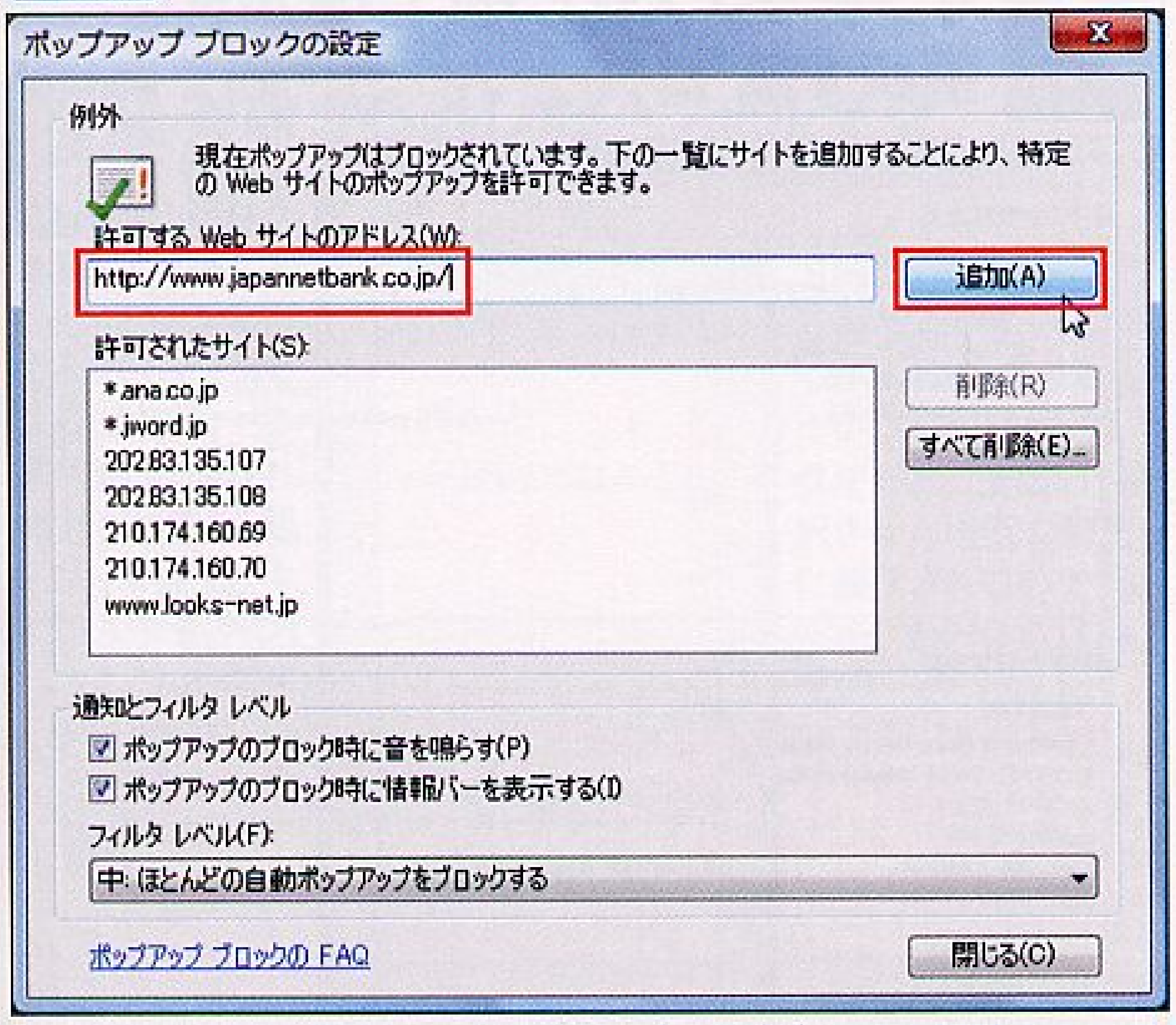
効果 ●無駄なポップアップが開かなくなる
●必要なポップアップだけを指定して表示させる

サイトにアクセスすると、こちらの意思とは無関係に開かれてしまうポップアップ広告。いったん閉じてもまたすぐ開くものもあり作業効率が悪くなる。IEでは初期設定でポップアップブロックが有効になっているため、邪魔なポップアップを気にすることなく閲覧できる。しかし、必要なポップアップもブロックしてしまうこともあり、そのたびにいちいち許可するのも面倒だ。そこで、ポップアップを有効にしたいサイトがわかっているなら、そのサイトを許可リストに登録しておこう。これで必要なポップアップはブロックせずに開くことができる。

1 「ポップアップブロックの設定」を呼び出す

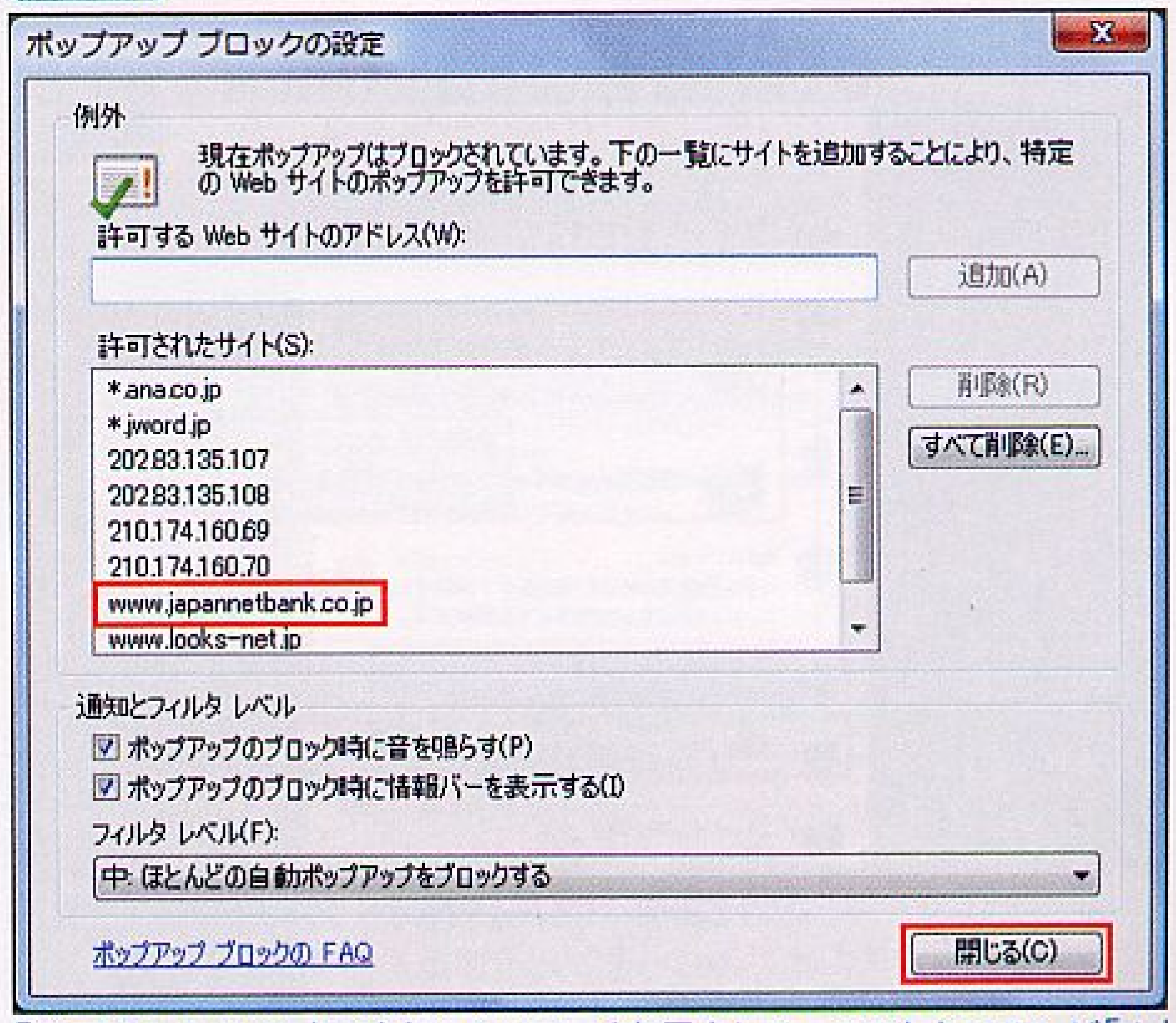
Internet Explorer 7を起動し、「Alt」キーでメニューバーを表示させる。「ツール」→「ポップアップブロック」→「ポップアップブロックの設定」を選択して、設定用ダイアログを表示させる

2 ポップアップブロックを解除するサイトを登録する



「許可するWebサイトのアドレス」にポップアップブロックを解除するサイトのURLを入力して「追加」をクリックする

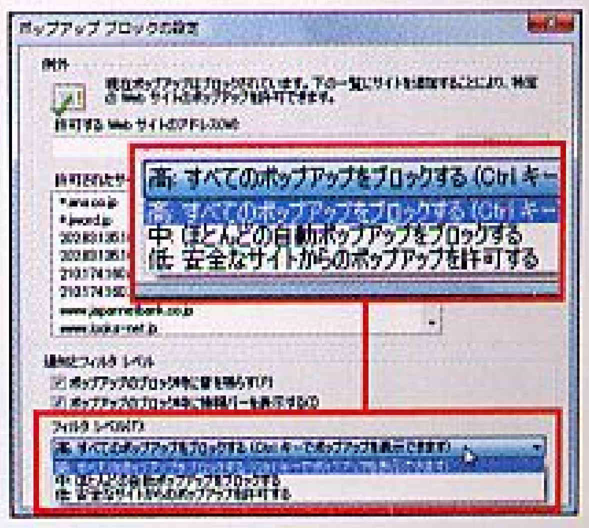
3 許可されたサイトを確認する



「許可されたサイト」に追加したURLが表示される。このとき、URLが「*」で始まる短いものに変換されることもあるが、心配しなくてもいい。あとは「閉じる」をクリックすれば設定完了だ

もっと快適!!テクニック フィルタのレベルを変更する

上記の手順で、許可するサイトを登録しておけば、ポップアップブロックを判断する「フィルタのレベル」が「高」になっていても、登録したサイトのポップアップは開かれるので、安全かつ快適にサイト閲覧ができる。また、ブロックされてしまった場合でも「Ctrl」キーでポップアップを表示することができるので、間違ってブロックされてしまった場合でも安心だ。



注意 過信は禁物

ポップアップブロック機能は万能ではなく、時にはうまく機能せずに悪質なポップアップが表示されることもある。危険なWebサイトにアクセスしないなど、基本的な自衛が必要だ。

難易度 普

インデックス作成範囲を拡げさらに検索を高速化する

快適指数

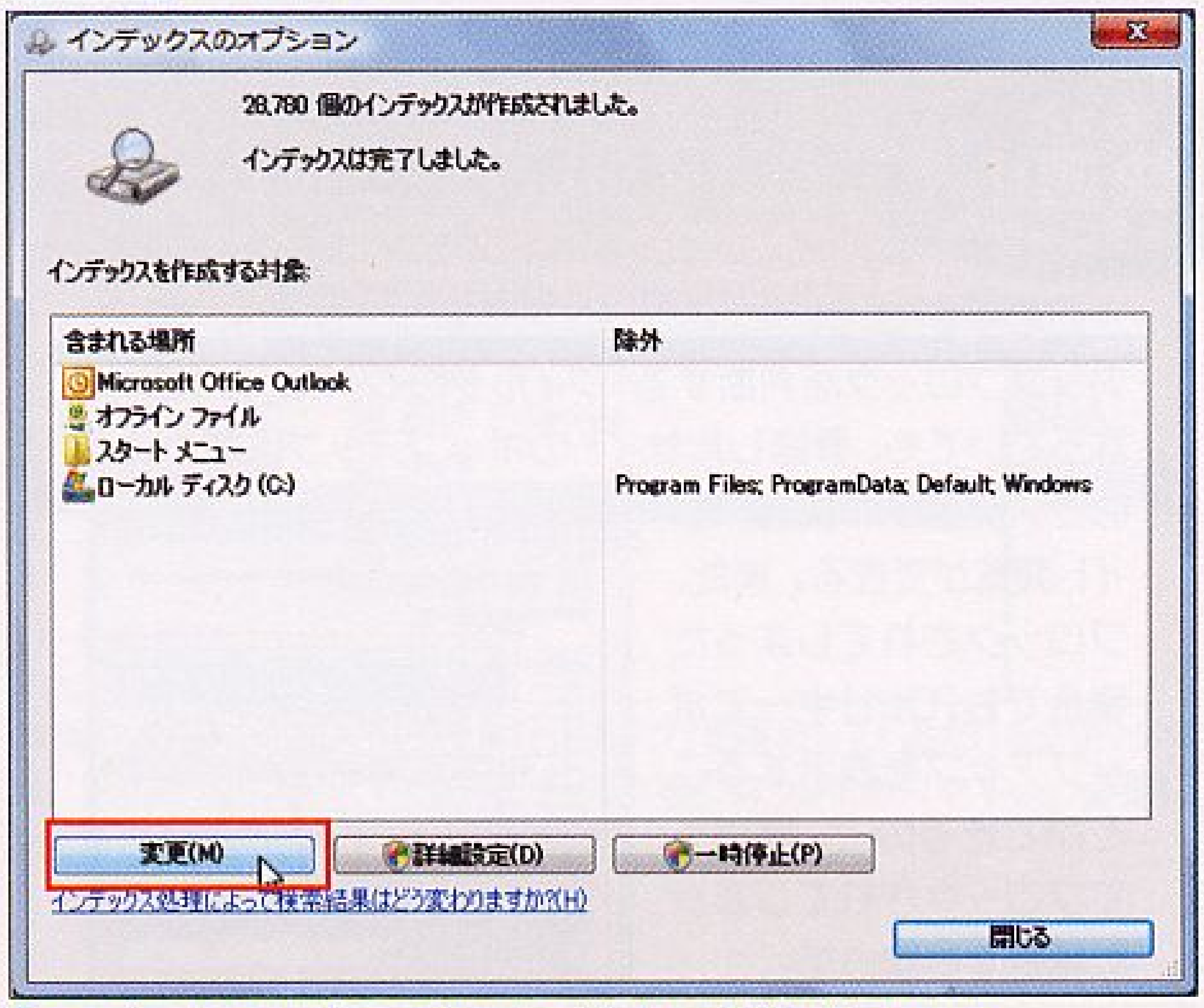
効果
- ●必要なファイルをすばやく見つけることができる
- ●ファイルの内容からも検索が可能

XPまでのWindowsでは「ハードディスク内の全ファイルから条件に当てはまるものをしらみつぶしに探す」という検索方法を採用していたため、ファイル検索に非常に時間がかかっていた。しかし、Vistaではファイルの場所や内容を常に記憶し、インデックス化しておくことで、より高速に、詳細な検索が可能になった。インデックス検索のための設定は不要だが、初期設定ではCドライブの一部だけしかインデックス化されていないので、他のドライブ内のファイルを探す場合は時間がかかってしまう。インデックス化する範囲を拡げておこう。

1 「インデックスのオプション」を開く

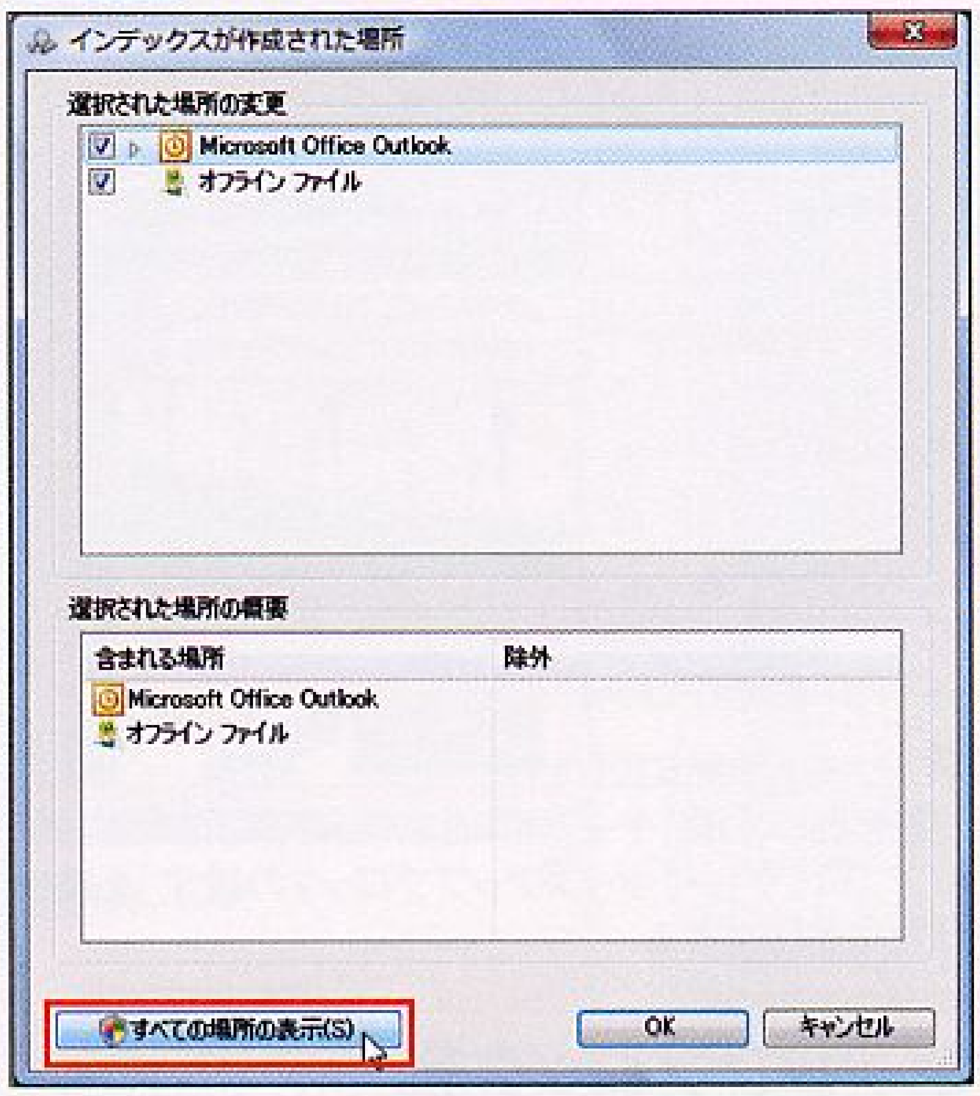
「スタート」メニュー→「コントロールパネル」を開き、「システムとメンテナンス」→「インデックスのオプション」をクリックする

2 インデックスのオプションを変更する



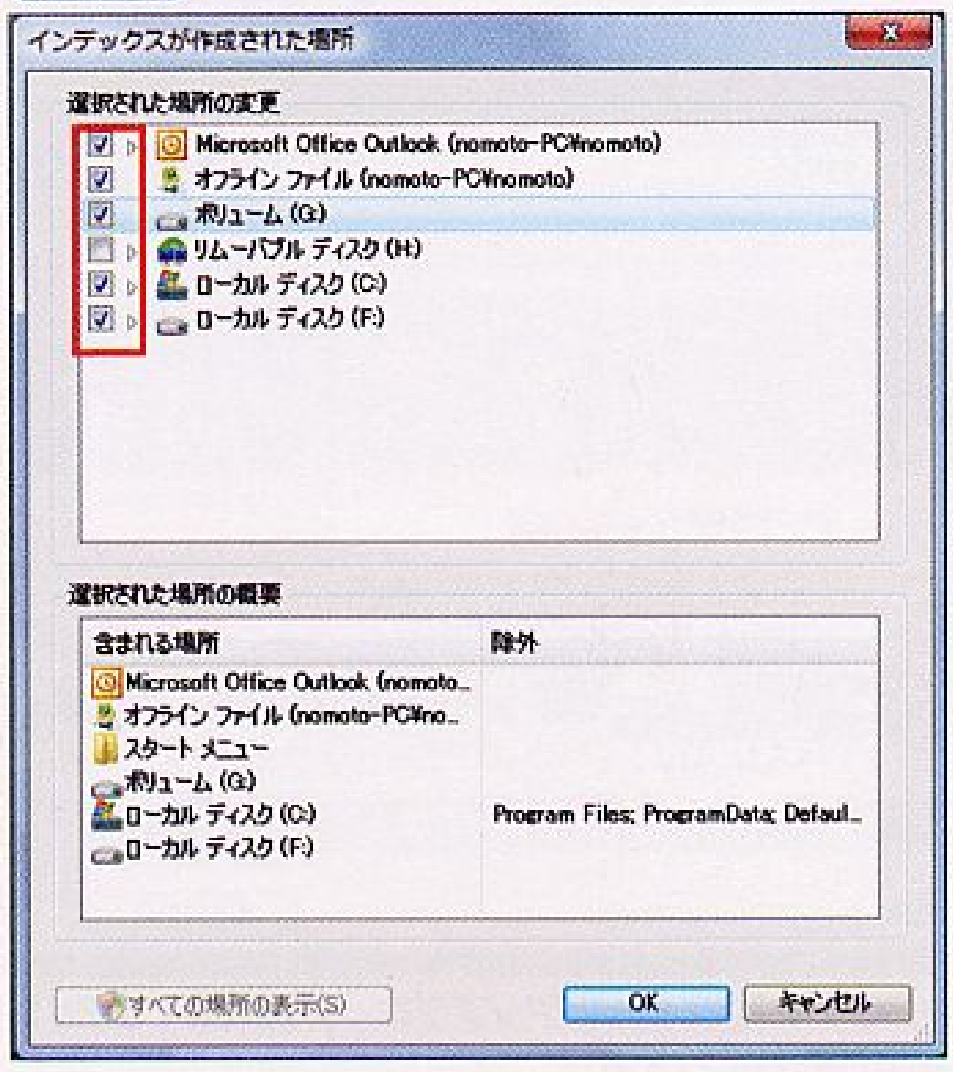
「インデックスのオプション」画面が開いたら「変更」をクリック

3 インデックスの作成対象が表示される



インデックスを作成する対象が表示された。左下の「すべての場所の表示」がクリックできる場合には、クリックすると「選択された場所の変更」に全てのドライブが表示される

4 インデックス化したいフォルダを選択する



上部の「選択された場所の変更」で、インデックス化の対象にしたいフォルダにチェックを入れると、下部の「選択された場所の概要」に追加される。すべて終わったら「OK」をクリックすればいい

Keyword インクリメンタルサーチ

検索キーワードを入力している最中に、次々と「その時点での合致ファイル」が表示されるため、目的のファイルが見つかったら、その時点でキーワード入力をやめることができる。検索労力を最低限にできる便利な機能だ。

難易度 普

インデックス作成範囲を絞り動作スピードを優先する

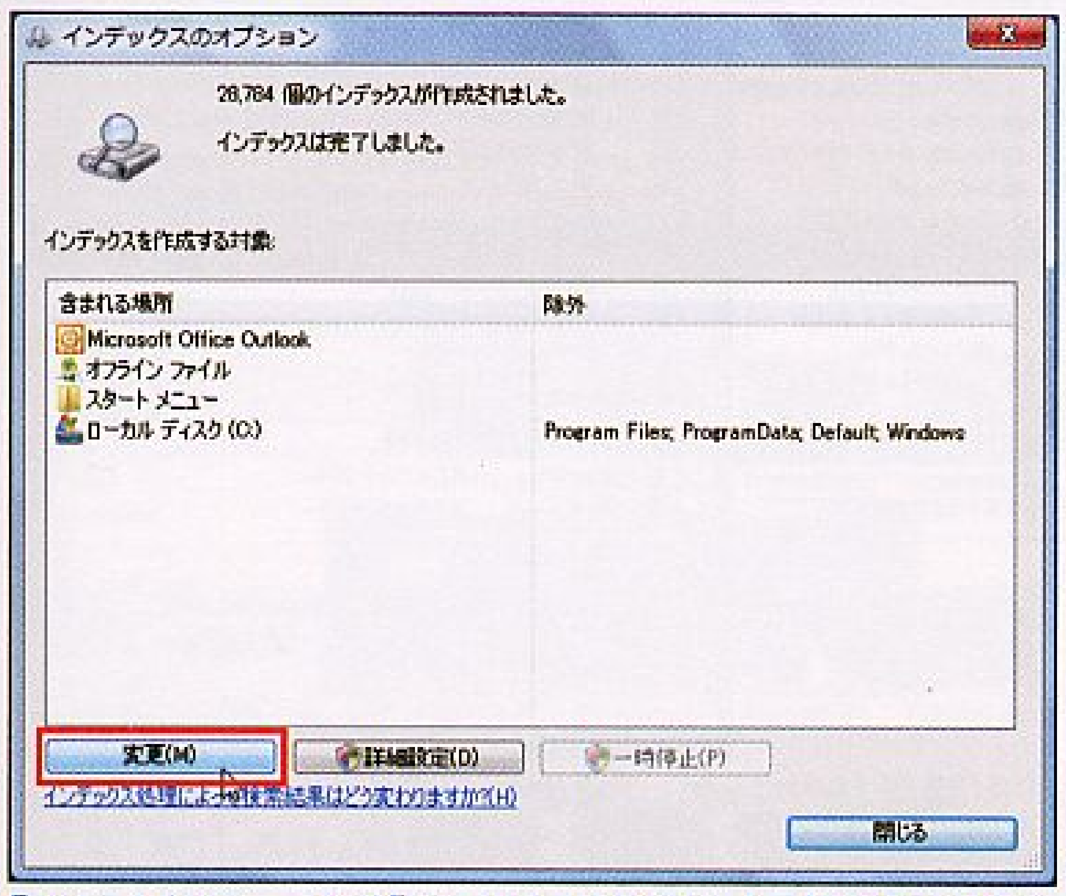
快適指数

効果
- ●ファイルの読み書きを伴う処理が高速化する
- ●ハードディスクの空き容量が増える

Windows Vistaの「インデックス検索」機能（42ページ）は、すばやい検索を行なうために、定期的にハードディスク全体を分析して「最新のファイル内容」をデータ化（インデックス作成）している。そのためすばやい検索が実現されているが、反面、インデックスデータのファイルがハードディスクを圧迫したり、インデックス作成のために他の処理が遅くなってしまっているのも事実だ。そこで、インデックスを作成するフォルダの範囲を限定してデータ量を小さくしたり、インデックス検索機能をオフにする設定方法も紹介しておこう。

インデックスの作成対象範囲を限定する

1 「インデックスのオプション」を変更する



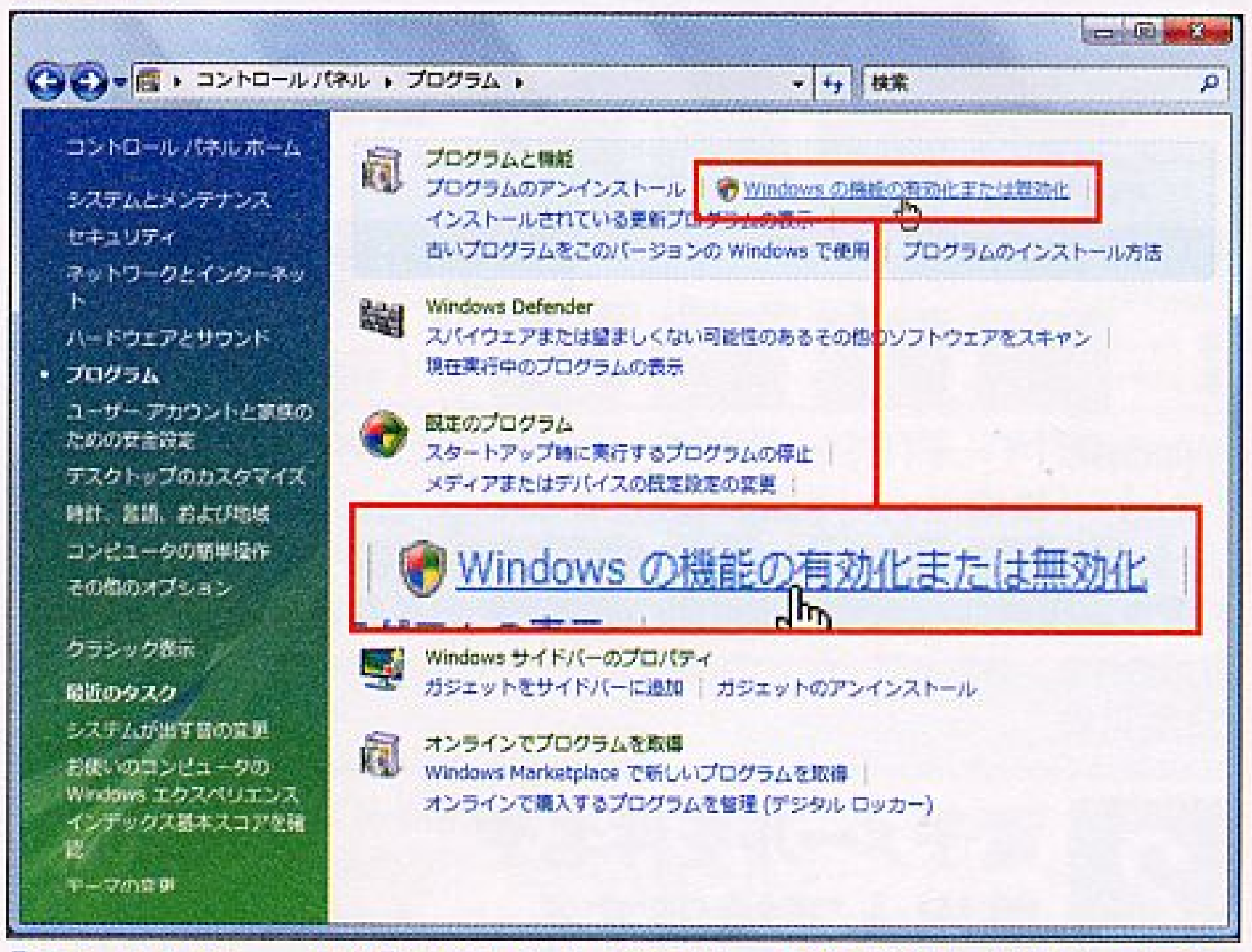
「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」→「インデックスのオプション」をクリックし、この画面が表示されたら「変更」をクリック

2 対象から外したいフォルダを選択する

下部の「選択された場所の概要」で、インデックスの作成をやめたいフォルダをクリックすると、上部の「選択された場所の変更」に表示されるので、チェックを外して「OK」をクリックする

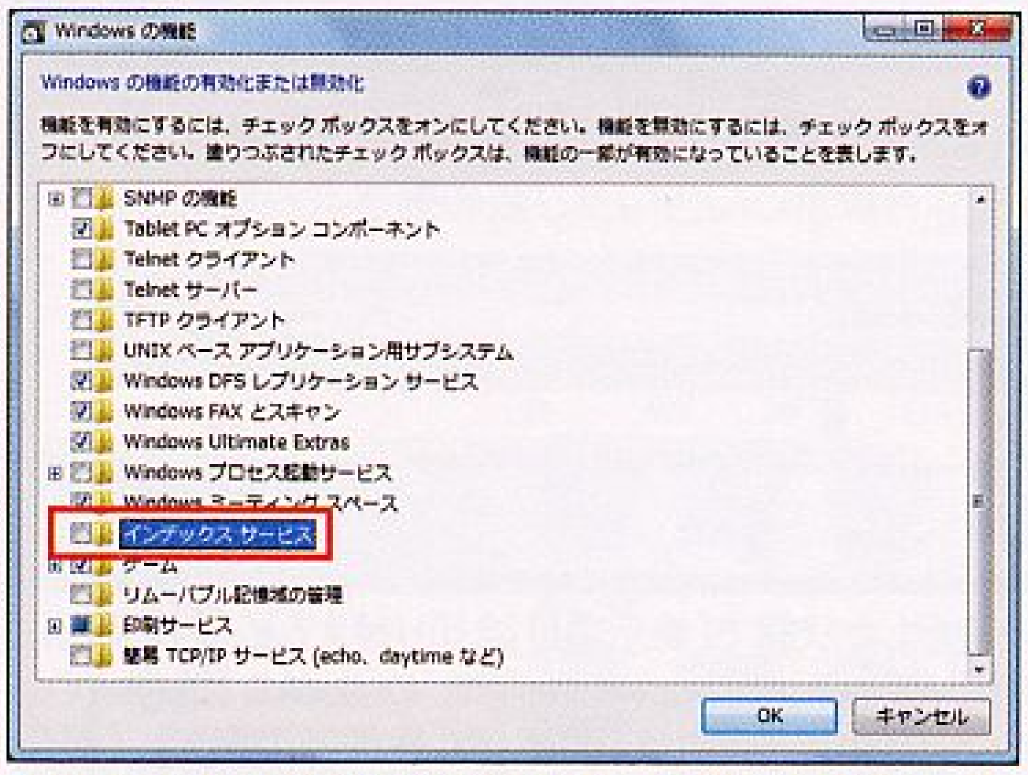
インデックス検索機能をオフにする

1 「Windowsの機能」を開く



「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラム」をクリックする。「プログラムと機能」項目の「Windowsの機能の有効化または無効化」をクリックする

2 「インデックスサービス」のチェックを外す



「Windowsの機能」画面が開いたら、「インデックスサービス」のチェックを外して「OK」をクリックすればいい

ワンポイント 拡張子で絞り込む

「インデックスのオプション」で「詳細設定」→「ファイルの種類」タブからインデックス作成対象となる拡張子を選択して範囲を絞り込むこともできる。

難易度 普

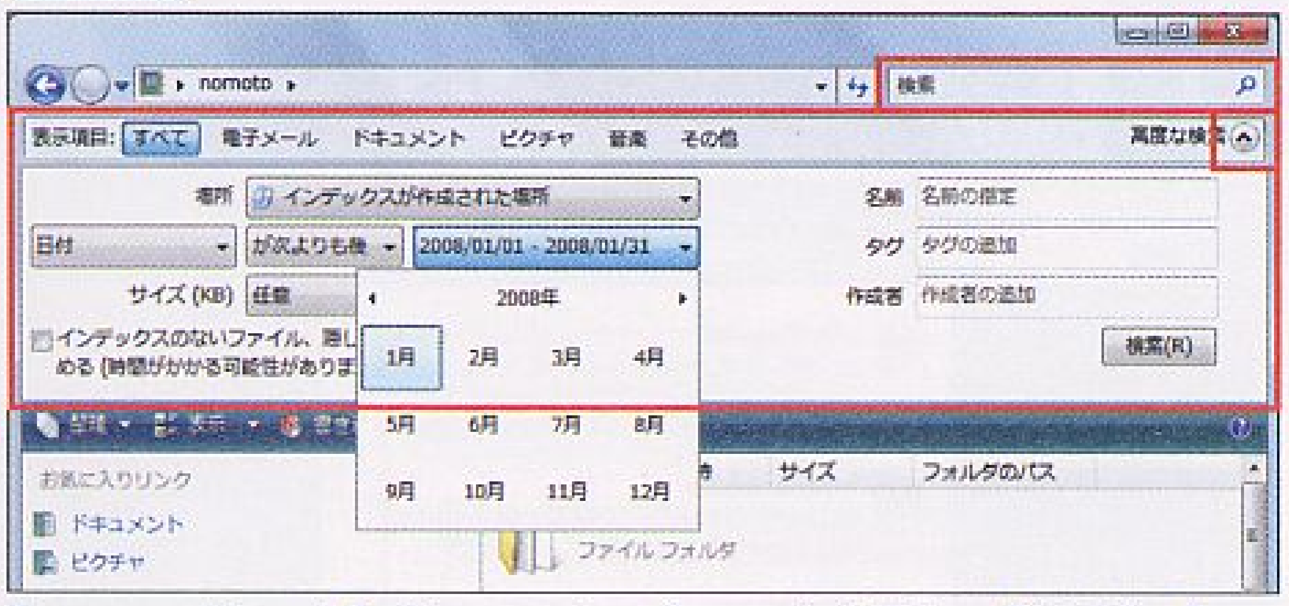
高度な検索条件を指定してうろ覚えのファイルも探し出す

快適指数

効果 ●内容をよく覚えていないファイルも確実に見つけられる
●検索結果が多すぎる場合に絞り込める

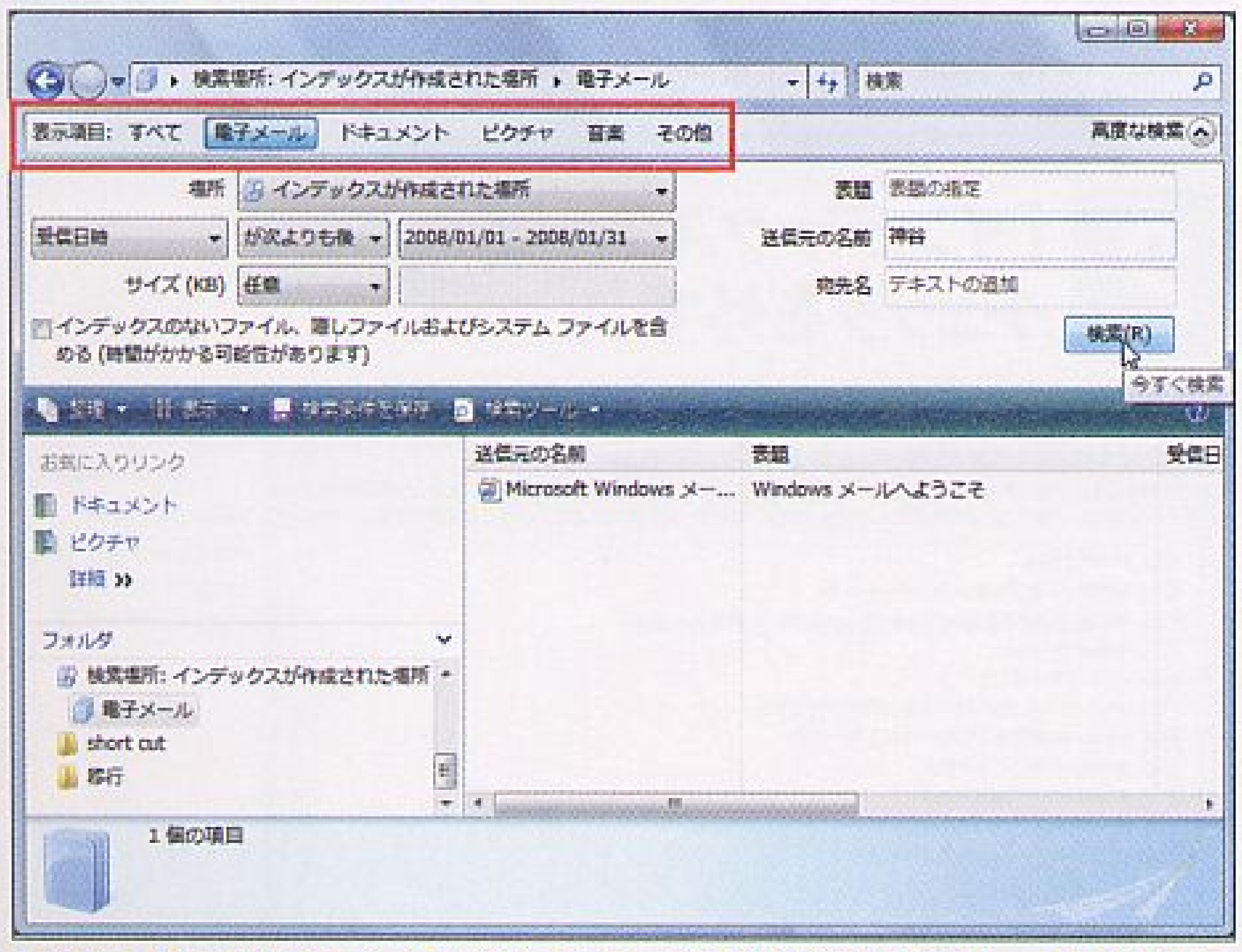
Vistaの検索機能は、ただ高速なだけではない。検索条件の指定方法が豊富で、さまざまな方法で検索できるのも特長だ。例えばファイル名や内容をよく覚えておらず、キーワードを正確に指定できない場合でも、「先月ごろ作ったはず」とか「○○さんからきたメールに書いてあったんだけど」という、曖昧な条件からもファイルを探すことができる。また、キーワードを詳しく入力したにもかかわらず、結果が大量に表示されて困るような場合には、条件を追加することで結果を絞り込むといった方法をとることもできる。

1 「高度な検索」を開く



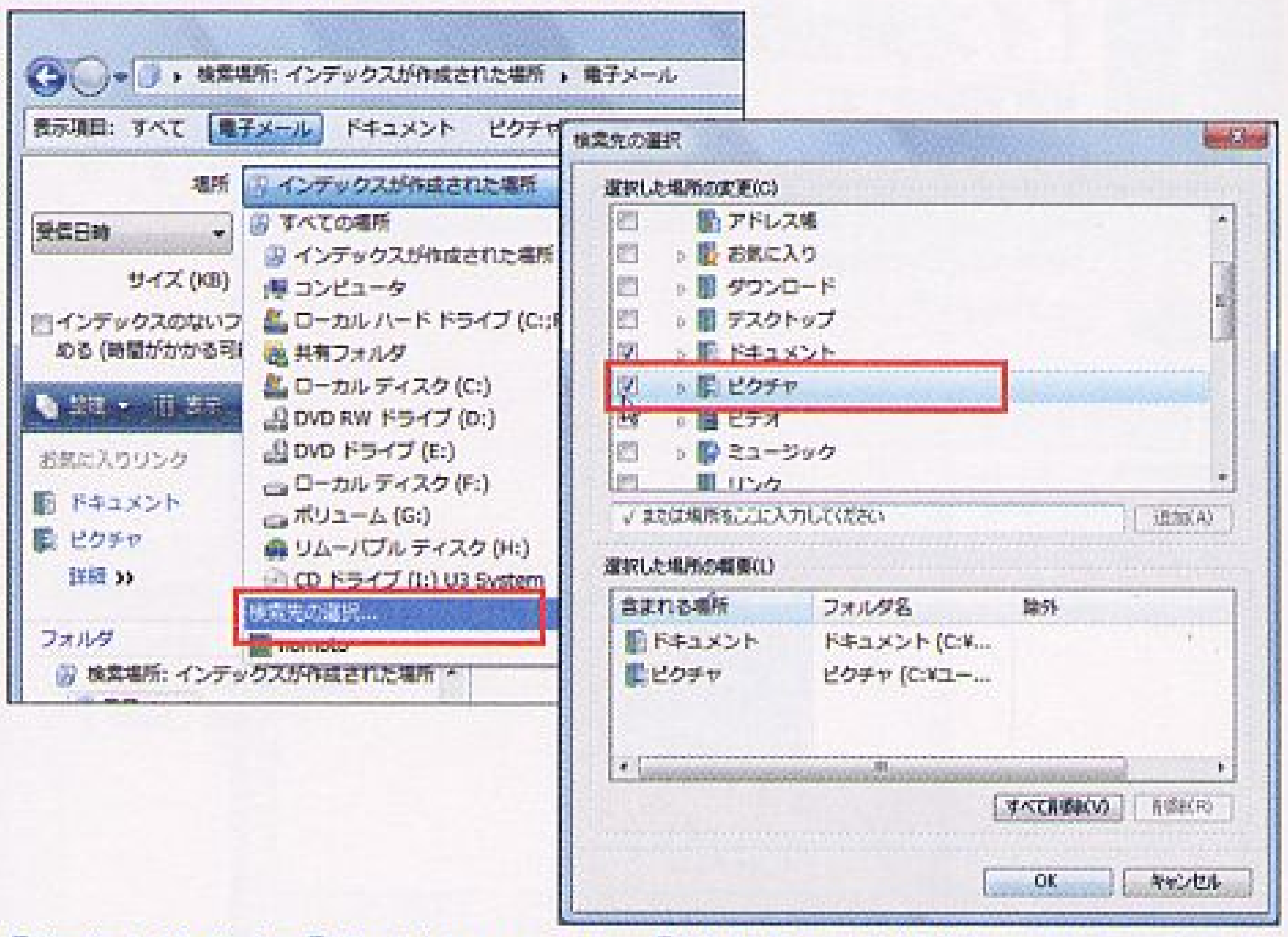
「Windows」キー+「E」キーでエクスプローラを表示させ、「整理」→「レイアウト」→「検索ペイン」を開く。「高度な検索」の右にあるプルダウンをクリックすると、「日付」「サイズ」などを指定する欄が開かれる。ここで、条件を指定して「検索」ボタンをクリックすれば、その条件に合ったファイルが表示される。あわせて、右上の検索ボックスで検索キーワードを指定することも可能

2 電子メールを件名や差出人で検索する



「高度な検索」を表示した状態で「表示項目」を切り替えると、その種別に応じて検索欄も切り替わる。Windowsメールや、Outlookなどを使っているなら、「電子メール」をクリックすれば「表題」や「送信元の名前」、「受信日時」などを指定できるようになる(他のメーラーを使っている場合は、そのメーラーの検索機能を使うこと)

3 探すフォルダの範囲を限定して検索する

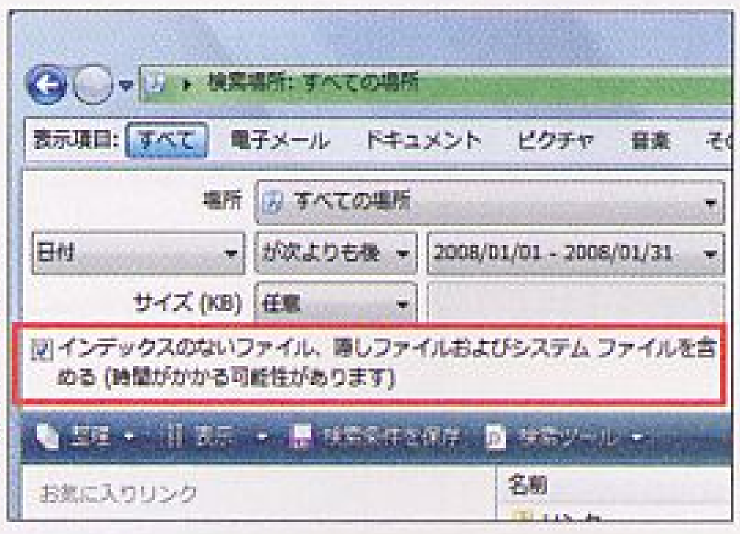


「高度な検索」で「場所」をクリックし、「検索先の選択」をクリック。次に開いた画面で、検索対象にしたいフォルダにチェックを入れる。「OK」ボタンで検索画面に戻って検索すると、指定したフォルダだけが検索対象になるため、検索時間が短縮でき、結果も絞り込める

もっと快適!!テクニック

従来の「しらみつぶしに探す」検索方法も使いたい!

インデックス検索は便利だが、「インデックスの作成対象になっていないファイルも探したい」とか、「インデックス検索で見つからないので、とにかくハードディスク全体をしらみつぶしに探したい」といった場合には、Windows XPまで採用されていた従来型の検索方式を使うこともできる。



「高度な検索」で「場所」を「すべての場所」にし、「インデックスのないファイル~」にチェックを入れてから、検索キーワードなどを指定して検索を行なう

ワンポイント
検索結果を拡げる「OR検索」

「犬 OR 猫」のように「OR」(半角大文字「OR」の前後は半角スペース)を挟むと、「2つのキーワードのどちらか一方を含む」という検索ができる。このような特殊記号は、検索ウィンドウのヘルプで多数説明されている。

難易度 **普**

高機能な検索フォルダでファイルを効率よく整理する

快適指数

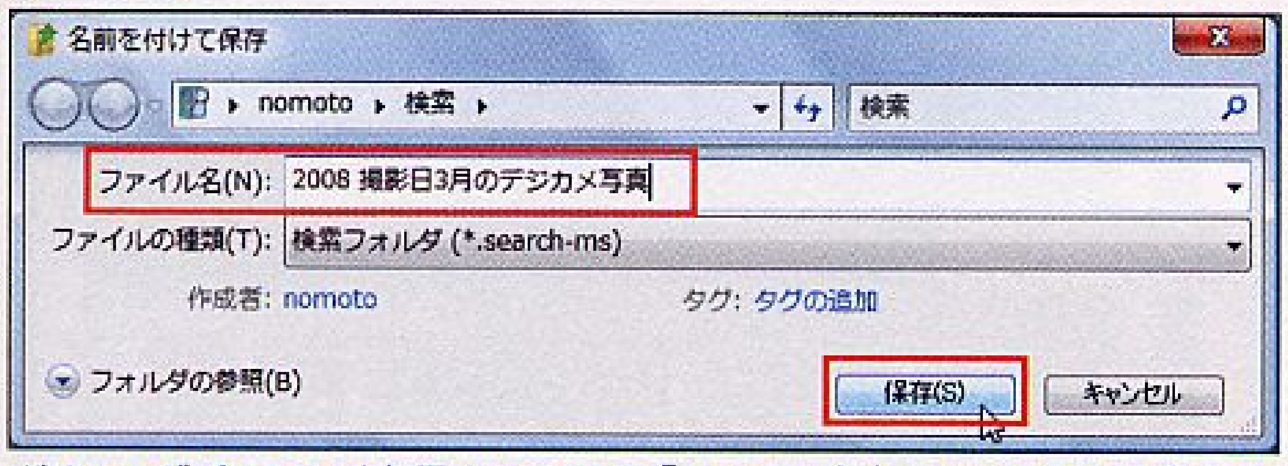
効果 ●複雑な検索条件を登録しておき、いつでもすばやく呼び出せる
●ファイルを移動することなく整理整頓できる

検索をしたあと、同じ検索をこれからもしそうだと思ったら、その検索条件を登録しておくことができる。これが検索フォルダという機能だ。特に、高度な設定でさまざまな条件を指定したい場合に便利。また、検索フォルダは、仮想的なフォルダとしても活用できる。例えば撮影日で検索した写真を検索フォルダとして登録すれば、その検索フォルダは、その日に撮影した写真をすべて保存してあるフォルダと同じことになるのだ。検索の二度手間が防げる上、ファイルを実際に移動させないので混乱もないはずだ。

1 検索条件を検索フォルダとして保存する

高度な検索（44ページ参照）で2008年3月に撮影した写真を検索した。結果が表示されたら、そのまま「検索条件を保存」をクリックする

2 検索フォルダに名前を付ける



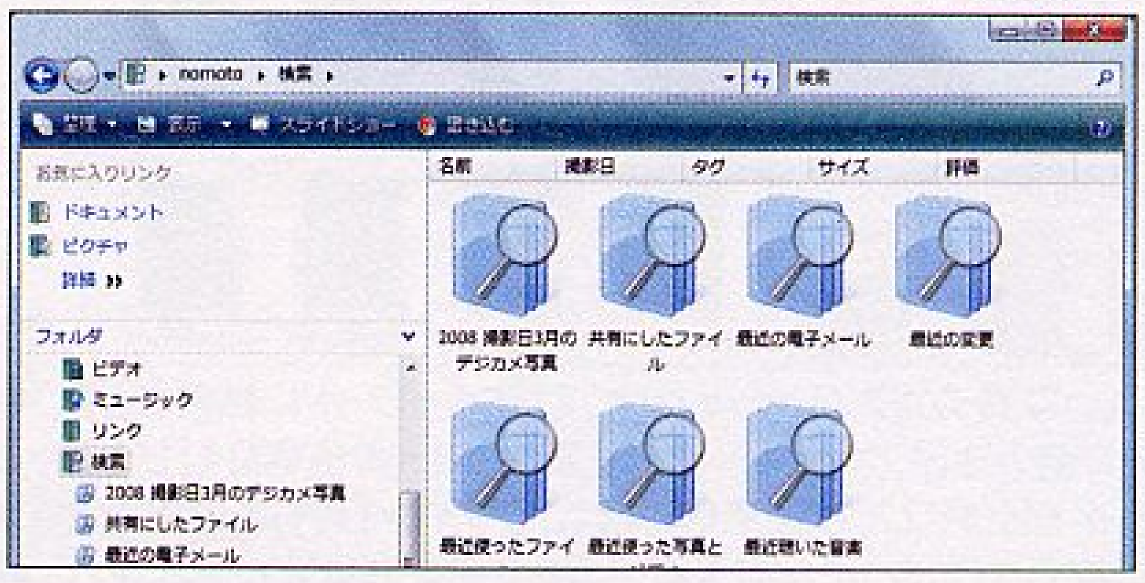
ダイアログボックスが表示されるので、「ファイル名」にわかりやすい名前を入力して、「保存」をクリックする

3 登録した検索フォルダを活用する

「スタート」メニューにある自分のユーザー名をクリックすると、エクスプローラが起動する。左側のツリー表示の「検索」をクリックすると、保存した検索フォルダが表示される。これをクリックするだけで検索条件に該当するファイルが表示される。フォルダを使って分類しているのと同じことになるので、ファイルを整理する手間が省ける

もっと快適!!テクニック 初期設定の検索フォルダを利用しよう

検索フォルダにはあらかじめ「最近の電子メール」、「最近聴いた音楽」などの検索フォルダが登録されている。昨日受信したメールを読み返したいといった場合などに便利だ。



注意 「最近」に注意

初期設定で登録されている検索フォルダは最近のファイルを表示するが、「最近」とはいつまでか、明確な表記はない。あくまで簡易的な機能として使ったほうが無難だ。

難易度 普

ファイル名では探しにくいデジカメ写真は撮影日で検索

快適指数

効果
●整理しにくいデジカメ画像を簡単に検索できる
●聴きたい曲をジャンルやアーティスト名、アルバム名で探せる

デジカメ写真や音楽ファイルは、従来はファイル名で検索するしかなかった。しかし、デジカメ画像などはファイル名が連番になっていることが多く、ファイル名での検索はあまり意味がない。Vistaの検索機能はメタデータに対応することでこれを解決。効率よく写真や音楽データを検索できるようになった。メタデータとは画像ファイルの「exif情報」や音楽ファイルの「ID3」タグのことで、これらにはそのファイルに関するさまざまなデータが保存されている。そこに含まれる文字をキーワードとして検索することができるのだ。

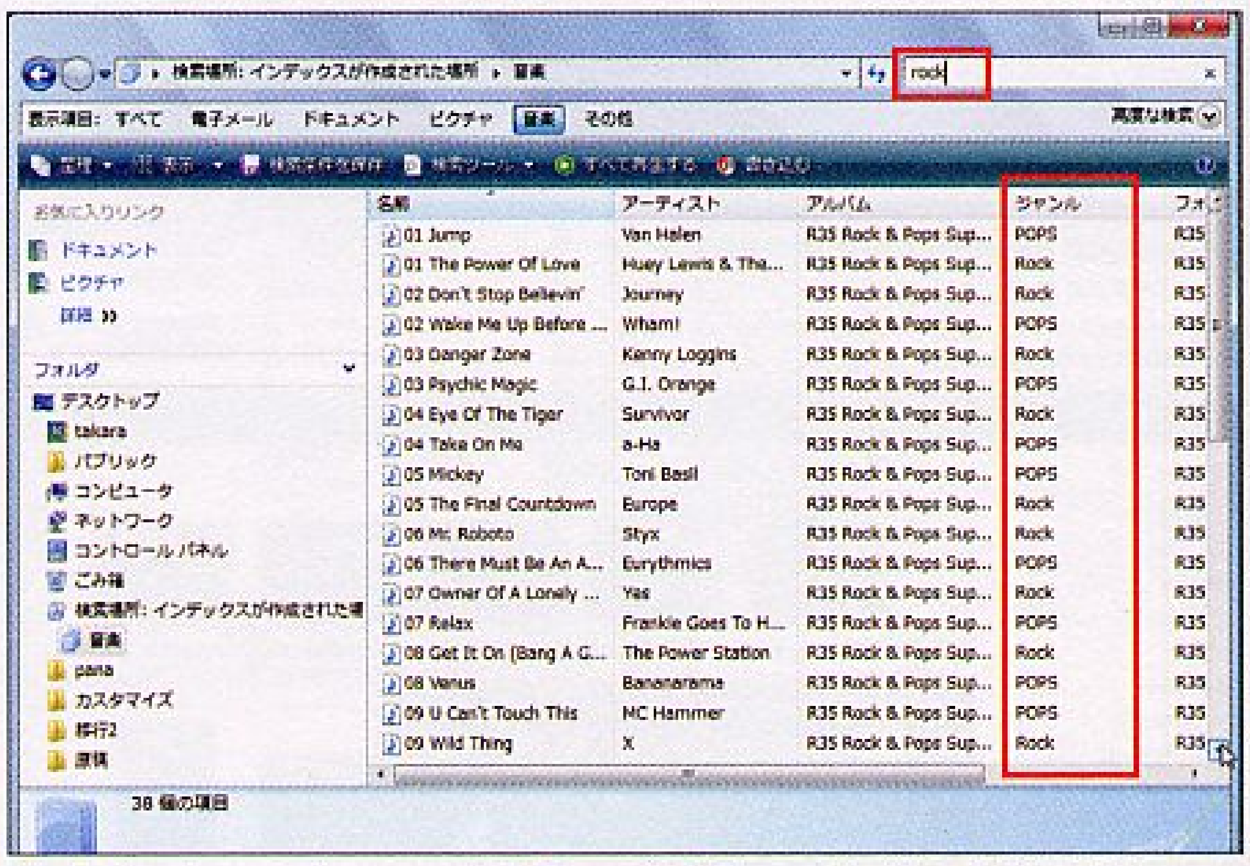
1 メタデータにはこんな内容が記録されている

デジカメ写真のexif情報なら、撮影日時、カメラ名、絞りやシャッタースピードなどが記録されている。音楽ファイルのID3タグなら曲名、アーティスト名、曲のジャンル、演奏時間などだ

2 撮影日時でデジカメ画像を検索する

探したい写真の撮影日がわかれば、それをキーワードに検索できる。44ページの1の要領で「検索ペイン」を表示させ、表示項目を「ピクチャ」、キーワードを日付にして検索すればいい。ファイルそのものの更新日は編集すると変わってしまうが、exif情報の撮影日の記録は変わらないので、確実にその日に撮影した写真を探せる

3 ジャンルで音楽ファイルを検索する



検索ボックスのキーワードを「rock」や「jazz」などの音楽のジャンルにして「表示項目」の「音楽」にして検索した。アーティストや保存場所がばらばらでも、同じジャンルの音楽ファイルを検索することができる

もっと快適!!テクニック メタデータを自分で追加すればさらに便利になる

メタデータは「タグ」として自分で追加することができる。デジカメ画像なら、Windowsフォトギャラリーでタグを入力すればいい(47ページ参照)。タグを付けたファイルはタグの情報でも検索できるようになる。

「グルメ」というタグをつけたファイルを検索した

Keyword メタデータ
さまざまなデータを効率よく扱うためのデータがメタデータ。そのファイルの中にどんなデータがあるかを要約したもので、画像や音楽ファイルをVistaで検索するためには必須といえる。

難易度 普

大量のデジカメ写真にはタグを付けてすばやく検索

快適指数

効果
●膨大な量のデジカメ写真の検索がすばやく行なえる
●デジカメ写真の整理が簡単にできる

ファイルには更新日時や作成者などの情報が記録されている。「タグ」はこうしたファイル情報のひとつで、更新日時や作成者などの既存情報と違い、ユーザー自身が自由に付けることができる。例えば、膨大なデジカメ写真から、旅行、風景など、特定のジャンルの写真を探すとき、タグを付けておけば検索・整理が簡単にできる。また、「旅行写真だけど風景写真でもある」場合には、その画像を選択し、タグを追加すれば、旅行タグでも風景タグでも管理できる。45ページの「検索フォルダ」とあわせて使えばファイル整理がぐっと楽になる。

1 Windowsフォトギャラリーを起動する

「スタート」メニュー→「すべてのプログラム」→「Windowsフォトギャラリー」をクリック。Windowsフォトギャラリーを起動する。画面左にある「タグ」の「新しいタグの作成」をクリックすると、入力できるようになるのでタグの名前を入力する

2 作成したタグに該当画像をドラッグする

1で名前を入力すると自動的にタグが追加されている。作成したタグに画像をドラッグするとタグが追加される。作成したタグには後から何回でも画像を追加することができる

3 タグを利用した整理と検索

作成したタグはナビゲーションウィンドウに表示される。タグをクリックすれば、そのタグをつけた画像が瞬時に表示される。ひとつの画像に複数のタグを割り当てることもできる。また、タグをクリックしなくても、検索ボックスにタグの名前を入れれば、そのタグが付いた画像をすべて検索することができる

もっと快適!!テクニック　タグの中にタグを収納する

タグが増えてくると、ナビゲーションウィンドウがいっぱいになり、かえって探しづらくなる。そんなときは、フォルダとサブフォルダのように、大きなカテゴリタグを作り、その中にタグを収納しよう。タグの中に入れたタグは、ワンクリックでツリー状に展開できるので見づらくなることもない。

収納したいタグを、上位にあたるタグにドラッグすればいい

ワンポイント　タグを削除する

タグを削除するには、「タグ」の「タグなし」にドラッグすればいい。複数のタグが付いていて、そのうちのひとつをはずしたい場合は、「情報」をクリックし、「情報」ウィンドウから外したいタグを右クリック。「タグの削除」を選択すればいい。

難易度 易

デジカメ写真のファイル名をわかりやすい名前に一括変更

快適指数

効果
●数字の羅列のデジカメ写真のファイル名を一括で変更できる
●目的の写真が探しやすくなる

デジタルカメラで撮影したデータをパソコンに移す際、ファイル名が「CA330078」といったアルファベットと数字の組み合わせになっていることが多い。このままフォルダに整理分類してしまうと、小さなサムネイルで見たり、リスト表示したときに、どんな写真なのか非常にわかりづらい。また、検索するときにもメタデータやタグ（46～47ページ参照）に頼った検索しかできなくなってしまう。そこで、ファイルの名前をまとめてわかりやすいものに変更しよう。さまざまなファイルに使える手法なので、覚えておくと便利だ。

1 ファイル名を変更したいデジカメ写真のファイルを選択

名前を変えたいファイルを「Ctrl」キーを押しながらすべて選択し、右クリック→「名前の変更」をクリックする

2 わかりやすい名前に変更する

ファイル名が変更できるようになるので、変更したい名前を入力する

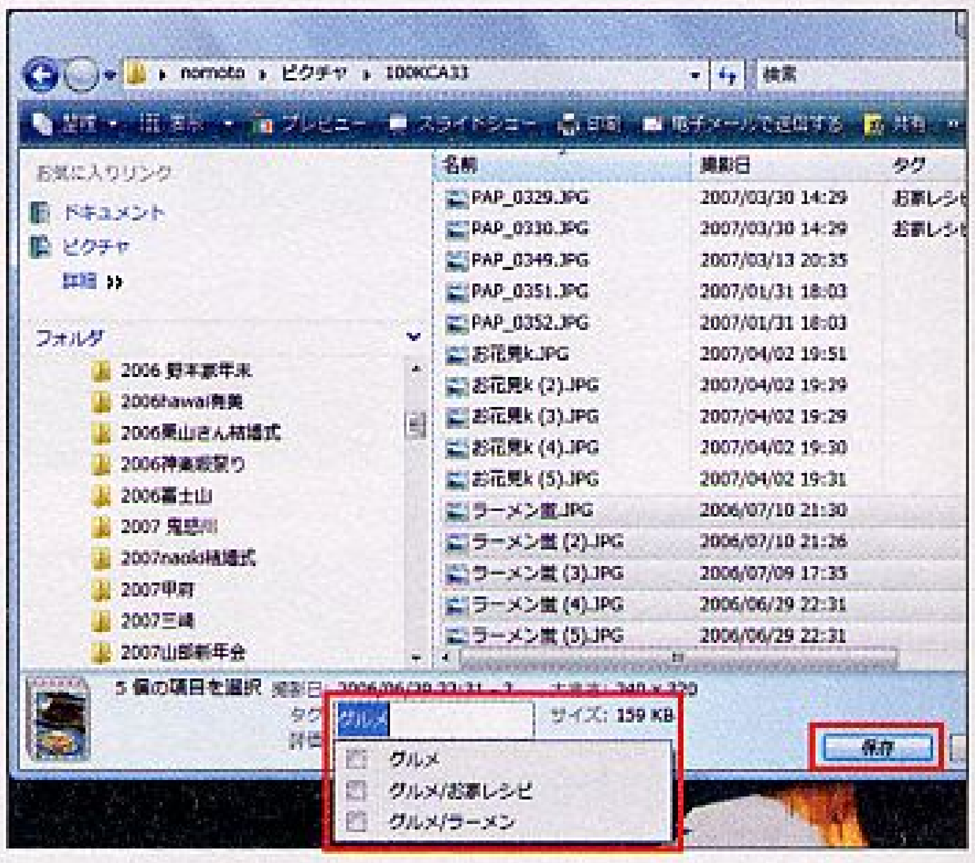
3 名前＋連番というファイル名に変更された

選択したファイルの名前が手順2で付けたファイル名と連番という形に変更される

もっと快適!!テクニック

タグやコメントも一括変更できる

タグやコメントも、一括で変更できる。エクスプローラ画面で表示方法を「詳細」にし、タグやコメントを追加したいファイルを複数選択する。詳細ペインでタグやコメント欄をクリックすると入力できる状態になるので好きなタグ・コメントを付け「保存」をクリックすればいい。



Keyword タグ
ファイルの検索や整理に役立つように、ファイル自体に付けられる属性のこと。自分で好きな内容を入力でき、一度設定した後でも何度でも変更することができる。

難易度 普

複雑・面倒な設定をせずにフォルダを簡単に共有する

快適指数

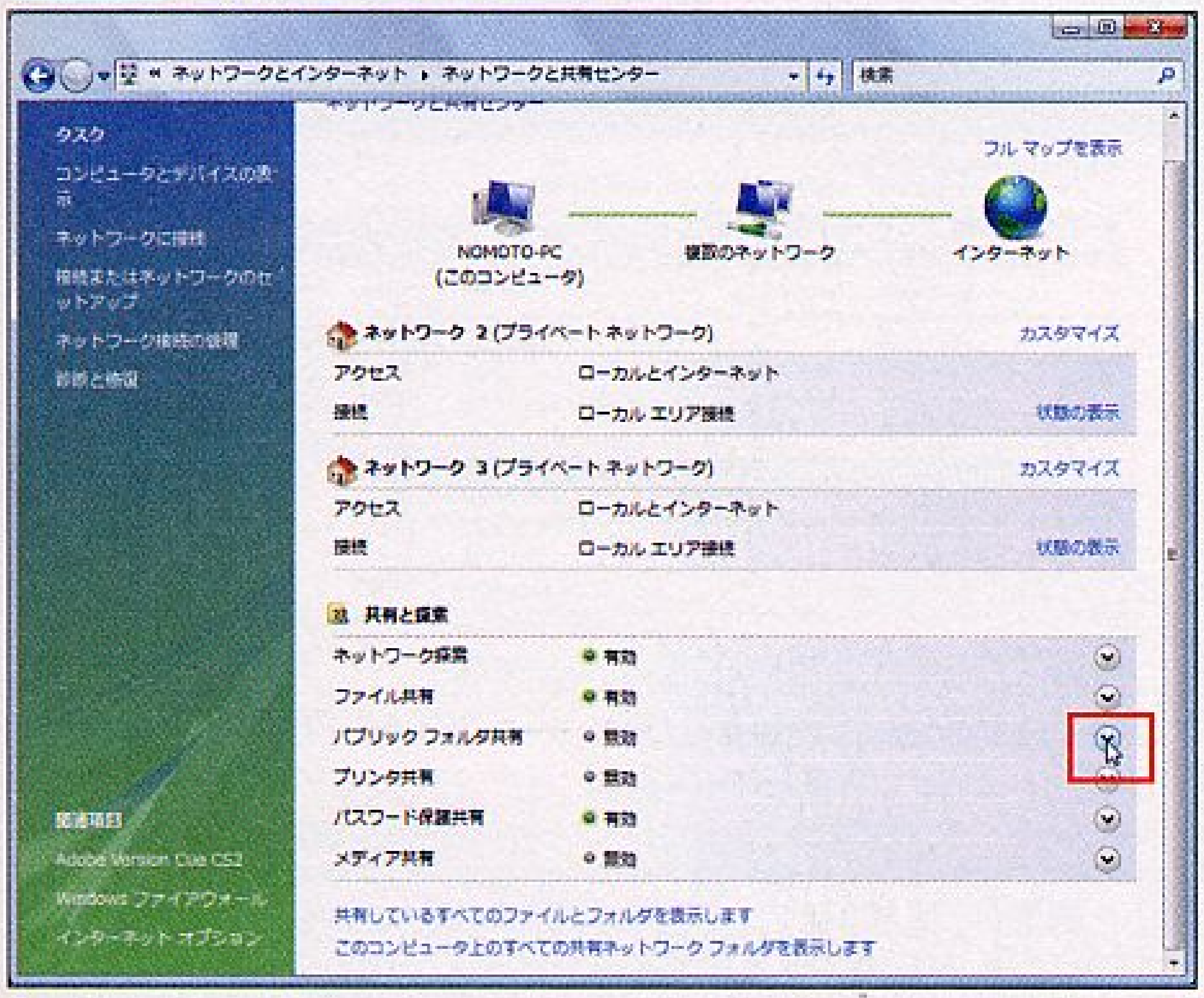
効果
●ややこしい設定をしなくてもフォルダを共有できる
●共有の有効化・無効化がすばやくできる

LAN内のパソコン同士でフォルダを共有する機能は便利だが、Vistaはセキュリティが強化され共有設定が複雑になっている。そのため、「Vistaにしてからはフォルダ共有ができていない」という人もいるのではないだろうか。そのような場合は、あらかじめ用意された「パブリック」フォルダを共有フォルダにすればよい。「パブリック」フォルダだけは、非常に簡単な方法で共有設定できるようになっているからだ。「任意のフォルダでなくてもいいから、とにかくどこかのフォルダを共有したい」という場合にはピッタリだ。

1 「ネットワークと共有センター」を開く

「スタート」メニュー→「コントロールパネル」の「ネットワークとインターネット」項目の「ファイルの共有の設定」をクリックする

2 「パブリックフォルダ共有」の設定を表示する

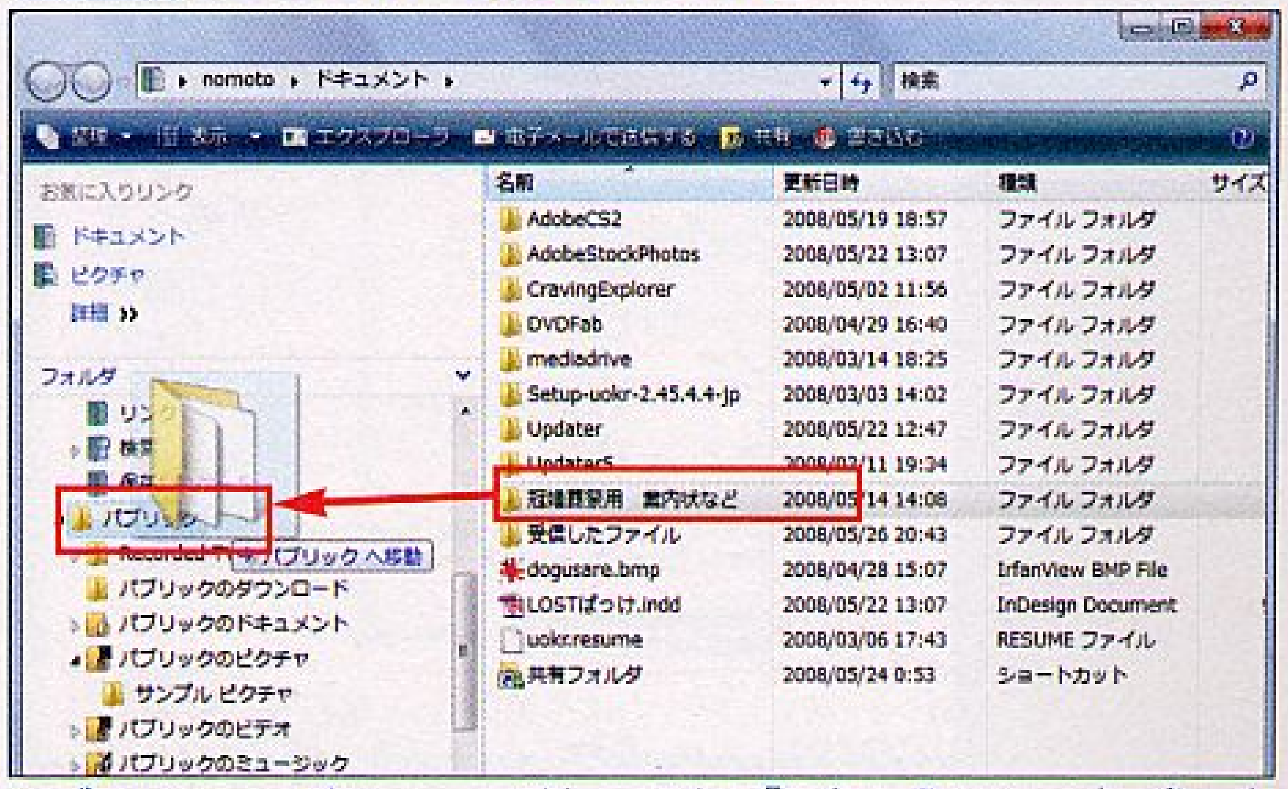


「パブリックフォルダ共有」の横のプルダウンをクリックする

3 共有を有効にして制限を設定する

「共有を有効にして…開くことができるようにする」にチェックを入れると、閲覧専用で共有できる。「共有を有効にして・・・開く、変更する、作成することができるようにする」にチェックを入れると、読み書き可能で共有できる

4 パブリックフォルダへファイルを移動する



パブリックフォルダは、フォルダウィンドウの「お気に入りリンク」に常に表示されているので、ファイルの移動も簡単だ

Keyword パブリックフォルダ
Vistaで最初から用意されているフォルダのひとつ。すべてのユーザーアカウントで開くことができるため、複数のユーザー間で共有したいファイルを保存するのに利用する。XPでの「共有ドキュメント」にあたる。

難易度 普

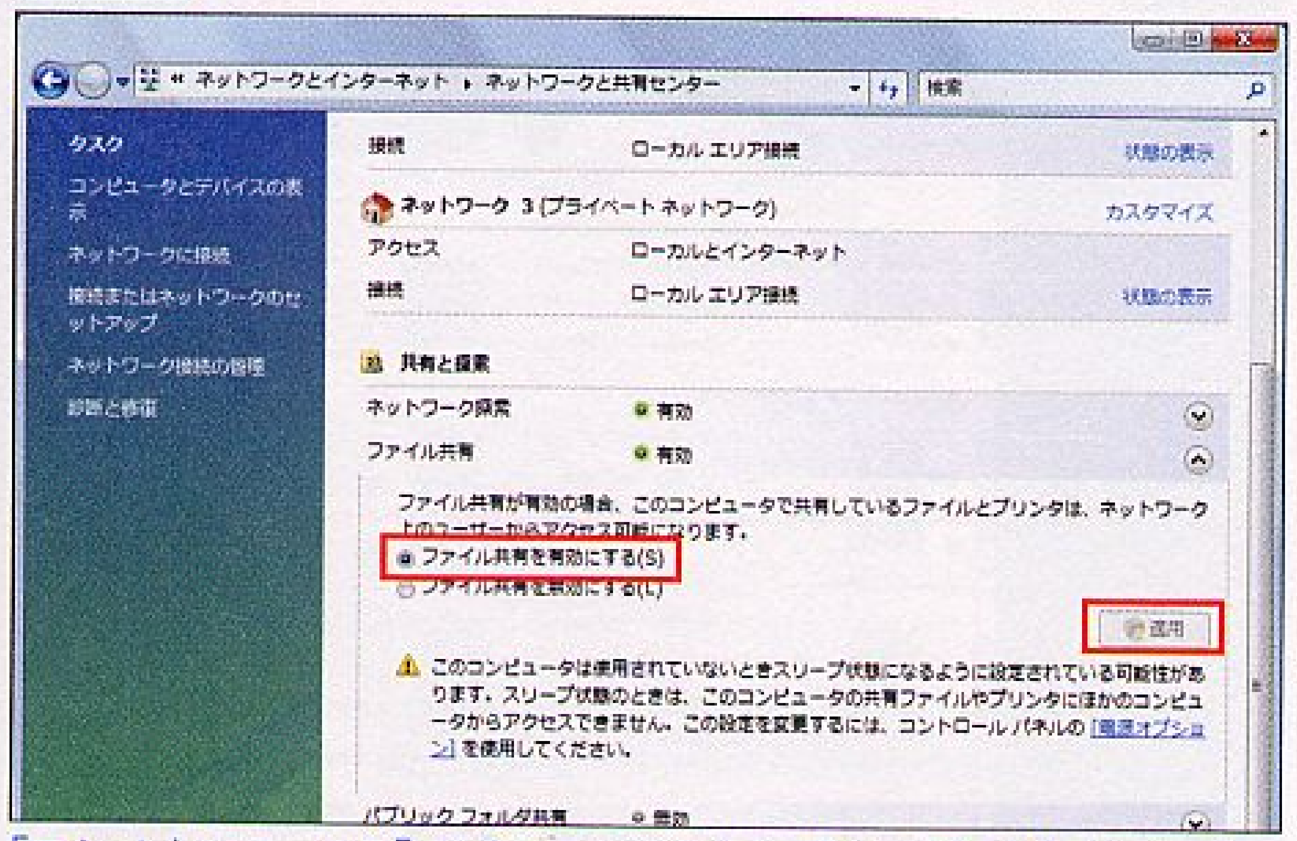
共有フォルダを用意してすばやくファイルを移動する

快適指数

効果 ●パソコン間のファイル移動が高速で行なえる
●ファイル容量に関係なくファイル転送が可能

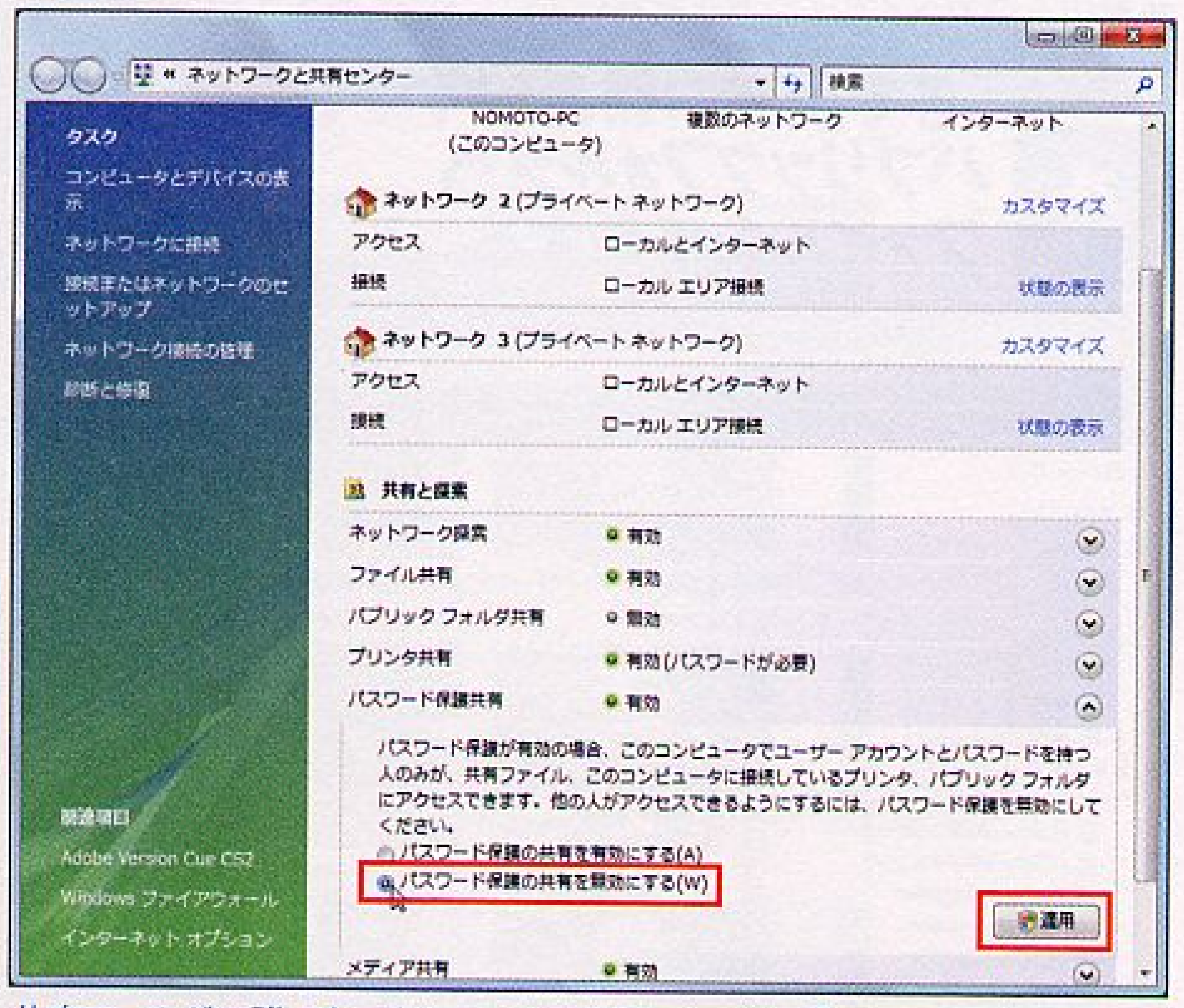
ローカルネットワークで複数のパソコンを利用していると、他のパソコンにデータを移動させたいことがある。そんなときはファイル共有機能を使おう。XPにもファイル共有機能はあったが、Vistaの共有機能はXPに比べてセキュリティが向上しているため共有するユーザーの設定など少し面倒な作業が必要になる。このため、設定なしで共有すると、ネットワーク上に共有フォルダは見えているがアクセスできないという状態になってしまう。誰でもアクセスできるようにしたいなら、フォルダ設定を「Everyone」にしよう。

1 「ネットワークと共有センター」を開く



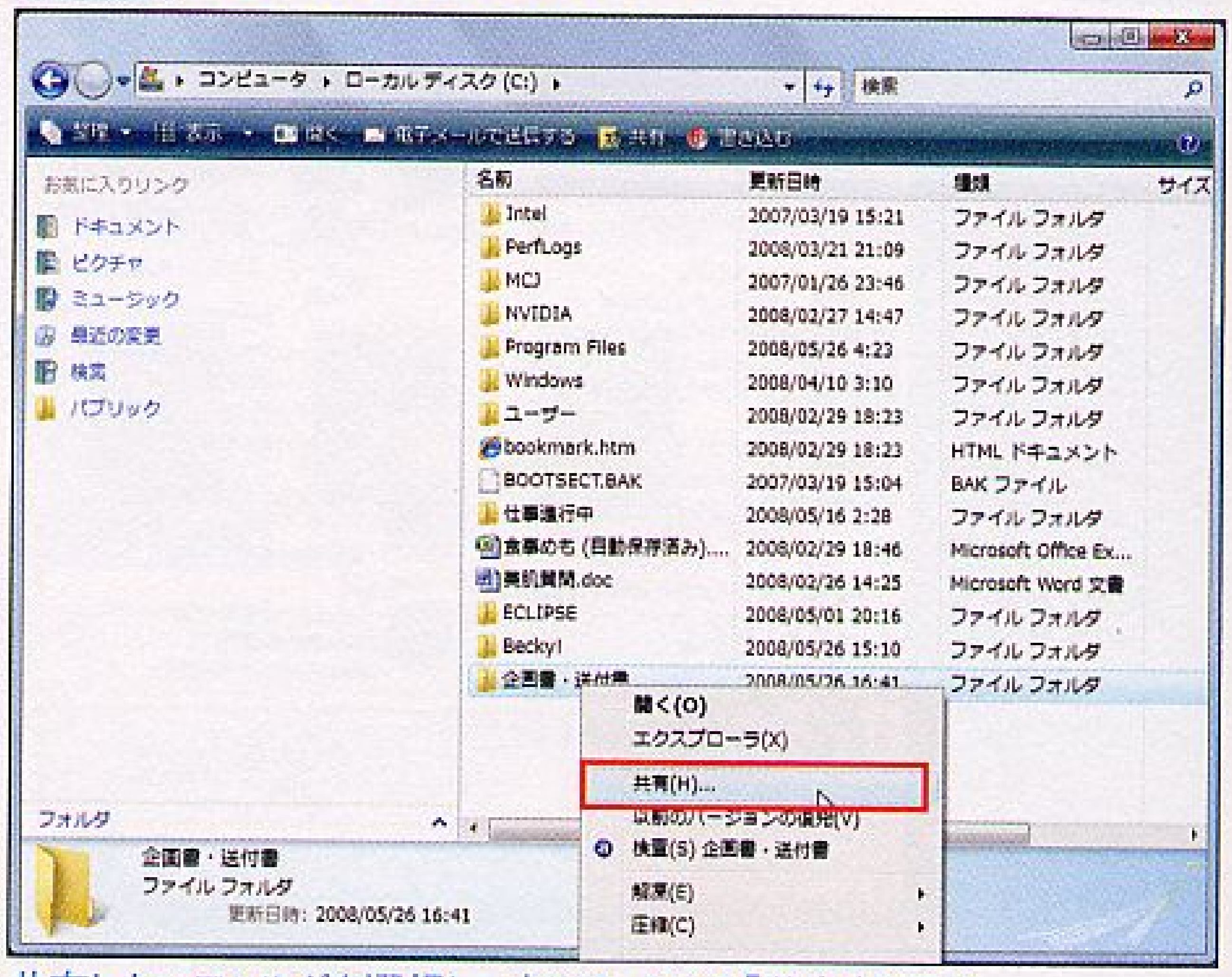
「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「ネットワークとインターネット」項目の「ファイルの共有の設定」を選ぶ。「ファイル共有」をで「ファイル共有を有効にする」を選択し、「適用」をクリック

2 パスワード保護を無効にする



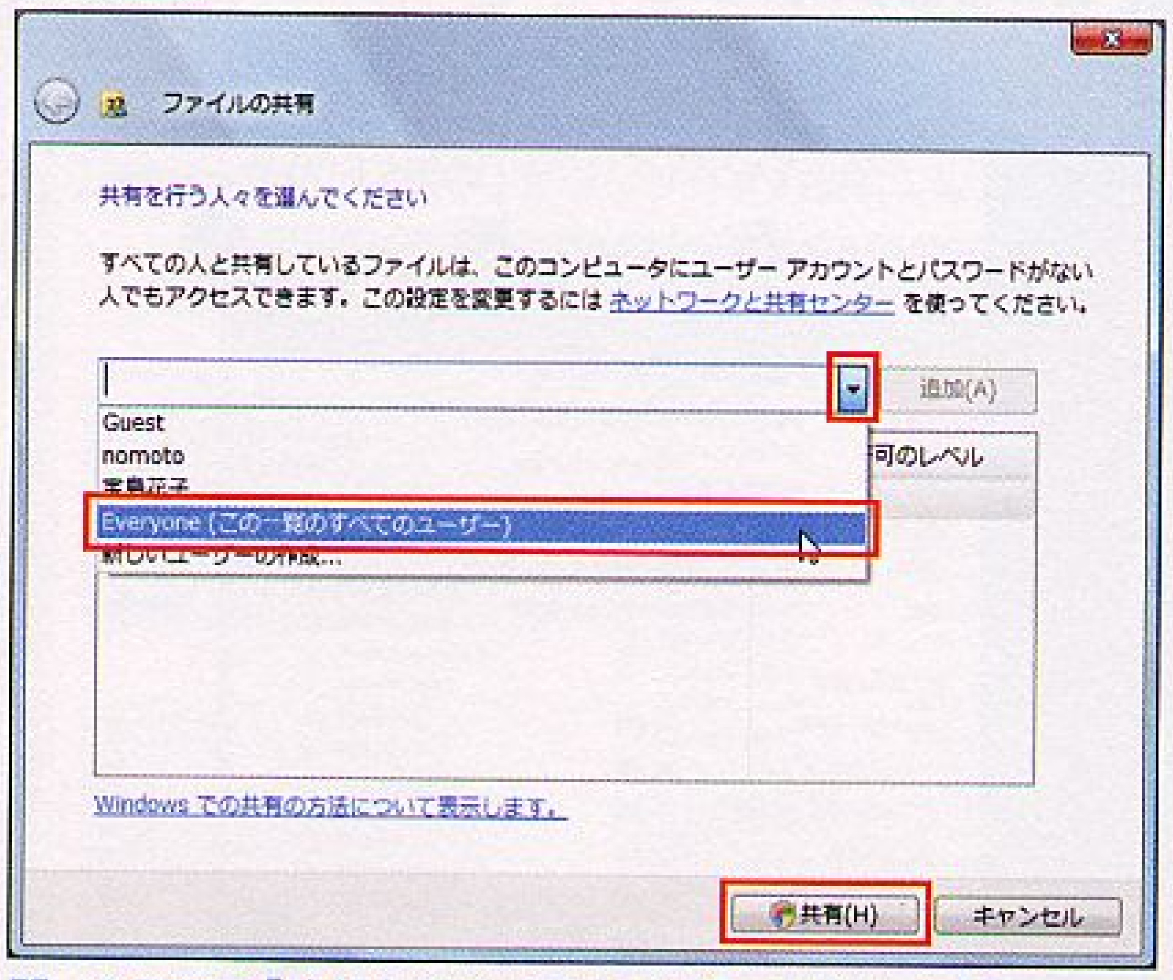
共有フォルダに誰でもアクセスできるようにするなら、「パスワード保護共有」でパスワード保護の共有を無効にする」を選択し「適用」をクリックする

3 メニューから「共有」を選択する



共有したいフォルダを選択し、右クリックから「共有」を選ぶ

4 共有ユーザーを追加する



開いた画面の「追加」ボタンの左にある「▼」ボタンから「Everyone」を選んで「追加」をクリック。「アクセス許可のレベル」のプルダウンから必要に応じて許可レベルを選択する。最後に「共有」をクリックすればOKだ

ワンポイント **共有をオフにする**

共有したフォルダを、再び共有しない状態に戻すには、フォルダを右クリックして「共有」をクリックし、「共有の停止」をクリック。セキュリティのためにも、共有する必要のなくなったフォルダは共有を停止しておこう。

難易度 普

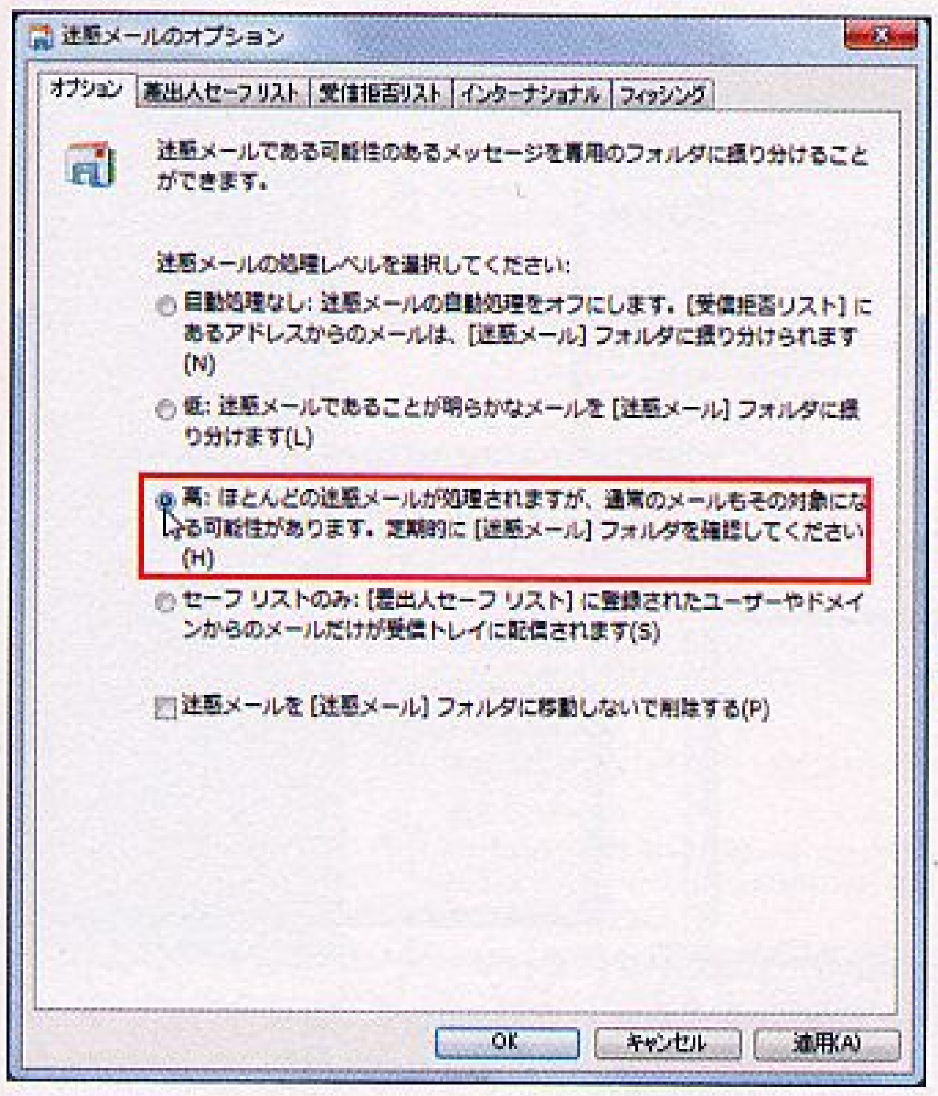
迷惑メール判別の精度を上げメール処理速度をアップ

快適指数

効果
- ●迷惑メール振り分けの精度が向上する
- ●必要なメールの読み逃しを防止できる

迷惑メールを自動判別してくれる「Windowsメール」は、処理レベルが「低」だと見逃しが多いため、より厳しい「高」で使いたいところだ。しかし、すると今度は必要なメールが「迷惑」と判別されてしまう恐れがでてくる。「アドレス帳」と「セーフリスト」に登録されたアドレスやドメインは必ず「迷惑でない」とされるため、メールをやりとりする可能性のある相手は必ずアドレス帳に登録し、会社の場合はドメインをセーフリストに登録しておこう。これで、「高」で高精度に判別しつつ、必要なメールは誤判定されず受信トレイで受け取れる。

1 迷惑メールの処理レベルを変更する

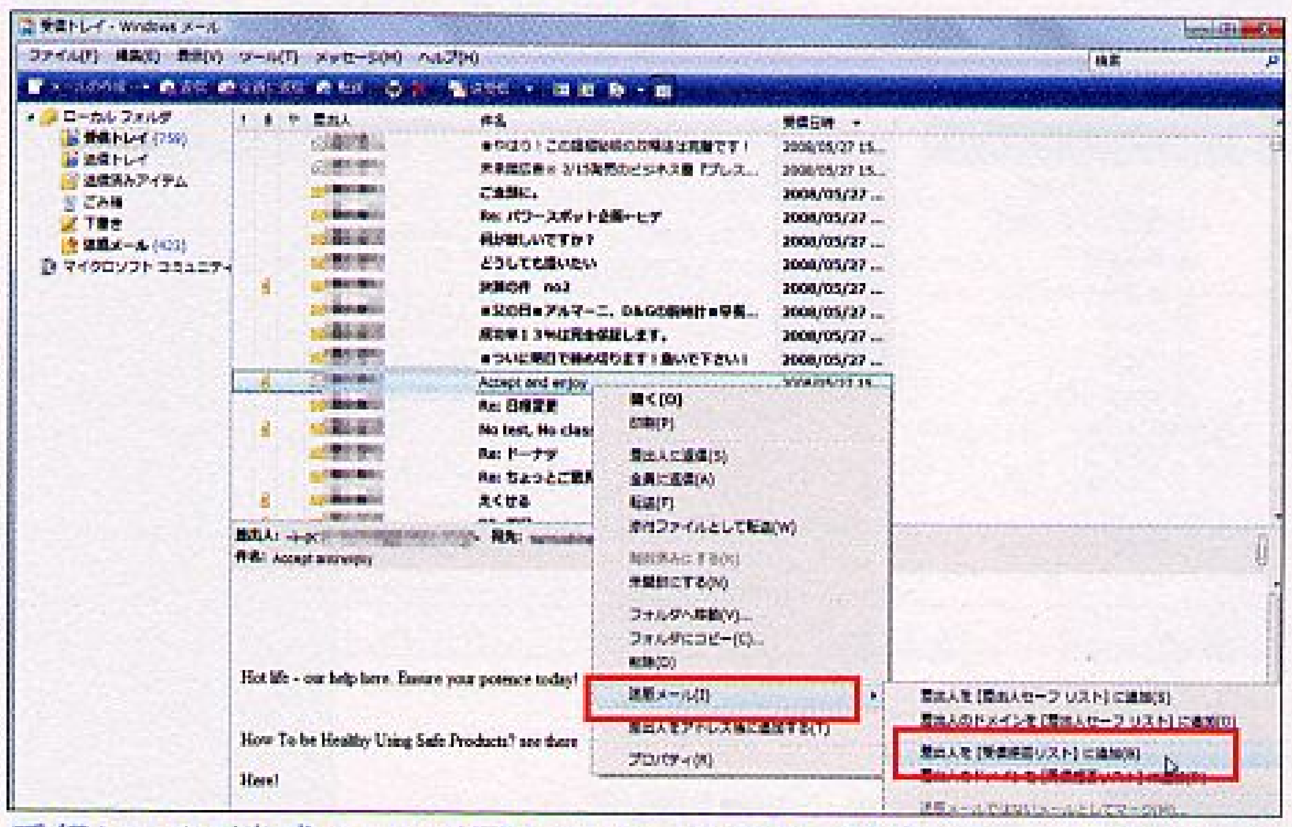


「Windowsメール」を起動し、「ツール」メニューから「迷惑メールのオプション」→「オプション」タブを開くと、迷惑メールの処理レベルが選択できる。デフォルトでは「低」に設定されているが、「高」に設定しよう

2 必要なメールが「迷惑メール」と誤処理された場合

迷惑メールフォルダに通常のメールが振り分けられていないか必ず確認する。振り分けられてしまっていたら、該当のメールを右クリック→「迷惑メール」→「差出人を[差出人セーフリスト]に追加」を選択する。するとその差出人から送信されたメールは受信トレイに振り分けられるようになる。会社などのドメインをセーフリストに追加する場合は「差出人のドメインを[差出人セーフリスト]に追加」を選択しよう

3 「迷惑メール」が受信トレイに届いてしまった場合

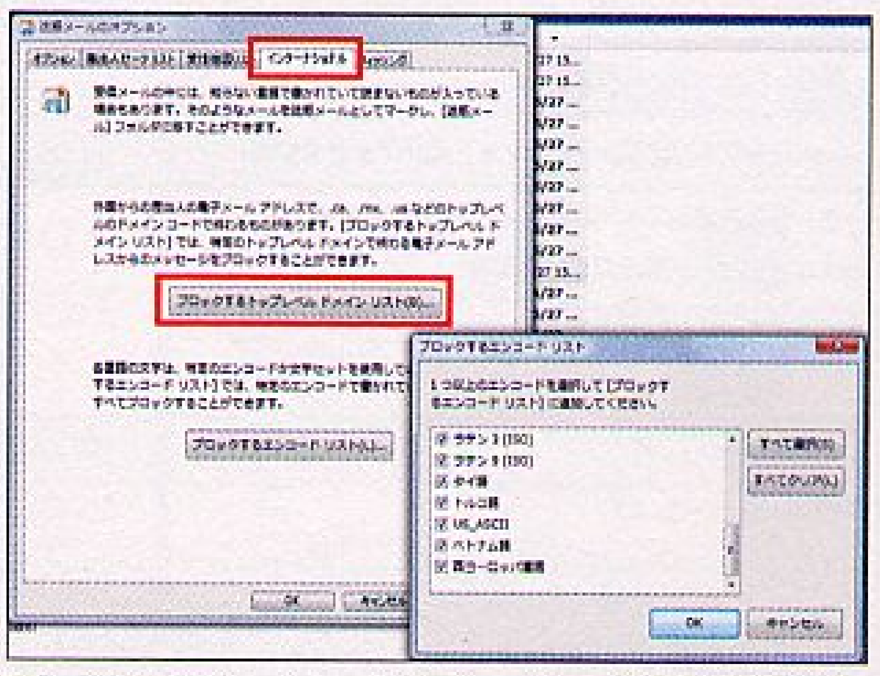


受信トレイに迷惑メールが届いてしまった場合、該当のメールを右クリック→「迷惑メール」→「差出人を[受信拒否リスト]に追加」を選択する。するとその差出人から送信されたメールは以降は「迷惑メール」フォルダに振り分けられる

もっと快適!!テクニック

海外からのメールをすべて迷惑メールとして登録する

海外から送信されてくる迷惑メールは意外と多いもの。「迷惑メールのオプション」には、海外のドメインから送信されたメールを迷惑メールとして認識する機能が搭載されている。



「ツール」→「迷惑メールのオプション」→「インターナショナル」タブを開き、「ブロックするトップレベル～」をクリックして、日本語以外にチェックを入れ、「OK」をクリックすればいい

Keyword 迷惑メール

身に覚えのない送信先から一方的に送信されてくるアダルト広告や商品の宣伝目的、全て英文などのメールの総称。「スパムメール」とも呼ばれる。日に数十件も届くこともあり、社会問題化している。

難易度 普

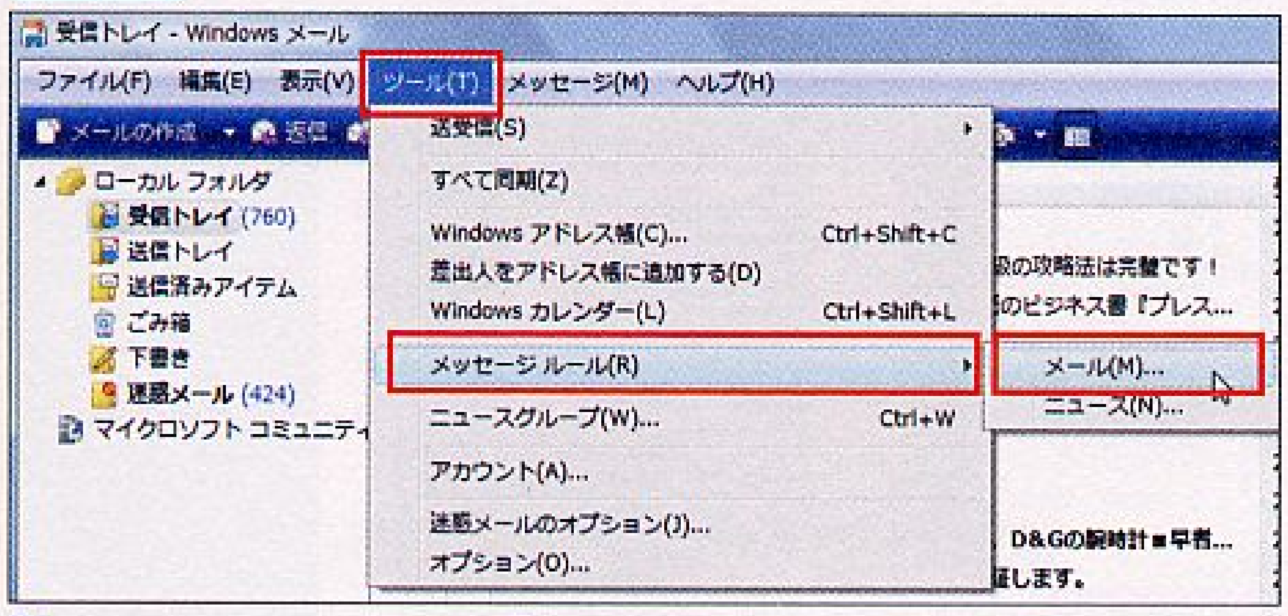
メールを自動的に分類受信して効率的に整理する

快適指数

効果
●メールルールの設定でメールを自動的に分類できる
●専用フォルダにメールを振り分けして効率化する

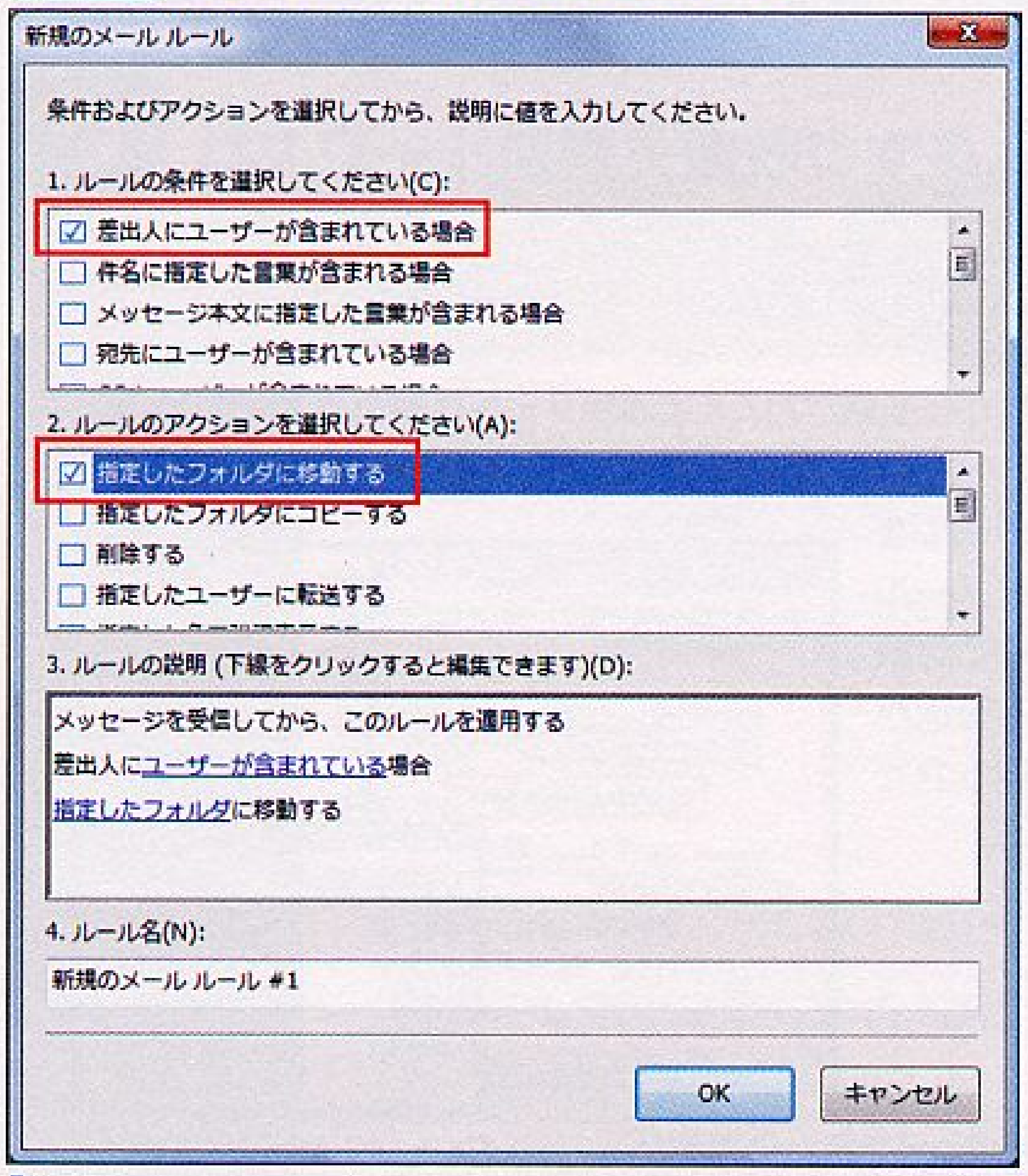
メインで使っているメールアドレスに仕事のメールや購読しているメルマガなど、いろいろなメールが集中すると、膨大なメールを管理するのが面倒になる。そこで「Windowsメール」の「メールルール」を利用した、効率的なメール振り分けを試してみよう。用途ごとに専用のフォルダを作成しておき、あらかじめ設定した条件に当てはまるメールを自動的にそのフォルダに振り分けるようにすることができる。受信したメールをいちいち手動で仕分けする手間が省けて、大事なメールが埋もれてしまうことも少なくなるはずだ。

1 ルールの新規作成



「Windowsメール」を起動し、「ツール」メニューの「メッセージルール」→「メール」をクリックする

2 メールルールの条件や動作を設定する

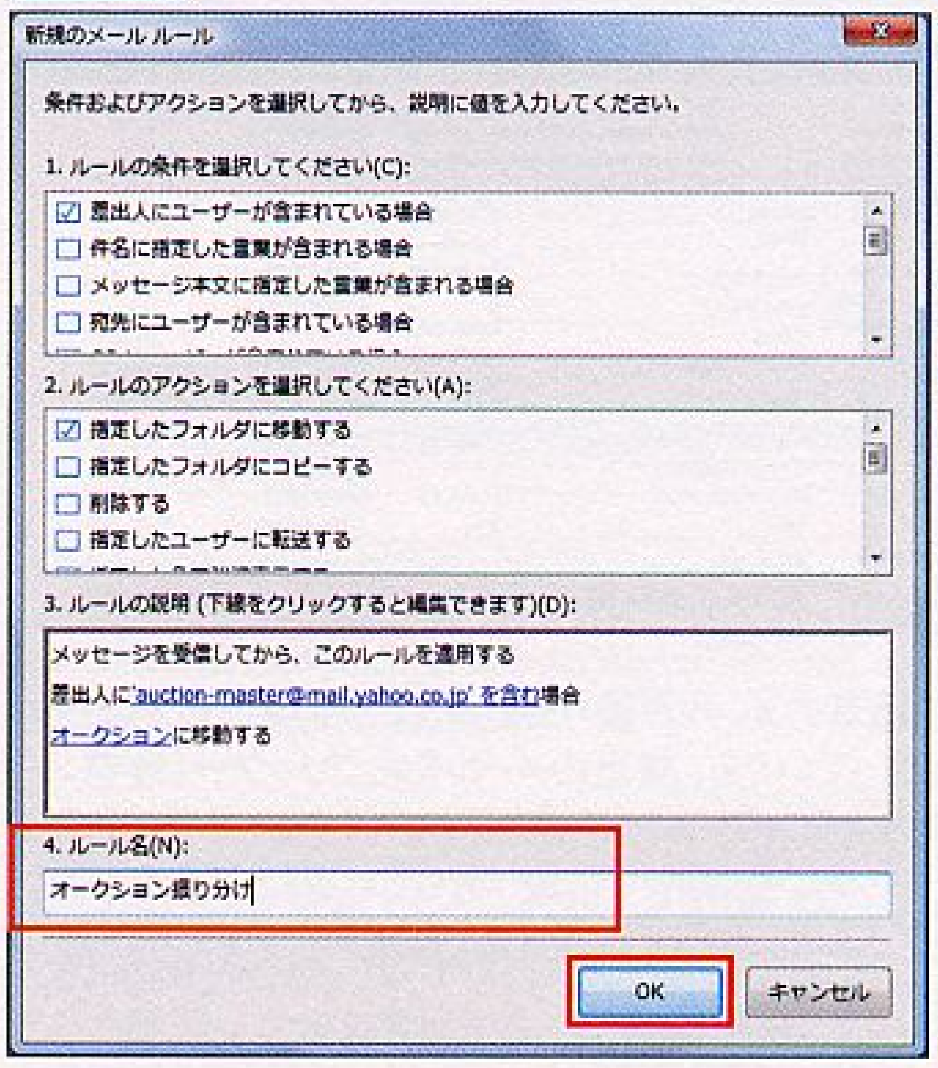


「新規のメールルール」ダイアログが開く。例えば特定のアドレスからのメールを専用のフォルダに振り分けるには、「差出人にユーザーが含まれている場合」、「指定したフォルダに移動する」をそれぞれ選択

3 条件や動作の細かな内容を指定する

2のメールルールの画面の下に表示される「ユーザーが含まれている」、「指定したフォルダ」の青い文字列をそれぞれクリックして、振り分けたいメールアドレス、振り分けたいフォルダを指定する。フォルダは振り分け用のフォルダを新規作成しよう

4 メールルールの内容を確認する



「ルール名」にわかりやすい名前を入力して「OK」をクリックする。メールルールに新しいルールが追加され、これ以降に受信したメールは自動的にルールどおりに振り分けられる

Keyword メールルール
受信したメッセージに含まれる条件によって、どのような操作を行なうかあらかじめ設定しておくルールのこと。仕事用・プライベートなど受信メールを用途別に振り分ける際に活用されることが多い。

難易度 易

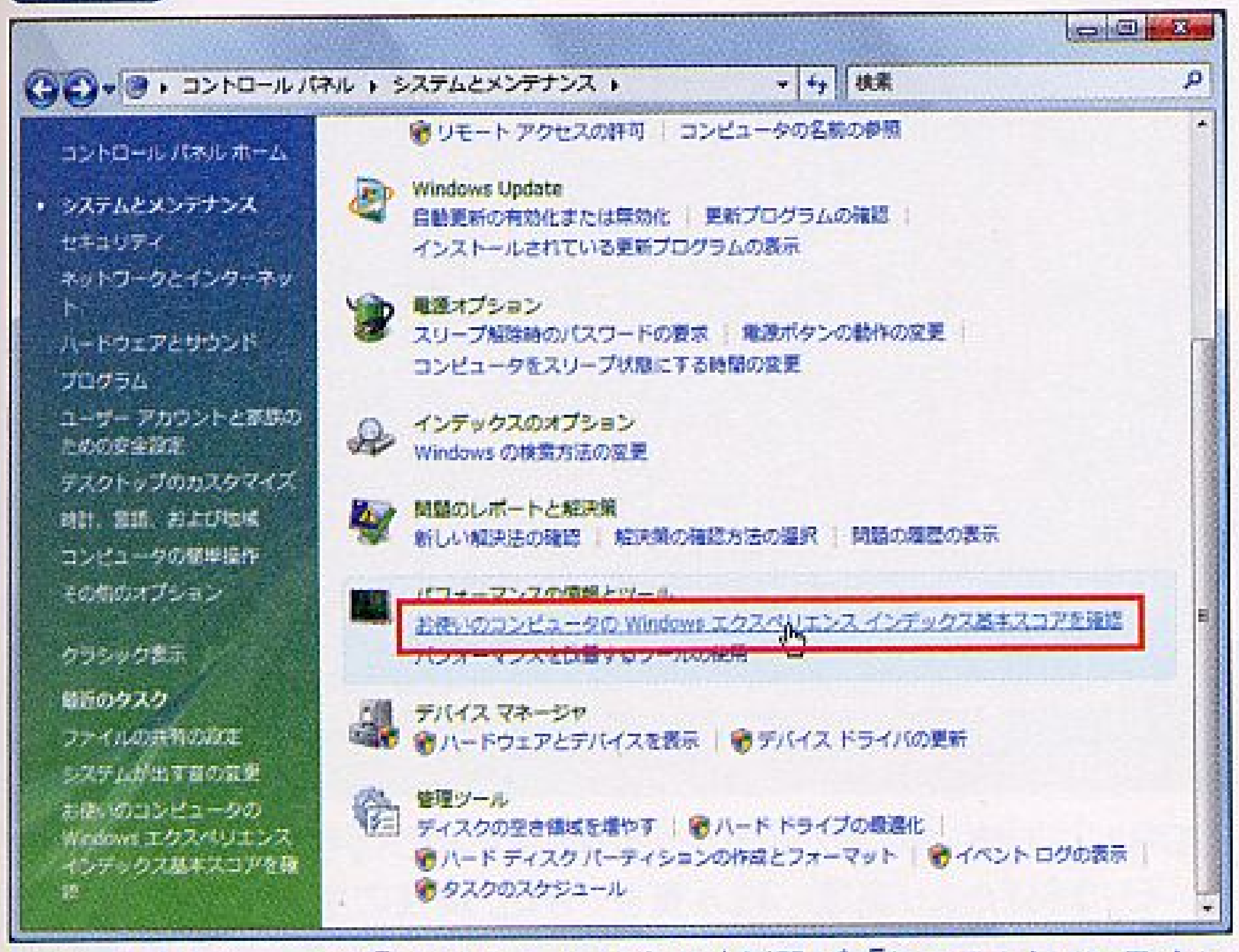
パソコンの弱点を発見し強化すべきパーツを知る

快適指数

効果
- ●自分のパソコンのハードウェアの能力がわかる
- ●機器を買い替えるときの目安になる

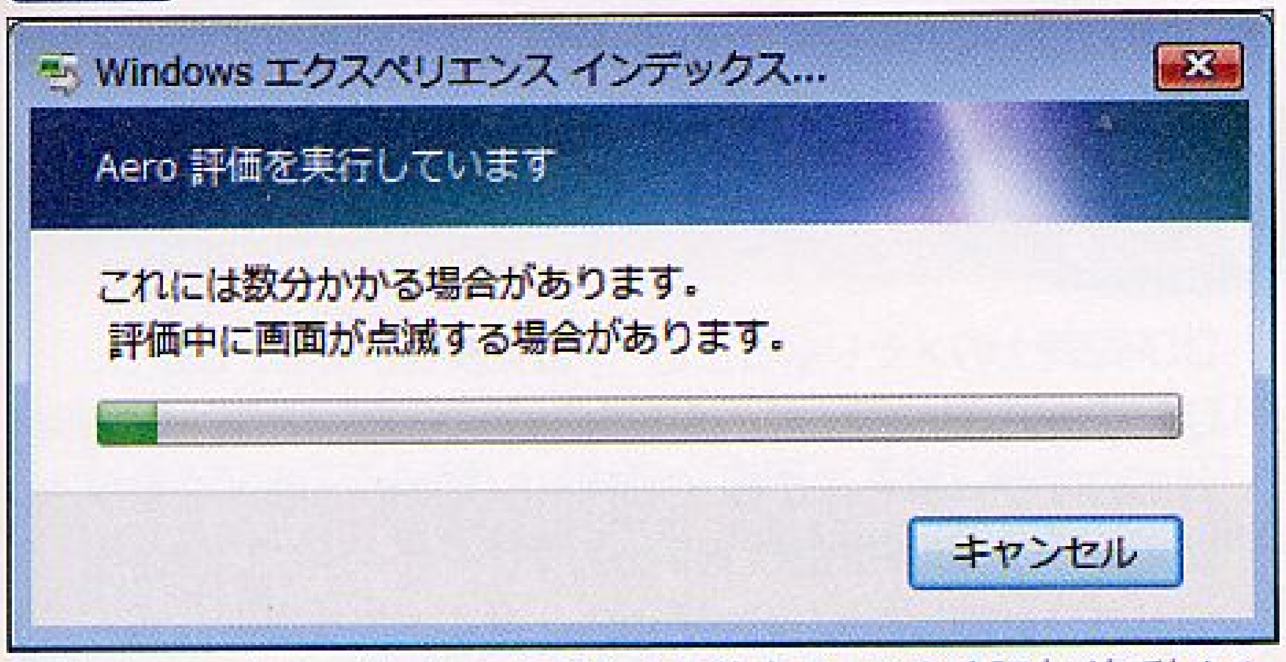
パーツを交換してパフォーマンスを強化したいが、どのパーツを換えれば効果的なのかは、パソコンに詳しくなければわからない。そんなときに役に立つのが、ハードウェアの能力をスコア化して表示する「パフォーマンスの情報とツール」だ。CPU（プロセッサ）・メモリ・グラフィック・ゲーム用グラフィック、ハードディスク（プライマリハードディスク）の能力が独自のスコアで表示されるので、スコアが低いパーツを交換すれば弱点補強になる。自分のパソコンの弱点が分かったら54ページ～61ページを参照して増設を検討しよう。

1 「パフォーマンスの情報とツール」の起動



「スタート」メニューから「コントロールパネル」を選び、「システムとメンテナンス」→「パフォーマンスの情報とツール」項目の「お使いのコンピュータのWindowsエクスペリエンスインデックス基本スコアを確認」をクリックする

2 スコアが計測される



「Windowsエクスペリエンスインデックス基本スコアを確認」が起動する。初回選択時にはスコアの計測が行なわれるのでしばらく待つ

3 基本スコアが表示される

基本5項目について、独自のスコアが表示され、一番低いサブスコアが「基本スコア」となる。一番低いサブスコアが改善すべきポイントとなるが、平均して3.5以上あれば特に問題は出ないはずだ。ここでは「グラフィックス」と「ゲーム用グラフィックス」が特に低いので、これらを強化するグラフィックカードの性能を改善すればいいということがわかる

もっと快適!!テクニック 自分のパソコンパーツの詳細を知る

スコア結果から「詳細の表示と印刷を行います」をクリックすれば、自分のパソコンの構成パーツを確認することができる。「このページの印刷」をクリックして印刷しておけば、パーツの買い替えに役立つ。

Keyword インデックス基本スコア

インデックス基本スコアは他のベンチマークソフトと同様、値が高いほど高性能ということになる。5つのサブスコアのうち、もっとも低いものが基本スコアとして採用されるので、スコアが低くても総合能力が低いとは限らない。

難易度 **難**

マシンの弱点・予算に合わせ増設パーツを選んで快適化

快適指数

効果
- ●パソコンの全体的なパフォーマンスアップができる
- ●3Dゲームなどもストレスなく描画される

パソコンの性能を向上させるには、メモリとグラフィックカードの増設が効果大。ここではVista対応のオススメ増設パーツを紹介する。Vistaの起動には、最低でも512MBのメモリが必要だが、Windows Aeroを使うためには、最低1GBのシステムメモリを要求する。ただし、これは最低限のマシン環境。メモリ増設のメリットが高いVistaでは、できれば2GB程度のシステムメモリを用意したい。また、グラフィックカードの性能も重要。ビデオメモリ128MB以上でDirectX 9に対応したパーツでなければWindows Aeroは使えない。

対応形式のメモリを購入すること

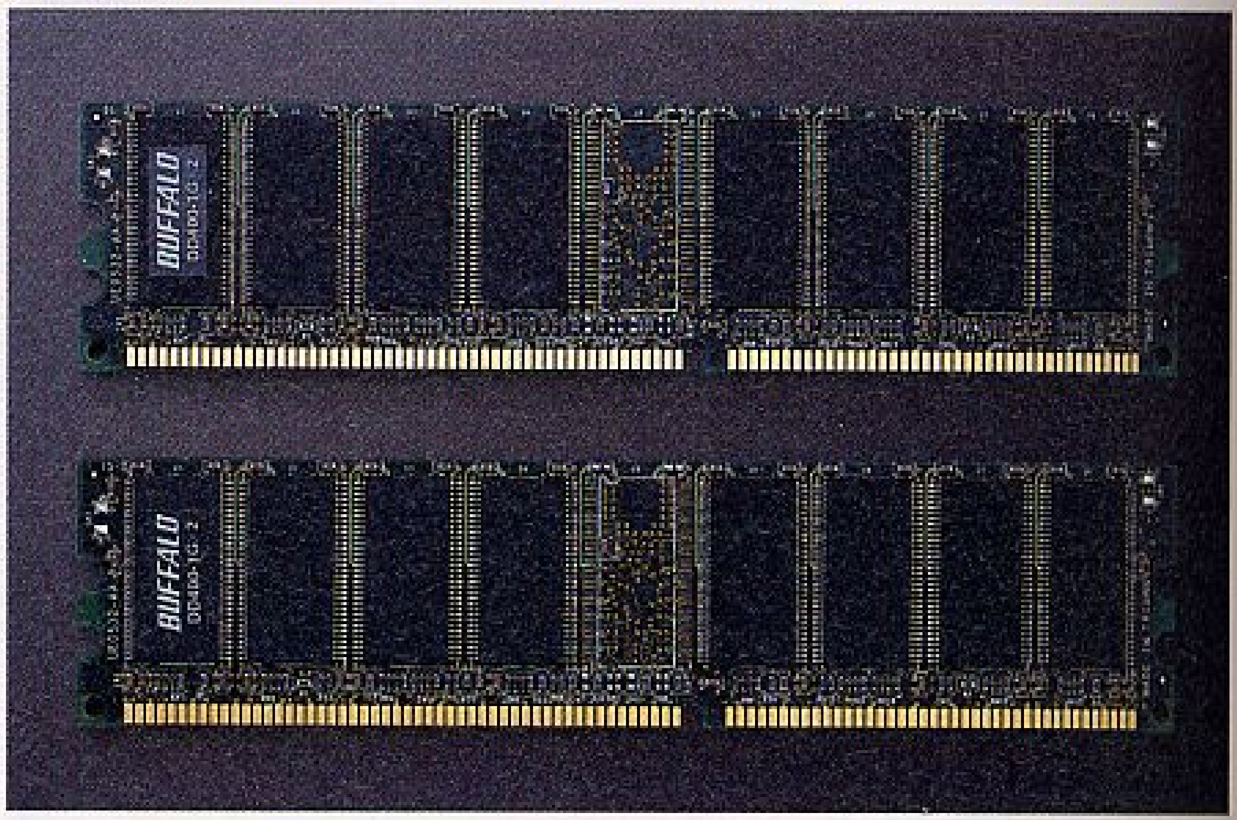
メモリ購入時にはメーカーページでパソコンの型番による対応製品を確認しておくこと。同じ規格（PC2-4200など）のメモリでも形状の違う製品が存在する。また、旧型のパソコンではPC2シリーズ（DDR2 SDRAM）自体が使えない場合も。また、最新の「PC3」という規格のメモリも登場しているが、現在のマザーボードはほとんど「PC2」なので購入前に確認しておくこと

デスクトップパソコン用メモリを選ぶ

1 価格改定でお得になった最速PC2-6400

PC2-6400（DDR2 800MHz）は価格改定で割安になった。2本組で増設すればデュアルチャネル動作により処理能力が数段上がるので、できれば2本一緒に増設したい（写真は「BUFFALO D2/800-1GX2」 実勢価格 16,000円前後）

2 古いパソコンでも高速アクセスが可能なPC-3200



「DDR2」に対応していない「DDR」規格のパソコンでも、「DDR PC3200」のメモリならばかなり高速に読み書きできる。現在の主流ではないため価格はDDR2よりもかえって高くなってしまうが、古いパソコンを生かしたいなら投資してみてもいいだろう（写真は「BUFFALO DD400-1GX2」 実勢価格 23,500円前後）

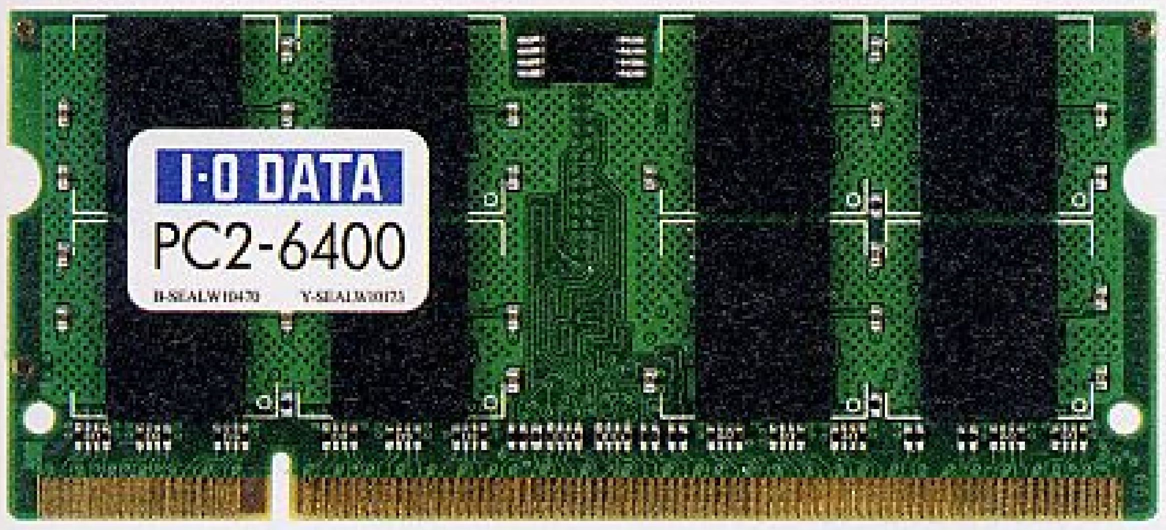
もっと快適!!テクニック　DDR2同士なら互換性がある

DDR2同士のメモリなら上位・下位互換性がある。つまり、DDR2対応のマザーボードであれば、DDR2 (333MHz)対応のマザーボードでも、DDR2(500MHz)のメモリが使えるのだ。DDR2(800MHz)のマザーボードに333MHzのメモリを差してもいい。ただし、あくまで互換性があって使えるというだけで、マザーボードの対応上限を超える速度のメモリを入れても、上限を超えて速くなることはない。値段的にはそう変わらないので、ピッタリのものが見つからないときに、互換性があるということを覚えておくといいだろう。

Keyword メモリ
広くはハードディスクなどを含むパソコンのデータ記憶領域を指すが、一般的に「メモリ」と呼ぶのはCPUが直接読み書きするRAMのこと。Windows VistaはXP以上にメモリ（RAM）の容量が快適性を左右する。

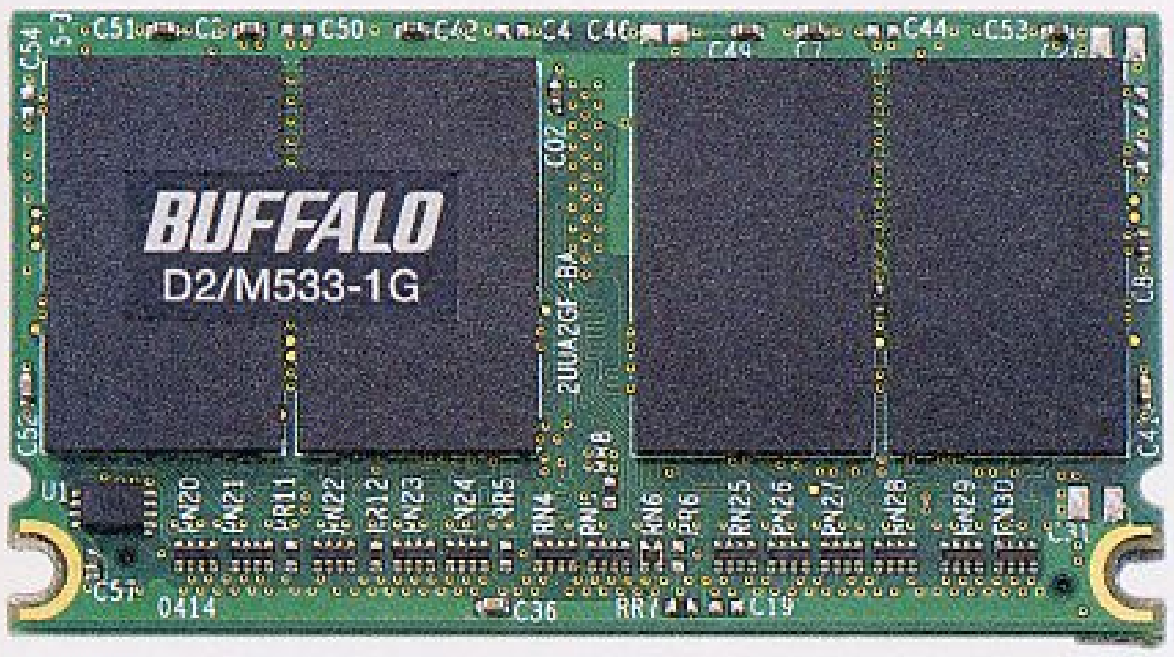
ノートパソコン用メモリを選ぶ

1 ノート用の最速規格 PC2-6400



ノートパソコン用メモリで主流の規格は「SO-DIMM」。ノートPC用の最速規格はPC2-6400。スロットの少ないノートPCだけに、できれば1GBメモリを増設しておこう（写真は「I·O DATA SDX800-1G」 実勢価格 8,000円前後）

2 超小型ノートパソコンには MicroDIMMが必要なことも



B5サイズ以下の超小型ノートパソコンではSO-DIMMよりさらに小さい「MicroDIMM」規格のメモリを使用することもある（写真は「BUFFALO D2/M533-1G」 実勢価格 9,800円前後）

高速なUSBメモリで高速化

Windows Vistaは「ReadyBoost」機能によりUSBメモリを内部メモリ代わりに使うことができる（詳しくは9ページ参照）。手軽にパワーアップしたいならばオススメだ（写真は「BUFFALO RUF2-R2GS-BS」 実勢価格 12,000円前後）

グラフィックカードを選ぶ

1 PCI Expressバス用 グラフィックカード

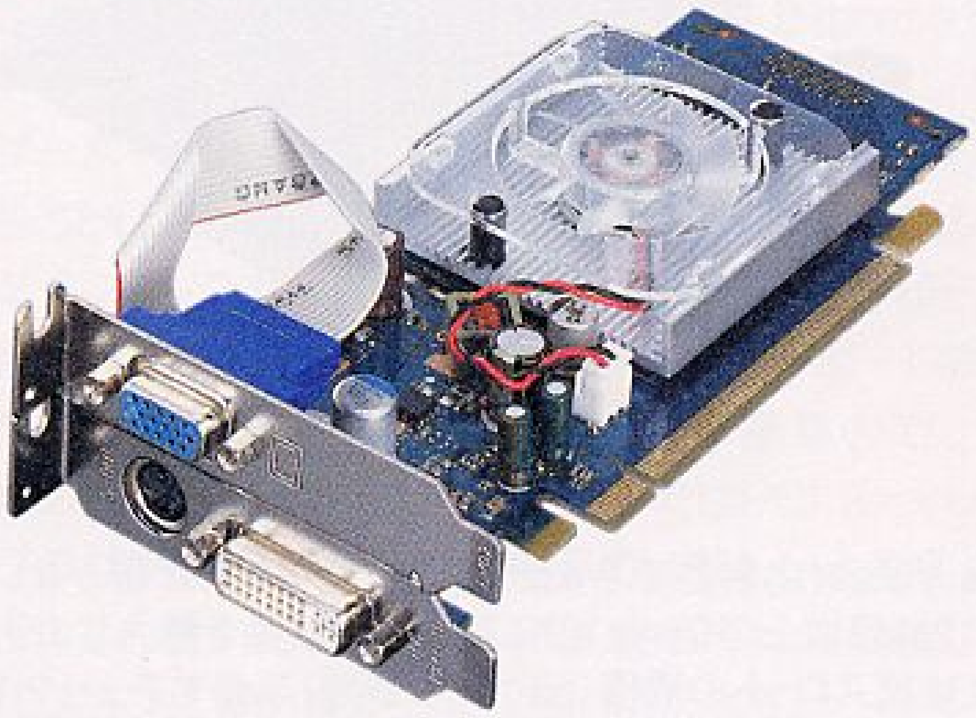
PCI Express規格に接続するタイプ。資金に余裕があり、3Dゲームを頻繁にプレイするならGeForce 8800シリーズ以上を購入したい（写真は「ELSA GLADIAC 988 GTZ 512MB」 実勢価格 30,000円前後）

2 AGPバス用 グラフィックカード

AGPスロットに接続するタイプ。3Dゲームも問題なく楽しめる「GeForce 7600」を搭載しながら、古いパソコンでも搭載されていることの多い「AGP」に対応しているのが嬉しい。PCI Expressに対応していないパソコンでも高速な3Dグラフィックを利用したい人におすすめ（写真は「BUFFALO GX76GS/A256」 実勢価格 18,000円前後）

もっと快適!!テクニック LowProfile規格か否かをチェック

省スペース型パソコンの場合、LowProfile規格というサイズのグラフィックカードしか増設できない場合もある。グラフィックカードを購入する際は、まず、PCI-Express、AGPのどちらの規格のどれが使えるのかを確認し、その上でLowProfile規格か否かをチェックしておこう。付属ブラケットを取り付けることでLowProfile規格に対応する製品もある（写真は「BUFFALO GX-84GS/E256」 実勢価格 10,000円前後）



Keyword グラフィックカード

その名のとおり画面表示機能を強化する拡張カード。画像描画のためのチップと、画面イメージ保持のためのビデオメモリ（VRAM）で構成される。グラフィックカードが高性能だと、高速で滑らかな映像が楽しめる。

難易度 難

Aeroなどが快適に動くグラフィックカードに換装する

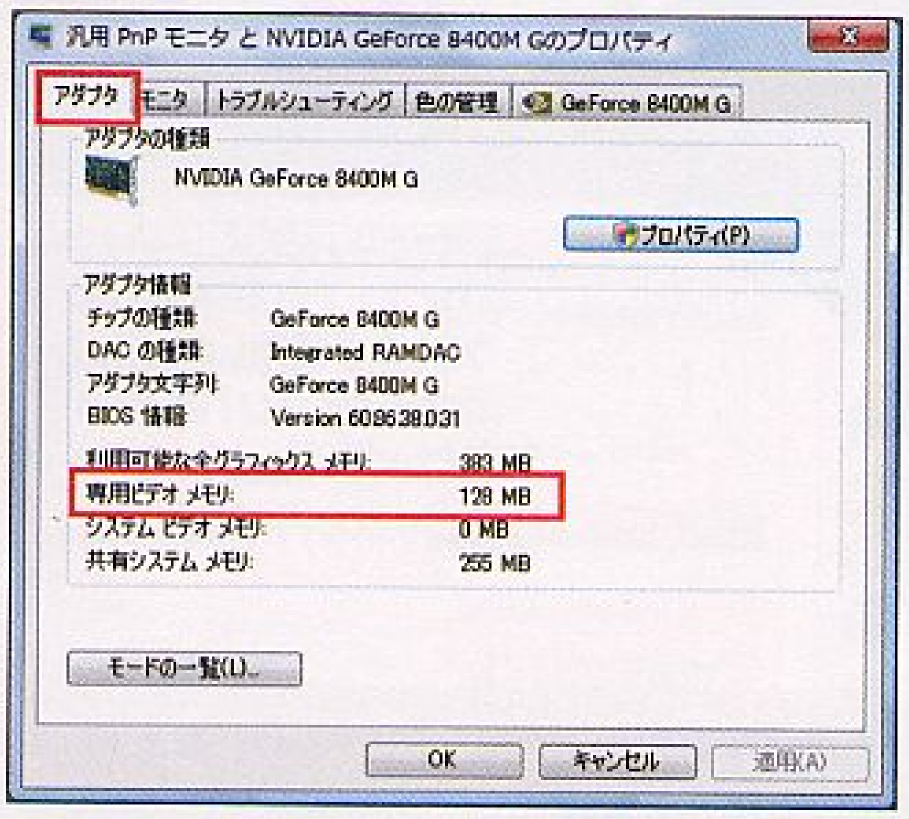
快適指数

効果 ●Aeroを始めとするグラフィック機能の強化
●3D機能を使う視覚効果がアップする

グラフィックカードの速度が遅いと、Windows Aeroが動作しなかったり、Aeroの性能が活かせず、システム全体の動作までもが遅くなってしまう（16ページを参照）。そのような場合には、高速なグラフィックカードに換装しよう。グラフィックカードを換えることで3Dの描画機能が劇的に高速化され、Windows Aeroの動作がスムーズになる。3Dゲームをやる人にもうってつけだ。更には、システム全体も高速化する。若干の出費と面倒な作業が必要になるが、それ以上に大きな見返りがあるカスタマイズといえる。

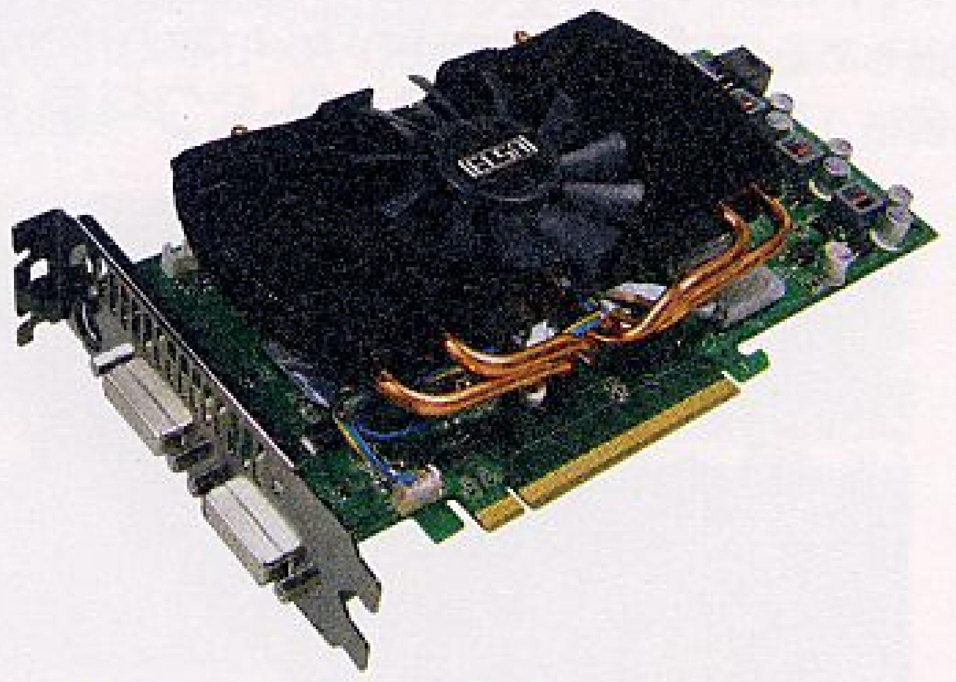
グラフィックカードの性能を確認する

1 使用中のグラフィックカードのスペックを確認する



デスクトップの何もないところで右クリックし、「個人設定」→「画面の設定」をクリック。「詳細設定」をクリックし「アダプタ」タブで現在使用中のグラフィックカードのスペックがわかる。専用ビデオメモリが128MB以下なら換装を考えたい

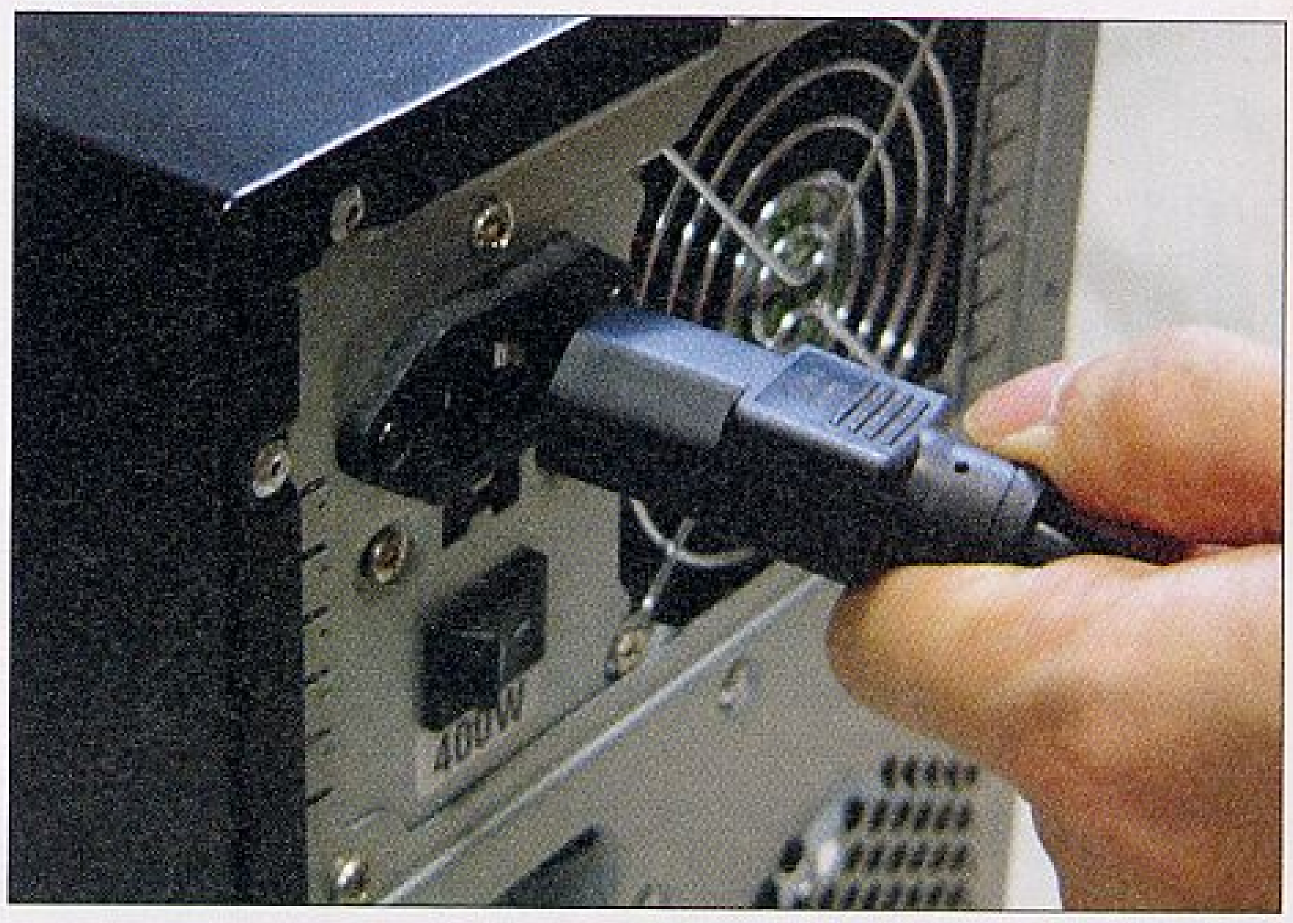
2 Aero対応のカードを用意する

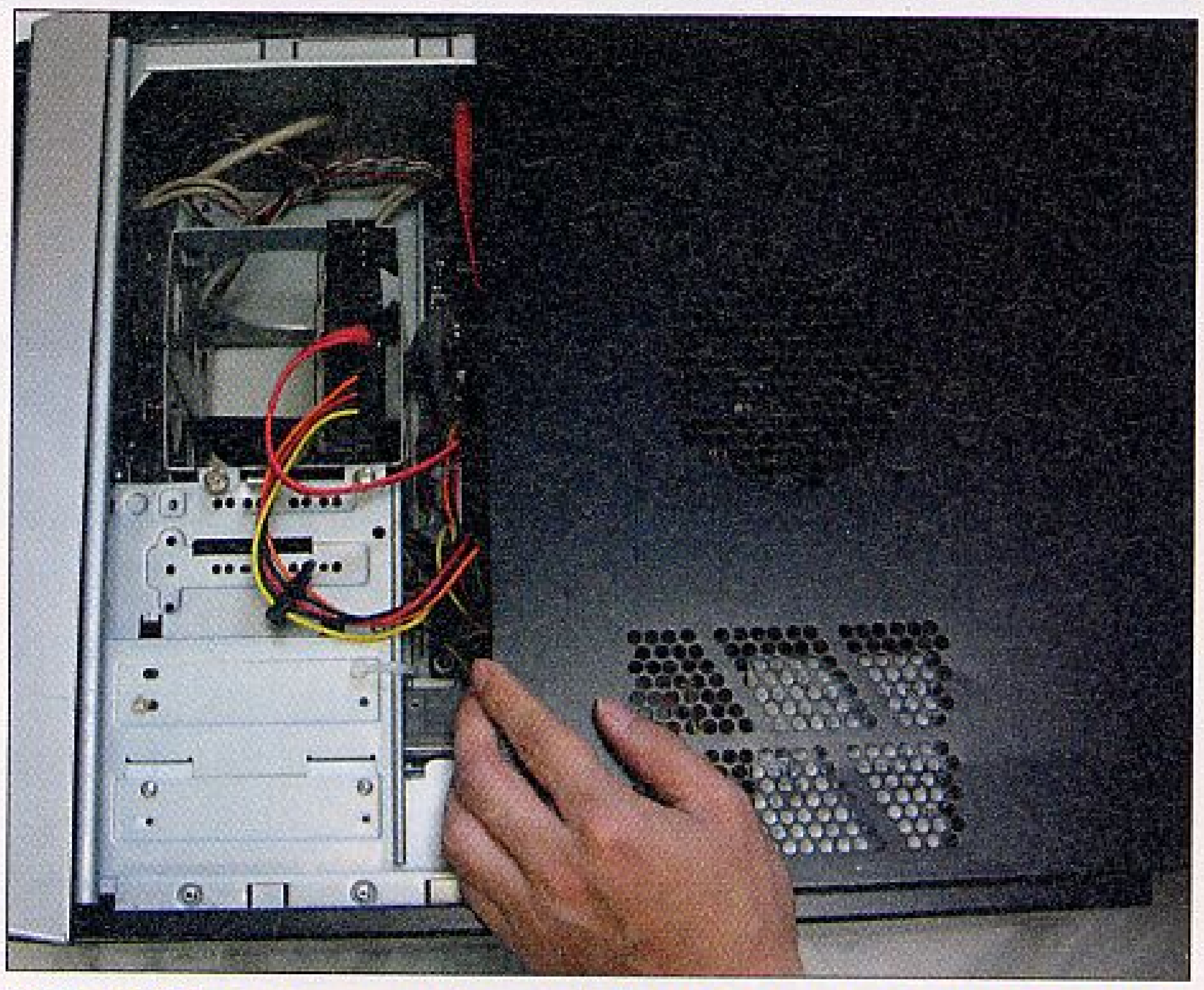


Windows Vista対応製品でもAero機能が使えるとは限らない。ビデオメモリ128MB以上でDirect X9に対応する製品を購入しよう。なお、購入時は接続スロットの規格（55ページ参照）を必ずチェックすること（写真は「ELSA GLADIAC 988 GTZ 512MB」 実勢価格 30,000円前後）

グラフィックカードを換装する

1 電源を落としてケースを開く

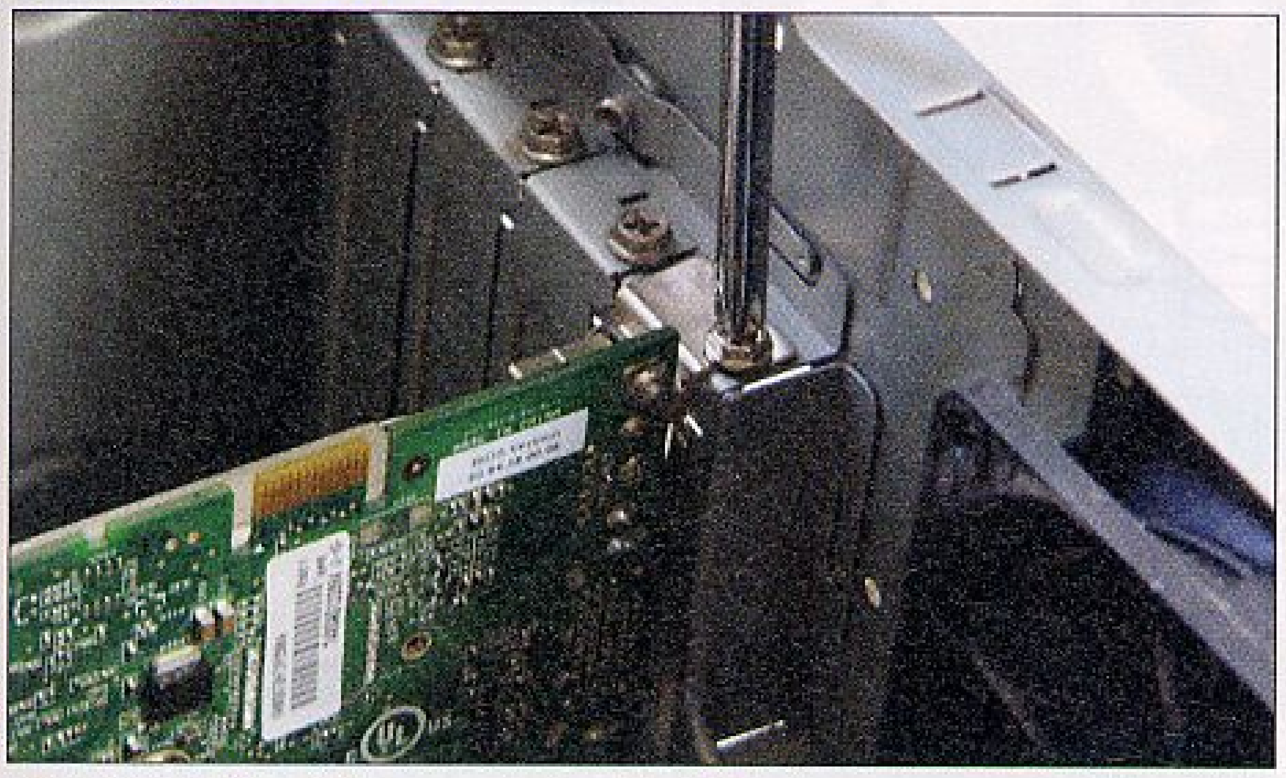




増設や換装でパソコンのケースを開く場合は、すべての周辺機器を外して電源コンセントを抜いてから作業すること。事前に金属に触れるなどして静電気を予防することも忘れずに。本体を横にして、スライドさせながらカバーを外す

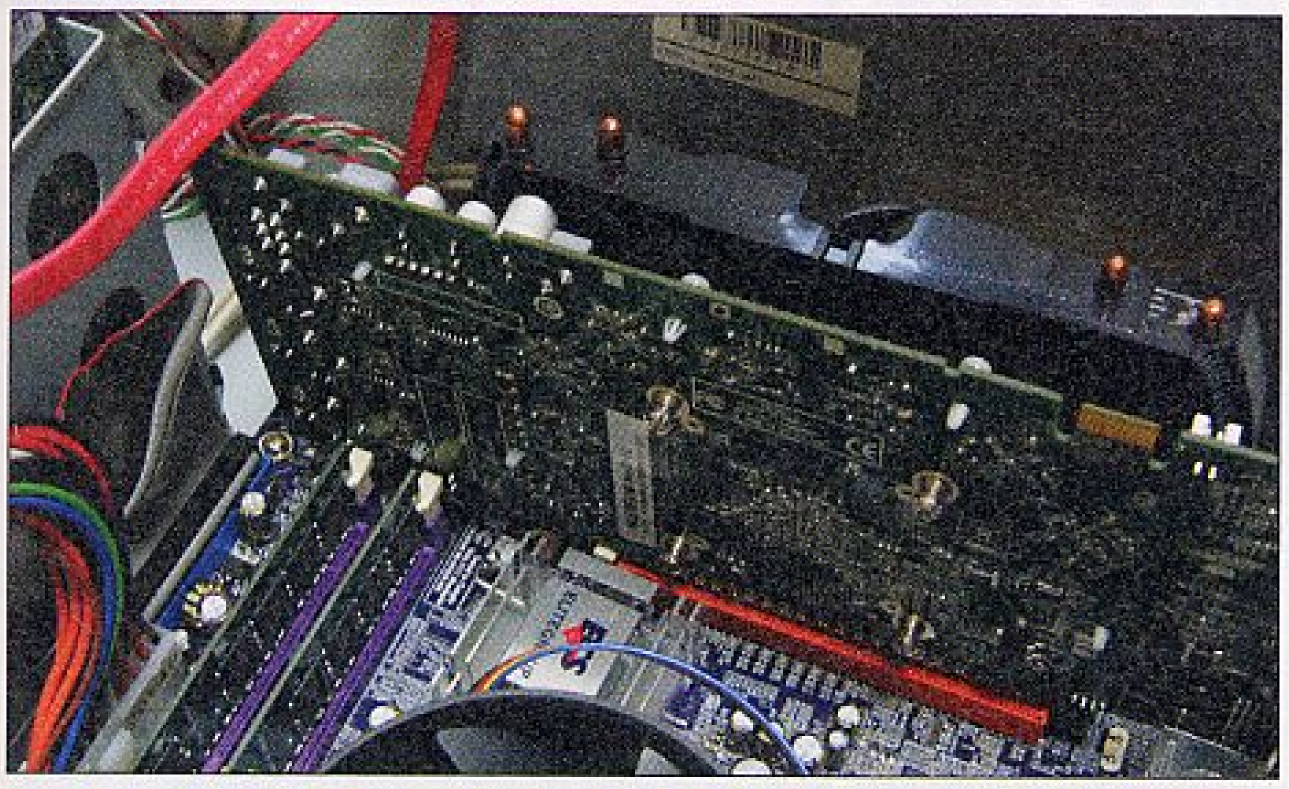
Keyword ビデオメモリ
ディスプレイに表示する内容を保持しておくメモリ。VRAMと呼ばれる。ビデオメモリの容量が大きいと画面の最大解像度や同時発色数が増やせる。また、ビデオメモリが高速ならば、より滑らかなムービーが楽しめる。

2 以前のグラフィックカードを取り外す



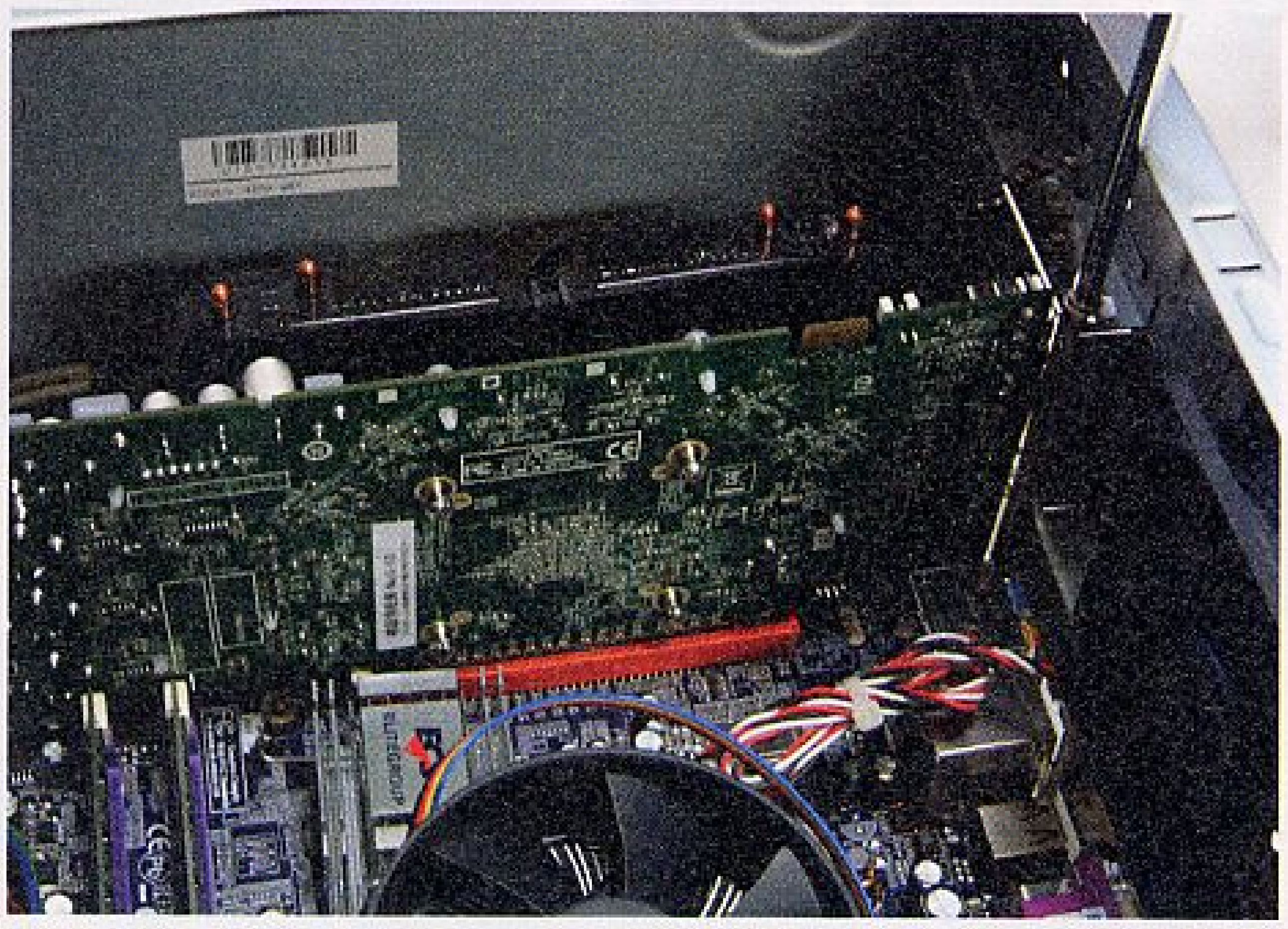
換装時は以前のグラフィックカードが挿入されているかを確認。装着してあるなら、ネジをとって外すこと。グラフィック機能がマザーボードに直接搭載されているオンボードタイプなら、設置スロットは空のはず。数年前の旧製品への増設ならば、一般的にはAGPスロットが使われている。現行製品なら、PCI Expressが主流になっている

3 新しいカードを挿入する



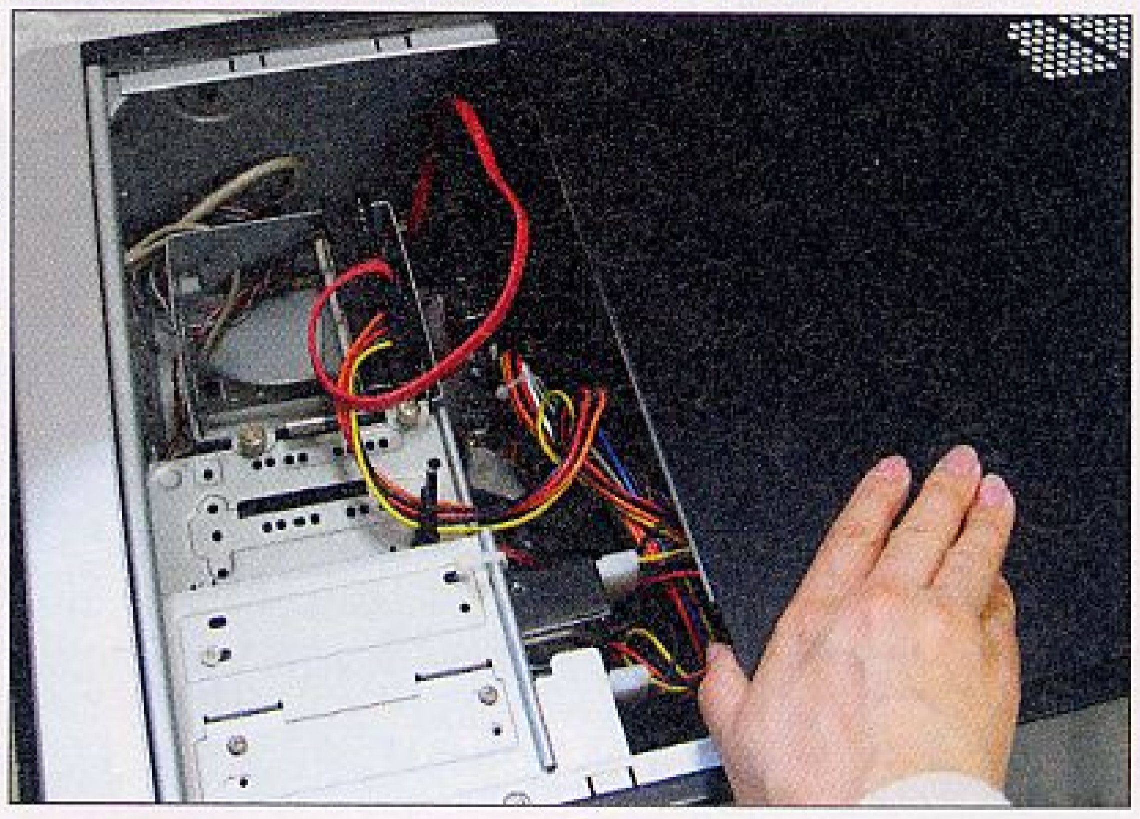
スロットの位置がずれないように注意しながら新しいグラフィックカードを挿入する。AGPなら、AGPのスロットに、PCI Expressなら、そのスロットに挿すこと（写真はPCI Expressタイプ）。奥まできっちりと差し込まないとパソコンが認識しないので注意

4 ネジでしっかりと固定する



歪みなく挿入できたことを確認したら、ネジでしっかりとケースに固定しよう。パソコンによってはネジの代わりにロック形式のものもある

5 ケースを閉じて周辺機器を接続する



接続が完了したらケースを閉じて周辺機器を接続。オンボードでグラフィック機能が搭載されていた場合には、以前のポートを使わずに、新しいグラフィックカードのポートからモニタへ接続する

6 パソコンを起動してドライバを読み込む

モニタに画面が映ればグラフィックカードの装着は問題ない。プラグアンドプレイ機能でドライバ更新が求められるので、専用ドライバへ更新しよう。メーカーのWebサイトなどではWindows Vistaに対応した最新ドライバが提供されているので、付属ドライバのバージョンを確認して、新しいバージョンが公開されていればダウンロードしよう（画面はエルザジャパンのサイト）

もっと快適!!テクニック PCI-Expressのグラフィックカードを使いたい

現在のグラフィックカードの主流は「PCI Express」という新しい規格のもの。ただし、1、2年前のパソコンでは、マザーボードにPCI Expressのスロットを装備していないものがほとんどだ。このようなパソコンでPCI Expressのグラフィックカードを使いたい場合は、残念ながらマザーボードを交換しなければならない。マザーボードの交換はかなりの知識がないとできない作業なので、PCI ExpressのスロットがないパソコンではPCI Expressタイプのグラフィックカードを使うのは難しいと考えよう。どうしても使いたい場合は、PCI Expressを搭載しているパソコンに買い替えたほうがいいだろう。

Keyword PCI Expressバス

AGPバスを超える転送速度を実現する新しいインターフェイス。グラフィックカードとメインメモリ間のアクセス速度が上がれば、VRAMが不足した場合にもメインメモリがハイスピードになり、処理を行なえる。

難易度 難

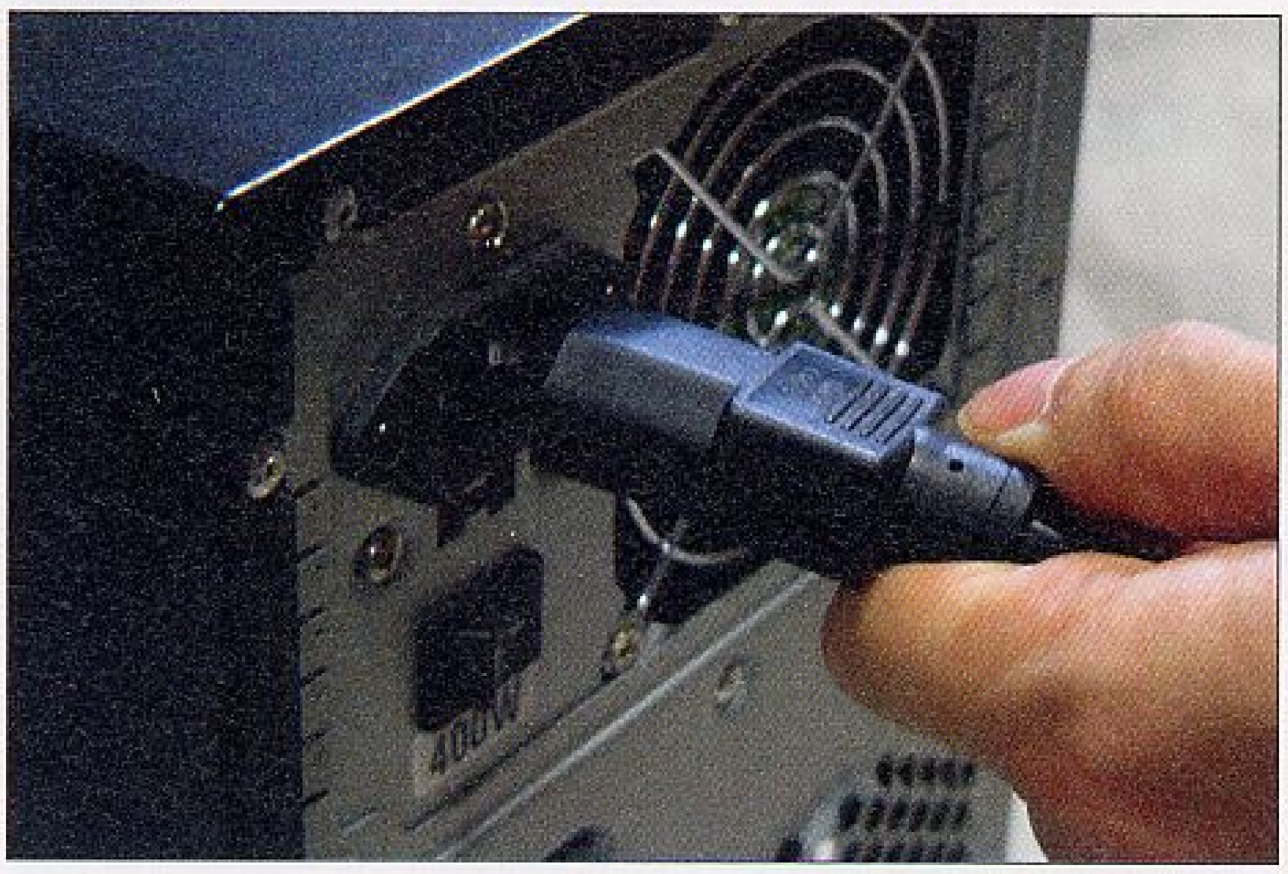
デスクトップパソコンに内蔵メモリを増設する

快適指数

効果 ●パソコンの動作が劇的に速くなる
●同時に複数のソフトを起動してもパソコンが安定動作する

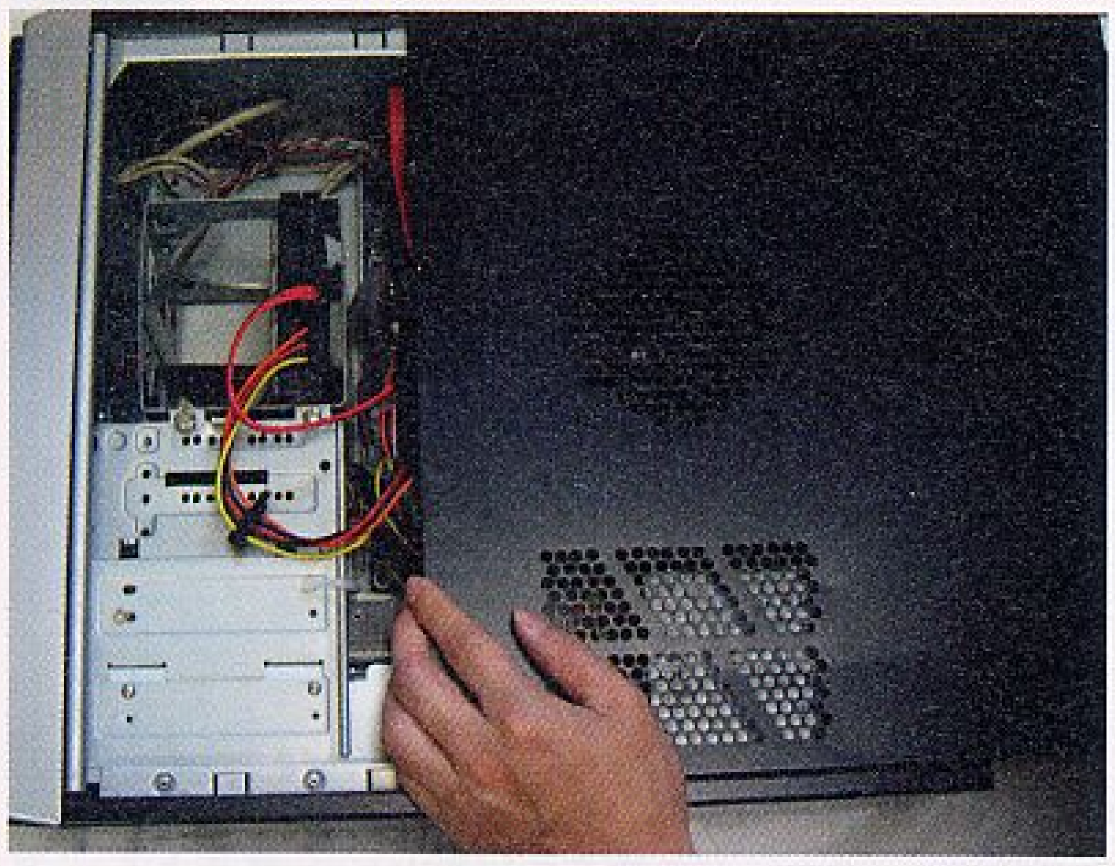
Vistaを快適に動作させる核を担うのが「メモリ」だ。グラフィックが強化されたVistaでは、メモリを増設することでその操作感覚に大きな差が出る。デスクトップタイプの場合、ノートタイプに比べると、本体内部に十分なスペースが確保されているため、メモリの増設は簡単だ。パソコン内部にはたくさんのスロット部分があるので、メモリを差し込むためスロットをきちんと確認し、作業を進めたい。メモリスロット近辺には、「DDR1」「DDR2」といった番号が振られている。数字の小さい方から順に差し込んでいこう。

1 パソコンにつながっているケーブル類をすべて外す



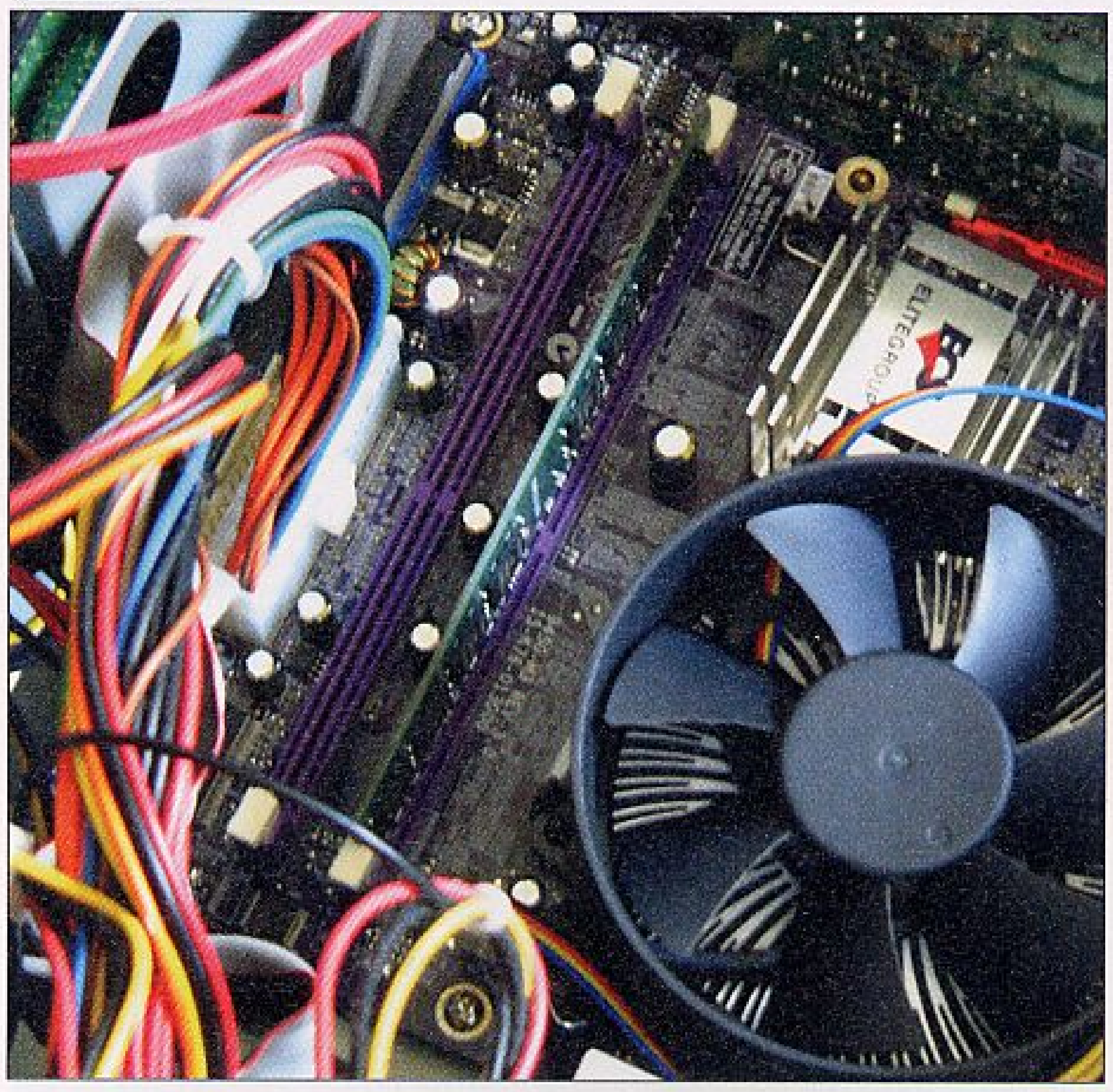
増設や換装でパソコンのケースを開く場合は、すべての周辺機器を外して電源コンセントを抜いてから作業すること。外したケーブル類はきちんと分類し、後で戻す際、わかるようにしておくこと

2 本体カバーを取り外す



作業する際には、本体を寝かせてしまったほうがやりやすいので、予め倒しておくといいだろう。事前に金属に触れるなどして静電気を予防することも忘れずに。本体を横にしてカバーを外す

3 メモリスロットの位置を確認する



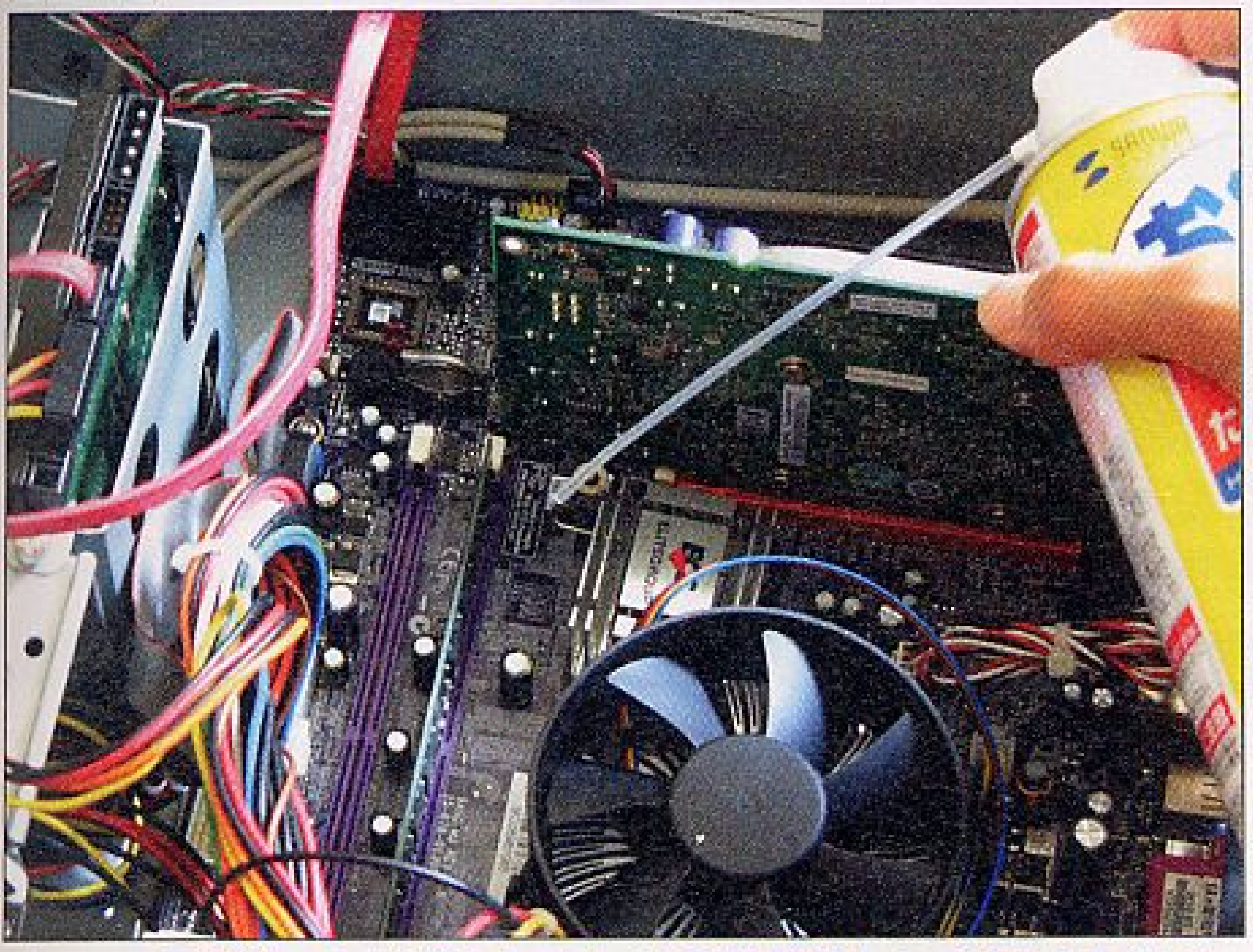
マザーボード上のCPU近くにメモリスロットはある。すでにメモリが装着されているので、位置を確認する

もっと快適!!テクニック メモリ増設効果はXPよりも上！

XPに比べて大容量メモリを効率的に使うように設計されているのがVistaの特徴。「SuperFetch」機能などが装備されたことで、XPよりも大容量メモリを増設する効果が高くなっている。一定以上のメモリ容量があれば、XPと同じ作業をVistaの方が効率的にこなす場合も多い。デュアルチャネル動作なども考慮して、1GBのメモリの2枚差し（計2GB）がオススメの構成だ。

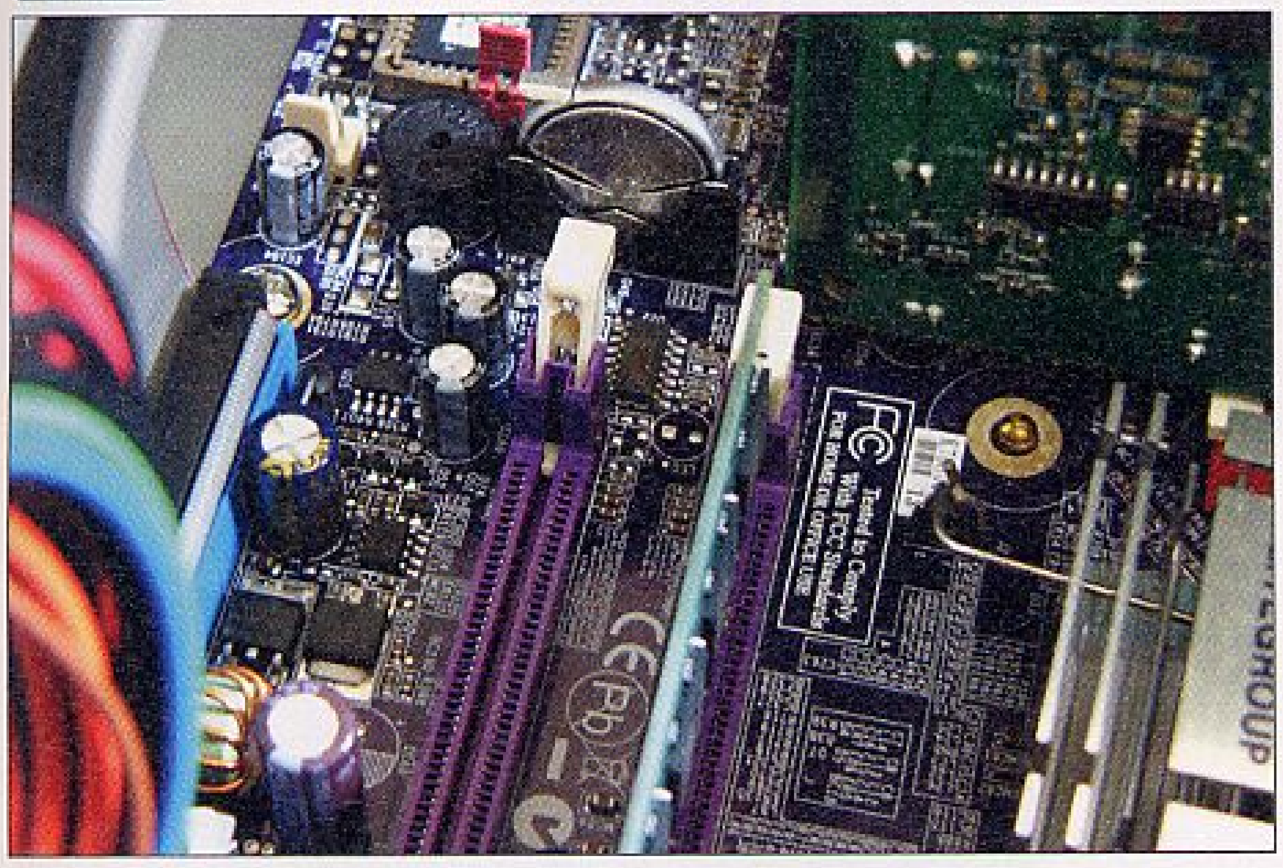
Keyword **DDR2 SDRAM**
DDR SDRAM（DDRはDouble Data Rateの略）を高速化したSDRAMの規格。DDRよりも、高性能で消費電力が少ない。以前のDDRと互換性がないので、DDR2メモリモジュールをDDRスロットに差したり、その逆はできない。

4 スロットのホコリをしっかり除去する



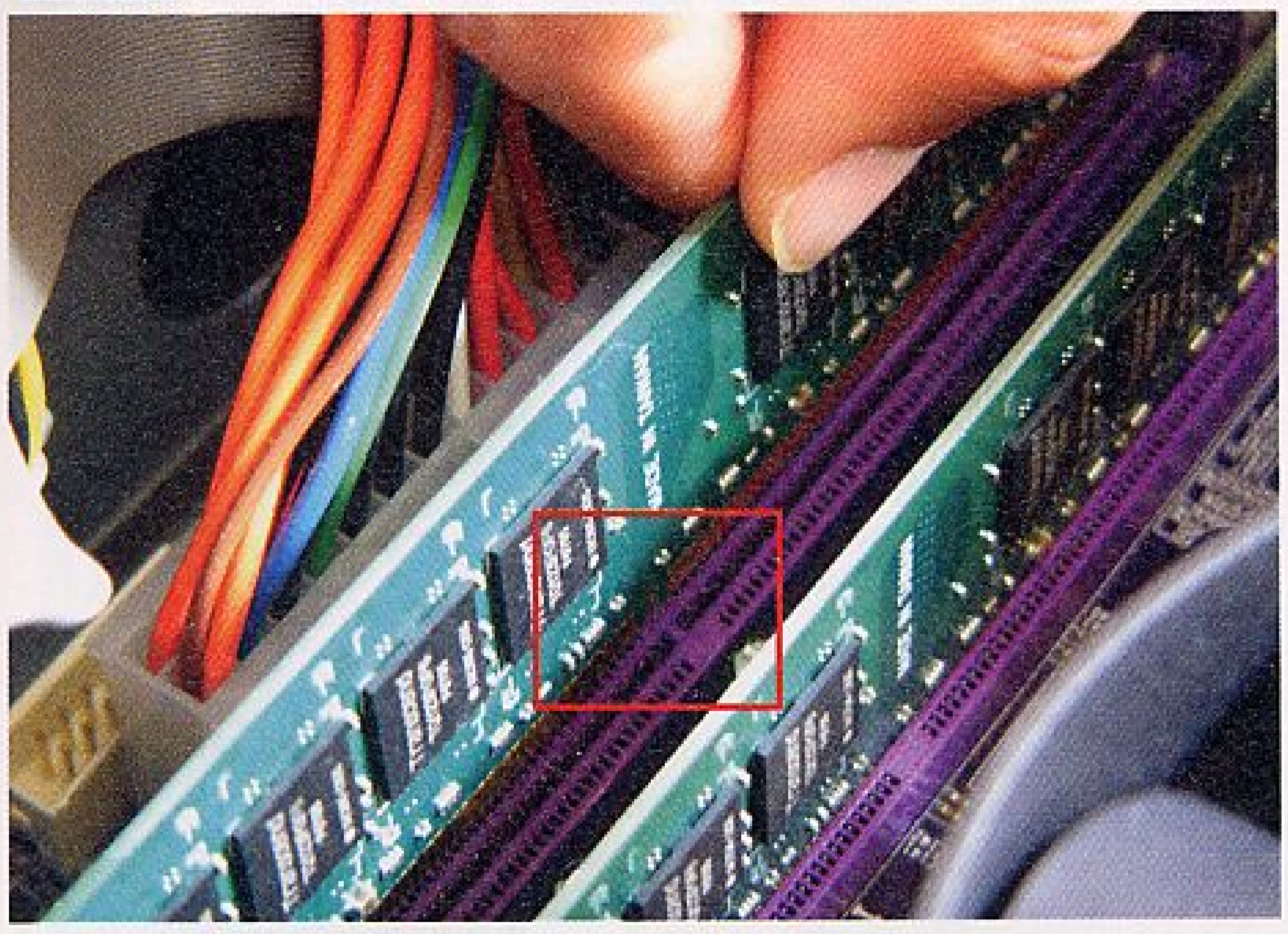
パソコン内部は、ふたが閉まっているのに意外とホコリにまみれている。接触不良の原因になるため、エアダスターやブロアーなどを使って取り払おう

5 メモリスロットのストッパーを開く



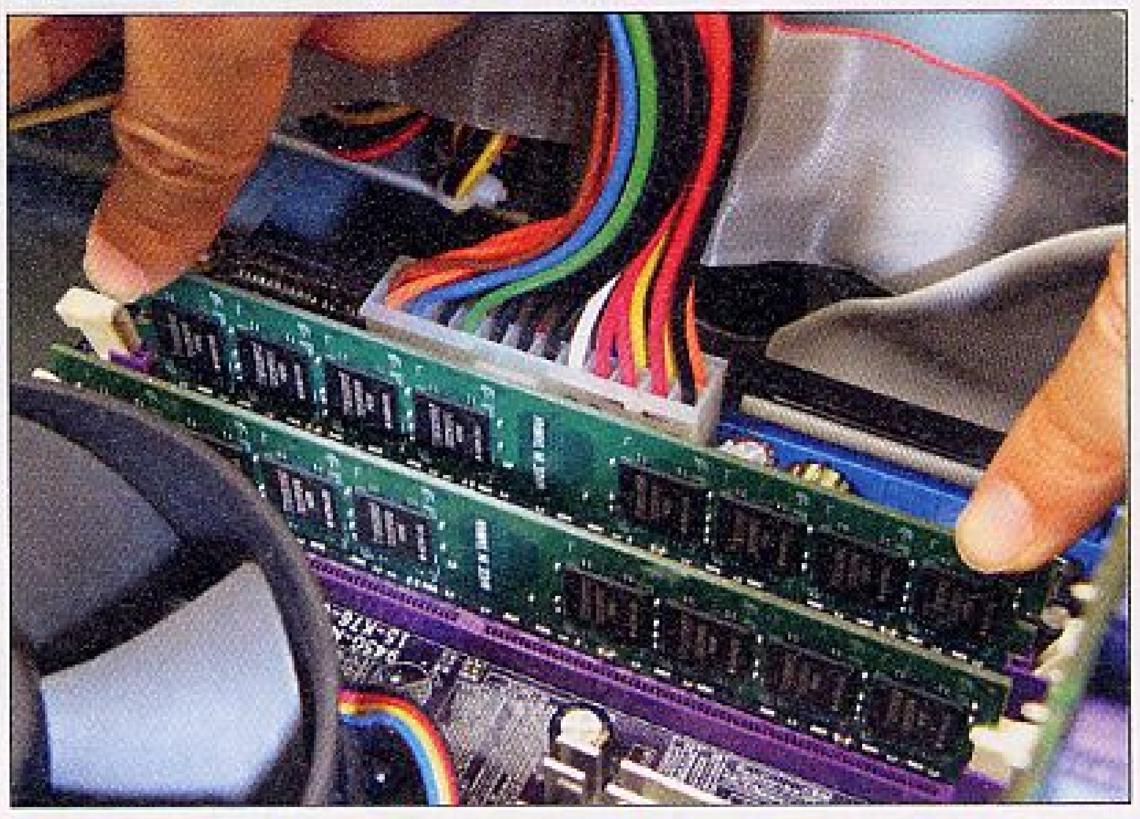
空いているスロットのストッパーを、両手で開く

6 メモリの装着方向を確認



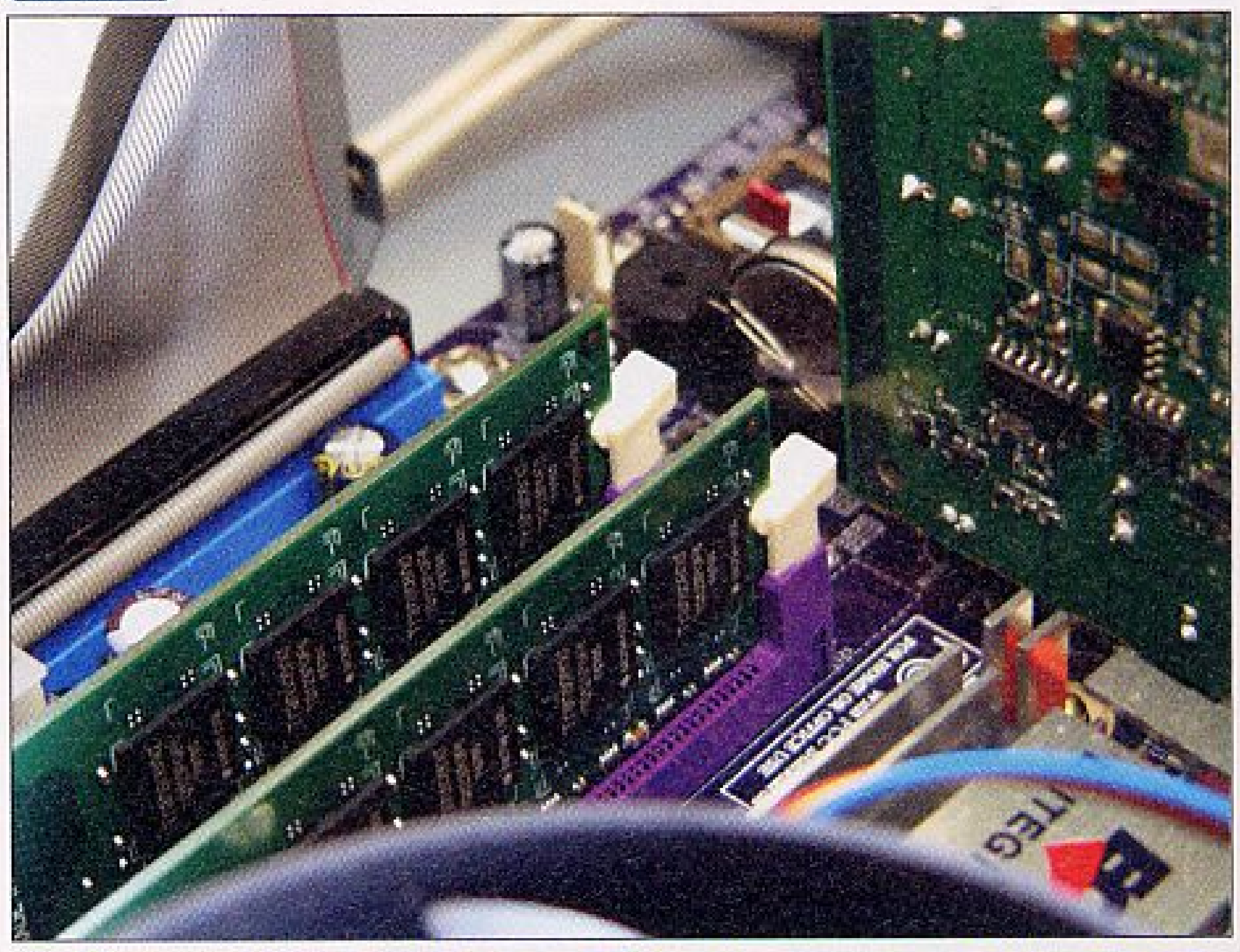
スロット部分とメモリの切り欠きを見比べ、切り欠きとスロット部分が合うようにする。また、金色の端子部分には指で触らないように注意しよう

7 スロット部分にメモリを装着する



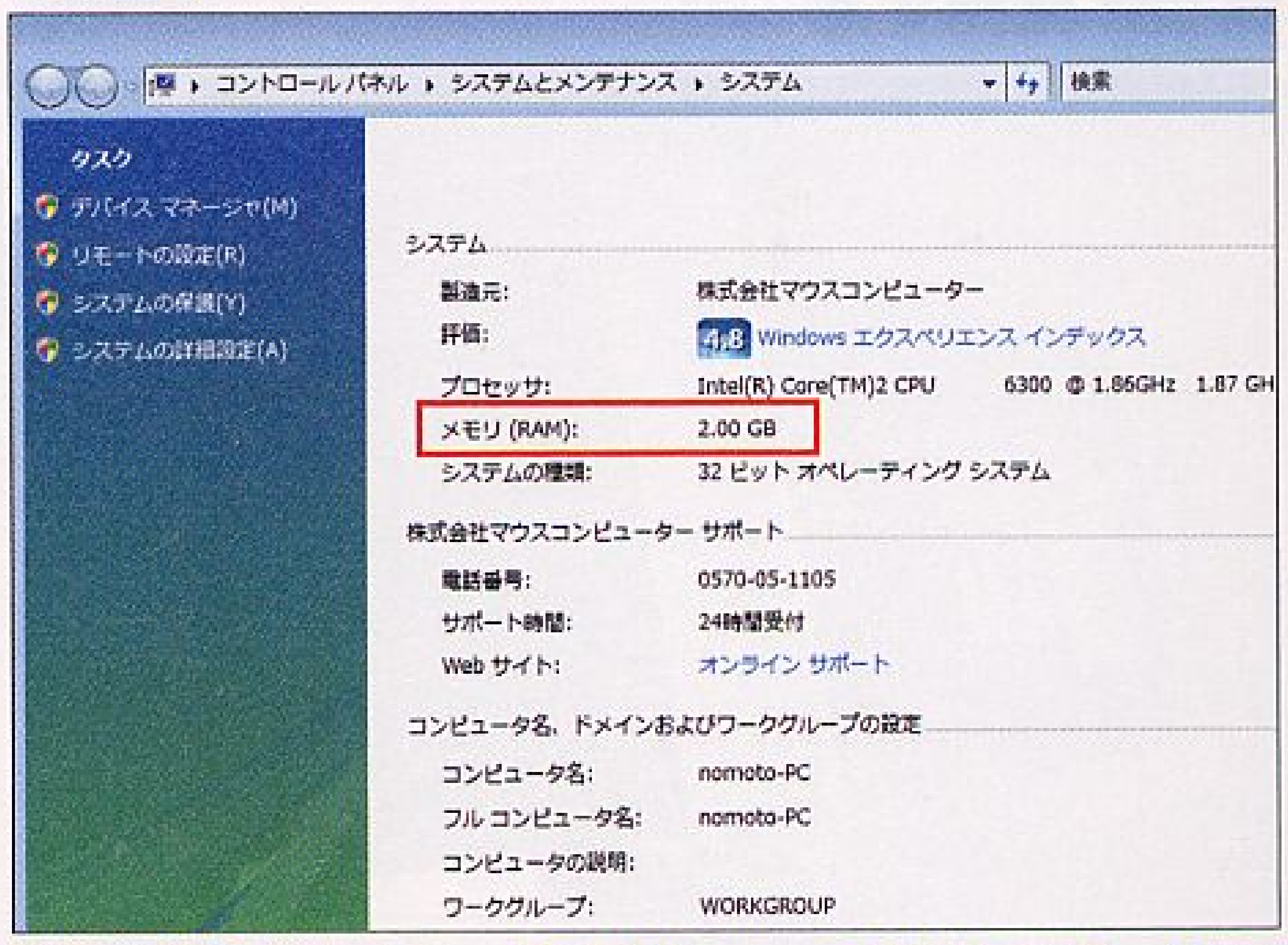
装着するコツは、スロット部分に対して垂直に、メモリの両サイドを上から押し込むように力をかけるといい。「カチッ」とストッパーがはまるまで押し込むこと

8 差し込まれたかを確認



メモリがしっかり装着されると、両脇のストッパーがメモリを固定する。これが確認できたら完了だ

9 メモリの容量を確認する



作業が完了したら、カバーを取り付け、ケーブル類をつなぎ、パソコンを起動する。「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」→「システム」をクリック。メモリの容量が増設した値になっているか確認しよう

Keyword デュアルチャネル

同じ規格のDDRメモリを2枚差しすることで、メモリへのアクセス速度を向上させるシステム。デュアルチャネル動作対応のパソコンならば、1GBの1枚差しよりも512MBの2枚差しのほうが快適な作業環境を得られる。

難易度 難

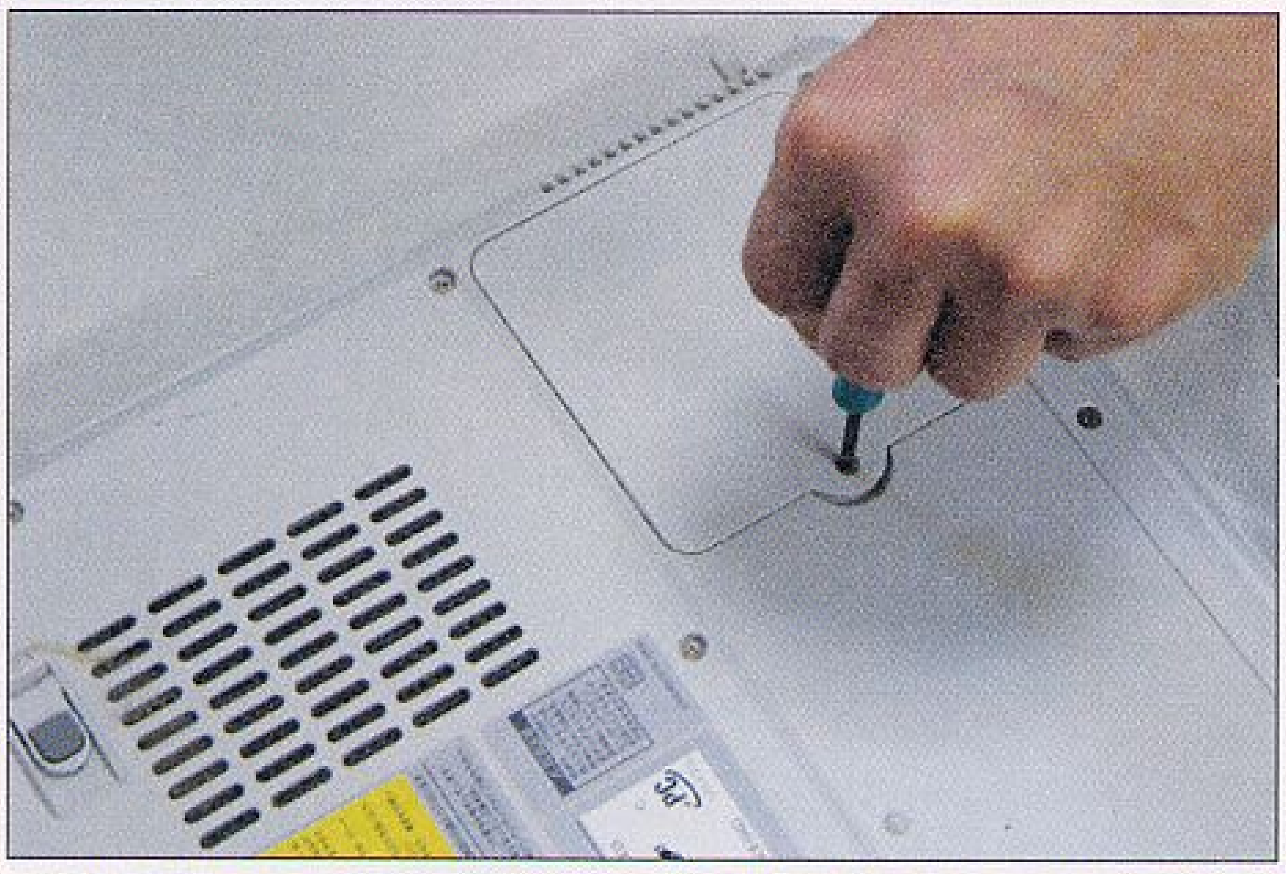
ノートパソコンに内蔵メモリを増設する

快適指数

効果
●パソコンの動作が劇的に速くなる
●同時に複数のソフトを起動してもパソコンが安定動作する

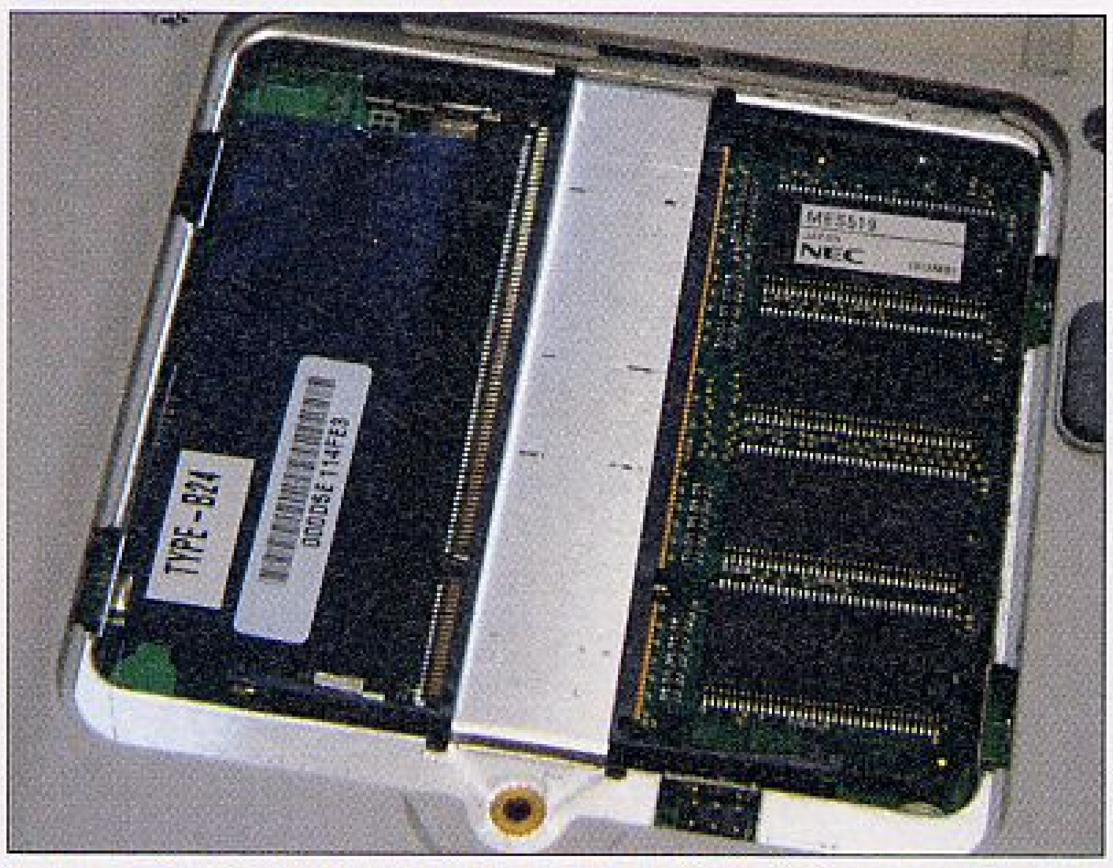
モバイル用途に使われることが多いノートパソコンも、メモリを増設して動作を速くしたい。ノートパソコンは、底面のカバーを外すだけでメモリスロットを差し替えられる底面開閉タイプが主流。このタイプなら作業は比較的簡単だ。大抵の場合メモリスロットは2個付いているが、1個しかない場合は、初めから付いていたメモリを増設するものと取り替える作業になる。作業時には安全を期すため、ACアダプタ、バッテリーを外しておこう。終了後は59ページの方法でメモリが認識されるかどうかの確認も忘れずに。

1 本体底のカバーをドライバーで外す



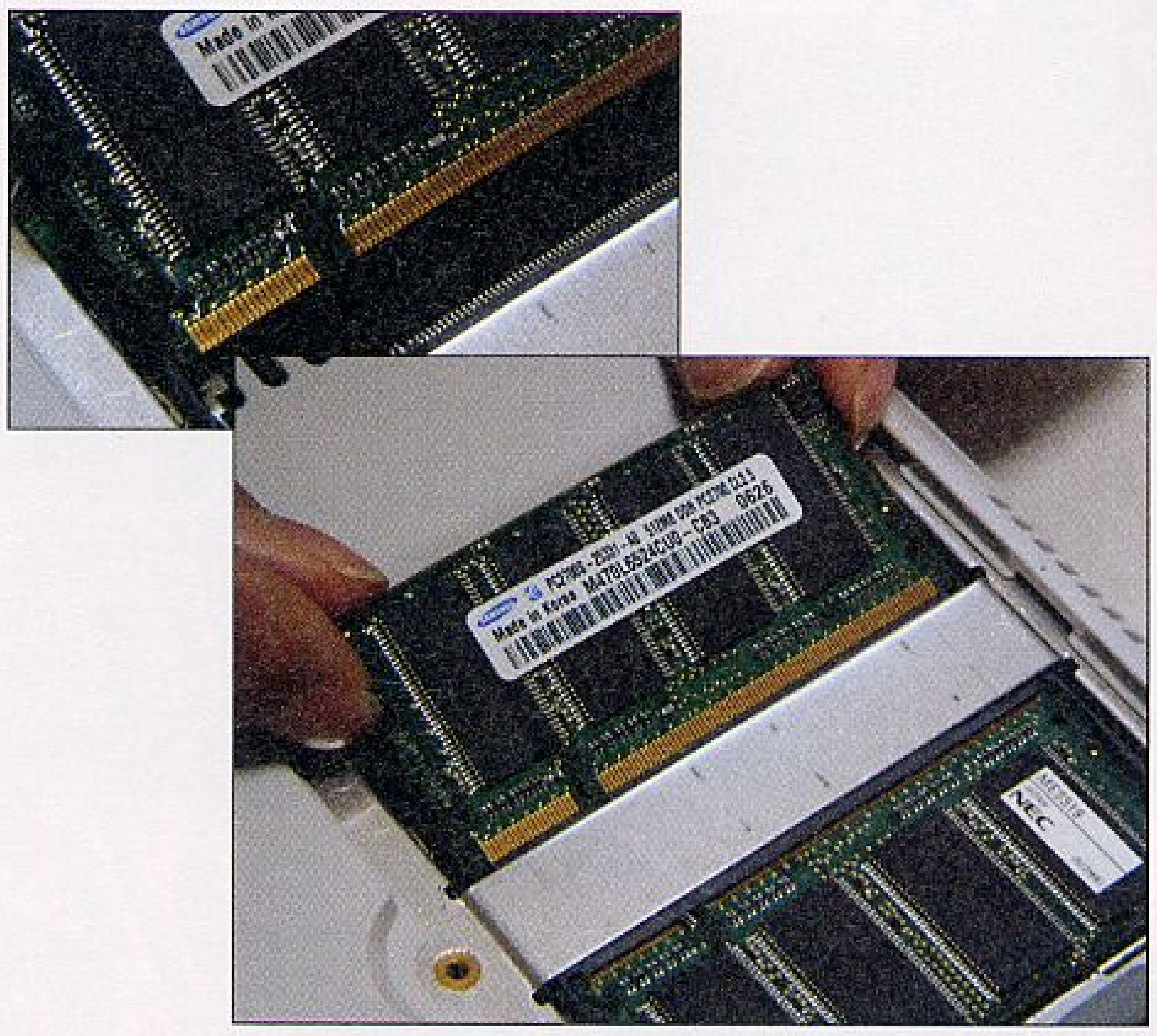
ノートパソコンを裏返しにすると、開閉可能なカバーが付いている箇所がある。このタイプは、カバーを外すだけでメモリを交換できるので、ドライバーを使いカバーのネジを外そう

2 メモリスロットの位置を確認する



A4サイズノートなら、大体はメモリスロットが2個付いているので、空いているスロットにメモリを差し込むこと。空きがない場合は、以前のものを外して取り付けよう

3 メモリスロットに装着する



表裏を間違えないように、あらかじめ確認してからスロットの溝にメモリを当て、奥に差し込んでから下に向けて押し込む

4 メモリが装着されているか確認する

メモリスロットの両脇にあるストッパーがしっかりメモリを挟み込んでいればOK。59ページの 9 の方法でパソコンから増設したメモリが認識されていることが確認できれば作業は完了だ

Keyword
ノートパソコン用メモリ
省スペース化が求められるノートパソコンでは、SO-DIMM（SOはSmall Outlineの略）と呼ばれる小型メモリの規格がある。また、MicroDIMMという規格もあるので、増設時は対応製品を必ず確認しよう。

難易度 難

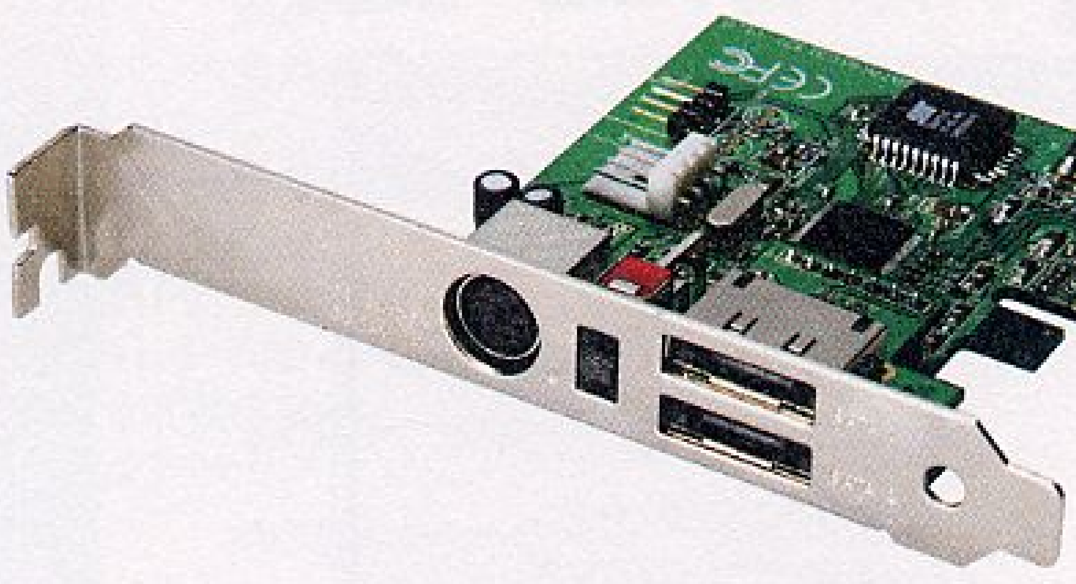
eSATAハードディスクを増設してアクセスを高速化

快適指数

効果
- ●ハードディスクの読み書きが劇的に高速化する
- ●eSATA端子を搭載していなくても増設が可能

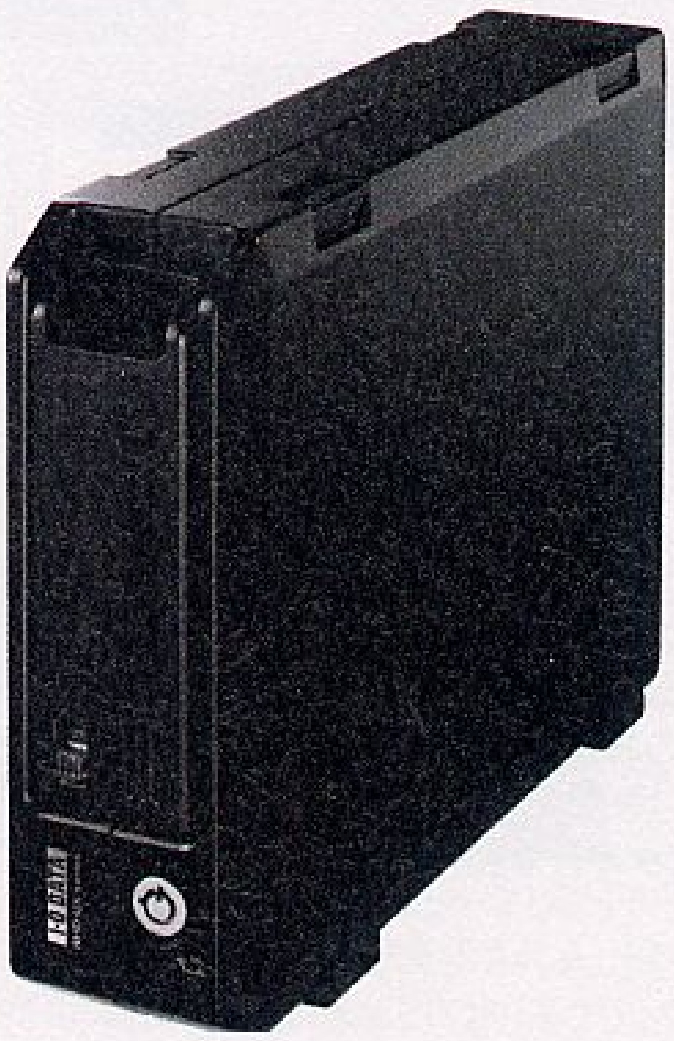
外付けハードディスクの高速な接続規格といえば、従来はIEEE1394やUSB2.0が主流だった。しかし最近ではそれらよりもはるかに高速な「eSATA」が主流になっている。しかし、機器は「eSATA」が主流でも、1年以上前のパソコンでは、インターフェイスに「eSATA」を搭載しているものはまだ少ない。そこでeSATA端子がないパソコンでは「eSATAインターフェイスボード」を増設すればいい。PCIスロットに内蔵するタイプやPCカードタイプのものもある。自分のパソコン環境に合ったものを選択しよう。

1 外付け用eSATA拡張ボード（デスクトップ用）



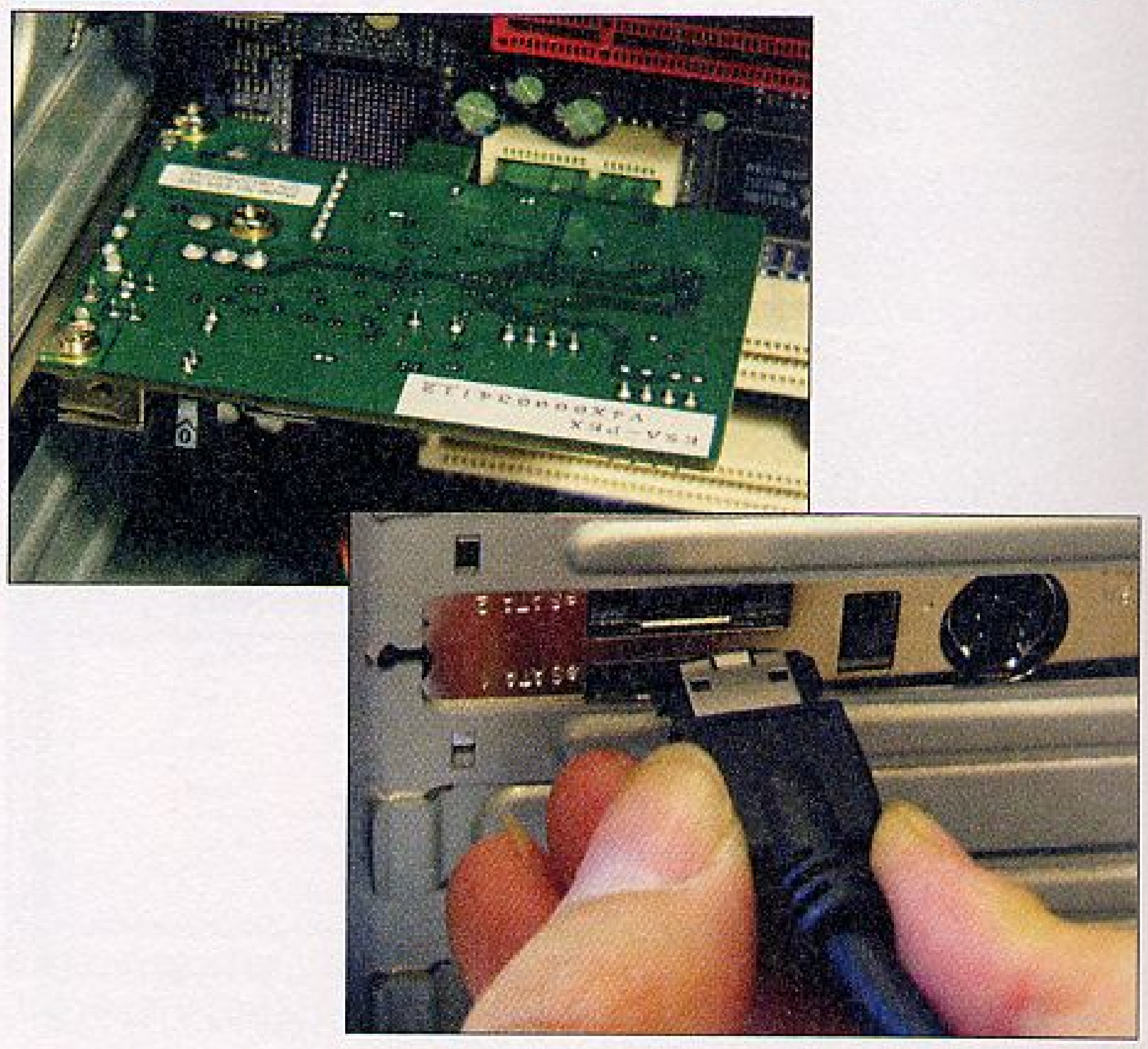
デスクトップパソコンの空いているスロットに拡張ボードを差せば、eSATAのハードディスクを接続することができる（写真は「I･O DATA ESA-PCI」実勢価格 4,200円前後）

2 eSATA&USB 2.0/1.1対応 外付型ハードディスク



拡張ボードを取り付けたら、外付けのeSATAハードディスクを増設しよう。ハードディスクに付属のケーブルを差すだけでOKだ（写真は「I･O DATA RHD-UX320」実勢価格 20,000円前後）

3 拡張ボードを取り付け 外付けハードディスクを増設する



空いているスロットに、拡張ボードを取り付け、ハードディスクに付いている付属のeSATA用ケーブルで接続する

もっと快適!! テクニック ノートパソコンもeSATA端子を増設して高速環境に！

ここでは、デスクトップパソコンにeSATA端子対応の外付けハードディスクを増設したが、ノートパソコンにもeSATA接続のハードディスクを増設できる。ノートパソコン用には、eSATA端子を持つPCカードを増設しよう。（写真は「I･O DATA CBESA」実勢価格 4,200円前後）

Keyword eSATA

ハードディスクの接続規格「ATA」のパラレル転送方式に代わり、より高速な転送を実現したのがシリアル転送方式「Serial ATA」、つまり「SATA」だ。そのSATAを外付けできるようにしたのが「eSATA」端子である。

難易度 易

検索ボックスの検索サイトを好きなものに変更する

効果絶大ワザ10選

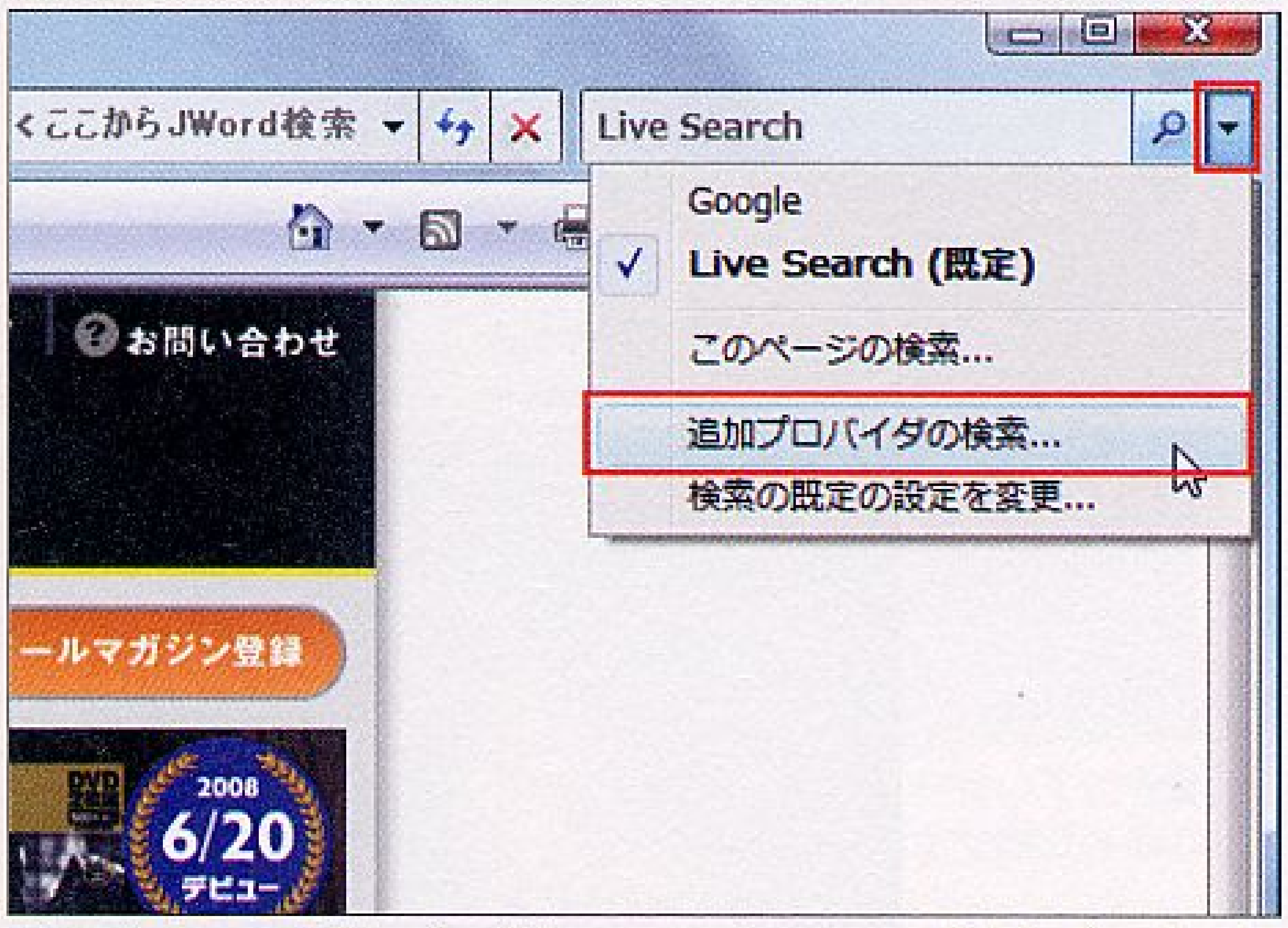
快適指数

効果 ●検索サイトにアクセスする手間なく検索ボックスで一発検索
●検索ツールバーのインストールが不要

これまでインターネットから情報を探す場合、検索サイトにアクセスして検索するか、「Googleツールバー」や「Yahoo!ツールバー」などの検索ツールをインストールして利用していた。しかし、Internet Explorer 7は標準機能として、「検索ボックス」が用意されている。ここに検索キーワードを入力すれば、「Live Search」や「Google」などからWeb検索が行なえる。また、検索サイトは一覧から好きなものを選択したり、自分で追加することもできる。検索サイトに毎回アクセスする手間が省け、作業時間が大幅に短縮できるはずだ。

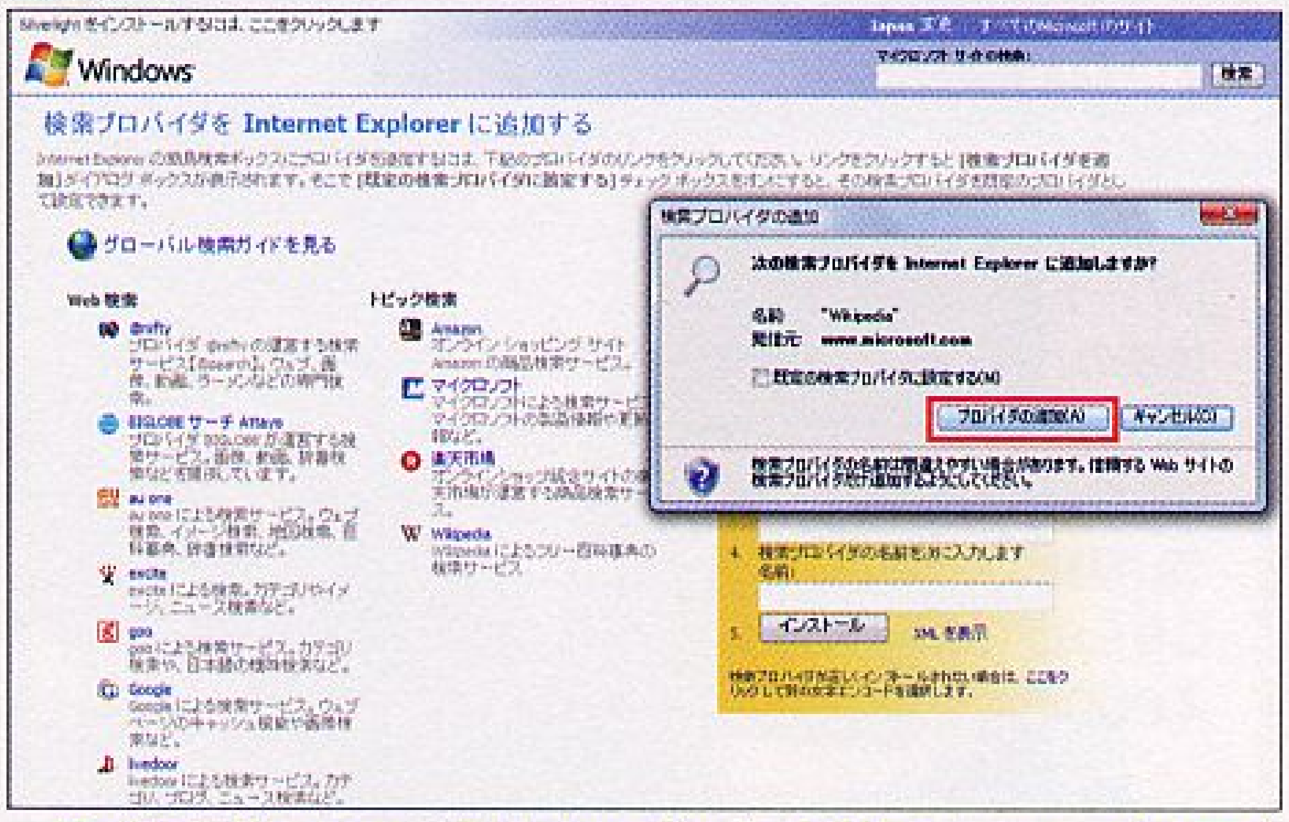
検索プロバイダを追加する

1 使いやすい検索プロバイダを一覧に追加する



検索ボックスの右側のプルダウンメニューをクリックし、「追加プロバイダの検索」をクリックする

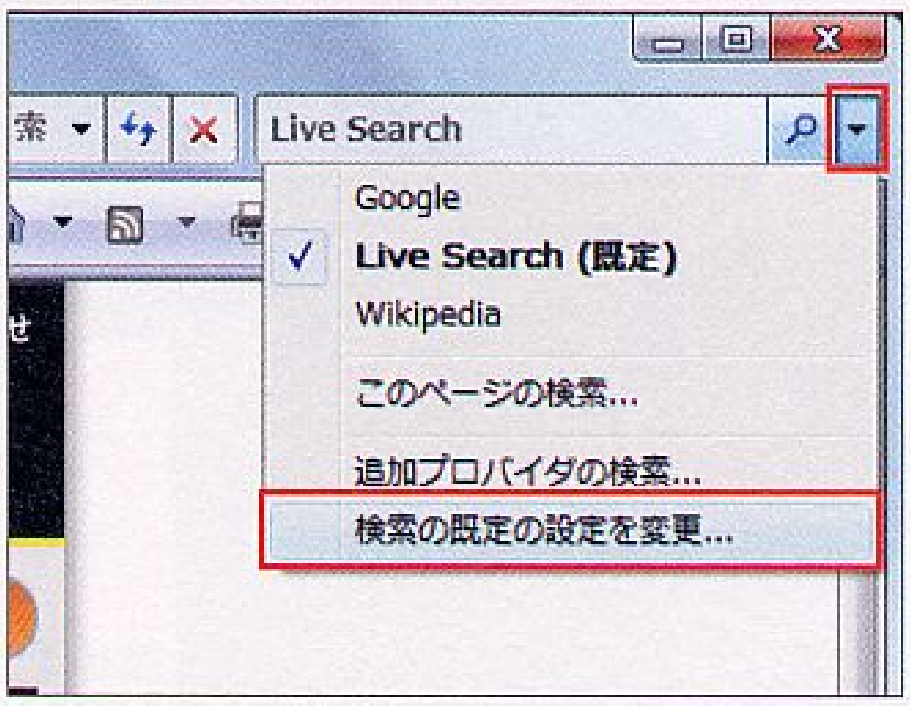
2 使いたい検索プロバイダを選ぶ



一覧が表示されるので、追加したいプロバイダ名をクリックし、ダイアログが出たら「プロバイダの追加」をクリック。検索ボックスのプルダウンをクリックすると選択した検索プロバイダが追加されている

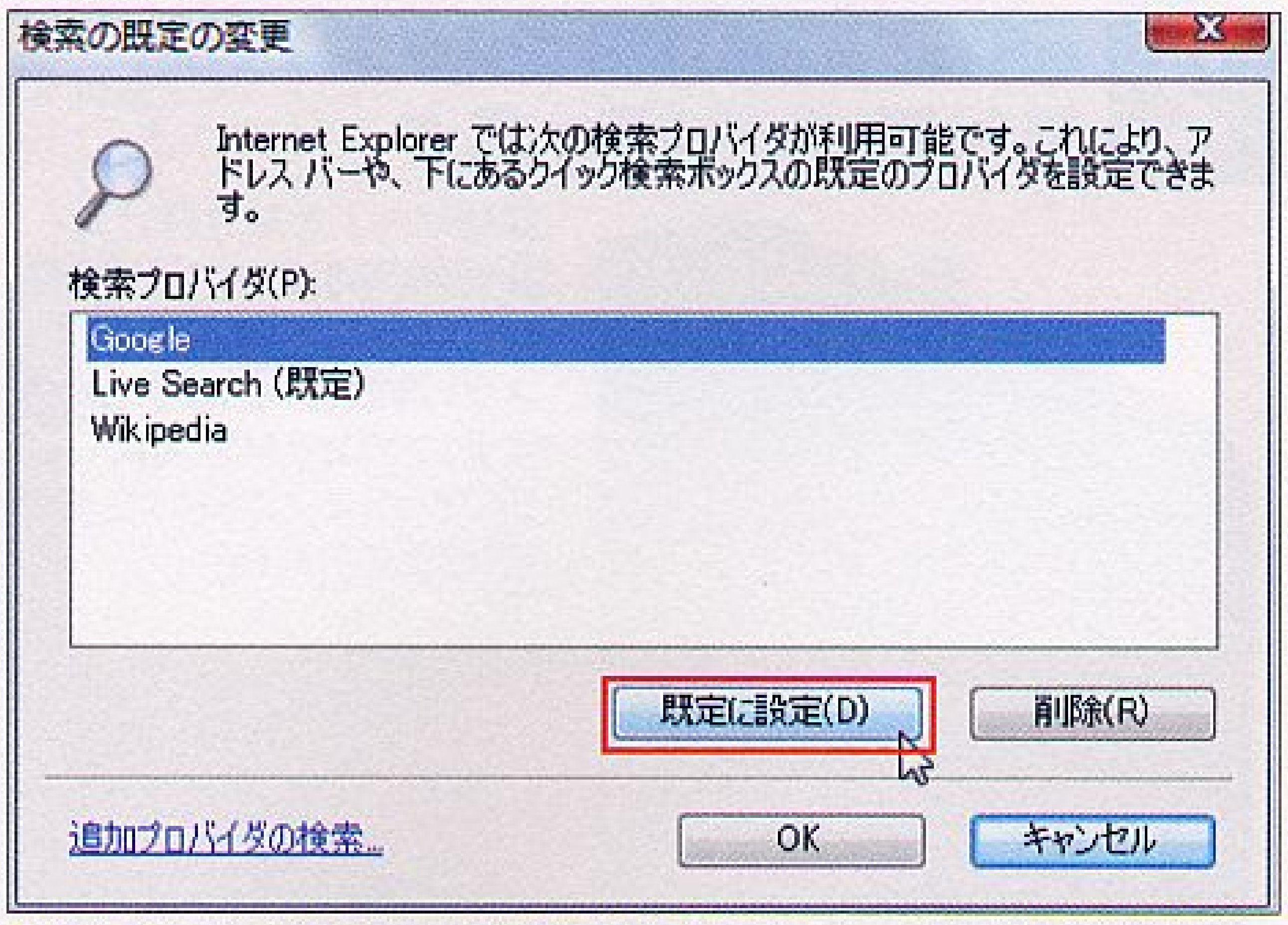
既定プロバイダを変更する

1 検索ボックスのプルダウンメニューを開く



検索ボックスの右側のプルダウンメニューをクリックすると、初期設定では「Live Search」が「既定」になっている。「検索の既定の設定を変更」をクリックする

2 検索の既定プロバイダを変更する



「検索プロバイダ」の中から既定の検索に使いたいプロバイダを選択し、「既定に設定」をクリックして「OK」をクリック。以降は、検索ボックスでの検索が、既定に設定したプロバイダで行なわれる

Keyword Windows Live

マイクロソフトが運営するインターネットサービスの総称。Webメールやメッセンジャー機能、オンラインブックマークなどが使用できる。利用は無料だが「Windows Live ID」を持っている必要がある。

難易度 易

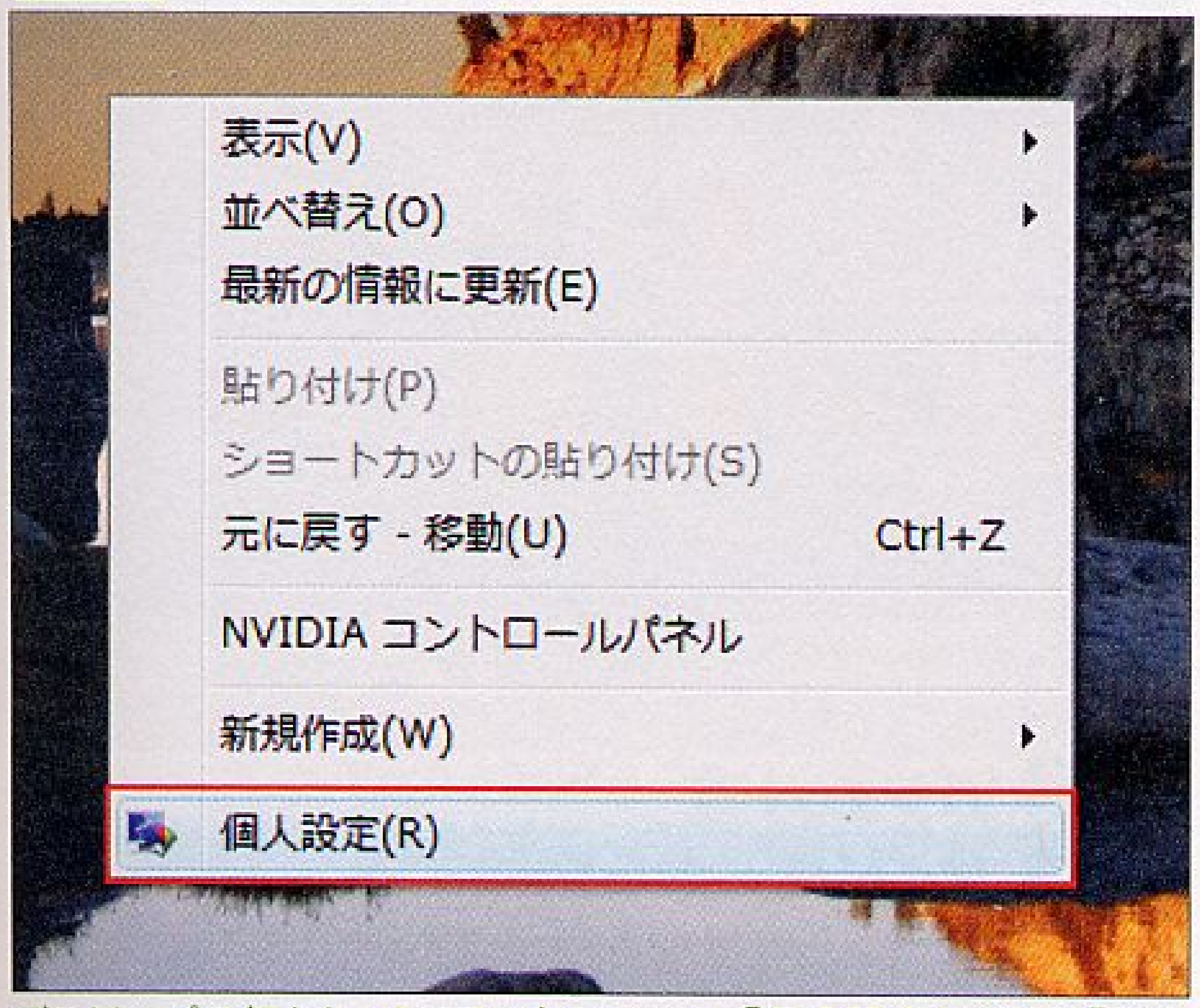
デスクトップやウィンドウのデザインを自分好みに変更する

快適指数

効果
- ●デスクトップの壁紙を変更できる
- ●ウィンドウやタスクバーの色を変更できる

デスクトップは、パソコンを使うときに常に目にするもの。それだけに自分の好きなデザインにしておきたい。例えば壁紙を変更するだけでパソコンの印象はガラッと変わるので、お気に入りのデジカメ写真や、配布されている壁紙をダウンロードしてもいい。また、ウィンドウやタスクバーの色も自由に変えられる。通常は、薄い水色だが、ビビッドな色や渋い色などに変更が可能だ。また、デスクトップのデザインを丸ごと切り替えられる「テーマ」というものがインターネットなどで配布されているので、利用してみてもいいだろう。

1 背景の設定画面を開く

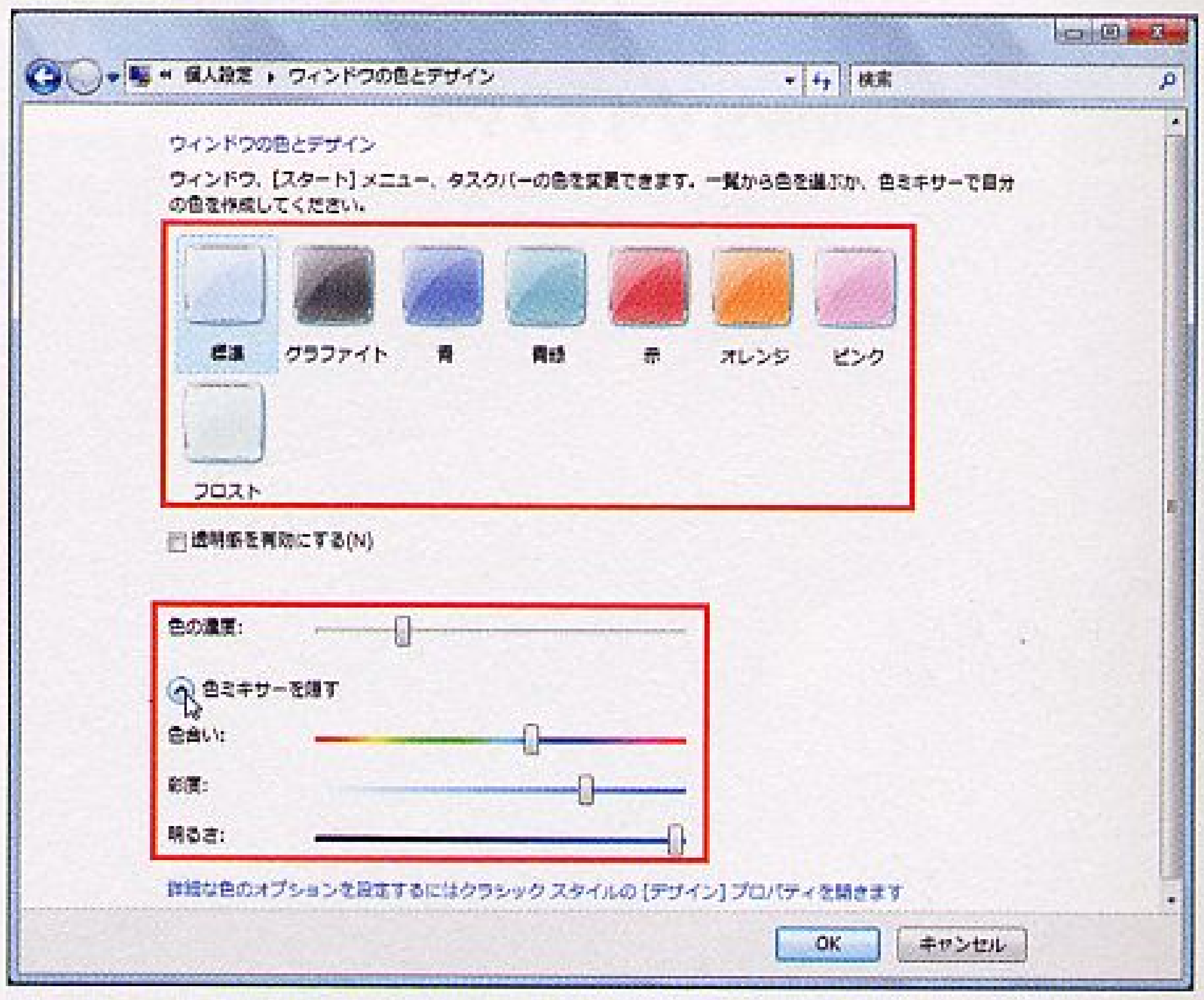


デスクトップの何もないところで右クリックし、「個人設定」を選択。「個人設定」画面が開いたら「デスクトップの背景」をクリックする

2 デスクトップの背景を選択する

「場所」のプルダウンメニューからフォルダを選択すると、フォルダ内に保存されている画像が一覧表示される。好きな画像を選ぶと背景が変化するので、配置方法を選んで「OK」をクリックしよう。プルダウンメニューに表示されないフォルダも「参照」ボタンから自由に選択できる

3 ウィンドウやタスクバーの色を変更する



1の要領で「個人設定」を開き、「ウィンドウの色とデザイン」をクリックする。表示されている色の中から好きなものを選ぼう。「色ミキサーを表示する」をクリックするとオリジナルの色も指定できる

4 カスタマイズしたデスクトップ

壁紙やウィンドウの色を変更したデスクトップ。アイコンの変更(68、69ページ参照)もあわせて行なえば、よりオリジナリティ溢れるデスクトップになるはずだ

ワンポイント テーマを変更する

1の要領で「個人設定」画面を開き、「テーマ」を選択。「テーマの設定」画面でプルダウンメニューから好きなテーマを選ぶと、デスクトップのデザインが切り替わる。オリジナルの設定をテーマとして保存することも可能だ。

難易度 **易**

天気や時計などのガジェットをデスクトップに追加する

効果絶大ワザ10選

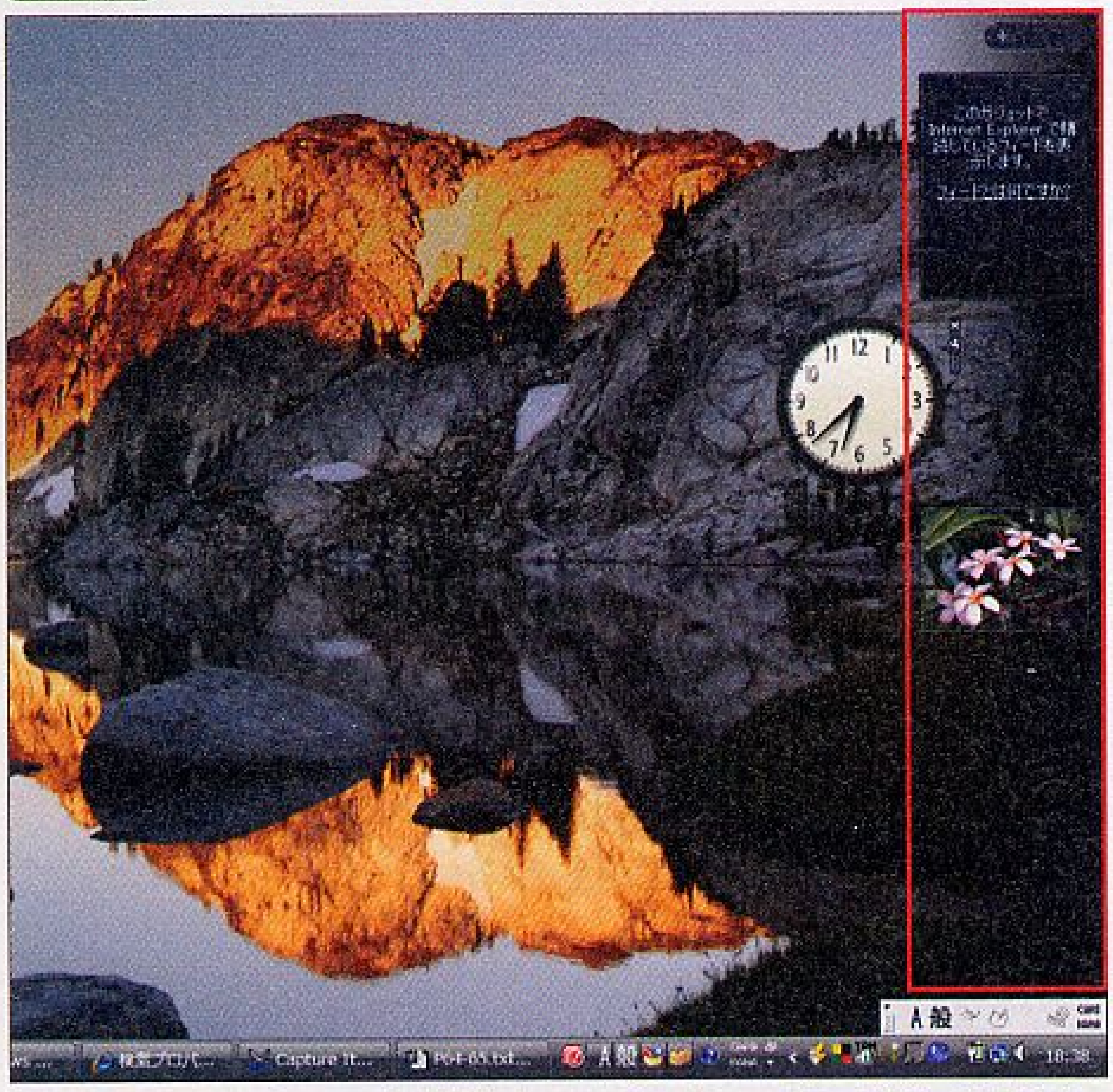
快適指数

効果 ●最新のニュースや株価などをデスクトップ上に常に表示できる
●ゲームやメモ帳といったソフトも置ける

Vistaにはデスクトップ上にサイドバーというスペースがあり、「ガジェット」というミニアプリケーションを追加できる。ガジェットは初期状態で時計、スライドショー、フィードヘッドラインが表示されているが、自分の好きなガジェットを自由に追加・削除することが可能だ。また、ガジェットはサイドバーから切り離して、デスクトップ上の好きな位置に配置することもできる。動作も軽く、デスクトップ上に常に表示されているので非常に便利。標準搭載以外のガジェットもインターネットで配布されているので、ダウンロードして使ってみよう。

ガジェットを追加・削除する

1 さまざまな情報が表示されるWindowsサイドバー



Windowsサイドバーは、初期設定ではデスクトップの右側に表示され、ガジェットを一覧表示する。ガジェットをドラッグすれば、デスクトップ上の好きな位置に移動できる。ガジェットの表示順もドラッグで簡単に変えられる

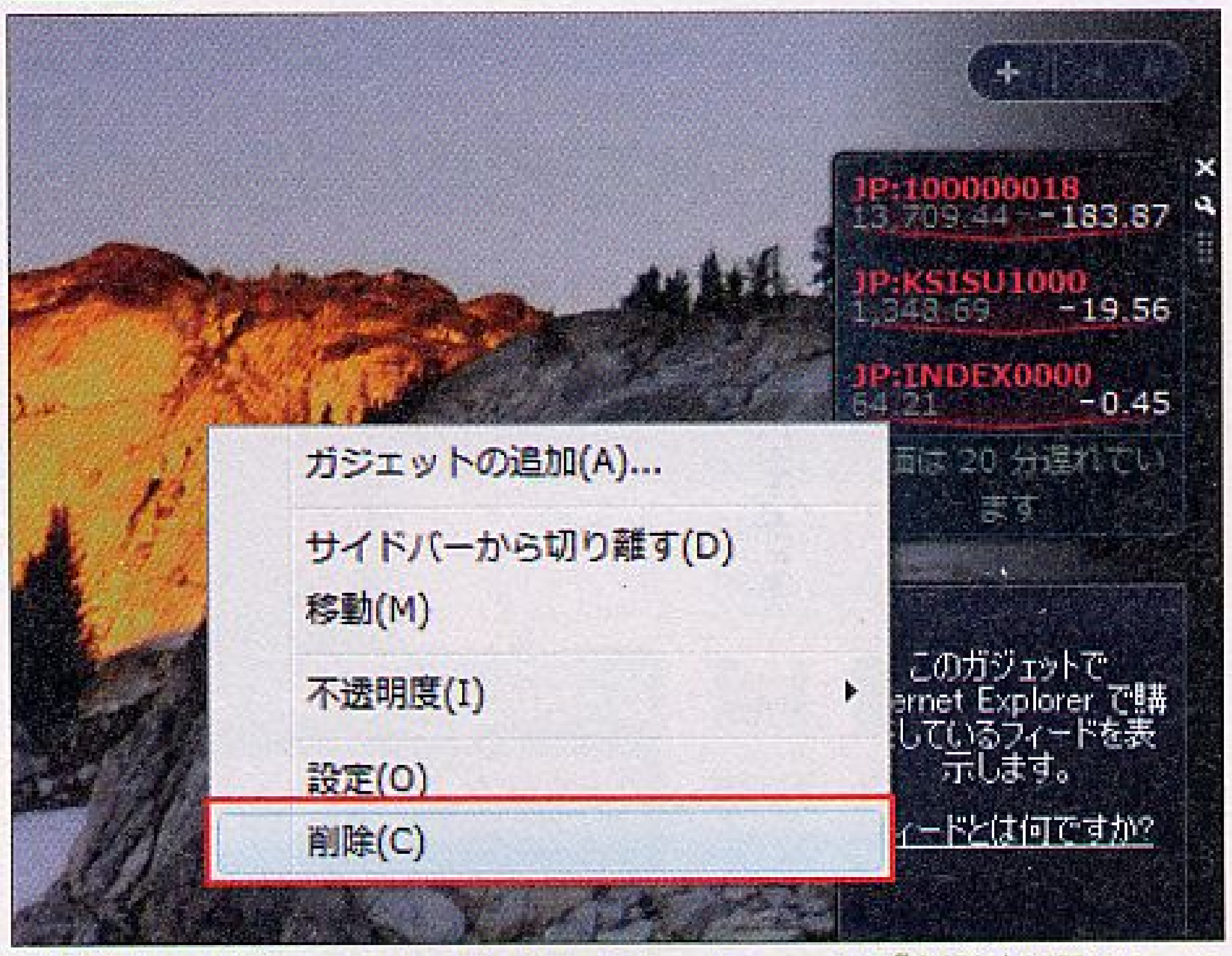
2 ガジェットの追加画面を開く

サイドバーの一番上にある「＋」ボタンをクリックすると、ガジェットの追加画面が開く

3 好きなガジェットを追加する

追加したいガジェットをダブルクリックして追加する

4 ガジェットをサイドバーから削除する



削除したいガジェットの上で右クリックし、メニューから「削除」を選ぶと、サイドバーから削除される。なお、削除しても表示が消えるだけで、アンインストールはされない

ワンポイント ガジェットの詳細

ガジェットの一覧の画面で、ガジェットを選択し、「詳細を表示する」をクリックすると、そのガジェットの内容やバージョン、提供先を確認することができる。

新しいガジェットをダウンロードする

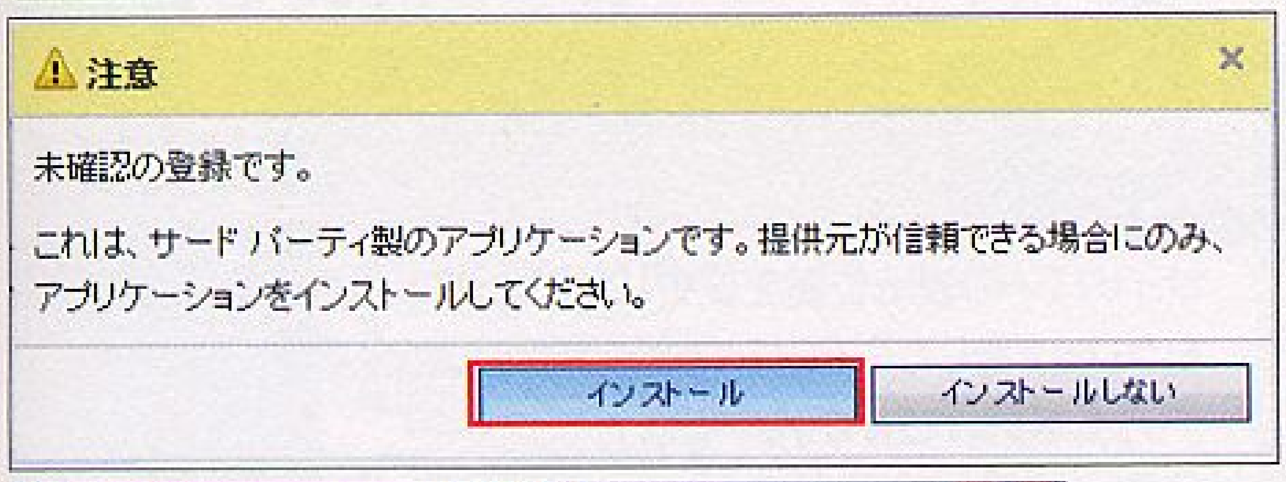
1 ガジェットの一覧から開く

64ページの❷の要領でサイドバーの一番上にある「＋」ボタンをクリックして、ガジェット一覧を表示する。「オンラインで追加のガジェットを取得」をクリック

2 Vista公式サイトから追加するガジェットを選ぶ

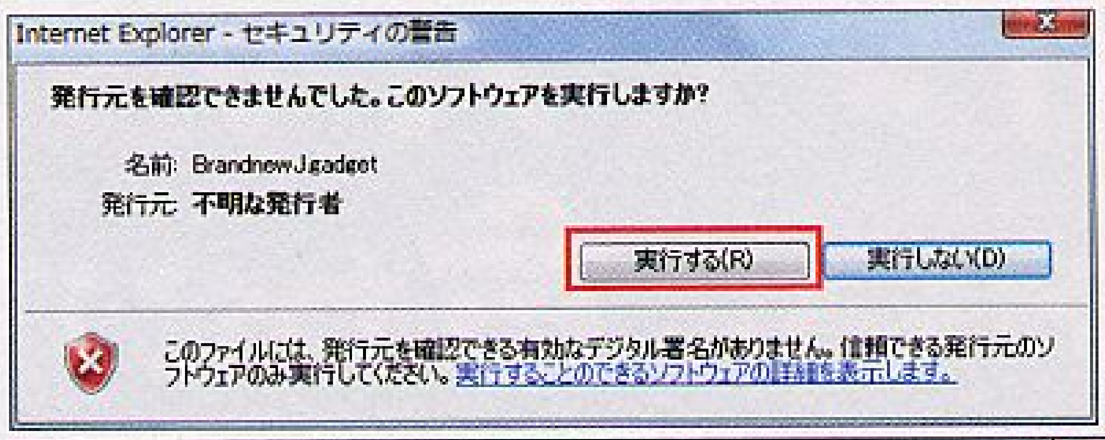
ガジェットのダウンロードサイトが開いたら、「すべてのガジェットを表示」をクリック。左側に並んだジャンルを選択し、使いたいガジェットの「ダウンロード」ボタンを押す。トップページにある「ダウンロードランキング」や「評価ランキング」を参考に選んでもいい

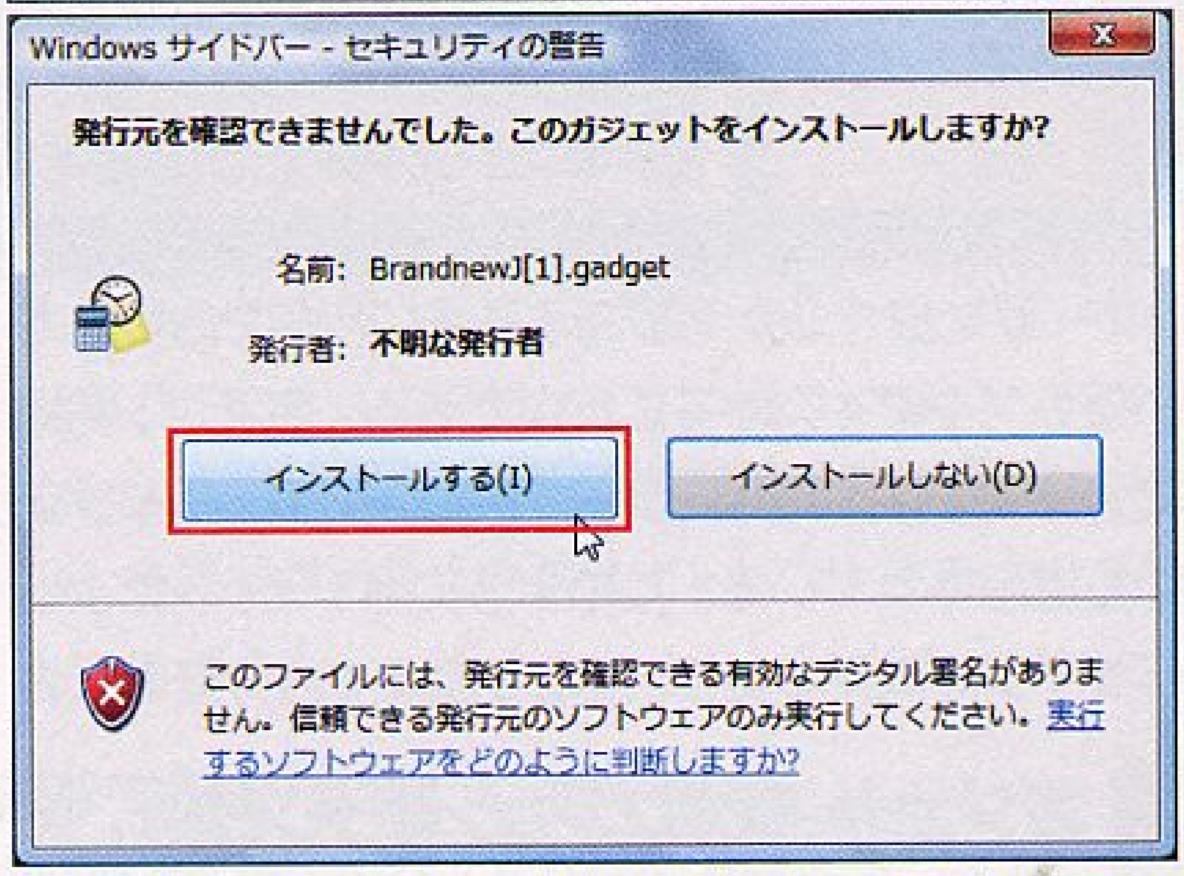
3 セキュリティの警告を許可する



注意が表示された場合は「インストール」をクリック。「ファイルのダウンロード」ダイアログが表示されたら「開く」をクリックする。

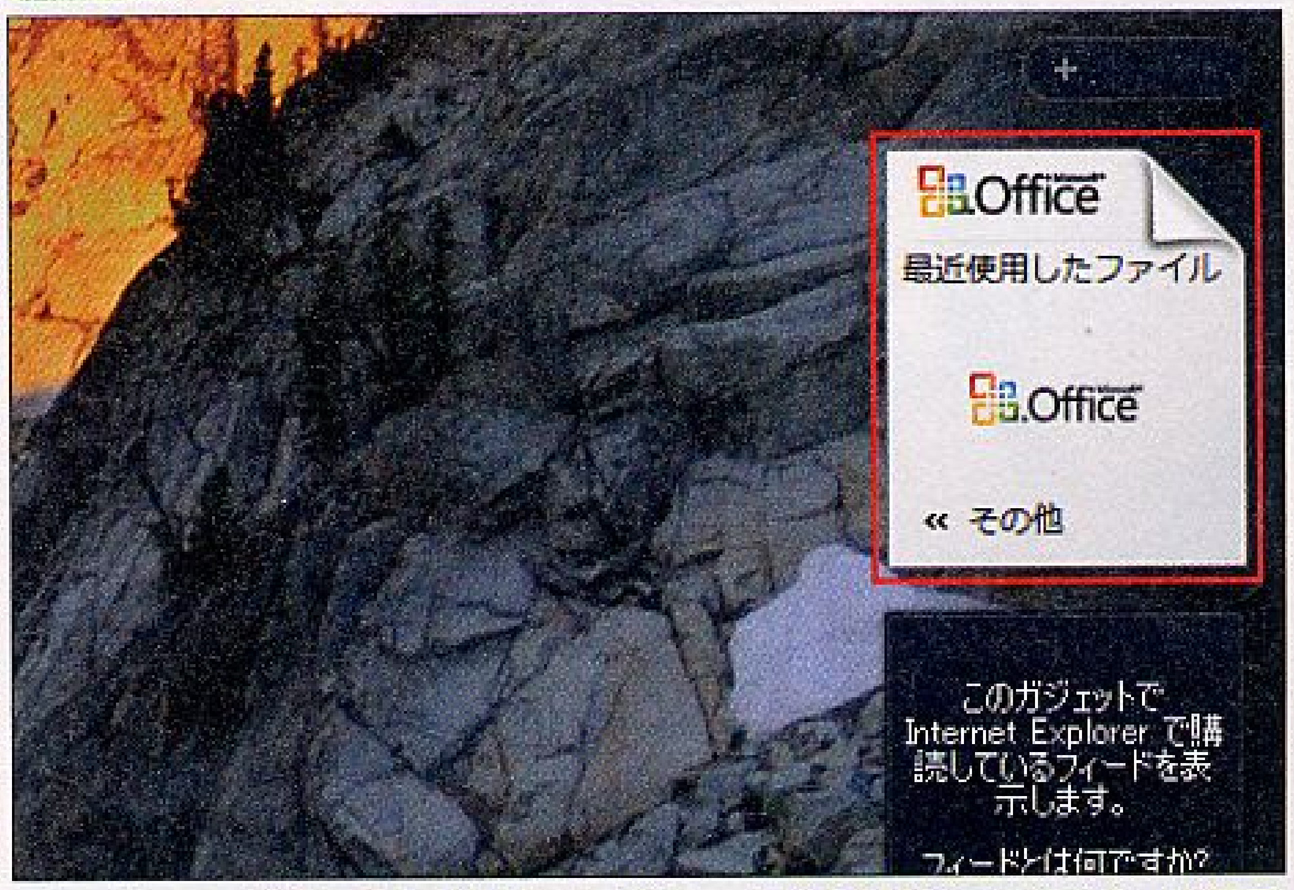
4 ダウンロードしたガジェットをインストールする





「発行元を確認できませんでした。」という警告ダイアログが表示されたら、それぞれ「実行する」「インストールする」をクリックする

5 ガジェットが追加される



インストールが終わると、追加したガジェットが自動的にサイドバーに表示される。ガジェットの一覧にも追加されているので、確認してみよう

もっと快適!!テクニック

ガジェットをアンインストールする

デスクトップ上に表示されているガジェットは右クリックの「削除」から削除できるが、ハードディスク内から消えたわけではなく、簡単に元に戻すことができる。完全にアンインストールしたいときは、ガジェットの一覧から、目的のガジェットを右クリックして「アンインストール」を選ぼう。

ワンポイント
追加できるガジェット

「Google検索」をはじめとする検索ツールや「Yahoo! ニュース」などのニュース速報、占いなど、さまざまなガジェットが配布されている。また、知識があれば、オリジナルのガジェットを作成して公開することも可能だ。

難易度 易

ガジェットの外見や機能を用途に合わせて変更する

快適指数

効果
- ●ガジェットの外見を好みに合わせて変更できる
- ●ガジェット上の情報を必要に応じて変更できる

64ページで紹介したガジェットは、用途に合わせていろいろカスタマイズすることができる。例えば、初期設定で表示されている「時計」ガジェットはデザインがいくつも用意されている。このようにガジェットによってはデザインを変更したり、設定を変えて自分好みにカスタマイズできるようになっている。ガジェットにカーソルを合わせたとき、のようなオプションボタンが出たならカスタマイズ可能。クリックして変更してみよう。また、ガジェット自体を右クリックすることで設定を変更できるものもある。

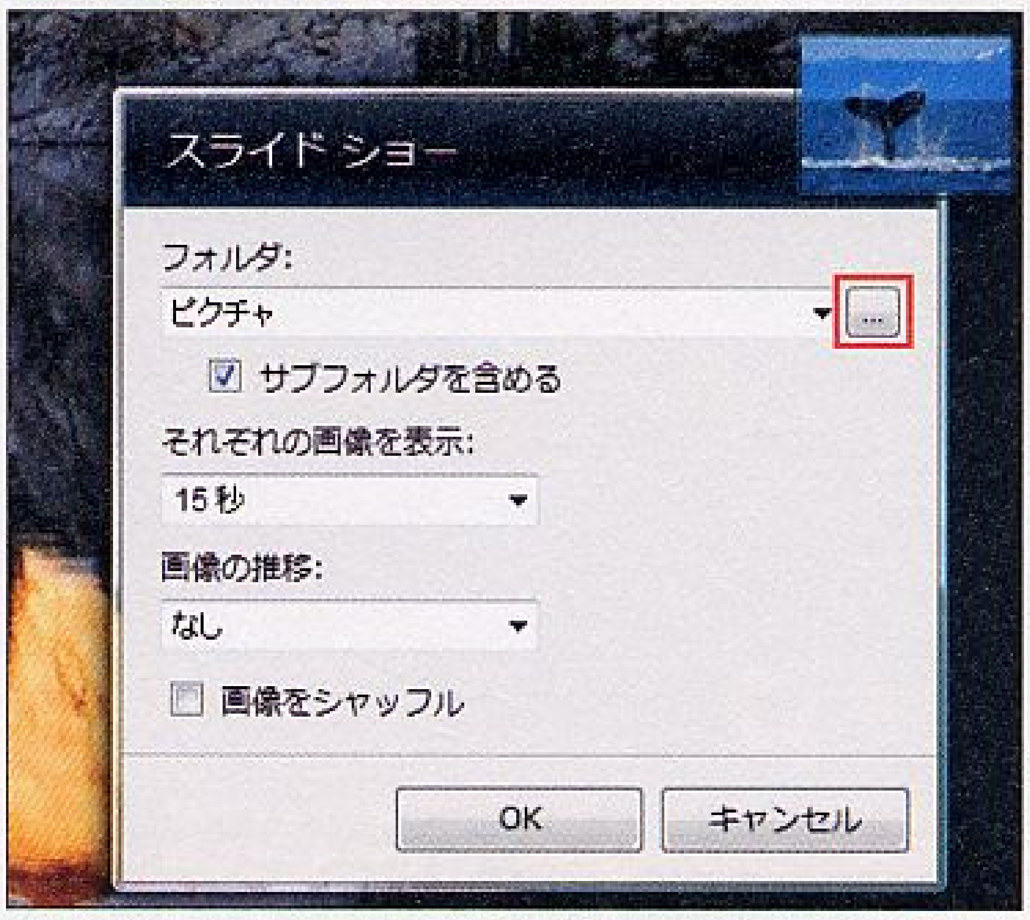
1 ガジェットのオプションボタンをクリックする

カスタマイズしたいガジェットにカーソルを合わせ、オプションボタンをクリックする

2 「時計」のデザインを変更してみる

ここでは「時計」のデザインを変更する。をクリックして好きなデザインを選ぼう。「タイムゾーン」や秒針の表示／非表示も変更できる。「OK」をクリックすれば設定が反映される

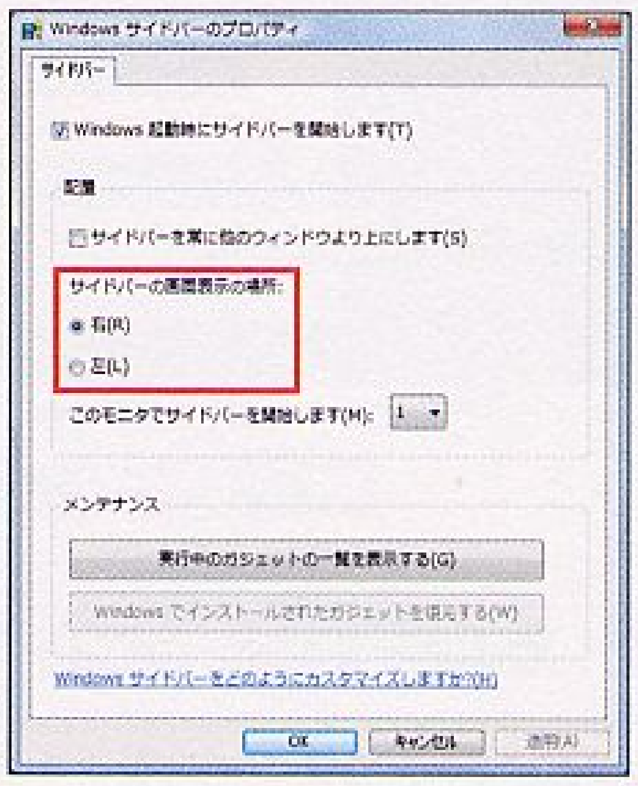
3 「スライドショー」の設定を変更してみる



次は「スライドショー」の設定を変更してみよう。初期設定ではスライドショーを行なうフォルダが「サンプルピクチャ」フォルダになっているのでをクリックして、スライドショーを実行したいフォルダを選ぶ。「サブフォルダを含める」にチェックを入れれば、階層が違うフォルダも表示できる。画像の切り替わる速度などを選んで「OK」をクリックすれば完了だ

もっと快適!!テクニック サイドバーの位置を変える

サイドバーの表示位置を変更したいときは、サイドバー上で右クリックをして「プロパティ」を選択。「右」「左」から使いやすいほうを選べばいい。Windows開始時に、サイドバーを起動させない設定にもできる。



サイドバーを常に前面表示させることも可能

ワンポイント サイドバーを閉じるには

サイドバーやガジェットを使わない場合は、サイドバーを右クリックし、「サイドバーを閉じる」をクリックすれば、ガジェットごとサイドバーがツールバーに収納される。再び開くには「Windowsサイドバー」のアイコンをクリックする。

難易度 易

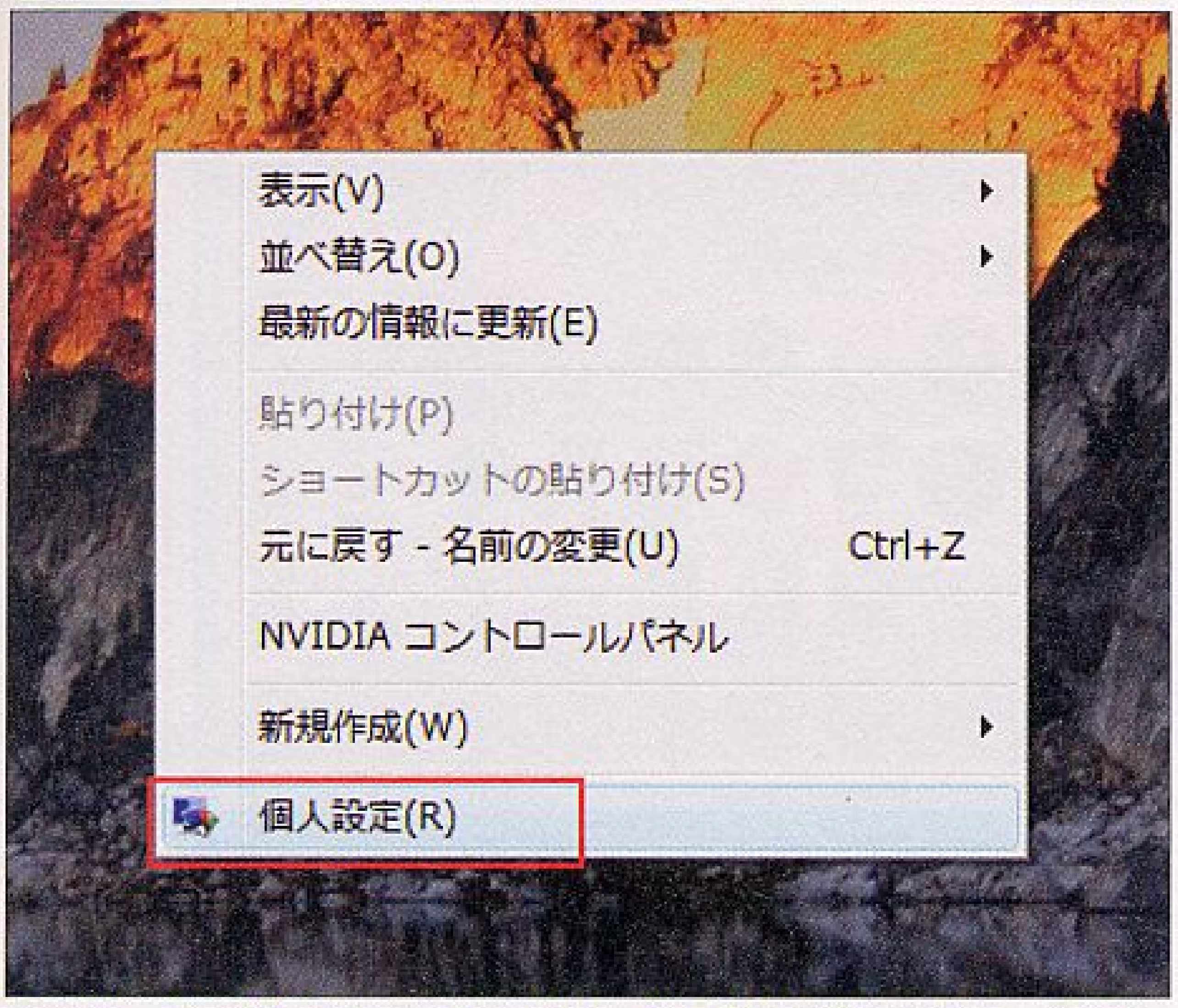
よく使う「コンピュータ」をデスクトップに表示しておく

快適指数

効果
- ●よく使う「コンピュータ」へすばやくアクセスできる
- ●「ネットワーク」へのアクセスが速くなる

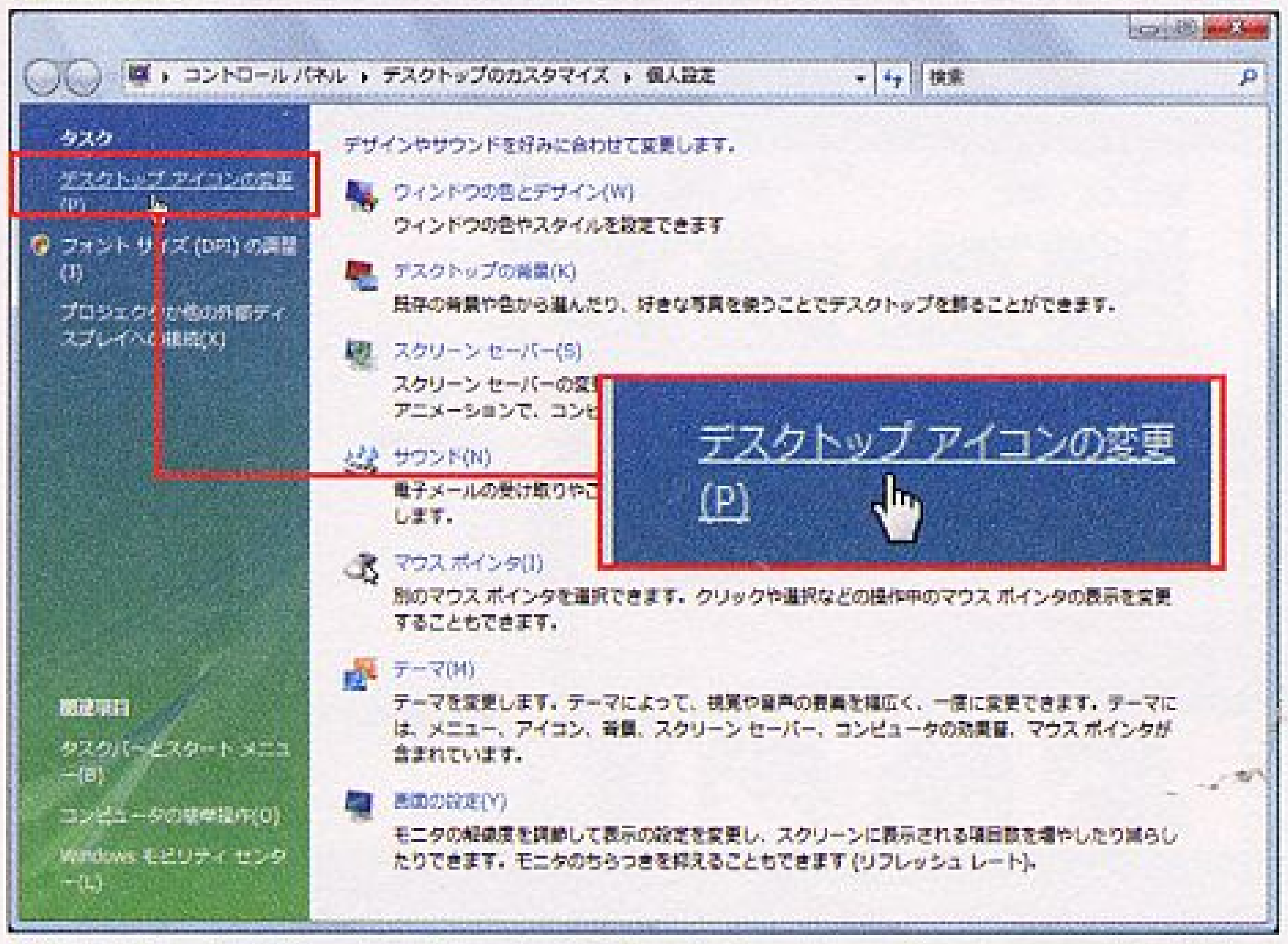
Me以前のWindowsでは、デスクトップに「マイコンピュータ」と「マイネットワーク」のアイコンが表示されていた。XPになってからはデスクトップに表示されなくなり、「スタート」メニュー内に収納されるようになった。そして、Vistaでは「マイ」がとれて「コンピュータ」と「ネットワーク」に名称が変わった。パソコンを使っているとこの2つにアクセスする機会は多い。やはりデスクトップに出ていたほうが便利だと思うこともあるだろう。そこでこの2つをデスクトップに表示させる設定にしてみよう。

1 「個人設定」画面を開く



デスクトップの何もないところで右クリックし、「個人設定」をクリックする

2 デスクトップのカスタマイズをする

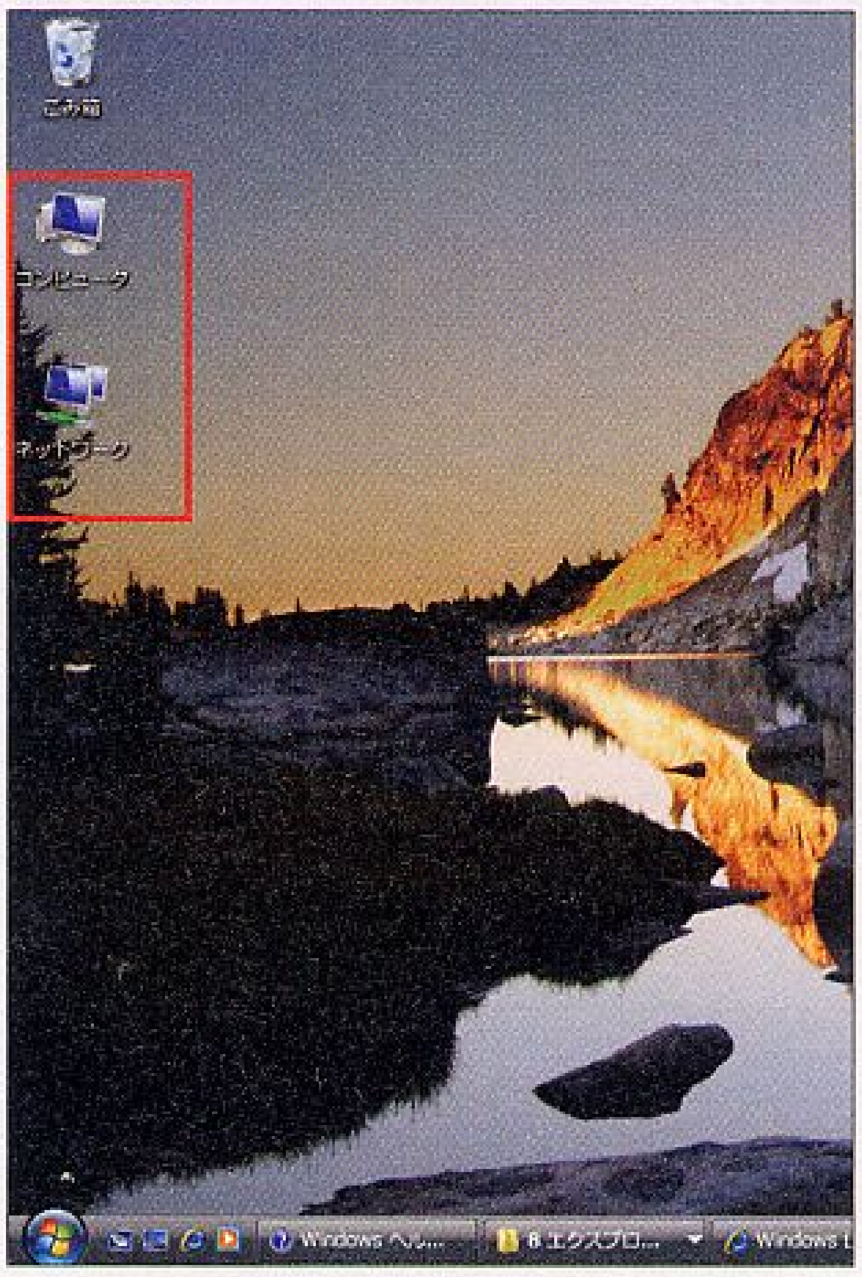


「個人設定」が開いたら「タスク」項目の「デスクトップアイコンの変更」をクリック

3 デスクトップに表示したいアイコンを指定する

「デスクトップアイコンの設定」画面が開いたら、「デスクトップアイコン」項目の「コンピュータ」と「ネットワーク」にチェックを入れ、「OK」をクリック

4 デスクトップにアイコンが表示された



デスクトップに「コンピュータ」と「ネットワーク」のアイコンが表示された

ワンポイント ユーザーのファイル

3のデスクトップアイコンで「ユーザーのファイル」を選択すると、「スタート」メニューの中にある「アカウント名のフォルダ」がデスクトップに表示されるようになる。このフォルダをよく使う人にはおススメだ。

難易度 易

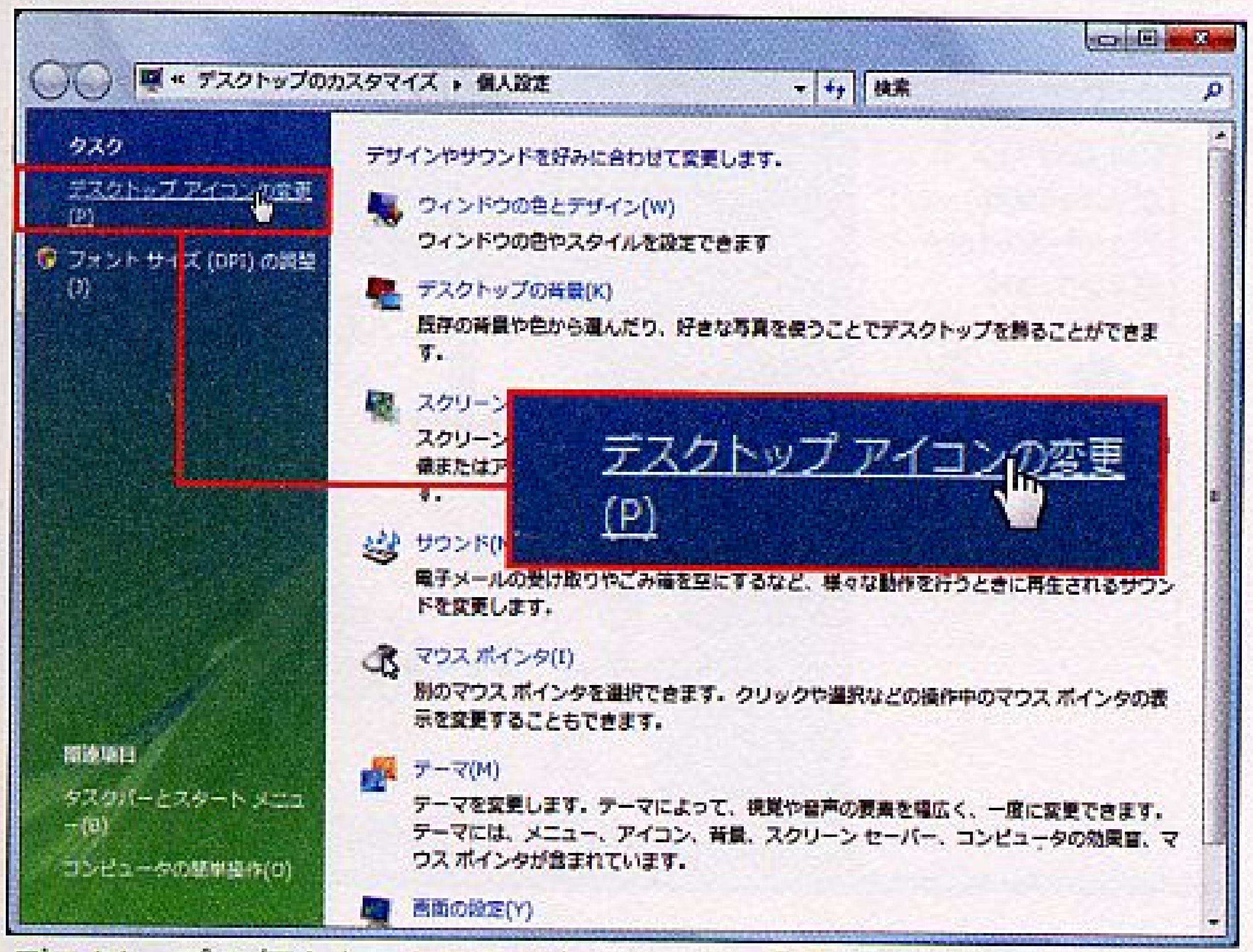
デスクトップアイコンを自分好みに変更する

快適指数

効果
●「コンピュータ」などのアイコンを自分が好きなものに簡単に変えられる
●ダウンロードしたアイコンに変更できる

「コンピュータ」「ユーザーフォルダ」「ネットワーク」「ごみ箱」などのデスクトップアイコンは、グラフィックを別のものに変更することができる。標準のものが使いづらかったり、デザインに飽きてしまった人は、アイコンを変えてみよう。壁紙やテーマの変更などとあわせて行なえば、より個性的なデスクトップにすることができるはずだ。ここでは既に用意されている別のアイコンに変更する方法を紹介する。インターネットで入手したものやデジカメ画像などを使いたい場合は、69ページを参照しよう。

1 「デスクトップアイコンの設定」を開く



デスクトップの何もないところで右クリックし、「個人設定」をクリックする。「デスクトップアイコンの変更」をクリック

2 変更したいデスクトップアイコンを選ぶ

デザインを変更したいアイコンを選択して「アイコンの変更」ボタンをクリックする

3 一覧からアイコンのグラフィックを選ぶ

一覧から使いたいアイコンのグラフィックを選択する。選択したら「OK」をクリック

4 アイコンの変更を確認する

2で指定したアイコンが変更された。「OK」をクリックすれば変更が完了する。同様に他のデスクトップアイコンも変更できる

Keyword アイコン
ファイルやフォルダ、プログラム、機能などを、視覚的にわかりやすくするために表示される小さな画像のこと。Windows全体のさまざまな場所に使われている。

難易度 普

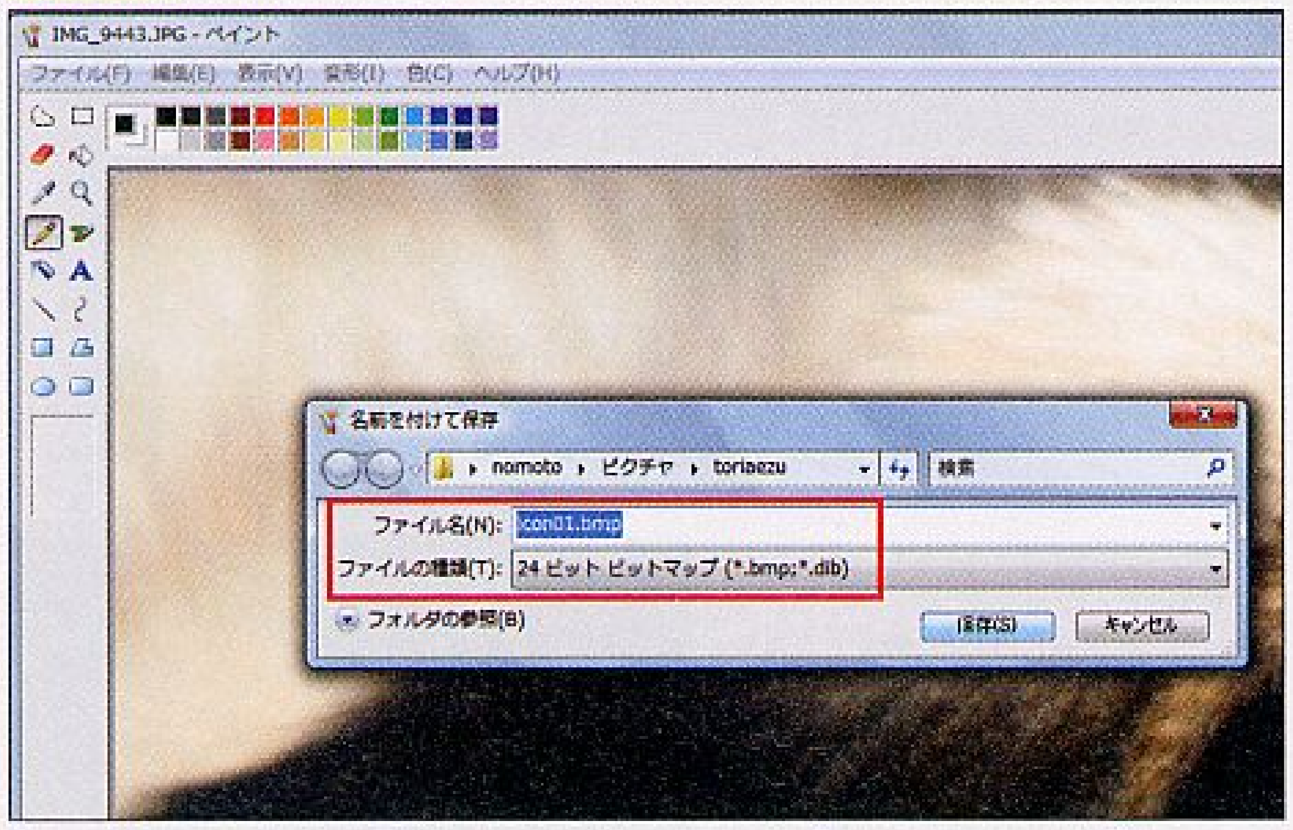
フォルダアイコンを好みの写真やイラストに変更する

快適指数

効果
- ●デジカメ画像をアイコンにできる
- ●目的別にアイコンを変えればフォルダの分類がわかりやすく、管理しやすくなる

68ページでは、Windows既定のデスクトップアイコンをあらかじめ用意された別のアイコンに変更する手順を紹介した。ここでは、フォルダのアイコンを自分の好みの画像に変更してみよう。用途別に変更すれば、たくさんのフォルダの中から目的のフォルダをすぐに判別でき、フォルダ管理が楽になる。アイコンにする画像は拡張子（拡張子の表示方法は5ページを参照）が「.ico」になっていないと読み込むことができないので、まずはアイコン用の画像形式に変換しよう。作成した画像は68ページのデスクトップアイコンとしても使える。

1 画像をアイコン形式に変換する

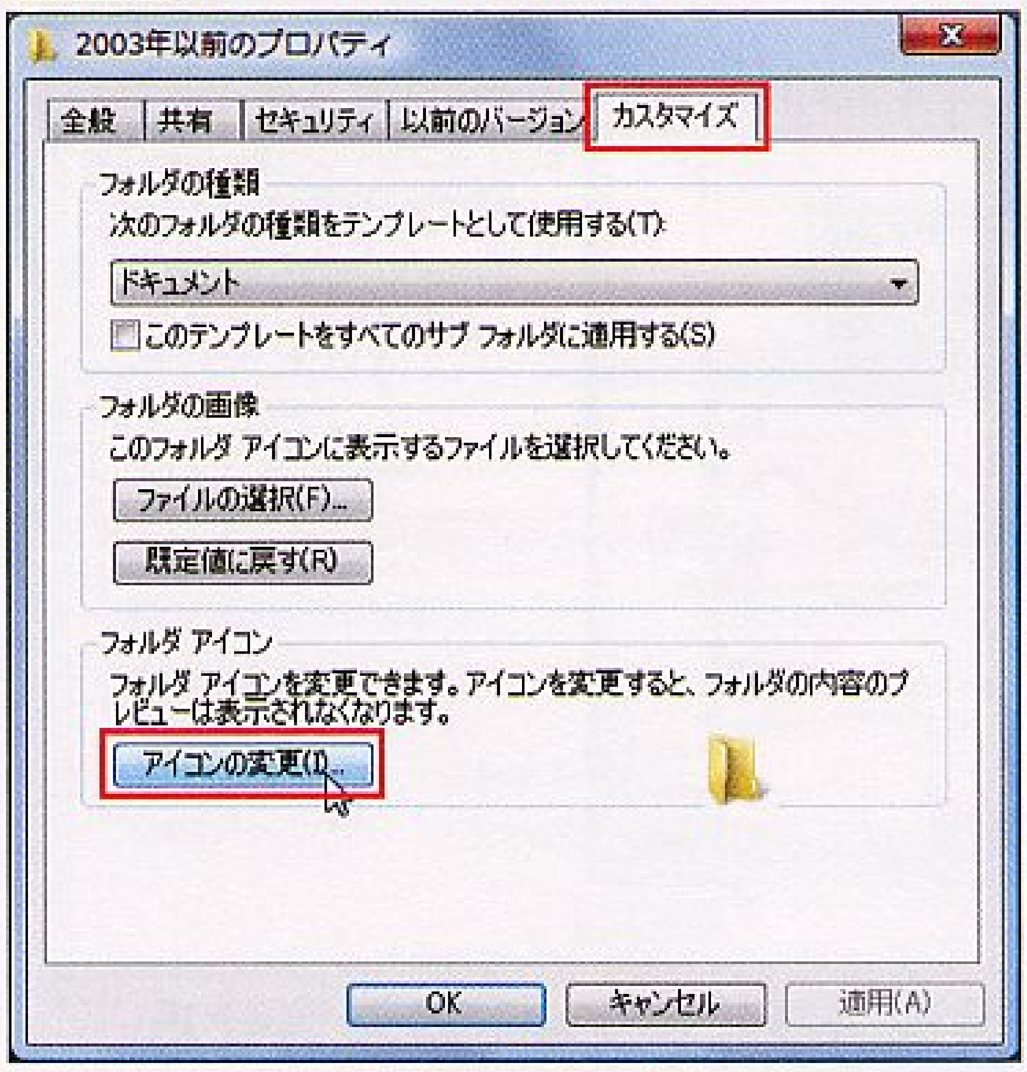


「スタート」メニュー→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」から「ペイント」を起動。「ファイル」メニュー→「開く」からアイコンにしたい画像を読み込む。「ファイル」メニュー→「名前をつけて保存」をクリックし、適当なファイル名を付け、「ファイルの種類」を「24ビットビットマップ」にし、「保存」をクリック

2 画像の拡張子を「.ico」に変更する

1で作成したファイルの拡張子を「.bmp」から「.ico」に変更する。「拡張子を変更すると、ファイルが使えなくなる可能性があります。変更しますか？」という警告ダイアログが表示されるが、「はい」をクリックする

3 アイコンを変更したいフォルダのプロパティを開く



アイコンを変更したいフォルダを右クリックし、「プロパティ」を選択。「カスタマイズ」タブの「アイコンの変更」をクリックする

4 作成した画像をアイコンに割り当てる

「参照」をクリックし、2で作成した画像を選択。「開く」をクリックすると、「フォルダのアイコンの変更」画面に戻るので「OK」をクリック。さらにフォルダのプロパティ画面で「OK」をクリックするとアイコンが変更される

注意 アイコンのサイズ

アイコンのサイズは通常、32×32（ピクセル）。つまり正方形であるため、使用する画像は正方形が望ましい。またサイズも小さいほうがいい。84ページを参照してトリミング、サイズ変更をしてみよう。

難易度 易

スクリーンセーバーを活用して伝言や不正使用防止に役立てる

快適指数

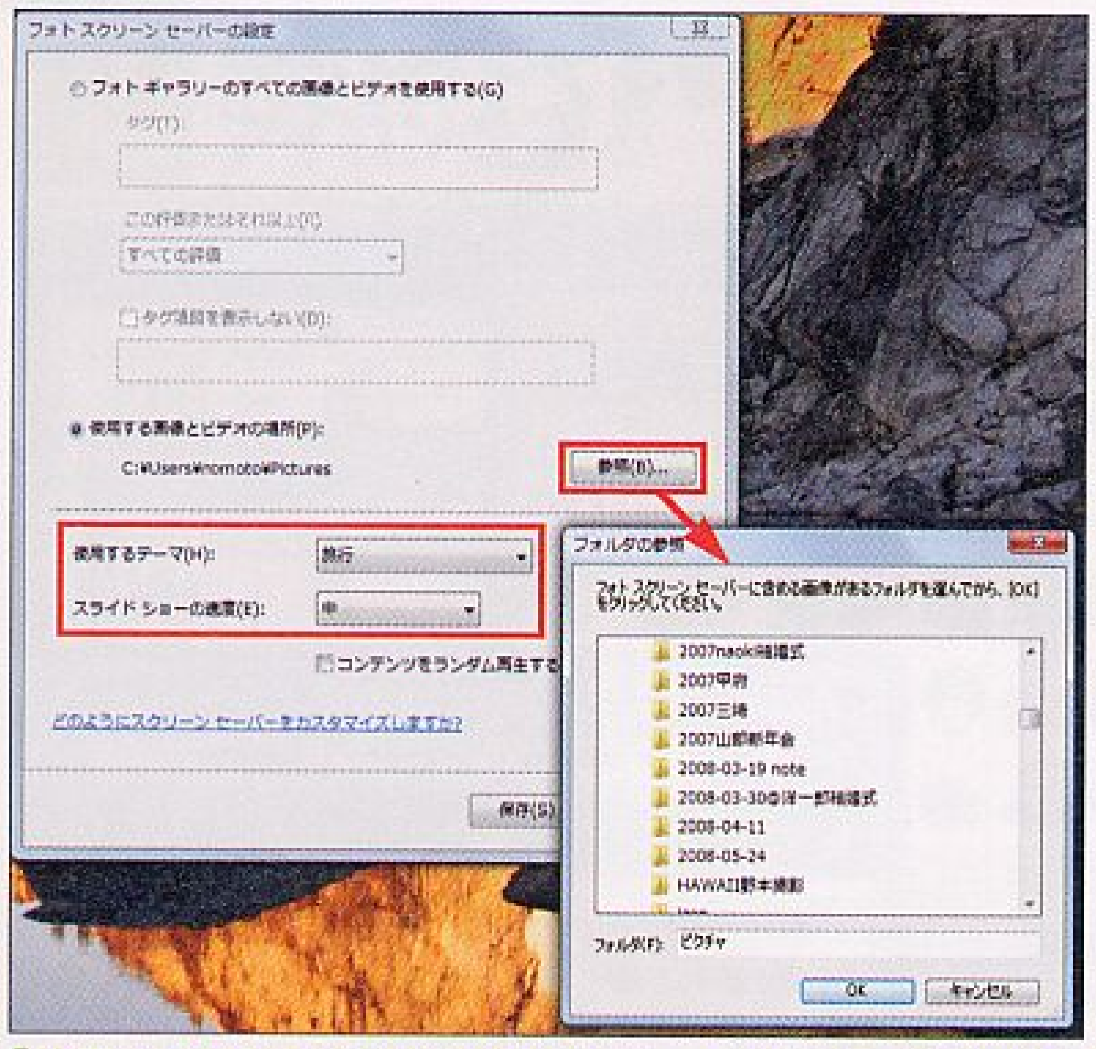
効果
- ●写真のスライドショーや伝言ボードとして活用できる
- ●パソコンから離れたときの不正使用防止にもできる

本来、スクリーンセーバーは画面の焼きつきを防止するための機能だったが、液晶モニタが普及し、その心配もなくなった。現在は、好みの画像をスライドショー表示させたり、既製のスクリーンセーバーを楽しんだりカスタマイズのひとつとして使用されることが多い。また、スクリーンセーバーからの復帰時にパスワードをかけておけば、第三者による不正使用を防止するというセキュリティ効果も期待できる。さらに好きな文字を表示できるのを利用して「昼食中…13時戻り」などと第三者宛てのメッセージボードにも使えるのだ。

1 スクリーンセーバーの設定を行なう

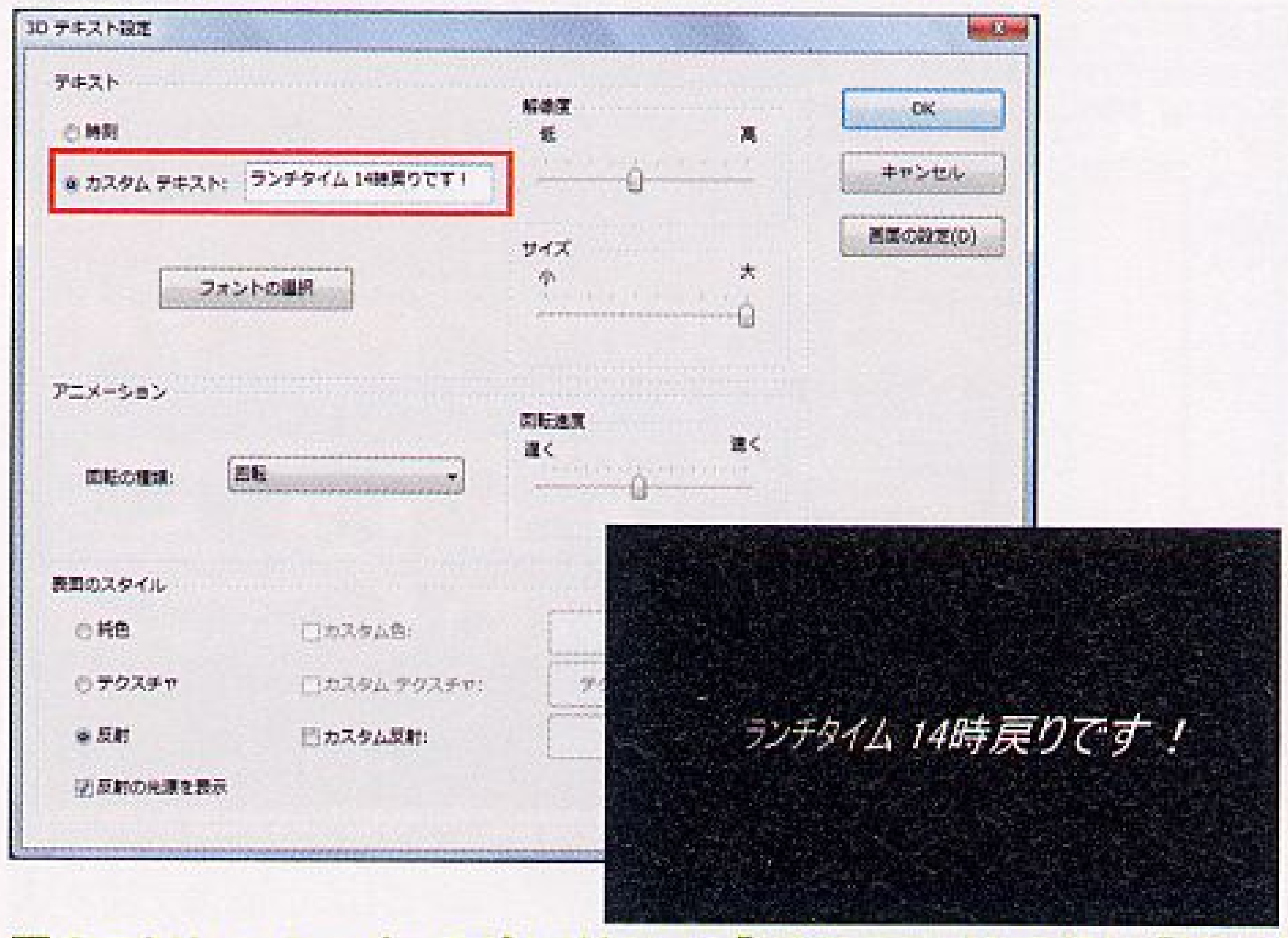
デスクトップの何もないところで右クリックし、「個人設定」を選択。「スクリーンセーバー」をクリックする。「スクリーンセーバー」のプルダウンから「写真」を選択し、「設定」をクリック

2 画像をスライドショー表示させる



「使用する画像とビデオの場所」にチェックを入れ、参照ボタンをクリック。スライドショーをさせたい画像を保存したフォルダを選択する。あわせて「使用するテーマ」からスライドショーの表示方法を、「スライドショーの速度」から画像の切り替えの早さを設定しておく。「保存」ボタンを押して「スクリーンセーバーの設定」画面に戻り、「OK」をクリックする

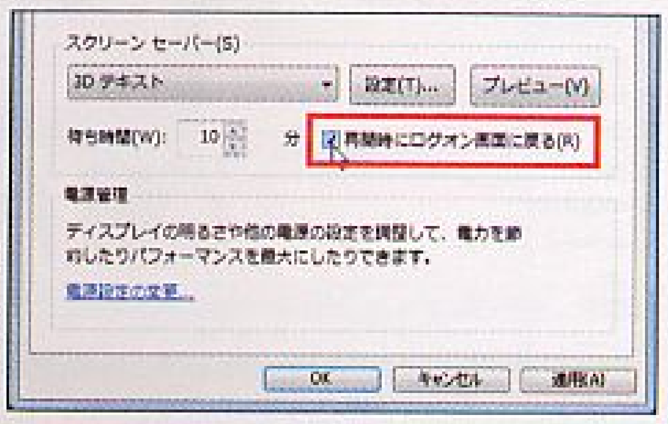
3 好きなメッセージを表示させメッセージボードとして活用する



1のスクリーンセーバーのプルダウンから「3Dテキスト」を選択し、「設定」をクリック。「カスタムテキスト」にチェックを入れ、スクリーンセーバーに表示したい文字を入力する。「OK」ボタンを押して、「スクリーンセーバーの設定」画面に戻り、「OK」をクリックする。フォントやテキストの表示方法なども設定可能だ

もっと快適!!テクニック 再開時にパスワードを入力させ不正使用を防止

1の「スクリーンセーバーの設定」で「再開時にログオン画面に戻る」にチェックを入れておけば、スクリーンセーバーからの復帰時にログオン画面が表示される。パソコン前から離れ、スクリーンセーバーが起動しているとき、第三者にパソコンを使用されそうになったとしても、ログオン画面でパスワードを求められるので、不正使用の防止になる。



「スクリーンセーバーの設定」画面で「再開時にログオン画面に戻る」にチェックを入れて「OK」をクリックすればいい

注意 スクリーンセーバーでの注意

スクリーンセーバーに見せかけたファイルをダウンロードさせ、その実態はウイルスやワームだった、ということが海外サイトで多く見られる。ネットからの入手は信頼できるサイトで行なうこと。

難易度 易

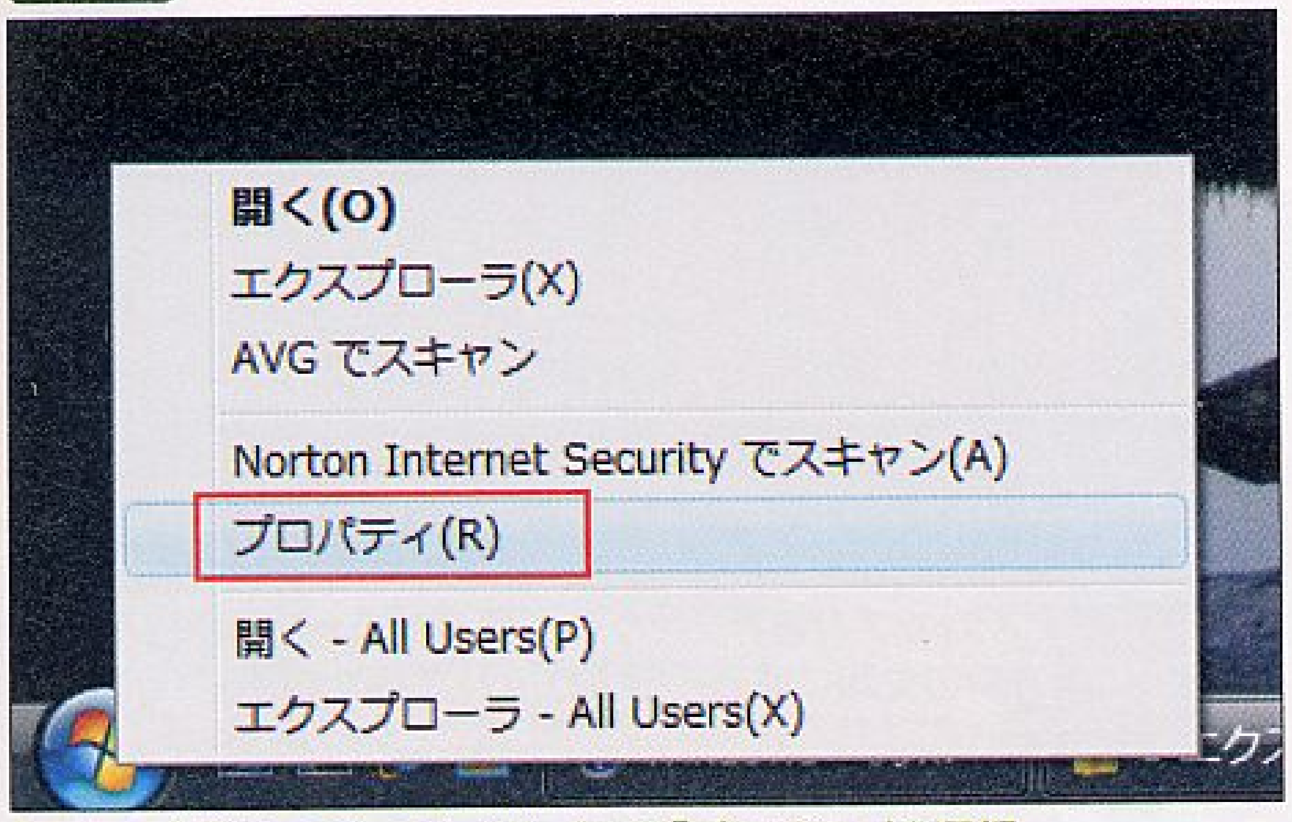
「スタート」メニューの表示を使いやすくして効率アップ

快適指数

効果
●よく使うソフトを「スタート」メニューに表示させることができる
●プログラムへのアクセスがすばやく行なえ、作業効率があがる

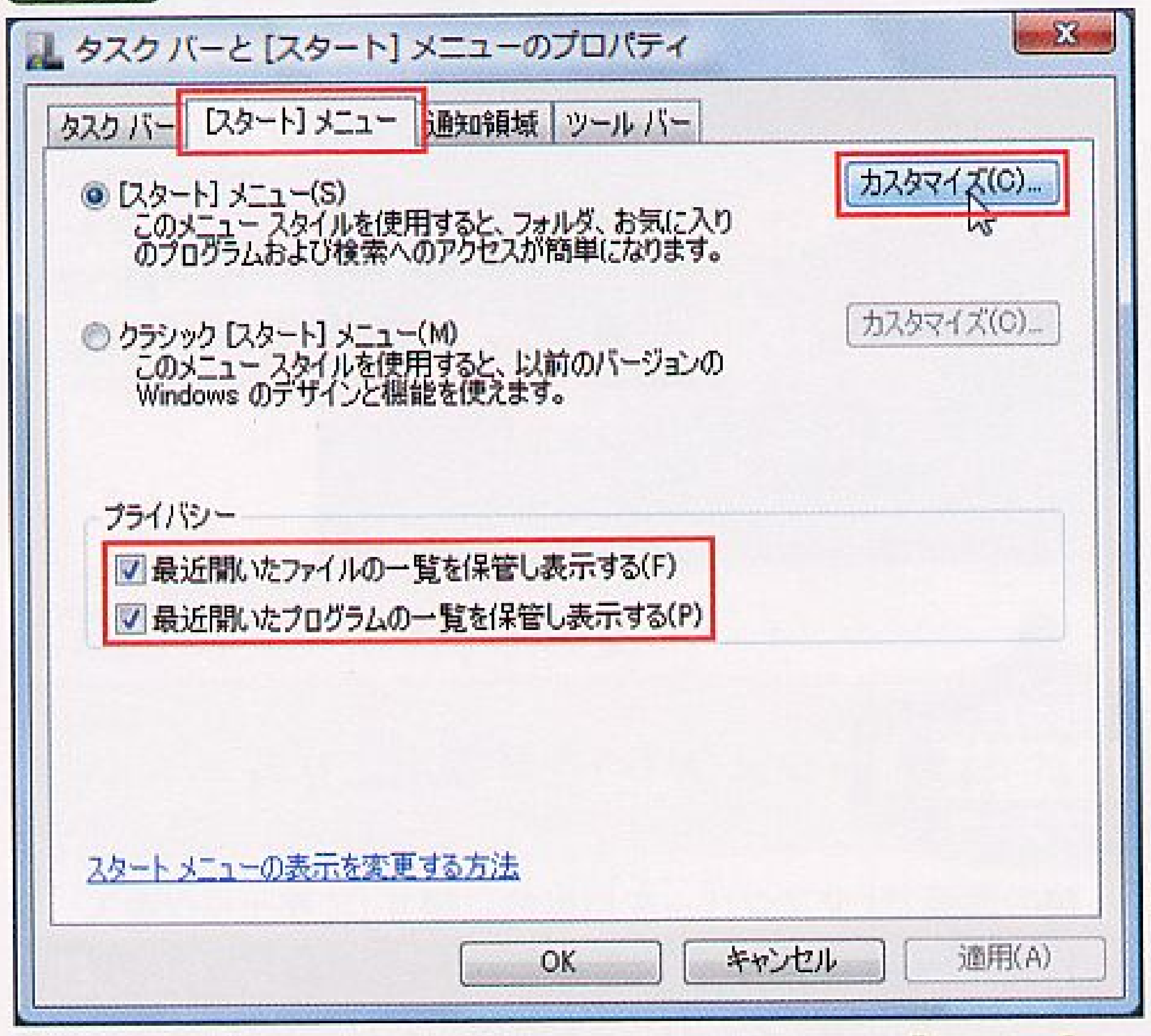
「スタート」メニューは、Windowsのあらゆる操作を行なえるランチャー。プログラムの起動、特定のフォルダへのアクセス、コントロールパネルなどの各種設定、検索ボックスなど、便利な機能が豊富に揃っている。この「スタート」メニューをより快適に使うために、初期状態では表示されていない「[お気に入り]メニュー」を表示したり、不要なメニューは非表示にするなど、自分の使いやすいようにカスタマイズしてみよう。初期設定では有効になっている「最近開いたファイル」の表示／非表示の変更も行なえる。

1 「スタート」メニューのプロパティを開く



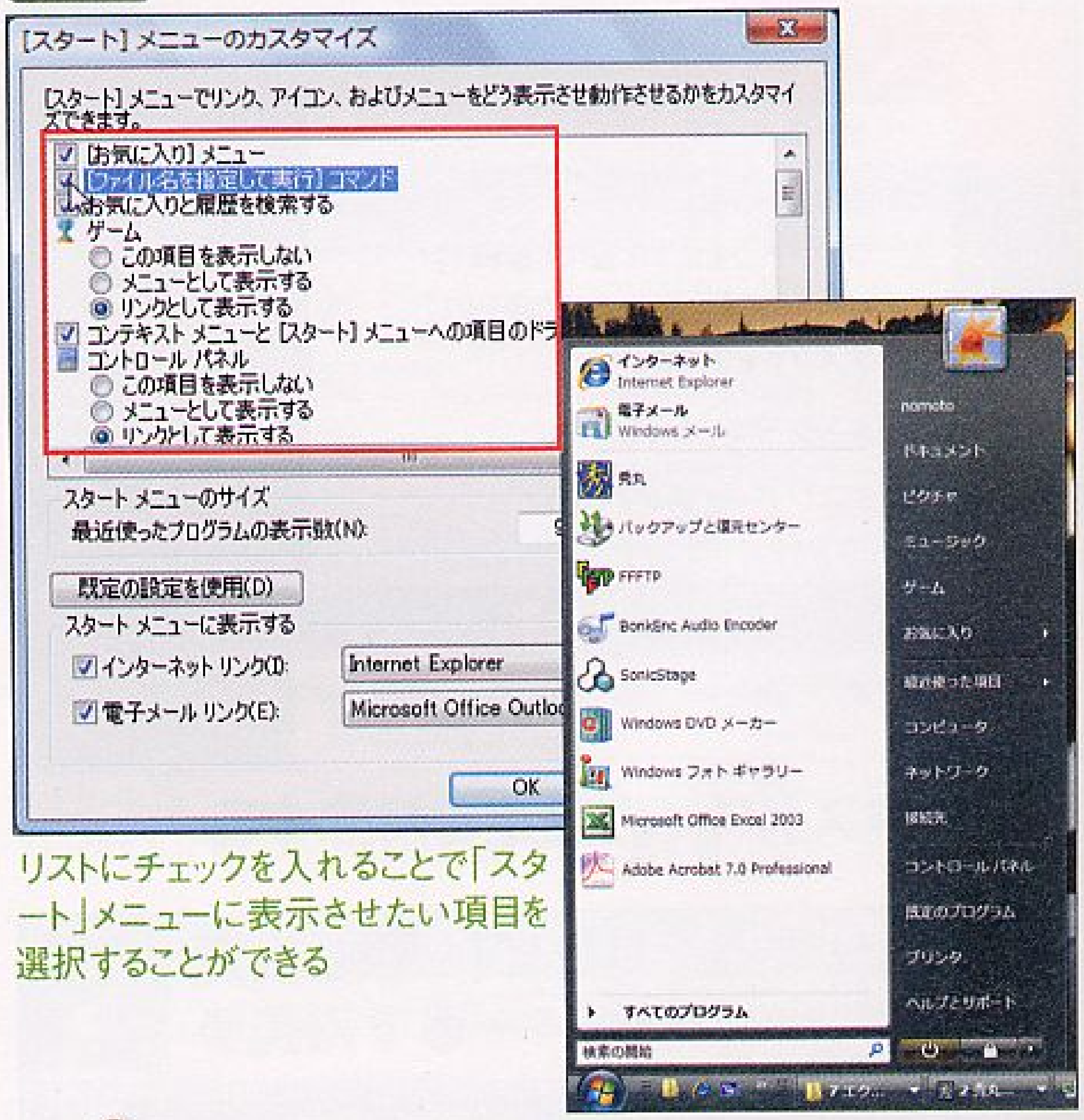
「スタート」ボタンの上で右クリックして「プロパティ」を選択

2 「スタート」メニューのカスタマイズ



「タスクバーと[スタート]メニューのプロパティ」が開くので、「[スタート]メニュー」タブを開き、「カスタマイズ」ボタンをクリックする。この画面から最近開いたファイルとプログラムの表示設定も変更できる

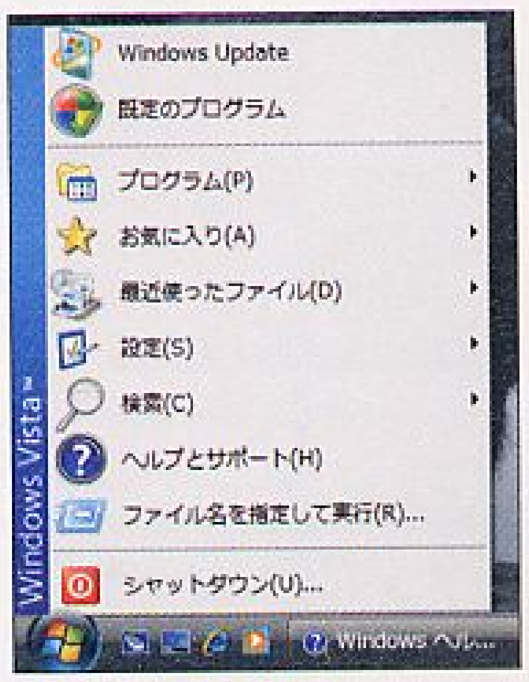
3 表示する項目を選択する



リストにチェックを入れることで「スタート」メニューに表示させたい項目を選択することができる

もっと快適!!テクニック クラシックスタイルでシンプルかつ高速に

2で「クラシック[スタート]メニュー」を選択すると、Windows 98/Meを彷彿とさせるシンプルな「スタート」メニューに変更される。98/Meから乗り換えた人や、少しでも高速化したい人、必要最低限の項目だけを表示したい人におすすめのスタイルだ。「コンピュータ」などのアイコンが自動的にデスクトップ上に表示されるのも便利。



ワンポイント 通知領域の設定

2で「通知領域」タブをクリックすれば、タスクバーの通知領域に関する設定が行なえる。常に表示させるアイコンを減らしたり、アクティブでない項目を隠し、すっきりさせてみよう。

難易度 易

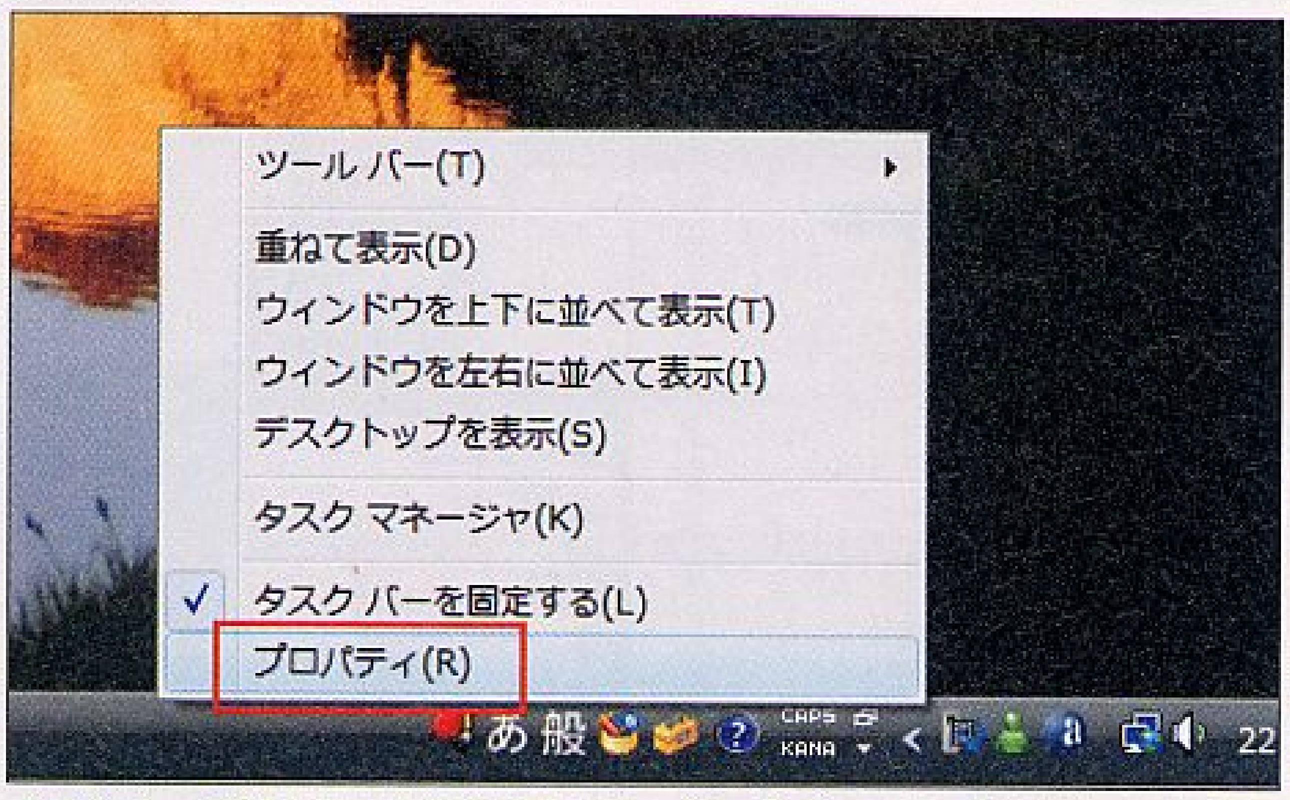
タスクバーの位置や表示方法を使いやすく変更する

快適指数

効果
- ●タスクバーの位置を好きな場所に移動できる
- ●必要なときだけタスクバーを表示させることができる

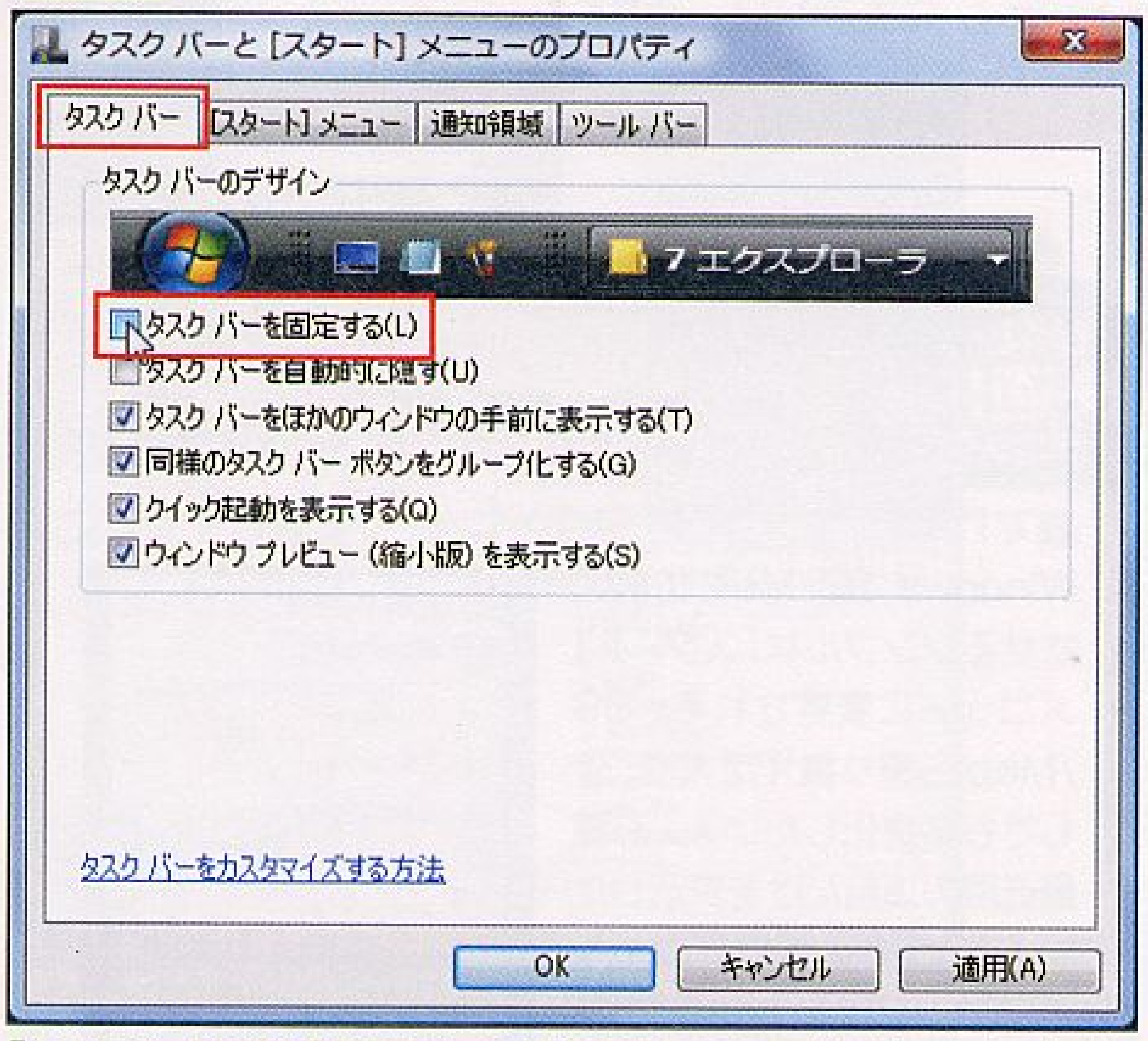
初期設定では、タスクバーはデスクトップの一番下に一段で表示されている。しかし、ファイルやフォルダを開いたり、複数のアプリケーションを起動していると、ひとつひとつの幅が狭くなってしまい、ファイル名などが見えづらくなることもある。また、常にデスクトップの下に表示されているが、それでは使いづらいという人もいるだろう。そんなときは、タスクバーの幅や表示位置を変更してみよう。また、タスクバーを自動的に隠す設定もできる。いろいろ試して自分の使い勝手のいい表示方法を見つけてみよう。

1 タスクバーのプロパティを表示する



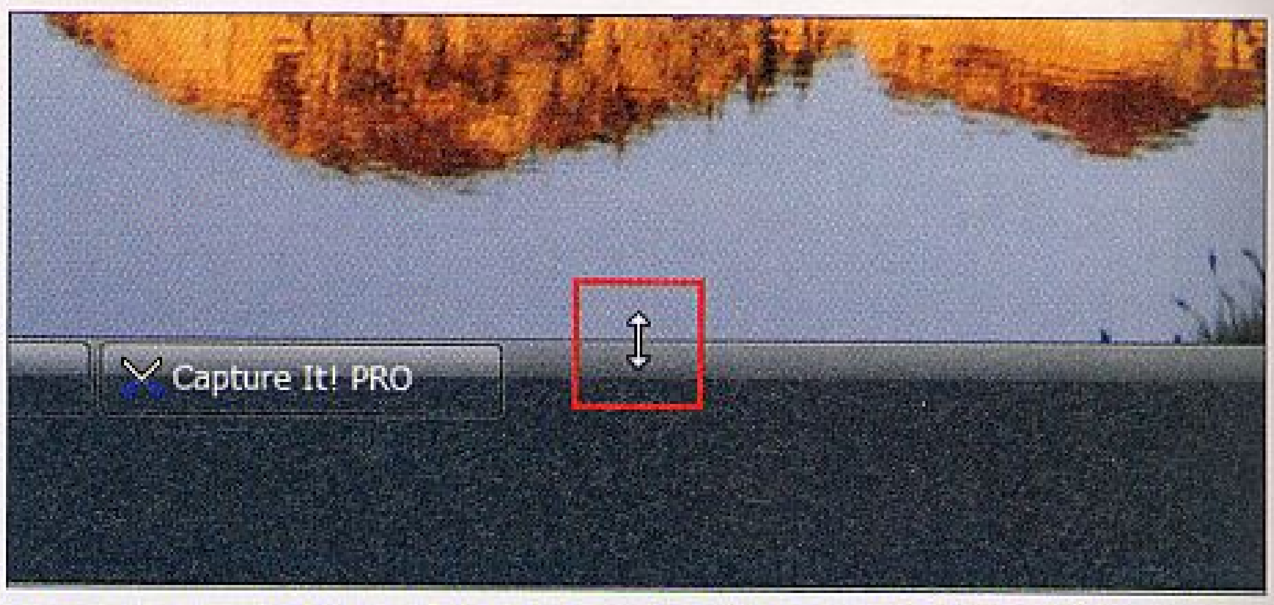
タスクバーの何もないところで右クリックし、「プロパティ」をクリックする

2 タスクバーの固定を解除する



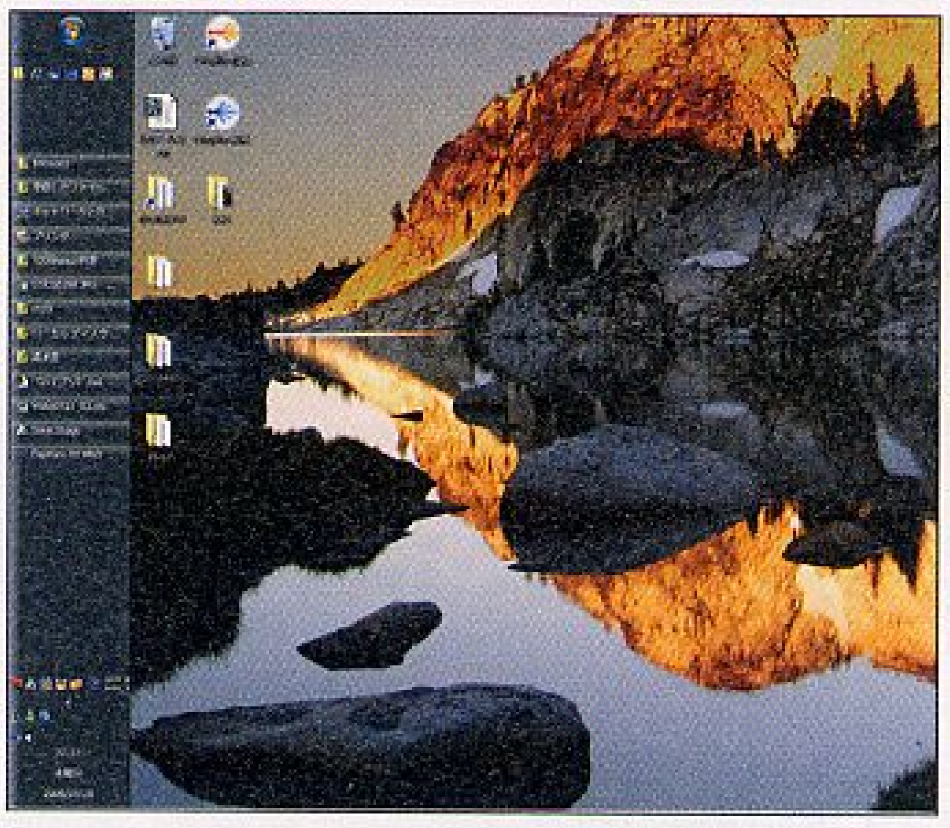
「タスクバー」タブの「タスクバーを固定する」のチェックを外して、タスクバーを移動可能な状態にする

3 タスクバーの幅を広げる



タスクバーとデスクトップの境界にマウスポインタを合わせ、ポインタが画面のように両方向の矢印に変わったらドラッグして幅を広げる

4 タスクバーの位置を変更する



タスクバーの何もない場所にマウスポインタを合わせ、タスクバー自体をドラッグし、デスクトップの上下左右、好きな位置でドロップする。タスクバーの幅は3の要領で自由に変更できる

もっと快適!!テクニック タスクバーを非表示にする

2の画面で「タスクバーを自動的に隠す」にチェックを入れると、タスクバーが非表示になる。マウスポインタをタスクバーの位置に合わせれば再度表示されるので、表示時と同じように使うことができる。

ワンポイント タスクバーを固定する

タスクバーの移動や幅を変更する際「タスクバーを固定する」のチェックを外すが、そのまま使用すると操作を誤って意図しない表示になってしまうこともある。カスタマイズが終わったら再びチェックを入れ固定しておこう。

難易度 普

お気に入りのMP3音源をイベント音に設定する

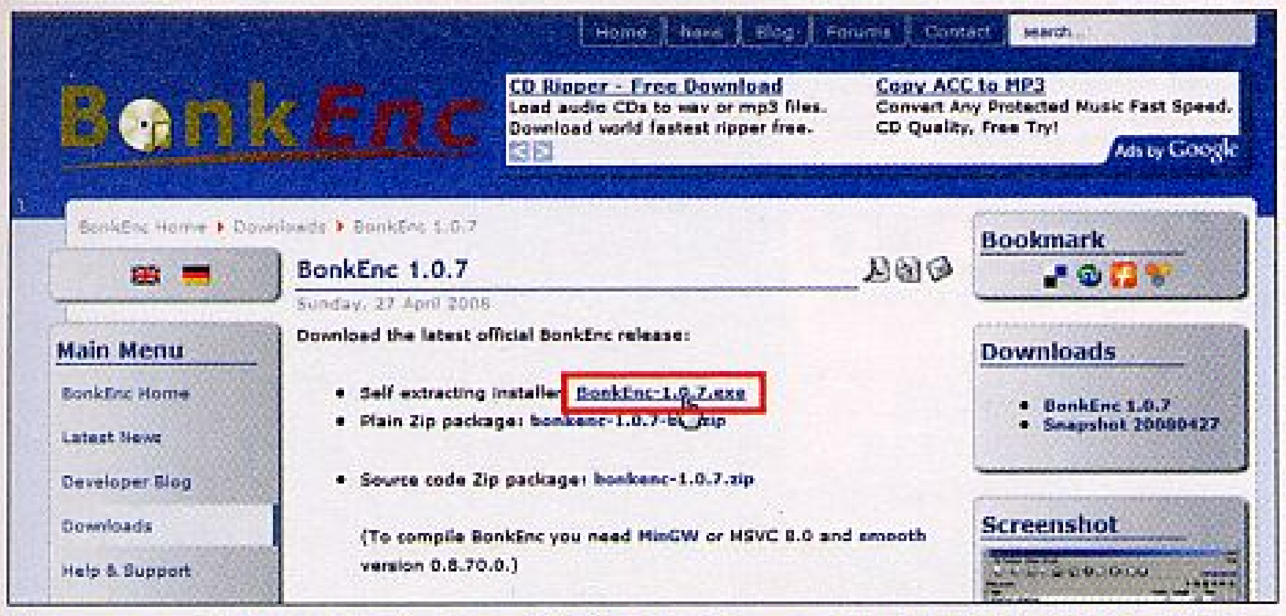
快適指数

効果 ●イベント音を好みのものに変更できる
●既定にない音源も使うことができる

Windowsではシステム終了時や新着メールの受信時など特定のイベント発生時に規定のサウンドが鳴るようになっている。このイベント音を自分のお気に入りの音声に変更してみよう。ただし、イベント音は「WAVE」形式と決まっているので、WAVE以外の形式はWAVEに変換する必要がある。また、長すぎる音声ファイルを使うと、イベントのたびに延々と音が鳴ってしまうため、あらかじめ音声編集ソフトなどで短くしておくこと。ネットにもイベント音を提供しているサイトがあるので、自己責任で使ってみてもいい。

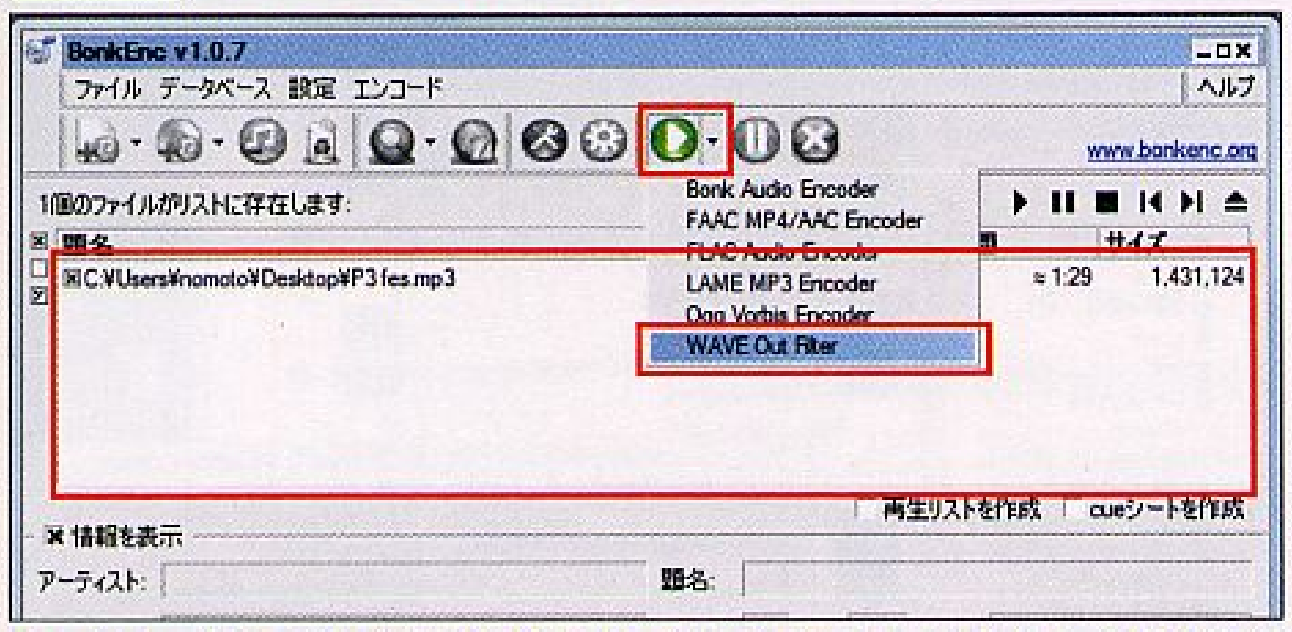
MP3ファイルをWAVE形式に変換する

1 フリーソフト「BonkEnc」をダウンロードする



「BonkEnc」はWAVEやMP3形式の音声ファイルを相互に変換できるフリーソフト。トップページの「Downloads」をクリックし、「BonkEnc v1.0.7」をダウンロードする。ソフトを起動して「Japanese/日本語」を選択。「OK」をクリックし、インストールする

2 MP3の音声ファイルをWAVE形式にエンコードする

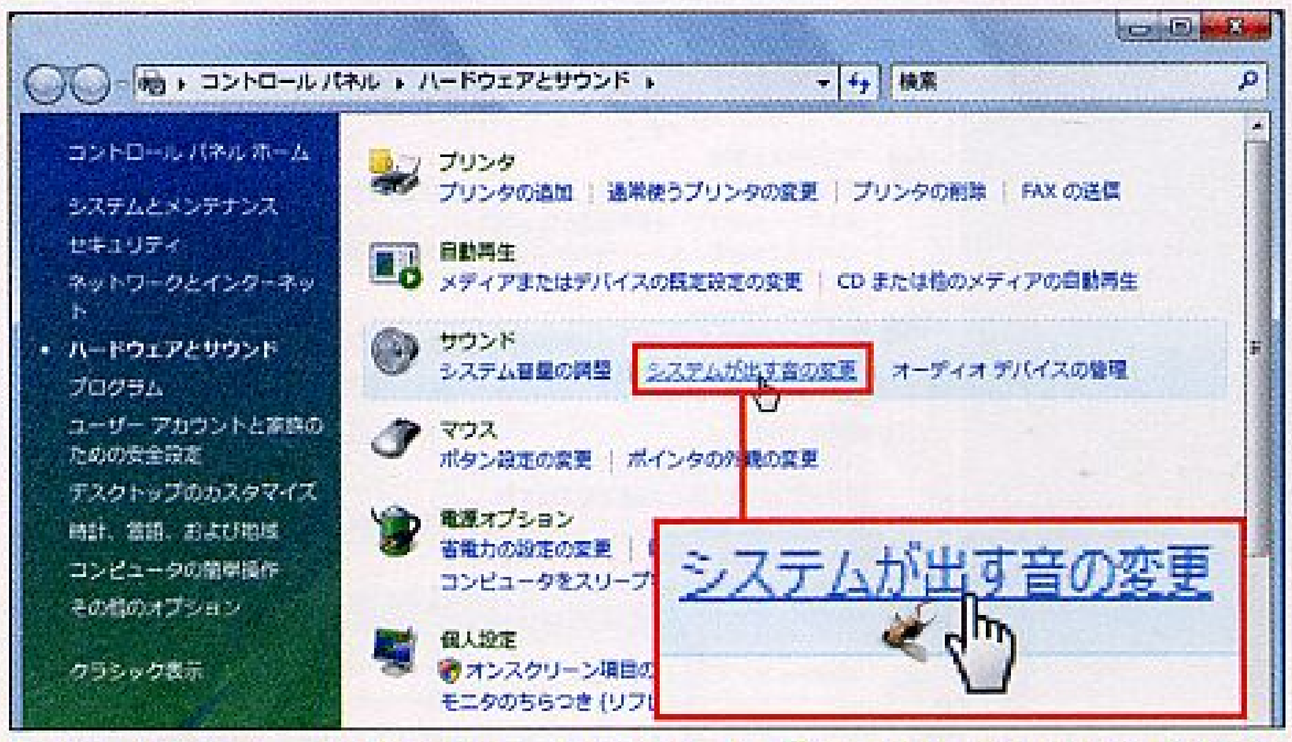


「BonkEnc」のメイン画面が表示されたら、変換したい音声ファイルを画面囲みの部分にドラッグ&ドロップする。ボタンのプルダウンをクリックし、「WAVE Out Filter」をクリックすると、WAVE形式に変換され、初期設定では「ドキュメント」フォルダに保存される。

BonkEnc 使用ソフト
●作者:Robert Kausch ●種別:フリーウェア
●対応OS:Windows 95/98/Me/NT/2000/XP/Vista
●URL:http://www.bonkenc.org/

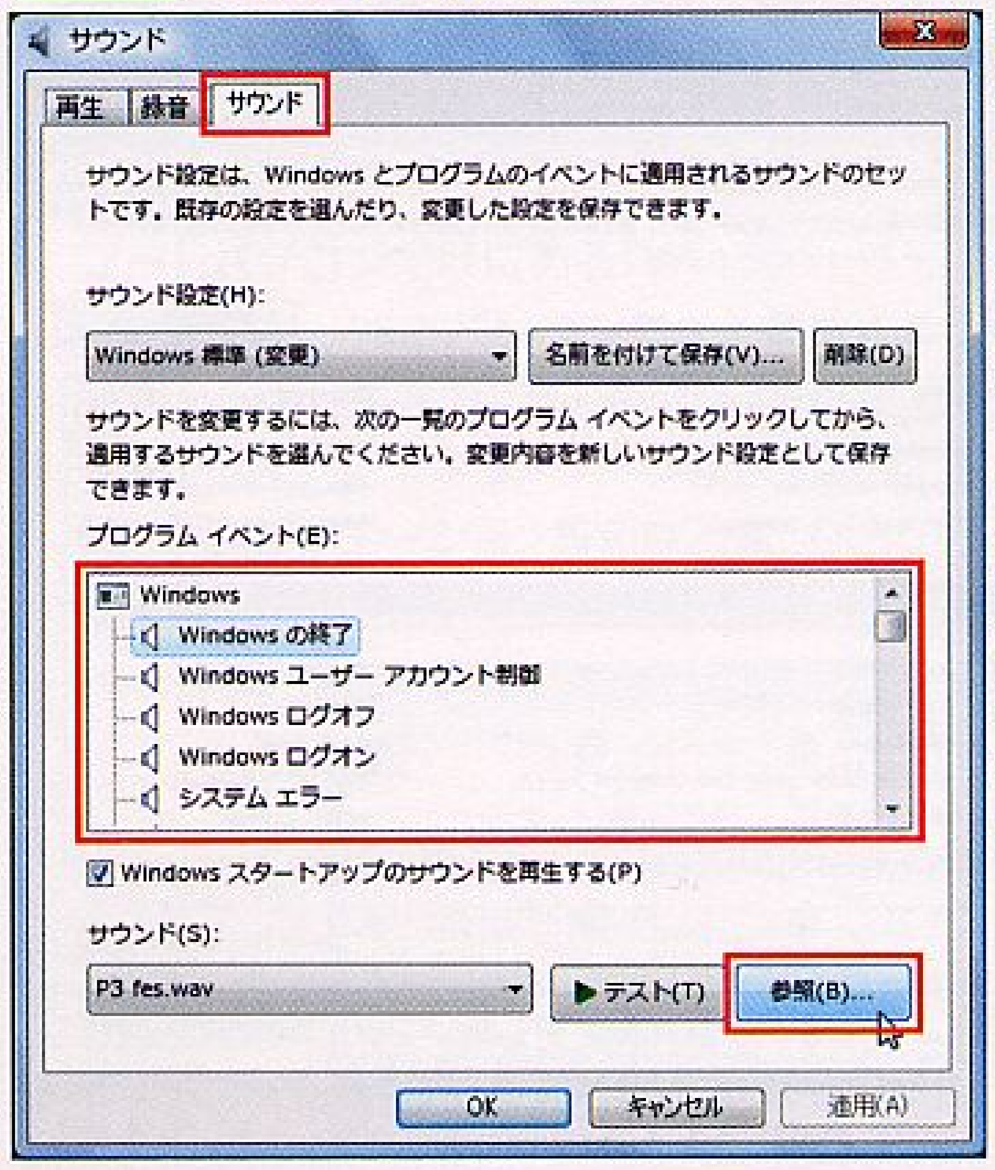
イベント音を好みの音に変換する

1 「サウンド」の設定を開く



「スタート」メニューの「コントロールパネル」→「ハードウェアとサウンド」をクリックする。「サウンド」項目の「システムが出す音の変更」をクリックする

2 変更したい「プログラムイベント」を選択する



「サウンド」タブが開いたら、「プログラムイベント」項目から、変更したいイベント音をクリックして選択する。ここでは自分のお気に入りの音声を使用するので「参照」をクリックし、使用するファイルがある場所を指定すればいい

ワンポイント
サウンド設定を保存する
右列の2でイベント音を変更した状態を「名前を付けて保存」することができる。カスタム前に初期設定を保存しておいてもいいし、いろいろなカスタムを個別に保存して気分で使い分けてもいい。

難易度 普

ファイルの関連付けを変更し常に目的のソフトで開く

快適指数

効果 ●ダブルクリックでファイルを常に好きなアプリケーションで開ける
●ファイルフォルダの分類に役立つ

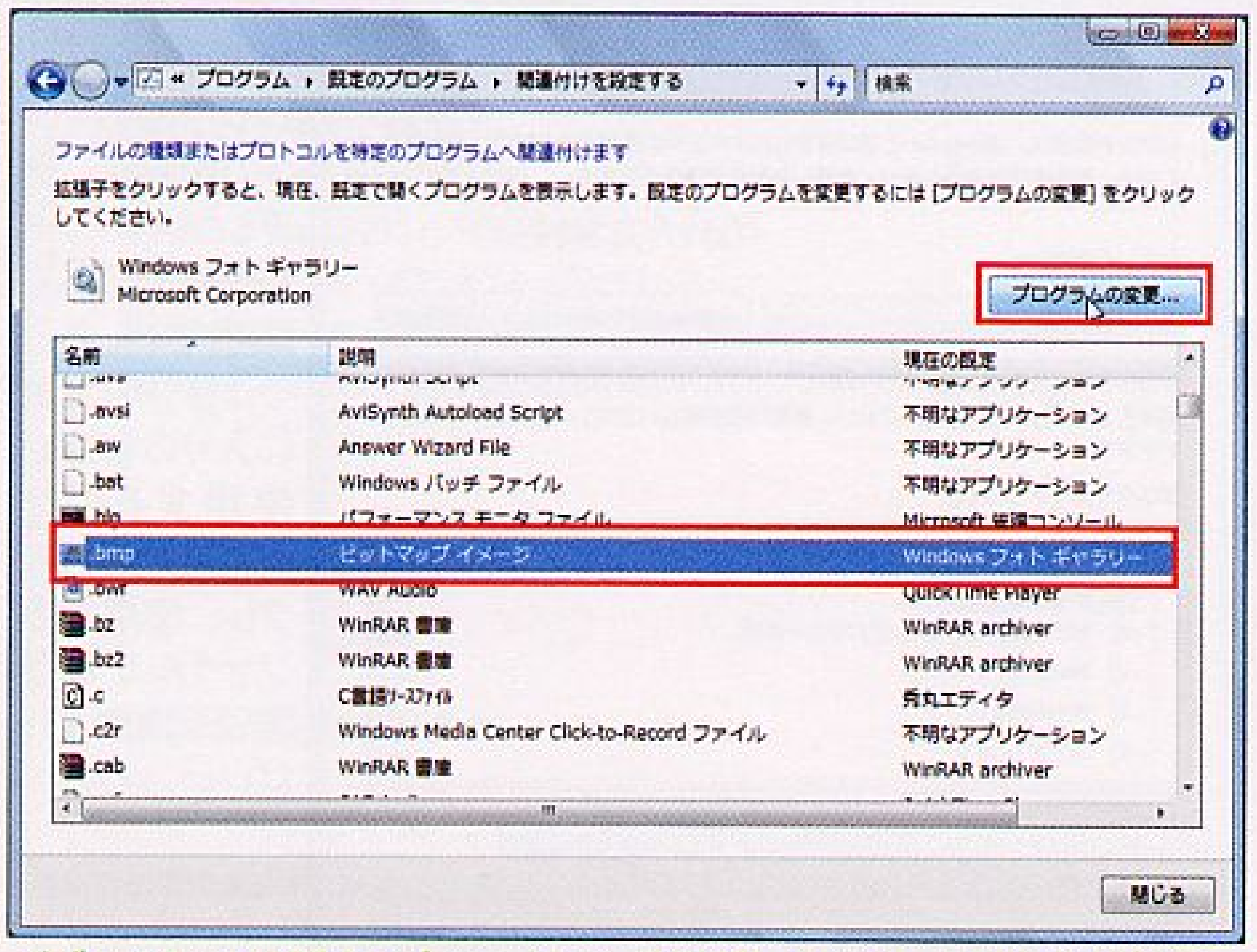
パソコンに保存している音楽ファイル、画像ファイル、動画ファイルなどを開くとき、ファイル形式によっては、標準設定と異なるアプリケーションで開きたいときがある。例えば、「JPEG」形式はWindowsフォトギャラリーで画像修正できるので、そのままで構わないが、「BMP」形式はWindowsフォトギャラリーでは修正できないので、ペイントで開きたい、といった場合だ。そんなときは拡張子ごとに、ダブルクリックで開くアプリケーションを設定しなおそう。2通りの方法があるので好きなほうを選んで行なえばいい。

拡張子から関連付ける

1 「既定のプログラム」を開く

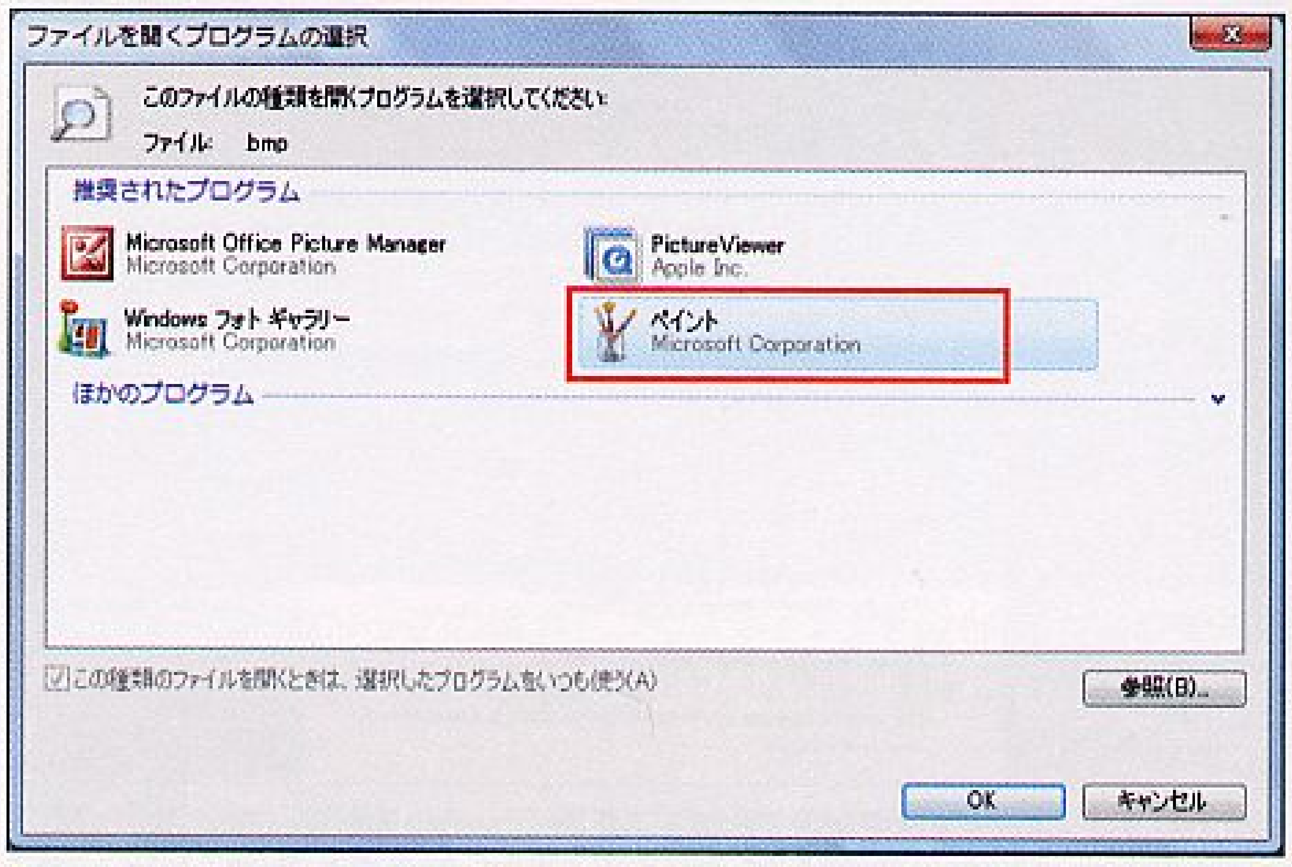
「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「プログラム」をクリックし、「既定のプログラム」項目の「あるファイルの種類を特定のプログラムで開く」をクリックする

2 関連付けを変更したい拡張子を選択する



ダブルクリックで開くアプリケーションを変更したいファイル形式を選択し、「プログラムの変更」をクリック。ここではWindowsフォトギャラリーに関連付けられている「.bmp」を選択した

3 関連付けるアプリケーションを選択する



「.bmp」ファイルを開くときに使いたいアプリケーションを「推奨されたプログラム」から選択する。ここになければ「参照」をクリックして開きたいアプリケーションを選択しよう。「OK」をクリックすれば変更が反映される

変更したいファイルから関連付ける

関連付けを変更したい形式のファイルを選択して右クリックし、「プログラムから開く」→「既定のプログラムの選択」をクリックする。あとは3の手順と同様にプログラムを選択し、「この種類のファイルを開くときは、選択したプログラムをいつも使う」にチェックを入れて「OK」をクリックする

ワンポイント 関連付けが変わってしまったら

関連付けは、ソフトウェアのインストール時に自動で実行されることが多い。自分が意図しない関連付けになってしまったときは、この方法で関連付けを元に戻そう。

難易度 易

電源オプションを変更してバッテリーを長持ちさせる

快適指数

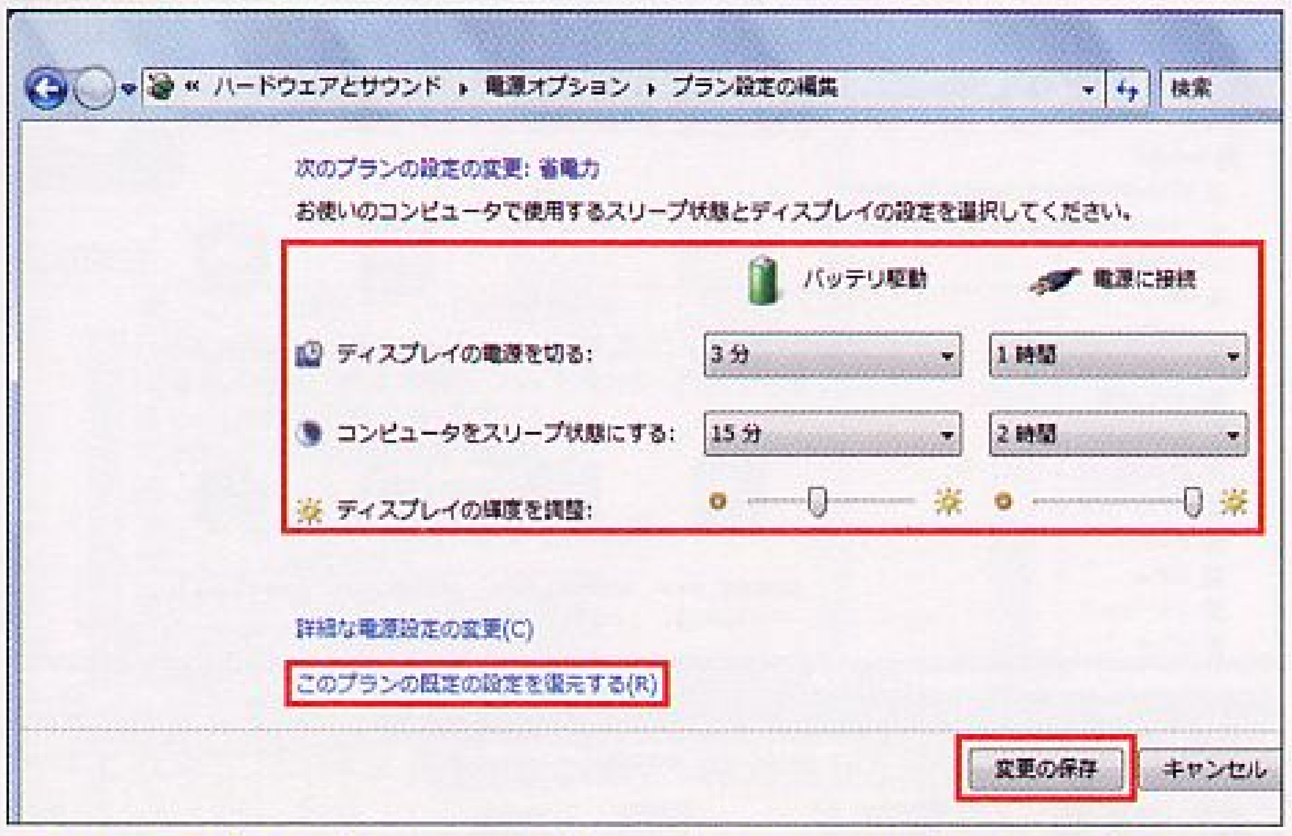
効果 ●ノートパソコンのバッテリーを長持ちさせる
●使用環境に応じた電源プランを設定できる

外出先でノートパソコンを使用する際、悩みの種になるのはバッテリーの持続時間だが、Vistaではバッテリーを長持ちさせるための省電力プランが既定で設定されている。このプランは、タスクトレイの「バッテリ」アイコンから簡単に起動でき、環境に応じてすぐにプランを切り替えられる。バッテリーで駆動しているときは「省電力」プラン、電源ケーブル使用時は「バランス」または「高パフォーマンス」など、用途に応じて使い分けよう。また、既定のプランをカスタマイズし、保存しておくことも可能だ。

1 通知領域の「バッテリアイコン」をクリックする

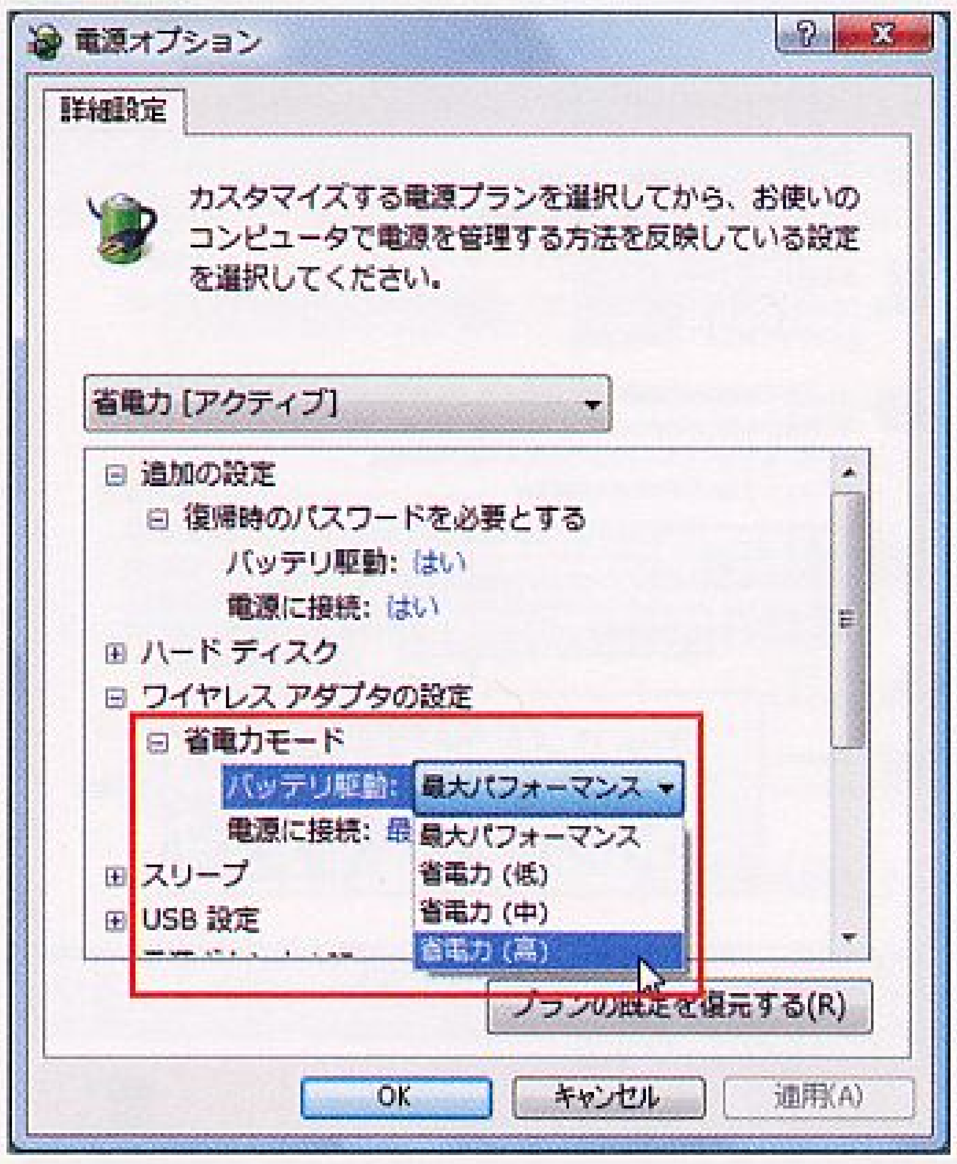
バッテリーの残量を表示する「バッテリ」アイコンは、ノートパソコンでのみ表示されるアイコン。通知領域の「バッテリ」アイコンをクリックし、電源プランを「省電力」に変更する。「省電力」はシステム パフォーマンスを低下させ、消費電力を節約しバッテリ寿命を延ばすプランだ

2 プランの設定をカスタマイズする



1の画面で「その他の電源オプション」をクリックし、「電源オプション」を開く。「省電力」プランの「プラン設定の変更」をクリック。ディスプレイの電源を切るまでの時間、スリープ状態にするまでの時間、ディスプレイの輝度を変更できる。変更した設定は「変更の保存」をクリックし、保存しよう。元に戻すには、「このプランの既定の設定を復元する」をクリックする

3 さらに詳細な設定を行なう



2の画面で「詳細な電源設定の変更」をクリックすれば、無線LANや、インデックス作成のパフォーマンスなどを、それぞれに細かく設定することができる

もっと快適!!テクニック ノートパソコンのための設定が一元化されたモビリティセンター

ノートパソコンだけにある「Windowsモビリティセンター」機能は、ノートパソコンでよく使用すると思われる設定を一元化したもの。ディスプレイの明るさ、スピーカー音量、ワイヤレスネットワーク接続の状態、ファイルの同期、プレゼンテーション設定などを、いちいちそれぞれのシステム設定からアクセスすることなく調整できる。

周辺機器やハードウェア、ドライバの有無で表示されない項目もある

ワンポイント メーカー既定のメニュー
パソコンメーカーによっては、モビリティセンターや電源プランにオリジナルの項目が表示されることがある。その場合、メーカーサイトで詳細を調べ、そちらを利用してもいい。

難易度 易

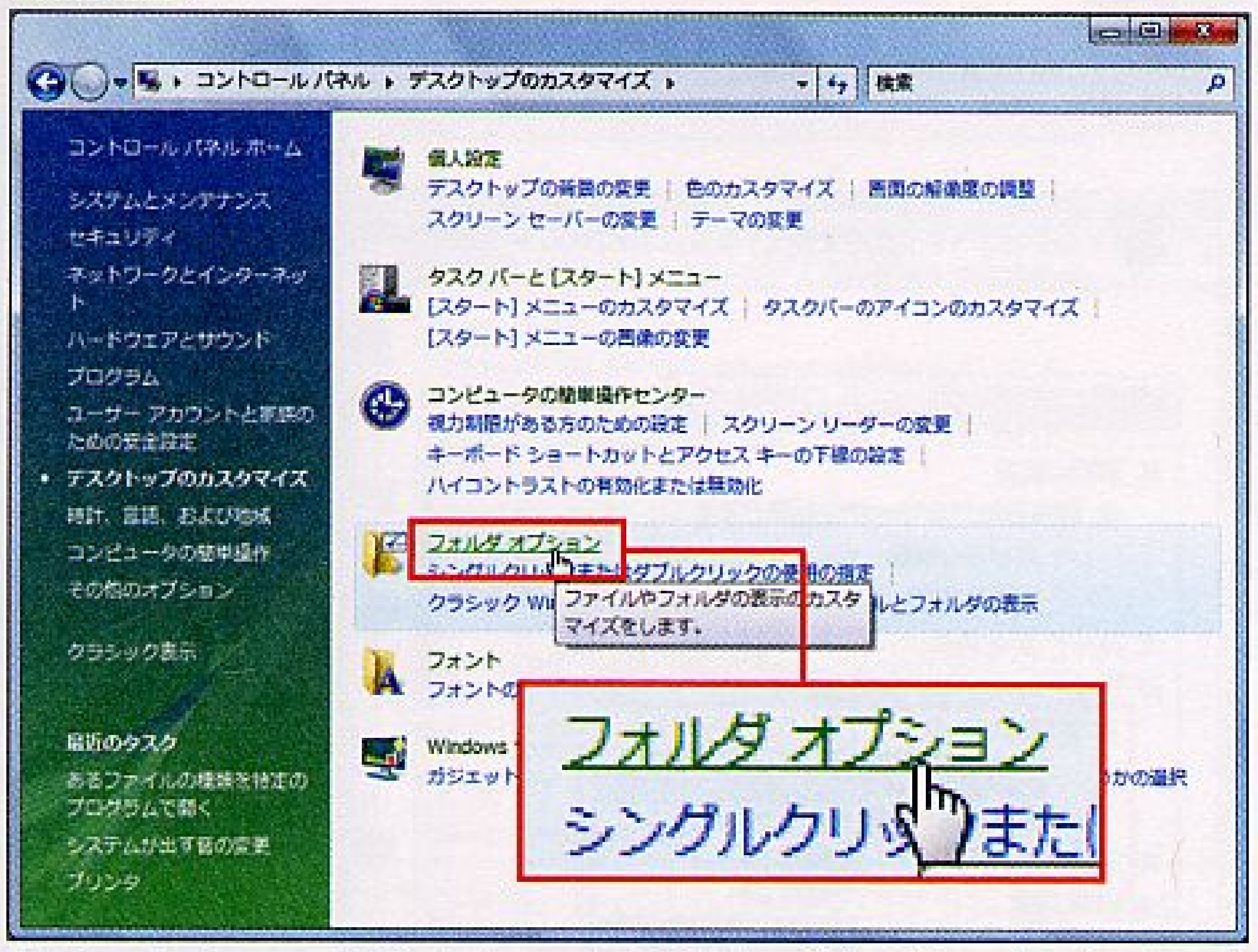
フォルダの表示方法を変更して作業効率をアップする

快適指数

効果
●細かくフォルダやファイルの表示設定を行なえる
●従来のWindows風の表示に切り替え可能

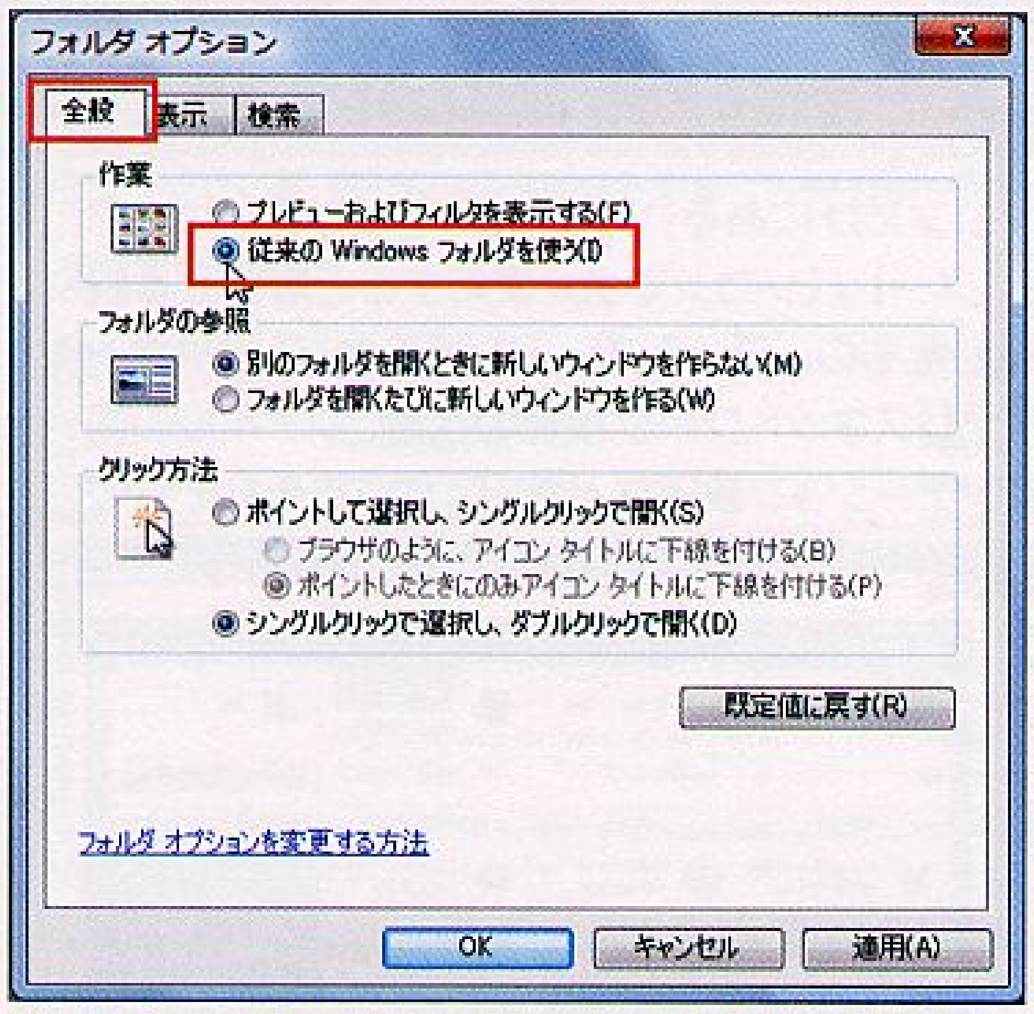
初期設定の状態ではメニューバーが表示されず、フォルダ内のファイル操作やファイルの表示設定などが大幅に変更されたVista。従来のWindowsユーザーなら一度は違和感を覚えたことがあるはずだ。このフォルダ表示はフォルダオプションの設定を変更することで、従来のWindowsのようなフォルダ表示と操作感を得ることができる。また、隠しファイルや拡張子の表示設定などもフォルダオプションから設定が可能。ファイルやフォルダ操作を自分仕様にしたいなら、変更方法をマスターしておこう。

1 「フォルダオプション」を開く



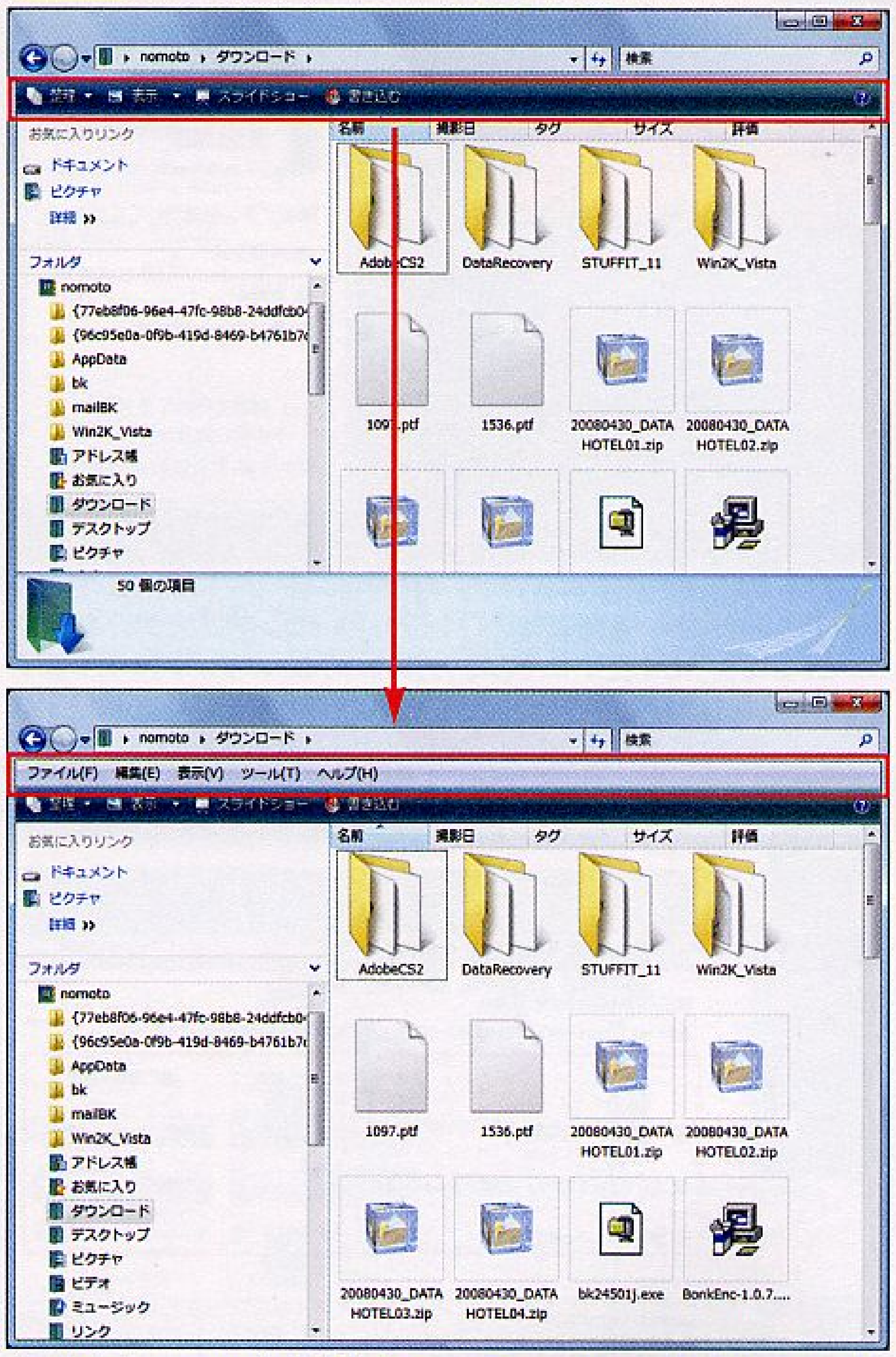
「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「デスクトップのカスタマイズ」→「フォルダオプション」をクリックする

2 メニューバーを表示させる



「全般」タブの「従来のWindowsフォルダを使う」を選択し、「OK」をクリックする

3 使い慣れたメニューバーのあるフォルダ表示に変更された

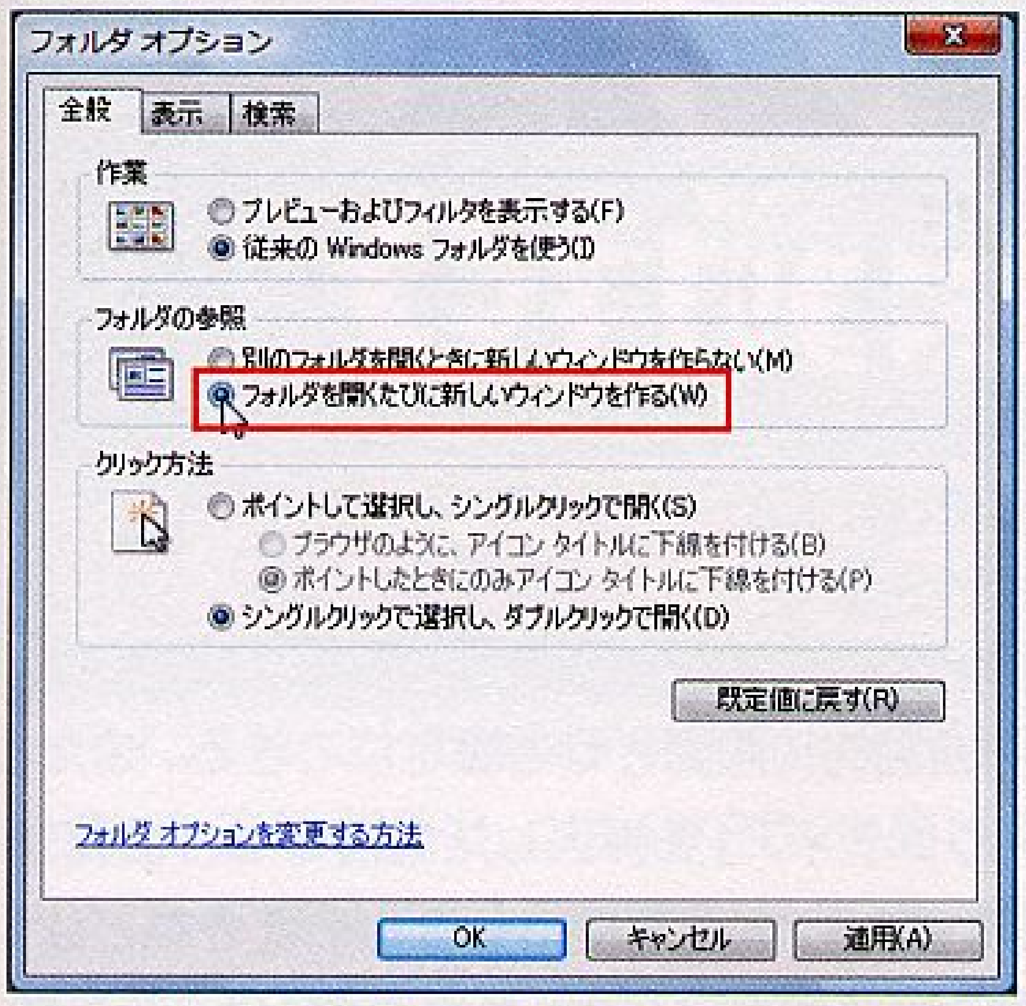


上の画面はVistaの初期設定表示。下の画面は2の操作でフォルダ内にメニューバーを表示させた状態。Windowsを長年利用してきたユーザーなら慣れ親しんだ画面だ

ワンポイント フォルダツリーはどこにある?

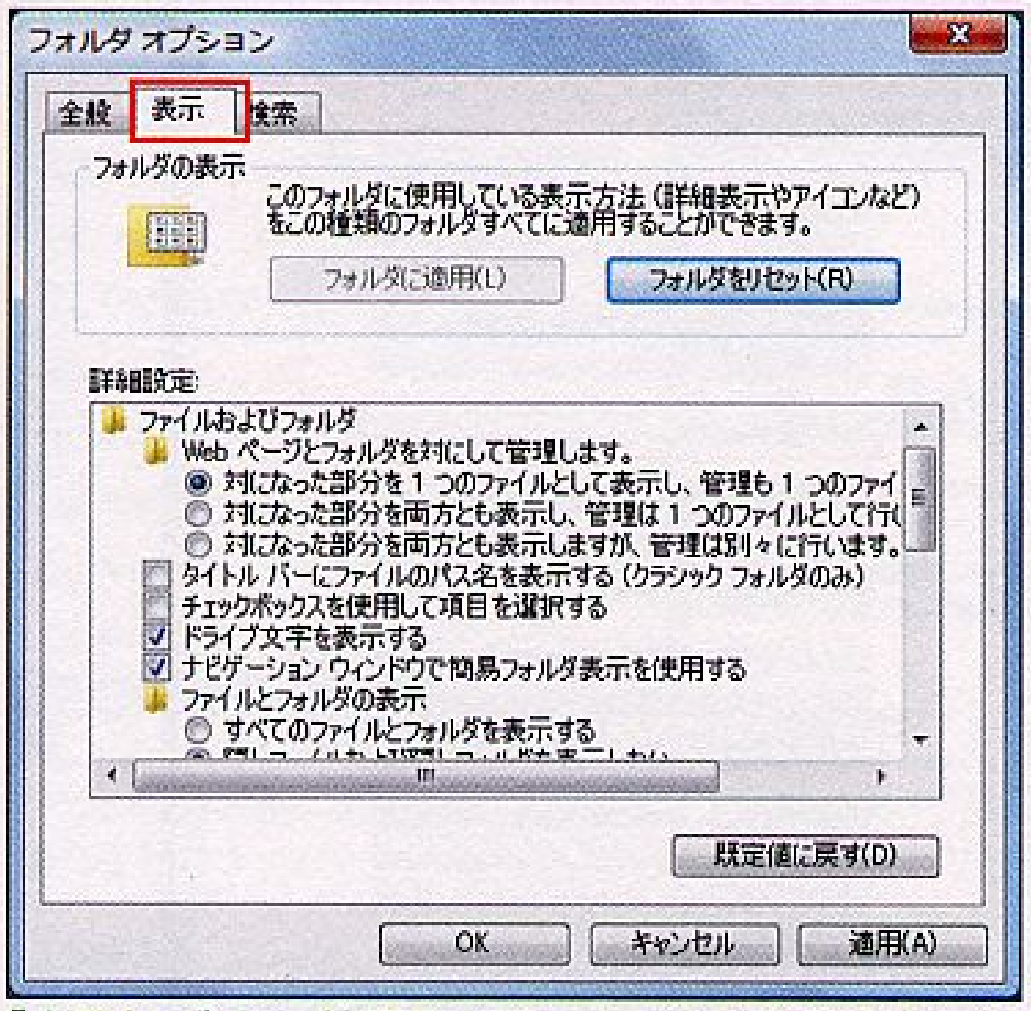
以前のエクスプローラには、フォルダ間の移動に便利なフォルダツリーがあった。Vistaでは各フォルダのナビゲーションウィンドウ下部にある「フォルダ」をクリックすると、フォルダの一覧を表示することができる。

4 フォルダの開き方を変更する



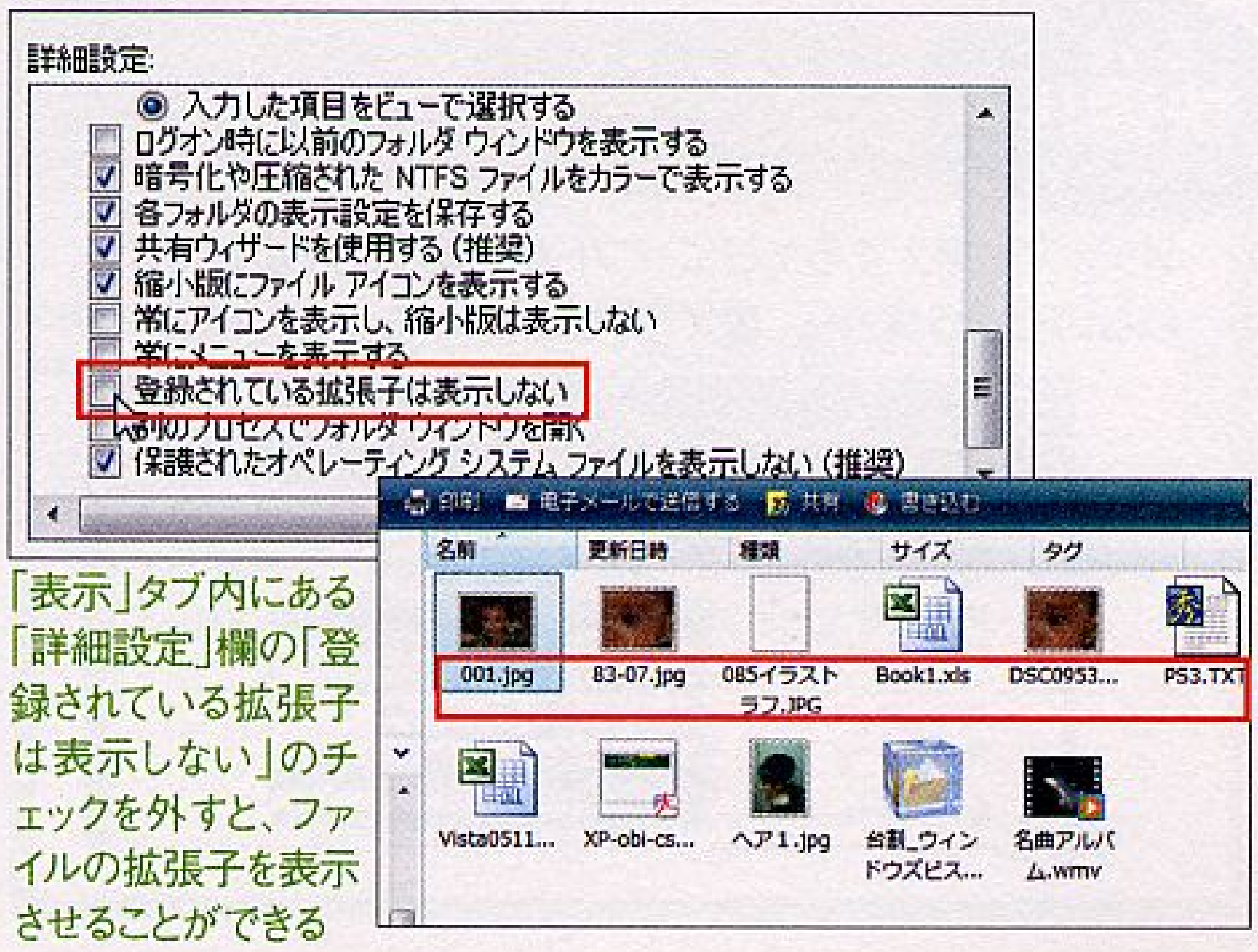
フォルダ内にある別のフォルダを開くとき、初期設定ではウィンドウが切り替わる設定になっている。新しいウィンドウで開きたい場合は「全般」タブの「フォルダの参照」項目で「フォルダを開くたびに新しいウィンドウを作る」を選択しよう

5 「表示」タブを開く



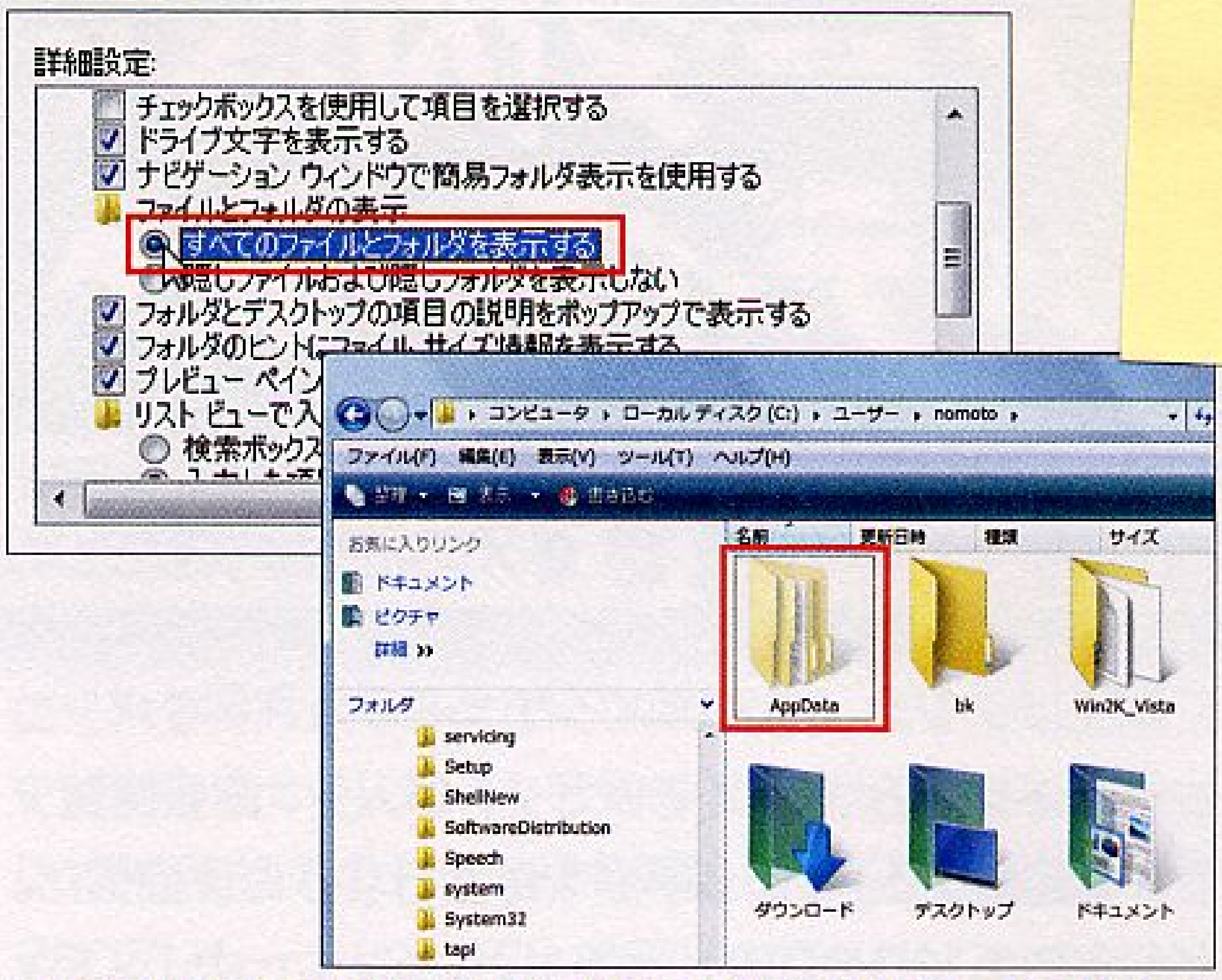
「表示」タブでは、拡張子や隠しファイルの表示設定など、ファイルやフォルダの表示に関する詳細設定をすることができる。それぞれ「詳細設定」欄にあるチェックボックスで設定を変更することが可能

6 ファイルの拡張子を表示させる



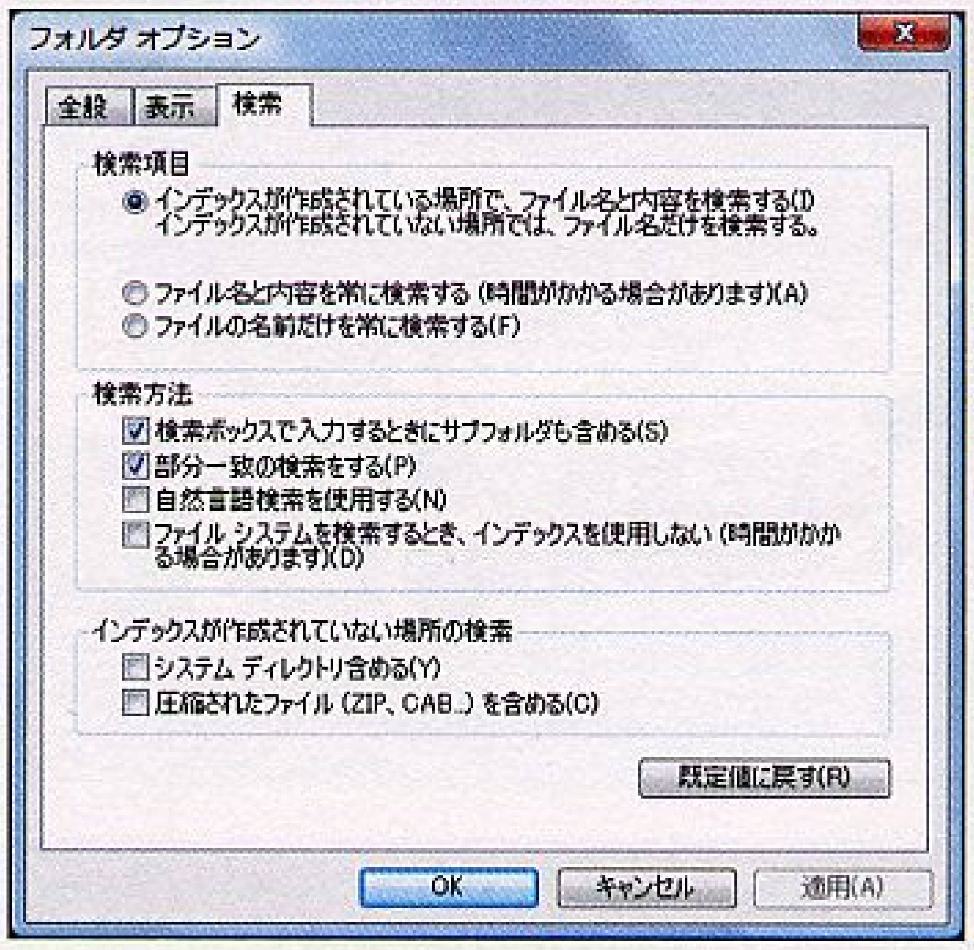
「表示」タブ内にある「詳細設定」欄の「登録されている拡張子は表示しない」のチェックを外すと、ファイルの拡張子を表示させることができる

7 隠しファイルを表示させる



変更するとシステムに障害を及ぼすような可能性があるファイルは隠しファイルになっている。この隠しファイルを表示するには「詳細設定」欄の「すべてのファイルとフォルダを表示する」を選択する。なお、隠しファイルは半透明のアイコンで区別されて表示される

8 ファイルの検索設定も自分仕様にできる

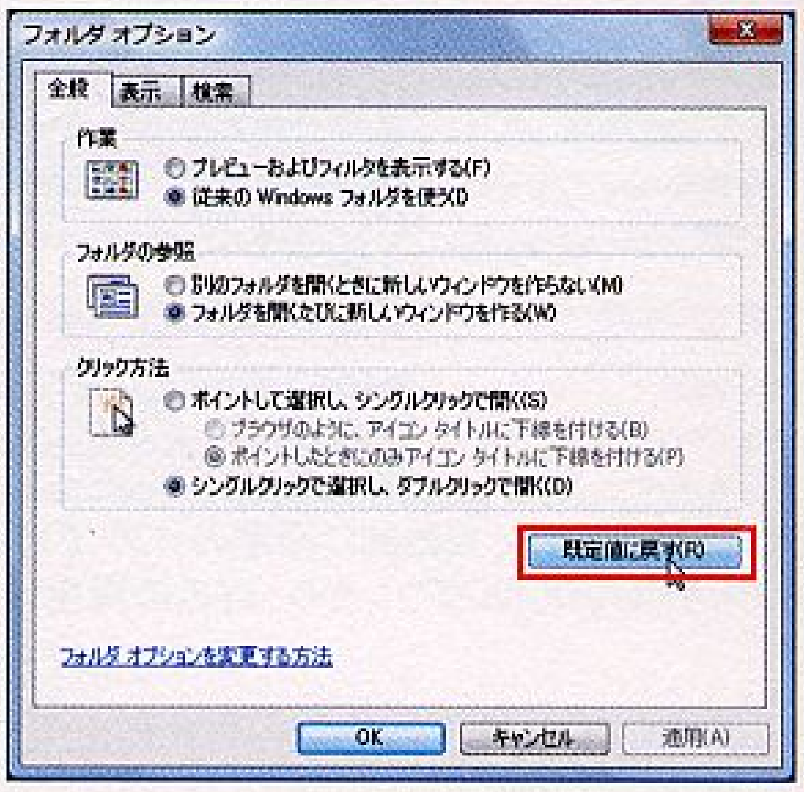


ファイル検索に関する設定は「検索」タブで変更可能。高速検索を可能とするVistaの新機能「インデックス」検索の利用設定もここから行なえる

もっと快適!!テクニック

カスタマイズした設定を初期設定に戻す

カスタマイズしたフォルダオプション設定を元に戻したいときは、「フォルダオプション」の「全般」、「表示」、「検索」タブをそれぞれ開き、「既定値に戻す」をクリックする。そして「OK」ボタンをクリックしてフォルダオプションを閉じれば初期設定の表示に戻すことができる。



ワンポイント
開いたフォルダを保持する

5の「表示」タブの「詳細設定」欄で「ログオン時に以前のフォルダウィンドウを表示する」にチェックを入れると、前回シャットダウンしたときに使用していたフォルダを次回起動時に自動的に開くことができる。

難易度 普

データ内容に合ったソフトをメディア挿入時に自動起動

快適指数

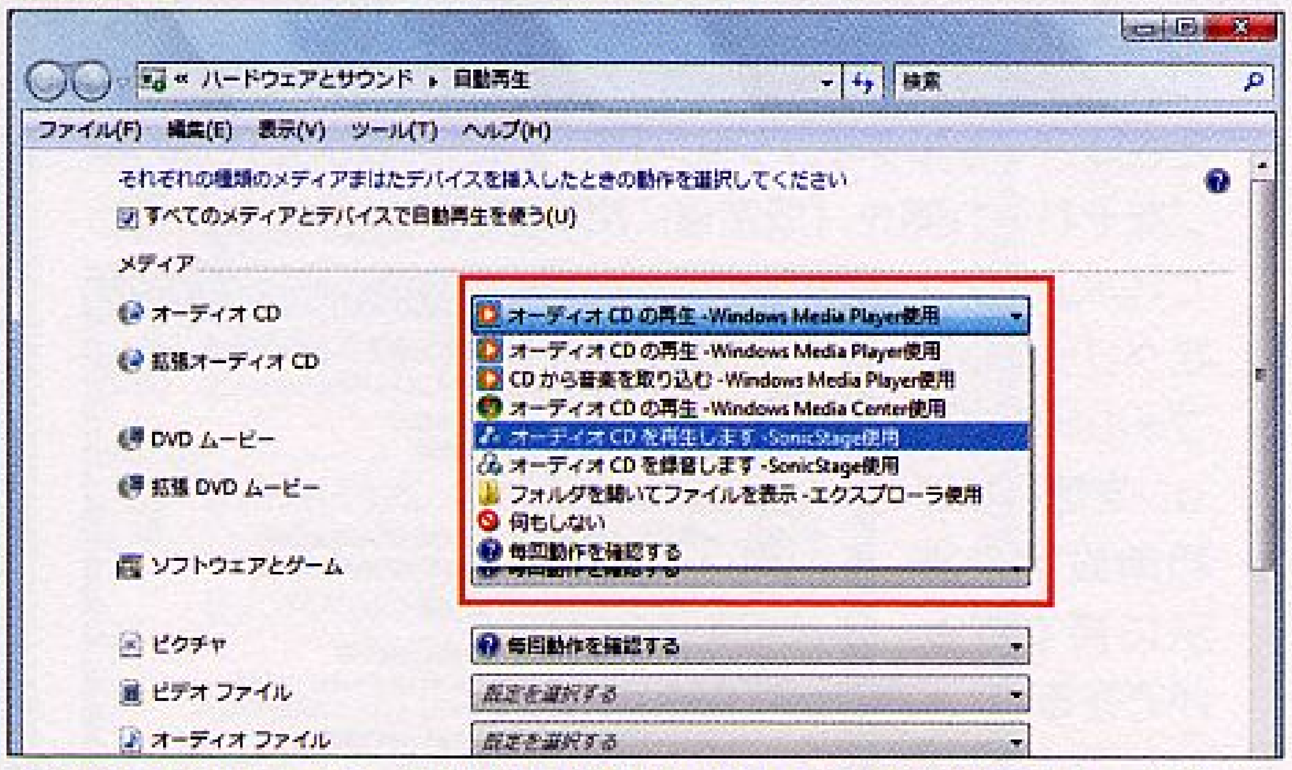
効果
- ●メディアを挿入するだけで最適なソフトが起動する
- ●メディアの内容ごとにプログラムを指定できる

例えばデジカメ写真の入ったメモリカードをパソコンで読み込むとき、「メモリカード挿入後、画像閲覧ソフトを起動する」という手順を毎回行なうのは面倒だ。Vistaでは、CDやDVD・メモリカードといった「メディア」を挿入したときに、そのメディアの内容に応じて最適なソフトを自動的に起動させる設定にできる。また、同じ「画像入りメディア」を挿入した場合でも、「閲覧ソフト」と「編集ソフト」などを使い分けたいときなどは、メディアを挿入するたびにソフトを選択するように設定することも可能だ。

1 「コントロールパネル」を開く

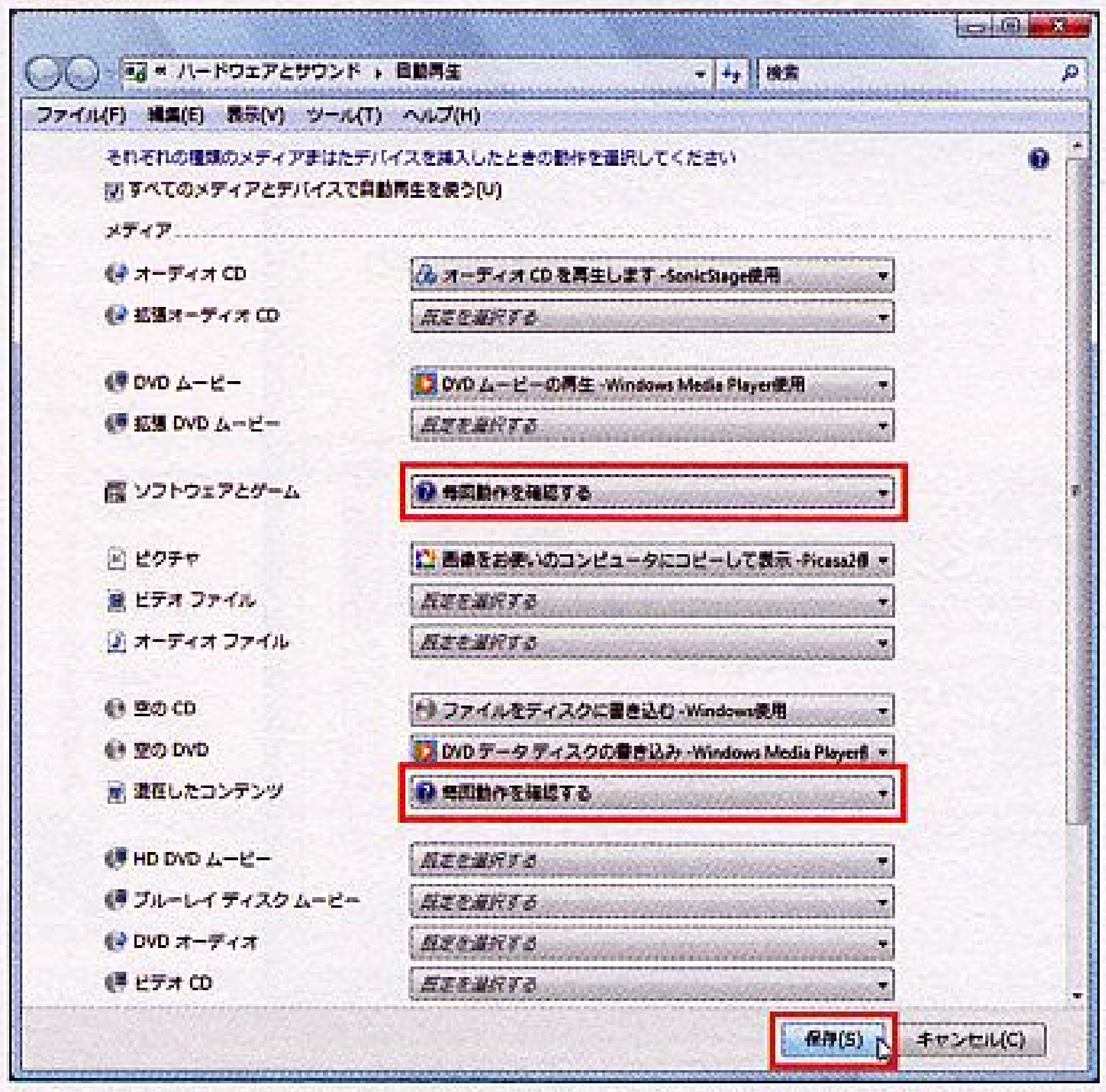
「スタート」メニューの「コントロールパネル」をクリック。「ハードウェアとサウンド」の「CDまたは他のメディアの自動再生」をクリックする

2 自動再生の設定を他のソフトに変更する



音楽CDを挿入したら、自動的に指定のソフトで音楽を再生したい場合は、「オーディオCD」のプルダウンから、好みの再生ソフトを選択すればいい

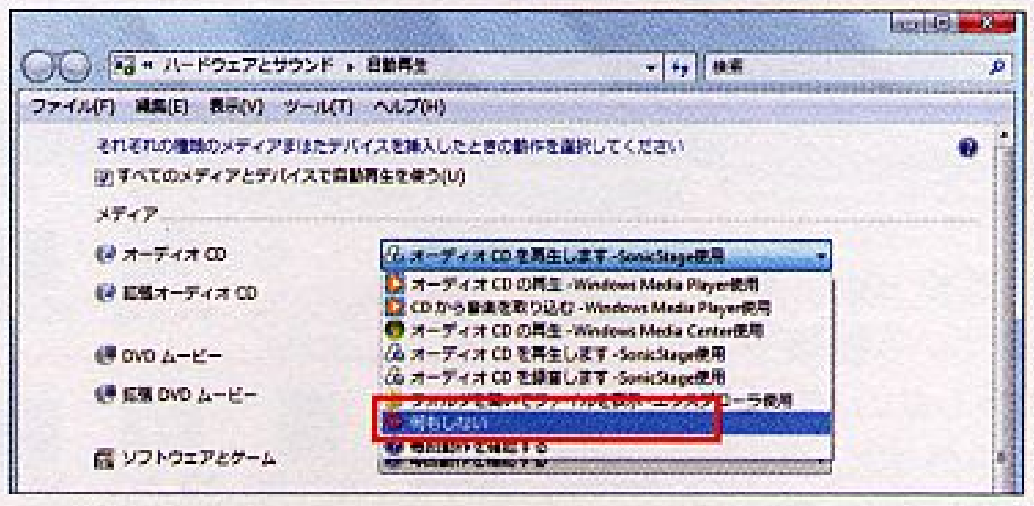
3 再生ソフトを毎回確認する設定にする



メディアを挿入したとき、常に既定のソフトが自動起動するのではなく、その度に好きなソフトを選択したいのであれば、「毎回動作を確認する」を選択しよう。同様に、DVDムービーメディアを挿入したとき、空のCD/DVDを挿入したときなど個別に設定してみよう。また、すべて終わったら「保存」をクリックすること

もっと快適!!テクニック メディア挿入時のソフト自動再生をオフにする

メディアを挿入するたびにソフトが自動起動をするのは煩わしいという場合は、2で「何もしない」を選択しよう。



ワンポイント 自動再生を一時的に停止する

「このディスクは自動再生したくない」などと一時的にメディアの自動再生を停止させたいときは、「Shift」キーを押しながらメディアを挿入すれば自動再生されることはない。

難易度 普

Officeなしでも閲覧できるようOfficeファイルを変換する

快適指数

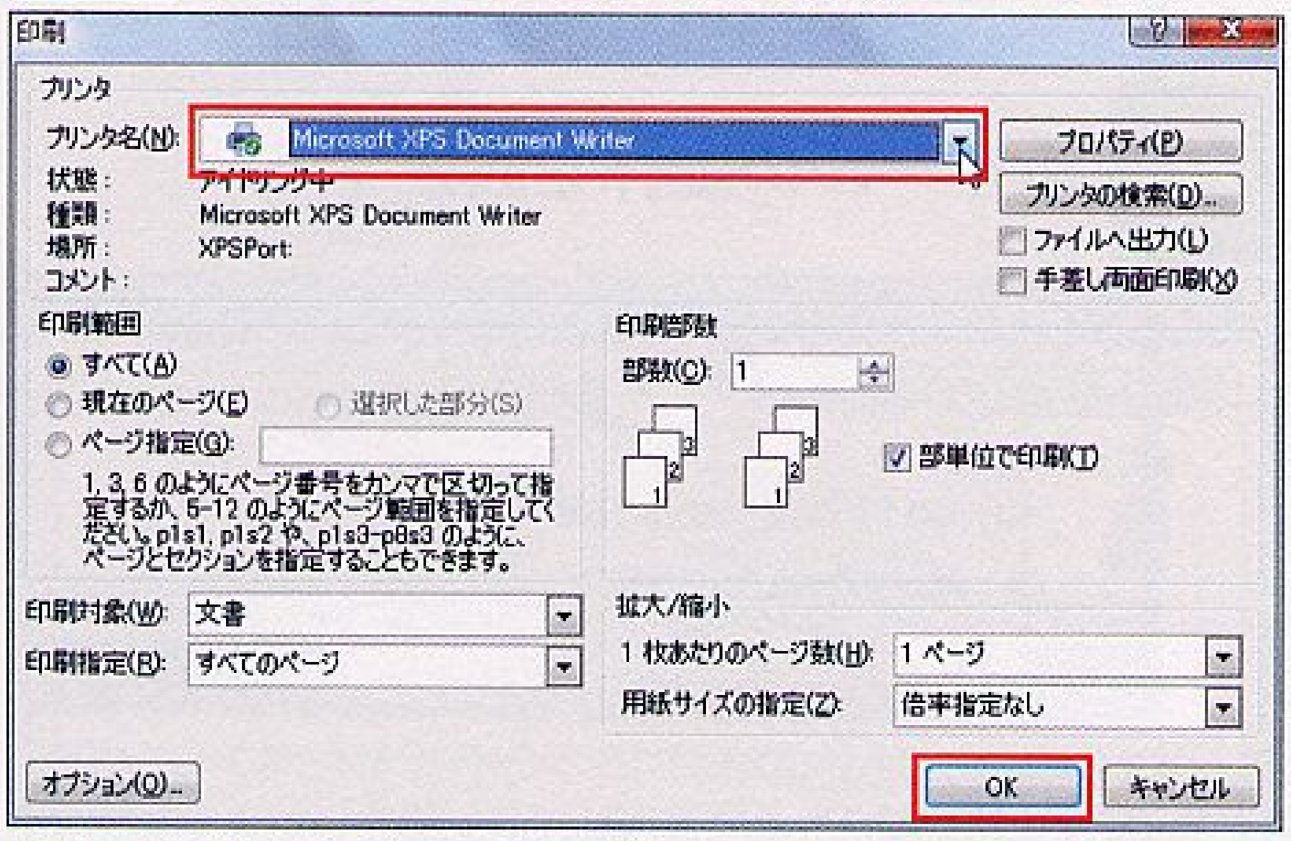
効果 ●相手の環境を気にせずにOfficeファイルをメールに添付できる
●どんなファイルもXPSに変換できる

マイクロソフトの提唱する新しい配布用ファイルフォーマットであるXPS。XPSはPDFと同じように、フリーソフトで閲覧できるデータファイルだ。例えばOfficeで作成したファイルをメールに添付したい場合、従来なら相手がOfficeをインストールしていなければそのファイルを閲覧することができなかった。しかし、XPSファイルならそうしたことを気にする必要はない。VistaはXPS変換用のドライバを搭載しており、印刷ができるアプリケーションソフトのデータであればすべてXPSに変換することができる。

1 ファイルを印刷する操作を行なう

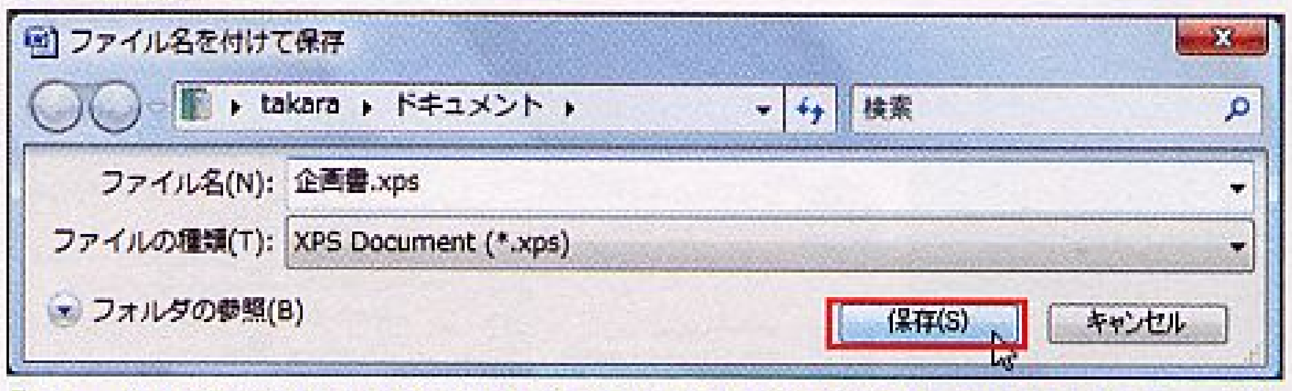
ファイルをXPSに変換するには、そのファイルを開いて通常の印刷をする操作を行なう

2 プリンタの選択で「XPS Document Writer」を選ぶ



プリンタの選択で、Vistaにあらかじめインストールされている「Microsoft XPS Document Writer」を選択。「OK」をクリックする

3 ファイル名を入力して変換開始



「ファイル名を付けて保存」ダイアログが表示されるので、「ファイル名」に適当なファイル名を入力し、「保存」をクリックする

4 Vistaでの閲覧方法とXPでの閲覧方法

VistaならXPSファイルをダブルクリックするだけで、Internet Explorerを使って閲覧できる。「Windows XP」と「Windows Server 2003」では「http://www.microsoft.com/japan/whdc/xps/viewxps.mspx」から必要なソフトをダウンロードすればIEで閲覧できるようになる

注意 XPSの動作環境

XPSファイルは専用のソフトで表示できるが、その動作環境はWindows XP以降だけだ。Macはもちろん、WindowsでもｰでもMeではXPSファイルを表示できないので要注意。

難易度 普

マウス機能をカスタマイズしてすばやく快適に操作する

快適指数

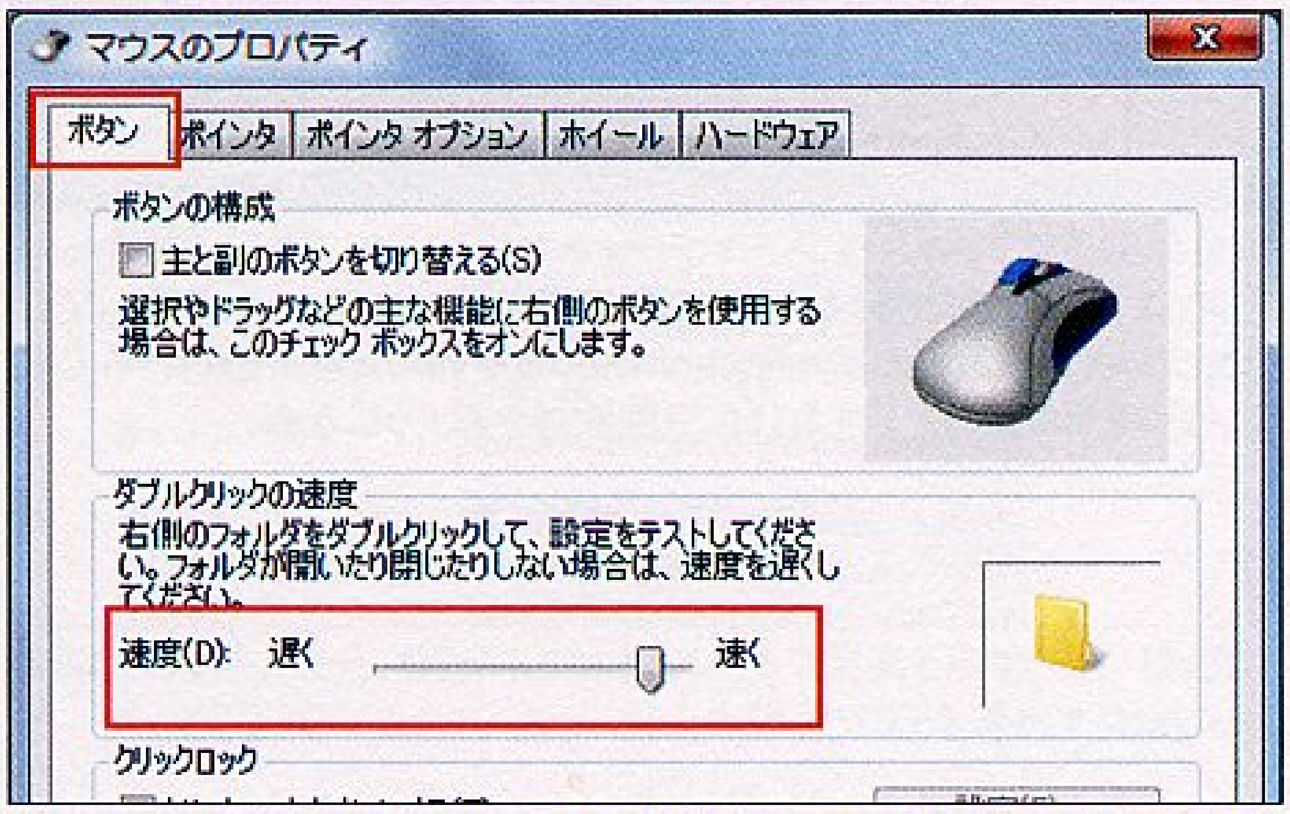
効果
- ●マウスポインタを見やすくできる
- ●マウスのクリックや移動設定を自分仕様にでき操作が楽になる

Windowsの操作は、マウスを操作している時間が非常に長い。つまり、マウス操作を快適化すれば、Windowsの操作全般を快適にすることにつながるのだ。例えばマウスのダブルクリックが頻繁に失敗する場合には、2回目のクリックのタイミングが遅すぎることが考えられる。その場合にはダブルクリックの設定を変更すれば、楽にダブルクリックできるようになるのだ。マウスの設定をするには、「コントロールパネル」で「マウス」をクリックする。ここで、タブを切り替えながら各種設定を行なおう。

1 マウスのプロパティを開く

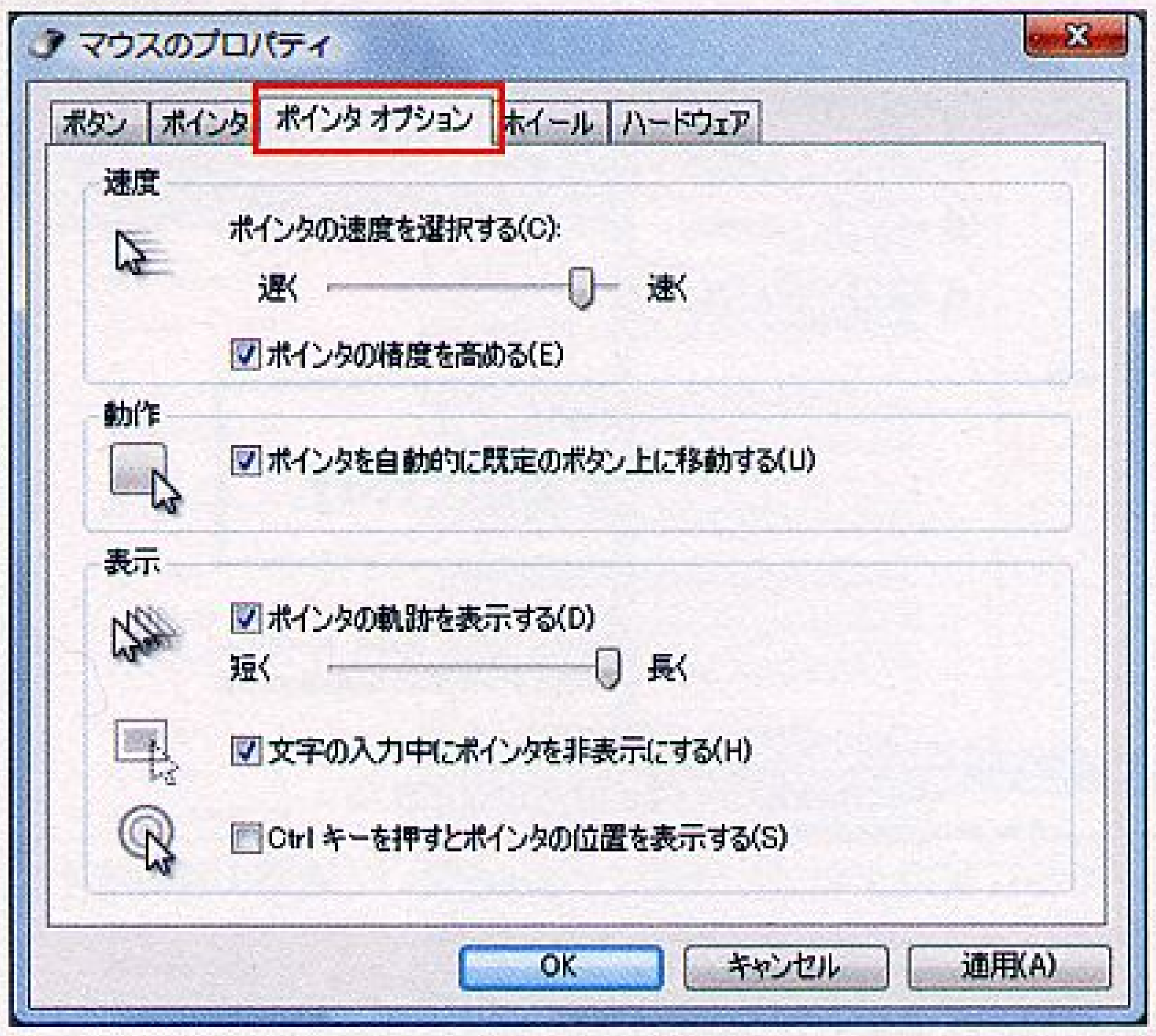
「スタートメニュー」から「コントロールパネル」をクリックし、「ハードウェアとサウンド」項目の「マウス」をクリックする

2 ダブルクリックのタイミングを設定する



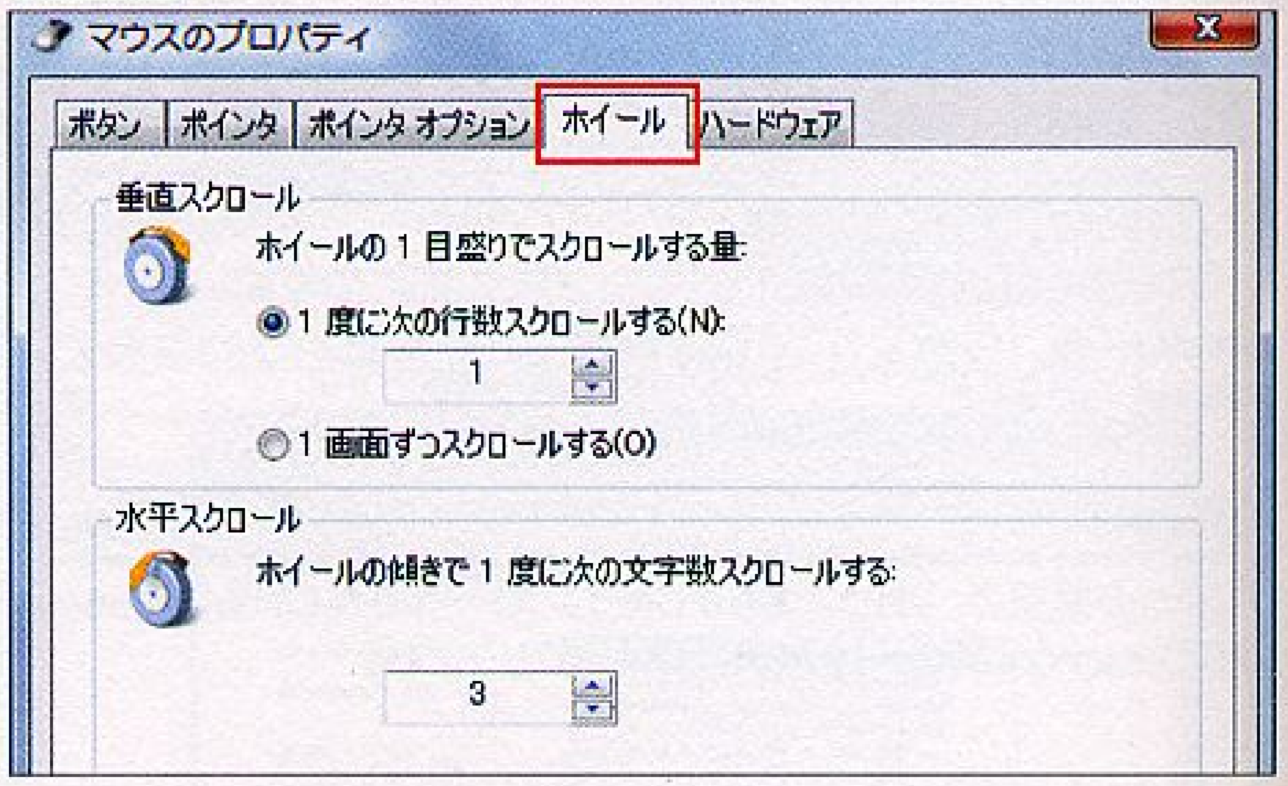
「ボタン」タブで「ダブルクリックの速度」のスライダを「遅く」側に設定すると、ゆっくり2回クリックしてもダブルクリックとみなされるようになる。右側のフォルダアイコンをダブルクリックしてテストしてみよう

3 マウスポインタの動きを設定する



「ポインタオプション」タブをクリック。ポインタ速度を変更したり、「はい」「OK」ボタンなどの上に自動的にジャンプさせたりする設定が行なえる。また、軌跡を表示すれば、動かしている途中に見失いにくい

4 ホイールの動作を設定する



「ホイール」タブではホイールを回転させたとき、何行ずつスクロールさせるかを設定できる。「1画面ずつスクロールする」にチェックを入れれば、ホームページや文書を、ページをめくるような感覚で閲覧できる

ワンポイント ノートパソコンの場合

マウスの代わりに「タッチパッド」を装備したノートパソコンでは、「パッドを叩いてクリック」「四辺をなぞってスクロール」など独自機能を持っていることが多いので、設定ツールを調べてみよう。

難易度 難

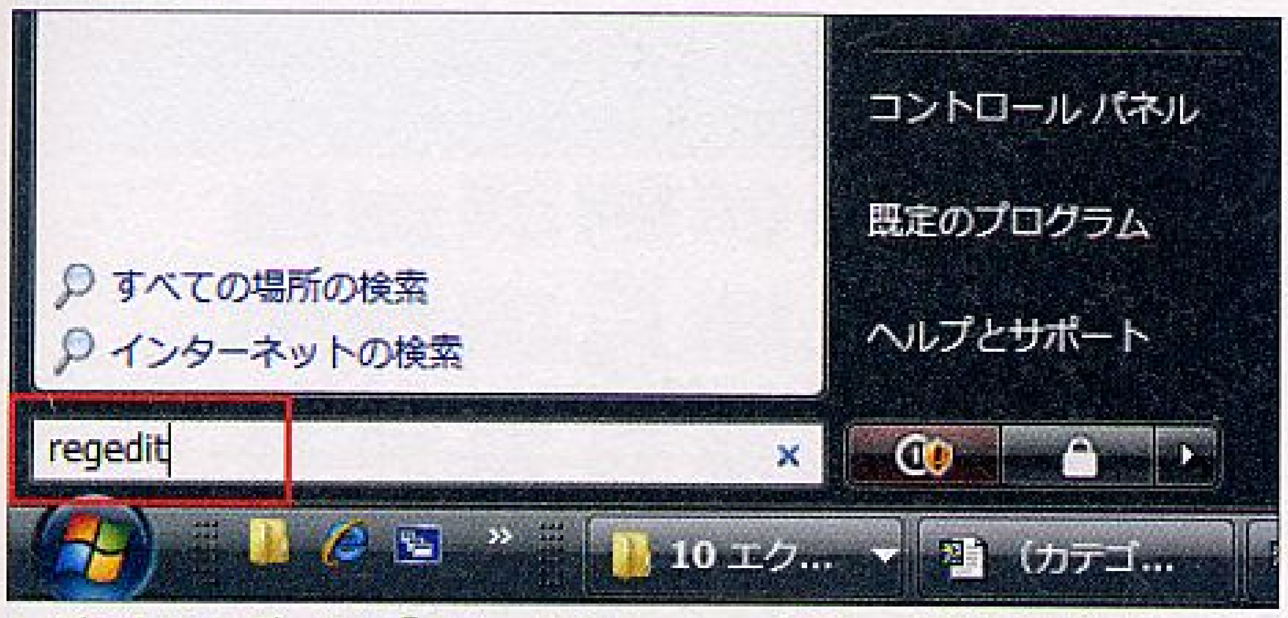
「Ctrl」と「Capslock」キーを入れ替えて入力効率アップ

快適指数

効果 ●通常では入れ替えられないキーの機能を入れ替えられる
●レジストリの使い方が覚えられる

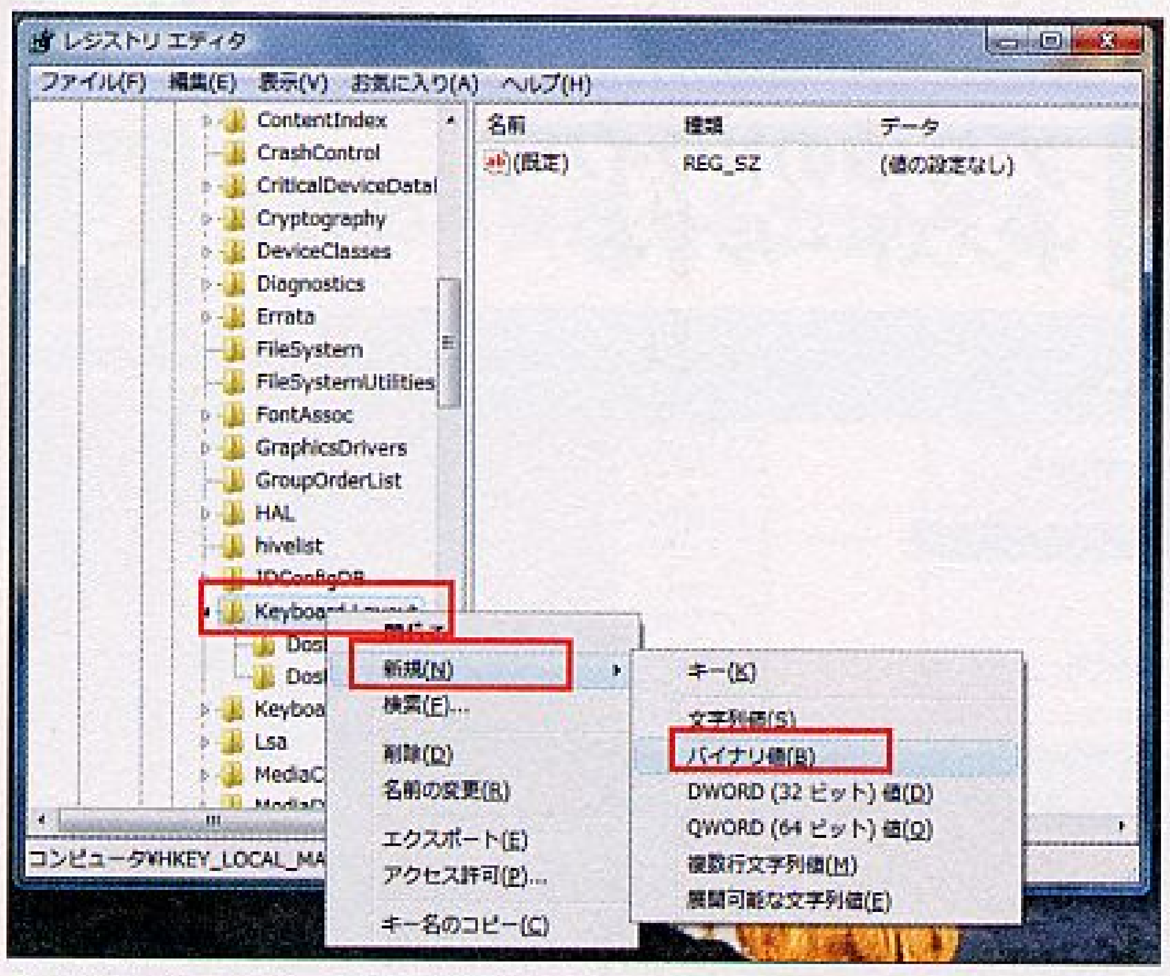
ショートカットキーとしてよく使う「Ctrl」キー。しかし、「Ctrl」キーはキーボードの端にあることが多く、ノートパソコンや省スペースキーボードだと、「Ctrl」キーよりも「CapsLock」キーのほうが大きいこともある。そこで、使いやすいように「Ctrl」と「Capslock」キーを入れ替えてみよう。ただし、キーの入れ替えにはレジストリを編集するため、間違った設定をしてしまうとシステムが不安定になり、最悪の場合はWindowsが起動しなくなることもある。作業前にはシステムの復元ポイントを作成しておくこと（113ページ参照）。

1 レジストリエディタを起動する



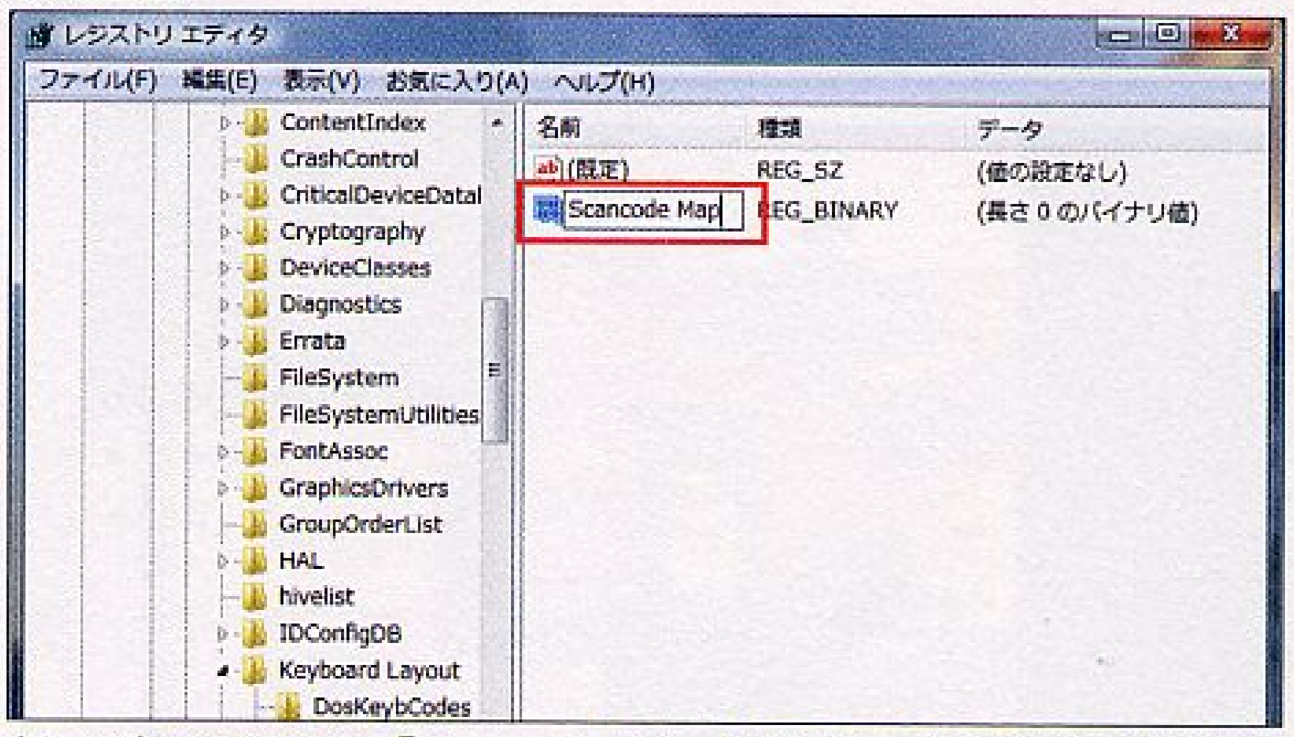
レジストリエディタは「スタート」メニューを開いて「検索ボックス」に「regedit」と入力し、「regedit.exe」をクリックして起動する

2 バイナリ値を新規作成する



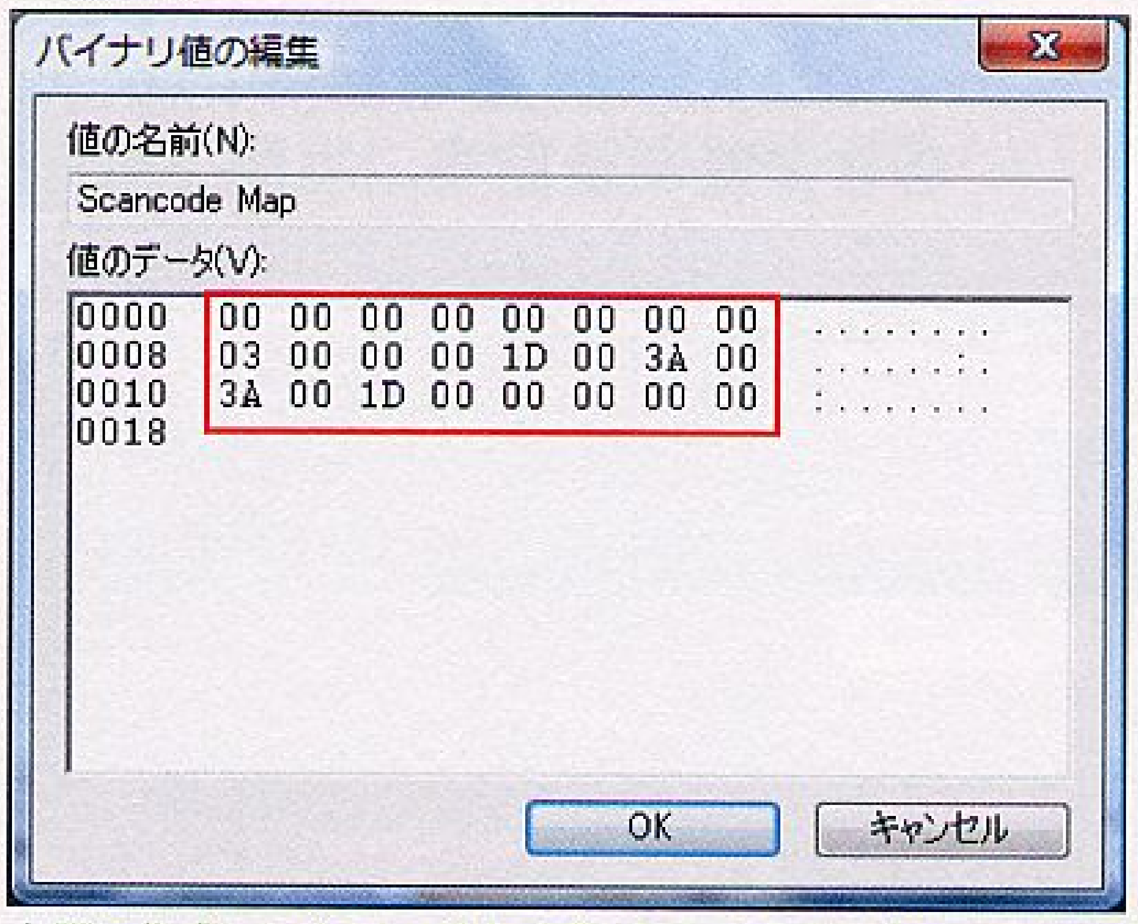
「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Keyboard Layout」を順にクリックして開く。「¥」はキー（フォルダ）→サブキー（サブフォルダ）の境界を示している。「Keyboard Layout」フォルダを右クリックし、「新規」→「バイナリ値」をクリックする。もし、これ以降の手順を間違ってしまった場合、ここで作成したバイナリ値を右クリックして「削除」すれば、元の状態に戻るので覚えておこう

3 新しいバイナリ値の名前を入力する



新しい値ができたら、「Scancode Map」と入力し、新たなバイナリ値を作成する

4 値の数値を入力する



上記で作成したバイナリ値をダブルクリックすると、値のデータを入力するウィンドウが開く。値のデータを上の画面のように
00 00 00 00 00 00 00 00
03 00 00 00 1D 00 3A 00
3A 00 1D 00 00 00 00 00
と入力（左側の4桁の数字は自動表示）し、「OK」をクリック。「ファイル」→「レジストリエディタの終了」をクリックし、再起動すれば「Ctrl」キーと「Capslock」キーが入れ替わっているはずだ

注意 レジストリは危険

レジストリ操作はシステムに関わるような設定が多数あるため、間違った操作をするとトラブルの原因になる。必ず復元ポイントを作成してから操作し、レジストリ変更後に調子が悪くなったらすぐに復元すること。

複数台のパソコンで1台のプリンタを共有する

難易度 普

快適指数

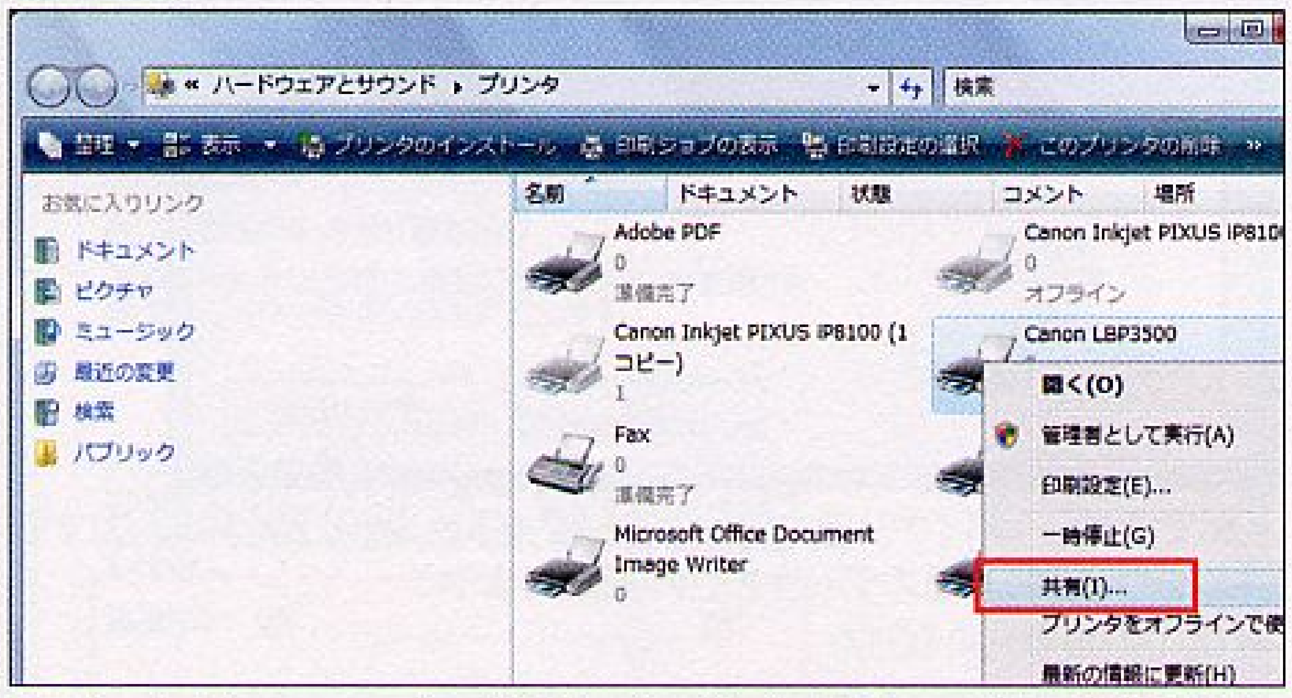
効果
●1台のプリンタを複数のパソコンで使える
●プリンタから離れた場所でも印刷が行なえる

オフィスや家庭で複数のパソコンを有線や無線でネットワーク接続している場合、1台のプリンタをどのパソコンからも使えるように設定できる。つまり、ファイルやフォルダと同様に、プリンタ自体を共有するのだ。この設定を行なっておけば、文書を印刷するためにいちいちプリンタを接続したパソコンにファイルを移動するといった手間が省け、非常に便利になる。ただし、プリンタを共有するためには、それぞれのパソコンに、使用するプリンタのドライバをインストールしなければならない。あらかじめ用意しておこう。

1 プリンタに接続しているパソコンで設定をする

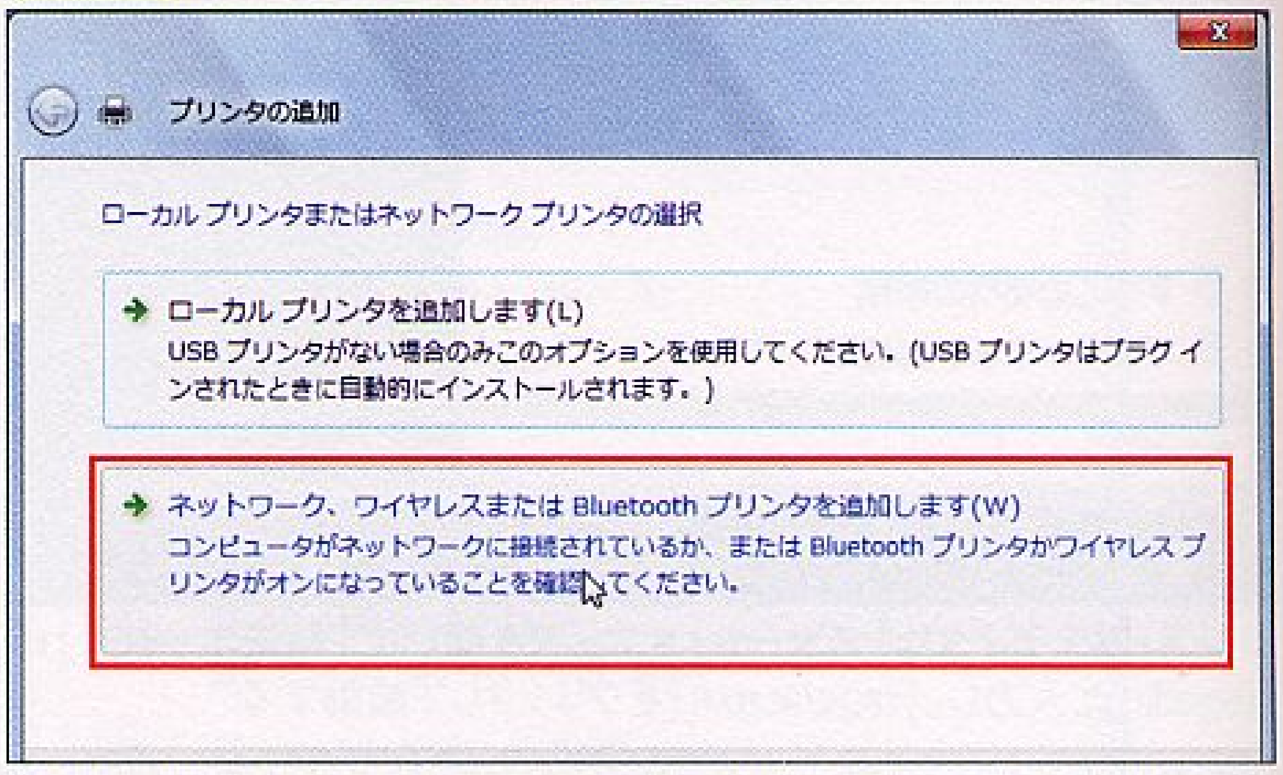
最初にプリンタを直接つなげるパソコンで、共有設定を行なう。「スタート」メニューの「ネットワーク」を右クリックし、「プロパティ」を開く。「ネットワークと共有センター」が開いたら、「プリンタ共有」のプルダウンから「プリンタ共有を有効にする」を選択し、「適用」をクリックする

2 プリンタを共有する



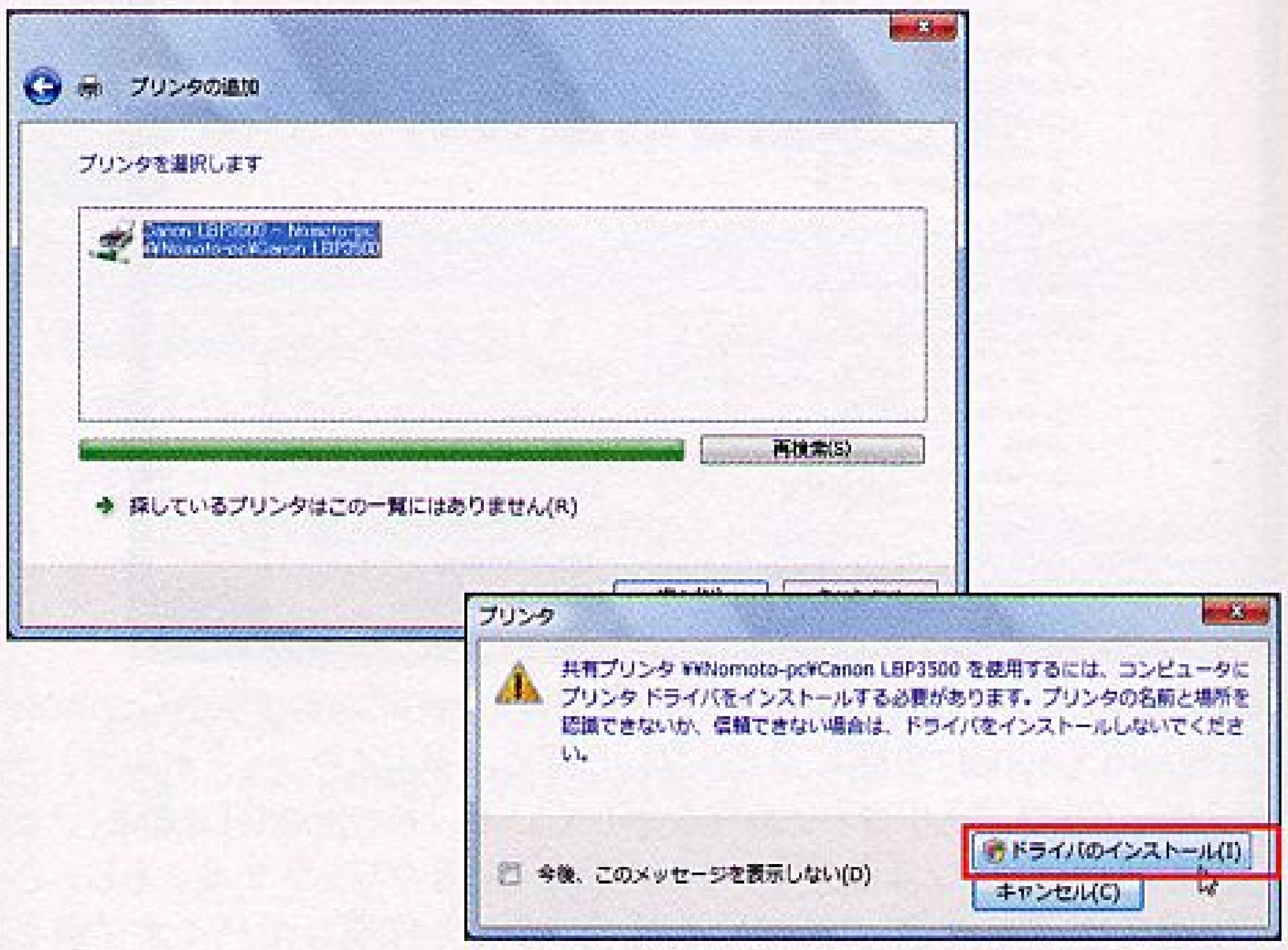
「スタート」メニュー→「コントロールパネル」の「ハードウェアとサウンド」項目の「プリンタ」をクリックするとプリンタの一覧が表示される。共有したいプリンタを右クリックし、「共有」をクリック。「共有」タブでで「このプリンタを共有する」にチェックを入れ「OK」をクリックする

3 プリンタを共有したいパソコンにプリンタを追加する



今度はプリンタを共有したいパソコンで設定を行なう。「スタート」メニュー→「コントロールパネル」の「ハードウェアとサウンド」項目の「プリンタ」をクリック。「プリンタのインストール」をクリックしてこの画面が表示されたら「ネットワーク、ワイヤレス～」をクリックする

4 プリンタのドライバをインストールする



ネットワーク内にあるプリンタの一覧が表示されるので、使いたいプリンタを選択して「次へ」をクリック。次の画面で「ドライバのインストール」を求められるので、ウィザードに従いドライバをインストールすれば完了だ

注意 共有プリンタ使用時の注意

共有プリンタを使うとき、プリンタを直接つないでいるパソコンの電源が入っている状態でないと、他のパソコンからはプリンタを使うことができない。当然プリンタの電源もオンになっていること。

難易度 普

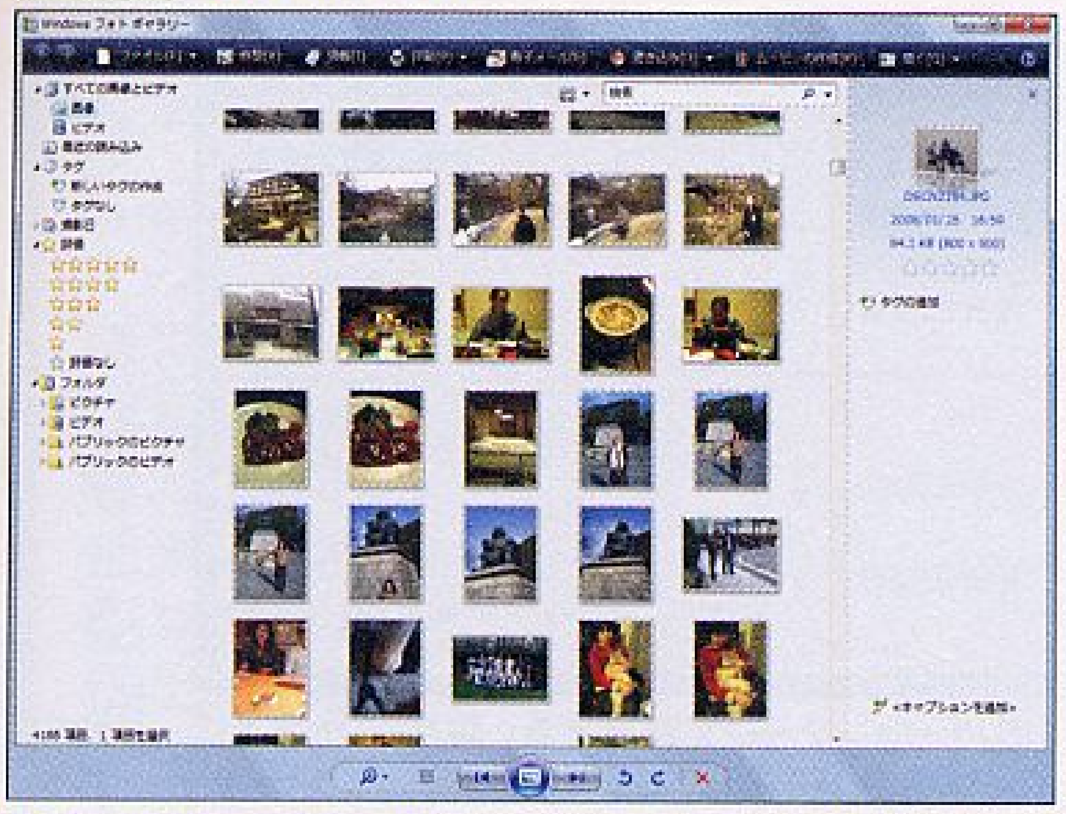
Windowsフォトギャラリーでデジカメ写真の修整をする

快適指数

効果
●画像のトリミング、露出調整が行なえる
●画像に加えた修整をすぐに元の状態に戻せる

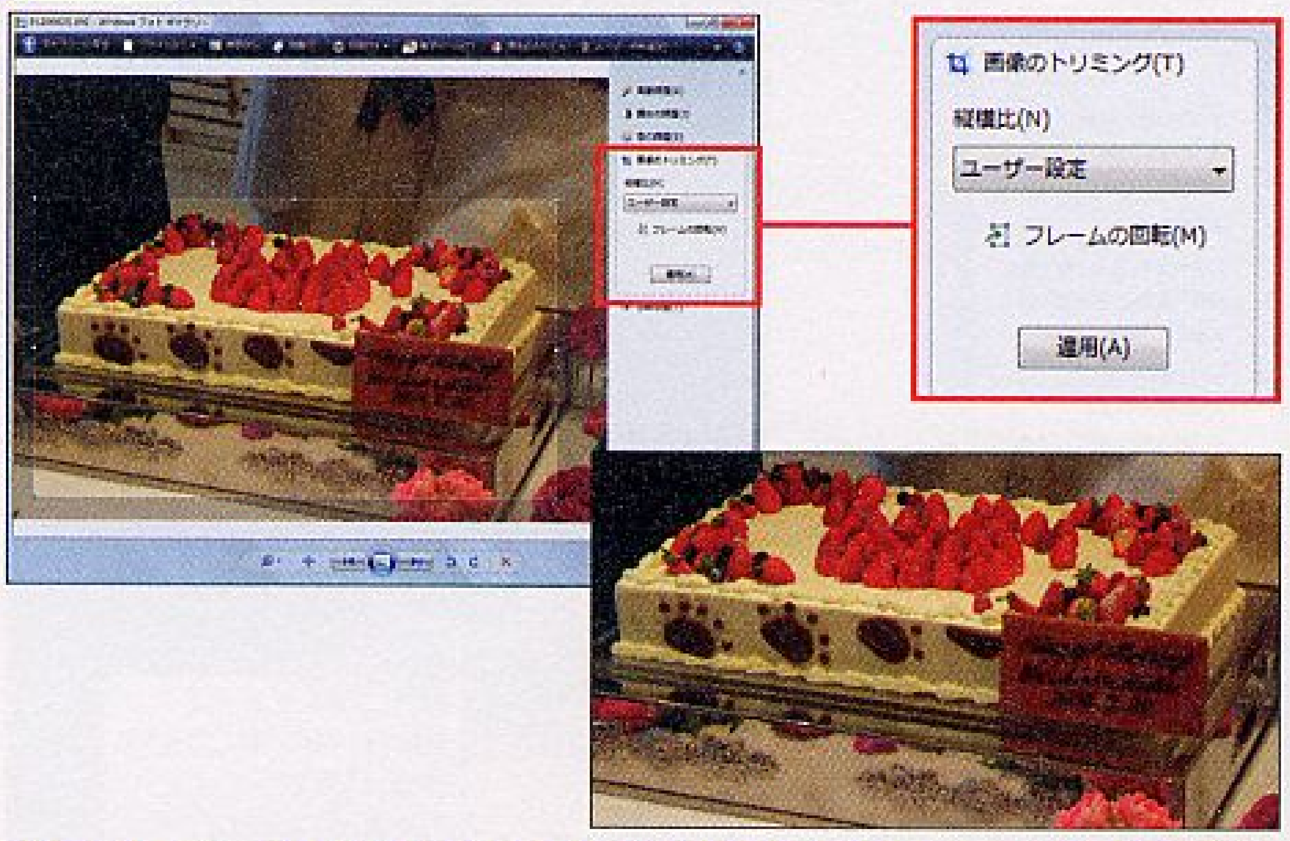
Windowsフォトギャラリーは、画像・動画の管理、編集が行なえるツール。起動すると「ピクチャ」と「ビデオ」フォルダにある画像・動画ファイルがギャラリーに表示され、簡単な画像の修整ができるのだ。修整できる項目は、画像のトリミング、露出や色の調整、画像の向き、人物の赤目修整など。修整を加えるたびに自動的に元の画像に上書き保存されてしまうが、修整前に自動的にバックアップがとられており、「元に戻す」コマンドでいつでも元の状態に戻すことができる。ギャラリーを閉じる前なら、一段階ずつ前に戻すことも可能。

1 「Windows フォトギャラリー」を起動する



「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「Windowsフォトギャラリー」をクリックして起動する。また、特に画像エディタを関連付けていない限り、画像ファイルをダブルクリックしてもWindowsフォトギャラリーが起動する

2 画像の不要部分をカットする



ギャラリーの一覧から修整したい画像をダブルクリックして開き、「修整」をクリックすると、画面の右側に修整用の項目が表示される。「画像のトリミング」をクリックし、切り取り指定の枠が画像に表示されたら、枠をドラッグして切り取りたい部分に当てる。枠の大きさは枠の周囲にある「□」部分をドラッグして調整できる。「適用」をクリックすればボックスで囲まれた部分だけが残る

3 画像の露出を調整する

修整ウィンドウの「露出の調整」をクリックすると「明るさ」と「コントラスト」をスライドバーで変更することができる。また、自動で露出を補正する「自動調整」もある。暗い写真を明るくするのに使おう

4 「赤目修整」を使えば簡単に赤目を修整できる

人物写真で目が赤く写ってしまうことがある。この赤目を修整する機能が「赤目修整」。修整ウィンドウの「赤目修整」をクリックし、修整する赤目部分を四角で囲むようにドラッグすると、囲んだ部分が修整される。赤色部分を読み取り、黒色に置き換えているので、それほど厳密に囲まなくても他の部分まで黒くなってしまうことはない

注意 「削除」操作に注意

ギャラリー上で画像や動画ファイルの削除をすると、パソコン内から削除されてしまう。ギャラリーでの表示を削除するわけではなく、完全になくなってしまうので注意すること。

難易度 普

メールやブログアップ用にデジカメ写真をリサイズする

快適指数

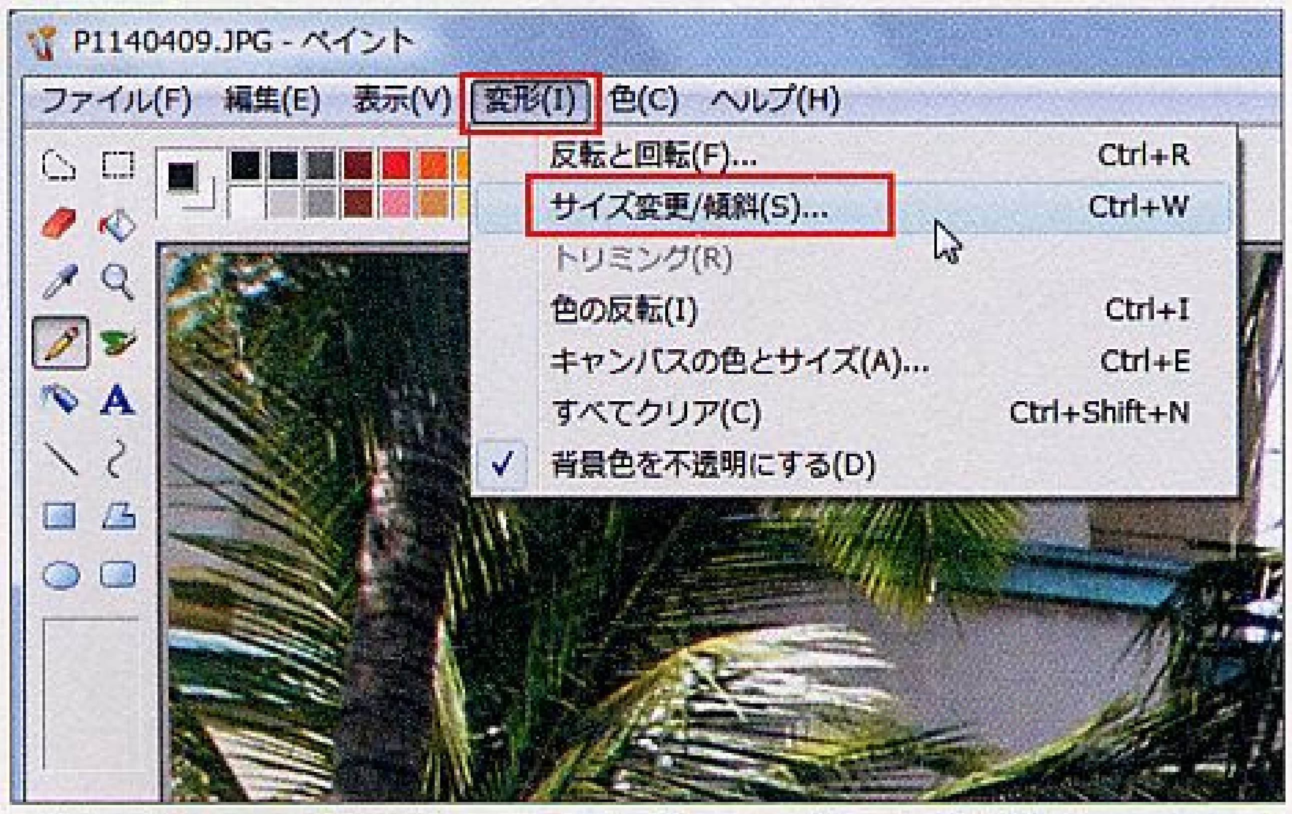
効果 ●メールで送れないような高画質ファイルの容量を小さくできる
●Webアップロード用に画像サイズを調整できる

デジタルカメラや携帯カメラの高画質モードで撮影すると、大きなサイズの画像ファイルになる。印刷する際は高画質であるに越したことはないが、ブログや掲示板などにアップするときは、ファイルサイズが大きいと表示が遅くなったり、サイトによってはアップできないこともある。また、携帯やパソコンのメールで送るときにも、容量制限で送信できないことがある。そんなときは「ペイント」を使い、ファイルサイズを小さくしよう。ブログアップ、パソコンメールに添付するなら1MB以下、携帯メールなら300KB以下が望ましい。

1 「ペイント」を起動する

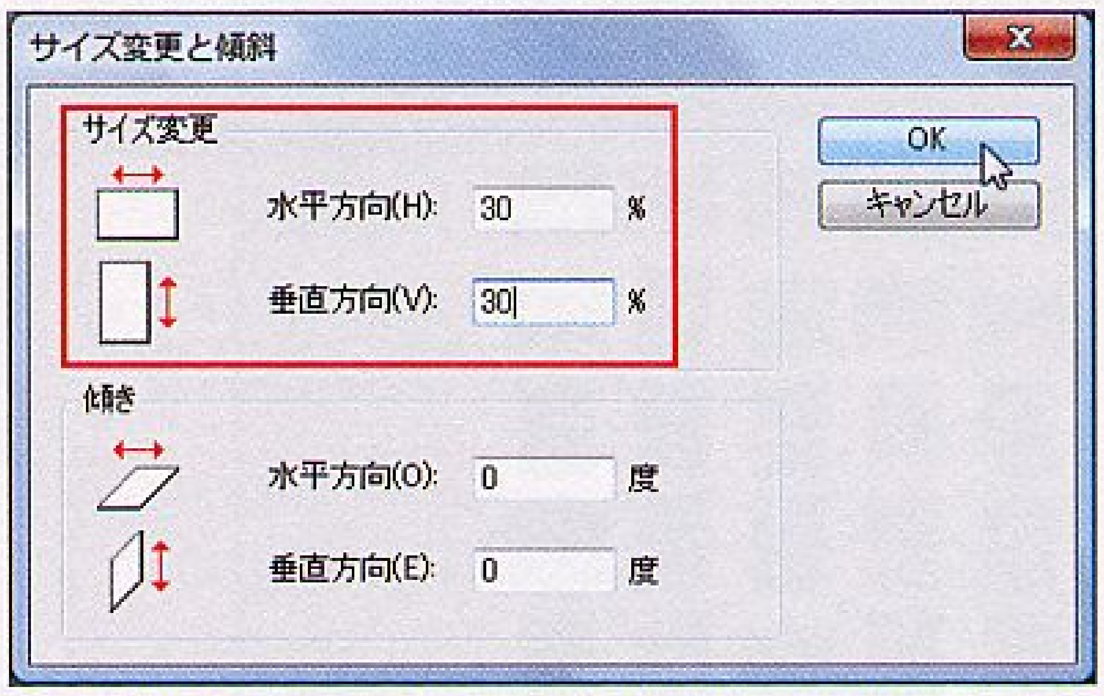
「スタート」メニューの「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ペイント」を起動する。「ファイル」→「開く」をクリックし、サイズを変更したい画像を指定する

2 「変形」を選択する



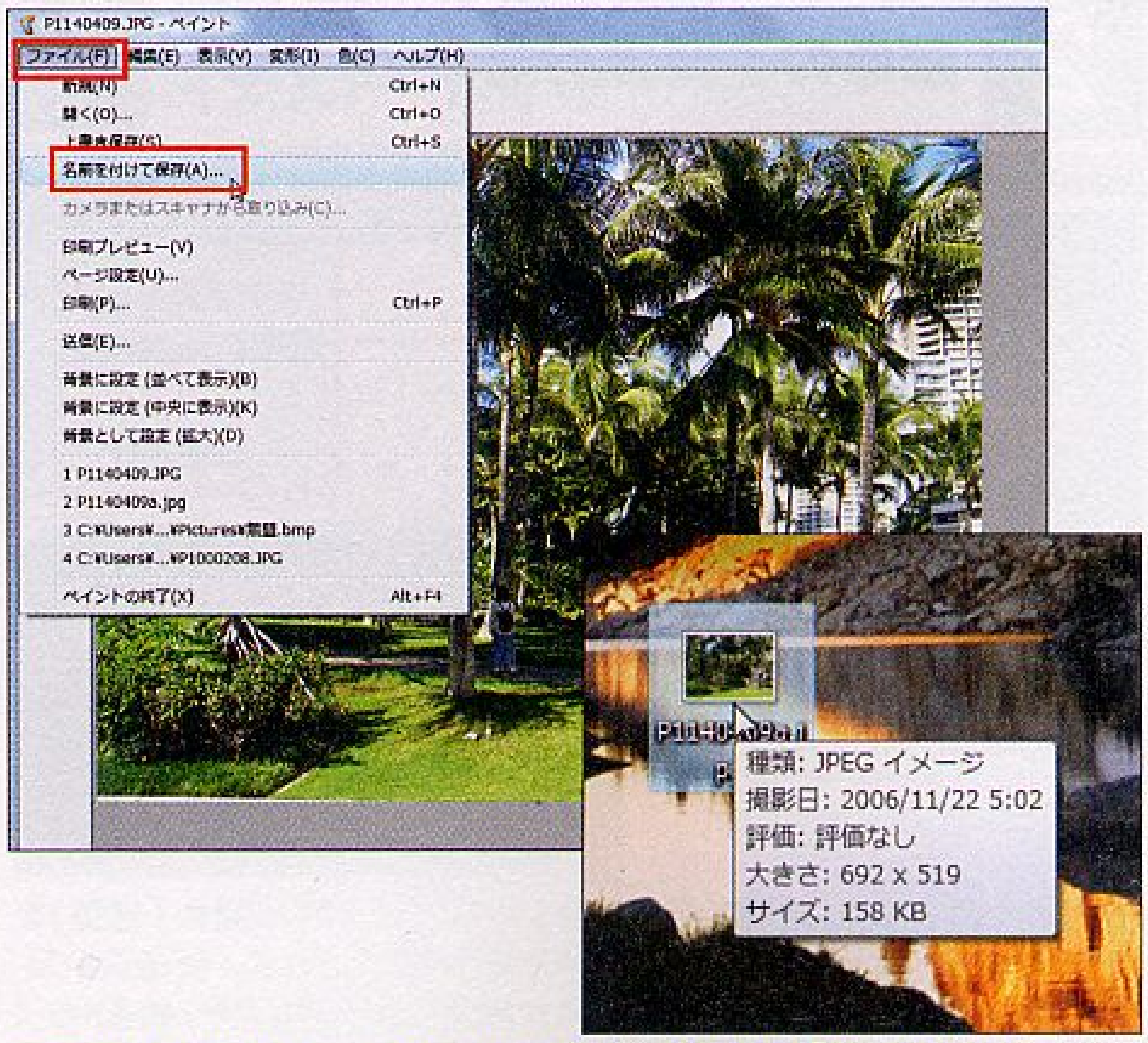
画像が開いたら「変形」メニュー→「サイズ変更/傾斜」をクリックする

3 変更サイズの指定をする



「サイズ変更」のパーセンテージを変更する。縦横の比率を保ったまま変更したいので「水平方向」と「垂直方向」に同じ数値を入力する。ここでは1.56MBの画像を30%に縮小してみた

4 画像サイズを確認する



元画像に上書きしないよう、サイズ変更した画像は「ファイル」メニュー→「名前を付けて保存」から、新規に保存しよう。保存した画像のファイルサイズを見ると、158KBにリサイズされているのがわかる

ワンポイント 大きな画像をアップする

アップロードできるファイルサイズの許容量はサイトにより異なる。有料サービスでは大きなファイルサイズのアップロードを許可している場合もあるので、綺麗な写真を見せるのが目的なら、そうしたサービスを利用しよう。

難易度 普

音楽CDを市販ソフトなしでデータとして取り込む

快適指数

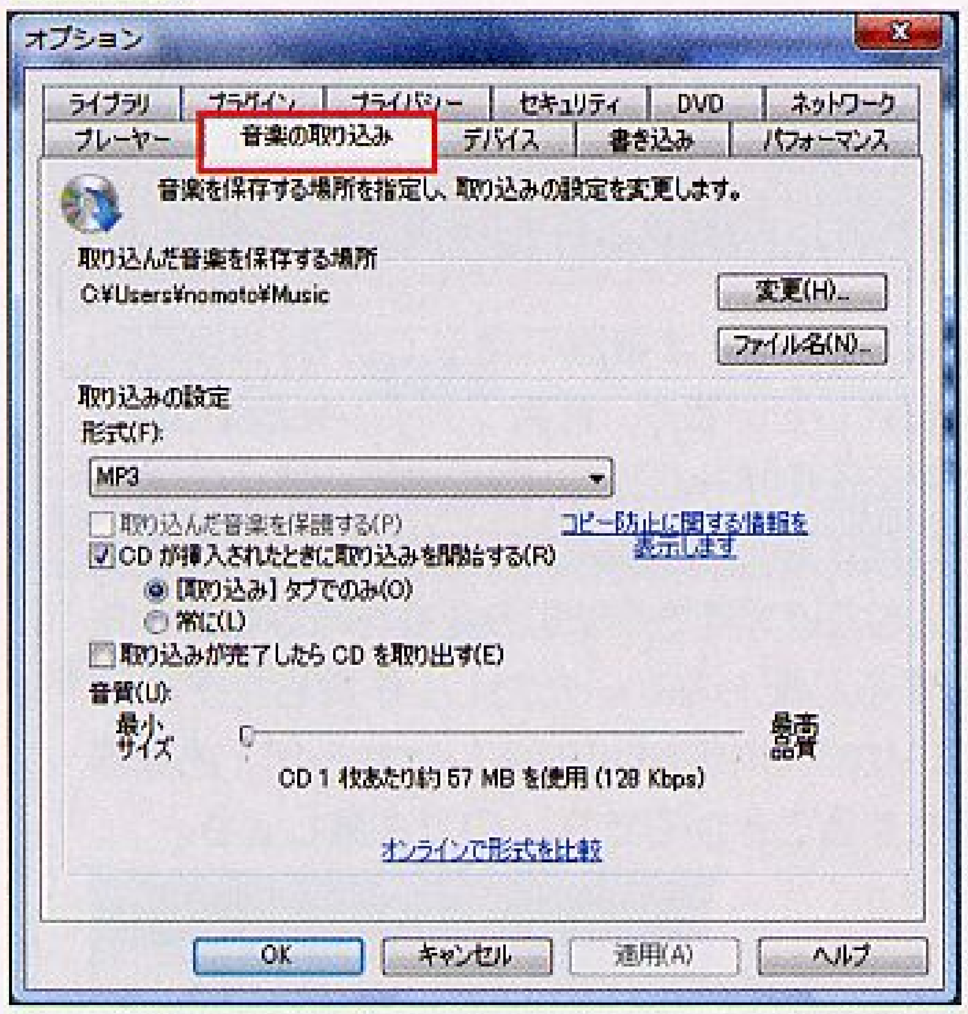
効果 ●パソコンで音楽ファイルの管理ができる
●携帯音楽プレイヤーに曲を転送できる

音楽CDを大量に持っている人は、すべてパソコンに取り込んでしまうと便利。取り込んだ楽曲はファイルとしてハードディスクに保存されるので、CDのように場所をとらず、楽曲の再生・管理も楽だ。また、自分の好きな楽曲だけを抜き出して、iPodなどの携帯音楽プレイヤーに転送することも可能になる。パソコンに取り込む際には、データ形式や音質の設定も行なえるので、必要に応じて変更しておこう。音質にこだわる人はパソコン用高音質スピーカーの購入を検討してもいい。ステレオ並みの高音質再生が行なえる。

1 取り込みたい音楽CDをドライブに入れる

パソコンに取り込みたい音楽CDをドライブに挿入する。「自動再生」画面が表示されたら、「CDから音楽を取り込む」をクリックする

2 取り込みの設定を変更する

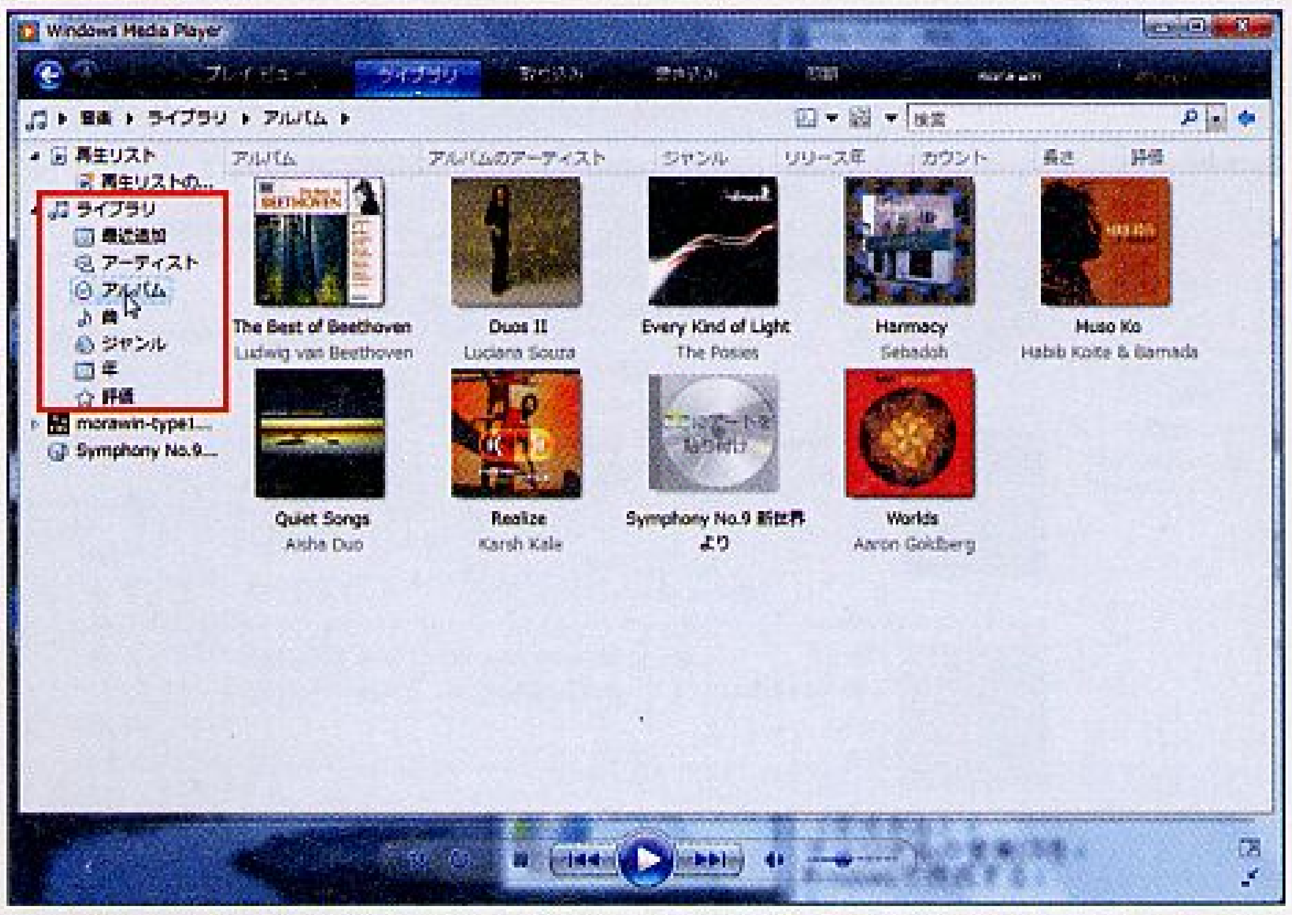


Windows Media Playerが起動したら、「取り込み」のプルダウンから「その他のオプション」をクリックする。「音楽の取り込み」タブで、「取り込んだ音楽を保存する場所」(初期設定では「ミュージック」フォルダ)や、ファイル形式(MP3やWAV)、音質の設定を行なう。終わったら「OK」をクリック

3 取り込みを開始する

「取り込み」画面に戻ったら、取り込みたい曲にチェックが入っていることを確認。取り込みたくない曲があればチェックを外しておこう。「取り込みを開始」をクリックすると取り込みが始まる。「取り込みの状態」で進行状況を確認できる

4 取り込んだ音楽の確認



取り込んだ曲はWindows Media Playerの「ライブラリ」から確認でき、「アーティスト」「曲」などから探すこともできる

ワンポイント 再生リストを作る

取り込んだ楽曲は「再生リスト」機能を使って活用しよう。楽曲を指定した順番で再生でき、複数のアルバムからも登録可能。自分の好きな曲だけを集めたり、曲の雰囲気やジャンルごとに作成すれば音楽鑑賞の楽しみも広がる。

難易度 普

お気に入りの音楽ファイルでオリジナル音楽CDを作る

快適指数

効果
●市販ソフトがなくても音楽CDが作れる
●音楽CDよりさらに大容量を書き込める音楽データCDも作れる

音楽CDから取り込んだデータや、ネットからダウンロード購入した曲を、オーディオ機器で聴ける音楽CDにしてみよう。オリジナルのアルバムを作成し、カーステレオで聴いたり、高音質のステレオなどで楽しむことができる。作成には「Windows Media Player」を使うため、特に専用ソフトを用意する必要はない。また、オーディオ機器で再生可能な「音楽CD」ではなく、MP3やWMA形式のままCD/DVDに書き込むことも可能。ただし、パソコン上かその形式に対応したオーディオ機器でなければ再生することはできないので注意しよう。

1 Windows Media Playerを起動する

書き込み用のメディアをドライブに挿入し、「スタート」メニューの「すべてのプログラム」→「Windows Media Player」を起動する。「書き込み」をクリックすると画面の右に書き込み用の表示が現れる

2 書き込む曲の音量調整をする

「書き込み」のプルダウンをクリックし、「オーディオCD」を選択。複数の音源を混ぜてCDを作成するなら、再度「書き込み」のプルダウンをクリックし、「オーディオCDのトラック全体に音量調整を適用する」にチェックを入れておこう

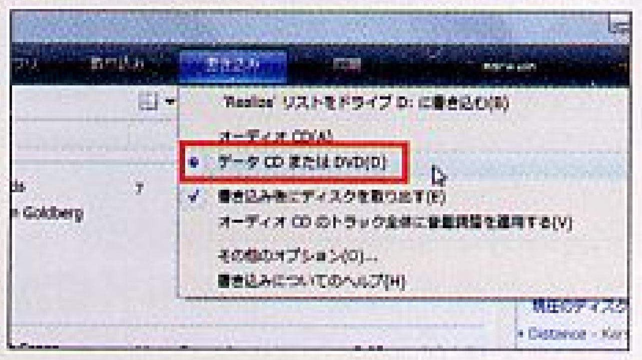
3 曲を選択して書き込みを開始する

画面左側の「アーティスト」や「アルバム」などを選択して楽曲を表示させ、書き込みたい曲を「書き込みリスト」にドラッグ&ドロップする。リスト上部にCDの残り容量が表示されるので、オーバーしないよう確認しながら追加する。すべて終わったら「書き込みの開始」をクリックすればCDへの書き込みが開始される

もっと快適!!テクニック

音楽データCD/DVDで大量の音楽ファイルを書き込む

上記の方法では、オーディオ機器で再生できる「音楽CD」の作成方法を紹介しているが、音楽ファイルを音楽CDの形式に変換せずにそのままCD/DVDにコピーする方法もある。圧縮された状態の形式なので、音楽CDよりも多くの容量を書き込むことができ、形式の変換を行なわないため音質が低下する心配もない。ただし、作成したデータCDは、パソコンか、その形式に対応したオーディオ機器でなければ再生することができないので注意しよう。



「Windows Media Player」の「書き込み」のプルダウンから「データCDまたはDVD」を選択する。あとは音楽CDの書き込みと同じように作業すればいい

ワンポイント
リストの変更と削除
書き込みリストに追加した音楽ファイルは、リスト内でドラッグすることで順序を変えることができる。また、リストから削除したい場合は、削除したい項目を右クリックし、「リストから削除」を選択する。

難易度 普

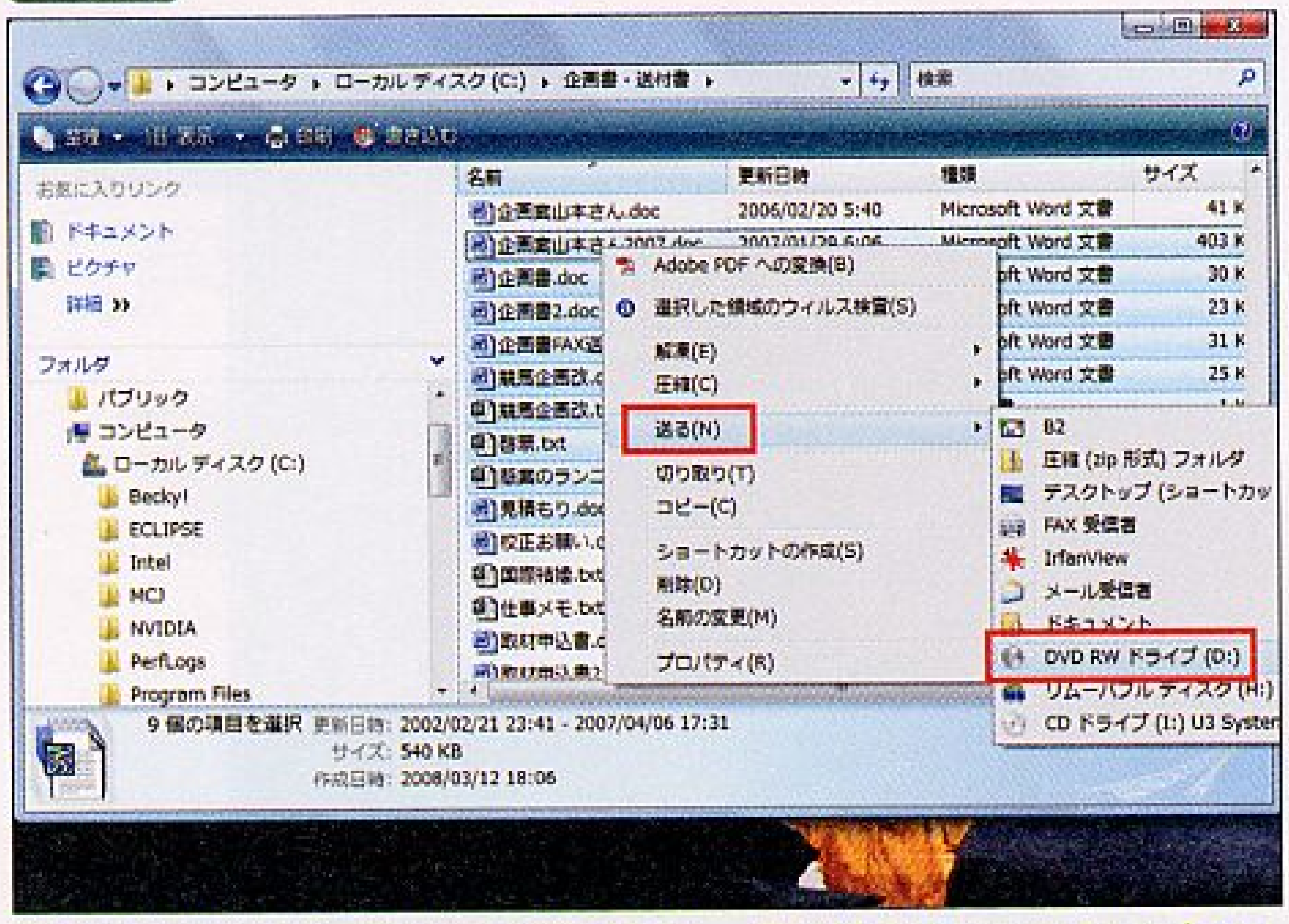
パソコン内のデータをCD/DVDに手軽に書き込む

快適指数

効果
●データを第三者に渡すことができる
●データのバックアップにもなる

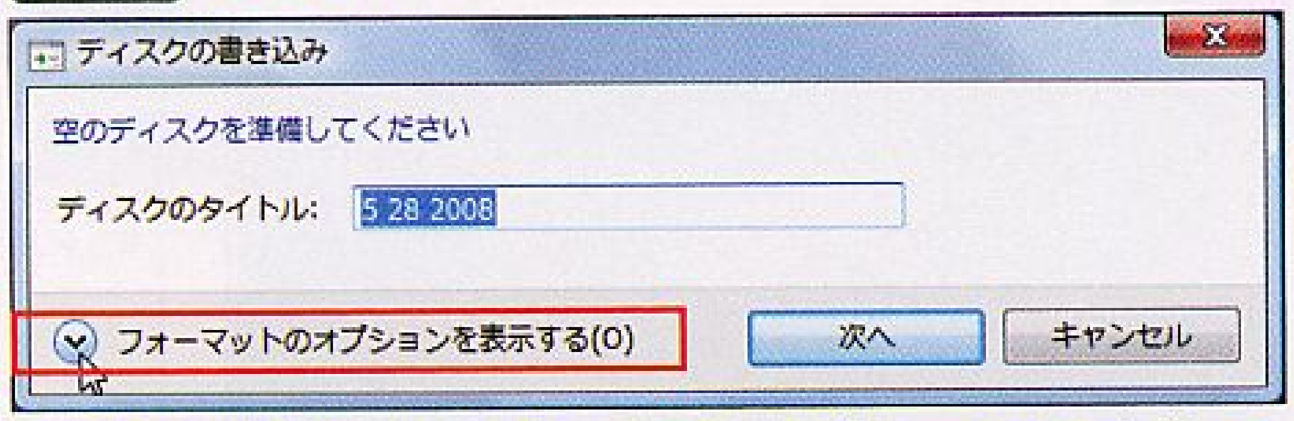
Windowsにはメディアへの書き込み機能が搭載されており、データを手軽にCD/DVDに書き込むことができる。データの書き込み方法は、手軽に追記や削除ができるが、XP以前のOSとは互換性の低い「ライブファイルシステム」と、AV機器、他のOSとの互換性は高いが、書き込み後に個々のファイルを削除できない「マスタ」形式の2つから選択できる。ここでは互換性が高く安心できる「マスタ」形式での書き込み方法を紹介する。また、複数の書き込み用ドライブがあっても一度に書き込むことはできないので注意。

1 書き込みたいファイルをCD/DVDドライブに「送る」



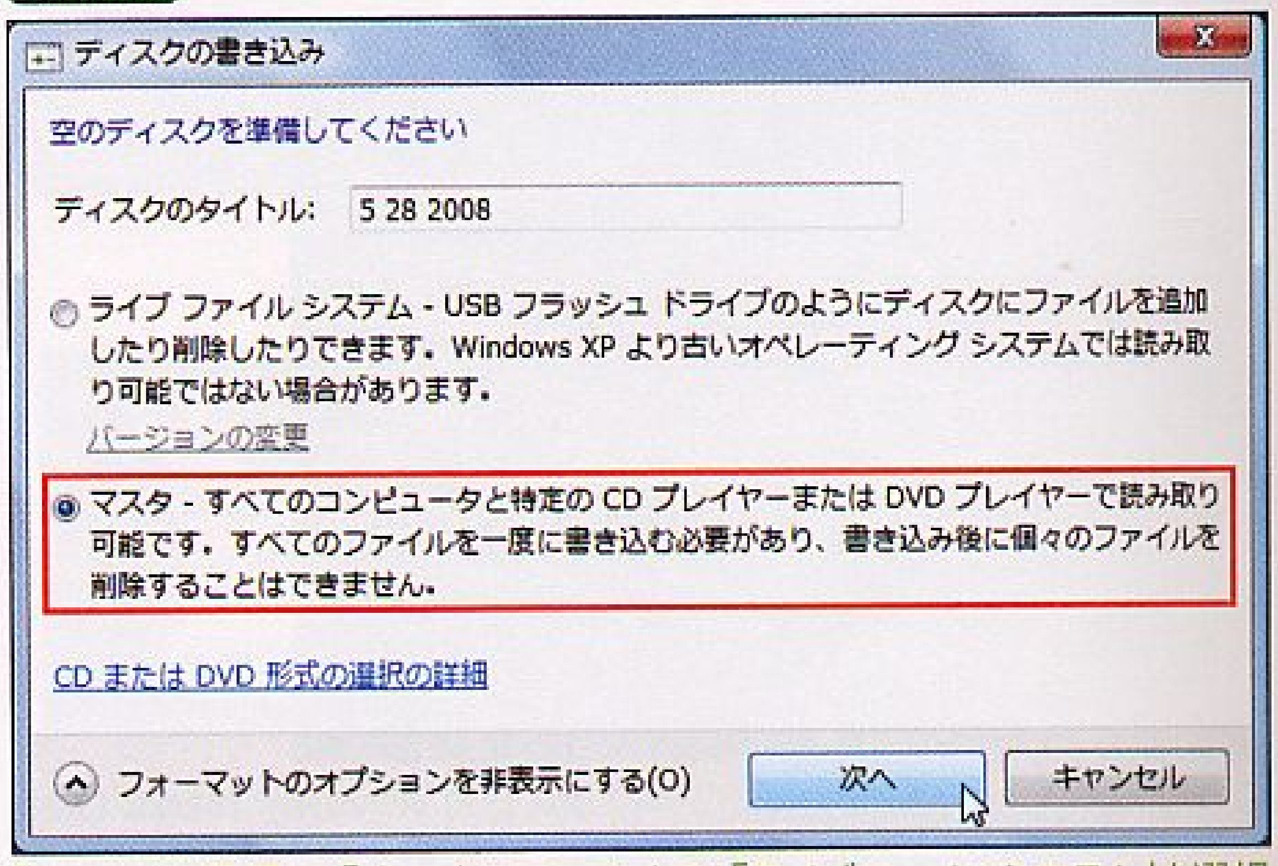
書き込み用のメディアをドライブに挿入し、書き込みたいファイルを右クリックして「送る」→「DVD RWドライブ」を選択する。このとき、書き込みたい複数のファイルを選択してもOK

2 フォーマットのオプションを表示する



「ディスクの書き込み」ウィンドウが表示されたら「フォーマットのオプションを表示する」をクリック

3 書き込むフォーマットを選択する



「マスタ」を選択し、「次へ」をクリックする。「ライブファイルシステム」を選択した場合、XP以前のOSでは読み取りができないこともあるので注意が必要だ

4 CDへの書き込みを開始する

そのほか書き込みたいファイルがあれば1の手順で追加する。すべて終わったら、「ディスクに書き込む」をクリックする。書き込み速度などを選び、「次へ」をクリックすれば書き込みが開始される

ワンポイント CD/DVDメディアの種類

データを書き込む空のメディアはCD-R/RW、DVD-R/RWなど。DVDメディアの場合にはデータ用、ビデオ用(録画用)と分かれていることもあるが、どちらでも問題はない。ただしデータ用のほうが安価。

難易度 普 テレビ番組やDVDビデオを専用ソフトなしで視聴する

快適指数

効果
- ●どんなパソコンでもVistaなら同一操作で視聴できる
- ●マウス操作だけで録画や再生などの操作ができる

「Windows Media Center」を使えば、ひとつのアプリケーションで写真、DVD、テレビ視聴など、あらゆるマルチ系メディアコンテンツを管理できる。例えばテレビ視聴をする場合、Windows Media Centerに対応したテレビキャプチャ機器を搭載していれば、「番組ガイド」から好みの番組を選んで視聴が可能。DVDレコーダーのように番組表からテレビ録画も行なえる。また、地上デジタル放送にも対応しており、チューナーさえ搭載していれば地デジも問題なく楽しめる。地上デジタルチューナーは別途購入して取り付けることも可能だ。

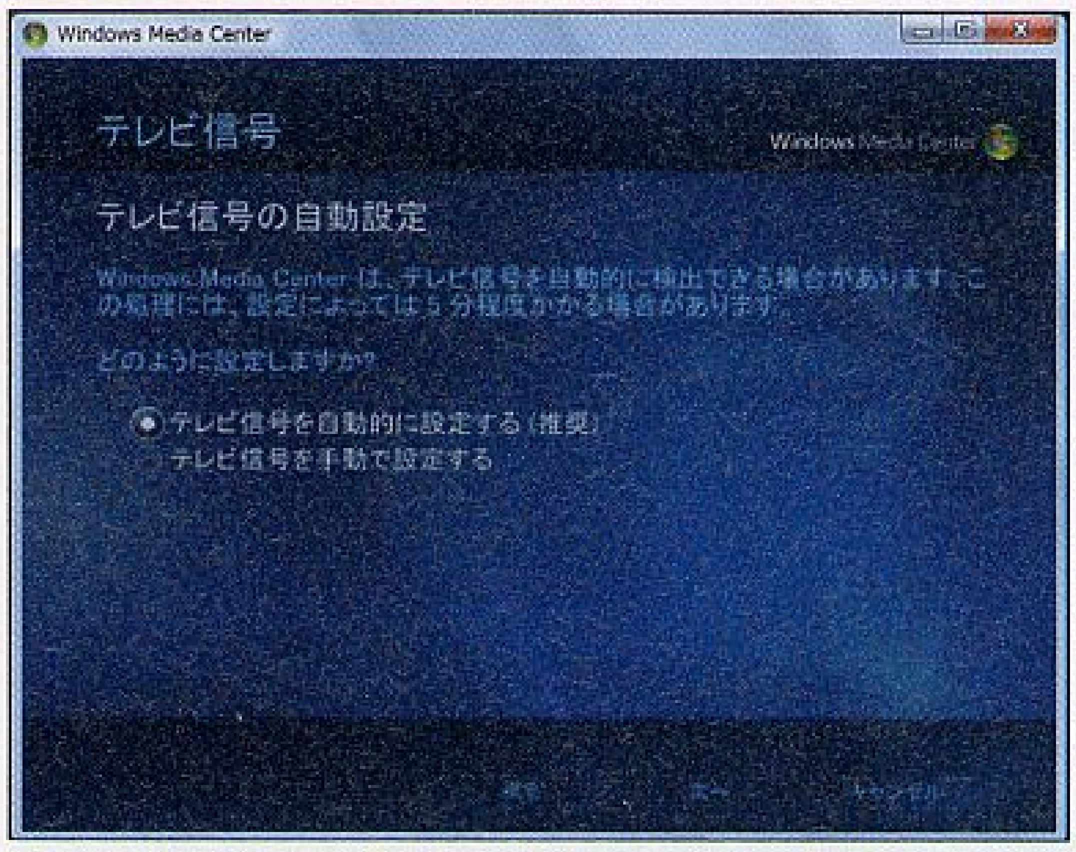
1 Windows Media Centerを起動する

「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「Windows Media Center」をクリックし、「Windows Media Center」を起動する。キーボードの上下左右の操作か、マウスによる選択でテレビ視聴やDVD再生、音楽再生など目的の操作を選べる

2 DVDビデオを再生する

DVDビデオをドライブに挿入すれば、Windows Media Centerを使ってDVDビデオの再生ができる。メニューはマウスで操作でき、右クリックすれば画面サイズの変更や、現在視聴しているタイトルの詳細、タイトルメニューへの移動などが行なえる

3 テレビを視聴する



テレビ機能のついたパソコンなら、Windows Media Centerでテレビを視聴・録画することができる。まずは「テレビ録画」項目の右にある「テレビのセットアップ」から、「信号の種類」や番組ガイドなどの設定を簡単なウィザードにしたがって行なう。設定が完了したら「テレビを見る」項目をクリックすればテレビが表示される

4 番組表から見たい番組を検索する

インターネットから情報を取得する「番組ガイド」を使えば、別途番組表を調べることなく手軽に好きな番組を見ることができる。また番組表から録画予約することも可能だ

ワンポイント ネットワーク経由で使用する

Windows Media Center内に収納されている音楽ファイルや写真、動画ファイルは、有線や無線でつながれているネットワーク内であれば、どのパソコンからも楽しむことができる。

難易度 普

市販ソフトなしで動画からDVDビデオを作る

快適指数

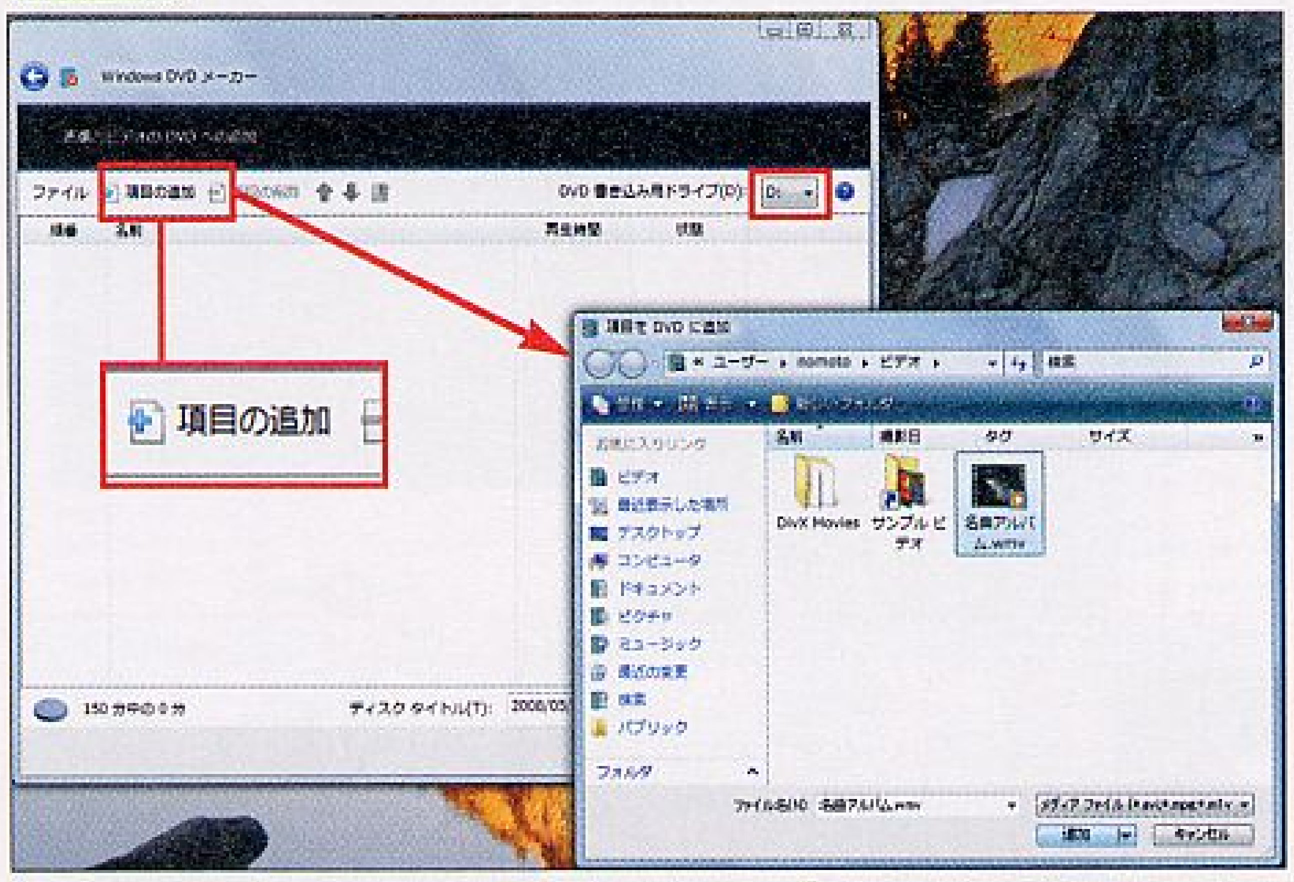
効果
●DVD作成ソフトを購入しなくてもDVDビデオが作れる
●ウィザードに沿っていくだけで簡単にDVDが作れる

Windows DVDメーカーは、表示される画面の指示に沿って作業を進めるウィザード形式になっており、最低2つのステップを実行するだけでDVDビデオが作成可能になっている。メニューデザインも豊富に用意され、DVDへの書き込みもサポートしている。エンコードから、ライティングまでWindows DVDメーカーでできるため、専用ソフトを使う必要がなく、手軽にDVDビデオが作れる。旅行やイベントの動画などをテレビで見られるDVDとして第三者に渡すことができるので、是非とも活用したい。

1 Windows DVDメーカーを起動する

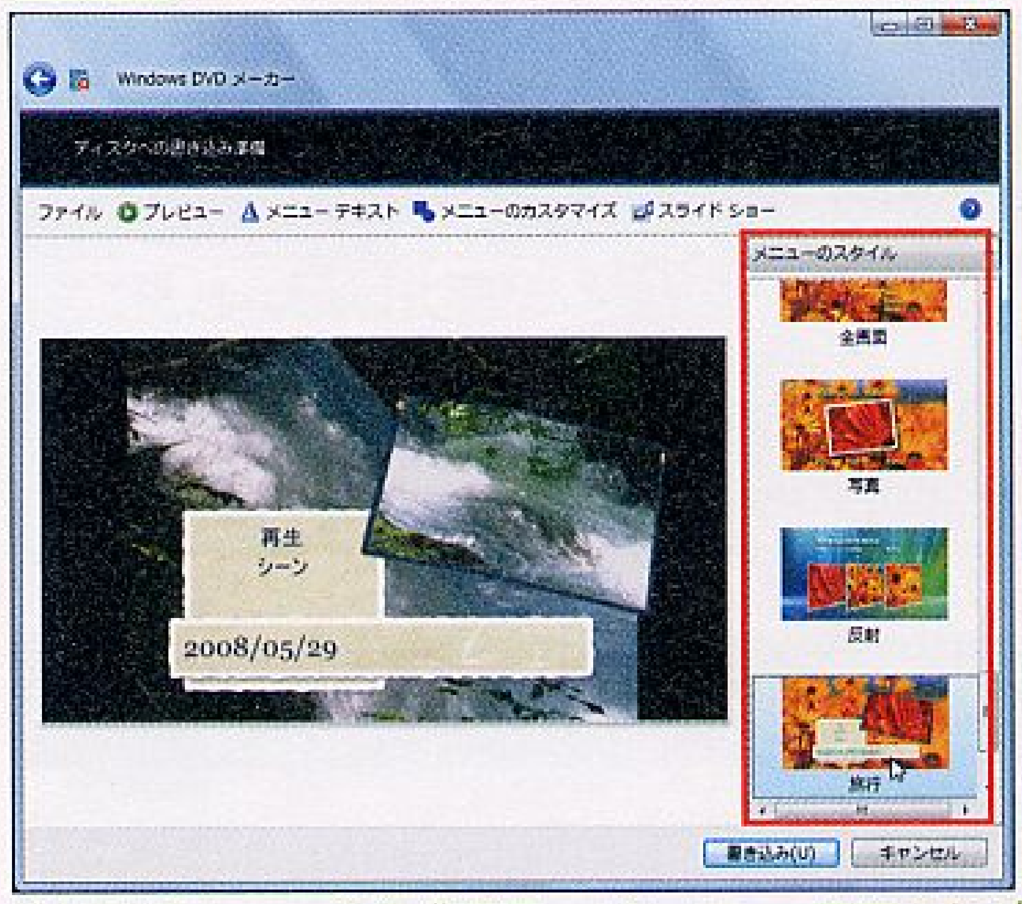
「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「Windows DVDメーカー」を起動。「写真とビデオの選択」をクリック。最初の画面は「ようこそ画面」なので、次回から表示させなくても問題ない

2 動画ファイルを登録する



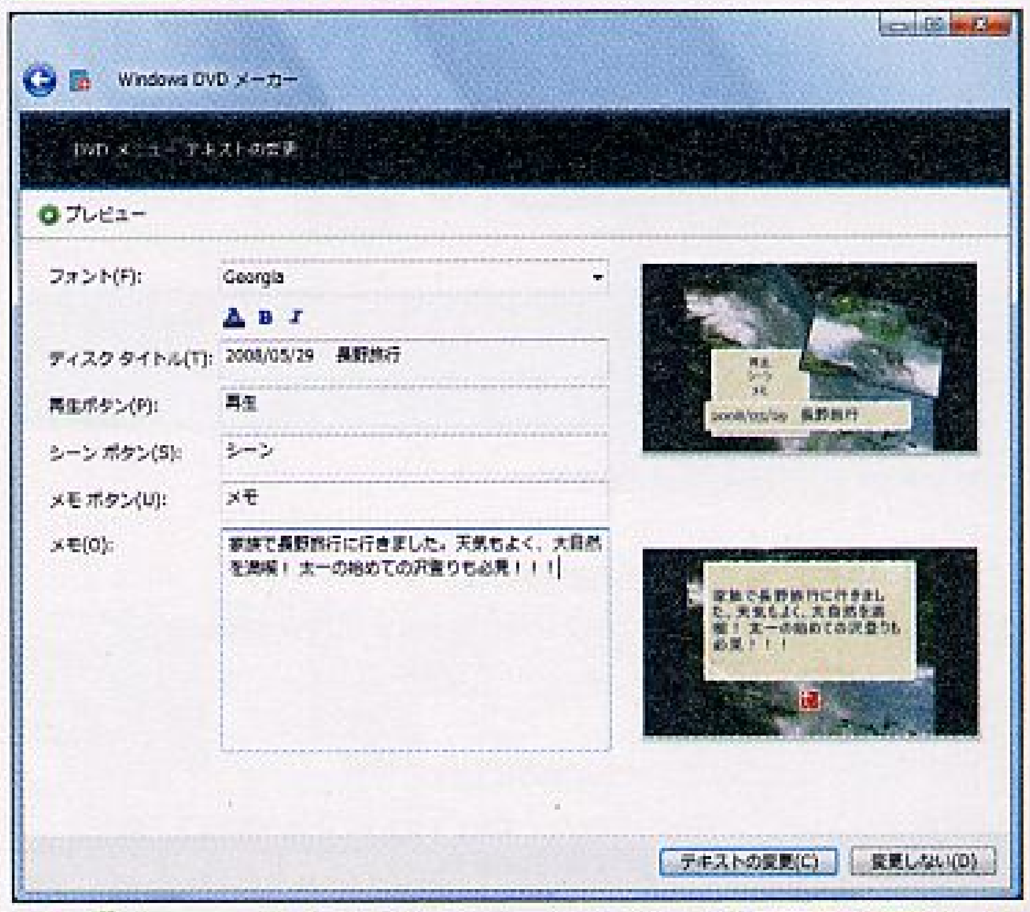
次の画面では動画ファイルの登録を行なう。「項目の追加」をクリックしてDVDビデオにしたい動画ファイルを選択する。また、「DVD書き込み用ドライブ」でDVDドライブを指定しておく。登録が終わったら「次へ」をクリックする

3 DVDメニューを作成する



次はDVDメニューの作成画面。メインメニュー画面になる「メニューのスタイル」を右のリストから選択する。メニューのスタイルは書き込むまで何度でも変更可能

4 メニューに入れたいテキストを入力する



3で「メニューテキスト」をクリックするとこの画面が開く。フォントの指定やディスクタイトルなどを入力し、「テキストの変更」をクリックすれば、メインメニュー画面のできあがり。「書き込み」をクリックすればDVDへの書き込みが開始される

ワンポイント 動画素材を編集する

「Windows DVDメーカー」はDVDビデオを作成するためのソフトだが、動画を編集したいなら「Windowsムービーメーカー」を使ってみよう。91ページで不要部分をカットする方法を紹介しているので参照しよう。

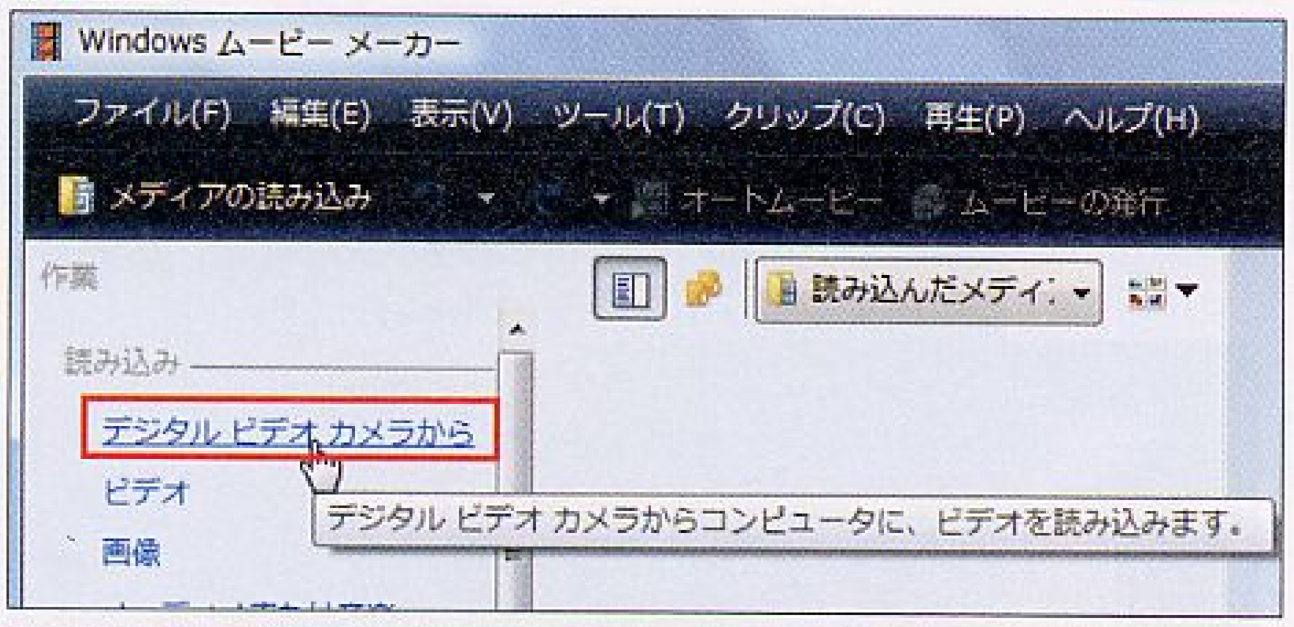
難易度 普　デジタルビデオカメラの動画をパソコンに取り込む

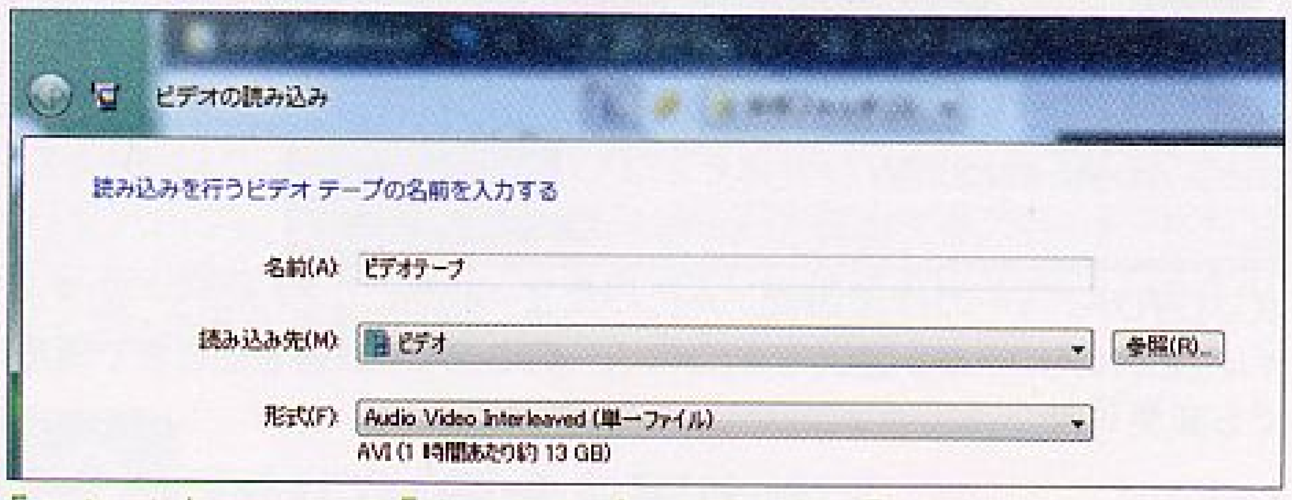
快適指数

効果
●パソコンで動画の編集ができるようになる
●撮影した動画をDVDビデオにすることができる

デジタルビデオカメラで撮影した映像を、動画ファイルとしてパソコンに取り込みたいときは、Windowsムービーメーカーを使おう。パソコンに取り込んでおけば、DVDプレイヤーで見られる「DVDビデオ」（89ページ参照）が作成でき、不要な部分もカットできるようになる（91ページ参照）。以下の手順を実行する前に、ビデオカメラとパソコンをIEEE1394（i.LINK）ケーブルやUSBケーブルでパソコンに接続し、パソコン側ではWindowsムービーメーカーを起動する。ビデオカメラは再生（PC）モードにしておくこと。

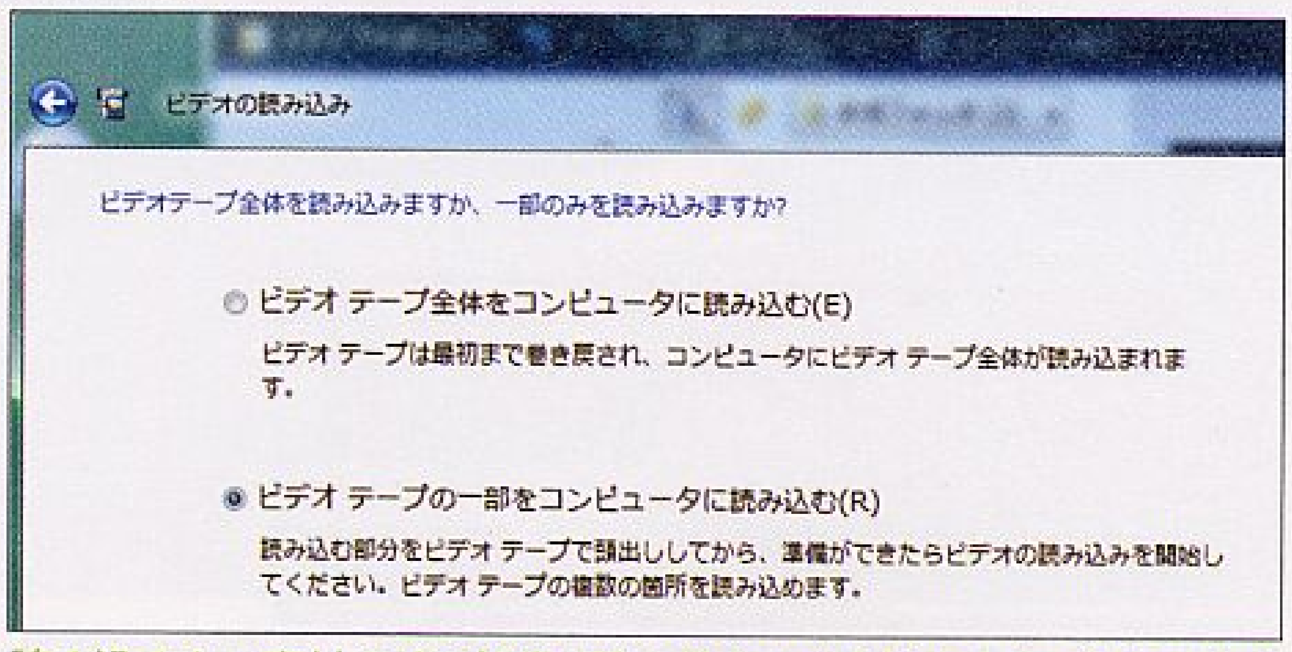
1 Windowsムービーメーカーを起動する





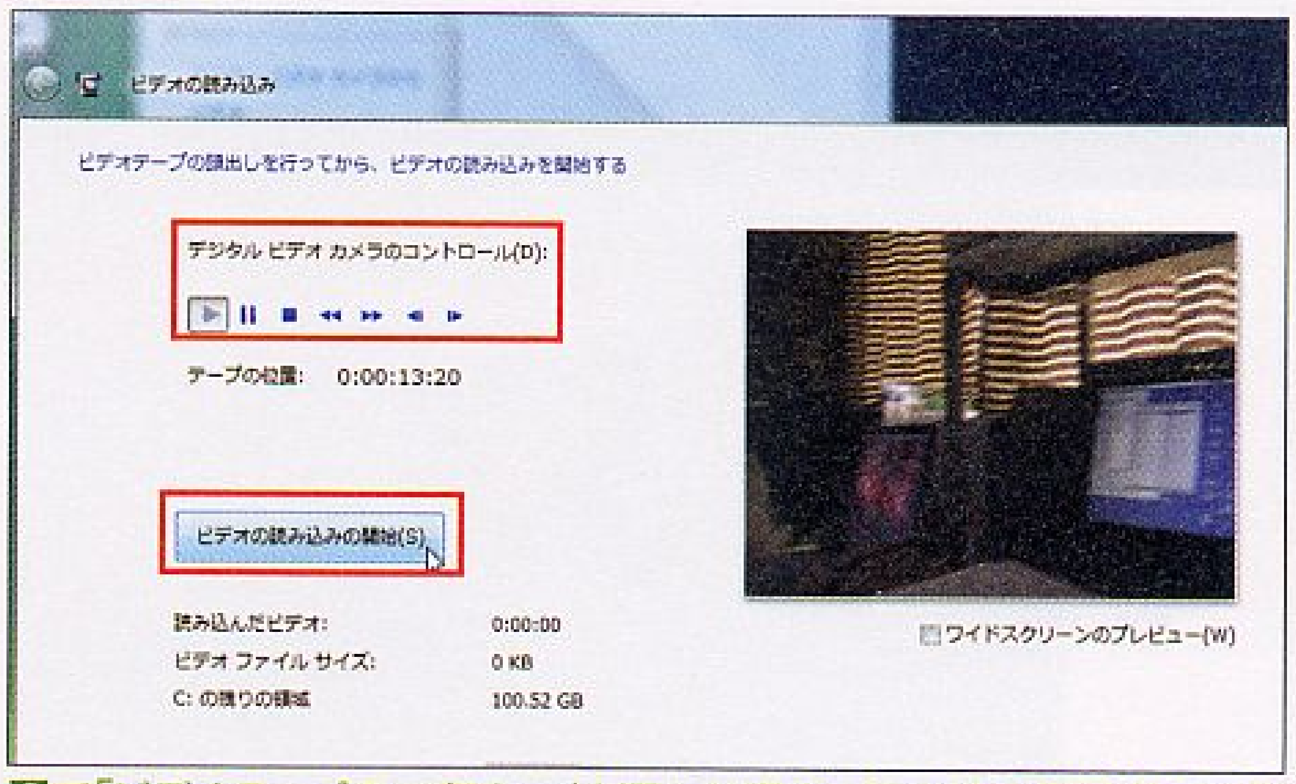
「スタート」メニューの「すべてのプログラム」→「Windowsムービーメーカー」を起動する。作業メニューから「デジタルビデオカメラから」をクリックする。「読み込み先」「形式」（よく分からない場合は「Audio Video Interleaved」にしておく）などを選択し、「次へ」をクリック

2 読み込み方法を選択する



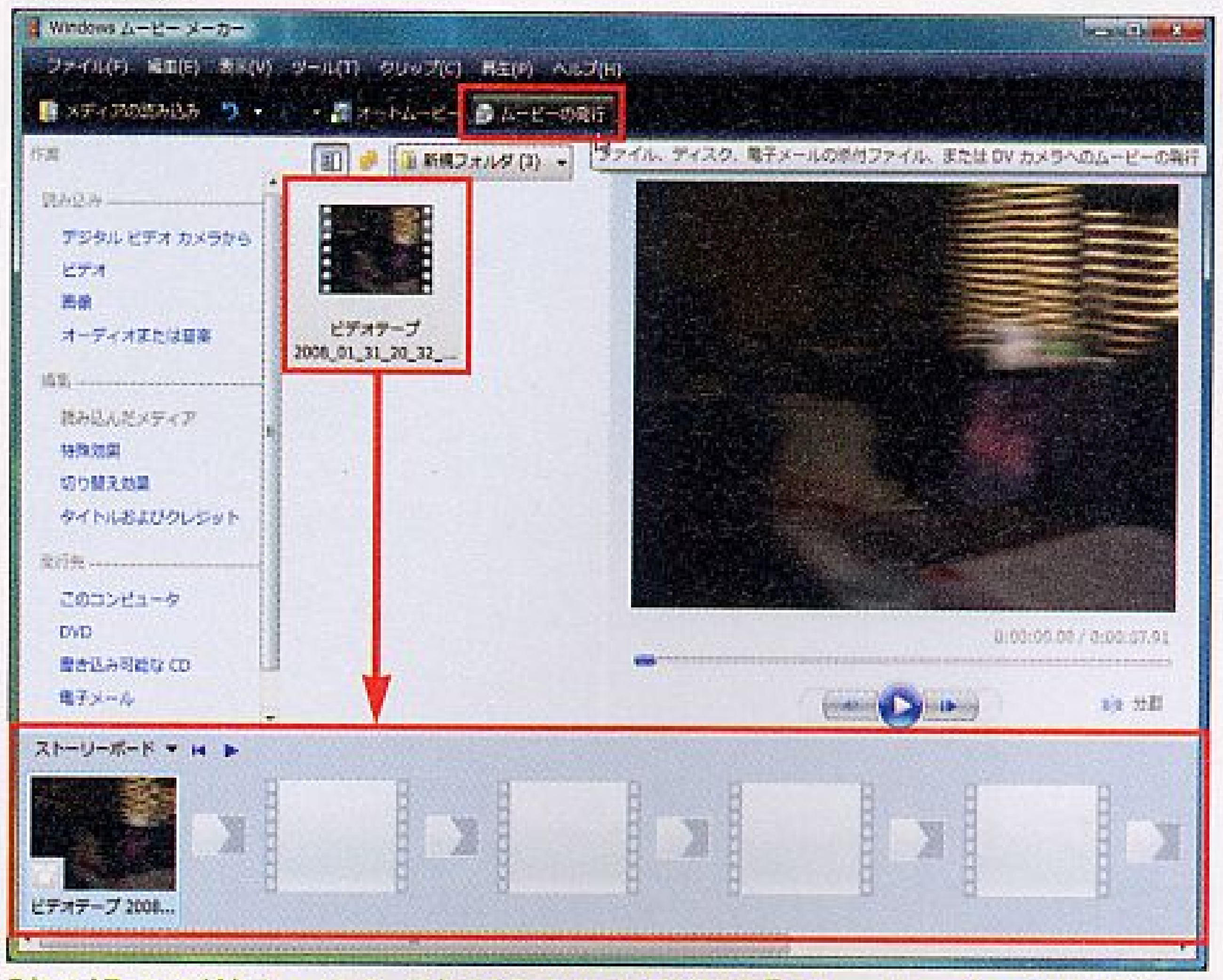
読み込みたい素材のどの部分を読み込むのかを指定する。全部であれば「ビデオテープ全体をコンピュータに読み込む」、特定の箇所であれば「ビデオテープの一部をコンピュータに読み込む」を選び、「次へ」をクリックする

3 読み込みの開始位置を指定する



2で「ビデオテープの一部を〜」を選んだ場合、読み込み開始位置を指定する。「デジタルビデオカメラのコントロール」で開始位置を頭出しして、「ビデオの読み込みの開始」をクリックする

4 読み込んだ動画の保存



読み込みが終わったら、読み込まれた動画を「ストーリーボード」にドラッグ&ドロップで登録する。「ムービーの発行」をクリックし、発行先に「このコンピュータ」を選択して「次へ」をクリック。動画の名前と保存先を選び、保存する画質を選択したら「発行」をクリックすればパソコンに保存される

ワンポイント　ビデオ形式による容量の違い

1時間のビデオを読み込んだ場合、AVIだと約13GB、WMVだと約1GB程度の空き容量が必要になる。画質が美しいのはAVIだが、ハードディスクの空き容量に不安があるならWMVを選ぼう。

動画ファイルの不要部分のカットなど手軽に編集を行なう

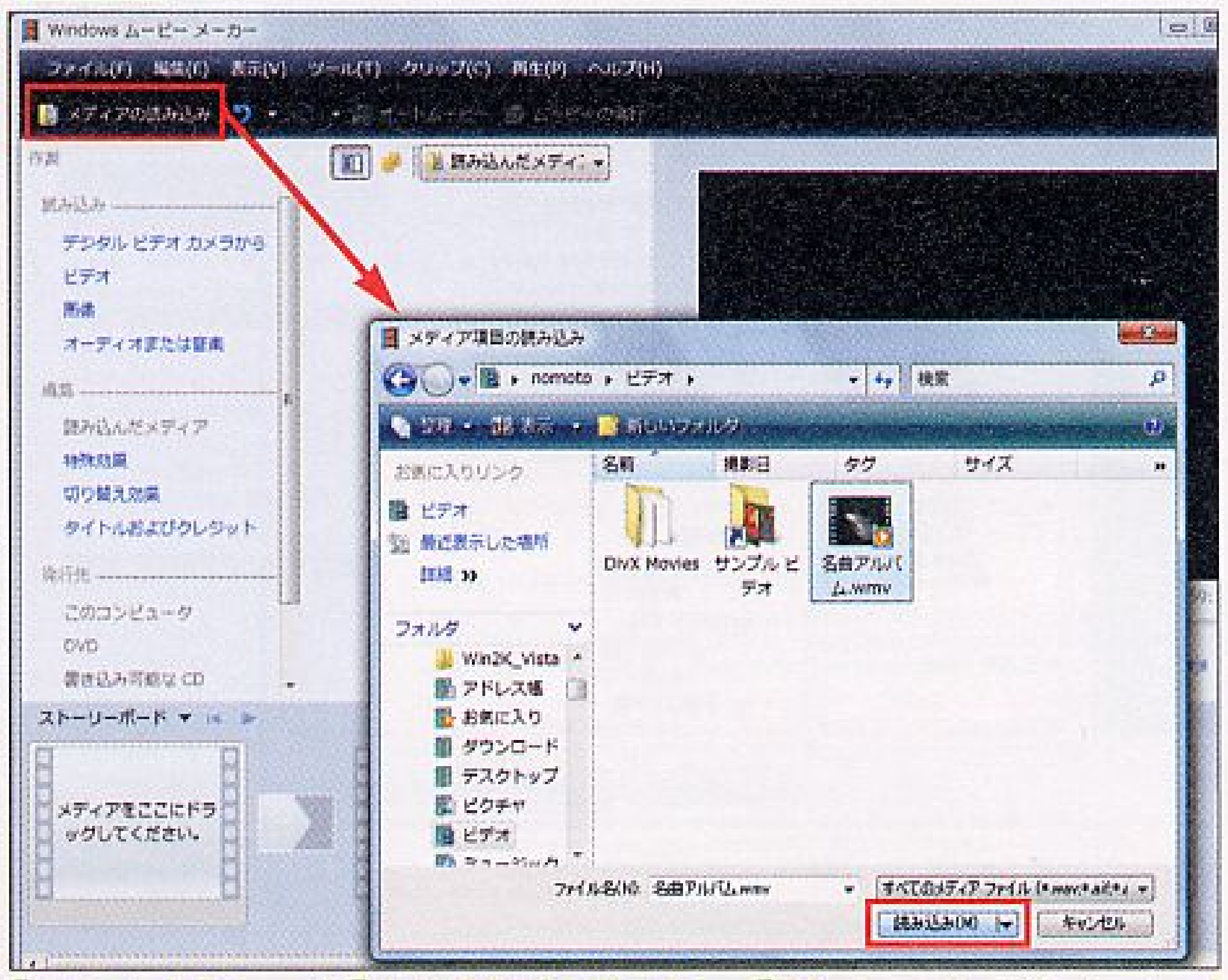
難易度 普

快適指数

効果
- ●動画ファイルの不要部分をカットできる
- ●必要な部分だけをつなげてひとつの動画ファイルにすることができる

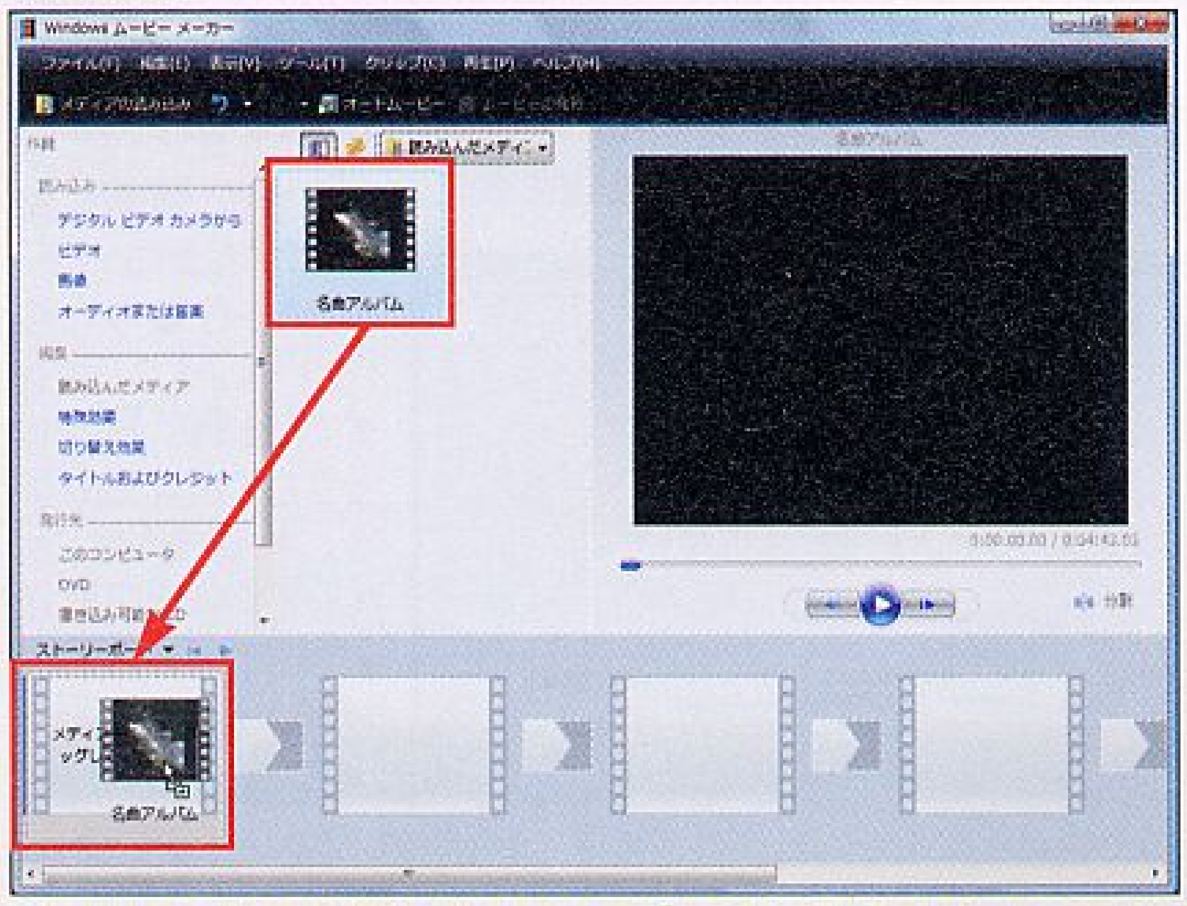
ビデオカメラから取り込んだ動画ファイルや、録画したテレビ番組の動画ファイルなどをWindowsムービーメーカーを使い、不要な部分をカット・編集してみよう。まずひとつのファイルを、要る部分、要らない部分を指定して分割する。分割した不要な部分のコマを削除すれば、要る部分だけがつながって保存されるのだ。同じ要領で別々の動画ファイルをひとつの動画ファイルにすることもできるので、不要部分をカットして、好みのシーンだけを抽出した複数のファイルをひとつの動画ファイルとしてまとめて楽しむこともできる。

1 Windowsムービーメーカーを起動する



「スタート」メニューの「すべてのプログラム」→「Windowsムービーメーカー」を起動する。「メディアの読み込み」をクリックし、編集したい動画ファイルを選択して「読み込み」をクリックする

2 ストーリーボードへ登録する

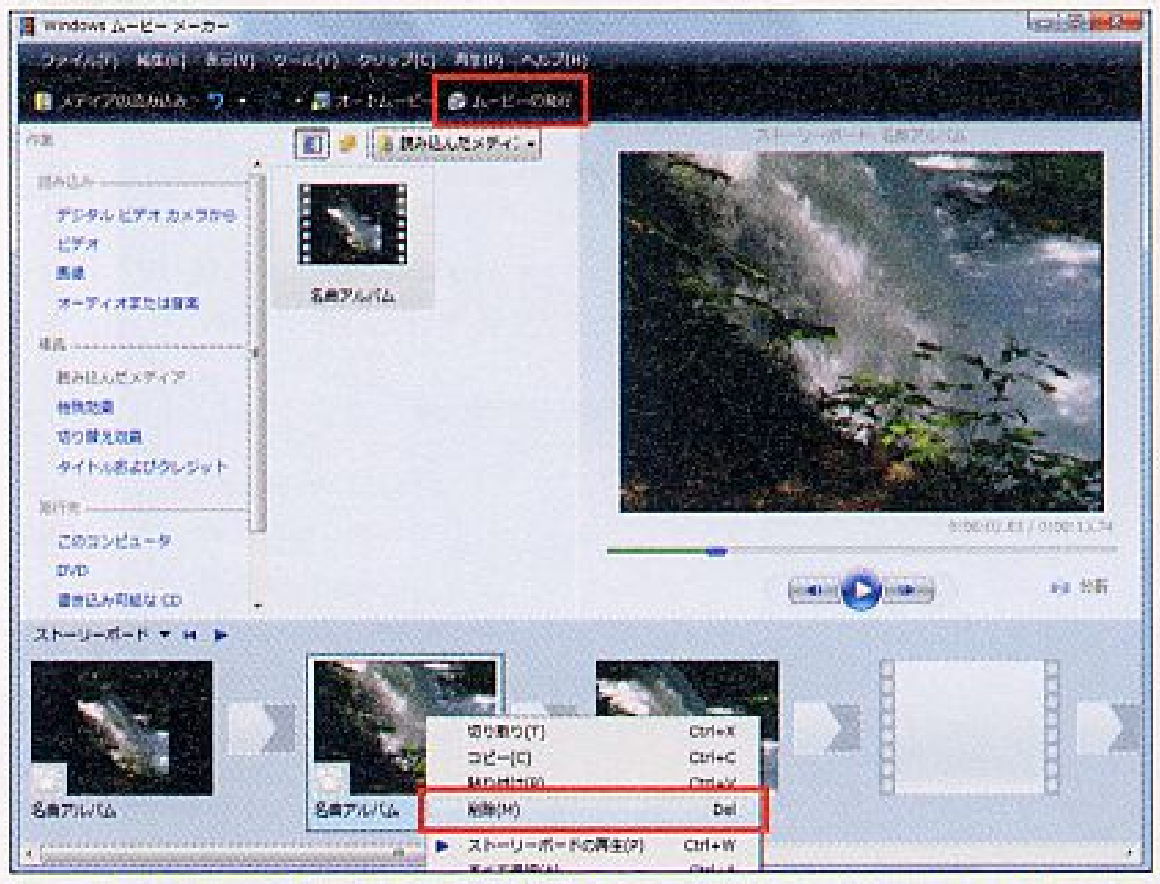


読み込んだ動画を編集できるように、「ストーリーボード」へドラッグ&ドロップする

3 動画を分割する

ストーリーボードに登録した動画を選択しスライダで削除したい部分のポイントを出す。うまくできないときは、一度再生して削除したい部分で一時停止させるといい。削除したいポイントになったら「分割」をクリックする

4 不要な部分を削除する



ストーリーボード上で動画が分割された。分割したほうの動画がすべて不要なら、右クリックし、「削除」を選択。分割したほうの動画からさらに必要部分を残したい場合は、分割した動画をクリックし、3を繰り返す。そして削除したいコマを同様に右クリックして削除すればいい。作業がすべて終わったら「ムービーの発行」をクリックし、動画を保存しよう

ワンポイント ムービーの発行

「ムービーの発行」では、発行先(保存先)をパソコン、メディア、デジタルビデオカメラなどから選ぶことができる。直接DVDに発行し、DVDビデオにすることも可能だ。

難易度 普

無料で継続して使えるセキュリティソフトを導入する

効果絶大ワザ10選

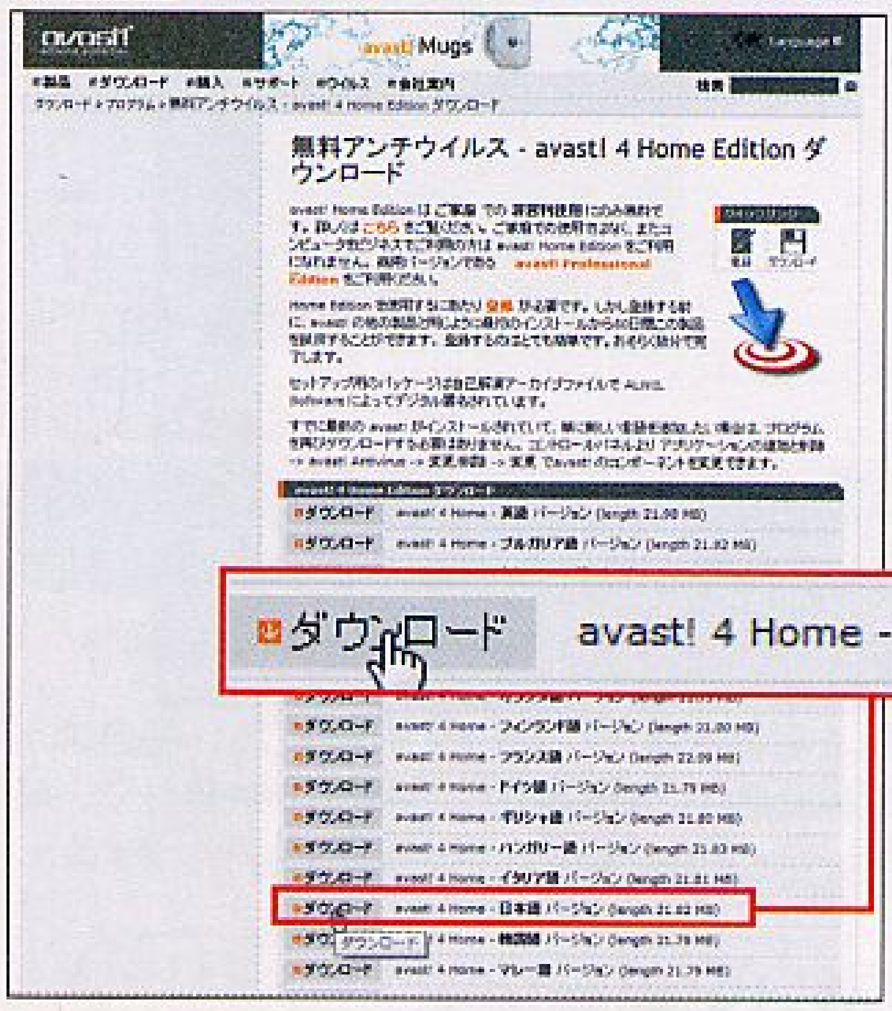
快適指数

効果
●インターネットやメールからのウイルス感染を防ぐ
●継続が有料の市販ソフトと違い無料で継続して使える

XPに比べてVistaでは、不正侵入を防ぐファイアウォールや、フィッシング詐欺を検出する機能などセキュリティが大幅に強化された。しかし、ひとつだけ搭載していないセキュリティ機能がある。それはウイルス対策だ。セキュリティソフトが入っていない状態で「Windowsセキュリティセンター」を開いてみると「マルウェア対策」が赤く表示され「設定を確認してください」となっており、早急にセキュリティソフトを入れる必要があることがわかる。ここでは無料で継続・更新して使用できる「avast! 4 Home Edition」を導入してみよう。

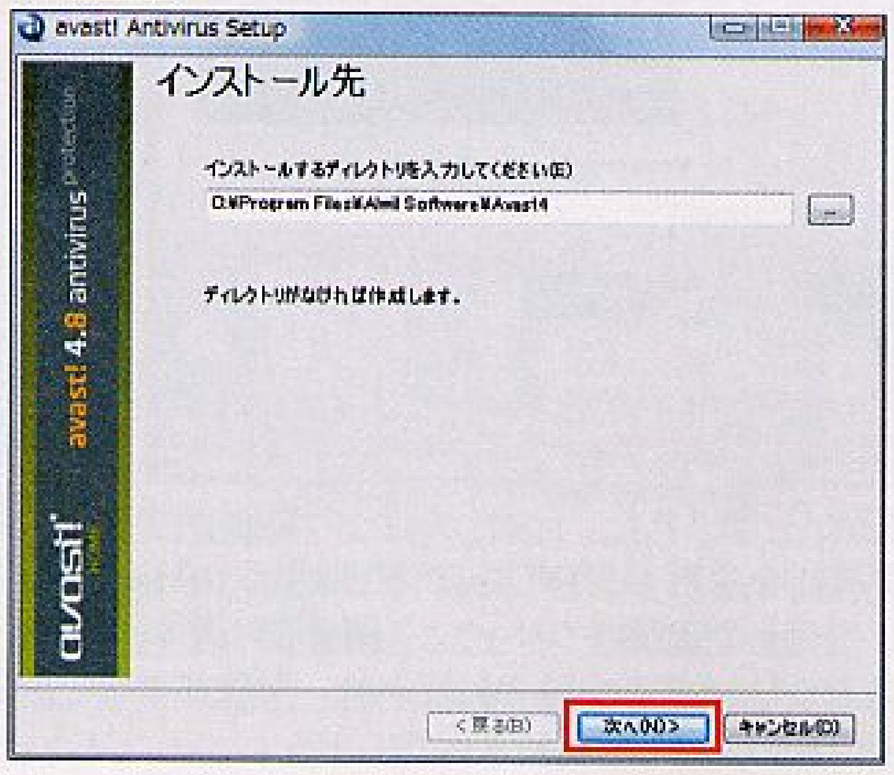
ダウンロードとインストール

1 「avast! 4 Home Edition」の日本語版をダウンロードする



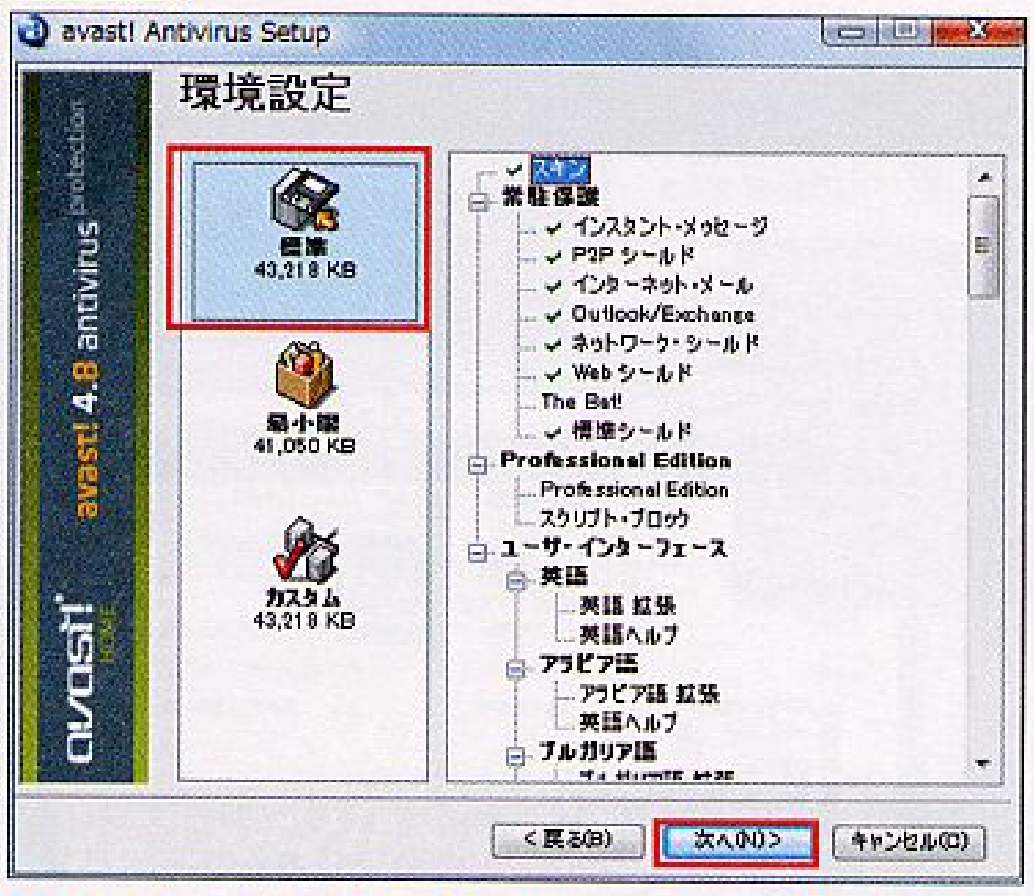
ALWIL Softwareのホームページにアクセスし、「avast! 4 Home Edition」の日本語バージョンをダウンロードする。「日本語バージョン」の「ダウンロード」をクリックし、ソフトをダウンロードする。家庭での非営利使用に限り、登録すれば無料で使うことができる

2 インストール先を選択する



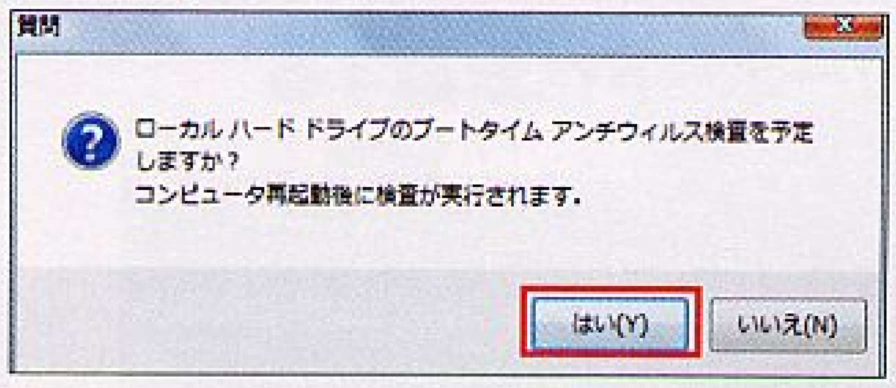
ダウンロードしたファイルを実行すると、ウィザードが始まるので、ライセンス契約などを読み、インストール先を選択したら「次へ」をクリック

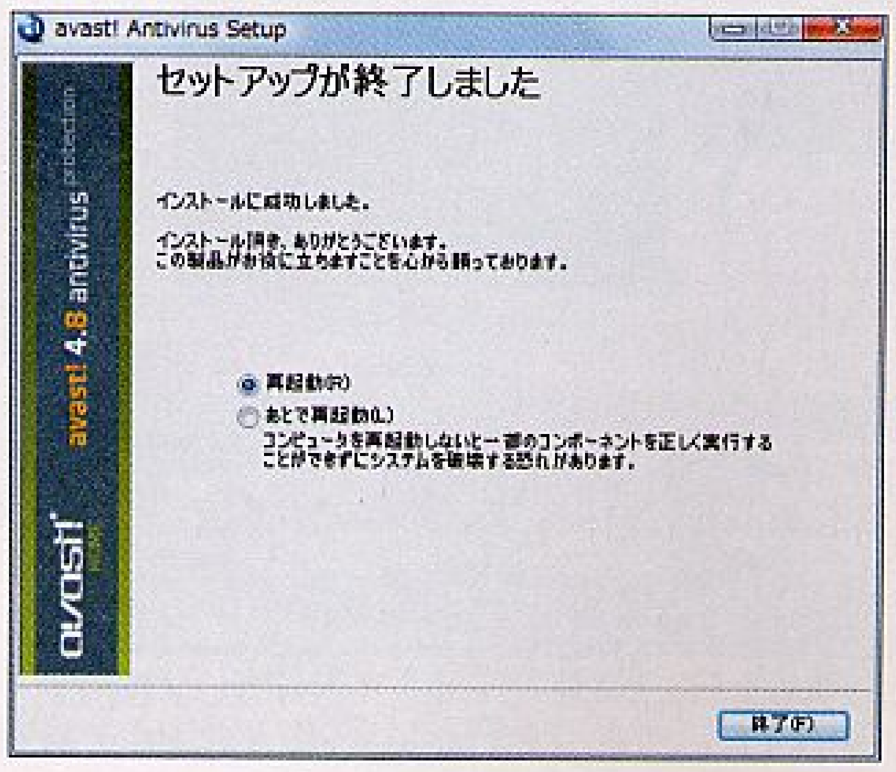
3 環境設定を選択する



初期設定で「標準」が選択されているので、よくわからない人はそのまま「次へ」をクリックする

4 再起動後に検査を実行する



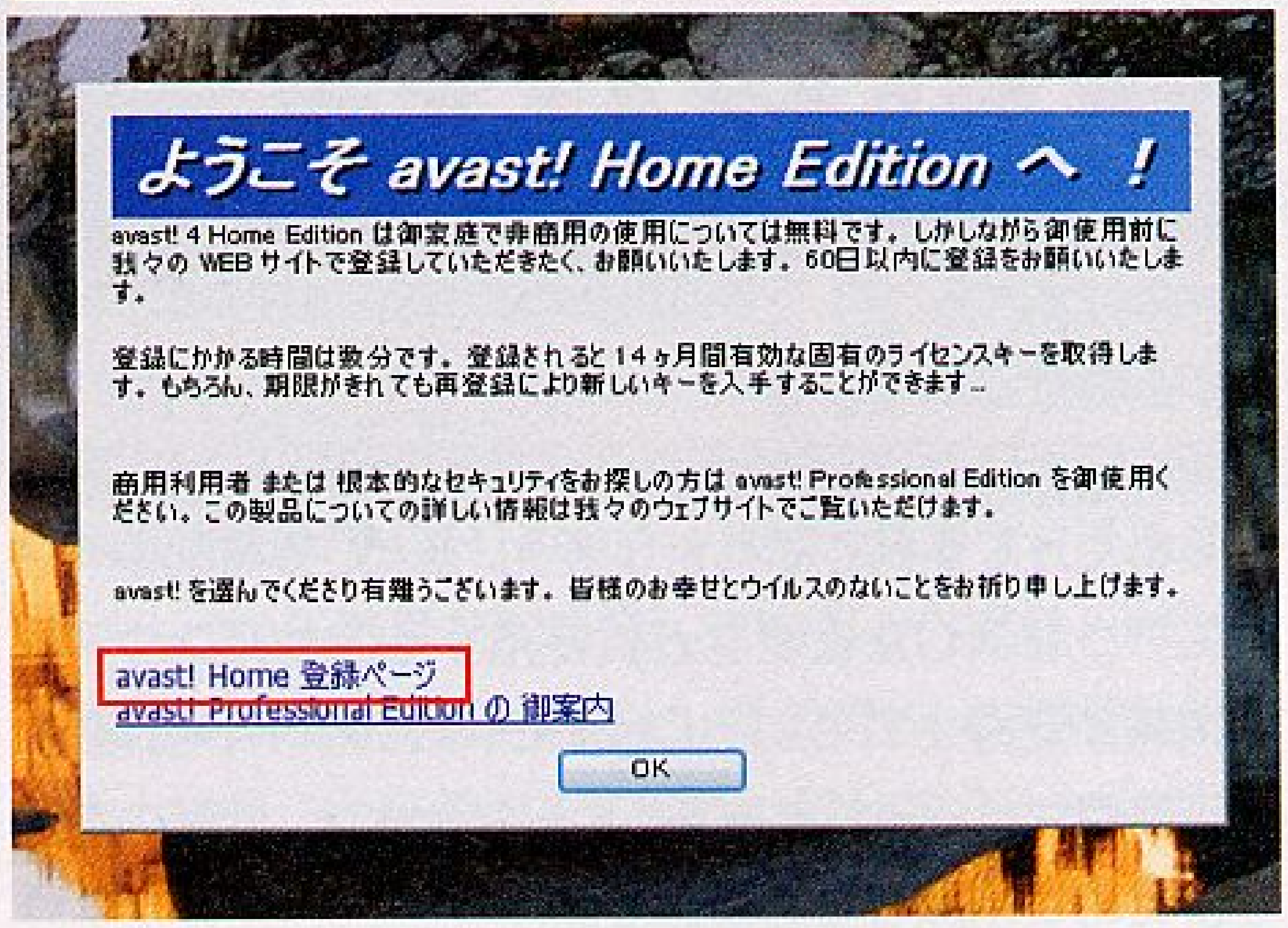


インストールが完了すると、再起動後にハードディスクのウイルス検査を求めるダイアログが表示されれるので「はい」をクリックする（検索には時間がかかるので、後から行なうなら「いいえ」をクリックする）。「終了」をクリックして再起動しよう。検査を「はい」にしていると、再起動後にウイルス検索が始まる

Keyword アンチウイルスソフト
パソコンのシステムに常駐し、ウイルスの検知や駆除を行なうソフト。ウイルスを含むファイルがパソコン内にコピーされたり、起動して被害を及ぼしたりするのを防いでくれる。

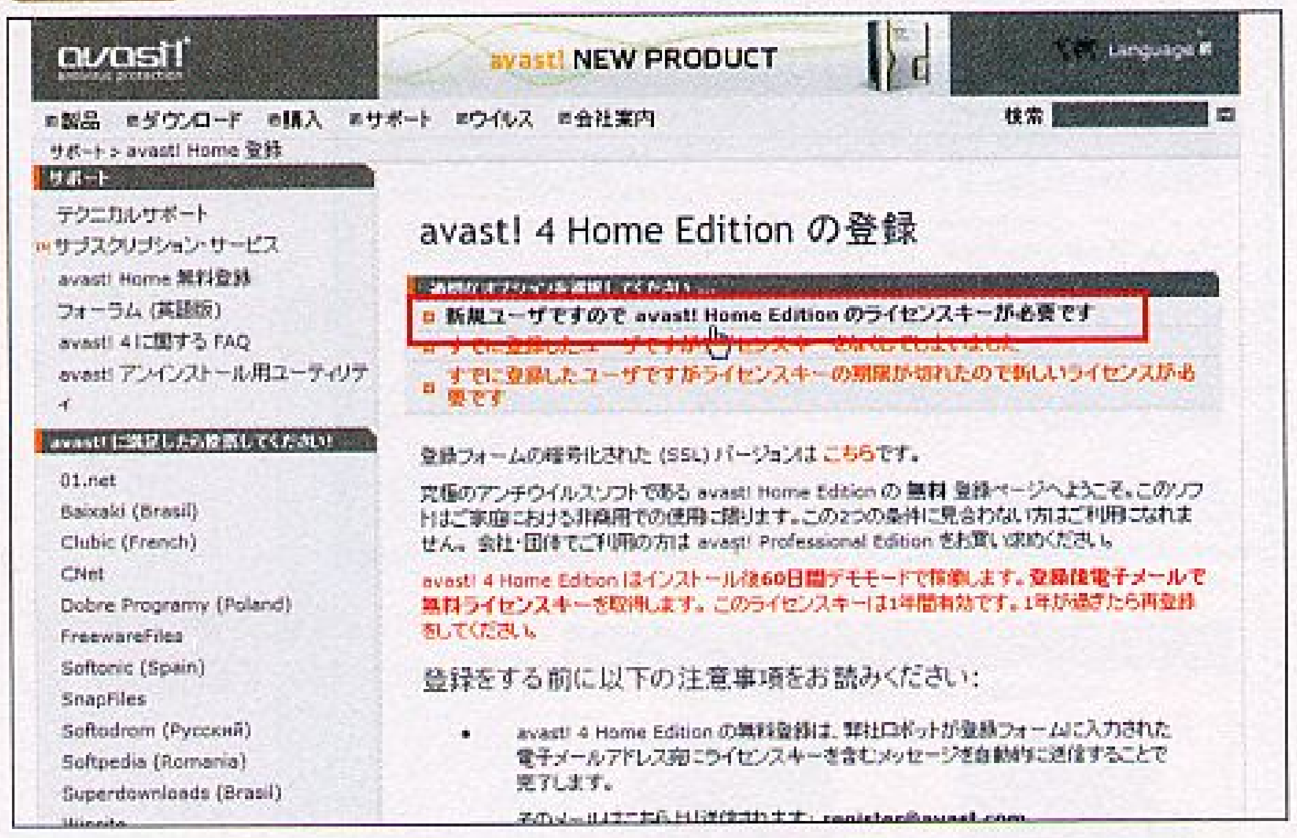
ユーザー登録を行なう

1 avast! Homeのページでユーザー登録を行なう



ウイルススキャンが終了してWindowsが起動すると、この画面が現れる。ユーザー登録を済ませるため「avast! Home 登録ページ」をクリックする

2 登録情報を入力する

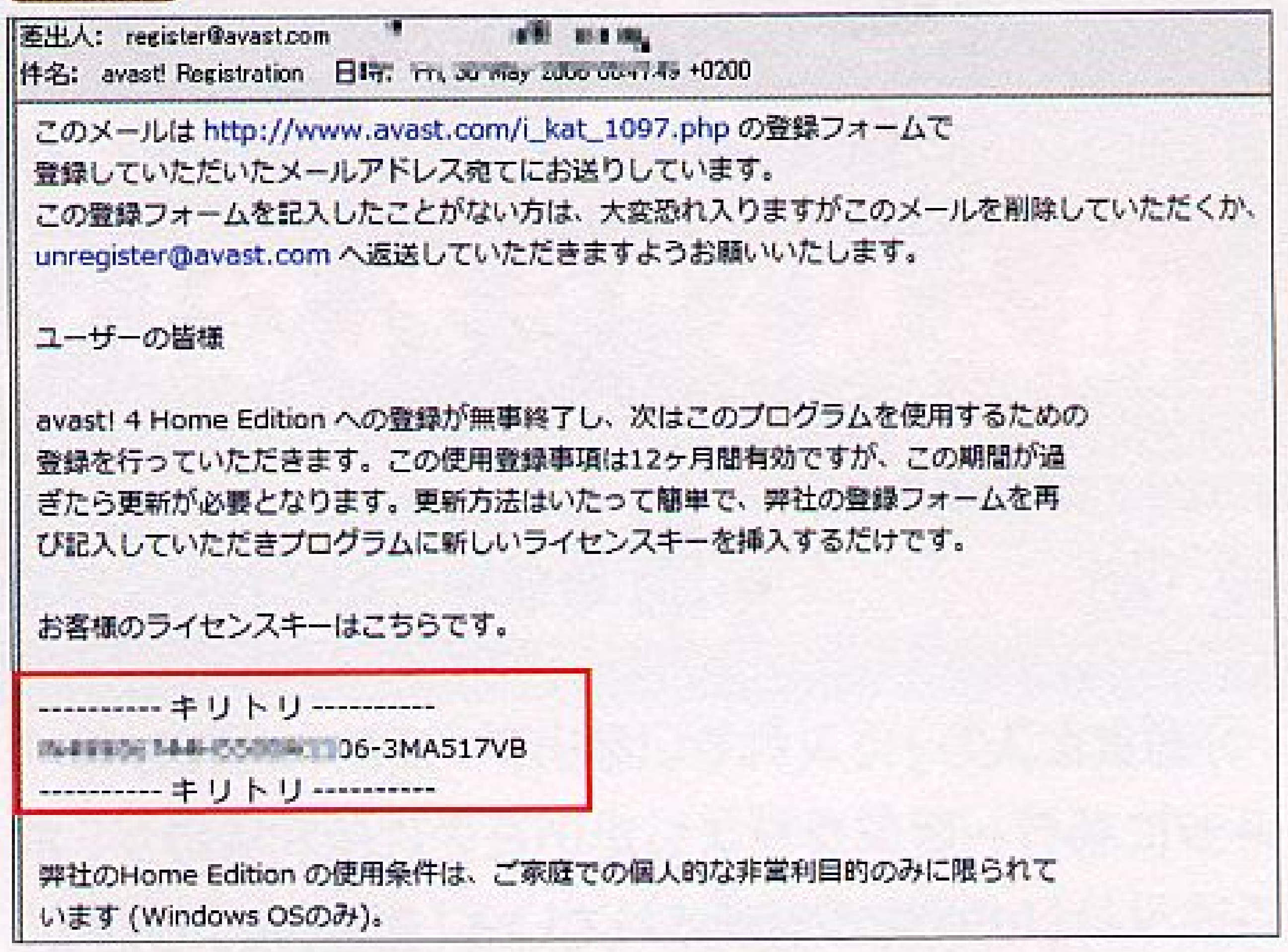


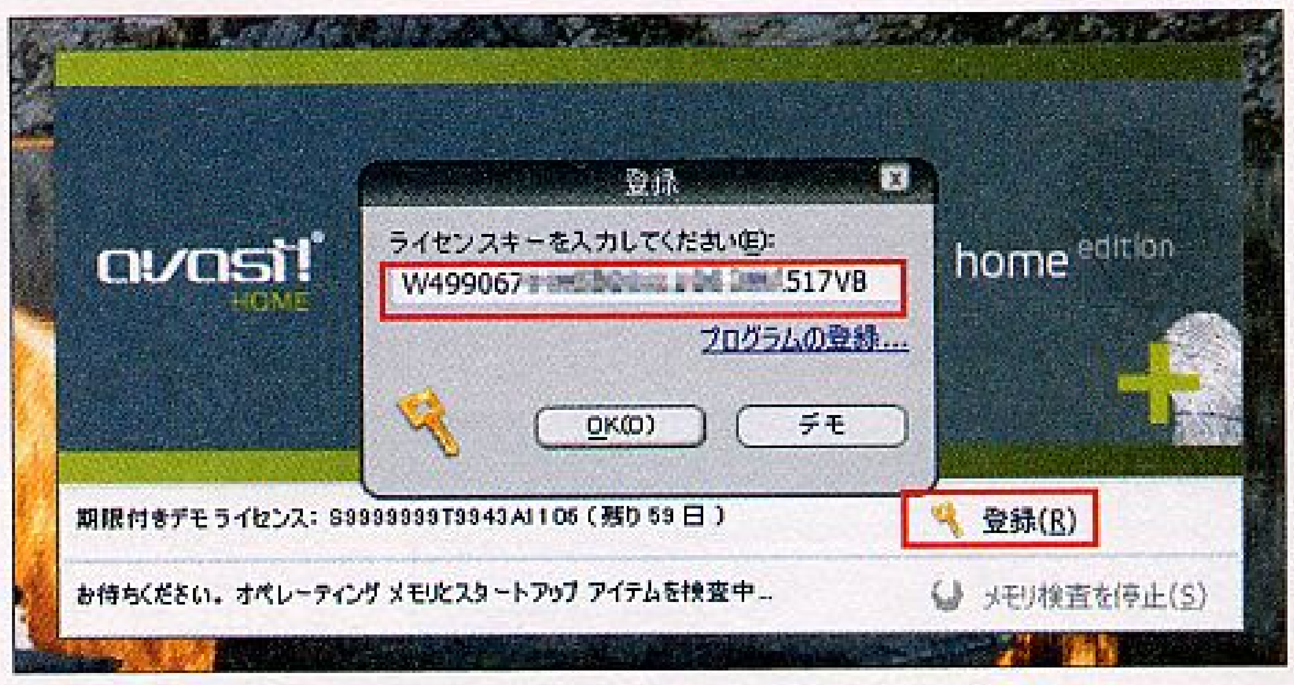
登録ページが開いたら、「新規ユーザですので～」をクリック。登録画面にメールアドレスを入力する。必要に応じて名前や住所などを入力したら「登録」をクリックする

avast! 4 Home Edition 使用ソフト

- ●作者：ALWIL Software ●種別：フリーウェア（家庭での非営利使用のみ）
- ●対応OS：Windows 95/98/Me/NT4.0/2000/XP/Vista
- ●URL：http://www.avast.com/index_jpn.html

3 メールでライセンスキーが届く





ユーザー登録の際に入力したメールアドレスにライセンスキーが送信される。届いたメールのライセンスキー部分をコピーしておこう。デスクトップに作成された「avast! Antivirus」のショートカットをクリックすると「avast!」が起動するので「登録」をクリックし、先ほどのライセンスキーをペーストして「OK」をクリックすれば登録は完了だ

もっと快適!!テクニック

「avast!」でウイルスが発見されたときの対処法

「avast!」の常駐保護中に、ウイルスの危険性があるファイルのダウンロードやコピーしようとすると警告音とともにメッセージ、警告画面が表示され、侵入を防止してくれる。「処理」に表示されている方法を選択してウイルス侵入を防止しよう。これでウイルスの侵入を未然に防ぐことができるのだ。

「avast!」常駐保護中にウイルスの危険性があるファイルをダウンロードしようとすると、このような警告画面が表示される

ワンポイント ウイルス定義ファイルの更新

進化し、増え続けるウイルスに対抗するため、ウイルス定義ファイル（ウイルスの特徴を記した記録）はどんどん更新される。新種のウイルスを検知するためは、セキュリティソフトも日常的に更新しなければならないのだ。

難易度 易

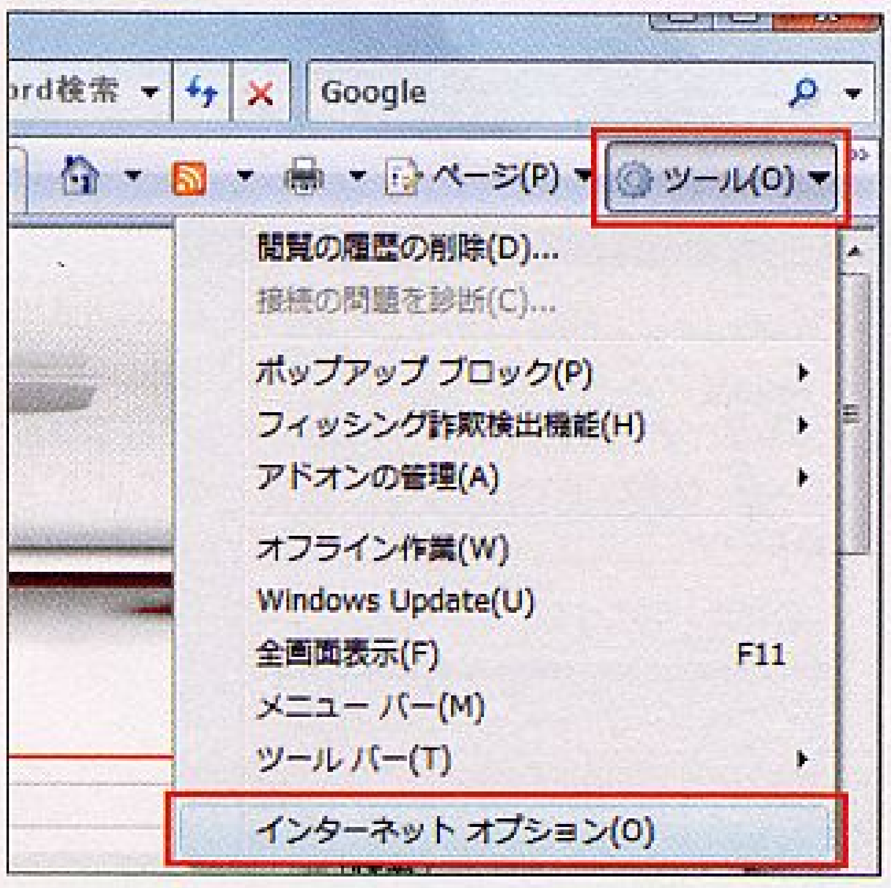
ホームページ閲覧の履歴を他人に知られないようリセットする

快適指数

効果 ●個人情報などのセキュリティを守れる
●家族に知られたくない閲覧記録を消せる

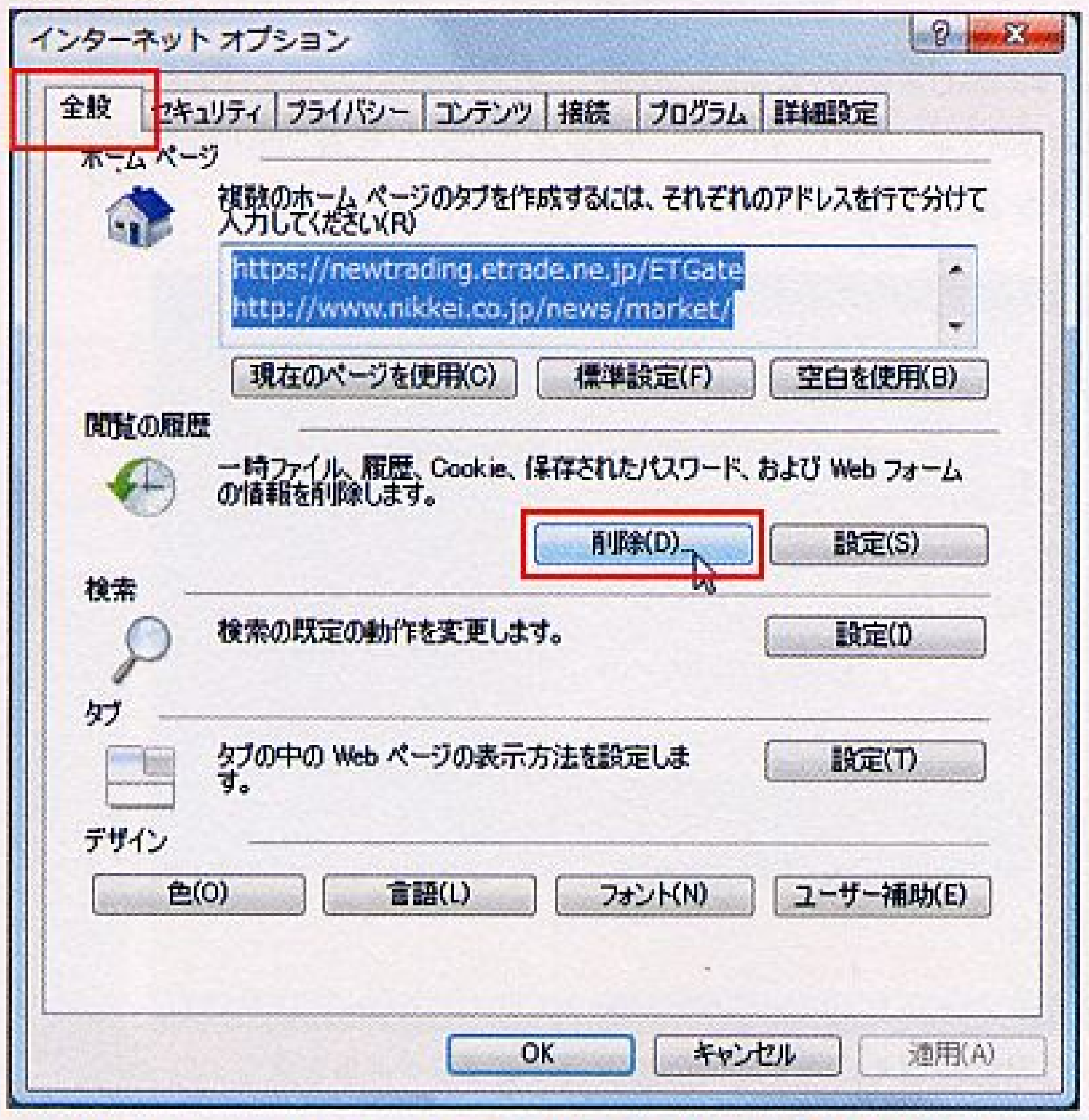
「お気に入り」に入れていない、一度訪れただけのページにもう一度アクセスしたいときに便利なのが、ホームページの閲覧が記録されている「履歴」だ。しかし、家族や第三者などと共有してパソコンを使っている場合、自分がどんなページにアクセスしたのかが何週間にもわたってすべてばれてしまう。また、会員制のページにアクセスしたときなどに使用するIDやパスワードの情報が記録されているCookieやパスワード情報が、不正使用される恐れもある。こんなときは、閲覧の履歴をまとめて削除してしまおう。

1 「インターネットオプション」を開く



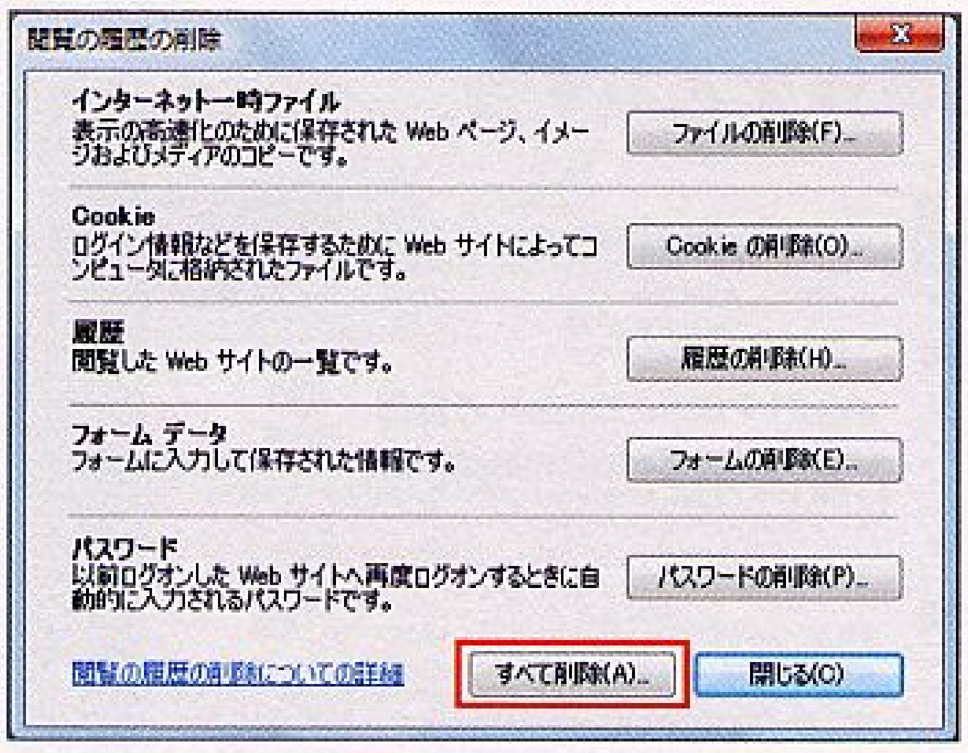
Internet Explorer 7を起動し、「ツール」のプルダウンメニューをクリックし、「インターネットオプション」を選択する

2 閲覧の履歴を削除する



インターネットオプションの画面が開いたら「全般」タブの「閲覧の履歴」項目から「削除」をクリックする

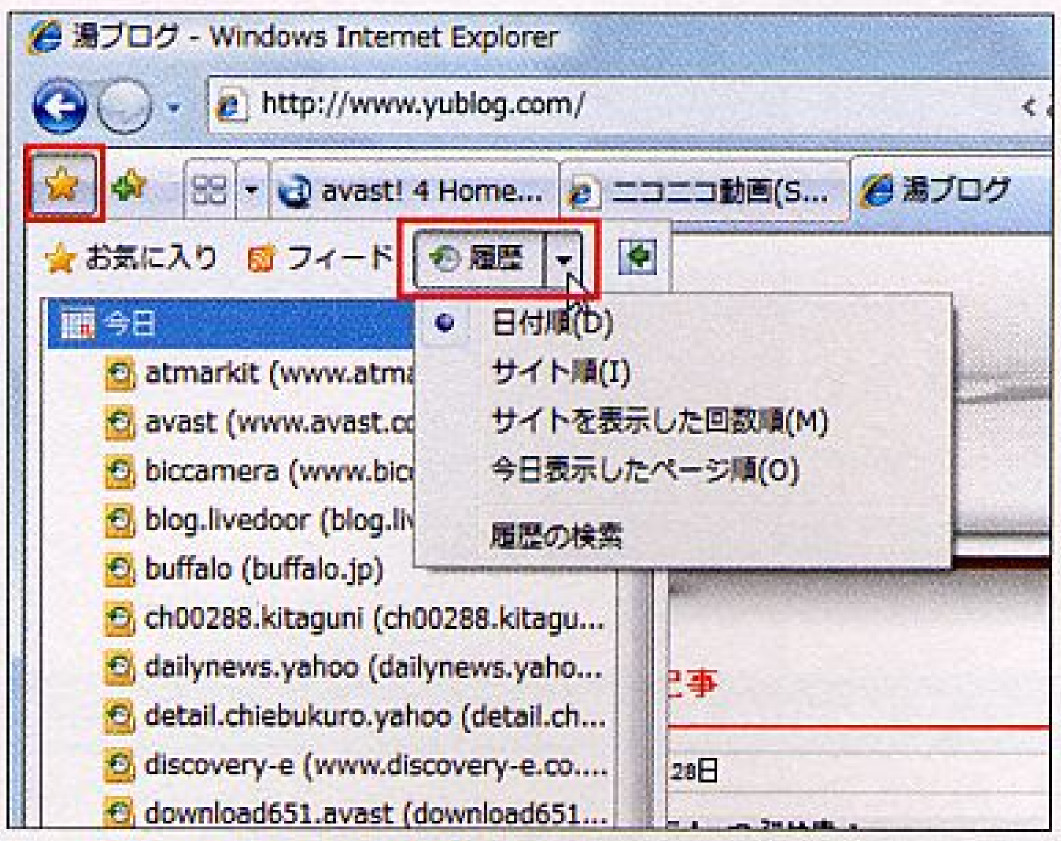
3 削除する内容を選択する



「Cookie」や「履歴」「パスワード」など、削除したい閲覧の履歴を個別に削除できる。これら全部を削除したい場合には「すべて削除」をクリックする

もっと快適!! テクニック Internet Explorerの履歴を確認するには

「履歴」を確認するにはInternet Explorerの☆をクリックし、「履歴」のプルダウンメニューから表示方法を選ぶと一覧が表示される。



注意 ID・パスワード忘れに注意

3で「すべて削除」を選択すると、SNSなど会員制のページにログインする際に自動表示されていたIDやパスワードも削除されてしまう。再度入力することになるので、削除前に確認しておこう。

難易度 易

テキスト形式で受信してウイルスや迷惑メールを防ぐ

快適指数

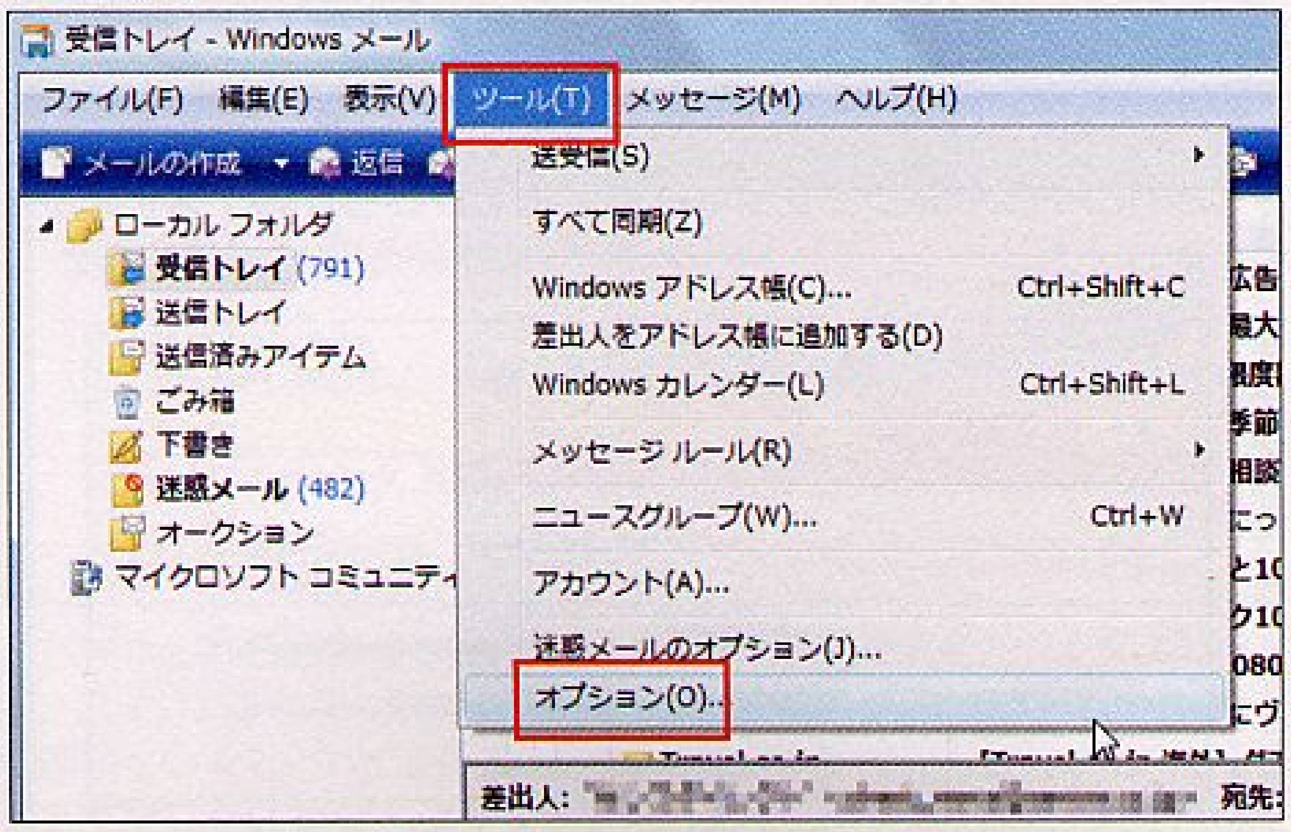
効果
- ●迷惑メールが増えてしまうことを防ぐ
- ●ウイルスメールの可能性があるメールを開かない

画像を表示するHTMLメールは、添付ファイルや外部サーバから画像を読み込んでいる。外部サーバにアクセスして画像を読み込むと、そのアドレスが使われているということを差出人に知らせてしまうことになる。悪意ある差出人ではこうして使用アドレスの当たりをつけ、迷惑メールを集中的に送信してくることがある。また、画像を添付ファイルから読み込むHTMLメールも安全ではない。ウイルスは画像やHTMLに仕込むこともできるため、非常に危険なのだ。受信メールをテキスト形式で受け取るよう設定を変更しよう。

1 危険なHTMLメール

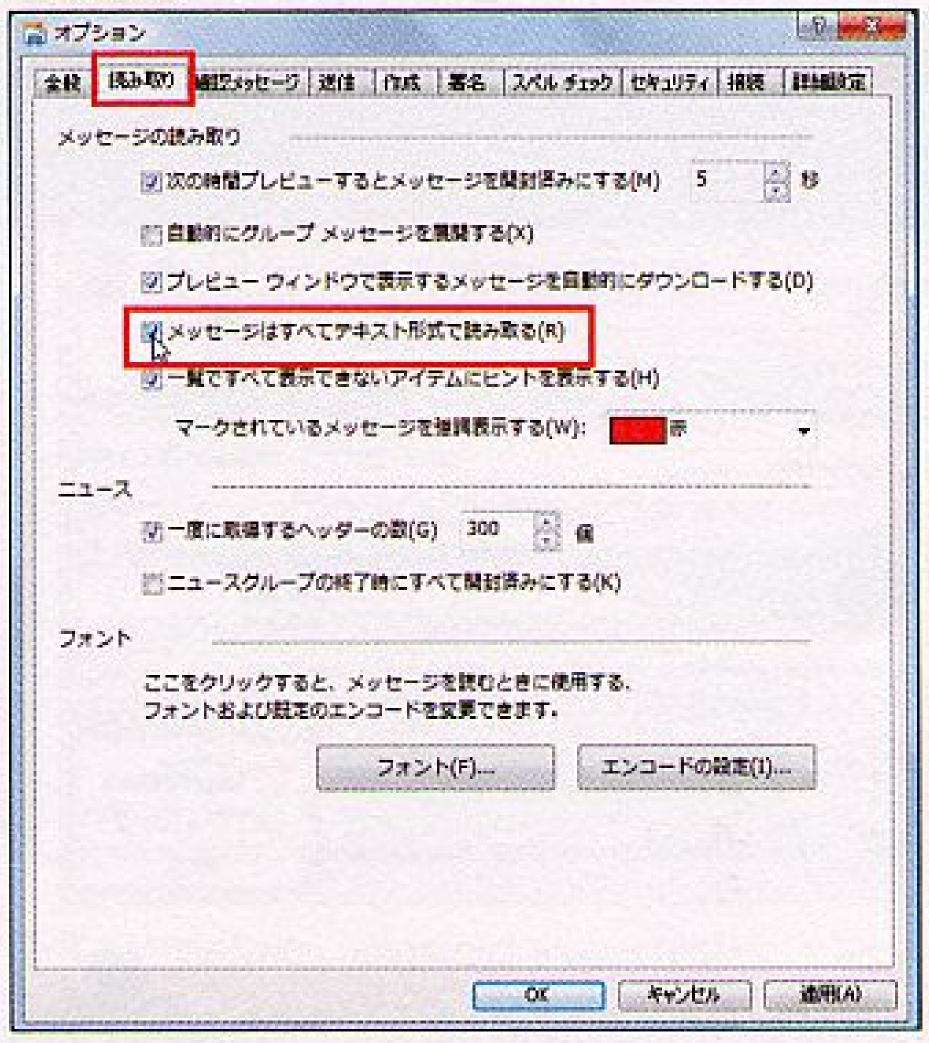
画面のようにホームページと同じHTML形式で送られてくるHTMLメール。Windowsメールでは、セキュリティのために外部サーバから読み込む画像は自動的にブロックする設定になっている。安全なメールだとわかっているなら、警告メッセージ欄をクリックして画像を表示させよう

2 メールのオプションを開く



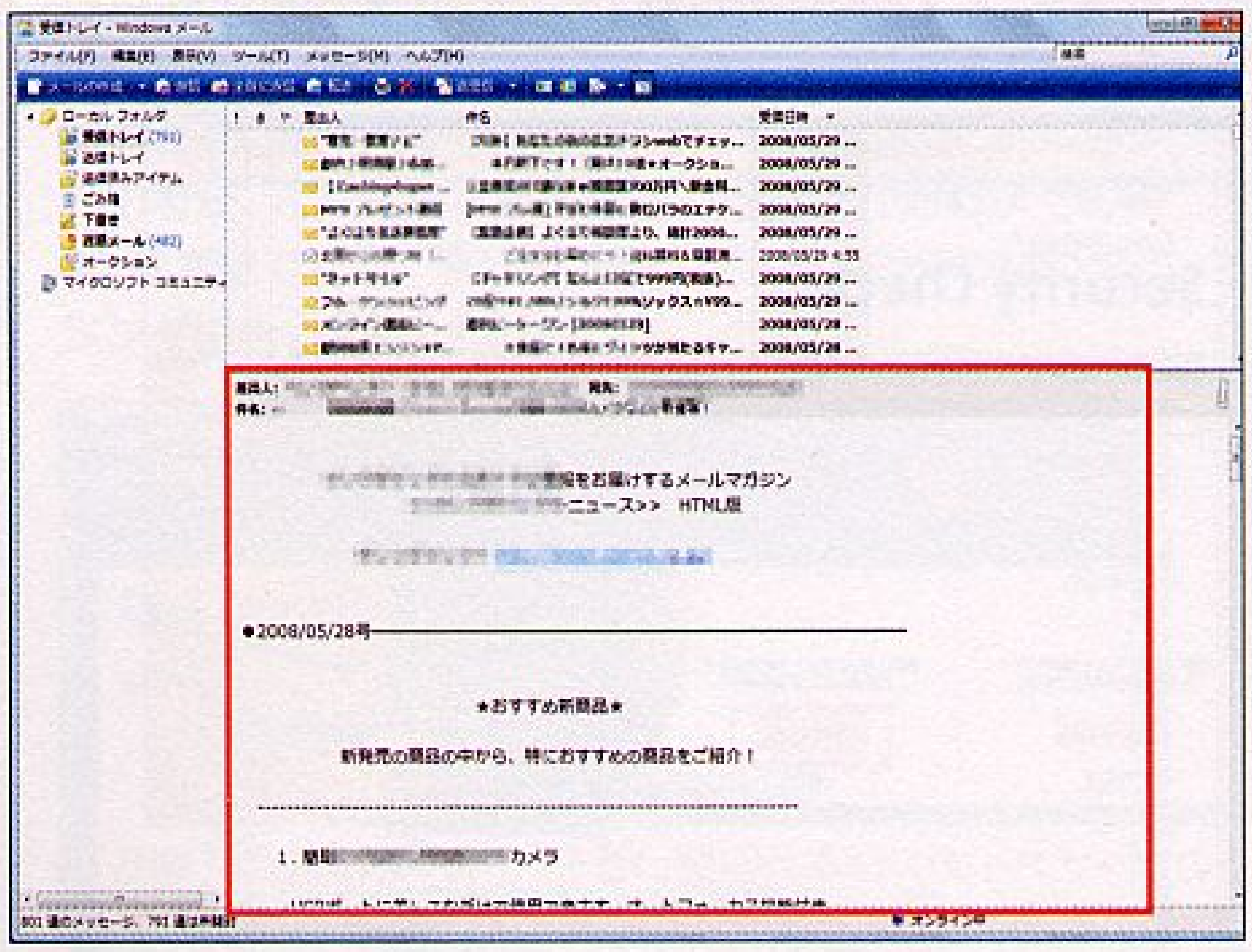
「ツール」メニューから「オプション」をクリックする

3 テキスト形式に指定して画像を完全にブロック



「オプション」画面が開いたら「読み取り」タブをクリック。「メッセージはすべてテキスト形式で読み取る」にチェックを入れ「OK」をクリックする

4 メールがテキスト形式で表示されるようになった



1 でHTML形式だったメールが、テキスト形式で表示された。画像を添付する形式のHTMLメールでもテキスト形式で受信できるので安心だ

Keyword HTMLメール

ショッピングサイトなどの広告で多用されるHTMLメール。ホームページと同じ形式で外部サーバにある画像を読み込んで表示させるものと、画像そのものを添付することにより表示させるタイプの2種類がある。

難易度 易

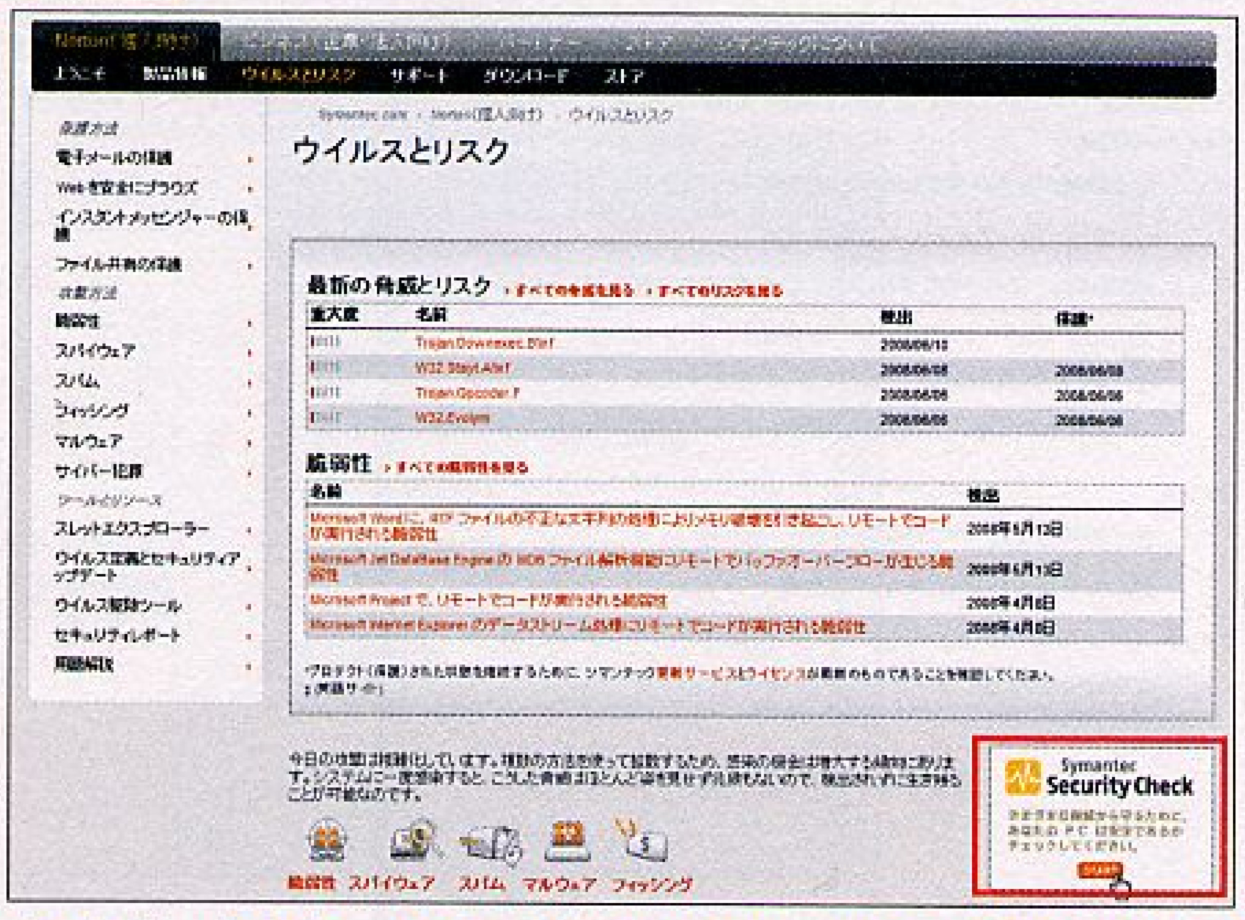
無料のオンラインスキャンでウイルスを検索する

快適指数

効果
●最新のウイルスチェックがオンラインですばやく行なえる
●ソフトをダウンロード・インストールする必要がない

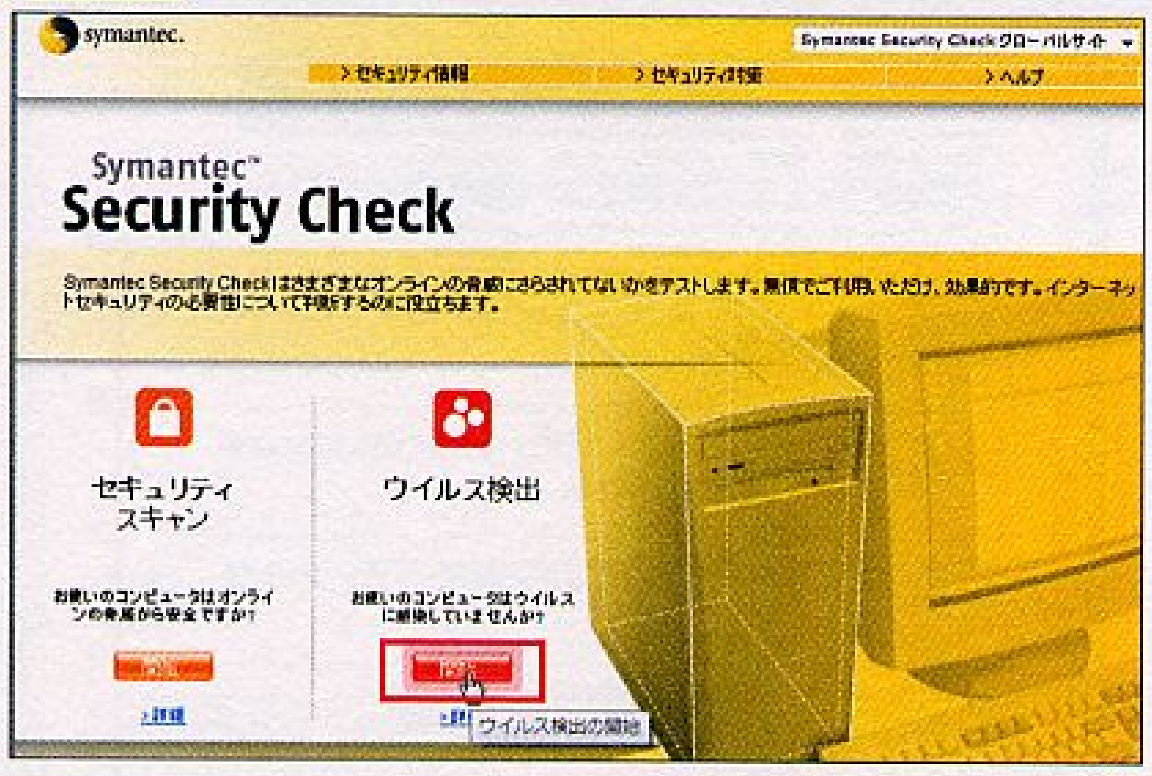
日々進化するウイルスやネットの脅威に早急に対処するなら、オンラインウイルスチェックを行なってみよう。シマンテックの「Security Check」では、ウイルス感染を調べる「ウイルス検出」を無料で行なえる。既知のウイルスを発見し、もし新種のウイルスが発見された場合、ワクチンを開発して配信してくれる。ウイルス感染が疑われるときは、直後に被害が始まる恐れがあるので、1分1秒でも早く対策をとりたいもの。このチェックにはソフトのインストールなどは不要。ボタンひとつですぐに開始できる。

1 シマンテックの「Security Check」にアクセスする



シマンテックのホームページ（http://www.symantec.com/ja/jp）にアクセスし、「Norton（個人向け）」をクリックする。「ウイルスとリスク」をクリックし、「Security Check」をクリックする

2 「ウイルス検出」を開始する



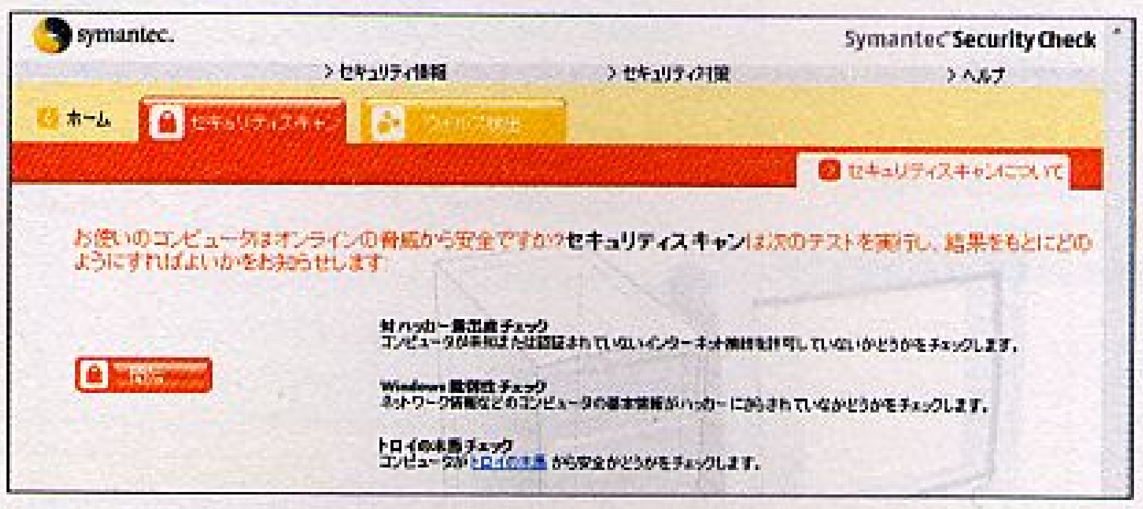
このポップアップウィンドウが開いたら「ウイルス検出」の「開始」をクリックする。「エンドユーザー使用許諾契約」画面では「同意する」を選択し「次へ」をクリック。ActiveXコントロールをダウンロードし、インストールするとチェックが開始される。チェックには時間がかかる場合もあるので、念頭に入れておこう

3 ウイルス検出の結果が表示される

ウイルスに感染していると、このように表示される。ウイルスのある場所、その種類が確認できる。早急にウイルスソフトを導入し、検出・駆除を行なおう

もっと快適!!テクニック セキュリティの状態もチェック!

2の画面から「セキュリティスキャン」も実行できる。「セキュリティスキャン」では、「認証していないネット接続を許可していないか」を調べる「対ハッカー露出度チェック」、ネットワーク情報などの基本情報がハッカーにさらされていないかを調べる「Windows脆弱性チェック」、パソコンがトロイの木馬から安全な状態にあるかどうかのテストを実行する。



Keyword トロイの木馬
ソフトやメール、MP3など、さまざまなものに偽装されパソコンに入り込み、潜伏し、データの消去や流出などの破壊活動を行なうプログラム。ギリシャ神話にちなんで名づけられた。

難易度 普

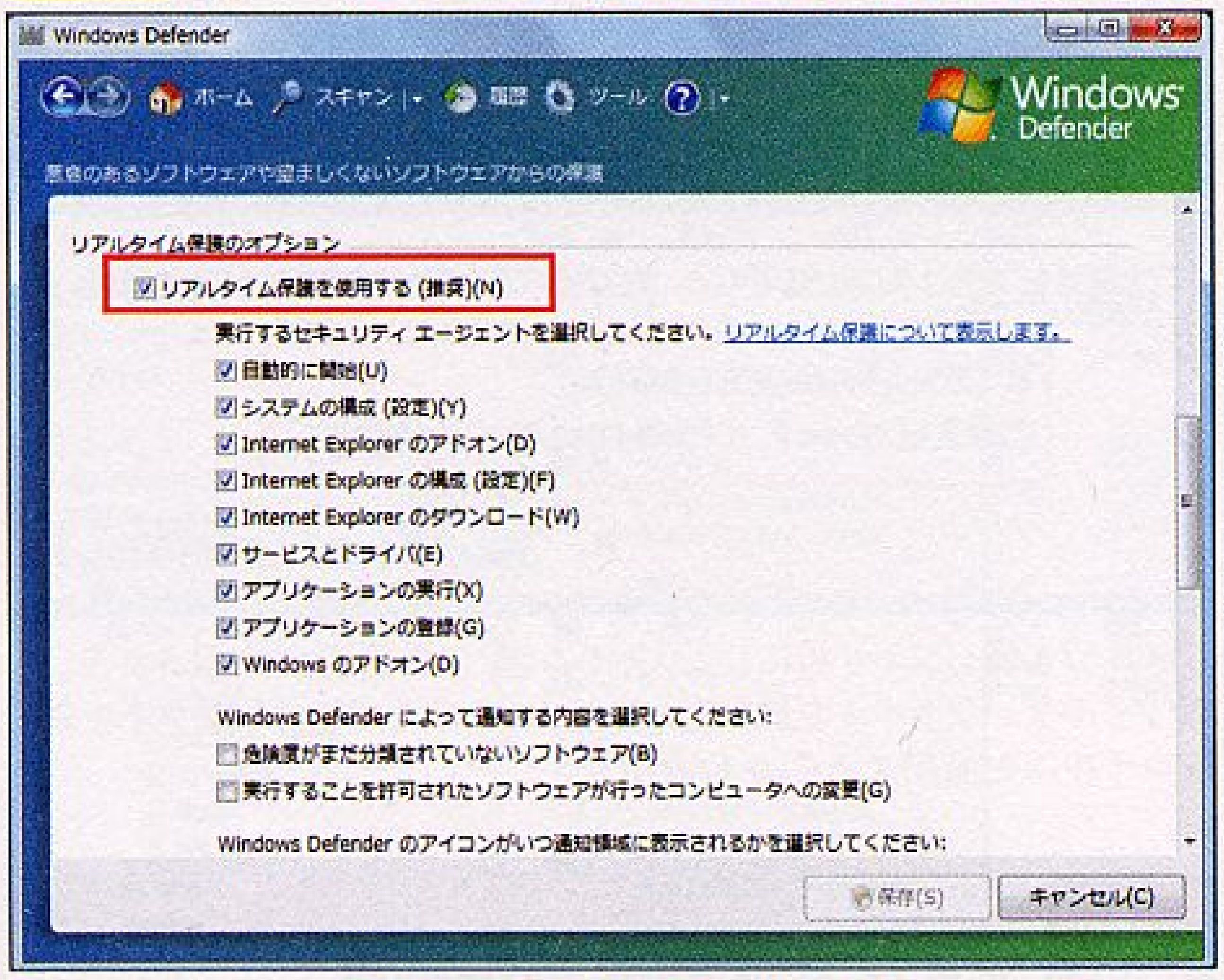
Windows Defenderでスパイウェアを検出・駆除する

快適指数

効果
●パソコンに潜んでいるスパイウェアを発見できる
●発見したスパイウェアを駆除できる

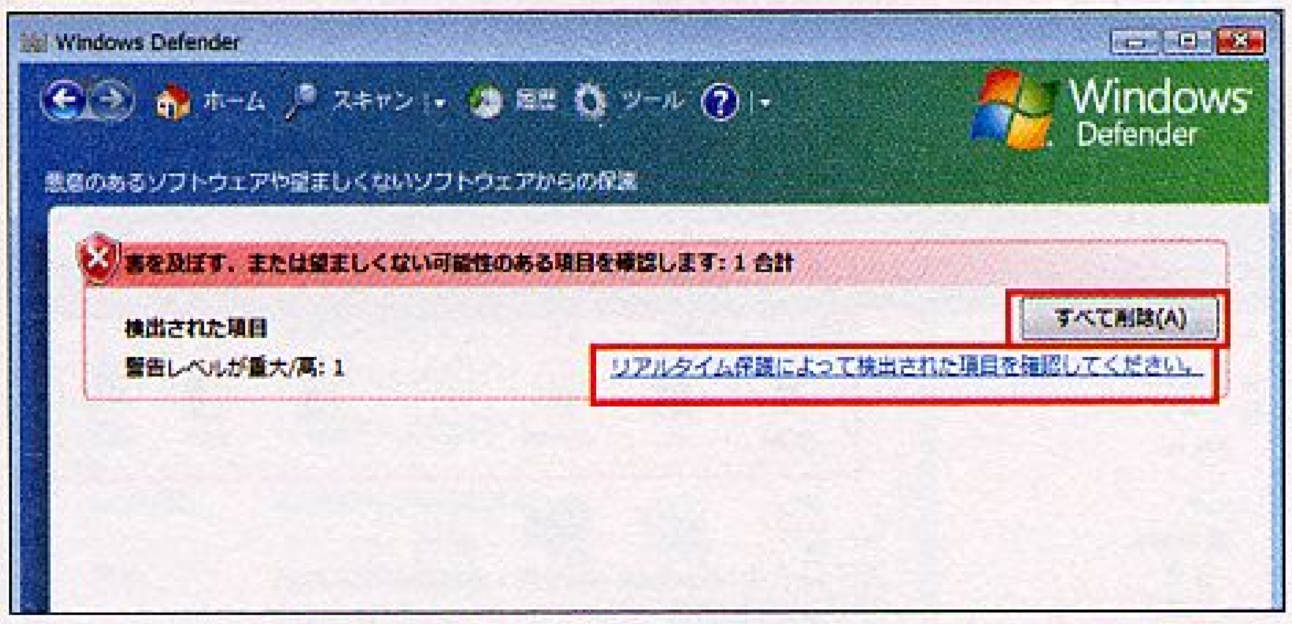
これまでスパイウェア対策は外国製のフリーソフトなどに頼っていたが、Vistaではついにスパイウェア対策ソフト「Windows Defender」が搭載された。「Windows Defender」は「Windows AntiSpyware」の後継に当たるソフトで、ダウンロードすればXPでも使うことができる。「Windows Defender」はこれまでよりスパイウェア定義ファイルの更新頻度を高め、しかも未知のスパイウェアも検出できるなど性能は非常に高い。また、システムに常駐し、リアルタイムにスパイウェアを監視することも可能だ。

1 リアルタイムにスパイウェアの活動を監視して警告



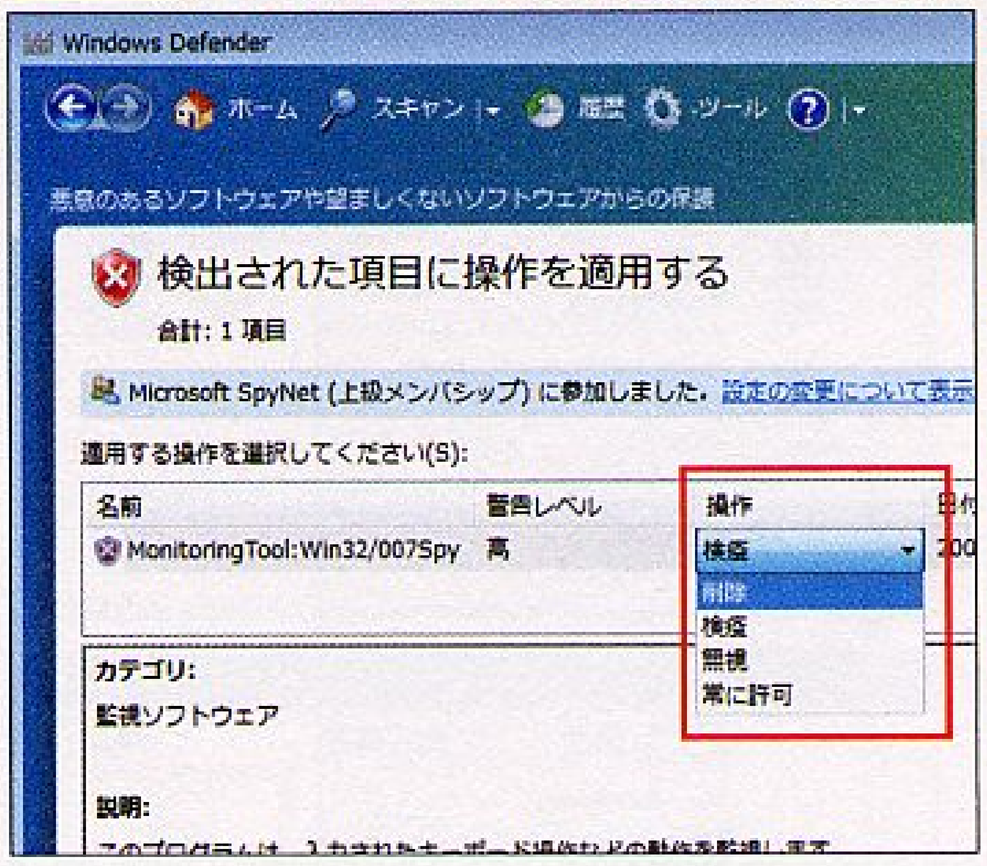
「スタート」メニューの「すべてのプログラム」から「Windows Defender」を起動し、「ツール」→「オプション」を開く。「リアルタイムの保護オプション」で「リアルタイム保護を使用する」にチェックが入っていれば、システムに常駐し、スパイウェアの活動を監視する

2 スパイウェアを検出するとタスクトレイに警告を表示



スパイウェアの活動を検出するとタスクトレイにアイコンが表示される。アイコンをクリックするとこの画面が出る。スパイウェアをすぐに削除したいなら「すべて削除」をクリックする。検出されたスパイウェアを確認したいなら「リアルタイム保護によって～」をクリックするとスパイウェアが表示される

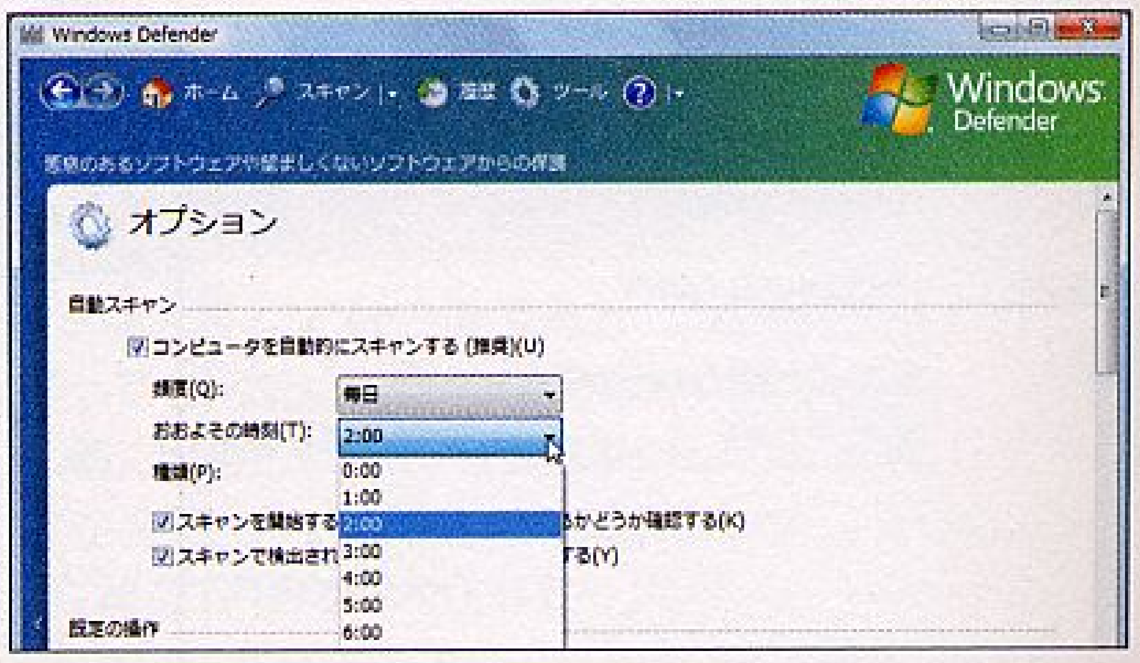
3 スパイウェアは「削除」か「検疫」で処理する



スパイウェアが自分にとって有害なソフトであれば、操作欄の「削除」をクリック。よくわからないときはプルダウンメニューから「検疫」を選べば、必要に応じて復活させることもできる

もっと快適!!テクニック スキャンの時間を好きな時間に変更する

「Windows Defender」は通常自動的にパソコンをスキャンするが、その頻度や時刻を好きなように設定することができる。初期設定では毎日午前2時に行なうことになっているが、これを週ごとに設定できたり、「おおよその時刻」を変更できる。自分があまりパソコンを使わないタイミングに合わせるといいだろう。



Keyword スパイウェア

Windowsに常駐してユーザーの情報を収集して送信したり、広告を表示する有害なソフト。データ削除や感染をしないことからウイルスとは区別される。フリーソフトやWebサイトから気づかないうちにインストールされる。

難易度 普

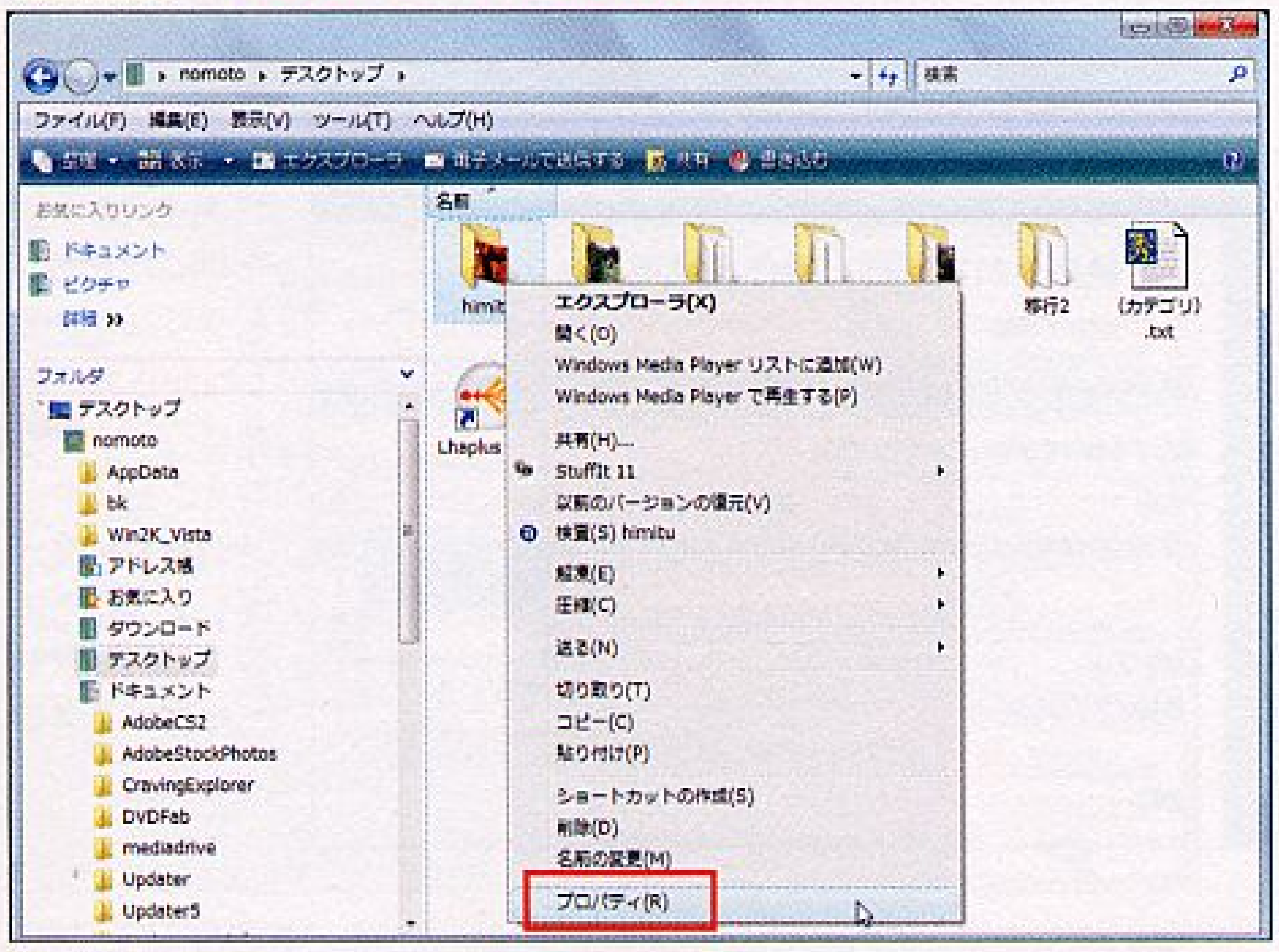
人に見せたくない重要ファイルは隠しファイルにして表示させない

快適指数

効果 ●パスワードや暗号化などの手間がない
●ソフトを使用せずにファイルが隠せる

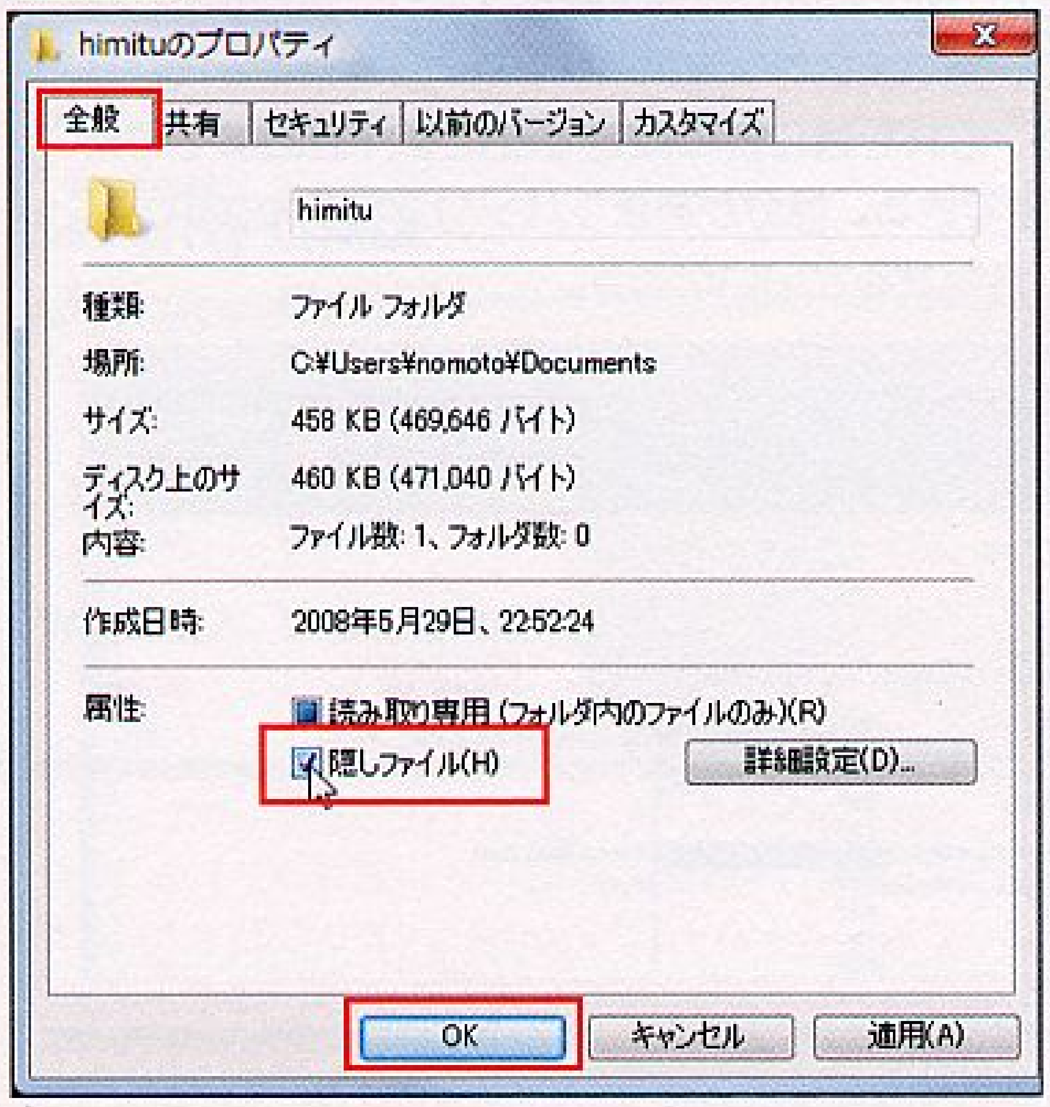
家族や会社の共有パソコンなど、自分以外の人も使用するパソコンでは、第三者に見られたくないファイルもあるだろう。とはいえ、わざわざセキュリティ用のソフトをダウンロードしたり、パスワードをかけるほどのものでもない……。こんなときは、Windowsの機能で簡単にファイルを隠せる「隠しファイル」にしてみよう。ただし、パスワードや暗号化など、強固なセキュリティがかかっているわけではないため、「隠しファイル」のことを知っている人には見破られる恐れもある。あくまで「ちょっとファイルを隠したい」程度の使い方にすること。

1 隠したいファイル／フォルダのプロパティを開く



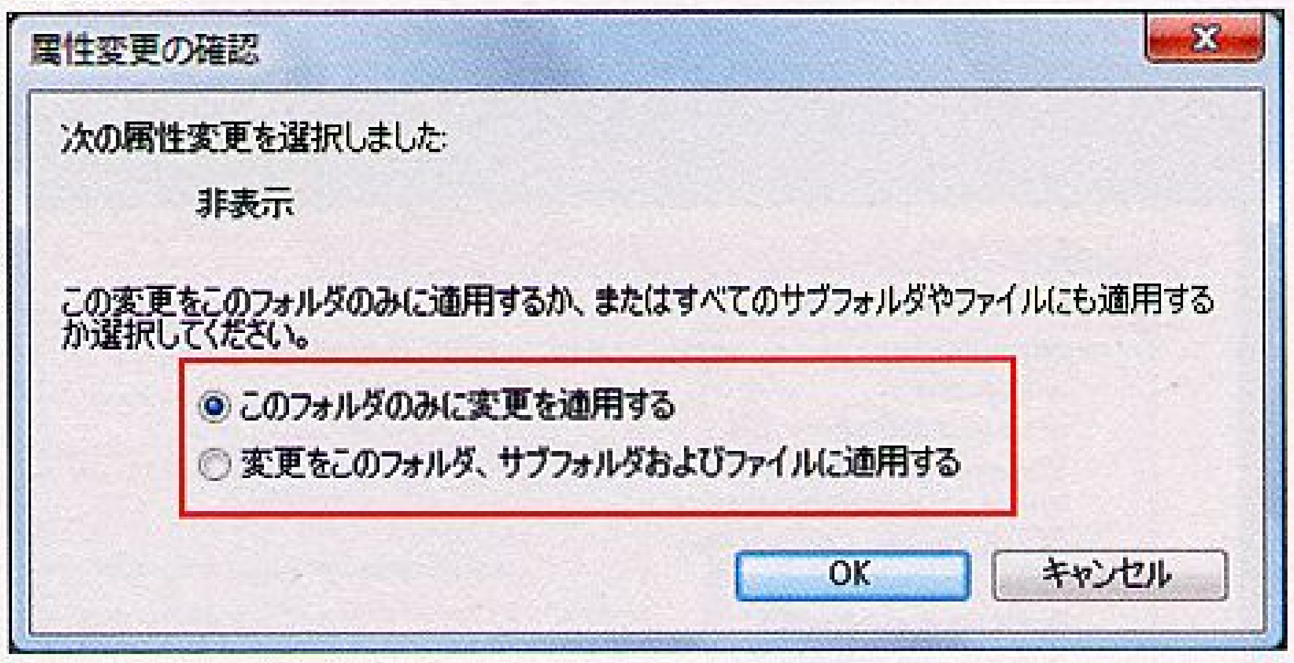
「隠しファイル」にしたいファイルもしくはフォルダを右クリックし、「プロパティ」を選択する

2 ファイル／フォルダの属性を隠しファイルにする



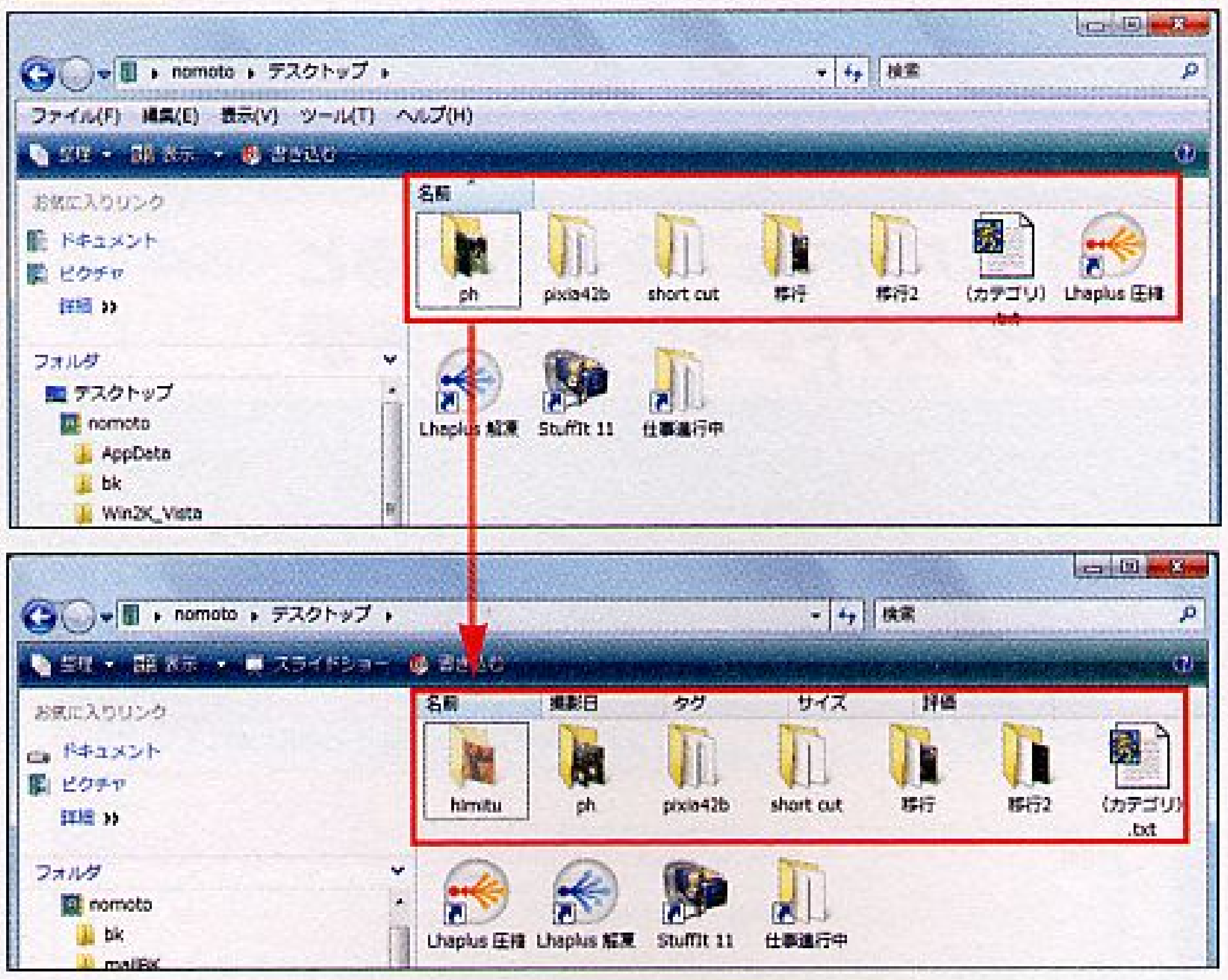
プロパティが開いたら「全般」タブの「属性」項目から「隠しファイル」にチェックを入れ、「OK」をクリックする

3 変更の適用範囲を選択する



フォルダを隠しファイルにしようとすると、この画面が表示される。そのフォルダ／ファイルだけを隠しファイルにするのか、サブフォルダ／ファイルにも適用するのかを選ぶ

4 フォルダが非表示になる



上の画面のように隠しファイルにしたフォルダが非表示になり、見た目には存在がまったくわからなくなった。元に戻すには、まず77ページの方法で隠しファイルを表示する設定にする。下の画面のように半透明で表示されるので、2の「隠しファイル」のチェックを外す。隠しファイルにしたものをどこに入れてあったか忘れないようにしよう

Keyword 隠しファイル
主にWindowsのシステムファイルなど、変更や削除を行なうとシステムに重大な影響を及ぼすおそれがあるファイルが隠しファイルになっている。77ページの方法で表示させることができる。

難易度 普

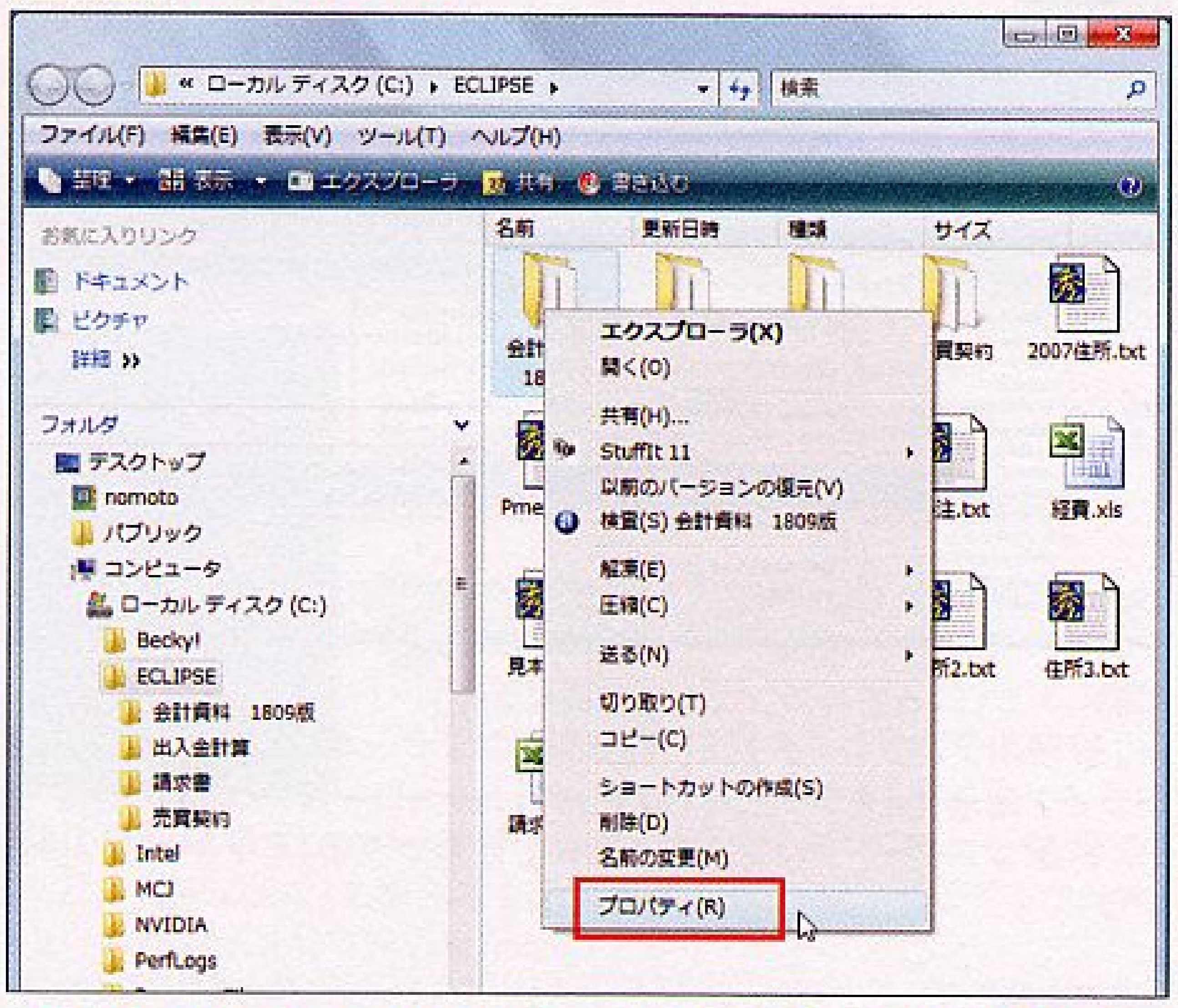
見られたくないファイルやフォルダは暗号化してガードする

快適指数

効果
●暗号化したファイルは他のユーザーからアクセスできなくなる
●情報漏えいを未然に防ぐことができる

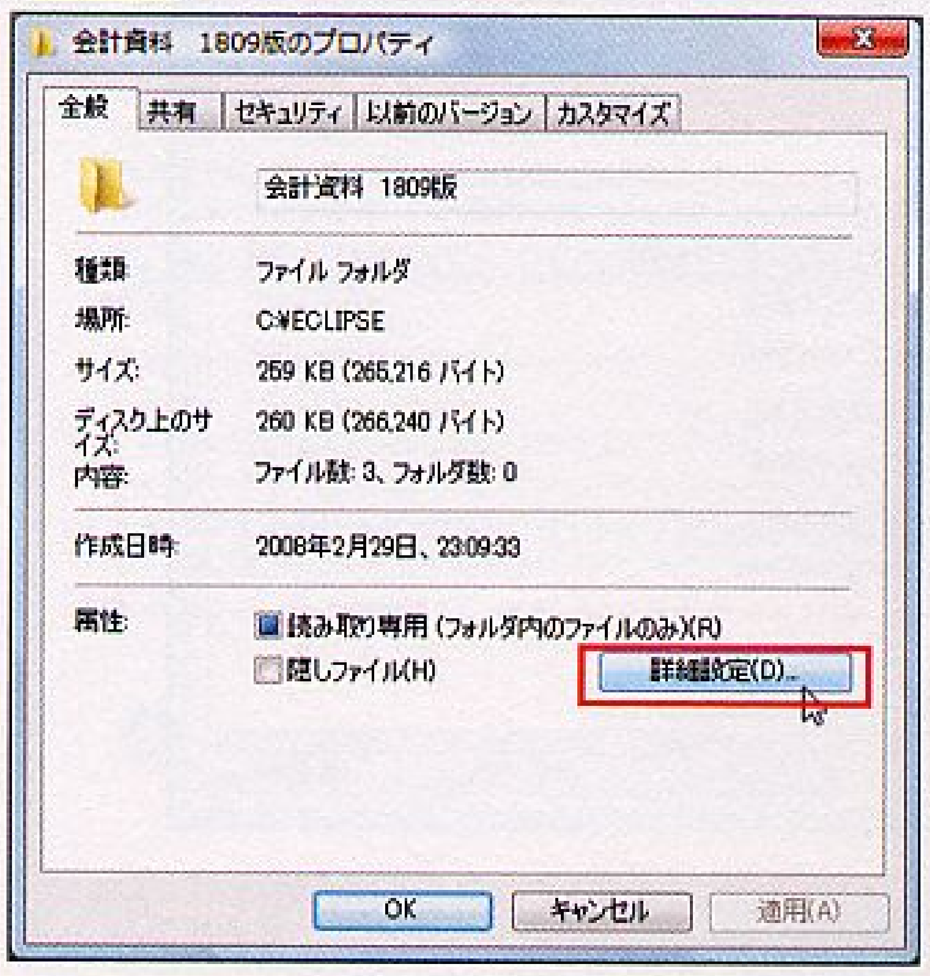
「BitLocker」(100ページ参照)は、ドライブをほとんど丸ごと暗号化する。しかし、ドライブ全部の暗号化は大掛かりすぎる。ファイル(フォルダ)単位で暗号化を行ないたいこともあるだろう。自分のユーザーアカウントでログオンしてファイルを暗号化すると、そのファイルは他のユーザーアカウントでログオンしても開けなくなる。たとえば、同じパソコンに別のユーザーがログオンしてファイルを開こうとしたり、他のパソコンから不正侵入してファイルを盗んだりしても、暗号化されていれば開くことができないので安心だ。

1 暗号化するファイル/フォルダを選択する



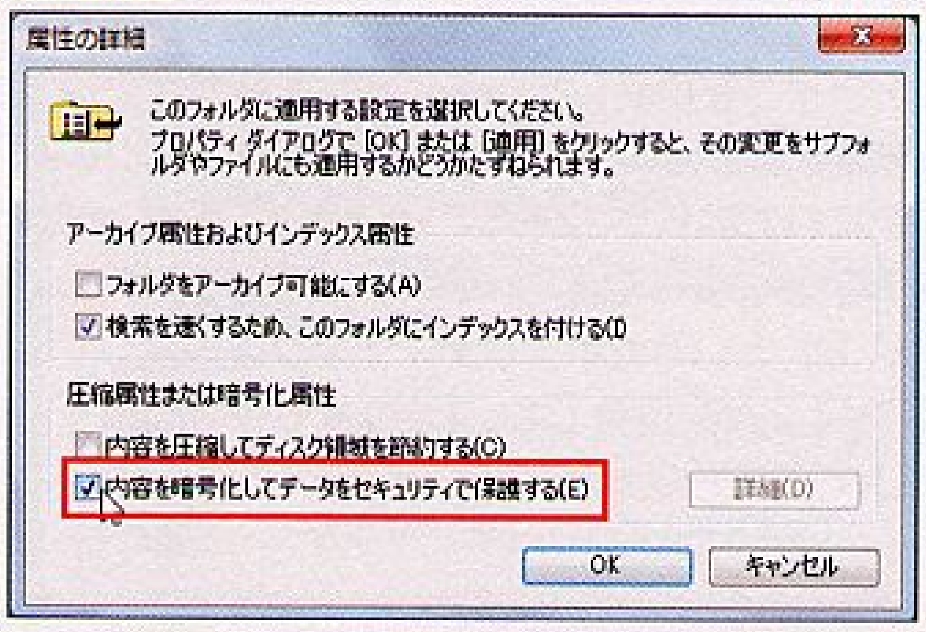
暗号化を行ないたいファイルやフォルダを右クリックして「プロパティ」を選択する

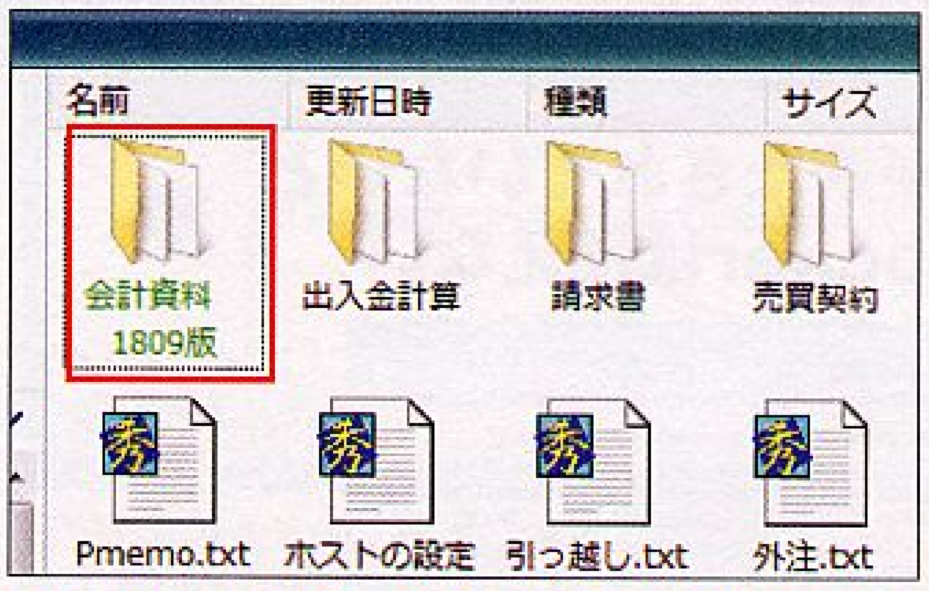
2 詳細設定を開く



選択したファイルやフォルダに関する情報画面が表示される。「全般」タブの「詳細設定」ボタンをクリック

3 暗号化を実行する





「属性の詳細」ダイアログが開くので、「圧縮属性または暗号化属性」欄にある「内容を暗号化してデータをセキュリティで保護する」にチェックを入れて「OK」をクリック。再び2のプロパティ画面に戻るので「適用」をクリックして設定を反映させれば暗号化が完了する。暗号化が施されたファイルやフォルダは、ファイル名が緑色になり他の書類と区別され、すぐにわかるようになっている

もっと快適!!テクニック　フォルダを暗号化した場合は再インストールに注意

Vistaを再インストールすると、以前と同じユーザー名を作っても「別のユーザー」とみなされるため、再インストール前に暗号化したファイルは開けなくなる。そのため、再インストールする際は、いったん暗号化を解除しておこう。3で「内容を暗号化して～」のチェックを外せばいい。

ワンポイント 暗号化キーのバックアップ

暗号化キーはWindowsに内蔵されている「certmgr.msc」ツールを使用してバックアップできるが、その方法が複雑なのが難点。再インストール時は「もっと快適テクニック」のやり方で暗号化を元に戻したほうが無難だ。

難易度 難

ハードディスクごと暗号化して盗難時の情報漏洩を防ぐ

快適指数

効果
●パソコンが盗難にあっても情報流出が防げる
●ハードディスクを盗まれても中身を読まれない

「BitLocker」はWindowsのシステム部分を暗号化し、第三者がパソコンを起動できないようにする機能。パソコンの盗難など、第三者の不正使用を防ぐのに役立つ機能だが、暗号化後も更新される情報を自動で暗号化するためパソコンが多少遅くなるのは否めない。さらにハードディスクが2つ以上のパーティションに分割されている必要があるため、SP1以降では「BitLocker」の準備をすると自動的にパーティションを分割してしまう。以上のことを踏まえてから実行するようにしよう。また、使えるエディションが限定されているので注意しよう。

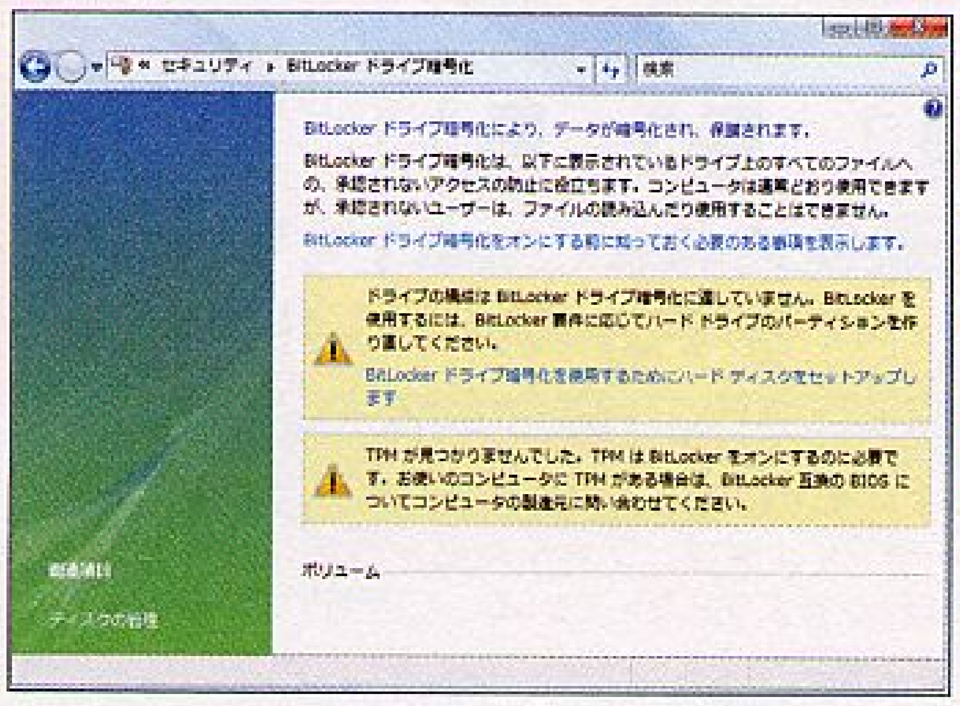
「BitLocker」の使用条件

■ハードディスクが2つ以上のパーティションに分割されている、または物理的に2ドライブを接続している、そして片方が少なくとも1.5GB以上の容量になっていること。ハードディスクのパーティションが分割されておらず、SP1でない場合、「BitLocker ドライブ準備ツール」が必要になる（101ページ欄外を参照）。

■パソコンが「TPM1.2」というセキュリティチップを内蔵していること（ただしTPM1.2が未搭載でも、USBメモリで代用することができる。以下でその設定方法を紹介する）

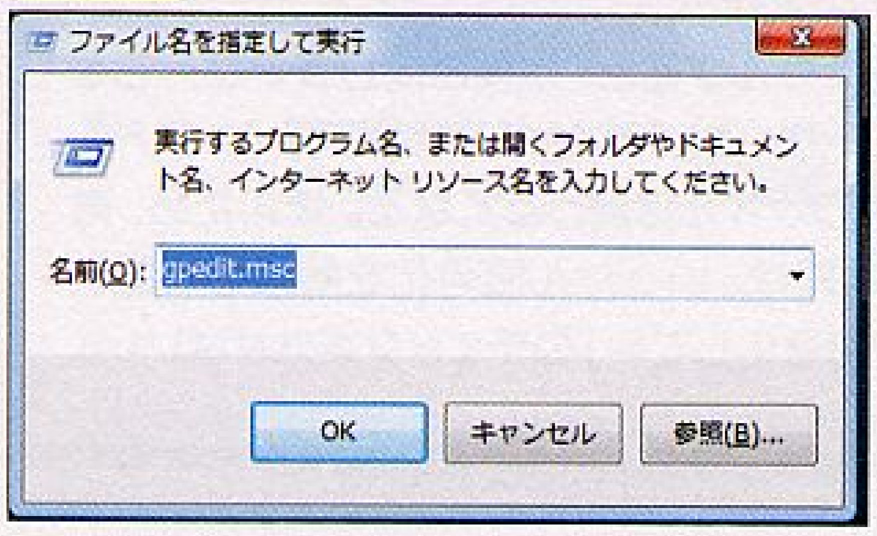
TPMのないパソコンでの設定

1 条件が満たされていないとBitLockerは使えない



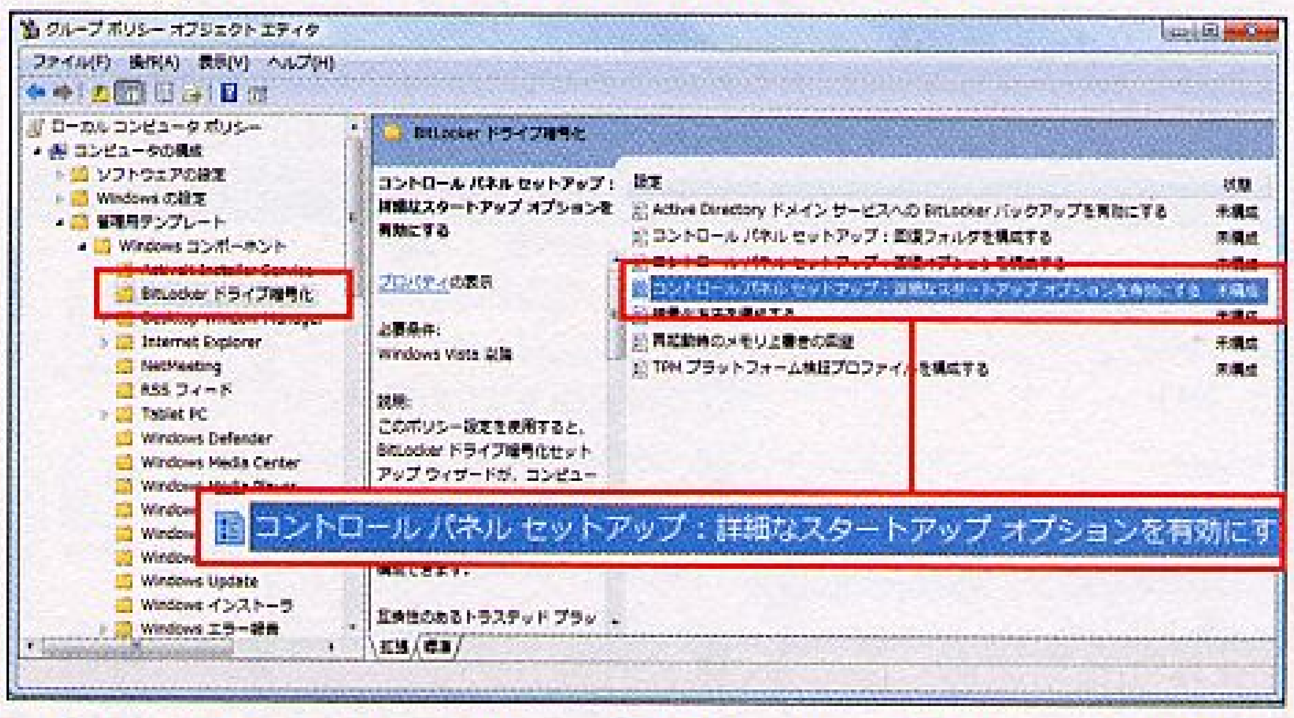
「コントロールパネル」の「セキュリティ」→「BitLockerドライブ暗号化」を開く。条件を満たしていないとこのような警告が表示され、「BitLocker」をオンにできない。以下の手順を実行しよう

2 「グループポリシーオブジェクトエディタ」を起動する



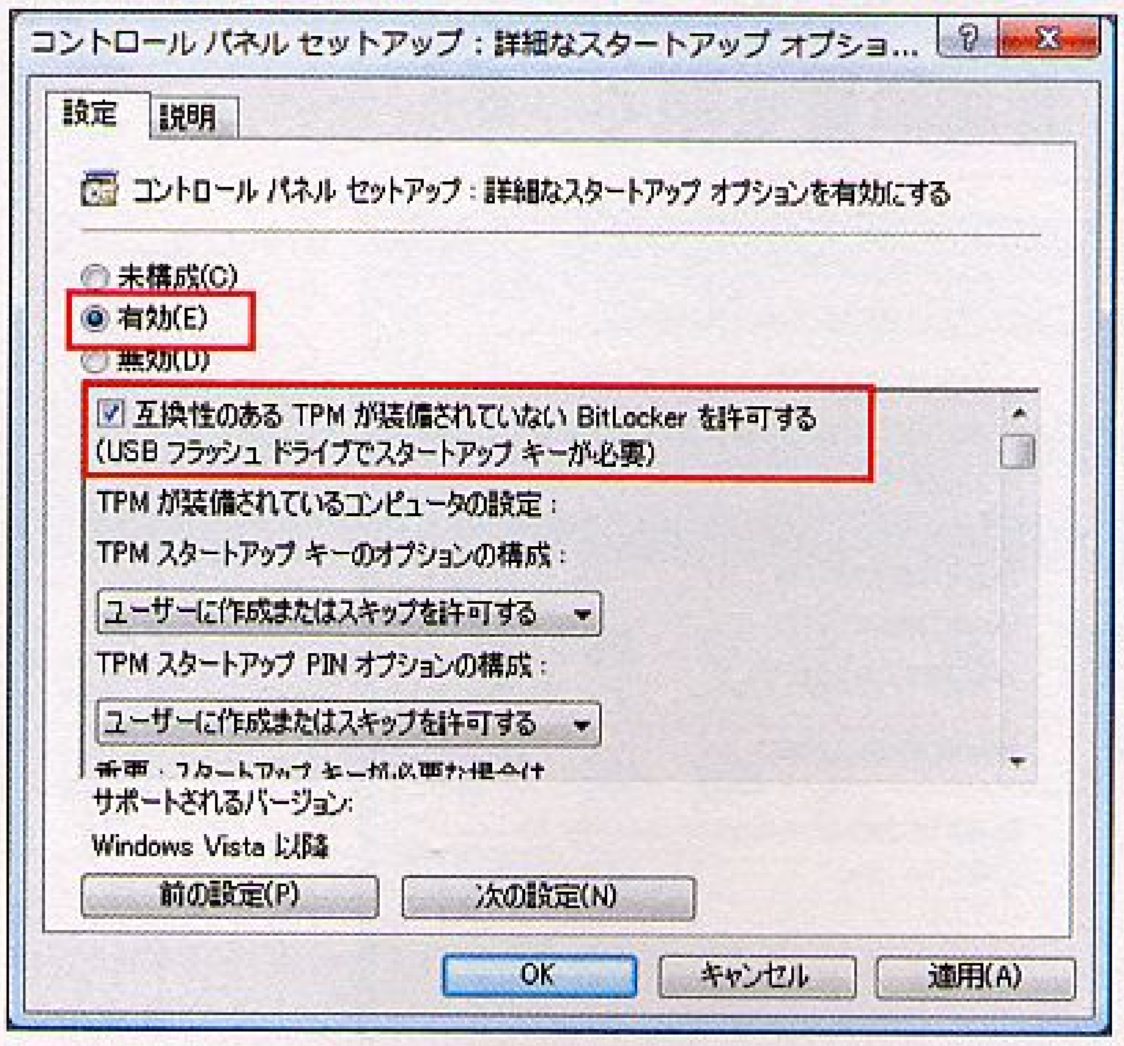
「ファイル名を指定して実行」を「Windows」+「R」キーで起動し、名前欄に「gpedit.msc」と入力し、「OK」をクリック。「グループポリシーオブジェクトエディタ」を起動する

3 「BitLocker」のドライブ暗号化設定を表示させる



起動したら「ローカルコンピュータポリシー」→「コンピュータの構成」→「管理用テンプレート」→「Windowsコンポーネント」→「BitLocker ドライブ暗号化」をクリック。「設定」の「コントロールパネルセットアップ：詳細なスタートアップオプションを有効にする」をダブルクリックする

4 TPMがなくても暗号化できるように設定変更



「設定」タブから「有効」を選択し「互換性のあるTPMが～」にチェックを入れる

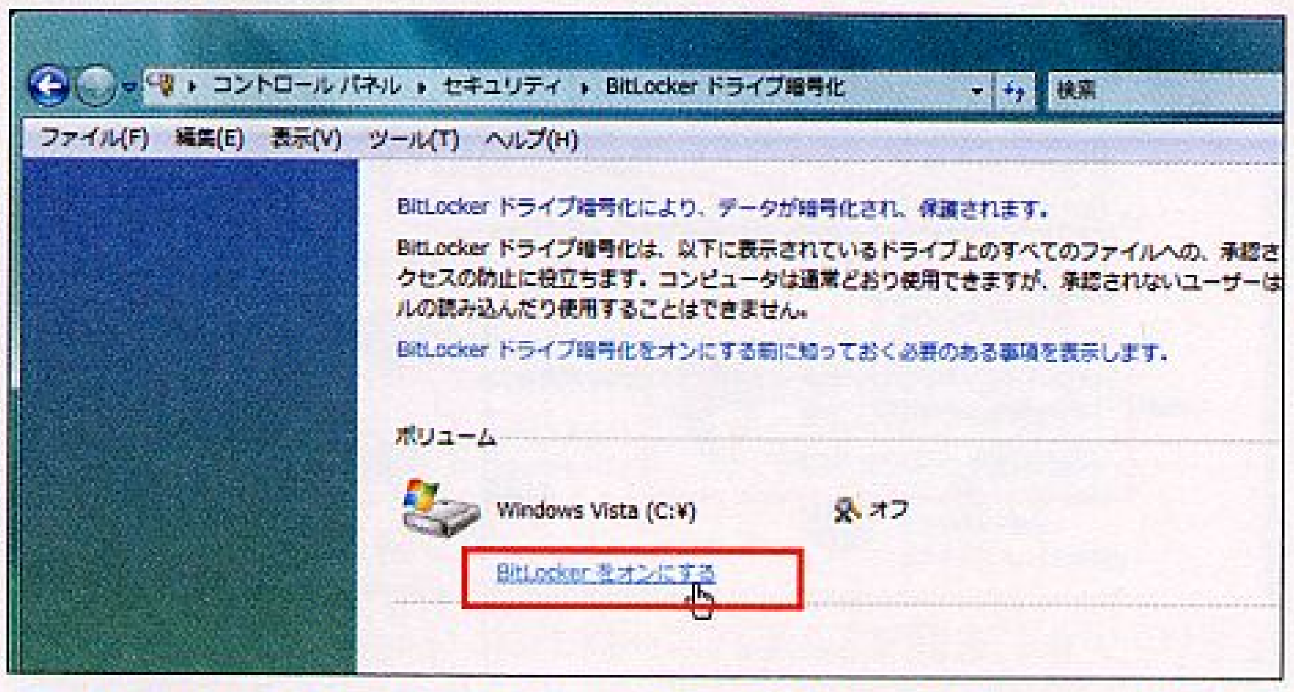
Keyword
TPM
高度なセキュリティを実現するためのハードウェア。小さなチップの形状をしており、2年ほど前からビジネス向けパソコンを中心に搭載されるようになった。

「BitLocker」でドライブを暗号化する

1 「BitLocker」を起動する

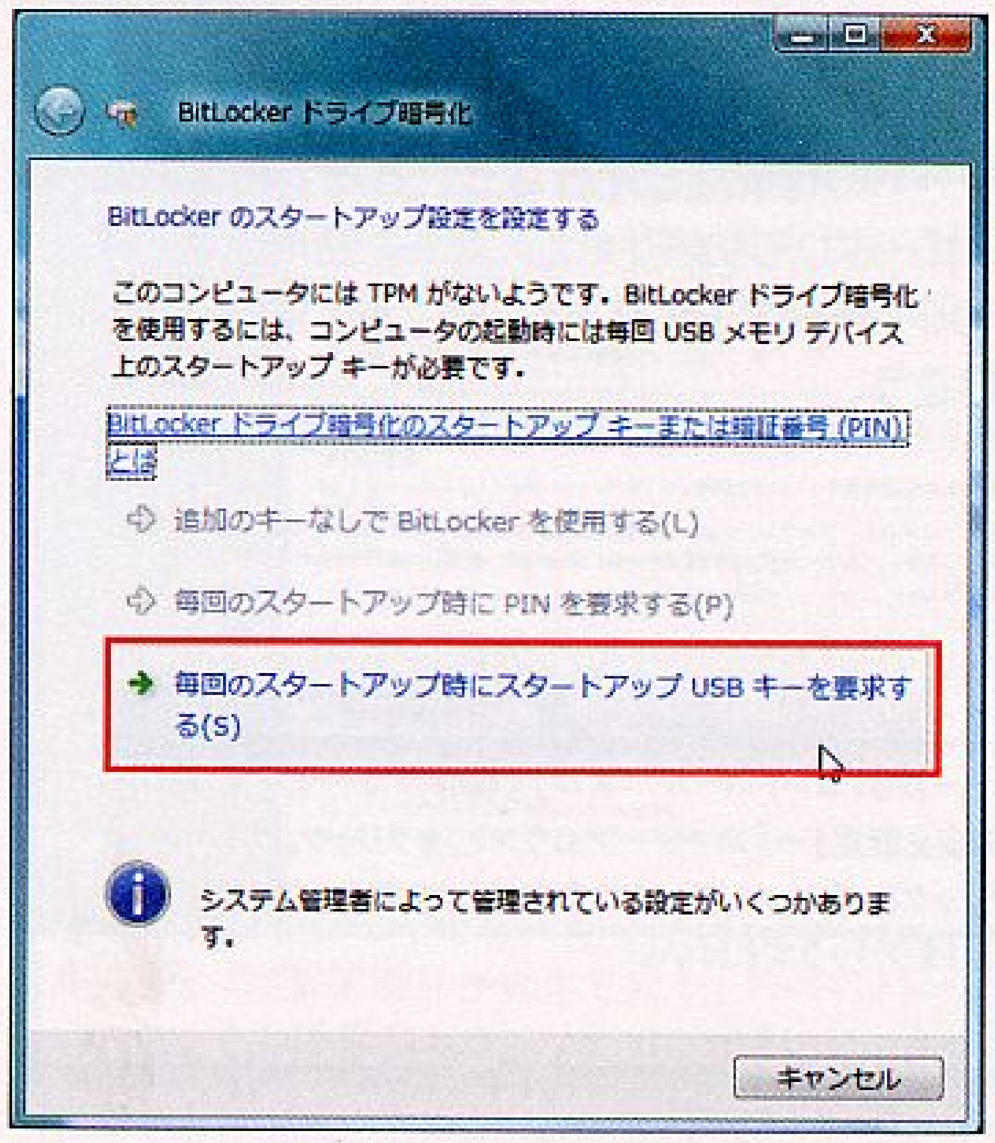
「スタート」メニューの「コントロールパネル」から「セキュリティ」→「BitLocker ドライブ暗号化」を選択する。他のソフトは終了させておこう

2 エラーがないことを確認して「BitLocker」をオンにする



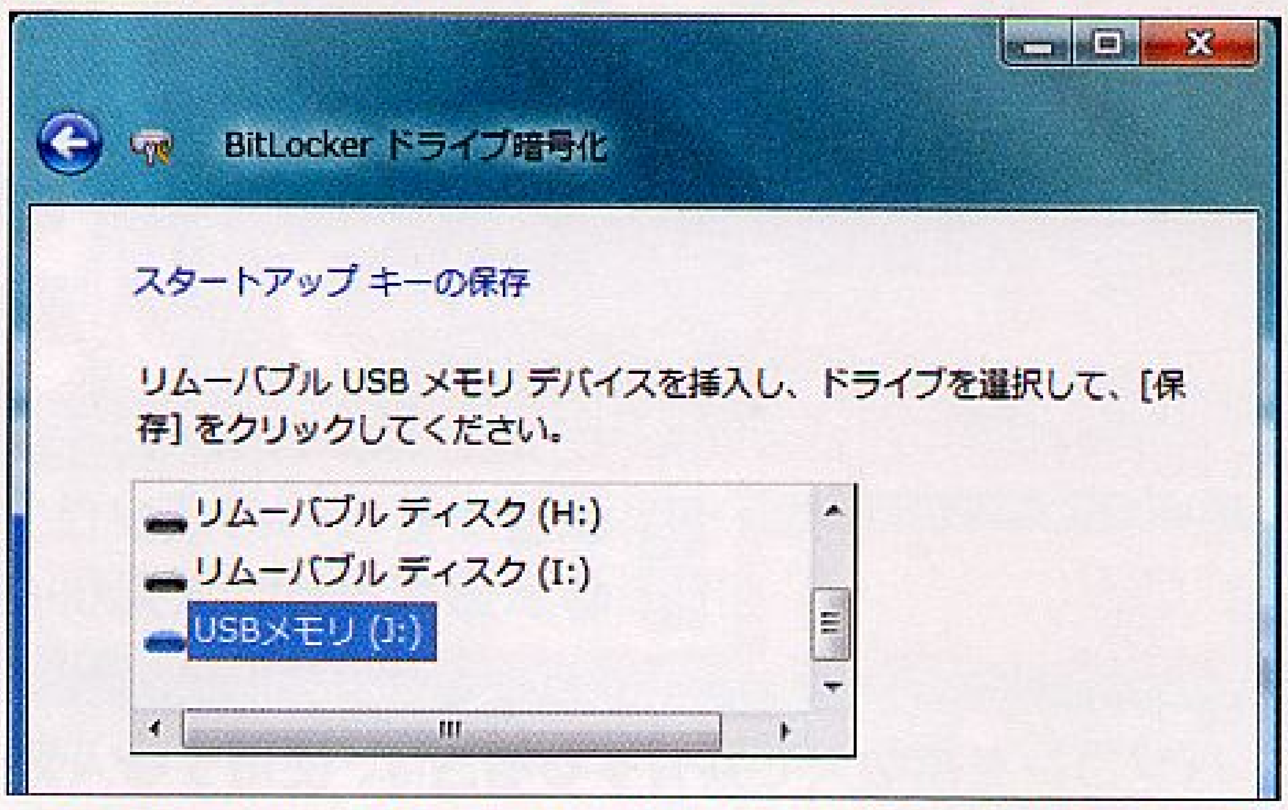
開いた画面で「BitLockerをオンにする」をクリックする。ハードウェアなどが「BitLocker」を使用する条件を満たさないと、ここでエラーメッセージが表示されて先に進めない

3 TPMのないパソコンでUSBメモリを使う場合



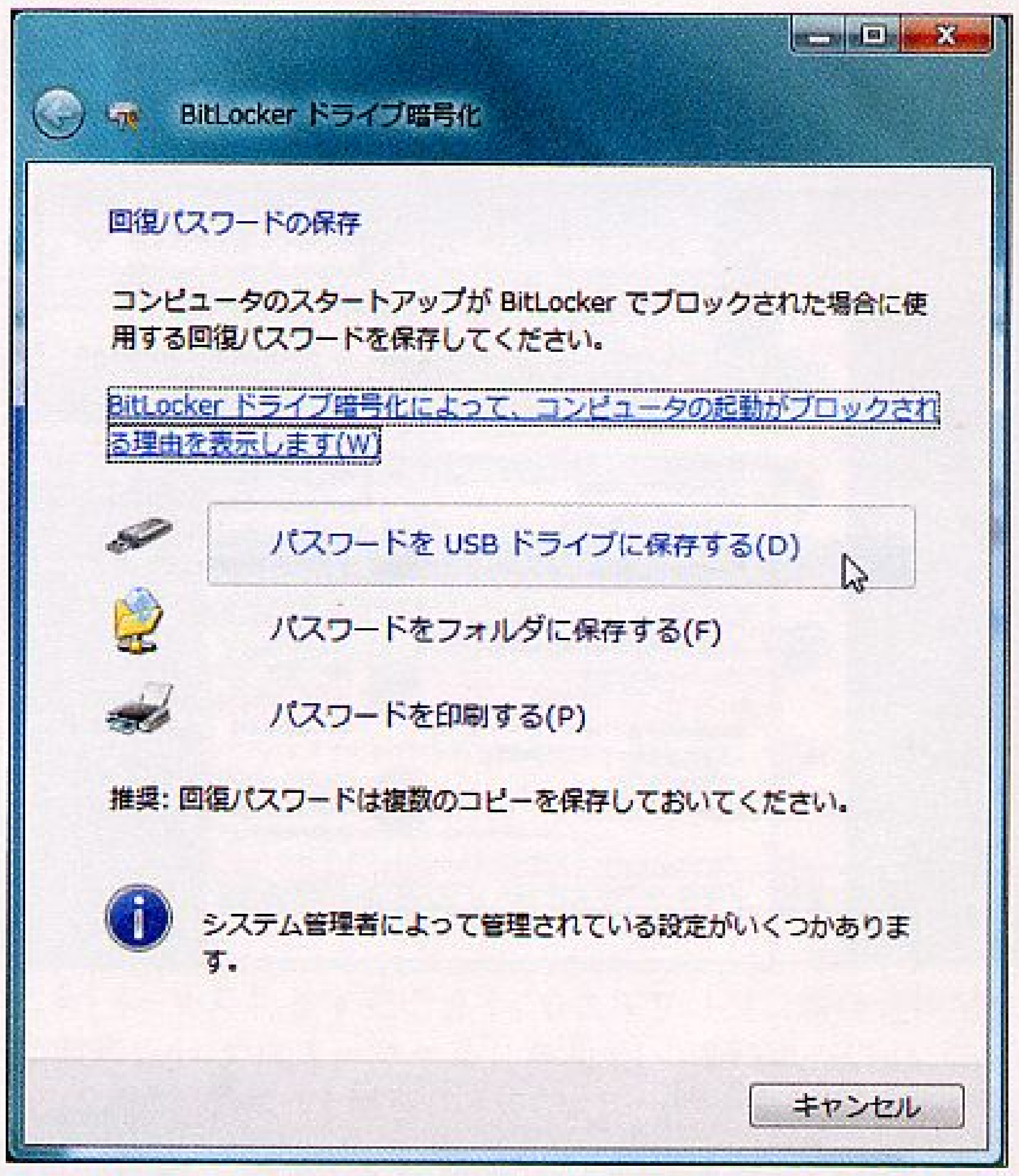
TPMがないパソコンでは、スタートアップ方法はUSBキーを使う起動方法を選択する

4 USBメモリにスタートアップキーを保存する



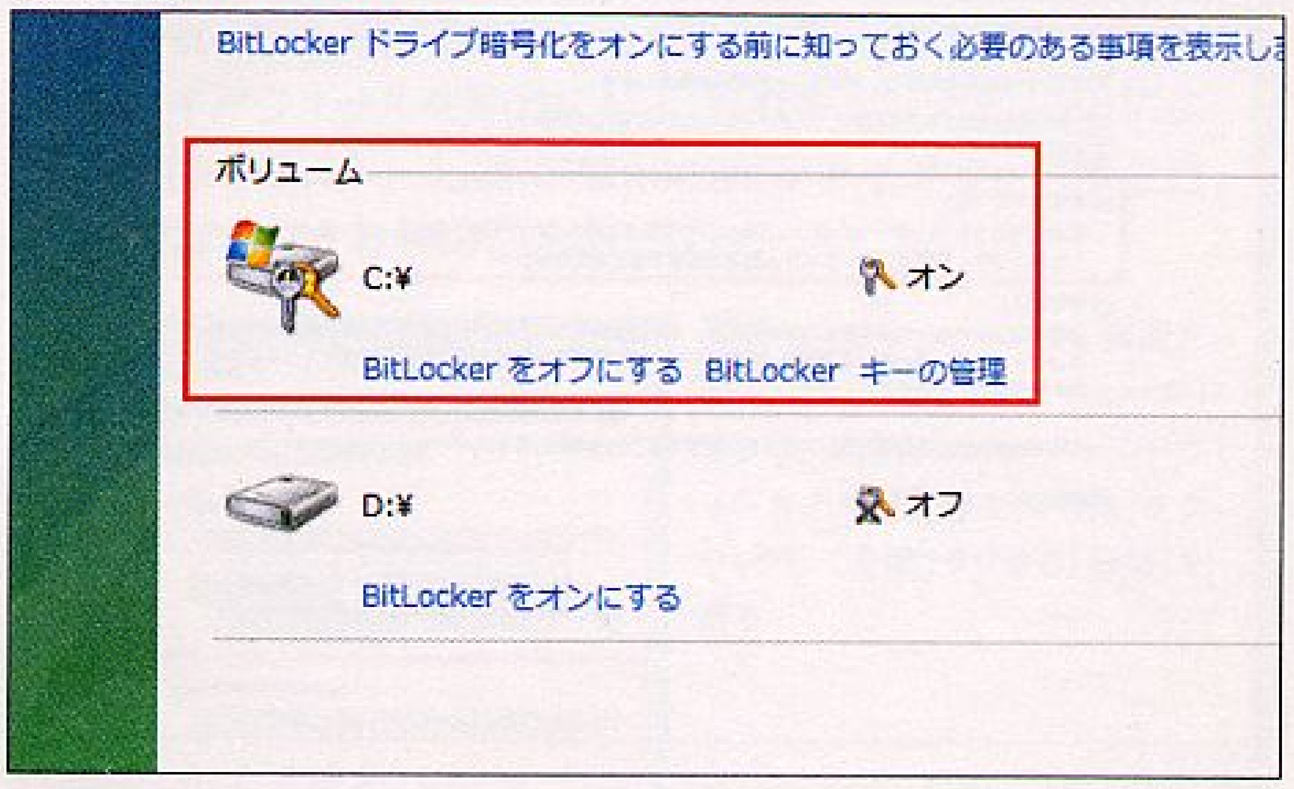
USBメモリを挿し、「保存」をクリックすればTPMなしで利用するためのデータが保存される

5 回復パスワードを保存する



暗号化したドライブを元に戻すためのパスワードを保存する。クリックすれば自動的に保存される。USBドライブに保存するのが簡単だ

6 暗号化されたかどうか確認する



システム再起動後、再び「BitLocker」を起動して、暗号化したハードディスクがこのようになっていれば暗号化は成功だ

注意 BitLockerドライブ準備ツール

「Windows Update」の「BitLocker と EFS 拡張機能」で入手する。SP1では最初から導入されている。これを使うと、パーティションの分割やシステムファイルの移動など、元に戻すのが困難な作業が行なわれるので注意。

難易度 普

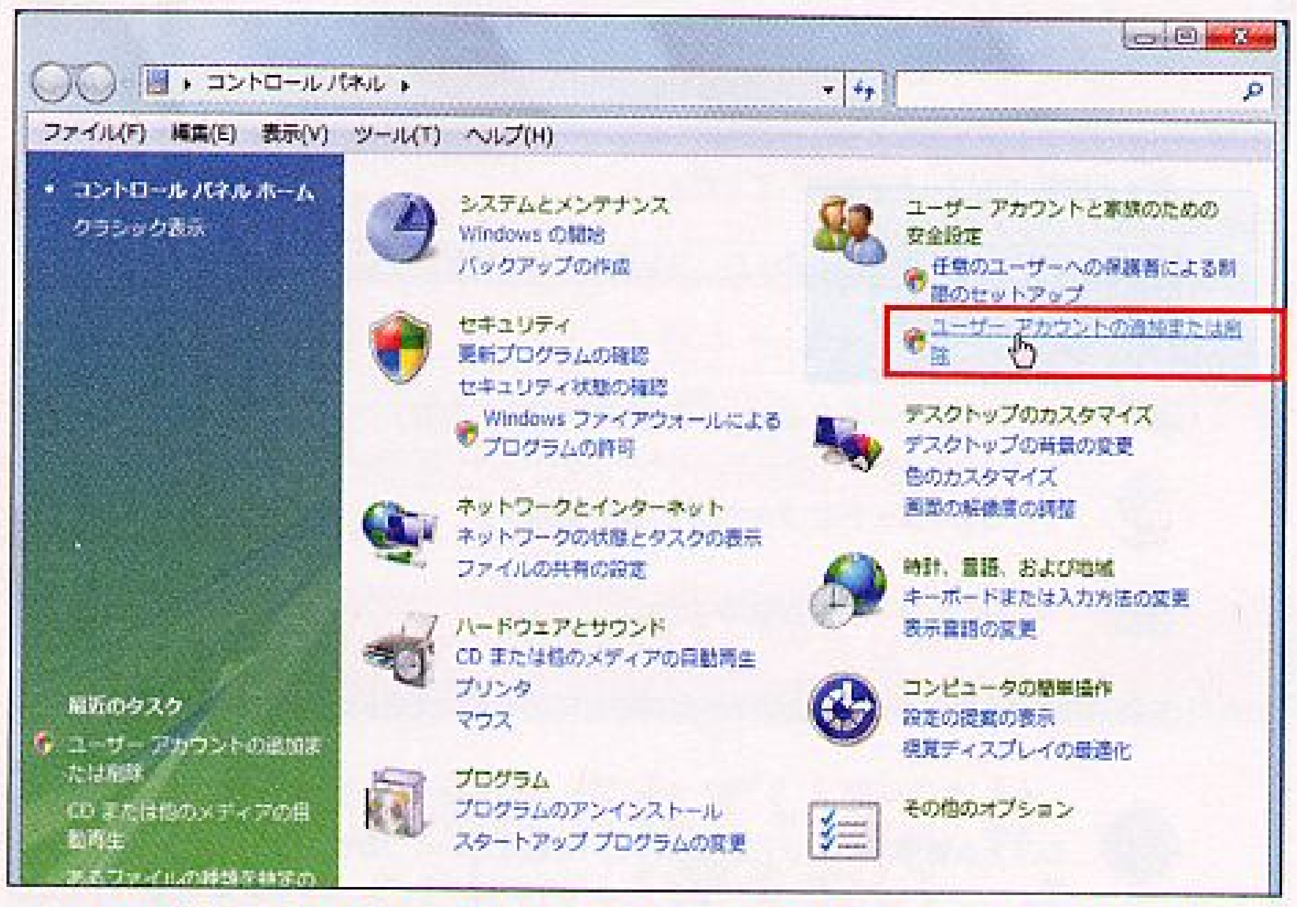
パソコンを共有する人数に応じてユーザーアカウントを追加する

快適指数

効果
●管理者以外のパソコン使用に制限をかけられる
●アカウントにパスワードを設定し、個々のプライバシーが守れる

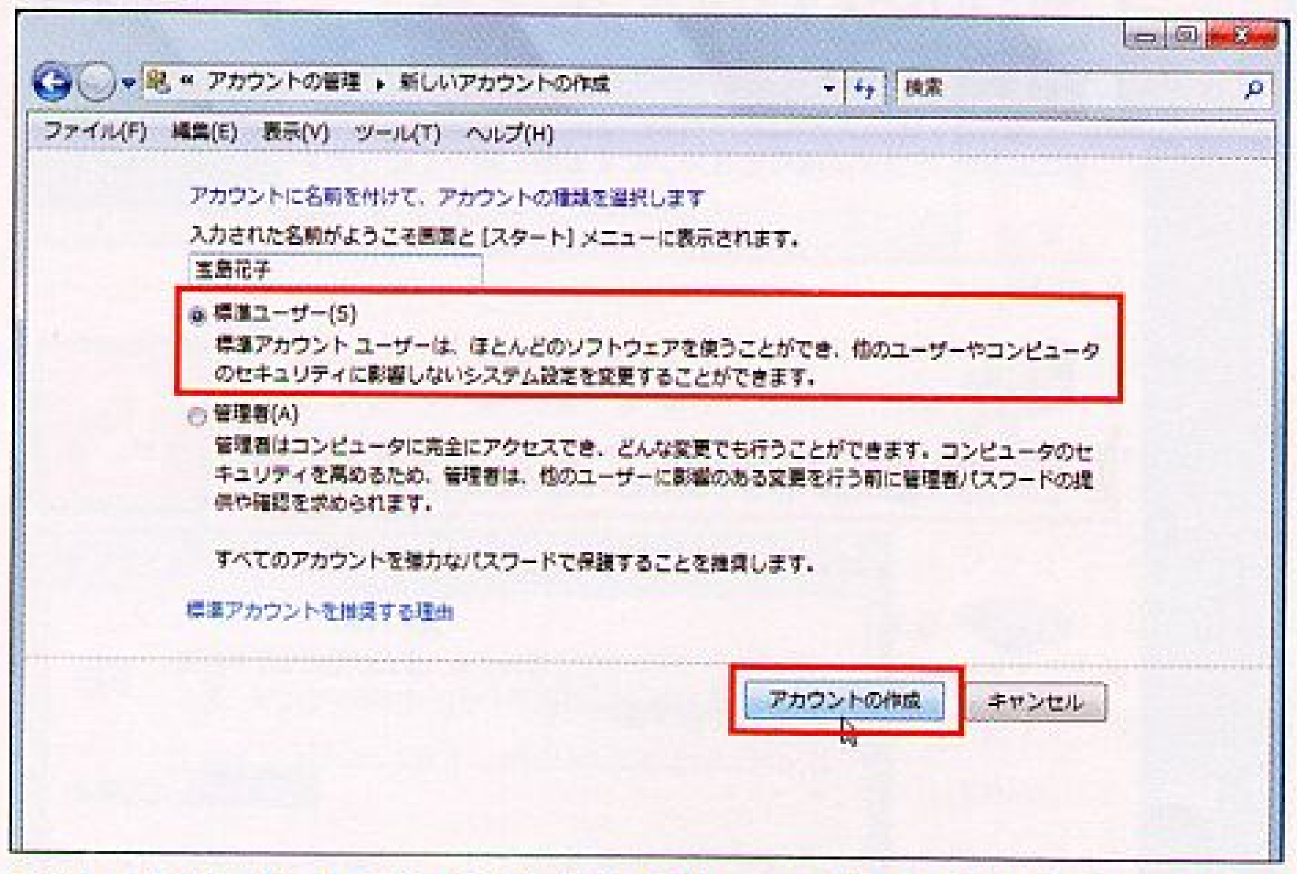
パソコンを複数人で共有する場合は、使用する人数分のアカウントを作り、各自のアカウントでログオンしよう。使用者が自分のアカウントを使えば個々のプライバシーが守れるばかりでなく、パソコンにそれほど詳しくないユーザーを「標準ユーザーアカウント」に設定することで、危険なソフトのインストールや誤ったシステム変更を防ぎ、パソコンのセキュリティアップにもなる。管理者用アカウントは、ソフトやハードのインストールなどシステムに関わる作業を行なう権限を持っているので、パソコンに詳しい人がなるといいだろう。

1 アカウントの管理画面を開く



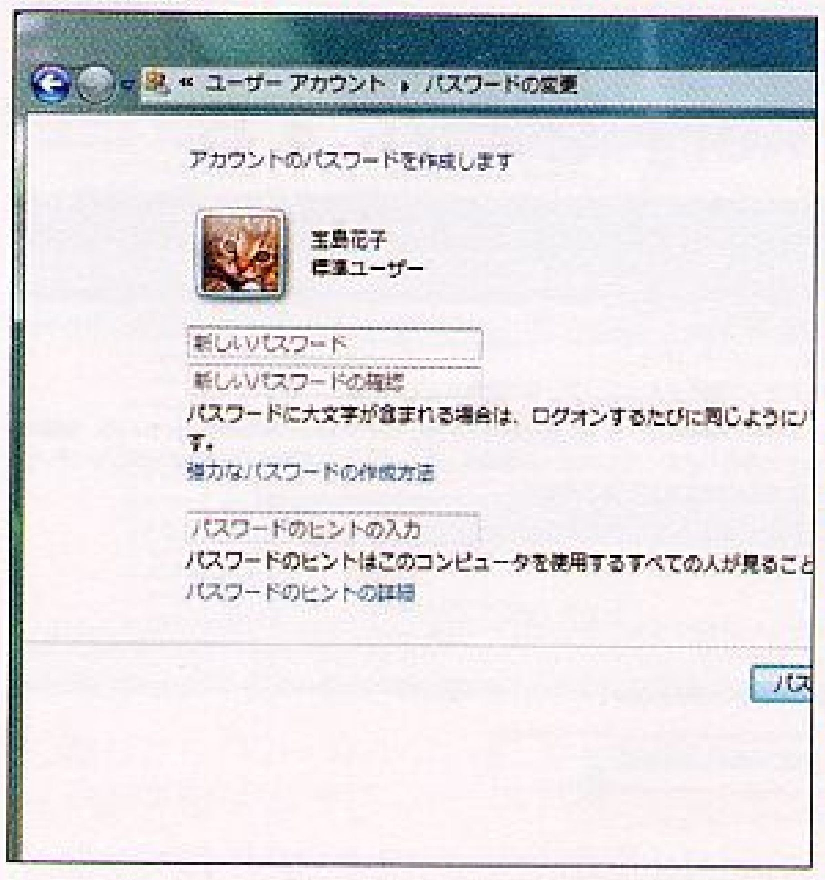
パソコン使用者の数に応じてアカウントを作成する。「スタート」メニューから「コントロールパネル」を開き、「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」の「ユーザーアカウントの追加または削除」をクリックする

2 新しいアカウントを作成する



「新しいアカウントの作成」をクリックし、アカウント名を入力。アカウントの種類を選択して（ここでは標準ユーザー）、「アカウントの作成」をクリックする

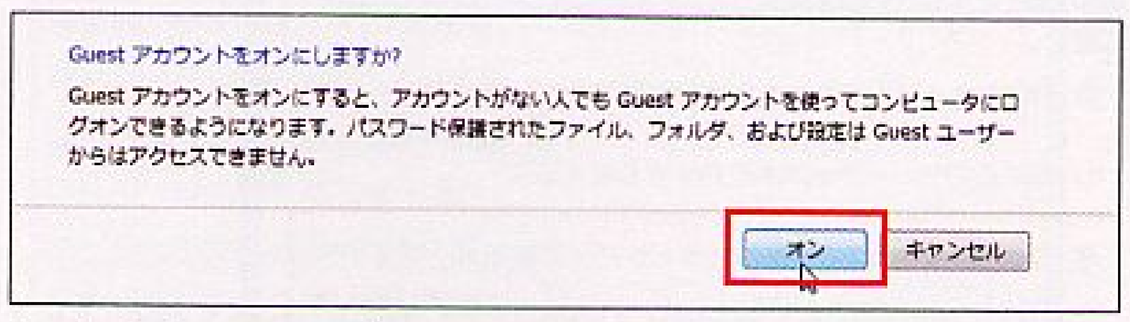
3 新しいアカウントのパスワードを設定する



作成したアカウントの使用者は自分に割り当てられたアカウントでログオンし、「スタート」メニューから自分のアカウント画像をダブルクリック。「アカウントパスワードの作成」をクリックして新しいパスワードとパスワードのヒントを入力し、「パスワードの作成」をクリックする。次回ログオン時から、このパスワードを入力しなければログオンできない

もっと快適!!テクニック 日常的に使わないユーザーなら「Guest」アカウントを利用させる

例えば家に遊びに来た友人などに、一時的にパソコンを使用させたいときは「Guest」アカウントを使おう。「Guest」アカウントでは、ソフトやハードのインストール、設定の変更、パスワードの作成などを行なうことができないなど、標準ユーザーよりも制限が厳しくなる。初期設定では「Guest」アカウントがオフになっているため、使用できるようにしておこう。



「スタート」メニューから「コントロールパネル」を開き、「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」→「ユーザーアカウント」をクリック。「別アカウントの管理」をクリックし、「Guest」アカウントをクリックする。この画面が表示されたら「オン」をクリックすればいい

Keyword アカウント
ユーザーがパソコンやシステムなどを使用するための権利のことで、いわばメンバーズカードのようなもの。会員制サイトやオンラインゲームを使用する際もアカウントの取得を求められることが多い。

難易度 普

パソコンのセキュリティ状態をひと目で確認する

快適指数

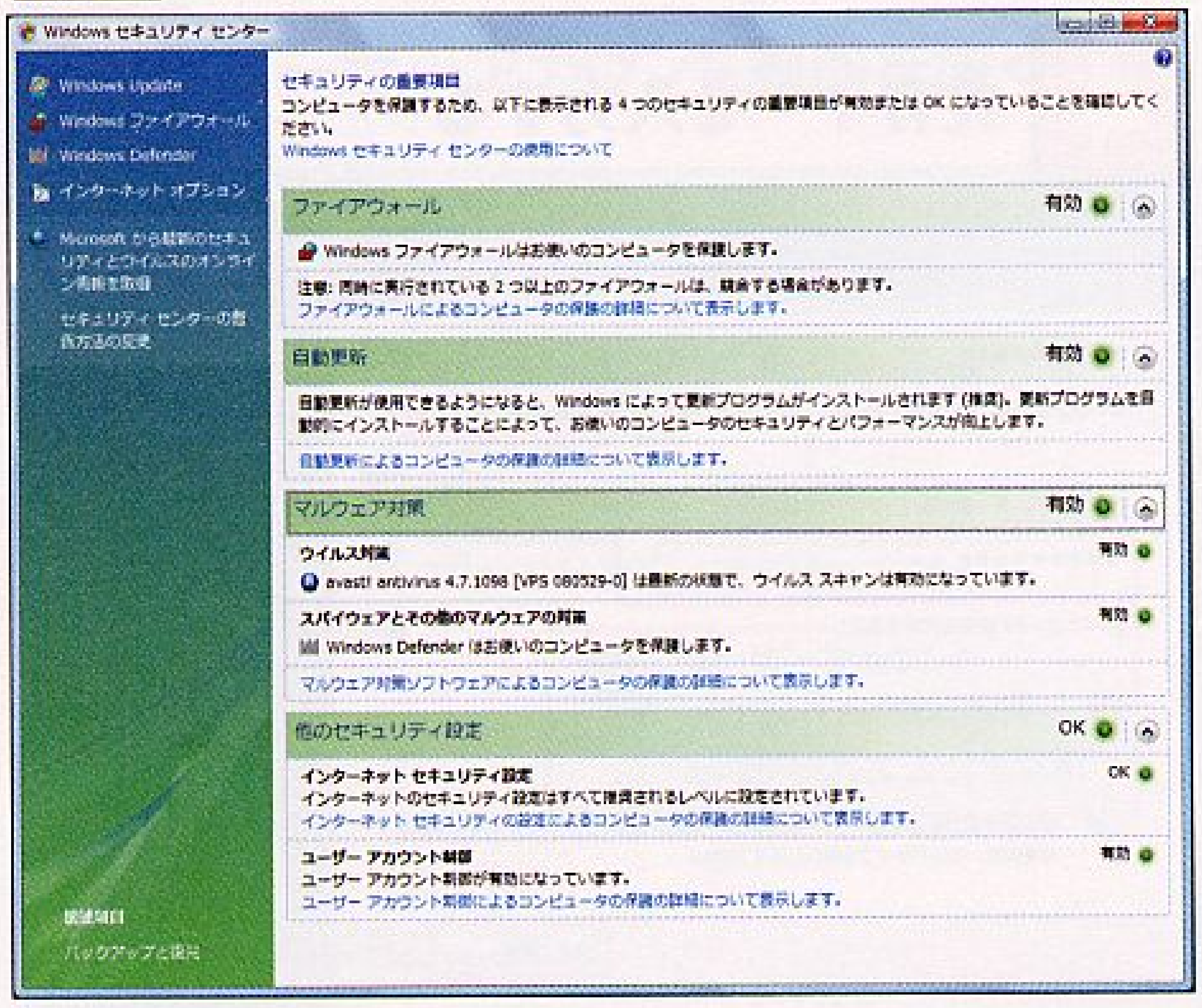
効果
●パソコンのセキュリティの状態がひと目でわかる
●セキュリティに問題があった場合は警告を通知してくれる

パソコンのセキュリティ保護に関する項目を一元管理する機能が「Windowsセキュリティセンター」だ。XPに比べて管理できる項目がより増えている。ファイアウォールの設定、Windows Update、マルウェア対策の設定、ユーザーアカウント制御の設定など、さまざまな設定をここから行なうことができる。また、セキュリティソフトの期限が切れている、ファイアウォールがオフになっているなど、重大な問題が発見されると、タスクバーの通知領域にバルーンで警告を表示してくれるので、通知をクリックして問題を解決すればいい。

1 Windowsセキュリティセンターを開く

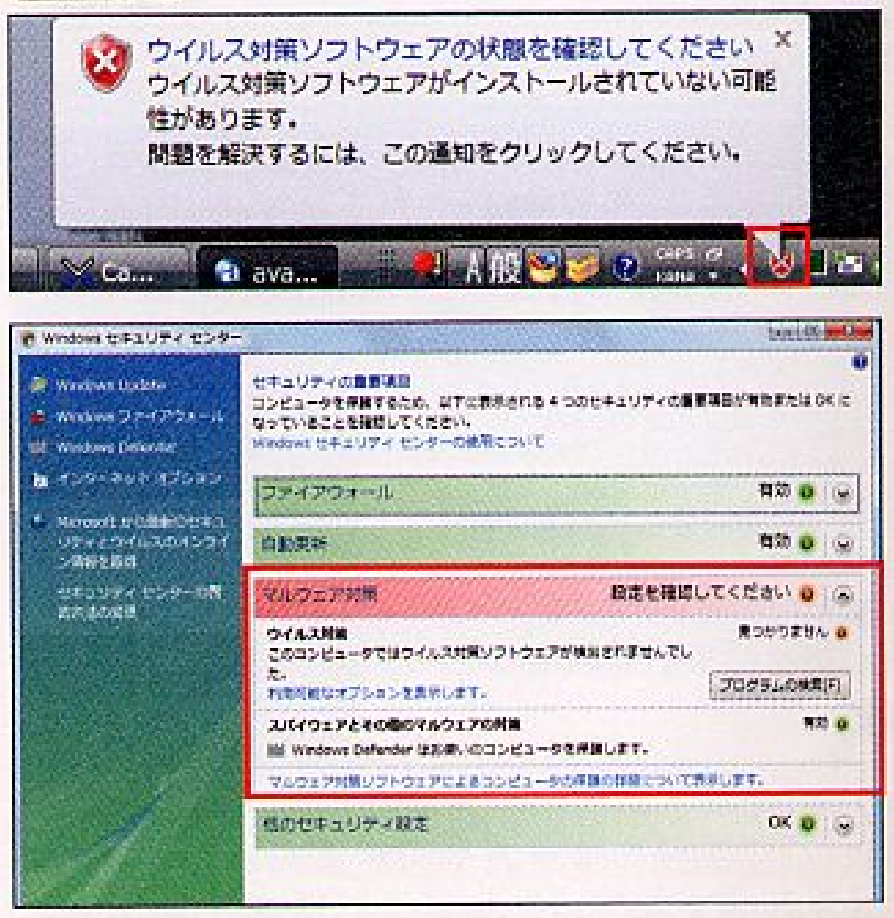
「スタート」メニューから「コントロールパネル」を開き、「セキュリティ状態の確認」をクリックする

2 セキュリティの状態を確認する



セキュリティの重要項目が表示される。項目のバーがグリーンになっていれば、その項目のセキュリティに問題がないということ。また、各項目のプルダウンをクリックすると、項目の詳細を見ることができる

3 セキュリティの問題が通知される



セキュリティに重大な問題があると、通知領域にバルーンが表示される。通知をクリックすれば問題を確認できる。ここでは「マルウェア対策」の項目が赤くなって「見つかりません」となっている。市販のソフトを購入するか92ページで紹介しているようなフリーソフトを導入して、早急に対策を施そう

注意! セキュリティソフト導入済みならファイアウォールの競合に注意

市販のセキュリティソフトはファイアウォール機能を持っているものがほとんど。パソコン内に複数のファイアウォールが存在すると競合を起こしてしまい、パフォーマンスの低下につながることもあるため、その場合はWindowsファイアウォールを無効にしよう（セキュリティソフトによってはインストール時にWindowsファイアウォールを自動で無効にするものもある）。

2のセキュリティセンター画面左側で「Windowsファイアウォール」をクリック。「Windowsファイアウォールの有効化また無効化」をクリックし、「全般」タブから「無効」を選る

Keyword ファイアウォール
インターネットやネットワークとの情報のやり取りを監視し、外部からの不正な侵入や内部からのデータ流出を防ぐ機能。許可する相手やブロックする相手を個別に設定することができる。

難易度 普

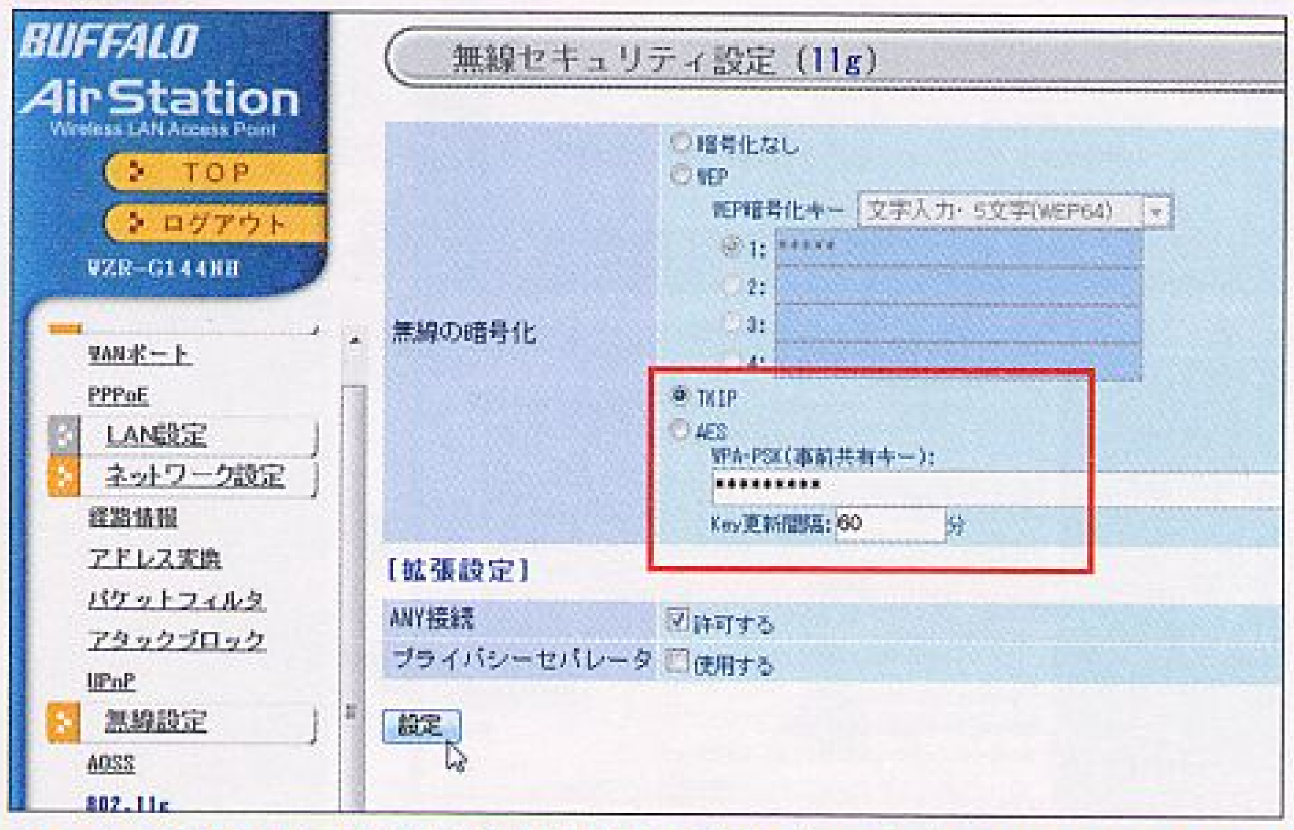
無線LANを「WPA」にしてより強固なセキュリティにする

快適指数

効果
●WEPによる暗号化よりさらに安全に無線LANを使える
●暗号キーを自動的に更新するので安全

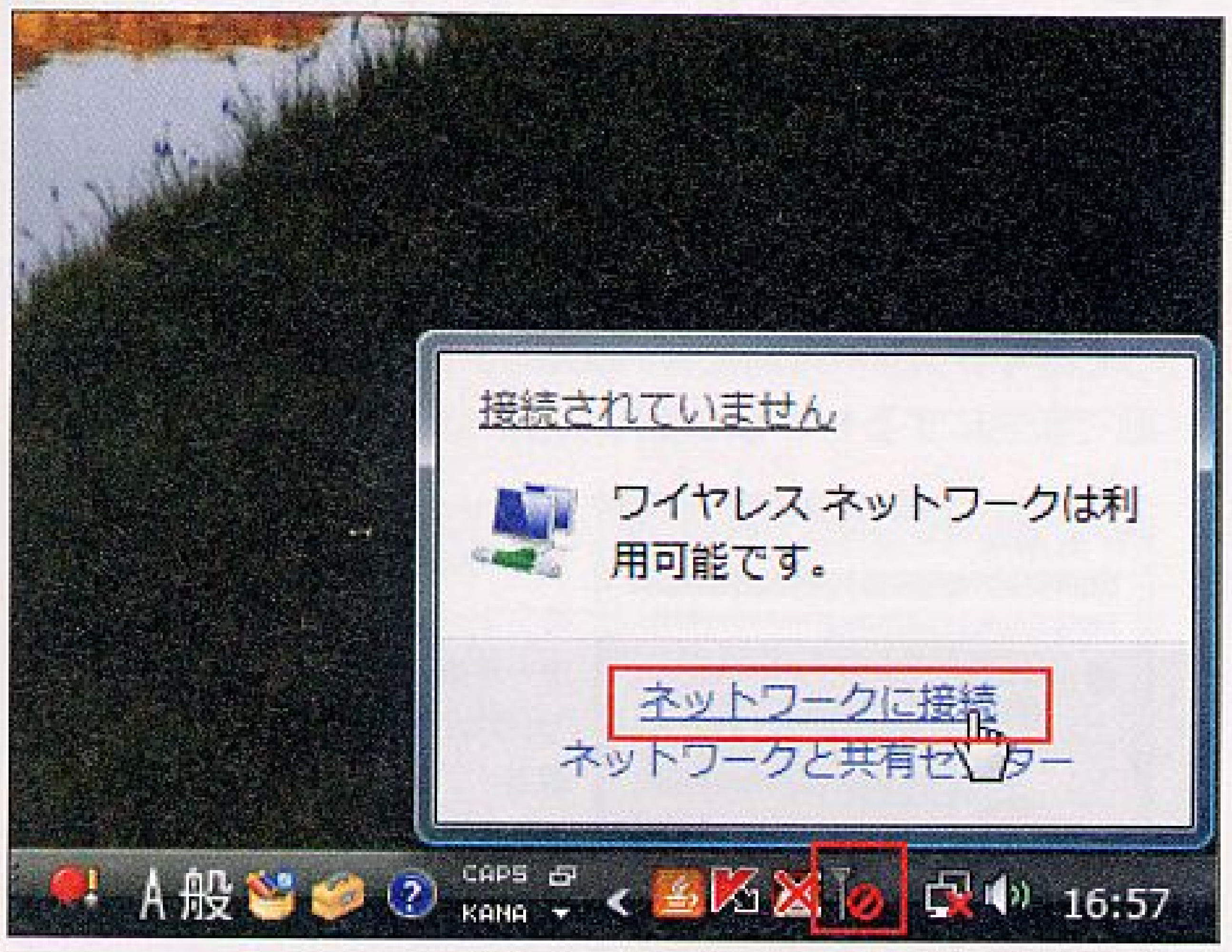
無線LANは電波を使って通信するため、データの傍受や不正な接続を防ぐためのセキュリティが必要だ。無線LANのセキュリティ方式として、従来は「WEP」方式が主流だったが、解析が進んだ結果、防御が簡単に破られるようになってしまっている。そこで登場したのが「WPA」方式。WPAは、暗号を解く鍵を定期的に更新する「TKIP」を採用するなどして、WEPに比べてはるかに破りにくくなっている。パソコン側の無線LANアダプタ（もしくは内蔵の無線LAN機能）とルータの両方がWPA(TKIP)に対応しているなら、ぜひ使ってみよう。

1 ルータの設定画面でWPA(TKIP)への対応を確認



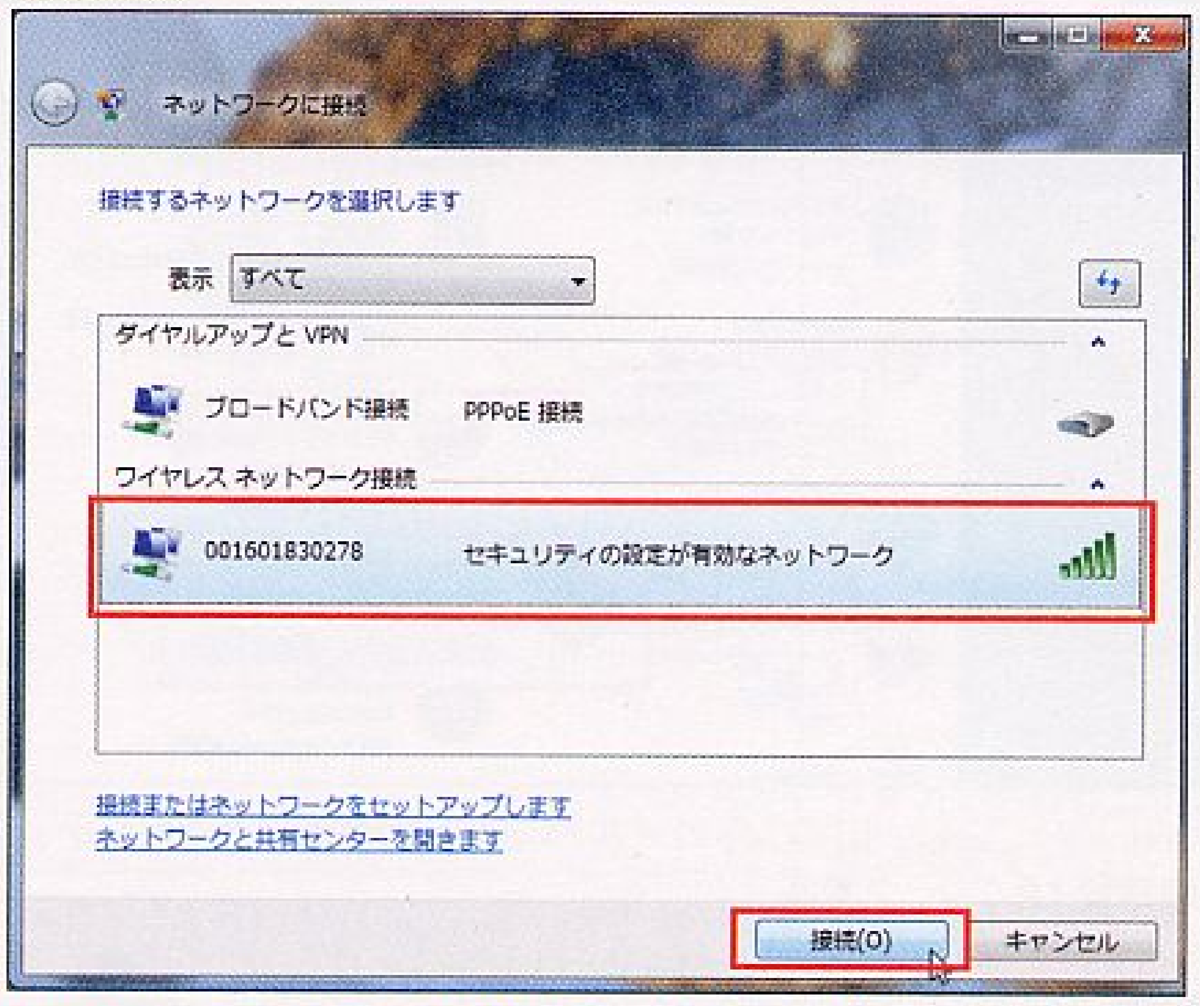
ルータの設定画面を開く（設定画面の開き方や設定画面はルータにより異なるのでマニュアルを参照すること）。暗号化の設定でWEPのほかにWPA（TKIP）があれば、対応している。WPA（TKIP）を選択し、数字と記号などを組み合わせた任意の事前共有キーを設定しておく

2 ネットワーク接続画面を開く



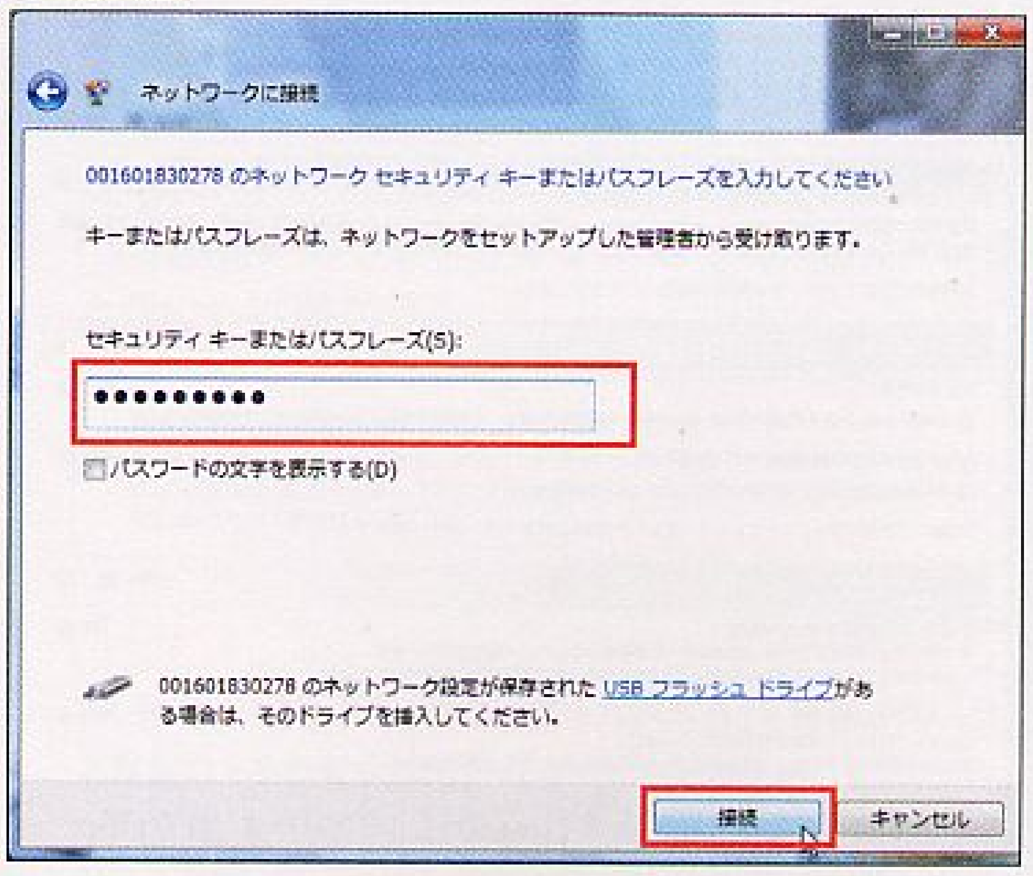
タスクトレイのワイヤレスネットワークアイコンをクリックし、「ネットワークに接続」をクリックする

3 無線LANルータを選択する



「ワイヤレスネットワーク接続」の一覧から、使用するルータを選択し、「接続」をクリックする

4 共有キーを入力する



「セキュリティキーまたはパスフレーズ」に 1 で設定した事前共有キーを入力し、「接続」をクリックする。「正しく接続されました」と表示されれば接続は完了だ

注意 WPA（TKIP）の対応

WPA（TKIP）の暗号化方式を使うには、無線LANルータが対応していることももちろんだが、当然、無線LANアダプタも対応している必要がある。ノートパソコンに搭載されている無線LAN機能も同様だ。

難易度 普

ログオンパスワードを定期的に変更してセキュリティを強化する

快適指数

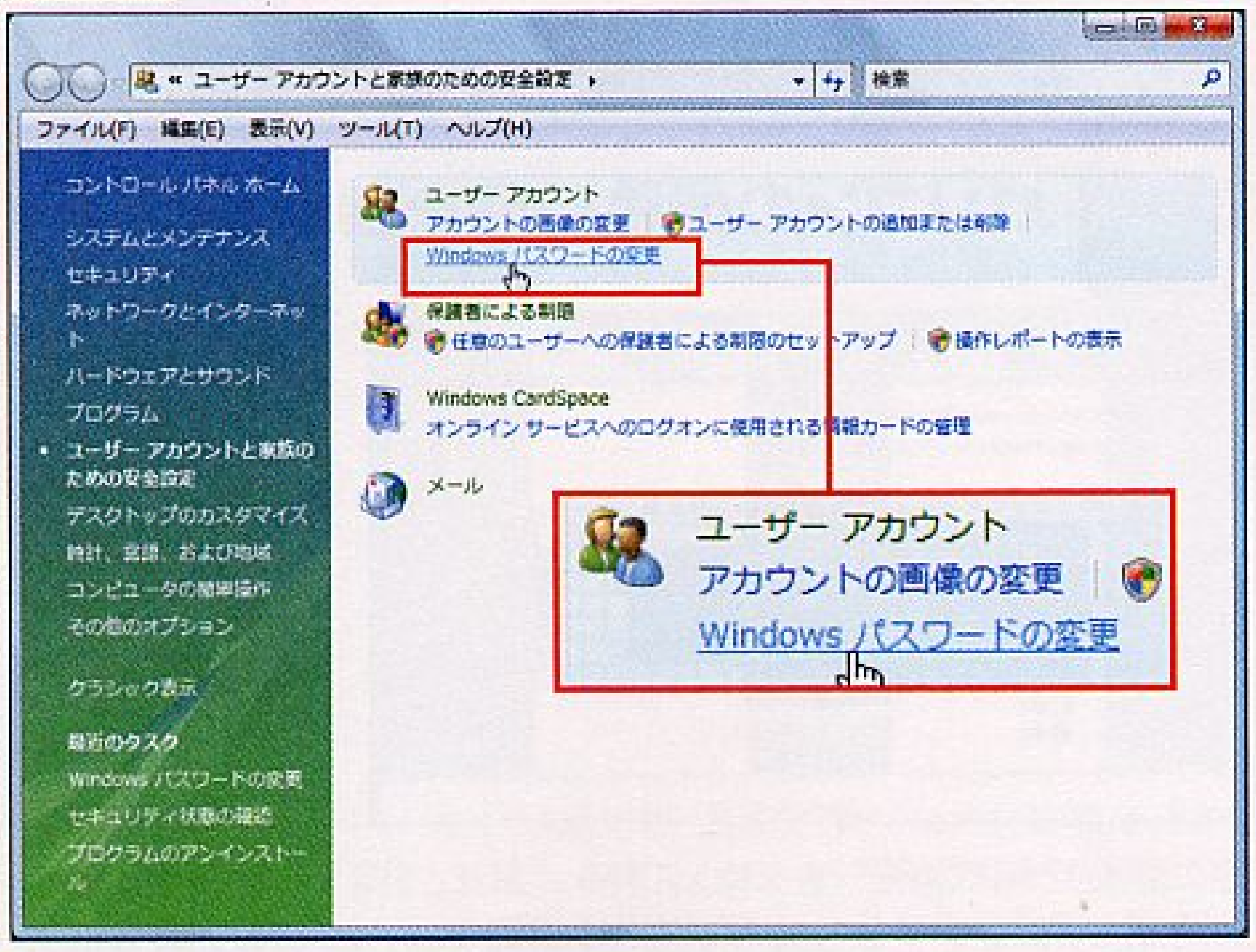
効果 ●盗み見などによる第三者の不正使用を防ぐ ●パスワードを特定されづらい

会社や家族で共有しているパソコンでは、第三者に自分のアカウントでログオンされないように「ログオンパスワード」を設定している人も多いだろう。しかし、いつも同じログオンパスワードでは、セキュリティに不安が残る。インターネットバンクのパスワードなどもしばしば変更を求められるが、パソコンも同じようにセキュリティを強化したいなら定期的にパスワードを変更しよう。パスワードを変えて忘れてしまうのが不安な人は、120ページを参照してログオンパスワードを忘れてしまったときのリセットディスクを作っておくこと。

1 「コントロールパネル」でユーザーアカウントの設定をする

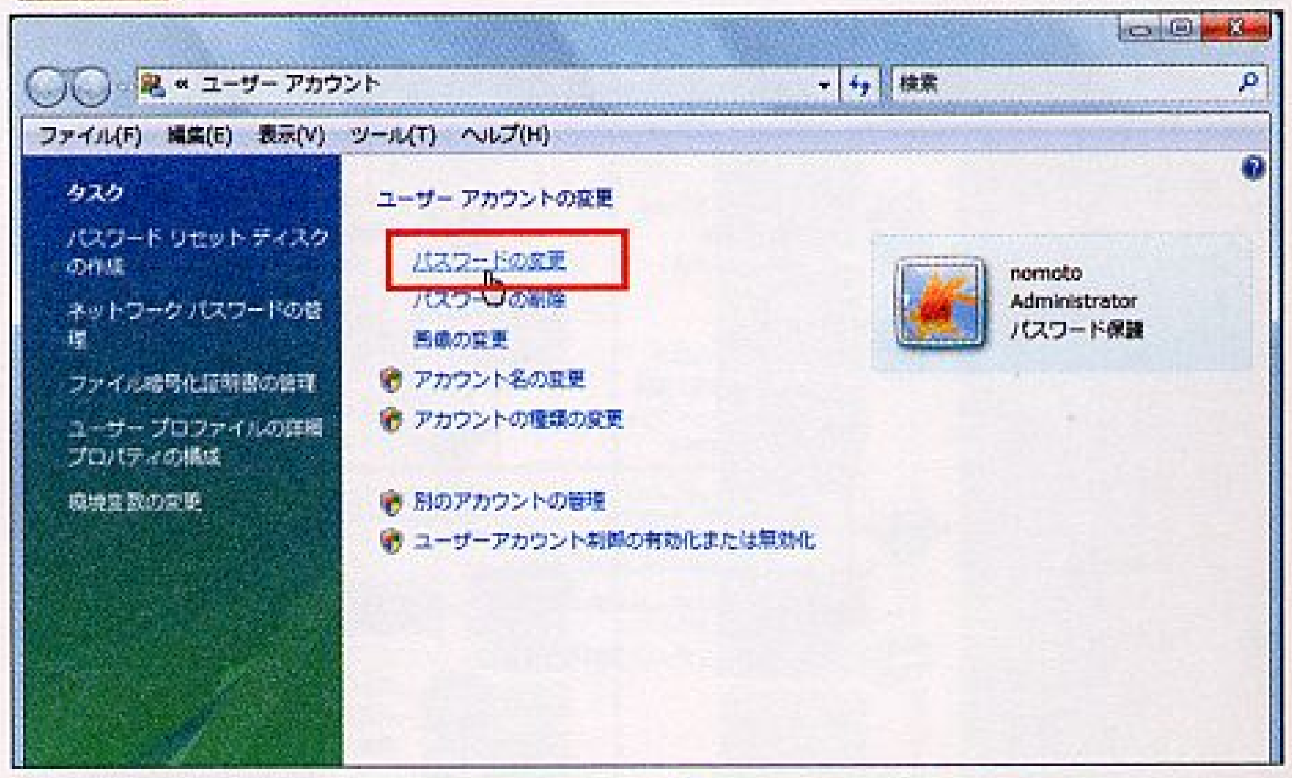
「スタート」メニューの「コントロールパネル」から「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」をクリックする

2 ユーザーアカウント画面を開く



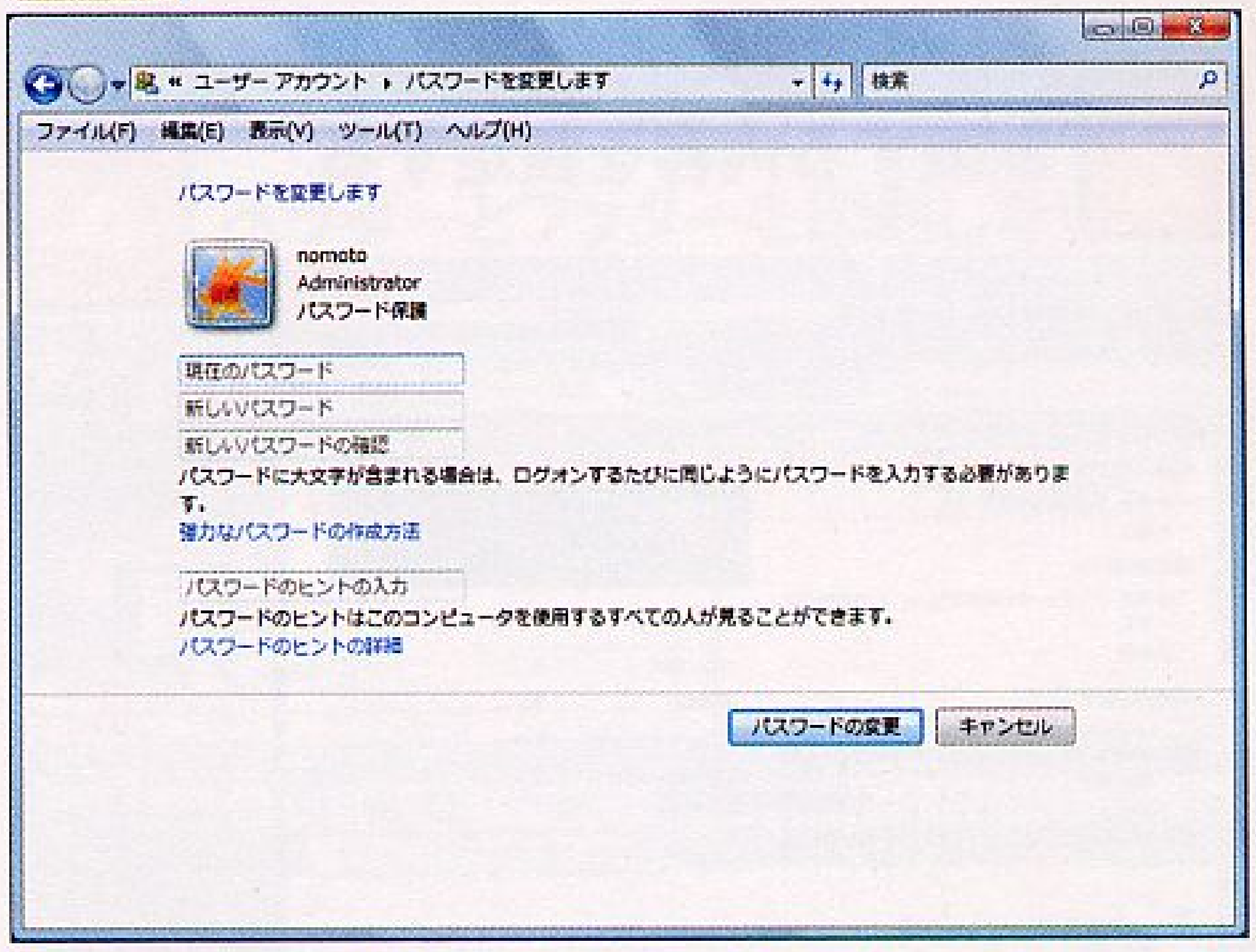
「ユーザーアカウント」の「Windowsパスワードの変更」をクリックする

3 パスワード変更画面を開く



ユーザーアカウント画面が開いたら「パスワードの変更」をクリックする

4 新しいパスワードを設定する



「現在のパスワード」欄に、現在使っているパスワードを入力し、「新しいパスワード」と「新しいパスワードの確認」にそれぞれ新しいパスワードを入力する。必要があればヒントも入力し、「パスワードの変更」をクリックすれば完了だ。次回ログオンするときは新しいパスワードを入力しよう

ワンポイント パスワードのヒントを設定する

パスワードに意味を持たせ、その意味に関連したヒントを設定しておけばパスワード忘れを防止できる。例えばパスワードを「reo1023」とする。そのヒントは「ペットの名前と誕生日」という具合だ。

難易度 普

子供など特定ユーザーの利用を制限し安心して使わせる

快適指数

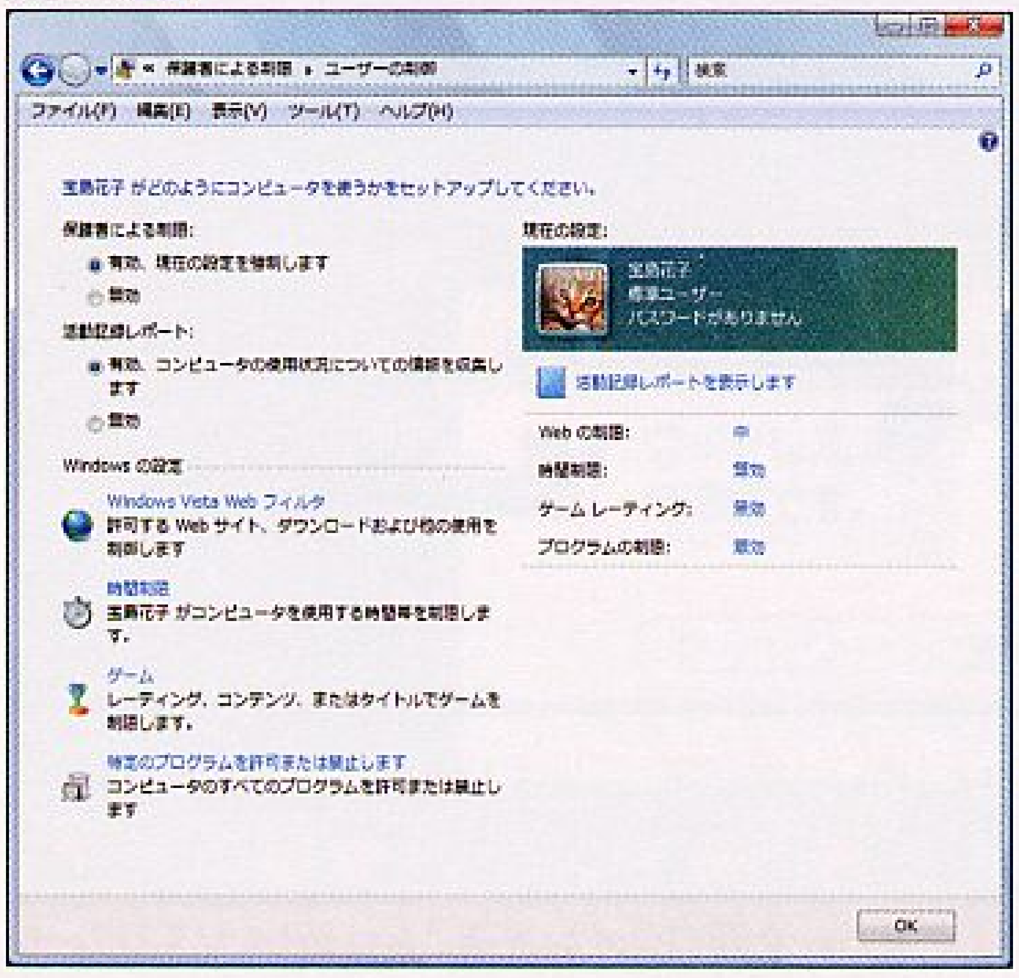
効果 ●子供に有害なサイトを見せないようにできる
●子供のパソコンの使いすぎを防げる

子供がゲームをする時間を制限したい、インターネットで不健全なサイトを見せたくない。そんなときに役立つ機能がVistaには新しく搭載されている。「保護者による制限」機能がそれで、特定のユーザーアカウントに対して、さまざまな制限を設定できる。制限の内容は、Webフィルタで有害なサイトを表示させない、パソコンを使用する時間を制限する、ゲームをソフト名やレイティングで制限する、特定のプログラムを禁止するなど。この機能を使うには保護者のユーザーにパスワードが設定されていることが条件だ。

1 保護者による制限の設定を起動する

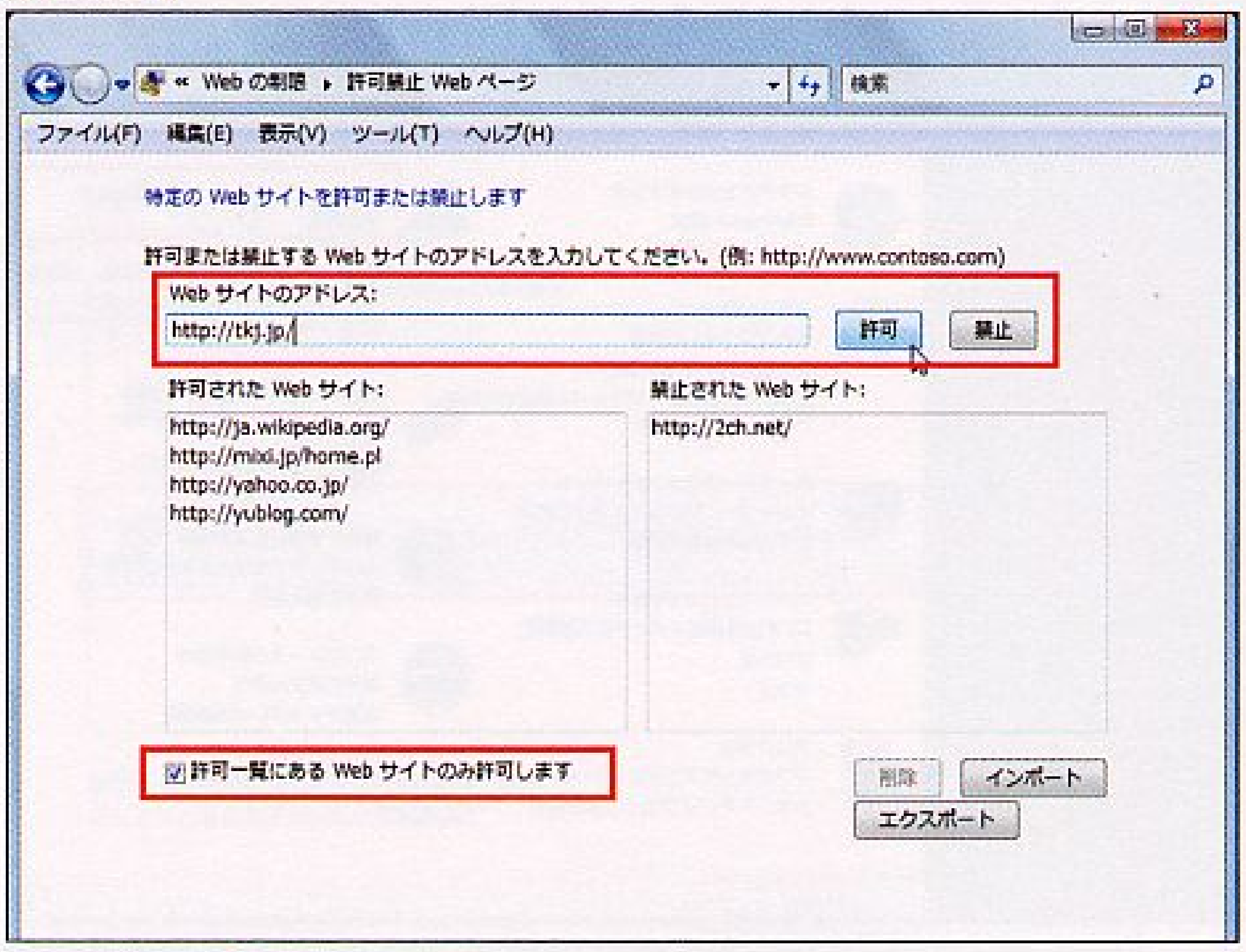
「スタート」メニューからコントロールパネルを起動し、「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」項目の「任意のユーザーへの保護者による制限のセットアップ」をクリックする

2 制限する内容を設定する



ユーザーアカウントの一覧が表示されたら子供が使っているユーザーアカウントをクリック。するとこのようなウィンドウが表示される。制限する内容を設定しよう

3 ホームページの閲覧制限をする



2の画面で「Windows Vista Webフィルタ」をクリックする。特定のサイトだけを許可したい場合は、「許可一覧にあるWebサイトのみ～」にチェックを入れ、「許可と禁止の一覧を編集します」をクリックする。この画面になったら、許可するサイトまたは禁止したいサイトのアドレスを入力する。許可したWebサイトにしかアクセスできないので、「一部のWebサイトまたはコンテンツを禁止する」では、なかなかカバーしきれない有害なサイトも確実に制限できる

4 パソコンの使用時間を制限する

2の画面で「時間制限」をクリックする。「禁止」をクリックし、禁止したい時間をドラッグで塗りつぶすように指定する。終わったら「OK」をクリックすればいい。これで「禁止」に設定した時間帯にはログオンできなくなる

ワンポイント パスワードに注意

保護者のパスワードが子供に知られると、保護者のアカウントでログインでき、制限の意味がなくなる。この機能を使うなら家族間でもパスワードを厳格に管理するべきだ。

難易度 **易**

自動拡大・縮小印刷機能でホームページの印刷ミスを防ぐ

快適指数

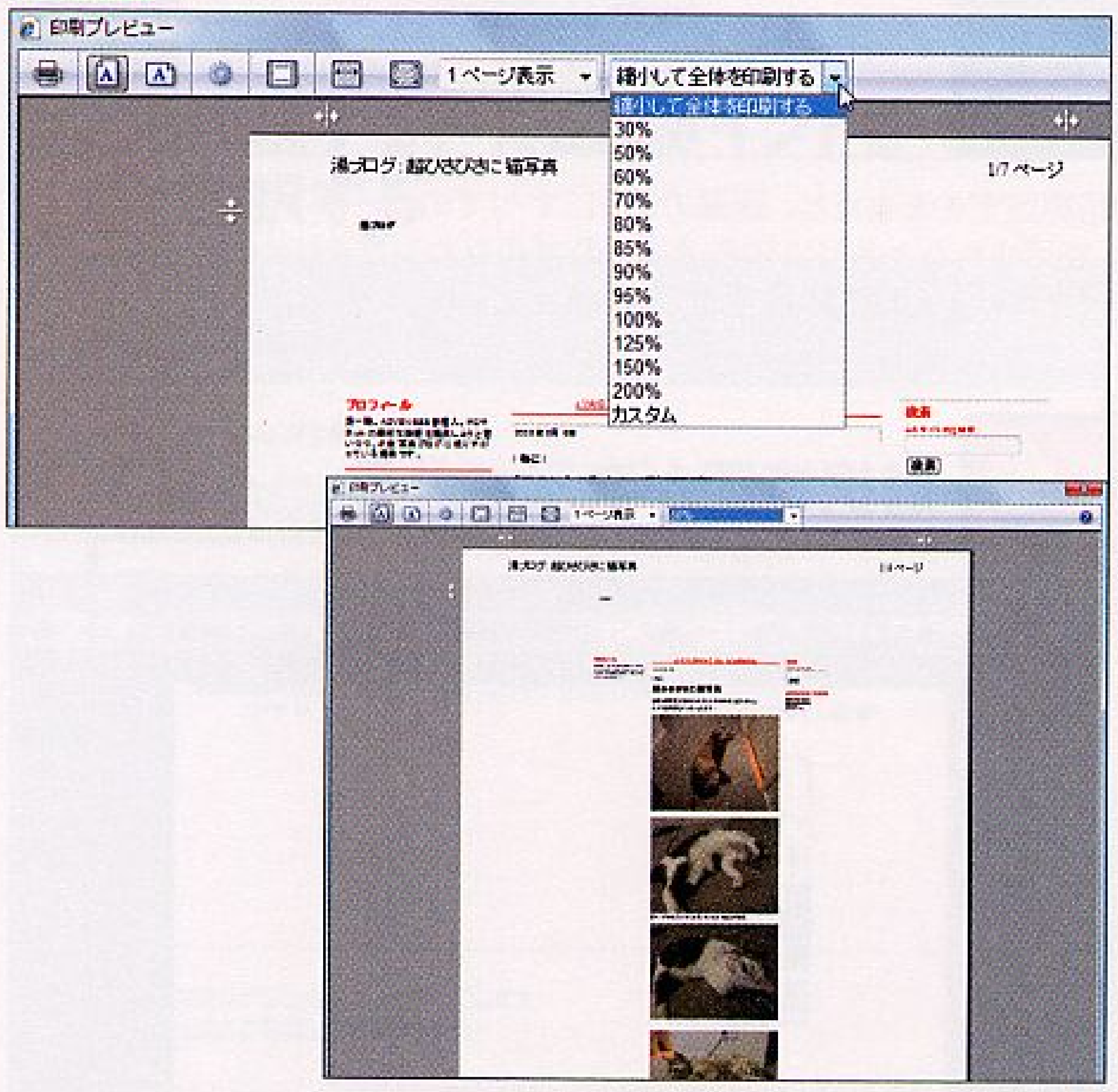
効果
- ●難しいフレームページの印刷も失敗しない
- ●用紙に合わせた拡大・縮小がプレビューで確認できる

Internet Explorer 7では、Webページの印刷の際に、印刷サイズを用紙に合わせて自動的に拡大・縮小をしてくれる機能が搭載された。以前のバージョンでは、横幅が広いWebページや、複雑なフレームやリンクを使っている場合、ページが用紙からはみだして印刷が正常にできないことがあり、この問題には常に多くのユーザーが悩まされ続けてきた。しかしIE7なら、一発で指定した用紙サイズにぴったり収まるように印刷ができるのだ。これでもうホームページ印刷のミスプリントで紙を無駄にすることがなくなるはずだ。

1 「印刷プレビュー」を表示させる

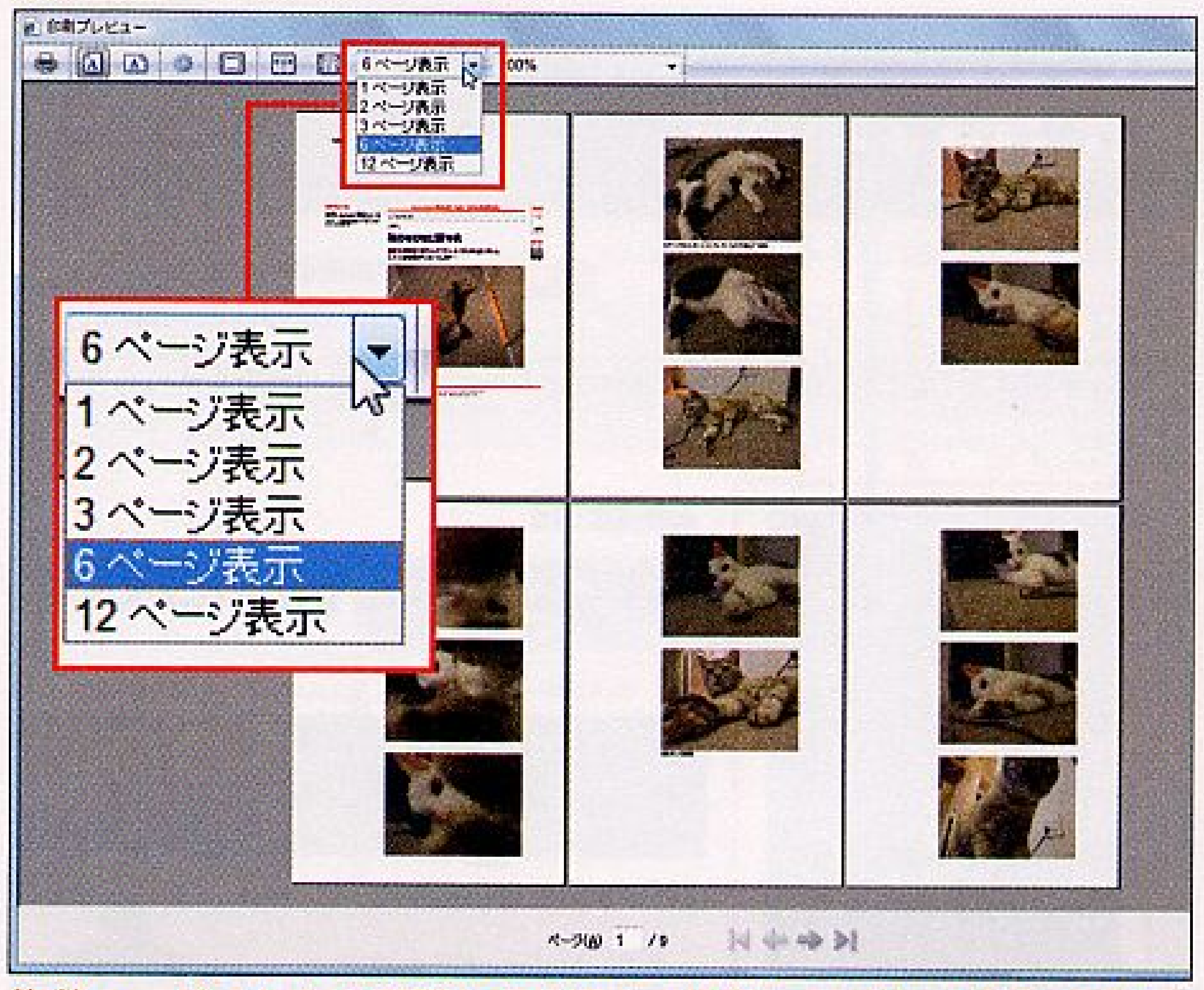
Internet Explorer 7で印刷したいページを表示させ、「印刷」アイコンの右にあるプルダウンをクリックし、「印刷プレビュー」を選択

2 印刷用紙にちょうどいいサイズに拡大・縮小される



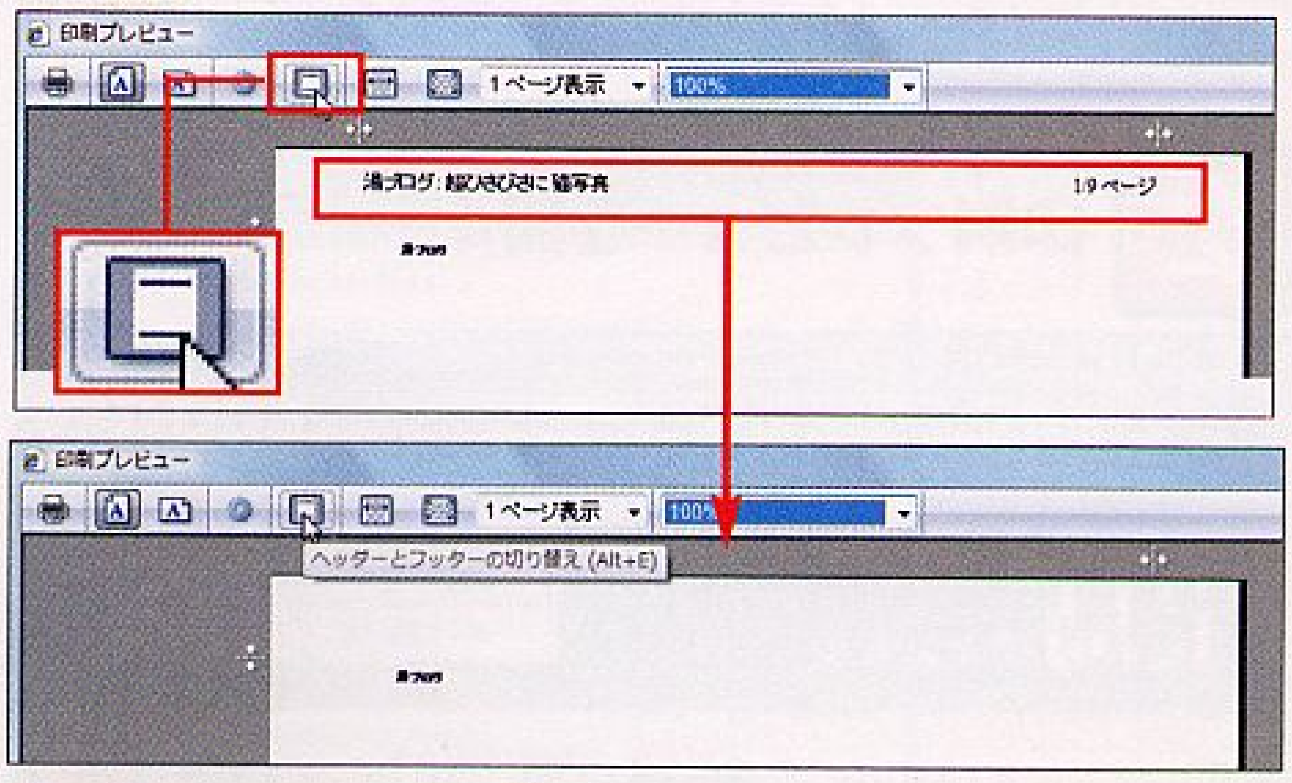
印刷プレビューでページが印刷用紙（初期設定ではA4）に収まるように自動的に拡大・縮小されているのがわかる。さらに印刷サイズを変えたいなら「縮小して全体を印刷する」のプルダウンから「30%」「40%」などと既定の倍率からサイズを選ぶか、「カスタム」で自分の好きな数値を入力してもいい。「印刷」ボタンをクリックすれば印刷ができる

3 複数ページをまとめてプレビューすることも可能



複数ページにわたる印刷をする場合、複数ページを同時にプレビューすれば、印刷結果のイメージがしやすくなる。「1ページ表示」のプルダウンをクリックし、何ページ分を表示させるかを選択すればいい

4 ヘッダーとフッターを印刷しない



「ヘッダーとフッターの切り替え」ボタンをクリックすると、ヘッダーとフッターの表示／非表示を切り替えられる。不要なときは非表示にして印刷しよう

ワンポイント 余白を手動で調整

印刷プレビュー画面から表示されているページの上下左右の余白の幅を調整することができる。白く表示されたスライダーをドラッグし、プレビューを見ながらページの余白を調整してみよう。

難易度 易

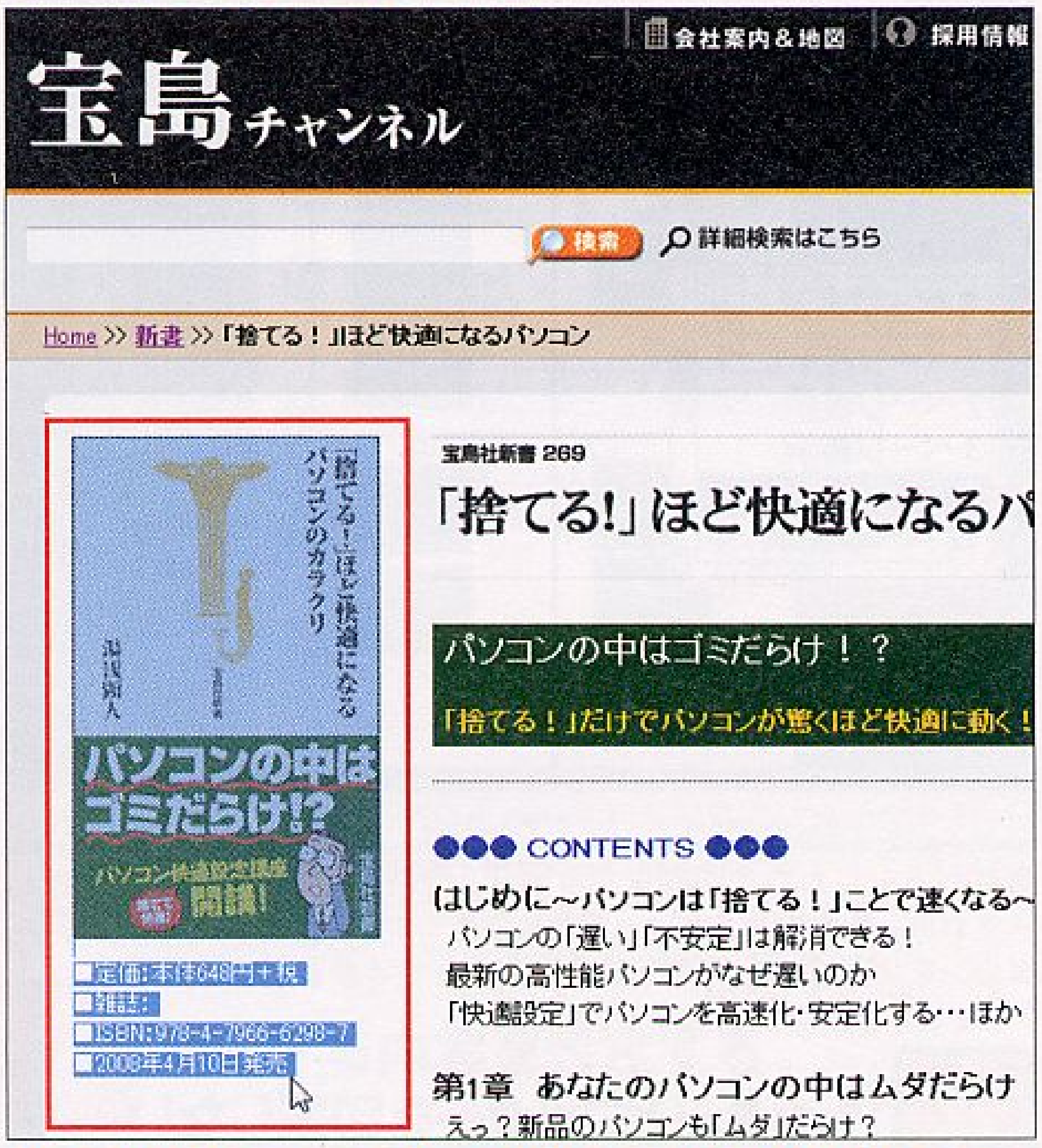
ホームページの必要な部分だけを選択して印刷する

快適指数

効果
●ページの中の必要な情報だけを抽出できる
●印刷用紙の枚数が少なくて済むこともある

ホームページを見ているとき、「ページのこの部分の情報だけ印刷したい」と思っても、その方法がわからないために、欲しい情報は一部なのに、結局ページ全部を印刷したという人もいるだろう。Internet Explorer 7では印刷したい部分を選択し、その選択部分だけを印刷することができる。その際、印刷プレビュー画面で選択した部分がきちんと選択されているか確認することが可能だ。選択範囲は、文字だけでなく画像も指定できる(ホームページの構造によっては画像を選択できないものもある)。

1 ホームページで印刷したい部分を選択する

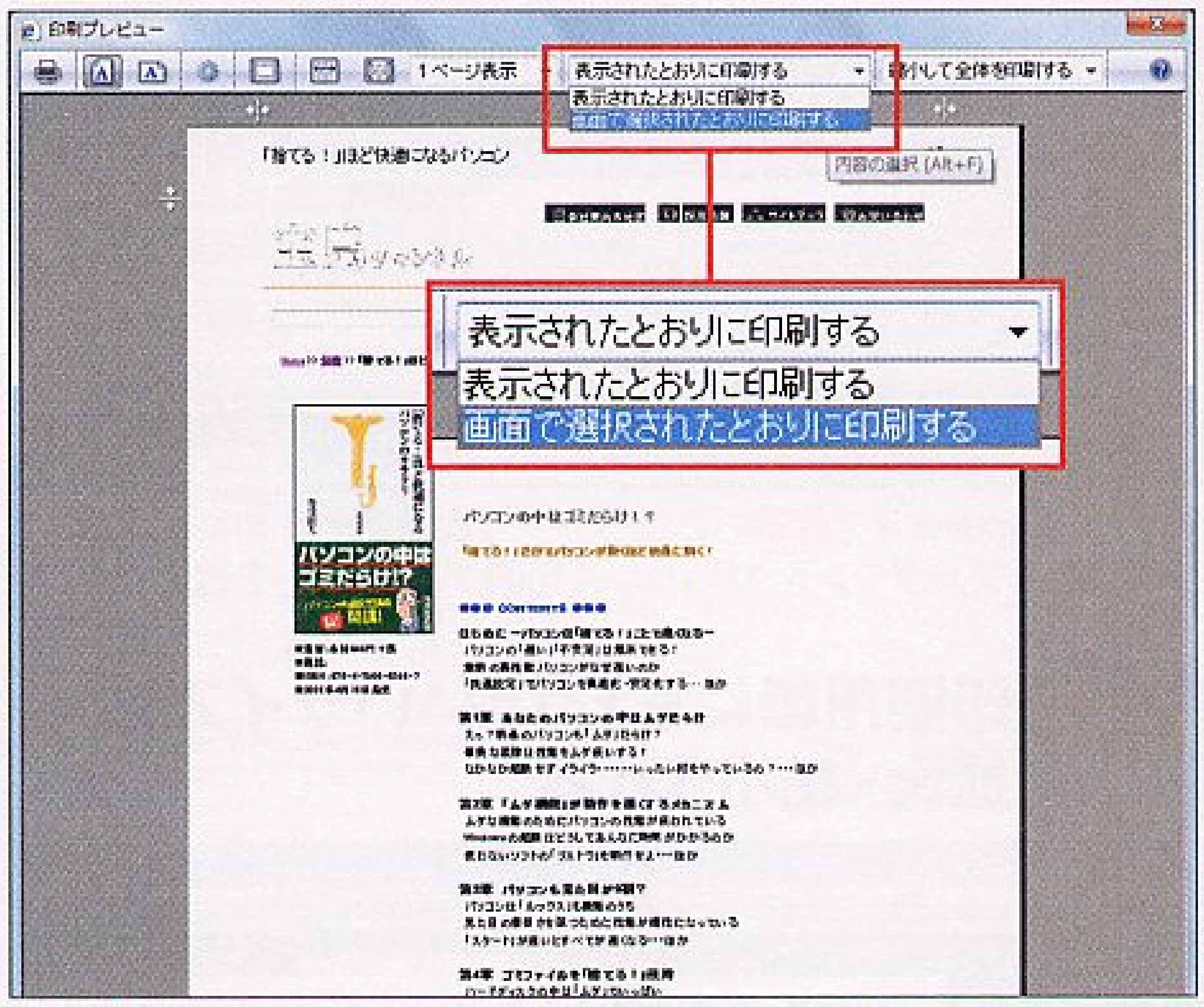


印刷したい部分をドラッグして選択する。必要な部分が青くなっていれば選択されているということ

2 印刷プレビューを開く

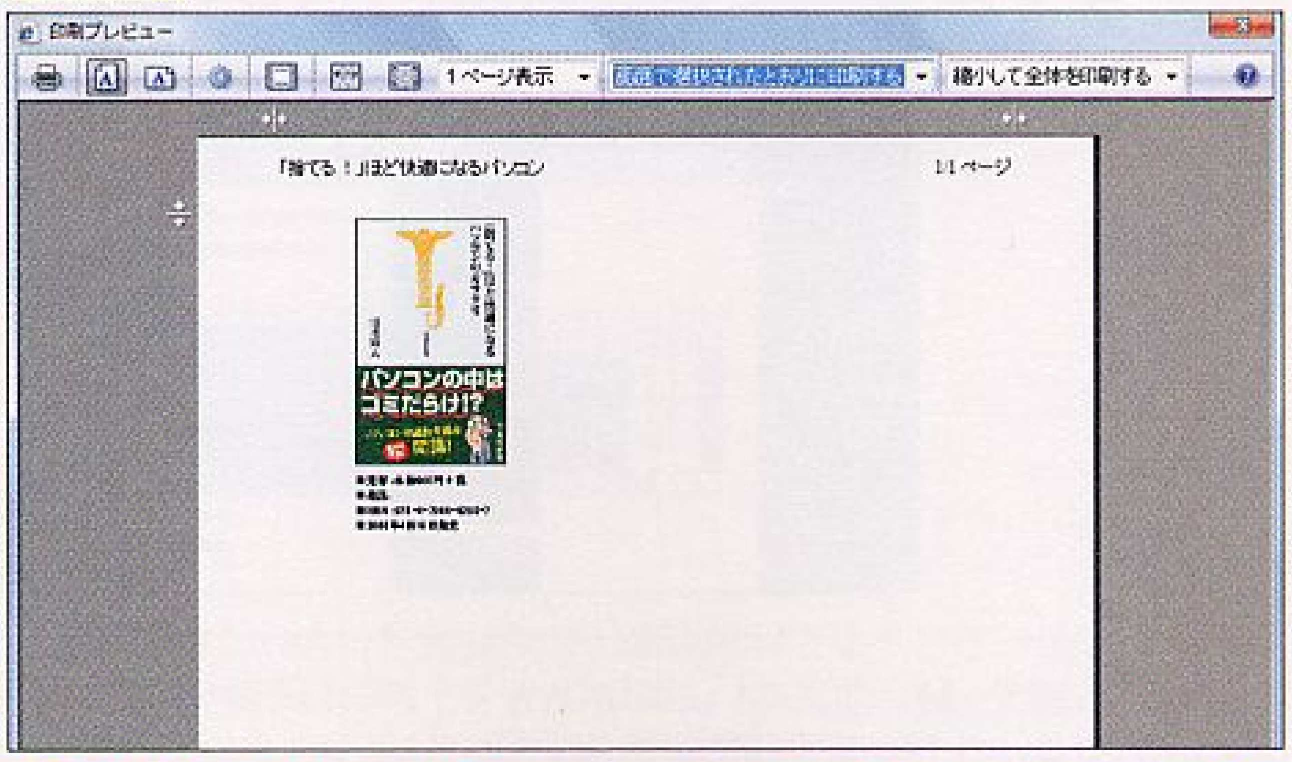
「印刷」ボタンのプルダウンをクリックし、「印刷プレビュー」を選択

3 印刷形式を選択する



初期設定のままだと、画面のようにすべてのページが表示されている。「表示されたとおりに印刷する」のプルダウンをクリックし、「画面で選択されたとおりに印刷する」を選択する

4 選択範囲が表示される



1で選択した部分だけがプレビュー画面に表示される。このまま「印刷」ボタンをクリックし、印刷すればOKだ

ワンポイント
画像を印刷する

ホームページの画像を印刷するには、印刷したい画像を右クリックし、「画像の印刷」を選択する。印刷画面になったら「詳細設定」で印刷品質などを指定して「印刷」をクリックすればいい。

難易度 普

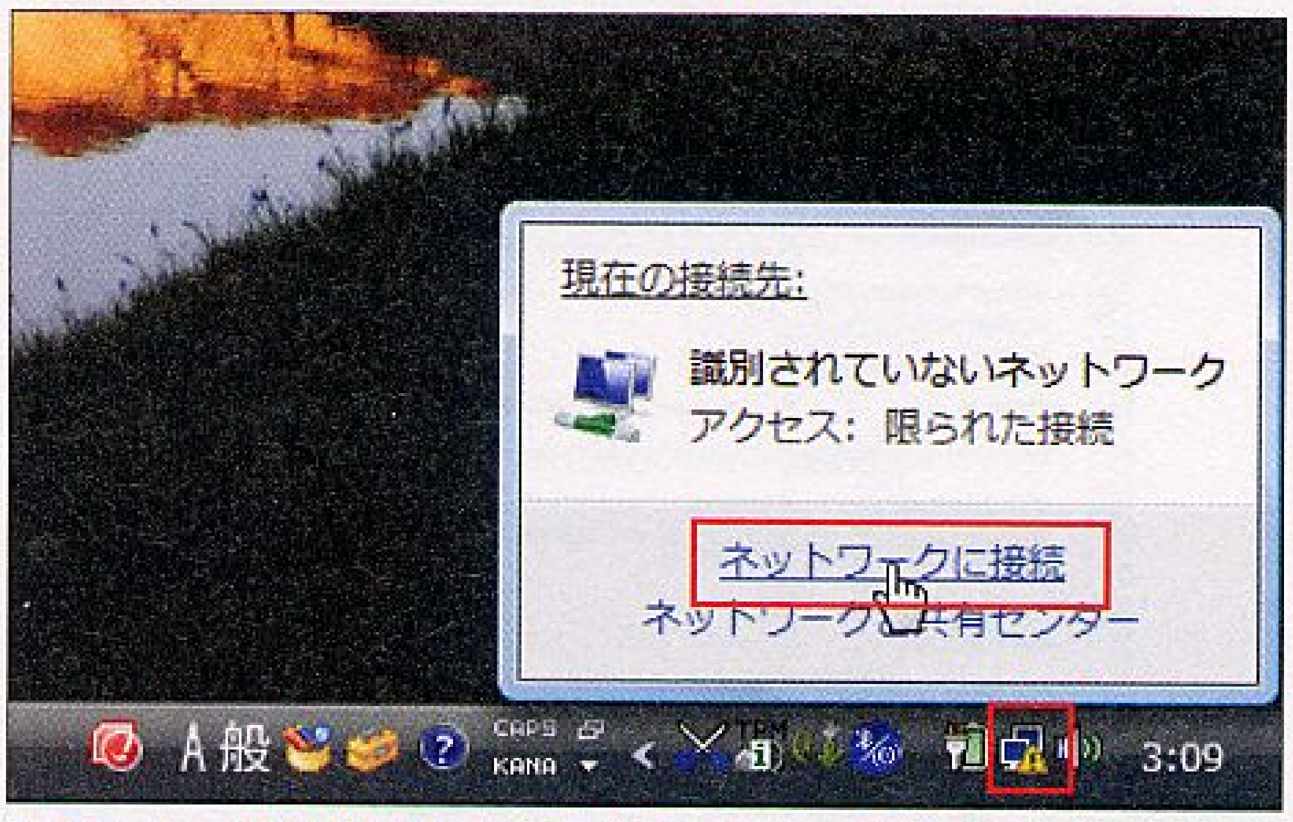
設定の煩雑な無線LANもVistaで手軽に接続する

快適指数

効果
●面倒な無線LANの設定が簡単にできる
●無線LANの設定を外部メモリに保存できる

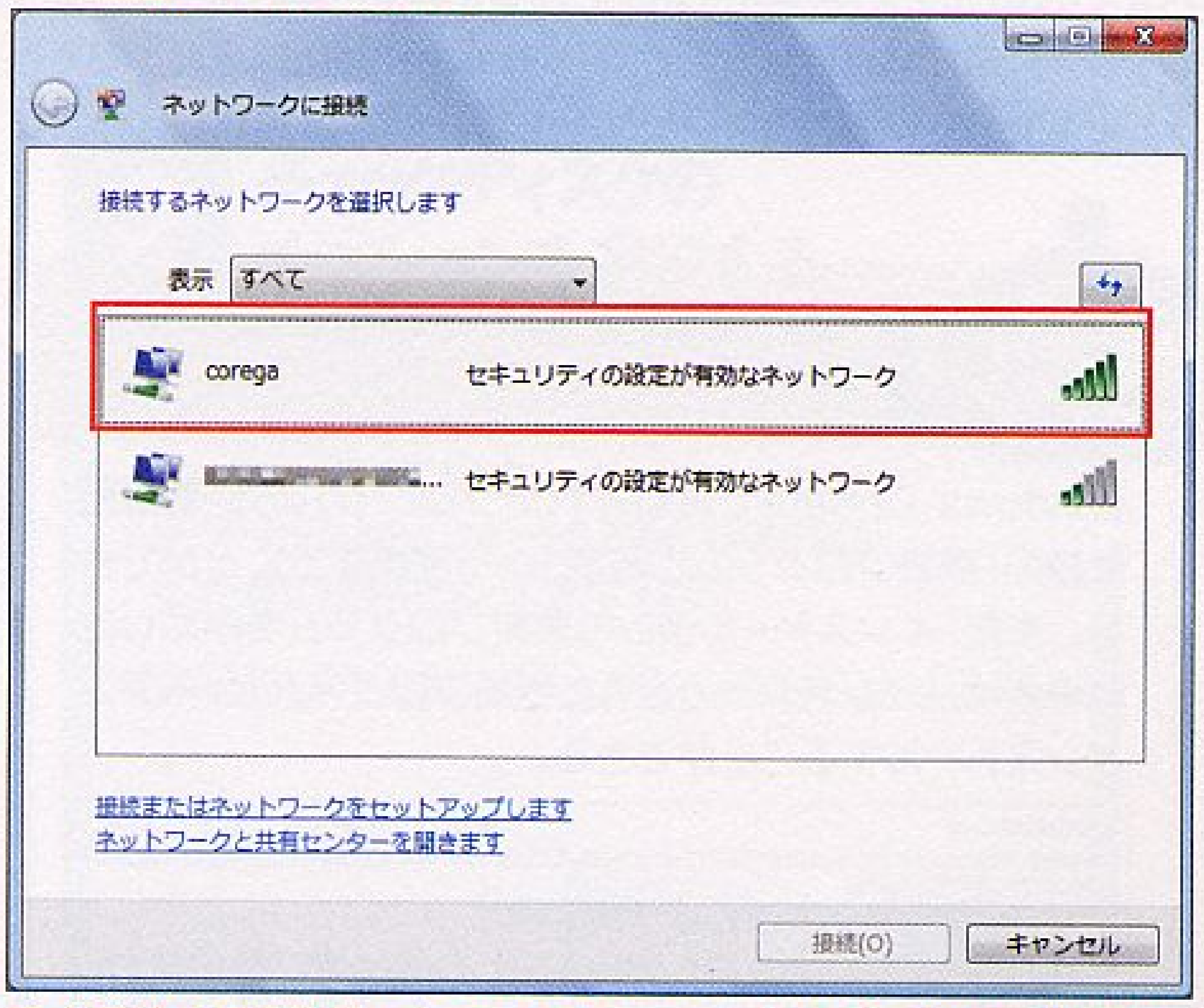
Windows Vistaでは、ネットワークへの接続が簡単に行なえるようになっている。これまでは無線LANの設定は非常に煩雑であったが、Vistaではほぼ自動で認識してくれるようになった。外出先の会社で自分のパソコンからネットに接続をさせてもらうときなど、普段使わないネットワークに接続する際でも、暗号の種類と暗号キーさえ教えてもらえば簡単に接続できるようになっている。ノートパソコンを持ち歩いているのに外出先のアクセスポイントで設定に失敗して結局使えない……、ということはもうなくなるのだ。

1 通知領域のネットワークアイコンをクリックする



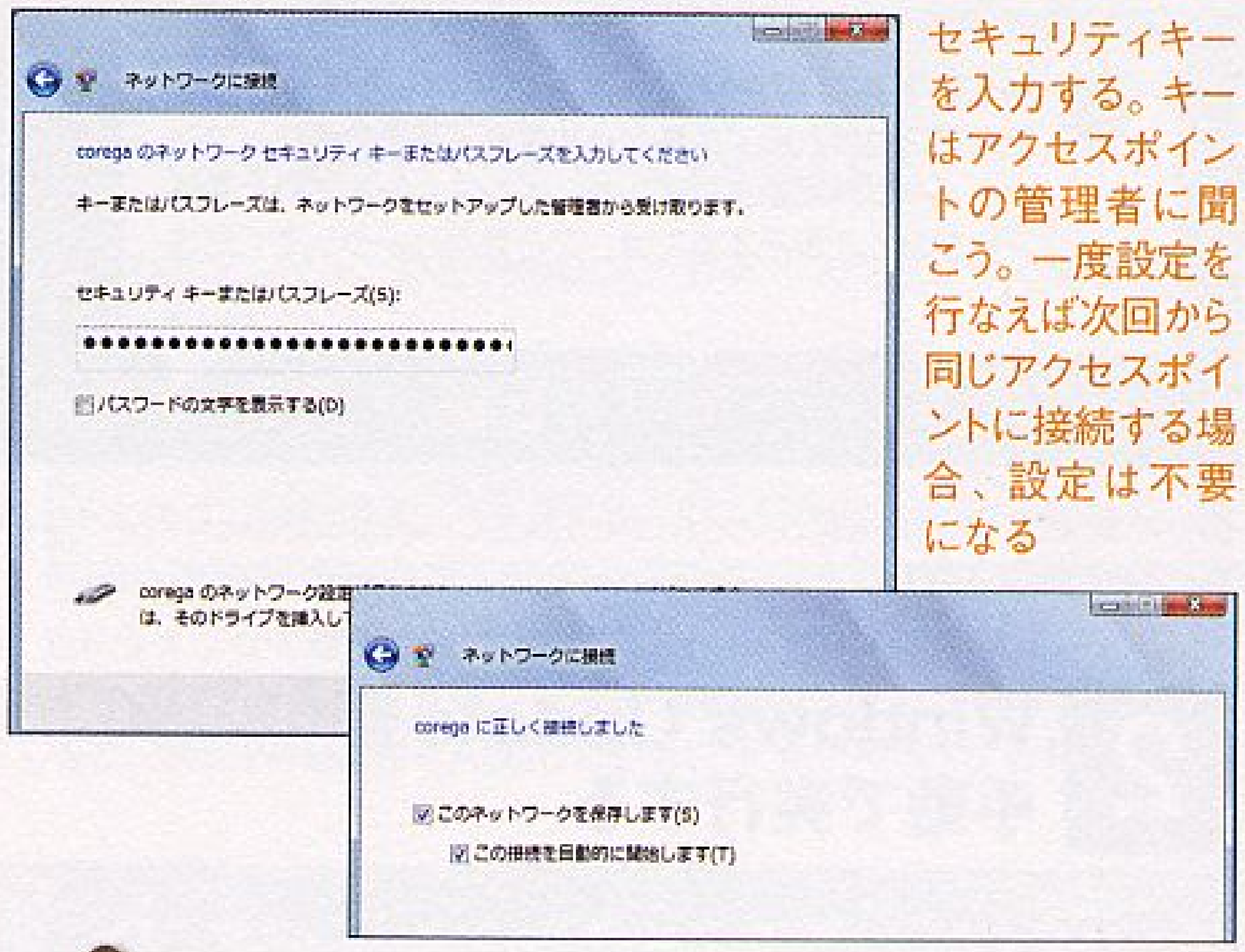
タスクバーの通知領域に表示されているネットワークアイコンをクリックし、「ネットワークに接続」をクリックする

2 接続するアクセスポイントを選択する



現在電波の届く範囲にあるアクセスポイントの一覧が表示されるので、目的のアクセスポイントを選択し「接続」をクリックする

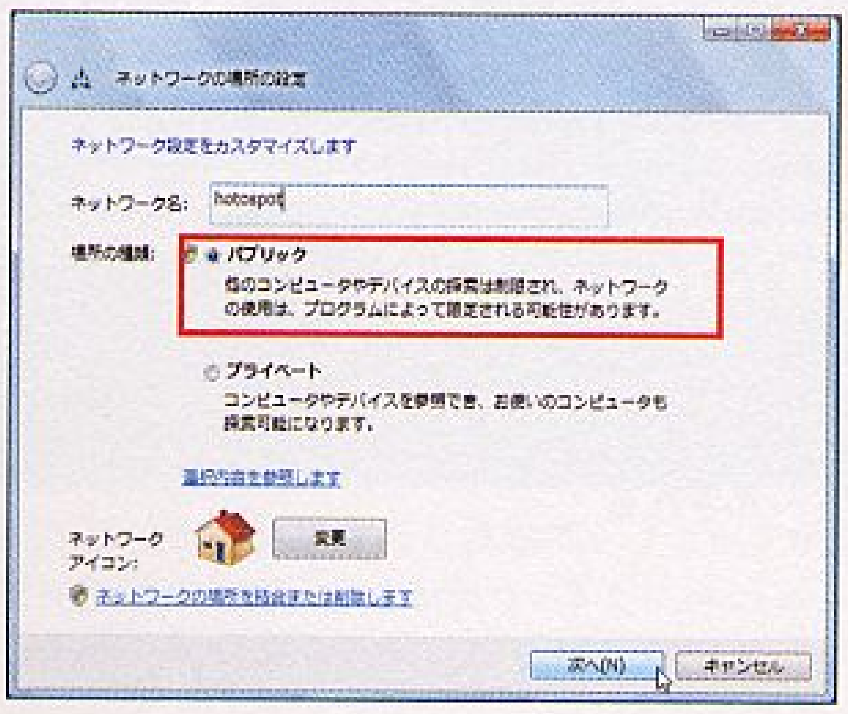
3 セキュリティキーを入力する



セキュリティキーを入力する。キーはアクセスポイントの管理者に聞こう。一度設定を行なえば次回から同じアクセスポイントに接続する場合、設定は不要になる

もっと快適!! テクニック ホットスポットなど公衆無線環境での注意

公衆無線LANスポットなど、不特定多数のユーザーが利用するネットワークでは、他のパソコンからのアクセスを制限する「パブリック」に設定しておくといい。また、「ネットワークと共有センター」で「ファイル共有」を無効にしておこう。



「ネットワークと共有センター」の「ネットワーク」の横の「カスタマイズ」をクリックし、「パブリック」にチェックを入れる

ワンポイント 設定を外部メモリに保存する

Windows上で設定した無線LANの設定はUSBのメモリに保存できる。「コントロールパネル」→「ネットワークとインターネット」→「ネットワークへのデバイス追加」でUSBフラッシュメモリにネットワーク設定を保存する。

難易度 易

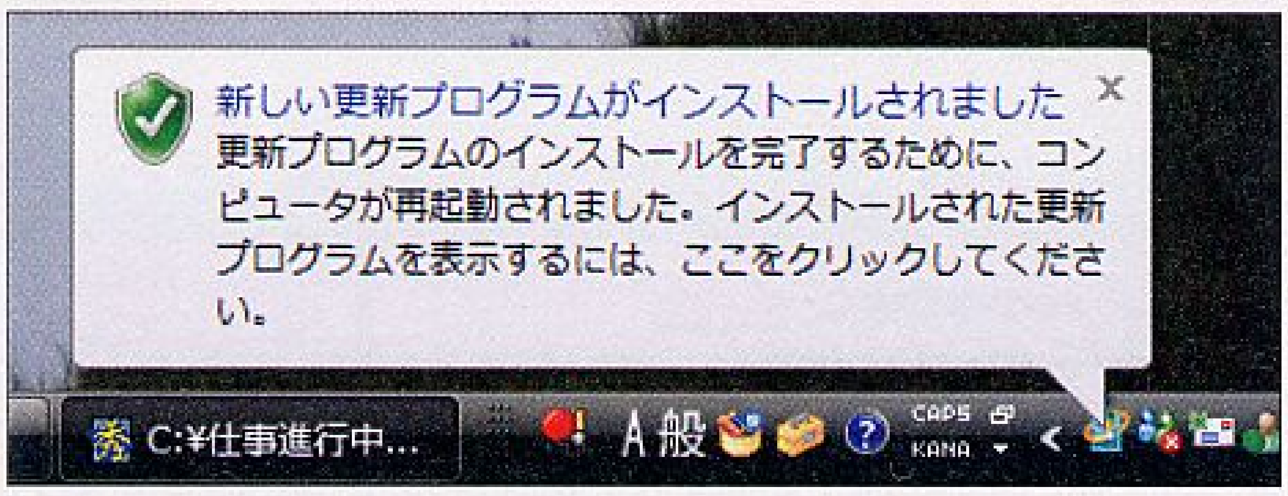
Windows Updateでシステムを常に最新状態に保つ

快適指数

効果
●セキュリティ強化など最新のプログラムを入手できる
●プログラムの更新時間を設定し、作業時に負荷がかからないようにする

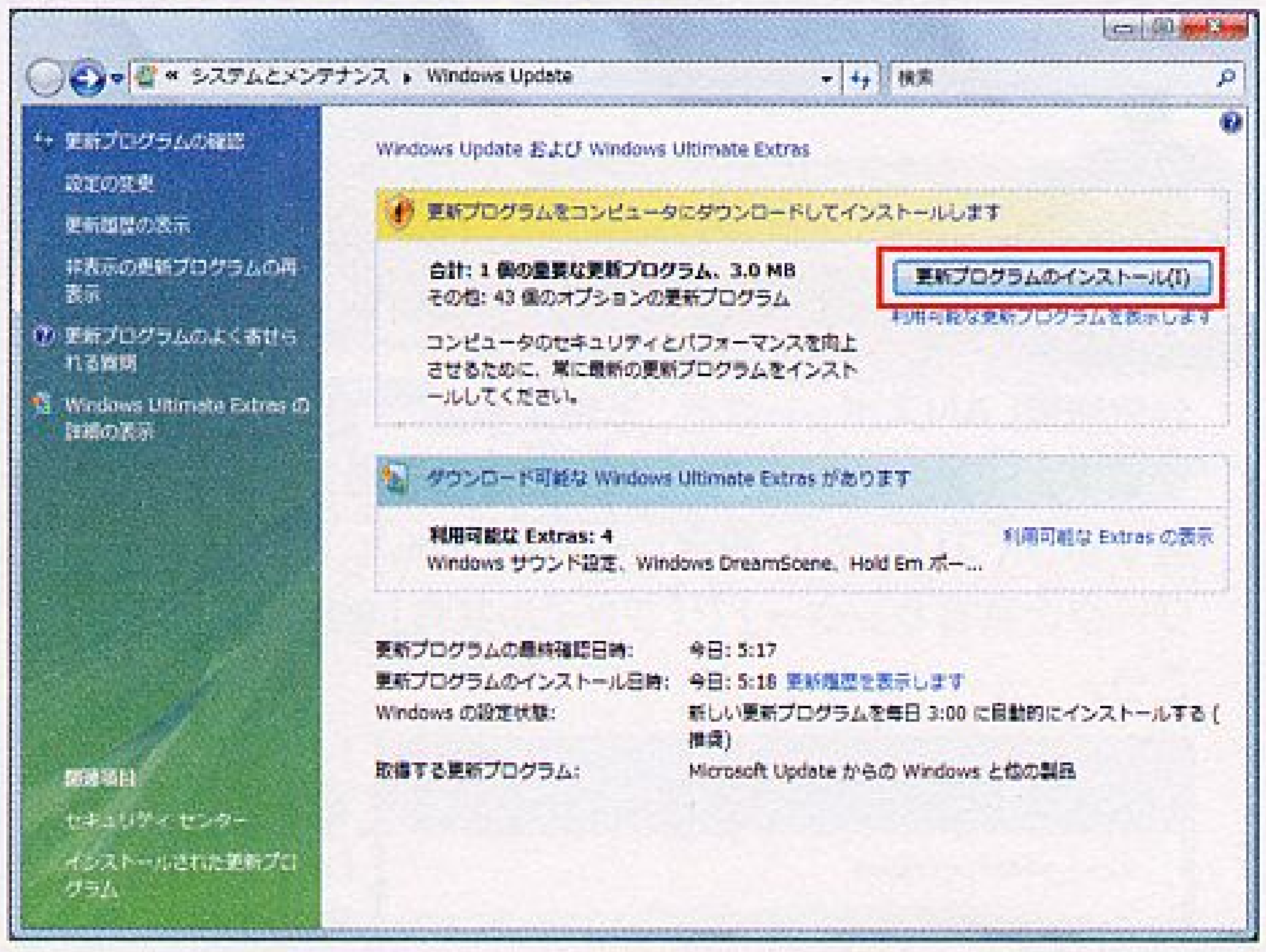
マイクロソフトから配信される更新プログラムを入手できる「Windows Update」は、セキュリティ強化や各種機能のアップグレードなど、重要なものが多い。また、Windowsの不具合が改善されることもあるため、必ず実行しよう。初期設定では、毎日午前3時に更新プログラムを自動的にインストールする設定になっているが、そのときにパソコンが起動していないと、次回起動したときに更新が行なわれるため、パソコンが重くなったり再起動を求められたり作業の邪魔になることも多い。設定を自分に合うよう変更してみよう。

1 新しい更新がインストールされた



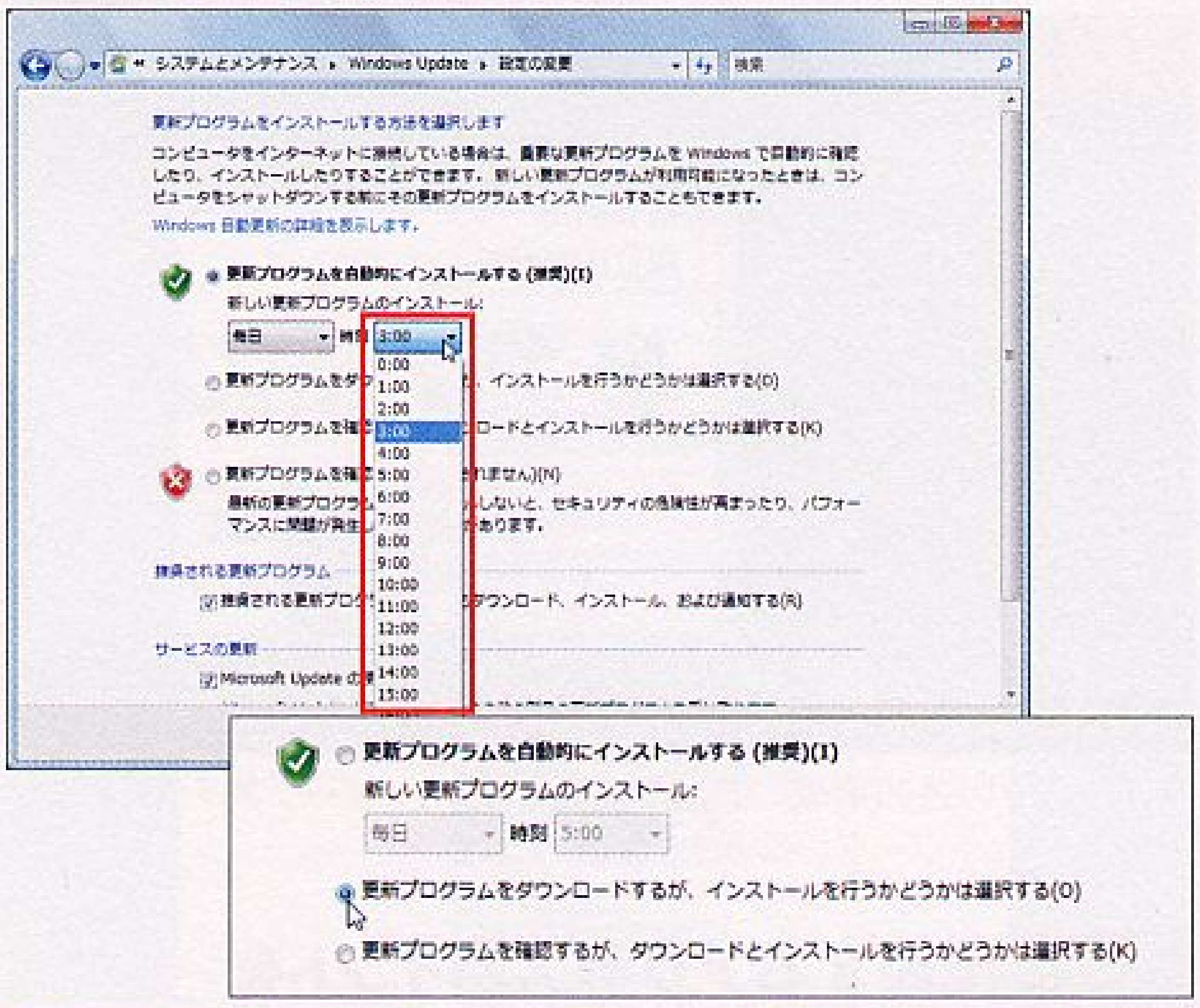
新しい更新プログラムがインストールされると、通知領域にこのようなバルーンが表示される

2 Windows Updateを手動で実行する



「スタート」メニューの「すべてのプログラム」から「Windows Update」をクリックし、起動する。最新の更新がある場合は、更新プログラムが表示される。すぐにインストールしたければ「更新プログラムのインストール」をクリック。そのままにしておいても、初期設定の午前3時になれば自動的にインストールされる

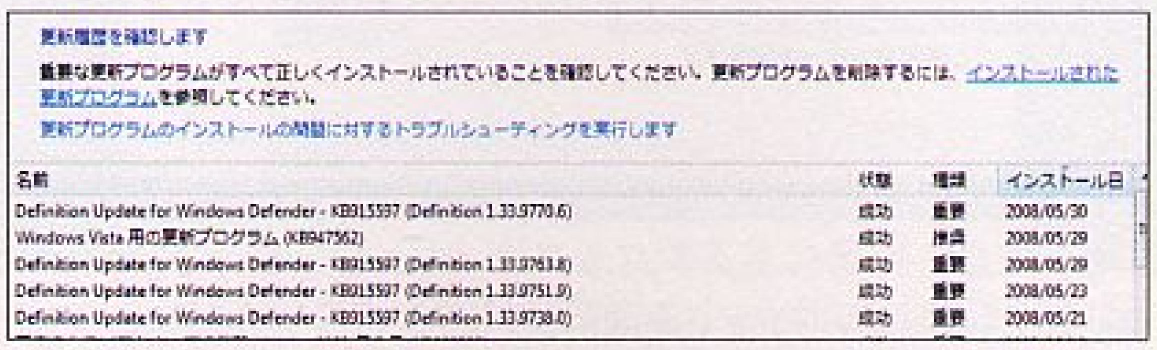
3 Windows Updateの設定を変更する



2の画面で「設定の変更」をクリックする。「更新プログラムを自動的にインストールする」の時刻を好きな時間に変更しよう。また、更新プログラムの確認は自動だが、ダウンロード／インストールは手動で行ないたい、という場合の選択肢も用意されている

もっと快適!!テクニック 過去に更新されたプログラムを見る

Windows Updateで更新されたプログラムの更新履歴は2の「更新プログラムの確認」から確認することができる。また、インストール済みの更新プログラムを削除したい場合は、「インストールされた更新プログラム」からアンインストールすることができる。



ワンポイント **全ユーザーに適用される**

Windows Updateで更新したプログラムは、パソコンを共有しているすべてのユーザーに適用されるため、アカウント毎にWindows Updateを行なう必要はない。

難易度 普

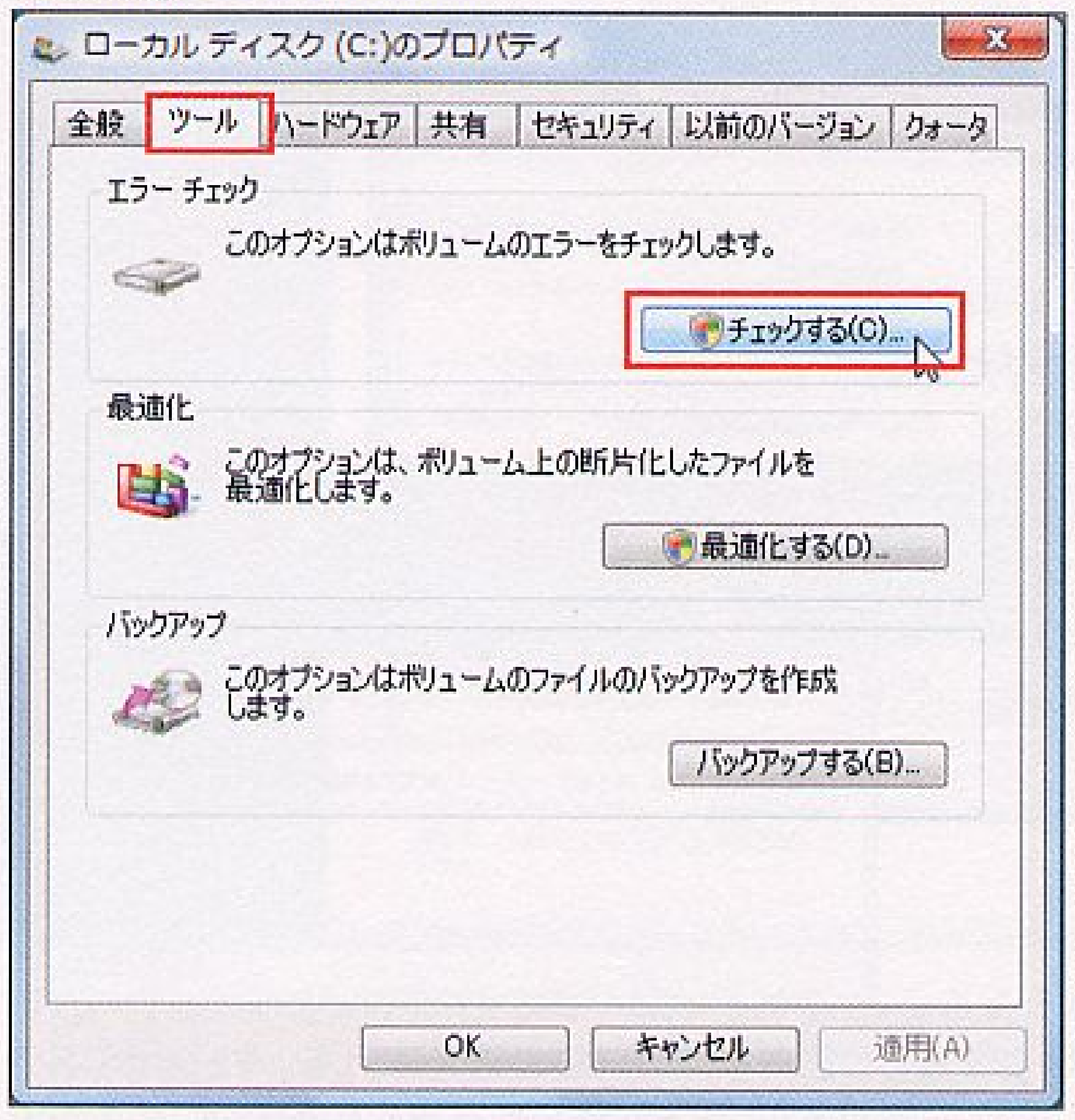
チェックディスクを実行してトラブルを未然に防ぐ

快適指数

効果
- ●ハードディスクの不良箇所を早期発見できる
- ●システムエラーを防止できる

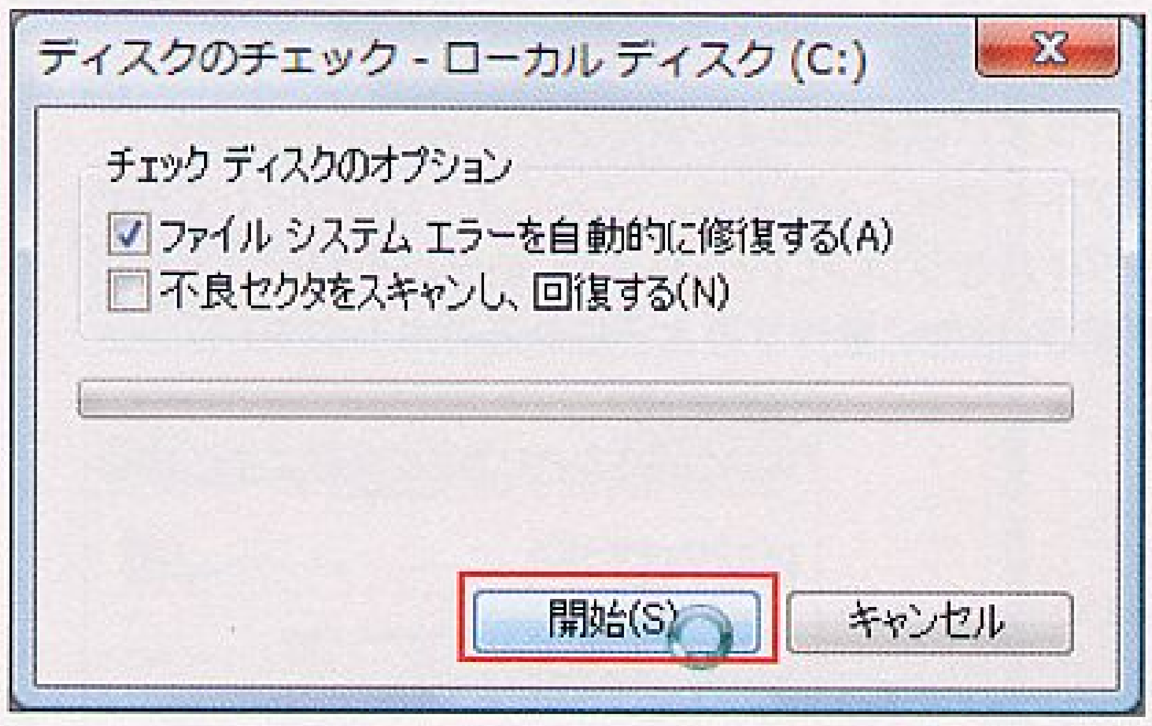
「シャットダウン」を利用せずにパソコンの電源を切ったりすると、ハードディスクにデータが正しく記録されていない領域（ファイルシステムエラー）ができることがある。また、衝撃や老朽化などで記録円盤に傷が付き、読み書きできない領域（不良セクタ）ができることもある。このような状態でパソコンを使い続けると、書き込んだはずのデータが消えるなど、トラブルの原因となるので、「チェックディスク」機能で早期に発見し、修復しよう。チェックディスク実行中は他のアプリケーションを終了させておくこと。

1 チェックディスクを起動する



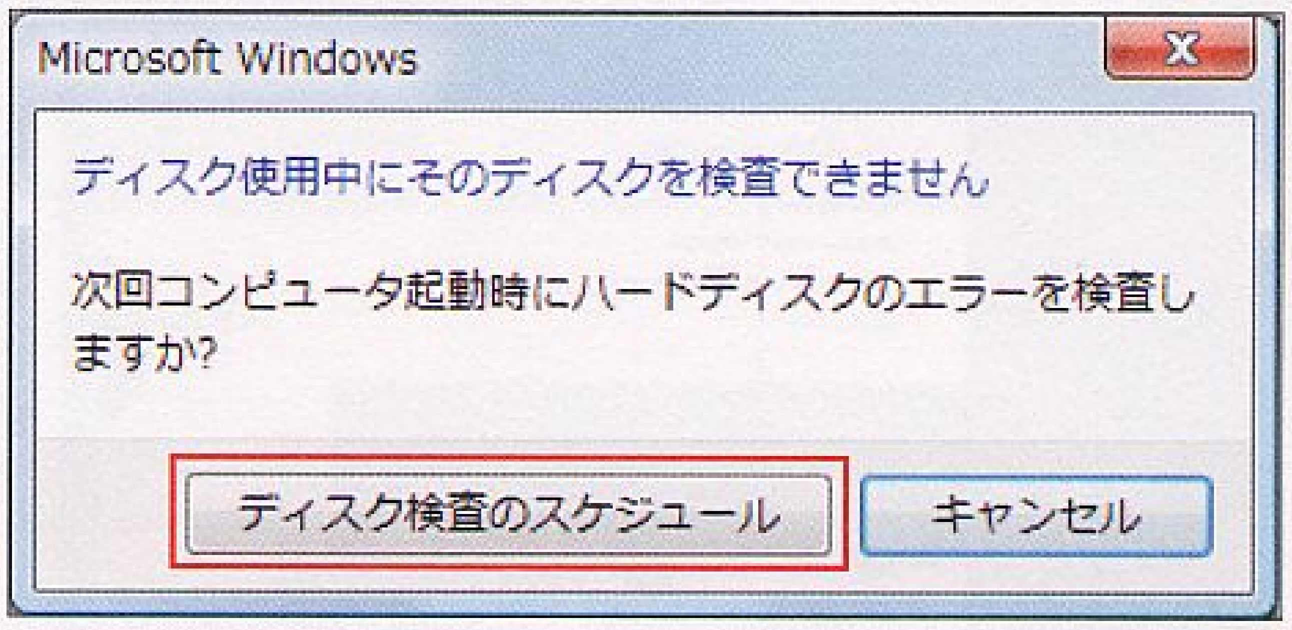
「スタート」メニューの「コンピュータ」を開き、ドライブを右クリックして「プロパティ」を選択。「ツール」タブの「チェックする」をクリックする

2 チェックディスクのオプションを選択する



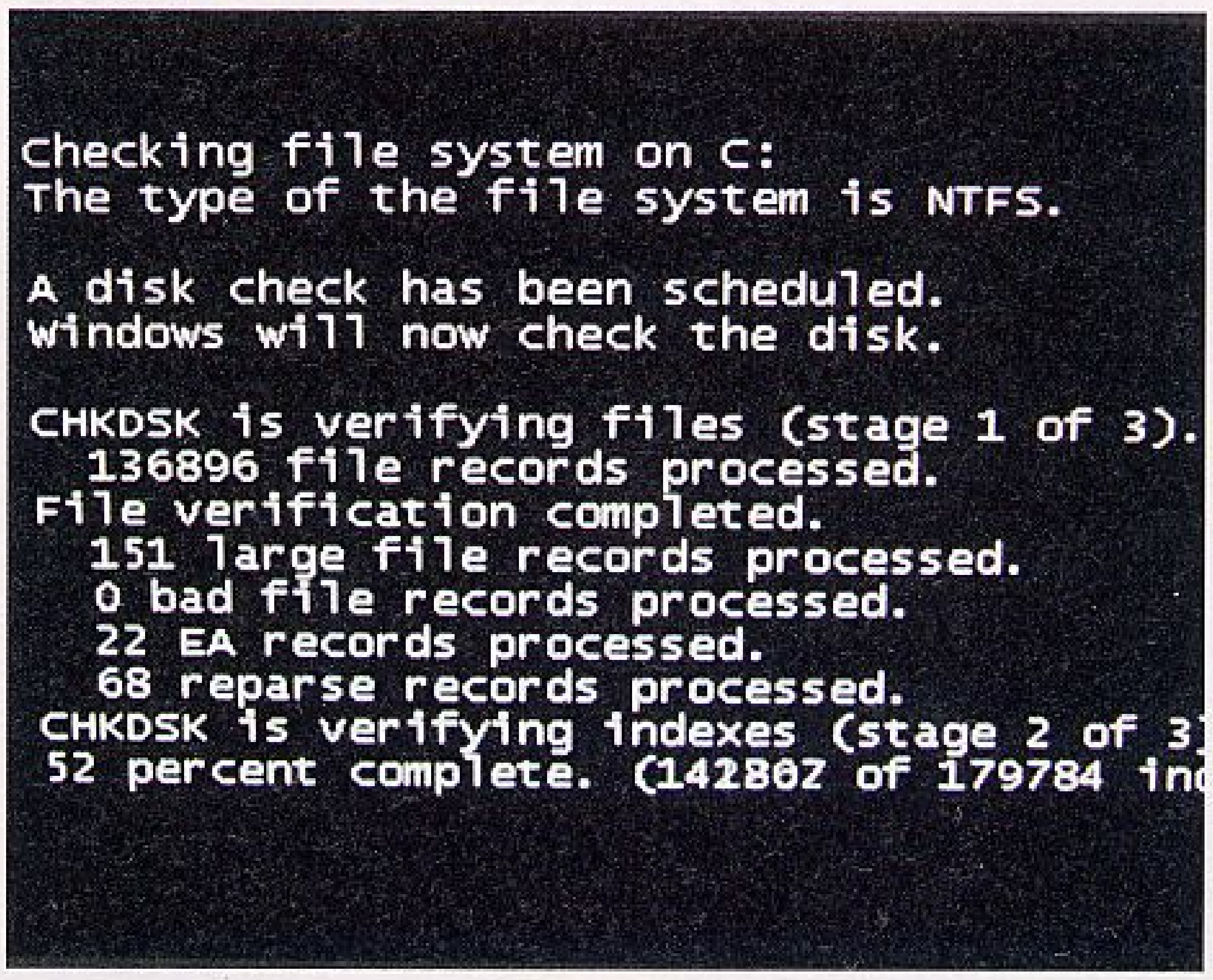
通常は初期設定のまま「開始」をクリックする。「不良セクタをスキャンし、回復する」を有効にするとさらに詳細にチェックできるが、非常に時間がかかるので注意しよう

3 使用中のディスクは再起動後実行される



Cドライブなど使用中のドライブはチェックできないため、このようなダイアログが表示される。「ディスク検査のスケジュール」をクリックすると、次にWindowsを起動したときにチェックが行なわれる

4 再起動後にチェックディスクが実行される



パソコンを再起動すると自動的にチェックが始まる。チェックにはかなり時間がかかることもあり、すぐにはパソコンを起動できないこともあるため注意しよう

Keyword クラスタ
ハードディスクにデータを保存するときの最小単位。ハードディスク内にはクラスタという小さな箱が並んでおり、ファイルはその箱に収納されると考えればいい。クラスタサイズより大きいファイルは分割して保存される。

難易度 普

周辺機器が認識されないときはデバイスの状態を調べる

快適指数

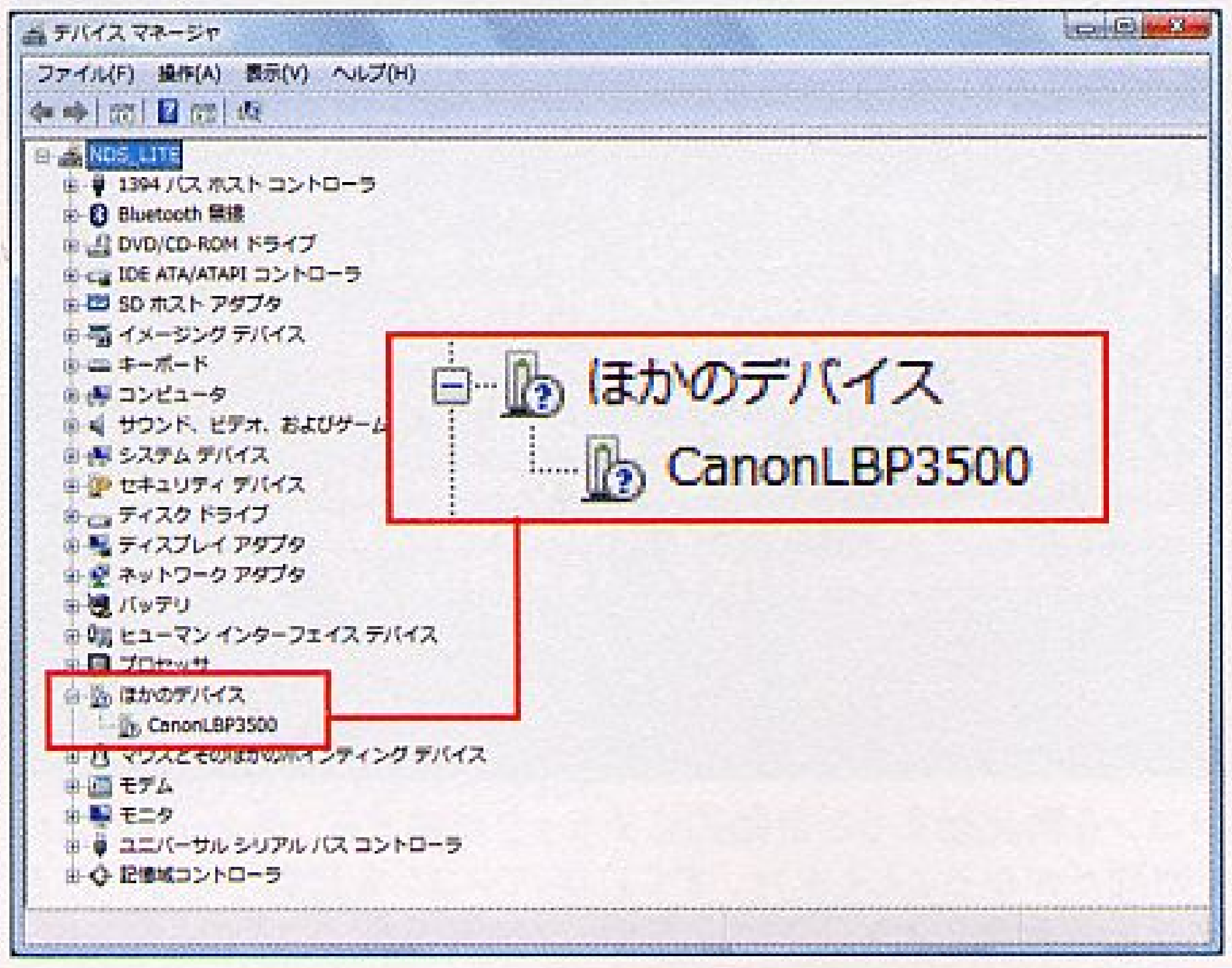
効果
●認識されない周辺機器の状態を調べられる
●ドライバを対応させて周辺機器を安定させることができる

Vistaにバージョンアップした際に、XPやMeで使えていた周辺機器が認識されなくなることがある。そんなときはデバイスマネージャを開いて、認識していない周辺機器をチェックしてみよう。2のようになっていたら、該当する周辺機器のメーカーサイトからVista用のドライバを探し、インストールすれば改善することが多い。なお、古い機器ではメーカーからVista用のドライバが提供されないケースがある。そのような場合は残念ながらVistaで動作させることはできないので、周辺機器を買い替えるなどの方法をとるしかない。

1 デバイスマネージャの起動

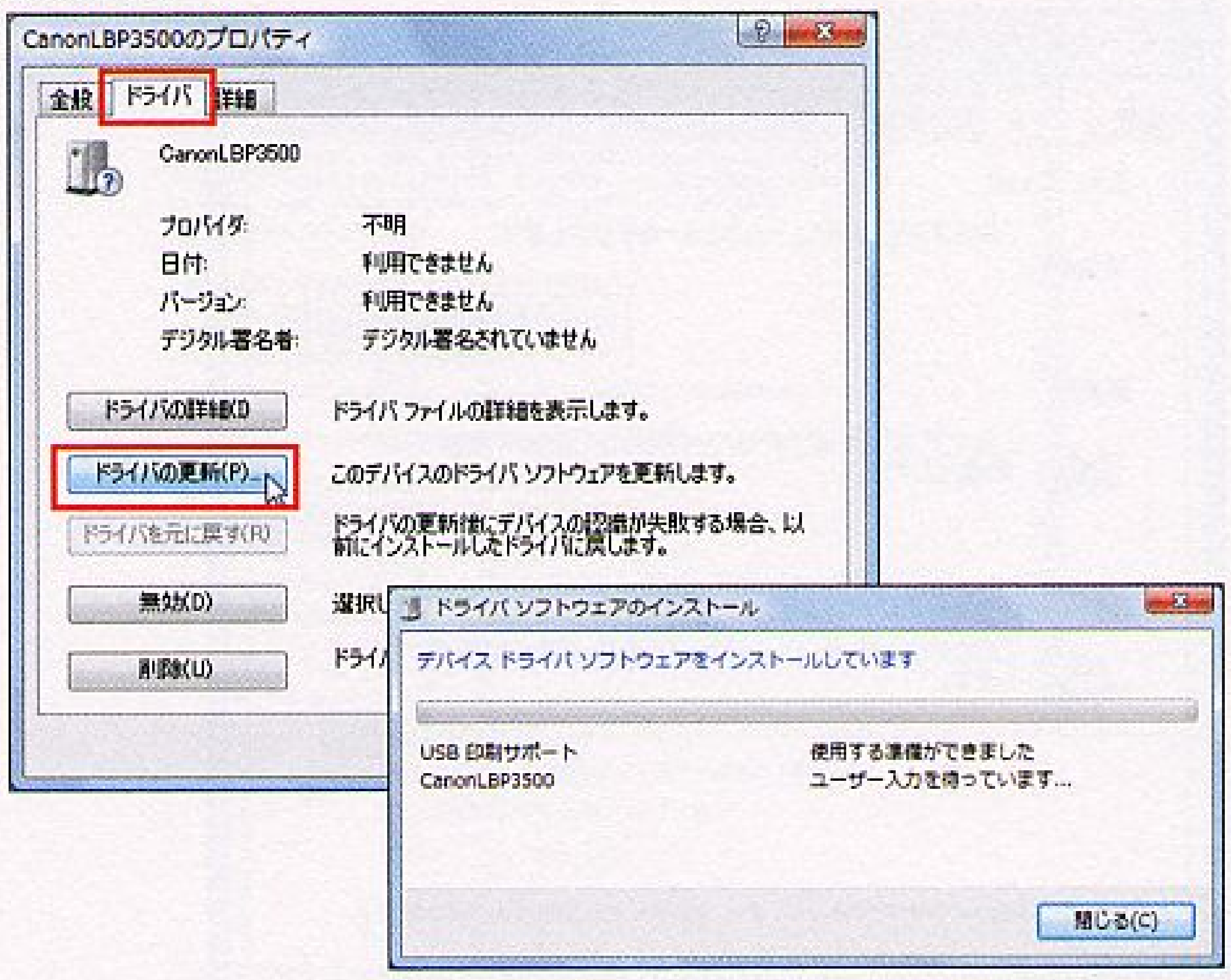
「スタート」メニューの「コンピュータ」を右クリックして「プロパティ」を選び、左のタスクから「デバイスマネージャ」をクリックする

2 デバイスの認識を確認する



正常に認識されていないデバイスは、アイコンに「?」が付き、ドライバが正常にインストールされていないと、「!」が付く

3 デバイスの詳細を確認する



ダブルクリックすると、デバイスの詳細が表示される。Vista用のドライバを再インストールしよう。手元にドライバがない場合は、メーカーのサイトから最新のVista用ドライバをダウンロードする。ダウンロードしたドライバをインストールすれば周辺機器が認識できるようになる

もっと快適!!テクニック 最新のドライバをメーカーサイトから入手する

古いドライバだとVistaに対応していないこともあるし、対応が不十分なこともある。マメにメーカーサイトで最新のドライバをダウンロードしよう。動作が不安定だった周辺機器が、快適に動作するようになるかもしれない。

ほとんどのメーカーサイトでは、このようなドライバをダウンロードできるページを用意している。(画面はバッファローのドライバダウンロードページ)

Keyword デバイス
コンピュータに接続されたハードウェアのこと。メモリやハードディスクから、スキャナ、Webカメラまで、Windowsに接続されたすべてのデバイスは、「デバイスマネージャ」で管理することができる。

難易度 易

快適な状態に戻すための復元ポイントを作成する

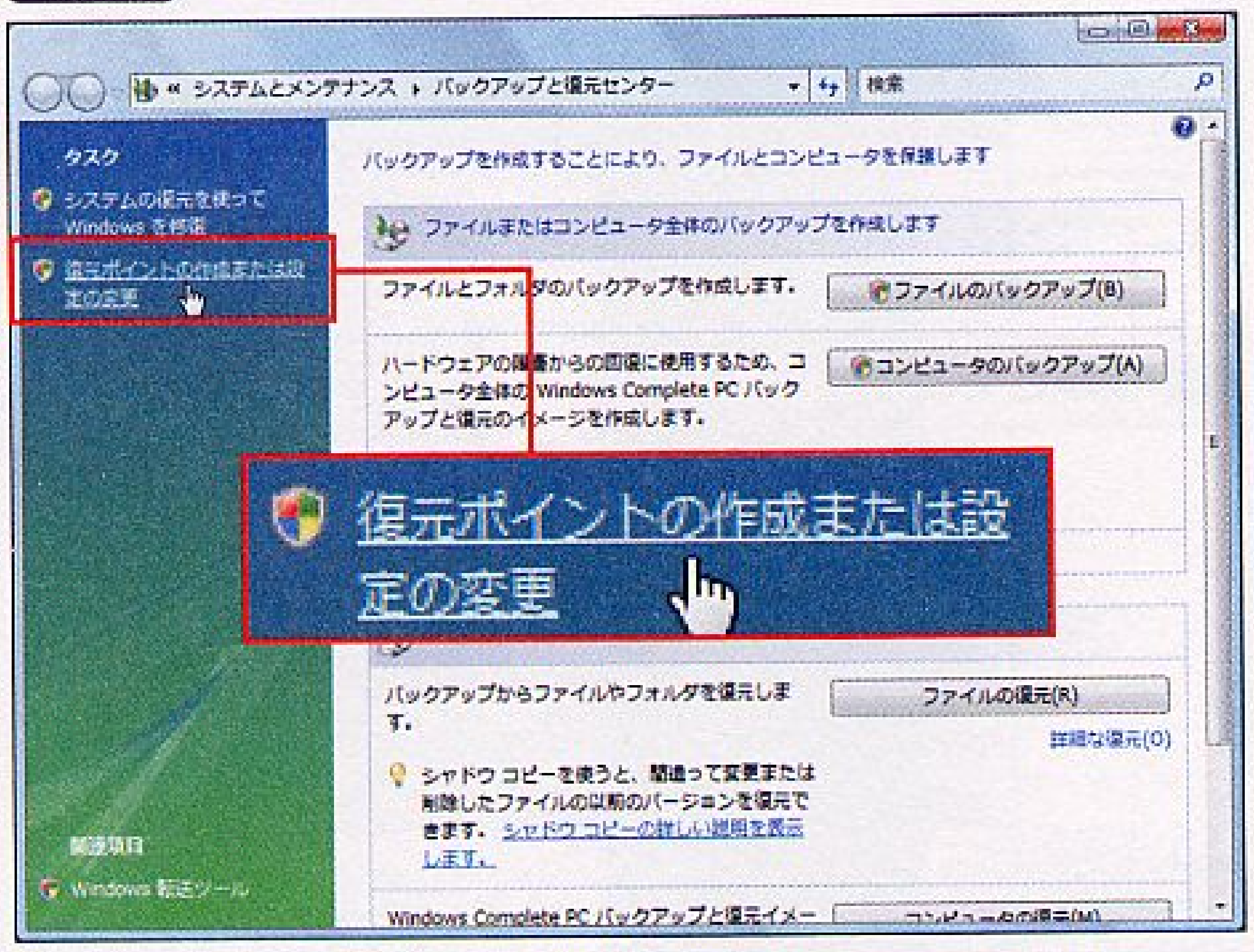
効果絶大ワザ10選

快適指数

効果
●不具合が出る前の状態にパソコンを戻せる
●ソフトのインストールによる不具合がおきても安心

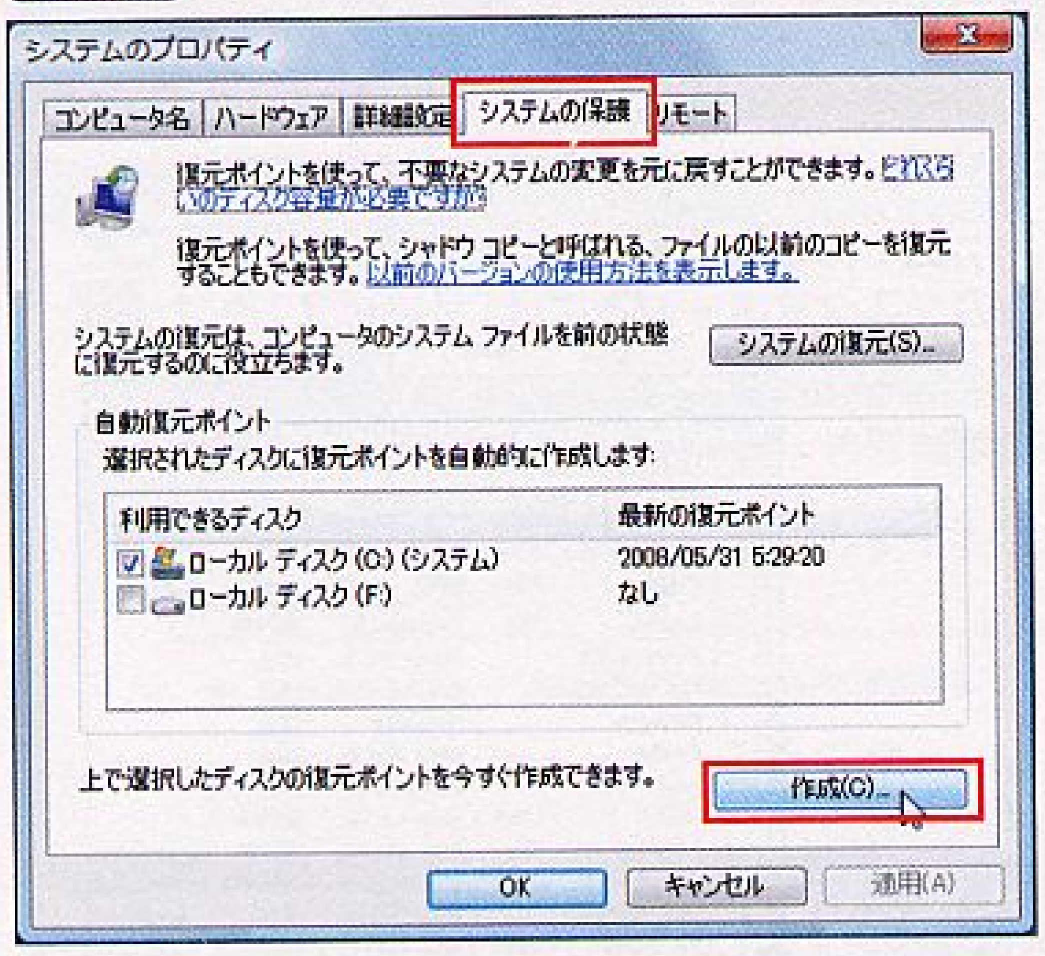
何らかのトラブルでシステムやレジストリのデータが壊れてしまい、パソコンが不安定になったり起動しなくなることがある。そんなときはあらかじめ作成しておいた「復元ポイント」に遡ってパソコンの状態を戻そう。これが「システムの復元」だ。バックアップからの復元とは異なり、ドキュメントなどに作成したファイルはそのまま残っている。復元するポイントは、ソフトのインストール時や決められたスケジュールで自動的に作成されるが、システムが安定動作しているときに、手動で復元ポイントを作成しておけばさらに安心だ。

1 「バックアップと復元センター」を起動する



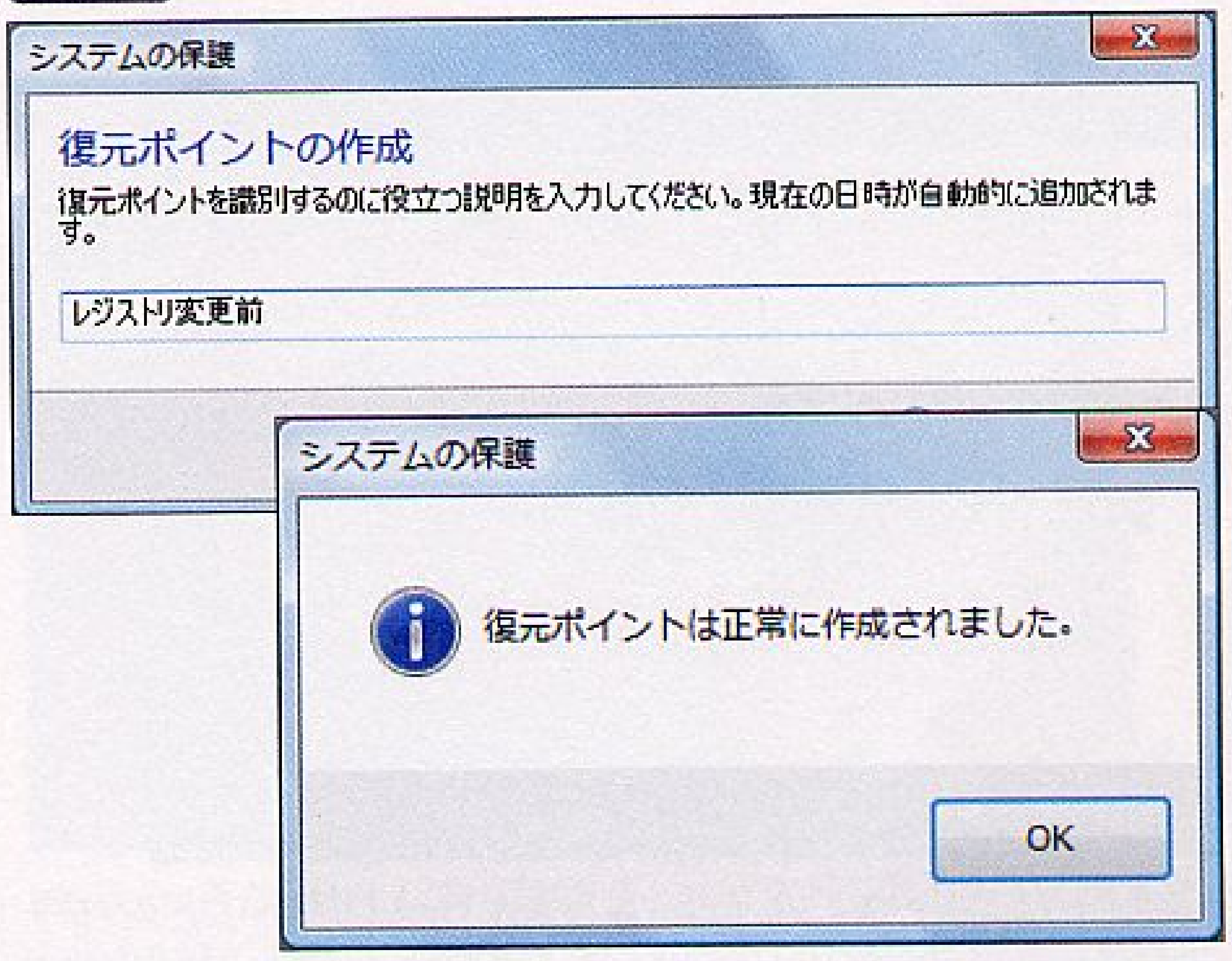
「スタート」メニューの「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」から「バックアップと復元センター」を選び、左のタスクから「復元ポイントの作成または設定の変更」をクリック

2 復元ポイントを手動で作成する



「システムの保護」タブにある「作成」ボタンをクリックする

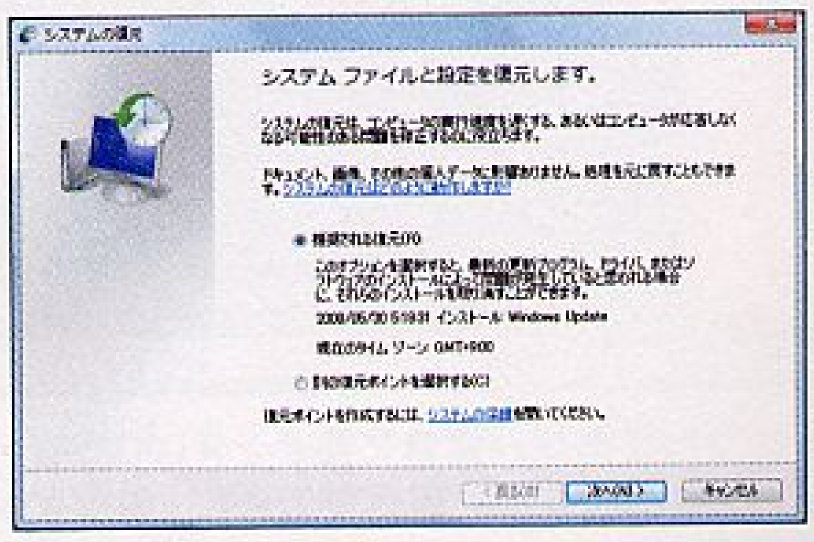
3 わかりやすい名前を入力する



復元を行なう際にわかりやすいように復元ポイントの名前を設定して、「作成」ボタンを押せば復元ポイントが作成される

もっと快適!!テクニック システムの復元からWindowsを修復する

システムが不安定になり、復元ポイントから復帰したいときは、「スタート」メニューの「コントロールパネル」から「システムとメンテナンス」→「バックアップと復元センター」→「システムの復元を使ってWindowsを修復」を選び、「システムの復元」で復元ポイントを選んでウィザードを進めればよい。



Vistaでは「推奨される復元」が用意されているので、基本的にこちらを選ぼう。手動で作成した復元を選びたいときは「別の復元ポイントを選択する」をチェックする

ワンポイント 復元前に戻す

「システムの復元」を実行した後、復元前の状態に戻すことも可能だ。再びシステムの復元を起動すれば「システムの復元の取り消し」という項目があるので選択して実行すればよい。

難易度 普

「動作が重い」「フリーズ」するなどの不具合の原因を調べる

快適指数

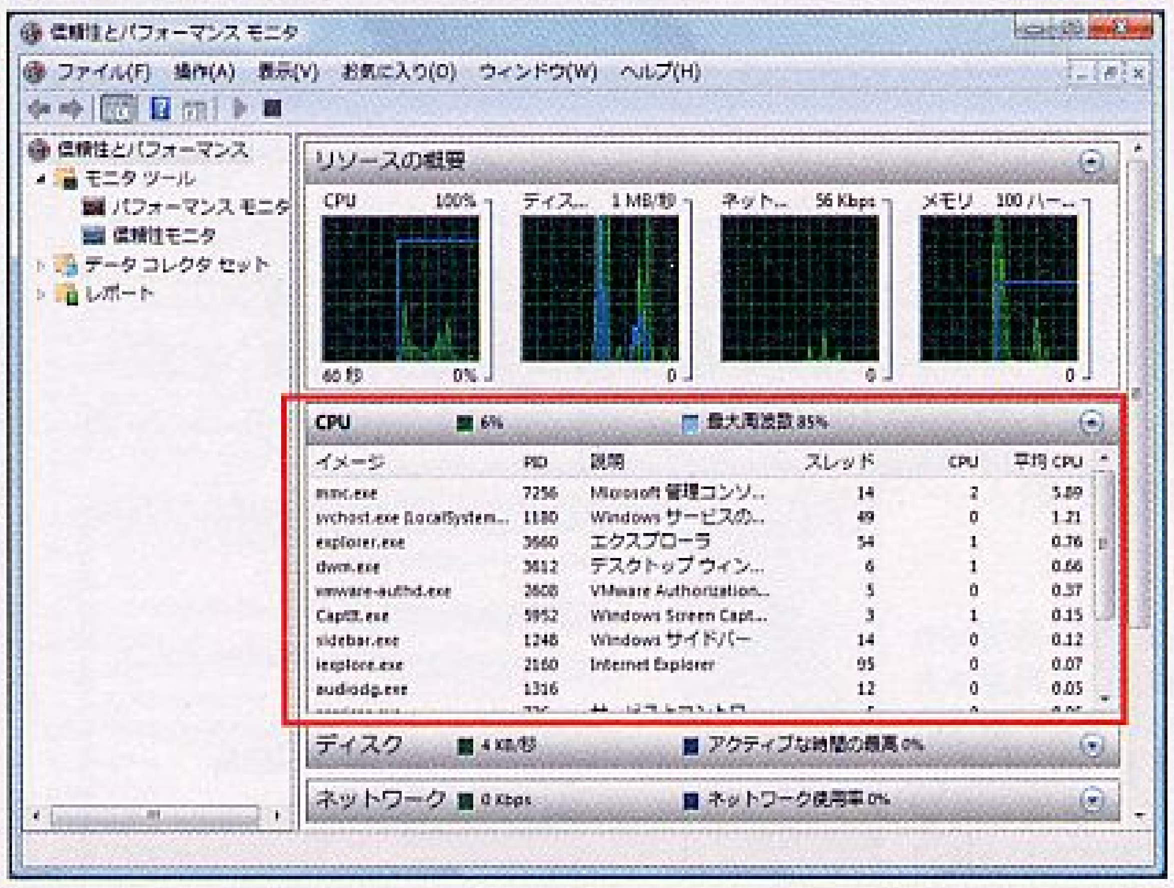
効果 ●パソコンの不具合の原因を調べられる
●過去のエラーログを見ることができる

パソコンの動きが重いときや原因不明のフリーズが発生したときに原因を探る手助けとなるツールが「信頼性とパフォーマンスモニタ」だ。従来のタスクマネージャの「パフォーマンス」表示機能を強化し、CPU、ディスク、ネットワーク、メモリの状態を一目で確認できる。また、パソコンが重いときにはメモリ不足など、その原因を探ることが可能だ。「信頼性モニタ」を起動すると過去のエラーなどのログが表示され、フリーズしたときには、その原因となったソフトの特定などができる。これらの機能はトラブル解決の糸口になるだろう。

1 「信頼性とパフォーマンスモニタ」を起動させる

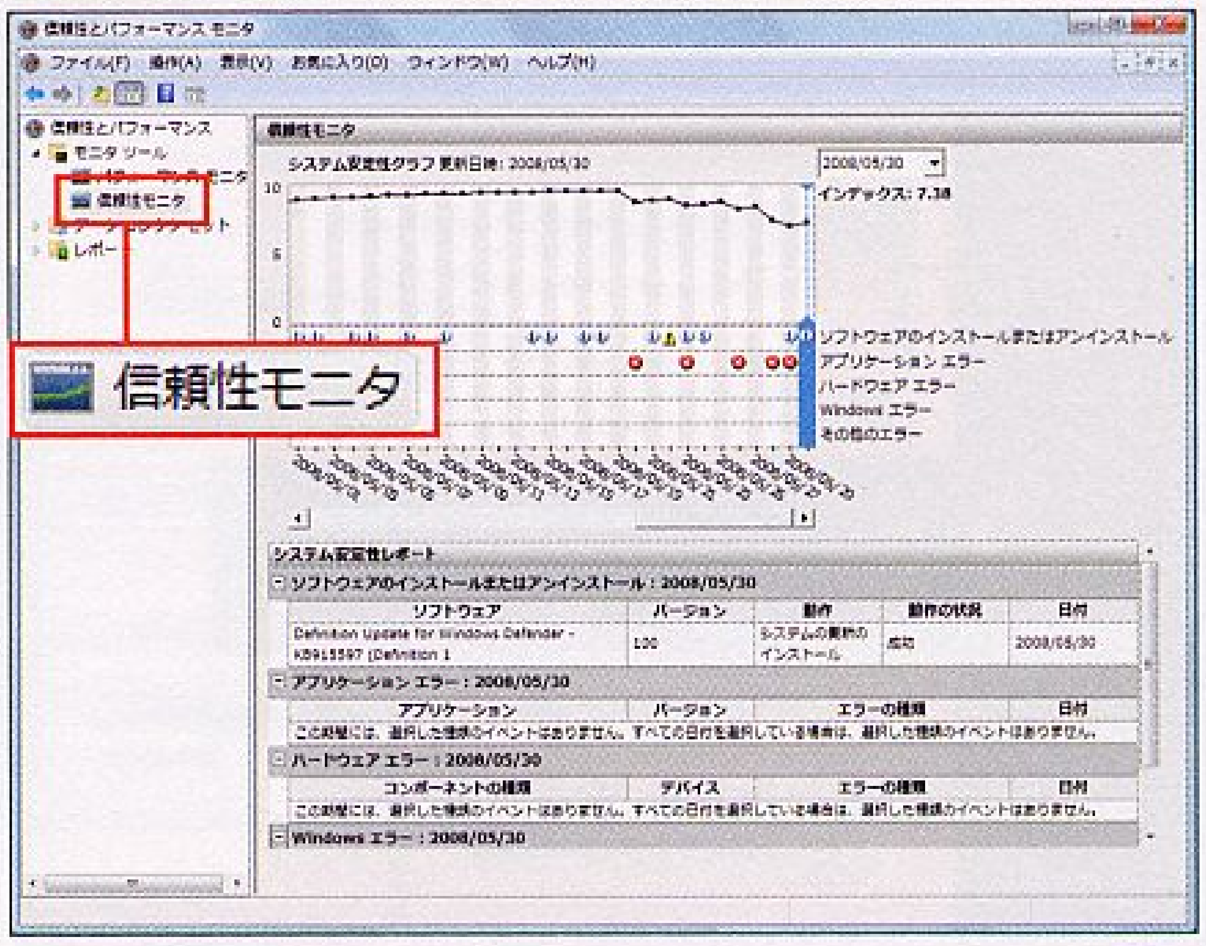
「スタート」メニューの「コントロールパネル」から「システムとメンテナンス」→「管理ツール」をクリックする。「信頼性とパフォーマンスモニタ」をダブルクリックして起動する

2 各モニタ項目の詳細情報を表示する



例えばCPU使用率が異常に高いときは「CPU」バーをクリックすると起動中のプログラム一覧が表示され、負担をかけているプログラムがわかる

3 「信頼性モニタ」でエラーログを表示させる



左側にある「信頼性モニタ」をクリックすると画面が変わり、過去のエラーなどのログが表示される。ソフトウェアのインストール履歴も見ることができる

もっと快適!!テクニック タスクマネージャには「サービス」タブが追加

従来のタスクマネージャは「コントロールパネル」の「システムとメンテナンス」→「パフォーマンスの情報とツール」→「詳細ツール」→「タスクマネージャを開く」で起動できる。Vistaのタスクマネージャには「サービス」タブが追加され、サービスの稼働状態も確認できるようになった。

タスクマネージャは「Ctrl」+「Alt」+「Delete」キーからの起動ももちろん可能。サービスの開始、停止もできる(31ページ参照)

ワンポイント サービスを誤って停止したら

Windowsのさまざまな機能を提供するサービス。間違って停止させたときは「Ctrl」+「Alt」+「Delete」キーでタスクマネージャを起動。「サービス」タブで停止しているサービスを右クリックして開始させよう。

メモリ診断ツールでメモリの不具合をチェックする

難易度 普

快適指数

効果
●メモリの不具合をチェックできる
●システムを不安定にする原因を検証できる

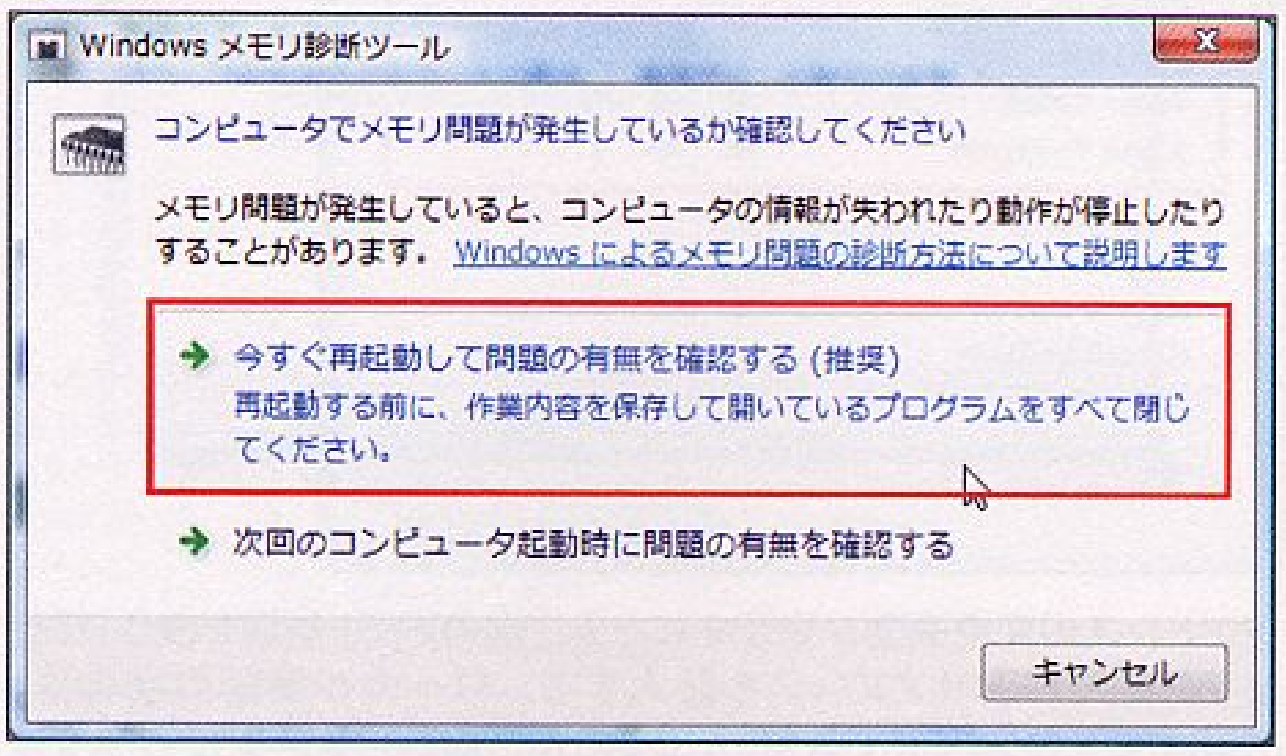
Windowsに不具合が出て動作が不安定になった場合、何が原因で問題が起きているのかわからないことがある。特にハード的な故障でエラーが起きている場合、原因の究明は難しい。そこでVistaに搭載されている「Windowsメモリ診断ツール」を使ってみよう。

「Windowsメモリ診断ツール」はメモリのエラーをチェックする機能を持っており、実行すれば自動でメモリを診断してくれる。メモリに問題がないなら、111ページで紹介している「チェックディスク」で、ハードディスクのエラーも疑ってみよう。

1 「Windowsメモリ診断ツール」を起動する

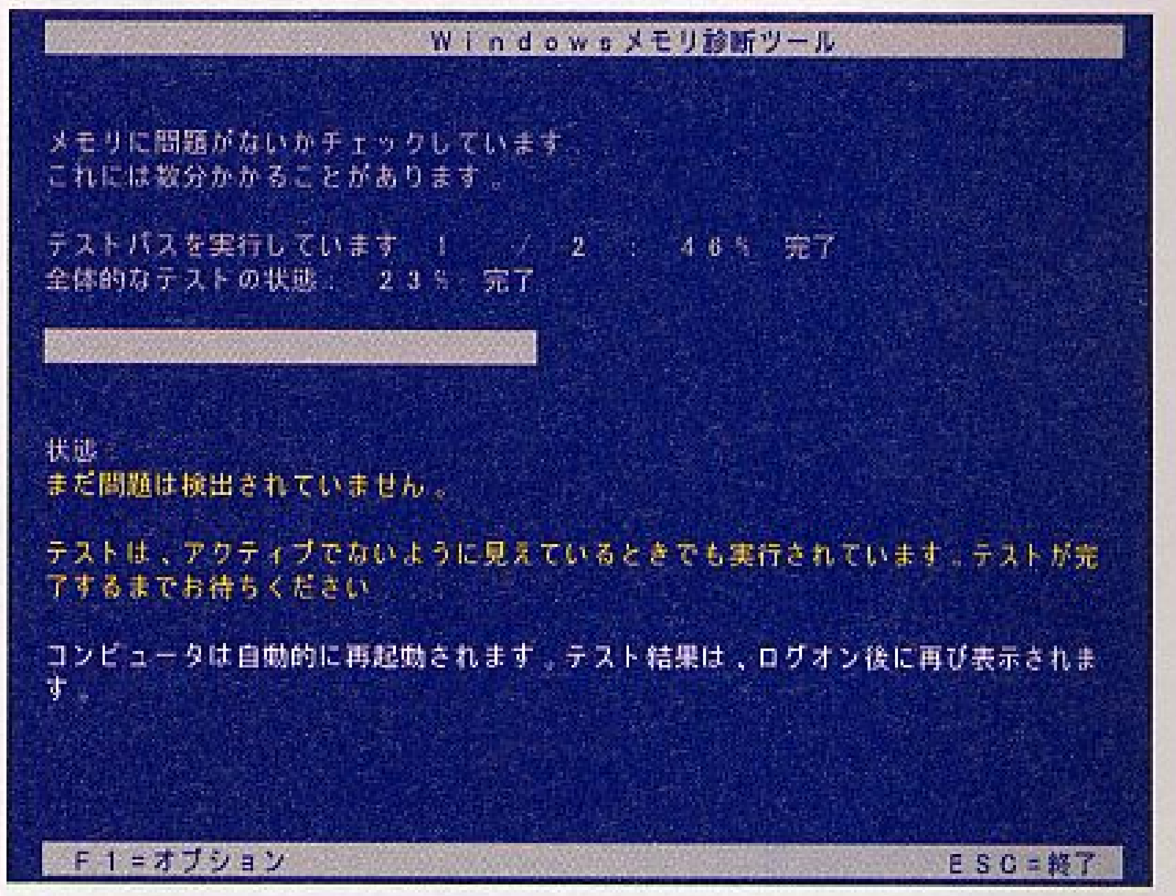
「スタート」メニューの検索ボックスに「mdsched」と入力し、「Enter」キーを押すか、プログラム名をクリック。「Windowsメモリ診断ツール」を起動させる

2 確認ダイアログから再起動



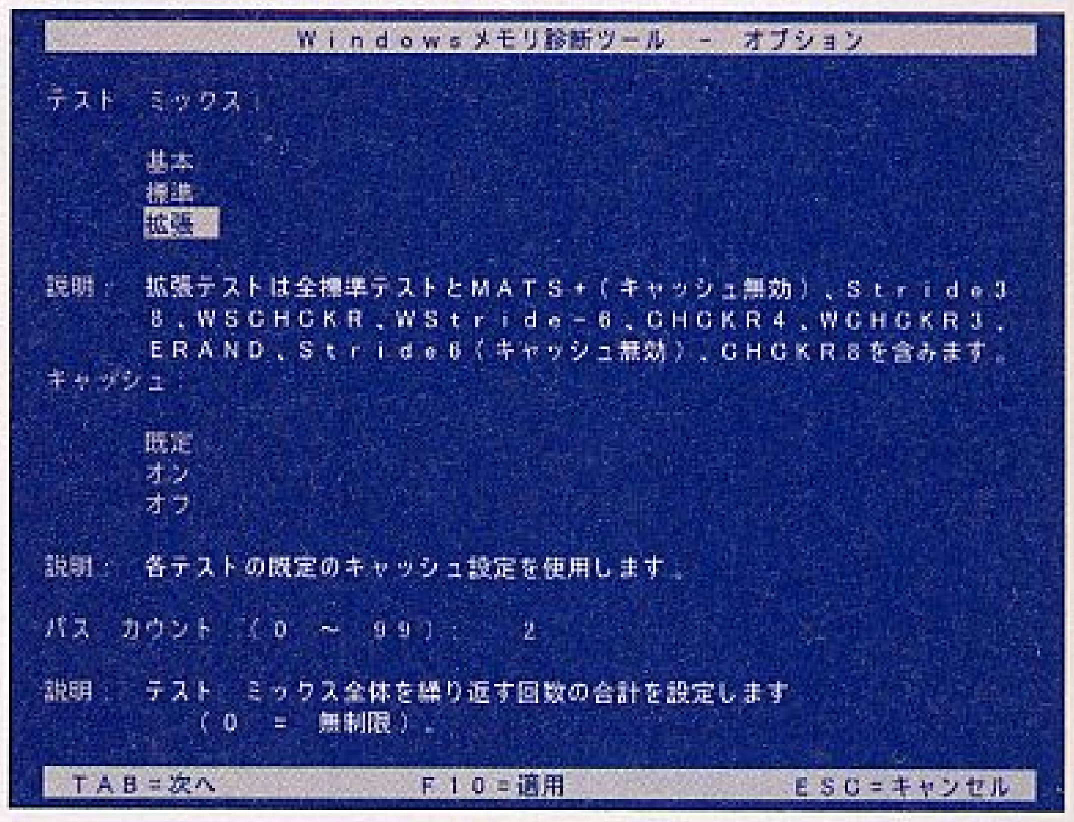
確認のダイアログが表示されるので、「今すぐ再起動して問題の有無を確認する」をクリックして再起動する

3 再起動時にメモリ診断が行なわれる



Windows再起動前にメモリ診断ツールが実行されるので、完了までしばらく待とう。チェックが終わると再起動し、その結果が通知領域に表示されるので確認しよう

4 メモリの診断方法を設定する



チェック中に「F1」キーを押すと、診断方法の設定ができる。矢印キーで「拡張」を選択し、「F10」キーを押すと、より詳細な診断ができる。時間はかかるが、不具合が発生しているのにエラーが見つからないような場合には試してみよう

ワンポイント 起動せずにチェックする

メモリ診断ツールは、Vistaのセットアップディスクをドライブに入れて起動すれば、実行することができる。Vistaが起動できないという、トラブルの場合でも、メモリの不具合が原因かどうかチェックできるのだ。

難易度 普

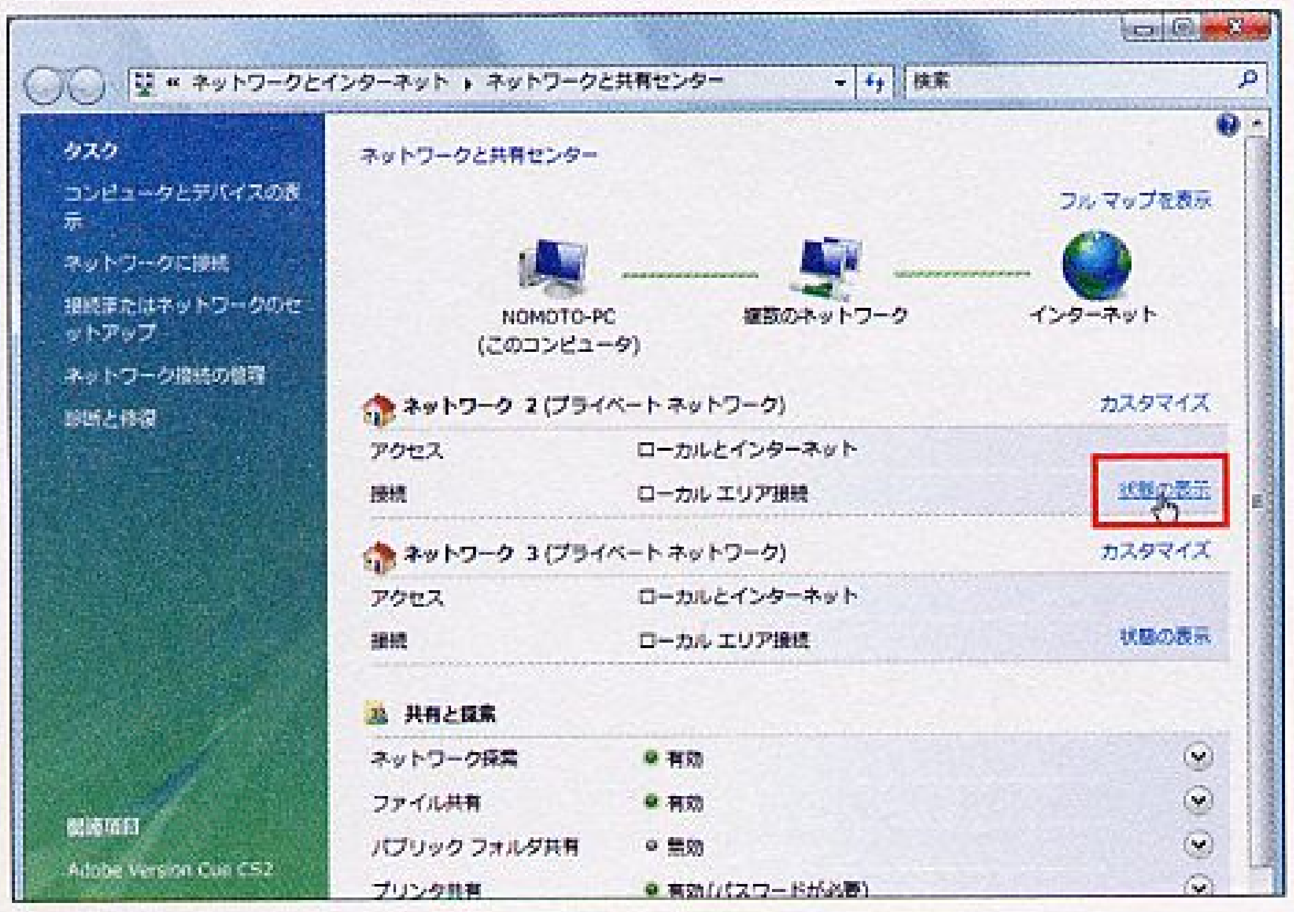
IPアドレスを固定して接続しネットワークの不調を解消する

快適指数

効果
- ●ネットワークサーバーへの接続が必要なソフトを正常動作させる
- ●ネットワーク接続の不調を解消できる

Vistaは、モデムやルータにケーブルを差し込むだけで簡単にネットワーク接続ができる。これは、ネットワークに接続するパソコンすべてに割り当てられている「IPアドレス」を自動的に割り振る機能が働いているためだ。しかし、オンラインゲームなどネット上のサーバーやローカルサーバーに接続しなければ利用できないソフトの一部が、正常に動作しないこともある。このような場合は、IPアドレスを手動で設定することで問題が解消することが多い。複数のパソコンに手動で設定する場合、アドレスを重複させてしまうと正常に接続できなくなるので注意しよう。

1 「ネットワークと共有センター」を開く



「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「ネットワークとインターネット」→「ネットワークと共有センター」を開き、「状態の表示」をクリック

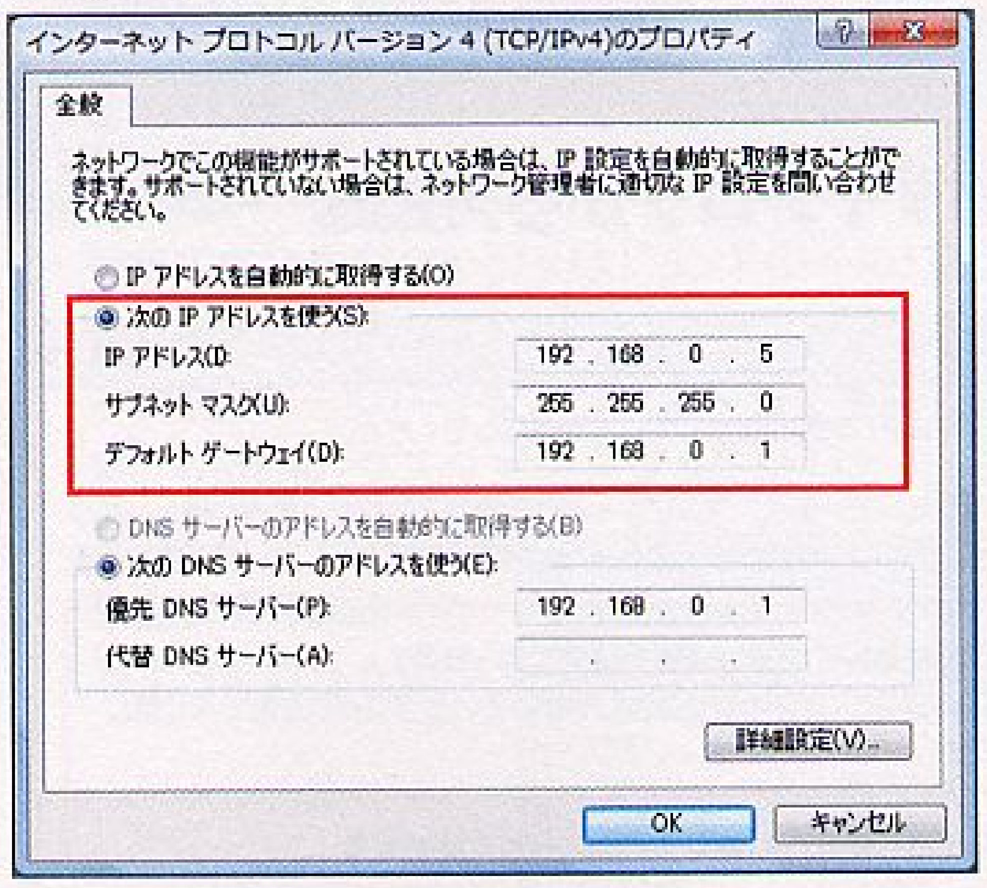
2 ネットワークの接続状況を表示する

ネットワークの接続状況を表示する「ローカルエリア接続の状態」ダイアログが現れるので「プロパティ」をクリックする

3 TCP/IPの設定画面を表示する

「ローカルエリア接続のプロパティ」画面が表示される。「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」を選択して「プロパティ」をクリックする

4 IPアドレスを変更する



IPアドレスの変更画面が表示されたら、「次のIPアドレスを使う」にチェックを入れ、IPアドレスを記入する。ローカル接続の場合は、「192.168.0.任意の数字」と記入するのが一般的。サブネットマスクは「255.255.255.0」、デフォルトゲートウェイとDNS設定欄にはルーターのIPアドレスを記入しておこう

ワンポイント IPアドレスの数値の決め方

IPアドレスを決めるには、まずルータのIPアドレスを調べよう。そして、そのアドレスの一番右のブロックの数値だけを変えた数値を設定すればいい。たとえばルータが「192.168.1.1」なら、「192.168.1.5」などだ。

難易度 普

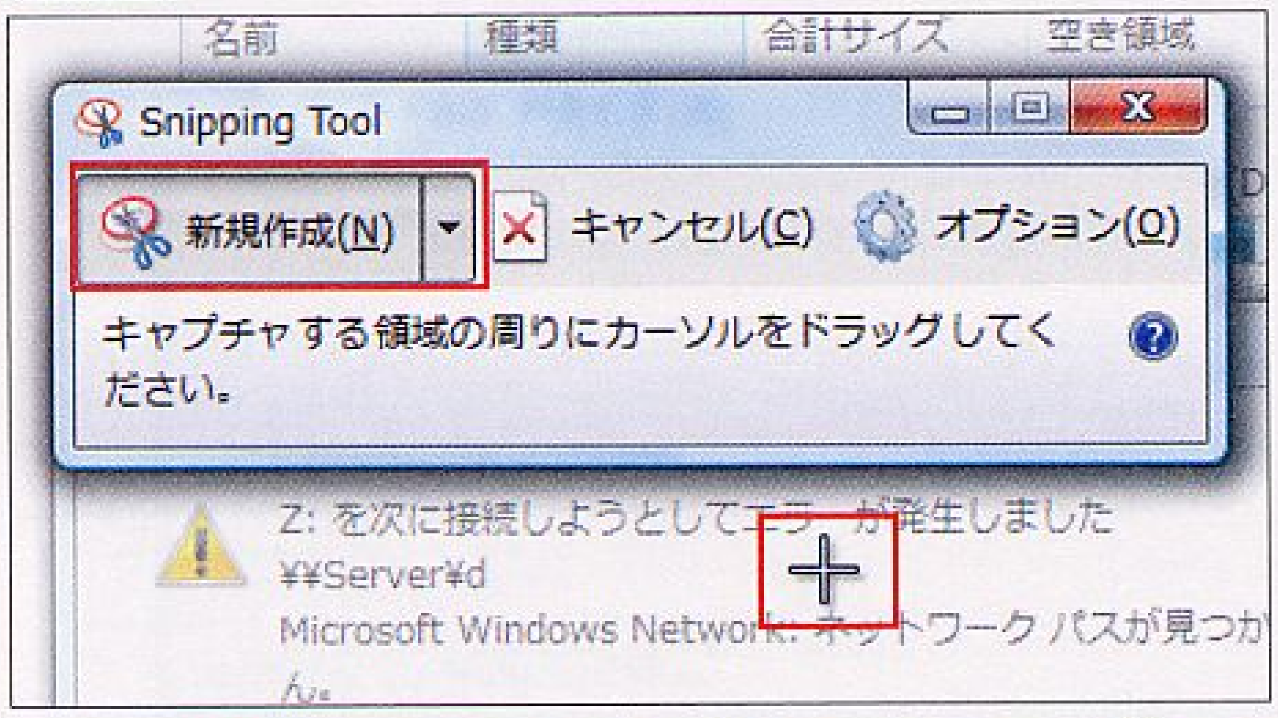
エラーメッセージや注文画面は表示された画面ごと保存しておく

快適指数

効果 ●ネットショッピングなどで必要なメモが確実に取れる
●トラブル時のエラーメッセージをそのまま保存することができる

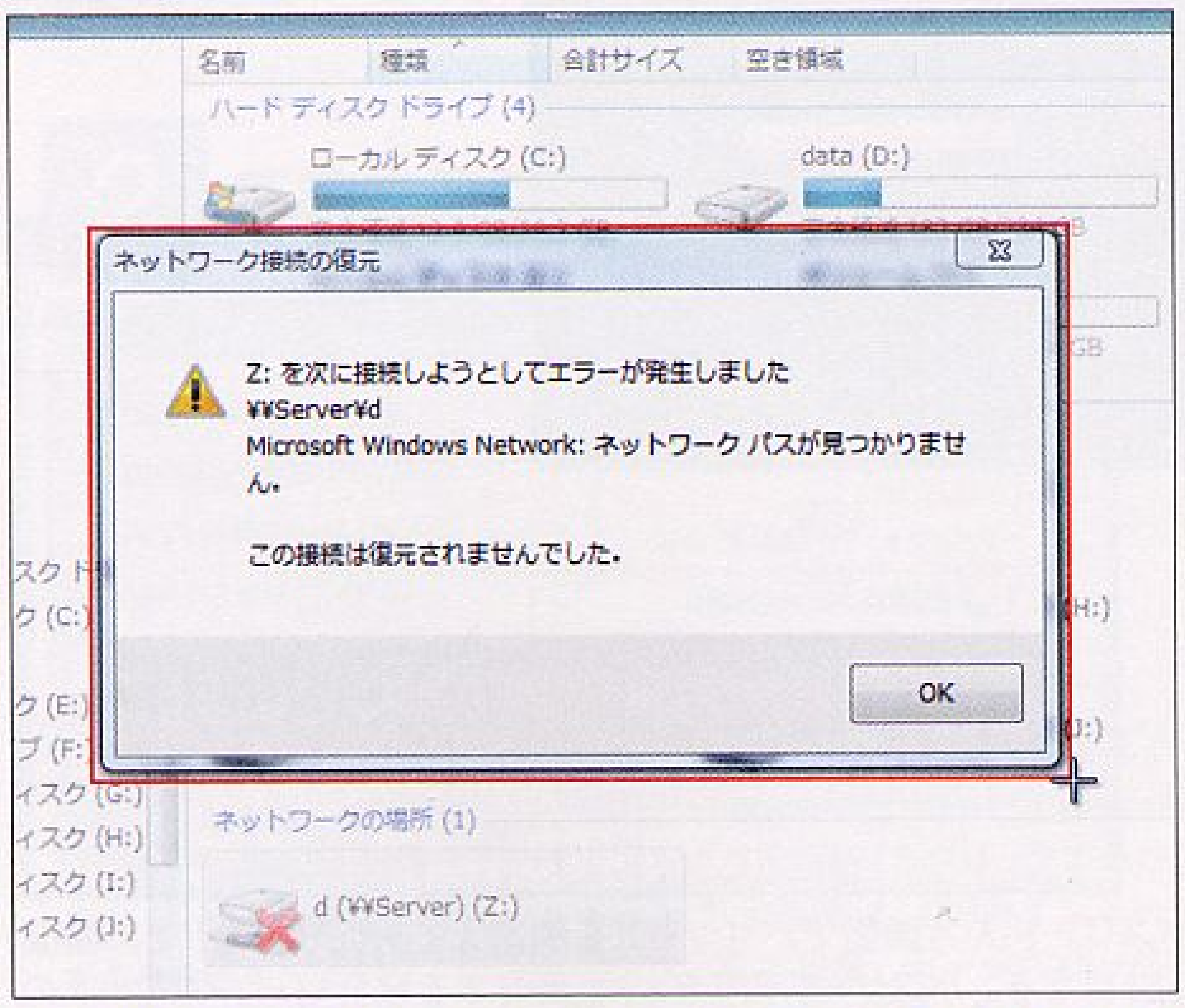
ネットでショッピングをしたときの注文画面や、トラブル時のエラーメッセージなどは、あとでもう一度確認したくなることがよくある。画面によっては内容をテキストエディタなどに入力することで記録することもできるが、もっと簡単な方法はパソコンの画面を画像として保存（キャプチャ）することだ。Vistaに搭載された「Snipping Tool」を使うと、マウスで領域を指定して画面を保存することができる。本来はペンタブレット用の機能だがマウスでも使用でき、従来のスクリーンショットより自由度が高く格段に使いやすい。

1 「Snipping Tool」を起動する



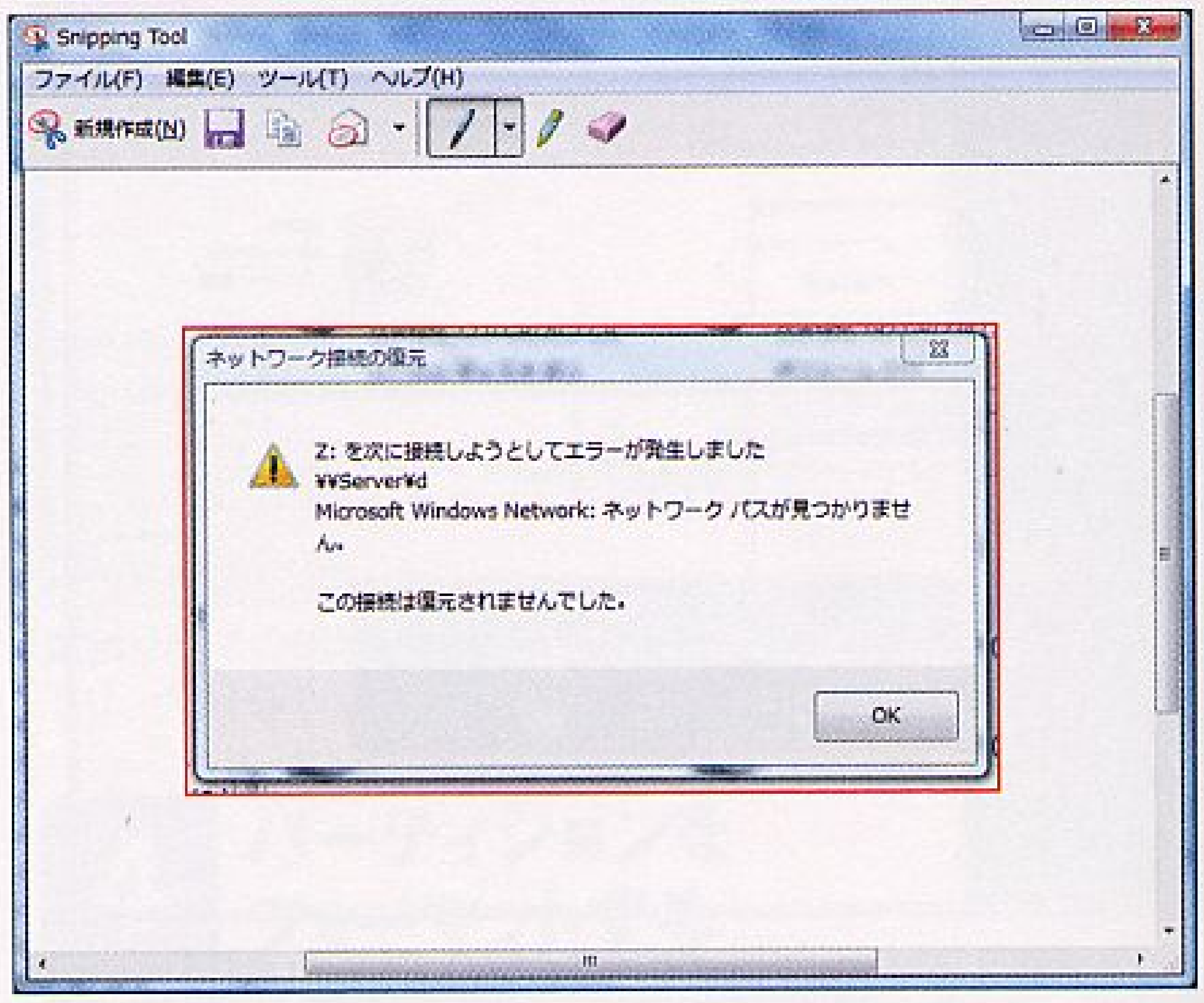
パソコンの画面をキャプチャするには、「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「Snipping Tool」を起動する。このようなウィンドウが表示され、マウスカーソルが十字型に変わる

2 保存したい画面を指定する



ここではエラー画面を保存してみよう。「Snapping Tool」を起動すると画面全体の色が薄くなる。画面の保存したい部分をマウスでドラッグし指定すると、その部分だけが通常の濃さで表示される

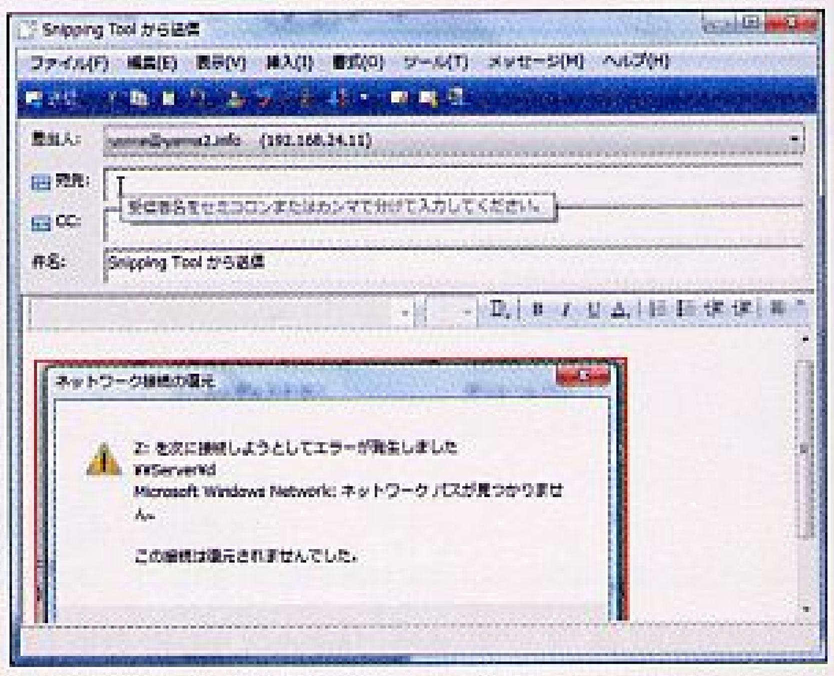
3 キャプチャが完了した



選択範囲を決め、ボタンを離すと「Snipping Tool」にキャプチャした画面が表示される。間違いがなければ、「ファイル」メニュー→「名前を付けて保存」を選択して保存すればいい

もっと快適!!テクニック キャプチャした画面をメールで送信する

「Snipping Tool」の「ファイル」メニュー→「送信」→「電子メール受信者」を選択すると、キャプチャした画像をそのまま電子メールで送信できる。一旦、保存してメールに添付する操作が不要で、非常に便利だ。



Keyword **スクリーンショット**
以前からWindowsに搭載されている機能。キーボードの「PrintScreen」キーを押すと、そのとき表示されているデスクトップ全体が画像データとしてクリップボードにコピーされる。

難易度 普

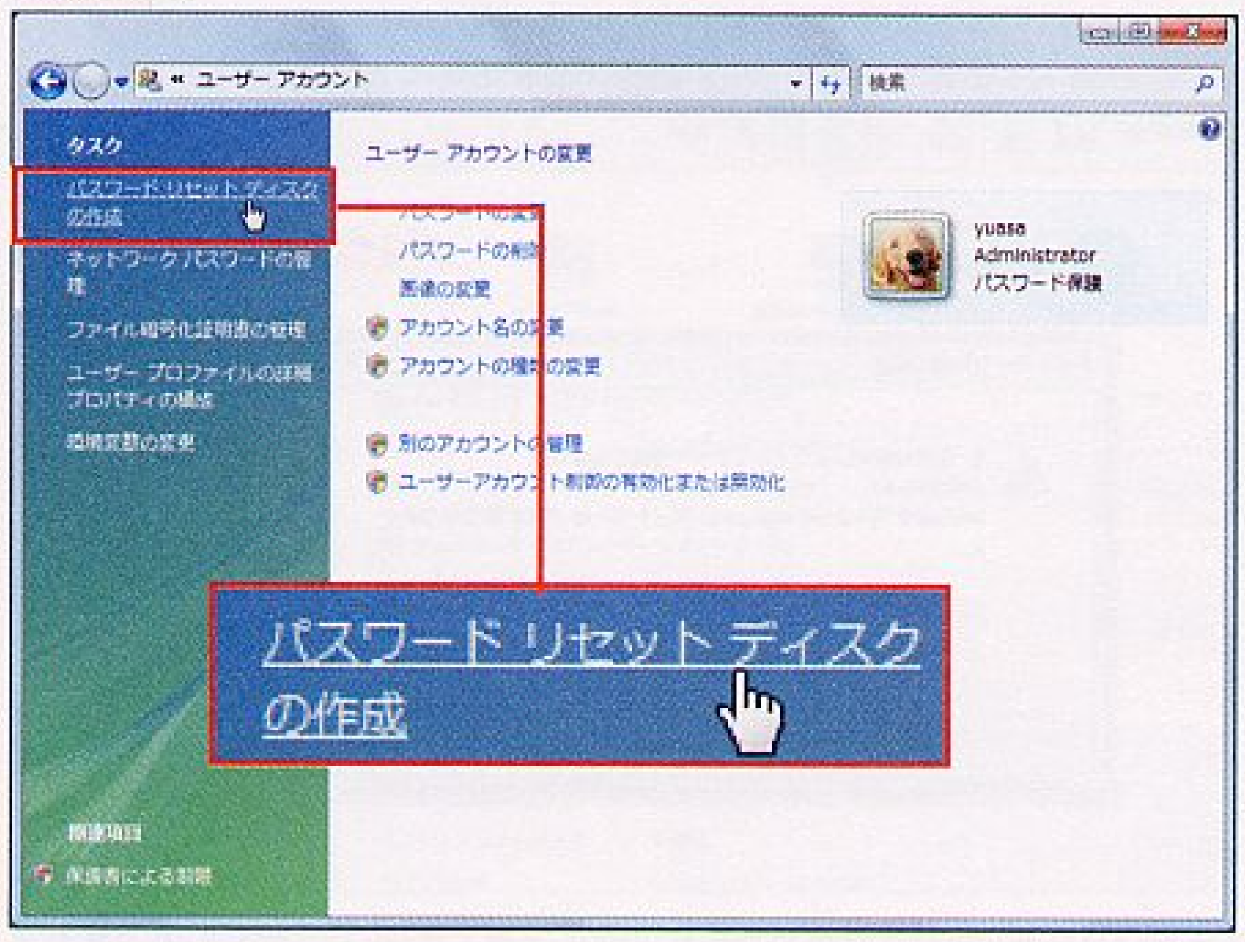
ログオンパスワード忘れに備えリセットディスクを作成しておく

快適指数

効果 ●パスワードを忘れてもログオンできる
●覚えづらい複雑なパスワードでも安心

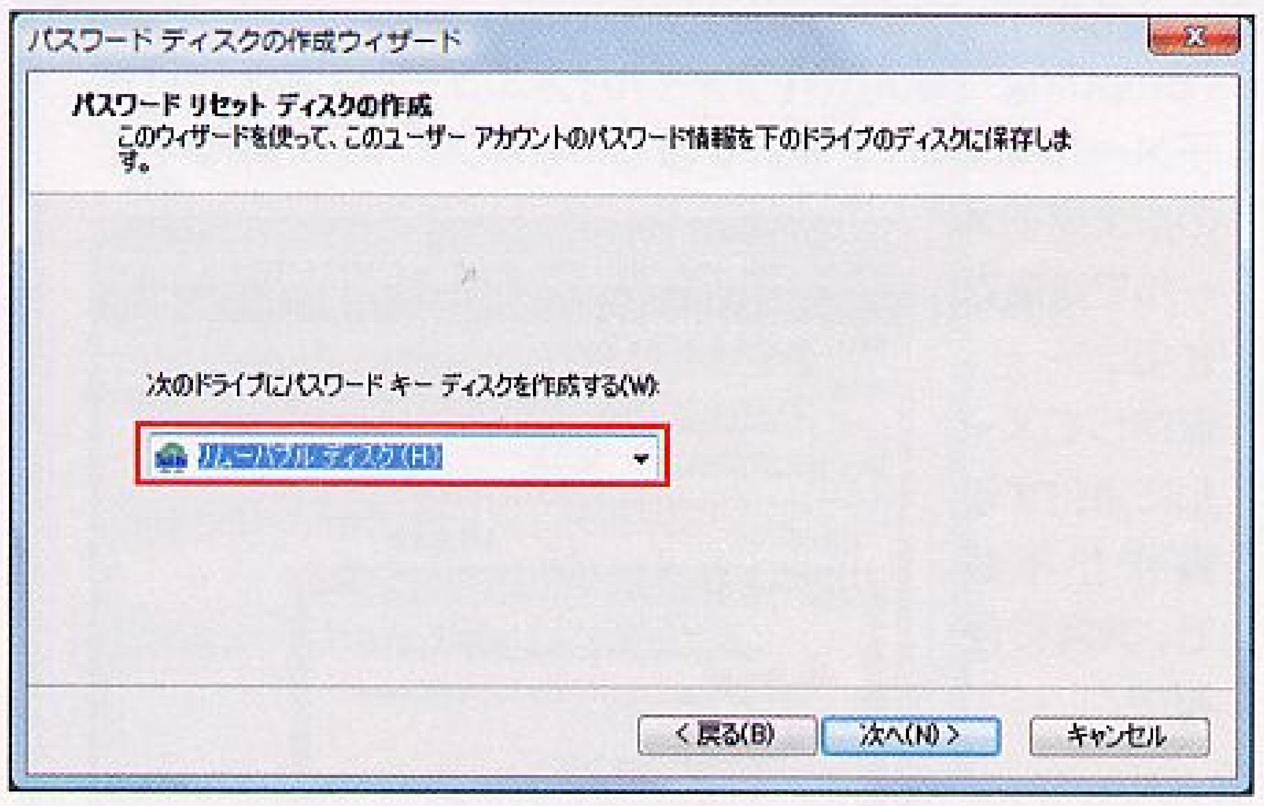
自分のパソコンの不正使用を防ぐため、ユーザーアカウントにパスワードを設定している人は多いだろう。ところが、このパスワード自体を忘れてしまったばかりか、パスワードのヒントからも思い出せないという場合は、パソコンに2度とアクセスできなくなってしまう。そんなときに備えて、Windowsの機能で「パスワードリセットディスク」を作成しておこう。作業にはフロッピーディスクかUSBメモリなどを用意する。これを使ってログオンすれば、現在のパスワードをリセットして新しいパスワードを設定できるようになる。

1 ユーザーアカウントを開く



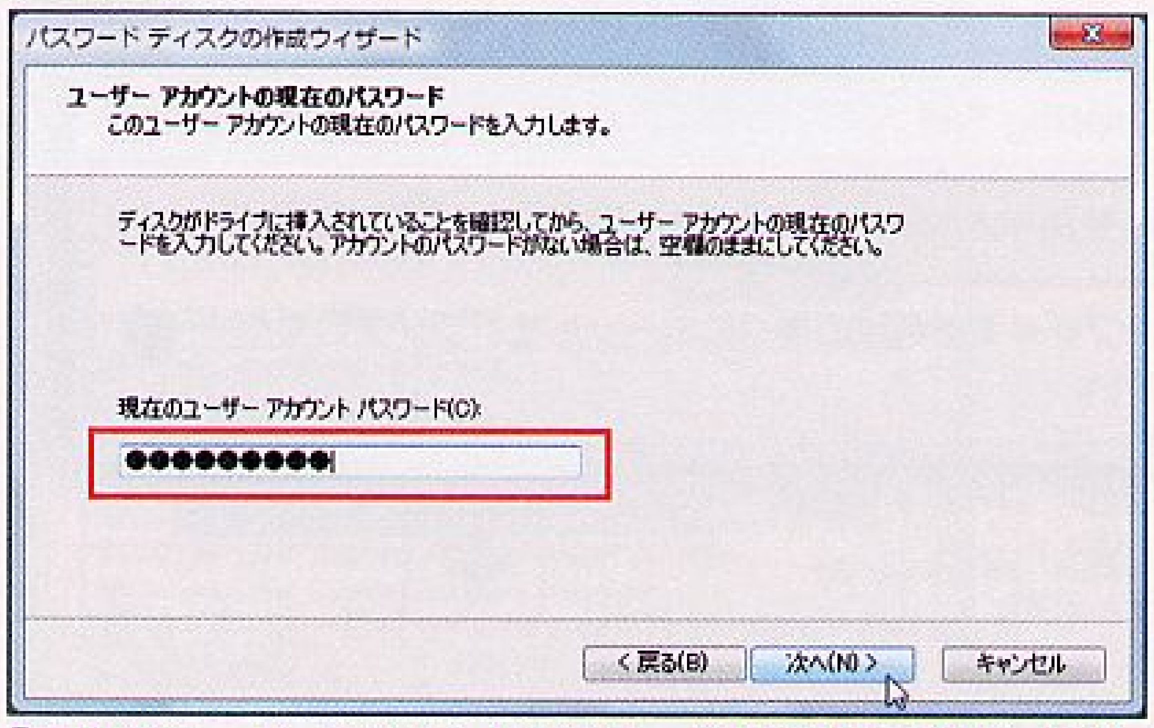
ディスクを作成する前に、フロッピーディスク、もしくはUSBメモリを用意してパソコンに挿入しておく。「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「ユーザーアカウントと家族のための安全設定」→「ユーザーアカウント」をクリック。左のタスクから「パスワードリセットディスクの作成」をクリックする

2 ウィザードに従って作成する



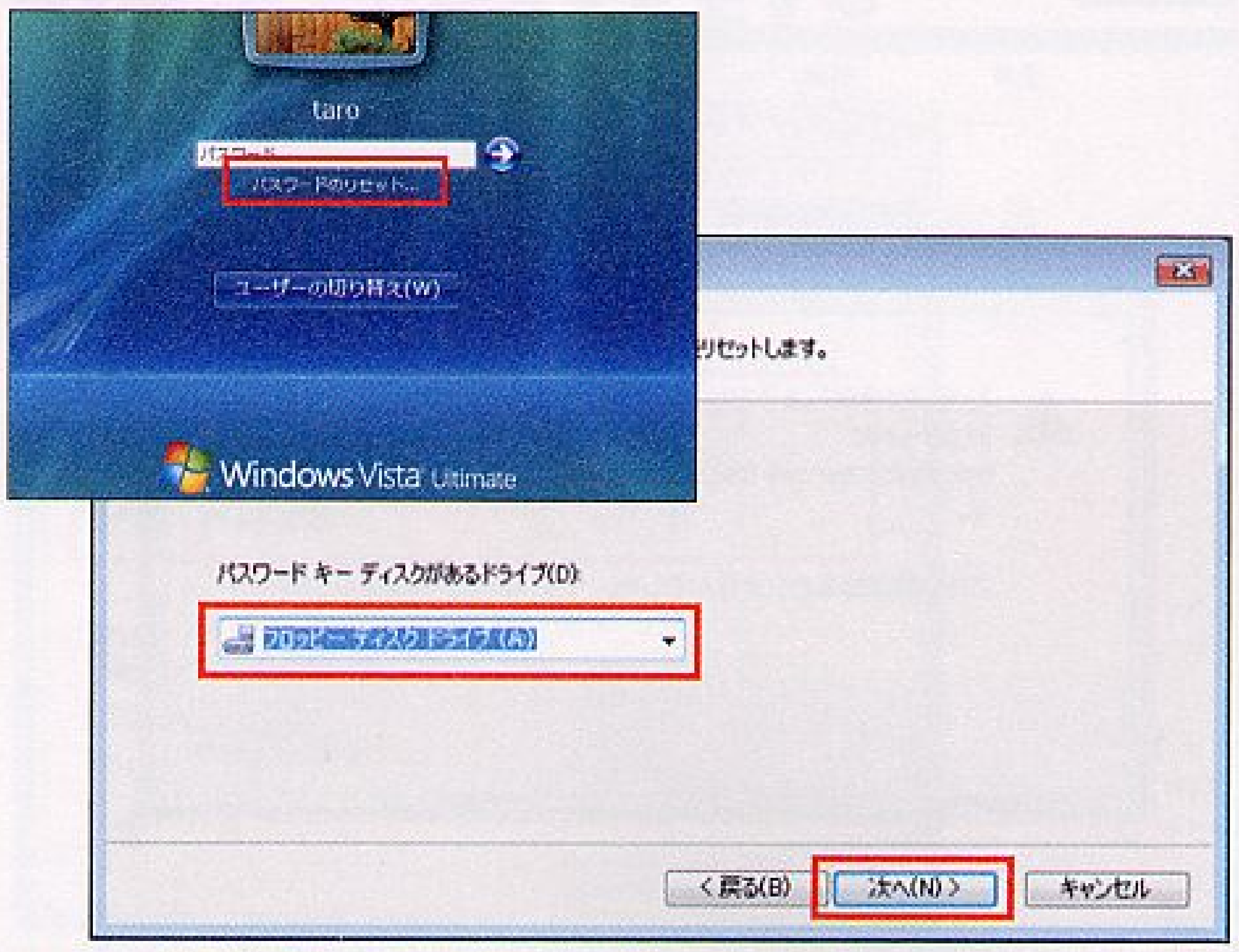
ディスクの作成はウィザードに沿って進めるだけなので簡単だ。パスワード情報の保存先を選択する

3 パスワードを入力する



「現在のユーザーアカウントパスワード」に現在ログオンに使っているパスワードを入力し、「次へ」をクリック。パスワードリセットディスクが作成される

4 パスワードを間違えると……



パスワード入力画面でパスワードを間違えて入力すると、この画面（上）になる。パスワードのリセットを実行する場合は、「パスワードのリセット」をクリック。作成したパスワードリセットディスクを挿入し、パスワードキーが入っているドライブを選択。「次へ」をクリックし、新しいパスワードやヒントを入力すればいい

注意 パスワードリセット時の注意

パスワードリセットディスクを使ってパスワードをリセットした場合、それ以前のパスワードでログオンしていたときに設定した、暗号化されたファイルやフォルダは開けなくなってしまうので注意すること。

難易度 難

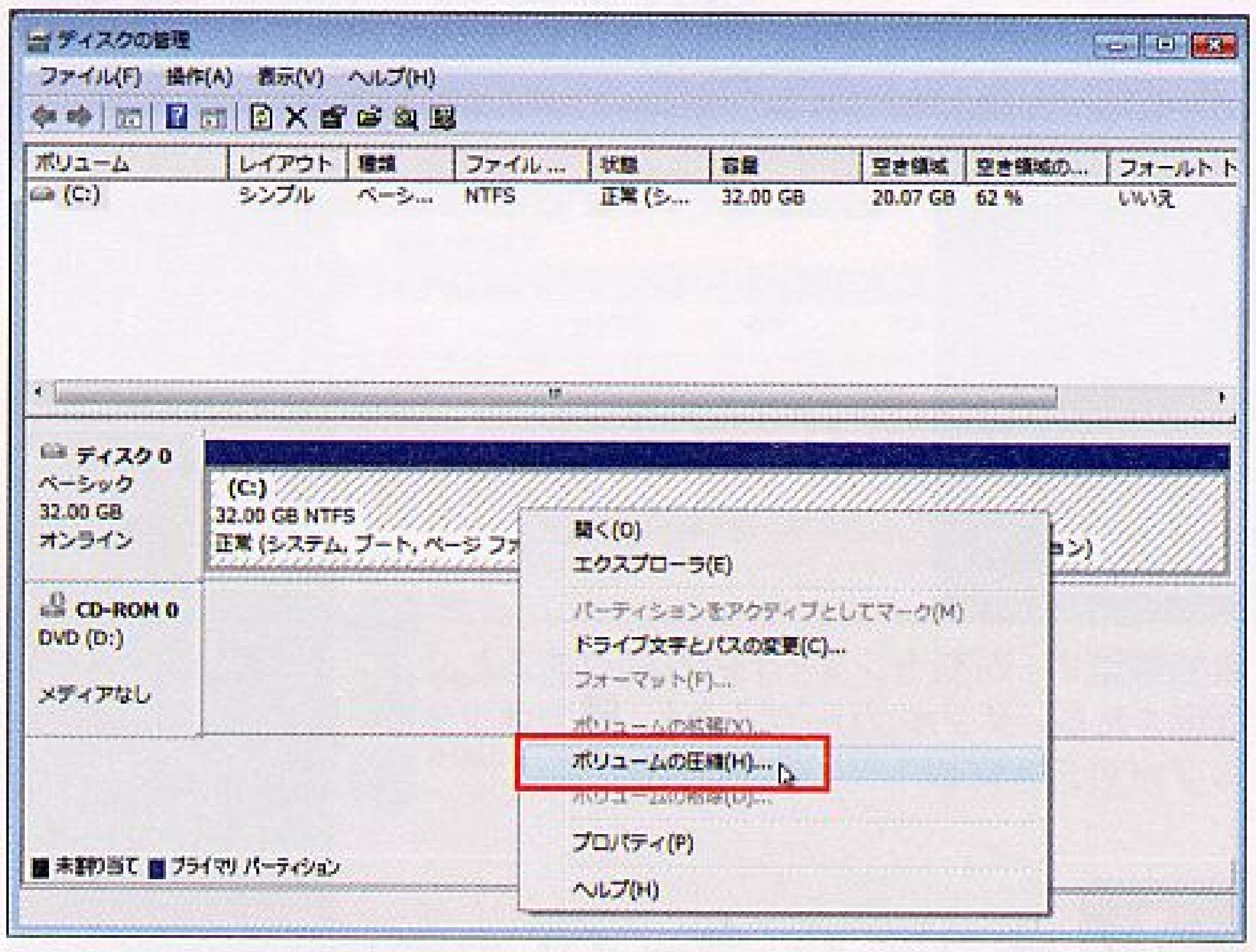
ハードディスクの空き容量をバックアップ用に分割する

快適指数

効果
●メインドライブの故障に備えてバックアップドライブが用意できる
●1台のハードディスク内に別のOSを入れることができる

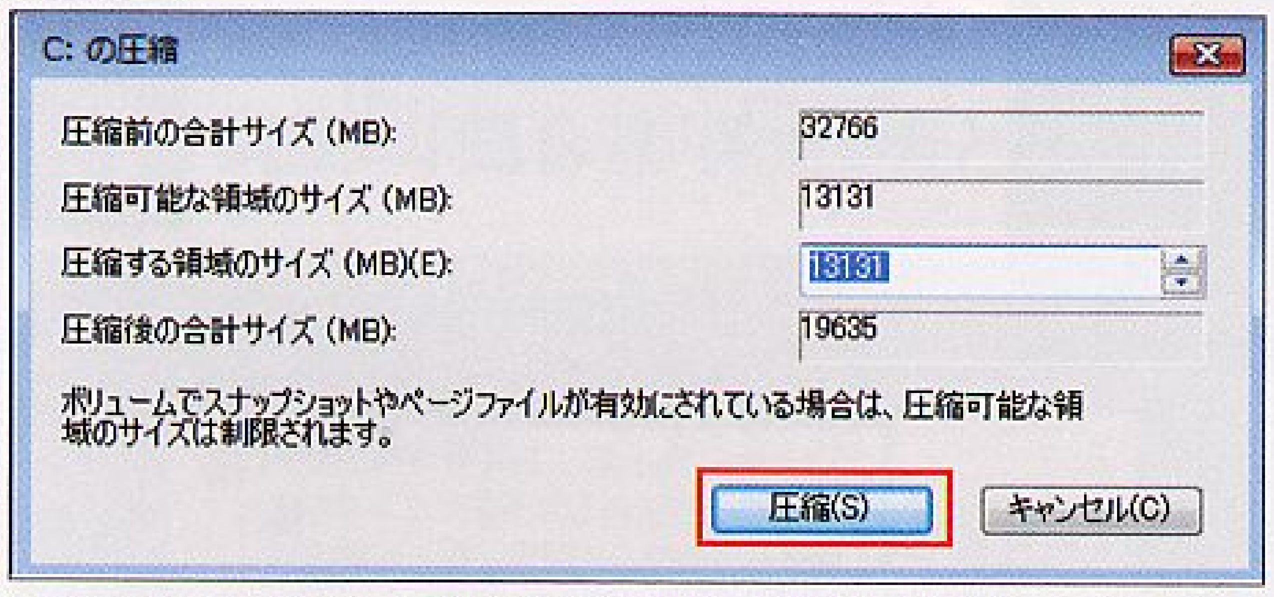
メインドライブの故障に備え、ハードディスクに余裕があるならパーティションを作成してみよう。パーティションを作成すれば、ひとつのハードディスクを複数の領域に分けることができる。新しく作成したパーティションにはデータのバックアップ用ドライブだけでなく、他のOSを入れることもできる。ただし、操作を誤ると、ハードディスクの内容が失われる危険性があるので、よくわからないと思ったらやめておこう。また、実行前には必ずハードディスク内のデータのバックアップを取り、自己責任で行なうこと。

1 圧縮するドライブを選択する



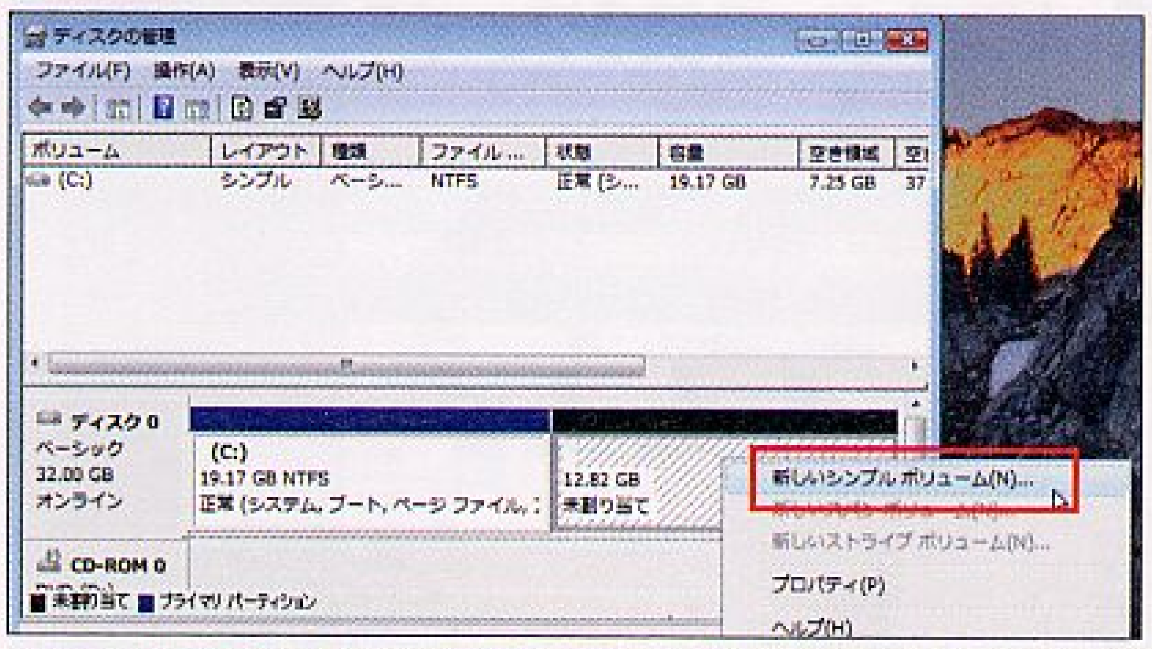
「スタート」メニューの「コントロールパネル」から「システムとメンテナンス」をクリック。「管理ツール」項目の「ハードディスクパーティションの作成とフォーマット」をクリック。「ディスク管理」の画面で圧縮するドライブを右クリックし「ボリュームの圧縮」をクリックする

2 圧縮する領域のサイズを決める



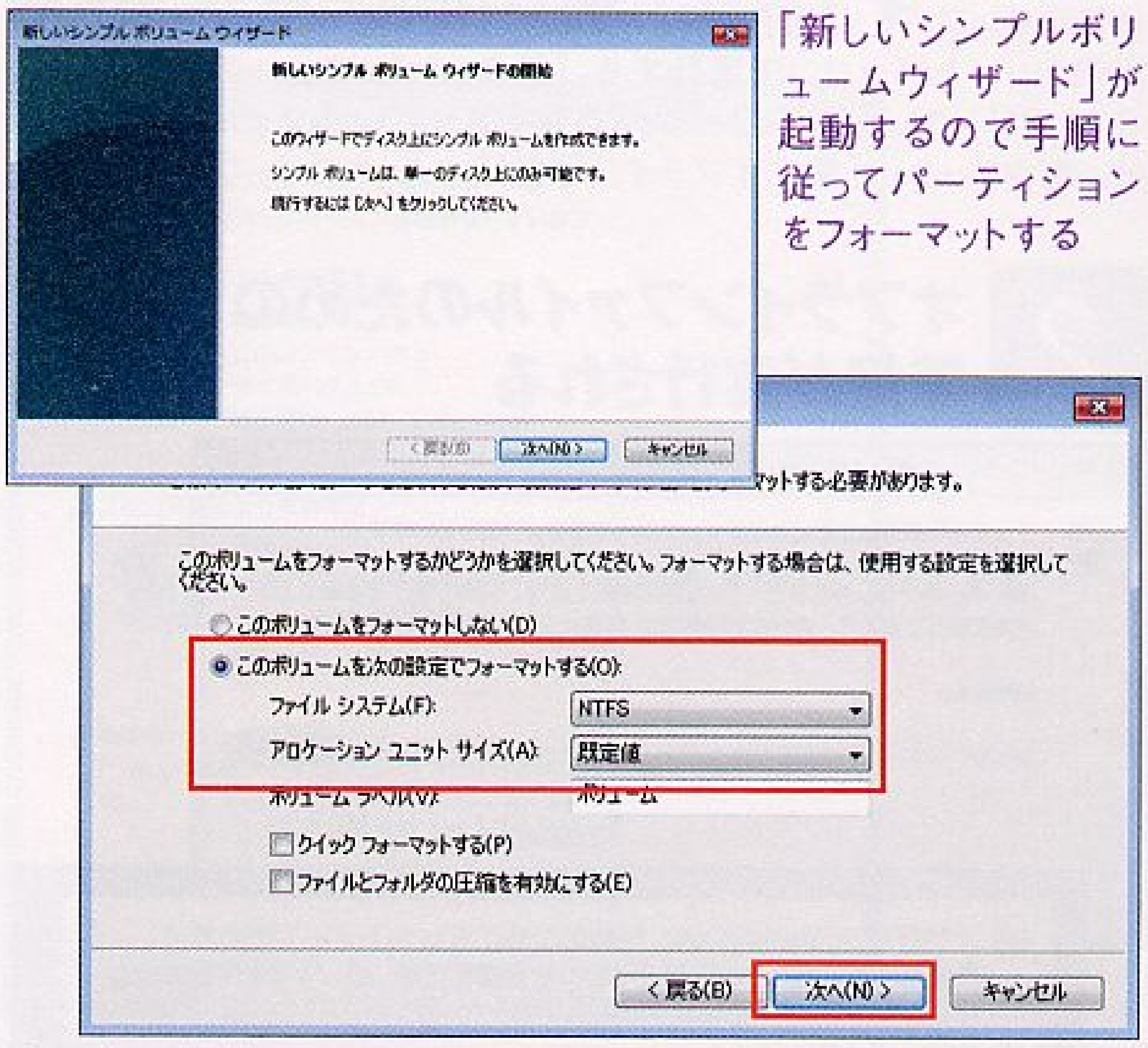
「圧縮する領域のサイズ」に値を入力して「圧縮」をクリックすると、その分だけ空き領域が作成される。入力する値は、OSをインストールするならばそのOSのインストールに必要な容量、データのバックアップに使うのならばバックアップしたいデータの容量となる

3 未割り当て領域が作成される



未割り当ての領域が作成されるので、「未割り当て」の領域部分を右クリックし「新しいシンプルボリューム」をクリックする

4 パーティションをフォーマットする



「新しいシンプルボリュームウィザード」が起動するので手順に従ってパーティションをフォーマットする

ウィザードを進め、この画面になったらパーティションのフォーマットではファイルシステムを「NTFS」、アロケーションユニットサイズを「既定値」にして「次へ」をクリックし、内容を確認して「完了」をクリックすれば新しいパーティションが作成される

ワンポイント
分割前にデフラグをかける

Vistaのパーティション機能はハードディスクの空き容量を利用して行なうため、ハードディスクの情報が最適化されているのが望ましい。25ページを参照し、分割前にはデフラグを実行しておこう。

2台のパソコン間で自動的にフォルダの内容を同期させる

難易度 難

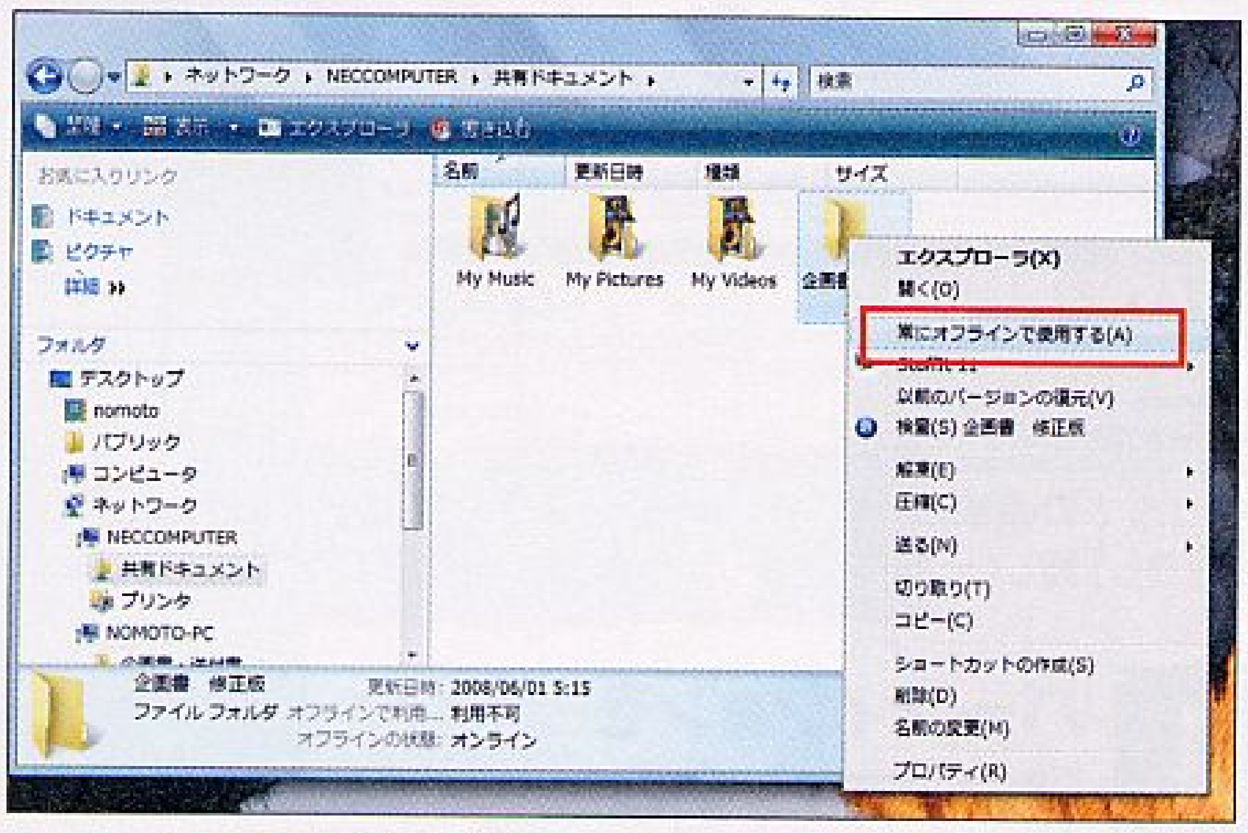
快適指数

効果
●2台のパソコン間でファイルを転送する手間が省ける
●新しいファイルに古いファイルを上書きするのを防げる

自宅のパソコンと、会社で使っているノートパソコンなど2台のパソコンを併用していると、作業中のファイルを双方のパソコンで同じ状態に保つのが面倒だ。作業中のファイルをパソコン間で移動する際に誤って古いバージョンを新しいバージョンに上書きしてしまう可能性もある。こうした面倒なファイルの同期作業を自動的に行なってくれるのが「オフラインファイル」機能だ。特定のフォルダをオフラインファイルにしておけば、2台のパソコンがネットワーク接続されたときに、ワンクリックで同期させることができる。

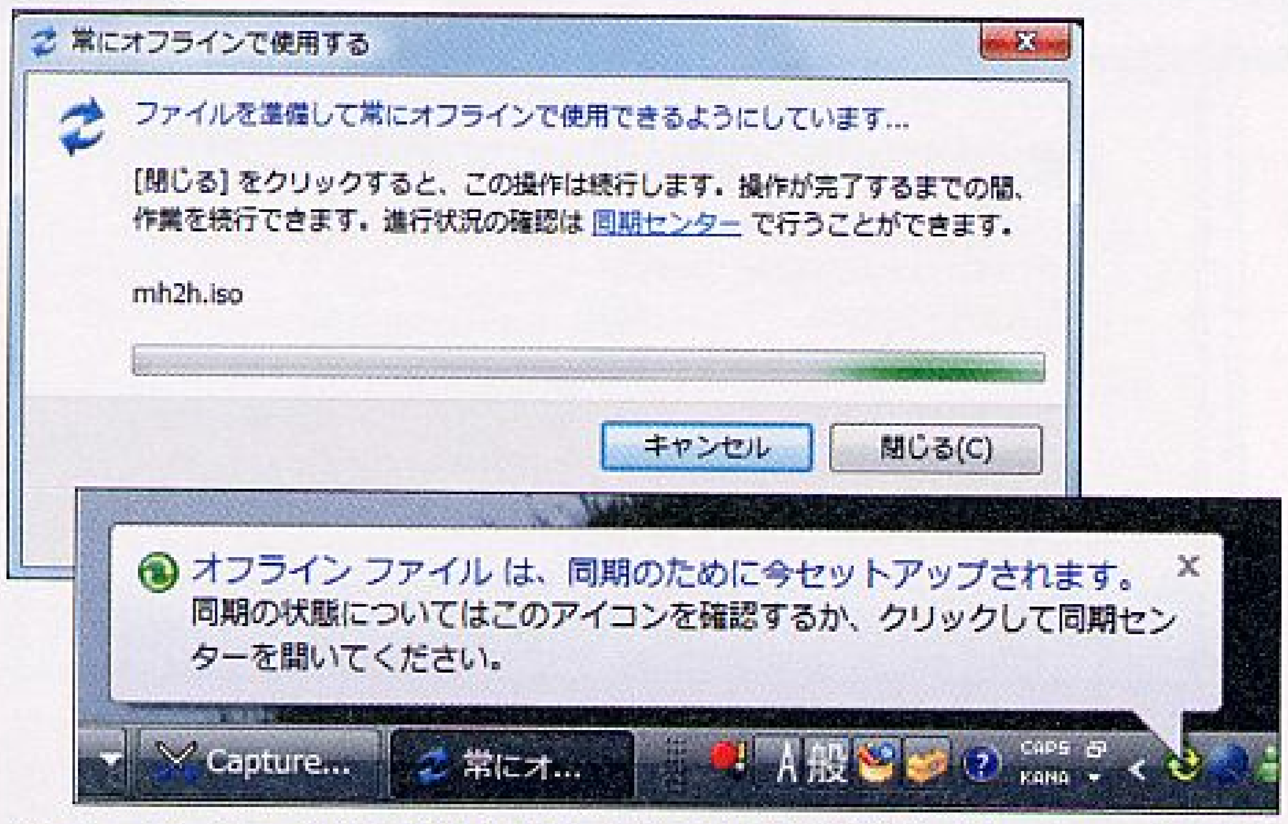
同期を行なうための準備をする

1 オフラインで使うファイルを選択する



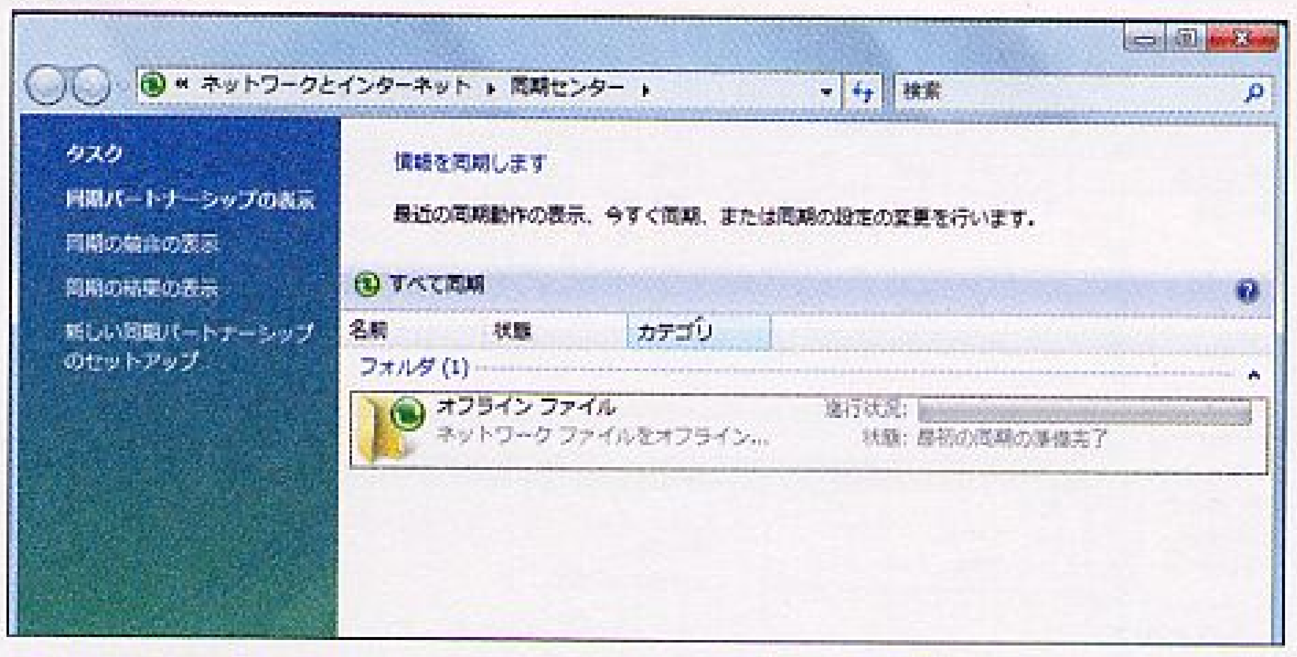
オフラインファイル機能を使うための準備をする。この作業は持ち運ぶ側のノートパソコンで実行する。「スタート」メニューの「ネットワーク」をクリックし、ネットワーク内で共有されているフォルダを表示させ、右クリック→「常にオフラインで使用する」をクリックする

2 オフラインファイルのための準備が実行される



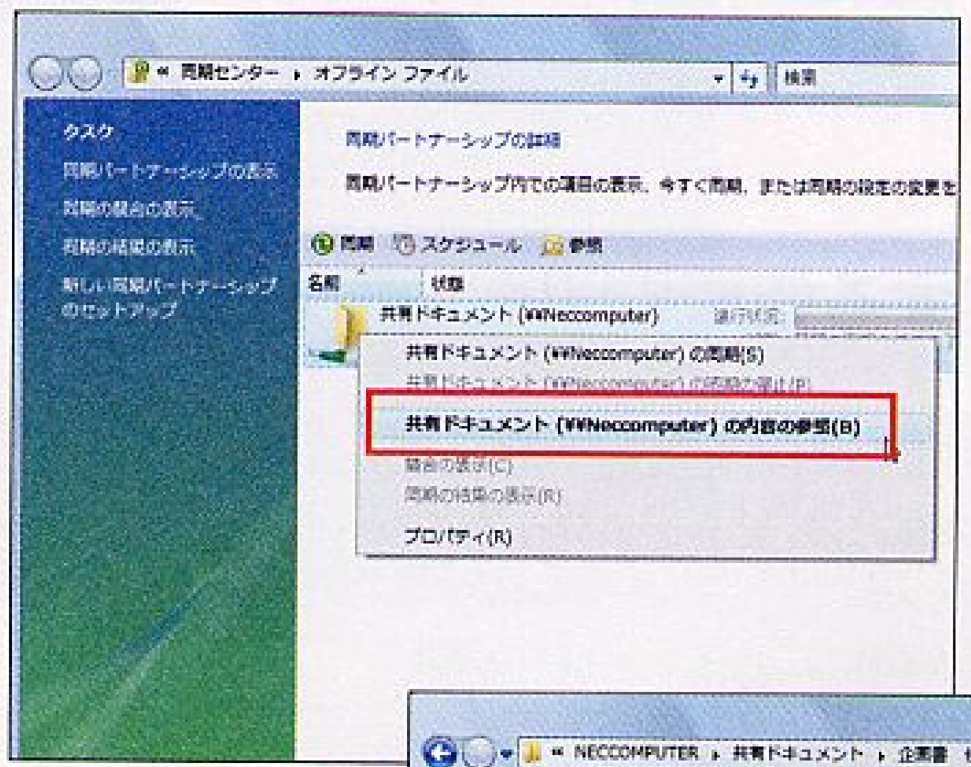
オフラインファイルで使用するための準備が開始されるので終了するまで待とう

3 同期センターを開く

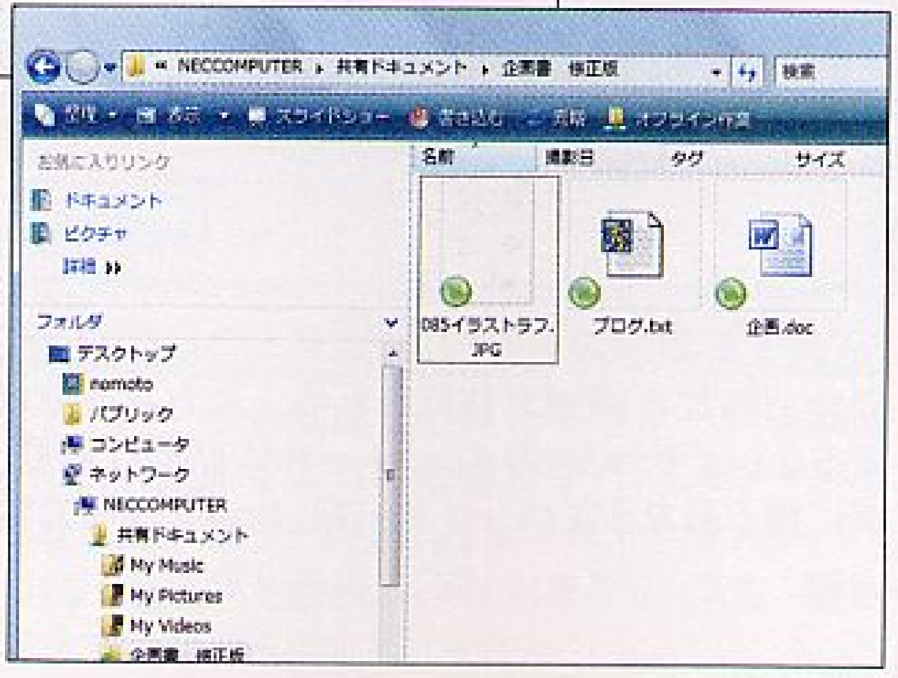


通知領域の「同期センター」をクリックすると、「オフラインファイル」が表示される。ダブルクリックすると、2でオフラインファイルにしたフォルダが表示される

4 オフラインファイルの閲覧・編集



中のファイルを閲覧・編集するには「共有ドキュメント(ファイルの場所)の内容の参照」をクリックする



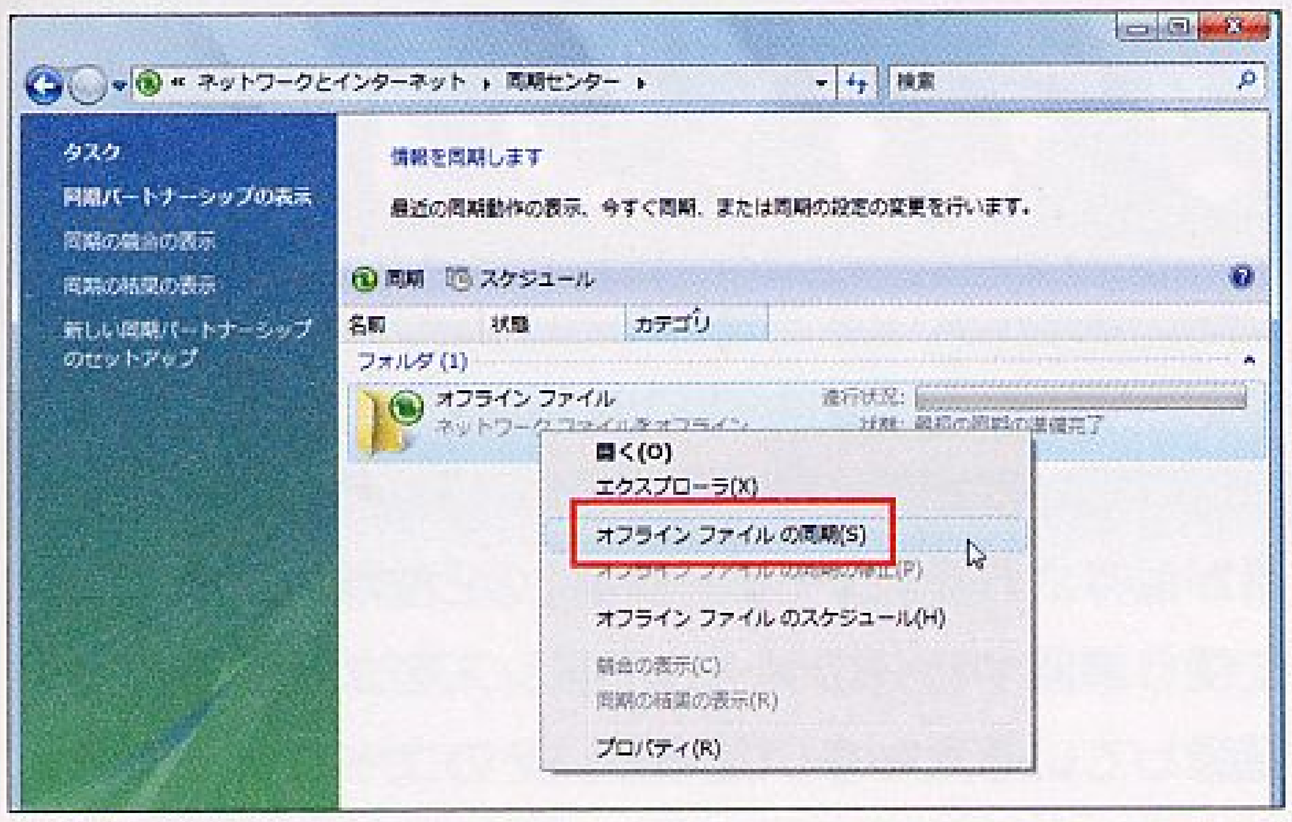
中に入っているファイルすべてに「同期」のマークが付いているのがわかる。これでこのノートパソコンを持って外出し、このファイルに修正、変更を加えよう

Keyword オフラインファイル

外出中は、パソコン内にコピーされたオフラインフォルダの内容を閲覧・編集する。外出先から戻り、「同期」をすると、各パソコンのフォルダを比較して、更新されたファイルだけをお互いに上書きコピーしているのだ。

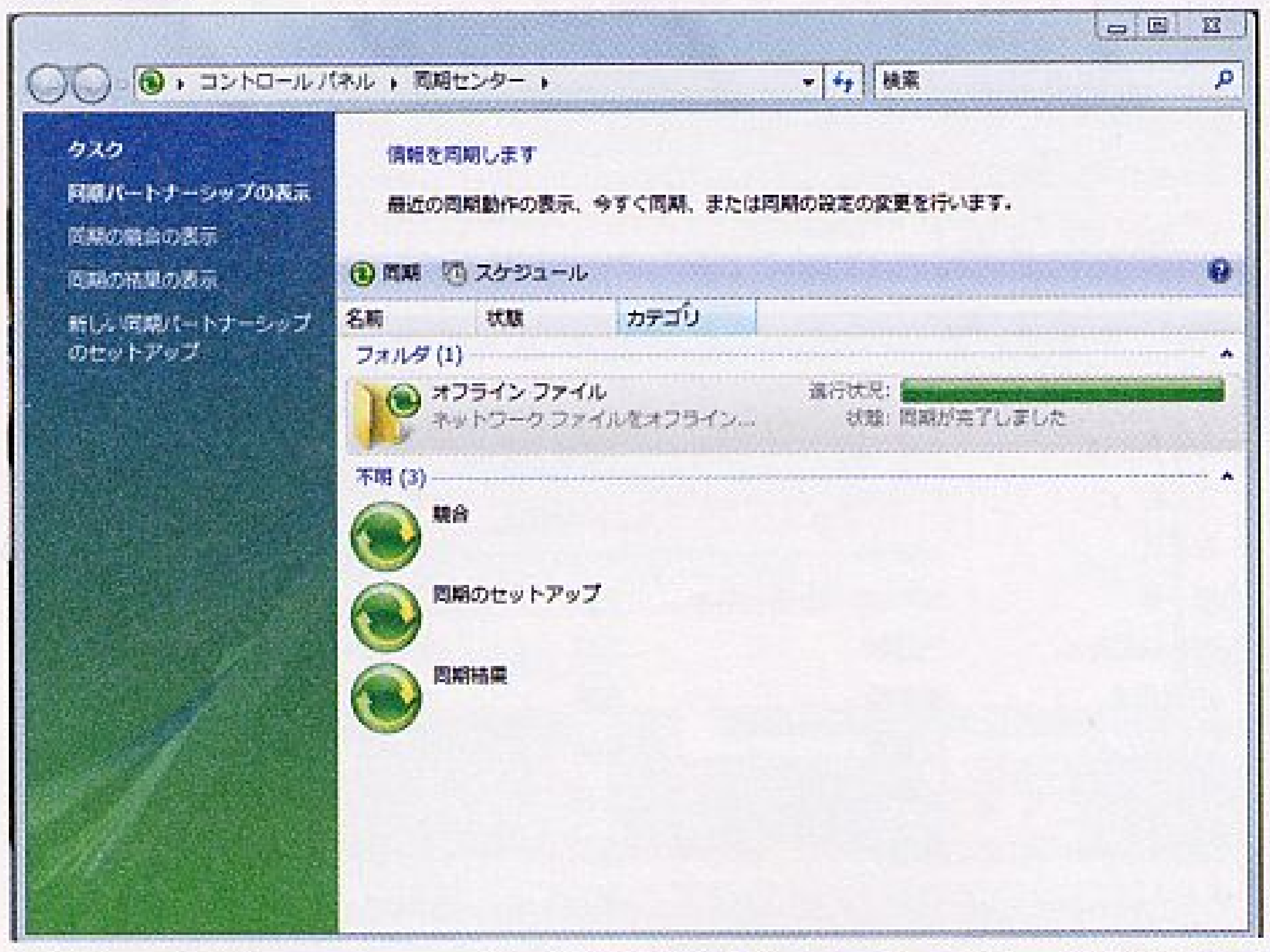
変更を加えたファイルを同期させる

1 外出先から戻ったらファイルを同期させる



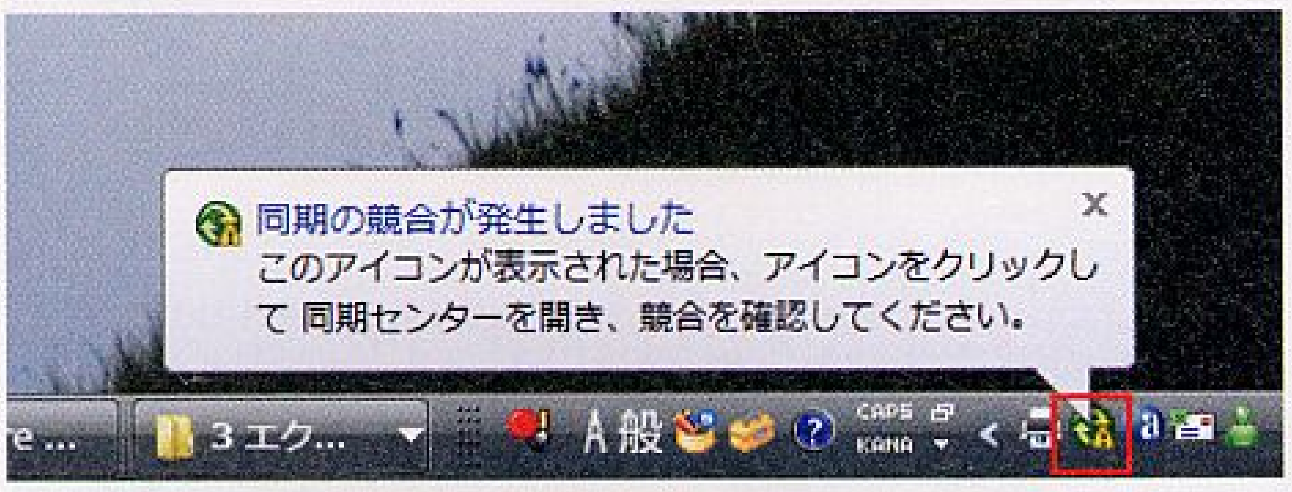
オフラインファイルの設定をしたノートパソコンを、再びネットワークに接続し、通知領域の「同期センター」をクリック。「同期センター」を開く。オフラインファイルを右クリックし、「オフラインファイルの同期」をクリックする

2 同期が開始される



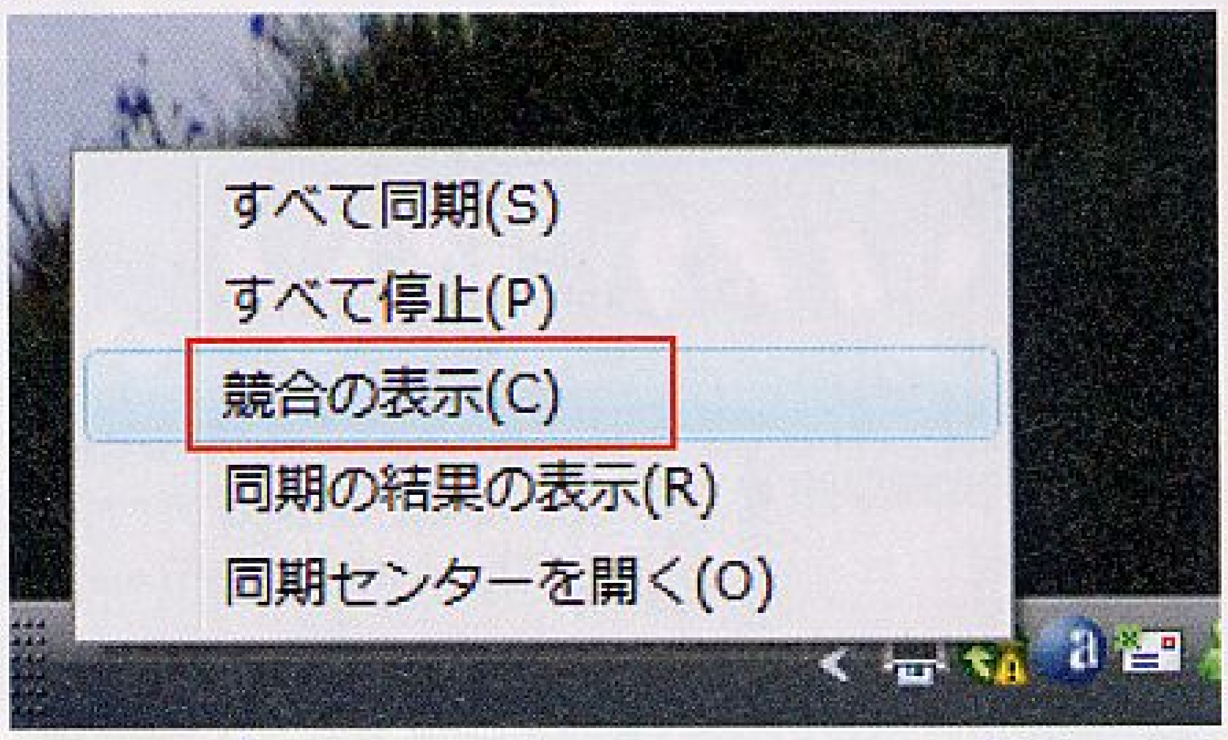
同期マークがついたファイルに変更が加えられていると、自動的にファイル内容が反映され、同期が開始されるので完了するまでしばらく待とう。また、逆にネットワーク上のこのファイルに変更が加えられていたなら、外出先に持ち出したノートパソコン側のファイルにも変更が反映される。つまり、相互に修正が反映されるのだ。しかし、両方のファイルに異なる変更が加えられると「競合」という状態になってしまうことがある

3 同期の「競合」が発生したときは



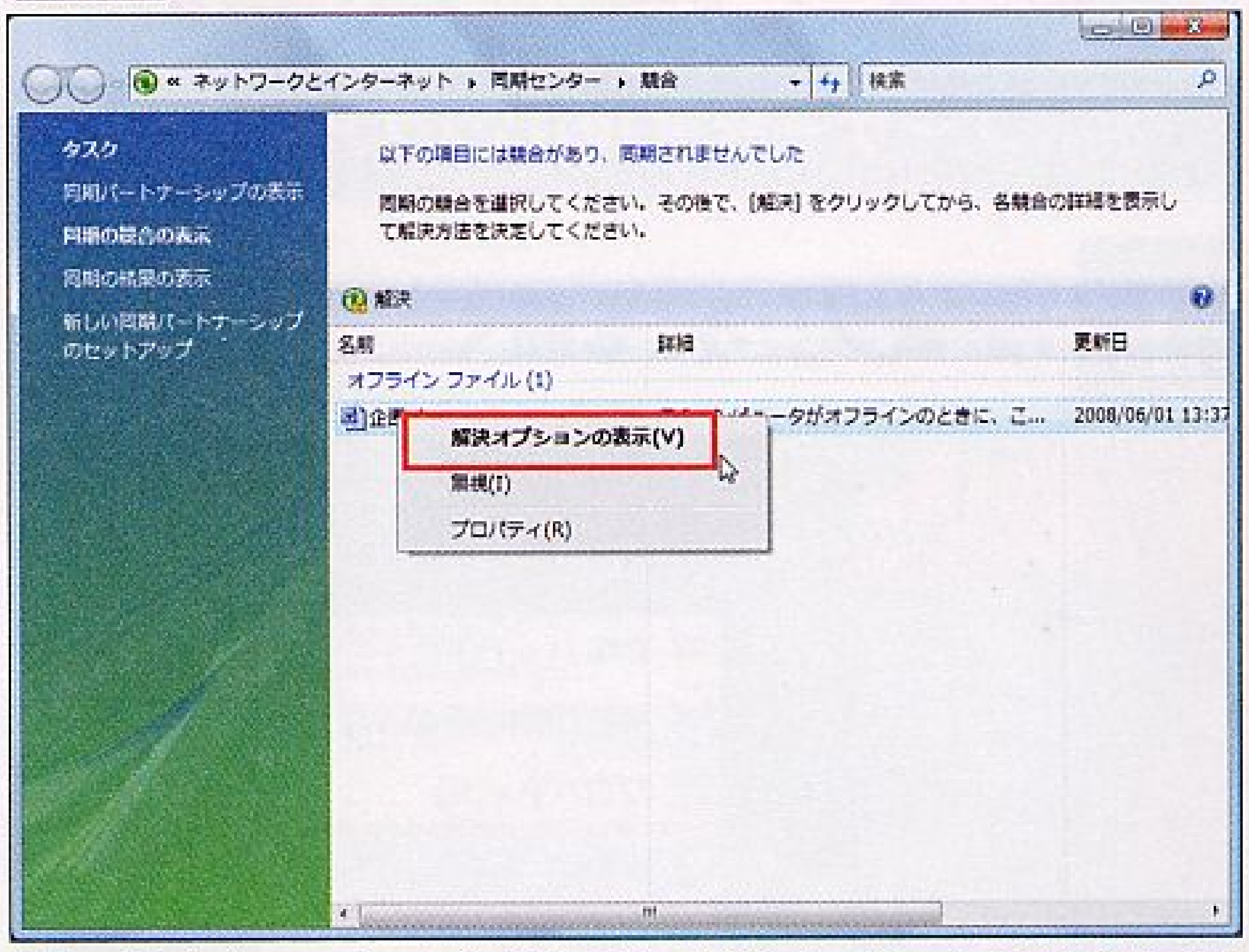
ノートパソコン側とネットワーク上のパソコン側とで、それぞれが同じファイルに別々の変更を施した場合、「同期」をしようとすると、通知領域に画面のような警告バルーンが出る

4 「競合」しているファイルを表示する



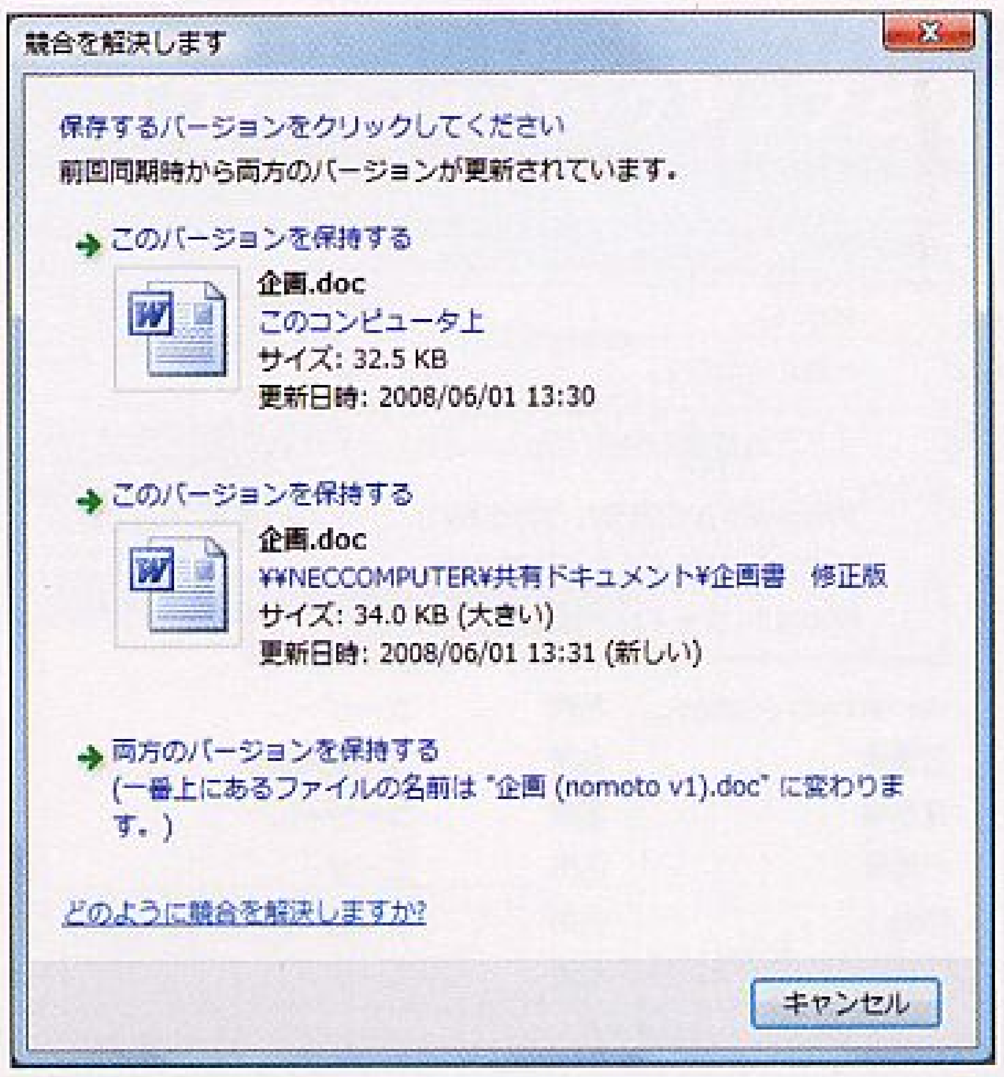
通知領域の「同期センター」アイコンをクリックして、「競合の表示」をクリックする

5 「競合」の解決をする



競合が起きたファイルを右クリックし、「解決オプションの表示」をクリックする

6 競合の解決方法を選択する



「競合」が起きているファイルの処理方法を選択する。変更を加えたファイルが表示されるので、残したいほうのファイルを選択してもいいし、両方のファイルを保持したければ「両方のバージョンを保持する」をクリックする

ワンポイント 同期の競合

4の場合、どちらのパソコンのファイルを相手のパソコンのファイルに上書きしても、上書きされたパソコンでの変更部分は消えてしまうことになる。そこで、6のような選択を手動で行なう必要があるのだ。

難易度 普

IMEユーザー辞書をバックアップ&リカバリする

快適指数

効果
●「IME」の辞書データをバックアップできる
●「IME」の辞書データを他のパソコンでも使える

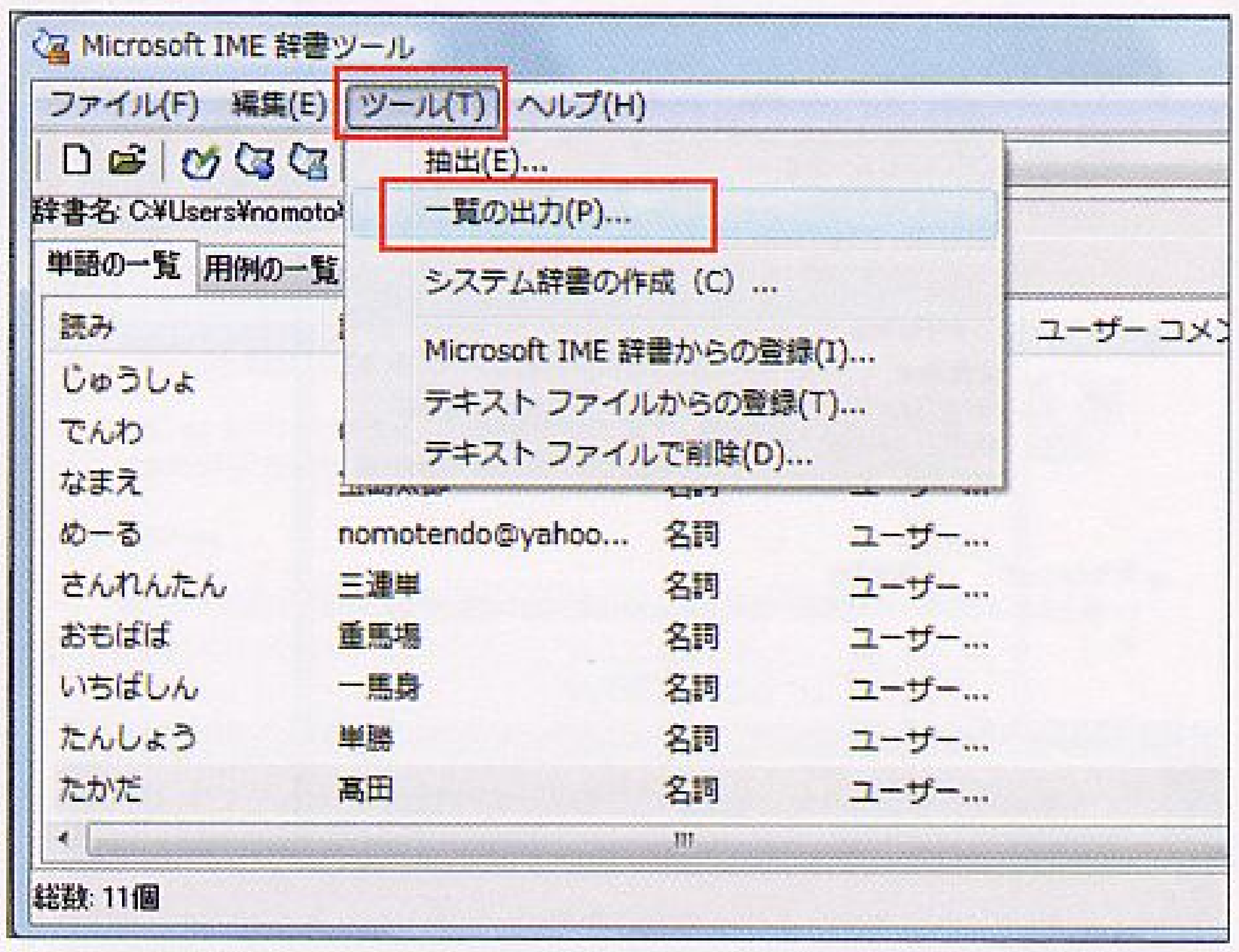
Windowsの文字入力はMicrosoft IMEという日本語入力ソフトを使っている（Microsoft Office IME 2007の場合もある）。IMEの辞書ツールにはあらかじめシステムに登録されている「標準辞書」などの「システム辞書」と、ユーザーが登録した単語や辞書の学習結果が保存される「ユーザー辞書」の2種類がある。頻繁に使う単語や自分のメールアドレスをユーザー辞書に登録している人も多いだろう。そのユーザー辞書を他のパソコンで使ったり、パソコンが故障してしまったときに備えてバックアップしておこう。

「ユーザー辞書」のバックアップ

1 「辞書ツール」を開く

言語バーの「ツール」アイコンをクリックして「辞書ツール」を開く

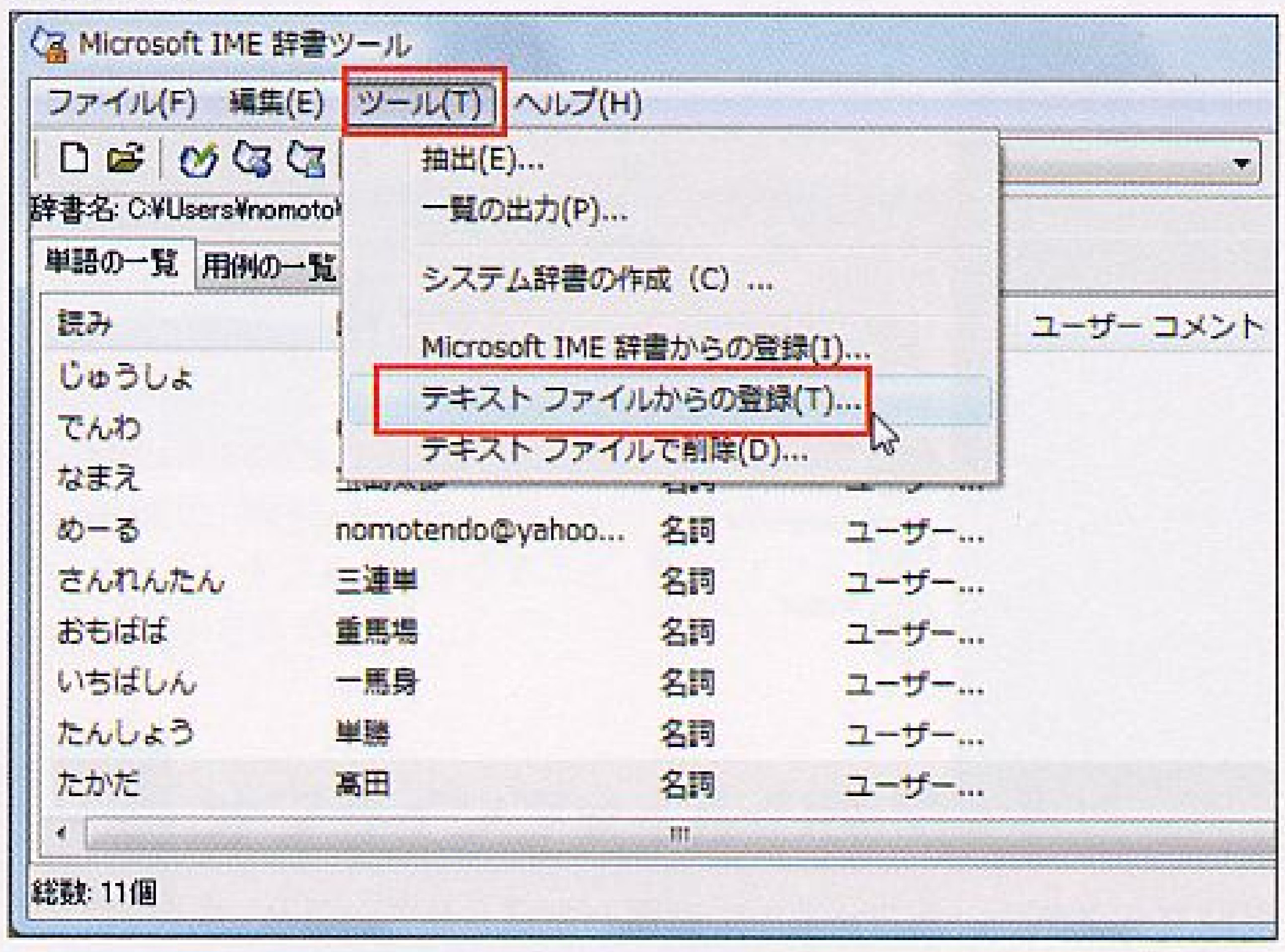
2 辞書のバックアップを行なう



「ツール」メニューの「一覧の出力」をクリックし、わかりやすいファイル名を付け保存場所を指定し、「保存」をクリックすればバックアップは完了だ

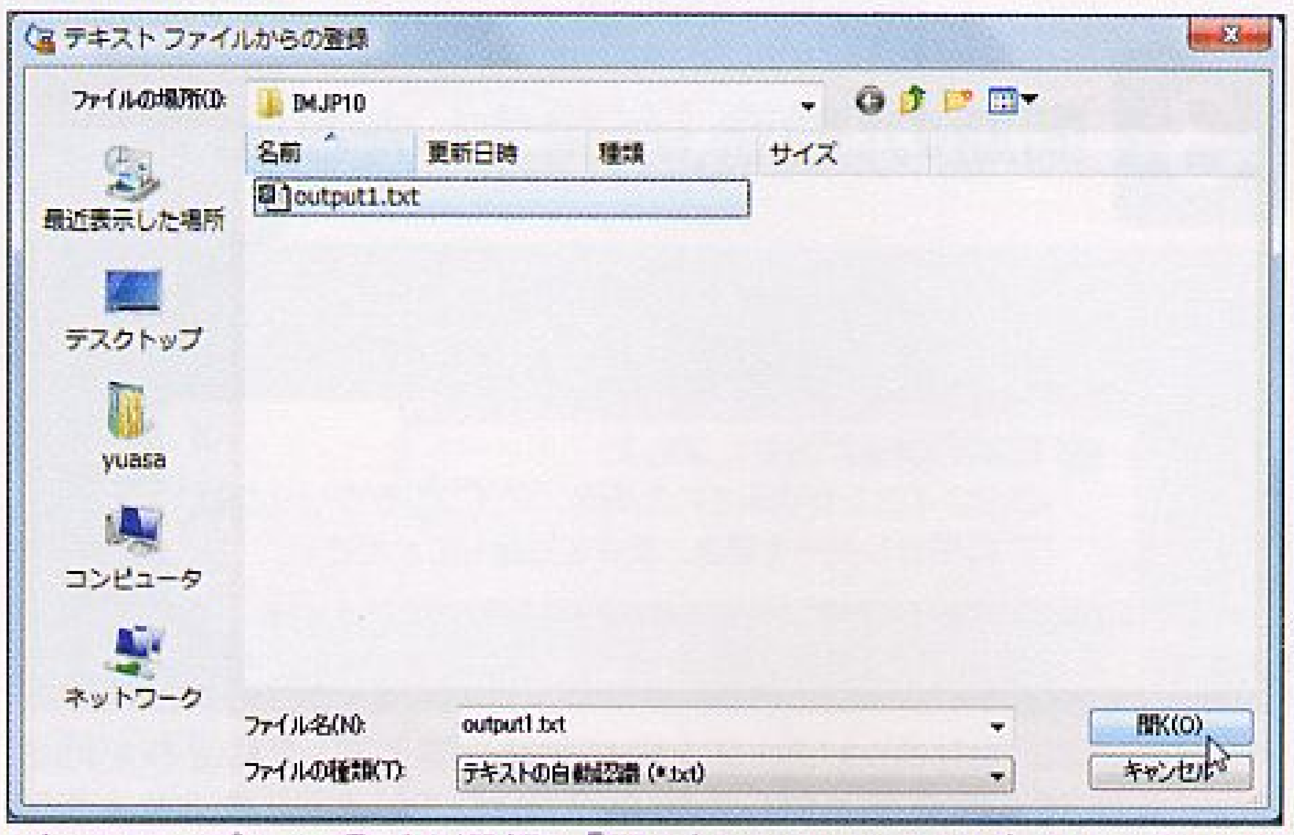
「ユーザー辞書」のリカバリ

1 「辞書ツール」を開く



バックアップの1と同様に「辞書ツール」を開き、「ツール」メニューの「テキストファイルからの登録」をクリック

2 インポート場所の選択



バックアップした場所を選択し「開く」をクリックすれば、リカバリが完了する

ワンポイント 古いバージョンの辞書を登録

古いバージョンのIMEでも、上記の「「ユーザー辞書」のバックアップ」と同様に操作すれば、出力したファイルを「「ユーザー辞書」のリカバリ」で読み込むことができる。古いIMEの辞書を活用したい場合に便利な方法だ。

難易度 普

「お気に入り」や「フィード」をバックアップ&リカバリする

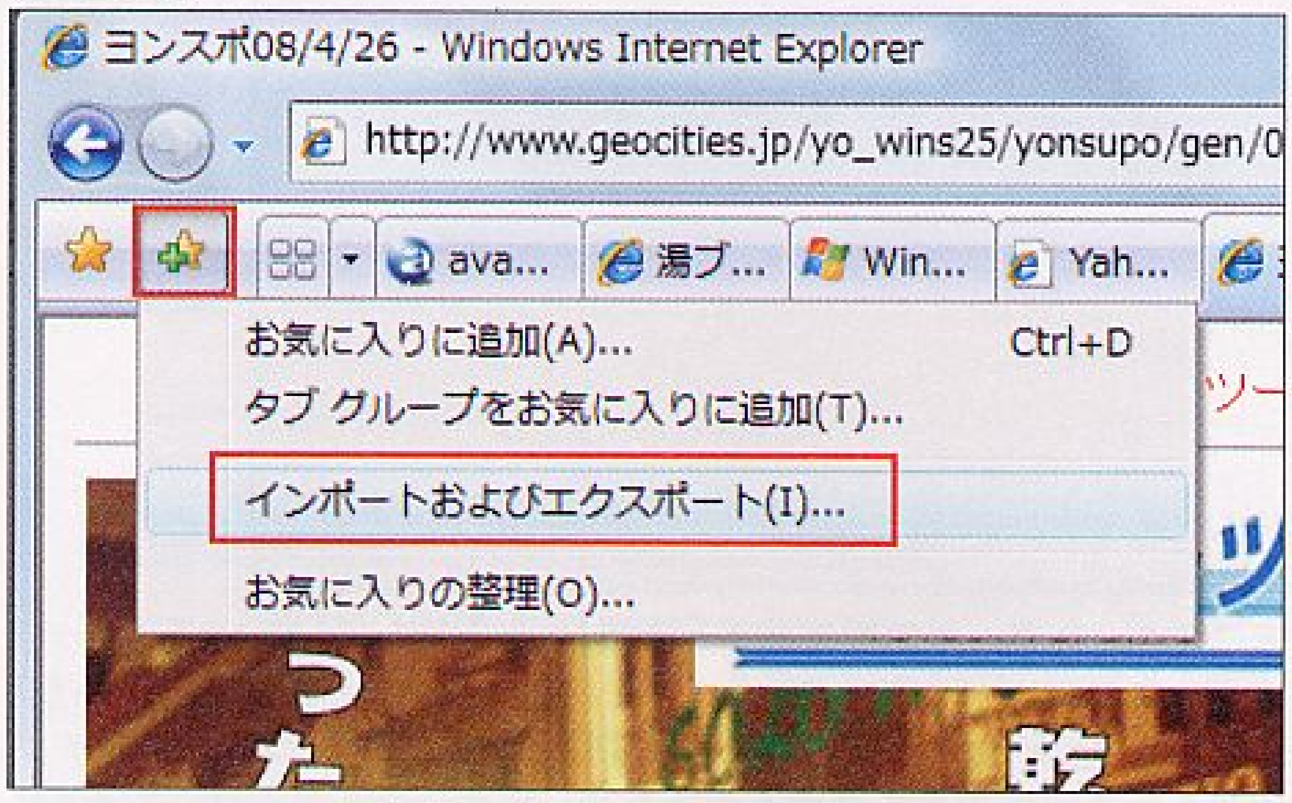
快適指数

効果
●「お気に入り」や「フィード」をバックアップできる
●「お気に入り」や「フィード」を他のパソコンでも使える

インターネットで見つけた、もう一度訪れたいサイトを登録できる「お気に入り」。ネットサーフィンをしていて偶然見つけたサイトなどもあり、ユーザーにとってはかけがえのない財産だ。それゆえ、パソコンがクラッシュして「お気に入り」がなくなってしまったら、元の「お気に入り」フォルダと同じものを作りなおすのはほぼ不可能、という人も多いのではないだろうか。万が一に備えて定期的にバックアップを取っておこう。また、RSSフィード（38ページ参照）の登録データも同様にバックアップしておくといい。

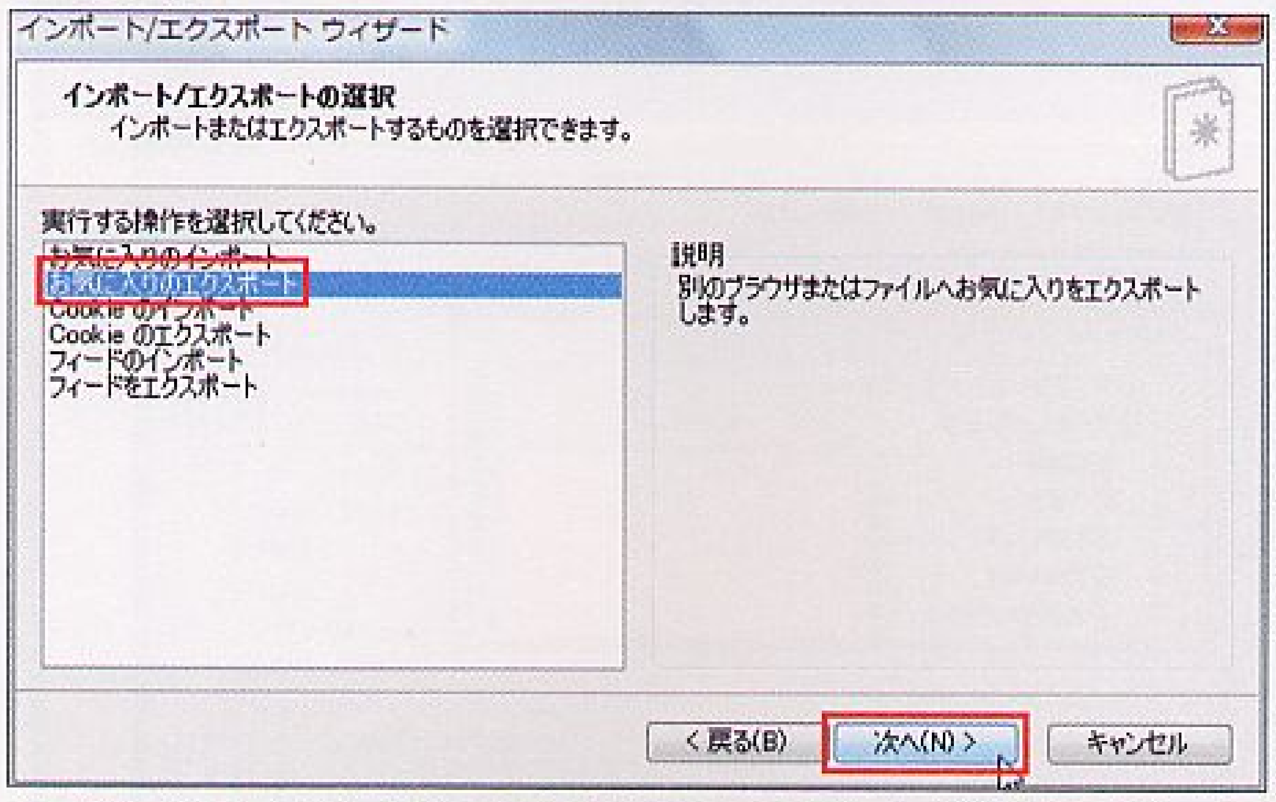
「お気に入り」のバックアップとリカバリ

1 「お気に入り」のエクスポート



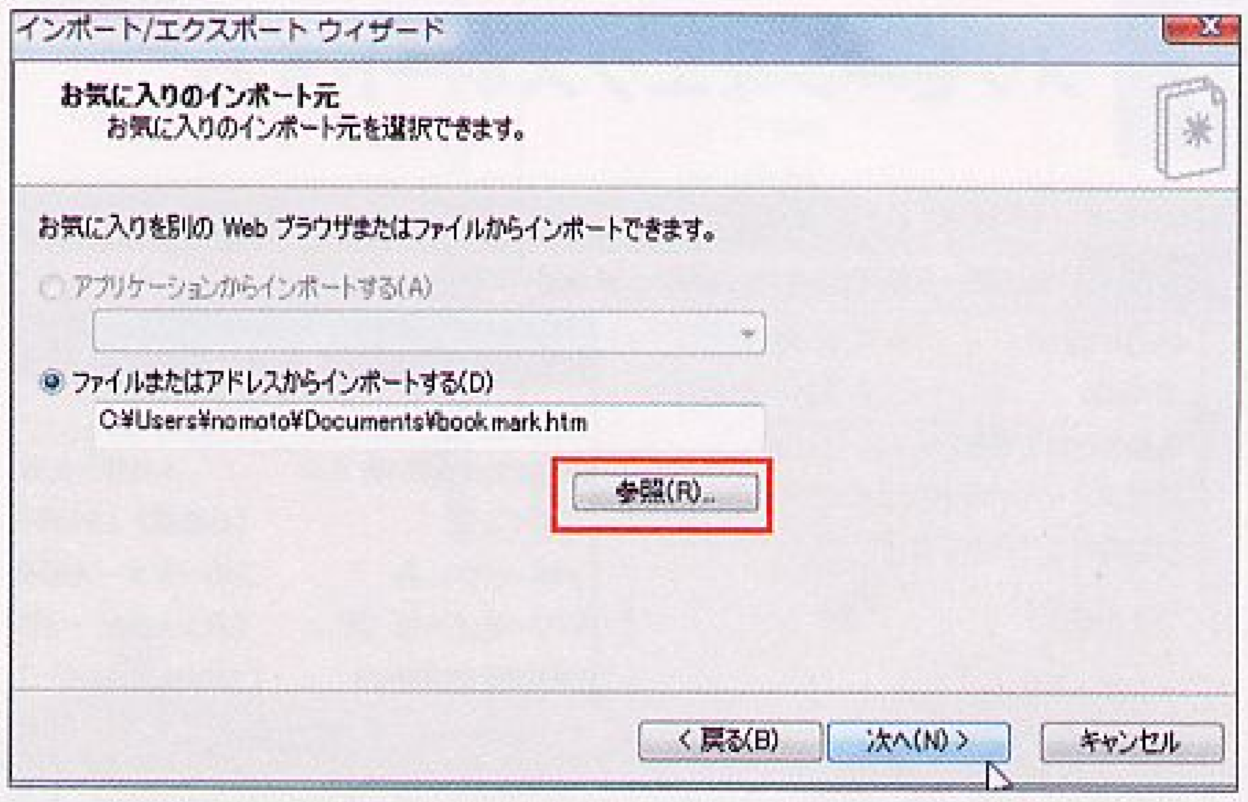
Internet Explorerを起動し、「お気に入りに追加」ボタンをクリック。の「インポートおよびエクスポート」を選択する

2 エクスポートするものとエクスポート先を選択する



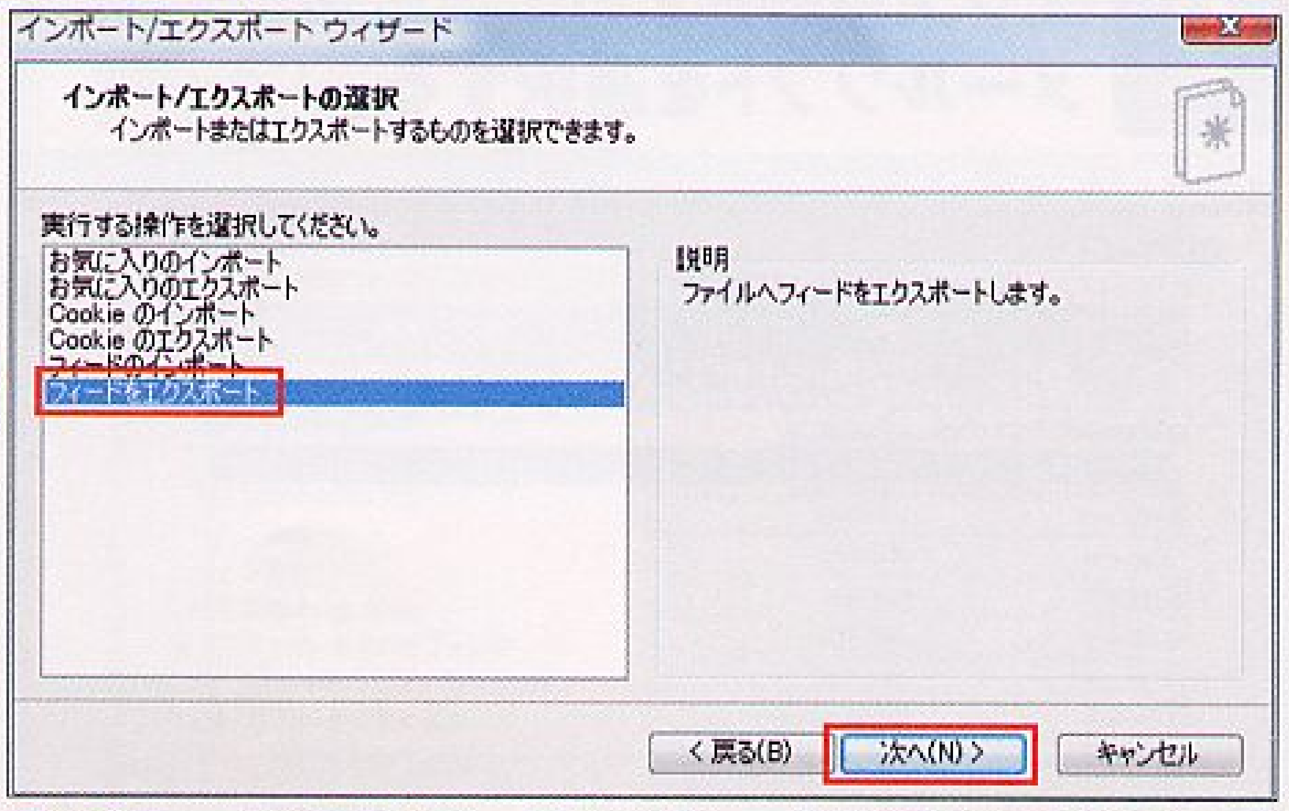
ウィザードにしたがって「お気に入りのエクスポート」を選択し「次へ」をクリックする。エクスポート元のフォルダを選択し、エクスポート先を指定して「次へ」をクリック。次の画面で「完了」をクリックすれば、エクスポート（バックアップ）が完了する

3 「お気に入り」をリカバリする



1と同様の手順で「インポート／エクスポートウィザード」を開き、「お気に入りのインポート」を選択して「次へ」をクリックする。この画面で「参照」ボタンを押してバックアップしたファイルを選択。「次へ」をクリックし、後はインポート先を選択してウィザードを進める

「フィード」のバックアップとリカバリ



2で「フィードのエクスポート」を選択し、お気に入りと同様にウィザードに沿って進めるだけでエクスポート（バックアップ）が完了する。リカバリの方法も「お気に入り」と同様に行なえばいい。また、同じ手順で「Cookie」のインポート／エクスポートも行なえる

Keyword Cookie
ブラウザが保存するデータの形式。Webサイトにアクセスすると発行される。そのサイトで入力したID・パスワードや訪れた回数といった情報が自分のパソコンに記録され、ユーザーが何度も同じ情報を入力しなくてすむ。

難易度 普

メールデータをバックアップ&リカバリする

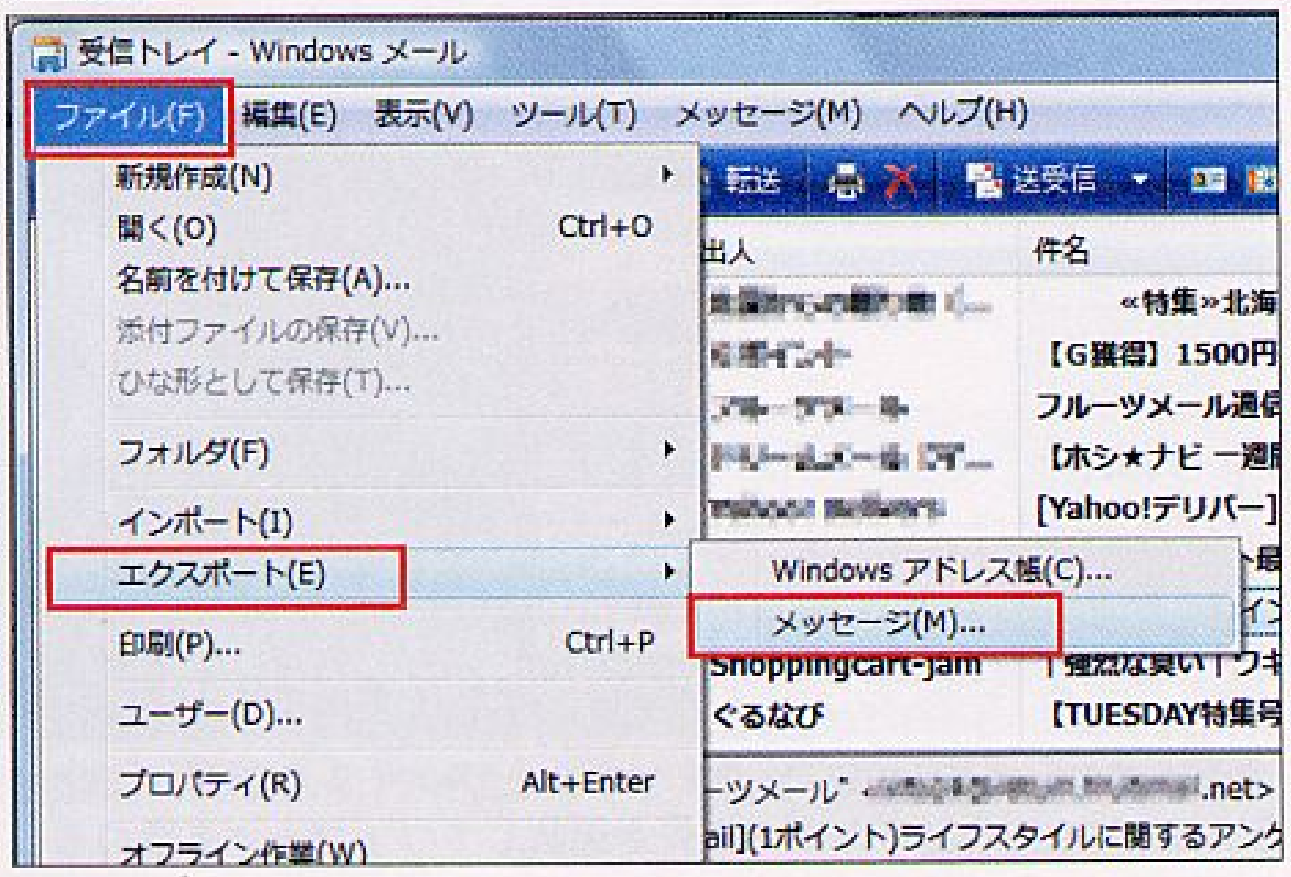
快適指数

効果
- ●メールの送受信データをバックアップできる
- ●外部メディアにバックアップすることでメールデータを削除し軽量化できる

いまやメールは仕事やプライベートの非常に重要なコミュニケーション手段だ。もし、突然パソコンがクラッシュしてしまい、これまでのメールデータを取り出せなくなってしまったら……。考えるだけで恐ろしいと感じる人も多いはず。そんな緊急事態に備えて、普段から定期的にバックアップを取っておこう。アドレスだけ(126ページ参照)、メールデータだけなど必要に応じてバックアップすれば、それほど手間もかからないはずだ。また、データをバックアップしたら、溜まったメールは削除して、メーラーを軽量化するといい。

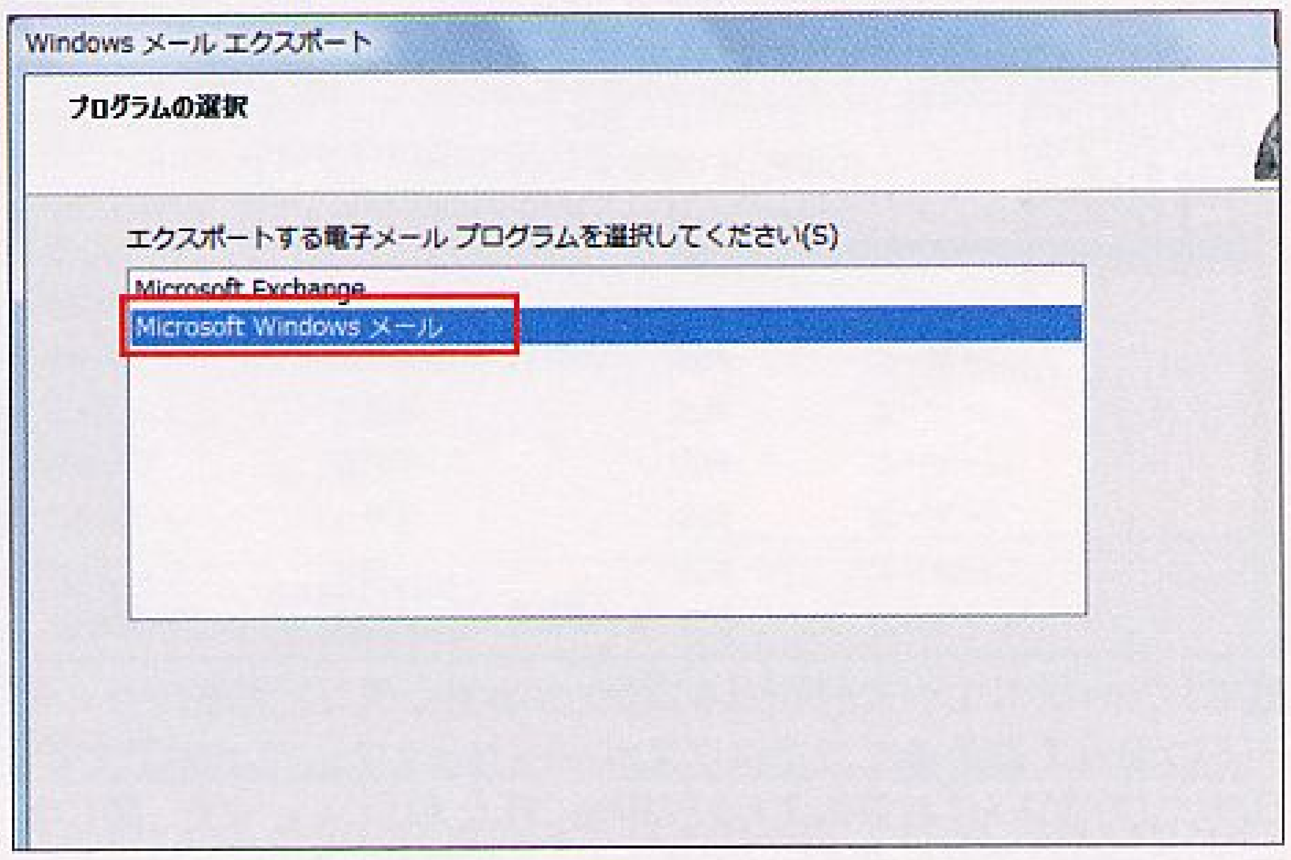
メールデータのバックアップ

1 メッセージをエクスポートする



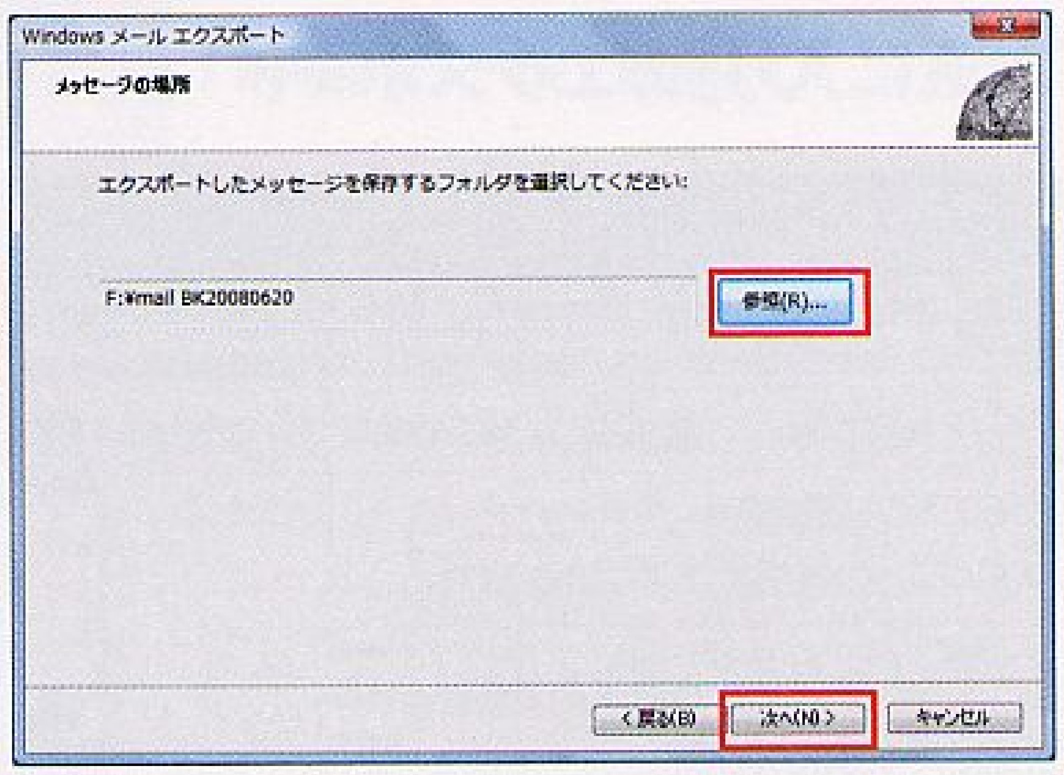
「Windowsメール」を起動し、「ファイル」→「エクスポート」→「メッセージ」をクリックする

2 エクスポートするメールソフトを選択する



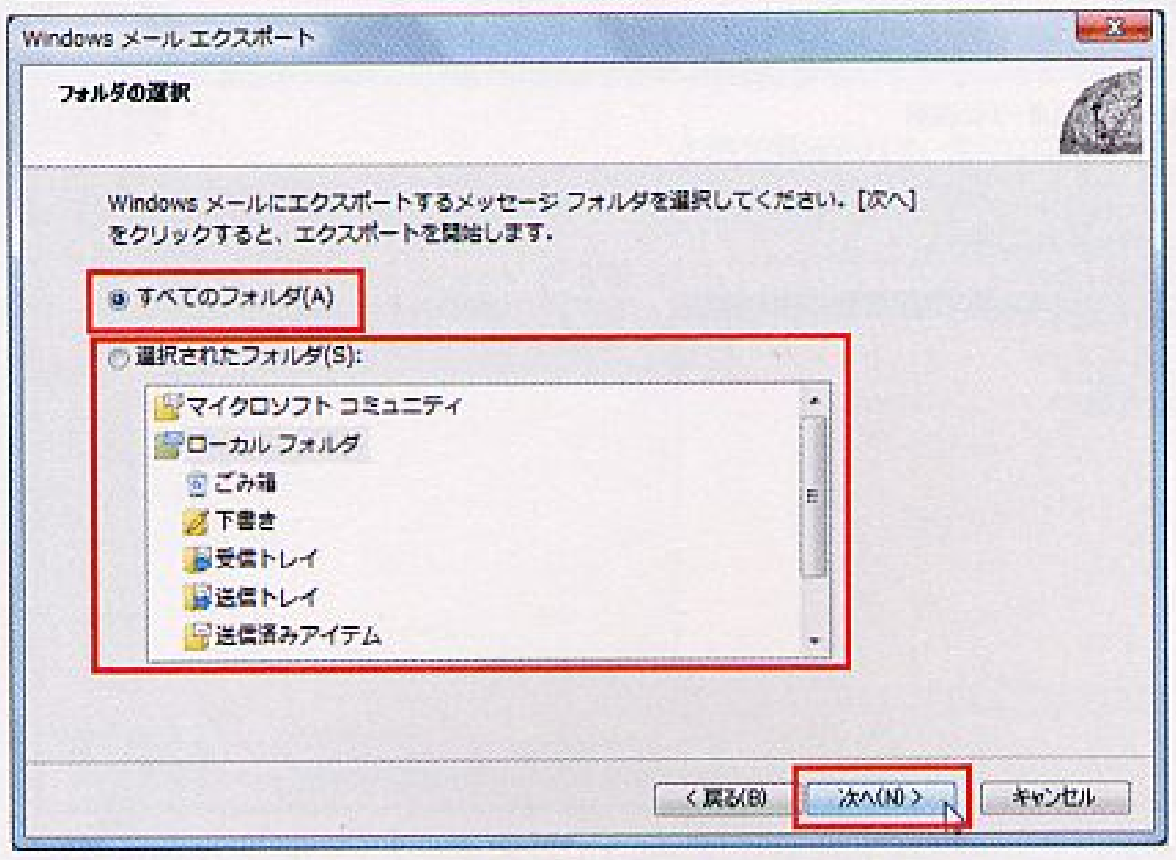
エクスポートする電子メールソフトを選ぶ。「Microsoft Windows メール」を選択し、「次へ」をクリック

3 エクスポート先を選択する



エクスポートデータの保存先を「参照」から選択して「次へ」をクリックする。エクスポート先はCドライブではなく、他のドライブにするか、USBメモリなどにすると、万が一の備えになる。また、エクスポート先のフォルダは空である必要があるため、新規フォルダを作っておくといい

4 エクスポートしたいメッセージフォルダを選択する

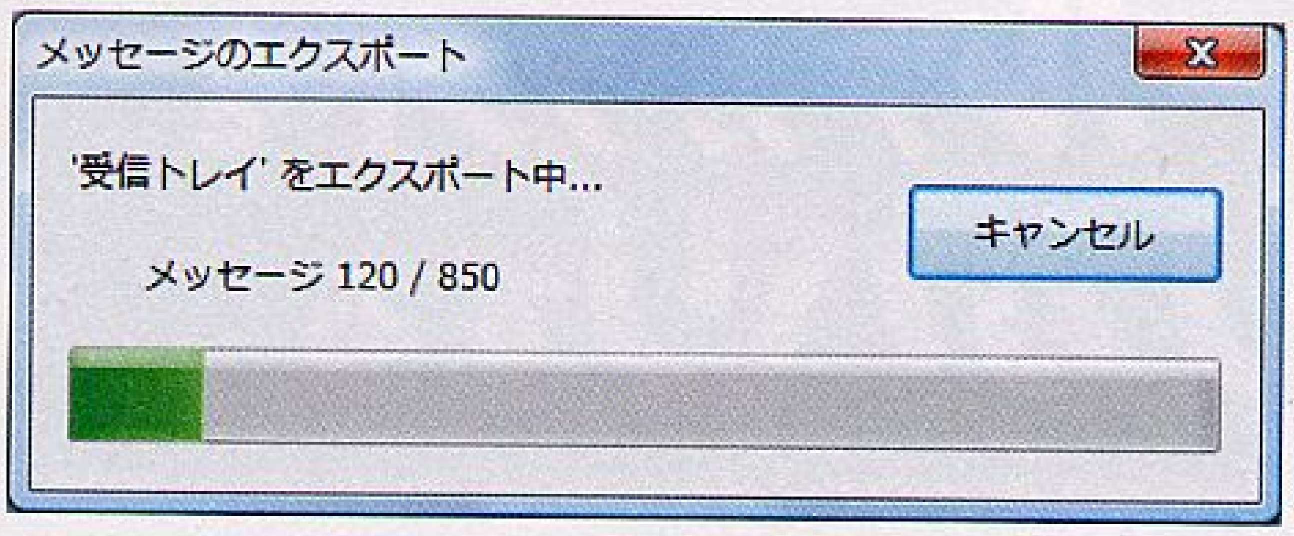


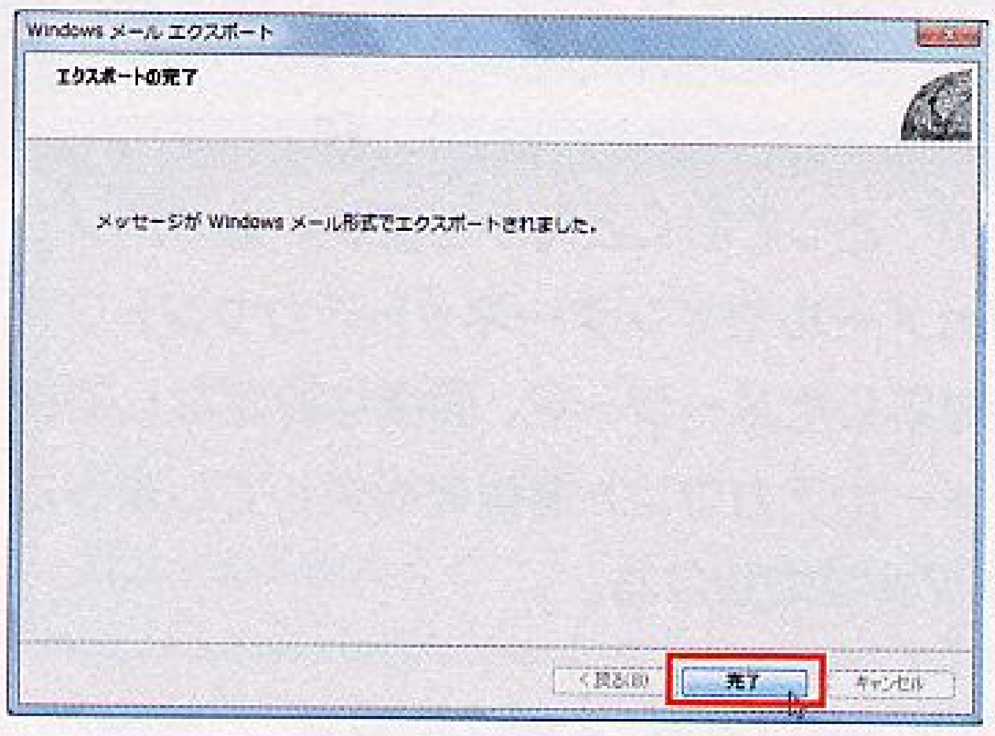
複数のメールアカウントを使っている場合や、受信トレイや送信トレイなどを個別にバックアップしたいなら、「選択されたフォルダ」からバックアップするフォルダを選択する。すべてのフォルダをバックアップしたいなら「すべてのフォルダ」を選択して、「次へ」をクリック

ワンポイント データの保存先

エクスポート先のフォルダは、パソコンクラッシュなどに備えてCドライブ以外にバックアップするのがオススメだ。また、ファイル名はバックアップした日付がわかるようにファイル名に日付を入れておくといい。

5 エクスポートが完了する

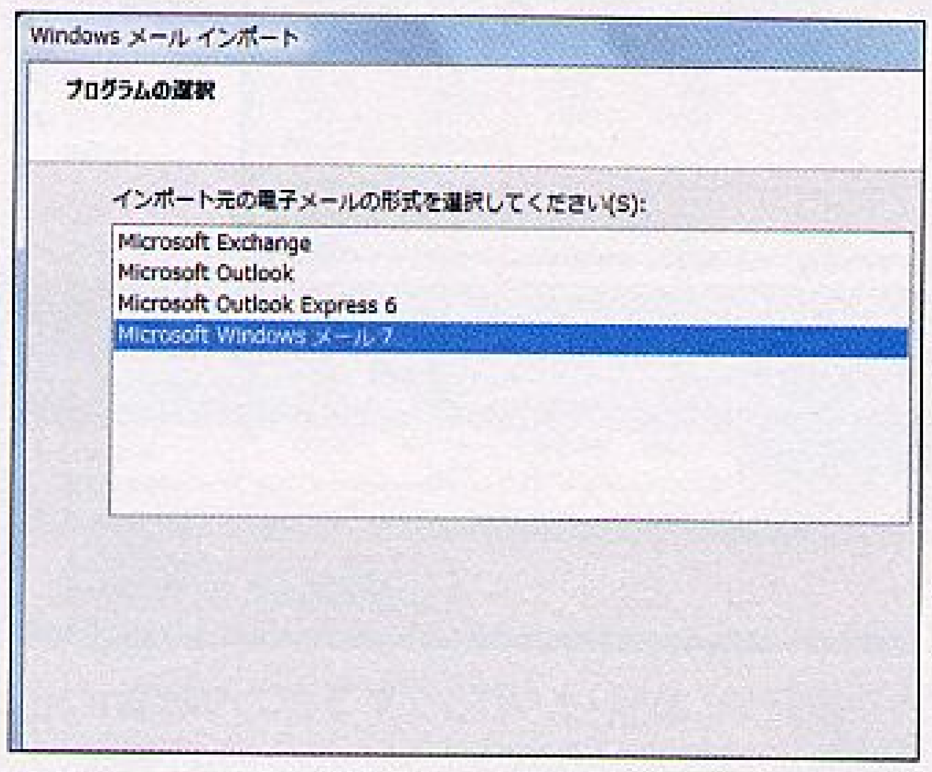




メッセージのエクスポートが始まり、正常に完了すると左の画面になるので「完了」をクリックする

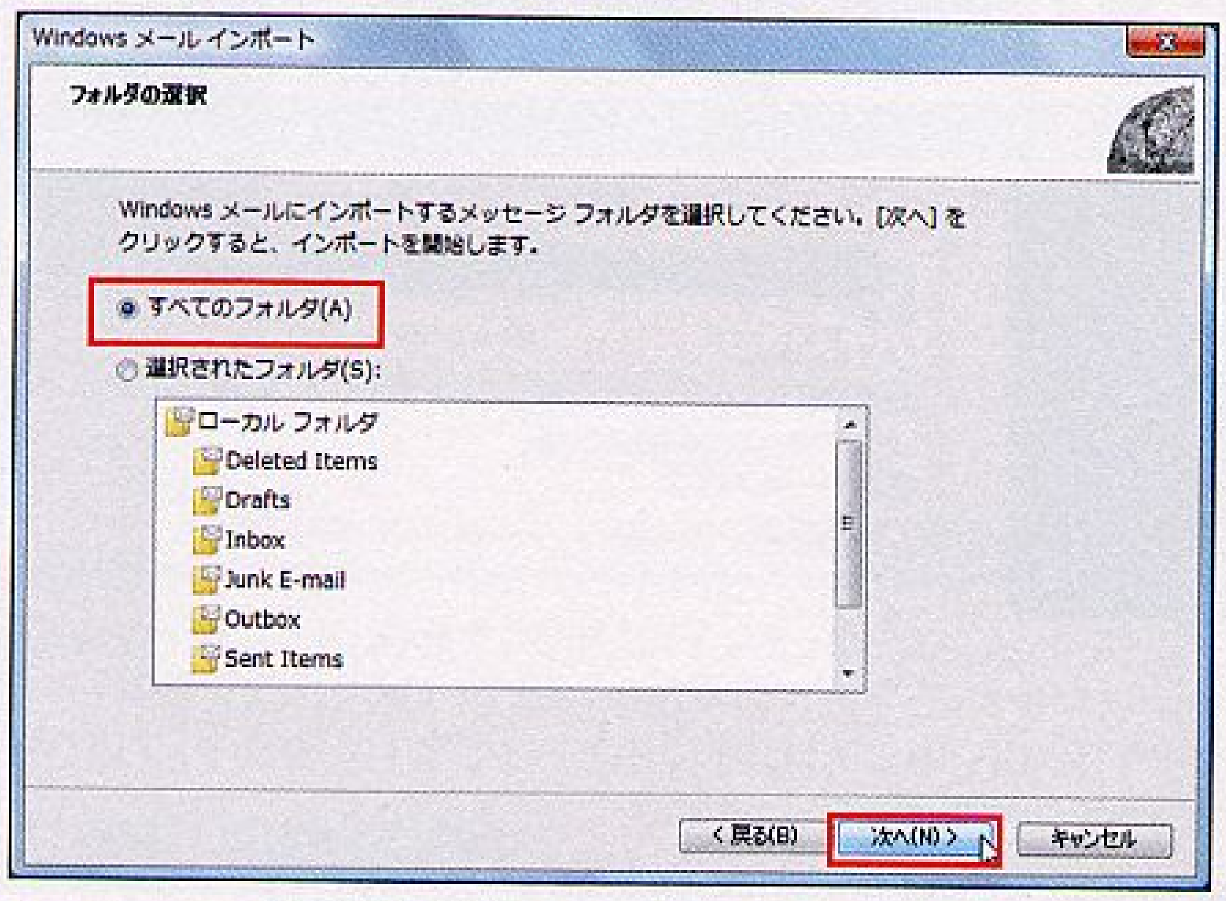
メールデータのリカバリ

1 インポートを開始する



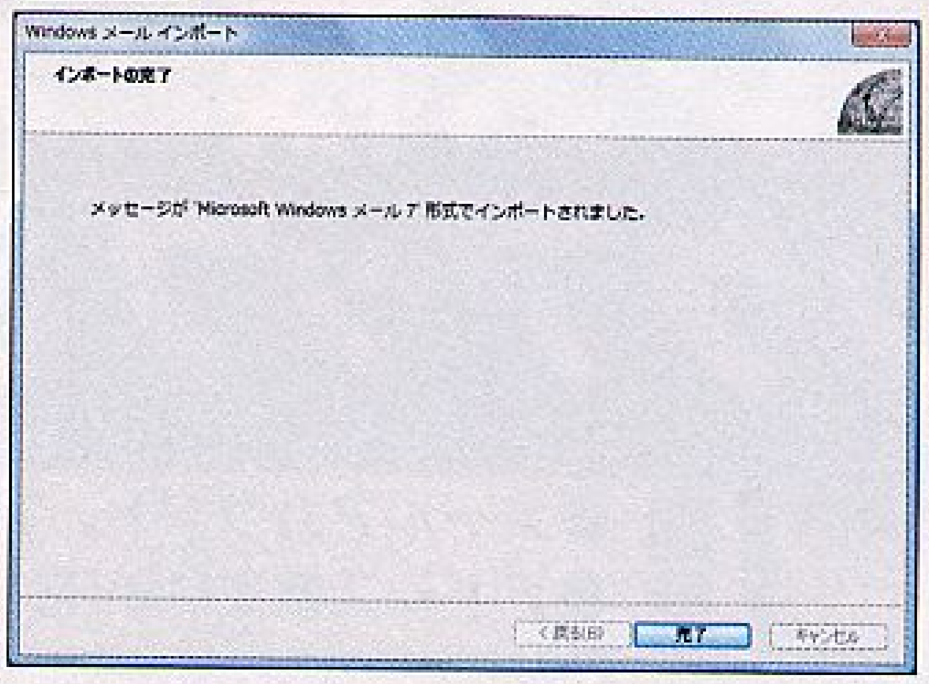
「Windows メール」の「ファイル」→「インポート」→「メッセージ」をクリックし、インポートするメール形式を選択する。ここではバックアップの❷で選択した「Microsoft Windows メール7」を選び「次へ」をクリックする

2 インポートするファイルを指定する

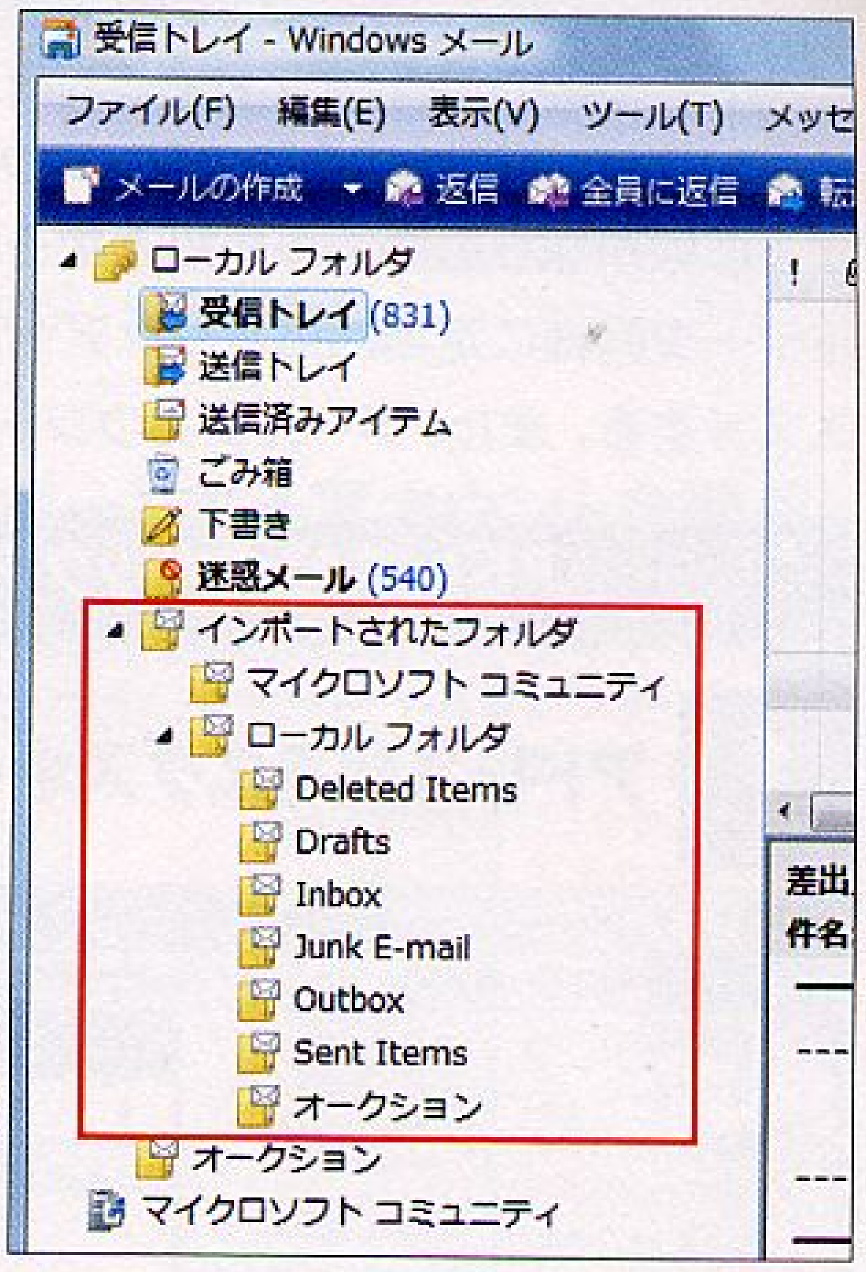


バックアップの手順❸で選択したフォルダを指定し、「次へ」をクリックする。「すべてのフォルダ」にチェックを入れ「次へ」をクリック

3 インポートが始まる



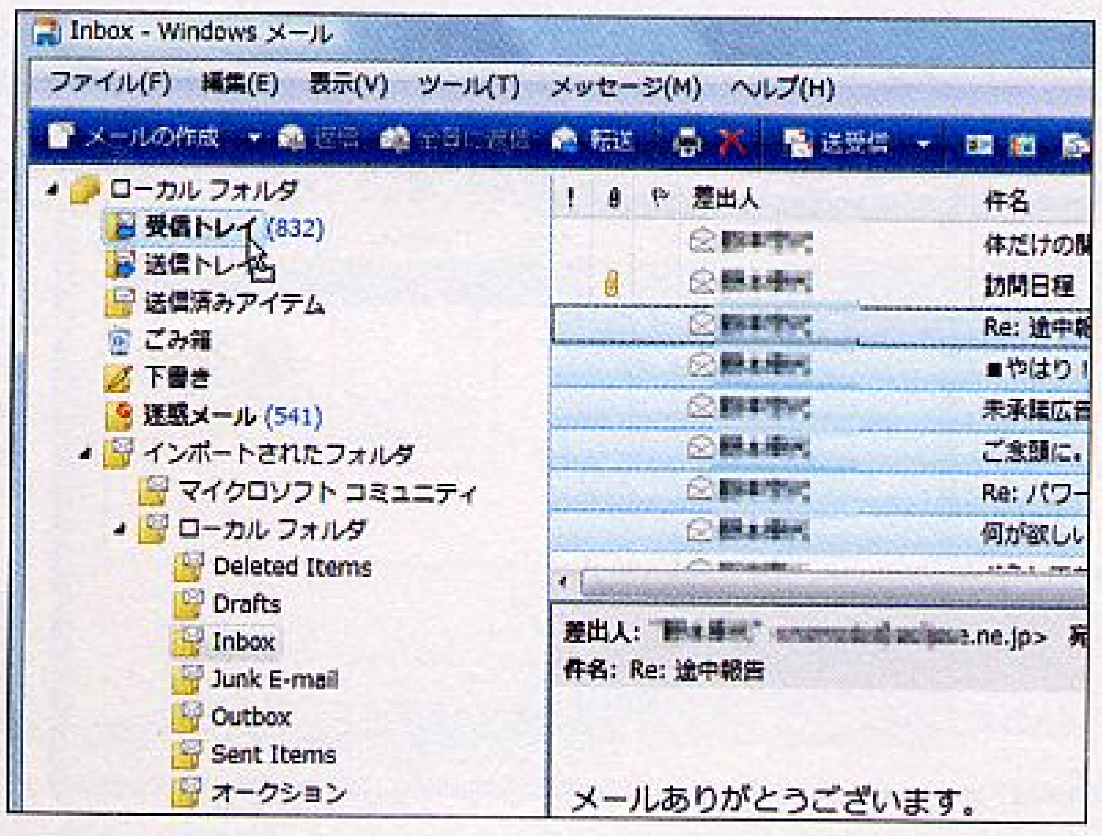
インポートが開始され、「インポートされたフォルダ」が追加される。ローカルフォルダの中に独立して作成されるため、今使用しているメールデータには上書きされない



もっと快適!!テクニック

インポートされたフォルダをローカルフォルダに振り分ける

ここまでの手順で、「ローカルフォルダ」の中に「インポートされたフォルダ」ができた。ただし、今ある受信トレイや送信トレイには入っていないので、「Inbox」のメールデータを「受信トレイ」に、「Sent Items」の送信済みメールデータを「送信済みアイテム」に、など、必要に応じて移動させ、不要になったら「インポートされたフォルダ」ごと削除しよう



ワンポイント
メールデータの移行

上記の「メールデータのバックアップ」で出力したメッセージは、別のパソコンのWindowメールでも「メールデータのリカバリ」で読み込める。メールの環境を別のパソコンに移行したい場合にも便利というわけだ。

難易度 普

アドレス帳とメールアカウントをバックアップ&リカバリする

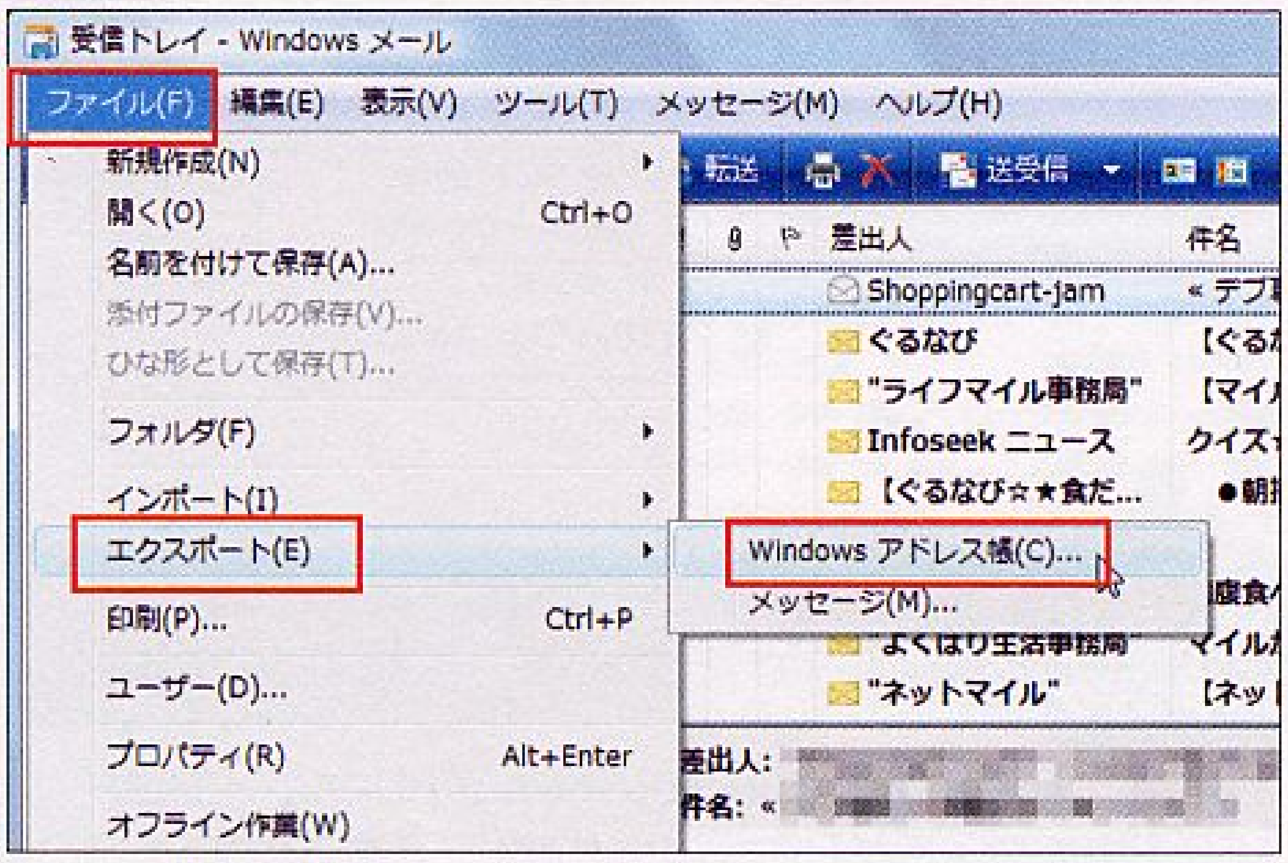
快適指数

効果 ●メールアカウント、アドレス帳をバックアップできる
●アドレス帳をCSV形式で保存すれば他のソフトに応用できる

アドレス帳のバックアップはメールデータに次ぐ重要事項。アドレス帳がなくなってしまったら、完全に復元するにはかなりの労力がかかるだろう。こちらもメールデータ同様に定期的にバックアップを取ることをオススメする。また、メールアカウントのバックアップは必須ではないが、とっておくと何かと便利。他のパソコンのWindowsメールやインターネットアカウントファイル(.iaf)に対応したメーラーを、面倒な設定なしで使用できたり、メールアカウント情報を紛失してしまったときのバックアップにもなる。

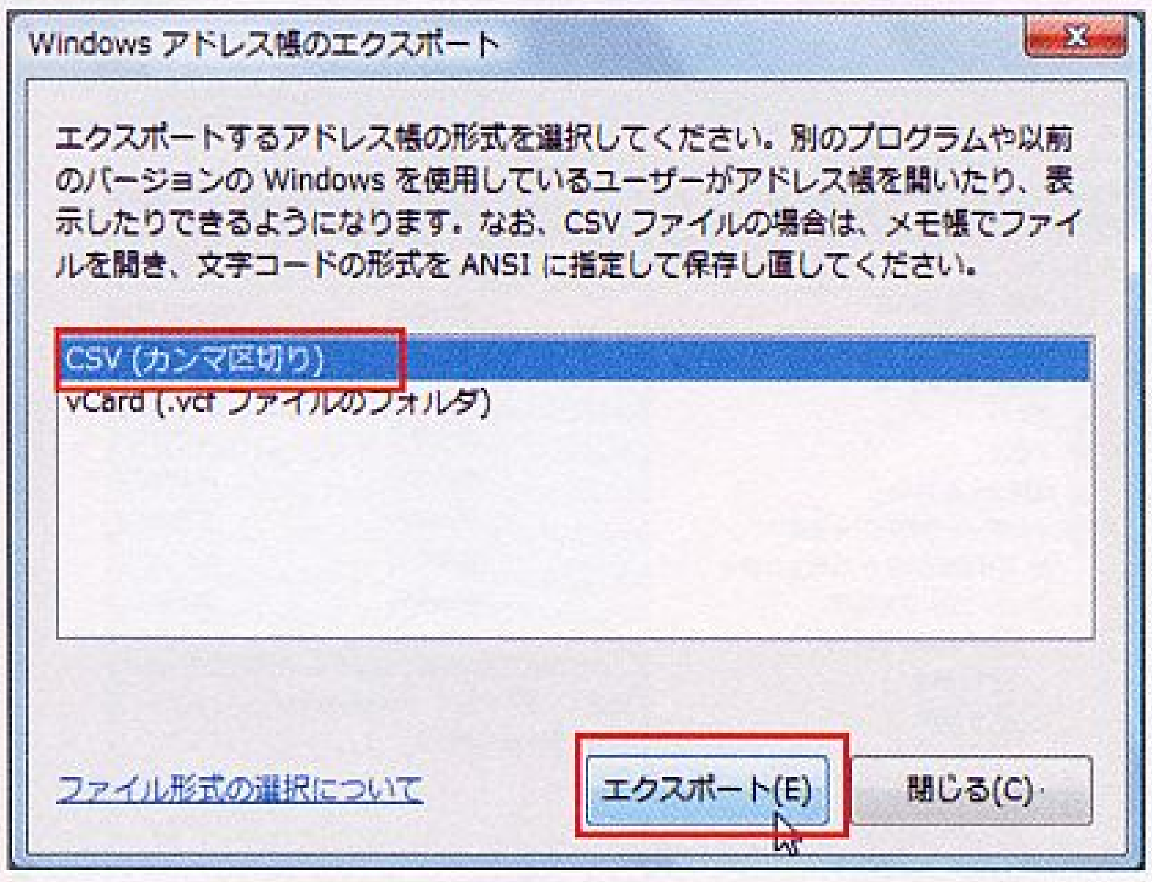
アドレス帳のバックアップ

1 アドレス帳をエクスポートする



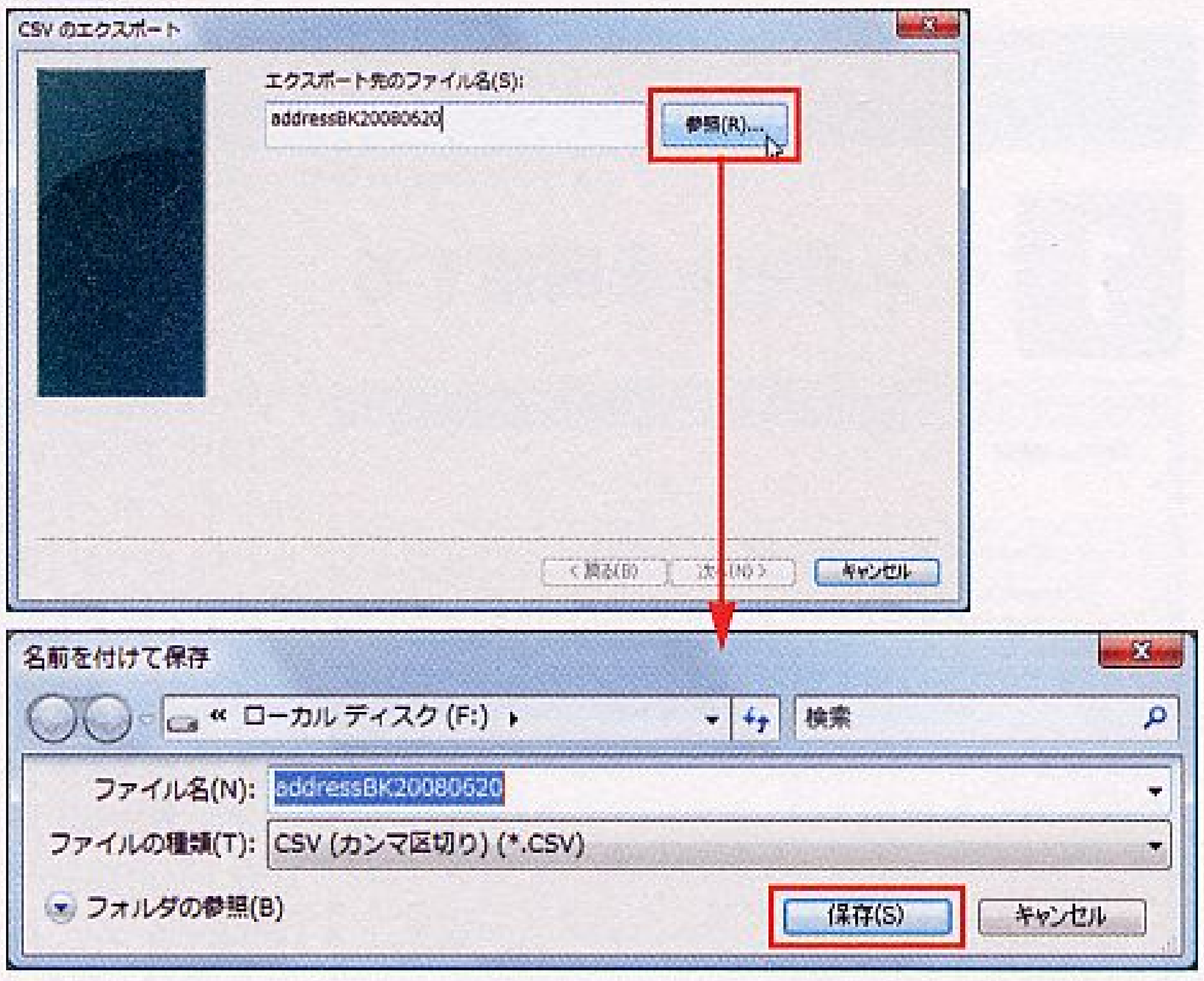
「Windowsメール」を起動し、「ファイル」→「エクスポート」→「Windowsアドレス帳」をクリックする

2 エクスポートするアドレス帳の形式を選択する



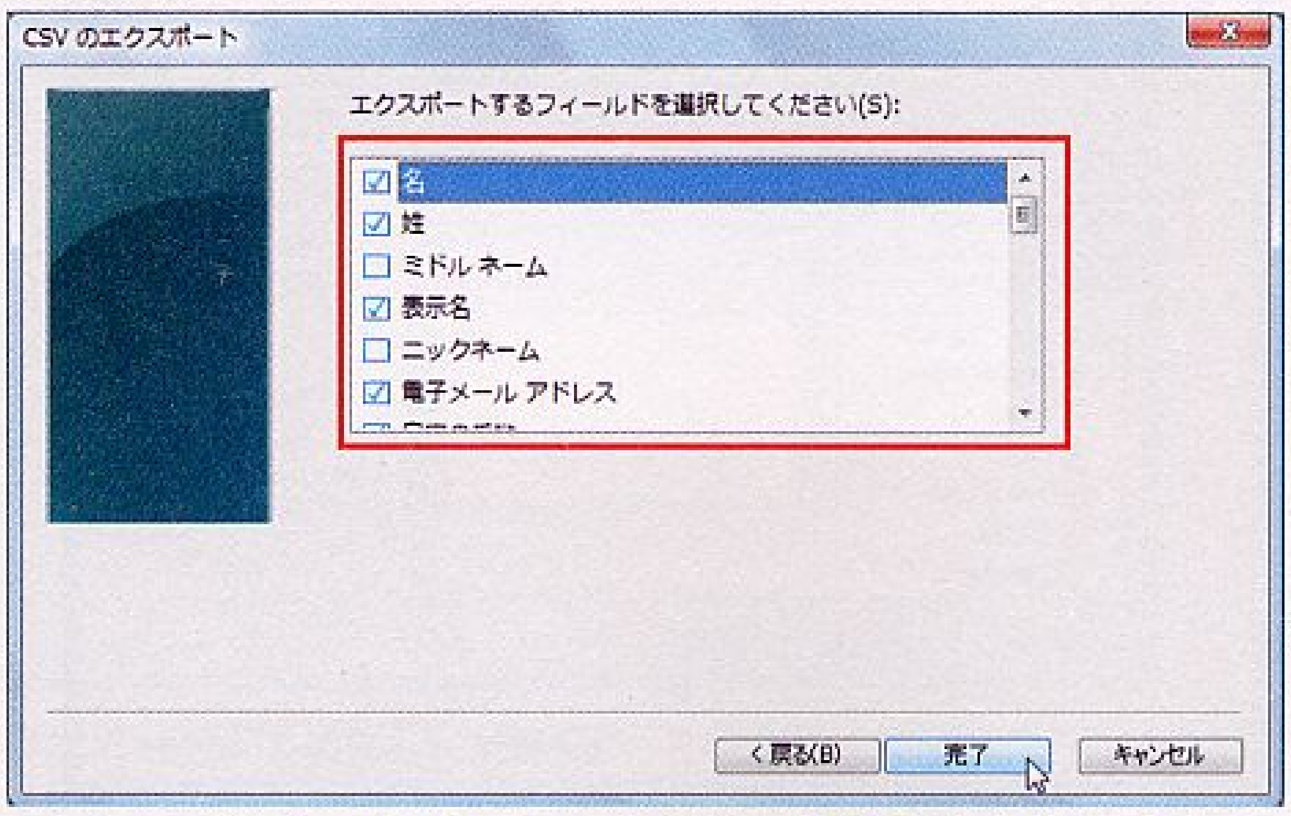
「CSV(カンマ区切り)」を選択し、「エクスポート」をクリックする

3 エクスポート先を選択する



「CSVのエクスポート」画面で「参照」をクリックするとこの画面が出るのでファイル名と保存先を指定し、「保存」をクリック。元の画面に戻ったら「次へ」をクリックする

4 バックアップ項目を選ぶ

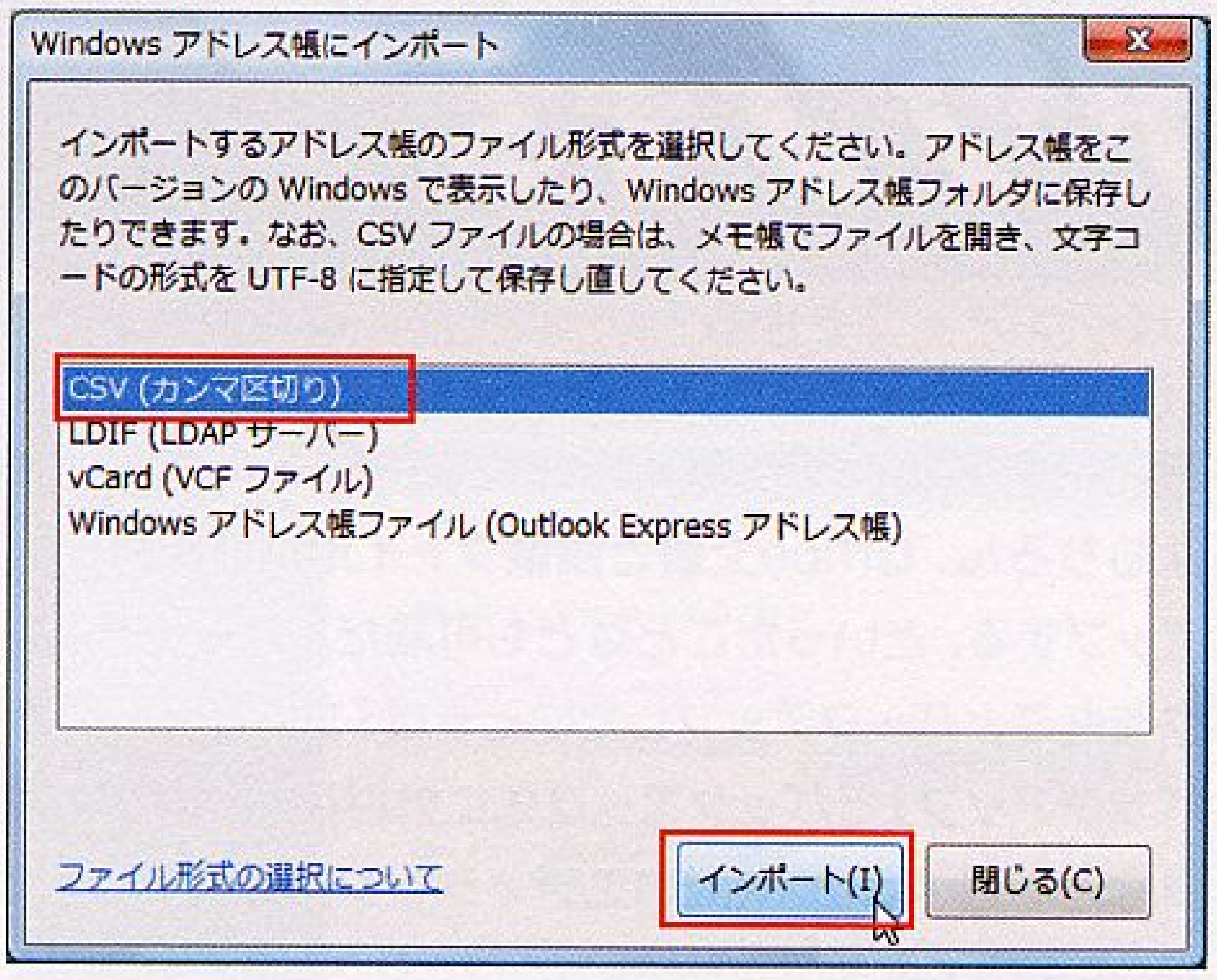


バックアップしたい項目にチェックを入れ「完了」をクリックする。アドレス帳がCSV形式に変換され、エクスポートが完了する

Keyword CSV形式
データ形式の一種で、ひとつのデータを1行とし、データの各項目をカンマで区切って記述する形式。テキストファイルなので汎用性が高く、扱えるソフトが多いのが特徴。異なるソフト間でデータの交換にも使われる。

アドレス帳のリカバリ

1 インポート先を指定する



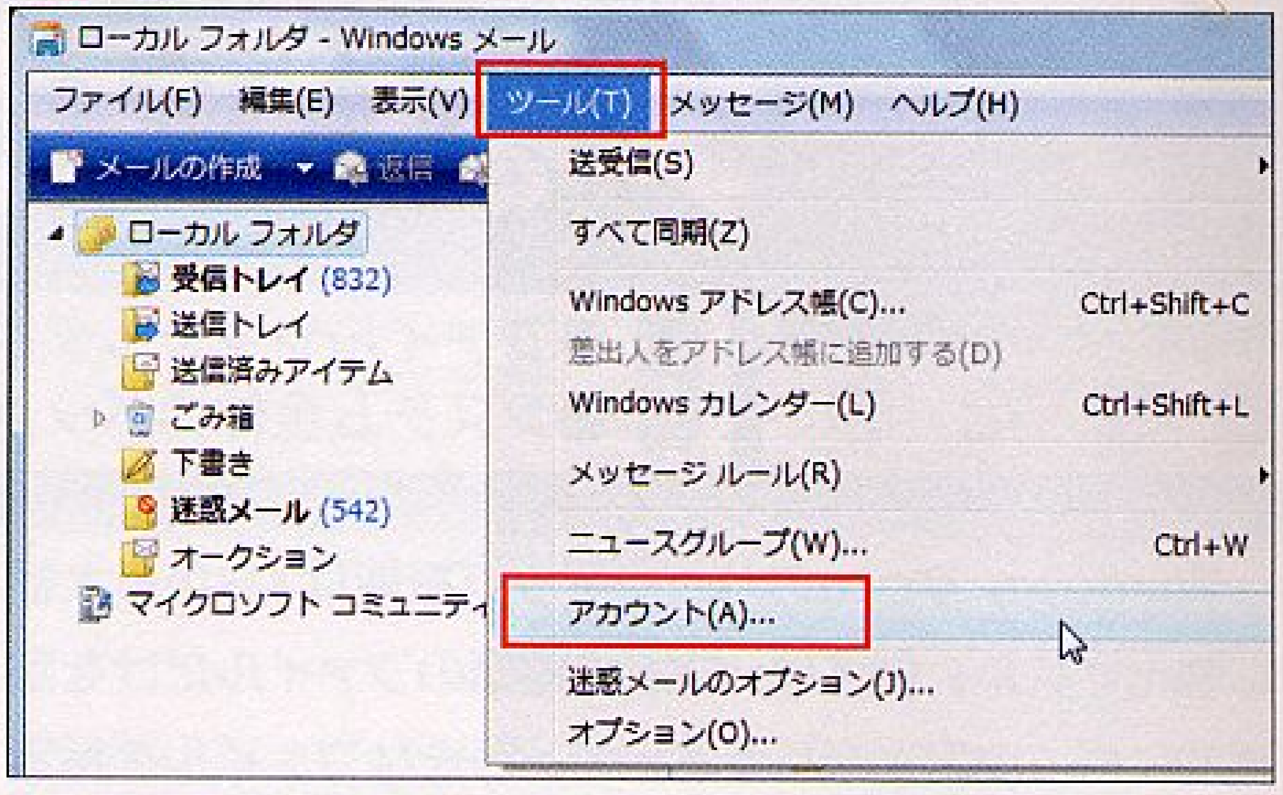
「Windowsメール」の「ファイル」→「インポート」→「Windows アドレス帳」をクリック。「CSV (カンマ区切り)」を選択し、「インポート」をクリックする

2 ファイルを指定し インポートを開始する

「CSVのインポート」画面で「参照」ボタンをクリック。バックアップしたファイルを指定し、「開く」をクリックする。「インポートするフィールドの割り当て」を行ない、「完了」をクリックすればインポートが完了する

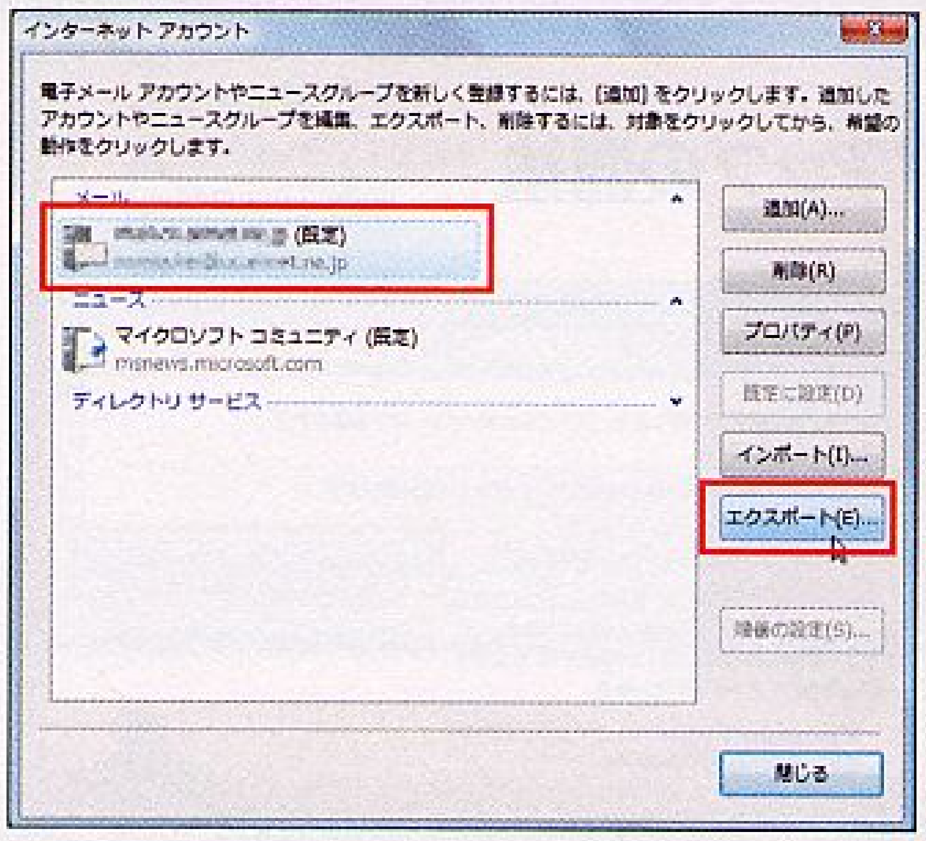
メールアカウントのバックアップ

1 アカウントをエクスポートする



「Windowsメール」を起動し、「ツール」メニュー→「アカウント」を選択

2 エクスポートするアカウントを選ぶ



エクスポートしたいアカウントを選択し、「エクスポート」をクリックする。アカウントのエクスポート先を選択し、ファイル名を付けて「保存」をクリックする

メールアカウントのリカバリ

バックアップの1の方法で「インターネットアカウント」画面を開き、「インポート」をクリックする。バックアップしたアカウントを選択し、「開く」をクリックすればいい

ワンポイント
OEのアドレス帳もインポート

「Outlook Express」のアドレス帳を「Windows メール」にインポートすることができる。「アドレス帳のリカバリ」の1で「Windowsアドレス帳ファイル（Outlook Expressアドレス帳）」を選べばいい。

難易度 普

Vistaの付属ツールで効率よくデータをバックアップする

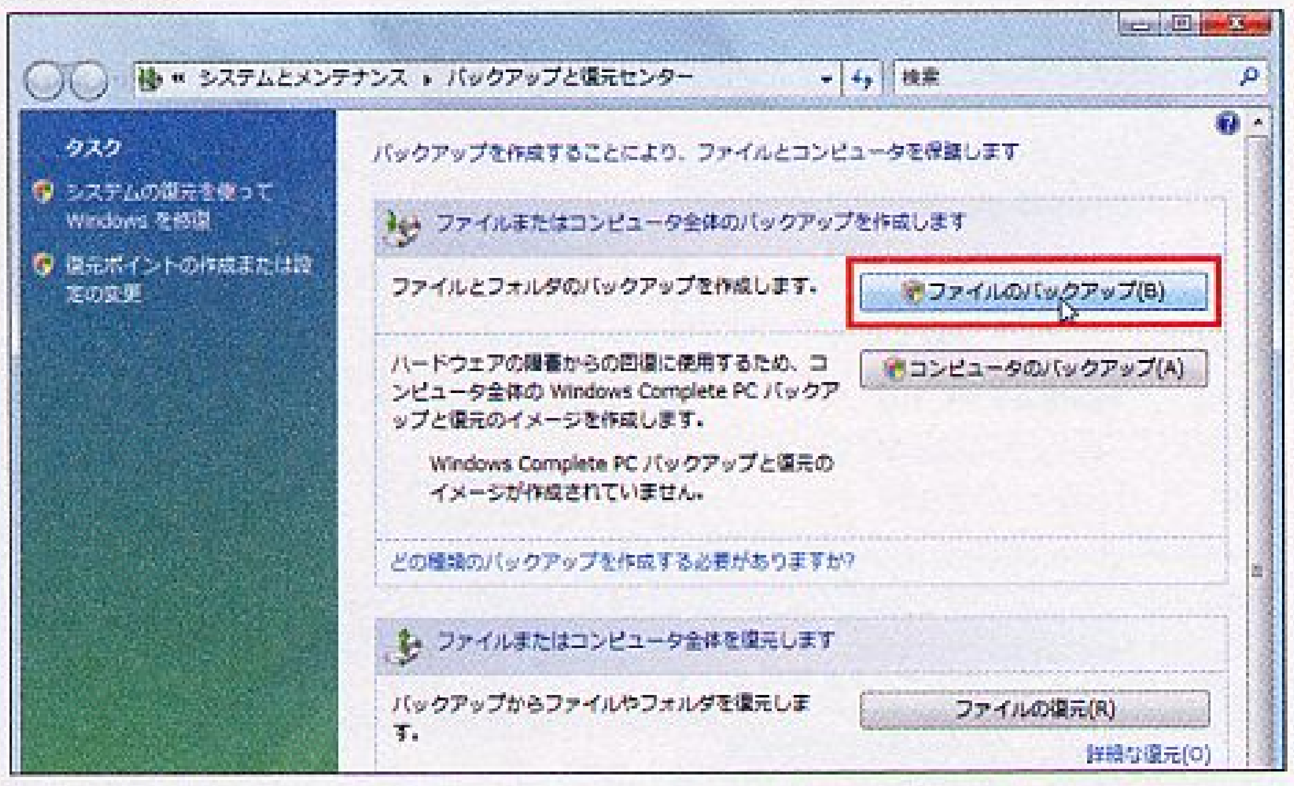
快適指数

効果 ●ファイルやフォルダが個別にバックアップできる
●システム全体のバックアップができる

Windows Vistaのバックアップ機能はXPから大幅に強化された。例えば、特定の種類のファイルだけを定期的にバックアップしておいて、好きなファイルを指定して復元することもできる。また、システムファイルを除くすべてのファイルをバックアップ対象にすることはもちろん、Office文書と画像ファイルだけをバックアップする、といったことなども可能だ。ハードディスクを丸ごとバックアップしたいときは「コンピュータのバックアップ」でバックアップ先に外付けハードディスクなどを選べばいい(対応エディションのみ)。

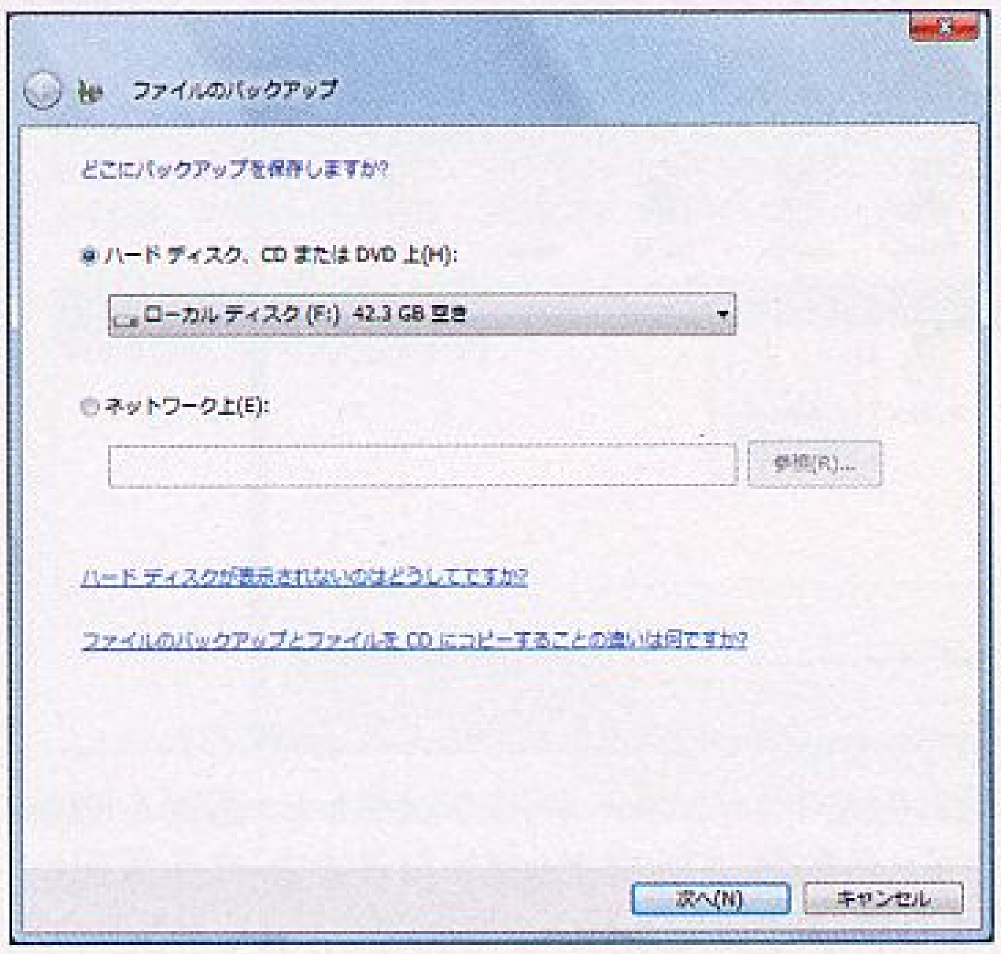
データをバックアップする

1 バックアップの開始



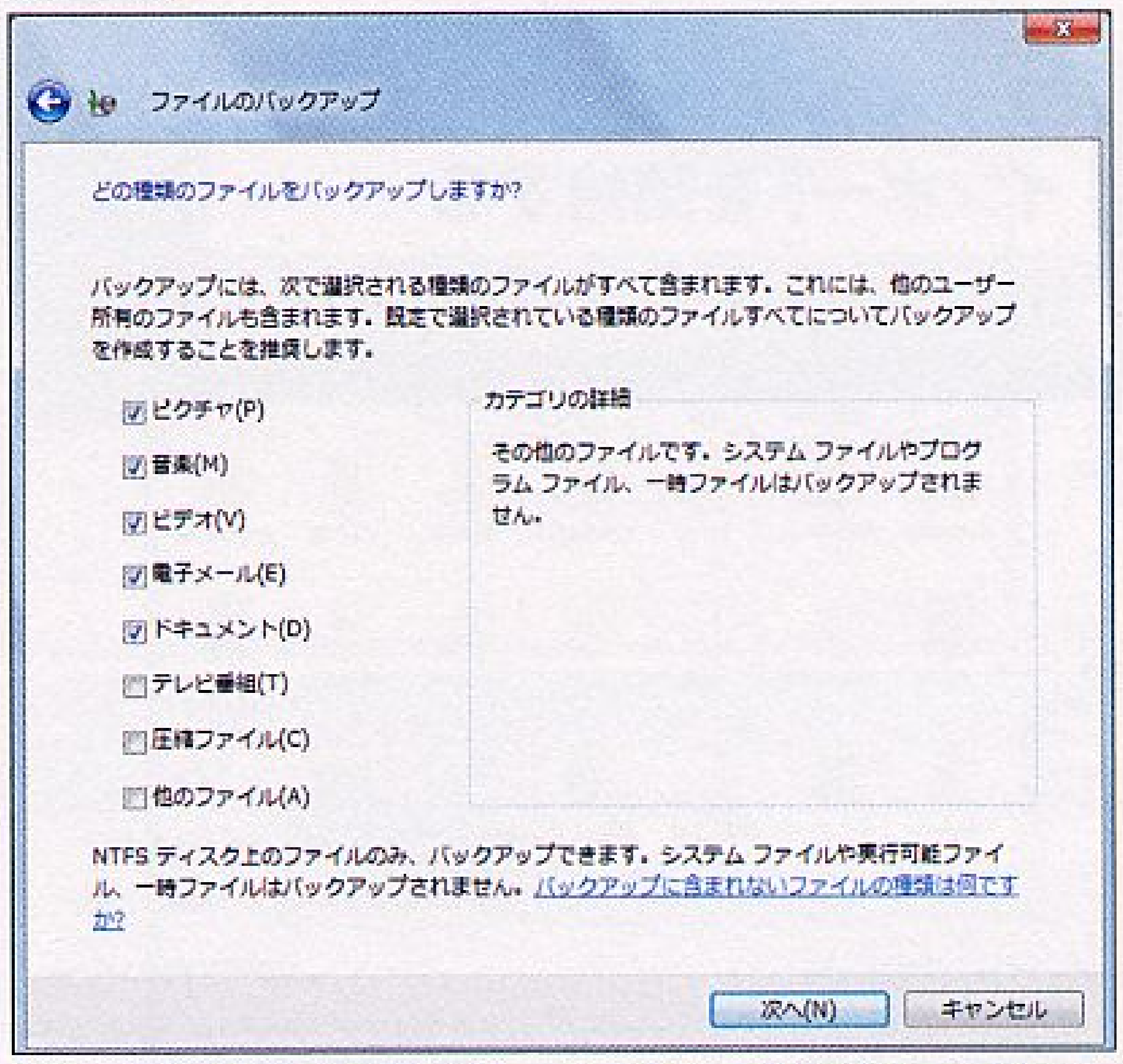
「スタート」メニューの「コントロールパネル」から「システムとメンテナンス」→「バックアップと復元センター」を選択。上の画面で「ファイルのバックアップ」をクリックする。2度目以降はすぐにバックアップが始まる(「Ultimate」「Enterprise」「Business」エディション以外では、「コンピュータのバックアップ」は表示されない)

2 保存先を選択する



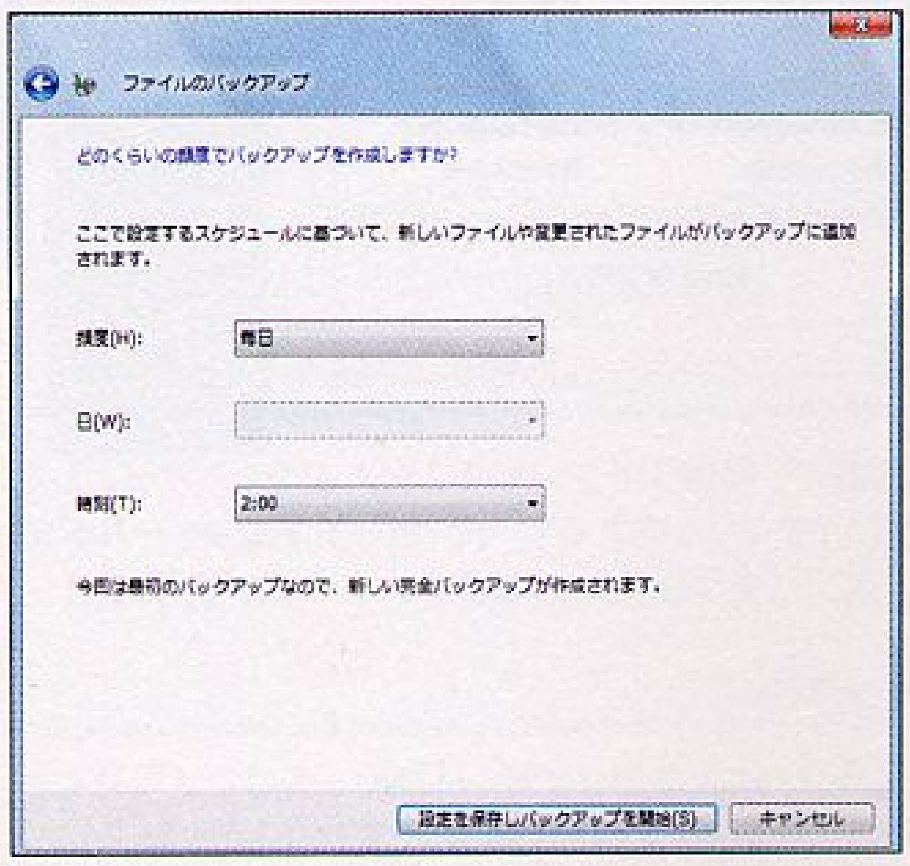
バックアップファイルの保存先をハードディスクやDVDなどのメディアから選択し、「次へ」をクリック

3 バックアップしたいファイルの種類を選択する



ドライブが複数ある場合は、バックアップするドライブにチェックを入れて選択する。システムが入ったドライブは必ずチェックされる。次に進みバックアップするファイルの種類を選択。不要なファイルの種類からはチェックを外しておこう

4 バックアップ頻度の設定



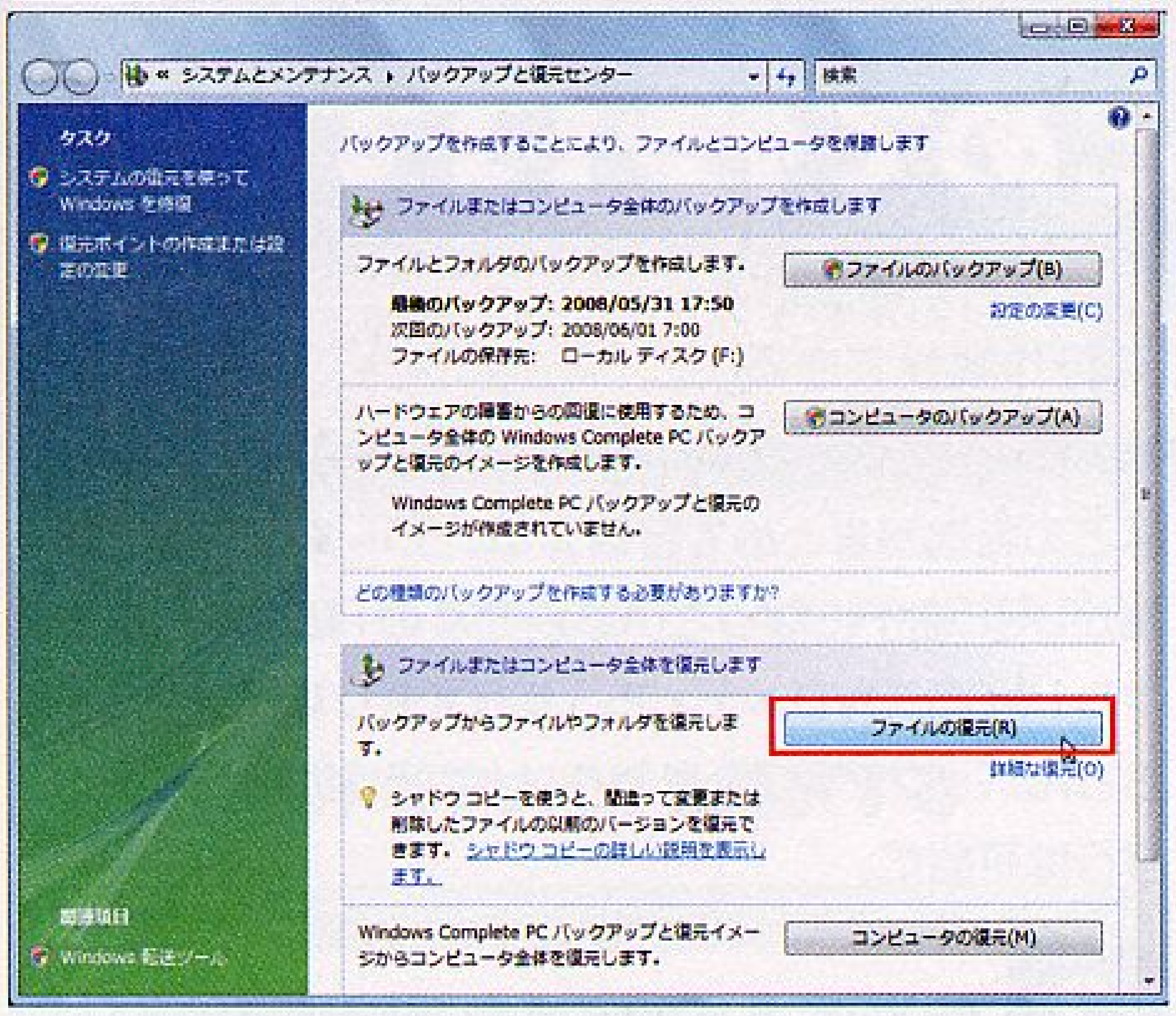
指定したデータのバックアップを行なう頻度や時刻を設定する。作業の邪魔にならないようパソコンを使わない時間に設定しよう。この設定はあとから変更することも可能

ワンポイント 丸ごとバックアップするには

手順 1 で「コンピュータのバックアップ」をクリックし、「Windows Complete PC バックアップ」を実行すればハードディスクを丸ごとバックアップできる。ただし、Home BasicとHome Premiumは非対応。

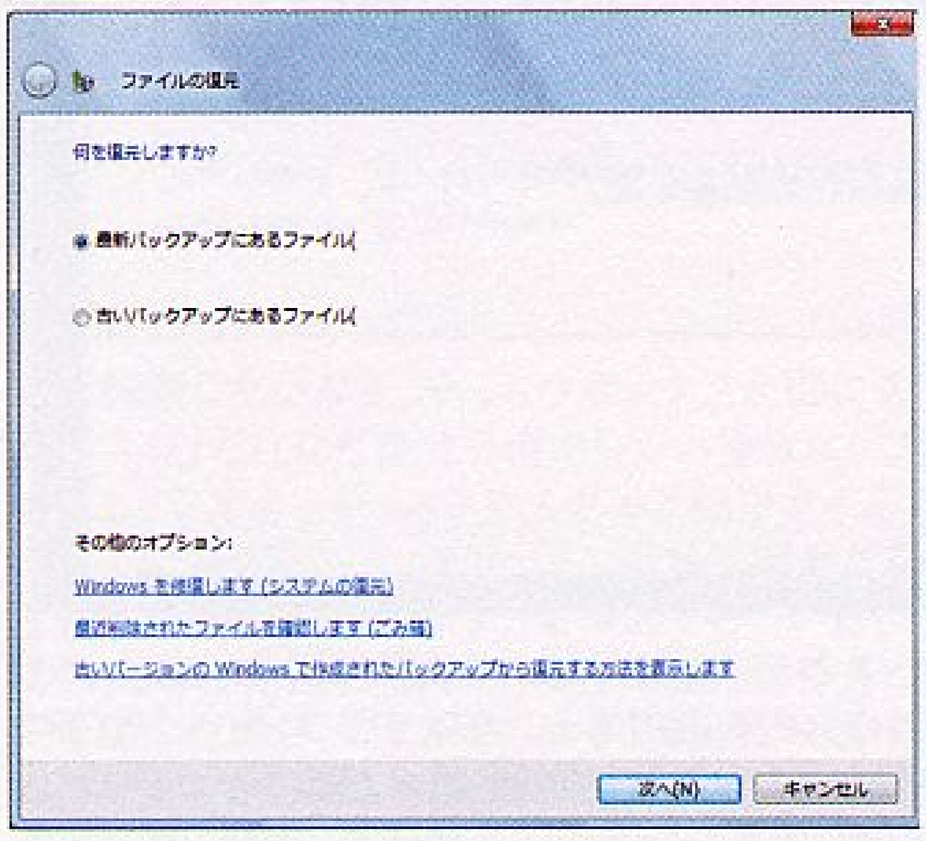
データをリカバリする

1 ファイルの復元を開始する



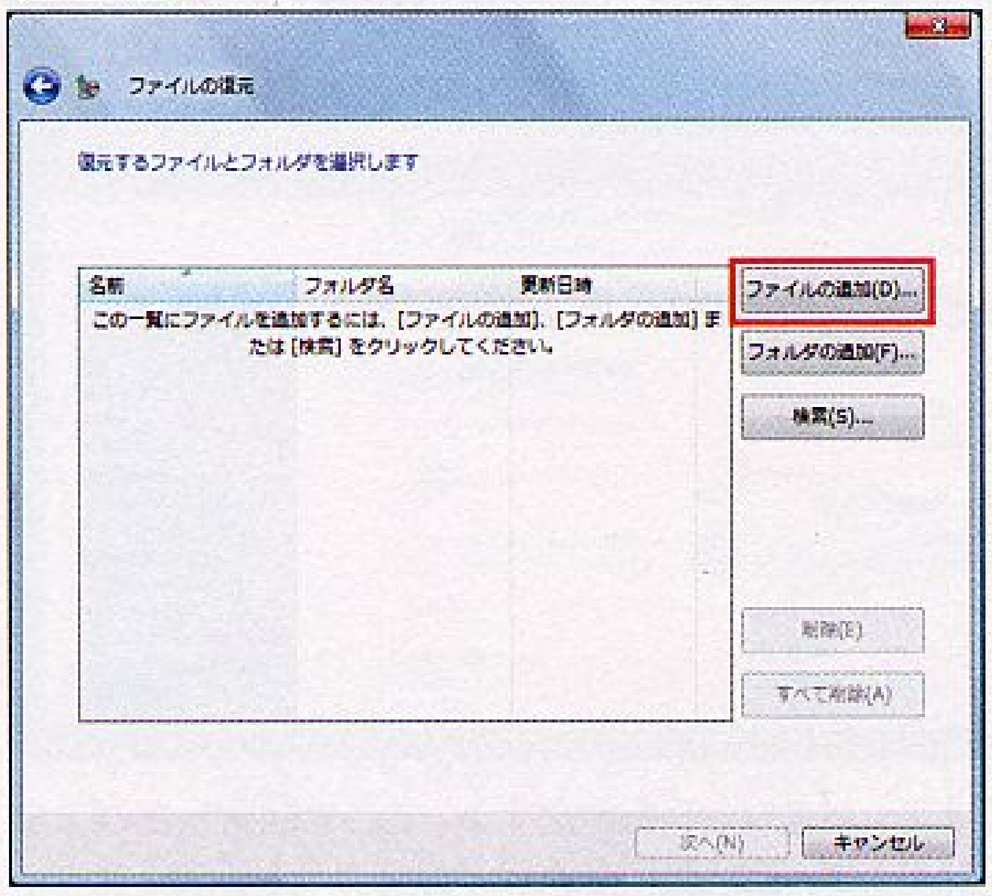
「スタート」メニューの「コントロールパネル」から「システムとメンテナンス」→「バックアップと復元センター」を選択し、「ファイルの復元」をクリックする

2 バックアップファイルを選択する



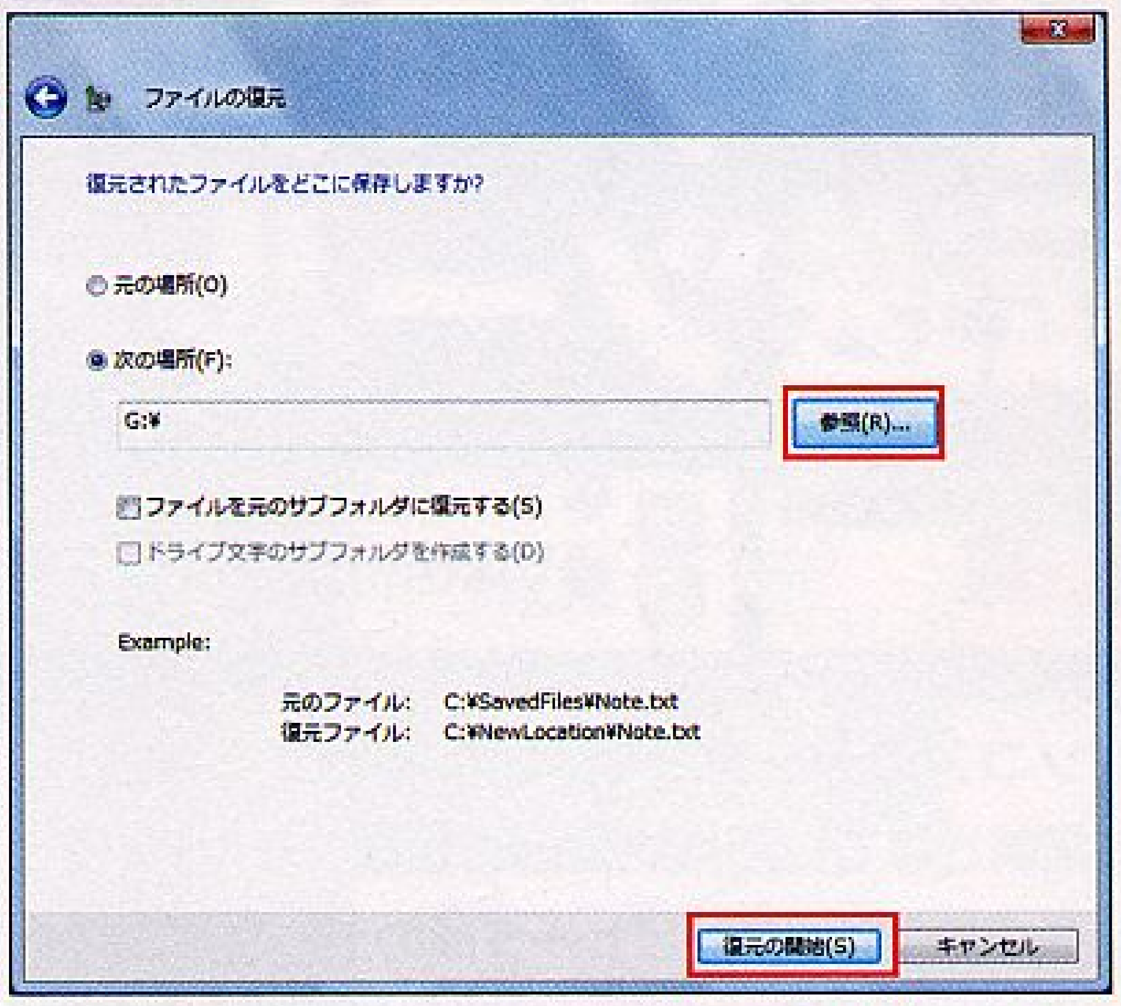
最新のバックアップから復元するか、過去のバックアップから復元するかを選択し、「次へ」をクリック

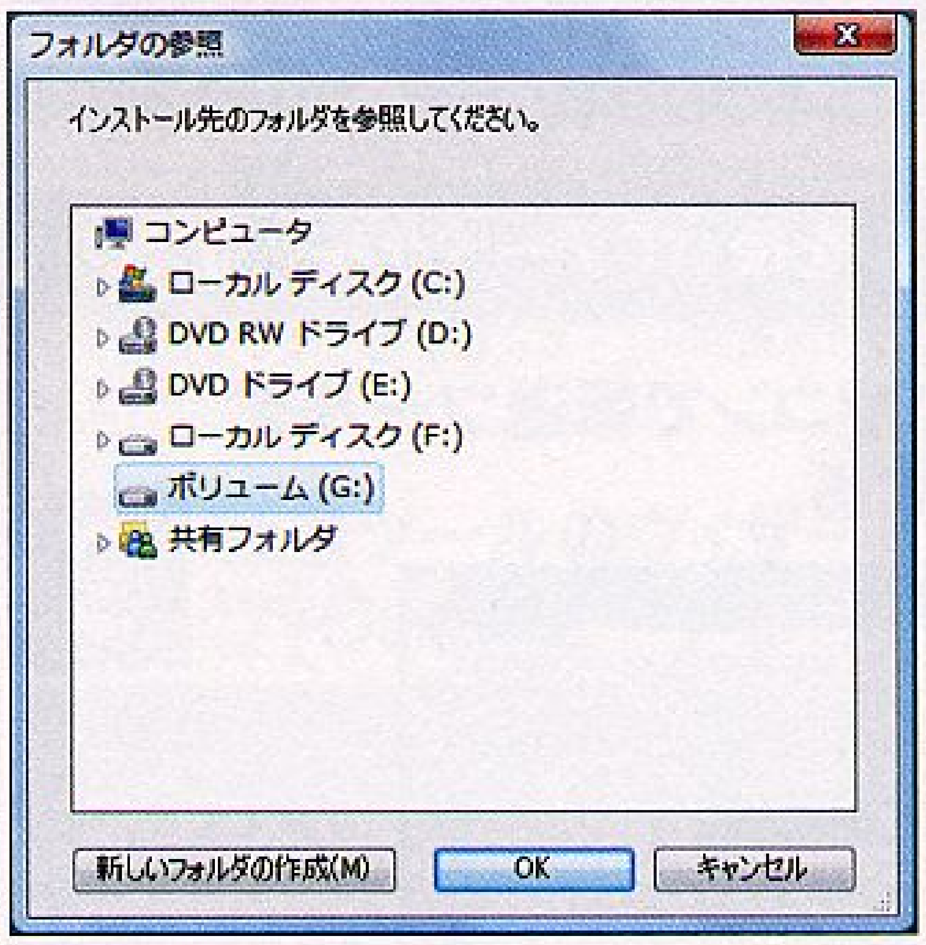
3 復元するファイルを指定する



「ファイルの追加」もしくは「フォルダの追加」をクリックして、バックアップから復元したいデータを選び、「次へ」をクリック

4 復元場所を指定して復元する



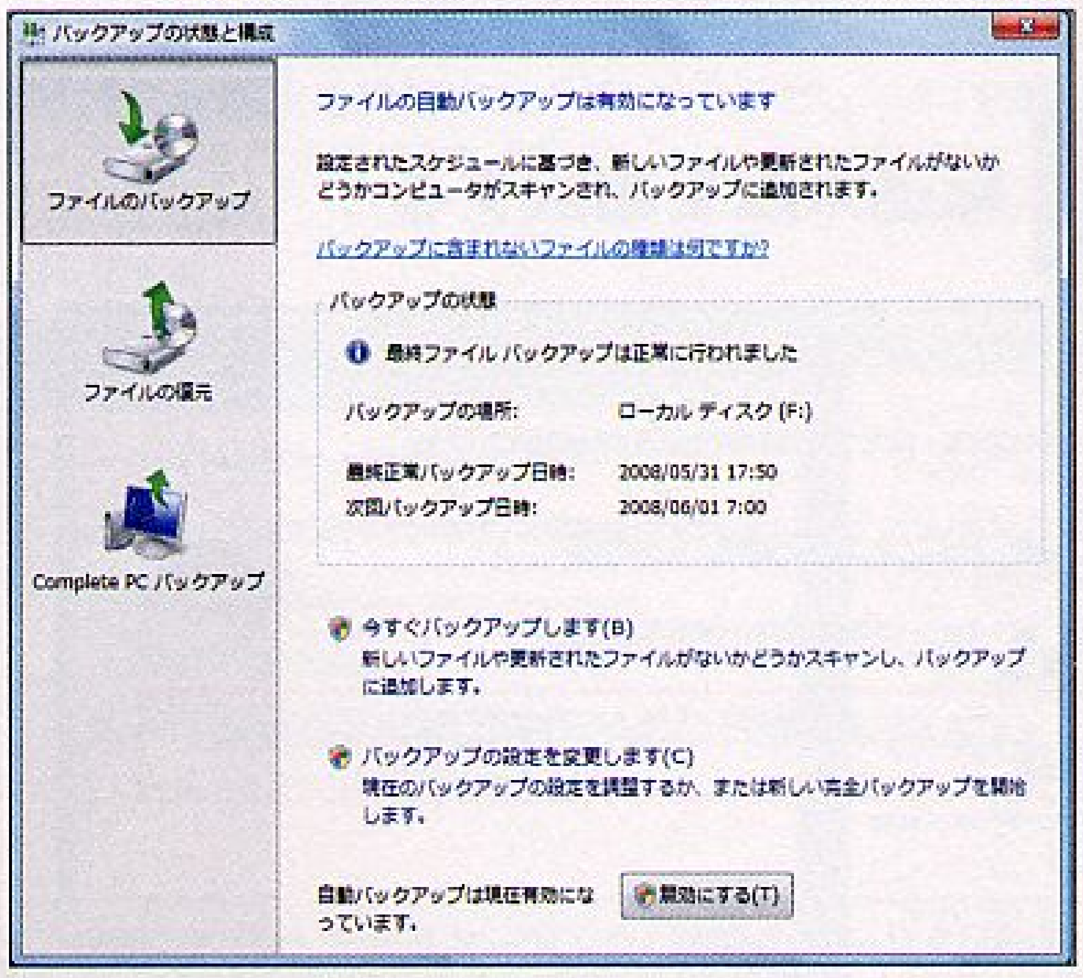


「次の場所」にチェックを入れて、「参照」ボタンからファイルを復元したい場所を選択する。「復元の開始」ボタンをクリックすると、復元が始まる

もっと快適!! テクニック

自動バックアップの設定変更

バックアップを一度設定すると定期的に行なわれるようになる。この設定を変えたい場合は、「スタート」メニューの「コントロールパネル」から「システムとメンテナンス」→「バックアップと復元センター」→「設定の変更」を選び、「バックアップの状態と構成」で設定しよう。



「バックアップの状態と構成」では、自動バックアップの有効・無効の切り替えなどの設定ができる

ワンポイント
バックアップできない項目

Windowsのバックアップ機能では、暗号化されたファイル、システムファイル、プログラムファイル、一時ファイル、ユーザープロファイル、ごみ箱のファイルなどはバックアップできない。

難易度 普

旧パソコンのデータを転送ツールでまとめて移行する

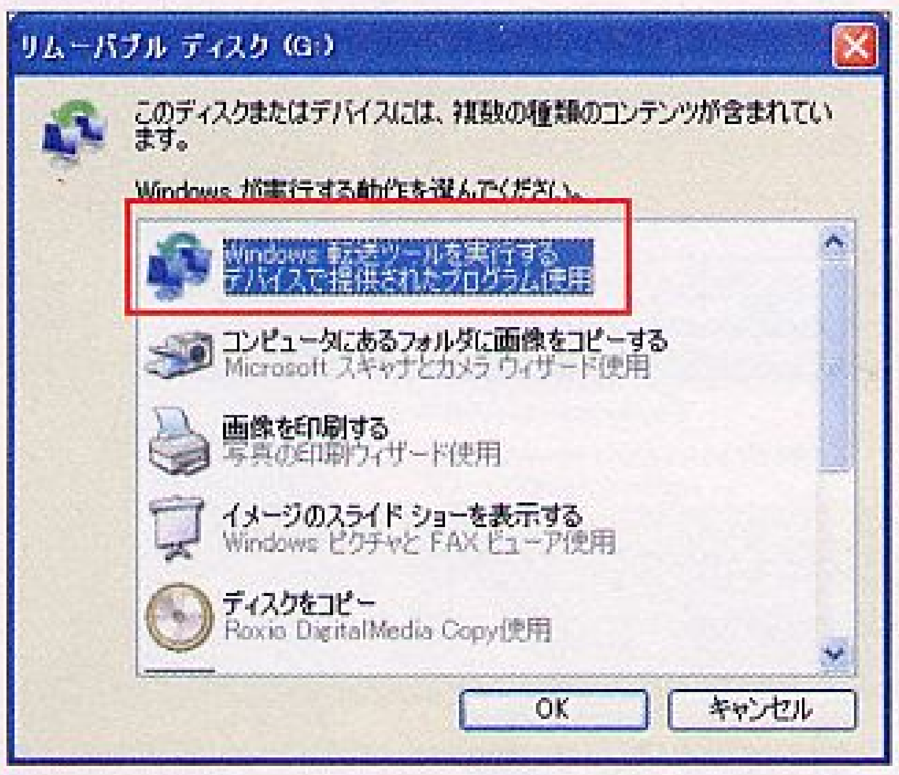
快適指数

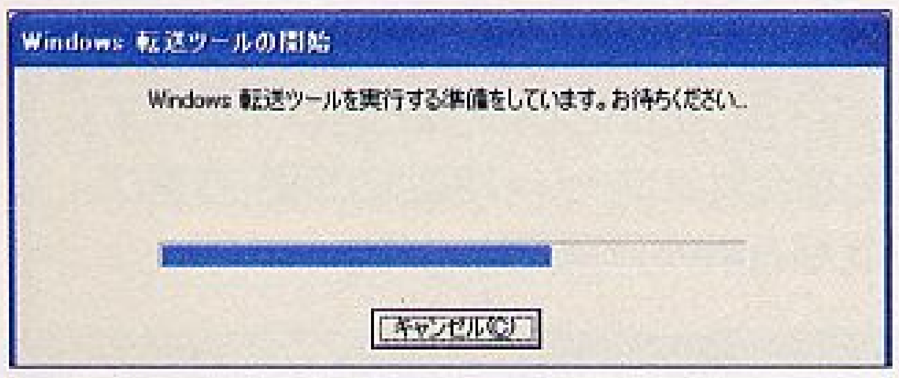
効果
●メールやお気に入りデータをXPから引き継げる
●Vista付属のソフトで簡単に移行作業ができる

XPパソコンのデータをVistaに移行する場合は、Vistaに搭載されている「Windows転送ツール」を使うと便利。この機能は、コンピュータ間のデータ移動のためのツールで、ウィザードにしたがうだけでユーザー情報(アカウント含む)やプログラム設定、ファイルデータなどの転送がまとめて行なえる。データの転送には両端がUSB端子になっている別売りの「転送ツールケーブル」やCD/DVDメディア、USBメモリなどを使う。もちろんバックアップとリカバリという、従来の方法でも移行は可能だ。

転送ツールを使ってデータを移行する

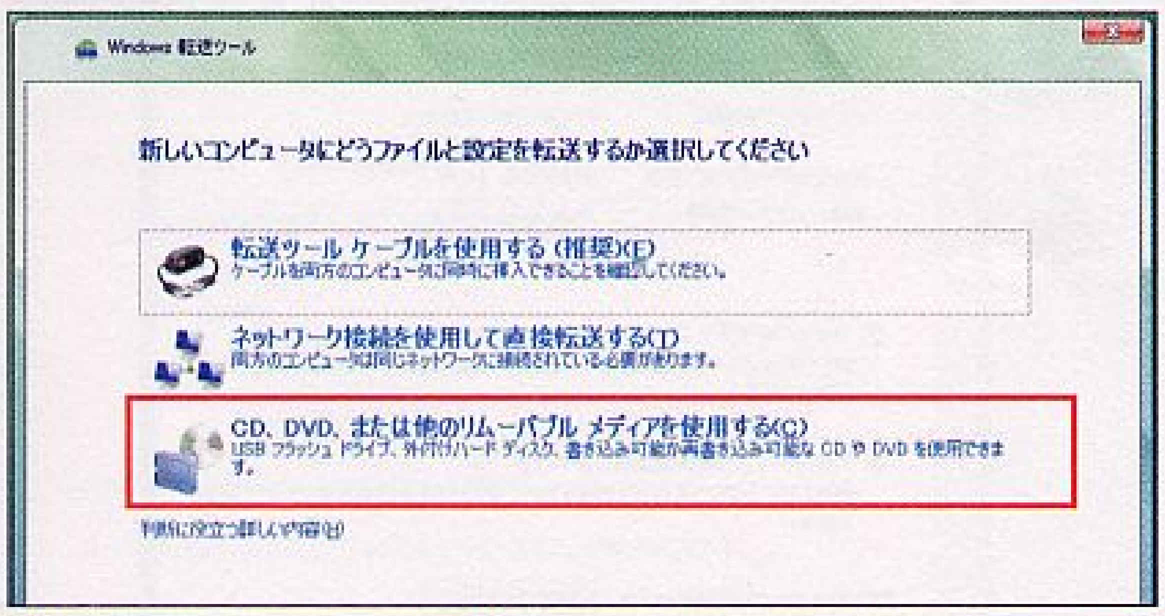
1 XPパソコンで転送ツールを起動する





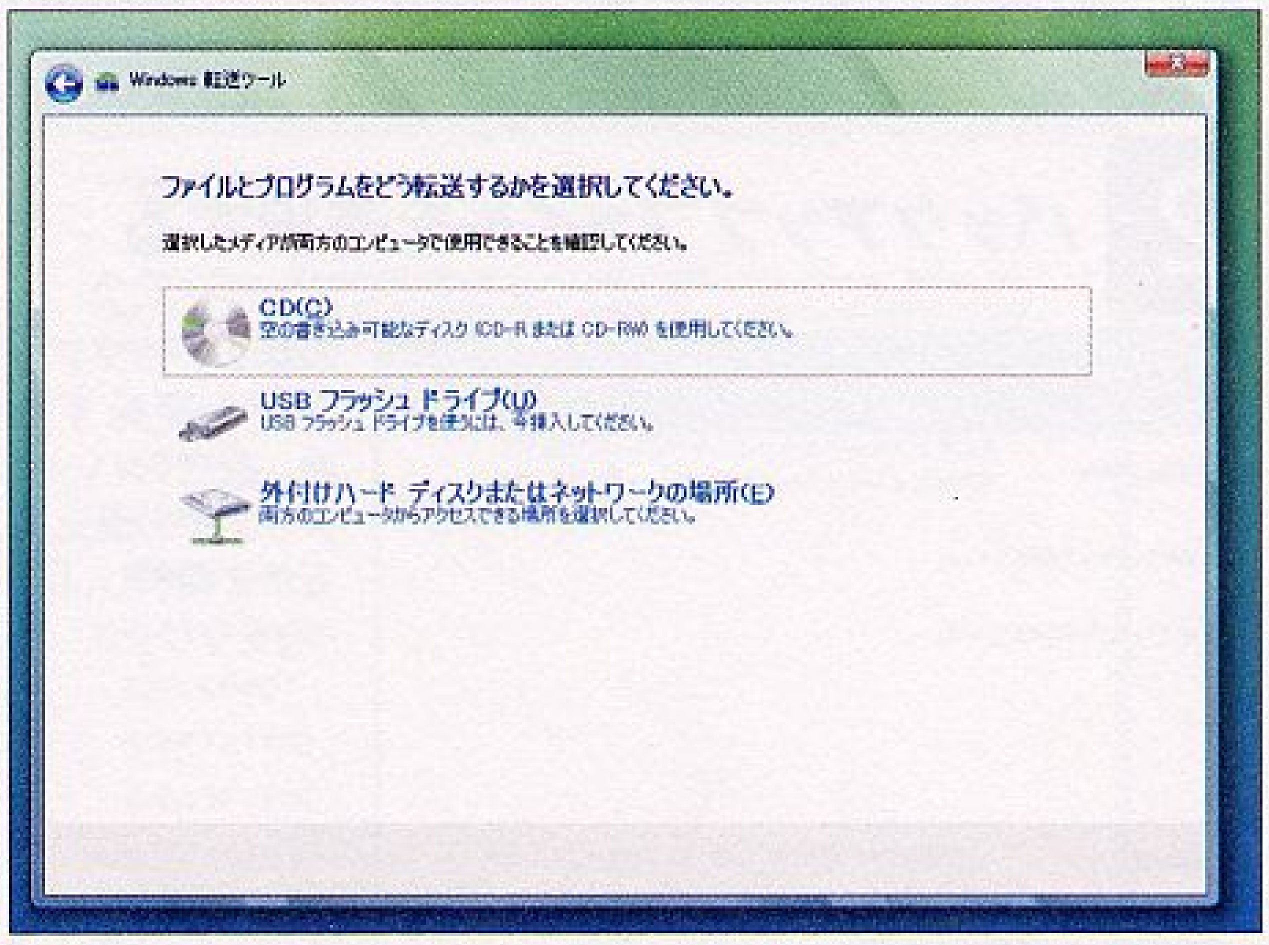
転送したいデータが入っているXPパソコンにVistaのセットアップディスクを挿入する。Vistaのセットアップディスクがない場合は、次ページ「転送用ディスクを作成する」の手順であらかじめXPに転送ツールをコピーするディスクを作成しておくこと。「Windows転送ツールを実行する」を選択すれば転送ツールの準備が始まる

2 転送方法を選択する

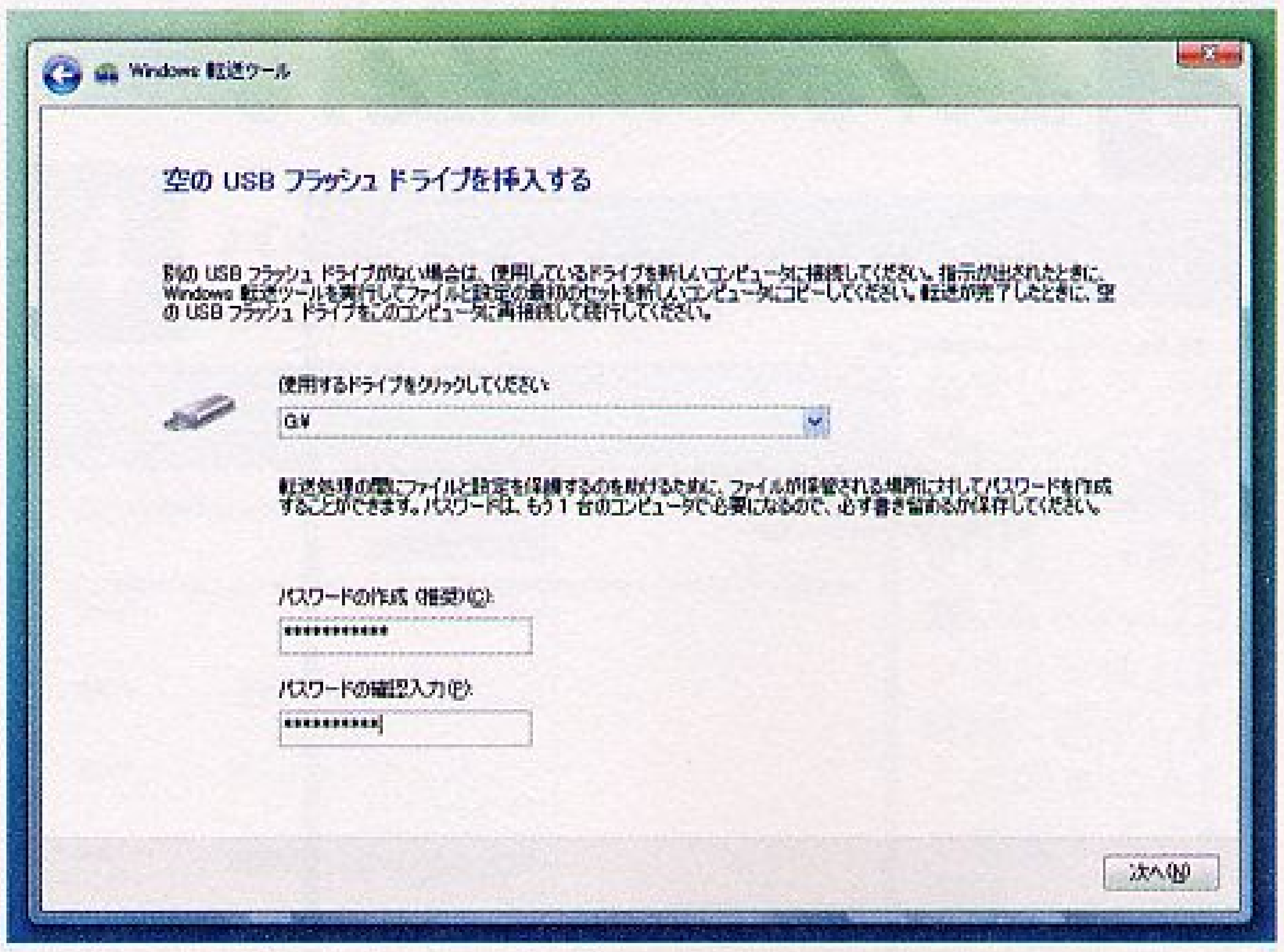


「Windows転送ツールの開始」ウィザードが始まるので、指示に沿って進める。ネットワーク接続が利用できるなら、直接転送を選び、そうでなければ外部記憶メディアか転送ツールケーブルを選択しよう。ここでは外部記憶メディアを使う方法を選択した

3 転送するメディアを選択する



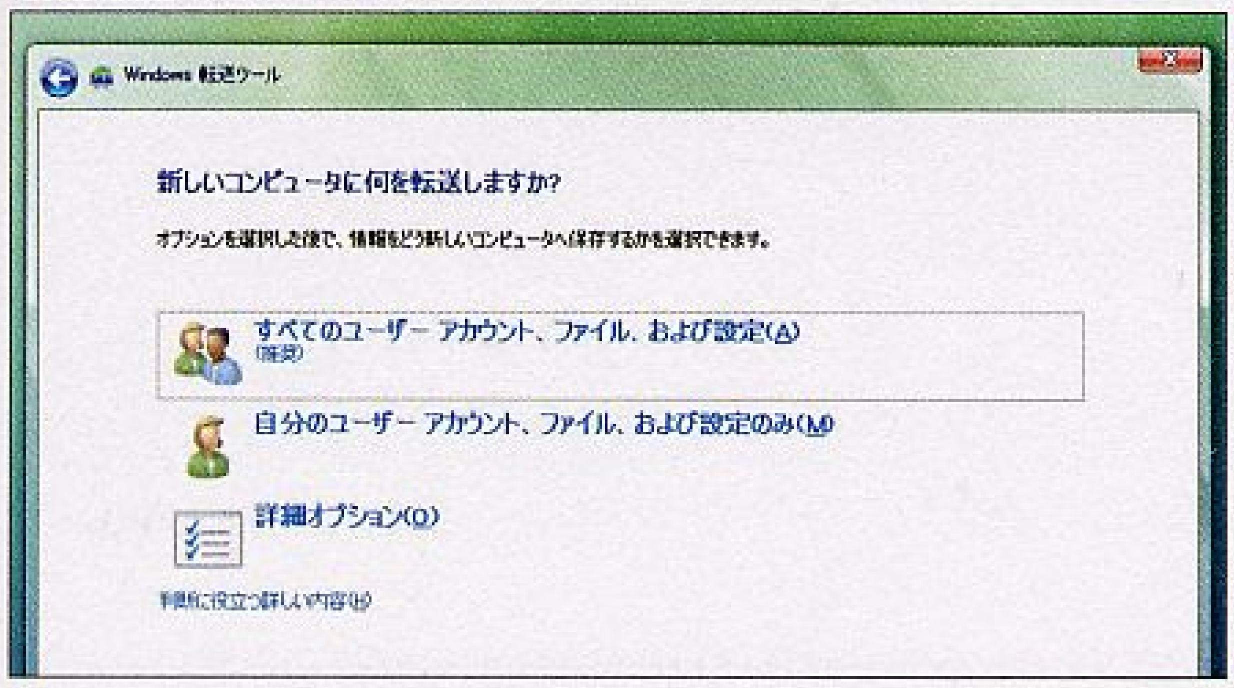
「CD」「USBフラッシュドライブ」「外付けハードディスクまたはネットワークの場所」から好きなものを選択する。転送するファイルが1GBを超えるような大容量になるなら「CD」以外を選んだほうがいい



セキュリティを考えて、パスワードを設定する。ここで設定したパスワードは、転送先のパソコンで必要になるので必ずメモしておこう

ワンポイント 転送ツールケーブルを使う
パソコン同士を「転送ツールケーブル」でつなぎ、データの転送を行なう。USBケーブルであるためネットワーク経由より高速に転送が行なえるメリットがある。転送ツールケーブルは周辺機器メーカーから発売されている。

4 転送するアカウントを選択する



Vistaパソコンに何を転送するかを選択する。アカウントを複数登録していたなら「すべてのユーザー～」を選択する。自分ひとりしかユーザーがいなかったなら、「自分のユーザーアカウント～」を選択する

5 転送するファイルを選択する

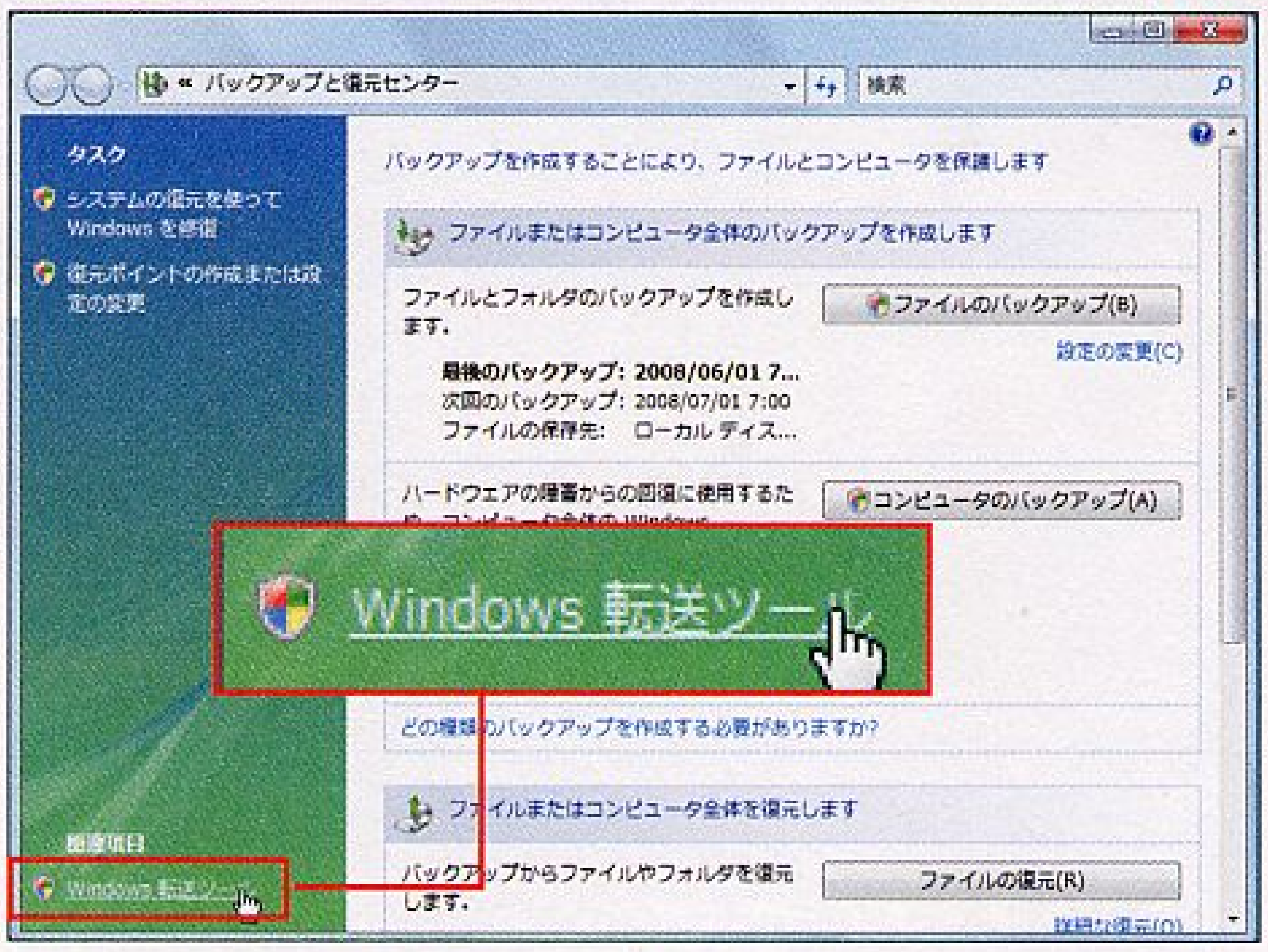
全て転送したいなら、チェックボックス全部にチェックを入れる。「お気に入り」だけなど自分で指定したい場合は、コピーしたいものだけをチェックする。チェックを入れると転送サイズの合計が出て、必要なディスクの数やバックアップに必要な容量が表示されるので、これを見てから転送するメディアを決めてもいいだろう。設定後は「次へ」をクリック。転送が開始される。転送の保存先として外部記憶メディアを選んだ場合、コピーしているとき容量が足りなくなっても、追加すればいい。その際、Vista側で順番どおりに外部記憶メディアを挿入するため、追加した順番を間違えないように書いておこう

6 Vistaにデータを転送する

ファイルを転送した外部記憶メディアをVistaパソコンに差し、「スタート」メニューの「コンピュータ」を開く。リムーバブルメディアが表示されているので右クリックして「Windows転送ツールを実行する」をクリックすれば、自動的に転送ウィザードが始まる。ウィザードに沿って転送を進めよう

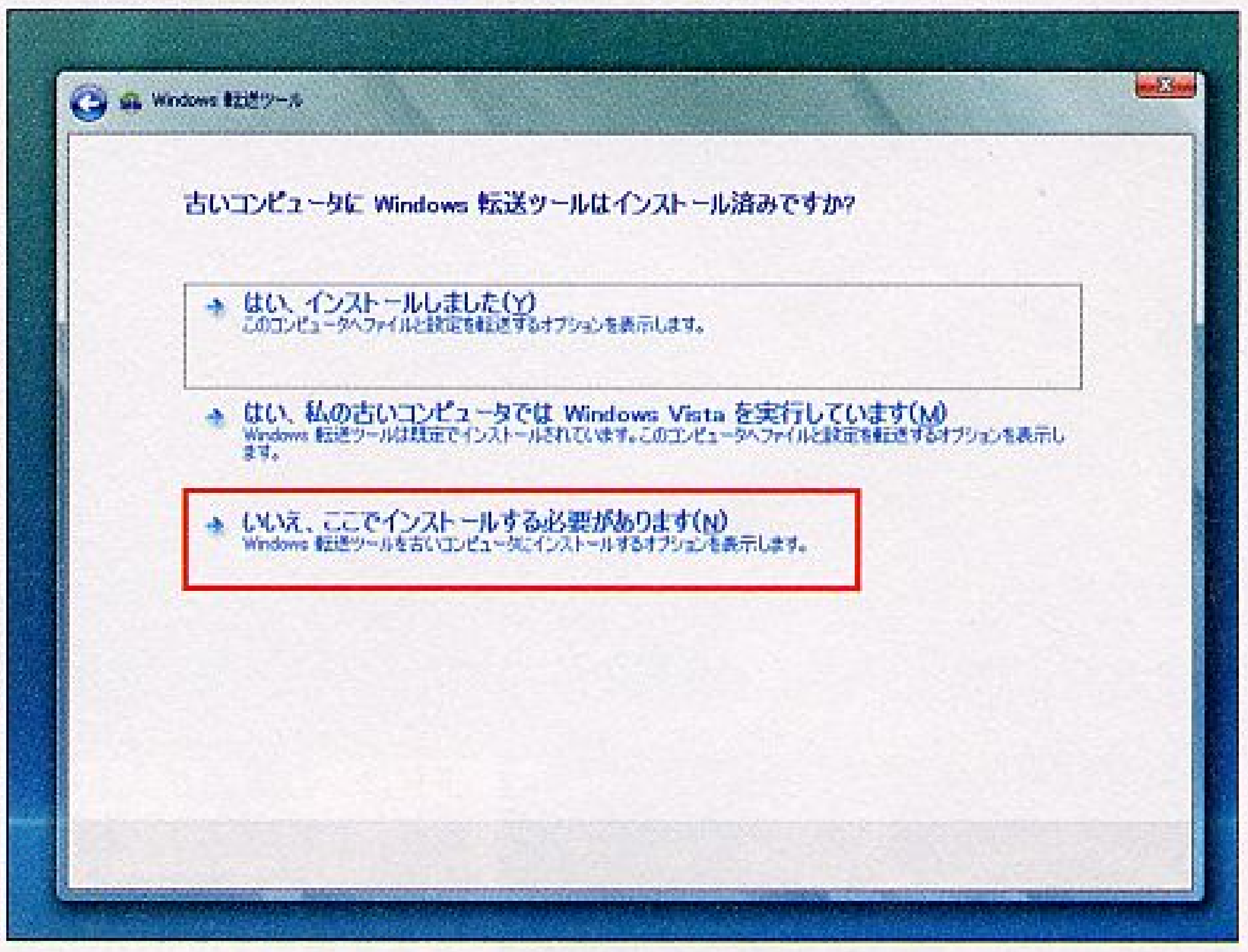
Vistaのセットアップディスクがない場合

1 転送ツールを起動する

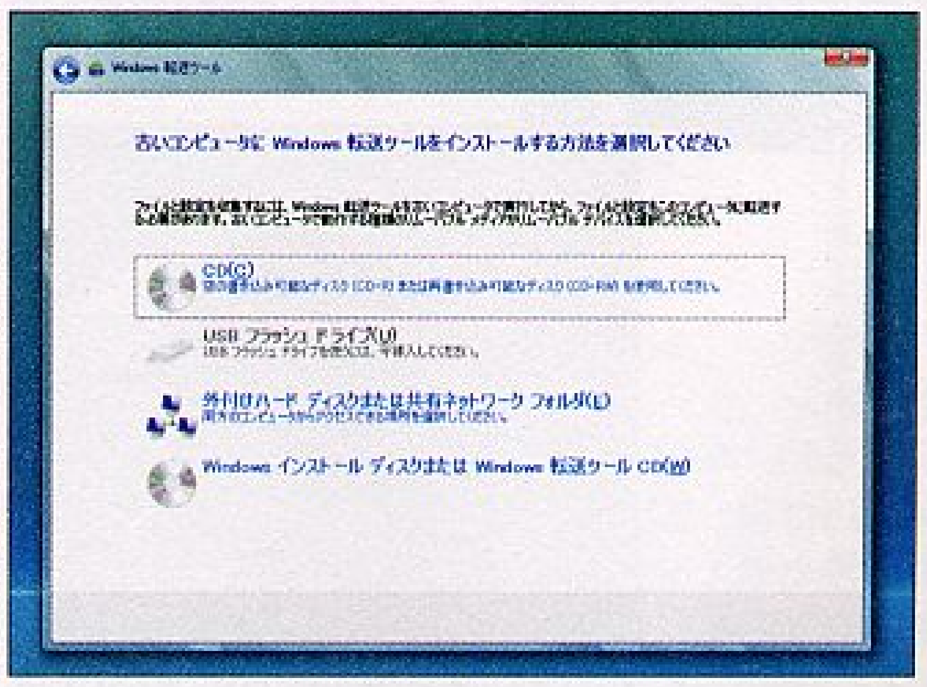


転送ツールがXPに入っていない場合、またはVistaのセットアップディスクがない場合は、Vistaで転送用のディスクを作成できる。「スタート」メニューから「コントロールパネル」→「システムとメンテナンス」→「バックアップと復元センター」→関連項目の「Windows転送ツール」をクリックする

2 転送ツールのウィザードでツールをコピーする



「転送ツール」が開始される。「次へ」をクリックするとウィザードが始まるので、新しい転送を開始する。「新しいコンピュータ」を選択し、転送ケーブルの有無を求められるので、「いいえ～」をクリックする。この画面になったら「いいえ、ここでインストールする必要があります」をクリックする



転送ツールをインストールする方法を選択しよう。CDやUSBメモリなどの外部メディアでもいいし、ネットワーク上のパソコンにコピーしてもいい。コピーが終了したら、それをXPで起動させればOKだ

ワンポイント
転送方法の選び方

DVDは1層で4.7GB、2層だと8.5GBと大容量なため、転送データの保存先として便利だ。また、外付けハードディスクや大容量の携帯音楽プレイヤーなら一度に大容量の転送を行なうことも可能だ。

難易度 難

Vistaが突然正常に起動しなくなってしまった

快適指数

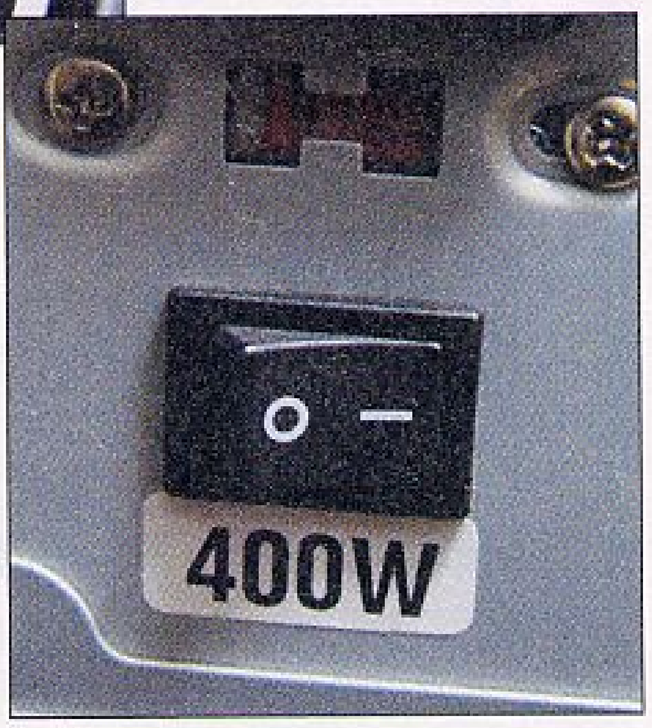
解決
- ●問題を段階ごとに切り分ければ解決方法が見つかりやすい
- ●シンプルな機器構成にすると起動しやすくなる

パソコンの「起動しない」という症状にはいくつかパターンがある。まずはその「起動しない状態」の見極めが肝心だ。例えば、電源が入らない状態なのか、電源は入っているけどパソコンが反応しないのか、パソコンの反応はあるけどWindowsの起動画面が出てこないのか、というように、ただ単に「起動しない」といっても症状はさまざま。また、症状によって解決方法も変わってくる。以下の症状の段階と自分の状況を照らし合わせて解決方法を探していこう。それでも起動できない場合はデータだけでも救出してみよう（151ページ参照）。

段階		解決方法
段階1 パソコンの電源が入らない	→	解決方法1 電源スイッチとケーブルの確認
段階2 パソコンの電源は入るが画面に何も映らない	→	解決方法2 モニタの接続と電源の確認
段階3 画面に何か映るが起動前に止まってしまう	→	解決方法3-1 周辺機器を外す 解決方法3-2 FDやCD/DVDを抜く
段階4 Windowsが起動中に再起動してしまう	→	解決方法4-1 「コンピュータの修復」を実行 解決方法4-2 「セーフモード」で修復する

解決方法1：電源スイッチとケーブルの確認

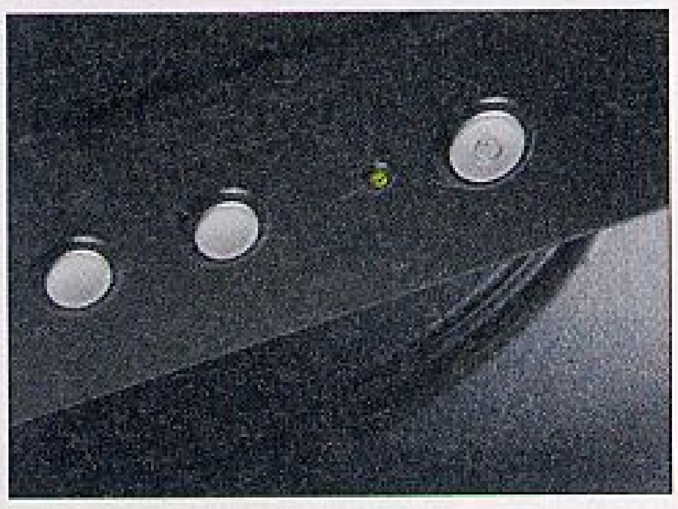
パソコンの電源が入らない場合、まずパソコン本体の電源ランプを確認する。ランプが点灯していなければ、電源が供給されていないということ。電源ケーブルがきちんと差し込まれているか確認する。次に電源タップにケーブルがきちんとつながっているかを確認する



さらにパソコン本体のオン／オフスイッチが「オン」になっているかを確認する。パソコンに付属している電源ケーブルの故障も考えられるので、予備があるなら交換してみよう。それでもダメならハードウェアの故障が考えられるので、修理の必要がある

解決方法2：モニタの接続と電源の確認

パソコンの電源は入るが画面に何も表示されない、という場合はモニタの電源ケーブルがきちんと差し込まれているか確認しよう。次に、パソコン側としっかり接続されているかをチェックしよう

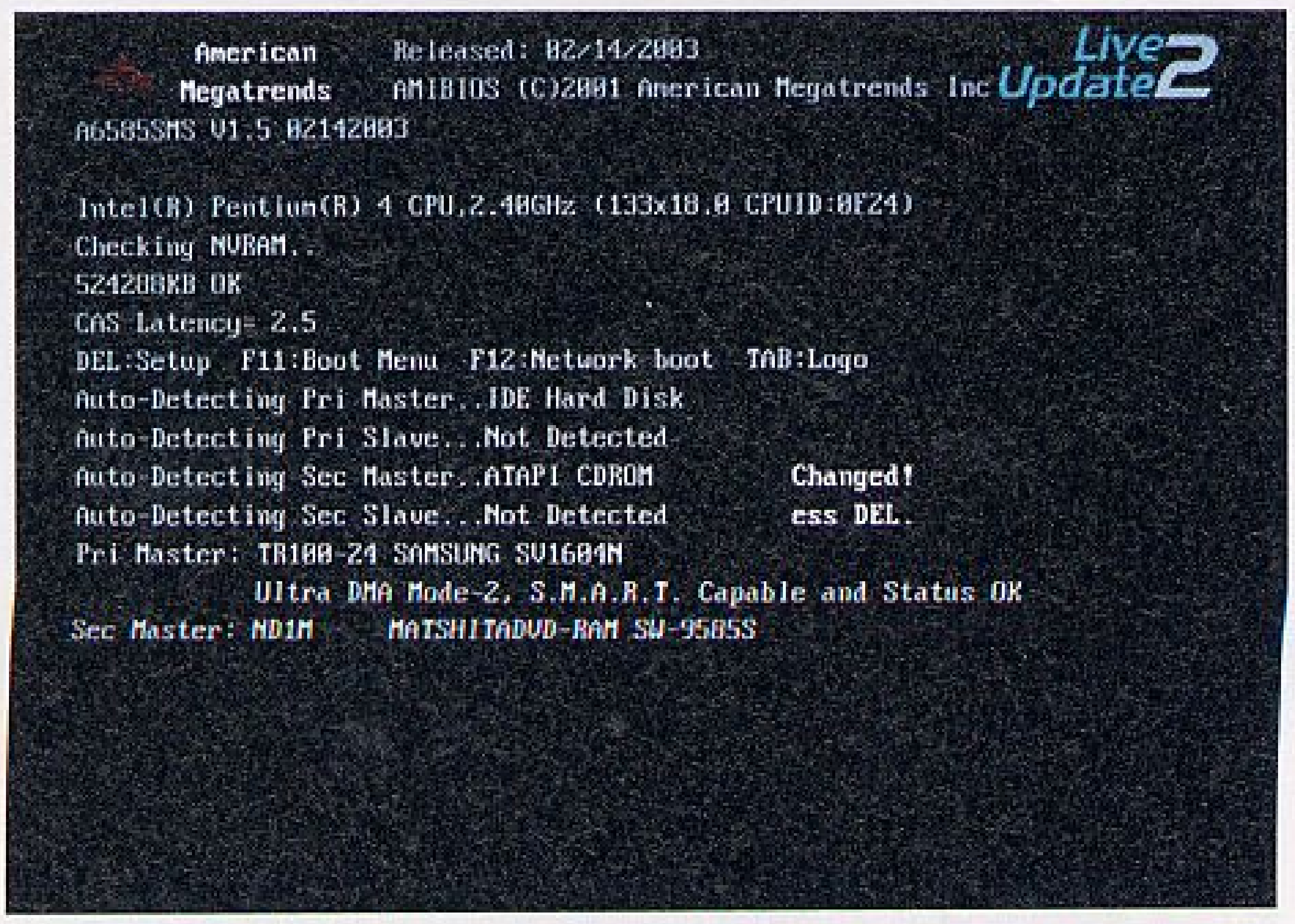


さらにモニタの電源ランプが点灯しているかを確認しよう。パソコンとモニタの電源を入れたとき、ランプが点灯しなければモニタの故障が考えられ、点灯しても「省電力状態」色の場合はパソコン側のトラブルが考えられる

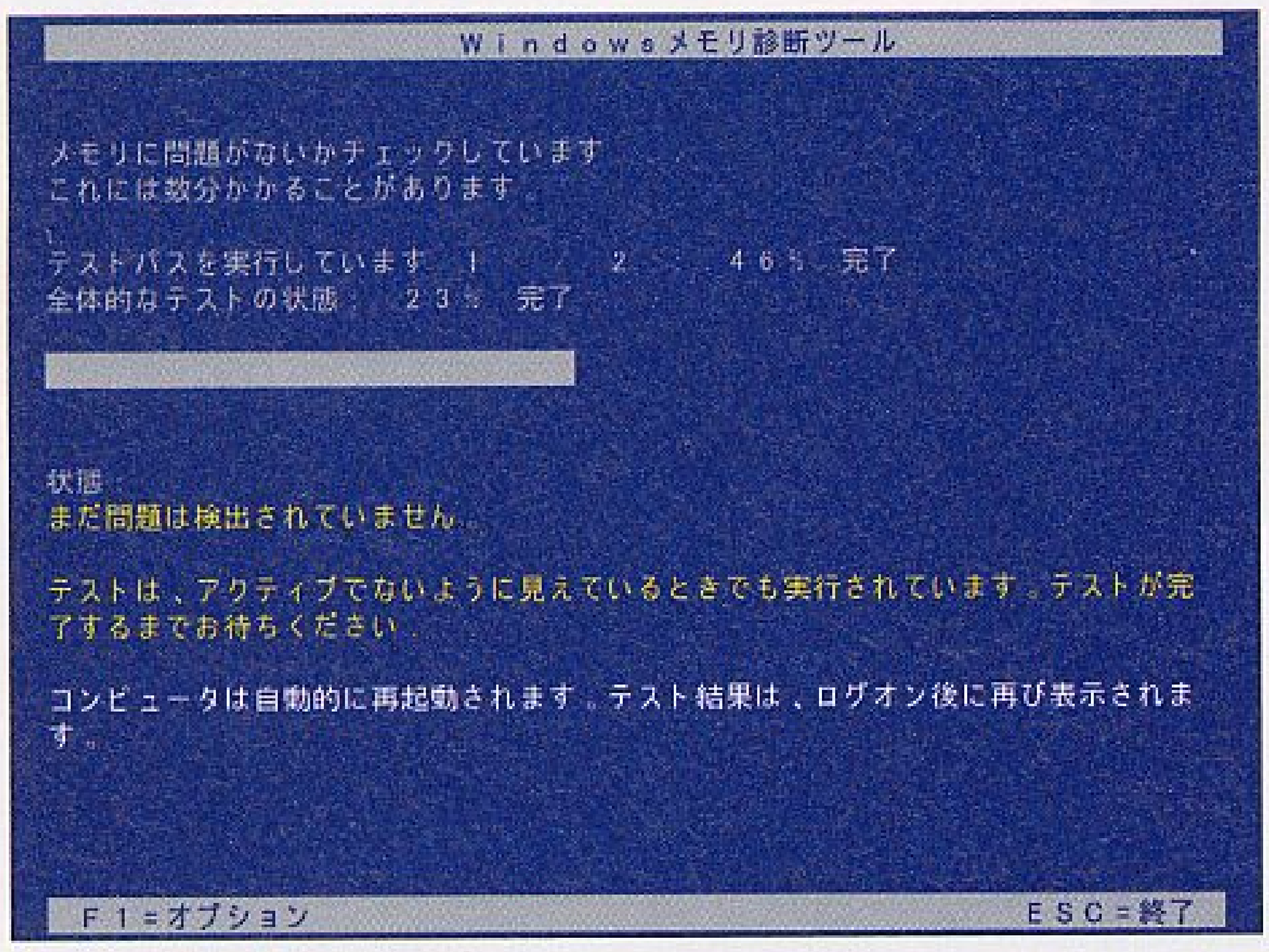
ワンポイント モニタの電源ランプ

パソコンからの映像信号が届いている状態と、届いていない状態（省電力状態）で色が異なることがあるので、説明書を参照しよう。パソコンにトラブルがあれば、映像信号が届かないので省電力状態になる。

解決方法3-1：周辺機器を外す

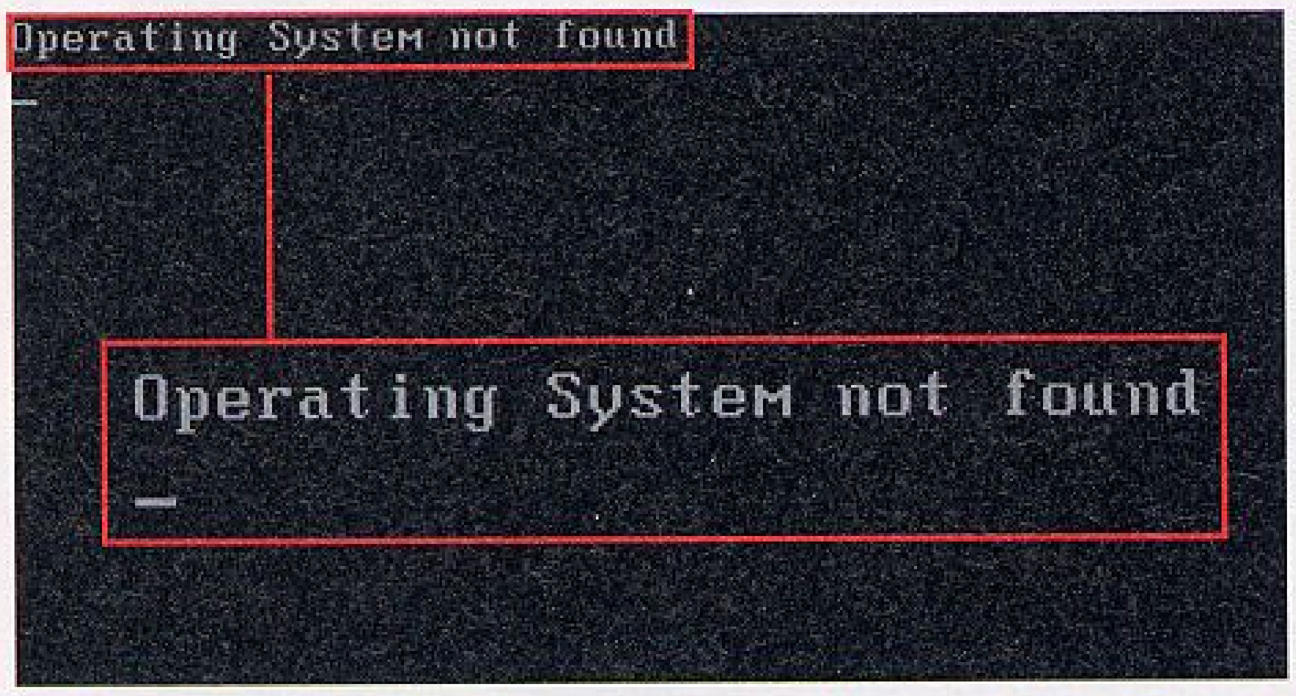


パソコンの電源が入り、メーカーのロゴやBIOS画面（上図）が表示されるものの、その途中で動作が停止してまうような場合には、周辺機器の問題を疑おう。周辺機器をすべて外して再起動してみよう。また、中を開けられるタイプのパソコンであれば、ドライブ、増設したメモリ、テレビキャプチャボードなどの接続もはずして再起動してみる（わからなければやらないこと）。それでもダメならモニタ、パソコンの故障が考えられるので、修理の必要がある



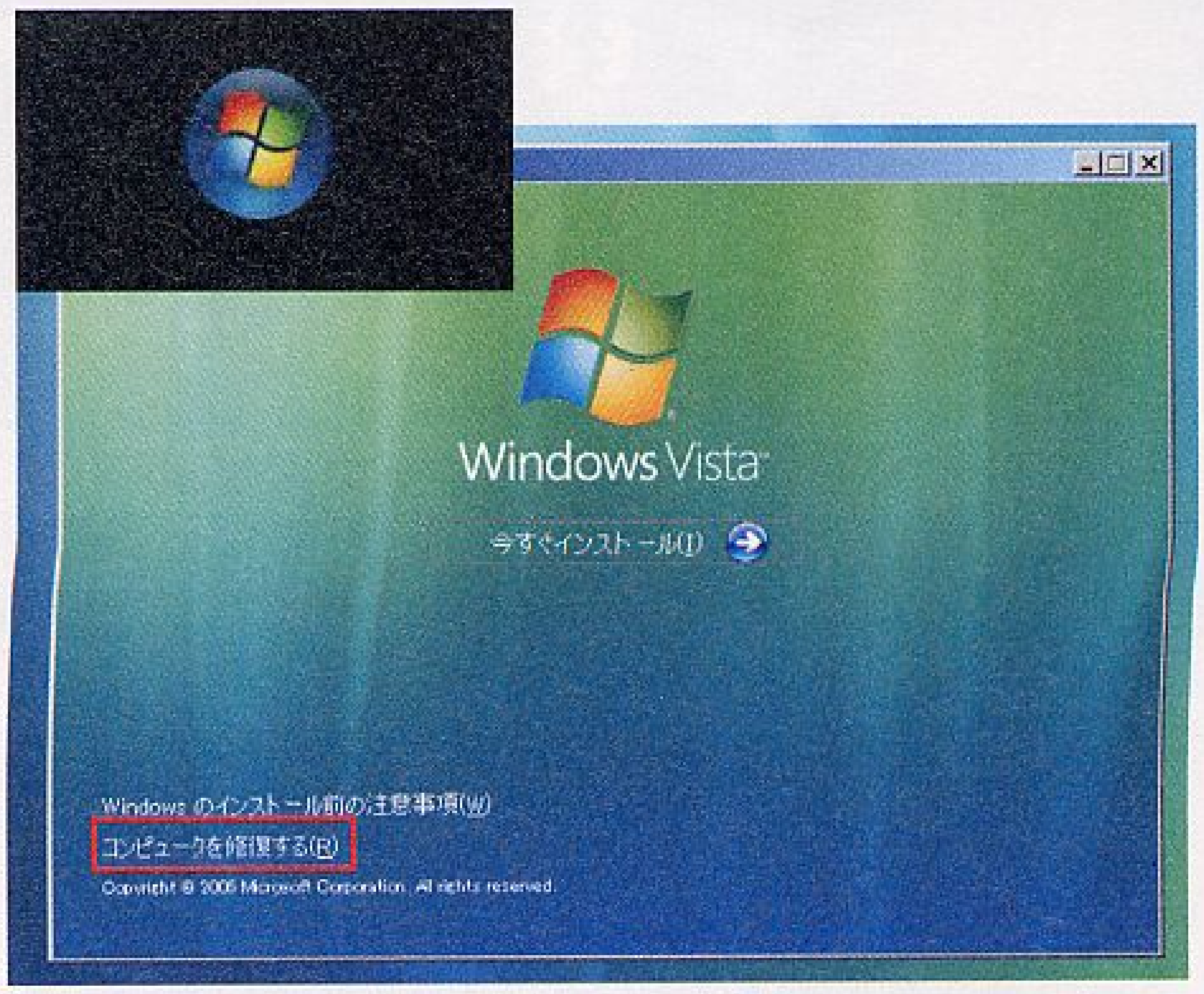
115ページを参照して、Vistaのセットアップディスクからのメモリ診断を行なってみよう。メモリに問題があれば発見できる可能性がある

解決方法3-2：FDやCD/DVDを抜く



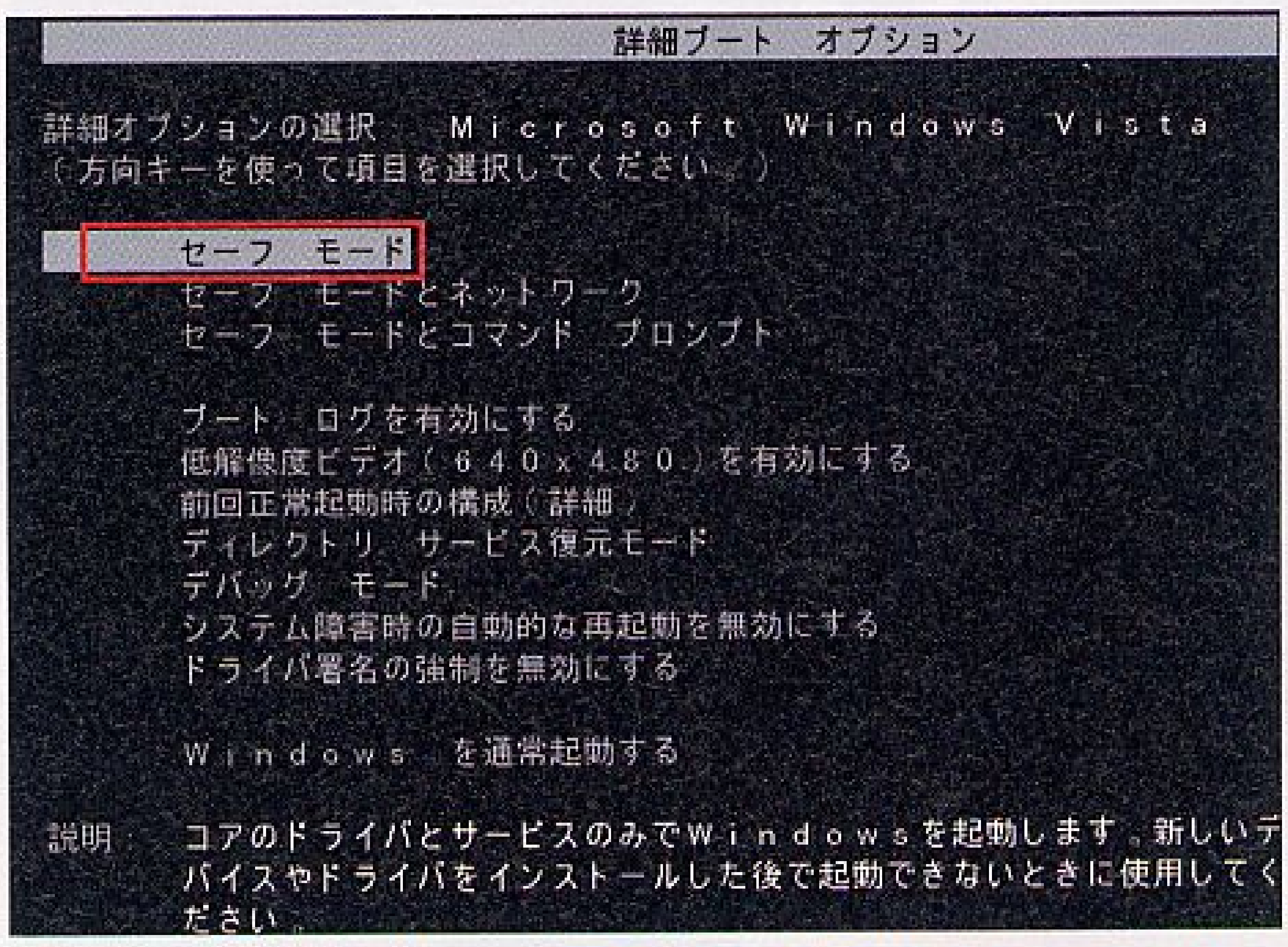
BIOS画面が消えたあと、「Operating System Not Found」が表示されるときは、フロッピーディスクやCDから起動しようとして失敗している可能性がある。すべてのメディアを抜いてから再起動してみよう。それでも同じ画面が出るようなら、システムが破損している可能性があるので、「解決方法4-1」を実行してみよう

解決方法4-1：「コンピュータの修復」を実行

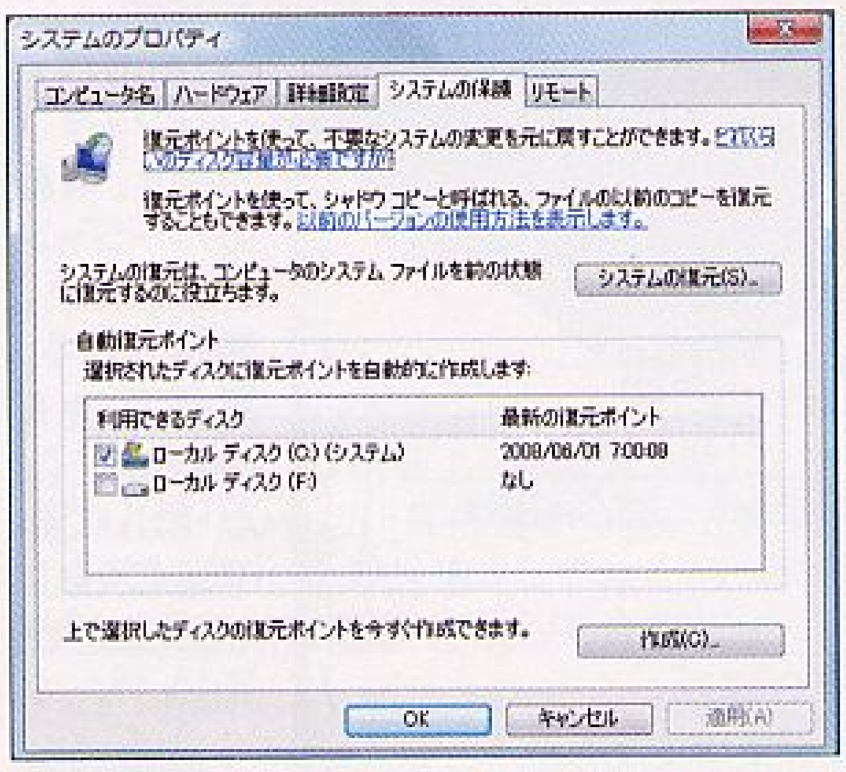


Windowsのロゴが出てから止まってしまう場合は、Windowsのシステムファイルが壊れている可能性がある。Vistaのセットアップディスクを入れて、「コンピュータを修復する」を試してみよう

解決方法4-2：「セーフモード」で修復する



パソコンが起動し、Windowsロゴも出るがその後で止まってしまうなら「セーフモード」で起動してみよう。セーフモードの起動は、BIOS画面が消えたあとに「F8」キーを押す



セーフモードを選択してVistaが起動したなら、直前にインストールしたソフトなどをアンインストールする。または、「システムの復元」機能（113ページ参照）を使って、正常だった状態に戻してみる。セーフモードでも起動できなければ、システムファイルの破損が考えられる。この場合は、付属のセットアップディスクを使って、Windowsを修復してみよう（解決方法4-1参照）

Keyword
セーフモード

パソコンをドライブ、キーボード、マウスなど必要最小限のデバイス、システムで起動するトラブルシューティングモード。まずセーフモードで起動するかどうかが解決の鍵になる。

難易度 普

誤って重要なファイルを上書き・削除してしまった！

快適指数

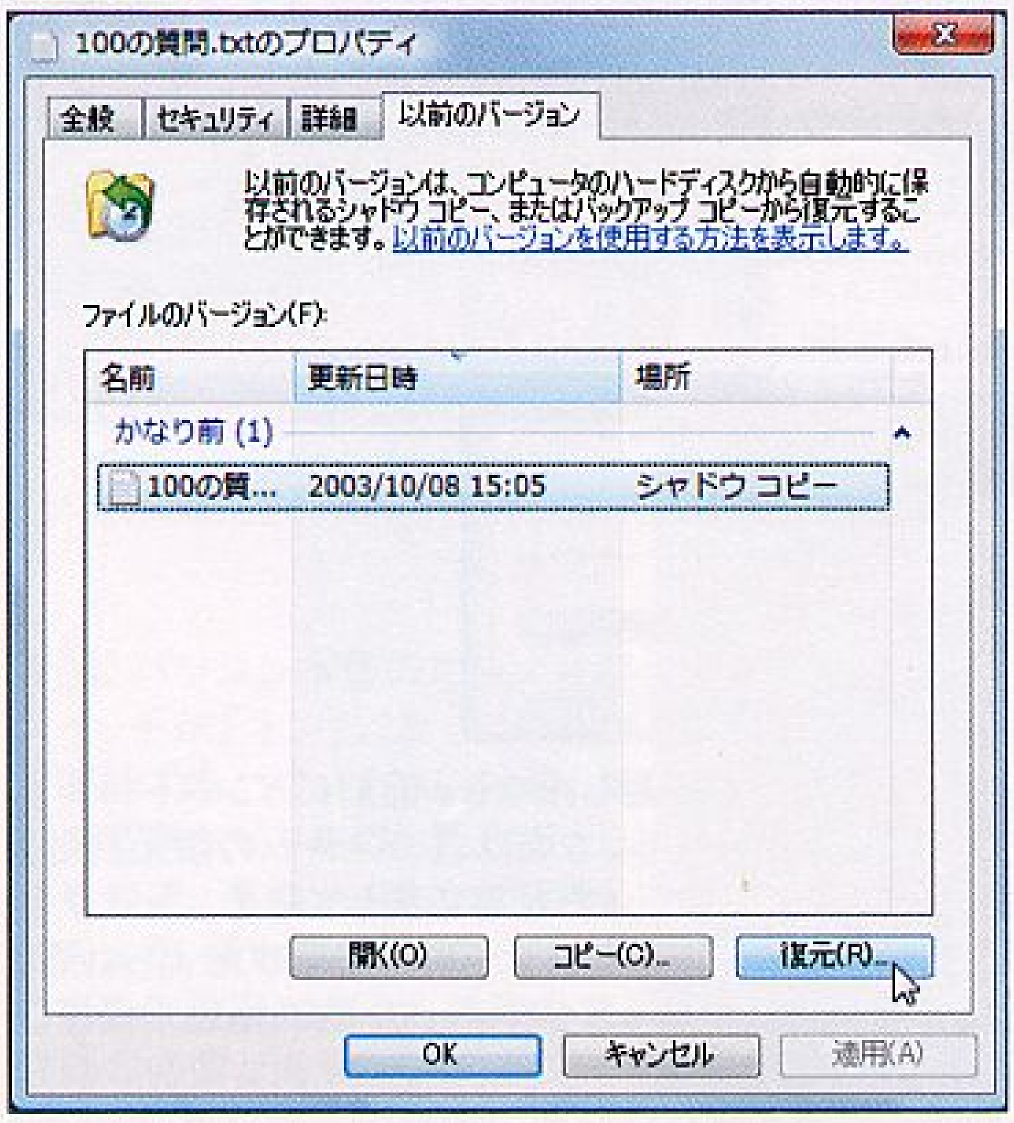
解決
●誤って上書きしてしまった元のファイルを取り戻せる
●ごみ箱から完全に削除したファイルも復活できる

ファイル操作で非常に危険なのは「うっかり上書き」だ。あるファイルに同名の別ファイルを上書き保存してしまうと、上書きされたほうのファイルが消えてしまうミスである。また、誤ってごみ箱から完全に削除してしまうこともある。こんなときは、Vistaの「シャドウコピー」機能が役に立つ。過去の状態のファイルも保存されているため、うっかり上書きや削除をしてしまっても、そのファイルの過去の状態を取り出すことによって、前の内容を取り戻せるのである。ただし、使用できないエディションもあるので注意しよう。

1 上書き・削除してしまったファイルを選択する

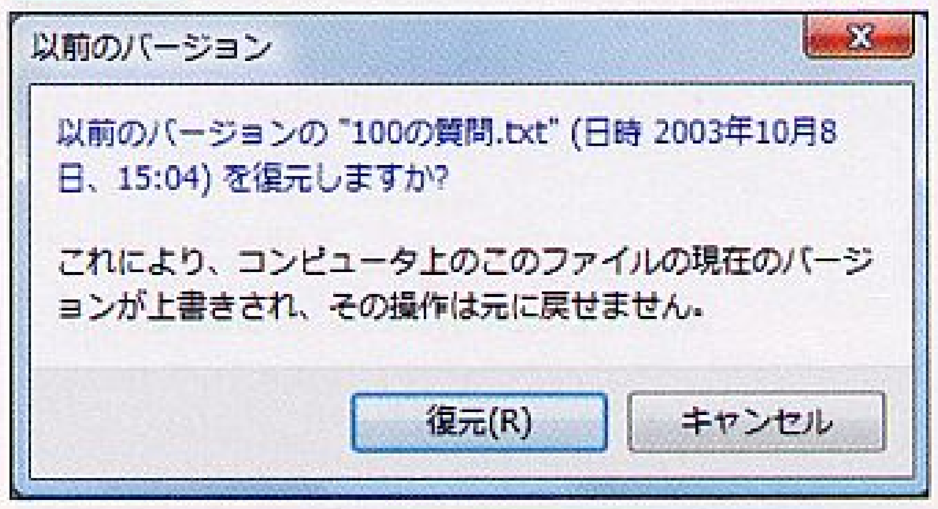
うっかりファイルを上書きしてしまったら、そのファイルを右クリックして「以前のバージョンの復元」をクリックする。削除してしまい、ファイルがない場合は、そのファイルが入っていたフォルダを右クリックする

2 ファイルを復元する



「以前のバージョン」タブが開き、以前のバージョンが検索され、表示される。更新日時を参考にして、取り出したいファイルをクリックし、「復元」をクリック

3 復元方法の確認



2で「復元」をクリックすると、今のファイルに選択したバージョンを上書きするかの確認画面がでる。現在のバージョンが消えてもいいなら「復元」をクリック。現在のファイルもとっておきたいなら2で「コピー」をクリックして、復元するファイルのコピーを保存すればいい

注意！ 復元できない場合もある

「シャドウコピー」は復元ポイントが作成された時点のデータ。つまり、復元ポイントが作成されない限りはその復活もできない。通常、復元ポイントは1日に一度自動で作成されるが、短時間で何度も上書きをしてしまうと、復元ポイントが作成された時点にしか戻すことはできない。例えば、あるファイルを3日前に更新し、さらに2日前に更新した、という場合には3日前のバージョン、2日前のバージョンと1日ごとの復元ポイントで元に戻せる。ただし、4時間前の状態、1時間前の状態というような場合は、そのつど復元ポイントを作成していない限りは、復元ポイントが作成された段階まで戻ってしまうのだ。

113ページの方法で復元ポイントを作成できる。通常は1日に一度だがもっと頻繁に作成するように設定してもいい

注意 システム保護を有効にする

「コンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」の「システムの詳細設定」を開く。「システムの保護」タブで、復元ポイントを作成したいディスクにチェックが入っているか確認する。チェックがないと復元ポイントが作成されない。

難易度 難

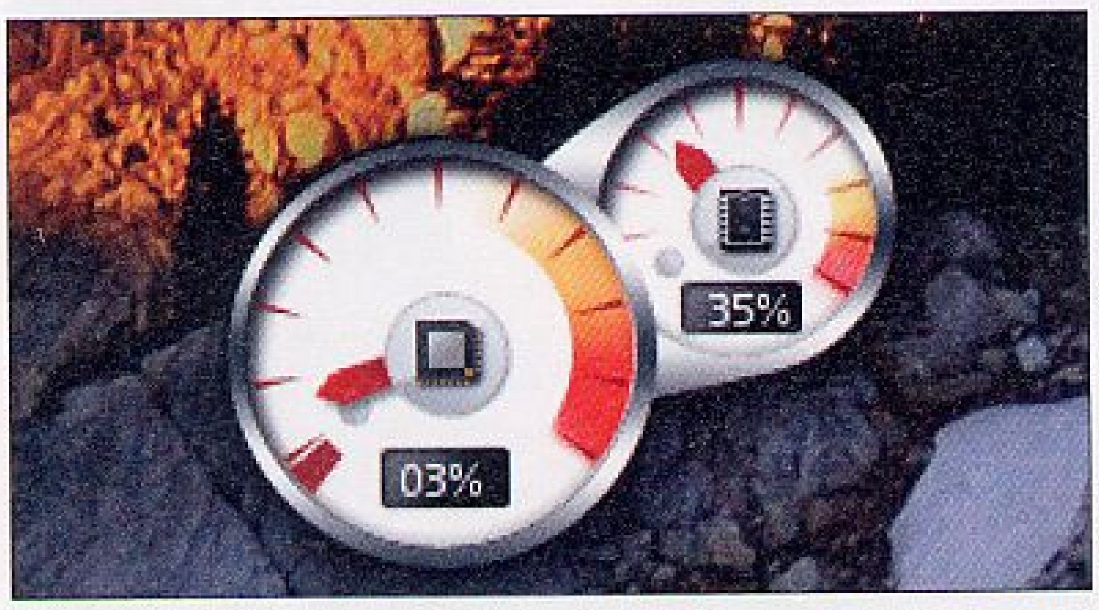
頻繁にフリーズしたり勝手に再起動したりしてしまう

快適指数

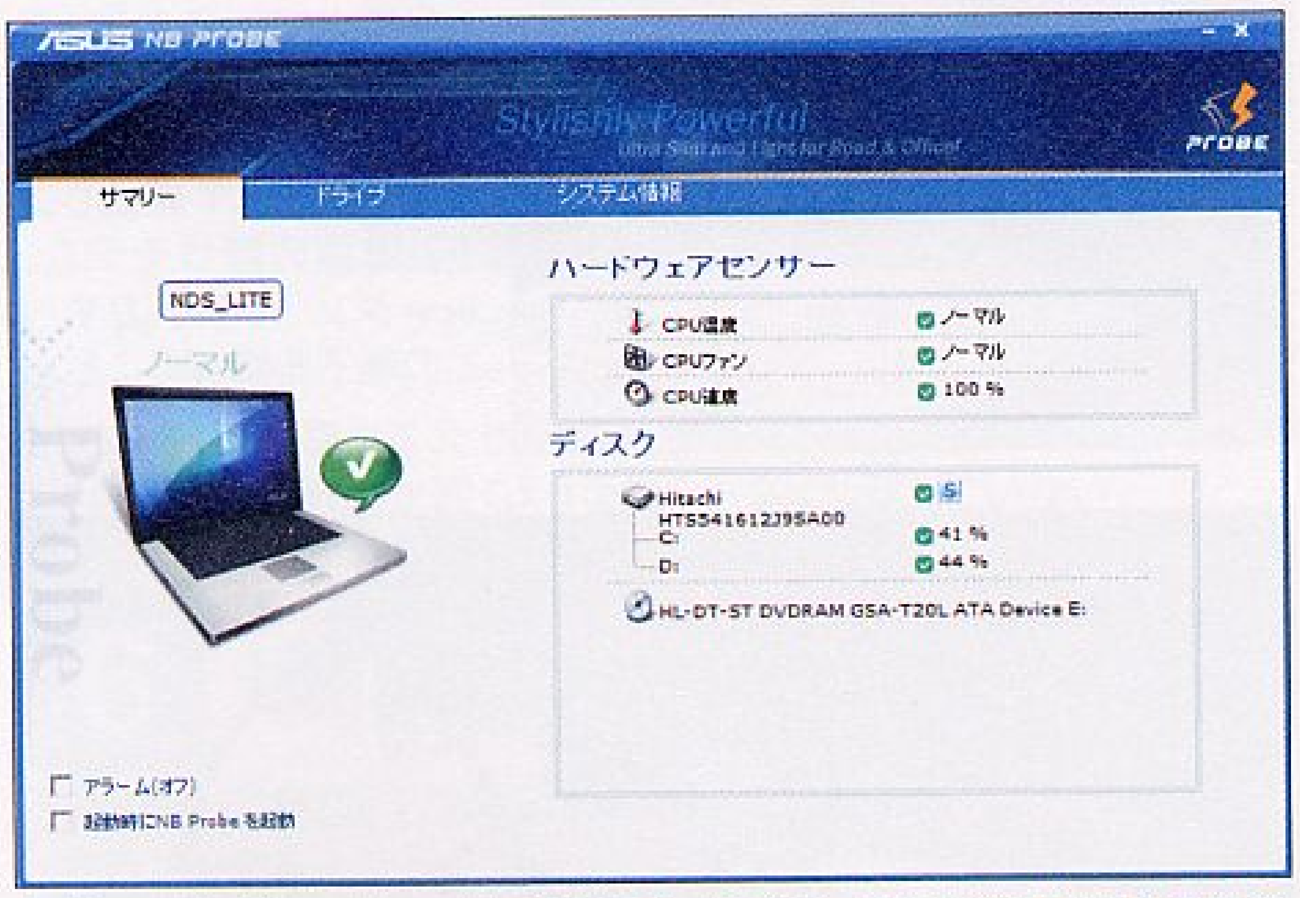
解決
●フリーズを防ぐための対策をとれる
●処理中なのかフリーズなのかの判断ができる

パソコンが操作できないのは動作停止(フリーズ)してしまったか、単に時間のかかる処理に専念しているかのどちらかだ。これを見分けるひとつの目安として、ガジェットの「CPUメーター」を表示させるのも手。メーターの針が振れているなら、フリーズはしていない。時間のかかる処理をしているだけなので、しばらく様子を見よう。なお、頻繁に再起動やフリーズが起こる場合は、過熱による熱暴走が考えられる。CPUファンにホコリが溜まっていないか、CPUの温度が熱くなり過ぎていないかを確認し、それぞれ改善する必要がある。

1 CPUの状態を確認する

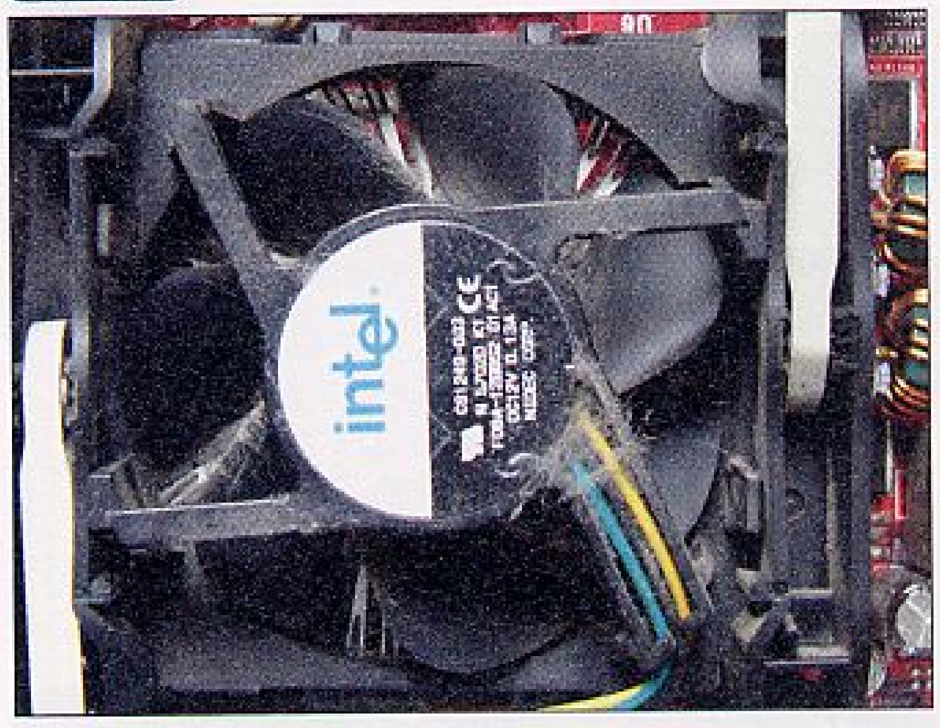


Vistaに搭載されているガジェット「CPUメーター」でCPU使用状況がわかる。針や数値が完全に止まっていたら、フリーズしていると思って間違いない(ガジェットの導入は64ページを参照)



頻繁に再起動やフリーズを繰り返すようなら、CPUの過熱による熱暴走が考えられる。熱暴走が起こりがちなノートパソコンなどでは上記のようなCPUの状態を確認するツールが付属していることもあるので、CPUの温度を確認してみよう。通常の作業中であれば約50℃~60℃くらいが標準的だ。メーカーによっては上画面のように状態(ノーマル)が表示されるものもある。温度が高くなっていたら、3のような冷却装置を導入しよう

2 ファンの掃除をする



パソコンを冷却する「ファン」には、ホコリが溜まりやすい。こうなってしまうと十分な冷却ができず、パソコン内の部品が過熱して、頻繁にフリーズすることになる。ホコリはマメに除去しておこう

3 日常的にパソコンを冷却する

ノートパソコンは構造上、熱暴走を起こしやすい。特に気温が上がる夏などはいつも以上に注意が必要。市販のクーラーパッドを購入するなど積極的に冷却対策をしておこう。(写真は「サンワサプライ TK-CLN7UL」実勢価格 13,800円前後)

4 メモリチェックを行なう

メモリが壊れている可能性もあるので、「メモリ診断ツール」を実行してみよう。パソコンが起動しなくても、Vistaのセットアップディスクからでも実行できるので安心だ。詳細は115ページを参照しよう

ワンポイント CPUの温度を測る

CPUやハードディスクの温度を測る場合、専用のソフトが付属していないなら、フリーソフトを使う方法もある。「窓の杜(http://www.forest.impress.co.jp/」や「Vector(http://www.vector.co.jp/)」で探してみよう。

難易度 普

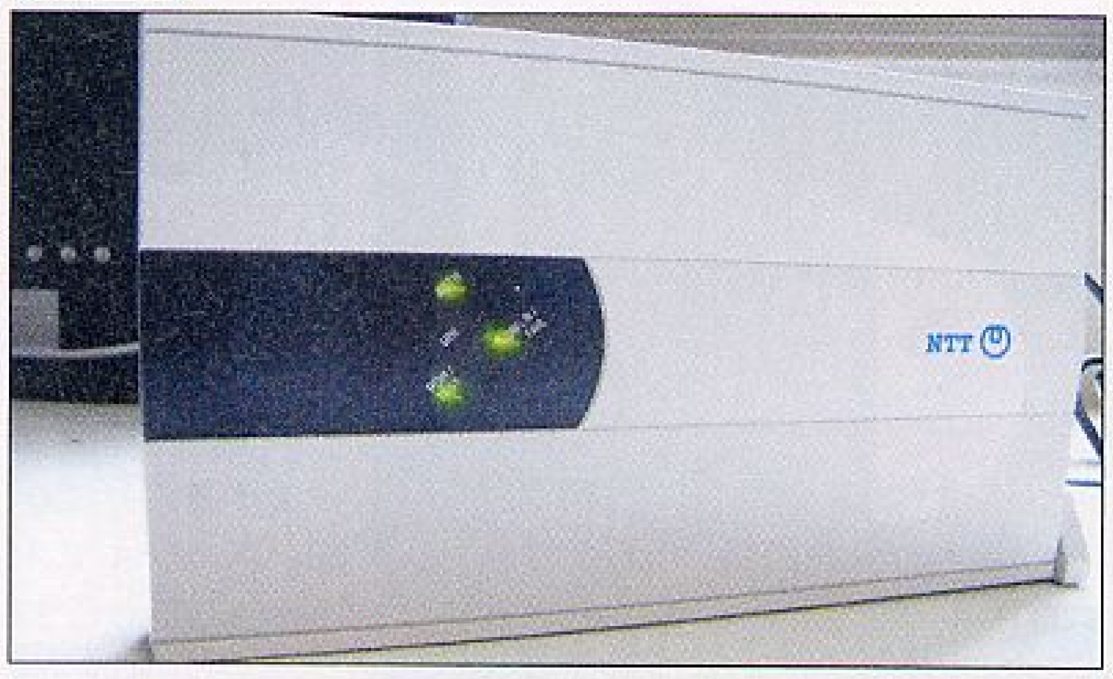
突然インターネットに接続できなくなってしまった

快適指数

解決 ●インターネットに接続できない原因を絞り込める
●ハードウェアの故障が発見できることも

さっきまで使えていたインターネットやネットワークが突然つながらなくなった。「何か変わったことをしたわけでもないのになぜ？」と思うことはよくある。実際、インターネットがつながらない原因はさまざまで、ケーブルが外れていた、など初歩的なことからプロバイダの問題、ハードウェアの問題、システムの問題など、原因となる要素はいくつもある。以下の方法でひとつひとつ確認していき、つながらない原因を絞り込んでいこう。慌てて、よくわからないのに設定を変更してしまわないよう注意しよう。

1 電源を確認する

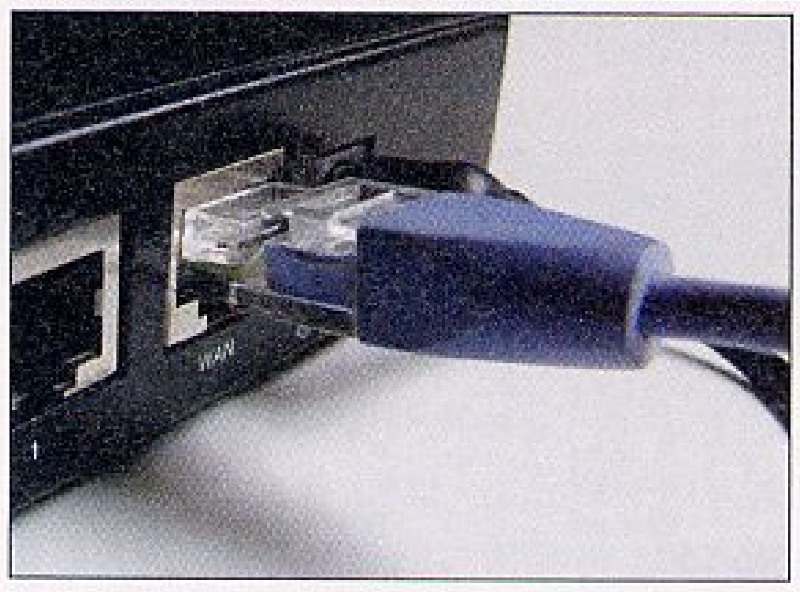


初歩的なことだが、モデムやルータの電源ランプがついているかどうか確認しておこう。電源ランプが消えていたらコンセントが抜けているか、機器が壊れているかどちらかの可能性がある

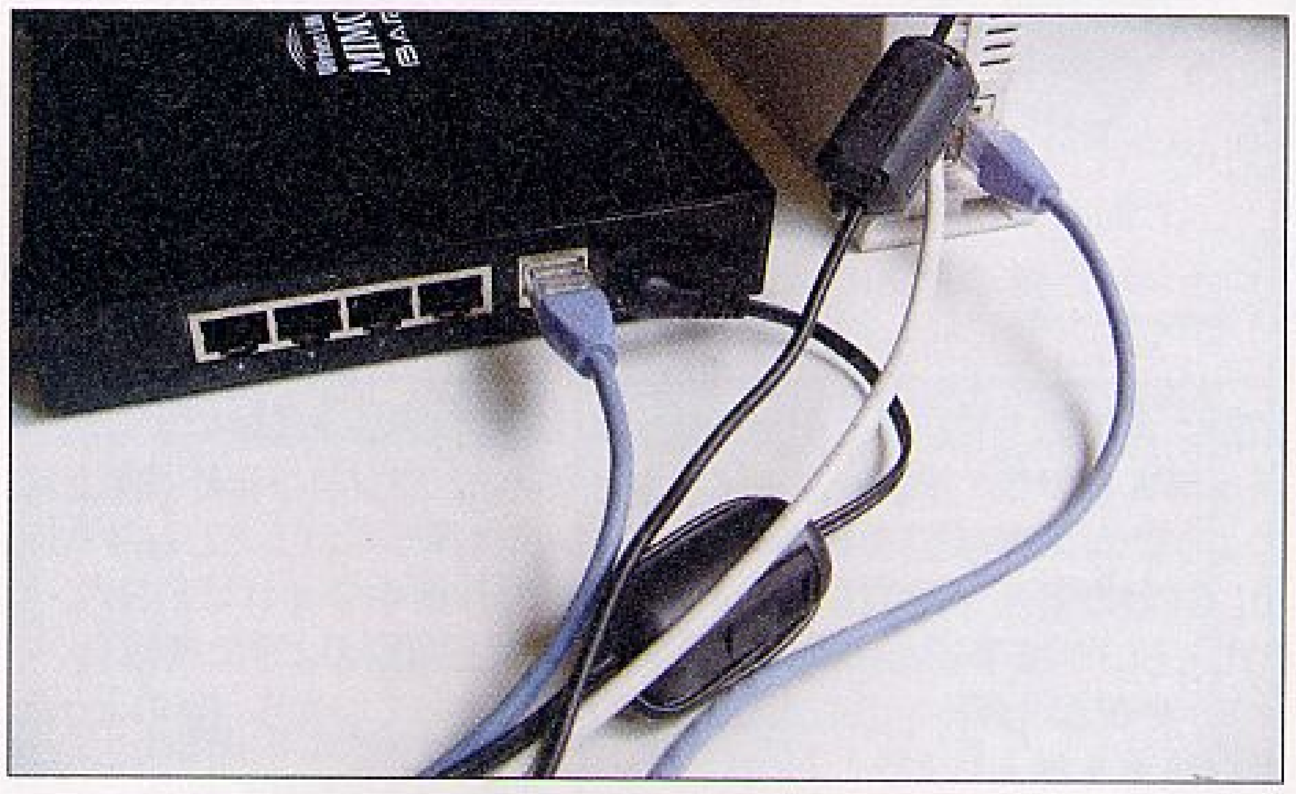
注意! インターネットの接続トラブルは機器の問題だけじゃない！

ネットがつながらない理由のひとつに通信料金、プロバイダ料金が未払いで停止されているという可能性もある。うっかりミスは誰にでもあるので、念のため確認してみよう。また、プロバイダ側の接続障害ということもある。最近のメールを確認し、プロバイダからの事前通知がなかったか確認しよう。また、携帯電話でプロバイダサイトにアクセスし情報を入手してみるのもいいだろう。

2 ケーブルを確認する



意外に多いのがLANケーブルの抜け。きちんと差し込まれているように見えても実はしっかり刺さっていないこともある。最後まで押して確認しよう。確認の際はモデム、ルータ、パソコンとすべての端子を調べること

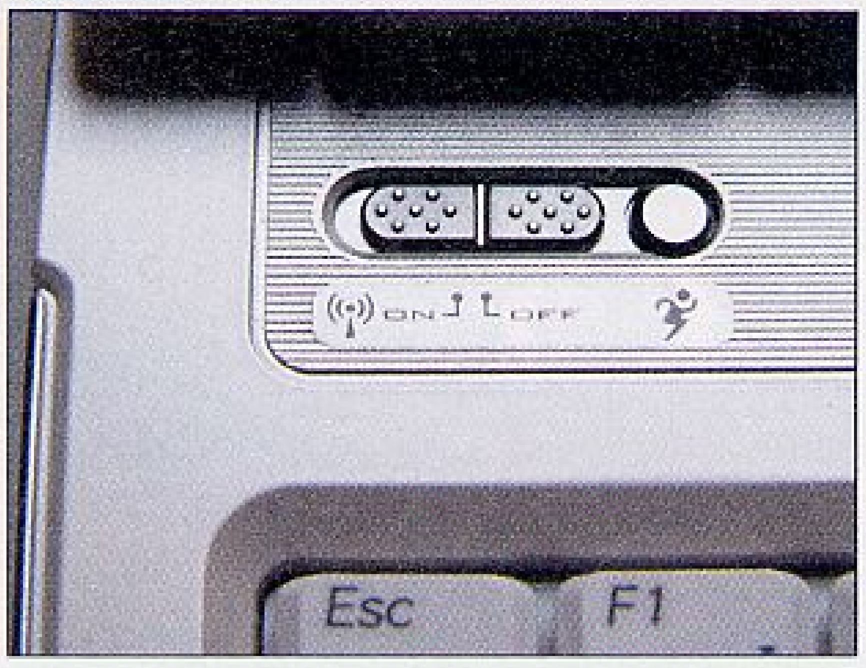


LANケーブルの故障もある。椅子や机で踏みつけられていたりすると故障しやすくなる。モデム、ルータ、パソコンとすべてのLANケーブルを新しいものと1本ずつ交換し、どのケーブルに問題があるのか確認してみよう。普段からケーブルの予備をストックしておくといい

注意 ルータの故障に注意

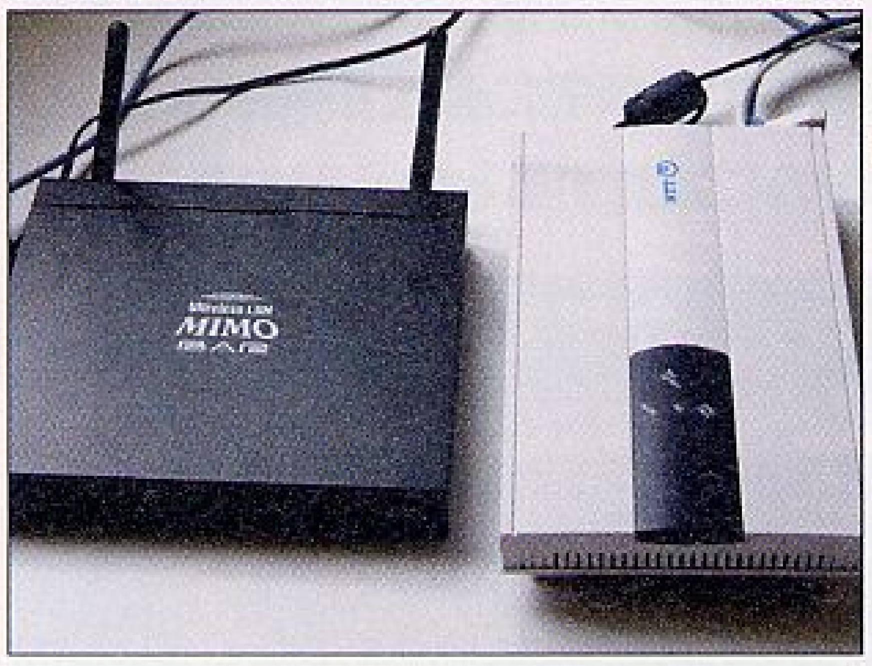
ルータは目の届かないところに置かれがちなので、故障しても気付きづらい。ネットのトラブルで「色々な設定をチェックしたが、結局ルータの故障だった」ということがよくあるので、ルータの異常にも注意しよう。

3 無線のオンオフを確認する



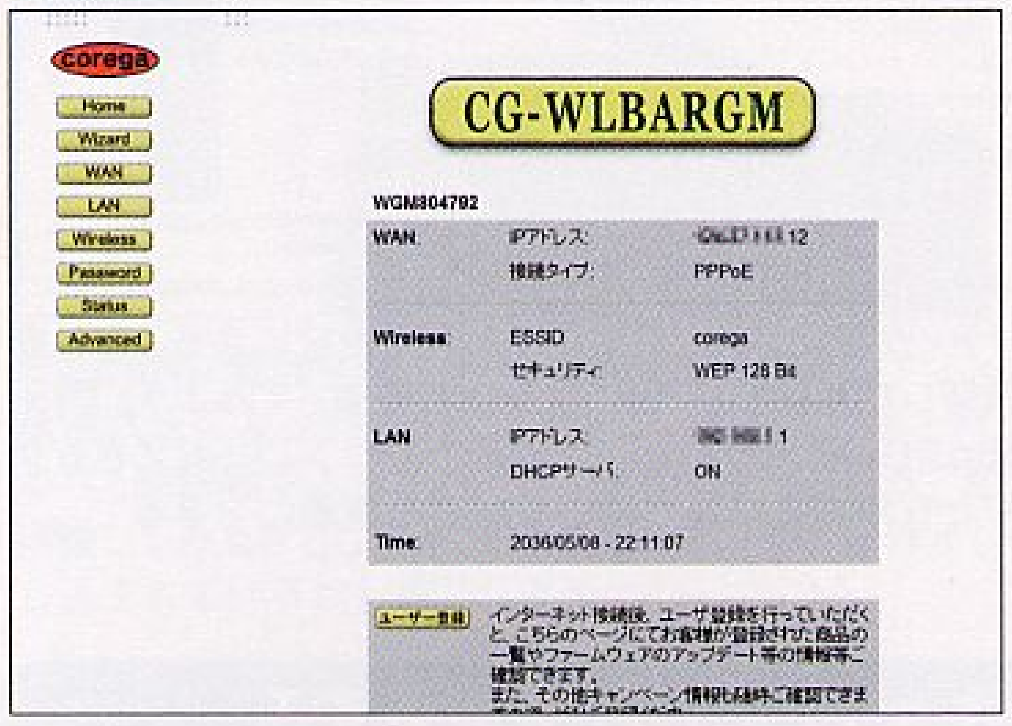
無線LANでネットに接続しているなら、機器が正しく接続されているか確認しよう。無線LAN機能内蔵パソコンなら無線のオン／オフスイッチや、パソコンの設定で無線が無効になっていないかを確認する

4 モデムとルータを再起動する



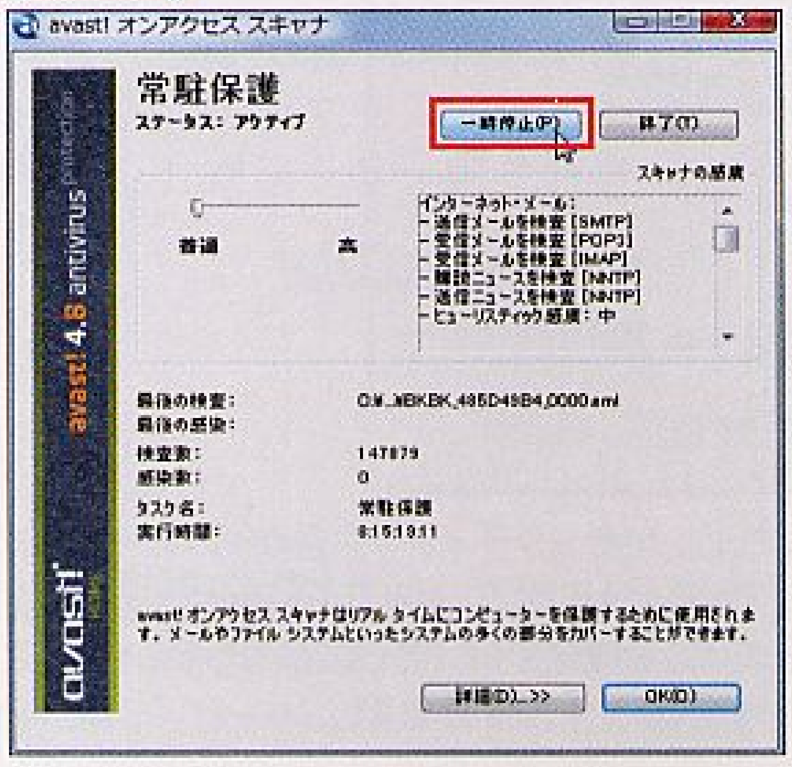
いったんモデムの電源を切り、ルータを接続している場合はルータの電源も切る。モデムから先に電源を入れ、完全に起動するまで待ってから、ルータを起動する。これでネットに再接続するので、つながる場合がある

5 ルータが壊れていないか確認する



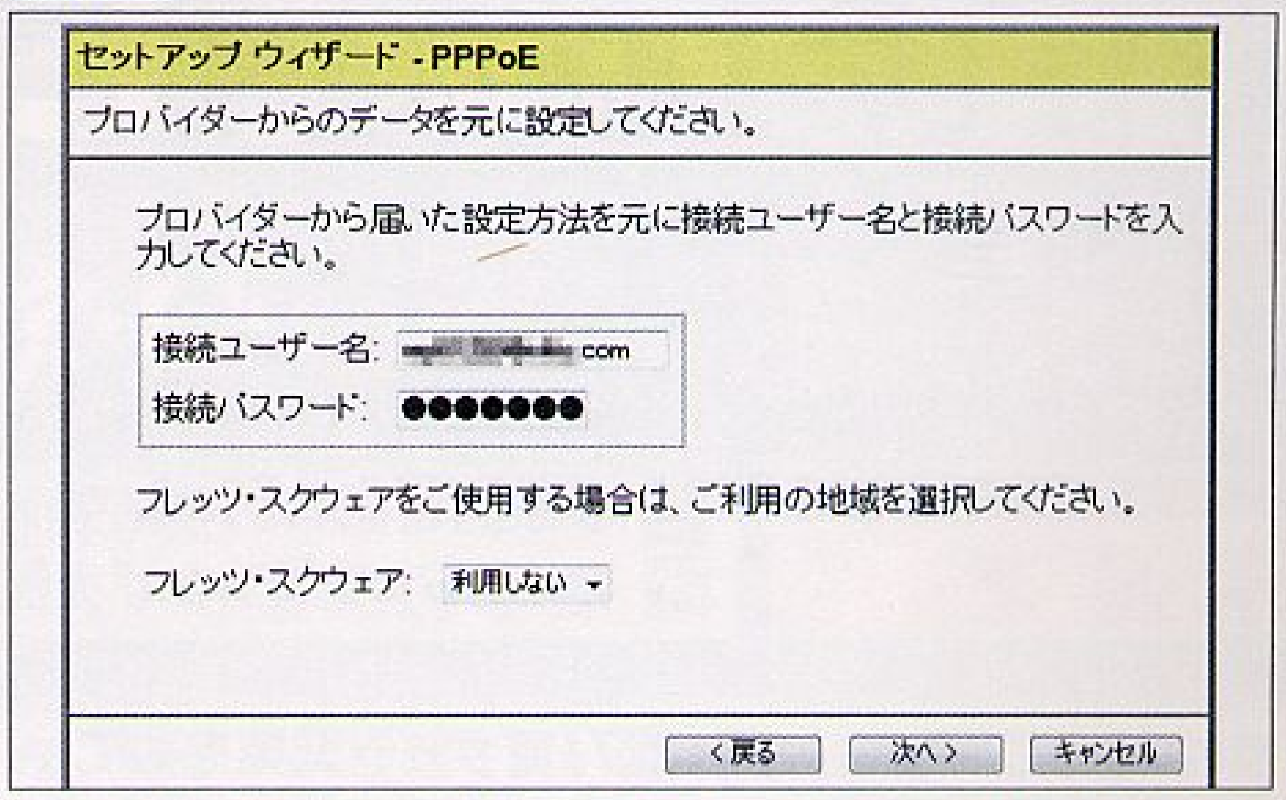
ルータのパワーランプが点灯していても、故障していることがある。パソコン側からルータにアクセスしてみよう。ルータへのアクセス方法は機器により異なるので、マニュアルを参照してルータにアクセスしてみる。設定画面が開くようならルータは故障していない

6 セキュリティソフトをオフにする



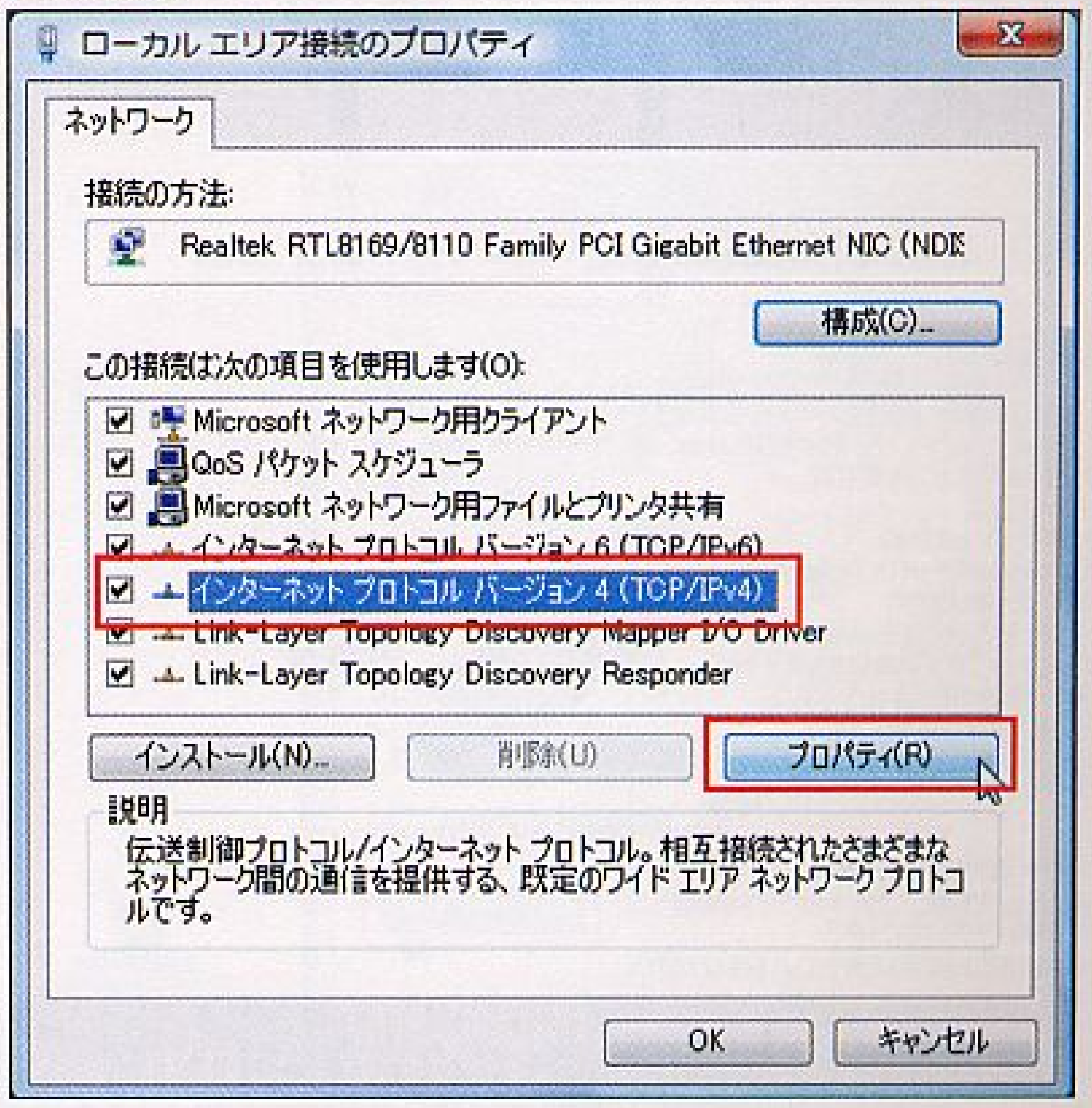
セキュリティソフトの設定でインターネットを遮断してしまう場合がある。自己責任で一時的にセキュリティソフトをオフにして、接続できるかどうか試してみよう

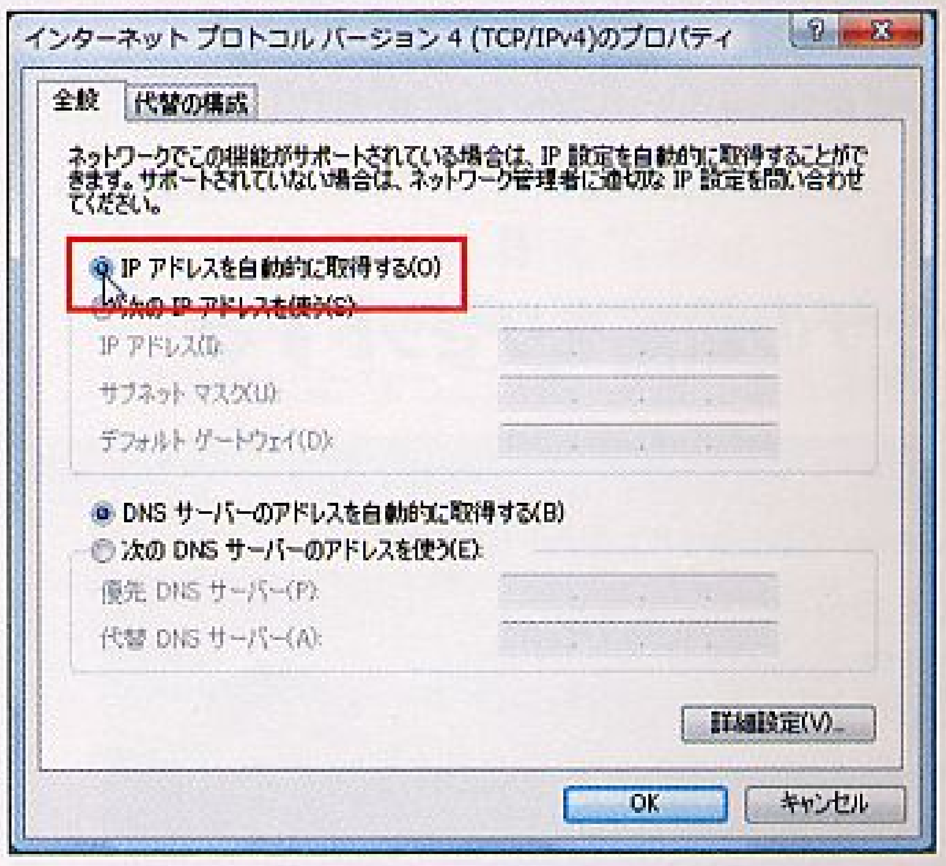
7 ルータの設定をリセットする



なんらかの原因でルータの設定が変わってしまい、接続できなくなることがある。ルータのリセットをするとインターネット設定が消去されてしまうので、あらかじめプロバイダのネット設定を用意しておく。ルータ本体のリセットボタンを押して初期状態に戻した後、用意しておいた設定のメモを参照して、設定をやり直すこと（ルータの設定方法は付属のマニュアルを参照）

8 IPアドレスを確認する





同じIPアドレスを持つパソコンがあると、通信が正しく行なわれない。IPアドレスを手動設定にしていると、同じIPアドレスを持つパソコンが出てしまうこともある。「スタート」メニューの「ネットワーク」を右クリックし、「ネットワークと共有センター」を開く。「状態の表示」をクリックして「プロパティ」をクリック。「インターネットプロトコルバージョン4（TCP/IPv4）」を選択して「プロパティ」をクリック。全般タブで「IPアドレスを自動的に取得する」を選択しよう

注意 IPアドレスの割り振り

8でルータにIPアドレスを自動割り振りさせる設定を紹介したが、このときルータのDHCPがオンになっていないとIPアドレスを自動取得しない。ルータによってはオンにできないものもあるので注意しよう。

難易度 普

Internet Explorerが頻繁に強制終了してしまう

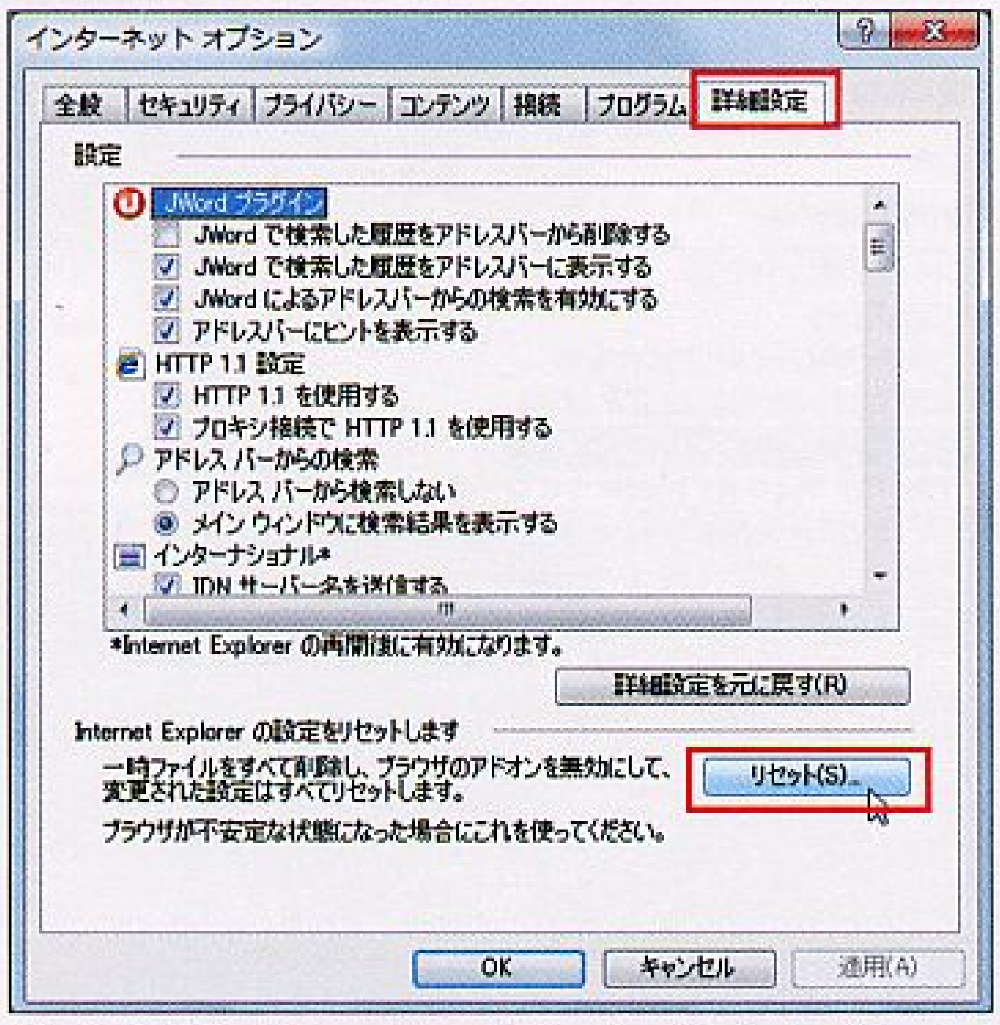
快適指数

解決
●原因と思われる拡張アドオンを削除できる
●IE以外のブラウザを試してみる

Internet Explorer 7（IE7）でサイト閲覧をしているとき、突然ブラウザが強制終了してしまうことがある。頻繁に起こるようなら、後から追加した拡張アドオン（ツールバーなど）が原因になっていることがある。原因の拡張アドオンがどれかを特定するのは難しいので、一度IE7の設定をリセットしてみよう。なお、設定のリセットを行なうとCookieやブラウザの履歴、インターネットキャッシュ、ポップアップブロックの設定などが削除される。それでも頻繁に起こるようなら、ブラウザをIE以外のものに変更するという手もある。

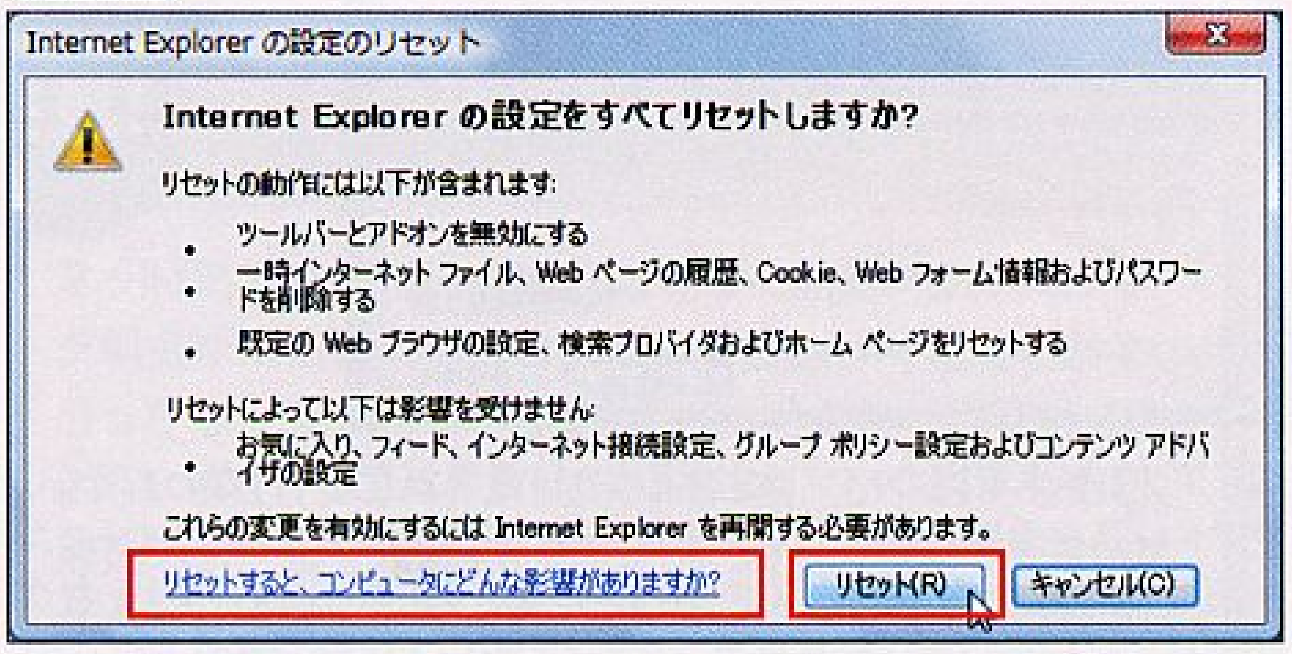
IEの設定をリセットする

1 「インターネットオプション」を開く



IE7を起動し、「ツール」→「インターネットオプション」をクリック。「詳細設定」タブをクリックし、「リセット」ボタンをクリックする。

2 ブラウザの設定をリセットする

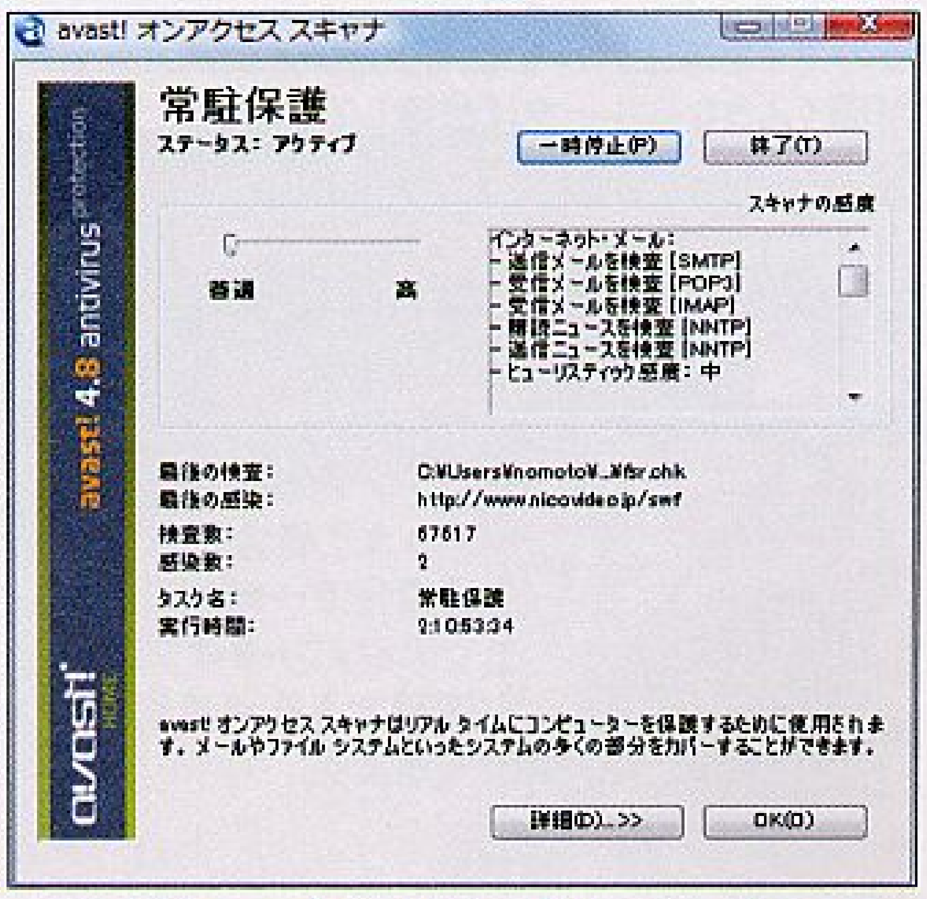


確認画面が開くので再度「リセット」をクリックする。心配なら「リセットすると、コンピュータにどんな影響がありますか？」をクリックして内容を確認しよう

他のブラウザを使う

IE7ではセキュリティが強化され、プログラムが不安定になることも多い。どうしても頻発して困るなら、他のブラウザを使ってみよう。例えば「Firefox 3（http://GetFirefox.jp/）」は無料でダウンロードできるタブブラウザ。IE7からのお気に入りの引き継ぎも簡単にできる

セキュリティソフトを変更する



セキュリティソフトを変更したり、セキュリティソフト自体のバージョンアップが有効なこともある。セキュリティソフトを変更する場合は、まず「avast!」（92ページ参照）のような無料のもので試してもいい。ソフトのバージョンアップはメーカーサイトから行なおう

Keyword 拡張アドオン
ソフトに追加する拡張機能のこと。例えばブラウザに追加する検索ツールバーなど。そのソフトがより便利になる反面、アドオンソフトを追加しすぎると動作が重くなってしまうこともある。

難易度 普

無線LANが遅いのでもっと速くしたい

快適指数

解決
●インターネットの速度が速くなる
●LAN内のファイルコピーが速く完了する

一般に、無線LANの通信速度は有線LANに比べて遅いため、有線LANから無線LANに変更したときにある程度遅くなるのは正常なことといえる。その無線LANを少しでも速くする方法として、もっとも簡単なのは「パソコンをルータに近づける」ということだ。そのほか、無線LAN機器を買い替える方法もある。特に、無線LANはルータ側とパソコン側の片方だけが高速な規格でも速くはならない。一方が低速な規格になっている場合は、そちらを高速な規格に買い替えれば、高速な規格で通信できるようになるわけだ。

1 無線LANルータとパソコン本体を近づける

無線LANは電波を使いネットに接続するため、パソコンの設置環境や電波状況によって速度が変化する。無線ルータとパソコンの間になるべく障害物が入らないように場所を変えてみる、アンテナの向きを調整してみるなどしてみよう。また、アンテナ自体がしっかり本体に差し込まれているかも確認しよう

2 無線LANカードのドライバを更新する

メーカーから無線LANカードの新しいドライバが配布されている場合には、ドライバを更新することで速度が改善する場合がある

3 無線LAN機器のメーカーを統一する

無線LANルータのメーカーとアダプタのメーカーが違うと、相性の問題から電波をうまく受信できず、速度低下につながることがある。特にノートパソコンには無線LAN機能が内蔵されていることが多いため、気になるようなら内蔵無線をオフにして、ルータと同じメーカーのアダプタを試してみよう（写真は「I・O DATA WN-NHP/R-U」実勢価格11,800円前後）

もっと快適!!テクニック 高速な無線規格に買い替える

有線LANで速度が十分にあるのに無線が遅い、つまり無線自体がボトルネックになっているなら、無線ルータを高速な規格に買い替えてみよう。現在策定中のIEEE802.11nは最大通信速度600Mbps、実効速度で100Mbpsとなっている。ただし現在は策定中のため、「ドラフト（草案）」という形で販売されている。費用は多少かかるが、どうしてもという場合は検討してみよう。

ドラフト2.0対応の無線ルータは既に販売されている（写真は「バッファロー WZR-AMPG300NH」実勢価格 28,800円前後）

ワンポイント 速度計測サイト

回線速度を測るには、測定サイトを利用しよう。「ブロードバンドスピードテスト」(http://www.bspeedtest.jp/)では回線の種類などを入力し、「測定開始」をクリックするだけで速度が測定できる。

難易度 普

会社や出張先のホテルなど外出先でも無線LANを使いたい

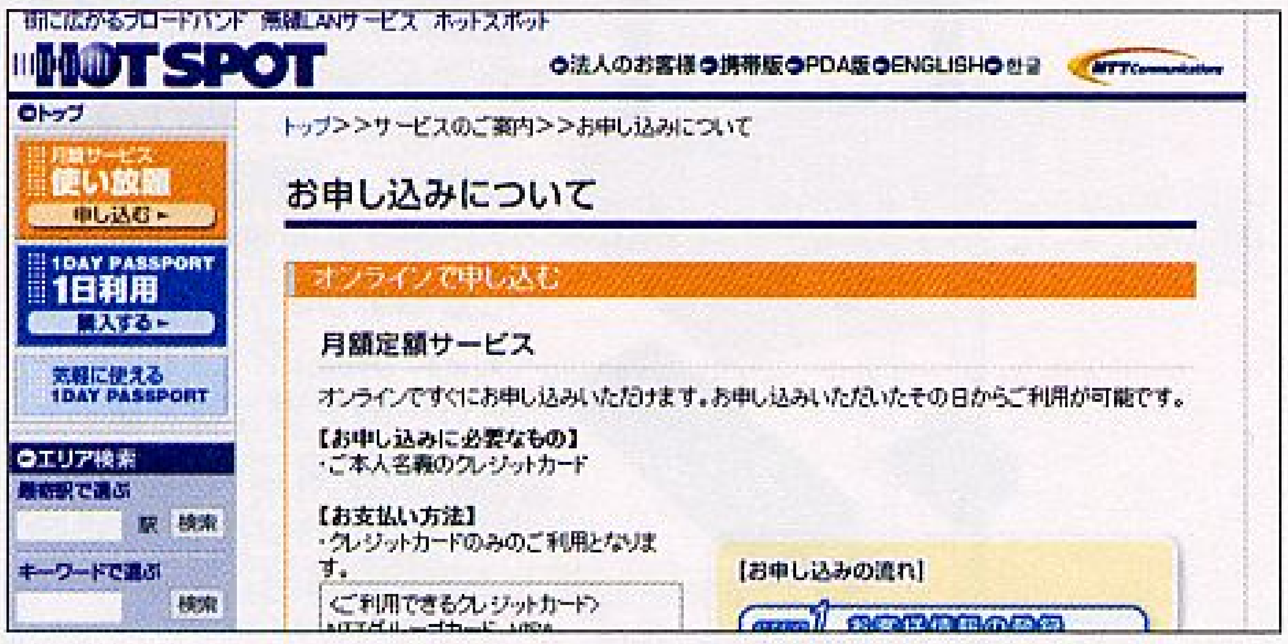
快適指数

解決
- 「FREESPOT」がある場所では無料でインターネット接続できる
- 有料サービスを使えばさらに多くの場所で接続できる

常時接続環境に慣れると、外出先でパソコンを使うときにインターネットが使えないのが不便に感じるものだ。このような場合は、「公衆無線LAN」を活用しよう。これは駅やカフェ、ファストフード店などに設置されている無線LANルータを利用してインターネット接続できる方法で、携帯電話接続よりも高速・安価なのが特長。NTTコミュニケーションズやライブドアなどが提供する有料サービス（アクセスポイントが豊富）と、無料で使える「FREESPOT」（アクセスポイント少なめ）があるので、目的や使用頻度に応じて使い分けよう。

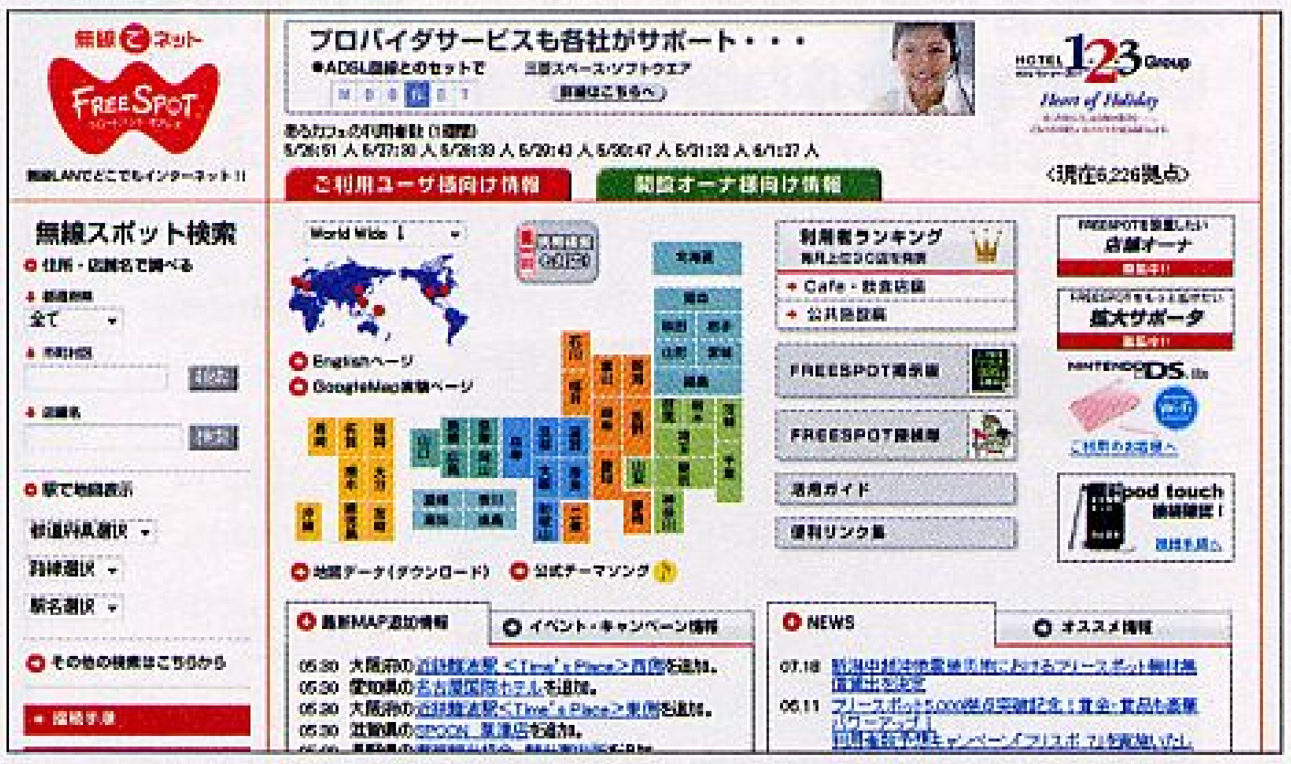
公衆無線LANサービスを選択する

1 有料サービスを使用する



有料サービスでは事前に申し込みが必要となる。申し込みが済めば、SSIDや暗号化の設定が送られてくるので、その設定を使い、サービス契約にあるエリアのホットスポットが利用できるようになる。画面はNTTコミュニケーションズが提供する無線LANサービス「ホットスポット」（http://www.hotspot.ne.jp/）

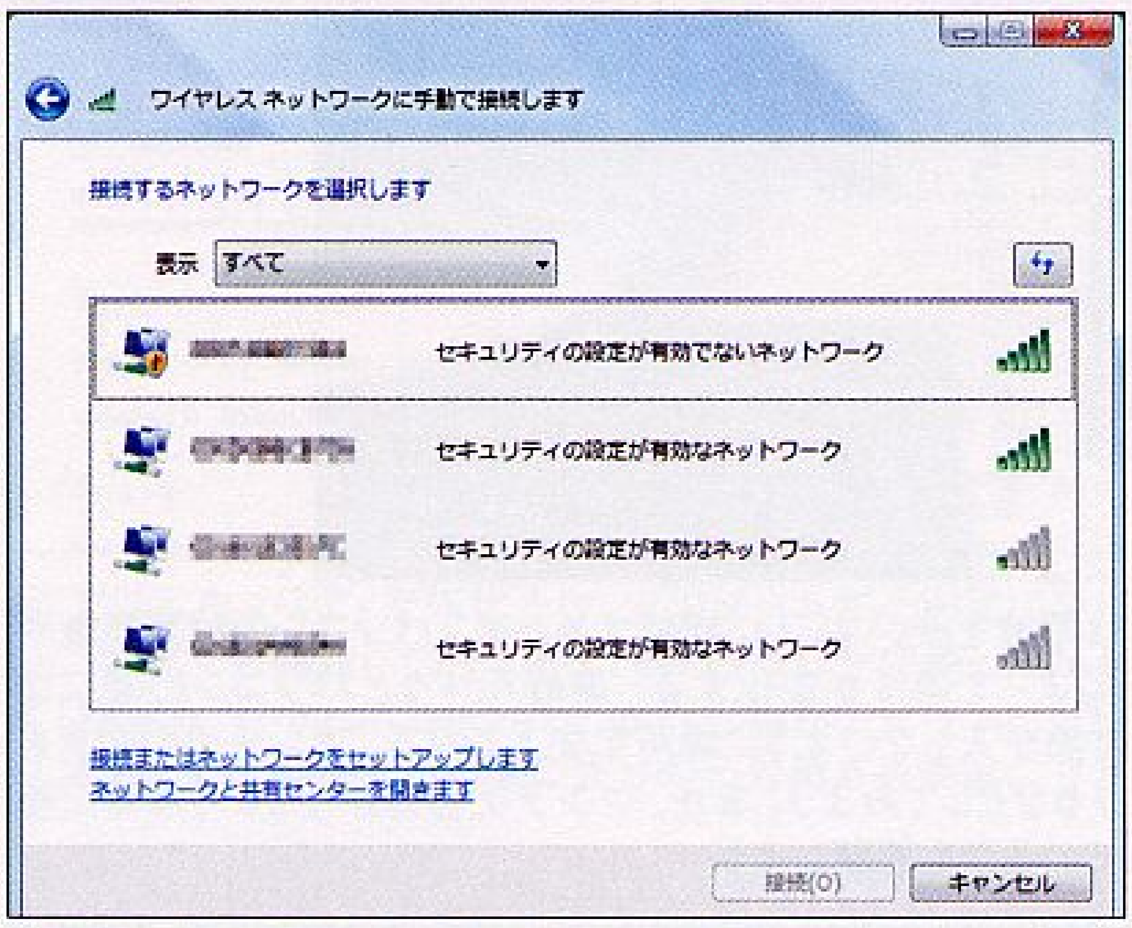
2 無料の「FREESPOT」を利用する



無料で使える公衆無線LANサービスを探すなら、「FREE SPOT」（http://www.freespot.com/）を使ってみよう。サイト内の「FREESPOTマップ」で無料スポットの検索ができる。また、接続設定が不要なところもあるが、その場合は「ファイル共有」をオフにしておくなど自己責任でセキュリティに気をつけること

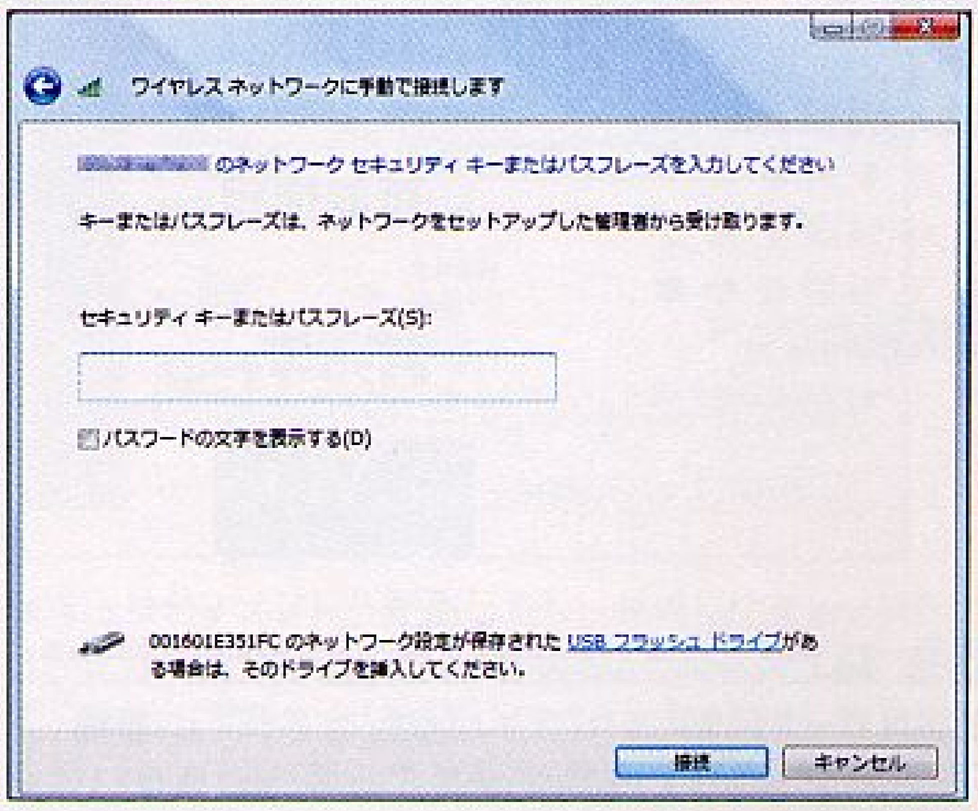
公衆無線LANに接続する

1 アクセスポイントを選択する



公衆無線LANのアクセスポイントがある場所付近（サービス業者のウェブページで調べる）で、通知領域のネットワークアイコンをクリックして「接続または切断」をクリック。この画面で、使用するアクセスポイント（業者から通知される）をダブルクリックする

2 アクセス情報を入力する



業者から通知されたセキュリティキーを入力し（空欄のこともある）、「OK」をクリックすると接続される。有料サービスの場合、最初にウェブページからユーザーIDとパスワードの入力が必要なこともある

Keyword 公衆無線スポット
街角や店舗で無線LANサービスを利用してインターネットが使える場所のこと。利用登録を行い有料で使用するものと、無料で使えるものがある。ほとんどの場合、サービス提供者から指定された設定事項が必要になる。

難易度 普

無線LAN通信が頻繁に切断されてしまう

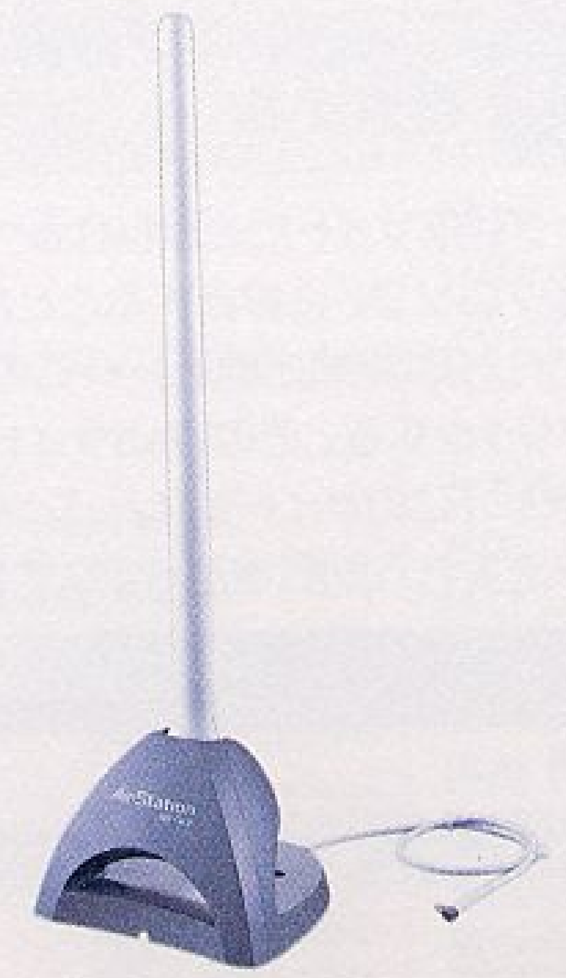
快適指数

解決
- ●無線LANの電波干渉を避けられる
- ●電波の状態を良くすることで高速化につながる

無線LAN接続が頻繁に切断されてしまうときは、いくつか原因が考えられる。電子レンジなどの電気製品との電波干渉や、他の無線との干渉、パソコンと無線機器が離れすぎていることで電波が微弱になっているなど原因はさまざま。Vistaの「ネットワークと共有センター」には「診断と修復」という機能があり、ネットワークに問題があった場合にこれを診断し、問題の解決方法を表示してくれる。また、無線機器のファームウェアをアップデートすることで無線が安定する場合もある。以下の方法を試してみよう。

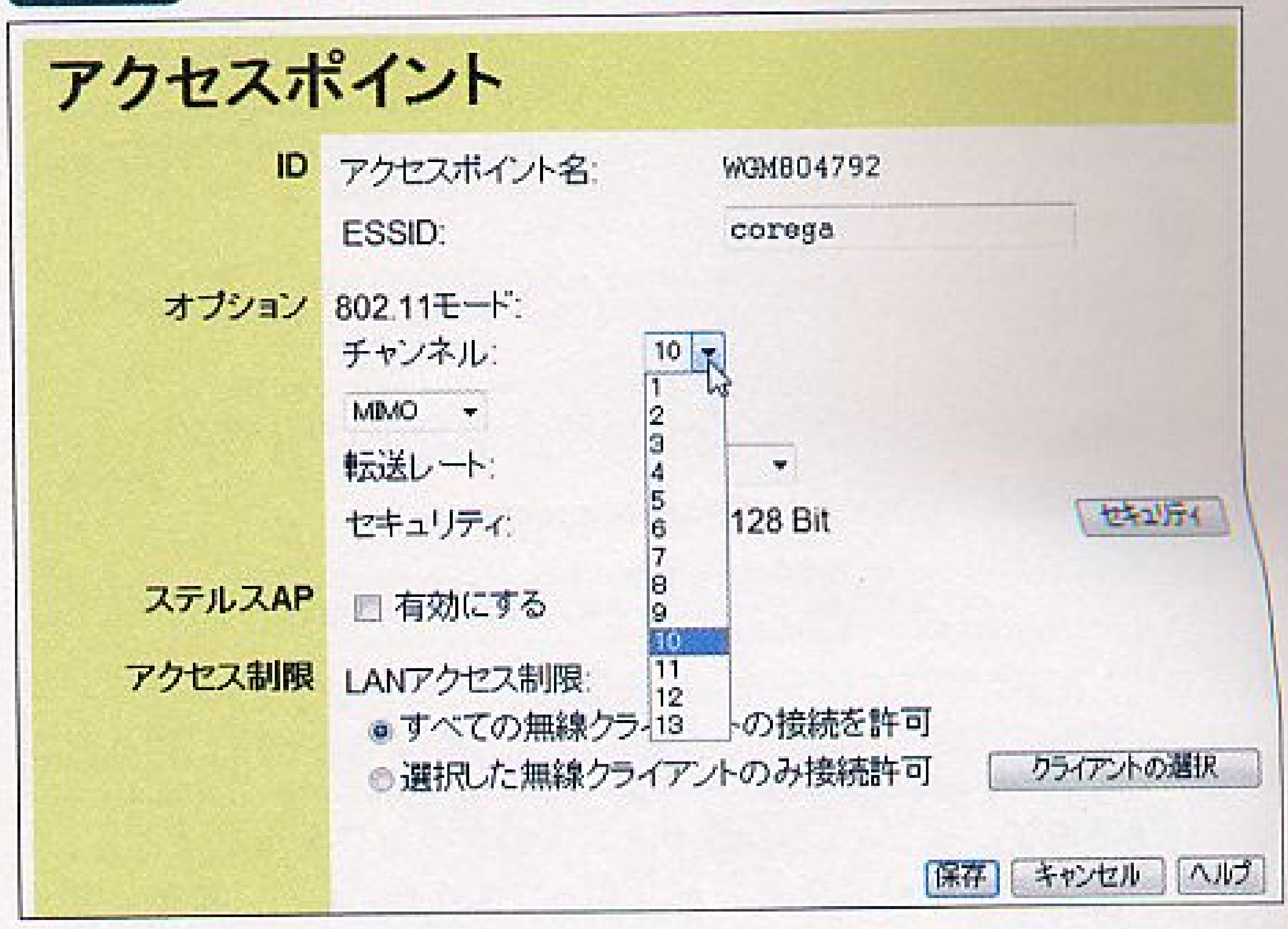
1 無線LANルータの設置場所を再考する

無線LANルータは電気機器と干渉しやすい。そのため強い電波を発する電子レンジやテレビなどのそばにおくのは避けたい。また、パソコンと無線LANルータの間に障害物がないように設置してみよう



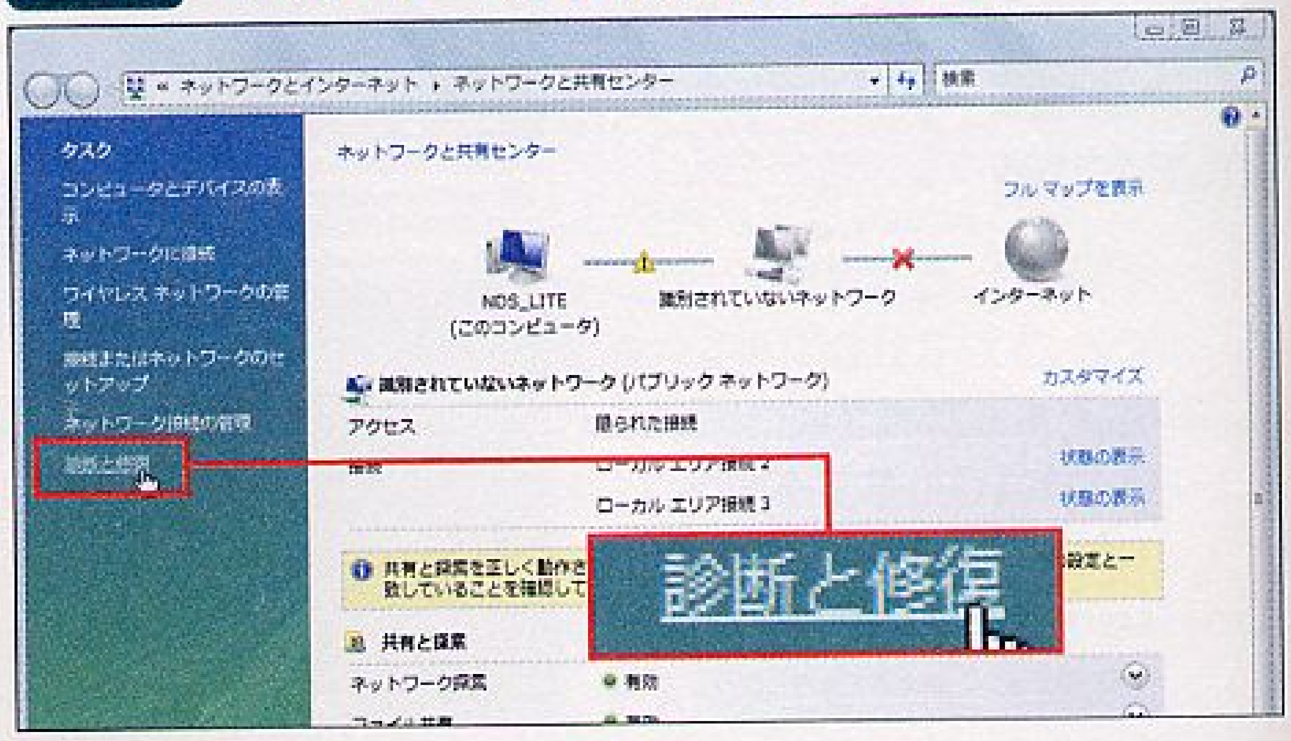
無線LANルータからパソコンが遠すぎる場合、電波が微弱になり頻繁に切断されてしまう。どうしてもその場所で使いたいなら、電波の受信感度を向上させるアンテナ機器を設置してみよう（写真は「バッファロー WLE-HG-NDR」実勢価格 5,700円前後）

2 電波干渉を避けるためチャンネルを切り替える



無線LANは通常「1～13」までのチャンネルを使って通信を行なう。このチャンネルを手動で変更することで症状が改善されることがある。ブラウザからルータの設定画面を開き、チャンネルを切り替えてみよう（ルータの設定画面の表示方法はルータにより異なるのでマニュアルを参照しよう）

3 「診断と修復」でネットワークを診断してみる



「スタート」メニューの「ネットワーク」を右クリックし、「プロパティ」を選択。「ネットワークと共有センター」を開く。「タスク」の「診断と修復」をクリックする。不具合が発生していればその内容と対処法（「混信元から遠ざける」など）が表示されるので、その対処法を実行してみよう

ワンポイント ファームウェアの更新

無線LAN機器のメーカーサイトで新しいファームウェアがないか確認してみよう。ファームウェアのアップデートを行なうことで電波が安定することもある。ただし、更新にはある程度の知識が必要。自己責任で行なうこと。

難易度 易

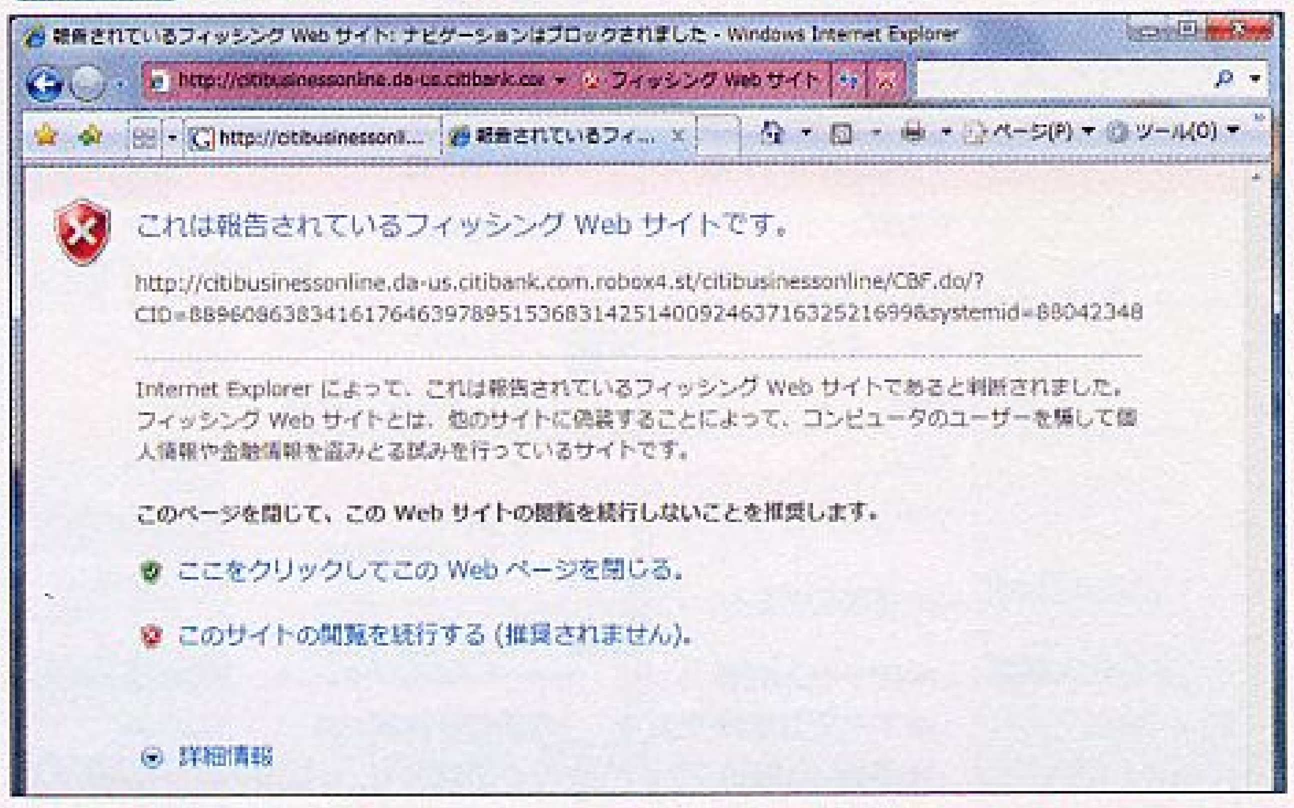
ホームページ閲覧中にアドレスバーが突然赤くなった

快適指数

解決
- ●フィッシングサイト詐欺の可能性があるサイトを開かずにすむ
- ●自分が発見したフィッシングサイトを報告できる

ネット銀行や通販サイトなどとそっくりのサイトを作り、アクセスしたユーザーにIDやパスワードを入力させて個人情報や金融情報を盗む、それが「フィッシング詐欺」の手口だ。Internet Explorer 7には、フィッシング詐欺検出機能が付いている。アクセスするサイトを常に監視し、報告されたフィッシングサイトの一覧に照らし合わせ、フィッシングサイトであると判断されたサイトにアクセスしそうになると、アドレスバーが赤くなってアクセスをブロックする。ブロックしたページは閲覧するかしないかを自分で選択できる。

1 フィッシング詐欺サイトが検出された

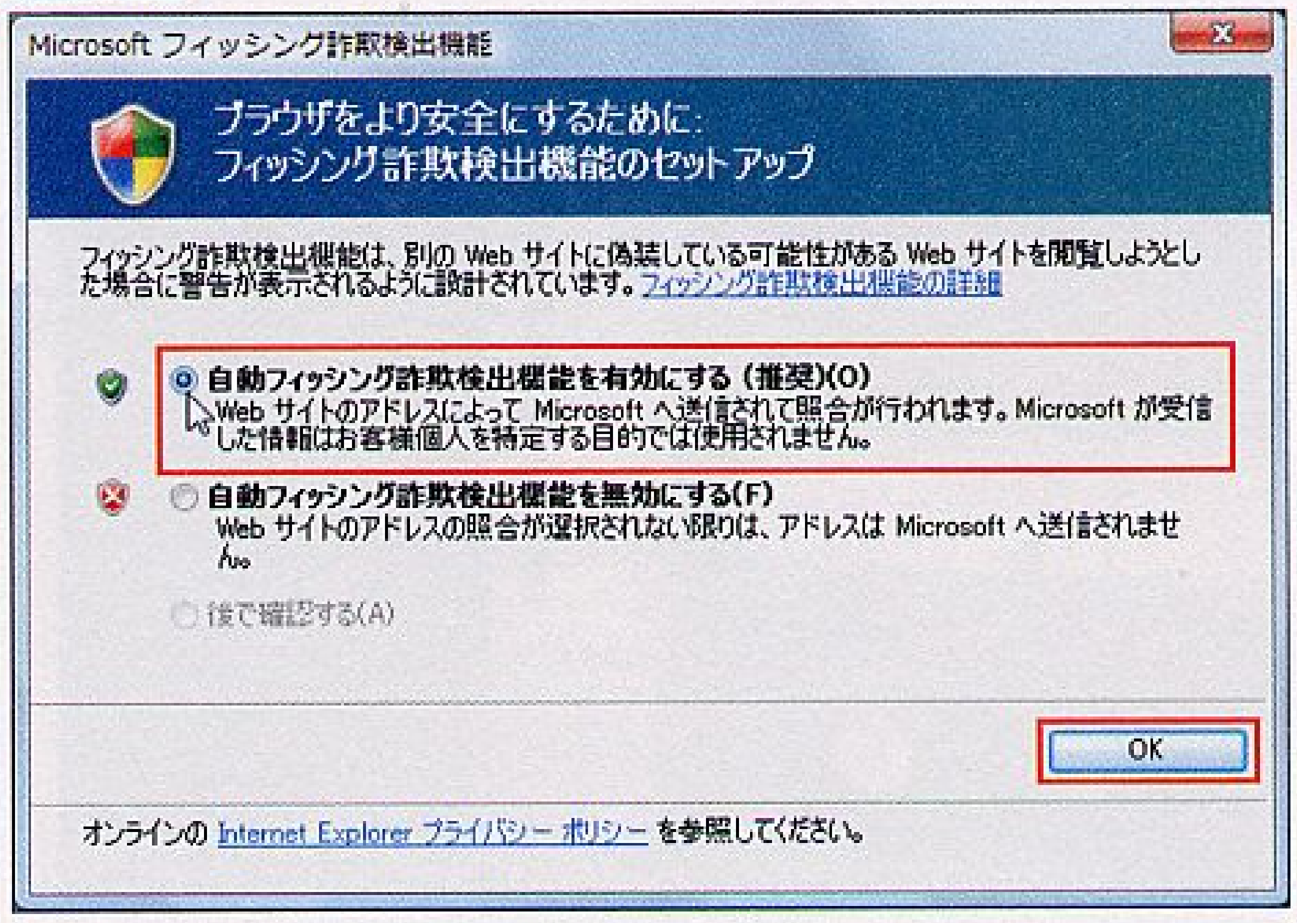


既に報告されているフィッシングサイトへのアクセスを検知すると、アドレスバーが赤くなりアクセスがブロックされる。また、黄色い警告はフィッシング詐欺サイトの代表的な特徴が含まれているときに表示される。まだ報告はないが、疑わしいサイトということ。アクセスしないほうがいいだろう

2 フィッシング詐欺検出機能を有効にする

フィッシング詐欺検出機能を使うには、検出機能を有効にしなければならない。IE7で「ツール」→「フィッシング詐欺検出機能」→「自動的なWebサイトの確認を有効にする」をクリック（表示が「無効にする」なっている場合は、既に検出機能が有効になっている）

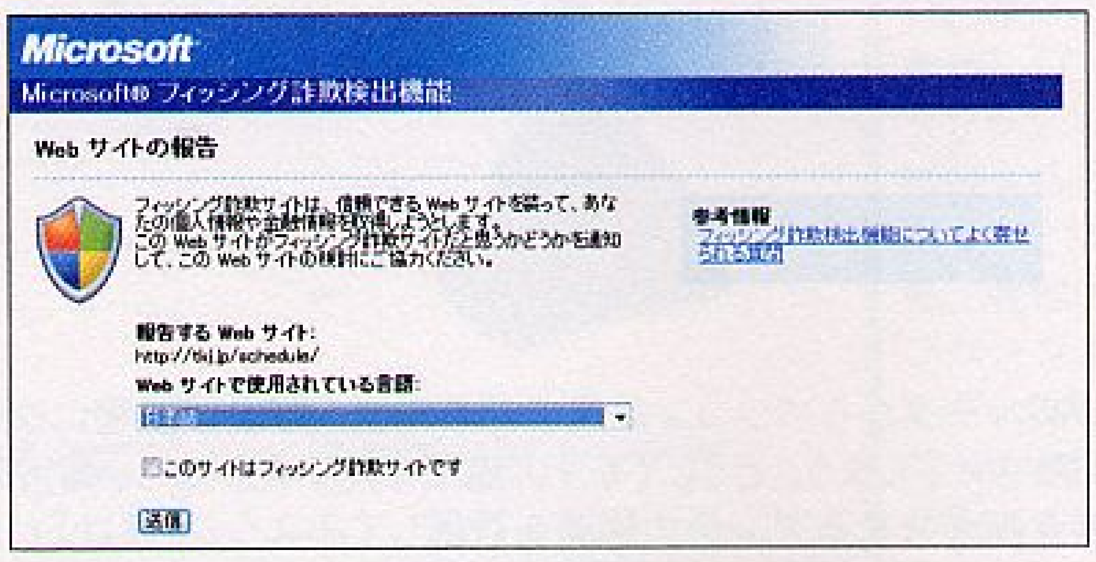
3 検出機能のセットアップ



「自動フィッシング詐欺検出機能を有効にする」を選択し、「OK」をクリックする

もっと快適!!テクニック フィッシング詐欺サイトを報告する

フィッシング詐欺サイトだと思われるページを偶然見つけたら、マイクロソフトに報告することができる。「ツール」→「フィッシング詐欺検出機能」→「このWebサイトを報告する」をクリックする。そのWebサイトで使用されている言語を選択し、「このサイトはフィッシング詐欺サイトです」にチェックを入れ「送信」をクリックする。



注意 フィッシング詐欺を防ぐ

クレジットカードサービスなどを装い「再認証」などと称して個人情報を抜き取るケースが多い。メールにフィッシング詐欺へのリンクが張ってあり、アクセスさせるものも。怪しいメールのリンクはクリックしないこと。

難易度 普

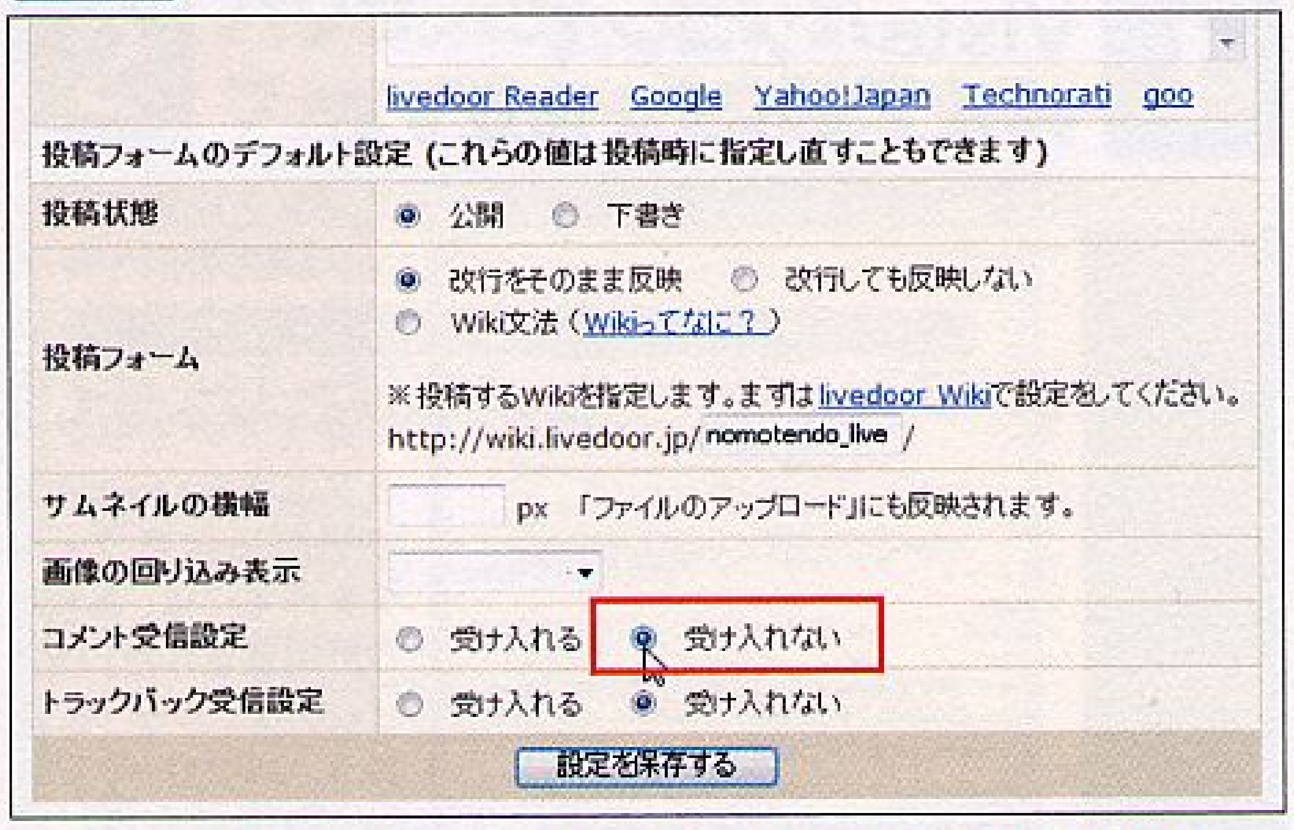
ブログに付けられたコメントは確認してから公開したい

快適指数

解決
●荒らし目的のコメントでブログが炎上するのを防げる
●荒らされてしまったらコメントを受け付けない設定にする

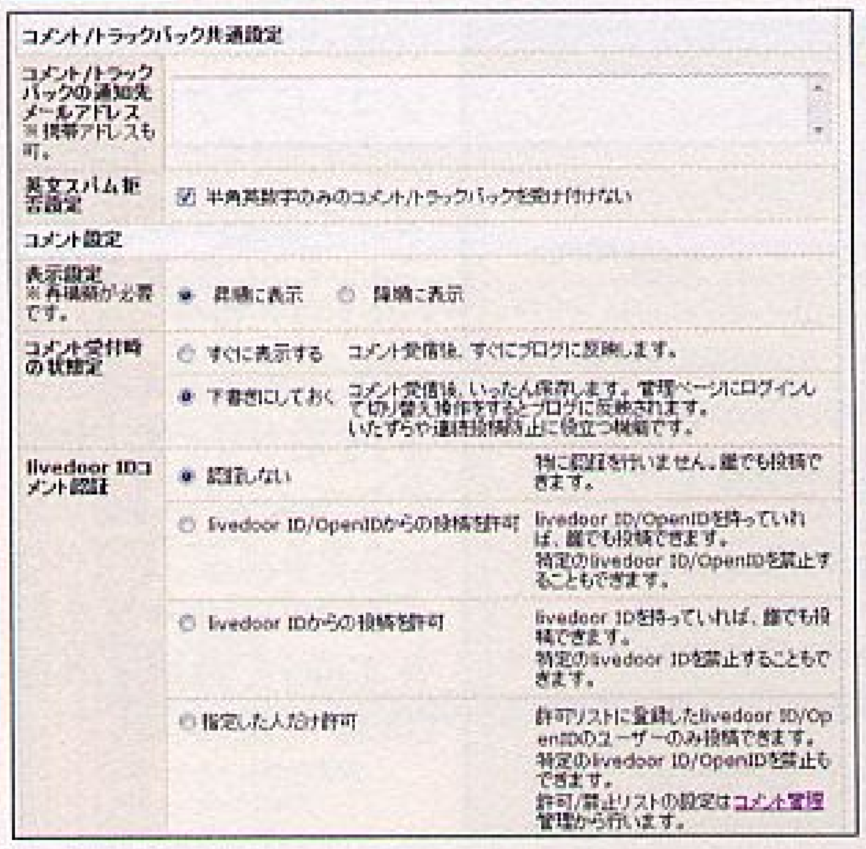
自分のブログに書いた何気ない一言が波紋を呼び、ブログが荒らしを含むさまざまなコメントでいっぱいになってしまうことがある。不特定多数の人が閲覧することも考えて書き込むことも大事だが、自分の思いもよらないことで批判されることもあるため、それも難しい。ほとんどのブログサービスには「コメントを受け入れない」という設定項目があるので、最初からコメントを受け付けない設定にするのも手。また、投稿されたコメントを自分が確認してから掲載する、という設定ができるサービスもある。

1 コメントを受け付けない設定にする



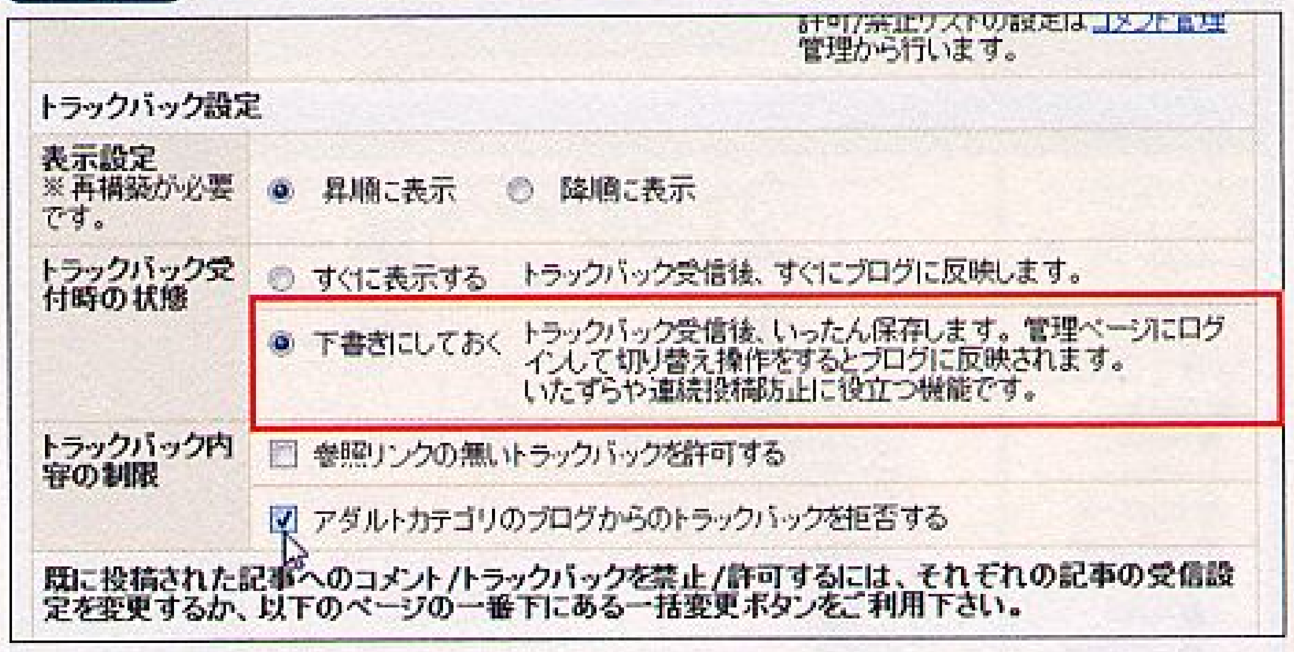
たいていのブログサービスにはコメントの受信設定に関する項目が用意されている。最初からコメントを受け付けない設定にしておけば、自分の書き込みに対して、不特定多数の人間の反応を気にしなくてもすむ。また、炎上してしまった後も、コメントを受け付けないようにすればとりあえず今以上の被害は防げるはずだ（画面はlivedoor Blogの場合）

2 コメントをすぐに掲載しない設定にする



1でコメントを受け付けない設定にしてしまうと、自分のブログに対しての反応がまったくなくなるため、それも寂しい。そんなときは、コメントを受け付けたときすぐに掲載しないで、いったん内容を確認してから掲載する設定にしよう。これならいたずら目的の書き込みや悪質な荒らしを防止できる

3 トラックバックを受け付けない設定にする



トラックバックとはブログの公開者が、自分のブログがどんなサイトにリンクされているか知ることのできる、自動双方向リンクのようなもの。通常は、面白い記事などに対して、引用者がそのブログにトラックバックをつける、という嬉しい機能なのだが、批判や荒らしのためにあちこちのサイトにトラックバックされてしまうと、炎上の原因になりやすい。そこで、トラックバックを受け入れない設定にしたり、コメントと同じように、いったん保存して内容を確認してから許可することもできる

もっと快適!!テクニック

承認制でも安心できない？「縦読み」とは

誹謗・中傷、個人名の書き込みはブログのサービススタッフが監視し、手動で削除してくれることもある。さらにコメントの承認制などにより悪質な書き込みはかなり防止されるようになってきた。しかし、最近では、直接不快な書き込みをせず、一見、普通の文章に見せかけて、文頭の文字だけを縦に読むと「おまえしね」などとするような「縦読み」もよく見かける。「ね」で始まる文章がなかなかないため「猫大好き」という一文が、意味なく最後に使われることが多い。このように悪質なコメントへの対処はいたちごっこになりつつあるが、個人情報の開示など悪質な場合はプロバイダに申し立ててそのIPアドレスからの書き込みを禁止してもらうことも検討しよう。

Keyword 炎上
ブログが批判コメントや荒らしのコメントでいっぱいになることを「炎上」するという。最近では芸能人、著名人のブログが「炎上」してしまい、閉鎖に追い込まれることもあった。

難易度 普

ネットワーク内にあるパソコンにアクセスできない

快適指数

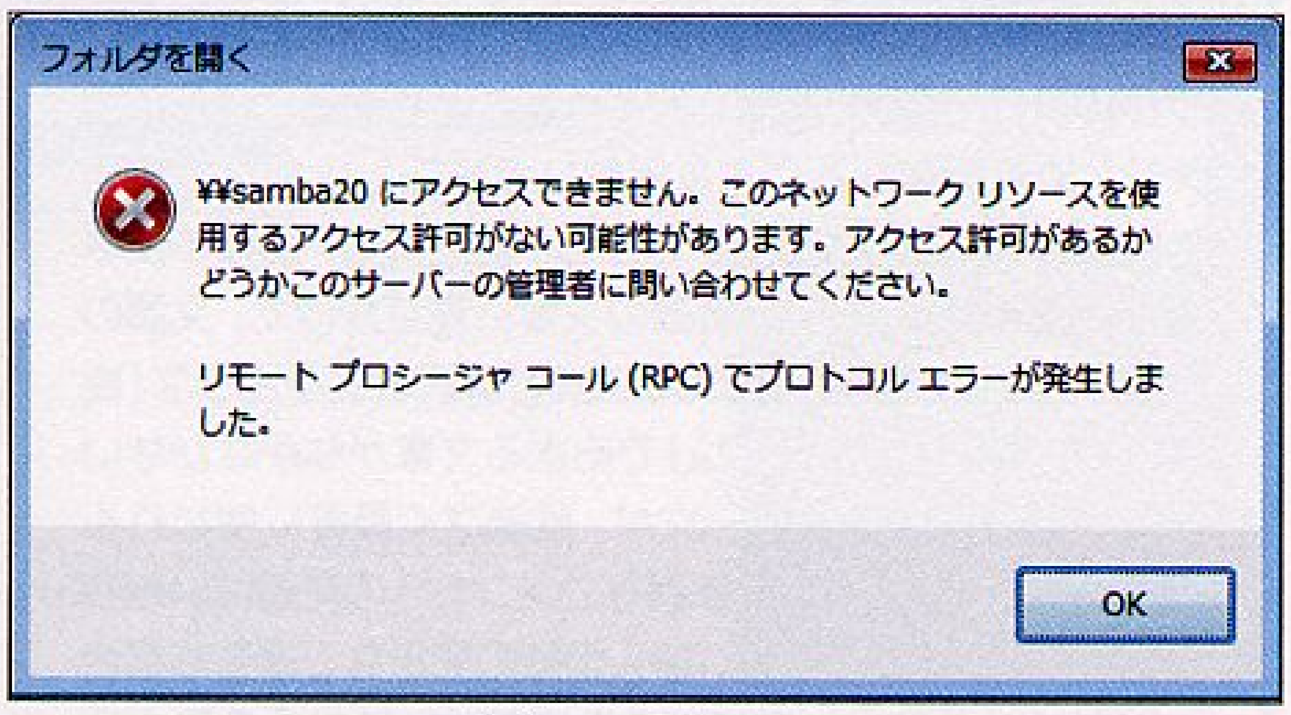
解決
●共有設定やアクセス権を確認する
●セキュリティ設定を変更する

ファイル共有をしようと思っても、相手のパソコンの共有フォルダが見えなかったり、見えても開けなかったりすることがある。これは、「共有フォルダが作られていない」「アクセスする権利がない」といった理由でそもそも共有が可能になっていない場合と、ファイアウォールに侵入を阻止されているといった、セキュリティ設定のミスが考えられる。また、バージョンの異なるWindows同士では、両者で設定方法が異なるため、接続ミスも起こりがちだ。そこで、VistaとXPで接続する際の、XP側の設定も紹介しよう。

ネットワーク上のパソコンを確認する

ネットワーク上のパソコンを確認するには、「スタート」メニューから「ネットワーク」をクリックする。ネットワークの一覧が表示される。アクセスしたいパソコンをダブルクリックすればいい。ネットワーク上にパソコンが見えていないなら146ページを参照してみよう

共有エラーの警告画面



アクセスしたパソコンに共有フォルダがないときに出るエラー。共有フォルダを作成する必要がある

共有フォルダを作成する

1 Vistaパソコンで共有フォルダを作成する

アクセスしたいパソコンに共有フォルダが作成されていなければ、ネットワーク上に見えていてもアクセスできない。Vistaで簡単に共有フォルダを作るには、あらかじめ用意された「パブリックフォルダ」を使おう。パブリックフォルダ共有を有効にするには、49ページを参照しよう。任意のフォルダを共有設定したい場合は50ページを参照すること

2 XPパソコンで共有フォルダを作成する

VistaパソコンからXPパソコンにアクセスする場合も同様に、XPで共有フォルダが作成されている必要がある。「マイコンピュータ」を開き、「共有ドキュメント」を右クリック。「共有とセキュリティ」をクリックする。「ネットワーク上でこのフォルダを共有する」を選択すればOKだ

ワンポイント パブリックフォルダの利点

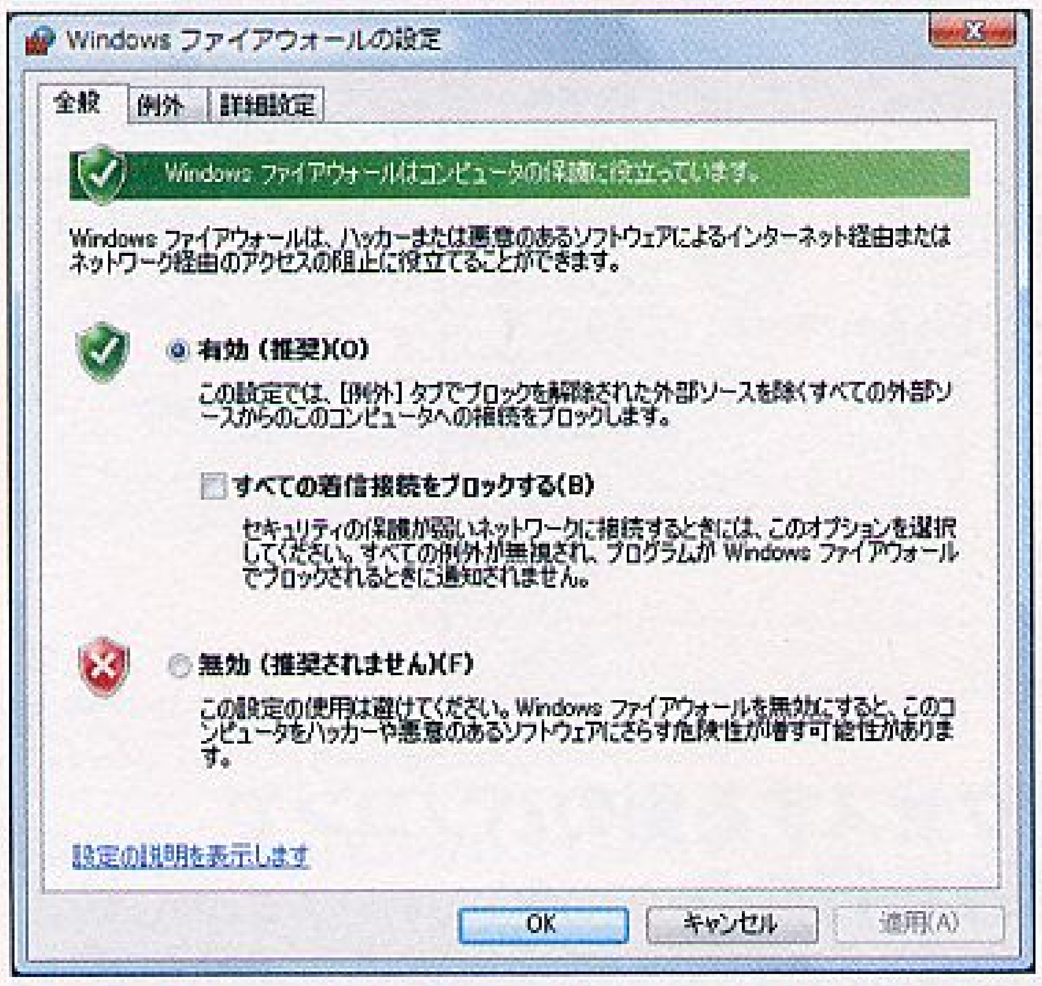
パブリックフォルダは、他のパソコンとのファイル共有が簡単にできるだけでなく、同一パソコン上のすべてのアカウントがアクセスできる。また、パブリックフォルダへのアクセス制限もできセキュリティ面でも安心だ。

共有フォルダにアクセスできないときは

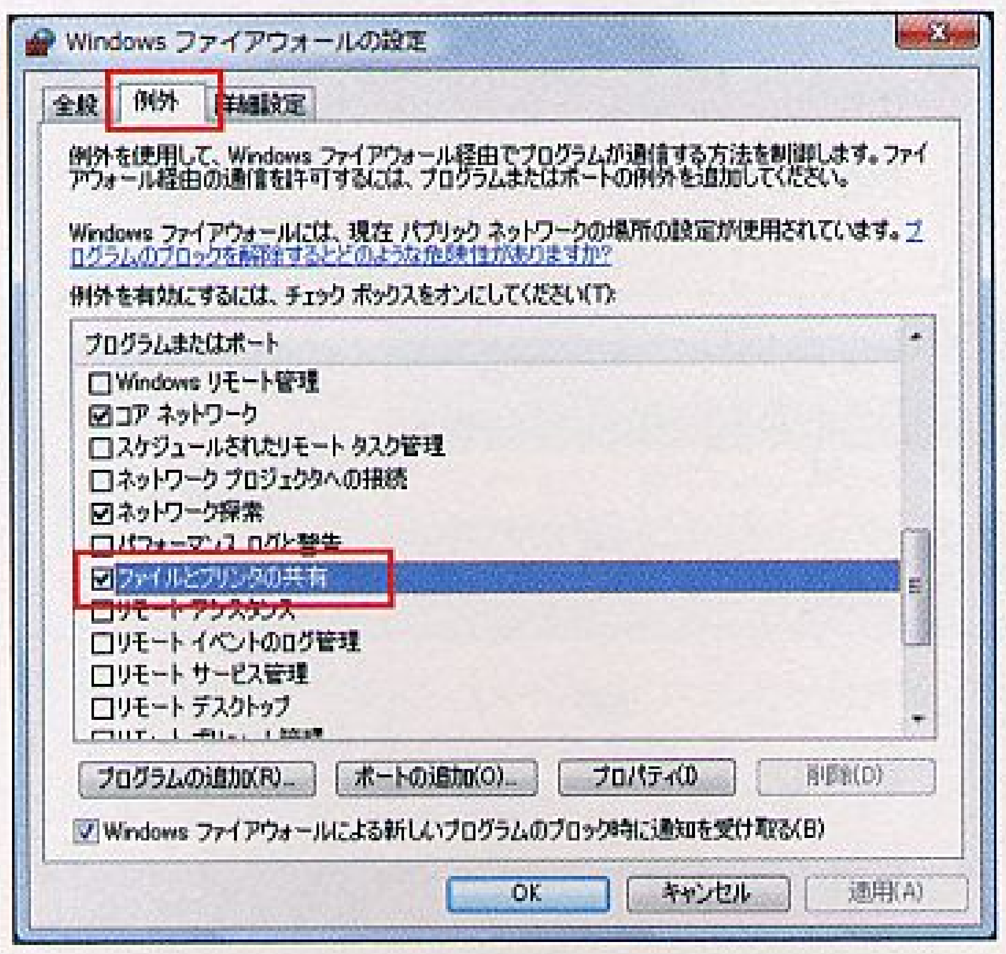
1 共有フォルダにアクセスしたらパスワードを求められた

共有フォルダにアクセスすると、ユーザー名とパスワードを求められる。アクセスしたいパソコンの「アカウント名」と「パスワード」を入力すればいい

2 パソコンに入っているファイアウォールを確認する

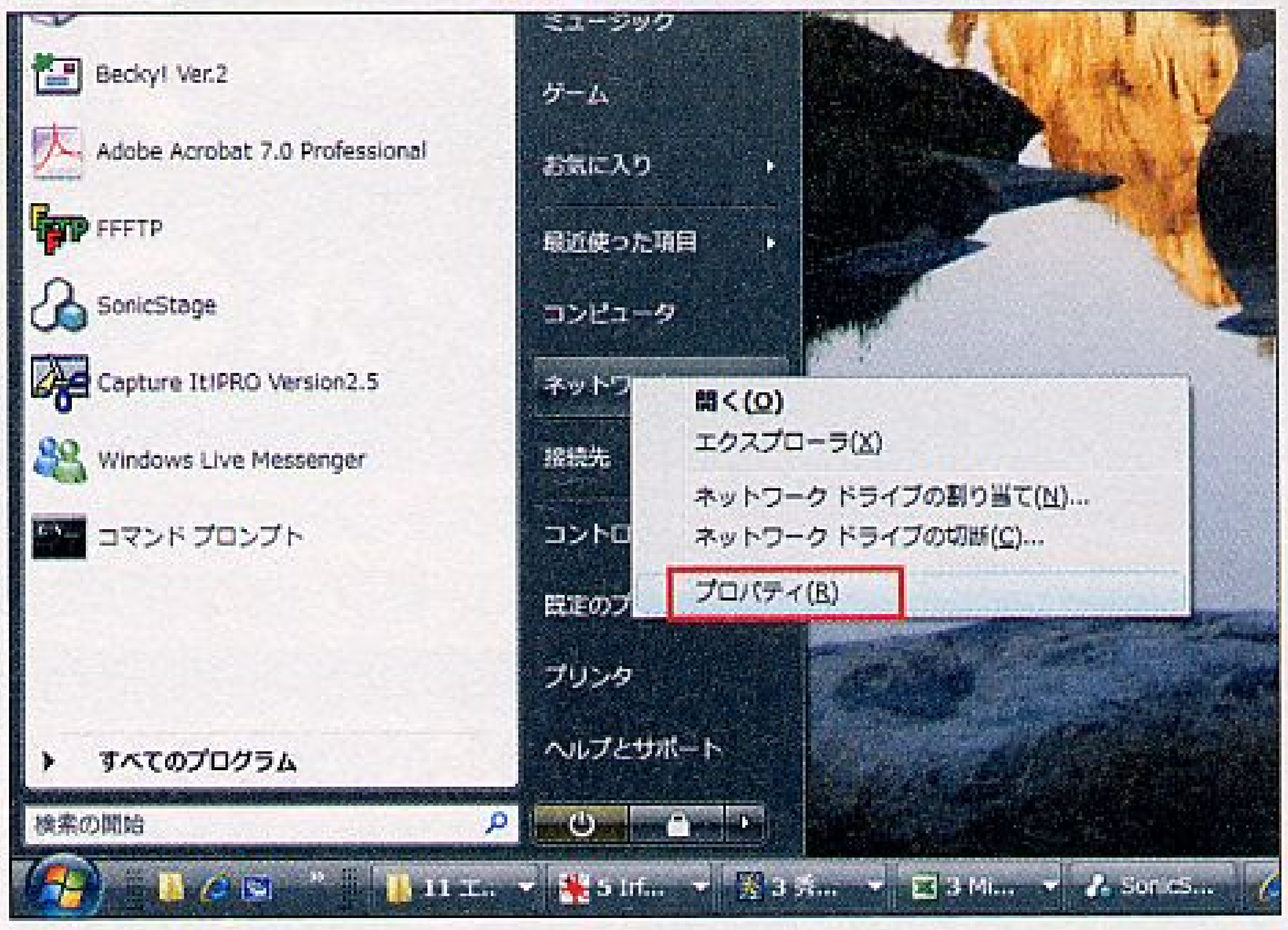


上記のやり方でも失敗する場合、ファイアウォールを一時的に無効にしてみよう。無効にしてやり取りができれば、ファイアウォールが原因だということがわかる。「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「セキュリティ」から「Windowsファイアウォール」項目の「Windowsファイアウォールの有効化または無効化」をクリックして設定しよう

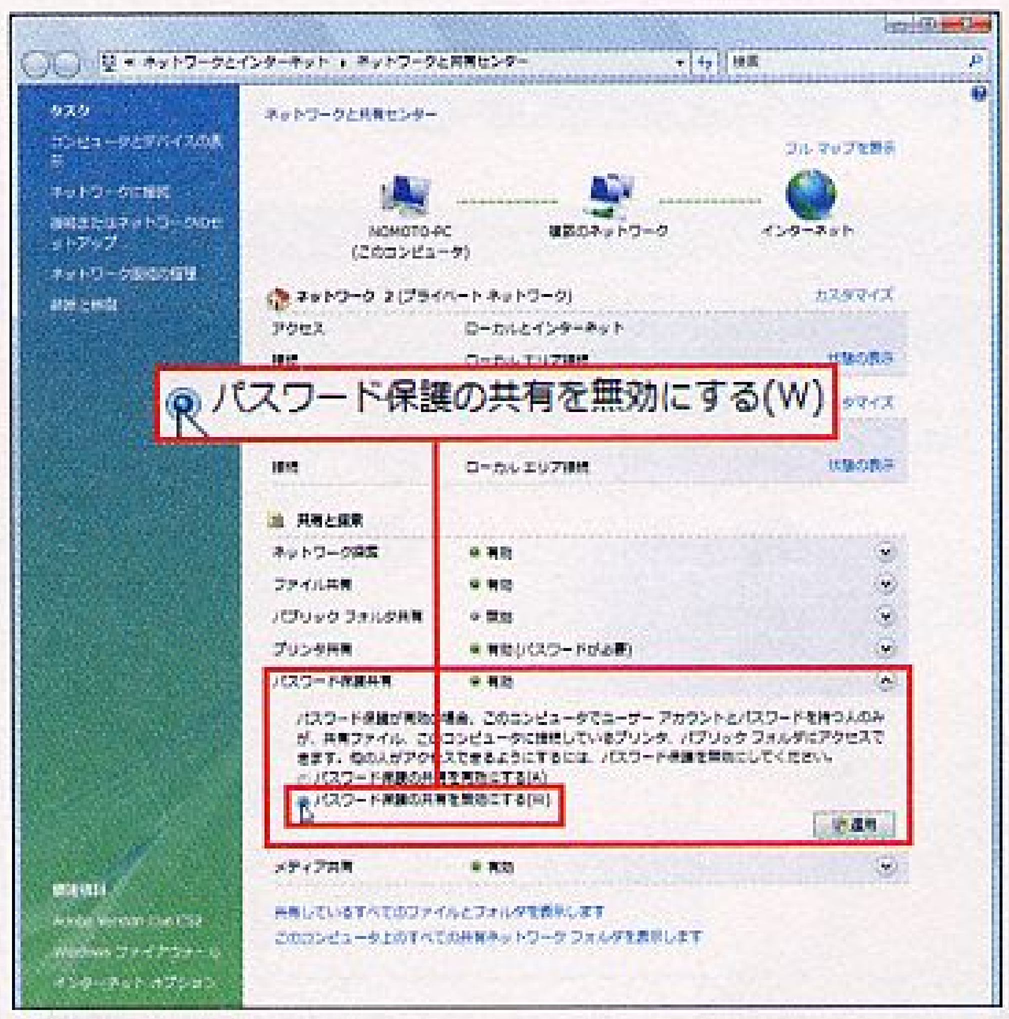


「例外」タブをクリックし、「ファイルとプリンタの共有」にチェックが入っていることを確認する。入っていなければチェックを入れ、再び「Windowsファイアウォール」を「有効」に戻しておく

3 Vista側でパスワード保護を無効にする



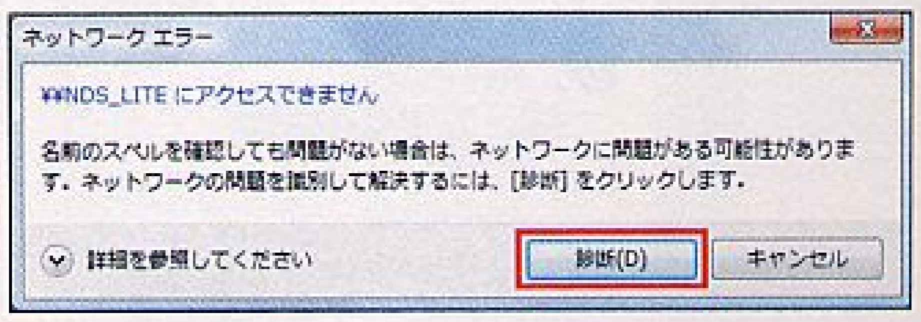
XPからVistaの共有フォルダにアクセスできない原因のひとつに、Vista側でパスワード保護が有効になっている可能性がある。「スタート」メニューから「ネットワーク」を右クリックし、「プロパティ」を選択。「ネットワークと共有センター」を開く

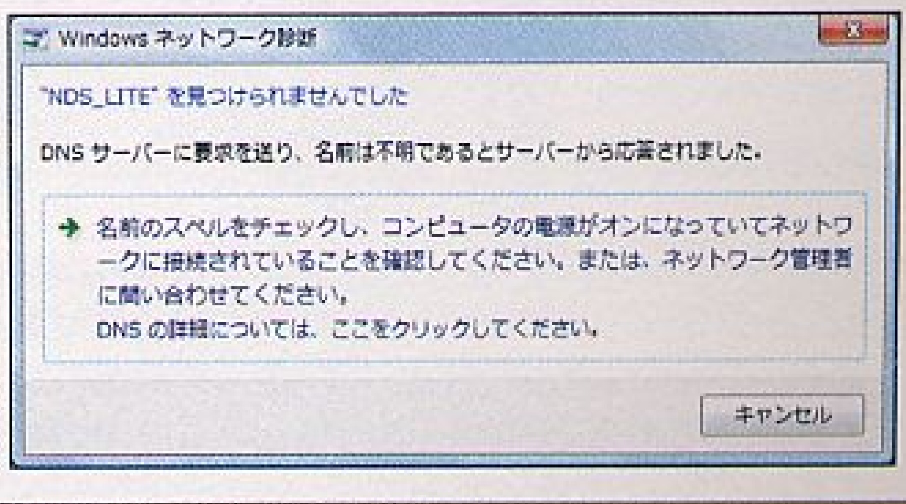


「共有と探索」項目の「パスワード保護共有」のプルダウンをクリックし、「パスワード保護の共有を無効にする」を選択。「適用」をクリックすればいい

もっと快適!!テクニック Vistaでファイル共有エラーが出たら「ネットワークの診断」を使う

Vistaでネットワーク上のパソコンや共有フォルダにアクセスできないときは、このような「ネットワークエラー」の画面が出る。その際「診断」をクリックすると、その原因を診断し、診断結果を表示してくれる。解決できないこともあるが、原因を発見する手段のひとつとして活用しよう。





ワンポイント 逆方向を試してみる

異なるバージョンのWindowsを使っている際は、「アクセス方向」が替わればアクセスできることもある。たとえばXPパソコンからVistaにアクセスできなかった場合でも、逆のVista→XPなら成功することがある。

難易度 普

ネットワーク内にあるはずのパソコンが表示されない

快適指数

解決 ●ネットワーク内のパソコンがすべて表示される
●ネットワーク内の異なるOSのパソコンが認識できる

ネットワーク内に複数台パソコンが接続されているとき、通常は「ネットワーク」からネットワーク内のすべてのパソコンを参照できる。しかし、つながっているはずのパソコンが表示されないこともある。そんなときはまず自分のパソコンを再起動してみよう。また、パソコンが起動している状態でないとネットワーク上には表示されないので、ネットワーク内のパソコンが起動しているかも確かめること。それでも表示されない場合は、表示させたいパソコンのIPアドレスを直接入力する以下の手順を試してみよう。

1 ネットワークを表示する

「スタート」メニューの「ネットワーク」をクリックするとネットワーク内にあるパソコンが表示される。しかし、つながっているパソコンが見えないときがある

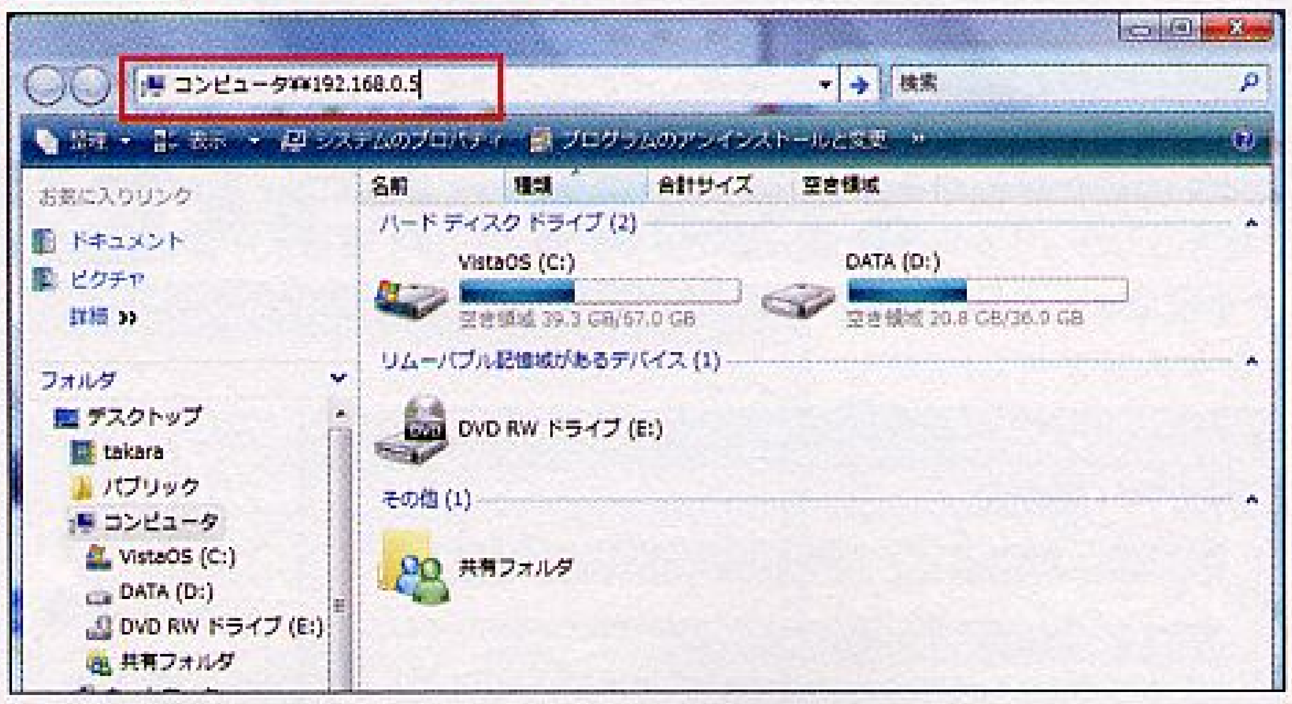
2 表示させたいパソコンで操作を行なう

まず、表示させたいパソコンで操作を行なう(ここではXPのパソコン)。表示させたいパソコンのIPアドレスを調べるため、「スタート」メニュー→「マイネットワーク」をクリック。「ローカルエリア接続(または「ワイヤレスネットワーク接続)」を右クリックし、「状態」をクリックする

3 パソコンのIPアドレスを調べる

「サポート」タブをクリックし、「IPアドレス」欄にある数字をメモする。この数字が、アクセスしたいパソコンのIPアドレス、つまり認識番号のようなものだ

4 アクセスする側のパソコンで操作を行なう



「スタート」メニューから「コンピュータ」を開き、アドレスバーに、「¥¥(3でメモしたIPアドレス)」を入力して「Enter」キーを押す。IPアドレスで指定したパソコンが表示されるようになった

ワンポイント
IPアドレス
パソコンの識別番号のようなもの。ネットに接続されたパソコンには世界でひとつ、固有のグローバルIPアドレスが割り振られ、さらにそのネットワーク内につながっているパソコンにはプライベートIPアドレスが割り振られる。

難易度 普

大事なファイルをうっかり削除してしまった!

快適指数

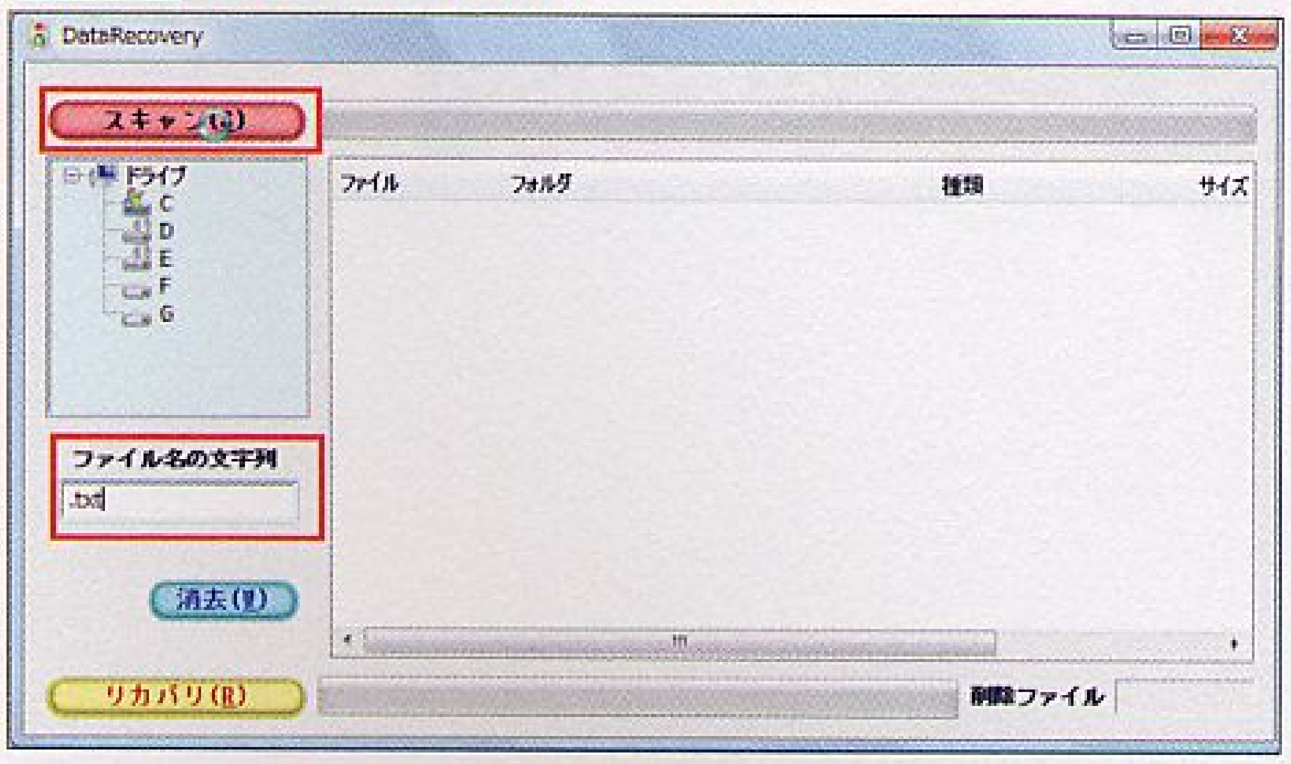
解決
●誤って削除してしまったファイルを取り戻せる
●市販の高価なソフトを買う前に無料で試せる

通常、ごみ箱に捨てたファイルは、ごみ箱という名のフォルダに移動したようなもので削除はされてはいない。しかし、ごみ箱を右クリックし、「ごみ箱を空にする」を実行するとファイルは削除され、パソコン内から見つけることはできなくなる。このように「ごみ箱を空にする」で、ファイルを誤って削除してしまった場合、削除後すぐであれば救出できる可能性がある。削除ファイルの復元ソフトは有料でも販売されているが、まずは手軽な無料のものから試してみてもいいだろう。ここでは「DataRecovery」を使ってみた。

1 サイトからソフトをダウンロードする

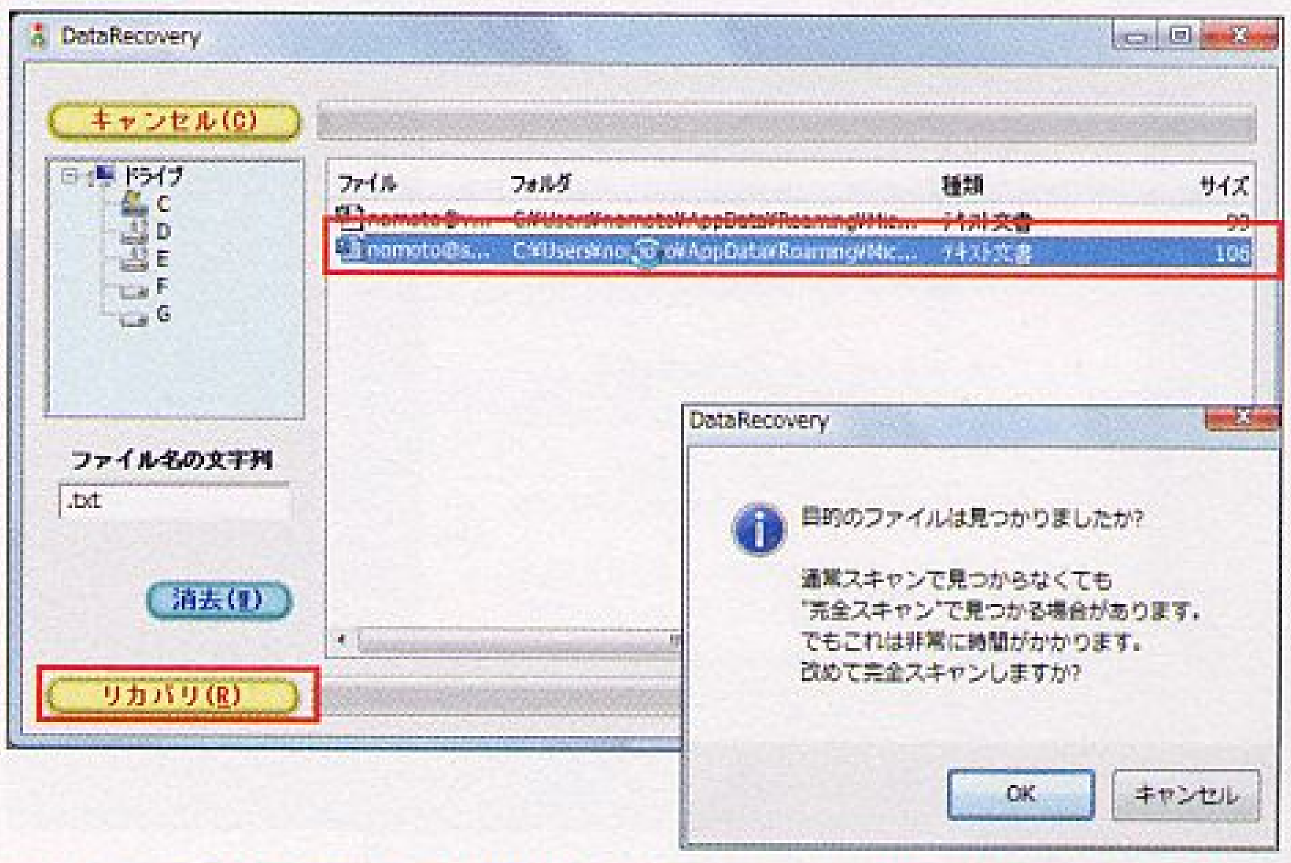
「DataRecovery」を作者のサイトからダウンロードする。トップメニューの「MENU」をクリックし、「便利ソフト」をクリック。「DataRecovery」の「詳細」を開き、ダウンロードする

2 探したいファイルの文字列を入力する



ソフトを起動し、復元したいファイルが入ったドライブを選択。探したいファイル名の目安になる「文字列」を入力する。何も入力せずにスキャンしてしまうと膨大な量のファイルが見つかるので、わかっているならできるだけ具体的なファイル名を入力しよう。終わったら「スキャン」をクリックする

3 スキャンが終了する



スキャンが終了するとこの画面が表示される。目的のファイルが見つかったら、選択して「リカバリ」をクリック。見つからなかった場合は、上記ダイアログで「OK」をクリックして完全スキャンを実行してもいい

4 リカバリしたファイルの保存

リカバリしたファイルの保存先を選択する。保存先は、リカバリしたいファイルが入っているドライブにせず、外付けハードディスクやUSBメモリなど別の場所を指定しよう

DataRecovery 使用ソフト
●作者：トキワ個別教育研究所　種別：フリーウェア
●対応OS：Windows95/98/Me/NT4.0/2000/XP/Vista
●URL：http://tokiwa.qee.jp/

ワンポイント シャドウコピーで復活
「ごみ箱を空にする」で削除してしまった場合でも、134ページの方法で復活できることもある。ファイルが保存されていたフォルダを右クリックし「以前のバージョンの復元」を試してみよう。

難易度 易

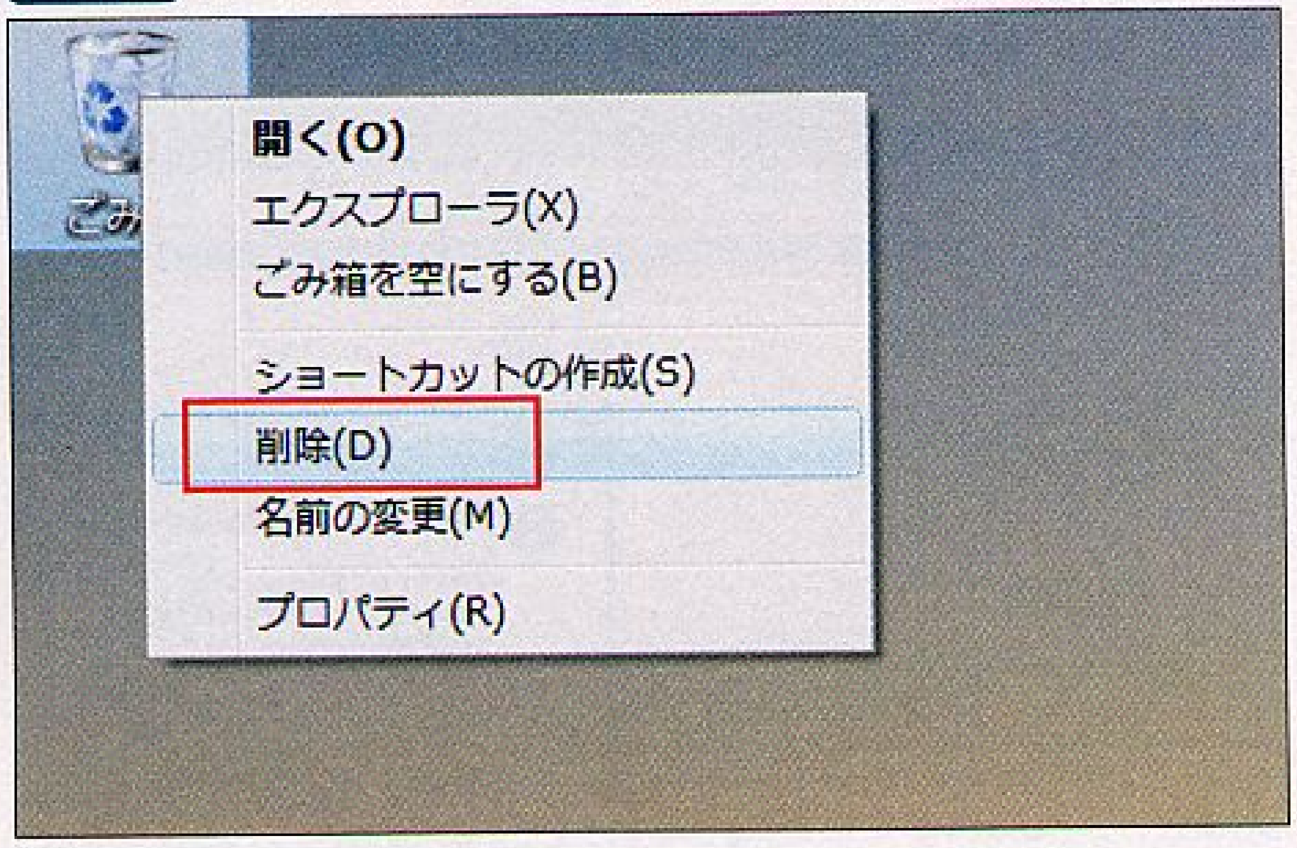
気付いたらデスクトップから「ごみ箱」が消えていた！

快適指数

解決
- ●消えてしまったごみ箱アイコンを元に戻せる
- ●ごみ箱を常に非表示しておくこともできる

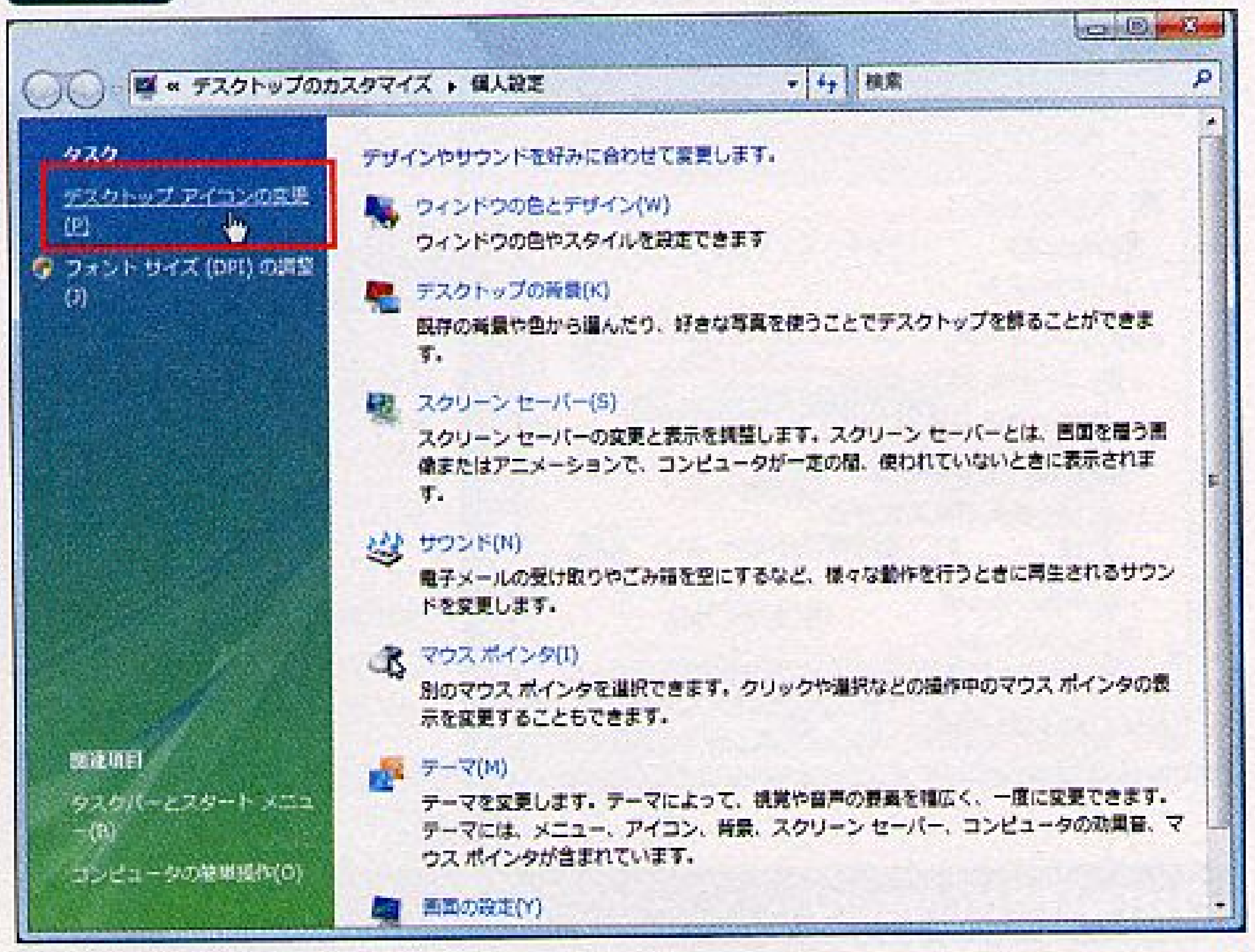
ごみ箱の中に入れたファイルを、ごみ箱から完全に削除するとき、「ごみ箱」を右クリックして「ごみ箱を空にする」を選択するはずだ。しかし、その際、右クリックメニューの中に「削除」という項目があるため、うっかりすると、「ごみ箱の中身を削除するんだから、削除」と勘違いしてしまいがちだ。「削除」をクリックしてしまうと、ごみ箱自体がデスクトップから削除されてしまう。ある日突然ごみ箱が消えていた、という現象が起きたときはたいていこの操作ミスを犯している。再びごみ箱を表示させるように設定を変更しよう。

1 ごみ箱を右クリックしてみる



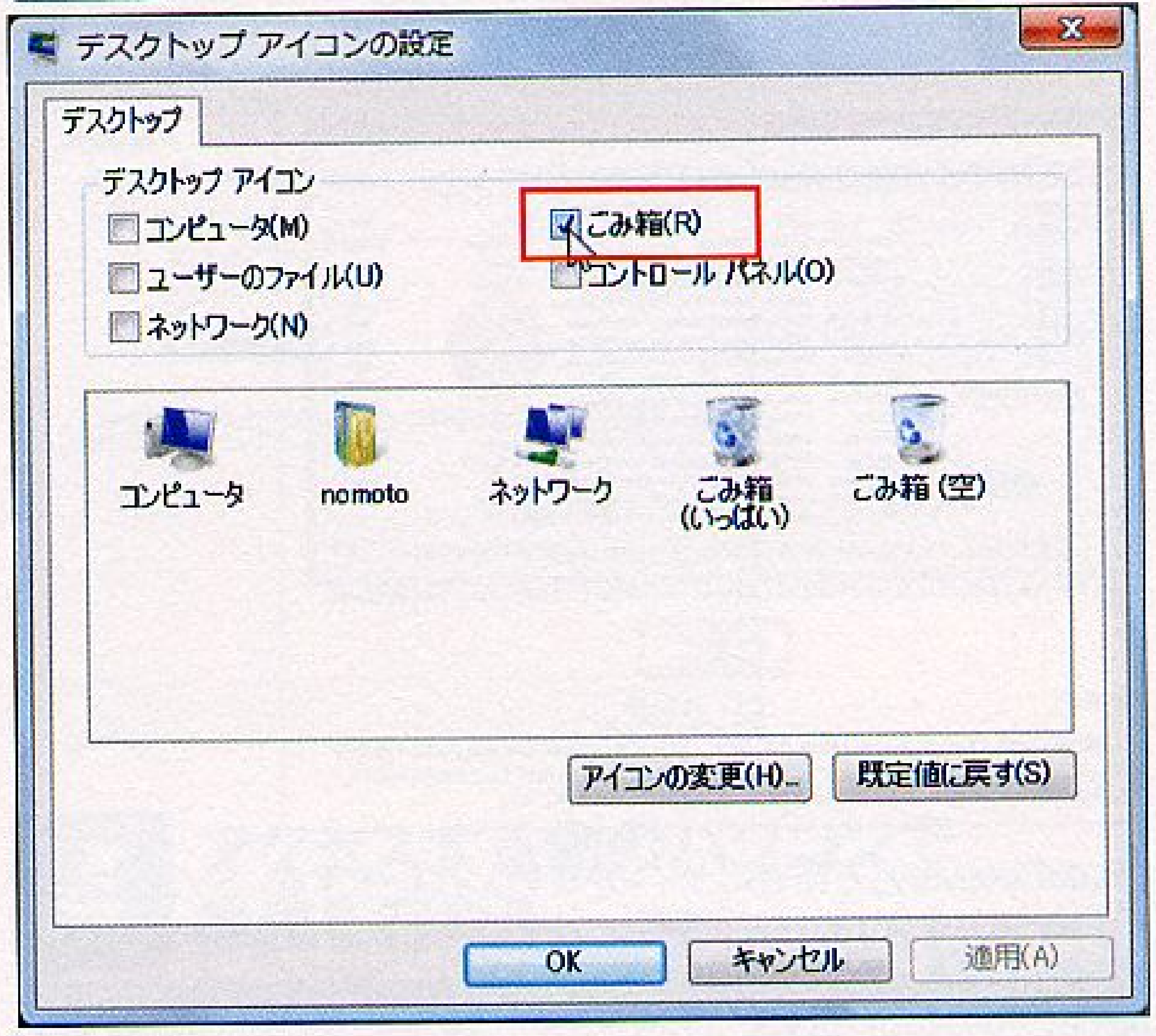
ごみ箱を右クリックすると、コンテキストメニューの中に「削除」という項目がある。うっかりしていると、ごみファイルを削除するつもりで、これをクリックしてしまい、ごみ箱自体を削除してしまうのだ

2 「個人設定」画面を開く



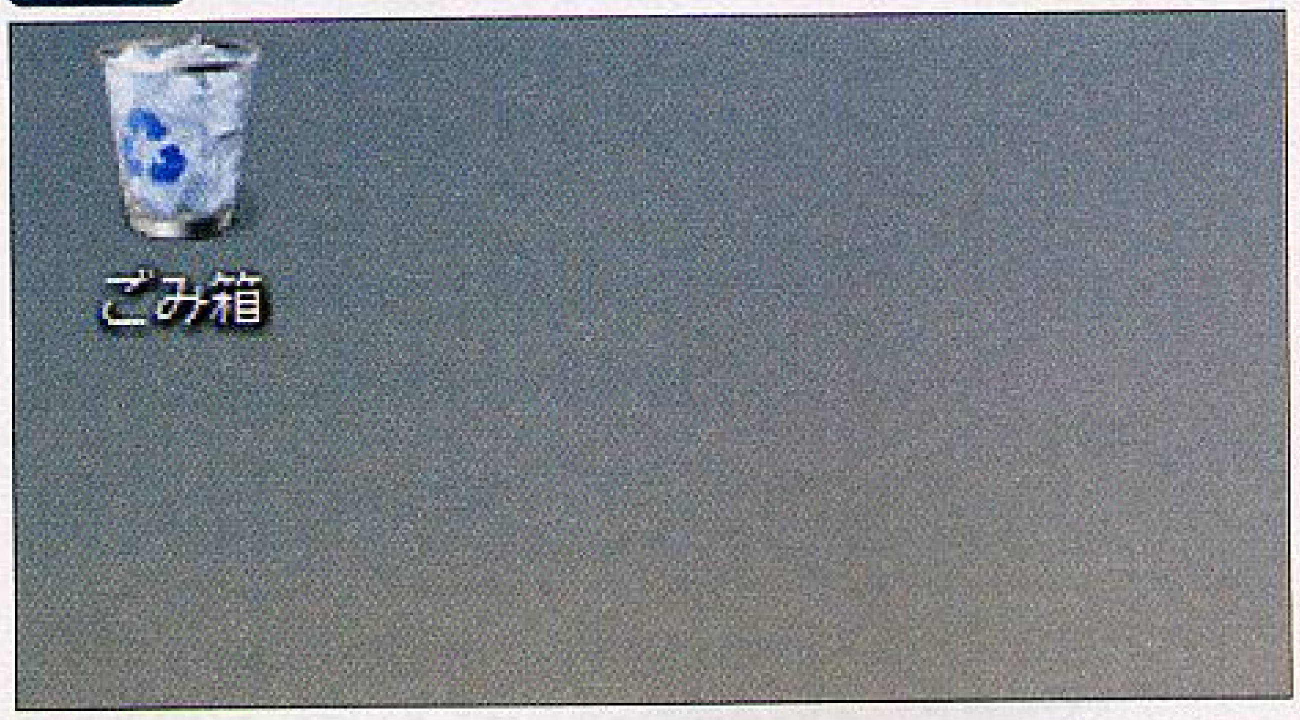
消えてしまったごみ箱を元に戻すには、デスクトップの何もないところで右クリック、「個人設定」を開く。開いたら「デスクトップアイコンの変更」をクリックする

3 表示させたい項目にチェックを入れる



「ごみ箱」にチェックを入れ、「OK」をクリックする。デスクトップに表示させたい項目が他にもあれば、合わせてチェックしておこう

4 ごみ箱が復元された



デスクトップにごみ箱が復活した。しかし、デスクトップにごみ箱は不要、という人は 3でごみ箱のチェックを外しておけばいい

ワンポイント ごみ箱を通さず削除

ファイルの削除は、ファイルを右クリックし、「削除」を選択すれば行なえるが、この操作ではごみ箱に移動しただけ。ごみ箱に入れずに直接完全削除したいときは「Shift」キーを押しながら「Delete」キーを押せばいい。

難易度 普

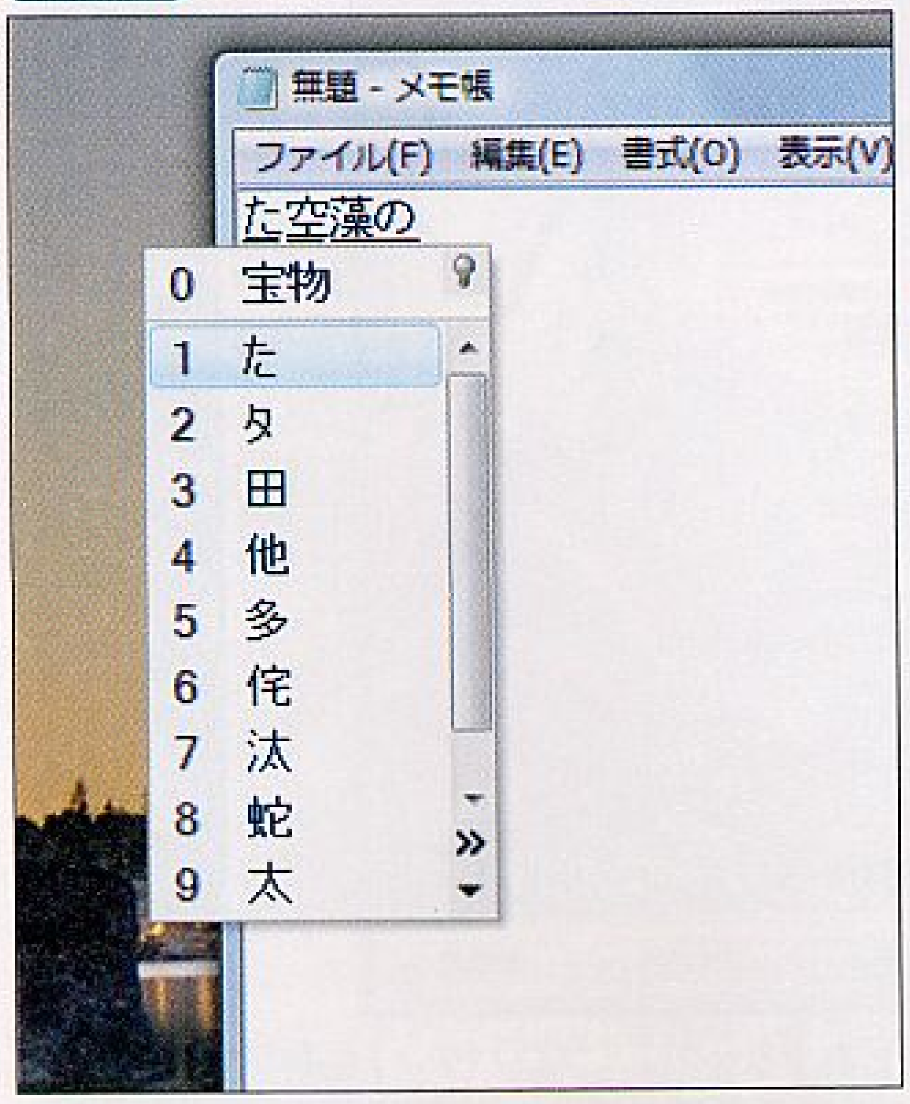
いつもは変換できる漢字が突然変換できなくなった！

快適指数

解決
- ●いつもは変換できる漢字が変換できなくなるトラブルが解決できる
- ●文節区切りがおかしくなる現象の解消

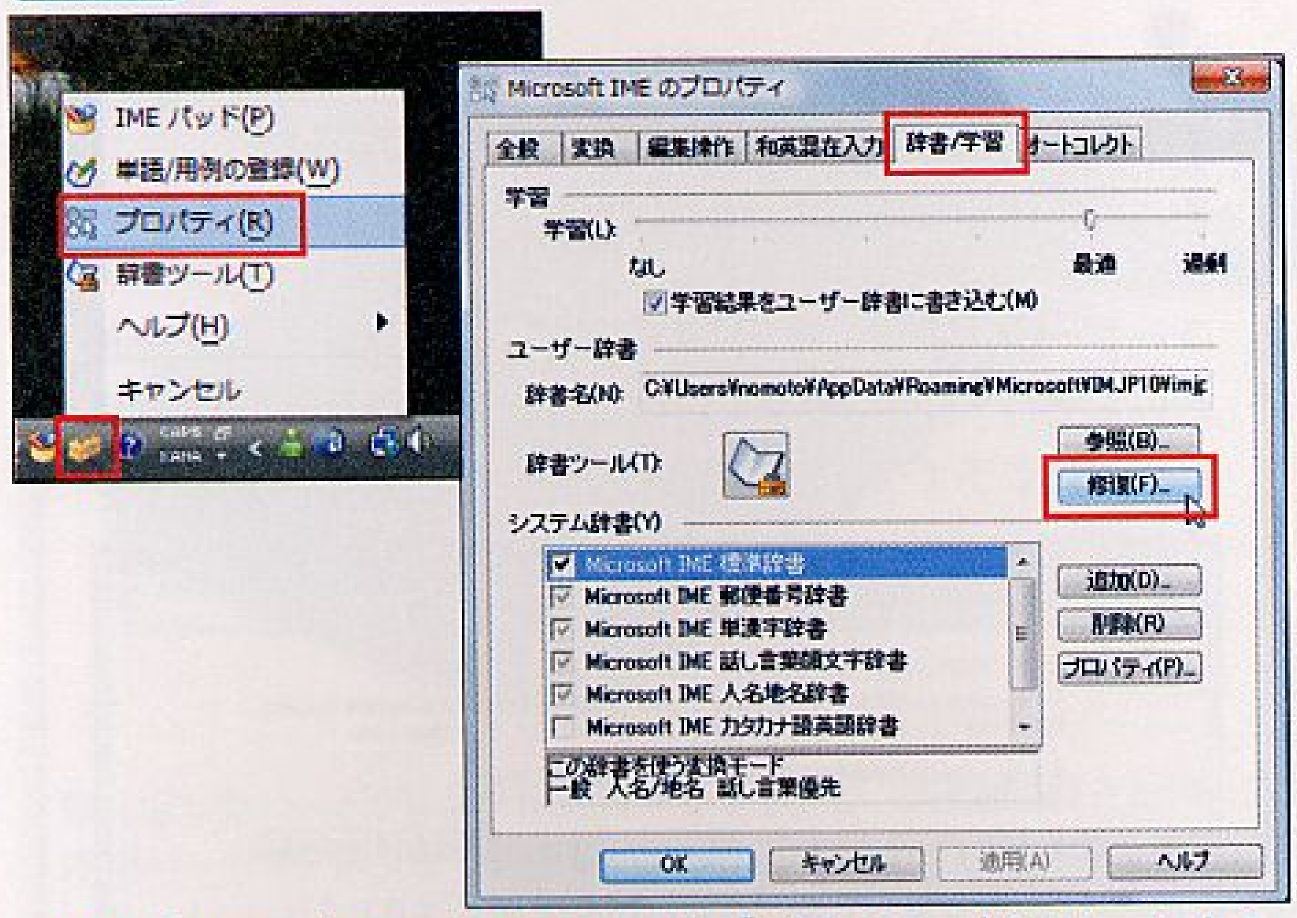
Windowsの日本語入力ソフト「Microsoft IME」は学習機能を持っており、ユーザーの入力を常に学習し、頻繁に入力する変換候補が変換リストの上位に表示されるようになっている。こうして蓄積された「ユーザー辞書」が不具合を起こし、いつものような変換ができなくなってしまうことがある。この場合は、「ユーザー辞書」の修復を試してみよう。また、Officeをインストールしていて、Microsoft IMEが「Office IME」になっている場合は、Officeのアップデートをすることで改善されることもある。

1 変換がおかしい状態



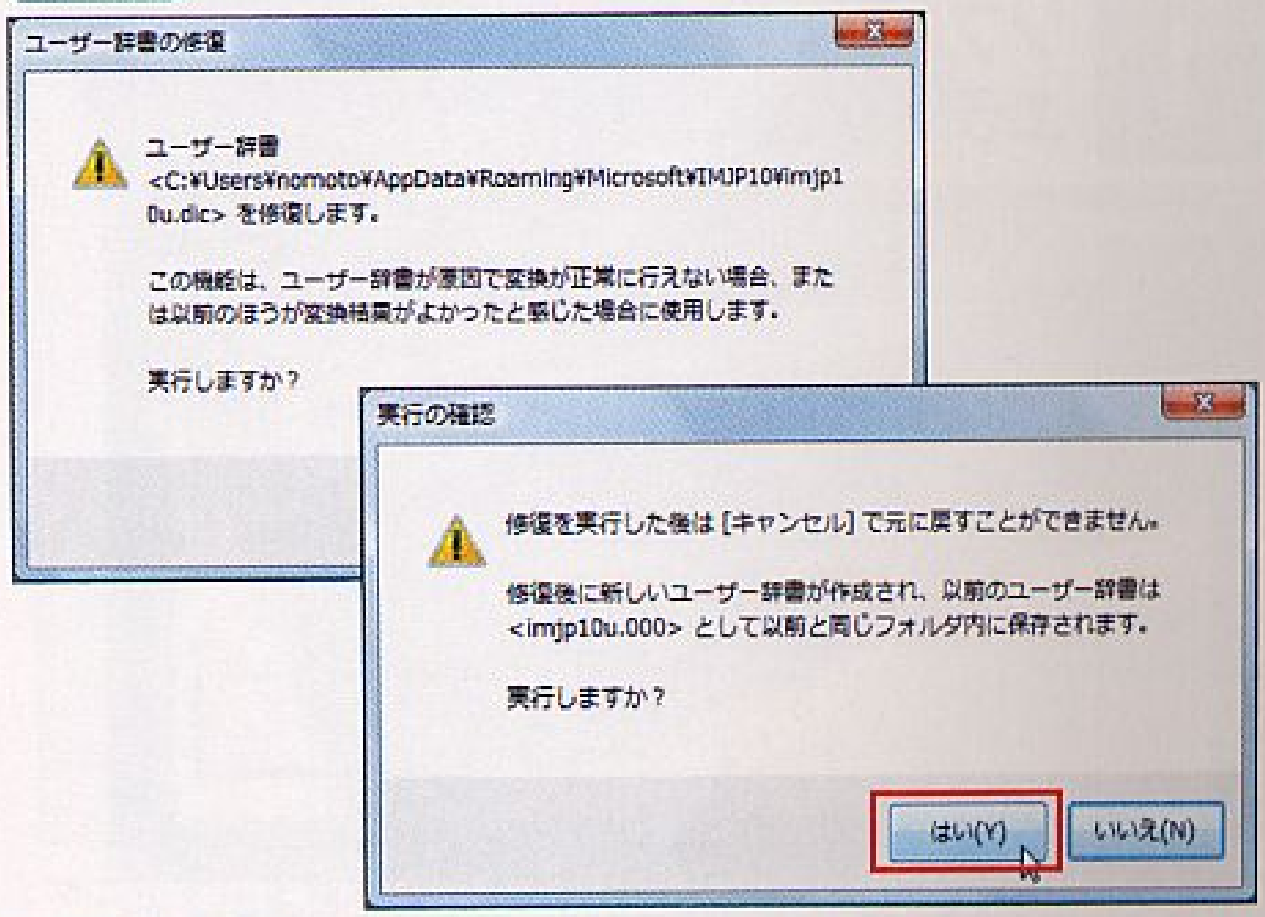
「たからもの」と変換してみた。通常なら「宝物」と変換されていたが、画面ではおかしな変換になってしまっている

2 IMEのプロパティを開く



IMEの「ツール」アイコンをクリックし「プロパティ」をクリックする。「Microsoft IMEのプロパティ」が開いたら「辞書／学習」タブの「辞書ツール」項目にある「修復」をクリックする

3 辞書ツールを修復する



「修復」をクリックすると、上の警告画面が出るので「はい」をクリックする。さらに実行の確認が出るので「はい」をクリックする

もっと快適!!テクニック Office IMEの日本語修正プログラムで問題を解決する

Microsoft Office 2007をインストールするとIMEの強化版であるMicrosoft Office IME 2007を使うことができる。この、Office IME 2007で「漢字に変換できない」「文字の変換が遅い」というトラブルが報告されている。この問題を修正するための修正プログラムがマイクロソフトから配布されているので、上記のような不具合がおきたなら、実行してみよう。

マイクロソフトのダウンロードセンター（http://www.microsoft.com/downloads/）から「Office」を選択し「2007 IME」で検索すればすぐに見つけることができる

ワンポイント 辞書の修復とは

2の「修復」をクリックすると辞書の学習機能をリセットできる。以前のユーザー辞書は同じ場所に保存されているし、これまで登録した単語などは消えないので安心して実行できる。

難易度 普

XPで愛用していたソフトがVista上で実行できない!

快適指数

解決
●Vistaに正式対応していないソフトでも使えることがある
●お気に入りのソフトを引き続き使用できる

XPからVistaにアップグレードした場合、以前は使えていたソフトが起動しなくなることがある。また、ソフトをインストールしようとするとエラー画面が出て、実行できないことがある。これはそのアカウントでソフトを実行する権限がないか、ソフト自体のOS対応の問題のどちらかであることが多い。前者の場合、実行ファイルを「管理者として実行」すればよい（管理者でない場合は管理者の許可が必要）。後者の場合は、実行ファイルを「互換モード」というXPと互換性の高いモードで実行すると、うまく実行できることがある。

ソフトを管理者として実行する

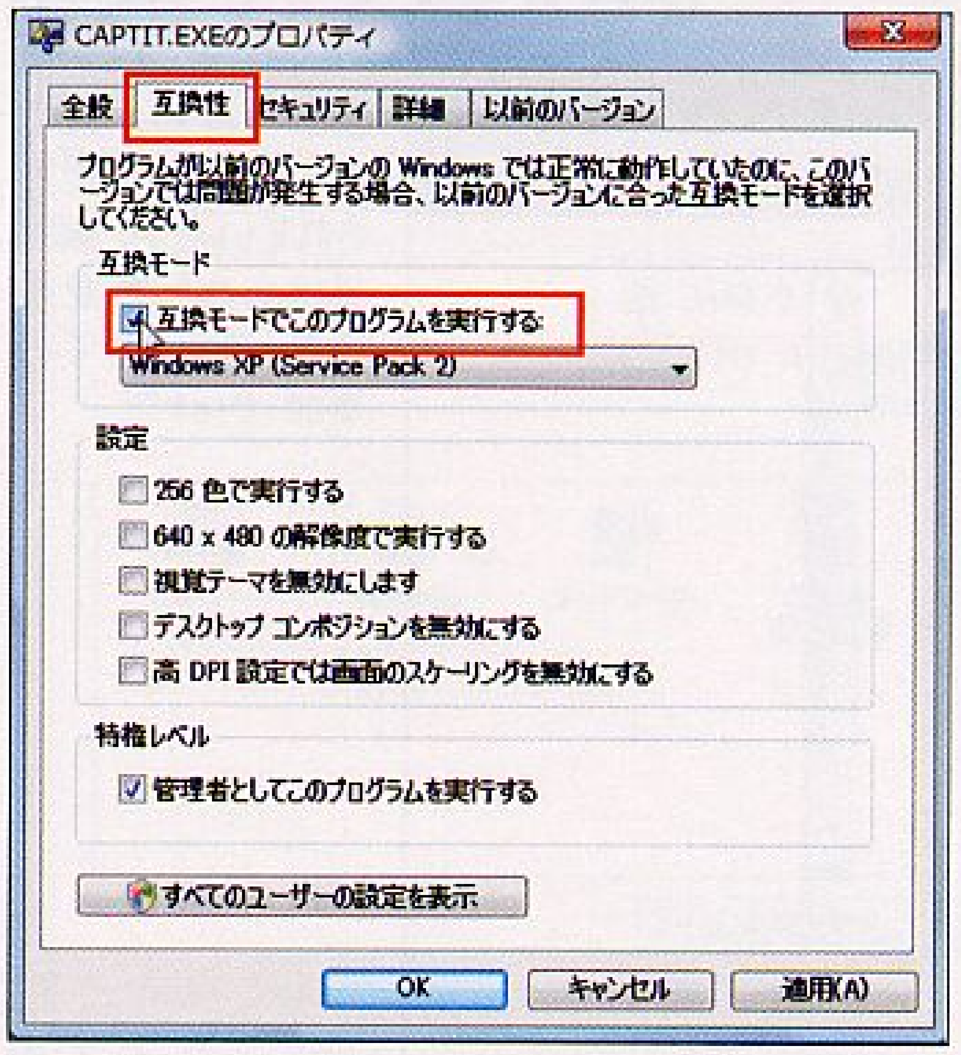
1 ソフトを起動するとエラーが出てしまう

ソフトを起動するとこのようにエラーが出てしまうことがある

2 「管理者として実行」をクリックする

エラーが発生するソフトのショートカットを右クリックし（ショートカットがない場合は作成する）、「管理者として実行」をクリックする。一度行なえば 1 のエラーは出なくなるので、毎回この作業を実行する必要はない

互換モードでソフトを実行する

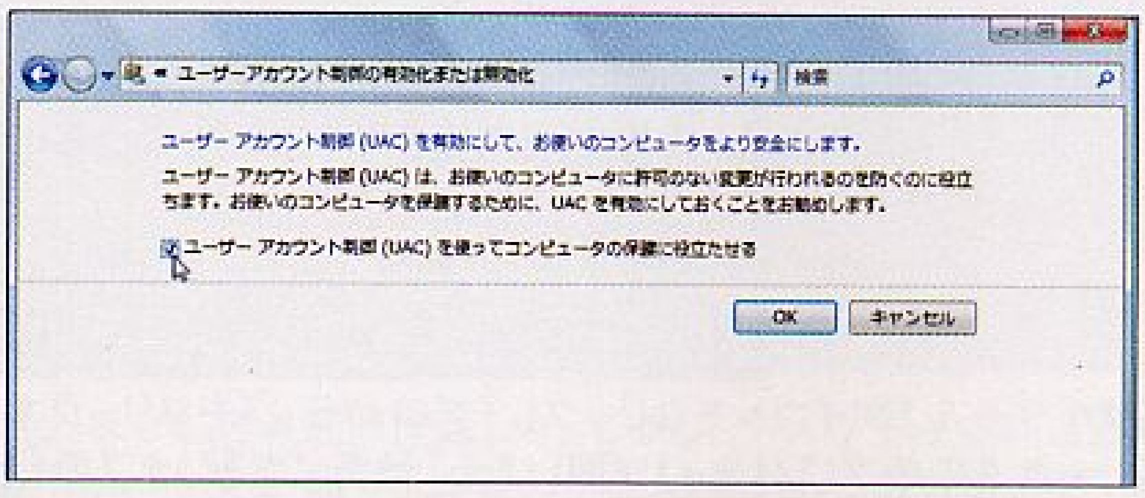


ソフトのショートカットを右クリックし、「プロパティ」を選択する。「互換性」タブから「互換モードでこのプログラムを実行する」にチェックを入れ、「OK」をクリック。別のOSとの互換モードで実行できるようになり、Vista対応ソフトでなくてもうまく実行できるようになるものもある

もっと快適!!テクニック

ユーザーアカウント制御が無効になっている場合

ユーザーアカウント制御が無効になっていると、「管理者として実行」がクリックできなくなってしまう。8ページを参照してチェックを入れておこう。



Keyword 互換モード

過去のWindowsのバージョン向けに作成されたソフトを実行できるようにするためのモード。XP対応ソフトであれば、互換モードで実行することで動くことも多い。しかし古いソフトでは実行できないこともある。

難易度 難

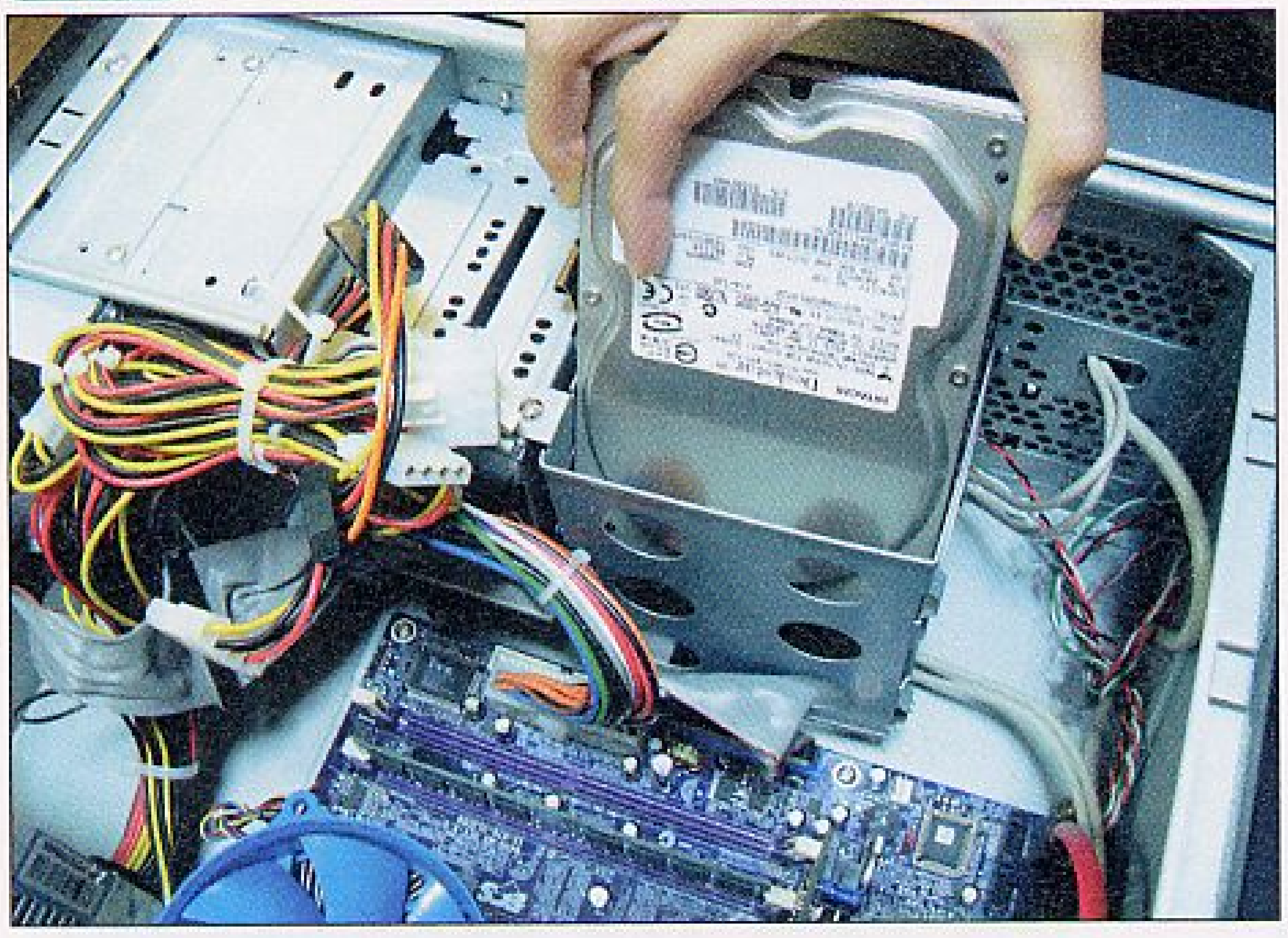
どうしても起動できないパソコンからデータだけでも救出したい

快適指数

解決
●パソコンが起動しなくてもハードディスクの中身を救出できることがある
●余っている内蔵ハードディスクを外付けにすることができる

パソコンが突然起動しなくなってしまった、という恐るべきトラブルに見舞われてしまったら、まずは132ページを参照してトラブル解決を試みてみよう。それでもだめな場合、「せめてハードディスクの中身だけは取り出したい」と思うことがあるだろう。不調の原因がハードディスクの物理的な破損でない限り、中のデータは取り出すことができる。内蔵用のハードディスクを外付けにできる「ハードディスクケース」を購入し、外付けのハードディスクとして読み込む方法だ。これを他のパソコンに接続し、データを移動しておこう。

1 起動しなくなったパソコンからハードディスクを取り出す

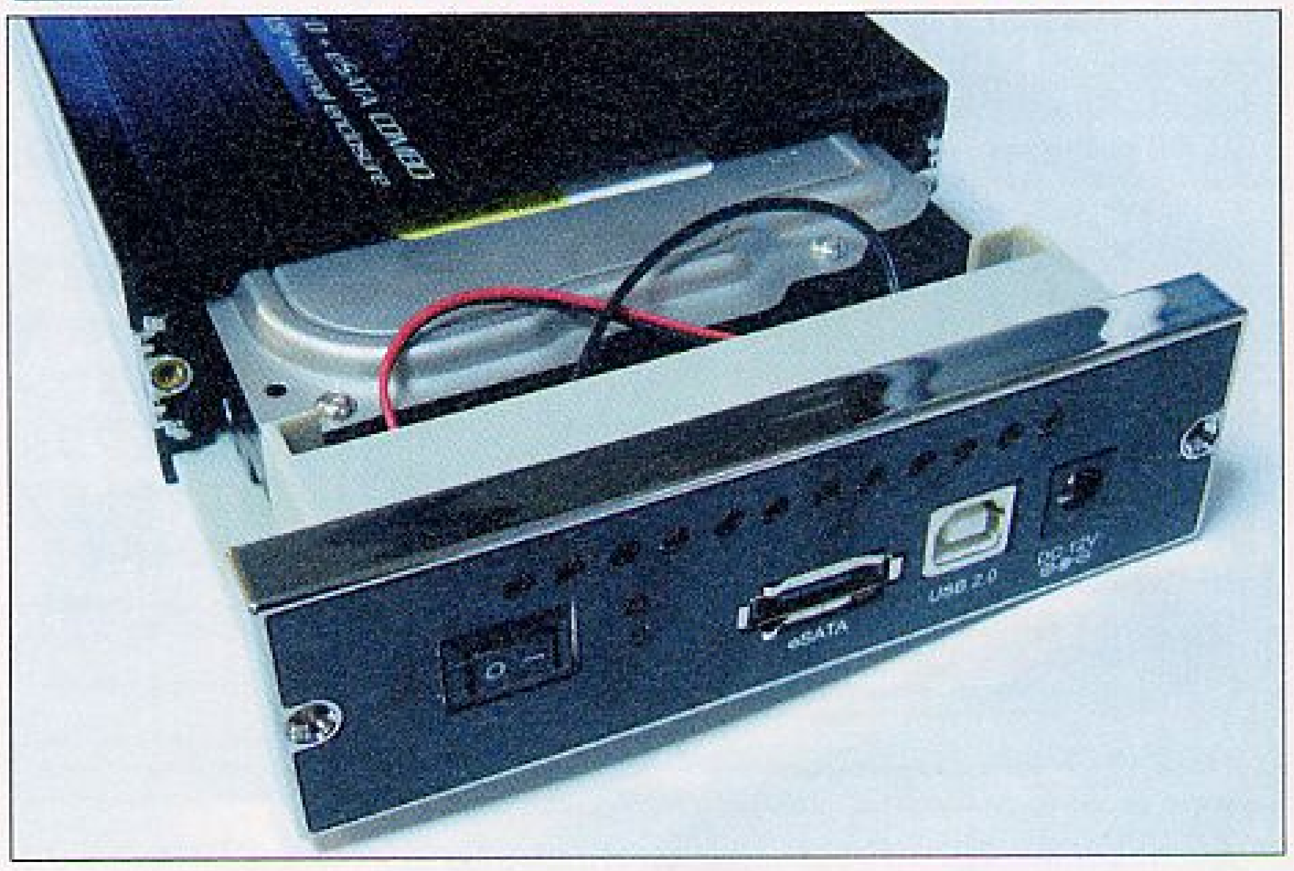


起動しなくなってしまったパソコンのケースを開けて、ハードディスクを取り外す。ノートパソコンの場合は、取り出すのが難しいタイプもあるので、よくわからない場合はやめておこう

2 外付け用ハードディスクケースを用意する

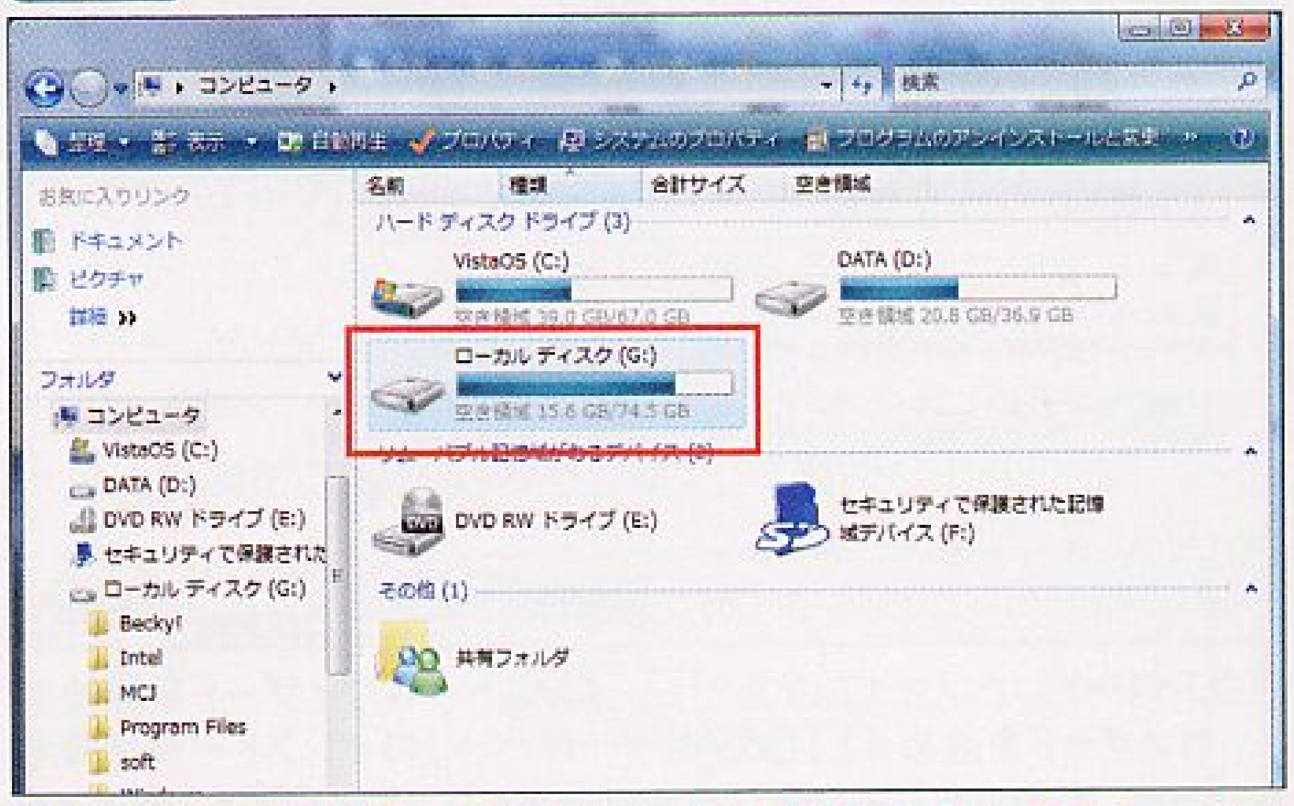
取り出したハードディスクを外付けドライブとして認識させるため、外付け用ハードディスクケースを購入する。デスクトップパソコンなら3.5インチ、ノートなら2.5インチ対応のものを選ぶ。またハードディスクのインターフェースも確認して購入すること(写真は「サンワサプライ TK-RF35SAUBK」実勢価格 6,800円)

3 取り出したハードディスクをハードディスクケースにセットする



マニュアルを確認し、購入したケースに取り出したハードディスクをセットする

4 他のパソコンに外付けドライブを接続する



壊れたパソコン以外のパソコンに、外付けドライブを接続する。ハードディスクの場合は、通常ドライバは不要。「スタート」メニューの「コンピュータ」をクリックし、ハードディスクが認識されたか確認しよう。認識していれば、開いて必要なデータを取り出す。ただし接続したときに「フォーマットしますか」と出るようなら、ハードディスクの中身が認識できず壊れている状態。その場合はフォーマットせずに復旧の専門会社などに任せるしかない

注意 ハードディスクの破損

この方法はハードディスクが物理的に壊れていない場合のデータ救出方法。しかし、物理的破損かどうかを判断するのは難しい。ハードディスクケースの購入が無駄になる可能性があることも考慮して検討すること。

難易度 普

ダウンロードした動画ファイルが再生できない

快適指数

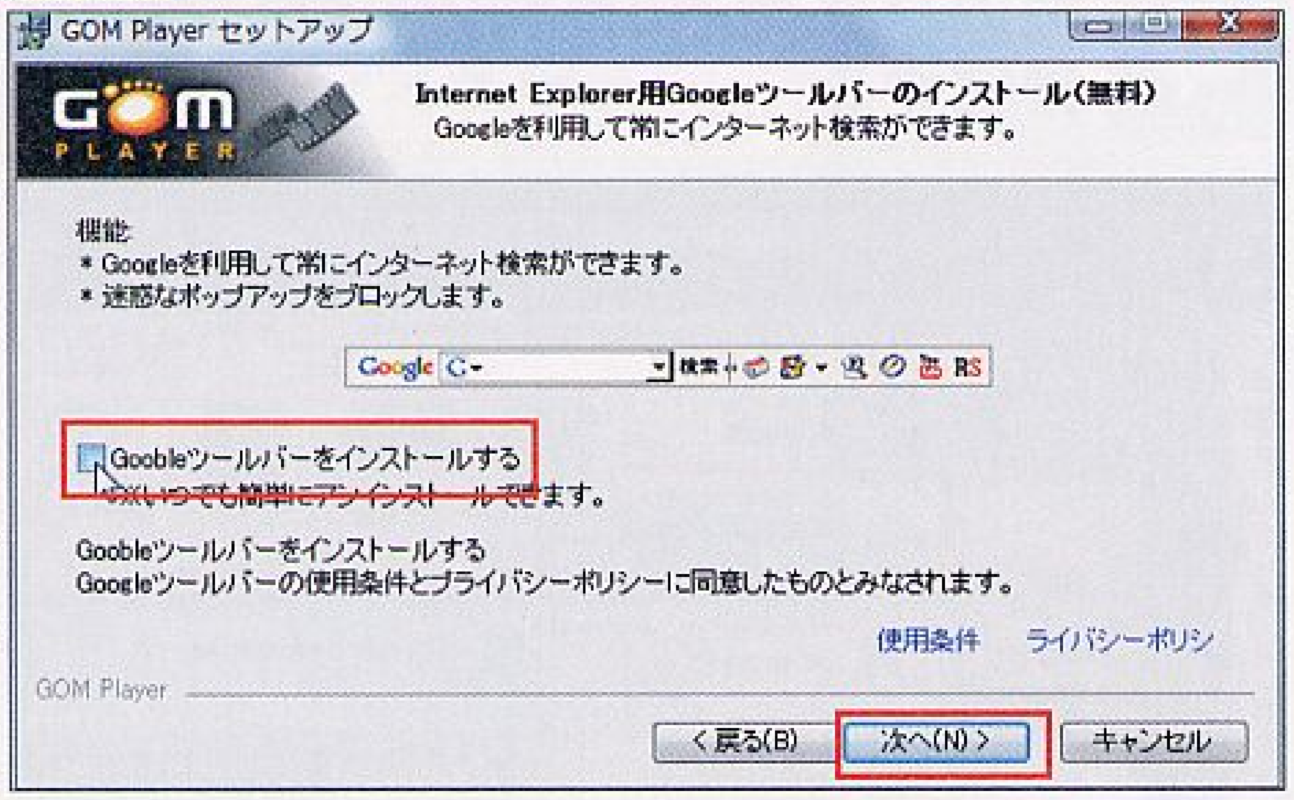
解決
●動画のコーデックがわからなくても再生できる
●いろいろな形式の音声ファイルが再生できる

インターネットで入手した動画や、人からもらった動画を再生することができない、ということがあれば、コーデックが足りない可能性がある。動画ファイルはコーデックを使用して圧縮されているため、再生にもそのコーデックが必要になるのだ。しかし、コーデックの種類はさまざまあり、すべてに対応させるのは難しい。そんなときは多くのコーデックに対応したプレイヤーをインストールしてみよう。これならコーデックの種類を気にすることなく、種類がわからなくても再生できる。また、さまざまな音声ファイルにも対応している。

1 「GOM Player」をダウンロードする

「GOM Player」のホームページ(http://www.gomplayer.jp/)にアクセスし、「完全無料 Windows専用 今すぐダウンロード」をクリックしてソフトをダウンロードする

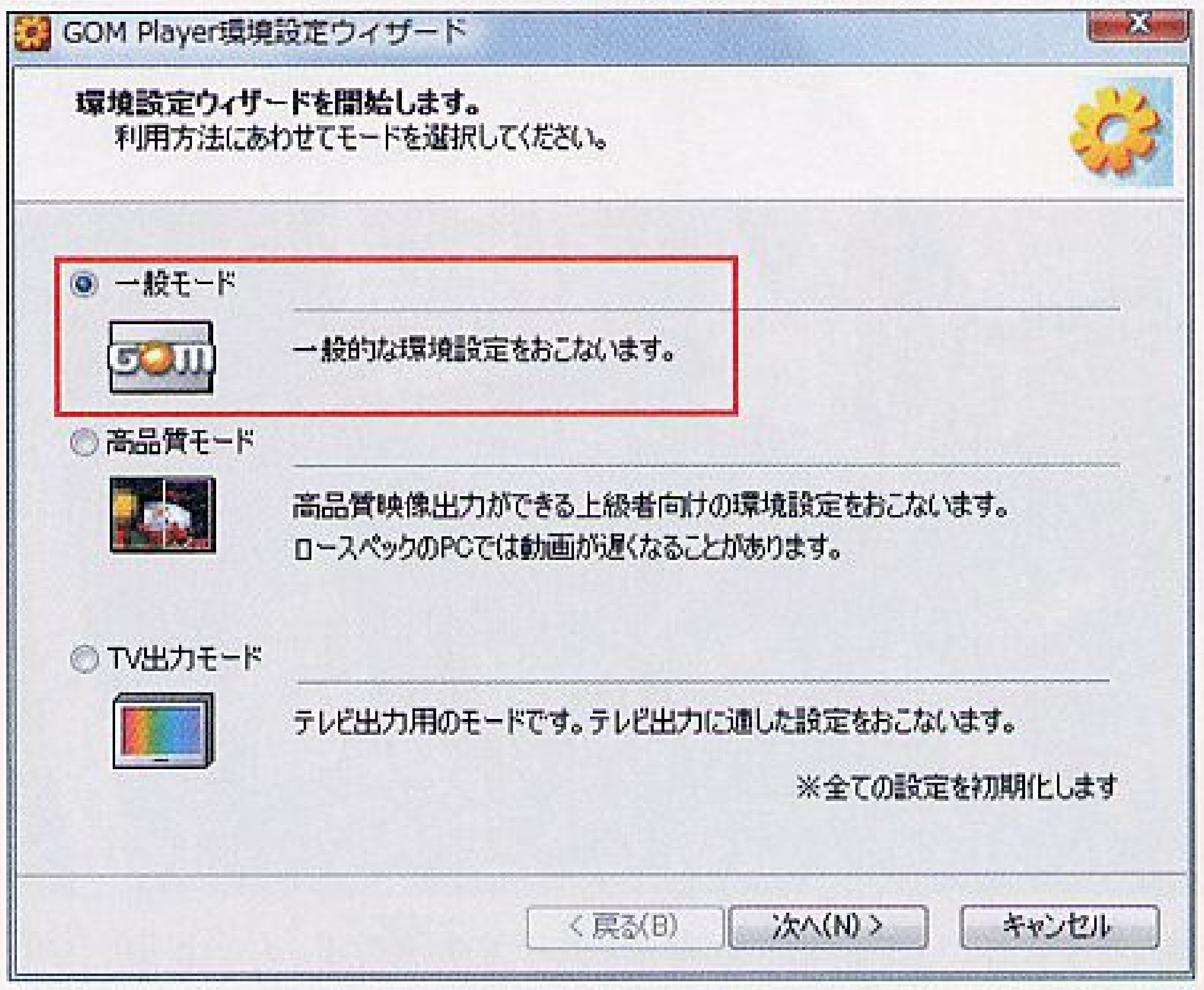
2 インストールを実行する



ダウンロードしたファイルを実行し、インストールウィザードを開始する。ウィザードを進めると「Googleツールバー」のインストールが表示されるが、不要なら「Googleツールバーをインストールする」のチェックを外して「次へ」をクリック

GOM Player	使用ソフト
●メーカー：グレテックジャパン　●種別：フリーウェア ●対応：Windows 98SE/Me/2000/XP/2003/Vista ●URL：http://www.gomplayer.jp/	

3 インストールウィザードに従いインストールを完了する



インストールが終わると「GOM Player環境設定ウィザード」が開始するのでウィザードにしたがって設定を進める。ここでは「一般モード」を選択した。スピーカーのタイプ、「GOM Player」に関連付けたいファイル形式、字幕設定の文字サイズなどを選択し、ウィザードを完了させる

4 動画を再生する

「GOM Player」を起動し、見たい動画をGOM Player上にドラッグ&ドロップすれば再生が始まる

Keyword コーデック
エンコード（圧縮）された動画はデコード（解凍）しなければ再生することはできない。この圧縮・解凍のことを指してコーデックと呼ぶ。そのため動画再生には圧縮に使ったソフトに対応した解凍ソフトが必要になる。

難易度 普

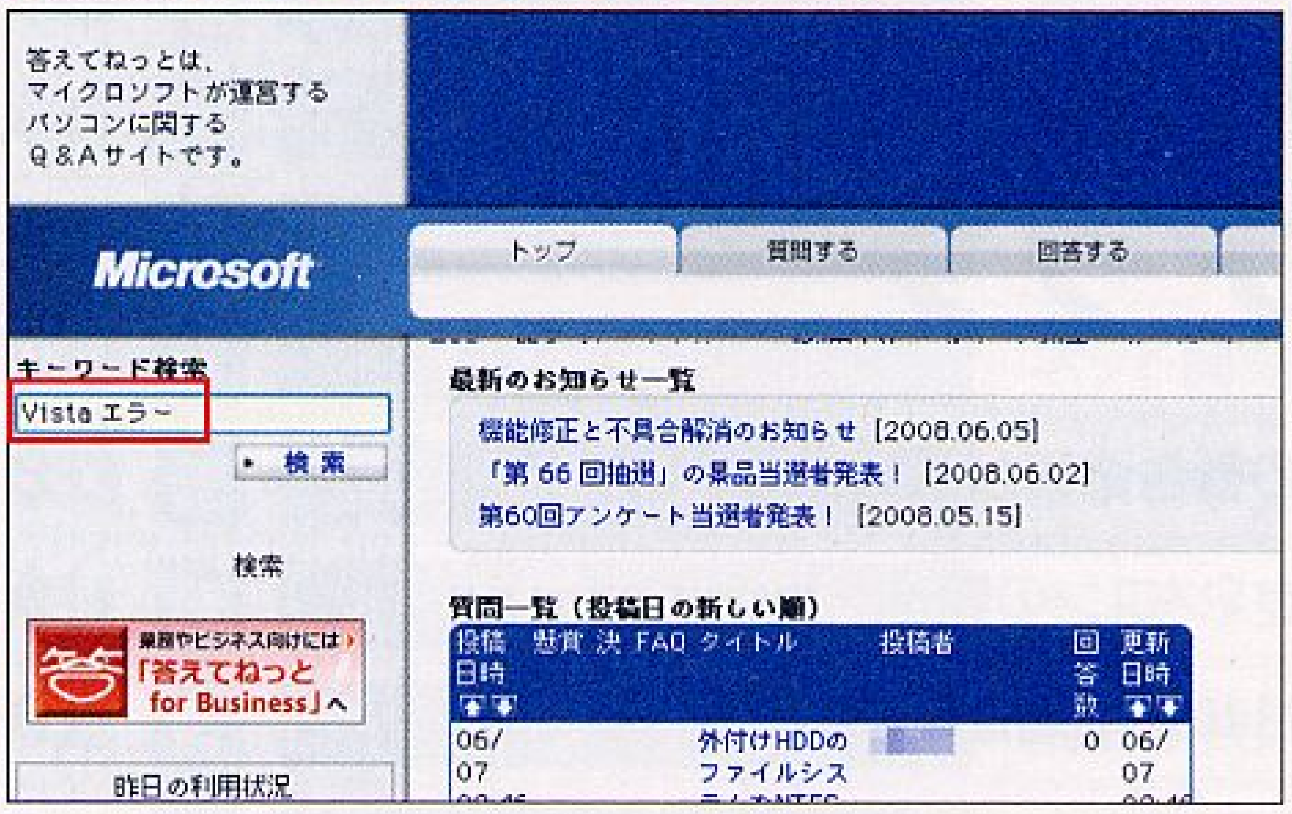
トラブルに遭遇したとき知識の豊富な人に相談したい

快適指数

解決
- ●自分が知りたいピンポイント質問ができる
- ●トラブルに対して多くの人から解決アドバイスをもらえる

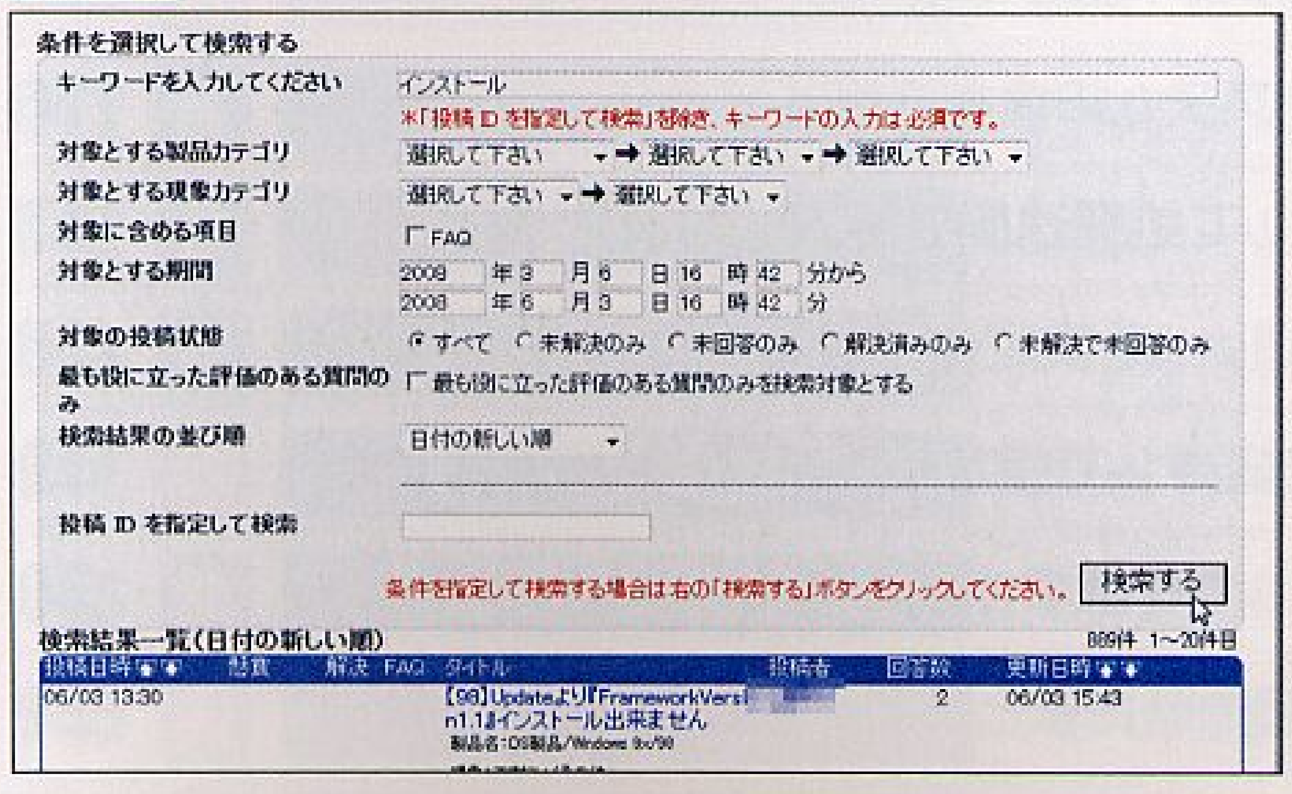
トラブルが起きたとき、最初に頼るのはパソコンの知識が自分よりも豊富な友達だろう。しかし、そうした友達がいなかったり、いても時間が取れない場合も多い。そんな時はインターネットのコミュニティサイトを利用してみよう。マイクロソフトが運営する「答えてねっと」はOffice製品、パソコン一般に関するトラブル解決のサイト。相談を書き込んで、それを見たユーザーが回答するので、緊急時には向かないかもしれないが、24時間いつでも相談でき、いろいろな人の意見を聞くことができるので参考になるはずだ。

1 過去の質問から自分の状況と似たトラブルを検索する



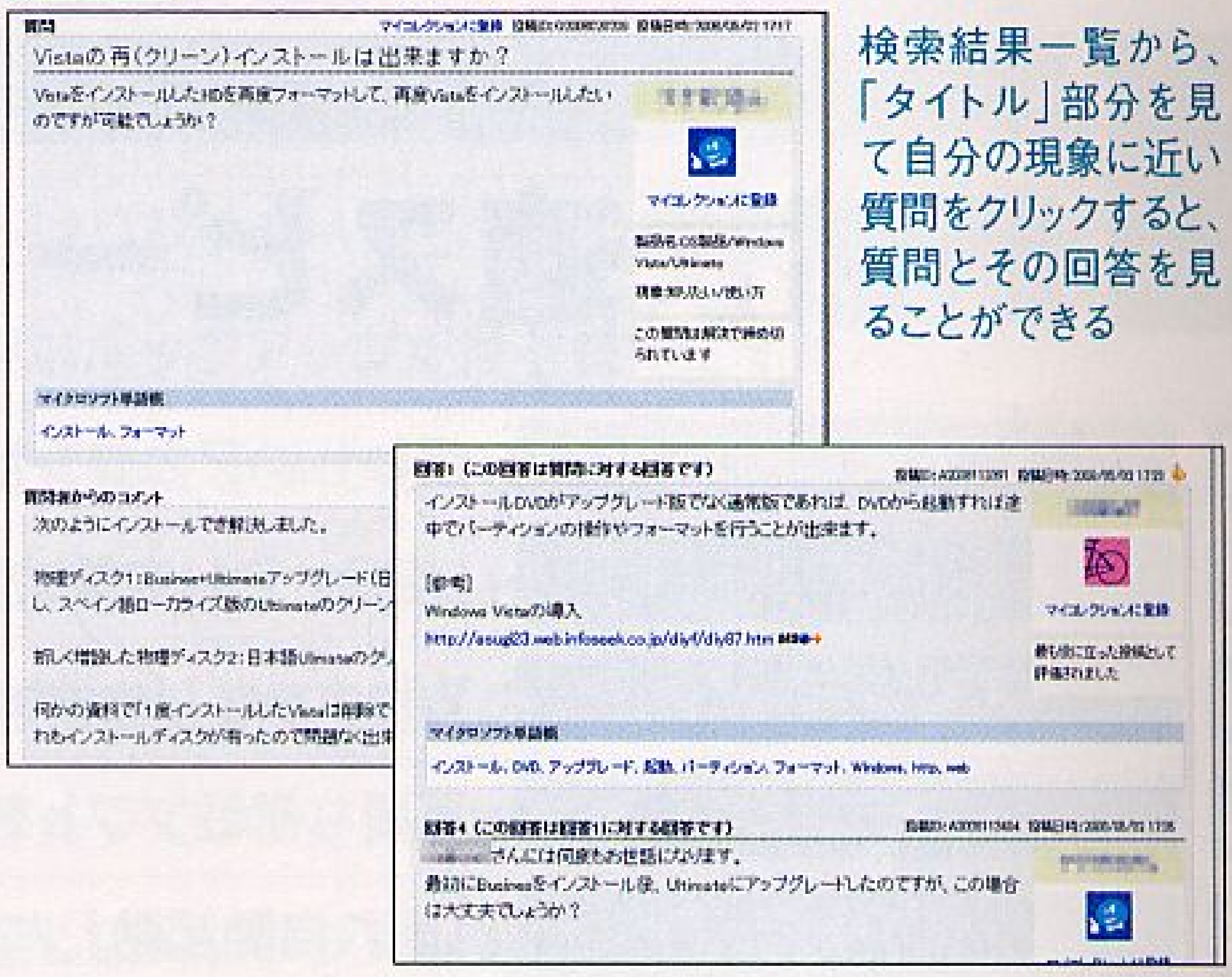
「答えてねっと」（http//:www.kotaete-net.net）のトップ画面から「キーワード検索」に探している事象に合うキーワードを入力する。たとえばVistaのエラーについて探したいなら「Vista エラー」というように半角スペースを入れて複合検索ができる

2 検索結果を見る



検索結果が表示された。ここから直接探してもいいし、検索結果が多すぎる場合は「条件を選択して検索する」から、探したい疑問のキーワードを入力し（投稿IDを指定しない場合は必須項目）、必要に応じて「対象とする期間」や「対象の投稿状態」などの検索条件を指定し、「検索する」をクリックすると、検索結果を絞り込むことができる

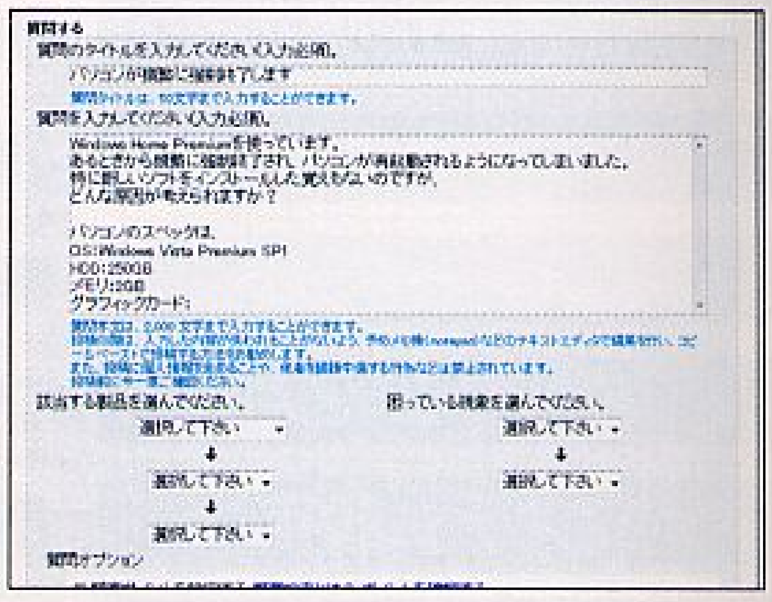
3 質問とその回答を読む



検索結果一覧から、「タイトル」部分を見て自分の現象に近い質問をクリックすると、質問とその回答を見ることができる

もっと快適!!テクニック 過去の質問から見つからなければ自分で質問を書き込む

過去の質問を検索するのに「新規登録」は不要だが、自分で質問したり、他ユーザーの質問に回答するときは登録が必要になるので、無料の新規登録を済ませること。トップページから「質問する」をクリックし、質問のタイトル、質問、質問のカテゴリなど必要に応じてその他の項目を選択し「質問を投稿する」をクリックして質問しよう。



投稿が完了すれば、あとはこのサイトを閲覧しているユーザーの反応を待つだけだ

ワンポイント その他のQ&Aサイトを利用する

「Yahoo!知恵袋」（http://chiebukuro.yahoo.co.jp/）や、「OKWave」（http://okwave.jp/）などでも質問や回答を閲覧できるし、ユーザー登録を行なえば自分で質問を投稿することもできる。あわせて活用してみよう。

断然快速スピードアップ
超効率化カスタマイズ
セキュリティ&インターネット
バックアップ&メンテナンス
深刻トラブル自力解決